

# 授業計画書

## 2014

平成 26 年度 Syllabus (全学年用)



# 2014 年度 授業計画書について

この授業計画書は、在学生の皆さんが、大学でどのような授業が行なわれるかを知るうえで、とても大切な冊子です。これを見ながら、履修登録や普段の授業に活用してください。

## 【見方について】

経済・国際 → 経済学部・国際学部共通のシラバスです。

経済 → 経済学部用のシラバスです。

国際 → 国際学部用のシラバスです。

科目は、学部ごと、授業回数ごと（15回→30回→集中授業）で

アイウエオ順になっています。

※この授業計画書は、2014年4月16日現在のものです。場合によっては、

本文の内容が変わる場合もありますので、KCN（Keiai Campus Navigator）の

Web シラバスも併せて参照してください。

# 目次

学部	科目名	氏名	ページ
経済・国際	アジアの歴史と社会	家近 亮子	1
経済・国際	アルゴリズム論 II	高橋 和子	2
経済・国際	インターンシップ・キャリアデザイン 6	キャリアセンター	3
経済・国際	環境科学	中村 圭三	4
経済・国際	教育行政	赤羽 良明	5
経済・国際	教育実習指導	奈良 明	6
経済・国際	教育心理学	藤井 輝男	7
経済・国際	教育心理学	田中 未央	8
経済・国際	教育相談(小学校)	田中 未央	9
経済・国際	教育相談(小学校)	田中 未央	10
経済・国際	教育相談(中・高)	滝本 信行	11
経済・国際	教育法規	高橋 哲	12
経済・国際	教育方法・技術論(小学校)	柳原 由美子	13
経済・国際	教育方法・技術論(中・高)	新田 司	14
経済・国際	教職概論	中山 幸夫	15
経済・国際	教職概論	武内 清	16
経済・国際	敬天愛人講座	教務部委員会	17
経済・国際	敬天愛人講座	教務部委員会	18
経済・国際	公民科指導法	北原 文成	19
経済・国際	システム設計論 I	高橋 和子	20
経済・国際	社会科・公民科指導法 I	山口 健一	21
経済・国際	社会科・公民科指導法 II	山口 健一	22
経済・国際	社会科・地歴科指導法 I	奈良 明	23
経済・国際	社会科・地歴科指導法 II	奈良 明	24
経済・国際	社会学	菊池 真弓	25
経済・国際	社会思想史 I	折原 裕	26
経済・国際	情報概論	高橋 和子	27
経済・国際	政治学概論 I	榎田 久代	28
経済・国際	政治学概論 II	榎田 久代	29
経済・国際	政治学概論 II	榎田 久代	30
経済・国際	政治学入門	榎田 久代	31
経済・国際	生徒・進路指導論(小学校)	林 恵子	32
経済・国際	生徒・進路指導論(中・高)	山口 健一	33
経済・国際	世界史概論 I	山本 健	34
経済・国際	世界史概論 II	山本 健	35
経済・国際	世界地誌	高田 洋子	36
経済・国際	中東経済論	水口 章	37

学部	科目名	氏名	ページ
経済・国際	地理学概論 I-	中村 圭三	38
経済・国際	地理学概論 II	中村 圭三	39
経済・国際	地理歴史科指導法	田村 孝	40
経済・国際	哲学概論 I	小林 秀樹	41
経済・国際	哲学概論 II	小林 秀樹	42
経済・国際	哲学入門	壁谷 彰慶	43
経済・国際	道徳教育指導法(小学校)	高橋 妃彩子	44
経済・国際	道徳教育指導法(中・高)	中山 幸夫	45
経済・国際	特別活動指導法(小学校)	池谷 美佐子	46
経済・国際	特別活動指導法(中・高)	山口 健一	47
経済・国際	日本史概論 I	小山 幸伸	48
経済・国際	日本史概論 II	小山 幸伸	49
経済・国際	日本地誌	中村 圭三	50
経済・国際	日本の文学	坂東 実子	51
経済・国際	発達心理学	名取 洋典	52
経済・国際	発達心理学	田中 未央	53
経済・国際	比較文学	芳賀 理彦	54
経済・国際	フランス語 I	寺尾 いづみ	55
経済・国際	フランス語 I	浅野 信二	56
経済・国際	フランス語 II	寺尾 いづみ	57
経済・国際	フランス語 II	浅野 信二	58
経済・国際	ベンチャービジネス論	川西 正己	59
経済・国際	法学入門	覚正 豊和	60
経済・国際	ヨーロッパ経済論 I	飯野 由美子	61
経済・国際	ヨーロッパ経済論 II	飯野 由美子	62
経済・国際	歴史学入門	山本 健	63
経済・国際	歴史学入門	山本 健	64
経済	Excel データ解析	森島 隆晴	65
経済	Marketing Management	金 珍淑	66
経済	TOEIC向上講座 I	田 文揚	67
経済	TOEIC向上講座 II	田 文揚	68
経済	VB プログラミング	小林 忠	69
経済	アジア経済論	中川 雅彦	70
経済	アジアの工業立地	青木 英一	71
経済	アジアの地理	青木 英一	72
経済	アジアビジネス論	金 珍淑	73
経済	アメリカ経済論 I	牧野 俊重	74

# 目次

学部	科目名	氏名	ページ
経済	アメリカ経済論Ⅱ	牧野 俊重	75
経済	英会話Ⅰ	Scot Hill	76
経済	英会話Ⅱ	Scot Hill	77
経済	英会話Ⅲ	Scot Hill	78
経済	英会話Ⅳ	Scot Hill	79
経済	英語Ⅰ	伊東 隆子	80
経済	英語Ⅰ	武井 みち子	81
経済	英語Ⅰ	内野 泰子	82
経済	英語Ⅰ	芳賀 理彦	83
経済	英語Ⅰ	田 文揚	84
経済	英語Ⅰ	田 文揚	85
経済	英語Ⅰ	芳賀 理彦	86
経済	英語Ⅰ	芳賀 理彦	87
経済	英語Ⅰ	伊東 隆子	88
経済	英語Ⅱ	伊東 隆子	89
経済	英語Ⅱ	武井 みち子	90
経済	英語Ⅱ	内野 泰子	91
経済	英語Ⅱ	芳賀 理彦	92
経済	英語Ⅱ	田 文揚	93
経済	英語Ⅱ	田 文揚	94
経済	英語Ⅱ	芳賀 理彦	95
経済	英語Ⅱ	芳賀 理彦	96
経済	英語Ⅱ	伊東 隆子	97
経済	英語Ⅲ	伊東 隆子	98
経済	英語Ⅲ	芳賀 理彦	99
経済	英語Ⅲ	内野 泰子	100
経済	英語Ⅲ	伊東 隆子	101
経済	英語Ⅲ	芳賀 理彦	102
経済	英語Ⅲ	武井 みち子	103
経済	英語Ⅲ	芳賀 理彦	104
経済	英語Ⅲ	武井 みち子	105
経済	英語Ⅳ	伊東 隆子	106
経済	英語Ⅳ	芳賀 理彦	107
経済	英語Ⅳ	内野 泰子	108
経済	英語Ⅳ	伊東 隆子	109
経済	英語Ⅳ	芳賀 理彦	110
経済	英語Ⅳ	武井 みち子	111

学部	科目名	氏名	ページ
経済	英語Ⅳ	芳賀 理彦	112
経済	英語Ⅳ	武井 みち子	113
経済	会計学Ⅰ	平屋 伸洋	114
経済	会計学Ⅱ	平屋 伸洋	115
経済	外国経営書講読Ⅰ	坂本 旬	116
経済	外国経営書講読Ⅱ	敷内 正樹	117
経済	外国経済書講読Ⅰ	土井 修	118
経済	外国経済書講読Ⅱ	土井 修	119
経済	会社法	野口 明宏	120
経済	会社法	野口 明宏	121
経済	環境経済学Ⅰ	和田 良子	122
経済	環境地理学Ⅰ	三澤 正	123
経済	環境地理学Ⅱ	三澤 正	124
経済	観光事業論Ⅰ	奥山 隆哉	125
経済	観光事業論Ⅱ	奥山 隆哉	126
経済	管理会計論	平屋 伸洋	127
経済	企業金融論Ⅰ	三田村 智	128
経済	企業金融論Ⅱ	三田村 智	129
経済	企業経営と心理学	藤井 輝男	130
経済	企業と産業組織Ⅰ	森谷 英樹	131
経済	企業と産業組織Ⅱ	森谷 英樹	132
経済	企業法	野口 明宏	133
経済	基礎数学	経済教務委員会	134
経済	基礎数学	経済教務委員会	135
経済	基礎数学	経済教務委員会	136
経済	基礎数学	経済教務委員会	137
経済	キャリア基礎開発Ⅰ	キャリアセンター	138
経済	キャリア基礎開発Ⅰ	キャリアセンター	139
経済	キャリア基礎開発Ⅱ	キャリアセンター	140
経済	キャリア基礎開発Ⅲ	キャリアセンター	141
経済	キャリア基礎開発Ⅲ	キャリアセンター	142
経済	キャリア教育特殊講義	キャリアセンター	143
経済	キャリアディベロップメント	キャリアセンター	144
経済	キャリアディベロップメント	キャリアセンター	145
経済	キャリアプランニング	キャリアセンター	146
経済	キャリアプランニング	キャリアセンター	147
経済	キャリアプランニング	キャリアセンター	148

# 目次

学部	科目名	氏名	ページ
経済	教育課程論	上野 正道	149
経済	教育原論	中山 幸夫	150
経済	教育福祉論	佐藤 真生子	151
経済	教職時事演習	中山 幸夫	152
経済	行政法 I	小野寺 邦広	153
経済	行政法 II	小野寺 邦広	154
経済	銀行論 I	添田 利光	155
経済	銀行論 II	添田 利光	156
経済	金融経済の基礎知識	東 浩規	157
経済	金融事情 I	飯野 由美子	158
経済	金融事情 II	飯野 由美子	159
経済	金融論 I	添田 利光	160
経済	金融論 II	添田 利光	161
経済	経営学 I	高木 朋代	162
経済	経営学 II	高木 朋代	163
経済	経営財務論	石鍋 信孝	164
経済	経営史 I	坂本 旬	165
経済	経営史 II	坂本 旬	166
経済	経営戦略論 I	岸本 太一	167
経済	経営戦略論 II	岸本 太一	168
経済	経営組織論 I	高木 朋代	169
経済	経営組織論 II	高木 朋代	170
経済	経営分析 I	平屋 伸洋	171
経済	経営分析 II	平屋 伸洋	172
経済	経営立地論	青木 英一	173
経済	経済学史 I	加茂川 益郎	174
経済	経済学史 II	加茂川 益郎	175
経済	経済学方法論 I	折原 裕	176
経済	経済学方法論 II	折原 裕	177
経済	経済数学 I	小林 忠	178
経済	経済数学 II	小林 忠	179
経済	経済政策 AI	馬場 正弘	180
経済	経済政策 AII	馬場 正弘	181
経済	経済政策 BI	仁平 耕一	182
経済	経済政策 BII	仁平 耕一	183
経済	経済政策 I	仁平 耕一	184
経済	経済政策 I	馬場 正弘	185

学部	科目名	氏名	ページ
経済	経済政策 II	仁平 耕一	186
経済	経済政策 II	馬場 正弘	187
経済	経済統計 I	稲葉 弘道	188
経済	経済統計 II	稲葉 弘道	189
経済	経済理論 AI	加茂川 益郎	190
経済	経済理論 AII	加茂川 益郎	191
経済	経済理論 BI	和田 良子	192
経済	経済理論 BII	和田 良子	193
経済	経済理論 I	加茂川 益郎	194
経済	経済理論 I	和田 良子	195
経済	経済理論 II	加茂川 益郎	196
経済	経済理論 II	和田 良子	197
経済	計量経済学 I	馬場 正弘	198
経済	計量経済学 II	馬場 正弘	199
経済	原価計算論 I	柴田 寛幸	200
経済	原価計算論 II	柴田 寛幸	201
経済	健康科学	高岡 英氣	202
経済	健康科学	高岡 英氣	203
経済	憲法 I	覚正 豊和	204
経済	憲法 I	覚正 豊和	205
経済	憲法 II	覚正 豊和	206
経済	公共経済学	仁平 耕一	207
経済	口頭表現	経済教務委員会	208
経済	口頭表現	経済教務委員会	209
経済	口頭表現	経済教務委員会	210
経済	口頭表現	経済教務委員会	211
経済	国際金融論 I	添田 利光	212
経済	国際金融論 II	添田 利光	213
経済	国際経営論	長島 芳枝	214
経済	国際経済論 I	土井 修	215
経済	国際経済論 II	土井 修	216
経済	国際法 I	庄司 真理子	217
経済	国際法 II	庄司 真理子	218
経済	国際貿易論	織井 啓介	219
経済	サービス産業論	金 珍淑	220
経済	財政赤字の経済学	仁平 耕一	221
経済	財政学 I	金子 林太郎	222

# 目次

学部	科目名	氏名	ページ
経済	財政学Ⅱ	金子 林太郎	223
経済	産業論Ⅰ	森谷 英樹	224
経済	産業論Ⅱ	森谷 英樹	225
経済	時事英語Ⅲ	内野 泰子	226
経済	時事英語Ⅳ	内野 泰子	227
経済	自然地理学Ⅰ	近藤 昭彦	228
経済	自然地理学Ⅱ	近藤 昭彦	229
経済	実践会話Ⅰ	斉木 かおり	230
経済	実践会話Ⅰ	斉木 かおり	231
経済	実践会話Ⅱ	斉木 かおり	232
経済	実践会話Ⅱ	斉木 かおり	233
経済	シミュレーション論	森島 隆晴	234
経済	社会学概論	菊池 真弓	235
経済	社会思想史Ⅱ	折原 裕	236
経済	社会心理学	藤井 輝男	237
経済	社会政策Ⅰ	星 真実	238
経済	社会政策Ⅱ	星 真実	239
経済	社会福祉論	星 真実	240
経済	社会保障論Ⅰ	星 真実	241
経済	社会保障論Ⅱ	星 真実	242
経済	生涯スポーツ実習Ⅰ	高岡 英氣	243
経済	生涯スポーツ実習Ⅱ	高岡 英氣	244
経済	商業科教材研究	坂本 義孝	245
経済	商業科指導法	坂本 義孝	246
経済	証券経済論Ⅰ	土井 修	247
経済	証券経済論Ⅱ	土井 修	248
経済	消費者行動論	藤井 輝男	249
経済	情報基礎Ⅰ	清水 麻実	250
経済	情報基礎Ⅰ	清水 麻実	251
経済	情報基礎Ⅰ	清水 麻実	252
経済	情報基礎Ⅰ	濱野 和人	253
経済	情報基礎Ⅰ	濱野 和人	254
経済	情報基礎Ⅰ	濱野 和人	255
経済	情報基礎Ⅰ	成富 慶子	256
経済	情報基礎Ⅰ	成富 慶子	257
経済	情報基礎Ⅰ	清水 麻実	258
経済	情報基礎Ⅰ	清水 麻実	259

学部	科目名	氏名	ページ
経済	情報基礎Ⅱ	清水 麻実	260
経済	情報基礎Ⅱ	清水 麻実	261
経済	情報基礎Ⅱ	清水 麻実	262
経済	情報基礎Ⅱ	濱野 和人	263
経済	情報基礎Ⅱ	濱野 和人	264
経済	情報基礎Ⅱ	濱野 和人	265
経済	情報基礎Ⅱ	成富 慶子	266
経済	情報基礎Ⅱ	成富 慶子	267
経済	情報基礎Ⅱ	清水 麻実	268
経済	情報基礎Ⅱ	清水 麻実	269
経済	情報システム論	森島 隆晴	270
経済	情報社会と倫理	井手 雅哉	271
経済	情報セキュリティ論	森島 隆晴	272
経済	情報マネジメント	森島 隆晴	273
経済	職業指導Ⅰ	坂本 義孝	274
経済	職業指導Ⅱ	坂本 義孝	275
経済	食料経済論	稲葉 弘道	276
経済	人的資源管理Ⅰ	高木 朋代	277
経済	人的資源管理Ⅱ	高木 朋代	278
経済	心理学	藤井 輝男	279
経済	心理学	藤井 輝男	280
経済	進路支援講座(金融・情報)Ⅴ	佐竹 勇子	281
経済	進路支援講座(金融・情報)Ⅵ	佐竹 勇子	282
経済	進路支援講座(金融・情報)Ⅲ	経済教務委員会	283
経済	進路支援講座(金融・情報)Ⅳ	平屋 伸洋	284
経済	進路支援講座(経済)Ⅴ	小山 幸伸	285
経済	進路支援講座(経済)Ⅵ	小山 幸伸	286
経済	進路支援講座(経済)Ⅲ	小山 幸伸	287
経済	進路支援講座(経済)Ⅳ	小山 幸伸	288
経済	進路支援講座(公務員)Ⅴ	経済教務委員会	289
経済	進路支援講座(公務員)Ⅵ	経済教務委員会	290
経済	進路支援講座(公務員)Ⅲ	経済教務委員会	291
経済	進路支援講座(公務員)Ⅳ	経済教務委員会	292
経済	進路支援講座Ⅰ(コース共通)	経済教務委員会	293
経済	進路支援講座Ⅱ(コース共通)	経済教務委員会	294
経済	数学Ⅰ	小林 忠	295
経済	数学Ⅱ	小林 忠	296

# 目次

学部	科目名	氏名	ページ
経済	スポーツ科学概論	福川 裕司	297
経済	スポーツ教育Ⅰ	福川 裕司	298
経済	スポーツ教育Ⅰ	福川 裕司	299
経済	スポーツ教育Ⅱ	福川 裕司	300
経済	スポーツ教育Ⅱ	福川 裕司	301
経済	スポーツ産業論	高岡 英氣	302
経済	スポーツビジネス論	高岡 英氣	303
経済	税務会計論Ⅰ	鈴木 明男	304
経済	税務会計論Ⅱ	鈴木 明男	305
経済	西洋経済史Ⅰ	牧野 俊重	306
経済	西洋経済史Ⅱ	牧野 俊重	307
経済	世界経済地理	青木 英一	308
経済	専門演習Ⅰ	土井 修	309
経済	専門演習Ⅰ	野口 明宏	310
経済	専門演習Ⅰ	加茂川 益郎	311
経済	専門演習Ⅰ	仁平 耕一	312
経済	専門演習Ⅰ	森谷 英樹	313
経済	専門演習Ⅰ	青木 英一	314
経済	専門演習Ⅰ	折原 裕	315
経済	専門演習Ⅰ	飯野 由美子	316
経済	専門演習Ⅰ	小山 幸伸	317
経済	専門演習Ⅰ	藤井 輝男	318
経済	専門演習Ⅰ	森島 隆晴	319
経済	専門演習Ⅰ	馬場 正弘	320
経済	専門演習Ⅰ	高木 朋代	321
経済	専門演習Ⅰ	金子 林太郎	322
経済	専門演習Ⅰ	添田 利光	323
経済	専門演習Ⅰ	金 珍淑	324
経済	専門演習Ⅰ	平屋 伸洋	325
経済	専門演習Ⅱ	土井 修	326
経済	専門演習Ⅱ	野口 明宏	327
経済	専門演習Ⅱ	加茂川 益郎	328
経済	専門演習Ⅱ	仁平 耕一	329
経済	専門演習Ⅱ	森谷 英樹	330
経済	専門演習Ⅱ	青木 英一	331
経済	専門演習Ⅱ	折原 裕	332
経済	専門演習Ⅱ	飯野 由美子	333

学部	科目名	氏名	ページ
経済	専門演習Ⅱ	小山 幸伸	334
経済	専門演習Ⅱ	藤井 輝男	335
経済	専門演習Ⅱ	森島 隆晴	336
経済	専門演習Ⅱ	馬場 正弘	337
経済	専門演習Ⅱ	高木 朋代	338
経済	専門演習Ⅱ	金子 林太郎	339
経済	専門演習Ⅱ	添田 利光	340
経済	専門演習Ⅱ	金 珍淑	341
経済	専門演習Ⅱ	平屋 伸洋	342
経済	専門導入演習Ⅰ	土井 修	343
経済	専門導入演習Ⅰ	野口 明宏	344
経済	専門導入演習Ⅰ	加茂川 益郎	345
経済	専門導入演習Ⅰ	仁平 耕一	346
経済	専門導入演習Ⅰ	折原 裕	347
経済	専門導入演習Ⅰ	飯野 由美子	348
経済	専門導入演習Ⅰ	小山 幸伸	349
経済	専門導入演習Ⅰ	藤井 輝男	350
経済	専門導入演習Ⅰ	森島 隆晴	351
経済	専門導入演習Ⅰ	星 真実	352
経済	専門導入演習Ⅰ	数内 正樹	353
経済	専門導入演習Ⅰ	馬場 正弘	354
経済	専門導入演習Ⅰ	高木 朋代	355
経済	専門導入演習Ⅰ	金子 林太郎	356
経済	専門導入演習Ⅰ	高岡 英氣	357
経済	専門導入演習Ⅰ	添田 利光	358
経済	専門導入演習Ⅰ	金 珍淑	359
経済	専門導入演習Ⅰ	平屋 伸洋	360
経済	専門導入演習Ⅱ	土井 修	361
経済	専門導入演習Ⅱ	野口 明宏	362
経済	専門導入演習Ⅱ	加茂川 益郎	363
経済	専門導入演習Ⅱ	仁平 耕一	364
経済	専門導入演習Ⅱ	折原 裕	365
経済	専門導入演習Ⅱ	飯野 由美子	366
経済	専門導入演習Ⅱ	小山 幸伸	367
経済	専門導入演習Ⅱ	藤井 輝男	368
経済	専門導入演習Ⅱ	森島 隆晴	369
経済	専門導入演習Ⅱ	星 真実	370

# 目次

学部	科目名	氏名	ページ
経済	専門導入演習Ⅱ	藪内 正樹	371
経済	専門導入演習Ⅱ	馬場 正弘	372
経済	専門導入演習Ⅱ	高木 朋代	373
経済	専門導入演習Ⅱ	金子 林太郎	374
経済	専門導入演習Ⅱ	高岡 英氣	375
経済	専門導入演習Ⅱ	添田 利光	376
経済	専門導入演習Ⅱ	金 珍淑	377
経済	専門導入演習Ⅱ	平屋 伸洋	378
経済	総合科目Ⅰ「国際社会を知る」	飯野 由美子	379
経済	総合科目Ⅱ「国際社会を知る」	飯野 由美子	380
経済	卒業演習Ⅰ	野口 明宏	381
経済	卒業演習Ⅰ	加茂川 益郎	382
経済	卒業演習Ⅰ	仁平 耕一	383
経済	卒業演習Ⅰ	森谷 英樹	384
経済	卒業演習Ⅰ	青木 英一	385
経済	卒業演習Ⅰ	折原 裕	386
経済	卒業演習Ⅰ	飯野 由美子	387
経済	卒業演習Ⅰ	小山 幸伸	388
経済	卒業演習Ⅰ	和田 良子	389
経済	卒業演習Ⅰ	星 真実	390
経済	卒業演習Ⅰ	馬場 正弘	391
経済	卒業演習Ⅰ	金子 林太郎	392
経済	卒業演習Ⅰ	添田 利光	393
経済	卒業演習Ⅰ	金 珍淑	394
経済	卒業演習Ⅰ	牧野 俊重	395
経済	卒業演習Ⅰ	岸本 太一	396
経済	卒業演習Ⅱ	野口 明宏	397
経済	卒業演習Ⅱ	加茂川 益郎	398
経済	卒業演習Ⅱ	仁平 耕一	399
経済	卒業演習Ⅱ	森谷 英樹	400
経済	卒業演習Ⅱ	青木 英一	401
経済	卒業演習Ⅱ	折原 裕	402
経済	卒業演習Ⅱ	飯野 由美子	403
経済	卒業演習Ⅱ	小山 幸伸	404
経済	卒業演習Ⅱ	和田 良子	405
経済	卒業演習Ⅱ	星 真実	406
経済	卒業演習Ⅱ	馬場 正弘	407

学部	科目名	氏名	ページ
経済	卒業演習Ⅱ	金子 林太郎	408
経済	卒業演習Ⅱ	添田 利光	409
経済	卒業演習Ⅱ	金 珍淑	410
経済	卒業演習Ⅱ	牧野 俊重	411
経済	卒業演習Ⅱ	岸本 太一	412
経済	地域企業会計論	高橋 隆明	413
経済	地域企業マネジメント論	三幣 利夫	414
経済	地域産業論	青木 英一	415
経済	地域ボランティア活動	松藤 和生	416
経済	知的財産権論	森島 隆晴	417
経済	地方財政論Ⅰ	金子 林太郎	418
経済	地方財政論Ⅱ	金子 林太郎	419
経済	地方自治論Ⅰ	岡崎 加奈子	420
経済	地方自治論Ⅱ	岡崎 加奈子	421
経済	中国語Ⅰ	矢澤 秀昭	422
経済	中国語Ⅰ	矢澤 秀昭	423
経済	中国語Ⅰ	山影 統	424
経済	中国語Ⅰ	山影 統	425
経済	中国語Ⅰ	矢澤 秀昭	426
経済	中国語Ⅰ	矢澤 秀昭	427
経済	中国語Ⅱ	矢澤 秀昭	428
経済	中国語Ⅱ	矢澤 秀昭	429
経済	中国語Ⅱ	山影 統	430
経済	中国語Ⅱ	山影 統	431
経済	中国語Ⅱ	矢澤 秀昭	432
経済	中国語Ⅱ	矢澤 秀昭	433
経済	中国語Ⅲ	黄 麗華	434
経済	中国語Ⅲ	黄 麗華	435
経済	中国語Ⅲ	矢澤 秀昭	436
経済	中国語Ⅲ	矢澤 秀昭	437
経済	中国語Ⅳ	黄 麗華	438
経済	中国語Ⅳ	黄 麗華	439
経済	中国語Ⅳ	矢澤 秀昭	440
経済	中国語Ⅳ	矢澤 秀昭	441
経済	中国語検定講座Ⅰ	矢澤 秀昭	442
経済	中国語検定講座Ⅱ	矢澤 秀昭	443
経済	中国の流通産業	藪内 正樹	444



# 目次

学部	科目名	氏名	ページ
経済	中国ビジネス論	藪内 正樹	445
経済	中小企業論Ⅰ	岸本 太一	446
経済	中小企業論Ⅱ	岸本 太一	447
経済	データベースオペレーション	成富 慶子	448
経済	データベースオペレーション	成富 慶子	449
経済	ドイツ語Ⅰ	志村 哲也	450
経済	ドイツ語Ⅱ	志村 哲也	451
経済	ドイツ語Ⅲ	志村 哲也	452
経済	ドイツ語Ⅳ	志村 哲也	453
経済	統計学Ⅰ	小林 忠	454
経済	統計学Ⅱ	小林 忠	455
経済	統計学総論Ⅰ	稲葉 弘道	456
経済	統計学総論Ⅱ	稲葉 弘道	457
経済	日本経済史Ⅰ	小山 幸伸	458
経済	日本経済史Ⅱ	小山 幸伸	459
経済	日本経済地理	青木 英一	460
経済	日本経済論Ⅰ	馬場 正弘	461
経済	日本経済論Ⅱ	馬場 正弘	462
経済	日本語Ⅰ	沢野 美由紀	463
経済	日本語Ⅱ	沢野 美由紀	464
経済	日本語Ⅲ	沢野 美由紀	465
経済	日本語Ⅲ	銅直 信子	466
経済	日本語Ⅲ	銅直 信子	467
経済	日本語Ⅳ	沢野 美由紀	468
経済	日本語Ⅳ	銅直 信子	469
経済	日本語Ⅳ	銅直 信子	470
経済	日本語検定講座Ⅰ	飯田 真己	471
経済	日本語検定講座Ⅱ	飯田 真己	472
経済	入門経営学	経済教務委員会	473
経済	入門経営学	経済教務委員会	474
経済	入門経済学	経済教務委員会	475
経済	入門経済学	経済教務委員会	476
経済	農業政策	稲葉 弘道	477
経済	ビジネス英語Ⅲ	内野 泰子	478
経済	ビジネス英語Ⅳ	内野 泰子	479
経済	福祉経済論	星 真実	480
経済	フランス語Ⅲ	寺尾 いづみ	481

学部	科目名	氏名	ページ
経済	フランス語Ⅲ	浅野 信二	482
経済	フランス語Ⅳ	寺尾 いづみ	483
経済	フランス語Ⅳ	浅野 信二	484
経済	プレゼンテーション論Ⅰ	成富 慶子	485
経済	プレゼンテーション論Ⅰ	成富 慶子	486
経済	プレゼンテーション論Ⅱ	井手 雅哉	487
経済	プログラミング入門VB	小林 忠	488
経済	文章表現	経済教務委員会	489
経済	文章表現	経済教務委員会	490
経済	文章表現	経済教務委員会	491
経済	文章表現	経済教務委員会	492
経済	簿記論Ⅰ	塚本 利平	493
経済	簿記論Ⅰ	鈴木 明男	494
経済	簿記論Ⅰ	平屋 伸洋	495
経済	簿記論Ⅱ	塚本 利平	496
経済	簿記論Ⅱ	鈴木 明男	497
経済	簿記論Ⅱ	平屋 伸洋	498
経済	保険論	姜 英英	499
経済	マーケティングリサーチⅠ	藪内 正樹	500
経済	マーケティングリサーチⅡ	藪内 正樹	501
経済	マーケティング論	金 珍淑	502
経済	マクロ経済学Ⅰ	仁平 耕一	503
経済	マクロ経済学Ⅱ	仁平 耕一	504
経済	ミクロ経済学Ⅰ	和田 良子	505
経済	ミクロ経済学Ⅱ	和田 良子	506
経済	民法Ⅰ	古川 晴雄	507
経済	民法Ⅱ	古川 晴雄	508
経済	有価証券法	野口 明宏	509
経済	流通経営論	藪内 正樹	510
経済	流通情報論	金 珍淑	511
経済	流通論	金 珍淑	512
経済	労働法	高橋 良裕	513
国際	College EnglishⅠ	英語担当教員	514
国際	College EnglishⅡ	英語担当教員	515
国際	College EnglishⅢ	George Whalley	516
国際	College EnglishⅢ	増井 由紀美	517
国際	College EnglishⅣ	George Whalley	518

# 目次

学部	科目名	氏名	ページ
国際	College English IV	増井 由紀美	519
国際	Debate I	増井 由紀美	520
国際	Debate II	Thomas O'Leary	521
国際	English for Children I	Jayne Ikeshima	522
国際	English for Children II	Jayne Ikeshima	523
国際	Listening I	山本 陽子	524
国際	Listening I	池嶋 保幸	525
国際	Listening II	池嶋 保幸	526
国際	Listening II	山本 陽子	527
国際	Listening II	池嶋 保幸	528
国際	Speaking I	Scot Hill	529
国際	Speaking II	Scot Hill	530
国際	Speaking II	Thomas O'Leary	531
国際	Speaking II	Jayne Ikeshima	532
国際	Speaking II	池嶋 保幸	533
国際	World English I	Jayne Ikeshima	534
国際	World English II	Jayne Ikeshima	535
国際	Writing I	山本 陽子	536
国際	Writing I	Scot Hill	537
国際	Writing I	Thomas O'Leary	538
国際	Writing II	Jayne Ikeshima	539
国際	Writing II	池嶋 保幸	540
国際	Writing II	山本 陽子	541
国際	Writing II	George Whalley	542
国際	アグリ・エコビジネス I	平井 静	543
国際	アグリ・エコビジネス II	平井 静	544
国際	アグリ・フードサイエンス	平井 静	545
国際	アグリ・フードビジネス	平井 静	546
国際	アフリカ	大月 隆成	547
国際	アフリカの歴史と社会	大月 隆成	548
国際	アメリカの経済	織井 啓介	549
国際	アメリカの社会	村川 庸子	550
国際	アメリカの政治	榎田 久代	551
国際	アメリカの文化と社会	増井 由紀美	552
国際	アメリカの歴史と社会	土田 宏	553
国際	アメリカ文学史	有馬 容子	554
国際	イギリスの文化と社会	新堀 司	555

学部	科目名	氏名	ページ
国際	イギリス文学史	新堀 司	556
国際	イスラムの歴史と社会	水口 章	557
国際	異文化コミュニケーション	嶋川 洋一	558
国際	英語学概論	加藤 希	559
国際	英語学特講 I	加藤 希	560
国際	英語科指導法 I	柳原 由美子	561
国際	英語科指導法 II	柳原 由美子	562
国際	英語科指導法 III	柳原 由美子	563
国際	英語科指導法 IV	柳原 由美子	564
国際	英語史	新堀 司	565
国際	英語の音声	柳原 由美子	566
国際	英文法	加藤 希	567
国際	英米児童文学	佐藤 佳子	568
国際	英米児童文学 I	佐藤 佳子	569
国際	英米児童文学 II	佐藤 佳子	570
国際	英米文学概論	有馬 容子	571
国際	英米文学講読 II	増井 由紀美	572
国際	英米文学特講 I	平出 昌嗣	573
国際	英米文学特講 II	有馬 容子	574
国際	英米文学特講 III	新堀 司	575
国際	援助政策	大月 隆成	576
国際	音楽	山本 陽子	577
国際	音楽	山本 陽子	578
国際	音楽と表現 I(合唱)	山本 陽子	579
国際	音楽と表現 II(リコーダ)	山本 陽子	580
国際	音楽と表現 III(ピアノ)	山本 陽子	581
国際	外国語特殊 I	森 万佑子	582
国際	外国語特殊 II	森 万佑子	583
国際	かたちの数学	辻山 洋介	584
国際	学校の安全教育	池谷 美佐子	585
国際	家庭	小谷 教子	586
国際	家庭	小谷 教子	587
国際	環境アセスメント	松本 太	588
国際	環境と開発	松本 太	589
国際	環境と農業	梅田 克樹	590
国際	観光事業論	奥山 隆哉	591
国際	観光事業論 II	奥山 隆哉	592

# 目次

学部	科目名	氏名	ページ
国際	基礎数学	大月 隆成	593
国際	キャリアデザイン1	キャリアセンター	594
国際	キャリアデザイン2	キャリアセンター	595
国際	キャリアデザイン2	キャリアセンター	596
国際	キャリアデザイン3	キャリアセンター	597
国際	キャリアデザイン4	キャリアセンター	598
国際	キャリアデザイン4	キャリアセンター	599
国際	キャリアデザイン5	キャリアセンター	600
国際	キャリアデザイン7(成田プログラム)	キャリアセンター	601
国際	キャリア特殊1	キャリアセンター	602
国際	キャリア特殊1	キャリアセンター	603
国際	キャリア特殊1	キャリアセンター	604
国際	キャリア特殊1	キャリアセンター	605
国際	教育課程論	武内 清	606
国際	教育課程論(中・高)	上野 正道	607
国際	教育原論	武内 清	608
国際	教育原論	中山 幸夫	609
国際	教育実践研究(小学校)	山口 政之	610
国際	教職実践演習	池谷 美佐子	611
国際	教職実践演習	山口 政之	612
国際	教職実践演習	田中 未央	613
国際	教職実践演習	辻山 洋介	614
国際	教職実践演習	中山 幸夫	615
国際	共生支援教育	山口 政之	616
国際	金融論	織井 啓介	617
国際	経営学	坂本 旬	618
国際	経営学入門	畑野 浩	619
国際	経済学概論Ⅰ	小林 啓祐	620
国際	経済学概論Ⅰ(マクロ経済学)	小林 啓祐	621
国際	経済学概論Ⅱ	小林 啓祐	622
国際	経済学概論Ⅱ(ミクロ経済学)	小林 啓祐	623
国際	経済学入門	小林 啓祐	624
国際	刑法	覚正 豊和	625
国際	健康運動科学	岩井 幸博	626
国際	健康運動科学	西野 明	627
国際	健康運動科学	西野 明	628
国際	言語学入門	黄 麗華	629

学部	科目名	氏名	ページ
国際	憲法	覚正 豊和	630
国際	憲法	覚正 豊和	631
国際	口頭表現	坂東 実子	632
国際	口頭表現	櫻木 紀子	633
国際	口頭表現	本多 久美子	634
国際	口頭表現	山口 政之	635
国際	口頭表現	坂東 実子	636
国際	口頭表現	山口 政之	637
国際	国語	畑中 千晶	638
国際	国語	畑中 千晶	639
国際	国際移動論	村川 庸子	640
国際	国際会計	織井 啓介	641
国際	国際関係入門	楯田 久代	642
国際	国際関係入門	高田 洋子	643
国際	国際協力入門	水口 章	644
国際	国際協力の理念と実践	清水 俊弘	645
国際	国際協力法	庄司 真理子	646
国際	国際金融論	織井 啓介	647
国際	国際経営	畑野 浩	648
国際	国際経済学	織井 啓介	649
国際	国際社会学	水口 章	650
国際	国際社会と犯罪	覚正 豊和	651
国際	国際政治学	金子 新	652
国際	国際政治史	家近 亮子	653
国際	国際投資論	織井 啓介	654
国際	国際法	庄司 真理子	655
国際	国際貿易論	織井 啓介	656
国際	国際連合の仕組みと活動	庄司 真理子	657
国際	国際連合の仕組みと活動	庄司 真理子	658
国際	こどもと遊び	藤井 喜一	659
国際	こどもと家庭の関係論	池谷 美佐子	660
国際	こどもと国際交流	庄司 真理子	661
国際	こどもと地域の教育論	武内 清	662
国際	こどもと法律	覚正 豊和	663
国際	こどもとものづくり教育	田口 功	664
国際	こどもの心と体	田中 未央	665
国際	算数	辻山 洋介	666

# 目次

学部	科目名	氏名	ページ
国際	算数	辻山 洋介	667
国際	算数科指導法	辻山 洋介	668
国際	算数科指導法	辻山 洋介	669
国際	自然地理学	中村 圭三	670
国際	実践英語Ⅰ	増井 由紀美	671
国際	実践英語Ⅱ	George Whalley	672
国際	実践英語Ⅲ	有馬 容子	673
国際	実践日本語Ⅰ	銅直 信子	674
国際	実践日本語Ⅰ	本多 久美子	675
国際	実践日本語Ⅱ	櫻木 紀子	676
国際	児童福祉論	矢作 由美子	677
国際	児童文学論	畑中 千晶	678
国際	社会	田村 孝	679
国際	社会	鎌田 正男	680
国際	小学校英語Ⅰ	佐藤 佳子	681
国際	小学校英語Ⅰ	執行 智子	682
国際	小学校英語Ⅱ	佐藤 佳子	683
国際	小学校英語Ⅱ	執行 智子	684
国際	小学校英語指導法Ⅰ	佐藤 佳子	685
国際	小学校英語指導法Ⅰ	執行 智子	686
国際	小学校英語指導法Ⅱ	佐藤 佳子	687
国際	小学校英語指導法Ⅱ	執行 智子	688
国際	小学校英語指導法Ⅱ	執行 智子	689
国際	小学校英語指導法Ⅱ	執行 智子	690
国際	情報処理Ⅰ(情報基礎)	田口 功	691
国際	情報処理Ⅰ(情報基礎)	佐竹 勇子	692
国際	情報処理Ⅰ(情報基礎)	田口 功	693
国際	情報処理Ⅰ(情報基礎)	佐竹 勇子	694
国際	情報処理Ⅰ(情報基礎)	佐竹 勇子	695
国際	情報処理Ⅱ(プレゼンテーション演習)	佐竹 勇子	696
国際	情報処理Ⅱ(プレゼンテーション演習)	田口 功	697
国際	情報処理Ⅱ(プレゼンテーション演習)	田口 功	698
国際	情報処理Ⅱ(プレゼンテーション演習)	佐竹 勇子	699
国際	情報処理Ⅱ(プレゼンテーション演習)	佐竹 勇子	700
国際	情報処理Ⅲ(データベース)	佐竹 勇子	701
国際	情報ビジネス論	高橋 和子	702
国際	書写	板倉 由香里	703

学部	科目名	氏名	ページ
国際	初等音楽科指導法	山本 陽子	704
国際	初等音楽科指導法	山本 陽子	705
国際	初等家庭科指導法	小谷 教子	706
国際	初等家庭科指導法	小谷 教子	707
国際	初等国語科指導法	山口 政之	708
国際	初等国語科指導法	山口 政之	709
国際	初等社会科指導法	鎌田 正男	710
国際	初等社会科指導法	鎌田 正男	711
国際	初等体育科指導法	藤井 喜一	712
国際	初等体育科指導法	藤井 喜一	713
国際	初等理科指導法	土井 仁	714
国際	初等理科指導法	土井 仁	715
国際	初等理科指導法	土井 仁	716
国際	人文地理学	松尾 宏	717
国際	心理学	田中 未央	718
国際	心理言語学	黄 麗華	719
国際	数の不思議	辻山 洋介	720
国際	図画工作	山口 荘一	721
国際	図画工作	山口 荘一	722
国際	図画工作科指導法	色部 和子	723
国際	図画工作科指導法	色部 和子	724
国際	スポーツ教育(実技)	藤井 喜一	725
国際	生活	池谷 美佐子	726
国際	生活	池谷 美佐子	727
国際	生活科指導法	池谷 美佐子	728
国際	生活科指導法	池谷 美佐子	729
国際	政治学概論Ⅱ	楠田 久代	730
国際	世界の音楽	山本 陽子	731
国際	世界のこども教育	山本 陽子	732
国際	世界の食と農	原山 浩介	733
国際	世界の人権論	覚正 豊和	734
国際	造形と表現Ⅰ	山口 荘一	735
国際	造形と表現Ⅱ	山口 荘一	736
国際	総合講座Ⅱ	Steve Ryan	737
国際	体育	藤井 喜一	738
国際	大気・水環境論	中村 圭三	739
国際	千葉学Ⅰ	小林 啓祐	740

# 目次

学部	科目名	氏名	ページ
国際	千葉学Ⅱ	小林 啓祐	741
国際	千葉学Ⅲ	三幣 利夫	742
国際	中国語Ⅰ	山影 統	743
国際	中国語Ⅱ	山影 統	744
国際	中国の経済	藪内 正樹	745
国際	中国の政治	家近 亮子	746
国際	中東イスラム圏	水口 章	747
国際	朝鮮	森 万佑子	748
国際	東南アジアの地誌	田中 和彦	749
国際	読書入門	山口 政之	750
国際	途上国社会経済論	高田 洋子	751
国際	日米関係	村川 庸子	752
国際	日韓関係	森 万佑子	753
国際	日中関係	家近 亮子	754
国際	日中翻訳	家近 亮子	755
国際	日本・アフリカ関係	大月 隆成	756
国際	日本・東南アジア関係	高田 洋子	757
国際	日本語学Ⅰ	長谷川 頼子	758
国際	日本語学Ⅱ	長谷川 頼子	759
国際	日本語学入門	長谷川 頼子	760
国際	日本語教育実習	長谷川 頼子	761
国際	日本語教授法Ⅰ	稲村 すみ代	762
国際	日本語教授法Ⅰ	長谷川 頼子	763
国際	日本語教授法Ⅱ	長谷川 頼子	764
国際	日本語教授法Ⅱ	稲村 すみ代	765
国際	日本語教授法Ⅲ	長谷川 頼子	766
国際	日本語教授法Ⅳ	長谷川 頼子	767
国際	日本社会と多文化共生	森 万佑子	768
国際	日本の経済	小林 啓祐	769
国際	日本の政治	榎田 久代	770
国際	日本の文化Ⅰ	畑中 千晶	771
国際	日本の文化Ⅱ	畑中 千晶	772
国際	日本の歴史	家近 亮子	773
国際	日本文化論	畑中 千晶	774
国際	日本文化論	畑中 千晶	775
国際	日本理解Ⅰ(日本の伝統文化と社会)	土田 宏	776
国際	日本理解Ⅱ(日本の現代カルチャー)	土田 環	777

学部	科目名	氏名	ページ
国際	比較文化論	村川 庸子	778
国際	ビジネス英語	内野 泰子	779
国際	ファイナンス	織井 啓介	780
国際	フィールド調査	村川 庸子	781
国際	文学入門	畑中 千晶	782
国際	文章表現	本多 久美子	783
国際	文章表現	坂東 実子	784
国際	文章表現	山口 政之	785
国際	文章表現	山口 政之	786
国際	文章表現	坂東 実子	787
国際	文章表現	櫻木 紀子	788
国際	平和・安全保障論	庄司 真理子	789
国際	簿記会計基礎	佐竹 勇子	790
国際	ボランティア活動Ⅰ	水口 章	791
国際	ボランティア活動Ⅱ	大月 隆成	792
国際	マーケティング	金 珍淑	793
国際	マーケティングリサーチⅠ	中嶋 励子	794
国際	マーケティングリサーチⅡ	高橋 和子	795
国際	マクロ経済学	小林 啓祐	796
国際	ミクロ経済学	小林 啓祐	797
国際	ユニバーサルコミュニケーション	国際教務委員会	798
国際	ヨーロッパの政治	山本 健	799
国際	ヨーロッパの歴史と社会	山本 健	800
国際	ラテンアメリカの歴史と社会	高橋 慶介	801
国際	理科	土井 仁	802
国際	理科	土井 仁	803
国際	理科	田口 功	804
国際	理科の観察実験Ⅰ	土井 仁	805
国際	理科の観察実験Ⅱ	田口 功	806
国際	1年基礎演習	国際学部専任教員	807
国際	2年次専門研究	高田 洋子	808
国際	2年次専門研究	村川 庸子	809
国際	2年次専門研究	高橋 和子	810
国際	2年次専門研究	中村 圭三	811
国際	2年次専門研究	織井 啓介	812
国際	2年次専門研究	有馬 容子	813

# 目次

学部	科目名	氏名	ページ
国際	2年次専門研究	佐藤 佳子	814
国際	2年次専門研究	畑中 千晶	815
国際	2年次専門研究	辻山 洋介	816
国際	2年次専門研究	田村 孝	817
国際	2年次専門研究	武内 清	818
国際	3年次専門研究	中村 圭三	819
国際	3年次専門研究	池谷 美佐子	820
国際	3年次専門研究	田中 未央	821
国際	3年次専門研究	畑中 千晶	822
国際	3年次専門研究	佐藤 佳子	823
国際	3年次専門研究	田村 孝	824
国際	3年次専門研究	増井 由紀美	825
国際	3年次専門研究	有馬 容子	826
国際	3年次専門研究	家近 亮子	827
国際	3年次専門研究	覚正 豊和	828
国際	3年次専門研究	田口 功	829
国際	3年次専門研究	高橋 和子	830
国際	3年次専門研究	山本 健	831
国際	3年次専門研究	庄司 真理子	832
国際	3年次専門研究	水口 章	833
国際	3年次専門研究	辻山 洋介	834
国際	3年次専門研究	大月 隆成	835
国際	3年次専門研究	櫛田 久代	836
国際	4年次専門研究	庄司 真理子	837
国際	4年次専門研究	中村 圭三	838
国際	4年次専門研究	水口 章	839
国際	4年次専門研究	村川 庸子	840
国際	4年次専門研究	柳原 由美子	841
国際	4年次専門研究	高田 洋子	842
国際	4年次専門研究	織井 啓介	843
国際	4年次専門研究	山口 政之	844
国際	4年次専門研究	大月 隆成	845
国際	4年次専門研究	辻山 洋介	846
国際	4年次専門研究	山本 健	847
国際	4年次専門研究	長谷川 頼子	848
国際	4年次専門研究	武内 清	849
国際	4年次専門研究	高橋 和子	850

学部	科目名	氏名	ページ
国際	4年次専門研究	田口 功	851
国際	4年次専門研究	田村 孝	852
国際	4年次専門研究	山本 陽子	853
国際	4年次専門研究	田中 未央	854
国際	総合日本語 I	銅直 信子	855
国際	総合日本語 II	銅直 信子	856
国際	教育原論	武内 清	857
国際	教育原論	中山 幸夫	858
経済・国際	敬愛プログラム	教務部委員会	859
経済	中学校教育実習	中山 幸夫	860
経済	地方自治論実習	牧瀬 稔	861
経済	高等学校教育実習	中山 幸夫	862
経済	海外事情研修 IV(イギリス)	教務部委員会	863
経済	海外事情研修 III(オーストラリア)	教務部委員会	864
経済	海外事情研修 II(中国)	教務部委員会	865
経済	海外事情研修 I(アメリカ他)	教務部委員会	866
国際	中学校教育実習	柳原 由美子	867
国際	総合講座 I(アグリ・リテラシー)	村川 庸子	868
国際	実習特殊 I	村川 庸子	869
国際	国内スクーリング I	国際教務委員会	870
国際	国内スクーリング II	国際教務委員会	871
国際	高等学校教育実習	柳原 由美子	872
国際	教育実習(小学校)	池谷 美佐子	873
国際	海外スクーリング I	国際教務委員会	874
国際	海外スクーリング II	国際教務委員会	875
国際	海外語学研修 I	国際教務委員会	876
国際	海外語学研修 II	国際教務委員会	877

# 経済・国際

授業番号	A300380001				
科目名 (英語表記)	アジアの歴史と社会 (Asian History and Society)				
担当者 (英語表記)	家近 亮子 (Ryoko Iechika)	対象学年	2 (国際は 1)	単位数	2
授業のねらいと 到達目標	冷戦終結後、国際社会においてはグローバル化が進むと同時に地域統合の動きが活発化しました。EUはその典型的な例といえます。20世紀末からアジア統合について盛んに論議されるようになりましたが、実現には多くのむずかしい問題があります。アジアには世界の人口の60%以上が生活し、また、中国やインドを始めとして経済発展を続けている国も多く存在します。21世紀はアジアの時代であるということができるといえるでしょう。本授業においては、今後日本との関係がますます重要となる東南アジア、中国、韓国、台湾の歴史と現在の政治・経済・社会、及びその相互関係について論じていきます。到達目標はこれらの国の地理と歴史を知り、その国情と日本との関係を理解することにあります。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件は特にありません。授業は、授業用に作成した講義ノートと資料を授業の進行に合わせて配布し、進めていきます。必要に応じて、映像資料も使っていきます。				
成績評価方法 基準	小テスト・・・30%、期末テスト・・・70%				
授業の予習・復習	予習：アジアに関するニュースに関心を持ち、新聞などを読むこと。 復習：配付資料とノートの整理。白地図の完成など。疑問点をまとめること。				
教科書	本授業の内容は、他分野にわたるため、教科書は指定しません。 授業用に作成した講義ノート及び資料を配布し、教科書の代わりとします。				
参考文献	それぞれの単元ごとに、専門の本を紹介していきます。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	講義の内容と進め方、評価の方法の説明 ①アジアとはどのような地域か？②なぜ、今アジアの時代なのか？			
第2回	アジアの近現代史―①	アジアにおける近代の共通点と相違点			
第3回	アジアの近現代史―②	ヨーロッパ諸国のアジア進出の歴史			
第4回	アジアの近現代史―③	イギリス・フランスのアジア進出と植民地支配			
第5回	アジアの近現代史―④	日本の近代化と植民地支配―台湾・朝鮮			
第6回	アジアの近現代史―⑤	映像資料による確認と小テスト			
第7回	東南アジア諸国の地理	白地図による国の確認と地理的特徴			
第8回	東南アジア事情―①	東南アジアの政治・経済・社会・外交―①			
第9回	東南アジア事情―②	東南アジアの政治・経済・社会・外交―②			
第10回	東南アジアに関する小テストと東 アジアについて	東南アジア単元の確認テスト + 東アジアとは？			
第11回	東アジアの地理	白地図による行政区画の完成			
第12回	東アジア事情―①	中国・台湾・香港・マカオの政治・経済・社会			
第13回	東アジア事情―②	日本・韓国の政治・経済・社会・外交			
第14回	アジアの人口問題	アジアの人口増加と少子高齢化問題			
第15回	アジアの教育問題	アジアの経済格差拡大と教育問題			

経済・国際

授業番号	A300310001				
科目名 (英語表記)	アルゴリズム論 II (Algorithm II)				
担当者 (英語表記)	高橋 和子 (Kazuko Takahashi)	対象学年	1 (国際は 2)	単位数	2
授業のねらいと 到達目標	授業のねらいは、コンピュータによる問題解決法であるアルゴリズムの手法について解説することです。アルゴリズムと深い関係をもつデータ構造についても解説します。アルゴリズムは人間による問題解決法とは異なる場合があり、最初はとまどうことと思いますが、本講義により論理的な思考法を身につけることを到達目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的には教科書にしたがって講義を進め、不足する部分は配布プリントで補います。理解を確実にするために、毎回、授業の途中でクイズ (小テスト) を2～3問出して平常点とします。				
成績評価方法 基準	平常点：授業内小テスト (毎回) 40% 定期試験：60%				
授業の予習・復習	予習：事前に予習をしておくこと。 復習：授業中および復習をよくして新しい考え方の理解に努めること。				
教科書	『アルゴリズムを、はじめよう』 伊藤静香著 インプレスジャパン 2012年				
参考文献	適宜、プリントを配布します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	アルゴリズムとは	アルゴリズムとは、			
第2回	アルゴリズムの記述方法	フローチャート、PAD、模擬プログラム			
第3回	データ構造 (1)	変数、配列、スタック、キュー			
第4回	データ構造 (2)	連結リスト、木構造、グラフ構造			
第5回	アルゴリズムに慣れよう	合計を計算するアルゴリズムなど			
第6回	基本的な探索アルゴリズム (1)	線形探索			
第7回	基本的な探索アルゴリズム (2)	2分探索法			
第8回	高速な探索アルゴリズム (1)	ハッシュ法 (ハッシュ関数、ハッシュ表)			
第9回	高速な探索アルゴリズム (2)	ハッシュ法 (コンフリクトの解決法)			
第10回	基本的なソートアルゴリズム (1)	選択ソート			
第11回	基本的なソートアルゴリズム (2)	バブルソート			
第12回	基本的なソートアルゴリズム (3)	挿入ソート			
第13回	基本的なソートアルゴリズム (4)	クイックソート			
第14回	基本的なソートアルゴリズム (5)	マージソート			
第15回	総括	アルゴリズムとデータ構造のまとめ			



経済・国際

授業番号	A300290001		
科目名 (英語表記)	インターンシップ・キャリアデザイン6 (Internship)		(通年)
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	3 単位数 2
授業のねらいと到達目標	3年生の学生諸君に、夏期休暇中の一定期間、県内外の企業・団体等で実習を行う機会を提供します。企業活動の現場を知るとともに、将来の進路決定の一助としてもらうことを目的としています。		
授業の進め方 (履修条件など)	「参加者学内選考」→「マッチング(実習先決定)」→「事前指導」→「実習」→「事後指導」の5段階で進みます。形式は、全参加者を集めて「集合研修」並びに担当教員による各学生への「個別指導」の2本立てで行います。授業回数は全19回。その他、報告会の練習等を含め20回以上となります。 ・3年生対象です。(但し、経済学部現代マネジメント専攻の学生を除く) ・履修申込みは、キャリアセンターとします。		
成績評価方法	授業態度・レポート・実習報告会プレゼン内容、“チバイチバン”力評価により評価します。		
基準			
授業の予習・復習	実習先企業等への提出書類、実習先の調査報告、報告書の原稿、報告会のプレゼンテーションなどについては、個別指導を踏まえて、自宅等で作業することを求めます。		
教科書	事前指導時に「講義資料」、実習に行く前に「実習ノート」を配布します。		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第1回	事前指導	5/8 インターンシップ講座の目標と受講の留意点 インターンシップを活用し成果をあげるための Point	
第2回	事前指導	5/15 仕事現場を構成する人材とその立場 アルバイト(≒新入社員)と正社員(中堅以上社員)の違いとは?	
第3回	事前指導	5/22 仕事シーン分析(販売/事務モデル) & 自分なら企画 5/29 仕事シーン分析(営業/企画モデル) & 自分なら企画	
第4回	事前指導	6/5 ビジネスモデル分析(小売) & 魅力と苦勞 6/12 ビジネスモデル分析(公務員) & 魅力と苦勞 6/19 ビジネスモデル分析(サービス) & 魅力と苦勞	
第5回	事前指導	6/26 インターンシップ先企業リサーチ 7/3 インターンシップ先企業リサーチ結果プレゼン	
第6回	事前指導	7/10 インターンシップでの取材項目リストアップ 7/17 インターンシップでの取材項目プレゼン	
第7回	事前指導	7/24 ビジネスマナー インターンシップに行くに当たっての留意事項 & 成功するための5鉄則	
第8回	実習 (8月~9月)	インターンシップ実習	
第9回	事後指導	9/25 PowerPoint 講習会 (後期ガイダンス予定日 キャリアセンターにて対応)	
第10回	事後指導	10/2 日報、メモからの材料だし① 10/9 日報、メモからの材料だし②	
第11回	事後指導	10/16 材料編集、ストーリー構築① 10/23 材料編集、ストーリー構築②	
第12回	事後指導	10/中旬~10/24 発表準備 (PowerPoint 作成)	
第13回	事後指導	10/27. 28. 29 報告会リハーサル (本番仕様)	
第14回	報告会	10/30 報告会	
第15回	事後指導	11/6 リフレクション	

経済・国際

授業番号	A300130001		
科目名 (英語表記)	環境科学 (Environmental Science)		
担当者 (英語表記)	中村 圭三 (Keizo Nakamura)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	今日、地球環境は急激に変化しつつあります。我々の豊かな生活を育んできた美しい地球は、この先一体どうなるのでしょうか。本講義では、実際の研究事例を通して、環境を科学するための基礎力を養成します。		
授業の進め方 (履修条件など)	最初に、各週の授業内容に関する基礎事項について、テキストの「基礎技法」で学習します。その上で、調査事例を中心とした授業内容を展開します。		
成績評価方法	授業態度と、定期試験の成績などで評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：テキストの「基礎技法」を学習しておいてください。 復習：学習した授業内容に関連する環境問題に、関心を持って生活してください。		
教科書	『フィールドの環境科学』 中村圭三著 青山社 2007.		
参考文献	授業の中で、適宜指示します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	環境科学概説	
第 2 回	環境と気象・気候 (1)	山の気象・気候	
第 3 回	環境と気象・気候 (2)	海岸の気象・気候	
第 4 回	環境と気象・気候 (3)	平地の気象・気候	
第 5 回	環境と気象・気候 (4)	都市の気候	
第 6 回	気候と生物	生物季節	
第 7 回	地球温暖化 (1)	地球温暖化の発生原因	
第 8 回	地球温暖化 (2)	地球温暖化の影響と対策	
第 9 回	オゾン層の破壊	オゾン層の破壊と対策	
第 10 回	酸性雨 (1)	酸性雨の発生原因	
第 11 回	酸性雨 (2)	酸性雨の現状	
第 12 回	酸性雨 (3)	酸性雨の影響と対策	
第 13 回	生活と環境 (1)	水質	
第 14 回	生活と環境 (2)	水の利用	
第 15 回	まとめ	総括	

経済・国際

授業番号	A300420001				
科目名 (英語表記)	教育行政 (Educational administration)				
担当者 (英語表記)	赤羽 良明 (Yoshiaki Akahane)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この科目は、将来教職を目指す学生が教育制度や教育法規を理解する中で、教育行政の総合的な基礎知識を理解することを目的とします。 <到達目標> 1. 教育行政の概念を公教育の成立過程から把握。 2. 教育施策の実現と教育法規、教育制度の理解。 3. 学校運営と教育行政の役割の理解。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎授業でレジュメと資料を配布します。教科書「教育小六法」や配布資料を活用しながら講義形式で授業を進めます。また、毎時間 20 分程度、学校や社会の中で起こる教育関連の諸問題について、教育行政の視点から考察する実践的な討議形式も採用します。				
成績評価方法	定期試験 (60%)、課題レポート (10%)、授業への参加態度 (30%)				
基準					
授業の予習・復習	新聞等で毎授業に関連する教育情報の収集、把握に努めます。また、配布するレジュメの項目に沿って講義内容を整理しておきます。				
教科書	「教育小六法」(学陽書房・平成 26 年版)				
参考文献	必要に応じて提示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	教育行政とは何か	授業の内容や進め方の説明、教育行政の概念定義の概説。			
第 2 回	公教育の誕生	諸外国の公教育誕生の歴史的経緯と我が国の公教育制度。			
第 3 回	教育政策の変遷 I	明治期の「学制」から第二次世界大戦までの教育制度や教育施策の変遷。			
第 4 回	教育政策の変遷 II	第二次世界大戦以降の教育制度や教育施策の変遷。			
第 5 回	教育制度と教育法規	日本国憲法、教育基本法、学校教育法等の教育関係法規の体系と特徴。教育制度とその法的根拠。			
第 6 回	教育行政組織と機能 I	国の教育行政組織とその機能、役割。			
第 7 回	教育行政組織と機能 II	都道府県・市町村の教育行政組織 (教育委員会) とその機能、役割。			
第 8 回	教育行政の諸課題	教育を取り巻く社会的状況、課題の分析。今後の教育施策や教育行政の方向性。			
第 9 回	学校教育の現状と課題	学校教育の役割、学校教育全般にわたる運営上の諸課題。教育行政施策との関係性。			
第 10 回	学校組織と運営体制	学校組織、教職員の校務分掌、地域連携体制等の概説、考察。			
第 11 回	教育課程の編成	教育課程の編成原則、「学習指導要領」の意義、「教科書」等の法的根拠。			
第 12 回	教員の服務	教員の身分・資格、服務の基準と法的根拠。教員の特殊性。			
第 13 回	教員の研修と評価	教員の研修制度と研修体系、人事評価と処遇。			
第 14 回	教育財政	義務教育の無償制と私費。学校予算、国庫負担等、学校関連の教育財政の現状と課題。			
第 15 回	教育改革と展望	中央教育審議会、教育再生実行会議等で論ぜられる審議経緯の概要と新たな教育の展望。			

経済・国際

授業番号	A300560001		
科目名 (英語表記)	教育実習指導 (Educational Practice)	(中・高)	
担当者 (英語表記)	奈良 明 (Akira Nara)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	教育実習を前に教育者としての心構えを学。学校教育に対する理解を深めるため、学習指導要領の理解、専門性など、教員としての責務、役割等について理解を深める。		
授業の進め方 (履修条件など)	中学校学習指導要領解説—総則編を中心教材に、あわせて配付資料等により、実践を意識した理論学習を行う。学校参観はレポートにまとめる。実践に必要な指導方法や技術等は、講義の中で適宜指導する。		
成績評価方法	レポート作成 (40点)、定期試験 (50点)、参観実習 (10点)		
基準			
授業の予習・復習	予習：前時の内容に目を通しておく。 復習：授業内容をその都度、整理し、理解しておく。		
教科書	中学校学習指導要領 (平成 20 年 9 月) 解説—総則編 文部科学省		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、現代の教育課題	
第 2 回	学校教育の条件①	学校の教育機能	
第 3 回	学校教育の条件②	学校の組織、施設、教職員	
第 4 回	総則に見る教育課程①	教育課程の編成及び実施 (基準、法則、一般方針)	
第 5 回	総則に見る教育課程②	教育課程の編成及び実施 (道徳、体育、健康)	
第 6 回	総則に見る教育課程③	教育課程の編成及び実施 (内容の取り扱いに関する共通的事項)	
第 7 回	総則に見る教育課程④	教育課程の編成及び実施 (授業時数等)	
第 8 回	総則に見る教育課程⑤	教育課程の編成及び実施 (指導計画の作成)	
第 9 回	総則に見る教育課程⑥	教育課程の編成及び実施 (体験、問題解決学習)	
第 10 回	総則に見る教育課程⑦	教育課程の編成及び実施 (生徒指導、進路指導)	
第 11 回	総則に見る教育課程⑧	教育課程の編成及び実施 (学習活動、個に応じた指導)	
第 12 回	総則に見る教育課程⑨	教育課程の編成及び実施 (特別支援、帰国生徒、情報教育)	
第 13 回	総則に見る教育課程⑩	教育課程の編成及び実施 (部活動、指導の評価、地域連携)	
第 14 回	学校の理解①	学校参観の意義と方法 (事前研修)	
第 15 回	学校の理解②	学校参観実習	

経済・国際

授業番号	A300390002				
科目名 (英語表記)	教育心理学 (Educational psychology)			(中・高)	
担当者 (英語表記)	藤井 輝男 (Teruo Fujii)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	児童・生徒の学習過程に関する心理学的知見を修得し、教育場面で役立てられることを目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式で進めるが、配付資料を利用して学生諸君の発言を求めたり、課題提出を求めたりする。必要に応じてビデオ等を利用する。				
成績評価方法	定期試験 (80%)・レポート及びその他の課題 (20%) で評価する予定である。				
基準					
授業の予習・復習	予習：事前に教科書を読んでおくこと。 復習：授業内容をその都度、整理し、理解しておくこと。				
教科書	山崎史郎編「教育心理学ルック・アラウンド」ブレーン出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて			
第2回	教育心理学の領域と課題	教育心理学の研究分野の紹介			
第3回	発 達 (1)	発達理論、発達段階			
第4回	発 達 (2)	母性剥奪について			
第5回	教育と発達 (1)	成熟と学習の関係について			
第6回	教育と発達 (2)	英才教育は役に立つのか？			
第7回	知 能	知能とは。知能指数の算出方法など。			
第8回	性 格 (1)	性格の形成過程について			
第9回	性 格 (2)	エゴグラム			
第10回	動機づけ	「やる気」とは			
第11回	授業の過程	教授学習過程について			
第12回	評 価	教育評価の内容			
第13回	適応と障害 (1)	適応と教育			
第14回	適応と障害 (2)	障害の理解			
第15回	まとめ	まとめと質問			

経済・国際

授業番号	A300390003		
科目名 (英語表記)	教育心理学 (Educational psychology)		(小学校)
担当者 (英語表記)	田中 未央 (Mio Tanaka)	対象学年	1 単位数 2
授業のねらいと到達目標	①教育現場で活用できる心理学的知見 (主に認知・発達・学習・人格) の習得を目指す。 ②心理学的知見 (学習・認知・臨床) の知見が教育現場でどのように応用できるかを考察する。		
授業の進め方 (履修条件など)	①原則として講義形式で授業を進めるが、授業内で簡単な実習や議論を行う場合がある。 ②実習や議論を行った際には履修者にリアクションペーパーの提出を求める場合がある。 ③必要に応じてビデオなどの映像資料を使用する。 ④15回の授業内で2回～3回の小テストを実施する。		
成績評価方法 基準	学期末試験・授業内小テスト・リアクションペーパーを成績評価の対象とする。 評価基準は学期末試験 (70%)・授業内小テスト (20%)・リアクションペーパー (10%) である。		
授業の予習・復習	予習: テキストの該当する箇所を読む。 復習: 授業の内容を整理し、テキストの該当する箇所を読む。		
教科書	「新 発達と教育の心理学」 藤田圭一他 福村出版		
参考文献	「人はいかに学ぶか—日常認知の世界—」 (中公新書) 「考えることの科学—推論の認知心理学への招待」 (中公新書)		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	講義の概要, 講義の進め方, 評価方法, 受講マナーについて	
第2回	学習①	学習の理論 (レスポデント条件づけ・オペラント条件づけ)	
第3回	学習②	学習効果に影響する要因 (動機づけ・報酬と罰・テスト不安)	
第4回	記憶①	記憶のしくみ (短期記憶・長期記憶)	
第5回	記憶②	知識が出来るまで	
第6回	人格①	性格とはなにか? 性格の違いを説明する理論	
第7回	人格②	性格検査を体験する。	
第8回	学習指導法①	学習指導の形態 (発見学習・有意義受容学習)	
第9回	学習指導法②	効果的な学習指導法とは?	
第10回	教育評価	教育効果の評価法について	
第11回	学校における人間関係①	教師—生徒の人間関係	
第12回	学校における人間関係②	生徒—生徒の人間関係	
第13回	学校における人間関係①	学級とはどんな集団か? 教師 - 生徒の人間関係	
第14回	学校における人間関係③	いじめの問題	
第15回	まとめ	第2回～第14回で扱ったテーマに関するまとめ, および質問への回答	

経済・国際

授業番号	A300590001		
科目名 (英語表記)	教育相談 (小学校) (Educational consultation)		(A)
担当者 (英語表記)	田中 未央 (Mio Tanaka)	対象学年	2 単位数 2
授業のねらいと到達目標	教育場面において生じる諸問題 (いじめ, 不登校, メンタルヘルスなど) に関する知見や事例を紹介し, 問題を抱えた子どもに対する支援方法について検討する。また, 授業内容を踏まえ, 受講者自身が支援計画を作成し, 実習 (ロールプレイ) する。支援計画の実習を通して, 教育相談への理解を深める。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業は演習形式で実施するので, 遅刻・欠席は厳禁である。3 回目の授業で演習のスケジュールを説明し, 担当日を決定する。したがって, 3 回目の授業および, 演習の担当日に無断欠席した場合には当該授業の履修を放棄したとみなし, それ以降の受講は認めない。演習後にはリアクションペーパーの提出を求める。 必要に応じてビデオなどの映像資料も使用する。		
成績評価方法 基準	以下の3点を成績評価の対象とする。 ① 授業内演習 (50%) ② リアクションペーパー (20%) ③ 学期末レポート (30%) ①+②+③の評価点を100点満点とし, 60点以上を合格とする。 ただし, 1) 授業内演習 (担当課題) を実施していない履修者, 2) 欠席が5回以上の履修者には単位の認定は行わない。また, 演習形式の授業であるため, 遅刻・欠席に対して大幅な減点をする。		
授業の予習・復習	予習: 1) 演習を担当するテーマに関する情報収集とレジユメの作成 2) 演習するテーマに関する資料を読み, 疑問点をまとめる。 復習: 授業の内容を整理し, テキストと資料の内容を整理する。		
教科書	『よくわかる教育相談』春日井敏之・伊藤美奈子 (編著) ミネルヴァ書房		
参考文献	学校臨床心理学入門—スクールカウンセラーによる実践の知恵 (有斐閣アルマ) 伊藤美奈子・平野直己 (著) 有斐閣		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	①オリエンテーション ②イントロダクション	①講義の概要, 授業の進め方, 評価方法, 受講マナーについて ②教育相談とは?	
第2回	【講義】教育相談の役割	教育場面における臨臨床的視点の重要性, カウンセリングマインド	
第3回	【講義】問題行動と教育相談 演習のスケジュールについて	問題行動とは? 教育現場でみられる問題行動の例 演習の担当者と担当日の決定	
第4回	【講義】発達障害と教育相談	発達障害とは? 発達障害に対する誤解	
第5回	【講義】教師・保護者のメンタルヘルス	燃え尽き症候群 モンスターペアレント	
第6回	【演習】不登校の子どもに対する相談と指導	不登校問題の特徴についてまとめ, その対応について考察する。	
第7回	【演習】暴力といじめ問題に対する相談と指導	学校内での暴力, いじめ問題の特徴についてまとめ, その対応について考察する。	
第8回	【演習】学力問題に対する相談と指導	学力問題 (学習遅滞) についてまとめ, その対応について考察する。	
第9回	【演習】ケータイ・ネット問題に対する指導	現代の子どもを取り巻くネット環境の特徴と問題点についてまとめ, ケータイ・ネットの使用法に関する指導の方法について考察する。	
第10回	【演習】摂食障害に対する理解と支援	摂食障害の特徴についてまとめ, 摂食障害をもつ子どもへの支援方法, 摂食障害を防止するための対処法について考察する。	
第11回	【演習】発達障害をもつ子どもに対する支援	発達障害についてまとめ, 発達障害を持つ子ども, その親に対する支援の方法について考察する。	
第12回	【演習】児童虐待問題に対する支援	児童虐待問題についてまとめ, その対応方法について考察する。	
第13回	【演習】保護者への支援	問題を抱えた保護者・モンスターペアレント問題についてまとめ, その対応について考察する。	
第14回	【演習】教師への支援	教師のメンタルヘルス (燃え尽き症候群・うつ病など) についてまとめ, 教師に対する支援方法について考察する。	
第15回	まとめ	第2回～第14回で扱ったテーマのレビュー, 質問への対応, レポート作成	



経済・国際

授業番号	A300590002		
科目名 (英語表記)	教育相談 (小学校) (Educational consultation)		(B)
担当者 (英語表記)	田中 未央 (Mio Tanaka)	対象学年	2 単位数 2
授業のねらいと到達目標	教育場面において生じる諸問題 (いじめ, 不登校, メンタルヘルスなど) に関する知見や事例を紹介し, 問題を抱えた子どもに対する支援方法について検討する。また, 授業内容を踏まえ, 受講者自身が支援計画を作成し, 実習 (ロールプレイ) する。支援計画の実習を通して, 教育相談への理解を深める。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業は演習形式で実施するので, 遅刻・欠席は厳禁である。3 回目の授業で演習のスケジュールを説明し, 担当日を決定する。したがって, 3 回目の授業および, 演習の担当日に無断欠席した場合には当該授業の履修を放棄したとみなし, それ以降の受講は認めない。演習後にはリアクションペーパーの提出を求める。 必要に応じてビデオなどの映像資料も使用する。		
成績評価方法 基準	以下の3点を成績評価の対象とする。 ① 授業内演習 (50%) ② リアクションペーパー (20%) ③ 学期末レポート (30%) ①+②+③の評価点を100点満点とし, 60点以上を合格とする。 ただし, 1) 授業内演習 (担当課題) を実施していない履修者, 2) 欠席が5回以上の履修者には単位の認定は行わない。また, 演習形式の授業であるため, 遅刻・欠席に対して大幅な減点をする。		
授業の予習・復習	予習: 1) 演習を担当するテーマに関する情報収集とレジユメの作成 2) 演習するテーマに関する資料を読み, 疑問点をまとめる。 復習: 授業の内容を整理し, テキストと資料の内容を整理する。		
教科書	『よくわかる教育相談』春日井敏之・伊藤美奈子 (編著) ミネルヴァ書房		
参考文献	学校臨床心理学入門—スクールカウンセラーによる実践の知恵 (有斐閣アルマ) 伊藤美奈子・平野直己 (著) 有斐閣		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	①オリエンテーション ②イントロダクション	①講義の概要, 授業の進め方, 評価方法, 受講マナーについて ②教育相談とは?	
第2回	【講義】教育相談の役割	教育場面における臨臨床的視点の重要性, カウンセリングマインド	
第3回	【講義】問題行動と教育相談 演習のスケジュールについて	問題行動とは? 教育現場でみられる問題行動の例 演習の担当者と担当日の決定	
第4回	【講義】発達障害と教育相談	発達障害とは? 発達障害に対する誤解	
第5回	【講義】教師・保護者のメンタルヘルス	燃え尽き症候群 モンスターペアレント	
第6回	【演習】不登校の子どもに対する相談と指導	不登校問題の特徴についてまとめ, その対応について考察する。	
第7回	【演習】暴力といじめ問題に対する相談と指導	学校内での暴力, いじめ問題の特徴についてまとめ, その対応について考察する。	
第8回	【演習】学力問題に対する相談と指導	学力問題 (学習遅滞) についてまとめ, その対応について考察する。	
第9回	【演習】ケータイ・ネット問題に対する指導	現代の子どもを取り巻くネット環境の特徴と問題点についてまとめ, ケータイ・ネットの使用法に関する指導の方法について考察する。	
第10回	【演習】摂食障害に対する理解と支援	摂食障害の特徴についてまとめ, 摂食障害をもつ子どもへの支援方法, 摂食障害を防止するための対処法について考察する。	
第11回	【演習】発達障害をもつ子どもに対する支援	発達障害についてまとめ, 発達障害を持つ子ども, その親に対する支援の方法について考察する。	
第12回	【演習】児童虐待問題に対する支援	児童虐待問題についてまとめ, その対応方法について考察する。	
第13回	【演習】保護者への支援	問題を抱えた保護者・モンスターペアレント問題についてまとめ, その対応について考察する。	
第14回	【演習】教師への支援	教師のメンタルヘルス (燃え尽き症候群・うつ病など) についてまとめ, 教師に対する支援方法について考察する。	
第15回	まとめ	第2回～第14回で扱ったテーマのレビュー, 質問への対応, レポート作成	



経済・国際

授業番号	A300540001				
科目名 (英語表記)	教育相談 (中・高) (Educational consultation)				
担当者 (英語表記)	滝本 信行 (Nobuyuki Takimoto)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	教員となった時に必要となる「学校教育相談」に関して修得し、教育場面における生徒との対応の仕方について理解する。				
授業の進め方 (履修条件など)	学校における教育相談は、子どもの特性、発達段階、発達課題などを考え、柔軟に対応する必要がある。この授業では、子どもの成長を支援する教員にとって不可欠な子どもの理解の視点、教育相談の理論と実際を現場の実態に即して体系的に学ぶ。				
成績評価方法	毎時間における小レポート・授業態度 (80%)、試験 (20%)				
基準					
授業の予習・復習	.				
教科書	.				
参考文献	授業内で指示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて			
第 2 回	生徒指導、教育相談とは	生徒指導と教育相談の理解とその違いについて			
第 3 回	教育相談の理解	教育相談の基本的な考え方、内容、方法について理解する			
第 4 回	学校でのカウンセリングの基本	話すこと、聴くこと、面接法			
第 5 回	人間関係づくり I	人とかかわる体験、自己概念とは			
第 6 回	人間関係づくり II	価値観、発想の転換			
第 7 回	子どもの理解 I	子どもの現状と課題			
第 8 回	子どもの理解 II	子どもの発達課題、各発達時期におけるかかわり方			
第 9 回	特別支援教育	発達障害の理解と対応			
第 10 回	子どもの不適応行動 I	反社会的問題行動の理解と対応			
第 11 回	子どもの不適応行動 II	不登校の理解と対応			
第 12 回	子どもへの支援	いじめの理解と対応			
第 13 回	開発的教育相談に求めること	学級経営と教育相談			
第 14 回	人とかかわること	保護者への対応			
第 15 回	まとめ	まとめと振り返り			

経済・国際

授業番号	A300430001				
科目名 (英語表記)	教育法規 (Educational regulation)			(集中)	
担当者 (英語表記)	高橋 哲 (Satoshi Takahashi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	教育と法をめぐる諸問題、ならびに現在の学校教育を規定している教育法規を、教育法学の観点から学ぶ。教育制度に固有な法としての「教育法規」が如何なる歴史的経緯のもとに形成されてきたのか、教育現場に如何なる役割を果たしているのかを学習する。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式による授業が中心となるが、適宜、質疑、討論、小レポート等を織り込む予定である。講義内のディスカッションには積極的に参加することが望ましい。				
成績評価方法	定期試験 (90%)、授業への出席・参加状況 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	.				
教科書	市川須美子ほか編 『教育小六法 平成 25 年版』学陽書房、2013 年				
参考文献	必要に応じて提示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	教育制度に固有な法としての教育法	教育法規を学ぶ意味			
第 2 回	教育における法①	日本国憲法における教育関係条項			
第 3 回	教育における法②	教育基本法の法的特質			
第 4 回	教育における法③	教育関係法規の構成			
第 5 回	学校法制①	学校の定義をめぐる問題			
第 6 回	学校法制②	「1 条校」をめぐる諸問題			
第 7 回	義務教育法制①	義務教育の「義務」の法的特質			
第 8 回	義務教育法制②	就学制度をめぐる諸問題			
第 9 回	義務教育法制③	「夜間中学校」の意義と役割			
第 10 回	無償教育法制①	義務教育の「無償性」の実態			
第 11 回	義務教育法制②	就学援助制度の諸問題			
第 12 回	教育課程法制①	学習指導要領の法的性格			
第 13 回	教育課程法制②	特別活動領域をめぐる諸問題			
第 14 回	教科書法制①	教科書検定制度の法的検討			
第 15 回	教科書法制②	教科書採択地区制度をめぐる実態			

経済・国際

授業番号	A300600001				
科目名 (英語表記)	教育方法・技術論 (小学校) (Methodology of Education and Techniques)				
担当者 (英語表記)	柳原 由美子 (Yumiko Yanagihara)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業は、将来教員を目指す学生たちが受講することを前提に、学校教育の実践に必要な基礎的理論を理解し、その理論を踏まえて、現実の授業実態や最近の方法技術の特質を探ることを目的とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回レジュメを配布し、その単元で習得すべき事柄を最初に提示し、それに沿って授業を展開していきます。				
成績評価方法 基準	次のように行いますが、2)と3)についてはどちらかを選択します。 1) 筆記試験 (中間・期末) 70% 2) コンピュータや教材提示装置などの教具を利用したプレゼンテーション 30% 3) プログラム学習教材の作成 30%				
授業の予習・復習	復習: 毎回配布のレジュメに書かれている、各単元での重要事項の理解がなされているかどうか、各自確認すること				
教科書	毎回配布する印刷物 (レジュメ etc.) を利用します。				
参考文献	初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	クラス・オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、プレゼンテーションなどについての説明			
第2回	教えるという仕事	柔軟な方法観の必要性、TTTIとは、スキーマとは、など			
第3回	変貌する教室	学校の転換期、教室の風景の変貌、欧米と日本の相違など			
第4回	授業の様式	教える2つの様式とその歴史、日本の学校文化			
第5回	授業の歴史 (1)	近代以前の教育方法、近代の教育学の成立			
第6回	授業の歴史 (2)	ペスタロッチ、ヘルバルト、ツィラーなどの教授の変遷			
第7回	授業の歴史 (3)	子ども中心の教育、効率主義の教育、行動科学の教育			
第8回	中間試験	試験の解説 (復習)			
第9回	いろいろな教育 (1)	オープン教育の発展と現状、その難しさと可能性			
第10回	いろいろな教育 (2)	プログラム学習、完全習得学習、応答する環境			
第11回	いろいろな教育 (3)	視聴覚メディアの特質とその利用、視聴覚教育の変遷			
第12回	プレゼンテーション (1)	学生による視聴覚機器を利用した発表			
第13回	プレゼンテーション (2)	学生による視聴覚機器を利用した発表			
第14回	日本の学校と欧米の学校	教育方法が、それぞれの国の文化・伝統などによって違うのか、日本の教育風土の中で、学習指導において考慮すべきことは			
第15回	授業の評価	行動科学の方法、質的研究の方法、工学的接近と羅生門的接近など			

経済・国際

授業番号	A300440001				
科目名 (英語表記)	教育方法・技術論 (中・高) (Methodology of Education and Techniques)				
担当者 (英語表記)	新田 司 (Tsukasa Nitta)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	教育技術や教育方法に関する具体的な内容について、その歴史的経緯と教育現場での実践的な事例も活用しながら理解を図るとともに、時事的な問題についても適宜取り上げて考察していくことで、教員として教育現場に立つにあたって必要となる教育技術や教育方法についての実践的な内容についての習得をめざす。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式が中心となるが、ともに学びあうことが可能になるようなディスカッション、コメント発表、コメントの記述なども随時取り入れ、実践的な内容については具体的に活動することで、主体的な学びをめざす。				
成績評価方法	定期試験 (60%)、提出物 (30%)、授業への取組状況 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：事前に該当するテキストの部分を読んでおく 復習：受講内容を再度確認し、まとめておく				
教科書	平沢茂編著『改訂版 教育の方法と技術 (教職課程シリーズ)』(図書文化)				
参考文献	授業中に適宜紹介する				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	講義の概要、講義内容、評価、履修するに当たって			
第2回	19世紀までの教授・学習理論	19世紀までの教育思想家・実践家について			
第3回	現代の教育方法教授・学習理論	20世紀以降の教育思想家・実践家について			
第4回	教育課程①-カリキュラムの構造	カリキュラムの仕組みについて			
第5回	教育課程②-カリキュラムの形態	これまで考案されたカリキュラムの諸形態について			
第6回	教育課程③-学習指導要領の変遷	改訂された学習指導要領の特徴について			
第7回	学習指導の原理	学習指導 = 授業の基本的なあり方について			
第8回	学習指導の形態	これまでの学習指導について概観する			
第9回	授業づくり①-よりよい授業を行うために	よりよい授業作りについて検討する			
第10回	授業づくり②-外国の授業をもとに	海外の授業実践をもとに検討する			
第11回	教材について	授業で使用する教材についてのもつ意味について			
第12回	生徒指導と教育方法	生徒指導と教育方法との関連について			
第13回	教育評価	これまでの教育評価の外観と課題について検討する			
第14回	情報機器の技術と操作	特にパワーポイントの使用を中心に			
第15回	全講義のまとめ	講義の要点について確認する			

経済・国際

授業番号	A300410001				
科目名 (英語表記)	教職概論 (Teaching profession introduction)			(中・高)	
担当者 (英語表記)	中山 幸夫 (Yukio Nakayama)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	自ら受けてきた家庭や学校での教育を振り返りながら、教職の「意義と歴史」、「理想と現実の教師像」、「教師の役割と仕事」を確認し、教師に求められる資質・能力・教員の研修などについて法規等を下に 良き教育者になるための準備に関する基本条件、採用の現状と対策も含めた実践的な授業を行う。				
授業の進め方 (履修条件など)	学習する存在である人間を支援する教職という営みの基本的な考え方を、理論的、歴史的、現実的に 深めながら現代日本の学校教育のあり方を考え、自分なりの教育観をもてるようにする。				
成績評価方法 基準	(1) 定期試験・テストを実施する。 (2) 成績評価：定期試験、授業内テスト、授業への意欲・レポート内容、授業参加態度等総合評価 (3) 成績配分：定期試験 (50%)・レポート及びその他の課題 (50%)				
授業の予習・復習	.				
教科書	文部科学省編「高等学校学習指導要領解説」平成 21 年				
参考文献	「教職概論」佐藤晴雄 学陽書房 「学校新時代の教育・教師」宮川八岐共著 東洋館出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	.	授業内容等オリエンテーション及び教職概論の現況			
第 2 回	.	社会と個人における教育の意義と役割 (職業としての教師)			
第 3 回	.	教育の意義と課題			
第 4 回	.	教職の意義 (教師とは何か)			
第 5 回	.	教職の理想と現実			
第 6 回	.	教師と教員養成の歴史			
第 7 回	.	教員の研修 (研修の必要性和研修の種類)			
第 8 回	.	教員の任用と服務			
第 9 回	.	教師の役割と仕事 (生きる力の育成)			
第 10 回	.	管理職、主任の役割 (学校経営)			
第 11 回	.	教師の職場環境 (集団活動)			
第 12 回	.	教師の資質向上と研修 (教師の力量)			
第 13 回	.	教育実習の意義と心得 (教員免許状)			
第 14 回	.	教職への進路選択と教員採用選考			
第 15 回	.	面接、模擬授業対策 (まとめ)			

経済・国際

授業番号	A300410002				
科目名 (英語表記)	教職概論 (Teaching profession introduction)			こども専用	
担当者 (英語表記)	武内 清 (Kiyoshi Takeuchi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	教員の仕事内容について広く学ぶ。教員の置かれた社会的背景、教員の採用、研修、教員の属する学校組織の特質、校務分掌、教職倫理、教師・生徒関係、親との関係、地域社会との関係など、教員として仕事をしていく上で必要な知識や技法を学ぶ。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義を中心に行うが、毎時間、自分の考えや質問を書くリアクションペーパーを課す。討論も取り入れる。				
成績評価方法	授業での発言 10%、リアクションペーパー 30%、学期末試験 60%。				
基準					
授業の予習・復習	配布されたプリントを読み、復習をよくすること。				
教科書	使用しない。プリントを配布。				
参考文献	授業時に指示。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	導入	教職の意義について			
第 2 回	専門職	教職は専門職か。			
第 3 回	教育法規	教育法規と教師の役割			
第 4 回	研修	教育実習、校内研修、外部研修			
第 5 回	教員の地位	教員の社会的背景、身分、倫理			
第 6 回	教師のメンタルヘルス	教師の多忙感、バーンアウト、病気対策			
第 7 回	ライフスタイル	教師のタイプ、日常生活			
第 8 回	仕事内容	教科指導、生徒指導、部活の指導、校務分掌			
第 9 回	管理職	校長、教頭、主任の役割			
第 10 回	教師－生徒関係	その実際とあるべき姿			
第 11 回	問題行動	生徒の問題行動への対処の仕方			
第 12 回	キャリア教育	その教育内容と方法			
第 13 回	カリキュラム	教科書の使い方、教科書以外の教材の使い方			
第 14 回	親、地域社会	小中高大連携			
第 15 回	まとめ	教師の現実と理想			

経済・国際

授業番号	A300010001		
科目名 (英語表記)	敬天愛人講座 (Soul of establishment of a school)		
担当者 (英語表記)	教務部委員会 (Kyoumubu)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>本学の建学の精神である「敬天愛人」の具現化を図るために設けられたものである。「天を敬い、人を愛する」という言葉の持つ意味は極めて広く深い。人間関係のみならず、人間と社会、人間と自然との関係にも関わってくる。従って、この理念の具体化もさまざまな形で行われることになる。この講座をきっかけとして、「敬天愛人」の精神が、学内はもとより、学外にも広く浸透していくことを期待している。</p>		
授業の進め方 (履修条件など)	「敬天愛人」に関する複数のテーマを掲げ、各専門の先生方に講義していただく。		
成績評価方法	複数のテーマのうち2つを選び、それぞれの問題について回答する。(論文形式)		
基準	授業への参加態度：40%、筆記試験：60%。		
授業の予習・復習	メディアセンターにある「敬天愛人文庫」の中の関連書物を読んでおくことが望ましい。(本学ホームページからのアクセスが可能)		
教科書	教科書は用いず、毎回レジュメを配布する。		
参考文献	「野の花」 長戸路 信行 著		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	第1回「4月11日」 講師「森島 隆晴」	オリエンテーション	
第2回	第2回「4月18日」 講師「角田 勲」	敬愛学園の成り立ちと建学の理念 I	
第3回	第3回「4月25日」 講師「角田 勲」	敬愛学園の成り立ちと建学の理念 II	
第4回	第4回「5月2日」 講師「館野 受男」	人の品性、知性 I	
第5回	第5回「5月9日」 講師「館野 受男」	人の品性、知性 II	
第6回	第6回「5月16日」 講師「長戸路 政行」	命の尊厳 I	
第7回	第7回「5月23日」 講師「長戸路 政行」	命の尊厳 II	
第8回	第8回「5月30日」 講師「中山 幸夫」	「敬天愛人」の道德教育	
第9回	第9回「6月6日」 講師「折原 裕」	最大多数の最大幸福とは? -ジェレミー・ベンサム思想-	
第10回	第10回「6月13日」 講師「小山 幸伸」	敬天愛人のめざすものの源流を求めて -西郷隆盛と明治維新-	
第11回	第11回「6月20日」 講師「家近 亮子」	日中戦争終結と蒋介石の「以德報怨」の演説	
第12回	第12回「6月27日」 講師「家近 亮子」	日本人中国残留孤児と養父母の絆	
第13回	第13回「7月4日」 講師「高田 茂」	「西郷隆盛公」の生き方を学び、自分のキャリアをデザインする I	
第14回	第14回「7月11日」 講師「高田 茂」	「西郷隆盛公」の生き方を学び、自分のキャリアをデザインする II	
第15回	第15回「7月18日」 講師「角田 勲」	敬天愛人のめざすもの	

# 経済・国際

授業番号	A300010002				
科目名 (英語表記)	敬天愛人講座 (Soul of establishment of a school)				
担当者 (英語表記)	教務部委員会 (Kyoumubu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>本学の建学の精神である「敬天愛人」の具現化を図るために設けられたものである。「天を敬い、人を愛する」という言葉の持つ意味は極めて広く深い。人間関係のみならず、人間と社会、人間と自然との関係にも関わってくる。従って、この理念の具体化もさまざまな形で行われることになる。この講座をきっかけとして、「敬天愛人」の精神が、学内はもとより、学外にも広く浸透していくことを期待している。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	「敬天愛人」に関する複数のテーマを掲げ、各専門の先生方に講義していただく。				
成績評価方法	複数のテーマのうち2つを選び、それぞれの問題について回答する。(論文形式)				
基準	授業への参加態度：40%、筆記試験：60%。				
授業の予習・復習	メディアセンターにある「敬天愛人文庫」の中の関連書物を読んでおくことが望ましい。(本学ホームページからのアクセスが可能)				
教科書	教科書は用いず、毎回レジュメを配布する。				
参考文献	「野の花」 長戸路 信行 著				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	第1回「9月26日」 講師「榎田 久代」	オリエンテーション			
第2回	第2回「10月3日」 講師「角田 勲」	敬愛学園の成り立ちと建学の理念 I			
第3回	第3回「10月10日」 講師「角田 勲」	敬愛学園の成り立ちと建学の理念 II			
第4回	第4回「10月17日」 講師「館野 受男」	人の品性、知性 I			
第5回	第5回「10月24日」 講師「館野 受男」	人の品性、知性 II			
第6回	第6回「10月31日」 講師「長戸路 政行」	命の尊厳 I			
第7回	第7回「11月14日」 講師「長戸路 政行」	命の尊厳 II			
第8回	第8回「11月21日」 講師「中山 幸夫」	「敬天愛人」の道德教育			
第9回	第9回「11月28日」 講師「折原 裕」	最大多数の最大幸福とは? -ジェレミー・ベンサム思想-			
第10回	第10回「12月5日」 講師「小山 幸伸」	敬天愛人のめざすものの源流を求めて -西郷隆盛と明治維新-			
第11回	第11回「12月12日」 講師「家近 亮子」	日中戦争終結と蒋介石の「以德報怨」の演説			
第12回	第12回「12月19日」 講師「家近 亮子」	日本人中国残留孤児と養父母の絆			
第13回	第13回「1月9日」 講師「高田 茂」	「西郷隆盛公」の生き方を学び、自分のキャリアをデザインする I			
第14回	第14回「1月23日」 講師「高田 茂」	「西郷隆盛公」の生き方を学び、自分のキャリアをデザインする II			
第15回	第15回「1月30日」 講師「角田 勲」	敬天愛人のめざすもの			



# 経済・国際

授業番号	A300500001				
科目名 (英語表記)	公民科指導法 (Department method of instruction of a citizen)				
担当者 (英語表記)	北原 文成 (Fuminari Kitahara)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	1. 公民科の各科目の視点と授業づくりのための基本的な考え方を理解する。 2. 教科指導案の作成方法、話し方、板書の仕方など基本的な授業のスキルを身に付ける。 3. 生徒参加型授業展開方法など、新しい教育方法を実践できる力を養う。				
授業の進め方 (履修条件など)	公民科の授業は生徒が主権をもつ公民として、現代社会を深く認識する力をつけることが求められています。この授業では、現代社会の教材研究や授業づくりを通して、現代の課題に切り込み、自らの考えを深めながら、授業を行う力を身に付けることを目標とします。また仲間の模擬授業の検討・合評にも取り組んでもらいます。そうしながら授業の構想力・実践力を磨いていきましょう。				
成績評価方法 基準	(1) 定期試験・テストを実施する。 (2) 成績評価：学習指導案、授業内テスト、授業への意欲・貢献度を総合評価する。 (3) 成績配分：定期試験 (50%)・レポート及びその他の課題等 (50%)				
授業の予習・復習	.				
教科書	(1) 文部科学省編「高等学校学習指導要領解説・公民編」平成21年 (2) 高等学校「現代社会」「倫理」「政治・経済」の教科書 東京書籍「政治・経済」				
参考文献	(1) 森 秀夫「公民科教育法」学芸図書 (2) 熊谷一乗「公民科教育」学文社				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	.	オリエンテーション (公民科授業概要の説明)			
第2回	.	公民教育について (高等学校学習指導要領と主な改訂事項)			
第3回	.	戦前と戦後の公民教育の歴史について			
第4回	.	公民科の教科目標と科目構造 (高等学校学習指導要領解説)			
第5回	.	「現代社会」：科目の性格と目標 (高等学校学習指導要領の変遷)			
第6回	.	「現代社会」：学習指導計画案の作成と指導上の配慮事項			
第7回	.	模擬授業を観察し適切に評価・合評			
第8回	.	「倫理」：科目の性格と目標について (高等学校学習指導要領解説)			
第9回	.	「倫理」：建学の精神「敬天愛人」と学習指導計画案の作成と指導上の配慮事項			
第10回	.	模擬授業を観察し適切に評価・合評			
第11回	.	「政治・経済」：科目の学習指導計画案の作成と指導上の配慮事項			
第12回	.	模擬授業を観察し適切に評価・合評			
第13回	.	模擬授業を観察し適切に評価・合評			
第14回	.	各科目にわたる内容の取扱いについて (高等学校学習指導要領解説)			
第15回	全体のまとめ	「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画			

経済・国際

授業番号	A300340001		
科目名 (英語表記)	システム設計論 I (Design of Information Systems I)		
担当者 (英語表記)	高橋 和子 (Kazuko Takahashi)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	授業のねらいは、企業をはじめ官庁や教育機関など社会のあらゆる場で運用されている情報システムの設計を行う上で必要な基礎的知識を解説することです。到達目標は、これらの知識を身につけることで、将来、担当するであろうどのような業務に対しても、高度な情報技術を活用できる能力を身につけることです。		
授業の進め方 (履修条件など)	基本的に教科書にしたがって講義を進め、不足部分は配布プリントで補います。履修条件は、「情報概論」を履修していることが望ましい。理解を深めるために、毎回、授業の途中で小テスト (クイズ) を数回行います。		
成績評価方法	平常点：授業内小テスト (毎回) 40% 定期試験：60%		
基準			
授業の予習・復習	予習：日頃から情報システムに関連するニュースに注意してください。 復習：専門用語が多いので、授業中によく理解し、復習に努めるようにしてください。		
教科書	『コンピュータと情報システム』 草薙信照著 サイエンス社 2007年		
参考文献	『ソフトウェア開発の基本』 谷口功著 秀和システム 2011年		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	情報システムとは	情報システムとコンピュータ、情報システムの形態	
第2回	情報システムの事例	社会基盤やビジネス戦略としての情報システム	
第3回	システム開発の工程	システムのライフサイクルと開発モデル	
第4回	システム開発 (1)	開発計画、工数の見積り	
第5回	システム開発 (2)	要求分析と要求定義	
第6回	システム開発 (3)	外部設計	
第7回	システム開発 (4)	ファイル設計	
第8回	システム開発 (5)	内部設計	
第9回	システム開発 (6)	プログラム設計	
第10回	システム開発 (7)	単体テスト、結合テスト、システムテスト	
第11回	システム開発 (8)	システムの運用管理と評価指標	
第12回	データベース設計 (1)	概念設計、論理設計、物理設計	
第13回	データベース設計 (2)	正規化	
第14回	開発環境と開発ツール	統合開発環境、CASE ツール、コンポーネントウェア	
第15回	総括	システム設計における知識のまとめ	

経済・国際

授業番号	A300480001				
科目名 (英語表記)	社会科・公民科指導法 I (Social studies and the department method of instruction I of a citizen)				
担当者 (英語表記)	山口 健一 (Kenichi Yamaguchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	中学校社会科教員になった場合に必要とされる教員としての心構えや公民的分野における基礎理論、教材研究の方法、授業の進め方などを学習指導要領を学びながら習得する。				
授業の進め方 (履修条件など)	中学校学習指導要領解説社会編をテキストとして、補助プリントを使いながら授業を進める。				
成績評価方法	定期試験、課題レポート、授業ごとに実施する小テストにより評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：前時のプリントの「次時の学習」範囲に目を通しておく。 復習：授業内容をその都度整理し、理解を深めるようにする。				
教科書	中学校学習指導要領解説社会編 文部科学省				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	小学校社会科と公民的分野との関連	オリエンテーション 小学校社会科学習指導要領の公民的分野の関連事項			
第 2 回	社会科教育の基本	学習指導要領の改訂の経緯と趣旨			
第 3 回	公民的分野の目標	公民的分野の目標 4 項目			
第 4 回	公民的分野の内容①	私たちと現代社会① (私たちが生きる現代社会と文化)			
第 5 回	公民的分野の内容②	私たちと現代社会② (現代社会をとらえる見方や考え方)			
第 6 回	公民的分野の内容③	私たちと経済① (市場の働きと経済)			
第 7 回	公民的分野の内容④	私たちと経済② (国民の生活と政府の役割)			
第 8 回	公民的分野の内容⑤	私たちと政治① (日本国憲法)			
第 9 回	公民的分野の内容⑥	私たちと政治② (民主政治と政治参加)			
第 10 回	公民的分野の内容⑦	私たちと国際社会の諸課題			
第 11 回	中学校社会科の全体構想	公民と地歴学習の関連			
第 12 回	指導計画の作成と内容の取扱い①	指導計画作成上の配慮事項			
第 13 回	指導計画の作成と内容の取扱い②	資料等の活用と作業的、体験的な学習 政治・宗教に関する配慮事項			
第 14 回	社会科授業の方法論①	公民の教材研究と指導技術、評価について			
第 15 回	社会科授業の方法論②	板書、プリントの作り方			

経済・国際

授業番号	A300490001				
科目名 (英語表記)	社会科・公民科指導法 II (Social studies and the department method of instruction II of a citizen)				
担当者 (英語表記)	山口 健一 (Kenichi Yamaguchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	社会科・公民科指導法 I (前期) で学んだ理論をもとに、授業実践に結びつく力を身につける。実際に使用されている教科書を使い、学習内容や指導方法を具体的に習得する。				
授業の進め方 (履修条件など)	原則として、社会科・公民科指導法 I (前期) を履修した者が受講できる。教科書を使用しながら、学習指導要領の内容と関連させ、指導のポイントを把握しながら指導力を高める。				
成績評価方法	レポート作成と課題発表をもとに評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：発表者は事前準備、それ以外の者は発表内容に該当する箇所を目を通しておく。 復習：授業内容をその都度、整理し、理解しておく。				
教科書	中学校学習指導要領解説社会編 文部科学省 中学校教科書 東京書籍版「公民」				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方 指導案の作成について			
第 2 回	公民的分野の学習内容と学習指導の研究	公民的学習の年間学習指導計画			
第 3 回	公民的分野の学習内容と学習指導の研究	学生による模擬授業① 現代社会とわたしたちの生活 現代社会の見方や考え方			
第 4 回	公民的分野の学習内容と学習指導の研究	学生による模擬授業② わたしたちの生活と文化			
第 5 回	公民的分野の学習内容と学習指導の研究	学生による模擬授業③ 人権と日本国憲法			
第 6 回	公民的分野の学習内容と学習指導の研究	学生による模擬授業④ 人権と共生社会 これからの人権保障			
第 7 回	公民的分野の学習内容と学習指導の研究	学生による模擬授業⑤ 現代の民主政治			
第 8 回	公民的分野の学習内容と学習指導の研究	学生による模擬授業⑥ 国の政治のしくみ			
第 9 回	公民的分野の学習内容と学習指導の研究	学生による模擬授業⑦ 地方の政治と自治			
第 10 回	公民的分野の学習内容と学習指導の研究	学生による模擬授業⑧ 暮らしと経済 生産と労働			
第 11 回	公民的分野の学習内容と学習指導の研究	学生による模擬授業⑨ 価格の動きと金融			
第 12 回	公民的分野の学習内容と学習指導の研究	学生による模擬授業⑩ 国民生活と福祉			
第 13 回	公民的分野の学習内容と学習指導の研究	学生による模擬授業⑪ 国際社会と世界平和			
第 14 回	公民的分野の学習内容と学習指導の研究	学生による模擬授業⑫ 国際問題とわたしたち			
第 15 回	授業参観	中学校社会科授業参観とレポート提出			

経済・国際

授業番号	A300450001				
科目名 (英語表記)	社会科・地歴科指導法 I (Teaching Methods in Social Studies and Geography I)				
担当者 (英語表記)	奈良 明 (Akira Nara)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	知識基盤社会化やグローバル化が進む時代において、中学校社会科が果たす役割は非常に大きい。そのために学習指導要領を深く理解し、中学校社会科教員として身に付ける、基礎理論、教材理論、研究の方法、授業の方法論等を地理的、歴史的分野において習得する。				
授業の進め方 (履修条件など)	中学校学習指導要領解説－社会編と教師作成プリントで授業を進める。				
成績評価方法	課題小論文 (50点)、定期試験 (50点)				
基準					
授業の予習・復習	予習：前時の内容に目を通しておく。 復習：授業内容をそのつど、整理し、理解しておく。				
教科書	中学校学習指導要領 (平成20年9月) 解説－社会編 文部科学省				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	社会科教育の現状と課題	オリエンテーション、社会科で何を教えるのか。			
第2回	社会科教育の基本①	社会科教育の理念			
第3回	社会科教育の基本②	社会科教育の変遷			
第4回	社会科教育の基本③	これからの社会科教育			
第5回	社会科の学力観	学力を構成するもの			
第6回	社会科の授業観	分かる授業、楽しい授業			
第7回	社会科地歴学習の基礎理論①	地理的分野の学習			
第8回	社会科地歴学習の基礎理論②	地理的分野の指導と方法			
第9回	社会科地歴学習の基礎理論③	歴的分野の学習			
第10回	社会科地歴学習の基礎理論④	歴的分野の指導と方法①			
第11回	社会科地歴学習の基礎理論⑤	歴的分野の指導と方法②			
第12回	社会科授業の方法論①	地理、歴史の教材研究			
第13回	社会科授業の方法論②	地理、歴史の指導技術			
第14回	社会科の評価①	評価規準の設定			
第15回	社会科の評価②	観点別学習状況評価			

経済・国際

授業番号	A300460001				
科目名 (英語表記)	社会科・地歴科指導法 II (Teaching Methods in Social Studies and Geography II)				
担当者 (英語表記)	奈良 明 (Akira Nara)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	社会科・地歴科指導法 I (前期) で学んだ理論を背景として、授業実践に結びつく力を身につける。実際に使用されている教科書を使い、学習内容や指導方法を具体的に習得する。				
授業の進め方 (履修条件など)	社会科・地歴科指導法 I (前期) を履修したものが受講できる。教科書を使用しながら、学習指導要領の内容と関連させ、指導のポイントを理解する。				
成績評価方法	レポート作成 (40 点)、課題発表 (60 点)				
基準					
授業の予習・復習	予習：発表者は準備しておく。 復習：授業内容をその都度、整理し、理解しておく。				
教科書	中学校学習指導要領 (平成 20 年 9 月) 解説—社会編 文部科学省 中学校教科書 東京書籍版 「地理」「歴史」 帝国書院版 「地図帳」				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、指導案作成の仕方			
第 2 回	地理的分野の学習内容と学習指導の研究	地理的分野の年間学習指導計画			
第 3 回	地理的分野の模擬授業①	学生による模擬授業 (世界のすがた)			
第 4 回	地理的分野の模擬授業②	学生による模擬授業 (世界各地の人々の生活と環境)			
第 5 回	地理的分野の模擬授業③	学生による模擬授業 (世界の諸地域)			
第 6 回	地理的分野の模擬授業④	学生による模擬授業 (日本のすがた)			
第 7 回	地理的分野の模擬授業⑤	学生による模擬授業 (世界から見た日本のすがた)			
第 8 回	地理的分野の模擬授業⑥	学生による模擬授業 (日本の諸地域)			
第 9 回	歴史的分野の学習内容と学習指導の研究	歴史的分野の年間学習指導計画			
第 10 回	歴史的分野の模擬授業①	学生による模擬授業 (古代までの日本)			
第 11 回	歴史的分野の模擬授業②	学生による模擬授業 (中世の日本)			
第 12 回	歴史的分野の模擬授業③	学生による模擬授業 (近世の日本)			
第 13 回	歴史的分野の模擬授業④	学生による模擬授業 (開国と近代日本の歩み)			
第 14 回	歴史的分野の模擬授業⑤	学生による模擬授業 (二度の世界大戦と日本)			
第 15 回	授業参観	中学校社会科授業参観とレポート提出			

経済・国際

授業番号	A300120001		
科目名 (英語表記)	社会学 (Sociology)		
担当者 (英語表記)	菊池 真弓 (Mayumi Kikuchi)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	本授業では、社会学的な理論や方法論、社会学の歴史を学ぶことを目的とする。また、家族、地域社会の基本的な視点を学び、わが国の少子高齢化、情報化といった社会変動の過程や背景を取り上げ、現代社会に起こっている虐待、介護、環境、ジェンダーなどの問題とその課題について考える力をつけることを目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業の進め方は、テキストを活用し、新聞や統計・世論調査、DVD 教材などの資料で補足しながら、私達を取り巻く身近な人と人との関係、集団との関係、現代社会に起こっている様々な問題とその対策について考える。		
成績評価方法	定期試験 (70%)、授業内小レポート (20%)、授業態度 (10%) を総合的に勘案して評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：次回の講義までに指示するテキストなどを熟読して講義に臨むこと。 復習：①授業終了時に質問・感想をまとめる時間を設ける。②次回授業で、質問に対する回答とともに復習を行う。		
教科書	久門道利他『スタートライン現代社会の諸相—社会学の視点』弘文堂、2008 年		
参考文献	秋元・石川・羽田・袖井『社会学入門』有斐閣新書、1991 年 森下伸也『社会学がわかる事典』日本実業出版、2000 年		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	社会学とは何か	社会学的な視点・方法	
第 2 回	社会的存在としての人間	社会集団と文化	
第 3 回	社会学の歴史 (1)	社会学の成立・確立期	
第 4 回	社会学の歴史 (2)	社会学の展開と今後	
第 5 回	家族	家族とは、機能と役割	
第 6 回	地域社会	都市と農村、コミュニティ形成	
第 7 回	社会問題とは何か	社会問題の定義とその捉え方	
第 8 回	現代社会の社会問題 (1)	少子高齢社会の現状と課題	
第 9 回	現代社会の社会問題 (2)	社会福祉の現状と課題	
第 10 回	現代社会の社会問題 (3)	環境問題の現状と課題	
第 11 回	現代社会の社会問題 (4)	ジェンダーの現状と課題	
第 12 回	情報化	メディアの変容と情報化	
第 13 回	国際化	エスニシティと地域社会	
第 14 回	運動・ネットワーク	ネットワーキングと社会運動	
第 15 回	まとめ	社会調査・社会計画とは	

経済・国際

授業番号	A300360001				
科目名 (英語表記)	社会思想史 I (History of Social Thought I)				
担当者 (英語表記)	折原 裕 (Yutaka Orihara)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	ヨーロッパ社会思想史の前半期について理解します。				
授業の進め方 (履修条件など)	ルネサンスから、宗教改革を経て、市民革命にいたる、ヨーロッパ社会思想史の歩みの前半期を概観します。種々の思想家の思想像のみならず、その人物像や、時代背景についても、できる限り触れることにしたいと思います。				
成績評価方法	定期試験 (60%)、授業内小テスト (40%)。				
基準					
授業の予習・復習	予習：分野にこだわらず多くの書物を読んで下さい。 復習：簡単でいいから励行して下さい。				
教科書	市販のテキストは用いず、毎回講義の概要を記載した印刷物「講義メモ」を配布します。これに、講義中の指示などによって学生諸君が適宜書き込みをほどこしたものが、テキスト兼ノートになります。				
参考文献	塩野七生『わが友マキアヴェッリ』中央公論社、橋爪大三郎・大澤真幸『ふしぎなキリスト教』講談社現代新書 (いずれも、メディアセンター所定のコーナーに5冊ずつ常備してあります。)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	講義ガイダンス	本講義の特徴、成績について等			
第2回	ルネサンスの思想	マキアヴェリ			
第3回	ルネサンスの思想	トマス・モア			
第4回	ルネサンスの思想	エラスムス			
第5回	宗教改革	ルター			
第6回	宗教改革	カルヴァン			
第7回	小テスト	小テスト			
第8回	イギリス市民革命の展開	トマス・ホッブズ			
第9回	イギリス市民革命の展開	ジョン・ロック			
第10回	フランス啓蒙思想	モンテスキュー			
第11回	フランス啓蒙思想	ヴォルテール			
第12回	フランス啓蒙思想	デイドロ			
第13回	フランス啓蒙思想	ルソー			
第14回	小テスト	小テスト			
第15回	まとめ	まとめ			



経済・国際

授業番号	A300330001		
科目名 (英語表記)	情報概論 (Introduction to Information Processing)		
担当者 (英語表記)	高橋 和子 (Kazuko Takahashi)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	現代社会に不可欠なコンピュータやコンピュータネットワークシステム、さらにはインターネット上で、情報がどのように扱われ、処理されるのかについて解説します。到達目標は、高度情報社会に対応できる基本的な情報知識を身につけることです。		
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件は特にありません。理解を深めるために、毎回、授業の途中で小テスト (クイズ) を数回行います		
成績評価方法	平常点：授業内小テスト (毎回) 40% 定期試験：60%		
基準			
授業の予習・復習	予習：日頃から IT 関連のニュースに注意するようにしてください。 復習：専門用語が多いので、授業中によく理解し、復習に努めるようにしてください。		
教科書	『コンピュータと情報システム』 草薙信照著 サイエンス社 2007 年		
参考文献	適宜、プリントを配布します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	コンピュータの基礎知識	コンピュータの歴史、種類、基本構成	
第 2 回	情報とデータ	情報の単位、補助単位、論理演算	
第 3 回	ハードウェア (1)	中央処理装置	
第 4 回	ハードウェア (2)	周辺処理装置	
第 5 回	ハードウェア (3)	インタフェース	
第 6 回	ソフトウェア	OS、アプリケーション、プログラム言語	
第 7 回	情報の表現 (1)	数値情報、2 進数と 10 進数の相互変換	
第 8 回	情報の表現 (2)	数値情報の演算、テキスト情報	
第 9 回	情報の表現 (3)	画像情報、音声情報、情報圧縮と解凍方法	
第 10 回	コンピュータネットワークシステム	LAN、WAN、通信回線	
第 11 回	インターネット (1)	インターネットのしくみと利用方法	
第 12 回	インターネット (2)	インターネットにおけるセキュリティ	
第 13 回	セキュリティの管理	技術による対応・法律による対応・情報倫理	
第 14 回	I C T における現在の動向と将来	クラウドコンピューティング、ビッグデータ、MOOC など	
第 15 回	まとめ	情報に関する知識の総まとめ	

経済・国際

授業番号	A300280001		
科目名 (英語表記)	政治学概論 I (Introduction to Political Science I)		
担当者 (英語表記)	榎田 久代 (Hisayo Kushida)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	世の中を知り考えるための一つの方法論として政治学を学びます。授業では、政治学の基礎概念や政治の仕組みについての理論に重点を置いています。そして、この授業を通して、国家内部においてだけでなく国民国家を超える国際政治の領域において、政治がどのように作用しているのかを理解することを目的にしています。		
授業の進め方 (履修条件など)	配布したプリントを中心に進めていきます。時折、みなさんの理解を確認するために、演習形式で授業を進めます。学則では、単位取得のためには、原則として3分の2以上の出席が履修条件です。		
成績評価方法	期末試験 80%、授業内に適宜行う小レポート 20%により総合的に評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習として心がけてほしいのは、日頃から時事ニュースに関心を持って下さい。復習としては、授業でわからなかったことを自分で調べ、ノートに整理することを試みて下さい。		
教科書	指定無し。		
参考文献	久米郁男他編『政治学 (New Liberal Arts Selection) 補訂版』(有斐閣、2011年)他。 参考文献は、3階メディアセンターの「指定図書」榎田コーナーにあります。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	政治を見る目	日本政治の今	
第2回	国家について (1)	権力と国家	
第3回	国家について (2)	国家	
第4回	ナショナリズム (1)	国民国家とナショナリズム	
第5回	ナショナリズム (2)	民族のナショナリズム	
第6回	ナショナリズム (3)	ビデオ鑑賞	
第7回	民主政治 (1)	民主政治の起源	
第8回	民主政治 (2)	民主政治の発達	
第9回	民主政治 (3)	民主政治の定義をめぐって	
第10回	選挙 (1)	選挙制度	
第11回	選挙 (2)	選挙制度改革	
第12回	政治組織 (1)	政党制	
第13回	政治組織 (2)	政党変遷の流れ	
第14回	政治組織 (3)	利益集団	
第15回	まとめ	現代の日本政治	

経済・国際

授業番号	A300110001		
科目名 (英語表記)	政治学概論 II (Introduction to Political Science II)	国際学部専用	
担当者 (英語表記)	榎田 久代 (Hisayo Kushida)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、日本の政治過程を扱います。政治学入門あるいは政治学概論 I で学んだ政治の基礎概念や基礎理論が、日本政治の中でどのように展開しているのかを主眼に、政治の実態を具体的に理解し政治的知識を増やすことを目的としています。国際学部の社会科学教職科目でもありますから、しっかりと知識を身につけてもらいたと思います。		
授業の進め方 (履修条件など)	配布するプリントを中心に授業を進めます。時折、みなさんの理解を確認するために演習形式で行うときもあります。なお、社会科学関係の教職課程の学生は必修です。		
成績評価方法	期末試験 80%、授業内に適宜行う小レポート 20%により総合的に評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：日頃から時事ニュースに関心を持つようにして下さい。 復習：授業中わからなかったことは、授業後解決するようにして下さい。		
教科書	なし。		
参考文献	久米郁男他編『政治学 (New Liberal Arts Selection) 補訂版』(有斐閣、2011 年) 他。 ※参考文献は、3 階メディアセンターの榎田「指定図書」コーナーにあります。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	日本政治の今	
第 2 回	政治を見る目 (1)	日本政治の課題	
第 3 回	政治を見る目 (2)	外交と国内政治	
第 4 回	日本の政治制度	議院内閣制と政党	
第 5 回	行政部 (1)	内閣と行政部	
第 6 回	行政部 (2)	行政部の現状と問題点	
第 7 回	立法部 (1)	国会	
第 8 回	立法部 (2)	立法過程	
第 9 回	立法部 (3)	立法の現状と問題点	
第 10 回	司法部 (1)	裁判所の役割	
第 11 回	司法部 (2)	市民の司法参加	
第 12 回	マスメディアと世論	第 4 の権力	
第 13 回	地方自治 (1)	地方自治の推進	
第 14 回	地方自治 (2)	地方自治が抱える課題	
第 15 回	まとめ	日本政治の現状再考	

経済・国際

授業番号	A300110002		
科目名 (英語表記)	政治学概論 II (Introduction to Political Science II)	経済学部専用	
担当者 (英語表記)	榎田 久代 (Hisayo Kushida)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、日本の政治の仕組みを学ぶことで、政治がどのような制度の中で動いているのかを知り、政治が現代社会を変えうる手段であることを理解することを狙いとしています。授業を通して、みなさんが現代の日本社会の問題を理解し、問題打開のために政治に何ができるのかを考えてられるようになることが目標です。		
授業の進め方 (履修条件など)	配布するプリントを中心に授業を進めます。時折、みなさんの理解を確認するために演習形式で行うときもあります。なお、社会科学関係の教職課程の学生は必修です。		
成績評価方法	期末試験 80%、授業内に適宜行う小レポート 20%により総合的に評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：日頃から時事ニュースに関心を持つようにして下さい。 復習：授業中わからなかったことは、授業後解決するようにして下さい。		
教科書	なし。		
参考文献	久米郁男他編『政治学 (New Liberal Arts Selection) 補訂版』(有斐閣、2011年) 他。 ※参考文献は、3階メディアセンターの榎田「指定図書」コーナーにあります。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	政治記事を読む	
第2回	政治を見る目 (1)	2012年衆議院議員総選挙	
第3回	政治を見る目 (2)	政権交代の現状	
第4回	日本の政治制度	議院内閣制と政党	
第5回	行政部 (1)	内閣と行政部	
第6回	行政部 (2)	政治家と官僚	
第7回	立法部 (1)	国会	
第8回	立法部 (2)	立法過程	
第9回	立法部 (3)	国会議員の日常と仕事	
第10回	司法部 (1)	裁判所の役割	
第11回	司法部 (2)	市民の司法参加	
第12回	マスメディアと世論	第4の権力	
第13回	地方自治 (1)	地方自治の推進	
第14回	地方自治 (2)	地域間格差	
第15回	期末試験	期末試験の実施と試験問題の解説	

経済・国際

授業番号	A300100001		
科目名 (英語表記)	政治学入門 (Introduction to Political Science)		
担当者 (英語表記)	榎田 久代 (Hisayo Kushida)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	世の中を知り考えるための一つの方法論として政治学を学びます。授業では、政治学の基礎概念や政治の仕組みについての理論に重点を置いています。そして、この授業を通して、国家内部においてだけでなく国民国家を超える国際政治の領域において、政治がどのように作用しているのかを理解することを目的にしています。		
授業の進め方 (履修条件など)	配布したプリントを中心に進めていきます。時折、みなさんの理解を確認するために、演習形式で授業を進めます。学則では、単位取得のためには、原則として3分の2以上の出席が履修条件です。		
成績評価方法	期末試験 70%、授業内に適宜行う小レポートおよび KCN を利用した小テスト 30%により総合的に評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習として心がけてほしいのは、日頃から時事ニュースに関心を持って下さい。復習としては、授業でわからなかったことを自分で調べ、ノートに整理することを試みて下さい。		
教科書	指定無し。		
参考文献	久米郁男他編『政治学 (New Liberal Arts Selection) 補訂版』(有斐閣、2011年) 他。 参考文献は、3階メディアセンターの「指定図書」榎田コーナーにあります。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	政治を見る目 (1)	日本政治の課題	
第2回	政治を見る目 (2)	日本政治の今を考える。	
第3回	国家について (1)	権力と国家	
第4回	国家について (2)	国家	
第5回	ナショナリズム (1)	国民国家とナショナリズム	
第6回	ナショナリズム (2)	民族のナショナリズム	
第7回	ナショナリズム (3)	ビデオ鑑賞	
第8回	民主政治 (1)	民主政治の起源	
第9回	民主政治 (2)	民主政治の発達	
第10回	民主政治 (3)	民主政治の定義をめぐって	
第11回	民主政治 (4)	世界の民主的政治制度	
第12回	選挙制度	選挙制度	
第13回	政治組織 (1)	政党制	
第14回	政治組織 (2)	利益集団	
第15回	まとめ	現代の日本政治	

# 経済・国際

授業番号	A300610001		
科目名 (英語表記)	生徒・進路指導論 (小学校) (Student Guidance)		
担当者 (英語表記)	林 恵子 (Keiko Hayashi)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動です。学校生活の充実、将来の人生設計に必要な自己指導能力の育成、現在及び将来における自己実現、人格の完成、生きる力の育成などの理論や方法について理解することを目指します。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書「生徒指導提要」にそって進めます。必要に応じてプリントを使用したり演習をしたりすることで、指導理論や指導方法について具体的な理解が深められるようにします。		
成績評価方法	リアクションペーパー、レポート、定期試験などで、総合的に評価。		
基準			
授業の予習・復習	予習：事前に教科書を読んでおくこと。 復習：学習内容整理、レポート作成など。		
教科書	「生徒指導提要」(文部科学省) 290円		
参考文献	必要に応じて紹介		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	第1章 生徒指導の意義と原理	○生徒指導の意義と課題 ○教育課程に於ける生徒指導の位置付け	
第2回	第1章 生徒指導の意義と原理	○生徒指導の発達観と指導観 ○集団指導・個別指導の方法原理 ○学校運営と生徒指導	
第3回	第2章 教育課程と生徒指導	○教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導	
第4回	第3章 児童生徒の心理と児童生徒理解	○児童生徒理解の基本 ○児童期の心理と発達 ○児童生徒理解の資料と収集	
第5回	第4章 学校における生徒指導体制	○生徒指導体制の基本的な考え方 ○生徒指導の組織的な体制の確立 ○生徒指導のための教員の研修	
第6回	第4章 学校における生徒指導体制	○生徒指導に関する資料の活用と取扱いの留意点 ○指導要録への記入の留意点 ○全校で取り組む指導体制の確立 ○生徒指導の評価と改善	
第7回	第5章 教育相談	○教育相談の意義と体制づくり ○教育相談の進め方 ○スクールカウンセラー、専門機関との連携	
第8回	第6章 生徒指導の進め方①	①児童生徒全体への指導 ○組織的対応と関係機関等との連携 ○生徒指導における教職員の役割 ○守秘義務と説明責任	
第9回	第6章 生徒指導の進め方①	○学級経営の進め方と基本的な生活指導の確立 ○校内規律と規範意識の醸成に関する指導 ○児童生徒の安全にかかわる問題と安全教育の進め方	
第10回	第6章 生徒指導の進め方②	②個別の課題を抱える児童生徒への指導 ○問題行動の早期発見と効果的な指導 ○発達に関する課題と対応	
第11回	第6章 生徒指導の進め方②	○喫煙・飲酒・薬物乱用 ○少年非行と対応 ○暴力行為と対応・予防に向けた取組	
第12回	第6章 生徒指導の進め方②	○いじめ問題への理解と対応 ○児童生徒の情報活用能力の育成 ・インターネット・携帯電話にかかわる課題	
第13回	第6章 生徒指導の進め方②	○児童虐待への対応 ○不登校と指導体制の在り方	
第14回	第7章 生徒指導に関する法制度等	○懲戒の種類と根拠法令 ○体罰の禁止 ○出席停止 ○青少年の育成施策等	
第15回	第8章 学校と家庭・地域・関係機関との連携	○地域社会の教育力 ○家庭・地域・関係機関との連携の意義や進め方 ○生徒指導のポイント整理	

経済・国際

授業番号	A300530001		
科目名(英語表記)	生徒・進路指導論(中・高)(Student Guidance)		
担当者(英語表記)	山口 健一(Kenichi Yamaguchi)、明石 要一 (Youichi Akashi)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	生徒指導の基本的な考え方や生徒指導上の諸問題について理解を深め、学校現場における生徒指導に関する適切な対応能力を育成する。		
授業の進め方(履修条件など)	『生徒指導提要』をテキストとして、補助プリントを使いながら授業を進める。		
成績評価方法	定期試験、課題レポート、授業ごとに実施する小テスト、グループ討議により評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：前時のプリントの「次時の学習」範囲に目を通しておく。 復習：授業内容をその都度整理し、理解を深めるようにする。		
教科書	『生徒指導提要』平成22年3月 文部科学省(教育図書)		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第1回	生徒指導の意義と原理	生徒指導の意義と課題、学校教育での位置づけ、生徒指導の前提となる発達観と指導観など	
第2回	教育課程と生徒指導	生徒指導と教育課程に基づいて行われる教科、特別活動、総合的な学習の時間などとの関連	
第3回	中学生の心理と生徒理解	生徒指導を進める上で必要な生徒理解の必要性や理解の方法	
第4回	学校における生徒指導体制	生徒指導全体計画及び年間指導計画の作成方法、生徒指導の組織と運営、指導体制の在り方	
第5回	生徒指導の進め方①	生徒全体への指導	
第6回	生徒指導の進め方②	個別の課題を抱える生徒への指導① 早期発見と効果的な指導 発達に対する課題と対応	
第7回	生徒指導の進め方③	個別の課題を抱える生徒への指導② 喫煙、飲酒、薬物乱用 少年非行 暴力行為	
第8回	生徒指導の進め方④	個別の課題を抱える生徒への指導③ いじめ インターネット・携帯電話関連	
第9回	生徒指導の進め方⑤	個別の課題を抱える生徒への指導④ 性の問題 命の教育と自殺防止 児童虐待への対応	
第10回	生徒指導の進め方⑥	個別の課題を抱える生徒への指導⑤ 不登校 中途退学	
第11回	生徒指導に関する法制度等	生徒指導に関する法令や文部科学省等からの通達 懲戒と体罰 出席停止 非行少年の処遇など	
第12回	学校と家庭・地域・関係機関との連携	家庭、地域から理解を得るための学校の働きかけ 児童相談所、福祉事務所、警察等との連携の在り方	
第13回	進路指導① 自己実現と進路	キャリア教育が求められるようになった背景とキャリア教育の進め方等	
第14回	進路指導② ニートとフリーター	社会問題となっているニートとフリーターを題材に、今後のキャリア教育の在り方	
第15回	「敬天愛人」と生徒指導	講義のまとめ(建学の精神である「敬天愛人」を踏まえた生徒指導とは)	

経済・国際

授業番号	A300200001		
科目名 (英語表記)	世界史概論 I (Introduction to World History I)		
担当者 (英語表記)	山本 健 (Takeshi Yamamoto)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	前年度の講義を受けて、19世紀の帝国主義段階では、欧州列強は資本主義経済が過剰生産で危うくなると不安を外にそらしながら、更なる経済発展をめざした。そのための手段が自由貿易の原則であった。欧州諸国は世界中に植民地を獲得し、諸地域の経済を欧州に従属させた19世紀の意義を理解させる。		
授業の進め方 (履修条件など)	事前に配布したプリントを読んで、自分が理解できなかった事柄を記した質問書に答える形で進める。		
成績評価方法 基準	出席状況、定期試験、小テストそして質問状況などでの総合評価。原則として、出席率が規定 (2/3) に達していない学生は評価外とする。		
授業の予習・復習	予習：高校時代の世界史の教科書の該当する箇所を読んで整理し、質問事項を探しておくこと。 復習：受講後、自分の質問事項を検討し、まとめて文章化に努めること。		
教科書	毎回、授業中にプリントを配布する。		
参考文献	『詳説世界史』(山川出版)、『世界史用語集』(山川出版)		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	講義の概要、授業の進め方、評価方法について	
第2回	前年度の講義の総括と補足	絶対主義国家の崩壊とその原因	
第3回	オスマン帝国の衰退と東方問題	ロシアの南下政策と欧州列強の対応	
第4回	イギリスのインド植民地の形成	フランスとの競争に勝利した原因の説明	
第5回	アヘン戦争と中国の開国	イギリスの自由貿易要求と清朝の海禁政策の対立	
第6回	アロー号事件と清朝の欧州経済への従属	更なる中国市場の完全なる獲得を求めたイギリスの戦術	
第7回	日本の開国と東アジアでの中華思想の解体	アメリカの開国要求と日本の中華思想からの離脱	
第8回	19世紀の日本・中国・朝鮮3カ国比較検討	近代化受容をめぐる3か国の諸条件の比較検討	
第9回	アフリカの分割	欧州列強による帝国主義的な世界再分割の始り	
第10回	アメリカの太平洋進出	フロンティア消滅による帝国主義的な傾向の出現	
第11回	日清・日露戦争の意義	日本の軍国主義の基礎づくりとロシア南下の防波堤としての日本の役割	
第12回	中国の変革と民族運動	孫文の辛亥革命とその限界	
第13回	インド・トルコの変革と民族運動	インド国民会議の抵抗とイギリスによるイスラム・ヒンドゥー分離統治	
第14回	清朝の滅亡と内部分裂	中国同盟会の分裂と軍閥分立	
第15回	まとめ	帝国主義が非欧州の民族の自覚と民族運動を成長させる	



# 経済・国際

授業番号	A300210001		
科目名 (英語表記)	世界史概論 II (Introduction to World History II)		
担当者 (英語表記)	山本 健 (Takeshi Yamamoto)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	前期の授業を受けて、20世紀の2つの世界大戦で戦場になったヨーロッパは大戦でそれまで蓄積してきた富を一挙に喪失し、戦災を被らなかつたアメリカが世界経済の中心に座り、超大国となった。20世紀の大戦が資本主義経済の動向（発展と崩壊）に連動していたことを理解させる。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業は高校時代の『世界史』の教科書に沿って行う。また事前に配布するプリントを読んで、自分が理解できなかつた事柄を質問シートに記させ、それに答える形で授業を進める。		
成績評価方法	試験そして質問シートの提出状況などで評価。原則として、出席率が規定（2/3）に達していない学生は評価外とする。		
基準			
授業の予習・復習	予習：高校時代の『世界史』の該当する箇所を読んで、疑問点などを整理しておくこと。 復習：受講後、質問シートを再検討すること。		
教科書	毎回配布するプリント		
参考文献	『詳説世界史』（山川出版）、『世界史用語集』（山川出版）		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法についての説明	
第2回	前期の講義の総括	帝国主義時代について	
第3回	第1次世界大戦の原因	急激な経済成長を背景に、世界秩序の再編を求めるドイツとその進出を阻止する英・仏	
第4回	第1次世界大戦の経過	初めての総力戦—アメリカが英側につき、ドイツの敗北で終わる	
第5回	ロシア革命	第1次大戦で経済が混乱し、食糧危機が生んだ革命がロシアを解体する。	
第6回	ソ連邦の誕生の意義	人類世界初の社会主義政権の誕生	
第7回	ベルサイユ体制	ドイツへの莫大な賠償金と無力な『国際連盟』を生み出す	
第8回	アメリカからの世界恐慌	債権国アメリカの過剰生産と株価の大暴落そして対外投資の引き上げが、ヨーロッパをも席卷	
第9回	ベルサイユ体制の崩壊—ナチスの台頭	ドイツを犠牲にすることで維持された体制に不満をもつ大衆がヒトラー（ナチス党）を支持し、再軍備を容認、	
第10回	日中戦争	経済崩壊に瀕した日本は高揚する中国の民族運動で利権喪失の危機感を募らせ戦争へ突入	
第11回	第2次世界大戦の原因	ヨーロッパでのドイツの近隣諸国への侵攻とアジアでの日本がとった東南アジア進出策にアメリカとの溝が深まり、太平洋戦争で、戦争が1つになり、第2次大戦に拡大。	
第12回	第2次世界大戦の経過	第1次世界大戦以上の総力戦で原爆投下などで悲惨さの程度も深く世界中が荒廃した。戦禍を免れたアメリカは世界の金の大半を集め超大国になる。	
第13回	国際連合の誕生	アメリカ主導の下で5大国を中心とする国際秩序を形成（国際連合）	
第14回	IMF体制の成立	アメリカは保有する金の裏づけでドルを基軸通貨とし、世界経済を支配。。	
第15回	冷戦の成立と崩壊	アメリカを中心とする自由主義陣営はソ連を中心とする社会主義陣営の対立と1989年のマルタ宣言で対立を解消へ。	

# 経済・国際

授業番号	A300240001		
科目名（英語表記）	世界地誌（World Geography）		
担当者（英語表記）	高田 洋子（Yoko Takada）	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	地誌学は、地球上の特定の場所についての地理学的研究を通して、地域やその景観、人びとの生活世界を描き出すことを目的とする学問です。地誌学の基本的な考え方と方法論を学び、中学・高校での地誌教育で生かすことを目指しましょう。		
授業の進め方（履修条件など）	初めに地誌教育の目的と重要性について概説し、次に世界各地の地誌概説を講義します。最後に興味を持った地域の地誌研究をグループごとに行い、発表することによって、より主体的に地誌学の方法に接近してもらいます。		
成績評価方法	課題のグループ発表と定期試験によって成績を付けます。		
基準			
授業の予習・復習	授業の予習として、指定された資料集を良く読み、世界の諸地域に関する地理的教養を日頃から身につける努力を重ねること。		
教科書	指定しません。毎回、資料・統計、レジュメを配付します。それらをしっかりファイルしておくこと。		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第1回	イントロダクション	世界地誌はどんな学問か 世界各地を地誌的に学ぶ楽しさや面白さを知る。また中・高校教育における地誌教育の大切さ、重要性についても理解する。	
第2回	地誌学とその周辺	地誌学と関連して、地理学に含まれる自然地理学、人文地理学の方法を概説し、特定の場所について、地域性格を描き出す地誌学との共通性、差異性などを考察する。また地域研究と比較考察する。	
第3回	地誌学の研究方法	ある地域社会を理解するために、時間的変化および他地域との比較の視点が有効であることを学ぶ。また地図上の分布と計量的検討、地域区分、地域形成、地域構造、地域連関などの分析方法を学ぶ。	
第4回	世界の中の日本を知る	世界の諸社会をみる前に、私たちの日本の地域性格を確認しておこう。日本の地理的位置、歴史的位相、政治・経済・文化が東アジア圏の一部であることを理解する。	
第5回	世界の自然環境と地域区分	地域の自然的・社会的環境を規定する地球全体の自然環境、および人間活動をめぐって世界の地域区分を試みる。	
第6回	主要なアジアの地誌	東アジア、南アジアの自然、国々、人口分布、各地の産業などを比較考察する。	
第7回	東南アジアの地誌	東アジアと南アジアの狭間に位置する東南アジアの地誌を詳細に講義する。大陸部（インドシナ半島）と島嶼部に2分し、自然と社会、緊密化する日本との関係などを学ぶ。	
第8回	西アジア・北アフリカの地誌	西アジアおよびマグレブ地域の自然と風土、ムスリム社会の人びとの営みを学ぶ。戦争や最近の政変・内紛などの要因を理解する。	
第9回	サハラ以南のアフリカの地誌	アフリカ大陸の自然と民族、奴隷貿易、ヨーロッパ近代の植民地支配のほか、現代の変化と課題について学ぶ。	
第10回	北ユーラシアの地誌	広大なユーラシア大陸の自然環境、旧ソ連邦解体後のロシアをはじめとした多様な諸共和国について、その社会と課題を学ぶ。	
第11回	ヨーロッパの地誌	ヨーロッパの自然環境と諸国家の分布、言語圏、経済と社会、近代の世界分割、文化、EUの目的と課題などについて学ぶ。	
第12回	北アメリカの地誌	北アメリカ大陸の自然環境、諸エスニック分布、ヨーロッパ人の入植と移民の歴史、産業、日本との関係などについて学ぶ。	
第13回	中南米の地誌	ラテンアメリカの自然と社会、移民史、日本との関係などについて学ぶ。	
第14回	まとめ(1)：地誌を書いてみよう	興味を持った地域について、地誌を実際に書いてみよう。グループごとに特定した地域に関する資料や文献を集め、それらを基に自然環境とそこで暮らす人々の営み、精神世界、社会問題などをまとめてみよう。	
第15回	まとめ(2)：研究した地誌を発表しよう	グループ研究で仕上げた各地誌を口頭発表し、質疑応答を通して、地誌教育の目的と意義を確認し合う。	

## 経済・国際

授業番号	A300320001				
科目名 (英語表記)	中東経済論 (Middle Eastern Economy)				
担当者 (英語表記)	水口 章 (Akira Mizuguchi)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本授業では、世界経済に影響を与えるアラブ産油国の経済構造と世界的に注目されるイスラム金融について理解を深めてもらうことに主眼を置きます。そのことにより、21世紀の経済動向を考える力を身につけることを到達目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	各回授業は基本的には講義形式をとります。また、授業を3区分し、第1、第2区分の終了時に理解度を確認するためのグループ討論を行います。第3区分はグループ発表とします。				
成績評価方法	学習態度 (課題レポート、討論参加) 20%、試験 80%で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。 復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べ、理解を深めてください。				
教科書	水口章『中東を理解する』日本評論社、2010年3月				
参考文献	糠谷英輝『拡大するイスラム金融』蒼天社出版、2007年9月 加藤博『イスラム世界の経済史』NTT出版、2005年7月				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	世界経済システムと中東地域	大航海時代後の物流変化について			
第2回	インド洋貿易と中東	ペルシャ湾、紅海の変遷について			
第3回	工業化と中東	中東の資本、労働力、技術力の市場について			
第4回	アジア経済と中東経済	アジアと中東の経済発展の差について			
第5回	グループ討論「中東の経済停滞」	「中東諸国の発展の遅れ」を考える			
第6回	イスラム経済の特性	財、利息、ワクフについて			
第7回	イスラム金融のスキーム1	「ムダラバ」「ムシャラカ」などについて			
第8回	イスラム金融のスキーム2	イスラム保険・投資ファンドについて			
第9回	イスラム金融の課題と展望	国際金融との関係について			
第10回	グループ討論「公平と利益分配」	「イスラム経済の特徴」を考える			
第11回	サウジアラビア	オイルマネーの国際還流について			
第12回	エジプト	肥大化した公共部門について			
第13回	ドバイ	観光・中継貿易中心の国家戦略について			
第14回	トルコ	復活するトルコ経済について			
第15回	イラン	経済発展と経済制裁の関係性について			

経済・国際

授業番号	A300220001		
科目名 (英語表記)	地理学概論 I (Introduction to Geography I)		
担当者 (英語表記)	中村 圭三 (Keizo Nakamura)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	グローバル化時代に暮らす私たちには、世界各地の自然や社会・文化の多様性などについて理解することが求められます。本講義では、地理学の基礎を学び、これらに対する理解力を深めます。		
授業の進め方 (履修条件など)	最初に、地理学に関する基礎的な知識を習得します。その上で、パワーポイント、資料などを使用して、授業内容を展開します。		
成績評価方法	積極的な授業参加、定期試験の成績などにより評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：平素から地理学に関心を持ち、新聞・テレビなどのマスメディアからの情報を得るよう心掛けてください。 復習：学習した授業内容に関連する事項に関心を持って生活してください。		
教科書	特に指定しませんが、プリントなどを使用します。地図帳を持参してください。		
参考文献	『フィールドの環境科学』中村圭三 青山社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	講義の内容と進め方について	
第 2 回	地理学の体系	系統地理学と地誌学	
第 3 回	世界地図と地理情報	世界地図の読み方と地理情報の表現	
第 4 回	地形図と地域調査	地形図の読み方と野外調査	
第 5 回	自然環境と生活	世界各地の自然に適応した生活	
第 6 回	地球環境問題	地球環境問題の成因と対策	
第 7 回	農林水産業	農林水産業の現状と課題	
第 8 回	資源・エネルギー	資源・エネルギーの現状と課題	
第 9 回	人口と村落・都市	村落・都市の発達と人口増加	
第 10 回	民族と国家	民族と国家の関わり	
第 11 回	文化と社会	世界の文化と社会	
第 12 回	世界の地域区分	さまざまな指標にもとづく地域区分	
第 13 回	世界の諸地域	欧米・アジア諸国の現状	
第 14 回	世界の中の日本	日本の特色と課題	
第 15 回	まとめ	総整理・疑問点の解明	

経済・国際

授業番号	A300230001		
科目名 (英語表記)	地理学概論 II (Introduction to Geography II)		
担当者 (英語表記)	中村 圭三 (Keizo Nakamura)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義では、地理学概論 I で学習した基礎の上に、実際の研究事例を多く取り入れ、地理学の内容の理解を、さらに深めることをねらいとします。		
授業の進め方 (履修条件など)	最初に、地理学に関する基礎的な知識を習得します。その上で、パワーポイント、資料などを使用して、授業内容を展開します。		
成績評価方法	積極的な授業参加、定期試験の成績などにより評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：平素から地理学に関心を持ち、新聞・テレビなどのマスメディアからの情報を得るよう心掛けてください。 復習：学習した授業内容に関連する事項に関心を持って生活してください。		
教科書	特に指定しませんが、プリントなどを使用します。地図帳を持参してください。		
参考文献	『フィールドの環境科学』 中村圭三 青山社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	講義の内容と進め方について	
第 2 回	地域区分 1	地形・気候の地域区分	
第 3 回	地域区分 2	国家群による地域区分	
第 4 回	地形と気候	局地風「ボラ」	
第 5 回	気候と生活 1	熱帯の生活	
第 6 回	気候と生活 2	寒冷地の生活	
第 7 回	ヒマラヤの生活 1	ヒマラヤの成り立ち	
第 8 回	ヒマラヤの生活 2	水資源と自然エネルギー	
第 9 回	ヒマラヤの生活 3	農業生産	
第 10 回	生活と水環境 1	山岳地の水利用	
第 11 回	生活と水環境 2	南・東南アジアの水利用	
第 12 回	地球環境問題 1	オゾン層の破壊	
第 13 回	地球環境問題 2	地球温暖化	
第 14 回	地球環境問題 3	大気汚染と酸性雨	
第 15 回	まとめ	総整理・疑問点の解明	

経済・国際

授業番号	A300470001				
科目名 (英語表記)	地理歴史科指導法 (Department method of instruction of geography history)				
担当者 (英語表記)	田村 孝 (Takashi Tamura)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>高校地理、歴史についての内容に関して、テーマをいくつかに限り、講義をする予定である。</p> <p>初めに、なぜ歴史を学ぶ必要があるのか、について講じる。テーマは「従軍慰安婦をめぐる諸問題」とし、現在の日韓関係を冷却させているこの問題をわれわれはどのように考えるのかを話したい。</p> <p>次いで歴史地理のI講義に移る。地理的な諸問題がどのように人間の生活に影響を与えたのかを、大航海時代を例にとって講じる予定である。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	講義による。適宜課題を出し、レポートをしてもらう予定である。				
成績評価方法	学期末の論述試験による。その他、出席点とレポート点を加味する。				
基準					
授業の予習・復習	テキストとして、随時、新聞記事もしくは雑誌記事のコピーを配布するので、事前に呼んでくることが望ましい。				
教科書	特に指定はしない。				
参考文献	吉見義明 『従軍慰安婦』 岩波新書				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	今後の授業予定を話す。			
第2回	アジア・太平洋戦争の概要 (1)	戦前の日本の社会と政治			
第3回	アジア・大併用戦争の概要 (2)	東アジアをめぐる情勢			
第4回	日韓関係 (1)	日清戦争めぐって			
第5回	日韓関係 (2)	日露戦争と韓国			
第6回	従軍慰安婦とは (1)	従軍慰安婦の実態 (1)			
第7回	従軍慰安婦とは (2)	従軍慰安婦の実態 (2)			
第8回	従軍慰安婦の戦後史 (1)	なぜこの問題が顕在化したのか？			
第9回	従軍慰安婦の戦後史 (2)	その後の展開			
第10回	日本政府の対応	河野談話			
第11回	現在および今後の課題	日韓関係の修復へ向けて			
第12回	大航海時代と地理上の「発見」	16世紀という時代			
第13回	スペイン・ポルトガルと「新」大陸	新たな市場の出現			
第14回	オランダとイギリス	ヨーロッパ世界の変容			
第15回	まとめ	まとめ：地理と歴史			

経済・国際

授業番号	A300260001		
科目名 (英語表記)	哲学概論 I (Philosophy introduction I)		
担当者 (英語表記)	小林 秀樹 (Hideki Kobayashi)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	西洋思想の歴史的展開を追いながら、西洋哲学に関する基本的な知識や哲学的なものの見方・考え方を身につけ、哲学という営みをもつ意義について理解を深めることをねらいとする。前期は古代ギリシャの哲人に学び、各々の思索の特色や相違を理解し、要点を説明できるようになることを到達目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	哲学概論 I (前期) は教職課程の必修科目であるため、出席を特に重視する。講義を通じて、世界や人間存在に関する多様な見方・考え方があることに気づき、思惟することの楽しさが実感できるよう進めたい。		
成績評価方法	定期試験の結果 (70%)、授業態度ならびに小レポート (30%) を総合的に勘案して評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：該当する部分の教科書を読み、重要と思われる点・不明な点などに傍線を引いておくこと。 復習：講義内容について理解できなかった点を中心に調べ、講義内容の理解を深めておくこと。		
教科書	貴成人『図説・標準 哲学史』新書館		
参考文献	荻野弘之『哲学の饗宴』日本放送出版協会 今道友信『西洋哲学史』講談社学術文庫		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーションー哲学で学ぶこと	・「哲学」の語源 ・哲学はどのようなことを問題にするのか	
第 2 回	自然哲学 (1)	・古代のギリシャ世界 (歴史、民族、文化) ・イオニア学派の哲学	
第 3 回	自然哲学 (2)	・エレア学派の哲学	
第 4 回	自然哲学 (3)	・多元論者・原子論者の哲学	
第 5 回	ソフィストの登場	・ソフィスト登場の背景と意義 ・ピュシスからノモスへ	
第 6 回	ソクラテス (1)	・無知の知、問答法、魂への配慮	
第 7 回	ソクラテス (2)	・ソフィストとの相違 ・正義について (1)	
第 8 回	プラトン (1)	・イデア論	
第 9 回	プラトン (2)	・国家論 ・正義について (2)	
第 10 回	アリストテレス (1)	・イデア論批判 ・アリストテレスの形而上学	
第 11 回	アリストテレス (2)	・アリストテレスの論理学	
第 12 回	アリストテレス (3)	・アリストテレスの倫理学 ・正義について (3)	
第 13 回	ヘレニズムの思想	・ゼノン、エピクロス ・ヘレニズム	
第 14 回	ユダヤ・キリスト教思想との出会い	・西洋思想のもう一つの源流について	
第 15 回	講義のまとめ	・要点の確認、質疑応答	

# 経済・国際

授業番号	A300270001		
科目名 (英語表記)	哲学概論 II (Philosophy introduction II)		
担当者 (英語表記)	小林 秀樹 (Hideki Kobayashi)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	西洋思想の歴史的展開を追いながら、西洋哲学に関する基本的な知識や哲学的なものの見方・考え方を身につけ、哲学という営みをもつ意義について理解を深めることをねらいとする。後期はユダヤ・キリスト思想との葛藤を経て近代に到る西洋哲学の歩みを理解し、要点を説明できるようになることを到達目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	哲学概論 II (後期) は教職課程の必修科目であるため、出席を特に重視する。後期はユダヤ・キリスト教および主に近世以降の哲学思想を扱うが、映像資料なども用いて講義を進めたい。		
成績評価方法	定期試験の結果 (70%)、授業態度ならびに小レポート (30%) を総合的に勘案して評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：該当する部分の教科書を読み、重要と思われる点・不明な点などに傍線を引いておくこと。 復習：講義内容について理解できなかった点を中心に調べ、講義内容の理解を深めておくこと。		
教科書	貴成人『図説・標準 哲学史』新書館		
参考文献	山形孝夫『聖書物語』岩波書店 今道友信『西洋哲学史』講談社学術文庫		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション—後期で学ぶこと	・ 前期の復習	
第 2 回	ユダヤ教 (1)	・ ヘブライ民族の歴史 ・ 旧約聖書 (創世記) について	
第 3 回	ユダヤ教 (2)	・ モーセの出エジプト ・ シナイ契約	
第 4 回	キリスト教 (1)	・ キリストの生涯 (1)	
第 5 回	キリスト教 (2)	・ キリストの生涯 (2)	
第 6 回	キリスト教 (3)	・ 贖罪論、教義の確立	
第 7 回	中世の思想	・ 教父哲学 ・ スコラ哲学の概要	
第 8 回	ルネサンスの思想	・ 古典復興、人間と世界の再発見、宗教改革	
第 9 回	ベーコン	・ イドラ論、帰納法	
第 10 回	デカルト	・ 方法的懐疑 ・ 心身二元論	
第 11 回	ロック—経験論の哲学	・ イギリス経験論 ・ 社会契約論①	
第 12 回	ルソー	・ 「自然に帰れ」 ・ 社会契約論②	
第 13 回	カント (1)	・ 理性の限界、コペルニクスの転回	
第 14 回	カント (2)	・ 義務倫理学	
第 15 回	講義のまとめ	・ 要点の確認、質疑応答	



経済・国際

授業番号	A300050001		
科目名 (英語表記)	哲学入門 (Introduction to Philosophy)		
担当者 (英語表記)	壁谷 彰慶 (Akiyoshi Kabeya)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	今期は、「心」と「行為」を主題に、哲学者の議論を紹介しながら、問題を提供します。常識や思い込みからいったん離れ (= 哲学的に)、きちんと (= 論理的に) 考えてみることで、他人の意見を吟味したり、自分の意見を相手に伝えたりする練習をします。毎回小テストで意見を述べてもらうことにします。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式。毎回小テスト(短いレポート)を課します。講義で紹介した議論を自分で再構成し、各自で意見を述べてもらいます。積極的な参加を望みます。		
成績評価方法	各回的小テスト+期末試験の総合点。(比率は5:5の予定)		
基準			
授業の予習・復習	予習: シラバスの授業項目と前回の講義内容に関して、身近な場面にあてはめて考えてみる。 復習: 授業の内容を思い出しながら、疑問や意見を書き出す (授業内課題で報告)。		
教科書	資料は授業内で配布します。		
参考文献	野矢茂樹, 『哲学の謎』, 講談社現代新書, 1996年.		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	イントロダクション	講義の概要、受講方法、成績評価	
第2回	心と世界(1)	テーマ: 心と脳、他者の経験	
第3回	心と世界(2)	テーマ: 心と脳、他者の経験 (つづき)	
第4回	心と世界(3)	テーマ: 心と脳、他者の経験 (つづき)	
第5回	行為と理由(1)	テーマ: 合理性、意志決定、葛藤	
第6回	行為と理由(2)	テーマ: 合理性、意志決定、葛藤 (つづき)	
第7回	行為と理由(3)	テーマ: 合理性、意志決定、葛藤 (つづき)	
第8回	因果と自由(1)	テーマ: 心的因果、自由意志と決定論	
第9回	因果と自由(2)	テーマ: 心的因果、自由意志と決定論 (つづき)	
第10回	因果と自由(3)	テーマ: 心的因果、自由意志と決定論 (つづき)	
第11回	責任と運(1)	テーマ: 運、責任、後悔	
第12回	責任と運(2)	テーマ: 運、責任、後悔 (つづき)	
第13回	責任と運(3)	テーマ: 運、責任、後悔 (つづき)	
第14回	主観的と客観的(1)	テーマ: クオリア、意識、言語の客観性	
第15回	主観的と客観的(2) / まとめ	テーマ: クオリア、意識、言語の客観性 (つづき) / まとめ	

経済・国際

授業番号	A300620001				
科目名 (英語表記)	道徳教育指導法 (小学校) (Moral education research) (小学校)				
担当者 (英語表記)	高橋 妃彩子 (Hisako Takahashi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校における道徳教育の意義や目標、必要性、課題等について理解を深める。</li> <li>・ 全教育活動における道徳教育、その要となる道徳の時間についての内容、方法、指導のあり方についての理解を深める。</li> <li>・ 全教育活動における道徳教育、その要となる道徳授業についての実践的な指導力を身に付ける。</li> <li>・ 道徳教育における評価の意義やあり方について知る。</li> <li>・ 道徳教育を学ぶことを通して、人間としてのより良い生き方についての考えを深めるようにする。</li> </ul>				
授業の進め方 (履修条件など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業内容に即した講義内容にかかわる資料を毎回配布し、それをもとに授業を進めていく。</li> <li>○ 適宜、パワーポイントを活用する。</li> <li>○ ほぼ毎回、レポートの提出を求める。</li> <li>○ 講義は、グループによる演習形態、発表、話し合い等を取り入れる。</li> <li>○ 模擬授業等を行い、授業力・指導力を付けていくようにする。</li> </ul>				
成績評価方法 基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎時間の自己評価シート、日々の授業への関心・意欲・態度・・・20%</li> <li>・ 課題レポート・・・30%</li> <li>・ 定期試験・・・50%</li> </ul>				
授業の予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題レポート、学習指導案等の作成</li> </ul>				
教科書	小学校学習指導要領解説「道徳編」				
参考文献	「道徳教育で大切なこと」(赤堀博行著 東洋館出版社)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	講義の内容、方法等についてのオリエンテーション	・ 道徳教育指導法についての授業内容等の説明			
第2回	小学校学習指導要領と道徳教育①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳教育の歴史</li> <li>・ 児童の心の成長について</li> <li>・ 道徳教育の意義や内容、必要性</li> <li>・ 全教育活動における道徳教育</li> </ul>			
第3回	小学校学習指導要領と道徳教育②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導要領と道徳の時間</li> <li>・ 道徳的価値 (内容項目) についての理解</li> </ul>			
第4回	様々な教育課題と道徳教育	・ 教育課題 (情報教育、キャリア教育、環境教育等) と道徳とのかわり			
第5回	道徳教育における指導計画	・ 全体計画、年間指導計画、学級における指導計画等の作成と活用			
第6回	道徳の時間の指導にかかわる基礎・基本①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳の時間の授業づくりについて</li> <li>・ 資料について</li> </ul>			
第7回	道徳の時間の指導にかかわる基礎・基本②	・ 学習指導過程と学習指導案の作成			
第8回	道徳の時間の指導にかかわる基礎・基本③	・ 指導方法について			
第9回	模擬授業①	・ 道徳の時間における「資料提示」			
第10回	模擬授業②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳の時間における「発問」と「発問構成」</li> <li>・ 道徳の時間における「話し合い活動」</li> </ul>			
第11回	模擬授業③	・ 道徳の時間における「書く活動」「板書」等			
第12回	学校の教育活動と道徳教育①	・ 教科と道徳、生徒指導と道徳			
第13回	学校の教育活動と道徳教育②	・ 特別活動と道徳、総合的な学習の時間と道徳			
第14回	家庭・地域社会と道徳教育	・ 家庭・地域社会との連携について			
第15回	これからの道徳教育について まとめ	・ 道徳の時間の評価・これからの道徳教育			

経済・国際

授業番号	A300510001				
科目名 (英語表記)	道徳教育指導法 (中・高) (Moral education research)				
担当者 (英語表記)	中山 幸夫 (Yukio Nakayama)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	中学校教員免許の取得希望者 (経済学部生および国際学科生) を対象に、今日の日本社会の現状を視野に収めながら、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育のあり方とその指導法について学ぶことをねらいとする。道徳教育を学ぶことを通して、学生の皆さんが人間としてのより善い生き方、あり方に関心を深め、適切な道徳的指導が担えるようになることを目標としたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回テーマごとに授業要項を配付し、それをもとに授業を進めていく。「道徳」授業の実際については具体的な資料 (副読本) や実践例から学ぶことにしたい。ほぼ毎回の授業において、課題レポートの提出を求めるので、覚悟が必要である。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・課題レポート (30%)・授業参加態度 (20%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：課題レポートの作成。 復習：課題レポートの再検討				
教科書	平野智美監修 中山幸夫他編 『新たな時代の道徳教育』 八千代出版 文部科学省 『中学校/学習指導要領解説 道徳編』 日本文教出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	道徳教育の体験、道徳教育の意義と課題 (総論)			
第 2 回	わが国における道徳教育の歩み	戦前の道徳教育			
第 3 回	わが国における道徳教育の歩み	戦後の道徳教育			
第 4 回	道徳教育の思想	道徳教育の思想と道徳教育論			
第 5 回	道徳性の発達	道徳性の発達理論 (ピアジェ、コールバーグ)			
第 6 回	家庭、学校、地域社会の連携	家庭における道徳教育			
第 7 回	家庭、学校、地域社会の連携	地域社会における道徳教育			
第 8 回	学校の教育活動と道徳教育	教科指導と道徳教育			
第 9 回	学校の教育活動と道徳教育	特別活動と道徳教育			
第 10 回	学校の教育活動と道徳教育	総合的な学習の時間と道徳教育			
第 11 回	「道徳」授業の指導	学習指導要領における「道徳」の時間			
第 12 回	「道徳」授業の指導	「道徳」授業の現状			
第 13 回	「道徳」授業の指導	「道徳」授業の課題			
第 14 回	「道徳」授業の指導	「道徳」授業の改善			
第 15 回	総括	道徳的実践力の育成を支えるもの			

経済・国際

授業番号	A300630001				
科目名 (英語表記)	特別活動指導法 (小学校) (Extracurricular-activities method of instruction)				
担当者 (英語表記)	池谷 美佐子 (Misako Ikeya)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校の特別活動の目標と内容について理解し、実践に生かしていくことのできる指導力を養うことを目指します。				
授業の進め方 (履修条件など)	小学校学習指導要領を参考にしながら、特別活動の目標やそれぞれの内容の特性について具体的な活動も取り入れながら理解を深めます。主体的な参加態度が必要です。				
成績評価方法	授業への参加態度 毎時間のリアクションペーパーの内容 期末試験				
基準					
授業の予習・復習	予習 次の授業内容について教科書を通読し、内容の趣旨や関連する体験や事例を整理しておく。 復習 理論と実践の関係性を整理しておく。				
教科書	小学校学習指導要領解説 特別活動編 (文部科学省)				
参考文献	必要に応じて紹介します				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス 特別活動の変遷について	授業の進め方についての説明と特別活動の変遷についての解説			
第2回	特別活動の目標	特別活動の目標についての理解と他教科との関連性について			
第3回	特別活動の教育的意義	望ましい集団活動とは何か、自己の生き方とは何かについて考える。			
第4回	学級活動(1)	学級活動とは何かについて理解する。			
第5回	学級活動(2)	学級や学校の望ましい集団の作り方について理解する。			
第6回	学級活動(3)	学級づくりの実際例(係活動)を学ぶ。			
第7回	学級活動(4)	「適応と成長及び健康・安全」「学業と進路」について考える。			
第8回	児童会活動	児童会活動とは何かについて考える。			
第9回	クラブ活動	クラブ活動とは何かについて考える。			
第10回	学校行事(1)	各種行事の内容の特性について解説。			
第11回	学校行事(2)	儀式的行事・文化的行事の指導法について考える。			
第12回	学校行事(3)	体育・宿泊を伴う行事の指導法について考える。			
第13回	特別活動の指導法(1)	特別活動年間計画についての説明と実践例			
第14回	特別活動の指導法(2)	特別活動の指導計画の作成について			
第15回	特別活動の評価	特別活動の評価とその活用について			

経済・国際

授業番号	A300520001				
科目名 (英語表記)	特別活動指導法 (中・高) (Extracurricular-activities method of instruction)				
担当者 (英語表記)	山口 健一 (Kenichi Yamaguchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	中学校及び高等学校の特別活動の目標と内容について理解し、実践に生かしていくことのできる指導力を養う。				
授業の進め方 (履修条件など)	中学校及び高等学校の学習指導要領を参考にしながら、特別活動の目標やそれぞれの内容について具体的な活動も取り入れながら理解を深める。				
成績評価方法	定期試験、課題レポート、集団討議等により評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：前時のプリントの「次時の学習」範囲に目を通しておく。 復習：授業内容をその都度整理し、理解を深めるようにする。				
教科書	中学校学習指導要領解説特別活動編 文部科学省 高等学校学習指導要領解説特別活動編 文部科学省				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス 特別活動とは	授業の進め方の説明と特別活動の特質・教育的意義について解説する。			
第 2 回	教育課程と特別活動	特別活動の目標と内容の構成について学ぶ。			
第 3 回	特別活動の教育的意義①	特別活動が教科をはじめとするさまざまな教育活動とどのように関連しているのかを生徒指導を中心に考える。			
第 4 回	特別活動の教育的意義②	生徒たちの人間関係にかかわる今日的課題を把握するとともに、特別活動における望ましい人間関係づくりと社会性の育成について考える。			
第 5 回	学級・ホームルーム活動①	学級・ホームルーム活動の目標と内容について学ぶ。			
第 6 回	学級・ホームルーム活動②	学級・ホームルームにおける集団生活の充実と向上について考える。			
第 7 回	学級・ホームルーム活動③	個人及び社会の一員としての在り方、生き方、学業生活の充実について考える。			
第 8 回	生徒会活動	生徒会活動は何かを考えるとともに、指導計画と活動計画を作成する。			
第 9 回	学校行事①	学校行事の目標と内容を学び、年間指導計画を作成する。			
第 10 回	学校行事②	儀式的行事と文化的行事に関する指導法について考える。			
第 11 回	学校行事③	健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事に関する指導法について考える。			
第 12 回	部活動・クラブ活動	部活動・クラブ活動の意義と望ましい活動の在り方を考える。			
第 13 回	特別活動の指導法①	特別活動の年間計画について説明し、実践例を検討する。			
第 14 回	特別活動の指導法②	各自が作成した特別活動の年間指導計画について検討協議する。			
第 15 回	特別活動の評価	特別活動の評価とその活用について学ぶ。			

経済・国際

授業番号	A300180001				
科目名 (英語表記)	日本史概論 I (Japanese history introduction I)				
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、教員として日本史の授業が担当できるようになるために、古代・中世・近世の基礎的な知識と指導法を身に付けることをねらいとする。各単元の基礎的な歴史用語や、歴史の流れを理解すること、そしてそれを授業で教える工夫ができるようになることを目標としている。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回、最初に小テストを実施。その後、各単元をまとめたプリントに基づき、歴史の流れを解説する。またその際に、指導上の留意点なども解説する予定である。学習した単元については、毎回出される課題に解答することで、最低限の復習をすること。またアウトプットのために、指導案と板書ノートを作成することも推奨している。提出された場合、添削して返却している。				
成績評価方法 基準	毎回のテストや課題への取り組みを評価していくために、以下を基本として評価していく 指導案についてはボーナスポイントをつける。 定期試験 (60%)、小テスト (26%)、毎回の課題 (14%)				
授業の予習・復習	予習：高校時代の教科書・史料集などを読んでおくこと (知識は入っているものとして授業をする) kcn に毎回の授業用レジュメを掲載しておくので、各単元のレジュメの空欄を補充してから授業に出席すること。 復習：小テストに備えて歴史用語の暗記、kcn 上の課題への取り組み、指導案・板書ノートの作成も可能なら取り組んで欲しい。				
教科書	教科書 (50 文字以内)『詳説日本史図録』(山川出版)				
参考文献	参考文献 (50 文字以内)『日本史用語集』(山川出版)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、指導案の書き方			
第 2 回	第 1 講 日本の黎明期	旧石器文化～古墳文化、ヤマト政権			
第 3 回	第 2 講 古代国家の成立	律令政治の成立、律令制度			
第 4 回	第 3 講 律令国家	奈良時代の政治～桓武・嵯峨朝の政治			
第 5 回	第 4 講 王朝国家 (1)	摂関政治、荘園制、国風文化			
第 6 回	第 5 講 王朝国家 (2)	武士の成長、院政、平氏政権			
第 7 回	第 6 講 武家政権の成立	鎌倉幕府の成立、執権政治、武士の社会			
第 8 回	第 7 講 武家社会の成長	社会経済の発展、蒙古襲来、鎌倉文化			
第 9 回	第 8 講 武家社会の発展	建武政権、室町幕府と守護大名			
第 10 回	第 9 講 武家社会の変質 (1)	東アジアの通交関係、惣村と土一揆、産業の発展			
第 11 回	第 10 講 武家社会の変質 (2)	戦国大名の成長、国人一揆と都市の発達、室町文化			
第 12 回	第 11 講 近世社会の成立	ヨーロッパ人の来航、織豊政権、桃山文化			
第 13 回	第 12 講 幕藩体制の成立	幕藩体制の成立、身分制度、鎖国			
第 14 回	第 13 講 幕藩体制の確立	幕政の転換、産業の発展、元禄文化			
第 15 回	第 14 講 幕藩体制の動揺	幕政改革、欧米の接近、化政文化			

# 経済・国際

授業番号	A300190001				
科目名 (英語表記)	日本史概論 II (Japanese history introduction II)				
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、教員として歴史の授業が担当できるようにするために、近代の基礎的な知識と指導法を身に付けることをねらいとする。各単元の基礎的な歴史用語や、歴史の流れを理解すること、そしてそれを授業で教える時の工夫などを考えることができるようになることを目標としている。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回、最初に小テストを実施。その後、各単元をまとめたプリントに基づき、歴史の流れを解説する。またその際に、指導上の留意点なども解説する予定である。学習した単元については、課題に取り組み復習すること。さらに指導案と板書ノートを作成することができれば取り組むことが望ましい。				
成績評価方法 基準	定期試験 (60%)、小テスト (26%)、課題 (14%) 概ねこれを原則とする。 指導案や板書ノートを提出した者にはボーナスポイントを付ける。				
授業の予習・復習	予習：高校時代の教科書・史料集などを読んでおくこと kcN に毎回の授業用レジュメを掲載しておくので、各単元の空欄を補充して授業に持参すること 復習：小テストに備えて歴史用語の暗記、KCIN の課題への取り組み、指導案・板書ノートの作成など				
教科書	『詳説日本史図録』(山川出版)				
参考文献	『日本史用語集』(山川出版)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	第 15 講 幕藩体制の崩壊	開国、幕末の政局			
第 2 回	第 16 講 近代国家の黎明	明治維新、文明開化			
第 3 回	第 17 講 近代国家の成立	初期外交、条約改正、殖産興業			
第 4 回	第 18 講 近代国家の確立	自由民権運動、憲法制定			
第 5 回	第 19 講 立憲国家の展開	初期議会、日清戦争、政党内閣			
第 6 回	第 20 講 大日本帝国の成立	日露戦争、日韓併合			
第 7 回	第 21 講 資本主義の成立	資本主義の成立・発展、社会運動			
第 8 回	第 22 講 護憲運動と大正期の政局	護憲運動、大正期の歴代内閣			
第 9 回	第 23 講 第一次大戦とワシントン体制	第一次世界大戦、ワシントン体制、大正デモクラシー			
第 10 回	第 24 講 恐慌の時代	金融恐慌、昭和恐慌、満州事変、ファシズム			
第 11 回	第 25 講 戦時下の日本	日中戦争、戦時体制、太平洋戦争			
第 12 回	第 26 講 戦後改革	占領政策、五大改革			
第 13 回	第 27 講 民主国家の成立	日本国憲法、戦後の経済復興			
第 14 回	第 28 講 民主国家の発展	国際社会への復帰、高度経済成長			
第 15 回	第 29 講 近代の文化	明治・大正・昭和の文化			

経済・国際

授業番号	A300250001		
科目名 (英語表記)	日本地誌 (Japanese Geography)		
担当者 (英語表記)	中村 圭三 (Keizo Nakamura)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本人々が生活する地域・風土・環境の基本的な地理的特徴について学びます。各地域に広がる景観について講義し、地域にある特徴の見方・捉え方を学びます。対象として日本を取り扱うが、環境と人間活動の関わりについて理解するとともに、世界と日本の地理的関わり・位置づけについても理解することを目指します。		
授業の進め方 (履修条件など)	パワーポイント、資料などを使用して、授業内容を展開します。		
成績評価方法	積極的な授業参加、定期試験の成績などにより評価します。		
基準			
授業の予習・復習	普段から日本の各地域について関心を持ち、新聞・インターネット・テレビ等から様々な地域情報を得ることを心掛けてください。		
教科書	特に指定しませんが、プリントなどを使用します。地図帳を持参してください。		
参考文献	必要に応じて、授業内に適宜紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	はじめに	講義予定内容の紹介と地理学、地誌学の説明	
第 2 回	日本の領土・領域	日本の地域区分について	
第 3 回	日本の風土と環境	気候環境と生活	
第 4 回	日本の自然観	日本人と自然環境について	
第 5 回	日本の自然と人間活動	日本の自然と人々の関わり合いについて	
第 6 回	平野・台地の人々の生活	平野・台地の地形と土地利用について	
第 7 回	山地の人々の生活	阿蘇山の生活	
第 8 回	川・海の水と産業	オホーツク海沿岸の自然環境と生活	
第 9 回	都市の人間活動	都市部の生活	
第 10 回	地域の環境と開発	北海道の環境と開発	
第 11 回	地域と産業	瀬戸内海の産業	
第 12 回	地域と観光	観光地の明と暗	
第 13 回	風土と食	日本の食文化	
第 14 回	交通	日本の交通体系	
第 15 回	房総の地方誌	房総の自然と生活	



経済・国際

授業番号	A300060001				
科目名 (英語表記)	日本の文学 (Japanese Literature)				
担当者 (英語表記)	坂東 実子 (Jitsuko Bando)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	1887年(明治20)から現代の日本の近現代文学に親しむ。 文学作品の書かれた時代背景(社会情勢、文化)も同時に学び、理解を深める。				
授業の進め方(履修条件など)	講義形式。毎回、講義で学んだ内容を記入するための書き込み式のシートを配布し、回収する。 最終的には、全15回分のシートとレポートをまとめた冊子(個人用)を完成させる。				
成績評価方法	全15回分の書き込みシート(1回5点×15回) = 75点				
基準	レポート = 25点				
授業の予習・復習	講義の最後に次週予告をする。 KCNの掲示・メールにて、毎回予習内容を指示する。				
教科書	プリント、ハンドアウト資料などを毎回配布。				
参考文献	特になし				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	江國香織「デューク」1988(昭和63)	授業概要、インターテクスチュアリティ(読者の記憶に働きかける文学の効果)			
第2回	二葉亭四迷「浮雲」1887(明治20)	日本近代小説の起源。言文一致。活版印刷。			
第3回	夏目漱石「三四郎」1908(明治41)	カルチュラルスタディーズ(作品が書かれ・読まれた時代の文化的社会的背景の中に置いて読む)			
第4回	森鷗外「雁」1911～1915(明治44～大正4)	〈鳥〉の文学。大逆事件1910(明治43)を機に増えた象徴表現。			
第5回	雑誌『青鞥』1910(明治43)と「新しい女」	平塚らいてう、与謝野晶子、伊藤野枝、松井須磨子、金子みすず、			
第6回	宮澤賢治「よだかの星」1921(大正10)	大正自由教育、修身の教科書、白樺派、「赤い鳥」			
第7回	芥川龍之介「藪の中」1922(大正11)	日本のミステリー 文学賞(芥川賞・直木賞・ノーベル文学賞・本屋大賞など)			
第8回	川端康成「歴史」1930(昭和5) ／中島敦「文字禍」1942(昭和17)	太平洋戦争、戦前・戦時下の文学			
第9回	木下順二「夕鶴」1949(昭和24)	朝鮮戦争、高度経済成長			
第10回	安房直子「鳥」1971(昭和46)	カモメのジョナサン、翼をください、70年代日本のヒッピームーブメント			
第11回	村上春樹「図書館奇譚」1986(昭和61)	第二次ベビーブーム世代。受験戦争。校内暴力。			
第12回	小川洋子「薬指の標本」1996(平成8)	バブル崩壊、就職氷河期、			
第13回	川上弘美「ぼたん」2000(平成12)	ミレニアム結婚、ミレニアムベビー			
第14回	重松清「ツバメ記念日」2006(平成18)	男女雇用機会均等法			
第15回	太宰治「グッド・バイ」1948(昭和23)と伊坂幸太郎「バイバイブラックバード」2010(平成22)	オマージュ、パロディ、翻案、メディアミックス			

経済・国際

授業番号	A300400001				
科目名 (英語表記)	発達心理学 (Developmental psychology)			(中・高) 集中	
担当者 (英語表記)	名取 洋典 (Hironori Natori)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	児童・生徒の発達過程に関する心理学的知見を修得し、教育場面で役立てられることを目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式で進める。加えて学生同士でのディスカッションにも取り組む。毎回の授業では小課題の提出を求める。必要に応じてビデオ等を利用する。				
成績評価方法	定期試験 (80%)・レポート及びその他の課題 (20%)				
基準					
授業の予習・復習	.				
教科書	使用しない。				
参考文献	授業内で指示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて説明する。			
第 2 回	発達研究の方法	横断的研究と縦断的研究について説明する。			
第 3 回	発達理論の紹介	ピアジェ、エリクソンを中心に発達理論について概説する。			
第 4 回	成熟と学習	発達における成熟と学習の関連について説明する。			
第 5 回	遺伝と環境	遺伝と環境の関係について説明する。			
第 6 回	胎児、乳児期の特徴	胎児、乳児期の特徴について説明する。			
第 7 回	幼児期の身体的特徴	幼児期の身体的特徴について説明する。			
第 8 回	幼児期の発達上の問題	幼児期に発現する発達上の問題について説明する。			
第 9 回	児童期の身体的特徴	児童期の身体的特徴について説明する。			
第 10 回	児童期の適応の問題	発達障害について説明する。			
第 11 回	思春期	身体的成長と性的成熟について説明する。			
第 12 回	小中高生時代を振り返る	授業と関連させながら学生はお互いの体験を交流させる。			
第 13 回	青年期	青年期の特徴について説明する。			
第 14 回	青年が抱えやすい問題	精神疾患やその他の問題について説明する。			
第 15 回	まとめ	まとめと質問			

経済・国際

授業番号	A300400003		
科目名 (英語表記)	発達心理学 (Developmental psychology)	(小学校)	
担当者 (英語表記)	田中 未央 (Mio Tanaka)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	①教育場で活用できる発達心理学の知見 (知的発達・言語発達・社会性の発達) の習得を目指す。 ②発達障がいについて概説し, 発達障がいをもつ子どもの特徴を理解する。		
授業の進め方 (履修条件など)	①原則として講義形式で授業を進めるが, 授業内で簡単な実習やグループワークを求める場合がある。 ②必要に応じてビデオなどの映像資料も使用する。 ③実習やグループワークを行った際にはリアクションペーパーの提出を求める。 ④全 15 回の授業内で 2 回～ 3 回の小テストを実施する。		
成績評価方法	学期末試験・授業内小テスト・リアクションペーパーを成績評価の対象とする。		
基準	評価基準は学期末試験 (70%)・授業内小テスト (20%)・リアクションペーパー (10%) である。		
授業の予習・復習	予習: テキストの該当する箇所を読む。 復習: 授業の内容を整理し, 授業内容に関連する文献を読む。		
教科書	「新 発達と教育の心理学」 藤田主一他 福村出版		
参考文献	子どもの「10歳の壁」とは何か? 乗り越えるための発達心理学 (光文社新書) / 発達障害に気づかない大人たち (祥伝社新書)		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要, 授業の進め方, 評価方法, 受講マナーについて	
第 2 回	発達とは何か?	発達と成熟、発達に影響する要因 (遺伝か環境か)	
第 3 回	子どもの言語発達①	言語獲得の準備段階について (発話? 喃語の発生)	
第 4 回	子どもの言語発達②	ことばの獲得 (初語・一語文・二語文・語彙爆発)	
第 5 回	子どもの知的発達①	思考の発達 (ピアジェの知的発達段階)	
第 6 回	子どもの知的発達②	表象の獲得・心の理論	
第 7 回	子どもの知的発達③	知能について	
第 8 回	子どもの社会性の発達①	愛着の形成・遊びの発達	
第 9 回	子どもの社会性の発達②	環境移行・小1プロブレム	
第 10 回	子どもの社会性の発達③	友人関係の形成と変化・ギャングエイジ	
第 11 回	子どもの社会性の発達④	道徳性の発達	
第 12 回	発達障害について①	学習障害 (LD)・知的障害	
第 13 回	発達障害について②	広汎性発達障害	
第 14 回	発達障害について③	発達障害のアセスメント	
第 15 回	まとめ	第 2 回～第 14 回で扱ったテーマのレビュー, 質問への対応	

# 経済・国際

授業番号	A300070001		
科目名 (英語表記)	比較文学 (Comparative Literature)		
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>「比較文学」とは何か？という質問に明確に答えられる人はおそらくいないのではないのでしょうか。それくらい「比較文学」という学問分野は現在大きな広がりや深さを見せています。それは文学だけにとどまらず私たちが毎日生活する中で触れているありとあらゆる文化現象を取り扱う学問なのです。そこには政治・経済・歴史・哲学・科学・国際・芸術などすべてのものが含まれます。もともと「比較文学」とは個々の文学作品を比較してその影響関係を探る学問でした。それがどのようにして「比較文化」という包括的な学問分野に発展してきたのか、そして現在どのような問題が取り上げられ議論されているのかをこの授業では紹介し、みなさんひとりひとりがあらゆることに対して批評的な視点を持てるようになることを目的とします。</p>		
授業の進め方 (履修条件など)	<p>授業は講義形式で行いますが、毎回トピックに関する何らかの問いを設定してそれについて考えてもらいます。ただ漫然と話を聞くだけでなく、自分なりの問題意識を持つようにしてください。</p>		
成績評価方法 基準	授業内演習 30%、期末テスト 70%		
授業の予習・復習	<p>予習：いくつかのキーワードについて調べておいてください。  復習：講義ノートを見返してください。</p>		
教科書	授業内でハンドアウトを配布します。		
参考文献	佐々木英昭編 『異文化への視線 新しい比較文学のために』 名古屋大学出版会		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	イントロダクション	異文化とどうつきあうか、日本人と西洋	
第2回	イントロダクション2	比較文学とは何か、東と西	
第3回	日本対西洋1	『蝶々夫人』と日本人のイメージ	
第4回	日本対西洋2	外国人劇場と『ミカド』	
第5回	日本対西洋3	島崎藤村とフランス	
第6回	日本対西洋4	徳富蘆花とトルストイ	
第7回	日本対西洋5	科学とスピリチュアリズム	
第8回	日本対西洋6	脱オリエンタリズム	
第9回	日本対西洋7	夏目漱石「開花」論	
第10回	日本対西洋を越えて1	19世紀西洋文学における「猿」(=アジア・アフリカ人)	
第11回	日本対西洋を越えて2	T.S. エリオットにおける比較文化論	
第12回	日本対西洋を越えて3	デイドロとモンティエーニュ	
第13回	日本対西洋を越えて4	夏目漱石とロンドン・満州	
第14回	日本対西洋を越えて5	ポストコロニアル文学	
第15回	日本対西洋を越えて6	『悪魔の詩』と異文化理解	

経済・国際

授業番号	A300020001		
科目名 (英語表記)	フランス語 I (French I)	(A) 経済学部のみ	
担当者 (英語表記)	寺尾 いつみ (Izumi Terao)	対象学年	1 単位数 1
授業のねらいと到達目標	誰にも多少なじみがあるが、とっつきにくいイメージもあるフランス語の学習を通じて、文化の多様性を実感する機会を提供したい。この授業では、フランス語の音とリズムに慣れ、文法の特徴を理解することを目指す。前期は簡単な自己紹介、物についての応答、好みについての応答ができるようにする。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書の会話文を聞き、繰り返して覚える。単語を入れ替えて語彙・文法を定着させる。教師と、あるいは学生どうしでやりとりを練習し、流暢さを身に着ける。		
成績評価方法	授業内小テスト 6 回 (30%)、オーラルテスト 4 回 (20%)、定期試験 (50%) の合計点で評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：学習する課の会話を CD や podcast で聞いてシャドーイングする。 復習：学習した課の単語を対応アプリで学習する。		
教科書	『話してみようフランス語—Oui ;-)』 大久保政憲著、朝日出版社、2011 年、2415 円		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	フランス語とは？	フランス語の音とリズムの特徴に触れる。数字 1～12 を言う。	
第 2 回	第 1 課「挨拶、自己紹介」	挨拶・自己紹介の表現を覚える。アルファベットの読み方を学ぶ。	
第 3 回	第 1 課「挨拶、自己紹介」	動詞 ? t re の活用、国籍を表す形容詞を覚える。	
第 4 回	第 1 課「挨拶、自己紹介」	国籍の尋ね方・答え方を覚える。	
第 5 回	フランス語の文字と発音	綴り字と発音の関係の規則を学ぶ。	
第 6 回	第 2 課「～があります」	名詞の性・数に応じた「これは～です」の文の使い分けを学ぶ。	
第 7 回	第 2 課「～があります」	不定冠詞・定冠詞を覚える。	
第 8 回	第 2 課「～があります」	提示表現を覚える。	
第 9 回	第 3 課「～を持っている」	家族について話す。数字 13～30 を覚える。	
第 10 回	第 3 課「～を持っている」	動詞 avoir の活用を覚える。否定文のしくみを学ぶ。	
第 11 回	第 3 課「～を持っている」	疑問文、応答文のしくみを学ぶ。	
第 12 回	第 4 課	好きなもの・ことについて話す。第一群規則動詞の活用パターンを覚える。	
第 13 回	第 4 課	動詞 prendre の活用、部分冠詞を覚える。	
第 14 回	第 4 課	中性代名詞 en の使い方を学ぶ。	
第 15 回	まとめ	前期の学習内容を概観し復習する。	

経済・国際

授業番号	A300020002				
科目名 (英語表記)	フランス語 I (French I)				
担当者 (英語表記)	浅野 信二 (Shinji Asano)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	はじめてフランス語を学ぶ人が、日常よく使う簡単な会話表現を中心に、「聞く」「話す」「読む」「書く」能力をバランスよく総合的に習得することを目指す。同時に、フランス文化について基本的な知識を学ぶ。				
授業の進め方 (履修条件など)	AV 教材を活用し、繰り返し「読む練習」「書く練習」を行う。また、教科書などの練習問題を解くことで、基礎文法と語彙力をつけていく。毎回の積み重ねを前提に授業を進めていくので、できるだけ欠席しないこと。				
成績評価方法	定期試験 50%・授業中に行う小テスト 30%・授業参加態度 20%				
基準					
授業の予習・復習	短い文章の書きとりを毎回授業の冒頭で行うので、よく練習しておくこと。				
教科書	藤田裕二『パリのクール・ジャパン』(朝日出版社)				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明			
第 2 回	Le?on 0	アルファベ/主な綴り字の読み方			
第 3 回	Le?on1 (1)	主語人称代名詞			
第 4 回	Le?on1 (2)	?tre の活用/国籍の言い方			
第 5 回	Le?on2 (1)	規則動詞の活用			
第 6 回	Le?on2 (2)	形容詞の性・数の一致/名前の言い方			
第 7 回	Le?on3 (1)	母音で始まる動詞の活用			
第 8 回	Le?on3 (2)	名詞の性・数と定冠詞			
第 9 回	Le?on3 (3)	疑問文			
第 10 回	Le?on4 (1)	疑問代名詞 que			
第 11 回	Le?on4 (2)	不定冠詞と指示代名詞 ce			
第 12 回	Le?on4 (3)	形容詞の位置/ venir			
第 13 回	Le?on5 (1)	否定文/ voir			
第 14 回	Le?on5 (2)	疑問副詞 o?			
第 15 回	Le?on5 (3)	il y a の表現/量の表現			

経済・国際

授業番号	A300030001		
科目名 (英語表記)	フランス語 II (French I I)	(A) 経済学部のみ	
担当者 (英語表記)	寺尾 いつみ (Izumi Terao)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	前期の学習を踏まえ、フランス語の発音とつづりに慣れ、より細かい情報を理解できるようになることを目指す。買い物をしたり、行動を説明する場面で、適切なやりとりができるようにする。 前期にフランス語 I A を履修した学生を対象とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書の会話文を聞き、繰り返して覚える。単語を入れ替えて語彙・文法を定着させる。教師と、あるいは学生どうしでやりとりを練習し、流暢さを身につける。		
成績評価方法	授業内小テスト 5 回 (25%)、オーラルテスト 5 回 (25%)、定期試験 (50%) の合計点で評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：学習する課の会話を CD や podcast で聞いてシャドーイングする。 復習：学習した課の単語を対応アプリで学習する。		
教科書	フランス語 I A と同じ。この教科書は来年度フランス語Ⅲ、Ⅳでも引き続き使います。		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	復習	前期の学習内容を復習し、不十分なところがあれば補う。	
第 2 回	第 5 課「どんな物？」	買い物で使う表現を学ぶ。	
第 3 回	第 5 課「どんな物？」	動詞 vouloir の活用を覚える。形容詞の位置と性数について学ぶ。	
第 4 回	第 5 課「どんな物？」	指示形容詞、疑問形容詞を覚える。	
第 5 回	第 5 課「どんな物？」	所有形容詞のしくみを学ぶ。	
第 6 回	第 6 課「～へ行く、～から来る」	どこから来てどこへ行くか言う。定冠詞の縮約について学ぶ。	
第 7 回	第 6 課「～へ行く、～から来る」	動詞 aller の活用を覚える。疑問副詞「どこ (へ)」、「～国へ」を含む応答を学ぶ。	
第 8 回	第 6 課「～へ行く、～から来る」	動詞 venir の活用を覚える。疑問副詞「どこから」、「～国から」を含む応答を学ぶ。	
第 9 回	第 6 課「～へ行く、～から来る」	疑問副詞「どのように」「なぜ」、交通手段の言い方を学ぶ。	
第 10 回	第 6 課「～へ行く、～から来る」	動詞 pouvoir の活用を覚える。	
第 11 回	第 7 課「いつ? 何時に?」	時刻について話す。	
第 12 回	第 7 課「いつ? 何時に?」	強勢形人称代名詞を覚える。	
第 13 回	第 7 課「いつ? 何時に?」	疑問副詞「いつ」、週・月・季節の表現を学ぶ。	
第 14 回	第 7 課「いつ? 何時に?」	疑問副詞「いくつ/いくら」を含む表現を学ぶ。	
第 15 回	まとめ	後期の学習内容を概観し復習する。	

経済・国際

授業番号	A300030002				
科目名 (英語表記)	フランス語 II (French I I)				
担当者 (英語表記)	浅野 信二 (Shinji Asano)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	前期に続いて、日常よく使う簡単な会話表現を中心に、フランス語の「聞く」「話す」「読む」「書く」能力をバランスよく総合的に習得することを目指す。同時に、フランス文化について基本的な知識を学ぶ。				
授業の進め方 (履修条件など)	AV 教材を活用し、繰り返し「読む練習」「書く練習」を行う。また、教科書などの練習問題を解くことで、基礎文法と語彙力をつけていく。毎回の積み重ねを前提に授業を進めていくので、できるだけ欠席しないこと。				
成績評価方法	定期試験 50%・授業中に行う小テスト 30%・授業参加態度 20%				
基準					
授業の予習・復習	短い文章の書きとりを毎回授業の冒頭で行うので、よく練習しておくこと。				
教科書	藤田裕二『パリのクール・ジャパン』(朝日出版社)				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明			
第 2 回	前期の復習	前期で学んだ文法項目の復習			
第 3 回	Le?on6 (1)	avoir・faire の活用			
第 4 回	Le?on6 (2)	職業を表す名詞			
第 5 回	Le?on6 (3)	疑問形容詞 quel			
第 6 回	Le?on7 (1)	部分冠詞			
第 7 回	Le?on7 (2)	冠詞のまとめ / aller			
第 8 回	Le?on7 (3)	定冠詞の縮約 / vouloir			
第 9 回	まとめ	前期も含め、ここまで学んだ内容の復習			
第 10 回	Le?on8 (1)	所有形容詞			
第 11 回	Le?on8 (2)	人称代名詞の強勢形			
第 12 回	Le?on8 (3)	dormir / dire			
第 13 回	Le?on9 (1)	指示形容詞 ce / 指示代名詞 celui			
第 14 回	Le?on9 (2)	形容詞の比較級			
第 15 回	Le?on9 (3)	疑問副詞 combien			



# 経済・国際

授業番号	A300370001		
科目名 (英語表記)	ベンチャービジネス論 (Venture business theory)		
担当者 (英語表記)	川西 正己 (Masami Kawanishi)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	昨今では、企業全体の7割が赤字経営であり、しかも、勝ち組といわれる企業は、全体の1割程度という厳しい市場環境・経営環境にある。新規創業にあっても、創業後3年以内には半数が消滅し、10年後には2割程度しか存続していないという「多産多死」の状況にある。そのような前提に立って、学生自身が起業する、あるいは会社内にて新規事業を立ち上げる(社内ベンチャー)という場合において、勝ち残れるだけの「力相応に勝てる場と勝ち残れる条件」を備えた経営法について学ぶ。		
授業の進め方(履修条件など)	「大きな会社」と「小さな会社」の経営法はまるで別物であるということを認識しながら、起業の準備段階から「事業計画書」(マーケティングプラン、マネジメントプラン)の作成までを、段階的かつ具体的に授業を進める。		
成績評価方法	ケース・スタディによる定期試験の結果および出席日数・授業態度を勘定し評価する。		
基準			
授業の予習・復習	「復習」は授業内容を復習して理解することをもって足りる。		
教科書	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。		
参考文献	必要に応じて参考文献・関連資料のコピーを配布する。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	経営の現場からの視点とメッセージ	「2極化の傾向」にあるデフレ不況化の経営。後世の「1番企業」は不況期に創業しているという現実注目。	
第2回	「儲かる業種」と「儲かる人間」とは	この世に「儲かる業種」、「損する業種」のパターンはないが「儲かる人間」、「損する人間」のパターンはあるようだ。	
第3回	「商い」とは	「自分よし、相手よし、世間よし」という「三方良しの経営」こそが本物の経営法。	
第4回	経営の基本は「不易流行」にあり	「創業の志」を踏まえて、「時流に適應すること」および「経営の原理・原則を踏まえること」の2つの条件を同時に満たすこと。	
第5回	消費者は商品を通じて「経営理念」を見抜く	企業も団体も人間も「必要な者は、この世に存在しえない」という。逆に、「必要あるところビジネスチャンスあり」ともいう。	
第6回	生き残る者は「時流」に適應しえた者①	消費者が「何を基準にして商品やサービスを選択するか」は時代によって移り変わる。	
第7回	生き残る者は「時流」に適應しえた者②	質の良い「下限商品・サービス」は消費者に強いインパクトを与える。安さは品質・サービスの劣化の言い訳にならない。	
第8回	生き残る者は「時流」に適應しえた者③	「世のため、人のため、自分のため」というソーシャルビジネスが注目されている。	
第9回	「経営の原理・原則」①	中小企業の経営戦略では「1点突破全面展開法」(小さくても何かで1番のものを持つこと)が原則。	
第10回	「経営の原理・原則」②	小さくても1番になるための視点は、頭文字をとって「ODSR」の4点が切り口となる。	
第11回	「経営の原理・原則」③	小さくても何かで1番をつくるための「地域1番商品戦略化」を目指すための絞込みの方法とは。	
第12回	商品開発のアイデア発想法	既存マーケットの中から差別化を図るアイデア発想法。既存の要素を合体させるアイデア発想法。	
第13回	事業スタイルと狙うマーケット	ニッチ市場でのトップを目指すという「ニッチトップ戦略」が中小企業の基本戦略(鶏口牛後の戦略発想)。	
第14回	起業・新事業を成功させるには	起業・新事業は「小さく産んで、大きく育てる」のが原則。事業を起こす3つの相性判断とは。	
第15回	「事業計画書」のつくり方	「マーケティングプラン」および「マネジメントプラン」のそれぞれのプランを作成するに当たっての主な留意点について。	

経済・国際

授業番号	A300090001		
科目名 (英語表記)	法学入門 (General Law)		
担当者 (英語表記)	寛正 豊和 (Toyokazu Kakusho)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	「社会あるところに法あり」の法格言に示されるがごとく、社会には無数の法が存在します。本講義は、社会生活に必然する法を理解するために必要な基本原理・原則・基礎理論をととして法学への導入とし、次に社会生活における法的思考方法、法律的名ものの考え方 (legal mind) を具体的事例、判例などによって理解することを目的とします。それは、今日、とくとくと流れる国際化のなかで言語習慣、考え方の相違する人達が共存していくために必要不可欠な学習に他なりません。		
授業の進め方 (履修条件など)	基本的に教科書にしたがって分かりやすい授業を展開します。		
成績評価方法	平常点 (授業内に適応おこなうリアクションペーパー等や、任意課題レポート 30%・定期試験 70%で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	教科書等を読み、よくできない点を把握し、確認しましょう。		
教科書	斎藤静敬・寛正豊和 共著『法学・憲法』八千代出版		
参考文献	『六法』(岩波) (三省堂) (有斐閣) などを持参するとよいでしょう。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	導入	受講のガイダンス	
第 2 回	法の概念	法とはなにか	
第 3 回	法と法則、法と道徳	法と法則の相違、法と道徳の相異、法と道徳の関係	
第 4 回	法の構造	規範構造からみた法と道徳の相異	
第 5 回	法の目的 1	正義、法的安定性	
第 6 回	法の目的 2	具体的事例の検討、比較法的考察	
第 7 回	法源論	法の発現形式、法の存在形式	
第 8 回	成文法	成文法とは	
第 9 回	不文法	不文法 (慣習法、判例法) とは	
第 10 回	法の分類	法二分説、法三分説など	
第 11 回	法の適用と解釈	法の適用と解釈の必要性について	
第 12 回	法の実質的効力	規範的妥当性、実効性	
第 13 回	法の形式的効力	時間、場所、人についての適用範囲	
第 14 回	権利と義務	法律関係、権利、義務	
第 15 回	総括	まとめおよび質疑	

# 経済・国際

授業番号	A300570001		
科目名 (英語表記)	ヨーロッパ経済論 I (Europe economy theory I)		
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	3
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	EU (欧州連合) は 28 カ国を数え、現在の人口は 5 億人を超えました。統一通貨のユーロを導入している国はそのうち 18 カ国にのぼります。このように密な統合はどのような背景で行われたのでしょうか? ヨーロッパ経済論 I では第 2 次大戦直後にさかのぼって欧州統合の歴史を勉強します。		
授業の進め方 (履修条件など)	<p>経済学の応用科目なので、「経済学理論」「経済政策」の基礎知識を必要とします。</p> <p>授業では、“moodle” という e-learning (パソコンを使った授業) を行うので、アカウントをお持ちでない方は、ガイダンスの翌週に行う講習を必ず受けて下さい。もし受けられない場合は、他の授業等での講習を受け、必ずアカウントをとっておいて下さい。</p> <p>レジュメないしフローチャートの内容とするプリントを配布し、パワーポイントのパネルやモニターに映された web 画面を補助としてプリントにキーワードを書き込んで頂きながら、それぞれの出来事の背景や事項間の因果関係を勉強していきます。時々グループ作業、単独作業→その発表を通じて学習を進めます。</p>		
成績評価方法	定期試験 (60%)、授業内小テスト (20%)、グループ・単独作業 (20%) です。小テストは moodle での小論文と選択問題です。		
基準	小論文式小テストでは、学習した出来事の背景や事項間の因果関係を文章で表現できるかどうかで評価します。		
授業の予習・復習	「授業項目」の区切りを見当として小テストを行います。そのため、復習として、プリントや各自のメモを参考にし、文章できちんと因果関係等の説明が出来るようご用意下さい。小テストのコメントを参考にし、より良い小論文を作成し保存しておいて下さい。定期試験で役に立ちます。コメントがわかりづらかったらご質問下さい (→ iino@u-keiai.ac.jp)。		
教科書	教科書は指定しません。参考文献、web 上の情報などを参考にして下さい。		
参考文献	田中 素香 (著), 長部 重康 (著), 久保 広正 (著), 岩田 健治 (著) 現代ヨーロッパ経済 第 3 版 (有斐閣アルマ) →メディアアセンダー指定図書コーナーに置いてあります。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評点等についてお話しします	
第 2 回	moodle 登録	今後授業で使う moodle のアカウントを作り、コース登録します。これをしないと小テストが受けられませんので、アカウントをお持ちでない方は必ずご出席下さい。	
第 3 回	第 2 次大戦後のヨーロッパ	第 2 次大戦の諸結果、IMF-GATT 体制	
第 4 回	第 2 次大戦後のヨーロッパ	グループ作業ないし小テスト (小論文形式)	
第 5 回	ドル体制の展開とヨーロッパ	ヨーロッパ復興計画、アメリカのドル散布による国内経済の拡大	
第 6 回	ドル体制の展開とヨーロッパ	ヨーロッパ諸国の経済的自立化と課題	
第 7 回	ドル体制の展開とヨーロッパ	ヨーロッパ経済の復興 - ドイツとフランスの例	
第 8 回	ドル体制の展開とヨーロッパ	グループ作業ないし小テスト (小論文形式)	
第 9 回	EEC の成立	ヨーロッパ共同市場の必然性	
第 10 回	EEC の成立	グループ作業ないし小テスト (小論文形式)	
第 11 回	EEC の成立後のヨーロッパ	50-60 年代ヨーロッパ貿易の拡大・経済成長	
第 12 回	EEC の成立後のヨーロッパ	グループ作業ないし小テスト (小論文形式)	
第 13 回	ヨーロッパ経済の停滞 (1970 年代)	IMF 体制の崩壊と世界的インフレ・ヨーロッパ高度成長要因の消失	
第 14 回	ヨーロッパ経済の停滞 (1970 年代)	グループ作業ないし小テスト (小論文形式)	
第 15 回	まとめと質問	主としてこれまでの授業展開で不明だった点等につき質問を受け、答えます。同時に、定期試験に向けた最終説明も行います。	

# 経済・国際

授業番号	A300580001		
科目名 (英語表記)	ヨーロッパ経済論 II (Europe economy theory II)		
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	3
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	EU (欧州連合) は 28 カ国を数え、現在の人口は 5 億人を超えました。統一通貨のユーロを導入している国はそのうち 18 カ国にのぼります。このように密な統合はどのような背景で行われたのでしょうか? ヨーロッパ経済論 II では 1980 年代から遡って、EU の現状に至る流れを勉強します。		
授業の進め方 (履修条件など)	<p>経済学の応用科目なので、「経済学理論」「経済政策」の基礎知識を必要とします。</p> <p>授業では、“moodle” という e-learning (パソコンを使った授業) を行うので、アカウントをお持ちでない方は、ガイダンス週に行う講習を必ず受けて下さい。もし受けられない場合は、他の授業等での講習を受け、必ずアカウントをとっておいて下さい。</p> <p>レジュメないしフローチャートの内容とするプリントを配布し、パワーポイントのパネルやモニターに映された web 画面を補助としてプリントにキーワードを書き込んで頂きながら、それぞれの出来事の背景や事項間の因果関係を勉強していきます。時々グループ作業、単独作業→その発表を通じて学習を進めます。</p>		
成績評価方法 基準	定期試験 (60%)、授業内小テスト (20%)、グループ・単独作業 (20%) です。小テストは moodle での小論文と選択問題です。小論文式小テストでは、学習した出来事の背景や事項間の因果関係を文章で表現できるかどうかで評価します。		
授業の予習・復習	「授業項目」の区切りを見当として小テストを行います。そのため、復習として、プリントや各自のメモを参考に、文章できちんと因果関係等の説明が出来るようご用意下さい。小テストのコメントを参考に、より良い小論文を作成し保存しておいて下さい。定期試験で役に立ちます。コメントがわかりづらかったらご質問下さい (→ iino@u-keiai.ac.jp)。		
教科書	教科書は指定しません。参考文献、web 上の情報などを参考にして下さい。		
参考文献	田中 素香 (著), 長部 重康 (著), 久保 広正 (著), 岩田 健治 (著) 現代ヨーロッパ経済 第 3 版 (有斐閣アルマ) →メディアアセンダー指定図書コーナーに置いてあります。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス、moodle 登録	授業の進め方、評点等、ヨーロッパ経済論 I のエッセンスについてお話し、今後授業で使う moodle のアカウントを作り、コース登録します。これをしないと小テストが受けられないので、アカウントをお持ちでない方は必ずご出席下さい。	
第 2 回	ヨーロッパ経済の停滞 (1980 年代)	産業の ME 化とヨーロッパの地位低下	
第 3 回	ヨーロッパ経済の停滞 (1980 年代)	グループ作業ないし小テスト (小論文形式)	
第 4 回	1992 年欧州市場統合	今までの統合は不十分、3 つの障壁	
第 5 回	1992 年欧州市場統合	1992 年欧州市場統合期待と現実	
第 6 回	1992 年欧州市場統合	グループ作業ないし小テスト (小論文形式)	
第 7 回	欧州通貨統合	欧州通貨統合へのプロセス (戦後ヨーロッパ通貨の歩み)	
第 8 回	欧州通貨統合	欧州通貨統合の効果	
第 9 回	欧州通貨統合	ECB の金融政策	
第 10 回	欧州通貨統合	グループ作業ないし小テスト (小論文形式)	
第 11 回	21 世紀のヨーロッパ経済	ヨーロッパの産業、労働市場	
第 12 回	21 世紀のヨーロッパ経済	2008 年金融危機とヨーロッパ経済	
第 13 回	21 世紀のヨーロッパ経済	ヨーロッパサブプライム危機とヨーロッパ経済	
第 14 回	21 世紀のヨーロッパ経済	グループ作業ないし小テスト (小論文形式)	
第 15 回	まとめと質問	主としてこれまでの授業展開で不明だった点等につき質問を受け、答えます。同時に、定期試験に向けた最終説明も行います。	

# 経済・国際

授業番号	A300080001				
科目名 (英語表記)	歴史学入門 (Introduction to Historical Science)			A	
担当者 (英語表記)	山本 健 (Takeshi Yamamoto)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本は、明治の開国期と大戦敗北後の2回、近代化（欧米化）を受け入れ、物質的に豊かになったが、精神的にはどうであろうか。この原因を、明治（1868年）以降から現代に至る長いスパンの中で探り、精神的な「自立」の処方箋を考えてみたい。そして歴史を批判的に見る目を身につけさせることが、本講義の目的である。				
授業の進め方 (履修条件など)	日本の近代化の受容を基本的に学び、日本以外のアジア諸国の受容との比較にも言及しながら、その時代背景などを説明し、「協調」と「追随」の功罪などを解説する。				
成績評価方法 基準	試験、レポート(感想文や課題文)などで評価する。なお、原則として、出席率が規定(2/3)に達していない学生は評価外とする。				
授業の予習・復習	予習：前もって配布する「古典」の抜粋プリントを読んで、問題点などを整理しておくこと。 復習：課題文の作成のため、新聞やTVのニュースを見る習慣をつけること。				
教科書	加藤哲郎『戦後意識の変貌』(岩波ブックレット、シリーズ昭和史 No14、1989年)				
参考文献	①奥井知之『日本問題』(中公新書、1994年) ②野口悠紀夫『バブルの経済学—日本経済に何が起こったのか』(日本経済新聞社、1993年)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の進め方についての説明			
第2回	問題点の提示	大江健三郎『あいまいな日本と私』を音読させ、解説。			
第3回	明治時代の近代化の受容①	日本の支配的価値観と近代化受容をめぐる問題点			
第4回	同 上②	「外圧」としての近代化—帝国主義時代の背景			
第5回	同 上③	「脱亜入欧」と第二次世界大戦			
第6回	戦後の「アメリカ」受容	「脱亜入米」と変更されるアメリカの占領政策			
第7回	「政治」から「経済」へ	戦争特需と所得倍増計画の意味			
第8回	模倣国アメリカの変化	ベトナム戦争とアメリカ経済の衰退、相対主義の台頭			
第9回	石油危機と不確実性の時代	エゴイズムとモデル不在の時代の到来			
第10回	日米経済摩擦	経済大国ジャパンの出現と日本異質論の台頭			
第11回	バブル景気と躁状態の日本	平成バブルの発生メカニズムの分析			
第12回	湾岸戦争と日本の対応	湾岸戦争の背景と「一国繁栄主義」の日本			
第13回	小泉内閣の登場と民営化問題	市場経済の導入と食い荒らされる金融資産			
第14回	中国経済の発展と日本の対応	日本の「工場」の移転と産業の空洞化・若者の失業問題			
第15回	サブプライム問題と金融危機	恒常化したバブル経済とその背景			

# 経済・国際

授業番号	A300080002				
科目名 (英語表記)	歴史学入門 (Introduction to Historical Science)			B	
担当者 (英語表記)	山本 健 (Takeshi Yamamoto)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本は、明治の開国期と大戦敗北後の2回、近代化（欧米化）を受け入れ、物質的に豊かになったが、精神的にはどうであろうか。この原因を、明治（1868年）以降から現代に至る長いスパンの中で探り、精神的な「自立」の処方箋を考えてみたい。そして歴史を批判的に見る目を身につけさせることが、本講義の目的である。				
授業の進め方 (履修条件など)	日本の近代化の受容を基本的に学び、日本以外のアジア諸国の受容との比較にも言及しながら、その時代背景などを説明し、「協調」と「追随」の功罪などを解説する。				
成績評価方法 基準	試験、レポート(感想文や課題文)などで評価する。なお、原則として、出席率が規定(2/3)に達していない学生は評価外とする。				
授業の予習・復習	予習：前もって配布する「古典」の抜粋プリントを読んで、問題点などを整理しておくこと。 復習：課題文の作成のため、新聞やTVのニュースを見る習慣をつけること。				
教科書	加藤哲郎『戦後意識の変貌』(岩波ブックレット、シリーズ昭和史 No14、1989年)				
参考文献	①奥井知之『日本問題』(中公新書、1994年) ②野口悠紀夫『バブルの経済学—日本経済に何が起こったのか』(日本経済新聞社、1993年)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の進め方についての説明			
第2回	問題点の提示	大江健三郎『あいまいな日本と私』を音読させ、解説。			
第3回	明治時代の近代化の受容①	日本の支配的価値観と近代化受容をめぐる問題点			
第4回	同 上②	「外圧」としての近代化—帝国主義時代の背景			
第5回	同 上③	「脱亜入欧」と第二次世界大戦			
第6回	戦後の「アメリカ」受容	「脱亜入米」と変更されるアメリカの占領政策			
第7回	「政治」から「経済」へ	戦争特需と所得倍増計画の意味			
第8回	模倣国アメリカの変化	ベトナム戦争とアメリカ経済の衰退、相対主義の台頭			
第9回	石油危機と不確実性の時代	エゴイズムとモデル不在の時代の到来			
第10回	日米経済摩擦	経済大国ジャパンの出現と日本異質論の台頭			
第11回	バブル景気と躁状態の日本	平成バブルの発生メカニズムの分析			
第12回	湾岸戦争と日本の対応	湾岸戦争の背景と「一国繁栄主義」の日本			
第13回	小泉内閣の登場と民営化問題	市場経済の導入と食い荒らされる金融資産			
第14回	中国経済の発展と日本の対応	日本の「工場」の移転と産業の空洞化・若者の失業問題			
第15回	サブプライム問題と金融危機	恒常化したバブル経済とその背景			

経済

授業番号	B201650001		
科目名 (英語表記)	Excel データ解析 (Excel data analysis)		
担当者 (英語表記)	森島 隆晴 (Takaharu Morishima)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	情報化により日常生活における消費行動がビッグデータとして収集され、ビジネスで使われるようになってきました。授業のねらいは、ビジネスデータの意味と Excel を用いた分析方法を学ぶことで、到達目標は、そのための知識と技能を習得することです。		
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件は、Excel の数式・関数を用いた操作ができることです。人数制限があるため履修希望者は必ず第 1 回目から出席してください。1 回目を欠席した場合、受講できなこともあります。講義と演習を行い、毎回課題を提出してもらいます。		
成績評価方法	期末試験 (実技) (60%)、提出課題 (40%) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	授業内容、用語について予習してください。その回の内容は次回以降利用しますのでやり方を復習しておいてください。		
教科書	教科書は使いません。代わりに毎回資料とデータを配布します。		
参考文献	鈴木光勇 (2008) 『Excel ビジネスデータ分析』翔泳社 末吉正成・末吉美喜 (2009) 『Excel ビジネス統計分析』翔泳社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	企業経営のデータ分析 1	受講者の確認、講義の概要、商品の位置付けを把握する	
第 2 回	企業経営のデータ分析 2	損益分岐点や売り上げ傾向を把握する	
第 3 回	マーケティングのデータ分析 1	顧客の重要度を把握し、値引き向き商品を選定する	
第 4 回	マーケティングのデータ分析 2	ヒット商品を特定し、商品特性を把握する	
第 5 回	生産・在庫管理のデータ分析 1	労働生産性から企業の競争力を把握する	
第 6 回	生産・在庫管理のデータ分析 2	潰れ難さを判断し、在庫を適正化する	
第 7 回	経理・財務のデータ分析 1	会社の収益率を確認する	
第 8 回	経理・財務のデータ分析 2	会社の安全度、基礎体力を確認する	
第 9 回	統計分析の基礎	統計分析はどう役立つのか	
第 10 回	相関分析	30 代男性と栄養ドリンク売上数の関係を分析する	
第 11 回	単回帰分析	最高気温とアイスコーヒーの注文数の関係を分析する	
第 12 回	重回帰分析	店舗の売り上げに影響する要因を探す	
第 13 回	コンジョイント分析	ヒットするコンビニ弁当は何かを調べる	
第 14 回	主成分分析	缶コーヒーの効果的陳列方法は何かを調べる	
第 15 回	まとめ	模擬試験と解説	



# 経済

授業番号	B202120001				
科目名 (英語表記)	Marketing Management (Marketing Management)				
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は、英語による経営専門書を購読しながらマーケティングのコンセプトを理解することを目標とします。実業界でどのようなマーケティング活動がおこなわれているのかを学び、マーケティング展開において活用される様々なコンセプトを英語の経営書を通じて学習します。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業では、マーケティング・ミックスにかかわるコンセプトを中心にディスカッション形式で理論とケースを学びます。必要に応じて、ケーススタディのためのビデオ教材を用います。				
成績評価方法	中間レポート第1回 (50%)、中間レポート第2回 (50%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：毎回配布される英文のプリントを読んでください。 復習：前回の配布資料を再読しておくことをお勧めします。				
教科書	特にありません。毎回必要な資料を配布します。				
参考文献	Kotler, Philip. (2003), Marketing Insights from A to Z: 80 Concepts Every Manager Needs to Know, Wiley.				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方についての説明			
第2回	Customer Orientation	Customers			
第3回	Customer Orientation	Customer Needs			
第4回	Customer Orientation	Customer Satisfaction			
第5回	Marketing Mix	Products			
第6回	Marketing Mix	Price			
第7回	Marketing Mix	Communication and Promotion			
第8回	Marketing Mix	Distribution and Channels			
第9回	STP	Segmentation			
第10回	STP	Target Markets			
第11回	STP	Positioning			
第12回	Brand	Brands			
第13回	Brand	Corporate Branding			
第14回	Relationship Marketing	Customer Relationship Management (CRM)			
第15回	Relationship Marketing	Database Marketing			



経済

授業番号	B202010001				
科目名 (英語表記)	TOEIC向上講座I (TOEIC? Support lecture)				
担当者 (英語表記)	田 文揚 (Fumiaki Den)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項や既得の英語力の現状及び問題点を知り、4技能の中の弱点の補完を目指す。</li> <li>・TOEICテストのPART 1 から PART 7 までの各パートの問題形式への理解を深めると共に素早く応答できる能力を習得する。</li> <li>・TOEICスコア600点代を目指す。</li> </ul>				
授業の進め方 (履修条件など)	TOEIC テストの形式で編集されたテキストを主に用いて各テーマ・トピックスごとの設問に答えることを通して、LISTENING や READING の力を養う。また、定期的に単語テストや小テストを実施する。				
成績評価方法	小テスト及び単語テスト (予定表別紙) イディオムテスト [70%]・授業参加態度 [30%]				
基準					
授業の予習・復習	各レッスン未知の単語やイディオム及び、不確かな文法事項を下調べする。既習事項を付属のCDを用いて反習する。また、配布されたプリント教材に取り組む。				
教科書	TOEIC Test : Subjects and Strategies 三原 京/Jim Knudsen 南雲堂 その他開発教材・ニュース、文法資料。				
参考文献	必要に応じて適宜指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	GUIDANCE & ORIENTATION INTRODUCTION & TACTICS	講座の進め方及び評価、受講要領に関する説明。自己紹介。			
第2回	TOEIC テストの体験	TOEIC テスト攻略の Strategies ・ミニTOEIC テスト			
第3回	LESSON 1	Listening: 短縮形・Short Talk / Quiz			
第4回	L 2	READING: 否定 ・ Reading Comprehension 2 / Quiz2 / 作文			
第5回	L 3	L: イディオムの音 ・ Short Talk /Quiz 3 ニュースの英語			
第6回	L 4	R: 接続詞 ・ Reading 4 慣用句			
第7回	L 5	L: 消える音 弱い音 Short Talk / Quiz 5 ナチュラルスピード			
第8回	L 6	R: 文型 サブジェクト / Reading / Main Idea を捉える。			
第9回	L 7	L: つながる音 Short Talk / Quiz 6 / 感情の表現			
第10回	L 8	R: 現在時制 ・ Reading C / Quiz 7 時系列を意識した読み方			
第11回	L 9	L: 応答の予測 ・ Short Talk / Quiz 8 あいづちの色々			
第12回	L 10	R: 過去時制 ・ Reading C / Funny story を読む。			
第13回	L 11	L: 有声化する音・ Short Talk / 区別の困難な表現を理解する。			
第14回	L 12	R: 関係詞 Reading C / 修飾句を多用した文を読み取る。			
第15回	Consolidation	前期の学習のまとめ及び到達度のチェック。			

経済

授業番号	B202020001				
科目名 (英語表記)	TOEIC 向上講座 II (TOEIC? Support lecture)				
担当者 (英語表記)	田 文揚 (Fumiaki Den)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの英語学習を更に発展させ、より高度な文章の LISTENING 力 Reading 力の涵養を目指す。</li> <li>TOEIC テストの PART 1 から PART 7 までの各パートの問題形式への理解を深めると共に素早く応答できる能力を習得する。</li> <li>TOEIC スコア 700 点代を目指す。</li> </ul>				
授業の進め方 (履修条件など)	TOEIC テストの形式で編集されたテキストを主に用いて各テーマ・トピックスごとの設問に答えることを通して、LISTENING や READING の力を養う。また、定期的に単語テストや小テストを実施する。				
成績評価方法	小テスト及び単語テスト (予定表別紙) イディオムテスト [70%]・授業参加態度 [30%]				
基準					
授業の予習・復習	各レッスン未知の単語やイディオム及び、不確かな文法事項を下調べする。既習事項を付属の CD を用いて反習する。また、配布されたプリント教材に取り組む。				
教科書	TOEIC Test : Subjects and Strategies 三原 京/Jim Knudsen 南雲堂 その他開発教材・ニュース、文法資料。				
参考文献	必要に応じて適宜指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	GUIDANCE & ORIENTATION INTRODUCTION & TACTICS	講座の進め方及び評価受講要領に関する説明。最新のニュース記事			
第 2 回	TOEIC テストの到達度を知る。	TOEIC テスト攻略の Strategies・簡易 TOEIC テストで到達度を計る。			
第 3 回	LESSON 1 3	Listening: パーティを開く・Short Talk / Quiz 咄嗟の一言。			
第 4 回	L 14	READING : 使役動詞と知覚動詞・ Reading Comprehension 1 1			
第 5 回	L 15	L : 現代生活 ・ Short Talk / Renting / Quiz 1 0 / ニュースの英語			
第 6 回	L 16	R : 仮定法 ・ Reading C ・エドワード デノボを読む。			
第 7 回	L 17	L : 区別しにくい音 弱い音 Short Talk / Quiz 1 3 / 否定表現。			
第 8 回	L 18	R : 比較 ・ / Reading / Main Idea を捉える。比喩表現。			
第 9 回	L 19	L : カタカナ英語の聞き取り ・ Short Talk / Quiz 1 4 / 依頼の表現。			
第 10 回	L 20	R : 代名詞 ・ Reading C / Quiz 1 5 / 論説文を読む。			
第 11 回	L 21	L : 家庭生活 ・ Short Talk / Quiz 1 6 / 放送の英語を理解する。			
第 12 回	L 22	R : 形容詞 ・ Reading C / 書類の英語を読む。Funny story を読む。			
第 13 回	L 23	L : 色々な場面でのスピーチ・Short Talk / I d e o m T e s t			
第 14 回	L 24	R : 未来時制 Reading C / Mystery を読む。理解度テスト。			
第 15 回	Consolidation	後期及び 1 年間の学習のまとめと到達度のチェック。			

経済

授業番号	B201690001				
科目名 (英語表記)	VBプログラミング (VB programming)				
担当者 (英語表記)	小林 忠 (Tadashi Kobayashi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	基本的な制御文、配列、ファイルの取扱い等を確認に理解し、簡単なプログラムが作れるようになることを目的とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	受講者は「プログラミング入門」を履修済みのこと。初回または二回目の講義に必ず出席すること。尚、受講者は15名以内とします。 言語はVBを使用し、コードモジュールを完成するだけで動作する環境を用意します。				
成績評価方法	試験成績 50%、授業参加態度 50%				
基準					
授業の予習・復習	予習：前回の授業で強調した箇所を確り復習して、授業に臨んで下さい。 復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。				
教科書	プリントを用意します。				
参考文献	林晴比古著『新 VisualBasic 入門』ソフトバンク				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	プログラミング	万年暦を作る (1)			
第2回	プログラミング	万年暦を作る (2)			
第3回	プログラミング	万年暦を作る (3)			
第4回	プログラミング	乱数を作る (1)			
第5回	プログラミング	乱数を作る (2)			
第6回	プログラミング	乱数を作る (3)			
第7回	プログラミング	有理数の循環小数表示 (1)			
第8回	プログラミング	有理数の循環小数表示 (2)			
第9回	プログラミング	有理数の循環小数表示 (3)			
第10回	プログラミング	順列組合せのファイル作成 (1)			
第11回	プログラミング	順列組合せのファイル作成 (2)			
第12回	プログラミング	順列組合せのファイル作成 (3)			
第13回	プログラミング	巡回セールスマン問題 (1)			
第14回	プログラミング	巡回セールスマン問題 (2)			
第15回	プログラミング	巡回セールスマン問題 (3)			

# 経済

授業番号	B201550001				
科目名 (英語表記)	アジア経済論 (Asia economy theory)				
担当者 (英語表記)	中川 雅彦 (Masahiko Nakagawa)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済発展論での重要な諸概念を日本や韓国、その他アジア諸国の例によって解説する。				
授業の進め方 (履修条件など)	シラバスにしたがって、講義をすすめることを原則とする。				
成績評価方法	定期試験 (100%)				
基準	・資料持込み可の試験とする。また、授業における有益な質問や意見などの授業参加態度は成績に加味する。				
授業の予習・復習	予習：『日本経済新聞』に目を通しておくことが望ましい。 復習：授業中に文献について案内する。				
教科書	なし				
参考文献	山本 茂美 『あゝ野麦峠』 ガーシェンクロン 『後発工業国の経済史』 中川 雅彦 『朝鮮社会主義経済の理想と現実』				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション			
第2回	二重経済論 (1)	ルイス理論とその例			
第3回	" (2)	ルイス理論とその例			
第4回	後発性優位論	ガーシェンクロン理論とその例			
第5回	輸入代替論	輸入代替工業化の諸例とその結果			
第6回	複線型発展論	韓国の工業化の例			
第7回	生産サイクル論	直接投資の役割			
第8回	従属論	従属の事例			
第9回	社会主義工業化	自力更生と改革・開放			
第10回	経済発展と文化変容 (1)	福沢諭吉の脱亜入欧			
第11回	" (2)	伝統社会と近代社会			
第12回	経済発展と教育	高学歴化とその問題点			
第13回	まとめ	まとめ			
第14回	討論 (1)	討論 (1)			
第15回	討論 (2)	討論 (2)			

# 経済

授業番号	B202340001		
科目名 (英語表記)	アジアの工業立地 (Industrial location of Asia)		
担当者 (英語表記)	青木 英一 (Hidekazu Aoki)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	現実の工業立地がどのようにして決定されたのかを知り、立地論の理論通りに説明できる場合と説明できない場合があることを具体例を通して学びます。日本を含むアジアの工業立地を事例にして学びます。アジアの工業立地の実態を正しく理解できるようにすることが目標です。		
授業の進め方 (履修条件など)	配付資料をもとにして、日本やアジアの工業立地を具体的に検討します。日本では各工業ごとに、アジアでは各地域ごとに説明します。日本ではソニー、トヨタなど企業の立地事例を通して、解りやすく説明します。		
成績評価方法	定期試験 (50%) と平常点 (50%、コメントカードの内容による) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	参考文献などを利用して予め各工業・各地域の立地の特色をつかんでおき、授業後はノートや配布資料をよく見直しておくこと。		
教科書	使用しません。毎時間プリントを配布します。		
参考文献	渡辺利夫編「アジア経済読本 (第4版)」東洋経済新報社 上野和彦編「中国 (世界地誌シリーズ2)」朝倉書店		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、授業の受け方、参考文献の解説	
第2回	アジアにおける工業の特質	過去と現在の比較、世界との比較	
第3回	日本における工業立地 (1)	鉄鋼業、事例企業研究 (新日本製鐵)	
第4回	日本における工業立地 (2)	電気機械工業、事例企業研究 (ソニー)	
第5回	日本における工業立地 (3)	自動車工業、事例企業研究 (トヨタ)	
第6回	日本における工業立地 (4)	食料品工業	
第7回	日本における工業立地 (5)	繊維工業	
第8回	中国における工業立地 (1)	経済改革以前の立地	
第9回	中国における工業立地 (2)	鉄鋼業	
第10回	中国における工業立地 (3)	自動車工業	
第11回	中国における工業立地 (4)	立地の地域的特質	
第12回	その他のアジア諸国における工業立地 (1)	韓国における工業立地	
第13回	その他のアジア諸国における工業立地 (2)	タイにおける工業立地	
第14回	その他のアジア諸国における工業立地 (3)	インドにおける工業立地	
第15回	まとめ	授業内容のまとめ	

# 経済

授業番号	B202410001		
科目名 (英語表記)	アジアの地理 (Geography of Asia)		
担当者 (英語表記)	青木 英一 (Hidekazu Aoki)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	近年、アジアの経済は世界経済をリードしています。日本企業は多数アジア各地に進出しており、日本にも多くのアジア企業が進出しています。その割に私たち日本人はアジアのことを知りません。また、留学生も日本のことを深くは知りません。この講義は日本のことやアジアのことを、地理的な面から理解してもらうことを目的にしています。		
授業の進め方 (履修条件など)	毎時間パワーポイントを使用して授業を行います。最初はアジア全体の地理的特色から入り、次いで日本の地理、中国の地理、その他のアジア諸国の地理について説明します。内容は、自然環境、人口、民族、産業などです。		
成績評価方法	定期試験 (50%)、平常点 (50%、毎時間提出してもらうコメントカードの内容による) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予め参考文献や地図帳を利用して、各国の状況を把握するとともに、授業後は配付資料やノートなどにより必ず復習すること。		
教科書	使用しません。資料を配付します。		
参考文献	青木英一・北村嘉行「世界を読む 改訂版」原書房 上野和彦編「中国 (世界地誌シリーズ 2)」朝倉書店 二宮書店「データブック オブ・ザ・ワールド」二宮書店		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、授業の受け方、参考文献の解説	
第 2 回	アジア地域の地理的特質 (1)	位置、自然環境	
第 3 回	アジア地域の地理的特質 (2)	人口と民族	
第 4 回	アジア地域の地理的特質 (3)	生産と消費	
第 5 回	日本の地理 (1)	地体構造、地形	
第 6 回	日本の地理 (2)	気候、水	
第 7 回	日本の地理 (3)	大都市圏と地方圏	
第 8 回	日本の地理 (4)	人口移動	
第 9 回	中国の地理 (1)	自然環境	
第 10 回	中国の地理 (2)	人口と民族	
第 11 回	中国の地理 (3)	産業と開発	
第 12 回	その他のアジア諸国の地理 (1)	韓国の自然と産業構造	
第 13 回	その他のアジア諸国の地理 (2)	東南アジア諸国の自然と産業構造	
第 14 回	その他のアジア諸国の地理 (3)	インドの自然と産業構造	
第 15 回	まとめ	授業内容のまとめ	

# 経済

授業番号	B202310001				
科目名 (英語表記)	アジアビジネス論 (Asia business theory)				
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	アジアは、グローバル化が進むなかで、対外貿易と海外投資に大きく門戸を開きながら発展を続けてきた地域です。本講義は、文化的にも経済的にも多様性に富んでいるアジア各国の相互関係、各国が歩んできた成長経路と直面している課題、そして、今後の発展方向についての理解を深めることを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業は講義形式でおこないます。パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で講義し、必要に応じて、ケーススタディのためのビデオ教材を用います。				
成績評価方法	中間レポート (40%)、定期試験 (60%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の進行に合わせ参考文献を読んでおくことをおすすめします。 復習：前回の講義資料を再読しておくことをおすすめします。				
教科書	特にありません。毎回必要な資料を作成し講義します。				
参考文献	渡辺利夫編『アジア経済読本 第4版』東洋経済新報社、2009年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方についての説明			
第2回	日本	アジアにおける日本経済の現状；主要業種の競争力			
第3回	NIES	受託製造によって支えられる台湾の産業構造			
第4回	NIES	香港の変容する自由放任主義			
第5回	NIES	都市国家シンガポールの開発体制			
第6回	韓国	韓国型経済システムの形成と変化			
第7回	韓国	通貨危機と構造改革			
第8回	韓国	グローバル化とIT革命			
第9回	東南アジア	タイの経済発展戦略			
第10回	東南アジア	多民族国家マレーシアの新工業国への構造変化			
第11回	東南アジア	インドネシア経済成長の新基盤			
第12回	アジア社会主義国	中国の市場経済システム			
第13回	アジア社会主義国	ベトナムの構造変化と脆弱性の克服課題			
第14回	インド亜大陸	台頭するインドのグローバル・パワー			
第15回	インド亜大陸	バングラデシュの産業構造と経済成長			

# 経済

授業番号	B201510001		
科目名 (英語表記)	アメリカ経済論 I (U.S. Economy I)		
担当者 (英語表記)	牧野 俊重 (Toshishige Makino)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	アメリカ資本主義の発展過程を概観し、現代アメリカ経済の歴史的基礎、プログレッシブ・ムーヴメントとニュー・ディールの歴史的意義について解説し、現代アメリカ資本主義の特質を理解せしめる。		
授業の進め方 (履修条件など)	口授と黒板利用による。時にコピーを配布する。ノートを用意して毎回出席すること。		
成績評価方法	定期試験 100%		
基準			
授業の予習・復習	毎回、キーワードや敷衍して学ぶべき関連事項について言及するので、それらを調べながら復習を行い、幅広く知識を広げ理解して欲しい。		
教科書	使用しない。		
参考文献	<p>ハロルド・U・フォークナー著 小原敬士訳『アメリカ経済史』至誠堂</p> <p>高木八尺 著『近代アメリカ政治史』岩波書店</p> <p>アメリカ経済研究会編『ニューディールの経済政策』慶応通信</p> <p>古米淑郎編『第二次大戦後のアメリカ経済』ミネルヴァ書店</p> <p>榊原・藤原・馬場 共著『アメリカ経済をみる眼』有斐閣新書</p> <p>林 敏彦 著『大恐慌のアメリカ』岩波書店</p> <p>その他については講義中随時紹介する。</p>		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業の方針と進め方、評点等について	
第 2 回	アメリカの産業革命	アンティ・ベラム期の工業化	
第 3 回	アメリカの産業革命	その要因	
第 4 回	南北戦争	経済的原因とその結果	
第 5 回	ダイナミックな経済発展	ビッグ・ビジネスの成立	
第 6 回	ダイナミックな経済発展	政府の果たした役割	
第 7 回	ダイナミックな経済発展	資本主義的発展がもたらした欠陥と弊害	
第 8 回	改革の時代 (I)	プログレッシブ・ムーヴメントの性格	
第 9 回	改革の時代 (I)	プログレッシブ・ムーヴメントの性格	
第 10 回	第一次世界大戦と 1920 年代	アメリカの参戦と 20 年代の経済	
第 11 回	改革の時代 (II)	大恐慌とニュー・ディール	
第 12 回	改革の時代 (II)	大恐慌とニュー・ディール	
第 13 回	第二次世界大戦と戦後	第二次大戦とアメリカ	
第 14 回	第二次世界大戦と戦後	大戦後の経済発展	
第 15 回	第二次世界大戦と戦後	世界経済とアメリカ	



# 経済

授業番号	B201520001				
科目名 (英語表記)	アメリカ経済論 II (U.S. Economy II)				
担当者 (英語表記)	牧野 俊重 (Toshishige Makino)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済にウェイトを置きながら、地域研究・総合研究の視点からアメリカのアメリカ的なもの (本質・特性) について考察する。				
授業の進め方 (履修条件など)	口授と黒板利用による。時にコピーを配布する。ノートを用意して毎回出席すること。				
成績評価方法	定期試験 100%				
基準					
授業の予習・復習	毎回、キーワードや敷衍して学ぶべき関連事項について言及するので、それらを調べながら復習を行い、幅広く知識を広げ理解して欲しい。				
教科書	使用しない。				
参考文献	前期の参考文献の項に同じ。参照されたい。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の方針等と進め方、評点等について			
第 2 回	アメリカの地域研究・総合研究	イギリスの重商主義政策・独立・国家の性格			
第 3 回	アメリカの地域研究・総合研究	イギリスの重商主義政策・独立・国家の性格			
第 4 回	アメリカの地域研究・総合研究	アメリカの自然と人文			
第 5 回	アメリカの地域研究・総合研究	アメリカの自然と人文			
第 6 回	アメリカの地域研究・総合研究	西部とフロンティア			
第 7 回	アメリカの地域研究・総合研究	西部とフロンティア			
第 8 回	アメリカの地域研究・総合研究	アメリカ経済史の特殊性			
第 9 回	アメリカの地域研究・総合研究	アメリカ経済史の特殊性			
第 10 回	アメリカの地域研究・総合研究	新大陸の意味するもの			
第 11 回	アメリカの地域研究・総合研究	新大陸の意味するもの			
第 12 回	アメリカの地域研究・総合研究	多民族的国民の統一の問題と先住民インディアン			
第 13 回	アメリカの地域研究・総合研究	アメリカのビジネス風土			
第 14 回	アメリカの地域研究・総合研究	アメリカのビジネス風土			
第 15 回	アメリカの地域研究・総合研究	アメリカ経済の現状			

経済

授業番号	B200280001				
科目名 (英語表記)	英会話 I (English conversation I)				
担当者 (英語表記)	Scot Hill (Scot Hill)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This is a course for high beginners. It will include study in speaking, listening, vocabulary and grammar. Class work will be interactive and students will be expected to work together in pairs as well as individually.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should have a basic high school level knowledge of English.				
成績評価方法	Evaluation will be based on attendance, class participation and tests.				
基準					
授業の予習・復習	Students can prepare by reading lessons beforehand and looking up vocabulary.				
教科書	English FIRSHAND 1 (The New English Firsthand Series) by Helgesen, Brown and Wiltshier Pearson Longman (ISBN 978-988-00-3059-8)				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	greetings	meeting people			
第 2 回	sharing information	giving personal information			
第 3 回	describing people	appearance adjectives; personal schedules			
第 4 回	simple present tense	talking about family and friends			
第 5 回	daily activities and routines	personal schedules; how often			
第 6 回	daily activities	making a date; adverbs of frequency			
第 7 回	review	review Units 1-3			
第 8 回	test	Units 1-3			
第 9 回	locations	furniture, household items			
第 10 回	locations	prepositions with "There is" and "There are"; describing places			
第 11 回	directions	giving directions; following a map			
第 12 回	directions	asking for directions; prepositions			
第 13 回	talking about the past	important life events and past activities			
第 14 回	talking about the past	talking about experiences; time expressions; irregular verbs			
第 15 回	test	Units 4-6			

経済

授業番号	B200290001				
科目名 (英語表記)	英会話 II (English conversation I I)				
担当者 (英語表記)	Scot Hill (Scot Hill)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This is a course for high beginners. It will include study in speaking, listening, vocabulary and grammar. Class work will be interactive and students will be expected to work together in pairs as well as individually.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should have a basic high school level knowledge of English.				
成績評価方法	Evaluation will be based on attendance, class participation and tests.				
基準					
授業の予習・復習	Students can prepare by reading lessons beforehand and looking up vocabulary.				
教科書	English FIRSTHAND 1 (The New English Firsthand Series) by Helgesen, Brown and Wiltshier Pearson Longman (ISBN 978-988-00-3059-8)				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	introduction	greetings			
第 2 回	occupations	talking about types of jobs			
第 3 回	occupations	interviewing for a job; job skill information			
第 4 回	entertainment	situations and times; making a plan			
第 5 回	entertainment	planning a perfect day; verb patterns for invitations			
第 6 回	future	future plans and activities			
第 7 回	future / review	predicting the future; making a travel plan; review Units 7-9			
第 8 回	test	Units 7-9			
第 9 回	shopping	clothing, electronics and personal items; prices			
第 10 回	shopping	asking questions at a shop; comparatives			
第 11 回	processes	describing a process; food and cooking words			
第 12 回	processes	asking for advice; origami; imperatives			
第 13 回	music	giving opinions			
第 14 回	music / review	music preferences; simple past and present perfect; review Units 10-12			
第 15 回	test	Units 10-12			

経済

授業番号	B200300001				
科目名 (英語表記)	英会話 III (English conversation I I I)				
担当者 (英語表記)	Scot Hill (Scot Hill)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This is an intermediate course in English speaking. It will include study in speaking, listening, vocabulary and grammar. Class work will be interactive, and students will be expected to work together in pairs as well as individually.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should have basic English conversation ability and should have completed Speaking I and Speaking II.				
成績評価方法	Evaluation will be based on classroom work and tests.				
基準					
授業の予習・復習	Students should prepare by reading lessons before class and being familiar with the vocabulary in each lesson. Bringing a dictionary to class is recommended.				
教科書	English FIRSHAND 2				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction 1	Introductions and greetings			
第 2 回	Introduction 2	Question and answer practice			
第 3 回	Relationships 1	Interviewing			
第 4 回	Relationships 2	Verb tense review			
第 5 回	Emotions 1	Sharing news			
第 6 回	Emotions 2	If / will be / feelings			
第 7 回	Places and Travel 1	Understanding topics / planning a vacation			
第 8 回	Places and Travel 2	Comparatives and superlatives			
第 9 回	Test	Test 1-3			
第 10 回	Opinion adjectives	Describing an experience / stating opinions			
第 11 回	Problems and reasons 1	Reasons and responses			
第 12 回	Problems and reasons 2	Borrowing things / cause and effect clauses			
第 13 回	Symbols and traditions 1	Describing a trip / discussing your own culture			
第 14 回	Symbols and traditions 2	Relative pronouns and adjective clauses			
第 15 回	Test	Test 4-6			

経済

授業番号	B200310001				
科目名 (英語表記)	英会話 IV (English conversation I V)				
担当者 (英語表記)	Scot Hill (Scot Hill)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This is an intermediate course in English speaking. It will include speaking, listening, vocabulary and grammar. Class work will be interactive, and students will be expected to work together in pairs as well as individually.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should have basic English conversation ability and should have completed Speaking I and Speaking II. This course is a continuation of Speaking III.				
成績評価方法	Evaluation will be based on classroom work and tests.				
基準					
授業の予習・復習	Students should prepare by reading lessons before class and being familiar with the vocabulary in each lesson. Bringing a dictionary to class is recommended.				
教科書	English FIRSHAND 2				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction 1	Introductions and greetings			
第 2 回	Introduction 2	Question and answer practice			
第 3 回	Experiences and past events 1	Talking about personal experiences			
第 4 回	Experiences and past events 2	Irregular past tense verbs			
第 5 回	Leisure time activities 1	Planning a party			
第 6 回	Leisure time activities 2	Auxiliary verbs / vocabulary			
第 7 回	Personal problems 1	Making decisions			
第 8 回	Personal problems 2	Unreal conditional verbs / advice			
第 9 回	Test	Test 7-9			
第 10 回	Storys	Describing something / simple past and past continuous verbs			
第 11 回	World issues 1	Discussing controversial topics			
第 12 回	World issues 2	Giving opinions / present perfect tense			
第 13 回	Dreams and goals 1	Understanding goals and identifying actions			
第 14 回	Dreams and goals 2	Discussing future events / verbs: will and be going to			
第 15 回	Test	Test 10-12			

経済

授業番号	B200100001				
科目名 (英語表記)	英語 I (English I)	(1)			
担当者 (英語表記)	伊東 隆子 (Takako Ito)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	国際ビジネスの分野での活躍のために、英語の基礎力を強化しつつ、TOEIC の学習を促す。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回前回の授業の復習問題と英作文を配布の用紙 (授業終了時に回収) に記入し、テキストに沿って授業を進める。TOEIC テストで要求される Listening, Grammar, reading の各分野を TOEIC テストで頻出のトピックの内容に触れながら学習していく。				
成績評価方法	定期試験、授業参加態度、課題提出				
基準					
授業の予習・復習	毎回授業開始後、前回の授業の復習問題を配布の用紙に記入し提出してもらいます。授業後半に簡単な予習も行います。				
教科書	The New Stage to the TOEIC Test Basic (金星堂)				
参考文献	徹底攻略 TOEIC TEST 単語 (テイエス企画)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業内容と授業の進め方成績評価などの説明			
第 2 回	unit 1 ( 旅行・出張 文の構成要素)	Warm-up, Listening(Part 1~VI)			
第 3 回	unit 1	Grammar Focus , Reading(Part V~VII)			
第 4 回	unit 2 ( 電話応対 8 品詞)	Warm-up, Listening( Part 1~IV)			
第 5 回	unit 2	Grammar, Reading( Part V~VII)			
第 6 回	unit 3 ( 銀行・金融 5 文型)	Warm-up ,Listening( Part 1 ~IV)			
第 7 回	unit 3	Grammar, Reading( Part V~VII)			
第 8 回	unit 4 ( 看板・標識 自動詞と他動詞)	Warm-up , Listening( Part 1~IV)			
第 9 回	unit 4	Grammar , Reading( Part V~VII)			
第 10 回	unit 5 ( 健康・病気 名詞)	Warm-up, Listening ( Part 1~IV)			
第 11 回	unit 5	Grammar, Reading( Part V~VII)			
第 12 回	unit 6 ( 料理・レストラン 代名詞)	Warm-up, Listening( Part 1~IV)			
第 13 回	unit 6	Grammar, Reading( Part V~VII)			
第 14 回	前期授業のまとめ	unit 1~6 までの重要英文事項のまとめ (配布用紙に記入し、提出する)			
第 15 回	前期授業のまとめと質疑応答	前期授業の需要英文事項のまとめとそれらに関する質疑応答			

経済

授業番号	B200100002				
科目名 (英語表記)	英語 I (English I)	(2)			
担当者 (英語表記)	武井 みち子 (Michiko Takei)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	文法の理解に重点を置き、英語の基礎力を習得します。				
授業の進め方 (履修条件など)	文法解説後、学生が多数の練習問題を解き、英文を書いたり読んだりする力がつくように指導します。				
成績評価方法	定期試験、授業への積極的参加度、課題提出で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：分からない単語を調べて授業に参加してください。 復習：文法事項の確認。				
教科書	「English Primer」 南雲堂				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	発音	発音とアクセントの学習			
第 2 回	英語の基本文型	英語の語順の学習			
第 3 回	Unit 1	be 動詞			
第 4 回	Unit 2	一般動詞 ( 現在 )			
第 5 回	Unit 3	一般動詞 ( 過去 )			
第 6 回	Unit 4.	進行形			
第 7 回	Unit 5	未来形			
第 8 回	Unit 16	現在完了形			
第 9 回	復習	英語の時 ( 現在 過去 未来 現在完了 ) の復習			
第 10 回	Unit 6	助動詞			
第 11 回	Unit 7	名詞・冠詞			
第 12 回	Unit 8	代名詞			
第 13 回	Unit 9	前置詞			
第 14 回	Unit 10	形容詞・副詞			
第 15 回	総復習	復習および試験の対策			

経済

授業番号	B200100003				
科目名 (英語表記)	英語 I (English I)	(3)			
担当者 (英語表記)	内野 泰子 (Yasuko Uchino)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	国際コミュニケーションのための英語力を身につけることを目指し、基本文法の復習に加えて、聞く、話す、読む、書くの4技能が向上する様々なアクティビティを通じた多角的学習を行います。				
授業の進め方 (履修条件など)	英語を使えるようになることを目指し、ペア・ワークなどを行いながら、楽しく学習することを目指します。教科書に加えて、ビデオ教材を使用し理解を深めます。				
成績評価方法	平常点 50 パーセント、期末テスト 50 パーセントで評価します。				
基準					
授業の予習・復習	授業内で指示しますので、指示に必ず従って授業にのぞんで下さい。				
教科書	English Ace ( コミュニケーションのための実践基礎英語)、A. Yamamoto, N. Osuka, C. Mano, K. Okamoto, B. Rowlett, 成美堂				
参考文献	授業内で指示				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Unit 1	be 動詞			
第 2 回	Unit 1	故郷を紹介しよう			
第 3 回	Unit 2	一般動詞			
第 4 回	Unit 2	趣味もいろいろ			
第 5 回	Unit 3	名詞、代名詞			
第 6 回	Unit 3	買い物に行くならどこ？			
第 7 回	Unit 4	Wh 疑問文			
第 8 回	Unit 4	クイズに挑戦			
第 9 回	Unit 5	前置詞			
第 10 回	Unit 5	理想的な住まいとは？			
第 11 回	Unit 6	接続詞			
第 12 回	Unit 6	好きな食べ物は何？			
第 13 回	Unit 7	過去形			
第 14 回	Unit 7	デートは最初が肝心			
第 15 回	前期のまとめ	Unit 1-7 のまとめ			



経済

授業番号	B200100004				
科目名 (英語表記)	英語 I (English I)	(4)			
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	基礎的な文法事項を復習した上で実際に「使える」英語力を養うためにリスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの4技能を総合的に鍛えていきます。自分の言いたいことが表現でき相手の言いたいことが理解できるようなコミュニケーションの道具としての英語力を養うことを目的とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストの各ユニットのテーマの関連語彙と重要文法事項を演習を通じて確認した後会話練習を行います。そのユニットで学んだ文法事項を多く含むリーディングの演習を行った後、それを使ってテーマに沿った内容の英文を書きます。授業はペアワークやグループワークが中心となりますので積極的に取り組んでください。				
成績評価方法	単語テスト及び授業内演習 40%、期末テスト 60%				
基準					
授業の予習・復習	予習：わからない単語の意味を調べておいてください。 復習：各ユニットで読んだリーディングのテキストを再読してください。				
教科書	山本厚子 『Living Grammar コミュニケーションのためのベーシック・グラマー』 成美堂				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	Introduction	ガイダンス、発音練習 (母音 I)			
第2回	Unit 1	発音練習 (子音 I)、be 動詞			
第3回	Unit 1	発音練習 (子音 II)、be 動詞			
第4回	Unit 2	発音練習 (母音 II)、一般動詞 (1) 自動詞・他動詞			
第5回	Unit 2	一般動詞 (1) 自動詞・他動詞			
第6回	Unit 3	一般動詞 (2) 二重目的語、目的語と補語をとる動詞			
第7回	Unit 4	人称代名詞			
第8回	Unit 5	Wh- 疑問文			
第9回	Unit 6	過去形			
第10回	Unit 7	現在完了形 (1) 継続			
第11回	Unit 8	現在完了形 (2) 経験・完了			
第12回	Unit 9	進行形 (現在進行形、過去進行形)			
第13回	Unit 10	未来表現 (be going to, will)			
第14回	Review 1	前期文法事項まとめ			
第15回	Review 2	期末テスト対策			

経済

授業番号	B200100005				
科目名 (英語表記)	英語 I (English I)			(5)	
担当者 (英語表記)	田 文揚 (Fumiaki Den)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	これまでの学習の中で見落としや、理解が不十分な学習項目について英語力を補強する。より多様でしかもタイムリーな教材を用い、読む力・聴く力を中心に英語力の涵養をめざす。				
授業の進め方 (履修条件など)	TOEIC テストの形式で編集されたテキストを主に用いて、各テーマ、トピックスごとの設問に答えることを通して listening や reading の力を養う。また、定期的に課ごとに小テストを実施し習熟度を確認する。				
成績評価方法	定期テスト (50%)・授業内小テスト (10%)・レポート及びその他の課題 (10%) にて評価。				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習 各チャプターの中の未知の単語やイディオム及び、不確かな文法事項を下調べする。</p> <p>復習 既習事項を付属のCDを用いて反芻する。また、配布したプリント教材を再度一読する。</p>				
教科書	"Essential Approach for the TOEIC TEST" 成美堂 大須賀直子・塚野壽一				
参考文献	授業の進行に従い、適宜創作教材や投げ込み教材 (創作教材・ニュース記事・文法資料) を配布する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	講義に関するガイダンス。	講義の進め方と評価、受講要領の説明。次週実施予定のミニテストの概要説明。			
第2回	ミニ (簡易) TOEIC TEST.	簡易 TOEIC TEST を実施後解答及び解説をする。			
第3回	UNIT 1	聴き取る技術 : 音の変化と音の脱落。			
第4回	UNIT 2	聴き取る技術 : ナチュラルスピード・名詞。			
第5回	UNIT 2	聴き取る技術 : 子音と母音の連結・発音記号。			
第6回	UNIT 2	聴き取る技術 : 紛らわしい音・冠詞・形容詞。			
第7回	UNIT 3	読み取る技術 : 語義・品詞。			
第8回	UNIT 3	読み取る技術 : 分の構造・副詞。			
第9回	UNIT 4	読み取る技術 : パラグラフ・大意把握。			
第10回	UNIT 4	読み取る技術 : 主題の発見・比較。			
第11回	UNIT 5	書き取る技術 : 作文の基礎ルール。			
第12回	UNIT 5	書き取る技術 : 作文の実際・動詞と時。			
第13回	UNIT 6	書き取る技術 : Eメールの作文表現。			
第14回	UNIT 6	書き取る技術 : 履歴書の作成。			
第15回	Review & Consolidation [ 講義のまとめ ]	これまでの学習の復習とまとめ。			

経済

授業番号	B200100006				
科目名 (英語表記)	英語 I (English I)			(6)	
担当者 (英語表記)	田 文揚 (Fumiaki Den)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	これまでの学習の中で見落としや、理解が不十分な学習項目について英語力を補強する。より多様でしかもタイムリーな教材を用い、読む力・聴く力を中心に英語力の涵養をめざす。				
授業の進め方 (履修条件など)	TOEIC テストの形式で編集されたテキストを主に用いて、各テーマ、トピックスごとの設問に答えることを通して listening や reading の力を養う。また、定期的に課ごとに小テストを実施し習熟度を確認する。				
成績評価方法	定期テスト (50%)・授業内小テスト (10%)・レポート及びその他の課題 (10%) にて評価。				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習 各チャプターの中の未知の単語やイディオム及び、不確かな文法事項を下調べする。</p> <p>復習 既習事項を付属のCDを用いて反芻する。また、配布したプリント教材を再度一読する。</p>				
教科書	"Essential Approach for the TOEIC TEST" 成美堂 大須賀直子・塚野壽一				
参考文献	授業の進行に従い、適宜創作教材や投げ込み教材 (創作教材・ニュース記事・文法資料) を配布する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	講義に関するガイダンス。	講義の進め方と評価、受講要領の説明。次週実施予定のミニテストの概要説明。			
第2回	ミニ (簡易) TOEIC TEST.	簡易 TOEIC TEST を実施後解答及び解説をする。			
第3回	UNIT 1	聴き取る技術 : 音の変化と音の脱落。			
第4回	UNIT 2	聴き取る技術 : ナチュラルスピード・名詞。			
第5回	UNIT 2	聴き取る技術 : 子音と母音の連結・発音記号。			
第6回	UNIT 2	聴き取る技術 : 紛らわしい音・冠詞・形容詞。			
第7回	UNIT 3	読み取る技術 : 語義・品詞。			
第8回	UNIT 3	読み取る技術 : 分の構造・副詞。			
第9回	UNIT 4	読み取る技術 : パラグラフ・大意把握。			
第10回	UNIT 4	読み取る技術 : 主題の発見・比較。			
第11回	UNIT 5	書き取る技術 : 作文の基礎ルール。			
第12回	UNIT 5	書き取る技術 : 作文の実際・動詞と時。			
第13回	UNIT 6	書き取る技術 : Eメールの作文表現。			
第14回	UNIT 6	書き取る技術 : 履歴書の作成。			
第15回	Review & Consolidation [ 講義のまとめ ]	これまでの学習の復習とまとめ。			

経済

授業番号	B200100007		
科目名 (英語表記)	英語 I (English I)	(留)	
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	この授業は留学生を対象として、基本的な文法事項を復習しながらスピーキングやリーディングの演習を通じて総合的な英語力の向上を測ります。This class aims to improve international students' listening, speaking, reading and writing skills in English through pair or group work..		
授業の進め方 (履修条件など)	テキストの各ユニットごとのトピックと文法事項に基づいた会話練習、文法問題演習、リーディング演習をペアワークやグループワークを通じて行います。授業はインタラクティブなものになりますので積極的に参加するようにしてください。 Students will learn grammar and practice conversations based on the topic from each unit of the textbook. Focus will be on pair or group work.		
成績評価方法	授業内演習 40%、期末テスト 60%		
基準	Class activities 40%, Final Exam 60%		
授業の予習・復習	予習：わからない単語の意味を調べておいてください。 復習：授業内で使った表現やリーディングのテキストをもう一度読んでください。 Preparation for a class looking up the words and the review of each lesson are required.		
教科書	Jack C. Richards 『Interchange 1 Student's Book with Self-study DVD-ROM Forth Edition』 Cambridge		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	Introduction, Unit 1	Guidance, Introducing yourself	
第 2 回	Unit 1	Possessive adjectives, the verb be, affirmative statements and contractions	
第 3 回	Unit 2	Articles, plurals, prepositions of place	
第 4 回	Unit 2	Articles, plurals, prepositions of place	
第 5 回	Unit 3	The verb be	
第 6 回	Unit 3	The verb be	
第 7 回	Unit 4	Possessives, present continuous statements, conjunctions	
第 8 回	Unit 4	Possessives, present continuous statements, conjunctions	
第 9 回	Unit 5	Time expressions, present continuous Wh-questions	
第 10 回	Unit 5	Time expressions, present continuous Wh-questions	
第 11 回	Unit 6	Simple present statements with regular and irregular verbs	
第 12 回	Unit 6	Simple present statements with regular and irregular verbs	
第 13 回	Unit 7	Simple present short answers	
第 14 回	Unit 7	Simple present short answers	
第 15 回	Review	Reviewing	

経済

授業番号	B200100008		
科目名 (英語表記)	英語 I (English I)	R(a)	
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	基礎的な文法事項を一から復習し「使える」英語を身に付けるための礎を築きます。簡単な英文が辞書なしで読めるような語彙力と文法力を養うことを目的とします。		
授業の進め方 (履修条件など)	毎回ひとつの文法事項を解説した後練習問題を通じて定着を図ります。授業の初めに前回学習した文法事項の確認小テストをします。授業後半ではプリントを配りスピーキング・リスニングの演習を行います。		
成績評価方法	小テスト・授業内演習 40%、期末テスト 60%		
基準			
授業の予習・復習	予習：テキストの各ユニット最初のページを読みわからない単語を調べておいてください。 復習：長文問題のテキストを再読してください。		
教科書	佐藤哲三 『English Primer (Revised Edition)』 南雲堂		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	Introduction	ガイダンス	
第 2 回	Unit 1	be 動詞	
第 3 回	Unit 2	一般動詞 (現在)	
第 4 回	Unit 3	一般動詞 (過去)	
第 5 回	Unit 4	進行形	
第 6 回	Unit 5	未来形	
第 7 回	Unit 6	助動詞	
第 8 回	Unit 7	名詞・冠詞	
第 9 回	Unit 8	代名詞	
第 10 回	Unit 9	前置詞	
第 11 回	Unit 10	形容詞・副詞	
第 12 回	Unit 11	比較	
第 13 回	Unit 12	命令文・感嘆文	
第 14 回	Review 1	文法事項まとめ	
第 15 回	Review 2	期末テスト対策	

経済

授業番号	B200100009				
科目名 (英語表記)	英語 I (English I)			R(b)	
担当者 (英語表記)	伊東 隆子 (Takako Ito)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	英語の基礎となる 5 文型を中心に英文の構造並びに各文型の構成要素である品詞の理解を深めていく。さらに、各状況で使用するの英語表現の認識を深めていく。				
授業の進め方 (履修条件など)	はじめの 30 分で前回の授業の復習問題を用紙に記入し、提出する。テキストに沿って授業を進め、ポイント事項を記入し、時には暗記をしていく。授業の進行次第で英語の pun (語呂合わせ) に関するプリントを学習する。				
成績評価方法	定期試験、授業参加態度、課題提出				
基準					
授業の予習・復習	予習では、テキストを読んで分からない英単語や熟語を調べておく。分らない英文には印を付けておく。復習では、テキストを再度読んで内容を理解し、授業でのポイント事項を暗記しておく。				
教科書	A Checkbook for Survival English ( 南雲堂 )				
参考文献	英語日記表現書き込みドリル : アルク社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法・復習問題の扱いなどの説明と自己紹介を所定用紙に記入する。			
第 2 回	Hot Spring Bath	5 文型を中心に温泉 (お風呂) に入るための用語を学習する。			
第 3 回	Taking out of the Garbage	ゴミ出しに関する用語を学習する。			
第 4 回	Sitting for an Exam.	試験に関する用語を学習する。			
第 5 回	Job Interview	面接試験に関する用語を学習する。			
第 6 回	Illness	病気に関する英語表現を学習する。			
第 7 回	A Companion Animal	ペットに関する英語表現を学習する。			
第 8 回	Checking a Schedule	予定を聞く場合の英語表現を学習する。			
第 9 回	Making a Apology	謝罪する場合の英語表現を学習する。			
第 10 回	Dinner	食事に関する英語表現を学習する。			
第 11 回	Proper Clothes to Wear	洋服選びに関する英語表現を学習する。			
第 12 回	英語の pun (語呂合せ) のプリントを使っての 5 文型 (1)	L.H.Hill 氏のテキストから pun (語呂合せ) に関する簡単で面白い話を題材にして、5 文型を学習する。			
第 13 回	英語の pun のプリント (2)	L.H.Hill 氏のテキストから pun に関する簡単で面白い話を題材にして 5 文型の学習する。			
第 14 回	Unit 1~5 までのまとめ。	Unit 1~5 までの授業中でのポイント事項をまとめる。			
第 15 回	Unit 6~10 までのまとめ。	Unit 6~10 までの授業中のポイント事項をまとめる。			

経済

授業番号	B200110001				
科目名 (英語表記)	英語 II (English I I)		(1)		
担当者 (英語表記)	伊東 隆子 (Takako Ito)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	英語の基礎力を強化しつつ、わかりやすく TOEIC の学習を促す。CD-ROM 教材を組み合わせる学習内容を繰り返し復習できさらに発展させていく。				
授業の進め方 (履修条件など)	Listening と Reading Comprehension の問題練習で TOEIC の問題に慣れるように反復練習と重要構文の暗記を促す。				
成績評価方法	定期試験、授業参加態度、課題提出				
基準					
授業の予習・復習	予習でわからない英単語は調べておく。授業中に不明な点は次回の授業で理解できるようによく復習する。				
教科書	The New Stage to the TOEIC Test Basic (金星堂)				
参考文献	TOEIC Test の実践問題集				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	unit 7 ( 天気 形容詞)	Warm-up , Listening(Part 1 ~IV)			
第 2 回	unit 7	Grammar, Reading( Part V~VII)			
第 3 回	unit 8 ( コンピュータ 副詞)	Warm-up, Listening( Part 1~IV)			
第 4 回	unit 8	Grammar, Reading( Part V~VII)			
第 5 回	unit 9 ( 道案内・交通 前置詞 ①)	Warm-up, Listening( Part 1 ~IV)			
第 6 回	unit 9	Grammar , Reading (Part V~VII)			
第 7 回	unit 10 ( 広告 前置詞 ②)	Warm-up, Listening( Part 1~IV)			
第 8 回	unit 10	Grammar, Reading( Part V~VII)			
第 9 回	unit 11( 交渉・取引 冠詞)	Warm-up, Listening( Part 1~IV)			
第 10 回	unit 11	Grammar , Reading( Part V~VII)			
第 11 回	unit 12 ( 組織・人事 助動詞 ① )	Warm-up, Listening( Part 1~IV)			
第 12 回	unit 12	Grammar, Reading( Part V ~VII)			
第 13 回	unit 13 ( オフィスワーク 助動詞 ②)	Warm-up, Listening ( Part 1 ~IV)			
第 14 回	unit 13	Grammar, Reading( Part V ~VII)			
第 15 回	前期授業のまとめと質疑応答	前期の授業中での重要構文の暗記とそれらに対する質疑応答			

経済

授業番号	B200110002				
科目名 (英語表記)	英語 II (English I I)			(2)	
担当者 (英語表記)	武井 みち子 (Michiko Takei)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	文法の理解に重点を置き、英語の基礎力を習得します。				
授業の進め方 (履修条件など)	文法解説後、学生が多数の練習問題を解き、英文を書いたり読んだりする力がつくように指導します。				
成績評価方法	定期試験、授業への積極的参加度、課題提出で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：分からない単語を調べて授業に参加してください。 復習：文法事項の確認。				
教科書	「English Primer」 南雲堂				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Unit 11	比較			
第 2 回	Unit 12	命令文・感嘆文			
第 3 回	Unit 13	接続詞 ( I )			
第 4 回	Unit 14	不定詞 ( I ) 動名詞 ( I )			
第 5 回	Unit 15	受動態			
第 6 回	Unit 17	接続詞 ( II )			
第 7 回	Unit 18	5つの基本文型			
第 8 回	Unit 19	各種疑問文			
第 9 回	Unit 20	不定詞 ( II )			
第 10 回	Unit 21	It の特別用法			
第 11 回	分詞	現在分詞と過去分詞の学習			
第 12 回	Unit 22	分詞・動名詞 ( II )			
第 13 回	Unit 23	関係代名詞			
第 14 回	Unit 24	仮定法			
第 15 回	総復習	復習および試験の対策			



経済

授業番号	B200110003				
科目名 (英語表記)	英語 II (English I I)			(3)	
担当者 (英語表記)	内野 泰子 (Yasuko Uchino)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	国際コミュニケーションのための英語力を身につけることを目指し、基本文法の復習に加えて、聞く、話す、読む、書くの4技能が向上する様々なアクティビティを通じた多角的学習を行います。				
授業の進め方 (履修条件など)	英語を使えるようになることを目指し、ペア・ワークなどを行いながら、楽しく学習することを目指します。教科書に加えて、ビデオ教材を使用し、理解を深めます。				
成績評価方法	平常点 50 パーセント、期末テスト 50 パーセントで評価します。				
基準					
授業の予習・復習	授業内で指示しますので、指示に必ず従って授業にのぞんで下さい。				
教科書	English Ace ( コミュニケーションのための実践基礎英語)、A. Yamamoto, N. Osuka, C. Mano, K. Okamoto, B. Rowlett, 成美堂				
参考文献	授業内で指示				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Unit 8	進行形			
第 2 回	Unit 8	探偵は真実を求める			
第 3 回	Unit 9	現在完了形			
第 4 回	Unit 9	経歴を話そう			
第 5 回	Unit 10	未来表現			
第 6 回	Unit 10	パーティーに行こう！			
第 7 回	Unit 11	助動詞			
第 8 回	Unit 11	ルールにもお国柄			
第 9 回	Unit 12	受動態			
第 10 回	Unit 12	発明、発見はひらめきが大切			
第 11 回	Unit 13	形容詞、副詞			
第 12 回	Unit 13	映画評論			
第 13 回	Unit 14	比較級、最上級			
第 14 回	Unit 14	世界記録もさまざま			
第 15 回	Unit 15	不定詞、動名詞 / 将来の夢を語ろう			

経済

授業番号	B200110004				
科目名 (英語表記)	英語 II (English I I)	(4)			
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	基礎的な文法事項を復習した上で実際に「使える」英語力を養うためにリスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの4技能を総合的に鍛えていきます。自分の言いたいことが表現でき相手の言いたいことが理解できるようなコミュニケーションの道具としての英語力を養うことを目的とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストの各ユニットのテーマの関連語彙と重要文法事項を演習を通じて確認した後会話練習を行います。そのユニットで学んだ文法事項を多く含むリーディングの演習を行った後、それを使ってテーマに沿った内容の英文を書きます。授業はペアワークやグループワークが中心となりますので積極的に取り組んでください。				
成績評価方法	単語テスト及び授業内演習 40%、期末テスト 60%				
基準					
授業の予習・復習	予習：わからない単語の意味を調べておいてください。 復習：各ユニットで読んだリーディングのテキストを再読してください。				
教科書	山本厚子 『Living Grammar コミュニケーションのためのベーシック・グラマー』 成美堂				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	Introduction	ガイダンス、プレゼンテーション			
第2回	Unit 11	助動詞 (1) can, may など			
第3回	Unit 12	助動詞 (2) must, should など			
第4回	Unit 13	接続詞 (1) and, but, or, so			
第5回	Unit 14	受動態			
第6回	Unit 15	頻度を表す副詞			
第7回	Unit 16	-ing, -ed で終わる形容詞			
第8回	Unit 17	原級、比較級、最上級			
第9回	Unit 18	基本的な前置詞 (at, on, in)			
第10回	Unit 19	接続詞 (2) when, because, although, if			
第11回	Unit 20	不定詞と動名詞			
第12回	Unit 21	関係詞 (who, which, where)			
第13回	Unit 22	仮定法 (仮定法過去)			
第14回	Review 1	後期文法事項まとめ			
第15回	Review 2	期末テスト対策			

# 経済

授業番号	B200110005				
科目名 (英語表記)	英語 II (English I I)			(5)	
担当者 (英語表記)	田 文揚 (Fumiaki Den)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>これまでの英語学習を更に発展させ、より高度な文章の読解と聴解の力を身につける。 また INPUT [ 読む・聴く ] から更に OUTPUT [ 書く・話す ] の力へと発展させて力を身につける。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>TOEIC の形式のテキストを主に用いて、各テーマ・トピックスごとの設問や課題に答えることを通して Listening や Reading 更には Writing の力を養う。また、適宜タイムリーな投げ込み教材や今日的な話題を取り上げるなどして、より多様な表現に慣れさせる。小テストを実施して到達度を確認する。</p>				
成績評価方法	<p>定期試験 (80%) ・ 授業内小テスト (10%) ・ レポート及びその他の課題 (10%) により評価。</p>				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習 各チャプターの未知の単語やイディオムを調べ、不確かな文法事項について下調べしておく。 復習 付属のCDを用い復習する。</p>				
教科書	<p>" Essential Approach for the TOEIC TEST" 成美堂 大須賀直子 ・ 塚野壽一</p>				
参考文献	<p>授業の進行に従い、適宜創作教材・投げ込み教材 (ニュース記事・文法資料等) を配布する。</p>				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義のガイダンス及び課題テスト	講義の進め方の説明及び課題のイディオムテストを実施する。			
第 2 回	UNIT 7	ローンワードとカタカナ英語&帰化語。			
第 3 回	UNIT 7&8	主語と動詞の呼応・時制の一致。			
第 4 回	UNIT 8&9	トピックスからの情報選択・能動と受動。			
第 5 回	UNIT 9&10	トピックスの場面をイメージする・分詞。			
第 6 回	プリントによる投げ込み教材	ニュースや物語を読む。			
第 7 回	UNIT 11	英文のショートストーリーの特徴を見つける・修飾句。			
第 8 回	UNIT 11&12	飛ばし読みの技術と実際。			
第 9 回	UNIT 12	Topic Sentence & Outline ・ 接続詞。			
第 10 回	UNIT 13&14	大意把握と要約・関係詞。			
第 11 回	UNIT 14&15	速読の試み・前置詞と接続詞。			
第 12 回	UNIT 15	速読の実際・不定詞と動名詞。			
第 13 回	プリントによる投げ込み教材	ファニーストーリーを楽しむ・条件文と仮定法。			
第 14 回	論説文を読む・比較表現。	異文化理解に関する論説文を読む。			
第 15 回	Review & Consolidation	これまでの講義の総復習とまとめ。			

経済

授業番号	B200110006				
科目名 (英語表記)	英語 II (English I I)			(6)	
担当者 (英語表記)	田 文揚 (Fumiaki Den)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>これまでの英語学習を更に発展させ、より高度な文章の読解と聴解の力を身につける。 また INPUT [ 読む・聴く ] から更に OUTPUT [ 書く・話す ] の力へと発展させて力を身につける。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>TOEIC の形式のテキストを主に用いて、各テーマ・トピックスごとの設問や課題に答えることを通して Listening や Reading 更には Writing の力を養う。また、適宜タイムリーな投げ込み教材や今日的な話題を取り上げるなどして、より多様な表現に慣れさせる。小テストを実施して到達度を確認する。</p>				
成績評価方法	<p>定期試験 (80%) ・ 授業内小テスト (10%) ・ レポート及びその他の課題 (10%) により評価。</p>				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習 各チャプターの未知の単語やイディオムを調べ、不確かな文法事項について下調べしておく。 復習 付属のCDを用い復習する。</p>				
教科書	<p>" Essential Approach for the TOEIC TEST" 成美堂 大須賀直子 ・ 塚野壽一</p>				
参考文献	<p>授業の進行に従い、適宜創作教材・投げ込み教材 (ニュース記事・文法資料等) を配布する。</p>				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義のガイダンス及び課題テスト	講義の進め方の説明及び課題のイディオムテストを実施する。			
第 2 回	UNIT 7	ローンワードとカタカナ英語&帰化語。			
第 3 回	UNIT 7&8	主語と動詞の呼応・時制の一致。			
第 4 回	UNIT 8&9	トピックスからの情報選択・能動と受動。			
第 5 回	UNIT 9&10	トピックスの場面をイメージする・分詞。			
第 6 回	プリントによる投げ込み教材	ニュースや物語を読む。			
第 7 回	UNIT 11	英文のショートストーリーの特徴を見つける・修飾句。			
第 8 回	UNIT 11&12	飛ばし読みの技術と実際。			
第 9 回	UNIT 12	Topic Sentence & Outline ・ 接続詞。			
第 10 回	UNIT 13&14	大意把握と要約・関係詞。			
第 11 回	UNIT 14&15	速読の試み・前置詞と接続詞。			
第 12 回	UNIT 15	速読の実際・不定詞と動名詞。			
第 13 回	プリントによる投げ込み教材	ファニーストーリーを楽しむ・条件文と仮定法。			
第 14 回	論説文を読む・比較表現。	異文化理解に関する論説文を読む。			
第 15 回	Review & Consolidation	これまでの講義の総復習とまとめ。			

# 経済

授業番号	B200110007				
科目名 (英語表記)	英語 II (English I I)			(留)	
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	この授業は留学生を対象として、基本的な文法事項を復習しながらスピーキングやリーディングの演習を通じて総合的な英語力の向上を測ります。This class aims to improve international students' listening, speaking, reading and writing skills in English through pair or group work..				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストの各ユニットごとのトピックと文法事項に基づいた会話練習、文法問題演習、リーディング演習をペアワークやグループワークを通じて行います。授業はインタラクティブなものになりますので積極的に参加するようにしてください。 Students will learn grammar and practice conversations based on the topic from each unit of the textbook. Focus will be on pair or group work.				
成績評価方法	授業内演習 40%、期末テスト 60%				
基準	Class activities 40%, Final Exam 60%				
授業の予習・復習	予習：わからない単語の意味を調べておいてください。 復習：授業内で使った表現やリーディングのテキストをもう一度読んでください。 Preparation for a class looking up the words and the review of each lesson are required.				
教科書	Jack C. Richards 『Interchange 1 Student's Book with Self-study DVD-ROM Forth Edition』 Cambridge				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction, Unit 8	Guidance, Simple present Wh-questions with do and does			
第 2 回	Unit 8	Simple present Wh-questions with do and does			
第 3 回	Unit 9	Count and noncount nouns, some and any			
第 4 回	Unit 9	Count and noncount nouns, some and any			
第 5 回	Unit 10	Simple present Wh-question, can for ability			
第 6 回	Unit 10	Simple present Wh-question, can for ability			
第 7 回	Unit 11	The future with be going to, future time expressions			
第 8 回	Unit 11	The future with be going to, future time expressions			
第 9 回	Unit 12	Have +noun, feel +adjective			
第 10 回	Unit 12	Have +noun, feel +adjective			
第 11 回	Unit 13	Prepositions of place			
第 12 回	Unit 13	Prepositions of place			
第 13 回	Unit 14	Simple past statements with regular and irregular verbs			
第 14 回	Unit 14	Simple past statements with regular and irregular verbs			
第 15 回	Review	Reviewing			

経済

授業番号	B200110008		
科目名 (英語表記)	英語 II (English I I)	R(a)	
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	基礎的な文法事項を一から復習し「使える」英語を身に付けるための礎を築きます。簡単な英文が辞書なしで読めるような語彙力と文法力を養うことを目的とします。		
授業の進め方 (履修条件など)	毎回ひとつの文法事項を解説した後練習問題を通じて定着を図ります。授業の初めに前回学習した文法事項の確認小テストをします。授業後半ではプリントを配りスピーキング・リスニングの演習を行います。		
成績評価方法	小テスト・授業内演習 40%、期末テスト 60%		
基準			
授業の予習・復習	予習：テキストの各ユニット最初のページを読みわからない単語を調べておいてください。 復習：長文問題のテキストを再読してください。		
教科書	佐藤哲三 『English Primer (Revised Edition)』 南雲堂		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	Introduction	ガイダンス	
第 2 回	Review	前期文法事項の復習	
第 3 回	Unit 13	接続詞 (I)	
第 4 回	Unit 14	不定詞 (I)・動名詞 (I)	
第 5 回	Unit 15	受動態	
第 6 回	Unit 16	現在完了形	
第 7 回	Unit 17	接続詞 (II)	
第 8 回	Unit 18	5つの基本文型	
第 9 回	Unit 19	各種疑問文	
第 10 回	Unit 20	不定詞 (II)	
第 11 回	Unit 21	It の特別用法	
第 12 回	Unit 22	分詞・動名詞 (II)	
第 13 回	Unit 23	関係代名詞	
第 14 回	Review 1	文法事項まとめ	
第 15 回	Review 2	期末テスト対策	

経済

授業番号	B200110009				
科目名 (英語表記)	英語 II (English I I)			R(b)	
担当者 (英語表記)	伊東 隆子 (Takako Ito)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	英語の基礎となる 5 文型の再確認とその応用を様々な状況での英語表現を学習していく。				
授業の進め方 (履修条件など)	はじめの 30 分で前回の授業の復習問題を用紙に記述し、提出する。テキストに沿って授業を進め、ポイント事項を記述し、時には暗記をしていく。授業の進行次第で英語の pun( 語呂合わせ) に関するプリントを学習する。				
成績評価方法	定期試験、授業参加態度、課題提出				
基準					
授業の予習・復習	予習では、テキストを読んで分からない英単語・熟語を調べておく。わからない英文などに印を付けておくこと。復習では、テキストを再度読んで内容を理解し、授業でのポイント事項を暗記しておく。				
教科書	A Checkbook for Survival English ( 南雲堂)				
参考文献	秩序英作文 : 文英堂				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	前期授業の総復習	前期授業で習得したポイント事項の再確認と復習問題を記述し提出する。授業の進行状態では、英語の pun のプリントを行う。			
第 2 回	Checking in at the Airport	飛行機の搭乗手続きに関する英語表現を学習する。			
第 3 回	Immigration and Customs	入国審査と税関検査に関する英語表現を学習する。			
第 4 回	Asking for Repetition	聞き返す際に使う英語表現を学習する。			
第 5 回	At the Post Office	郵便局で使う英語表現を学習する。			
第 6 回	Restroom	トイレを使用する際に使う英語表現を学習する。			
第 7 回	At a Bank	銀行で使う英語表現を学習する。			
第 8 回	Making a Complaint	苦情を言う際に使い英語表現を学習する。			
第 9 回	At a Shoe Shop	靴屋で使う英語表現を学習する。			
第 10 回	Asking Questions	質問をする際に使う英語表現を学習する。			
第 11 回	Booking a Table	レストランの予約をする際に使う英語表現を学習する。			
第 12 回	Lunch	昼食で使う英語表現を学習する。			
第 13 回	pun の学習 (2)	L.H.Hill 氏のテキストから pun に関する簡単で面白い話を学習する。			
第 14 回	Lesson 11~15 までのまとめ	Lesson 11~15 までの授業中のポイント事項をまとめる。			
第 15 回	Lesson16~21 までのまとめ	Lesson 16~21 までの授業中のポイント事項をまとめる。			

経済

授業番号	B200120001				
科目名 (英語表記)	英語 III (English I I I)			(EX)	
担当者 (英語表記)	伊東 隆子 (Takako Ito)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	英語の基礎力を強化しつつ、わかりやすく TOEIC の学習を促す。CD-ROM 教材を組み合わせる学習内容を繰り返し復習できさらに発展させていく。				
授業の進め方 (履修条件など)	Listening と Reading Comprehension の問題練習で TOEIC の問題に慣れるように反復練習と重要構文の暗記を促す。				
成績評価方法	定期試験、授業参加態度、課題提出				
基準					
授業の予習・復習	予習でわからない英単語は調べておく。授業中に不明な点は次回の授業で理解できるようによく復習する。				
教科書	The New Stage to the TOEIC Test Basic (金星堂)				
参考文献	TOEIC Test の実践問題集				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の提示。			
第 2 回	unit-1	warm up~Part IV までのリスニング問題の解答			
第 3 回	unit-1	Part V,VI のリーディング問題解答			
第 4 回	unit-2	Warm up~Part IV までのリスニング問題解答			
第 5 回	unit-2	Part V, VI のリーディング問題解答			
第 6 回	unit-3	Warm up~Part IV までのリスニング問題解答			
第 7 回	unit-3	Part V, VI までのリーディング問題解答			
第 8 回	unit-4	Warm up~ Part IV までのリスニング問題解答			
第 9 回	unit-4	Part V, VI までのリーディング問題解答			
第 10 回	unit-5	Warm up~PartIV までのリスニング問題解答			
第 11 回	unit-5	Part V,VI までのリーディング問題解答			
第 12 回	unit-6	Warm up~Part Iv までのリスニング問題解答			
第 13 回	unit-6	Part V, VI までのリーディング問題解答			
第 14 回	前期授業のまとめ	前期授業の重要英語構文の整理と暗記。			
第 15 回	前期授業のまとめと質疑応答	前期の授業中での重要構文の暗記とそれらに対する質疑応答			



経済

授業番号	B200120002				
科目名 (英語表記)	英語 III (English I I I)		(1)		
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	TOEIC 対策用のテキストを用い、ビジネスの場でよく使われる語彙や会話表現を身に着け、ビジネスドキュメントを読み解く力を養い、Listening 及び Reading 能力の向上を図ります。最終的に TOEIC 600 点相当の英語力獲得を目指します。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業前半ではテキストを用い TOEIC 対策の演習を行います。Mini-test (Before) をその場で解き、解答・解説・問題演習を行った後、Mini-test (After) で知識が定着しているかを確認します。授業後半では毎回プリントを配布し、文法事項の確認及び速読の演習を行います。				
成績評価方法	単語テスト及び授業内演習 40%、期末テスト 60%				
基準					
授業の予習・復習	予習：わからない単語の意味を調べておいてください。 復習：授業内で扱った Reading のテキストを再読してください。				
教科書	Jonathan Lynch 『Before-After Practice for the TOEIC Test』 Cengage Learning				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction	ガイダンス、Pre-test			
第 2 回	Unit 1	TOEIC Listening 演習、速読演習。			
第 3 回	Unit 1	TOEIC Listening 演習、速読演習。			
第 4 回	Unit 2	TOEIC Reading 演習、文法問題演習 (英語の文)。			
第 5 回	Unit 2	TOEIC Reading 演習、文法問題演習 (名詞・代名詞・冠詞)。			
第 6 回	Unit 3	TOEIC Listening 演習、速読演習。			
第 7 回	Unit 3	TOEIC Listening 演習、速読演習。			
第 8 回	Unit 4	TOEIC Reading 演習、文法問題演習 (動詞)。			
第 9 回	Unit 4	TOEIC Reading 演習、文法問題演習 (5 文型)。			
第 10 回	Unit 5	TOEIC Listening 演習、速読演習。			
第 11 回	Unit 5	TOEIC Listening 演習、速読演習。			
第 12 回	Unit 6	TOEIC Reading 演習、文法問題演習 (助動詞)。			
第 13 回	Unit 6	TOEIC Reading 演習、文法問題演習 (時制)。			
第 14 回	Unit 7	TOEIC Listening 演習、速読演習。			
第 15 回	Unit 7	TOEIC Listening 演習、Post-Test。			

# 経済

授業番号	B200120003				
科目名 (英語表記)	英語 III (English I I I)			(2)	
担当者 (英語表記)	内野 泰子 (Yasuko Uchino)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	1年生の英語クラスでつけた基礎力をベースに、このクラスでは英語を実際にコミュニケーションで使える力を構築することを目指します。				
授業の進め方 (履修条件など)	学校や職場など、様々な社会生活の中でしばしば取り上げられる話題を中心にリスニング力、スピーキング力、語彙力を向上させる様々な活動を楽しんでいきましょう。また、必要に応じて基本文法の復習も行います。日米の違いなどについての理解を深めるためにビデオ教材も活用します。				
成績評価方法	平常点 (授業参加、小テストなど) 50 パーセント、期末試験 50 パーセントで評価します。				
基準					
授業の予習・復習	授業内での指示に従うこと。				
教科書	English Listening and Speaking Patterns(パターンで学ぶ英語コミュニケーション), Andrew E. Bennett, 南雲堂				
参考文献	授業内で指示				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	導入	英語コミュニケーションについて考える / 自己紹介			
第 2 回	Unit 1	Family (家族をめぐって)			
第 3 回	Unit 2	Friends (家族をめぐって)			
第 4 回	Unit 3	Customs (習慣をめぐって)			
第 5 回	Unit 4	Education (教育をめぐって)			
第 6 回	Unit 5	Sports (スポーツをめぐって)			
第 7 回	Unit 6	Work (仕事をめぐって)			
第 8 回	Unit 7	Food (食べ物をめぐって)			
第 9 回	Unit 8	Studying English (英語学習をめぐって)			
第 10 回	Unit 9	Health (健康をめぐって)			
第 11 回	Unit 10	Clothes (衣服、ファッションをめぐって)			
第 12 回	その他の話題	授業内で指示			
第 13 回	その他の話題	授業内で指示			
第 14 回	復習・応用	前期学習事項の復習・応用			
第 15 回	まとめ	期末試験に向けてのまとめ			

経済

授業番号	B200120004				
科目名 (英語表記)	英語 III (English I I I)			(3)	
担当者 (英語表記)	伊東 隆子 (Takako Ito)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	英語の基礎となる 5 文型を中心に英文の構造並びに各文型の構成要素である品詞の理解を深めていく。さらに、各状況で使用するの英語表現の認識を深めていく。				
授業の進め方 (履修条件など)	はじめの 30 分で前回の授業の復習問題を用紙に記入し、提出する。テキストに沿って授業を進め、ポイント事項を記入し、時には暗記をしていく。授業の進行次第で英語の pun (語呂合わせ) に関するプリントを学習する。				
成績評価方法	定期試験、授業参加態度、課題提出				
基準					
授業の予習・復習	予習では、テキストを読んで分からない英単語や熟語を調べておく。分からない英文には印を付けておく。復習では、テキストを再度読んで内容を理解し、授業でのポイント事項を暗記しておく。				
教科書	A Checkbook for Survival English ( 南雲堂 )				
参考文献	英語日記表現書き込みドリル : アルク社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法・復習問題の扱いなどの説明と自己紹介を所定用紙に記入する。			
第 2 回	Hot Spring Bath	5 文型を中心に温泉 (お風呂) に入るための用語を学習する。			
第 3 回	Taking out of the Garbage	ゴミ出しに関する用語を学習する。			
第 4 回	Sitting for an Exam.	試験に関する用語を学習する。			
第 5 回	Job Interview	面接試験に関する用語を学習する。			
第 6 回	Illness	病気に関する英語表現を学習する。			
第 7 回	A Companion Animal	ペットに関する英語表現を学習する。			
第 8 回	Checking a Schedule	予定を聞く場合の英語表現を学習する。			
第 9 回	Making a Apology	謝罪する場合の英語表現を学習する。			
第 10 回	Dinner	食事に関する英語表現を学習する。			
第 11 回	Proper Clothes to Wear	洋服選びに関する英語表現を学習する。			
第 12 回	英語の pun (語呂合せ) のプリントをっての 5 文型 (1)	L.H.Hill 氏のテキストから pun (語呂合せ) に関する簡単で面白い話を題材にして、5 文型を学習する。			
第 13 回	英語の pun のプリント (2)	L.H.Hill 氏のテキストから pun に関する簡単で面白い話を題材にして 5 文型の学習する。			
第 14 回	Unit 1~5 までのまとめ。	Unit 1~5 までの授業中でのポイント事項をまとめる。			
第 15 回	Unit 6~10 までのまとめ。	Unit 6~10 までの授業中のポイント事項をまとめる。			

経済

授業番号	B200120005				
科目名 (英語表記)	英語 III (English I I I)	(4)			
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	基礎的な文法事項を一から復習し「使える」英語を身に付けるための礎を築きます。簡単な英文が辞書なしで読めるような語彙力と文法力を養うことを目的とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回ひとつの文法事項を解説した後練習問題を通じて定着を図ります。授業の初めに前回学習した文法事項の確認小テストをします。授業後半ではプリントを配りスピーキング・リスニングの演習を行います。				
成績評価方法	小テスト・授業内演習 40%、期末テスト 60%				
基準					
授業の予習・復習	予習：テキストの各ユニット最初のページを読みわからない単語を調べておいてください。 復習：長文問題のテキストを再読してください。				
教科書	佐藤哲三 『First Primer (Revised Edition)』 南雲堂				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction	ガイダンス			
第 2 回	Unit 1	be 動詞			
第 3 回	Unit 2	一般動詞 (現在)			
第 4 回	Unit 3	一般動詞 (過去)			
第 5 回	Unit 4	進行形			
第 6 回	Unit 5	未来形			
第 7 回	Unit 6	助動詞			
第 8 回	Unit 7	名詞・冠詞			
第 9 回	Unit 8	代名詞			
第 10 回	Unit 9	前置詞			
第 11 回	Unit 10	形容詞・副詞			
第 12 回	Unit 11	比較			
第 13 回	Unit 12	命令文・感嘆文			
第 14 回	Review 1	文法事項まとめ			
第 15 回	Review 2	期末テスト対策			

経済

授業番号	B200120006				
科目名 (英語表記)	英語 III (English I I I)			(P)	
担当者 (英語表記)	武井 みち子 (Michiko Takei)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	様々なテーマに関する英文を効率的に読む英語力を養うとともに、英文を聴く力の向上を目指します。				
授業の進め方 (履修条件など)	文法解説後、演習で文法事項の定着を図ります。また、日常生活に密着したテーマの英文を読み、聴き、読解力と聴く力を磨きます。				
成績評価方法	定期試験、授業への積極的参加度、課題提出で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：分からない単語を調べて授業に参加してください。 復習：文法の確認。				
教科書	「Power Up English <Basic>」 南雲堂				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	発音	発音とアクセントの学習			
第 2 回	英語の基本文型	英語の語順の学習			
第 3 回	Unit 1	Personal Correspondence ( 1 )			
第 4 回	Unit 2	Personal Correspondence ( 2 )			
第 5 回	Unit 3	Biography ( 1 )			
第 6 回	Unit 4	Biography ( 2 )			
第 7 回	Unit 5	Events & Festivals			
第 8 回	関係代名詞	関係代名詞の学習			
第 9 回	Unit 6	Directions & Locations ( ! )			
第 10 回	Unit 7	Directions & Locations ( 2 )			
第 11 回	Unit 8	Directions & Locations ( 3 )			
第 12 回	Unit 9	Occupations ( 1 )			
第 13 回	Unit 10	Occupations ( 2 )			
第 14 回	分詞	現在分詞・過去分詞の学習			
第 15 回	総復習	復習および試験の対策			

経済

授業番号	B200120007		
科目名 (英語表記)	英語 III (English I I I)	R(a)	
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	基礎的な文法事項を一から復習し「使える」英語を身に付けるための礎を築きます。簡単な英文が辞書なしで読めるような語彙力と文法力を養うことを目的とします。		
授業の進め方 (履修条件など)	毎回ひとつの文法事項を解説した後練習問題を通じて定着を図ります。授業の初めに前回学習した文法事項の確認小テストをします。授業後半ではプリントを配りスピーキング・リスニングの演習を行います。		
成績評価方法	小テスト・授業内演習 40%、期末テスト 60%		
基準			
授業の予習・復習	予習：テキストの各ユニット最初のページを読みわからない単語を調べておいてください。 復習：長文問題のテキストを再読してください。		
教科書	佐藤哲三 『First Primer (Revised Edition)』 南雲堂		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	Introduction	ガイダンス	
第 2 回	Unit 1	be 動詞	
第 3 回	Unit 2	一般動詞 (現在)	
第 4 回	Unit 3	一般動詞 (過去)	
第 5 回	Unit 4	進行形	
第 6 回	Unit 5	未来形	
第 7 回	Unit 6	助動詞	
第 8 回	Unit 7	名詞・冠詞	
第 9 回	Unit 8	代名詞	
第 10 回	Unit 9	前置詞	
第 11 回	Unit 10	形容詞・副詞	
第 12 回	Unit 11	比較	
第 13 回	Unit 12	命令文・感嘆文	
第 14 回	Review 1	文法事項まとめ	
第 15 回	Review 2	期末テスト対策	

経済

授業番号	B200120008		
科目名 (英語表記)	英語 III (English I I I)	R(b)	
担当者 (英語表記)	武井 みち子 (Michiko Takei)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	文法の理解に重点を置き、英語の基礎力を修得します。		
授業の進め方 (履修条件など)	多数の練習問題に取り組み、英文を読んだり書いたりする力がつくよう指導します。		
成績評価方法	定期試験、授業への積極的参加度、課題提出で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	その日学習したことを必ず復習して下さい。		
教科書	「 Second Steps to English Grammar 」 南雲堂		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	発音・アクセント	英語の発音・アクセントの学習	
第 2 回	基本文型	英語の語順の学習	
第 3 回	Unit 1	第 1 ～ 3 文型	
第 4 回	Unit 2	第 4 ・ 5 文型	
第 5 回	Unit 7	助動詞 ( 1 )	
第 6 回	Unit 8	助動詞 ( 2 )	
第 7 回	Unit 9	受動態 ( 1 )	
第 8 回	Unit 10	受動態 ( 2 )	
第 9 回	Unit 11	受動態 ( 3 )	
第 10 回	Unit 12	不定詞 ( 1 )	
第 11 回	Unit 13	不定詞 ( 2 )	
第 12 回	Unit 14	分詞	
第 13 回	Unit 15	分詞構文	
第 14 回	Unit 16	動名詞	
第 15 回	Unit 17	比較—原級	

経済

授業番号	B200130001				
科目名 (英語表記)	英語 IV (English I V)	(EX)			
担当者 (英語表記)	伊東 隆子 (Takako Ito)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	英語の基礎力を強化しつつ、わかりやすく TOEIC の学習を促す。CD-ROM 教材を組み合わせることで学習内容を繰り返し復習できさらに発展させていく。				
授業の進め方 (履修条件など)	Listening と Reading Comprehension の問題練習で TOEIC の問題に慣れるように反復練習と重要構文の暗記を促す。				
成績評価方法	定期試験、授業参加態度、課題提出				
基準					
授業の予習・復習	予習でわからない英単語は調べておく。授業中に不明な点は次回の授業で理解できるようによく復習する。				
教科書	The New Stage to the TOEIC Test Basic (金星堂)				
参考文献	TOEIC Test の実践問題集				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	unit-7	Warm up~PartIV までのリスニング問題解答			
第 2 回	unit-7	Part V, VI までのリーディング問題解答			
第 3 回	unit-8	Warm Up~Part IV までのリスニング問題解答			
第 4 回	unit-8	PartV,VI までのリーディング問題解答			
第 5 回	unit-9	Warm up~Part IV までのリスニング問題解答			
第 6 回	unit-9	PartV, VI までのリーディング問題解答			
第 7 回	unit-10	Warm up ~ Part IV までのリスニング問題解答			
第 8 回	unit-10	Part V ,VI までのリーディング問題解答			
第 9 回	unit-11	Warm up~PartIV までのリスニング問題解答			
第 10 回	unit-11	PartV , VI までのリーディング問題解答			
第 11 回	unit-12	Warm up~Part IV までのリスニング問題解答			
第 12 回	unit-12	Part V ,VI までのリーディング問題解答			
第 13 回	unit-13	Warm up~Part IV までのリスニング問題解答			
第 14 回	unit 13	Grammar, Reading( Part V ~VII) までのリーディング問題解答			
第 15 回	後期授業のまとめと質疑応答	後期の授業中での重要構文の暗記とそれらに対する質疑応答			



経済

授業番号	B200130002				
科目名 (英語表記)	英語 IV (English I V)			(1)	
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	TOEIC 対策用のテキストを用い、ビジネスの場でよく使われる語彙や会話表現を身に着け、ビジネスドキュメントを読み解く力を養い、Listening 及び Reading 能力の向上を図ります。最終的に TOEIC 600 点相当の英語力獲得を目指します。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業前半ではテキストを用い TOEIC 対策の演習を行う。Mini-test (Before) をその場で解き、解答・解説・問題演習を行った後、Mini-test (After) で知識が定着しているかを確認します。授業後半では毎回プリントを配布し、文法事項の確認及び速読の演習を行います。				
成績評価方法	単語テスト及び授業内演習 40%、期末テスト 60%				
基準					
授業の予習・復習	予習：わからない単語の意味を調べておいてください。 復習：授業内で扱った Reading のテキストを再読してください。				
教科書	Jonathan Lynch 『Before-After Practice for the TOEIC Test』 Cengage Learning				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction	ガイダンス、Pre-test			
第 2 回	Unit 8	TOEIC Reading 演習、文法問題演習 (完了形)。			
第 3 回	Unit 8	TOEIC Reading 演習、文法問題演習 (不定詞)。			
第 4 回	Unit 9	TOEIC Listening 演習、速読演習。			
第 5 回	Unit 9	TOEIC Listening 演習、速読演習。			
第 6 回	Unit 10	TOEIC reading 演習、文法問題演習 (動名詞)。			
第 7 回	Unit 10	TOEIC reading 演習、文法問題演習 (分詞)。			
第 8 回	Unit 11	TOEIC Listening 演習、速読演習。			
第 9 回	Unit 11	TOEIC Listening 演習、速読演習。			
第 10 回	Unit 12	TOEIC reading 演習、文法問題演習 (受動態)。			
第 11 回	Unit 12	TOEIC reading 演習、文法問題演習 (形容詞・副詞・比較)。			
第 12 回	Unit 13	TOEIC Listening 演習、速読演習。			
第 13 回	Unit 13	TOEIC Listening 演習、速読演習。			
第 14 回	Unit 14	TOEIC reading 演習、文法問題演習 (関係詞)。			
第 15 回	Unit 14	TOEIC reading 演習、Post-test。			

経済

授業番号	B200130003		
科目名 (英語表記)	英語 IV (English I V)	(2)	
担当者 (英語表記)	内野 泰子 (Yasuko Uchino)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	前期学習事項をベースに、英語をコミュニケーションで使える力を増強することを目指します。		
授業の進め方 (履修条件など)	学校や職場など、様々な社会生活の中でしばしば取り上げられる話題を中心にリスニング力、スピーキング力、語彙力を向上させる様々な活動を楽しんでいきましょう。また、必要に応じて基本文法の復習も行います。日米の違いなどについての理解を深めるためにビデオ教材も活用します。		
成績評価方法	平常点 (授業参加、小テストなど) 50 パーセント、期末試験 50 パーセントで評価します。		
基準			
授業の予習・復習	授業内での指示に従うこと。		
教科書	English Listening and Speaking patterns (パターンで学ぶ英語コミュニケーション), Andrew E. Bennett, 南雲堂		
参考文献	授業内で指示		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	導入	テスト返却・解説、後期授業に向けて	
第 2 回	Unit 11	Traveling (旅行をめぐる)	
第 3 回	Unit 12	Music (音楽をめぐる)	
第 4 回	Unit 13	Movies (映画をめぐる)	
第 5 回	Unit 14	Shopping (買い物をめぐる)	
第 6 回	Unit 15	Internet (インターネットをめぐる)	
第 7 回	Unit 16	Weather (天気をめぐる)	
第 8 回	Unit 17	Feelings (感情や気分をめぐる)	
第 9 回	Unit 18	Government (政府をめぐる)	
第 10 回	Unit 19	Art (美術をめぐる)	
第 11 回	Unit 20	The Future (未来をめぐる)	
第 12 回	その他の話題	授業内で指示	
第 13 回	その他の話題	授業内で指示	
第 14 回	復習・応用	後期学習事項の復習・応用	
第 15 回	まとめ	期末試験に向けてのまとめ	

経済

授業番号	B200130004				
科目名 (英語表記)	英語 IV (English I V)			(3)	
担当者 (英語表記)	伊東 隆子 (Takako Ito)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	英語の基礎となる 5 文型の再確認とその応用を様々な状況での英語表現を学習していく。				
授業の進め方 (履修条件など)	はじめの 30 分で前回の授業の復習問題を用紙に記述し、提出する。テキストに沿って授業を進め、ポイント事項を記述し、時には暗記をしていく。授業の進行次第で英語の pun( 語呂合わせ) に関するプリントを学習する。				
成績評価方法	定期試験、授業参加態度、課題提出				
基準					
授業の予習・復習	予習では、テキストを読んで分からない英単語・熟語を調べておく。わからない英文などに印を付けておくこと。復習では、テキストを再度読んで内容を理解し、授業でのポイント事項を暗記しておく。				
教科書	A Checkbook for Survival English ( 南雲堂)				
参考文献	秩序英作文 : 文英堂				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	前期授業の総復習	前期授業で習得したポイント事項の再確認と復習問題を記述し提出する。授業の進行状態では、英語の pun のプリントを行う。			
第 2 回	Checking in at the Airport	飛行機の搭乗手続きに関する英語表現を学習する。			
第 3 回	Immigration and Customs	入国審査と税関検査に関する英語表現を学習する。			
第 4 回	Asking for Repetition	聞き返す際に使う英語表現を学習する。			
第 5 回	At the Post Office	郵便局で使う英語表現を学習する。			
第 6 回	Restroom	トイレを使用する際に使う英語表現を学習する。			
第 7 回	At a Bank	銀行で使う英語表現を学習する。			
第 8 回	Making a Complaint	苦情を言う際に使い英語表現を学習する。			
第 9 回	At a Shoe Shop	靴屋で使う英語表現を学習する。			
第 10 回	Asking Questions	質問をする際に使う英語表現を学習する。			
第 11 回	Booking a Table	レストランの予約をする際に使う英語表現を学習する。			
第 12 回	Lunch	昼食で使う英語表現を学習する。			
第 13 回	pun の学習 (2)	L.H.Hill 氏のテキストから pun に関する簡単で面白い話を学習する。			
第 14 回	Lesson 11~15 までのまとめ	Lesson 11~15 までの授業中のポイント事項をまとめる。			
第 15 回	Lesson16~21 までのまとめ	Lesson 16~21 までの授業中のポイント事項をまとめる。			

経済

授業番号	B200130005				
科目名 (英語表記)	英語 IV (English I V)	(4)			
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	基礎的な文法事項を一から復習し「使える」英語を身に付けるための礎を築きます。簡単な英文が辞書なしで読めるような語彙力と文法力を養うことを目的とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回ひとつの文法事項を解説した後練習問題を通じて定着を図ります。授業の初めに前回学習した文法事項の確認小テストをします。授業後半ではプリントを配りスピーキング・リスニングの演習を行います。				
成績評価方法	小テスト・授業内演習 40%、期末テスト 60%				
基準					
授業の予習・復習	予習：テキストの各ユニット最初のページを読みわからない単語を調べておいてください。 復習：長文問題のテキストを再読してください。				
教科書	佐藤哲三 『First Primer (Revised Edition)』 南雲堂				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction	ガイダンス			
第 2 回	Review	前期文法事項の復習			
第 3 回	Unit 13	接続詞 (I)			
第 4 回	Unit 14	不定詞 (I)・動名詞 (I)			
第 5 回	Unit 15	受動態			
第 6 回	Unit 16	現在完了形			
第 7 回	Unit 17	接続詞 (II)			
第 8 回	Unit 18	5つの基本文型			
第 9 回	Unit 19	各種疑問文			
第 10 回	Unit 20	不定詞 (II)			
第 11 回	Unit 21	It の特別用法			
第 12 回	Unit 22	分詞・動名詞 (II)			
第 13 回	Unit 23	関係代名詞			
第 14 回	Review 1	文法事項まとめ			
第 15 回	Review 2	期末テスト対策			

経済

授業番号	B200130006				
科目名 (英語表記)	英語 IV (English I V)			(P)	
担当者 (英語表記)	武井 みち子 (Michiko Takei)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	様々なテーマに関する英文を効率的に読む力を養うとともに、英文を聴く力の向上を目指します。				
授業の進め方 (履修条件など)	文法解説後、演習で文法事項の定着を図ります。また、日常生活に密着したテーマの英文を読み、聴き、読解力と聴く力を磨きます。				
成績評価方法	定期試験、授業への積極的参加度、課題提出で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：分からない単語を調べて授業に参加してください。 復習：文法事項の確認。				
教科書	「Power Up English<Basic>」 南雲堂				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Unit 1 1	Instructions			
第 2 回	Unit 12	Health &Physical Conditions			
第 3 回	Unit 13	Service Requests			
第 4 回	Unit 14	Special Orders			
第 5 回	Unit 15	Money			
第 6 回	名詞	名詞の学習			
第 7 回	Unit 16	Public Signs			
第 8 回	Unit 17	Sports			
第 9 回	受動態	受動態の学習			
第 10 回	Unit 18	History			
第 11 回	Unit 19	Sightseeing			
第 12 回	Unit 20	Science			
第 13 回	仮定法	仮定法の学習			
第 14 回	模擬試験	模擬試験			
第 15 回	総復習	復習および試験の対策			

経済

授業番号	B200130007				
科目名 (英語表記)	英語 IV (English I V)	R(a)			
担当者 (英語表記)	芳賀 理彦 (Tadahiko Haga)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	基礎的な文法事項を一から復習し「使える」英語を身に付けるための礎を築きます。簡単な英文が辞書なしで読めるような語彙力と文法力を養うことを目的とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回ひとつの文法事項を解説した後練習問題を通じて定着を図ります。授業の初めに前回学習した文法事項の確認小テストをします。授業後半ではプリントを配りスピーキング・リスニングの演習を行います。				
成績評価方法	小テスト・授業内演習 40%、期末テスト 60%				
基準					
授業の予習・復習	予習：テキストの各ユニット最初のページを読みわからない単語を調べておいてください。 復習：長文問題のテキストを再読してください。				
教科書	佐藤哲三 『First Primer (Revised Edition)』 南雲堂				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction	ガイダンス			
第 2 回	Review	前期文法事項の復習			
第 3 回	Unit 13	接続詞 (I)			
第 4 回	Unit 14	不定詞 (I)・動名詞 (I)			
第 5 回	Unit 15	受動態			
第 6 回	Unit 16	現在完了形			
第 7 回	Unit 17	接続詞 (II)			
第 8 回	Unit 18	5つの基本文型			
第 9 回	Unit 19	各種疑問文			
第 10 回	Unit 20	不定詞 (II)			
第 11 回	Unit 21	It の特別用法			
第 12 回	Unit 22	分詞・動名詞 (II)			
第 13 回	Unit 23	関係代名詞			
第 14 回	Review 1	文法事項まとめ			
第 15 回	Review 2	期末テスト対策			

経済

授業番号	B200130008		
科目名 (英語表記)	英語 IV (English I V)	R(b)	
担当者 (英語表記)	武井 みち子 (Michiko Takei)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	文法の理解に重点を置き、英語の基礎力を修得します。		
授業の進め方 (履修条件など)	多数の練習問題に取り組み、英文を読んだり書いたりする力がつくよう指導します。		
成績評価方法	定期試験、授業への積極的参加度、課題提出で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	その日学習したことを必ず復習して下さい。		
教科書	「 Second Steps to English Grammar 」 南雲堂		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	Unit 18	比較級 (1)	
第 2 回	Unit 19	比較級 (2)	
第 3 回	Unit 20	最上級	
第 4 回	Unit 21	関係代名詞 (1)	
第 5 回	Unit 22	関係代名詞 (2)	
第 6 回	Unit 23	関係副詞	
第 7 回	Unit 24	仮定法	
第 8 回	Unit 25	話法	
第 9 回	Unit 26	複文構造	
第 10 回	Unit 27	様々な副詞節	
第 11 回	Unit 4	現在完了	
第 12 回	Unit 29	名詞	
第 13 回	Unit 30	代名詞	
第 14 回	Unit 31	冠詞	
第 15 回	Unit 32	形容詞	

# 経済

授業番号	B202050001				
科目名 (英語表記)	会計学 I (Accountancy I)				
担当者 (英語表記)	平屋 伸洋 (Nobuhiro Hiraya)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業の目的は、会社法にもとづく計算書類、金融商品取引法にもとづく財務諸表などの基礎知識を習得し、制度としての会社法会計ならびに金融商品取引法会計を理解することである。わが国の会計制度 (会社法会計・金融商品取引法会計) を把握し、個々の重要項目についてその内容が理解できるようにしたい。また、国際会計基準および国際財務報告基準、アメリカの会計基準の概要を知り、英文財務諸表を読解できるようにしたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	本授業では、まず、会社法会計の基本概念、会社法における開示書類、決算スケジュールなどを学習したのち、個別に検討しておくべき事項について学習する。次に、金融商品取引法会計による財務諸表、特に連結財務諸表について、連結制度の変遷・制度の概要から具体的な作成手順、開示、個別に検討しておくべき事項について学習する。加えて、わが国の会計基準が国際的なコンバージェンスに伴って変化していることを踏まえ、国際会計基準 (IAS/IFRS) の概要と今後の展望について明らかにする。				
成績評価方法	小テスト: 30% (100点満点で採点し、それを成績評価の30%に換算する。)				
基準	期末試験: 70% (期末試験は100点満点で採点し、それを成績評価の70%分に換算する。)				
授業の予習・復習	次の授業までに、テキストの該当箇所を熟読して授業に臨むこと。またレポートについては、期日までに提出できるように授業で取り上げた箇所の復習を怠らないこと。				
教科書	水口剛・後藤晃範・平井裕久著『企業と会計』税務経理協会、2011年。				
参考文献	桜井久勝著『財務会計講義 < 第14版 >』中央経済社、2013年。 森久・長吉眞一・浅野千鶴・石川文子・蔭飛鴻・関利恵子著『企業簿記論』創成社、2010年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業内容の概要、狙いと運営方針			
第2回	財務会計の性格	財務会計の性格			
第3回	会計諸規定 I	会計諸基準と会計法規の概要と役割			
第4回	会計諸規定 II	会計諸基準と会計法規の全体的関連			
第5回	損益計算の仕組 I	財産法と損益法、棚卸法と誘導法			
第6回	損益計算の仕組 II	期間損益計算の仕組			
第7回	会計諸基準 I	企業会計原則と会計基準の展開と内容			
第8回	会計諸基準 II	会計に関連する法律の展開と内容			
第9回	会計諸基準 III	会社法会計と金融商品取引法会計			
第10回	会計諸基準 IV	国際財務報告基準 (IFRS) の概要と動向			
第11回	財務諸表 I	財務諸表の意義と概要、連結と個別			
第12回	財務諸表 II	貸借対照表の内容			
第13回	財務諸表 III	損益計算書の内容			
第14回	財務諸表 IV	キャッシュ・フロー計算書の内容			
第15回	財務諸表 V	株主資本等変動計算書の内容			



経済

授業番号	B202060001				
科目名 (英語表記)	会計学 II (Accountancy II)				
担当者 (英語表記)	平屋 伸洋 (Nobuhiro Hiraya)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業の目的は、会社法にもとづく計算書類、金融商品取引法にもとづく財務諸表などの基礎知識を習得し、制度としての会社法会計ならびに金融商品取引法会計を理解することである。わが国の会計制度 (会社法会計・金融商品取引法会計) を把握し、個々の重要項目についてその内容が理解できるようにしたい。また、国際会計基準および国際財務報告基準、アメリカの会計基準の概要を知り、英文財務諸表を読解できるようにしたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	本授業では、まず、会社法会計の基本概念、会社法における開示書類、決算スケジュールなどを学習したのち、個別に検討しておくべき事項について学習する。次に、金融商品取引法会計による財務諸表、特に連結財務諸表について、連結制度の変遷・制度の概要から具体的な作成手順、開示、個別に検討しておくべき事項について学習する。加えて、わが国の会計基準が国際的なコンバージェンスに伴って変化していることを踏まえ、国際会計基準 (IAS/IFRS) の概要と今後の展望について明らかにする。				
成績評価方法	小テスト: 30% (100点満点で採点し、それを成績評価の30%に換算する。)				
基準	期末試験: 70% (期末試験は100点満点で採点し、それを成績評価の70%分に換算する。)				
授業の予習・復習	次の授業までに、テキストの該当箇所を熟読して授業に臨むこと。またレポートについては、期日までに提出できるように授業で取り上げた箇所の復習を怠らないこと。				
教科書	水口剛・後藤晃範・平井裕久著『企業と会計』税務経理協会、2011年。				
参考文献	桜井久勝著『財務会計講義 < 第14版 >』中央経済社、2013年。 森久・長吉眞一・浅野千鶴・石川文子・蔣飛鴻・関利恵子著『企業簿記論』創成社、2010年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	貸借対照表	貸借対照表の機能と構造、連結と個別			
第2回	資産 I	資産の意味と内容および評価			
第3回	資産 II	取得原価主義と時価主義			
第4回	資産 III	流動固定分類とワンイヤールール			
第5回	資産 IV	減価償却と費用配分			
第6回	負債・引当金	負債および引当金の意味と内容			
第7回	純資産	資本金、剰余金の意味と内容			
第8回	損益計算書	損益計算書の機能と構造、連結と個別			
第9回	利益の計算	利益計算の構造、収益と費用の対応			
第10回	収益の認識	収益の意味と認識基準			
第11回	費用の認識	費用の意味と認識基準			
第12回	キャッシュ・フロー計算書等	キャッシュ・フロー計算書・株主資本等変動計算書の機能と構造			
第13回	財務諸表の見方 I	財務諸表から会社の収益性を分析する			
第14回	財務諸表の見方 II	財務諸表から会社の安全性を分析する			
第15回	財務諸表の見方 III	財務諸表から会社の生産性・成長性を分析する			

# 経済

授業番号	B202740001				
科目名 (英語表記)	外国経営書講読 I (Foreign management document subscription I)				
担当者 (英語表記)	坂本 旬 (Jun Sakamoto)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義のねらいは、国際経営や多国籍企業論に関わる英語文献の読解を通じて、外国語で書かれた専門書を読み解く力の向上を図ることにある。こうした英語文献の読解を通じて、国際経営の考え方や多国籍企業の理論についても理解を深めることを到達目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義では、あらかじめ配布されたテキストについて、履修者による音読・和訳の発表を中心に行う。英文の解釈や文法について誤りがあれば、適宜指摘するとともに、テキストの内容についても詳細に解説を加える。				
成績評価方法	授業参加態度・小テスト：50%				
基準	期末試験：50%				
授業の予習・復習	講義へ参加する準備として、配布されたテキストの該当箇所を辞書を用いながら和訳し、各自熟読すること。また、小テストを実施するため、各回の内容についての復習を行うこと。				
教科書	使用教材については、適時プリントを配布する。				
参考文献	Rugman, Alan. (ed), The Oxford Handbook of International Business (Oxford University Press, 2009).				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	講義の概要と進め方、成績評価について説明			
第 2 回	Theories of the Multinational Enterprise (1)	貿易理論と多国籍企業			
第 3 回	Theories of the Multinational Enterprise (2)	産業組織理論と多国籍企業			
第 4 回	Theories of the Multinational Enterprise (3)	取引コストと内部化			
第 5 回	Theories of the Multinational Enterprise (4)	取引コストの基本理論			
第 6 回	Theories of the Multinational Enterprise (5)	取引コスト理論と多国籍企業			
第 7 回	Theories of the Multinational Enterprise (6)	多国籍企業理論のまとめ			
第 8 回	Strategy and the Multinational Enterprise (1)	多国籍企業と戦略論			
第 9 回	Strategy and the Multinational Enterprise (2)	地理的拡大 (1) 目的、必要な資源・能力			
第 10 回	Strategy and the Multinational Enterprise (3)	地理的拡大 (2) リスクと競争			
第 11 回	Strategy and the Multinational Enterprise (4)	現地への適応 (1) 目的、必要な資源・能力			
第 12 回	Strategy and the Multinational Enterprise (5)	現地への適応 (2) リスクと競争			
第 13 回	Strategy and the Multinational Enterprise (6)	グローバルな統合 (1) 目的、必要な資源・能力			
第 14 回	Strategy and the Multinational Enterprise (7)	グローバルな統合 (2) リスクと競争			
第 15 回	Strategy and the Multinational Enterprise (8)	多国籍企業戦略のまとめ			

# 経済

授業番号	B202750001				
科目名 (英語表記)	外国経営書講読 II (Foreign management document subscription II)				
担当者 (英語表記)	藪内 正樹 (Masaki Yabuuchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	①企業経営や経済に関する中国語の文章を独力で読む、②書かれている要旨をまとめ、他人に説明する能力を高めることを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回、学生は教材の指定された部分の要約を事前に作成し、講義の中で発表してもらいます。内容について教師から解説し、皆でディスカッションをします。				
成績評価方法	発表の内容、ディスカッションでの積極性により評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：事前に教材の指定箇所を読み、要約を作成する。 復習：作成した要約を見ながら、ディスカッションの内容を思い出してください。				
教科書	4月までに決めて掲示します。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	互いの自己紹介 (中国の印象、関心事項など)、講義の進め方			
第2回	教材指定部分①	輪読および解説、ディスカッション			
第3回	教材指定部分②	輪読および解説、ディスカッション			
第4回	教材指定部分③	輪読および解説、ディスカッション			
第5回	教材指定部分④	輪読および解説、ディスカッション			
第6回	教材指定部分⑤	輪読および解説、ディスカッション			
第7回	教材指定部分⑥	輪読および解説、ディスカッション			
第8回	教材指定部分⑦	輪読および解説、ディスカッション			
第9回	教材指定部分⑧	輪読および解説、ディスカッション			
第10回	教材指定部分⑨	輪読および解説、ディスカッション			
第11回	教材指定部分⑩	輪読および解説、ディスカッション			
第12回	教材指定部分⑪	輪読および解説、ディスカッション			
第13回	教材指定部分⑫	輪読および解説、ディスカッション			
第14回	教材指定部分⑬	輪読および解説、ディスカッション			
第15回	教材指定部分⑭	輪読および解説、ディスカッション			

# 経済

授業番号	B201980001				
科目名 (英語表記)	外国経済書講読 I (Foreign book-on-economics scription I)				
担当者 (英語表記)	土井 修 (Osamu Doi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと 到達目標	George Soule の "Prosperity Decade" を輪読することを通じて、経済英語を習熟するとともに、米国の 1920 年代の経済についての理解を深めることを目的とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書の輪読部分を各自に割り当て、順次日本語に翻訳し、それを発表してもらいます。				
成績評価方法 基準	テストの他、発表などの授業参加態度を加味して評価します。				
授業の予習・復習	予習は、割り当てられた部分を、発表日までに日本語に翻訳しておくこと、復習は、発表後再度チェックし、理解を深めることです。				
教科書	George Soule, Prosperity Decade(1947)				
参考文献	書籍、雑誌、新聞、インターネットなどを通じて米国の経済に関する情報を取得すること。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Organization for War	Economic Planning for War			
第 2 回	Organization for War	War Industries Board			
第 3 回	The War Economy	Federal Reserve and Credit Expansion			
第 4 回	The War Economy	Production and Prices			
第 5 回	The Army of Producers	Labor Administration			
第 6 回	The Army of Producers	Hours and Conditions of Work			
第 7 回	The Postwar Boom	Demobilization and Boom			
第 8 回	The Postwar Boom	Credit Inflation and Prices			
第 9 回	The Postwar Depression	Deflationary Forces			
第 10 回	The Postwar Depression	No Building Expansion			
第 11 回	Recovery and Expansion	The Course of Recovery			
第 12 回	Recovery and Expansion	Rapid Advance in Productivity			
第 13 回	Industry,Business,Finance	Concentration of Control			
第 14 回	Industry,Business,Finance	Banking and Finance			
第 15 回	Industry,Business,Finance	The Shifting Economic Pattern			

# 経済

授業番号	B201990001				
科目名 (英語表記)	外国経済書講読 II (Foreign book-on-economics scription II)				
担当者 (英語表記)	土井 修 (Osamu Doi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと 到達目標	George Soule の "Prosperity Decade" を輪読することを通じて、経済英語を習熟するとともに、米国の 1920 年代の経済に関する理解を深めることを目的とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書の輪読部分を各自に割り当て、順次日本語に翻訳し、それを発表してもらいます。				
成績評価方法 基準	テストの他、発表などの授業参加態度を加味して評価します。				
授業の予習・復習	予習は、割り当てられた部分を、発表日までに日本語に翻訳しておくこと、復習は、発表後再度チェックし、理解を深めることです。				
教科書	George Soule, "Prosperity Decade" (1947)				
参考文献	著書、雑誌、インターネットなどを通してアメリカ経済に関する情報を取得すること。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Important Industries	Railroads			
第 2 回	Important Industries	Automobiles			
第 3 回	Important Industries	Public Utilities			
第 4 回	Farmers After Deflation	Causes of Depression			
第 5 回	Farmers After Deflation	Credit and Cooperatives			
第 6 回	International Tides	Debtor Nation to Creditor			
第 7 回	International Tides	Reparation Tangle			
第 8 回	International Tides	The Collapse of International Structure			
第 9 回	Recession and Boom	Warnings in 1927			
第 10 回	Recession and Boom	Saturation in Automobiles and Houses			
第 11 回	The Crash	Extent of Speculation			
第 12 回	The Crash	Investment Trusts, Pools, Holding Corporations			
第 13 回	The Crash	Brokers' Loans			
第 14 回	The Structure of "The New Era"	The Dominant Pattern			
第 15 回	The Structure of "The New Era"	Failure of Internal Adjustment			

# 経済

授業番号	B202530001				
科目名 (英語表記)	会社法 (Company law)			A	
担当者 (英語表記)	野口 明宏 (Akihiro Noguchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>会社の組織、運営、活動に対する法の規制を学びます。</p> <p>会社法は、現代語化されていますが、株式会社に細かい規制が行われているため、膨大かつ詳細な法律になっています。</p> <p>授業では、細部にとらわれず、基本的考え方が理解できるように、分かりやすく説明いたします。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>教科書を使用し、板書しながら授業を行います。</p> <p>試験に備えるためにも、ノートを取るようしてください。</p>				
成績評価方法 基準	<p>基本的に定期試験によって評価します。</p> <p>その他、授業内容への関心度、質問に対する解答、専門知識を理解する意欲の有無も考慮します。</p>				
授業の予習・復習	<p>あらかじめ教科書に目を通しておいてください。</p> <p>授業で書いたノートの内容を読み返し、知識が少しでも身につくように、努力してください。</p>				
教科書	近藤光男編 「現代商法入門」 有斐閣				
参考文献	必要な場合は、授業中に紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の方針、試験の方法など			
第 2 回	会社の意義	会社の定義、会社の種類、会社の権利能力			
第 3 回	会社法の意義	会社法の定義、資本金など			
第 4 回	会社の設立	定款の作成、危険な約束			
第 5 回	設立の手続、	発起設立、募集設立、設立の登記			
第 6 回	株式	資本金との関係、種類株式、株券			
第 7 回	株主	株主の権利、株式譲渡の自由、自己株式			
第 8 回	株主総会	株主総会の権限、招集手続、株主提案権			
第 9 回	議決権	委任状、書面投票制度、決議の瑕疵、特殊株主			
第 10 回	取締役	選任、任期、権限、取締役会、代表取締役			
第 11 回	取締役の義務	善管注意義務、忠実義務、利益相反取引、報酬			
第 12 回	取締役の責任	会社に対する責任、責任免除、株主代表訴訟			
第 13 回	監査役	会計参与、監査役会、会計監査人、委員会設置会社			
第 14 回	募集株式の発行	発行手続、発行の差止め、新株予約権			
第 15 回	社債	普通社債、社債権者集会、新株予約権付社債			

# 経済

授業番号	B202530002				
科目名 (英語表記)	会社法 (Company law)			B	
担当者 (英語表記)	野口 明宏 (Akihiro Noguchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>会社の組織、運営、活動に対する法の規制を学びます。</p> <p>会社法は、現代語化されていますが、株式会社に細かい規制が行われているため、膨大かつ詳細な法律になっています。</p> <p>授業では、細部にとらわれず、基本的考え方が理解できるように、分かりやすく説明いたします。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>教科書を使用し、板書しながら授業を行います。</p> <p>試験に備えるためにも、ノートを取るようしてください。</p>				
成績評価方法 基準	<p>基本的に定期試験によって評価します。</p> <p>その他、授業内容への関心度、質問に対する解答、専門知識を理解する意欲の有無も考慮します。</p>				
授業の予習・復習	<p>あらかじめ教科書に目を通しておいてください。</p> <p>授業で書いたノートの内容を読み返し、知識が少しでも身につくように、努力してください。</p>				
教科書	近藤光男編 「現代商法入門」 有斐閣				
参考文献	必要な場合は、授業中に紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の方針、試験の方法など			
第 2 回	会社の意義	会社の定義、会社の種類、会社の権利能力			
第 3 回	会社法の意義	会社法の定義、資本金など			
第 4 回	会社の設立	定款の作成、危険な約束			
第 5 回	設立の手続、	発起設立、募集設立、設立の登記			
第 6 回	株式	資本金との関係、種類株式、株券			
第 7 回	株主	株主の権利、株式譲渡の自由、自己株式			
第 8 回	株主総会	株主総会の権限、招集手続、株主提案権			
第 9 回	議決権	委任状、書面投票制度、決議の瑕疵、特殊株主			
第 10 回	取締役	選任、任期、権限、取締役会、代表取締役			
第 11 回	取締役の義務	善管注意義務、忠実義務、利益相反取引、報酬			
第 12 回	取締役の責任	会社に対する責任、責任免除、株主代表訴訟			
第 13 回	監査役	会計参与、監査役会、会計監査人、委員会設置会社			
第 14 回	募集株式の発行	発行手続、発行の差止め、新株予約権			
第 15 回	社債	普通社債、社債権者集会、新株予約権付社債			

# 経済

授業番号	B201890001		
科目名 (英語表記)	環境経済学 I (Environmental economics I)		
担当者 (英語表記)	和田 良子 (Ryoko Wada)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>環境問題と経済の関係を知り、さらに環境問題を経済学でとらえるとはどういうことか、経済学の分析ツールによって解決できる環境問題とはなにか、を学びます。</p> <p>最初に、環境をどのようにとらえるのかを、理論的に理解します。公共財、外部性、公共選択の理論などを学びます。その理解にのっとなって、日本の政府が取り組んでいる環境問題より重要なものを取り上げて学びます。</p> <p>循環型社会とは何か、環境リサイクル法、を理論的な立場から評価します。</p> <p>京都議定書のような国際的取組の制度を知るだけでなく、および理論的な理解をしていきます。</p>		
授業の進め方 (履修条件など)	<p>経済理論Ⅱ B、ミクロ経済学、公共経済学を履修していることが望ましい</p> <p>制度の学習では、環境省の HP を用います。プリントが適宜配布されます。</p> <p>理論的な学習においては、ノートをしっかり取るが必要になります。</p>		
成績評価方法	小テストをトピックスごとに行います。本テストによって 50% を評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習は不要ですが、レポートによって復習とすることがあります		
教科書	適宜プリント配布をします。		
参考文献	栗山浩一・馬奈木俊介「環境経済学をつかむ」有斐閣		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	イントロダクション	環境と経済活動、環境経済学とは	
第 2 回	環境と経済活動	大量消費社会からの脱却	
第 3 回	経済学による環境の考え方	公共財と市場の資源配分の失敗、 ピグー税	
第 4 回	公共財としての環境問題	公共財の生産量の決定、公共選択の理論 (社会状態の決定の理論)	
第 5 回	環境問題の現状と対策	環境省の HP より、循環型社会、家電リサイクル法	
第 6 回	環境問題の現実と対策 2	ピグー税と産業廃棄物税	
第 7 回	メカニズムデザイン	公共財の生産量決定にとって良いメカニズムを探る	
第 8 回	メカニズムデザイン 2	適切なメカニズムデザインを知る。啓蒙運動と 3R	
第 9 回	ここまでのまとめ	公共財の理論的理解の前半と、それによる現実の評価を小テストします	
第 10 回	外部性	外部性とは何か、たばこを吸う人がいるときを例にとって解説します	
第 11 回	外部性 2	理論モデルを展開します	
第 12 回	大学の環境問題について話し合う	理論モデルの理解を踏まえて、大学の喫煙問題について話し合いをします。グループディスカッションをし、レポートをまとめます	
第 13 回	大学の環境問題について回答	前回の討論を経て、結論を各グループの代表に報告してもらい、比較します	
第 14 回	外部性のまとめ	外部性があるとき、社会選択で自分を偽る戦略が有効になることを学びます	
第 15 回	まとめ	前期に学んだことのまとめ	



経済

授業番号	B200590001				
科目名 (英語表記)	環境地理学 I (Environmental geography I)				
担当者 (英語表記)	三澤 正 (Masashi Misawa)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	気候環境のなりたちと人間生活との関連を中心として、教職課程の環境地理学としての必要な基本的事項の修得と、環境教育プログラムの作成のための視点および教材化の能力の取得をめざす。				
授業の進め方 (履修条件など)	(1) 太陽エネルギーと地球 (2) 地球をめぐる大気の流れ (3) 環境としての気候の各項目について、基礎的事項から応用的内容へと展開し、高度な知識の習得を目指す。随時行う授業時間内の小テストによって受講者の理解度を確認しながら授業を進める。				
成績評価方法	定期試験 (70%)・授業内小テスト (30%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書の該当部分の予習が求められる。 復習：次週までの課題を通して授業内容の復習をする。				
教科書	三澤正編「大気環境と人間」開成出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	講義内容の概要			
第 2 回	太陽エネルギーと地球 (1)	地球をめぐるエネルギーの流れ			
第 3 回	太陽エネルギーと地球 (2)	エネルギー収支			
第 4 回	太陽エネルギーと地球 (3)	温室効果と日傘効果			
第 5 回	太陽エネルギーと地球 (4)	地表面の熱収支			
第 6 回	地球をめぐる大気の流れ (1)	地表付近の大気の流れ			
第 7 回	地球をめぐる大気の流れ (2)	子午面循環			
第 8 回	地球をめぐる大気の流れ (3)	東西流と偏西風の波動			
第 9 回	地球をめぐる大気の流れ (4)	季節風・局地風			
第 10 回	環境としての気候 (1)	温度環境と人間生活			
第 11 回	環境としての気候 (2)	温度環境と植物			
第 12 回	環境としての気候 (3)	水収支と気候の乾湿			
第 13 回	環境としての気候 (4)	水と人間生活			
第 14 回	環境としての気候 (5)	自然災害			
第 15 回	まとめ	授業内容のまとめと討論			

経済

授業番号	B200600001				
科目名 (英語表記)	環境地理学 II (Environmental geography II)				
担当者 (英語表記)	三澤 正 (Masashi Misawa)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	地球温暖化やヒートアイランドなど人為的影響による大気環境の変化を中心として、教職課程の環境地理学としての必要な基本的事項の修得と、環境教育プログラムの作成のための視点および教材化の能力の取得をめざす。				
授業の進め方 (履修条件など)	(1) 気候変動 (2) 大気汚染 (3) 都市の自然環境の各項目について、基礎的事項から応用的内容へと展開し、高度な知識の習得を目指す。随時行う授業時間内の小テストによって受講者の理解度を確認しながら授業を進める。				
成績評価方法	定期試験 (70%)・授業内小テスト (30%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書の該当部分の予習が求められる。 復習：次週までの課題を通して授業内容の復習をする。				
教科書	三澤正編「大気環境と人間」開成出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	講義内容の概要			
第 2 回	気候変動 (1)	地球気温の推移			
第 3 回	気候変動 (2)	地球温暖化と気候変化			
第 4 回	気候変動 (3)	地球温暖化と季節推移の変化			
第 5 回	気候変動 (4)	気候変動の影響			
第 6 回	大気汚染 (1)	大気汚染の変遷			
第 7 回	大気汚染 (2)	都市の大気汚染			
第 8 回	大気汚染 (3)	大気汚染の広域化			
第 9 回	大気汚染 (4)	酸性雨と森林破壊			
第 10 回	都市の自然環境 (1)	ヒートアイランド			
第 11 回	都市の自然環境 (2)	都市の砂漠化			
第 12 回	都市の自然環境 (3)	水質汚濁			
第 13 回	都市の自然環境 (4)	都市の自然環境変化の要因			
第 14 回	都市の自然環境 (5)	望ましい都市の自然環境			
第 15 回	まとめ	授業内容のまとめと討論			

経済

授業番号	B202560001				
科目名 (英語表記)	観光事業論 I (Tourist industry theory I)				
担当者 (英語表記)	奥山 隆哉 (Takaya Okuyama)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>ヒトの交流が価値を生み出す時代になってきた。地球規模で人的交流が劇的に増加する中、グローバル化しつつある観光事業について、前期は、旅行業と地域における観光事業を中心に顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、地域ビジネス理解などについて経営的視点から学習する。</p> <p>【到達目標】①観光事業を考えるための基礎的視点や知識を覚える。②新聞雑誌の観光関係記事の意味を解釈できるようになる。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>最初に、当該授業のテーマに関係する時事を新聞記事や DVD 映像で紹介し、実践的基礎理解を深める。次に、経営一般の基礎知識を織り込みながら、各観光事業に固有の基礎事項や課題について、パワーポイント資料を用い授業を進める。</p>				
成績評価方法	<p>定期試験における筆記試験および学期中のクラス参加度により成績評価する。</p>				
基準	<p>筆記試験による配点は概ね 60%前後、クラス参加度による配点は概ね 40%前後とする。</p>				
授業の予習・復習	<p>予習： 旅行会社、ホテル/旅館、航空会社等の観光産業および国・自治体の観光施策等や地域観光振興に関するニュースに日頃から目を通しておく。</p> <p>復習： 配布プリントに目を通す。</p>				
教科書	<p>教科書は用いない。毎回プリントを配布する。</p>				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義ガイダンス	前期授業の方針と授業内容の説明			
第 2 回	観光 (事業) の発展過程 (世界および日本)	移動する人類、中世の聖地巡礼、近代ツーリズムの誕生、中産階級とマスツーリズムの拡がり // 古事記と温泉、伊勢参りと旅行業、旅行業の草創期、高度成長・技術革新と旅行の大衆化、旅行価値の変化など			
第 3 回	観光全般 1 (観光市場の現状)	観光・旅行全般の状況、生活の価値観の変化、様々な旅行形態、国内宿泊・訪日外国人・海外旅行の市場動向、世界の観光の現状など			
第 4 回	観光全般 2 (観光とは)	観光の語源、定義、意義、効果、観光の構成要素、観光主体、観光行動、観光客体など			
第 5 回	観光事業と地域 1 (地域と観光)	地域にとっての観光の意味、経済的効果、社会・文化的効果、観光資源、観光事業の社会的責任など			
第 6 回	観光事業と地域 2 (地域活性化と観光事業)	地域の課題、観光圏整備事業、地域観光活性化のための課題、観光まちづくり、様々な観光地づくり、観光地域ブランド、観光デザインなど			
第 7 回	観光事業と地域 3 (ニューツーリズム)	新しい旅のスタイル、ニューツーリズムと地域、エコツーリズム、グリーン・ツーリズム、文化観光、産業観光、スポーツ観光、医療観光など			
第 8 回	観光マーケティング 1 (マーケティングの基礎)	マーケティングの目的、AIDMA、PPM、3C、ターゲティング、4P、商品のライフサイクル、マーケティングの原則、満足のしくみなど			
第 9 回	観光マーケティング 2 (観光マーケティング)	観光商品の特性とブランド、観光マーケティングの特徴、マーケティング活動、ブランドの機能と絆、観光地域ブランドづくりなど			
第 10 回	旅行事業 1 (旅行業全般)	旅行業に求められること、トーマス・クック、日本の旅行業と特性・形態、旅行市場における旅行業、社会の変化と今後の旅行業など			
第 11 回	旅行事業 2 (旅行商品と販売)	旅行業の種類と業務、旅行会社の商品構成、旅行業の形態と流通構造、旅行商品の特性、旅行業販売における変化など			
第 12 回	旅行事業 3 (旅行業の存在価値)	旅行業の特性と機能、時代の求めるものの変遷と「情報」「流通」「集客交流」の価値、サプライヤーとの関係の変化と旅行業の変革など			
第 13 回	旅行事業 4 (情報化社会の進展と旅行業)	インターネットの伸展、旅行会社が販売するもの、旅行情報流通と旅行者の意思決定、オンライン・トラベルエージェント、新しい旅行業など			
第 14 回	旅行事業 5 (旅行取引と消費者)	旅行業法、旅行取引と約款、旅行業務の流れ、ネット取引、消費者保護、旅程管理業務、旅程保証、特別補償など			
第 15 回	リキャップ	前期授業の整理と主要な点についての復習、テスト範囲について			

# 経済

授業番号	B202570001		
科目名(英語表記)	観光事業論 II (Tourist industry theory II)		
担当者(英語表記)	奥山 隆哉 (Takaya Okuyama)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>経済成長の著しいアジアでの国際旅行者数が10年で2倍に増えるところから、観光事業は世界的規模で高い成長が期待される産業分野として重みが増している。後期では、この倍増する旅行者に観光サービスを提供する宿泊・航空事業を中心に、国の観光立国政策、訪日外国人旅行、国際会議等 MICE について顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、地域ビジネス理解などを経営的視点から学習する。</p> <p>【到達目標】①観光事業を考えるための基礎的視点や知識を覚える。②新聞雑誌の観光関係記事の意味を解釈できるようになる。</p>		
授業の進め方(履修条件など)	<p>最初に、当該授業のテーマに関係する時事を新聞記事やDVD映像で紹介し、実践的基礎理解を深める。次に、経営一般の基礎知識を織り込みながら、各観光事業に固有の基礎事項や課題について、パワーポイント資料を用い授業を進める。</p>		
成績評価方法	<p>定期試験における筆記試験と平常のクラス参加度により評価する。</p>		
基準	<p>配点は、筆記試験は概ね60%前後、クラス参加度は概ね40%前後とする。</p>		
授業の予習・復習	<p>予習： ホテル/旅館、航空会社、旅行会社等の観光産業および国・自治体の観光施策等に関する新聞記事などを読みひろって、目を通しておく。</p> <p>復習： 配布プリントに目を通す。</p>		
教科書	<p>教科書は用いない。毎回プリントを配布する。</p>		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第1回	講義ガイダンス	後期授業の方針と授業内容の概要を説明	
第2回	観光事業の基礎 1 (観光事業の役割、機能)	観光事業の概念と機能、観光行動と観光生産物、観光サービスの特性、観光事業の経済効果・地域への効果など	
第3回	観光事業の基礎 2 (観光事業の特性)	観光事業の特性(立地性、季節性、人・情報、収容力など)、社会・経済環境の変化と観光事業の成長・進化、地域のアトラクティブスなど	
第4回	観光立国 1 (国の政策)	日本の観光政策の変遷(明治、戦後、万博、少子高齢化)、観光振興施策の意味、観光立国の意義、観光立国推進基本計画など	
第5回	観光立国 2 (訪日旅行)	外国人訪日旅行の市場、受入環境整備、訪日旅行者の消費行動、訪日旅行促進のマーケティング・プロモーション、多様な取組みなど	
第6回	観光立国 3 (世界の観光市場)	国際観光市場の現状、アジアにおける相互観光交流、ツーウェイ・ツーリズム、海外旅行、各国政府観光局の活動など	
第7回	観光立国 4 (コンベンション・MICE)	MICEとは、意義と効果、MICEと地域、MICEの各事業(ミーティング、インセンティブトラベル、コンベンション、エグジビション・イベント)など	
第8回	宿泊事業 1 (宿泊業全般)	ホテルと旅館、ホテル・旅館の発展史、宿泊施設が提供する商品、国内宿泊旅行市場、宿泊事業の環境変化、宿泊事業の特性など	
第9回	宿泊事業 2 (ホテル業)	世界のホテルブランド、ホテルの機能、ホテルの分類、ホテル事業の経営形態、ホテルの経営組織、ホテルの収入構造など	
第10回	宿泊事業 3 (旅館業)	旅館業と地域、老舗企業としての旅館業、社会の変化と旅館業、旅館の特質と課題、旅館の業務、おもてなしとホスピタリティなど	
第11回	航空事業 1 (航空業全般)	航空の歴史、世界の航空市場とプレイヤー、航空事業の特徴、航空会社の経費構造と経営、航空会社を取り巻く課題、航空会社の組織など	
第12回	航空事業 2 (航空政策と空港)	航空政策の変遷と航空事業、空の自由、オープンスカイ、ネットワーク、空港の機能、空港でのビジネス、空港と地域との関わりなど	
第13回	航空事業 3 (航空会社の動き)	航空会社のビジネスモデル、アライアンス、ローコストキャリア(LCC)と需要創造、航空座席の販売流通、チャーターと地域など	
第14回	宿泊・航空事業共通 4 (レベニューマネジメント・イールドマネジメント)	レベニューマネジメント・イールドマネジメントの生まれた背景、考え方、宿泊業のレベニューマネジメント、航空業のイールドマネジメントなど	
第15回	リキャップ	後期授業の整理と主要な点についての復習、テスト範囲について	

経済

授業番号	B202290001				
科目名 (英語表記)	管理会計論 (Administrative-accounting theory)				
担当者 (英語表記)	平屋 伸洋 (Nobuhiro Hiraya)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、管理会計の基礎的知識を理解し、企業経営者の意思決定や業績評価に役立つ会計情報を自分で計算できるようになることである。また到達目標は、CVP分析や予算管理、利益計画の策定や原価管理のしくみを理解することによって、企業の問題点を分析できることである。				
授業の進め方 (履修条件など)	本授業では、原価計算、利益管理、原価管理、予算管理、意思決定、バランストスコアカードという五つの主要なテーマについて重点的に取り上げていく。また、管理会計 (原価計算) の知識とその手法が身につくよう、問題演習を取り入れた授業を行いながら、管理会計の理解を深められるようにする。				
成績評価方法	レポート: 30% (管理会計論では、3回のレポート提出を義務づけており、各10点満点で採点する。)				
基準	期末試験: 70% (期末試験は100点満点で採点し、それを成績評価の70%分に換算する。)				
授業の予習・復習	次の授業までに、テキストの該当箇所を熟読して授業に臨むこと。またレポートについては、期日までに提出できるよう授業で取り上げた箇所の復習を怠らないこと。				
教科書	櫻井通晴著『管理会計 基礎編』同文館出版、2010年。				
参考文献	櫻井通晴著『管理会計 第四版』同文館出版、2009年。 森久・関利恵子・長野史麻・徳山英邦・蔣飛鴻著『財務分析からの会計学 第二版』森山書店、2011年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	本授業の概要と今後の進め方、成績評価について説明			
第2回	原価計算編 (1)	原価計算の前提			
第3回	原価計算編 (2)	部門費の計算			
第4回	原価計算編 (3)	個別原価計算			
第5回	原価計算編 (4)	総合原価計算			
第6回	原価計算編 (5)	標準原価計算			
第7回	原価計算編 (6)	直接原価計算			
第8回	管理会計編 (1)	意思決定会計			
第9回	管理会計編 (2)	CVP分析			
第10回	管理会計編 (3)	短期利益計画と長期利益計画			
第11回	管理会計編 (4)	戦略的投資			
第12回	管理会計編 (5)	管理会計の有用性について			
第13回	管理会計編 (6)	マネジメントコントロールと管理会計			
第14回	管理会計編 (7)	戦略的コストマネジメント			
第15回	管理会計編 (8)	VBMと日本の管理会計			

# 経済

授業番号	B201330001				
科目名 (英語表記)	企業金融論 I (Corporation finance theory I)				
担当者 (英語表記)	三田村 智 (Satoshi Mitamura)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義では、企業金融の基礎理論を学ぶ。具体的には、重要なキーワードである「資本コスト」と「現在価値」について解説した上で、企業の投資決定について講義する。資本調達やペイアウト政策などは企業金融論Ⅱ（後期）で取り上げる。両方を履修することで、1年間かけて、企業金融について体系的に学ぶことができる。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を中心に、配布プリントや関連する新聞・雑誌記事を用いて授業を行う。				
成績評価方法	2回のテストと授業への参加態度により評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書を前もってよく読み、自ら理解できた部分とそうでない部分を明確すること。 復習：授業で学んだ内容についてよく復習し、理解できなかった部分は必ず質問すること。				
教科書	砂川伸幸『コーポレート・ファイナンス入門』（2004年、日本経済新聞社）				
参考文献	島義夫『入門コーポレート・ファイナンス』（2010年、日本評論社） 山澤光太郎『ビジネスマンのためのファイナンス入門』（2004年、東洋経済新報社） その他、適宜授業中に指定する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	イントロダクション	本科目の概要、講義の進め方、評価の方法について			
第2回	リスクとリターン (1)	期待収益率、ファイナンスにおけるリスクについて			
第3回	リスクとリターン (2)	リスク・プレミアム、リスクとリターンの関係			
第4回	資本コスト (1)	債権者と株主のリスクとリターンについて			
第5回	資本コスト (2)	資本構成と総資本コストについて			
第6回	CAPM	資本資産評価モデル (CAPM) について			
第7回	総資本コストの推計	総資本コストの推計について			
第8回	中間試験	これまでの授業に関する確認テスト			
第9回	キャッシュフローの現在価値 (1)	現在価値と将来価値について			
第10回	キャッシュフローの現在価値 (2)	リスクがあるキャッシュフローの現在価値			
第11回	企業価値とキャッシュフロー	企業価値とキャッシュフローについて			
第12回	企業の投資決定 (1)	NPV法による投資の意思決定について			
第13回	企業の投資決定 (2)	RR法、EVA法による投資の意思決定について			
第14回	リアルオプション (1)	リアルオプションという考え方について			
第15回	リアルオプション (2)	リアルオプションを考慮した投資の意思決定			

# 経済

授業番号	B201340001				
科目名 (英語表記)	企業金融論 II (Corporation finance theory II)				
担当者 (英語表記)	三田村 智 (Satoshi Mitamura)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義では企業金融論 I (前期) の続きとして、企業による資本の調達や投資について学ぶ。実際の企業の財務戦略を取り上げたり、ケーススタディを行ったりすることで、企業金融の基礎を分かりやすく講義する。本講義では、特に企業の資本調達について解説する。また、ペイアウト政策や M & A についても取り上げる。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を中心に、配布プリントや関連する新聞・雑誌記事を用いて授業を行う。				
成績評価方法	2 回のテストと授業への参加態度により評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書を前もってよく読み、自ら理解できた部分とそうでない部分を明確すること。 復習：授業で学んだ内容についてよく復習し、理解できなかった部分は必ず質問すること。				
教科書	砂川伸幸『コーポレート・ファイナンス入門』(2004 年、日本経済新聞社)				
参考文献	島義夫『入門コーポレート・ファイナンス』(2010 年、日本評論社) 山澤光太郎『ビジネスマンのためのファイナンス入門』(2004 年、東洋経済新報社) その他、適宜授業中に指定する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	イントロダクション	本科目の概要、講義の進め方、評価の方法			
第 2 回	企業の資金調達と投資行動	企業の資金調達と投資行動の概要			
第 3 回	資本構成と企業価値	資本構成と企業価値の関係 (MM 命題)			
第 4 回	法人税とデフォルトコスト	トレードオフ理論、最適資本構成について			
第 5 回	長期資金調達の制度	我が国における企業の長期資金調達チャネル			
第 6 回	エクイティファイナンス	株式による資金調達について			
第 7 回	中間試験	これまでの授業に関する確認テスト			
第 8 回	情報の不完全性と資本構成 (1)	事前的な情報の不完全性と逆選択問題			
第 9 回	情報の不完全性と資本構成 (2)	事後的な情報の不完全性とエージェンシー問題			
第 10 回	配当政策と自社株買い (1)	MM の配当無関連命題について			
第 11 回	配当政策と自社株買い (2)	市場の不完全性と配当政策について			
第 12 回	配当政策と自社株買い (3)	市場の不完全性と自社株買いについて			
第 13 回	M & A とその経営・財務上の意味 (1)	M&A、そのメリット・デメリットなど			
第 14 回	M & A とその経営・財務上の意味 (2)	株式譲渡、株式交換による M&A について			
第 15 回	M & A とその経営・財務上の意味 (3)	TOB、LBO、MBO について			



# 経済

授業番号	B202550001				
科目名 (英語表記)	企業経営と心理学 (Corporate management and psychology)				
担当者 (英語表記)	藤井 輝男 (Teruo Fujii)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	経営活動に関わる心理学的問題は、消費者行動のみならず組織と個人の問題、職場管理とリーダーシップ、職場内での人間関係など多岐にわたる。本講義では、経営活動を人間の行動との関わりからとらえ、経営活動について心理学的に理解することを旨とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	まず、消費者行動に関連して心理学的視点から概説する。その後、広告、購買行動、組織マネジメントワークモチベーション等の各テーマに関して、学生各自が分担して報告を行う。その報告内容に関して、教員が補足説明を加える形式で授業を進める。				
成績評価方法	試験 (40%)、発表及びその他の課題 (40%)、授業態度 (20%)				
基準					
授業の予習・復習	事前に配付資料等を読み込んでおくこと。				
教科書	初回授業時に指示する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて			
第2回	消費者心理と行動	ショッピング (物を買う) とは			
第3回	販売と購買心理	人の気持ちと購買行動			
第4回	ファッションの経営心理	衣服購入 (ファッション) に関わる問題について			
第5回	広告の方法と心理	様々な広告の影響について			
第6回	広告の深層心理	広告の知られざる効果について			
第7回	自己プレゼンテーション	顧客に与える印象とその効果			
第8回	企業の意志決定の方法	集団討議の功罪について			
第9回	管理者とリーダーシップ	職場環境とリーダーの特性について			
第10回	企業組織の活性化	組織活性化のための変革について			
第11回	性役割と経営心理	職場における男女の役割について			
第12回	人事測定	人事アセスメントとディベロップメント			
第13回	ワークモチベーション	意欲を高めるには			
第14回	仕事の成功と失敗	仕事への取り組みと性格との関連について			
第15回	職場のストレスと適応	ストレスに対処するには			



# 経済

授業番号	B202670001				
科目名 (英語表記)	企業と産業組織 I (A company and the industrial organization I)				
担当者 (英語表記)	森谷 英樹 (Hideki Moriya)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	通常の経済学では、個人や企業などの経済主体が、あたかもバクテリアのように平均的均一的であるかのように前提を置く。産業組織論では様々な規模と個性を持つ企業が、時に競争的に時に協調的に行動することに注目する。				
授業の進め方 (履修条件など)	板書と説明をノートにとりまとめる形で進める。教科書はないが随時プリントを配布して教材にする。基礎的な常識 (理論)、過去の経験 (歴史的な事実)、現状と問題点 (政策課題) など分かりやすく説明する。				
成績評価方法	定期試験 90%、出席 10%				
基準	試験では自筆ノートのみ持ち込み可。ノートがなければ合格は困難であろう。				
授業の予習・復習	予習：授業の始めに前回の復習をする。 復習：終わったあと分からないことについて質問を認める。				
教科書	使用しない				
参考文献	R. ケイヴス「産業組織論」東洋経済新報社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	授業の概要と目標	講義の聞き方、ノートのとり方、まとめ方			
第 2 回	生産性とは何か？	豊かな社会は何故可能か、落花生のケース			
第 3 回	産業組織の必要性	相互依存関係と産業組織、産業組織の決定			
第 4 回	ミクロ経済と産業組織	付加価値を増やすために			
第 5 回	アパレル産業のケース	売れる商品を調達する仕組みをどうする			
第 6 回	中間とりまとめ	市場か、社内か、系列取引先か			
第 7 回	市場構造①	アタリ社			
第 8 回	市場構造②	ロックフェラーのスタンダード石油			
第 9 回	市場構造③	スタンダード石油の分割命令			
第 10 回	独占禁止法とその運用	八幡・富士合併と公正取引委員会			
第 11 回	巨大合併の審査	新日本製鉄の誕生			
第 12 回	供給責任と日本企業	住友化学の事故			
第 13 回	ケーススタディ①	事例研究とその要点			
第 14 回	ケーススタディ②	事例研究とその要点			
第 15 回	試験対策	復習			

# 経済

授業番号	B202680001				
科目名 (英語表記)	企業と産業組織 II (A company and the industrial organization II)				
担当者 (英語表記)	森谷 英樹 (Hideki Moriya)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	通常の経済学では、個人や企業などの経済主体が、あたかもバクテリアのように平均的均一的であるかのように前提を置く。産業組織論では様々な規模と個性を持つ企業が、時に競争的に時に強制的に行動することに注目する。				
授業の進め方 (履修条件など)	板書と説明をノートにとりまとめる形で進める。教科書はないが随時プリントを配布して教材にする。基礎的な常識 (理論)、過去の経験 (歴史的な事実)、現状と問題点 (政策課題) など分かりやすく説明する。				
成績評価方法	定期試験 90%、出席 10%				
基準	試験では自筆ノートのみ持ち込み可。ノートがなければ合格は困難であろう。				
授業の予習・復習	予習：授業の始めに前回の復習をする。 復習：終わったあと分からないことについて質問を認める。				
教科書	使用しない。				
参考文献	清成、下川『現代の系列』日本産業評論社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	授業の概要と目標	講義の聞き方、ノートのとり方、まとめ方			
第 2 回	設備投資と技術進歩	経済成長と賃金、付加価値の増加			
第 3 回	日本の経済成長	無資源の優位性、自由貿易と比較優位			
第 4 回	技術進歩と経済成長	鉄鋼と自動車、新鋭工場と輸出			
第 5 回	産業組織とケイレツ	部品産業の育成、系列取引は合理的か			
第 6 回	対米産業政策	自動車産業政策、小型車戦略、現地生産			
第 7 回	産業技術と産業政策	電子工業の産業組織			
第 8 回	イノベーション	新しい商品開発、価格低下と大量生産			
第 9 回	中間とりまとめ	企業行動、競争と協力、多国籍生産			
第 10 回	空洞化論	付加価値と分業と貿易			
第 11 回	系列取引とサプライチェーン	取引コストの低減			
第 12 回	産業組織と環境問題	家電リサイクル法、PPP			
第 13 回	ケーススタディ①	事例研究とその要点			
第 14 回	ケーススタディ②	事例研究とその要点			
第 15 回	試験対策	復習			

経済

授業番号	B202520001				
科目名 (英語表記)	企業法 (Enterprise law)				
担当者 (英語表記)	野口 明宏 (Akihiro Noguchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>商法の中の総則、商行為の範囲を解説します。</p> <p>商法は企業法と理解するのが支配的考え方ですから、科目名は企業法としています。</p> <p>企業法は、個人商人や会社が行う商取引を規制・保護するルールです。</p> <p>商業・企業取引を基本に立ち返って理解しようとする授業になります。</p> <p>教科書を使用し、板書しながら授業を行います。ノートを取るようになしてください。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を揃えること、ノートを取るようになしてください。				
成績評価方法	基本的に定期試験によって評価します。学生の授業への取り組み方も、重要な評価要因になります。				
基準					
授業の予習・復習	あらかじめ教科書を下読みしてください。授業後は、ノートをもとに知識を整理しておいてください。				
教科書	近藤光男編 「現代商法入門」 有斐閣				
参考文献	必要な場合に、授業の中で紹介いたします。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の方針、試験の方法			
第 2 回	商法とは何か	商法企業法説、民法の特別法、商法の特性			
第 3 回	商法の適用	商事制定法、商慣習法、普通取引約款			
第 4 回	商法の適用対象	商人、商行為、絶対的商行為、営業的商行為、固有の商人、擬制商人			
第 5 回	商人資格の取得時期	自然人の場合、営業能力、法人の場合			
第 6 回	営業とは何か	主観的意義、客観的意義、のれん、営業譲渡、競争禁止義務、営業所			
第 7 回	商業登記	企業内容の開示、商業登記簿、登記事項、個人商人の場合			
第 8 回	商業登記の効力	登記手続、商業登記の一般的効力、不実登記の効力			
第 9 回	商号	商号自由主義、商号の登記、商号使用权、商号専用権、名板貸し			
第 10 回	商業帳簿	企業会計原則、会計帳簿、貸借対照表、帳簿の保存・提出			
第 11 回	商業使用人	商人の補助者、営業主との雇用契約、支配人、支配権			
第 12 回	支配人の義務	競争禁止義務、営業禁止義務、表見支配人			
第 13 回	代理商	締約代理商、媒介代理商、代理商契約、代理商の権利義務			
第 14 回	消費者取引	消費者保護の法的ルール、電子商取引、電子消費者契約法			
第 15 回	消費者契約法	民法の例外、事業者の無過失責任、説明・情報提供義務			

# 経済

授業番号	B200030001				
科目名 (英語表記)	基礎数学 (Basic mathematics)			(1)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	数的パズルを通して基本的な計算力を身に付け、論理的思考力を養います。これにより、経済学など大学で扱う学問習得に必要な数的処理能力を習得するのが主な目標です。また、数的感覚を磨くことで、日常生活にも役立ち、SPI 非言語・CABなどの各種就職試験で高得点を取れるようにもしていきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	プリントを配布し、例題を説明した後で、練習問題を演習します。パズルを多く取り入れ、楽しく学び、数学に興味を持ってもらえるようにします。				
成績評価方法	定期試験・授業態度・課題への取り組み				
基準					
授業の予習・復習	授業で扱った問題は次回までにスラスラ解答できるように復習しておきましょう。				
教科書	オリジナルプリント教材を使用する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の方針, 計算パズル			
第 2 回	四則計算	整数の四則計算と効率の良い計算方法			
第 3 回	小数・概算	CAB(暗算)の過去問演習, 割合の考え方			
第 4 回	分数	分数の四則計算, 約数と倍数			
第 5 回	文字式	累乗, 簡単な文字式の必要性・意味・扱い			
第 6 回	方程式 (1)	等式の性質, 一次方程式の解法			
第 7 回	方程式 (2)	一次方程式とその応用			
第 8 回	中間試験	第 1 ~ 7 講までの範囲で出題			
第 9 回	不等式	不等式を用いた表現, 一次不等式の解法			
第 10 回	平方根	平方根と根号 ( $\sqrt{\quad}$ ) の必要性・意味・扱い			
第 11 回	連立方程式	2 元一次連立方程式の解法とその応用			
第 12 回	座標平面 (1)	点の座標, 比例・反比例・一次関数のグラフ			
第 13 回	座標平面 (2)	連立方程式の解とグラフ			
第 14 回	展開・因数分解 (1)	簡単な式の展開と因数分解			
第 15 回	展開・因数分解 (2)	展開と因数分解の応用			

# 経済

授業番号	B200030002				
科目名 (英語表記)	基礎数学 (Basic mathematics)			(2)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	数的パズルを通して基本的な計算力を身に付け、論理的思考力を養います。これにより、経済学など大学で扱う学問習得に必要な数的処理能力を習得するのが主な目標です。また、数的感覚を磨くことで、日常生活にも役立ち、SPI 非言語・CABなどの各種就職試験で高得点を取れるようにもしていきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	プリントを配布し、例題を説明した後で、練習問題を演習します。パズルを多く取り入れ、楽しく学び、数学に興味を持ってもらえるようにします。				
成績評価方法	定期試験・授業態度・課題への取り組み				
基準					
授業の予習・復習	授業で扱った問題は次回までにスラスラ解答できるように復習しておきましょう。				
教科書	オリジナルプリント教材を使用する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の方針, 計算パズル			
第 2 回	四則計算	整数の四則計算と効率の良い計算方法			
第 3 回	小数・概算	CAB(暗算)の過去問演習, 割合の考え方			
第 4 回	分数	分数の四則計算, 約数と倍数			
第 5 回	文字式	累乗, 簡単な文字式の必要性・意味・扱い			
第 6 回	方程式 (1)	等式の性質, 一次方程式の解法			
第 7 回	方程式 (2)	一次方程式とその応用			
第 8 回	中間試験	第 1 ~ 7 講までの範囲で出題			
第 9 回	不等式	不等式を用いた表現, 一次不等式の解法			
第 10 回	平方根	平方根と根号 ( $\sqrt{\quad}$ ) の必要性・意味・扱い			
第 11 回	連立方程式	2 元一次連立方程式の解法とその応用			
第 12 回	座標平面 (1)	点の座標, 比例・反比例・一次関数のグラフ			
第 13 回	座標平面 (2)	連立方程式の解とグラフ			
第 14 回	展開・因数分解 (1)	簡単な式の展開と因数分解			
第 15 回	展開・因数分解 (2)	展開と因数分解の応用			

# 経済

授業番号	B200030003				
科目名 (英語表記)	基礎数学 (Basic mathematics)			(3)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	数的パズルを通して基本的な計算力を身に付け、論理的思考力を養います。これにより、経済学など大学で扱う学問習得に必要な数的処理能力を習得するのが主な目標です。また、数的感覚を磨くことで、日常生活にも役立ち、SPI 非言語・CABなどの各種就職試験で高得点を取れるようにもしていきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	プリントを配布し、例題を説明した後で、練習問題を演習します。パズルを多く取り入れ、楽しく学び、数学に興味を持ってもらえるようにします。				
成績評価方法	定期試験・授業態度・課題への取り組み				
基準					
授業の予習・復習	授業で扱った問題は次回までにスラスラ解答できるように復習しておきましょう。				
教科書	オリジナルプリント教材を使用する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の方針, 計算パズル			
第 2 回	四則計算	整数の四則計算と効率の良い計算方法			
第 3 回	小数・概算	CAB(暗算)の過去問演習, 割合の考え方			
第 4 回	分数	分数の四則計算, 約数と倍数			
第 5 回	文字式	累乗, 簡単な文字式の必要性・意味・扱い			
第 6 回	方程式 (1)	等式の性質, 一次方程式の解法			
第 7 回	方程式 (2)	一次方程式とその応用			
第 8 回	中間試験	第 1 ~ 7 講までの範囲で出題			
第 9 回	不等式	不等式を用いた表現, 一次不等式の解法			
第 10 回	平方根	平方根と根号 ( $\sqrt{\quad}$ ) の必要性・意味・扱い			
第 11 回	連立方程式	2 元一次連立方程式の解法とその応用			
第 12 回	座標平面 (1)	点の座標, 比例・反比例・一次関数のグラフ			
第 13 回	座標平面 (2)	連立方程式の解とグラフ			
第 14 回	展開・因数分解 (1)	簡単な式の展開と因数分解			
第 15 回	展開・因数分解 (2)	展開と因数分解の応用			

# 経済

授業番号	B200030004				
科目名 (英語表記)	基礎数学 (Basic mathematics)			(4)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	数的パズルを通して基本的な計算力を身に付け、論理的思考力を養います。これにより、経済学など大学で扱う学問習得に必要な数的処理能力を習得するのが主な目標です。また、数的感覚を磨くことで、日常生活にも役立ち、SPI 非言語・CABなどの各種就職試験で高得点を取れるようにもしていきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	プリントを配布し、例題を説明した後で、練習問題を演習します。パズルを多く取り入れ、楽しく学び、数学に興味を持ってもらえるようにします。				
成績評価方法	定期試験・授業態度・課題への取り組み				
基準					
授業の予習・復習	授業で扱った問題は次回までにスラスラ解答できるように復習しておきましょう。				
教科書	オリジナルプリント教材を使用する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の方針, 計算パズル			
第 2 回	四則計算	整数の四則計算と効率の良い計算方法			
第 3 回	小数・概算	CAB(暗算)の過去問演習, 割合の考え方			
第 4 回	分数	分数の四則計算, 約数と倍数			
第 5 回	文字式	累乗, 簡単な文字式の必要性・意味・扱い			
第 6 回	方程式 (1)	等式の性質, 一次方程式の解法			
第 7 回	方程式 (2)	一次方程式とその応用			
第 8 回	中間試験	第 1 ~ 7 講までの範囲で出題			
第 9 回	不等式	不等式を用いた表現, 一次不等式の解法			
第 10 回	平方根	平方根と根号 ( $\sqrt{\quad}$ ) の必要性・意味・扱い			
第 11 回	連立方程式	2 元一次連立方程式の解法とその応用			
第 12 回	座標平面 (1)	点の座標, 比例・反比例・一次関数のグラフ			
第 13 回	座標平面 (2)	連立方程式の解とグラフ			
第 14 回	展開・因数分解 (1)	簡単な式の展開と因数分解			
第 15 回	展開・因数分解 (2)	展開と因数分解の応用			

# 経済

授業番号	B200630001				
科目名 (英語表記)	キャリア基礎開発 I (Career basic development I)			(A)	
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	PBL (Problem Based Learning : 課題解決型) の授業。ビジネスシーンでの課題に向き合うことで、働くことの厳しさ、やりがいを感じてもらえることが目標です。自分に関する情報、企業など目標に対する情報、それらを取りまく社会に関する情報の 3 情報の収集の仕方、分析の仕方を学び、それらで発掘できた自分自身のリソースを活用した自分提案のトレーニングは、就活力向上に直結します。				
授業の進め方 (履修条件など)	5～6名程度のグループワーク (最大 15 グループ程度) で授業を進めます。 授業には 10 社の企業様にご参加いただき、授業運営や “チバイチバン” 力の評価についてご協力をいただきます。 評価結果は、採用試験の可否判断の材料として活用されます。 ・ 3 年生を優先します (定員 80 名 但し、火曜日 3 限 40 名、4 限 40 名) ・ 4 年生も履修が可能です ・ 履修申し込みは、キャリアセンターとします。				
成績評価方法 基準	学修態度 (60%)、課題提出 (20%)、チバイチバン力評価 (20%)				
授業の予習・復習	授業内に指示します。				
教科書	授業内で資料などを配布します。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	Time Table、授業への取り組み方			
第 2 回	事例 1 (A 社の紹介)	課題提示と状況の推測、課題分析			
第 3 回	分析内容のプレゼン	分析内容の共有、視点確認			
第 4 回	インタビュー	分析上の疑問等をヒアリング			
第 5 回	問題分析とプレゼン	ヒアリングを受けて課題分析と発表			
第 6 回	ソリューション企画	課題解決策の立案と発表			
第 7 回	プレゼンと評価	中間発表と企業からの評価			
第 8 回	再企画	評価を受けて、改善策を立案			
第 9 回	事例 2 (B 社の紹介)	課題提示と状況の推測、課題分析			
第 10 回	分析内容のプレゼン	分析内容の共有、視点確認			
第 11 回	インタビュー	分析上の疑問等をヒアリング			
第 12 回	問題分析とプレゼン	ヒアリングを受けて課題分析と発表			
第 13 回	ソリューション企画	課題解決策の立案と発表			
第 14 回	プレゼンと評価	社員の方向けに最終発表			
第 15 回	再企画	社員の方からの評価を受けて、再立案			



経済

授業番号	B200630002				
科目名 (英語表記)	キャリア基礎開発 I (Career basic development I)			(B)	
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	PBL (Problem Based Learning : 課題解決型) の授業。ビジネスシーンでの課題に向き合うことで、働くことの厳しさ、やりがいを感じてもらえることが目標です。自分に関する情報、企業など目標に対する情報、それらを取りまく社会に関する情報の 3 情報の収集の仕方、分析の仕方を学び、それらで発掘できた自分自身のリソースを活用した自分提案のトレーニングは、就活力向上に直結します。				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>5～6名程度のグループワーク (最大 15 グループ程度) で授業を進めます。</p> <p>授業には 10 社の企業様にご参加いただき、授業運営や “チバイチバン” 力の評価についてご協力をいただきます。評価結果は、採用試験の可否判断の材料として活用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 年生を優先します (定員 80 名 但し、火曜日 3 限 40 名、4 限 40 名)</li> <li>・ 4 年生も履修が可能です</li> <li>・ 履修申し込みは、キャリアセンターとします。</li> </ul>				
成績評価方法 基準	学修態度 (60%)、課題提出 (20%)、チバイチバン力評価 (20%)				
授業の予習・復習	授業内に指示します。				
教科書	授業内で資料などを配布します。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	Time Table、授業への取り組み方			
第 2 回	事例 1 (A 社の紹介)	課題提示と状況の推測、課題分析			
第 3 回	分析内容のプレゼン	分析内容の共有、視点確認			
第 4 回	インタビュー	分析上の疑問等をヒアリング			
第 5 回	問題分析とプレゼン	ヒアリングを受けて課題分析と発表			
第 6 回	ソリューション企画	課題解決策の立案と発表			
第 7 回	プレゼンと評価	中間発表と企業からの評価			
第 8 回	再企画	評価を受けて、改善策を立案			
第 9 回	事例 2 (B 社の紹介)	課題提示と状況の推測、課題分析			
第 10 回	分析内容のプレゼン	分析内容の共有、視点確認			
第 11 回	インタビュー	分析上の疑問等をヒアリング			
第 12 回	問題分析とプレゼン	ヒアリングを受けて課題分析と発表			
第 13 回	ソリューション企画	課題解決策の立案と発表			
第 14 回	プレゼンと評価	社員の方向けに最終発表			
第 15 回	再企画	社員の方からの評価を受けて、再立案			

# 経済

授業番号	B200640001				
科目名 (英語表記)	キャリア基礎開発 II (Career basic development II)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本文化、日本の常識、ビジネス社会に必要な言葉遣い、マナー、ビジネス文書記述、およびプレゼンテーション力を学びます。就職活動においても有意義な内容になっています。				
授業の進め方 (履修条件など)	日本の社会での常識を積極的に学びたい人。 聴く、書く、まとめる、話す、立ち振る舞う、等々を実践的に行動に移す講座です。 ・2年生の推奨科目です ・3,4年生も履修が可能です				
成績評価方法	授業態度、定期試験・授業内小テスト・レポート及びその他の課題をもとに採点します。				
基準					
授業の予習・復習	講師からの課題は、事前に必ず準備しておいてください。 また講義終了後に配布したプリントには必ず目を通しファイリングして下さい。				
教科書	講義初回にテキストを販売します。				
参考文献	その都度紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	ビジネス最前線と授業のねらいを説明します。			
第2回	ビジネスマナーとは	「知らなかった」では済まされない 「知る」ことの必要性、重要性の講義をします。			
第3回	ビジネスマナーの基本	第一印象の重要性と身だしなみについて			
第4回	言葉遣い ①	尊敬語、謙譲語、丁寧語の使い方について			
第5回	言葉遣い ②	言葉遣いの間違いについて			
第6回	ビジネス文書 ①	文書の基本と作成手順について			
第7回	ビジネス文書 ②	文書の作成を実践します。			
第8回	電子メールの基本	メールの基本、ルールとマナーについて			
第9回	電話のかけ方と訪問の仕方	電話応対の基本について講義をします。			
第10回	自己紹介の仕方	プレゼンテーションの仕方について			
第11回	面接の対応 ①	自己PRについて考えてみます。			
第12回	面接の対応 ②	志望動機について考えてみます。			
第13回	面接の対応 ③	グループディスカッションについて考えてみます。			
第14回	ビジネスマナーの訓練	マナーの実践			
第15回	まとめ	いままでの講義について振り返りと 質疑応答します。			

経済

授業番号	B200650001				
科目名 (英語表記)	キャリア基礎開発 III (Career basic development III) (A)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	先入観や自分に縛られた将来像から脱却し、環境変化や自分の成長を入れ、選択肢を広げる。 ツールとしてコンビニエンスストアを素材としたソフトを使用します。				
授業の進め方 (履修条件など)	グループディスカッション、プレゼンテーション、質疑応答をファシリテートしていく形進行していきます。 シュミレーション教材を使用し、情報活用、合意形成、意思決定など 今の社会で必要とされているスキルを体験プログラムの中で身につけていきます。 ・3年生を優先します (各クラス 定員28名) ・4年生も履修が可能です。 ・履修申込みは、キャリアセンターとします				
成績評価方法 基準	授業態度、レポート、“チバイチバン” 力評価、及びその他の課題 グループごとの相互評価と自己評価を成績評価に加味します。				
授業の予習・復習	前回講義のワークシート作成				
教科書	マイキャリアカードビジネスシュミレーション、コンビニ model、ワークシート				
参考文献	得になし				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	ビジネスシュミレーション講座の進め方			
第2回	行動へのキャリアデザイン	なぜ今キャリアデザイン？			
第3回	MYキャリアカード	キャリア占いゲーム編			
第4回	MYキャリアデザイン シート①	自分資源探索編			
第5回	MYキャリアデザイン シート②	ワークスタイル読解編			
第6回	求人情報からみた企業データ	求人情報読解編			
第7回	コンビニ model シュミレーション①	買う側から売る側への視点転換			
第8回	コンビニ model シュミレーション②	データから絵を読む情報読解			
第9回	コンビニ model シュミレーション③	仮説 ・ 検証 ・ 修正の実践			
第10回	コンビニ model シュミレーション④	欲しい情報を引き出す質問			
第11回	コンビニ model シュミレーション⑤	自分リソース活用との重ね合わせ			
第12回	志望企業調査 ①	エントリーシートの作成 ①			
第13回	志望企業調査 ②	エントリーシートの作成 ②			
第14回	調査発表 ①	プレゼンテーション、振り返り ①			
第15回	調査発表 ②	プレゼンテーション、振り返り ②			

経済

授業番号	B200650002				
科目名 (英語表記)	キャリア基礎開発 III (Career basic development III) (B)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	先入観や自分に縛られた将来像から脱却し、環境変化や自分の成長を入れ、選択肢を広げる。 ツールとしてコンビニエンスストアを素材としたソフトを使用します。				
授業の進め方 (履修条件など)	グループディスカッション、プレゼンテーション、質疑応答をファシリテートしていく形進行していきます。 シュミレーション教材を使用し、情報活用、合意形成、意思決定など 今の社会で必要とされているスキルを体験プログラムの中で身につけていきます。 ・3年生を優先します (各クラス 定員28名) ・4年生も履修が可能です。 ・履修申込みは、キャリアセンターとします				
成績評価方法	授業態度、レポート、“チバイチバン” 力評価、及びその他の課題				
基準	グループごとの相互評価と自己評価を成績評価に加味します。				
授業の予習・復習	前回講義のワークシート作成				
教科書	マイキャリアカードビジネスシュミレーション、コンビニ model、ワークシート				
参考文献	得になし				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	ビジネスシュミレーション講座の進め方			
第2回	行動へのキャリアデザイン	なぜ今キャリアデザイン？			
第3回	MYキャリアカード	キャリア占いゲーム編			
第4回	MYキャリアデザイン シート①	自分資源探索編			
第5回	MYキャリアデザイン シート②	ワークスタイル読解編			
第6回	求人情報からみた企業データ	求人情報読解編			
第7回	コンビニ model シュミレーション①	買う側から売る側への視点転換			
第8回	コンビニ model シュミレーション②	データから絵を読む情報読解			
第9回	コンビニ model シュミレーション③	仮説 ・ 検証 ・ 修正の実践			
第10回	コンビニ model シュミレーション④	欲しい情報を引き出す質問			
第11回	コンビニ model シュミレーション⑤	自分リソース活用との重ね合わせ			
第12回	志望企業調査 ①	エントリーシートの作成 ①			
第13回	志望企業調査 ②	エントリーシートの作成 ②			
第14回	調査発表 ①	プレゼンテーション、振り返り ①			
第15回	調査発表 ②	プレゼンテーション、振り返り ②			

# 経済

授業番号	B200670001				
科目名 (英語表記)	キャリア教育特殊講義 (Career education special lecture)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>産業界の研究をするためには、各種業界を知る必要があります。          業界・業種を知るためには数多くの方法がありますが、          業界で営業を経験したことのある方から話を聞くこと重要だと考え、営業管理職経験者を招聘します。          業界研究は就職活動の基本です。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>外部担当講師による講義となります。業界により異なる営業のシステムを学んでいただけます。          厳しい部分と楽しい部分、仕事のやりがいを語っていただきます。          ・4年生も履修が可能です          ・1、2年生も聴講できます (正課外)</p>				
成績評価方法 基準	学修態度 (60%)、課題提出 (20%)、チャイブバンカ評価 (20%)				
授業の予習・復習	<p>予習 : 該当業界の事前研究          復習 : 興味業界の場合一層の研究</p>				
教科書	プリントを配布				
参考文献	プリントを配布				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス 鉄鋼業界	授業の案内 新日本製鐵株式会社、鈴木金属工業株式会社			
第2回	信託銀行業界	三菱UFJ信託銀行株式会社			
第3回	半導体業界	株式会社東芝、株式会社東芝 セミコンダクター&ストレージ社			
第4回	～特別授業～	～インターンシップ報告会へ参加～			
第5回	生命保険業界	あいおい生命保険株式会社			
第6回	繊維業界	東レ株式会社、株式会社東レ経営研究所			
第7回	化学業界	信越化学工業株式会社			
第8回	食品業界	ハウス食品株式会社			
第9回	電力業界	東京電力株式会社			
第10回	物流業界	株式会社富士銀行 株式会社バンテック			
第11回	住宅業界 (戸建住宅)	住友林業株式会社			
第12回	リース業界	東銀リース株式会社			
第13回	テレビ業界	株式会社日本経済新聞社、株式会社テレビ東京			
第14回	百貨店業界	松坂屋 (現 J. フロント リテイリング株式会社)			
第15回	小売業界 (カー用品)	株式会社オートバックスセブン			

経済

授業番号	B200660001				
科目名 (英語表記)	キャリアディベロップメント (Career development)			(A)	
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	1年次に履修したキャリアプランニングの2年生向け授業です。 就業力向上・社会化の推進に向けて、社会情勢・就職活動の実態の理解や社会人へのインタビュー等を通じ、社会を知ると同時に自己理解を促します。 また、講座を通じ幅広いコミュニケーション能力及び主体性の向上をはかります。				
授業の進め方 (履修条件など)	具体的事例を取り入れながら、裏付けとなる理論、考え方を解説し 座学と実践演習を併用して進めていきます。 ・2年生を優先します (定員 40名 x2 クラス) ・3,4年生も履修が可能です。 ・履修申し込みは、キャリアセンターとします。				
成績評価方法 基準	学修態度 (60%)、課題提出 (20%)、チャイチャバンカ評価 (20%)				
授業の予習・復習	講師より出題された課題は事前に準備をしておいてください。				
教科書	プリントを配布します。				
参考文献	その都度紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス「社会を知る」ことの重要性	導入 動機づけ 現状把握			
第2回	業界動向と就職活動の実態	業界動向 就職活動の実態 就職活動の流れ			
第3回	興味を知る	興味ある職業領域・職業分類について目途を付ける			
第4回	コミュニケーション① (社会人と接する / 質問する)	マナー 質問の仕方			
第5回	ゲストスピーチ① 幅広いジャンルより選定	輝く社会人から職業観、やりがい、情熱を学ぶ 1			
第6回	ゲストスピーチ② 実績ある企業人より選定	輝く社会人から職業観、やりがい、情熱を学ぶ 2			
第7回	コミュニケーション② (レポート作成の基礎)	レポート作成			
第8回	OB / OGスピーチ ①	先輩から働くことを学ぶ 1			
第9回	OB / OG スピーチ②	先輩から働くことを学ぶ 2			
第10回	コミュニケーション ③ (インタビューの基礎)	インタビュー			
第11回	コミュニケーション ④ (プレゼンテーションの基礎)	プレゼンテーション			
第12回	発表会	グループ発表			
第13回	自己棚卸・自己理解	タイプの類型と目標			
第14回	活動計画 ①	1回～7回まとめ			
第15回	活動計画 ②	8回～13回まとめ			

経済

授業番号	B200660002				
科目名 (英語表記)	キャリアディベロップメント (Career development)			(B)	
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	1年次に履修したキャリアプランニングの2年生向け授業です。 就業力向上・社会化の推進に向けて、社会情勢・就職活動の実態の理解や社会人へのインタビュー等を通じ、社会を知ると同時に自己理解を促します。 また、講座を通じ幅広いコミュニケーション能力及び主体性の向上をはかります。				
授業の進め方 (履修条件など)	具体的事例を取り入れながら、裏付けとなる理論、考え方を解説し 座学と実践演習を併用して進めていきます。 ・2年生を優先します (定員 40 名 x2 クラス) ・3,4年生も履修が可能です。 ・履修申し込みは、キャリアセンターとします。				
成績評価方法 基準	学修態度 (60%)、課題提出 (20%)、チャイチャバンカ評価 (20%)				
授業の予習・復習	講師より出題された課題は事前に準備をしておいてください。				
教科書	プリントを配布します。				
参考文献	その都度紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス「社会を知る」ことの重要性	導入 動機づけ 現状把握			
第2回	業界動向と就職活動の実態	業界動向 就職活動の実態 就職活動の流れ			
第3回	興味を知る	興味ある職業領域・職業分類について目途を付ける			
第4回	コミュニケーション① (社会人と接する / 質問する)	マナー 質問の仕方			
第5回	ゲストスピーチ① 幅広いジャンルより選定	輝く社会人から職業観、やりがい、情熱を学ぶ 1			
第6回	ゲストスピーチ② 実績ある企業人より選定	輝く社会人から職業観、やりがい、情熱を学ぶ 2			
第7回	コミュニケーション② (レポート作成の基礎)	レポート作成			
第8回	OB / OGスピーチ ①	先輩から働くことを学ぶ 1			
第9回	OB / OG スピーチ②	先輩から働くことを学ぶ 2			
第10回	コミュニケーション ③ (インタビューの基礎)	インタビュー			
第11回	コミュニケーション ④ (プレゼンテーションの基礎)	プレゼンテーション			
第12回	発表会	グループ発表			
第13回	自己棚卸・自己理解	タイプの類型と目標			
第14回	活動計画 ①	1回～7回まとめ			
第15回	活動計画 ②	8回～13回まとめ			

経済

授業番号	B200060001				
科目名 (英語表記)	キャリアプランニング (Career planning)			(A) ~ (G)	
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	入学時より充実した学生生活を過ごすことがなぜ重要なのか、大学生活と卒業後の社会生活がどのように結びついているのかを学びます。最終的には、卒業後に目標とする人物像 (ロールモデル) を作成し、主体的な学生生活を過ごす姿勢を身につけることを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	20名前後のゼミ方式で、グループワークを中心に授業を進めます。それぞれのグループ (ゼミ) でワイワイガヤガヤとディスカッションをします。 ※必修科目				
成績評価方法	課題提出、チバイチバンカ評価、受講態度				
基準					
授業の予習・復習	予習 ・ 復習 : 講師より出題された課題は事前に準備をしておいて下さい。				
教科書	必要に応じて、プリント等を配布致します。				
参考文献	その都度、紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	キャリアとは	全体講義			
第2回	コミュニケーションの基礎 ①	～ 自分を語ろう ・ 相手を知ろう ～			
第3回	コミュニケーションの基礎 ②	～ 姿勢 ・ 動作 ・ 表情の基礎を知ろう ～			
第4回	コミュニケーションの基礎 ③	～ 話し方の基本 ・ 話し方の違いによる違いを知ろう ～			
第5回	ゲスト ・ スピーカー	全体講義			
第6回	ビジョンボードを創ろう	少人数制クラスでのファシリテーション			
第7回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ①			
第8回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ②			
第9回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ①			
第10回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ②			
第11回	チバイチバンカ«イ»	イノベーション			
第12回	チバイチバンカ«チ»	知識			
第13回	チバイチバンカ«バ»	バランス感覚			
第14回	チバイチバンカ«ン»	気づき notice			
第15回	まとめ	コンピテンシーモデルの作成			



経済

授業番号	B200060002				
科目名 (英語表記)	キャリアプランニング (Career planning)			(H) ~ (M)	
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	入学時より充実した学生生活を過ごすことがなぜ重要なのか、大学生活と卒業後の社会生活がどのように結びついているのかを学びます。最終的には、卒業後に目標とする人物像 (ロールモデル) を作成し、主体的な学生生活を過ごす姿勢を身につけることを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	20名前後のゼミ方式で、グループワークを中心に授業を進めます。それぞれのグループ (ゼミ) でワイワイガヤガヤとディスカッションをします。 ※必修科目				
成績評価方法	課題提出、チバイチバンカ評価、受講態度				
基準					
授業の予習・復習	予習 ・ 復習 : 講師より出題された課題は事前に準備をしておいて下さい。				
教科書	必要に応じて、プリント等を配布致します。				
参考文献	その都度、紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	キャリアとは	全体講義			
第2回	コミュニケーションの基礎 ①	～ 自分を語ろう ・ 相手を知ろう ～			
第3回	コミュニケーションの基礎 ②	～ 姿勢 ・ 動作 ・ 表情の基礎を知ろう ～			
第4回	コミュニケーションの基礎 ③	～ 話し方の基本 ・ 話し方の違いによる違いを知ろう ～			
第5回	ゲスト ・ スピーカー	全体講義			
第6回	ビジョンボードを創ろう	少人数制クラスでのファシリテーション			
第7回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ①			
第8回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ②			
第9回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ①			
第10回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ②			
第11回	チバイチバンカ«イ»	イノベーション			
第12回	チバイチバンカ«チ»	知識			
第13回	チバイチバンカ«バ»	バランス感覚			
第14回	チバイチバンカ«ン»	気づき notice			
第15回	まとめ	コンピテンシーモデルの作成			

経済

授業番号	B200060003				
科目名 (英語表記)	キャリアプランニング (Career planning)			(R)	
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	入学時より充実した学生生活を過ごすことがなぜ重要なのか、大学生活と卒業後の社会生活がどのように結びついているのかを学びます。最終的には、卒業後に目標とする人物像 (ロールモデル) を作成し、主体的な学生生活を過ごす姿勢を身につけることを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	20名前後のゼミ方式で、グループワークを中心に授業を進めます。それぞれのグループ (ゼミ) でワイワイガヤガヤとディスカッションをします。 ・再履修クラス (2～4年生対象) ※必修科目				
成績評価方法	課題提出、チバイチバンカ評価、受講態度				
基準					
授業の予習・復習	予習 ・ 復習 : 講師より出題された課題は事前に準備をしておいて下さい。				
教科書	必要に応じて、プリント等を配布致します。				
参考文献	その都度、紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	キャリアとは	全体講義			
第2回	コミュニケーションの基礎 ①	～ 自分を語ろう ・ 相手を知ろう ～			
第3回	コミュニケーションの基礎 ②	～ 姿勢 ・ 動作 ・ 表情の基礎を知ろう ～			
第4回	コミュニケーションの基礎 ③	～ 話し方の基本 ・ 話し方の違いによる違いを知ろう ～			
第5回	ゲスト ・ スピーカー	全体講義			
第6回	ビジョンボードを創ろう	少人数制クラスでのファシリテーション			
第7回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ①			
第8回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ②			
第9回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ①			
第10回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ②			
第11回	チバイチバンカ«イ»	イノベーション			
第12回	チバイチバンカ«チ»	知識			
第13回	チバイチバンカ«バ»	バランス感覚			
第14回	チバイチバンカ«ン»	気づき notice			
第15回	まとめ	コンピテンシーモデルの作成			

# 経済

授業番号	B202980001				
科目名 (英語表記)	教育課程論 (Educational theory)				
担当者 (英語表記)	上野 正道 (Masamichi Ueno)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	教育原論 I の学習を踏まえて、学校教育を構成する教育課程 (カリキュラム) に関する基礎的知識を習得しながら、教育課程の理論や歴史、制度、学校における教育課程編成の方法と実践について理解することを目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書とプリントを使用して、それらをもとにしながら授業を進めていく。適宜、ビデオ、パワーポイント等の視聴覚教材も用いる。ほぼ毎回、授業の終わりに出欠と授業内容の確認を兼ねた小レポートの提出を求める。				
成績評価方法	平常点 (30%)、レポート (30%)、試験 (40%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書と配布資料を読んでくる。 復習：				
教科書	上野正道『民主主義への教育－学びのシニシズムを超えて』東京大学出版会、2013年				
参考文献	文部科学省 『小学校学習指導要領解説－総則編－』 東京書籍 文部科学省 『小学校学習指導要領』 東京書籍 文部科学省 『中学校学習指導要領』 東山書房 文部科学省 『高等学校学習指導要領』 東山書房				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	教育課程とは何か			
第 2 回	教育課程の歴史	明治から戦前までの教育課程の歴史と展開			
第 3 回	教育課程の歴史	戦後の教育課程の変遷			
第 4 回	教育課程の原理	教科中心カリキュラム、経験中心カリキュラム			
第 5 回	教育課程の原理	学問中心カリキュラム、人間中心カリキュラム			
第 6 回	教育課程の実践的課題	授業とカリキュラム			
第 7 回	教育課程の実践的課題	教師とカリキュラム			
第 8 回	教育課程の実践的課題	学力とは何か			
第 9 回	教育課程の実践的課題	学習論とカリキュラム			
第 10 回	外国の教育課程	アメリカのカリキュラム			
第 11 回	外国の教育課程	ドイツのカリキュラム			
第 12 回	外国の教育課程	中国と韓国の事例			
第 13 回	教育課程の今日的課題	21 世紀のカリキュラム構想			
第 14 回	教育課程の今日的課題	カリキュラムの公共性へ			
第 15 回	まとめ	全体の総括			

# 経済

授業番号	B202970001				
科目名 (英語表記)	教育原論 (Educational theory)				
担当者 (英語表記)	中山 幸夫 (Yukio Nakayama)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	教員免許取得を希望する学生の皆さんに健全な人間観、教育観を構築してもらうことを授業のねらいとする。教育の基礎理論、教育の思想、わが国の近代化と教育改革の軌跡を辿りながら、人間教育の本質をめぐる諸問題を深く知り、課題解決に取り組む確かな視点を持つことを目標としたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストの内容をふまえた講義要項、資料をテーマごとに配付し、それらに基づいて授業を進めていく。ビデオ・DVD等の映像資料、パワーポイント等も適宜用いる。まずは授業に出席し、「聞く」姿勢を大事にしてほしい。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・課題レポート (30%)・授業参加態度 (20%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：次回のテーマに関してテキスト、資料の指定範囲を読んでおく。 復習：授業の終わりに授業内容の確認を兼ねた課題レポートの提出を求める。				
教科書	平野智美監修、中山幸夫他編著 『教育学のグランドデザイン』 八千代出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	教育をめぐる今日の状況	問題としての教育、家庭・学校・地域社会の現状			
第 2 回	教育の意義	教育の語義、教育の概念、人間の発達と教育			
第 3 回	教育の理念・目的	教育の理念、教育目的の普遍性と特殊性			
第 4 回	教育の思想	西洋古代・中世の教育思想			
第 5 回	教育の思想	西洋近世の教育思想			
第 6 回	教育の思想	西洋近代の教育思想			
第 7 回	教育の思想	公教育思想の発展と近代公教育制度の成立			
第 8 回	教育の思想	新教育の思想と新教育運動の展開			
第 9 回	日本の近代化と教育	近代公教育の導入と明治期の教育			
第 10 回	日本の近代化と教育	大正デモクラシーと新教育			
第 11 回	日本の近代化と教育	戦争と教育			
第 12 回	教育改革の軌跡	戦後教育改革の始動と展開			
第 13 回	教育改革の軌跡	高度経済成長と教育			
第 14 回	教育改革の軌跡	教育改革の模索と臨時教育審議会			
第 15 回	教育改革の軌跡	教育改革の動向と展望			

経済

授業番号	B203070001		
科目名 (英語表記)	教育福祉論 (Educational welfare theory)		
担当者 (英語表記)	佐藤 真生子 (Makiko Sato)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>本科目のねらいは、福祉社会において教員に求められる資質は何か、教育活動を展開するうえで、社会福祉など他の専門領域とどのような協働を図る必要があるのかを学ぶことである。</p> <p>達成目標は、①福祉社会における福祉教育の役割を理解すること、②実習先や福祉サービスについての正しい知識を習得すること、③学んだ知識を生かして介護等体験実習に取り組めるようにすることである。</p>		
授業の進め方 (履修条件など)	<p>この授業は、介護等体験実習の事前準備として開講されているので、介護福祉士の方を招いて具体的に現場を理解するための授業も実施する。また、実習記録 (ノート) については、実習前、実習後に提出を求めるので、配布後は、毎回持参すること。</p>		
成績評価方法	<p>評価方法は、レポート課題による。評価基準は、レポート 8 割、実習ノートやその他授業内で求める課題 2 割とする。</p>		
基準			
授業の予習・復習	<p>予習については、毎日必ず、新聞、もしくはニュースを観ること。また、事前に資料などを配布するので、必ず読んでくること。復習は、授業内提示された課題を行うこと。</p>		
教科書	<p>指定なし 講師よりレジュメ、資料等を配布する</p>		
参考文献	<p>齋藤友介・坂野純子・矢島弘樹 編「大学生のための福祉教育入門」 ナカニシヤ出版, 2009</p>		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	教育福祉論を学ぶにあたって	初回オリエンテーション 教育福祉論で何を学ぶのか、介護等体験とはどのようなものか	
第 2 回	現代社会と福祉教育を取り巻く状況 (1)	高齢社会の理解。高齢化は私たちの生活 (医療、福祉、教育、雇用その他) にどのようなインパクトをもたらしているのか、概括する。	
第 3 回	現代社会と福祉教育を取り巻く状況 (2)	現代の子育て・子育ての実態、課題について学習する	
第 4 回	社会福祉とは何か	国民生活の基盤を担う、社会福祉の理念、仕組み、課題についての概要を学ぶ。ノーマライゼーション、自己決定、インテグレーション、バリアフリーなどよく聞く言葉について具体的に理解する。	
第 5 回	障がい児・者の福祉	障がいの定義、障がい児・者の動向、障がい者福祉の理念などについて具体的事例を基に学習する。	
第 6 回	特別支援教育とは (1)	特別支援教育の歴史、理念などその概要について学習する。	
第 7 回	特別支援教育とは (2)	特別支援学校ではどのような教育を行っているのか、その役割や特徴、教育活動の具体について	
第 8 回	特別支援学校実習後発表会	特別支援学校での実習体験について、一人 15 分のスピーチ。体験の振り返り、学びの共有を図る。 介護等体験に向けての課題を検討し合う。	
第 9 回	特別支援学校実習後発表会	同上	
第 10 回	高齢者とその理解 (1)	高齢期の特徴、高齢者の実態 (心身の状況、所得状況、社会参加など) について学習する。	
第 11 回	高齢者とその理解 (2)	高齢者に多い疾病についての基本知識を学ぶ。現場の介護職の方にお話しいただく予定。	
第 12 回	高齢者福祉サービスの実際	高齢者の介護の場についての学習。実習先となる入所、通所施設の種類、役割、特徴などについて具体的に学ぶ。	
第 13 回	介護等体験実習終了者発表会	介護等体験終了者による発表会。教育の対象となる児童以外の様々な人に出会い、どのような学びがあったかを互いに意見交換する時間としたい。	
第 14 回	介護等体験実習終了者発表会	介護等体験終了者による発表会。実習体験者については振り返りの時間とし、実習予定者については、実習目標などを再設定する時間とする。	
第 15 回	地域福祉活動と学校の連携	福祉教育の充実に向けて実施される、ユニークな活動などを例に挙げ、学校と地域社会との連携の在り方について学習する。 また、授業の最終まとめとして、全体の振り返りを行う。	

# 経済

授業番号	B203040001				
科目名 (英語表記)	教職時事演習 (Teaching profession current-events exercise)				
担当者 (英語表記)	中山 幸夫 (Yukio Nakayama)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	授業と学習指導、教師と子ども、カリキュラムと学力、いじめと不登校、教員採用選考など、教職の時事にかかわるテーマについて演習形式で授業を行い、各テーマについて理解を深めることをねらいとする。この取り組みにより、確かな人間観、教育観、教師観を構築することを目標としたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回のテーマに即して、演習方式で授業を進める。				
成績評価方法	発表 (50%) とレポート (50%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：テーマについて課題レポートを作成する。 復習：テーマについて自己の見解を整理する。				
教科書	特になし。				
参考文献	テーマごとに授業で提示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今日の教育問題			
第 2 回	教育改革の課題	21 世紀を生きる児童・生徒の教育、「生きる力」と「確かな学力」			
第 3 回	教育改革の課題	知識基盤社会と教育、活用型の学力			
第 4 回	カリキュラム編成の課題	主体的な学び、授業が分からない生徒の問題			
第 5 回	カリキュラム編成の課題	カリキュラムの弾力化と多様化、選択と協同の学び			
第 6 回	カリキュラム編成の課題	学力低下論争、全国一斉学力テスト			
第 7 回	生徒指導の課題	いじめと不登校、スクール・カウンセラー制度、心の教育			
第 8 回	生徒指導の課題	学校行事、部活動			
第 9 回	教師の資質能力	教師になるということ			
第 10 回	教師の資質能力	専門職としての教師			
第 11 回	教師の資質能力	教員採用選考に向けて			
第 12 回	学校と社会	学校と家庭、地域の連携・協同			
第 13 回	学校と社会	新自由主義 (市場原理) と学校			
第 14 回	学校と社会	グローバル時代の学校			
第 15 回	まとめ	総括と展望			

経済

授業番号	B201170001		
科目名 (英語表記)	行政法 I (Administrative law I)		
担当者 (英語表記)	小野寺 邦広 (Kunihiro Onodera)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、行政法の基本原理、行政組織法、行政作用法について講義します。これらについての基礎知識の習得が到達目標です。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書の内容を解説します。必要に応じて新聞記事などのコピーも配布します。		
成績評価方法	定期試験とレポートで評価します ( 定期試験 8 割、レポート 2 割 )		
基準			
授業の予習・復習	予習－教科書を読むこと 復習－授業中とったノートや教科書を読み返すこと		
教科書	石川敏行ほか『初めての行政法』(最新版) 有斐閣 『ポケット六法平成 26 年版』有斐閣		
参考文献	授業で適宜指示します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	行政、行政法の意味等	
第 2 回	行政法の基本原理 ( 1 )	法律による行政の原理	
第 3 回	行政法の基本原理 ( 2 )	適正手続、情報公開 ( 含む行政手続法、情報公開法 )	
第 4 回	行政法の基本原理 ( 3 )	法の一般原理	
第 5 回	行政組織 ( 1 )	官庁理論、国と地方の行政組織	
第 6 回	行政組織 ( 2 )	国と地方の関係	
第 7 回	行政立法	法規命令、行政規則	
第 8 回	行政行為 ( 1 )	行政行為の意味、分類	
第 9 回	行政行為 ( 2 )	行政行為の特殊な効力	
第 10 回	行政行為 ( 3 )	行政行為の瑕疵	
第 11 回	行政行為 ( 4 )	行政行為の取り消しと撤回	
第 12 回	行政裁量	行政裁量の意味、行政裁量の法的コントロール	
第 13 回	行政指導、行政計画	意味、法的コントロール	
第 14 回	行政上の義務履行確保	総論、行政代執行法等	
第 15 回	行政調査、個人情報保護	強制調査、任意調査、個人情報保護法	

経済

授業番号	B201180001		
科目名 (英語表記)	行政法 II (Administrative law II)		
担当者 (英語表記)	小野寺 邦広 (Kunihiro Onodera)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、行政救済法と国家補償法について講義します。これらについての基礎知識を身につけることがこの授業の到達目標です。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書の内容を解説します。必要に応じて新聞記事等のコピーも配布します。		
成績評価方法	定期試験とレポートにより評価します (定期試験 8 割、レポート 2 割)。		
基準			
授業の予習・復習	予習 教科書を読むこと 復習 ノートや教科書等を読むこと		
教科書	石川敏行ほか『初めての行政法』(最新版) 有斐閣 『ポケット六法平成 27 年版』有斐閣		
参考文献	適宜授業で指示します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	行政上の救済手続の概要、行政不服審査法	
第 2 回	司法権の範囲と限界	司法権と行政訴訟、司法権と法律上の争訟、統治行為など	
第 3 回	行政事件訴訟法 (1)	行政事件訴訟の諸類型—主観訴訟と客観訴訟、住民訴訟など	
第 4 回	行政事件訴訟法 (2)	行政事件訴訟の諸類型—抗告訴訟と当事者訴訟	
第 5 回	行政事件訴訟法 (3)	抗告訴訟の諸類型	
第 6 回	行政事件訴訟法 (4)	取り消し訴訟の訴訟要件—概説	
第 7 回	行政事件訴訟法 (5)	処分性の要件	
第 8 回	行政事件訴訟法 (6)	原告適格	
第 9 回	行政事件訴訟法 (7)	原告適格、訴えの利益など	
第 10 回	行政事件訴訟法 (8)	取り消し訴訟の審理・判決、執行停止制度、教示制度	
第 11 回	国家賠償法 (1)	国家賠償法の意義	
第 12 回	国家賠償法 (2)	国家賠償法 1 条—国、公共団体の賠償責任の本質、賠償の要件	
第 13 回	国家賠償法 (3)	国家賠償法 2 条—賠償の要件、水害訴訟、空港騒音訴訟など	
第 14 回	損失補償	意義、補償の要否の判定基準など	
第 15 回	国家賠償と損失補償の「谷間」の問題	予防接種禍訴訟など	



# 経済

授業番号	B201290001				
科目名 (英語表記)	銀行論 I (Bank theory I)				
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	銀行は、資金仲介や決済システムの中核を担うなど、経済上極めて大きくかつ特異な役割を果たしています。そこで、本講義では、銀行の経済的な役割とそれに対する規制・監督について解説します。後期開講の「銀行論Ⅱ」と比べるならば、経済学としての銀行論と言えるかもしれません。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を用いますが、講義レジュメ(プリント)を基に解説することもあります。金融論を学習していることが望ましいですが、前提ではありません。				
成績評価方法	授業への取り組み姿勢 (40%)、定期試験 (60%)。				
基準	なお、出席を取る際、講義内容の理解を確認する易しいクイズを実施します。				
授業の予習・復習	予習：教科書や参考文献を中心に行ってください。 復習：講義ノートを中心に行ってください。				
教科書	全国銀行協会金融調査部編『図説わが国の銀行』財経詳報社				
参考文献	鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社 この他、講義の中で随時紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の方針、動画視聴など			
第 2 回	日本の金融のすがた 1	資金循環統計、部門別資金過不足動向			
第 3 回	日本の金融のすがた 2	直接金融、間接金融、市場型間接金融			
第 4 回	銀行の機能 1	資金仲介機能、預金や貸出の意義			
第 5 回	銀行の機能 2	信用創造機能			
第 6 回	銀行の機能 3	資金決済機能、決済システム			
第 7 回	日本の金融制度と銀行 1	従来の金融制度と制度改革、金融機関の種類			
第 8 回	日本の金融制度と銀行 2	大手行、信託銀行、新たな形態の銀行			
第 9 回	日本の金融制度と銀行 3	地域銀行、協同組織金融機関			
第 10 回	日本の金融制度と銀行 4	ゆうちょ銀行、政策金融機関、信用補完制度			
第 11 回	中央銀行	主要国・地域の中央銀行、日本銀行の業務			
第 12 回	銀行に対する規制・監督 1	規制・監督の概要および動向、銀行法			
第 13 回	銀行に対する規制・監督 2	不良債権、健全性規制・自己資本比率規制・早期是正措置			
第 14 回	銀行に対する規制・監督 3	金融検査マニュアル、銀行経理・ディスクロージャー、預金保険制度など			
第 15 回	まとめ	授業内容のまとめ			

# 経済

授業番号	B201300001				
科目名 (英語表記)	銀行論 II (Bank theory II)				
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	銀行は経済全般に大きな影響を及ぼすため、その経営は、一業界内の問題として軽視することができません。そこで、本講義では、銀行の業務や財務、経営、動向などについて解説します。前期開講の「銀行論 I」と比べるならば、ビジネスとしての銀行論と言えるかもしれません。また、特に千葉県の地域金融機関についても論じます。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を用いますが、講義レジュメ(プリント)を基に解説することもあります。金融論を学習していることが望ましいですが、前提ではありません。				
成績評価方法	授業への取り組み姿勢 (40%)、定期試験 (60%)。				
基準	なお、出席を取る際、講義内容の理解を確認する易しいクイズを実施します。				
授業の予習・復習	予習：教科書や参考文献を中心に行ってください。 復習：講義ノートを中心に行ってください。				
教科書	全国銀行協会金融調査部編『図説わが国の銀行』財経詳報社				
参考文献	鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社 各行『ディスクロージャー誌』 この他、講義の中で随時紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の方針、動画視聴など			
第 2 回	銀行の業務 1	預金業務			
第 3 回	銀行の業務 2	貸出業務			
第 4 回	銀行と顧客 1	個人の銀行取引			
第 5 回	銀行と顧客 2	中小企業の銀行取引			
第 6 回	銀行の業務 3	決済業務			
第 7 回	銀行の業務 4	証券業務、国際業務			
第 8 回	銀行の業務 5	デリバティブ・証券化関連業務			
第 9 回	銀行の財務資料 1	貸借対照表、損益計算書・業務粗利益			
第 10 回	銀行の財務資料 2	不良債権とその処理			
第 11 回	銀行の財務資料 3	特定行のディスクロージャー資料を広く読む			
第 12 回	銀行の経営	収益構造、経営指標、グループ経営など			
第 13 回	千葉県の地域金融機関 1	千葉銀行、千葉興業銀行、京葉銀行			
第 14 回	千葉県の地域金融機関 2	信用金庫、信用組合、系統金融機関など			
第 15 回	まとめ	授業内容のまとめ			

# 経済

授業番号	B201840001				
科目名 (英語表記)	金融経済の基礎知識 (Basic knowledge of monetary economy)				
担当者 (英語表記)	東 浩規 (Hiroki Higashi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済や金融は、私たちの暮らしや社会の発展と大きな関わりを持っています。これから社会人になる学生も、経済やマーケットの仕組みを知ることがとても大切です。本講義では、個人がライフステージのさまざまな局面で、自ら合理的な意思決定や判断を行うのに役立つ、金融リテラシー ( 知力 ) を養成することを目標としています。				
授業の進め方 (履修条件など)	各回レジュメを配布し、関連する時事ニュース・話題なども紹介しつつ、基礎的な内容から実務の入り口まで解説します。授業では、重要と思われるところを積極的に聴き取り、何故そうなのか自ら考える訓練をして欲しい。				
成績評価方法	課題提出 ( キャッシュフロー表の作成 ) 30%、学期末筆記試験 70%				
基準	授業の取り組みや参加度等総合的に評価				
授業の予習・復習	新聞の経済・金融面やニュースに目をおとして授業に臨んでください。 課題提出物は要提出、提出期限を厳守。				
教科書	金融知力普及協会『今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎』		各回レジュメを配布		
参考文献	特定のもの是指定しません。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	カクタン / 金融知力の必要性	授業の到達目標、概要、成績の評価方法など			
第 2 回	金融・経済の基礎知識 (1)	GDP、景気、金融政策、金利などについて学ぶ			
第 3 回	金融・経済の基礎知識 (2)	GDP、景気、金融政策、金利などについて学ぶ			
第 4 回	ライフプランニング (1)	キャッシュ・フロー表の作成や、人生の三大資金について学ぶ			
第 5 回	ライフプランニング (2)	キャッシュ・フロー表の作成や、人生の三大資金について学ぶ			
第 6 回	貯蓄型商品	主な貯蓄型商品について学ぶ			
第 7 回	リスクとリターン、投資信託 (1)	リスクを分散する方法、投資信託の特徴や仕組みを解説			
第 8 回	リスクとリターン、投資信託 (2)	リスクを分散する方法、投資信託の特徴や仕組みを解説			
第 9 回	株式の基礎知識 (1)	株式に関する基礎知識を身につける			
第 10 回	株式の基礎知識 (2)	株式に関する基礎知識を身につける			
第 11 回	債券の基礎知識 (1)	債券に関する基礎知識、利回りや格付け等について学ぶ			
第 12 回	債券の基礎知識 (2)	債券に関する基礎知識、利回りや格付け等について学ぶ			
第 13 回	外貨建て商品、証券化、セフィネット (1)	外貨建て商品および証券化に関する基礎知識、セフィネットの仕組みについて学ぶ			
第 14 回	外貨建て商品、証券化、セフィネット (2)	外貨建て商品および証券化に関する基礎知識、セフィネットの仕組みについて学ぶ			
第 15 回	これまでの講義のポイント解説	これまでのまとめ			

# 経済

授業番号	B201820001		
科目名 (英語表記)	金融事情 I (Finance situation I)		
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>東京証券取引所と証券業協会が運営する「株式学習ゲーム」{<a href="http://www.ssg.ne.jp/">http://www.ssg.ne.jp/</a>} (自宅 PC、スマホでも可) によって、擬似株式運用ゲームを行いながら、極力証券界の方々からお話を伺いつつ、経済環境と株式市場の動きの関連を知ると同時に企業を見る目を養いましょう。</p> <p>後期の金融事情 II を履修する方は、極力前期の金融事情 I を履修しておいて下さい。</p>		
授業の進め方 (履修条件など)	<p>毎回、前半は講義、後半は PC を使って第 1 部・第 2 部・マザーズの擬似株式取引を行い、売買した企業の内容や売買の狙いをワークシートに書き込んでいきます。この作業に時間がかかります。実際の終値を基準に運用成績のランキングが記録されます。</p> <p>途中行われるフォローアップでは、株式取引ボードゲームも行います。特別講義も予定しています。最後に、こつこつ作成していったワークシートを材料にして、1 人 1 人プレゼンテーションをやって頂くか、レポートを作成して頂きます。</p>		
成績評価方法 基準	<p>期末に行うプレゼンテーションないしレポート作成 (40%) と株式学習ゲーム実行状況および授業中の発表や講師の問に対する解答状況などのパフォーマンス (20%)、特別授業でのパフォーマンス (40%) で評価します。株式運用成績自体は評価には反映しません。定期試験は実施しません。</p>		
授業の予習・復習	<p>経済全体や市場の状況に関する報道を毎日チェックして下さい。ゲームによる取引は授業時間以外も出来るので、状況を見つづつどこでもすばやく売買を行ってみましょう。レポート作成は課外での作業となります。</p>		
教科書	<p>東京証券取引所、証券業協会編『株式学習ゲームハンドブック』ほか、株式学習ゲームに必要な資料が配付 (無料) されます。</p>		
参考文献	<p>大学からは、日経テレコンが使えます。その他、日経新聞のサイト、yahoo finance など、web 上の資料をご紹介します。</p>		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	<p>!!! 重要 !!! 東証に人数を申告するため、履修人数を把握せねばなりません。「金融事情」を選択する方は、この日ご出席頂き履修意思を伝えて頂くか、翌日深夜までに iino@u-keiai.ac.jp まで履修する旨ご連絡下さい。でないと、株式学習ゲームの ID をご用意できなくなってしまいます。</p>	
第 2 回	「株式学習ゲーム」アカウントの設定と取引のやり方、ワークシート記入の説明	<p>前週木曜 24 時までに金融事情履修の連絡を頂いている方だけ、『株式学習ゲーム』の ID を差し上げます。ID を選んで頂き、株式学習ゲームに初めてアクセスします。</p>	
第 3 回	金融と株式市場講義 + 株式学習ゲーム	<p>前半は金融とは何か、株式市場とは何かについて講義、後半は株式学習ゲームを行います。</p>	
第 4 回	株価変動要因の説明 + 株式学習ゲーム	<p>前半は株価決定要因について講義、後半は株式学習ゲーム</p>	
第 5 回	特別講義 1 《銘柄選択》	<p>株式を売買する際、どんな業種を買ったらいいか迷うことと思います。今日は、大手証券会社の支店長、営業部長、法人関連業務の役員を務められた先生が銘柄選択の指南をして下さいます。</p>	
第 6 回	特別講義 2 《投資家視点での企業分析》	<p>前回の先生が、特別講義投資家として企業の特徴を知ったり評価する時参考になる数値や投資指標をご紹介します。</p>	
第 7 回	企業研究とニュースの検索 + 株式学習ゲーム	<p>具体的な企業研究のツールとして日経テレコンの使い方を学習、後半は株式学習ゲーム</p>	
第 8 回	特別講義 3 《就活生視点での企業の見方》	<p>就活生の立場による企業の見方を学習：本学キャリアセンターによる特別講義</p>	
第 9 回	フォローアップ	<p>東証の「株式学習ゲーム」ご担当の方にいらして頂き、ボードゲームを使って、グループで株式取引ゲームを行います。また、兜町の様子を伺ったり、こちらからは株式運用の感想をお話ししたりします。</p>	
第 10 回	上場会社と株式市場	<p>上場企業にとっての株式市場の重要性、web などを使って実例を見てみましょう。</p>	
第 11 回	最近のニュースと株式市場 (実習) + 株式学習ゲーム	<p>前半は直近のニュースを選び、それが日本の株式市場に影響を及ぼす道筋を、図解を使って示し、発表、後半は株式学習ゲーム</p>	
第 12 回	特別講義 4 《世界経済情勢と日本の株式市場》	<p>東京証券取引所スタッフの方に、「世界情勢と日本の株式市場」(仮題) というテーマでお話し頂きます。</p>	
第 13 回	それぞれの取引の報告に向けて	<p>これまで毎週行ってきた株式取引を総括する方向にむけて、整理のしかたを勉強しましょう。</p>	
第 14 回	プレゼンテーション	<p>評点を決めるプレゼンテーション 1 回目</p>	
第 15 回	プレゼンテーション + レポート提出	<p>評点を決めるプレゼンテーション 2 回目、レポート締切</p>	

# 経済

授業番号	B201830001		
科目名 (英語表記)	金融事情 II (Finance situation II)		
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	東京証券取引所と証券業協会が運営する「株式学習ゲーム」( <a href="http://www.ssg.ne.jp/">http://www.ssg.ne.jp/</a> ) (自宅 PC、スマホでも可) によって、疑似株式運用ゲームを行いながら、経済環境と株式市場の動きの関連を知り、同時に企業を見る目を養いましょう。		
授業の進め方 (履修条件など)	毎回、前半はニュース分析作業、後半は PC を使って第 1 部・第 2 部・マザーズの疑似株式取引を行い、売買した企業の内容や売買の狙いをワークシートに書き込んでいきます。この作業に時間がかかります。実際の終値を基準に運用成績のランキングが記録されます。途中のフォローアップでは、株式取引ボードゲームも行います。最後に、こつこつ作成していったワークシートを材料にして、1 人 1 人プレゼンテーションをやって頂くか、レポートを作成して頂きます。株式や会社の見方などの基本的説明は、後期では繰り返しません。前期履修しなかった方は、テキストを通し読みして頂き、ご紹介する参考書をご覧ください。		
成績評価方法 基準	期末に行うプレゼンテーションないしレポート作成 (40%) と株式学習ゲーム実行状況および授業中の発表や講師の間に対する解答状況などのパフォーマンス (20%)、特別授業でのパフォーマンス (40%) で評価します。株式運用成績自体は評価には反映しません。定期試験は実施しません。		
授業の予習・復習	経済全体や市場の状況に関する報道を毎日チェックして下さい。ゲームによる取引は授業時間以外も出来るので、状況を見つづつどこでもすばやく売買を行ってみましょう。レポート作成は課外での作業となります。		
教科書	東京証券取引所、証券業協会編『株式学習ゲームハンドブック』ほか、株式学習ゲームに必要な資料が配付 (無料) されます。		
参考文献	大学からは、日経テレコンが使えます。その他、日経新聞のサイト、yahoo finance など、web 上の資料をご紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンスと ID 配布	株式学習ゲームの ID 配布、後期から履修される方のためのガイダンス	
第 2 回	前期復習	前期復習：銘柄選択、企業分析、世界情勢と日本の株式市場に関する数人のプレゼンテーション	
第 3 回	直近の経済状況の解釈 + 株式学習ゲーム	前半は直近のニュースを選び、それが日本の株式市場に影響を及ぼす道筋を、図解を使って示す。 後半株式学習ゲーム	
第 4 回	直近の経済状況の解釈 + 株式学習ゲーム	前半は直近のニュースを選び、それが日本の株式市場に影響を及ぼす道筋を、図解を使って示す。 後半株式学習ゲーム	
第 5 回	直近の経済状況の解釈 + 株式学習ゲーム	前半は直近のニュースを選び、それが日本の株式市場に影響を及ぼす道筋を、図解を使って示す。 後半株式学習ゲーム	
第 6 回	特別講義 1	銀行界の方にいらして頂き、業界の現状と課題について講義を聴く	
第 7 回	直近の経済状況の解釈 + 株式学習ゲーム	前半は直近のニュースを選び、それが日本の株式市場に影響を及ぼす道筋を、図解を使って示す。 後半株式学習ゲーム	
第 8 回	フォローアップ	東証の「株式学習ゲーム」ご担当の方にいらして頂き、ボードゲームを使って、グループで株式取引ゲームを行います。また、兜町の様子を伺ったり、こちらからは半年続けた株式運用の感想をお話ししたりします。	
第 9 回	直近の経済状況の解釈 + 株式学習ゲーム	前半は直近のニュースを選び、それが日本の株式市場に影響を及ぼす道筋を、図解を使って示す。 後半株式学習ゲーム	
第 10 回	特別講義 2	保険業界の現状と課題について講義を聴く	
第 11 回	直近の経済状況の解釈 + 株式学習ゲーム	前半は直近のニュースを選び、それが日本の株式市場に影響を及ぼす道筋を、図解を使って示す。 後半株式学習ゲーム	
第 12 回	直近の経済状況の解釈 + 株式学習ゲーム	前半は直近のニュースを選び、それが日本の株式市場に影響を及ぼす道筋を、図解を使って示す。 後半株式学習ゲーム	
第 13 回	特別講義 3	東京証券取引所スタッフの方に、「2014 年後半の世界情勢と日本の株式市場」(仮題) というテーマでお話し頂きます。	
第 14 回	プレゼンテーション	評点を決めるプレゼンテーション 1 回目	
第 15 回	プレゼンテーション + レポート提出	評点を決めるプレゼンテーション 2 回目、レポート締切	

# 経済

授業番号	B200970001				
科目名 (英語表記)	金融論 I (Financial science I)				
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	金融論とは、「おカネの動き」をめぐる議論です。個人、企業、政府などの経済活動の多くが、おカネを媒介として行われるため、金融論のあつかう（あるいは関連する）領域は極めて広いです。そこで、本講義では、金融の世界に特有の用語法や考え方の習得を基本課題とし、我々に身近な金融・経済現象を系統立てて理解する基礎を作ります。				
授業の進め方 (履修条件など)	パワーポイントを使い、金融の世界の諸概念を説明します。また、これら諸概念のイメージを鮮明にするため、新聞記事や映像などを多数活用します。定期試験は、講義の趣旨に鑑みて、用語の理解が十分かどうかを確かめるものとなります。				
成績評価方法	授業への取り組み姿勢 (40%)、定期試験 (60%)。				
基準	なお、出席を取る際、講義内容の理解度を確認する易しいクイズを実施します。				
授業の予習・復習	予習：教科書や参考文献を中心に行ってください。 復習：講義ノートを中心に行ってください。				
教科書	日経文庫『金融入門』				
参考文献	細野薫、石原秀彦、渡部和孝『グラフィック金融論』新世社 鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社 館龍一郎、浜田宏一『金融』岩波書店 この他、講義の中で随時紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の方針、動画視聴など			
第 2 回	通貨とは何か	物々交換経済と貨幣経済、通貨の機能・範囲、インフレ・デフレ			
第 3 回	金融とは何か	資金循環表、金融取引の典型、様々な金融取引			
第 4 回	金利とは何か	金融サービスの対価、リスク・期間・景気との関係、様々な金利			
第 5 回	金融市場とは何か	広義の金融、金融商品、様々な金融市場			
第 6 回	金融機関とは何か	金融取引の費用、様々な金融機関			
第 7 回	銀行の機能	銀行の様々な機能、決済システムを中心に			
第 8 回	金融システム	金融市場と金融仲介機関、金融危機、金融規制・監督			
第 9 回	中央銀行 1	主要国の中央銀行、日本銀行の設立経緯と概要、独立性と情報開示			
第 10 回	中央銀行 2	日本銀行の業務と機能			
第 11 回	民間金融機関 1	金融機関の分類、商業銀行と投資銀行、都市銀行、その他普通銀行			
第 12 回	民間金融機関 2	長期金融機関、協同組織金融機関、動画視聴など			
第 13 回	民間金融機関 3	証券会社、保険会社、その他金融機関			
第 14 回	金融政策とは何か	金融政策の手段、非伝統的金融政策			
第 15 回	まとめ	授業内容のまとめ			



# 経済

授業番号	B200980001				
科目名 (英語表記)	金融論 II (Financial science II)				
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	原則として「金融論 I」の履修者を対象に、金融に関する基礎的な経済理論、関連科目、近年の動向、専門的トピックなどを取り上げ、簡単に解説します。金融への興味・関心を広げることと、現実の具体的な問題を論理的に考察する力を養うことが課題です。				
授業の進め方 (履修条件など)	適宜にパワーポイントを使います。定期試験は、講義の趣旨に鑑みて論述問題とします。				
成績評価方法	授業への取り組み姿勢 (40%)、定期試験 (60%)。				
基準	なお、出席を取る際、講義内容の理解度を確認する易しいクイズを実施します。				
授業の予習・復習	予習：参考文献を中心に行ってください。 復習：講義ノートを中心に行ってください。				
教科書	教科書は使用しません。プリントを配布します。				
参考文献	細野薫、石原秀彦、渡部和孝『グラフィック金融論』新世社 鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社 館龍一郎、浜田宏一『金融』岩波書店 この他、講義の中で随時紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の方針、動画視聴など			
第 2 回	信用創造機能	キーワード解説、統計、信用創造プロセス、計算問題			
第 3 回	貨幣数量説	貨幣の価値、フィッシャーの交換方程式、ケンブリッジ方程式、貨幣数量説			
第 4 回	流動性選好説	流動性、ケインズの流動性選好説、流動性のわな、IS-LM 分析			
第 5 回	債券価格と金利	割引現在価値、様々な債券、債券価格と金利の関係、金利の期間構造			
第 6 回	ファイナンス理論入門	CAPM を中心に			
第 7 回	国際金融論入門 1	国際収支の概要としくみ			
第 8 回	国際金融論入門 2	国際収支と為替相場の関係			
第 9 回	金融事情入門 1	動画視聴 (実際の投資家の講演と質疑)			
第 10 回	金融事情入門 2	2000 年代後半以降の大きな出来事 (サブプライムローン問題を中心に)			
第 11 回	金融史入門 1	金融自由化の分析視角、アメリカの自由化プロセス			
第 12 回	金融史入門 2	日本の自由化プロセス、自由化の要因、留意点			
第 13 回	現代の金融市場と金融機関 1	金融取引の費用と金融機関の役割、情報の非対称性			
第 14 回	現代の金融市場と金融機関 2	金融仲介業の変貌			
第 15 回	まとめ	授業内容のまとめ			

# 経済

授業番号	B202030001				
科目名 (英語表記)	経営学 I (Business administration I)				
担当者 (英語表記)	高木 朋代 (Tomoyo Takagi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は、経営学を学ぶ人が、この分野において必ず理解しておかなければならない基本的な知識と論理を、体系的に理解することを目的としています。最終的には、授業を通じてみなさんが、経営学を机上の学問としてではなく、経営の現実を実感し、企業や組織について理解を深めることを目指します。				
授業の進め方 (履修条件など)	経営学 I と II を合わせて受講することをお勧めします。経営学 I では、特に「戦略論」「組織論」「経営思想史」を中心に勉強します。授業では、随所において現実のケースの例示やビデオ鑑賞と討論をまじえていきます。				
成績評価方法	授業内で実施する小論文 (30%) と定期試験 (70%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の前に、前回の授業ノートを再読しておくことをお勧めします。 復習：授業で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。				
教科書	必要に応じて独自に資料を配布します。				
参考文献	必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図			
第 2 回	経営について考える	企業および企業活動とは何か			
第 3 回	経営戦略論	戦略の定義、戦略の次元			
第 4 回	経営戦略論	戦略の策定、内部分析と外部分析			
第 5 回	経営戦略論	競争戦略①			
第 6 回	経営戦略論	競争戦略②			
第 7 回	経営戦略論	戦略の選択と同時追求の問題			
第 8 回	経営戦略論	全社戦略			
第 9 回	経営戦略論	国際化戦略			
第 10 回	経営組織論	国際企業の組織構造と類型			
第 11 回	経営組織論	分析的戦略論 VS 組織力			
第 12 回	経営組織論	組織 VS 市場			
第 13 回	経営組織論	優れた組織とは			
第 14 回	経営思想史	20 世紀の企業経営者たちの思想と実践			
第 15 回	経営思想史	経営理論はどのようにして生み出されるのか			



# 経済

授業番号	B202040001				
科目名 (英語表記)	経営学 II (Business administration II)				
担当者 (英語表記)	高木 朋代 (Tomoyo Takagi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は、経営学を学ぶ人が、この分野において必ず理解しておかなければならない基本的な知識と論理を、体系的に理解することを目的としています。最終的には、授業を通じてみなさんが、経営学を机上の学問としてではなく、経営の現実を実感し、企業や組織について理解を深めることを目指します。				
授業の進め方 (履修条件など)	経営学 I と II を合わせて受講することをお勧めします。経営学 II では、特に日本企業の経営に焦点を絞り、勉強します。授業では、随所において現実のケースの例示やビデオ鑑賞と討論をまじえていきます。				
成績評価方法	授業内で実施する小論文 (30%) と定期試験 (70%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の前に、前回の授業ノートを再読しておくことをお勧めします。 復習：授業で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。				
教科書	必要に応じて独自に資料を配布します。				
参考文献	必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図			
第 2 回	日本企業論	日本的経営の功罪			
第 3 回	日本企業論	日本の会計基準とグループ経営			
第 4 回	日本企業論	経済産業界の慣行			
第 5 回	日本企業論	日本企業が抱える財務管理上の問題			
第 6 回	日本企業論	不良債権問題と資本主義ルール			
第 7 回	日本企業論	経営破綻と民事再生法と会社更生法			
第 8 回	日本企業論	経営支配権と日本の株主			
第 9 回	日本企業論	敵対的買収と買収防衛策			
第 10 回	日本企業論	会社は誰のものか			
第 11 回	現代日本企業の経営	日本企業の経営、その特質と課題			
第 12 回	現代日本企業の経営	諸外国から見た日本と日本企業			
第 13 回	現代日本企業の経営	日本における人と組織のマネジメント			
第 14 回	現代日本企業の経営	日本企業の組織原理と創造性の開発			
第 15 回	現代日本企業の経営	日本的経営の普遍性を問う			

# 経済

授業番号	B202240001				
科目名 (英語表記)	経営財務論 (Management financial theory)				
担当者 (英語表記)	石鍋 信孝 (Nobutaka Ishinabe)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	会計学の初学者にもわかりやすく、企業経営の立場から利益管理と資金管理を実務に即した内容で展開します。ケーススタディ等実在の企業を題材に取り上げており、企業経営の財務に関する基本的事項は、この講義でマスターできます。企業経営のお金に関する分野を理解して、就職活動を強力に、また、就職後の実務に役立つ授業構成です。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を中心に、鮮度の高い情報や実務に役立つ知識を学習します。 講義は教科書の内容で特に重要事項をパワーポイントにて詳細説明をし、適宜、実存企業の最新実務財務情報を提供いたします。				
成績評価方法	定期試験 (100%)				
基準					
授業の予習・復習	授業の予習として教科書の事前精読が、復習は講義内容の再確認が望まれます。				
教科書	「経営に活かす財務マネジメント」 産業能率大学出版部 石鍋信孝著				
参考文献	「与信管理の戦略と実践」 産業能率大学出版部 石鍋信孝著				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、経営財務の基礎			
第2回	経営財務の概要	制度会計、企業会計原則、指導原理			
第3回	簿記	仕訳、帳簿組織、工業簿記			
第4回	財務諸表 1 (P/L)	損益計算書			
第5回	財務諸表 2 (B/S)	貸借対照表			
第6回	財務諸表 3 (C/S)	キャッシュフロー計算書			
第7回	最近の潮流	IFRSと経営財務			
第8回	財務分析	財務分析モデル			
第9回	企業税務	法人税等、実効税率			
第10回	資金管理	資金の調達、事業ポートフォリオ			
第11回	予算管理	予算と予算管理			
第12回	採算分析 1 (短期)	損益分岐点分析 (BEP)			
第13回	採算分析 2 (長期)	投資分析 (NPV, IRR, WACC)			
第14回	ケース・スタディ 1 (S社)	S社の財務政策			
第15回	ケース・スタディ 2 (SW)	ソフトウェア産業と経営財務			

# 経済

授業番号	B202130001		
科目名 (英語表記)	経営史 I (Business history I)		
担当者 (英語表記)	坂本 旬 (Jun Sakamoto)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義のねらいは、19世紀から20世紀初頭のヨーロッパ、アメリカ、日本を対象とした企業経営の形成と発展及び経営環境の変化を検討することにある。これらを時系列に学習することで、企業経営には連続性があるという歴史認識を身につけ、大きな流れの中で日本や世界の企業について理解することを到達目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義では、学生が興味を抱きにくい歴史的な時代背景や企業について、より関心をもってもらうために、写真や映像資料なども用いながら進行し、個別企業のケースを取り上げる場合は、適宜、追加資料を配布する。		
成績評価方法	課題レポート：30%		
基準	期末試験：70%		
授業の予習・復習	講義へ参加する準備として、前回の内容についての復習を各自行うこと。また、現代的な視野で歴史を見つめることが重要であるため、日本や世界の経済・社会情勢に関わる新聞記事やニュースなどに注意を払うこと。		
教科書	特に指定しない。適時資料を配布する。		
参考文献	鈴木良隆・大東英祐・武田晴人著『ビジネスの歴史』(有斐閣, 2004年) テーマ毎に適時紹介する。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	経営史の意義と現代企業の形成	経営史の問題意識や論点、意義について検討する。さらに、本講義の導入として、現代企業とは何かということについても学習する。	
第2回	工業化と金融・商業の発展	19世紀初頭のイギリスにおいて機械化した近代工業と、マーチャント・バンクと呼ばれる金融業者の機能について学習する。	
第3回	市場経済とビジネスの発展	19世紀初頭にイギリスで見られた産業発展が、19世紀を通してヨーロッパ全域で進行していく過程について検討する。	
第4回	株式会社の登場と金融	金融センターとしてのロンドン・シティの機能及び、ヨーロッパにおける株式会社の出現について学習する。	
第5回	近代工業における労働と雇用	熟練、不熟練、半熟練によってそれぞれ形成されていた労働市場及び、近代工場の制度と管理について学習する。	
第6回	アメリカにおける大量生産を目指した試み	大量生産体制の実現を目指して取り組まれた、互換性方式と連続処理方式について検討する。さらに、科学的管理法の登場についても注目する。	
第7回	垂直統合とアメリカの現代企業	カーネギーやロックフェラー、デュボンの事例を用い、大企業の形成過程において重要な役割を果たした垂直統合及び、職能別組織について学習する。	
第8回	専門経営者の登場と経営階層組織	ペンシルヴァニア鉄道などの事例を用い、専門経営者と経営階層組織の出現について学習する。また、ミドルとトップの役割についても検討する。	
第9回	多角化戦略と事業部制組織	デュボンの事例を中心として、同社が推進した多角化戦略とそれに伴う事業部制という組織革新について学習する。	
第10回	ヨーロッパにおける現代企業の出現	19世紀末に出現したヨーロッパにおける現代企業の特徴について学習する。また、企業と政府との関係についても焦点を当てる。	
第11回	ヨーロッパにおける大企業の組織と管理	持株会社の形成とその機能及び、ヨーロッパの経営者とその行動様式について学習する。ここでは、ヨーロッパの大企業としてユニリーバの事例も検討する。	
第12回	日本における大企業の出現	20世紀初頭、日本の経営を取り巻く環境について学習する。また、日本における大規模組織及び管理的組織の形成についてもあわせて検討する。	
第13回	戦間期日本における企業と財閥	戦間期の日本における産業構造の変化と、階層的組織の形成及び管理的技法の導入について学習する。	
第14回	日本における持株会社組織と財閥	持株会社組織の普及と、財閥商社及び財閥銀行の機能、財閥による寡占的大企業の構造について学習する。	
第15回	まとめ	これまでの講義で学習した内容について、ヨーロッパ、アメリカ、日本の比較検討を通じて、まとめを行う。	

# 経済

授業番号	B202140001				
科目名 (英語表記)	経営史 II (Business history II)				
担当者 (英語表記)	坂本 旬 (Jun Sakamoto)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義のねらいは、20世紀から現代に至るヨーロッパ、アメリカ、日本の企業経営について、当時の経済状況、経営環境も含めて複眼的に検討することにある。各国の様々な企業の歴史をテーマ毎に学ぶことで、現代企業についての理解を深め、その近未来のあり方を展望する洞察力を培うことを到達目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義では、学生が興味を抱きにくい歴史的な時代背景や企業について、より関心をもってもらうために、写真や映像資料なども用いながら進行し、個別企業のケースを取り上げる場合は、適宜、追加資料を配布する。				
成績評価方法	課題レポート：30%				
基準	期末試験：70%				
授業の予習・復習	講義へ参加する準備として、前回の内容についての復習を各自行うこと。また、現代的な視野で歴史を見つめることが重要であるため、日本や世界の経済・社会情勢に関わる新聞記事やニュースなどに注意を払うこと。				
教科書	特に指定しない。適時資料を配布する。				
参考文献	鈴木良隆・大東英祐・武田晴人著『ビジネスの歴史』(有斐閣、2004年) テーマ毎に適時紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	概要	経営史 I で検討された内容を振り返り、本講義の導入として、第二回以降で検討される大企業体制について要点を検討する。			
第2回	アメリカの大企業体制と多国籍展開	第二次大戦後におけるアメリカ大企業の成長と事業部制の普及及び、多国籍展開について学習する。			
第3回	アメリカにおける先端技術産業の出現	アメリカにおける半導体産業の成長及び、IBM を事例に用いたコンピュータ産業の発展について検討する。			
第4回	戦後ヨーロッパの大企業と市場経済	第二次大戦後から 1980 年代までのヨーロッパ大企業を対象とし、その戦略と組織構造、資本市場との関係について学習する。			
第5回	大企業体制における金融とサービス	第一次大戦以降、製造業以上に顕著な変化を経験した金融・サービス産業に焦点を当て、その盛衰について検討する。			
第6回	大企業体制下の中小企業	大量生産と大企業が登場した 20 世紀前半における、ヨーロッパの中小企業及び産業地域について学習する。			
第7回	日本における大企業の発展と戦略	財閥の解体と新しい産業の発生について学習する。さらに、ジャパナイゼーションの展開についても検討する。			
第8回	日本における大企業の組織と雇用	戦後日本の大企業における多角化の展開と組織構造について学習し、労使関係の協動的枠組みについても注目する。			
第9回	日本のビジネス・システム	大企業間の水平的な統合を象徴する企業集団と、メインバンク・システムなどの日本のビジネス・システムについて学習する。			
第10回	日本の競争的市場と中小企業	流通革命と呼ばれたスーパーマーケットの出現について学習する。さらに、中小企業の多様性についても検討する。			
第11回	経営者企業の国際競争力低下	自動車・鉄鋼の事例を用いたアメリカにおける経営者企業の地位低下と、大企業管理システムの問題について学習する。			
第12回	IT 産業の発展と新しいビジネスの創造	アメリカ企業の地位回復において重要な役割を果たした、コンピュータや半導体に関わる企業者活動について検討し、ベンチャー・ビジネスについても学習する。			
第13回	グローバル経済の進展と多国籍企業	1960 年代以降、国際金融センターとして復活したヨーロッパにおける金融・サービスセンターの特徴について学習する。また、グローバル経済における多国籍企業についても焦点を当てる。			
第14回	地域経済の再生と産業クラスター	1960 年代以降、中小企業によって発展したヨーロッパの諸地域を対象とし、その発展過程や発展の条件について学習する。			
第15回	まとめ	これまでの講義で学習した内容について、ヨーロッパ、アメリカ、日本の比較検討を通じて、まとめを行う。			

# 経済

授業番号	B202150001		
科目名 (英語表記)	経営戦略論 I (Management-strategy theory I)		
担当者 (英語表記)	岸本 太一 (Taichi Kishimoto)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、大きく2つあります。一つは、事業戦略論の基礎的な内容を理解することです。もう一つは、学んだ理論を用いて現実の企業を分析するための初歩的なスキルを身につけることです。		
授業の進め方 (履修条件など)	内容は大きく2つに分かれます。一つは、戦略の理論に関するレクチャーです。もう一つは、紹介した理論を用いて、企業の事例を分析する (ケーススタディー) という内容です。この二つの内容を交互に進めていきます。		
成績評価方法	中間レポート (40%)、期末レポート (40%)、授業への貢献 (20%) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：次回のテーマに関連しそうな企業について、調べておいてください。 復習：講義で板書したノートを再読し、理解を深めて下さい。		
教科書	特に使用しません。講義におけるプレゼン資料が教科書となります。		
参考文献	伊丹敬之著『経営戦略の論理 第4版』(日本経済新聞社) 伊丹敬之・西野和美編著『ケースブック経営戦略の論理 (全面改訂版)』(日本経済新聞社)		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図など	
第2回	事業戦略とは	経営戦略論 (事業戦略分野) の全体像	
第3回	マーケティング戦略①	理論紹介：顧客のニーズをとらえる	
第4回	マーケティング戦略②	理論紹介：ニーズの多様性と相互作用を利用する	
第5回	マーケティング戦略③	ケーススタディー：花王	
第6回	競争戦略①	理論紹介：競争優位をつくる	
第7回	競争戦略②	理論紹介：反撃を見越す、敵にしない	
第8回	競争戦略③	ケーススタディー：三星電子	
第9回	中間レポートセッション	優秀レポートを用いた発表セッション	
第10回	技術戦略①	理論紹介：技術を活かし、技術が動かす	
第11回	技術戦略②	理論紹介：	
第12回	技術戦略③	ケーススタディー：セイコーエプソン	
第13回	戦略の組織適合①	理論紹介：戦略自体が組織を動かし、刺激する	
第14回	戦略の組織適合②	理論紹介：	
第15回	戦略の組織適合③	ケーススタディー：アサヒビール	

# 経済

授業番号	B202160001				
科目名 (英語表記)	経営戦略論 II (Management-strategy theory II)				
担当者 (英語表記)	岸本 太一 (Taichi Kishimoto)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、大きく2つあります。一つは、全社戦略論の基礎的な内容を理解することです。もう一つは、学んだ理論を用いて現実の企業を分析するための初歩的なスキルを身につけることです。				
授業の進め方 (履修条件など)	内容は大きく2つに分かれます。一つは、戦略の理論に関するレクチャーです。もう一つは、紹介した理論を用いて、企業の事例を分析する (ケーススタディー) という内容です。この二つの内容を交互に進めていきます。				
成績評価方法	中間レポート (40%)、期末レポート (40%)、授業への貢献 (20%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：次回のテーマに関連しそうな企業について、調べておいてください。 復習：講義で板書したノートを再読し、理解を深めて下さい。				
教科書	教科書は特に使用しません。講義で紹介するスライドが教科書代わりとなります。				
参考文献	伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門 第3版』日本経済新聞社 伊丹敬之著『経営戦略の論理 第4版』日本経済新聞社				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図など			
第2回	全社戦略とは	経営戦略論 (全社戦略分野) の全体像			
第3回	ビジネスシステム戦略①	理論紹介：ビジネスシステムで差別化する			
第4回	ビジネスシステム戦略②	理論紹介			
第5回	ビジネスシステム戦略③	ケーススタディー：ミスミ			
第6回	多角化戦略①	理論紹介：多角化			
第7回	多角化戦略②	理論紹介：事業ポートフォリオのマネジメント			
第8回	多角化戦略③	ケーススタディー：シャープ			
第9回	中間レポートセッション	優秀レポートを用いた発表セッション			
第10回	国際化戦略①	理論紹介：国のポートフォリオ戦略			
第11回	国際化戦略②	理論紹介：経営資源の移転と政治・為替問題への対応			
第12回	国際化戦略③	ケーススタディー：日産自動車			
第13回	M & A 戦略①	理論紹介：M & A			
第14回	M & A 戦略②	理論紹介：戦略的提携			
第15回	M & A 戦略③	ケーススタディー：セコム			

# 経済

授業番号	B202180001				
科目名 (英語表記)	経営組織論 I (Management organization theory I)				
担当者 (英語表記)	高木 朋代 (Tomoyo Takagi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は、経営組織論の基本理論を体系的に理解し、企業や人への理解を深めることを目的としています。組織論は、2人以上の人々が協働する組織体の行動や構造を明らかにする学問であり、最終的には、授業を通じてみなさんが、組織に存在する諸問題の解決に向けて応用力を身に付けていくことを目指します。				
授業の進め方 (履修条件など)	経営組織論 I と II を合わせて受講することをお勧めします。経営組織論 I では、特に「ミクロ組織論」を中心に勉強します。授業では主要理論を紹介しつつ、特に現代日本企業において重要と考えられる事項に着目して議論を行います。				
成績評価方法	授業内で実施する小論文 (30%) と定期試験 (70%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の前に、前回の授業ノートを再読しておくことをお勧めします。 復習：授業で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。				
教科書	必要に応じて独自に資料を配布します。				
参考文献	必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図			
第 2 回	組織への基本的理解	組織の定義、人間行動と意思決定			
第 3 回	ミクロ組織論	モチベーション：内容理論			
第 4 回	ミクロ組織論	モチベーション：過程理論			
第 5 回	ミクロ組織論	働きがいと人事施策			
第 6 回	ミクロ組織論	集団活動と集団意思決定			
第 7 回	ミクロ組織論	組織メンバー行動のコントロール			
第 8 回	ミクロ組織論	パワーとコンフリクト			
第 9 回	ミクロ組織論	コンフリクト・マネジメント			
第 10 回	ミクロ組織論	<実習>：ビデオ鑑賞と討論			
第 11 回	ミクロ組織論	リーダーシップ論①			
第 12 回	ミクロ組織論	リーダーシップ論②			
第 13 回	ミクロ組織論	<実習>：ビデオ鑑賞と討論			
第 14 回	ミクロ組織論	管理者行動			
第 15 回	組織論の学説史	ミクロ組織論の諸学説			



# 経済

授業番号	B202190001				
科目名 (英語表記)	経営組織論 II (Management organization theory II)				
担当者 (英語表記)	高木 朋代 (Tomoyo Takagi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は、経営組織論の基本理論を体系的に理解し、企業や人への理解を深めることを目的としています。組織論は、2人以上の人々が協働する組織体の行動や構造を明らかにする学問であり、最終的には、授業を通じてみなさんが、組織に存在する諸問題の解決に向けて応用力を身に付けていくことを目指します。				
授業の進め方 (履修条件など)	経営組織論 I と II を合わせて受講することをお勧めします。経営組織論 II では、特に「マクロ組織論」を中心に勉強します。授業では主要理論を紹介しつつ、特に現代日本企業において重要と考えられる事項に着目して議論を行います。				
成績評価方法	授業内で実施する小論文 (30%) と定期試験 (70%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の前に、前回の授業ノートを再読しておくことをお勧めします。 復習：授業で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。				
教科書	必要に応じて独自に資料を配布します。				
参考文献	必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図			
第 2 回	組織への基本的理解	なぜ組織が必要なのか			
第 3 回	マクロ組織論	有効性と効率性の問題			
第 4 回	マクロ組織論	組織構造の概念と特徴			
第 5 回	マクロ組織論	諸特徴がもたらす逆機能の問題			
第 6 回	マクロ組織論	組織構造に影響を与える要因			
第 7 回	マクロ組織論	代表的な組織構造			
第 8 回	マクロ組織論	組織構造の変遷と時代背景			
第 9 回	マクロ組織論	環境と組織			
第 10 回	マクロ組織論	組織の戦略的選択と環境適合			
第 11 回	マクロ組織論	組織の成長とライフサイクル			
第 12 回	マクロ組織論	組織の成長と組織コンフィギュレーション			
第 13 回	マクロ組織論	組織文化の機能			
第 14 回	マクロ組織論	<実習>：ビデオ鑑賞と討論			
第 15 回	組織論の学説史	マクロ組織論の諸学説			



# 経済

授業番号	B202200001				
科目名 (英語表記)	経営分析 I (Business analysis I)				
担当者 (英語表記)	平屋 伸洋 (Nobuhiro Hiraya)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、財務諸表を利用して企業の経営状態を把握できるようになることである。また到達目標は、収益性に関する財務比率を自分で計算し、それを分析することである。				
授業の進め方 (履修条件など)	企業会計の役割、経営分析の目的と方法などについて理解したうえで、収益性を分析するために、資本利益率、売上高利益率、資本回転率という三つのテーマを取り上げていく。				
成績評価方法	定期試験を 50%、レポートを 50%の割合で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書の該当章を 3 回読み、疑問点を明らかにする。 復習：計算方法、分析の仕方について確認する。				
教科書	森久・関利恵子・徳山英邦・蔣飛鴻・長野史麻著『財務分析からの会計学 < 第 2 版 >』森山書店、2011 年。				
参考文献	桜井久勝著『財務会計講義 < 第 14 版 >』中央経済社、2013 年。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方、評価方法			
第 2 回	会計と社会、企業	企業会計の役割			
第 3 回	経営分析の課題	経営分析の目的と方法			
第 4 回	分析資料	財務データの入手方法			
第 5 回	貸借対照表	貸借対照表の形式と内容			
第 6 回	損益計算書	損益計算書の形式と内容			
第 7 回	資本利益率 (その 1)	資本利益率についての講義			
第 8 回	資本利益率 (その 2)	資本利益率に関する計算			
第 9 回	資本利益率 (その 3)	資本利益率による収益性の分析			
第 10 回	売上高利益率 (その 1)	売上高利益率についての講義			
第 11 回	売上高利益率 (その 2)	売上高利益率に関する計算			
第 12 回	売上高利益率 (その 3)	売上高利益率による収益性の分析			
第 13 回	資本回転率 (その 1)	資本回転率についての講義			
第 14 回	資本回転率 (その 2)	資本回転率に関する計算			
第 15 回	資本回転率 (その 3)	資本回転率による収益性の分析			

# 経済

授業番号	B202210001				
科目名 (英語表記)	経営分析 II (Business analysis II)				
担当者 (英語表記)	平屋 伸洋 (Nobuhiro Hiraya)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、財務諸表を利用して企業の経営状態を把握できるようになることである。また到達目標は、生産性と安全性に関する財務比率を自分で計算し、それを分析することである。				
授業の進め方 (履修条件など)	生産性と安全性の分析方法を学ぶ。生産性はそれ自体で一つのテーマとする。安全性については、ストック指標、キャッシュフロー分析、その他の指標という三つのテーマを取り上げる。				
成績評価方法	定期試験を 50%、レポートを 50%の割合で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書の該当章を 3 回読み、疑問点を明らかにする。 復習：計算方法、分析の仕方について確認する。				
教科書	森久・関利恵子・徳山英邦・蔣飛鴻・長野史麻著『財務分析からの会計学 < 第 2 版 >』森山書店、2011 年。				
参考文献	桜井久勝著『財務会計講義 < 第 14 版 >』中央経済社、2013 年。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方、評価方法			
第 2 回	財務諸表	経営分析の資料			
第 3 回	収益性分析	収益性分析の方法			
第 4 回	生産性分析 (その 1)	生産性の分析についての講義			
第 5 回	生産性分析 (その 2)	生産性の分析に関する計算			
第 6 回	生産性分析 (その 3)	財務比率による生産性の分析			
第 7 回	安全性分析 I (その 1)	ストック指標についての講義			
第 8 回	安全性分析 I (その 2)	ストック指標に関する計算			
第 9 回	安全性分析 I (その 3)	ストック指標による安全性の分析			
第 10 回	安全性分析 II (その 1)	フロー指標についての講義			
第 11 回	安全性分析 II (その 2)	フロー指標に関する計算			
第 12 回	安全性分析 II (その 3)	フロー指標による安全性の分析			
第 13 回	安全性分析 III (その 1)	その他の指標についての講義			
第 14 回	安全性分析 III (その 2)	その他の指標に関する計算			
第 15 回	安全性分析 III (その 3)	その他の指標による安全性の分析			

# 経済

授業番号	B202330001		
科目名 (英語表記)	経営立地論 (Management theory of location)		
担当者 (英語表記)	青木 英一 (Hidekazu Aoki)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	企業経営や産業経営を考える上で立地論の考え方は欠かせません。その立地論の考え方とはどのようなものなのかを、チューネンの農業立地論、ウェーバーの工業立地論、レッシュの市場地域論などを通して学びます。立地論の考え方を通して、現実の経営立地を理解することが目標です。		
授業の進め方 (履修条件など)	最初の4時間は、立地についての考え方を具体的事例を通して説明します。5時間目以降は、世界的に知られた代表的な立地論などを易しく説明し、具体的な事例の紹介もします。理解度を確認するために毎時間コメントカードを提出してもらいます。		
成績評価方法	定期試験 (50%) と平常点 (50%、コメントカードの内容による) で評価します		
基準			
授業の予習・復習	参考文献を利用して予め授業内容のポイントをつかみ、授業後はノートや配付資料を見直しておくこと。		
教科書	使用しません。毎時間プリントを配布します。		
参考文献	富田和暁「地域と産業」原書房 松原 宏編著「立地論入門」古今書院		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、授業の受け方、参考文献の解説	
第2回	立地とは何か	立地の概念、立地論の目的、具体的事例	
第3回	立地条件	立地条件の種類と性質	
第4回	立地因子	立地因子の種類と性質	
第5回	農業立地論 (1)	チューネンの農業立地論 (地代概念について)	
第6回	農業立地論 (2)	チューネンの農業立地論 (耕作限界と耕作境界)	
第7回	農業の立地	世界における農業立地の事例	
第8回	工業立地論 (1)	ウェーバーの工業立地論 (概要)	
第9回	工業立地論 (2)	ウェーバーの工業立地論 (評価と批判)	
第10回	工業の立地	世界における工業立地の事例	
第11回	市場の形成	レッシュの市場地域論	
第12回	商業の立地	商店の立地、商店街の立地	
第13回	オフィスの立地	都市構造とオフィスの立地	
第14回	企業組織の立地	集中か分散か	
第15回	まとめ	授業内容のまとめ	

# 経済

授業番号	B201150001				
科目名 (英語表記)	経済学史 I (The history of economics I)				
担当者 (英語表記)	加茂川 益郎 (Masuro Kamogawa)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	古典派経済学を中心として、形成期の経済学説の課題と理論を理解する。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを使って板書しながら説明する。				
成績評価方法	参加態度 (20 点) と定期試験 (80 点) による。				
基準					
授業の予習・復習	予習 テキストを読むこと 復習 ノートをまとめて理解を確かめること				
教科書	井上義朗『コア・テキスト 経済学史』新世社				
参考文献	スミス『国富論』 リカード『経済学および課税の原理』				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	はじめに	経済学史の課題と方法			
第 2 回	重商主義	重金主義、貿易差額論、各国の重商主義			
第 3 回	重農主義	自然法思想、純生産物、三階級			
第 4 回	重農主義	経済表			
第 5 回	古典派経済学—スミス『国富論』	国富論の体系、富とは何か、富の増進方法			
第 6 回	『国富論』	投下労働価値説と支配労働価値説への移行			
第 7 回	『国富論』	資本蓄積論、富裕の進歩の差異			
第 8 回	『国富論』	重商主義批判、自由主義			
第 9 回	古典派経済学—マルサス	人口法則と私有財産制			
第 10 回	古典派経済学—リカード『経済学原理』	穀物法論争と比較優位論			
第 11 回	『経済学原理』	投下労働価値説の徹底、価値分解論			
第 12 回	『経済学原理』	差額地代論			
第 13 回	『経済学原理』	自然価格、賃金論、利潤論			
第 14 回	『経済学原理』	資本蓄積論			
第 15 回	まとめ	重商主義、重農主義、古典派経済学の総括			

# 経済

授業番号	B201160001				
科目名 (英語表記)	経済学史 II (The history of economics II)				
担当者 (英語表記)	加茂川 益郎 (Masuro Kamogawa)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済学の三大潮流であるマルクス経済学、新古典派経済学、ケインズ経済学を理解する。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを使って板書しながら説明する。				
成績評価方法	参加態度 (20 点) と定期試験 (80 点) による。				
基準					
授業の予習・復習	予習 テキストをよく読むこと 復習 ノートを整理して理解を深めること				
教科書	井上義朗『コア・テキスト 経済学史』新世社				
参考文献	マルクス『資本論』 マーシャル『経済学原理』 ケインズ『雇用、利子および貨幣の一般理論』				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	マルクス経済学 I	マルクス経済学の生成、『資本論』への道			
第 2 回	マルクス経済学 II	『資本論』の構造			
第 3 回	マルクス経済学 III	労働価値説、剰余価値論			
第 4 回	マルクス経済学	資本蓄積論、産業予備軍			
第 5 回	新古典派経済学 I	新古典派経済学とは何か。限界効用理論。			
第 6 回	新古典派経済学 II	メンガーの効用価値論			
第 7 回	新古典派経済学 III	ワルラスの一般均衡理論			
第 8 回	新古典派経済学 IV	マーシャルの動態的市場理論			
第 9 回	新古典派経済学 V	シュンペーターの経済発展理論			
第 10 回	ケインズ経済学 I	失業者の発生—ケインズの考え方			
第 11 回	ケインズ経済学 II	有効需要の原理—消費、貯蓄、乗数効果			
第 12 回	ケインズ経済学 III	投資と利子、流動性選好			
第 13 回	ケインズ経済学 IV	ケインズの政策と思想			
第 14 回	現代経済学の諸潮流	社会経済学、新リカード学派、現代マルクス学派			
第 15 回	まとめ	マルクス、新古典派、ケインズ経済学の総括			

# 経済

授業番号	B201850001				
科目名 (英語表記)	経済学方法論 I (Methodology of Economics I)				
担当者 (英語表記)	折原 裕 (Yutaka Orihara)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	マルクス経済学、「近代経済学」のいずれにも片寄らないで、経済学の方法を広く学びます。				
授業の進め方 (履修条件など)	この I では、経済学的方法的課題を留意しつつ、経済学の成立・発展過程を概観します。				
成績評価方法	定期試験 (60%)、授業内小テスト (40%)。				
基準					
授業の予習・復習	予習：分野にこだわらず多くの書物を読んで下さい。 復習：簡単でいいから励行して下さい。				
教科書	市販のテキストは用いず、毎回講義の概要を記載した印刷物「講義メモ」を配布します。これに、講義中の指示などによって学生諸君が適宜書き込みをほどこしたものが、テキスト兼ノートになります。				
参考文献	宇野弘蔵『経済学方法論』東京大学出版会 (講義だけでは飽き足らない勉強家の学生向け図書。現在入手不可能となっておりますので、メディアセンター所蔵のものを利用して下さい。)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義ガイダンス	本講義の特徴、成績について等			
第 2 回	経済理論の成立過程	重商主義の経済学説			
第 3 回	経済理論の成立過程	重農主義の経済学説			
第 4 回	経済理論の成立過程	自由主義の経済学説①アダム・スミス			
第 5 回	経済理論の成立過程	自由主義の経済学説②デーヴィッド・リカード			
第 6 回	経済理論の成立過程	自由主義の経済学説③ J・S・ミル			
第 7 回	小テスト	小テスト			
第 8 回	マルクス経済学	マルクス経済学の確立			
第 9 回	マルクス経済学	マルクス経済学の発展			
第 10 回	マルクス経済学	宇野理論の考え方			
第 11 回	「近代経済学」の潮流	限界革命の経済学			
第 12 回	「近代経済学」の潮流	新古典派経済学の展開			
第 13 回	「近代経済学」の潮流	ケインズの経済学			
第 14 回	小テスト	小テスト			
第 15 回	まとめ	まとめ			

# 経済

授業番号	B201860001				
科目名 (英語表記)	経済学方法論 II (Methodology of Economics II)				
担当者 (英語表記)	折原 裕 (Yutaka Orihara)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	マルクス経済学、「近代経済学」のいずれにも片寄らないで、経済学の方法を広く学びます。				
授業の進め方 (履修条件など)	このIIでは、前半でマルクス経済学の方法、後半で「近代経済学」の方法を取り扱います。				
成績評価方法	定期試験 (60%)、授業内小テスト (40%)。				
基準					
授業の予習・復習	予習：分野にこだわらず多くの書物を読んで下さい。 復習：簡単でいいから励行して下さい。				
教科書	市販のテキストは用いず、毎回講義の概要を記載した印刷物「講義メモ」を配布します。これに、講義中の指示などによって学生諸君が適宜書き込みをほどこしたものが、テキスト兼ノートになります。				
参考文献	宇野弘蔵『経済学方法論』東京大学出版会 (講義だけでは飽き足りない勉強家の学生向け図書。現在入手不可能となっておりますので、メディアセンター所蔵のものを利用して下さい。)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	講義ガイダンス	本講義の特徴、成績について等			
第2回	マルクス経済学の方法	経済学の対象			
第3回	マルクス経済学の方法	経済学原理論と純粋資本主義			
第4回	マルクス経済学の方法	原理論と段階論の分化			
第5回	マルクス経済学の方法	原理論の方法			
第6回	マルクス経済学の方法	段階論の方法			
第7回	マルクス経済学の方法	現状分析の方法			
第8回	小テスト	小テスト			
第9回	「近代経済学」の方法	ロビンズとハチソン			
第10回	「近代経済学」の方法	ケインズ革命と新古典派総合			
第11回	「近代経済学」の方法	マハループとフリードマン			
第12回	「近代経済学」の方法	ポスト・ケインジアンの方法			
第13回	「近代経済学」の方法	新オーストリア学派の方法			
第14回	小テスト	小テスト			
第15回	まとめ	まとめ			

# 経済

授業番号	B201960001				
科目名 (英語表記)	経済数学 I (Economic mathematics I)				
担当者 (英語表記)	小林 忠 (Tadashi Kobayashi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済学やオペレーションズ・リサーチなどの領域で利用される線形数学の基礎を確立し、線形計画法について解説します。				
授業の進め方 (履修条件など)	コンピュータを使って、行列式、行列の積、逆行列等の基本概念を正確に修得し、それと同時にコンピュータの素晴らしさを体験してもらいます。 受講者は「数学 I, II」または「統計学 I, II」を履修済みのこと。初回または二回目の講義に必ず出席すること。尚、受講者は 20 名以内とします。				
成績評価方法	試験成績 80%、授業参加態度 20%				
基準					
授業の予習・復習	予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。 復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。				
教科書	プリントを用意します。				
参考文献	二階堂副包著『経済のための線型数学』培風館				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義準備	コンピュータの取扱い方			
第 2 回	線形代数概論	行列の積、行列式			
第 3 回	線形代数概論	逆行列、クラメル公式			
第 4 回	線形代数概論	ベクトルの一次独立、内積			
第 5 回	線形計画法	目的、問題の定式化			
第 6 回	線形計画法	変数が二つの場合			
第 7 回	線形計画法	単体法、許容領域、凸領域			
第 8 回	線形計画法	スラック変数、連立一次方程式			
第 9 回	線形計画法	目的関数の内積表示			
第 10 回	線形計画法	最大値問題、例題演習			
第 11 回	線形計画法	双対定理、例題演習			
第 12 回	輸送問題	モデル、定式化 (1)			
第 13 回	輸送問題	モデル、定式化 (2)			
第 14 回	Scheduling	PERT, critical path(1)			
第 15 回	Scheduling	PERT, critical path(2)			



経済

授業番号	B201970001				
科目名 (英語表記)	経済数学 II (Economic mathematics II)				
担当者 (英語表記)	小林 忠 (Tadashi Kobayashi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	ゲームの理論の入門部分を解説します。				
授業の進め方 (履修条件など)	コンピュータシミュレーションで実験確認をしてもらいます。 受講者は「経済数学 I」を履修済みのこと。初回または二回目の講義に必ず出席すること。尚、受講者は 20 名以内とします。				
成績評価方法	試験成績 80%、授業参加態度 20%				
基準					
授業の予習・復習	予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。 復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。				
教科書	プリントを用意します。				
参考文献	坂口実著『ゲームの理論』森北出版				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義準備	コンピュータの取扱い方			
第 2 回	在庫問題	モデル、在庫管理費用の計算			
第 3 回	在庫問題	定期、定量発注方式			
第 4 回	動的計画法	資金の配分問題			
第 5 回	階層比意思決定法	階層構造、一対比較と整合性			
第 6 回	ゲームの理論	概論			
第 7 回	ゲームの理論	鞍点、ミニマックスの定理			
第 8 回	ゲームの理論	不動点定理			
第 9 回	ゲームの理論	じゃんけんゲーム、定式化			
第 10 回	ゲームの理論	行列ゲーム、定式化			
第 11 回	ゲームの理論	混合戦略、最適戦略、ゲームの値 (1)			
第 12 回	ゲームの理論	混合戦略、最適戦略、ゲームの値 (2)			
第 13 回	ゲームの理論	混合戦略、最適戦略、ゲームの値 (3)			
第 14 回	ゲームの理論	特殊な行列ゲーム、演習 (1)			
第 15 回	ゲームの理論	特殊な行列ゲーム、演習 (2)			

# 経済

授業番号	B200890001		
科目名 (英語表記)	経済政策 AI (Economic policy A.I.)		
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	雇用と物価の安定、経済成長を目標とした経済政策を中心に、現代経済が直面しうる様々な政策上の問題について、その理論的基礎と政策を論じる。前期に開講される本科目では、景気変動および国民所得決定の理論の学習を通じて、後期の経済政策 A II およびその他の諸科目におけるより進んだ学習の基盤となる基礎的知識の確実な習得を目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	入門的な教科書を主に利用しながら、様々な関連トピックについても毎回プリントを配布しながら論じる (講義内容の多くは何らかの形で教科書と対応するが、それだけにとどめることはしない)。定期試験などは毎回の講義内容に関するものなので、毎回出席し、かつ積極的に受講することが必要。講義スケジュールは受講者の様子を見て変更もありうる。		
成績評価方法	定期試験 (80%)、レポート及びその他の課題 (20%) を考慮して評価する。ただし著しい出席不良・課題提出不良者には		
基準	定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。		
授業の予習・復習	予習： 前回の講義での説明を参考にして、教科書の関連する部分を見ておく。 復習： テキストや毎回配布するプリントなどを用いた復習を欠かさないこと。		
教科書	長谷川啓之編「経済政策の理論と現実」学文社、2009年。		
参考文献	必要に応じて講義時に紹介する。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	はじめに	経済政策とは何か・前期および年間の計画	
第 2 回	経済政策の考え方	政府と政策、公共部門の意義と役割	
第 3 回	景気循環と経済安定化 (1)	景気循環の考え方	
第 4 回	景気循環と経済安定化 (2)	景気循環と失業・インフレーション	
第 5 回	国民所得の理論と政策 (1)	4 5 度線モデルと生産物市場均衡	
第 6 回	国民所得の理論と政策 (2)	総需要管理政策 (乗数効果)	
第 7 回	国民所得の理論と政策 (3)	IS-LM モデルと安定化政策	
第 8 回	国民所得の理論と政策 (4)	IS-LM 曲線の形状と政策効果・ここまでのまとめ	
第 9 回	国民所得の理論と政策 (5)	国際収支とオープンマクロ経済学	
第 10 回	国民所得の理論と政策 (6)	オープンマクロ経済学における財政政策	
第 11 回	国民所得の理論と政策 (7)	オープンマクロ経済学における金融政策・ここまでのまとめ	
第 12 回	経済成長の理論と政策 (1)	経済成長の理論	
第 13 回	経済成長の理論と政策 (2)	経済成長と資本蓄積	
第 14 回	経済成長の理論と政策 (3)	経済成長と労働投入	
第 15 回	経済成長の理論と政策 (4)	経済成長と技術革新・全体のまとめと整理	

# 経済

授業番号	B200900001				
科目名 (英語表記)	経済政策 AII (Economic policy AII)				
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	雇用問題と産業組織に関する経済政策を中心に、現代経済が直面している様々な政策上の問題について、その政策手段を論じる。本科目では、財政・金融政策の政策手段とその評価、景気刺激では解決しない構造的失業、経済の構造変化と成長のための産業政策を中心に、前期に論じた経済政策の理論がどのような政策手段によって実現されているかを理解することを目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	入門的な教科書を主に利用しながら、様々な関連トピックについてもプリントを配布しながら論じる (講義内容の多くは何らかの形で教科書と対応するが、それだけにとどめることはしない)。定期試験などは毎回の講義内容に関するものなので、毎回出席し、かつ積極的に受講することが必要となろう。講義スケジュールは受講者の様子を見て変更もありうる。				
成績評価方法 基準	定期試験 (80%)、レポート及びその他の課題 (20%) を考慮して評価する。ただし著しい出席不良・課題提出不良者には定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。				
授業の予習・復習	予習：前回の講義での説明を参考にして、教科書の関連する部分を見ておく。 復習：テキストや毎回配布するプリントなどを用いた復習を欠かさないこと。				
教科書	長谷川啓之編「経済政策の理論と現実」学文社、2009年。				
参考文献	必要に応じて講義時に紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	はじめに	講義内容紹介・「経済政策 A I」との橋渡し			
第2回	失業と物価問題 (1)	失業とインフレーションの諸概念			
第3回	失業と物価問題 (2)	財政政策の手段			
第4回	失業と物価問題 (3)	金融政策の手段			
第5回	失業と物価問題 (4)	総需要管理政策をめぐる様々な議論			
第6回	失業と物価問題 (5)	非循環的失業と政府の役割①			
第7回	失業と物価問題 (6)	非循環的失業と政府の役割②			
第8回	失業と物価問題 (7)	供給インフレーション			
第9回	失業と物価問題 (8)	インフレ・デフレと経済の不安定性・ここまでの論点の整理と復習			
第10回	産業政策 (1)	経済成長、経済発展と産業政策			
第11回	産業政策 (2)	独占の非効率性と競争政策			
第12回	産業政策 (3)	直接規制政策～経済的規制と社会的規制			
第13回	産業政策 (4)	直接規制政策の根拠と規制緩和			
第14回	産業政策 (5)	技術革新と産業政策			
第15回	産業政策 (6)	産業政策に求められるもの・ここまでの論点の整理と全体の復習			

# 経済

授業番号	B200910001		
科目名 (英語表記)	経済政策 BI (Economic policy BI)		
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	バブル崩壊以降、日本経済は深刻なデフレ経済に陥ってしまった。これは雇用・所得を大きく損ない私たちの生活に大きな影を落としている。このような状態から脱するためには何が必要なのだろうか。本講義は、経済政策 (特に財政・金融政策) の理論と実際的手段を概説したのちに、課題解決に求められる政策対応について考察する。		
授業の進め方 (履修条件など)	必要であればプリントを配布するが、授業は板書を中心に進めていくので、しっかりノートをとること。質問は授業中いつでも受け付けるが、質問表を毎時間配布するので、質問、意見を記入すれば次の授業の初めに答える。		
成績評価方法	定期試験 (70%)・授業内小テスト (15%)・レポート及びその他の課題 (15%)		
基準			
授業の予習・復習	予習：下記の参考文献は予習のために最適な文献であるので、是非利用してもらいたい。 復習：復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。		
教科書	使用しない		
参考文献	『ゼミナール経済政策入門』日本経済新聞社、岩田 規久男 飯田 泰之 『日本経済読本 [第 17 版]』東洋経済、金森久雄、香西泰、加藤裕己		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	経済政策とは	市場の限界と経済政策の役割	
第 2 回	バブル崩壊後の経済政策 (1)	バブル経済とバブル崩壊のメカニズム	
第 3 回	バブル崩壊後の経済政策 (2)	デフレ下の経済政策	
第 4 回	財政政策と経済の安定化	経済安定化政策の目的と手段	
第 5 回	財政政策の基礎理論 (1)	三面等価と均衡国民所得の決定	
第 6 回	財政政策の基礎理論 (2)	政府部門の導入による均衡国民所得の変化	
第 7 回	乗数効果 (1)	投資乗数と政府支出乗数	
第 8 回	乗数効果 (2)	減税の政策効果と租税乗数	
第 9 回	財政政策の有効性	GDP 創出、雇用創出、格差是正などから見た財政政策の有効性について	
第 10 回	金融政策のための基礎理論 (1)	貨幣の導入と金融部門の役割	
第 11 回	金融政策のための基礎理論 (2)	マネーサプライとマネタリーベース	
第 12 回	金融面から見た景気対策 (1)	金融政策のメカニズムとマネーサプライの変化	
第 13 回	金融面から見た景気対策 (2)	景気対策としての伝統的な金融政策手段	
第 14 回	金融面から見た景気対策 (3)	金融政策の有効性とポリシーミックス	
第 15 回	授業のまとめ	財政・金融政策の復習	

# 経済

授業番号	B200920001		
科目名 (英語表記)	経済政策 BII (Economic policy BII)		
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	バブル崩壊以降の雇用形態の変化や所得格差による問題、また年金や医療など将来への不安から脱するためには何が必要なのだろうか。本講義は、物価政策、経済発展、さらに所得分配政策について基礎理論と実際的手段を概説したのちに、課題解決に求められる政策対応について考察する。		
授業の進め方 (履修条件など)	必要であればプリントを配布するが、授業は板書を中心に進めていくので、しっかりノートをとること。質問は授業中いつでも受け付けるが、質問表を毎時間配布するので、質問、意見を記入すれば次の授業の初めに答える。		
成績評価方法	定期試験 (70%)・授業内小テスト (15%)・レポート及びその他の課題 (15%)		
基準			
授業の予習・復習	予習：下記の参考文献は予習のために最適な文献であるので、是非利用してもらいたい。 復習：復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。		
教科書	使用しない		
参考文献	『ゼミナール経済政策入門』日本経済新聞社、岩田 規久男 飯田 泰之 『日本経済読本 [第 17 版]』東洋経済、金森久雄、香西泰、加藤裕己		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	物価と貨幣	マネーサプライと貨幣数量説	
第 2 回	物価指数と価格の変動	消費者物価、卸売物価、GDPデフレーター の計測	
第 3 回	物価変動の要因分析	ディマンドプル・インフレとコストプッシュ・インフレ	
第 4 回	価格政策	インフレ抑制策としての金融引締め	
第 5 回	デフレ下の金融政策	バランスシートからみた金融状況とゼロ金利政策	
第 6 回	社会資本の供給 (1)	公共財としての社会資本の建設と経済発展	
第 7 回	社会資本の供給 (2)	公共事業と財政赤字	
第 8 回	経済発展政策 (1)	経済発展の要因と貧困の悪循環	
第 9 回	経済発展政策 (2)	資本蓄積と技術進歩	
第 10 回	経済発展政策 (3)	発展途上国の成長政策の課題	
第 11 回	所得分配政策 (1)	市場の所得分配と所得再分配政策の手段	
第 12 回	所得分配政策 (2)	公的保険の概要と仕組み	
第 13 回	所得分配政策 (3)	日本の医療保険制度の課題	
第 14 回	所得分配政策 (4)	日本の年金保険制度の課題	
第 15 回	授業のまとめ	全体の復習と確認テスト	

# 経済

授業番号	B203450001				
科目名 (英語表記)	経済政策 I (Economic policy I)			B	
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	バブル崩壊以降、日本経済は深刻なデフレ経済に陥ってしまった。これは雇用・所得を大きく損ない私たちの生活に大きな影を落としている。このような状態から脱するためには何が必要なのだろうか。本講義は、経済政策 (特に財政・金融政策) の理論と実際的手段を概説したのちに、課題解決に求められる政策対応について考察する。				
授業の進め方 (履修条件など)	必要であればプリントを配布するが、授業は板書を中心に進めていくので、しっかりノートをとること。質問は授業中いつでも受け付けるが、質問表を毎時間配布するので、質問、意見を記入すれば次の授業の初めに答える。				
成績評価方法	定期試験 (70%)・授業内小テスト (15%)・レポート及びその他の課題 (15%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：下記の参考文献は予習のために最適な文献であるので、是非利用してもらいたい。 復習：復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。				
教科書	使用しない				
参考文献	『ゼミナール経済政策入門』日本経済新聞社、岩田 規久男 飯田 泰之 『日本経済読本 [第 17 版]』東洋経済、金森久雄、香西泰、加藤裕己				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	経済政策とは	市場の限界と経済政策の役割			
第 2 回	バブル崩壊後の経済政策 (1)	バブル経済とバブル崩壊のメカニズム			
第 3 回	バブル崩壊後の経済政策 (2)	デフレ下の経済政策			
第 4 回	財政政策と経済の安定化	経済安定化政策の目的と手段			
第 5 回	財政政策の基礎理論 (1)	三面等価と均衡国民所得の決定			
第 6 回	財政政策の基礎理論 (2)	政府部門の導入による均衡国民所得の変化			
第 7 回	乗数効果 (1)	投資乗数と政府支出乗数			
第 8 回	乗数効果 (2)	減税の政策効果と租税乗数			
第 9 回	財政政策の有効性	GDP 創出、雇用創出、格差是正などから見た財政政策の有効性について			
第 10 回	金融政策のための基礎理論 (1)	貨幣の導入と金融部門の役割			
第 11 回	金融政策のための基礎理論 (2)	マネーサプライとマネタリーベース			
第 12 回	金融面から見た景気対策 (1)	金融政策のメカニズムとマネーサプライの変化			
第 13 回	金融面から見た景気対策 (2)	景気対策としての伝統的な金融政策手段			
第 14 回	金融面から見た景気対策 (3)	金融政策の有効性とポリシーミックス			
第 15 回	授業のまとめ	財政・金融政策の復習			

# 経済

授業番号	B203450002				
科目名 (英語表記)	経済政策 I (Economic policy I)			A	
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	雇用と物価の安定、経済成長を目標とした経済政策を中心に、現代経済が直面しうる様々な政策上の問題について、その理論的基礎と政策を論じる。前期に開講される本科目では、景気変動および国民所得決定の理論の学習を通じて、後期の経済政策 A II およびその他の諸科目におけるより進んだ学習の基盤となる基礎的知識の確実な習得を目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	入門的な教科書を主に利用しながら、様々な関連トピックについても毎回プリントを配布しながら論じる (講義内容の多くは何らかの形で教科書と対応するが、それだけにとどめることはしない)。定期試験などは毎回の講義内容に関するものなので、毎回出席し、かつ積極的に受講することが必要。講義スケジュールは受講者の様子を見て変更もありうる。				
成績評価方法	定期試験 (80%)、レポート及びその他の課題 (20%) を考慮して評価する。ただし著しい出席不良・課題提出不良者には				
基準	定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。				
授業の予習・復習	予習: 前回の講義での説明を参考にして、教科書の関連する部分を見ておく。 復習: テキストや毎回配布するプリントなどを用いた復習を欠かさないこと。				
教科書	長谷川啓之編「経済政策の理論と現実」学文社、2009年。				
参考文献	必要に応じて講義時に紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	はじめに	経済政策とは何か・前期および年間の計画			
第 2 回	経済政策の考え方	政府と政策、公共部門の意義と役割			
第 3 回	景気循環と経済安定化 (1)	景気循環の考え方			
第 4 回	景気循環と経済安定化 (2)	景気循環と失業・インフレーション			
第 5 回	国民所得の理論と政策 (1)	4 5 度線モデルと生産物市場均衡			
第 6 回	国民所得の理論と政策 (2)	総需要管理政策 (乗数効果)			
第 7 回	国民所得の理論と政策 (3)	IS-LM モデルと安定化政策			
第 8 回	国民所得の理論と政策 (4)	IS-LM 曲線の形状と政策効果・ここまでのまとめ			
第 9 回	国民所得の理論と政策 (5)	国際収支とオープンマクロ経済学			
第 10 回	国民所得の理論と政策 (6)	オープンマクロ経済学における財政政策			
第 11 回	国民所得の理論と政策 (7)	オープンマクロ経済学における金融政策・ここまでのまとめ			
第 12 回	経済成長の理論と政策 (1)	経済成長の理論			
第 13 回	経済成長の理論と政策 (2)	経済成長と資本蓄積			
第 14 回	経済成長の理論と政策 (3)	経済成長と労働投入			
第 15 回	経済成長の理論と政策 (4)	経済成長と技術革新・全体のまとめと整理			

# 経済

授業番号	B203460001				
科目名 (英語表記)	経済政策 II (Economic policy II)			B	
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	バブル崩壊以降の雇用形態の変化や所得格差による問題、また年金や医療など将来への不安から脱するためには何が必要なのだろうか。本講義は、物価政策、経済発展、さらに所得分配政策について基礎理論と実際的手段を概説したのちに、課題解決に求められる政策対応について考察する。				
授業の進め方 (履修条件など)	必要であればプリントを配布するが、授業は板書を中心に進めていくので、しっかりノートをとること。質問は授業中いつでも受け付けるが、質問表を毎時間配布するので、質問、意見を記入すれば次の授業の初めに答える。				
成績評価方法	定期試験 (70%)・授業内小テスト (15%)・レポート及びその他の課題 (15%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：下記の参考文献は予習のために最適な文献であるので、是非利用してもらいたい。 復習：復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。				
教科書	使用しない				
参考文献	『ゼミナール経済政策入門』日本経済新聞社、岩田 規久男 飯田 泰之 『日本経済読本 [第 17 版]』東洋経済、金森久雄、香西泰、加藤裕己				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	物価と貨幣	マネーサプライと貨幣数量説			
第 2 回	物価指数と価格の変動	消費者物価、卸売物価、GDPデフレーター の計測			
第 3 回	物価変動の要因分析	ディマンドプル・インフレとコストプッシュ・インフレ			
第 4 回	価格政策	インフレ抑制策としての金融引締め			
第 5 回	デフレ下の金融政策	バランスシートからみた金融状況とゼロ金利政策			
第 6 回	社会資本の供給 (1)	公共財としての社会資本の建設と経済発展			
第 7 回	社会資本の供給 (2)	公共事業と財政赤字			
第 8 回	経済発展政策 (1)	経済発展の要因と貧困の悪循環			
第 9 回	経済発展政策 (2)	資本蓄積と技術進歩			
第 10 回	経済発展政策 (3)	発展途上国の成長政策の課題			
第 11 回	所得分配政策 (1)	市場の所得分配と所得再分配政策の手段			
第 12 回	所得分配政策 (2)	公的保険の概要と仕組み			
第 13 回	所得分配政策 (3)	日本の医療保険制度の課題			
第 14 回	所得分配政策 (4)	日本の年金保険制度の課題			
第 15 回	授業のまとめ	全体の復習と確認テスト			



# 経済

授業番号	B203460002				
科目名 (英語表記)	経済政策 II (Economic policy II)			A	
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	雇用問題と産業組織に関する経済政策を中心に、現代経済が直面している様々な政策上の問題について、その政策手段を論じる。本科目では、財政・金融政策の政策手段とその評価、景気刺激では解決しない構造的失業、経済の構造変化と成長のための産業政策を中心に、前期に論じた経済政策の理論がどのような政策手段によって実現されているかを理解することを目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	入門的な教科書を主に利用しながら、様々な関連トピックについてもプリントを配布しながら論じる (講義内容の多くは何らかの形で教科書と対応するが、それだけにとどめることはしない)。定期試験などは毎回の講義内容に関するものなので、毎回出席し、かつ積極的に受講することが必要となろう。講義スケジュールは受講者の様子を見て変更もありうる。				
成績評価方法 基準	定期試験 (80%)、レポート及びその他の課題 (20%) を考慮して評価する。ただし著しい出席不良・課題提出不良者には定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。				
授業の予習・復習	予習：前回の講義での説明を参考にして、教科書の関連する部分を見ておく。 復習：テキストや毎回配布するプリントなどを用いた復習を欠かさないこと。				
教科書	長谷川啓之編「経済政策の理論と現実」学文社、2009年。				
参考文献	必要に応じて講義時に紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	はじめに	講義内容紹介・「経済政策 A I」との橋渡し			
第2回	失業と物価問題 (1)	失業とインフレーションの諸概念			
第3回	失業と物価問題 (2)	財政政策の手段			
第4回	失業と物価問題 (3)	金融政策の手段			
第5回	失業と物価問題 (4)	総需要管理政策をめぐる様々な議論			
第6回	失業と物価問題 (5)	非循環的失業と政府の役割①			
第7回	失業と物価問題 (6)	非循環的失業と政府の役割②			
第8回	失業と物価問題 (7)	供給インフレーション			
第9回	失業と物価問題 (8)	インフレ・デフレと経済の不安定性・ここまでの論点の整理と復習			
第10回	産業政策 (1)	経済成長、経済発展と産業政策			
第11回	産業政策 (2)	独占の非効率性と競争政策			
第12回	産業政策 (3)	直接規制政策～経済的規制と社会的規制			
第13回	産業政策 (4)	直接規制政策の根拠と規制緩和			
第14回	産業政策 (5)	技術革新と産業政策			
第15回	産業政策 (6)	産業政策に求められるもの・ここまでの論点の整理と全体の復習			

# 経済

授業番号	B202720001		
科目名 (英語表記)	経済統計 I (Economic statistics I)		
担当者 (英語表記)	稲葉 弘道 (Hiromichi Inaba)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済統計についての知識を高め、経済統計データを使っての初歩的なデータ整理の方法を習得し、さらに統計分析することを目的とします。ネットワークを使っての経済データ収集の方法を学びます。代表的な統計調査である法人企業統計と家計調査を解説します。		
授業の進め方 (履修条件など)	データ整理や分析にはパソコン (EXCEL) を使います。この講義に必要なパソコンやネットワークの知識は初歩から説明します。レジュメなどは、ネットワーク上に掲示します。		
成績評価方法	定期試験 ( 50 %)・課題作成 ( 20 %)・授業参加態度 ( 30 %)		
基準			
授業の予習・復習	予習：教科書をよく読んでおくこと。 復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行っておく。 特にパソコンでの課題と実習は常に行うこと。		
教科書	講義の内容はパワーポイントで提示する { <a href="http://www.boreas.dti.ne.jp/~kodo/data-ku/index.htm">http://www.boreas.dti.ne.jp/~kodo/data-ku/index.htm</a> }		
参考文献	橋本・渡辺・櫻井編著『Excel で始める経済統計データの分析』(日本統計協会) 唯是康彦編著『EXCEL で学ぶ経済統計入門』東洋経済新報社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要	
第 2 回	インターネットで経済統計を検索	ネットワーク操作	
第 3 回	表計算操作法	表、グラフ作成	
第 4 回	表計算操作法	絶対参照座標	
第 5 回	統計データとは何か	統計と情報	
第 6 回	統計データとは何か	全数調査と標本調査	
第 7 回	統計データとは何か	統計データの種類	
第 8 回	『法人企業統計』の説明	「貸借対照表」と「損益計算書」	
第 9 回	『法人企業統計』の説明	『法人企業統計年表』とは	
第 10 回	『法人企業統計』で経営指標を計算する	経営分析	
第 11 回	『法人企業統計』で経営指標を計算する	主要経営指標の計算	
第 12 回	『家計調査年報』を統計的に分析する	『家計調査』とは	
第 13 回	『家計調査年報』を統計的に分析する	統計の作表と構成の計算	
第 14 回	『家計調査年報』を統計的に分析する	5 分位階級データの分析	
第 15 回	まとめ	まとめと質疑応答	

# 経済

授業番号	B202730001		
科目名 (英語表記)	経済統計 II (Economic statistics II)		
担当者 (英語表記)	稲葉 弘道 (Hiromichi Inaba)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済統計 II の知識を前提に、経済統計についての知識を高め、経済統計データを使つての初歩的なデータ整理の方法を習得し、さらに統計分析することを目的とする。ネットワークを使つての経済データ収集の方法を学びます。代表的な統計調査である家計調査と国民経済計算 (SNA) を解説します。		
授業の進め方 (履修条件など)	データ整理や分析にはパソコン (EXCEL) を使います。この講義に必要なパソコンやネットワークの知識は初歩から説明します。レジュメなどは、ネットワーク上に掲示します。		
成績評価方法	定期試験 ( 50 %) ・ 課題作成 ( 20 %) ・ 授業参加態度 ( 30 % )		
基準			
授業の予習・復習	予習：教科書をよく読んでおくこと。 復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行っておく。 特にパソコンでの課題と実習は常に行うこと。		
教科書	講義の内容は講義用ホームページに提示する { <a href="http://www.boreas.dti.ne.jp/~kodo/data-ku/index.htm">http://www.boreas.dti.ne.jp/~kodo/data-ku/index.htm</a> }		
参考文献	橋本・渡辺・櫻井編著『「Excel で始める経済統計データの分析」』(日本統計協会) 唯是康彦編著『E X C E L で学ぶ経済統計入門』東洋経済新報社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要	
第 2 回	『家計調査年報』から統計指標をつくる	平均と標準偏差の計算	
第 3 回	『家計調査年報』から統計指標をつくる	所得階層の度数分布	
第 4 回	『家計調査年報』から統計指標をつくる	標本からの度数分布作成	
第 5 回	『家計調査年報』から統計指標をつくる	正規分布と食料費	
第 6 回	「国内総生産」で景気と成長をみる	新 SNA とは	
第 7 回	「国内総生産」で景気と成長をみる	時系列統計の処理	
第 8 回	「国内総生産」で景気と成長をみる	成長と景気	
第 9 回	回帰分析で「消費関数」を計測する	所得の定義	
第 10 回	回帰分析で「消費関数」を計測する	相関関係	
第 11 回	回帰分析で「消費関数」を計測する	消費関数	
第 12 回	回帰分析で「消費関数」を計測する	回帰分析	
第 13 回	気楽に「線形計画法」を覚えよう	最適化問題	
第 14 回	気楽に「線形計画法」を覚えよう	ソルバーによる線形計画法	
第 15 回	まとめ	まとめと質疑応答	

# 経済

授業番号	B200770001				
科目名 (英語表記)	経済理論 AI (Economic theory AI)				
担当者 (英語表記)	加茂川 益郎 (Masuro Kamogawa)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	商品、貨幣、資本からなる市場と産業資本によって遂行される社会的再生産を学んで資本主義の存立構造を把握すること。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを使って板書しながら説明する。				
成績評価方法	小テストと期末テストによって評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習 事前に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ノートをまとめて論理を把握しておくこと				
教科書	テキストを使わずプリントを使用する				
参考文献	山口重克『経済原論講義』 東京大学出版会 小幡道昭『経済原論 基礎と演習』 東京大学出版会				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	序論	経済原論の対象、方法、構成			
第 2 回	流通論 I - 商品	商品、貨幣の生成			
第 3 回	流通論 II - 貨幣	価値尺度、流通手段			
第 4 回	流通論 II - 貨幣	貨幣としての貨幣 - 蓄蔵手段、支払い手段、資金			
第 5 回	流通論 III - 資本	資本の概念、資本の三形式 - 商人資本、金貸資本、産業資本、 小テスト			
第 6 回	生産論 I - 資本の生産過程	資本による生産 - 労働生産過程			
第 7 回	生産論 I - 資本の生産過程	価値形成・増殖過程、剰余価値率			
第 8 回	生産論 I - 資本の生産過程	資本主義的生産方法 - 絶対的剰余価値、相対的剰余価値、機械制工業			
第 9 回	生産論 I - 資本の生産過程	賃金、小テスト			
第 10 回	生産論 II - 資本の流過程	資本の流過程、固定資本と流動資本			
第 11 回	生産論 II - 資本の流過程	流通費用 - 売買費、保管費、運輸費			
第 12 回	生産論 III - 資本の再生産過程	資本の循環、再生産表式			
第 13 回	生産論 III - 資本の再生産過程	資本の蓄積 - 固定資本の増設的蓄積、更新的蓄積			
第 14 回	生産論 III - 資本の再生産過程	資本主義的人口法則、小テスト			
第 15 回	まとめ	流通論、生産論の総括			

# 経済

授業番号	B200780001				
科目名 (英語表記)	経済理論 AII (Economic theory AII)				
担当者 (英語表記)	加茂川 益郎 (Masuro Kamogawa)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	剰余価値の分配としての利潤、地代、利子、および景気循環による資本主義的蓄積の現実的過程と意義を理解する。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを使って板書しながら説明する。				
成績評価方法	参加態度 (20 点) と定期試験 (80 点) による。				
基準					
授業の予習・復習	予習 事前に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ノートをまとめ論理を把握しておくこと				
教科書	テキストを用いずプリントを使用する				
参考文献	山口重克『経済原論講義』 東京大学出版会 小幡道昭『経済原論 基礎と演習』 東京大学出版会 菅原陽心『経済原論』 御茶ノ水書房				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	利潤 I	利潤と利潤率			
第 2 回	利潤 II	異部門間の利潤率均等化、一般的利潤率			
第 3 回	利潤 III	生産価格			
第 4 回	利潤 IV	同部門内の利潤率均等化			
第 5 回	地代 I	差額地代—一般、第一形態			
第 6 回	地代 II	差額地代第二形態、絶対地代			
第 7 回	地代 III	諸階級			
第 8 回	利子 I	信用—商業信用			
第 9 回	利子 II	銀行信用			
第 10 回	利子 III	銀行資本と銀行利潤			
第 11 回	利子 IV	商業資本と利潤			
第 12 回	景気循環 I	景気循環課程			
第 13 回	景気循環 II	景気循環の意義			
第 14 回	景気循環 III	価値法則とは何か			
第 15 回	まとめ	利潤、地代、利子、景気循環の総括			

# 経済

授業番号	B200790001				
科目名 (英語表記)	経済理論 BI (Economic theory BI)				
担当者 (英語表記)	和田 良子 (Ryoko Wada)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済学によって、経済や世界をどのように捉えることができるのか学びます。マクロ経済学では、GDPや景気などの定義、財政問題を扱います。ミクロ経済学では、私たちの行動がどのような原理に基づいているのかを理解します。				
授業の進め方 (履修条件など)	2-3問の小テストを毎週課題とします。これによって授業内容の確認・理解を深めるとともに、復習と予習が可能になるようにします。				
成績評価方法	小テストによって5割、期末テストによって5割を評価します。				
基準					
授業の予習・復習	KCNを用いて毎回出題される小テストを説くことが、予習復習となります。一週間の間に問題を解くようにしてください。例題は授業中に出されます。				
教科書	井堀利宏 『コンパクト経済学』 新世社				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	イントロダクション	経済学の考え方、重要な概念、マクロ経済の主体			
第2回	マクロ経済学の目的	マクロ経済学の目的、GDPの定義、財政政策			
第3回	GDPの三面等価	GDP、成長率、実質と名目、インフレとデフレ			
第4回	経済主体とその活動	家計の消費、企業の投資、政府の支出			
第5回	経済主体とその活動	金融部門と海外部門			
第6回	景気の定義	景気とは何か、景気の現状の見方と予測の仕方			
第7回	乗数効果	乗数効果、限界消費性向			
第8回	国内所得の決定	国内所得の大きさはどのように決まるのか			
第9回	財政政策の評価	拡張的財政政策、均衡財政政策			
第10回	経済政策とは何か	公共投資、経済政策の評価			
第11回	貨幣と金融	貨幣需要とマネーサプライの供給			
第12回	IS-LM分析	IS曲線とLM曲線の導出			
第13回	金融政策の評価	IS-LM曲線のシフトと金融政策の評価、クラウディングアウト			
第14回	国際経済	貿易、国際収支と為替レート			
第15回	まとめと補足	足りない内容を補足します			

# 経済

授業番号	B200800001		
科目名 (英語表記)	経済理論 BII (Economic theory BII)		
担当者 (英語表記)	和田 良子 (Ryoko Wada)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	ミクロ経済学の考え方によって経済事象や毎日の生活の行動原理を理解します。ミクロ経済学の最終的な目標が、効率的な資源配分にあることを繰り返し学び、理解していきます。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義ののち、小テストを毎回出します。これによって、復習と予習を促します。ノートを必ず取り、毎回の理解を積み上げていくこと。		
成績評価方法	小テストによって 5 割, 期末テストによって 5 割を評価の対象とします。		
基準			
授業の予習・復習	予習: 小テストによって行います。 復習: 小テストによって行います。		
教科書	井堀利宏 『コンパクト経済学』 新世社		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	イントロダクション	ミクロ経済学とはどのような学問か	
第 2 回	ミクロ経済学の目標	ミクロ経済学の理解目標と応用事例	
第 3 回	消費理論 1	選ぶということ, 最も良い選び方, 選好の仮定と効用	
第 4 回	消費理論 2	空間、消費集合、選好の合理的仮定と効用関数	
第 5 回	消費理論 3	無差別曲線, 予算制約	
第 6 回	消費理論 4	限界代替率, 予算制約化の効用の最大化	
第 7 回	配分 1	配分とはなにか, 配分方法, 価格メカニズム	
第 8 回	配分 2	厚生経済学、 配分や均衡を評価するパレート効率性, アローの一般可能性定理を学びます。	
第 9 回	生産理論 1	企業の活動目的, ステークホルダー	
第 10 回	生産理論 2	技術と生産関数 線形またはコブダグラス型効用関数を用いて学びます	
第 11 回	生産理論 3	利益の最大化と生産の理論	
第 12 回	生産理論 4	費用最小化問題, 平均費用, 限界費用	
第 13 回	社会選択の理論	選挙と多数決原理, マッチング理論についてのイントロダクション	
第 14 回	ゲームの理論	ゲームの理論, 代表的な囚人のジレンマを用いてナッシュ均衡を理解	
第 15 回	まとめと応用	環境経済学への応用	

# 経済

授業番号	B203430001				
科目名 (英語表記)	経済理論 I (Economic theory I)			A	
担当者 (英語表記)	加茂川 益郎 (Masuro Kamogawa)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	商品、貨幣、資本からなる市場と産業資本によって遂行される社会的再生産を学んで資本主義の存立構造を把握すること。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを使って板書しながら説明する。				
成績評価方法	小テストと期末テストによって評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習 事前に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ノートをまとめて論理を把握しておくこと				
教科書	テキストを使わずプリントを使用する				
参考文献	山口重克『経済原論講義』 東京大学出版会 小幡道昭『経済原論 基礎と演習』 東京大学出版会				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	序論	経済原論の対象、方法、構成			
第 2 回	流通論 I - 商品	商品、貨幣の生成			
第 3 回	流通論 II - 貨幣	価値尺度、流通手段			
第 4 回	流通論 II - 貨幣	貨幣としての貨幣 - 蓄蔵手段、支払い手段、資金			
第 5 回	流通論 III - 資本	資本の概念、資本の三形式 - 商人資本、金貸資本、産業資本、 小テスト			
第 6 回	生産論 I - 資本の生産過程	資本による生産 - 労働生産過程			
第 7 回	生産論 I - 資本の生産過程	価値形成・増殖過程、剰余価値率			
第 8 回	生産論 I - 資本の生産過程	資本主義的生産方法 - 絶対的剰余価値、相対的剰余価値、機械制工業			
第 9 回	生産論 I - 資本の生産過程	賃金、小テスト			
第 10 回	生産論 II - 資本の流過程	資本の流過程、固定資本と流動資本			
第 11 回	生産論 II - 資本の流過程	流通費用 - 売買費、保管費、運輸費			
第 12 回	生産論 III - 資本の再生産過程	資本の循環、再生産表式			
第 13 回	生産論 III - 資本の再生産過程	資本の蓄積 - 固定資本の増設的蓄積、更新的蓄積			
第 14 回	生産論 III - 資本の再生産過程	資本主義的人口法則、小テスト			
第 15 回	まとめ	流通論、生産論の総括			



# 経済

授業番号	B203430002				
科目名 (英語表記)	経済理論 I (Economic theory I)			B	
担当者 (英語表記)	和田 良子 (Ryoko Wada)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済学によって、経済や世界をどのように捉えることができるのか学びます。マクロ経済学では、GDPや景気などの定義、財政問題を扱います。ミクロ経済学では、私たちの行動がどのような原理に基づいているのかを理解します。				
授業の進め方 (履修条件など)	2-3 問の小テストを毎週課題とします。これによって授業内容の確認・理解を深めるとともに、復習と予習が可能になるようにします。				
成績評価方法	小テストによって 5 割、期末テストによって 5 割を評価します。				
基準					
授業の予習・復習	KCN を用いて毎回出題される小テストを説くことが、予習復習となります。一週間の間に問題を解くようにしてください。例題は授業中に出されます。				
教科書	井堀利宏 『コンパクト経済学』 新世社				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	イントロダクション	経済学の考え方、重要な概念、マクロ経済の主体			
第 2 回	マクロ経済学の目的	マクロ経済学の目的、GDP の定義、財政政策			
第 3 回	GDP の三面等価	GDP、成長率、実質と名目、インフレとデフレ			
第 4 回	経済主体とその活動	家計の消費、企業の投資、政府の支出			
第 5 回	経済主体とその活動	金融部門と海外部門			
第 6 回	景気の定義	景気とは何か、景気の現状の見方と予測の仕方			
第 7 回	乗数効果	乗数効果、限界消費性向			
第 8 回	国内所得の決定	国内所得の大きさはどのように決まるのか			
第 9 回	財政政策の評価	拡張的財政政策、均衡財政政策			
第 10 回	経済政策とは何か	公共投資、経済政策の評価			
第 11 回	貨幣と金融	貨幣需要とマネーサプライの供給			
第 12 回	IS-LM 分析	IS 曲線と LM 曲線の導出			
第 13 回	金融政策の評価	IS-LM 曲線のシフトと金融政策の評価、クラウディングアウト			
第 14 回	国際経済	貿易、国際収支と為替レート			
第 15 回	まとめと補足	足りない内容を補足します			

# 経済

授業番号	B203440001				
科目名 (英語表記)	経済理論 II (Economic theory II)			A	
担当者 (英語表記)	加茂川 益郎 (Masuro Kamogawa)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	剰余価値の分配としての利潤、地代、利子、および景気循環による資本主義的蓄積の現実的過程と意義を理解する。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを使って板書しながら説明する。				
成績評価方法	参加態度 (20 点) と定期試験 (80 点) による。				
基準					
授業の予習・復習	予習 事前に配布するプリントに目を通しておくこと 復習 ノートをまとめ論理を把握しておくこと				
教科書	テキストを用いずプリントを使用する				
参考文献	山口重克『経済原論講義』 東京大学出版会 小幡道昭『経済原論 基礎と演習』 東京大学出版会 菅原陽心『経済原論』 御茶ノ水書房				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	利潤 I	利潤と利潤率			
第 2 回	利潤 II	異部門間の利潤率均等化、一般的利潤率			
第 3 回	利潤 III	生産価格			
第 4 回	利潤 IV	同部門内の利潤率均等化			
第 5 回	地代 I	差額地代—一般、第一形態			
第 6 回	地代 II	差額地代第二形態、絶対地代			
第 7 回	地代 III	諸階級			
第 8 回	利子 I	信用—商業信用			
第 9 回	利子 II	銀行信用			
第 10 回	利子 III	銀行資本と銀行利潤			
第 11 回	利子 IV	商業資本と利潤			
第 12 回	景気循環 I	景気循環課程			
第 13 回	景気循環 II	景気循環の意義			
第 14 回	景気循環 III	価値法則とは何か			
第 15 回	まとめ	利潤、地代、利子、景気循環の総括			

# 経済

授業番号	B203440002				
科目名 (英語表記)	経済理論 II (Economic theory II)			B	
担当者 (英語表記)	和田 良子 (Ryoko Wada)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	ミクロ経済学の考え方によって経済事象や毎日の生活の行動原理を理解します。ミクロ経済学の最終的な目標が、効率的な資源配分にあることを繰り返し学び、理解していきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義ののち、小テストを毎回出します。これによって、復習と予習を促します。ノートを必ず取り、毎回の理解を積み上げていくこと。				
成績評価方法	小テストによって 5 割, 期末テストによって 5 割を評価の対象とします。				
基準					
授業の予習・復習	予習: 小テストによって行います。 復習: 小テストによって行います。				
教科書	井堀利宏 『コンパクト経済学』 新世社				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	イントロダクション	ミクロ経済学とはどのような学問か			
第 2 回	ミクロ経済学の目標	ミクロ経済学の理解目標と応用事例			
第 3 回	消費理論 1	選ぶということ, 最も良い選び方, 選好の仮定と効用			
第 4 回	消費理論 2	空間、消費集合、選好の合理的仮定と効用関数			
第 5 回	消費理論 3	無差別曲線, 予算制約			
第 6 回	消費理論 4	限界代替率, 予算制約化の効用の最大化			
第 7 回	配分 1	配分とはなにか, 配分方法, 価格メカニズム			
第 8 回	配分 2	厚生経済学、 配分や均衡を評価するパレート効率性, アローの一般可能性定理を学びます。			
第 9 回	生産理論 1	企業の活動目的, ステークホルダー			
第 10 回	生産理論 2	技術と生産関数 線形またはコブダグラス型効用関数を用いて学びます			
第 11 回	生産理論 3	利益の最大化と生産の理論			
第 12 回	生産理論 4	費用最小化問題, 平均費用, 限界費用			
第 13 回	社会選択の理論	選挙と多数決原理, マッチング理論についてのイントロダクション			
第 14 回	ゲームの理論	ゲームの理論, 代表的な囚人のジレンマを用いてナッシュ均衡を理解			
第 15 回	まとめと応用	環境経済学への応用			

# 経済

授業番号	B201870001		
科目名 (英語表記)	計量経済学 I (Econometrics I)		
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済・経営学における計量経済分析の位置づけ (どのようなことをする分析でどのように利用することができるツールなのか) および最小 2 乗法を中心とした回帰分析の基礎的概念と方法を説明する。統計学や数学に関する詳細な議論よりもむしろ、計量経済分析の方法を使って何が出来るのか、を示すことを主眼としたい。		
授業の進め方 (履修条件など)	科目の性質上数字や数式が使用される機会が多いが、抽象的な説明だけでなく具体的なデータの検討を通じて理解を促すよう努める。金融・証券 (情報) コースだけでなく経済・経営の様々なコースからの受講を期待する。意欲のある 2 年生の受講を歓迎する。		
成績評価方法	定期試験 (80%)、レポート及びその他の課題 (20%) を考慮して評価する。ただし出席不良・課題提出不良者には定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。なお試験の際は指示する物件の参照を許可する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：前回の講義での説明を参考にして、教科書の関連する部分を見ておく。 復習：テキストや毎回配布するプリントなどを用いた復習を欠かさないこと。		
教科書	山本拓・竹内明香「入門計量経済学」新世社。		
参考文献	縄田和満「Excel 統計解析ボックスによるデータ解析」朝倉書店など。必要に応じて講義時に紹介する。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	はじめに (1)	講義内容紹介・計量経済学とは	
第 2 回	はじめに (2)	経済学としての計量分析・実証分析の意味	
第 3 回	最小 2 乗法 (1)	データの整理…データの種類と基本統計量	
第 4 回	最小 2 乗法 (2)	正規方程式の計算	
第 5 回	最小 2 乗法 (3)	回帰直線の推定と意味	
第 6 回	最小 2 乗法 (4)	回帰直線のあてはまりの尺度	
第 7 回	最小 2 乗法 (5)	ここまでのまとめ・回帰分析の計算と結果の解釈	
第 8 回	単純回帰分析 (1)	単純回帰モデルの考え方	
第 9 回	単純回帰分析 (2)	推定量の期待値と分散	
第 10 回	単純回帰分析 (3)	仮説検定…仮説検定の考え方	
第 11 回	単純回帰分析 (4)	仮説検定… t 検定とその利用	
第 12 回	単純回帰分析 (5)	仮説検定…変数選択の方法としての t 検定	
第 13 回	単純回帰分析 (6)	回帰分析と予測	
第 14 回	単純回帰分析 (7)	多重回帰分析への展開	
第 15 回	単純回帰分析 (8)	多重回帰分析の考え方・この章のまとめと練習・全体の復習	

# 経済

授業番号	B201880001				
科目名 (英語表記)	計量経済学 II (Econometrics II)				
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済・経営学における計量経済分析の位置づけ (どのようなことをする分析でどのように利用することができるツールなのか) 及びその活用法を中心に、計量経済分析の実際の方法を説明する。前期科目の計量経済学 I の基礎的な理解を念頭に置きつつも、それとは独立して実際の統計データを回帰分析する手法を学んでもらう。				
授業の進め方 (履修条件など)	特に本科目では実証分析の方法を中心に説明する。例えば、論文執筆に際して実証分析を行いたいので理論そのものよりも分析の手順を知りたい、というケースなども想定している。金融・証券 (情報) コースだけでなく経済・経営の様々なコースからの受講を期待する。意欲のある 2 年生の受講を歓迎する。				
成績評価方法	定期試験 (80%)、レポート及びその他の課題 (20%) を考慮して評価する。ただし出席不良・課題提出不良者には定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。なお試験の際は指示する物件の参照を許可する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：前回の講義での説明を参考にして、教科書の関連する部分を見ておく。 復習：テキストや毎回配布するプリントなどを用いた復習を欠かさないこと。				
教科書	山本拓・竹内明香「入門計量経済学」新世社。				
参考文献	縄田和満「Excel 統計解析ボックスによるデータ解析」朝倉書店など。必要に応じて講義時に紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	はじめに (1)	講義内容紹介・経済、経営における計量経済分析の意義			
第 2 回	はじめに (2)	計量経済学 I の復習、最小 2 乗法の考え方			
第 3 回	多重回帰分析 (1)	係数の推定と仮説検定			
第 4 回	多重回帰分析 (2)	自由度修正済み決定係数			
第 5 回	多重回帰分析 (3)	多重回帰分析における係数の解釈			
第 6 回	多重回帰分析 (4)	見せかけの相関と多重共線性			
第 7 回	多重回帰分析 (5)	多重共線性の発見と対処・この章のまとめと練習			
第 8 回	モデルの関数型 (1)	標準型モデルへの変数変換			
第 9 回	モデルの関数型 (2)	対数線形モデルの考え方と利用法			
第 10 回	モデルの関数型 (3)	ダミー変数とトレンド変数			
第 11 回	モデルの関数型 (4)	ダミー変数による構造変化の検出・この章のまとめと練習			
第 12 回	誤差項の系列相関 (1)	時系列データと誤差項の性質			
第 13 回	誤差項の系列相関 (2)	ダービン・ワトソン検定の考え方			
第 14 回	誤差項の系列相関 (3)	コ克蘭・オーカット法による推定			
第 15 回	誤差項の系列相関 (4)	ラグつき内生変数と系列相関・ここまでのまとめと練習・全体の復習			

# 経済

授業番号	B202220001				
科目名 (英語表記)	原価計算論 I (Cost-accounting theory I)				
担当者 (英語表記)	柴田 寛幸 (Hiroyuki Shibata)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	原価計算論 I では、製造業における「製造原価」の算定方法を学ぶ。ここでは、原価計算の目的、個別原価計算、総合原価計算を理解することを目的とする。日本商工会議所簿記検定 2 級の内容を理解し、その基礎を固めることを目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	製造原価の計算方法を説明したのちに、問題を提示し、各自で製造原価を計算してもらう。そのためには、電卓を必ず用意することが必要である。履修条件としては、簿記原理または会計学を履修した学生を対象とする。				
成績評価方法	練習問題や小テスト ( 随時 )、定期試験、授業の参加態度により評価する。				
基準					
授業の予習・復習	テキストに従って授業を進めていくので、予習をしてください。また、問題のすべてを授業時間内にはできないので、残った問題を必ず自宅で復習してください。				
教科書	『合格テキスト日商簿記 2 級 [ 工業簿記 ] Ver.6.0』 TAC 出版 2,100 円				
参考文献	『合格トレーニング日商簿記 2 級 [ 工業簿記 ] Ver.6.0』 TAC 出版				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	原価計算総論	原価計算の目的			
第 2 回	原価の分類	形態別、機能別、製品別、操業度別			
第 3 回	費目別計算 ( 1 )	材料費			
第 4 回	費目別計算 ( 2 )	労務費			
第 5 回	費目別計算 ( 3 )	経費			
第 6 回	費目別計算 ( 4 )	製造間接費の実際配賦と予定配賦			
第 7 回	部門別計算	製造部門、補助部門			
第 8 回	個別原価計算 ( 1 )	部門個別費、部門共通費			
第 9 回	個別原価計算 ( 2 )	直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法			
第 10 回	総合原価計算 ( 1 )	平均法			
第 11 回	総合原価計算 ( 2 )	先入先出法			
第 12 回	工程別総合原価計算 ( 1 )	平均法			
第 13 回	工程別総合原価計算 ( 2 )	先入先出法			
第 14 回	組別総合原価計算	組別総合原価計算表			
第 15 回	等級別総合原価計算	等価係数			

# 経済

授業番号	B202230001				
科目名 (英語表記)	原価計算論 II (Cost-accounting theory II)				
担当者 (英語表記)	柴田 寛幸 (Hiroyuki Shibata)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	標準原価計算、直接原価計算、CVP (損益分岐点)、資本予算 (投資決定論)、資本コストを理解することを授業のねらいとし、日商簿記検定工業簿記・原価計算の2級・1級の基礎を固めることを到達目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	本講義では、原価計算の理論と実践について学ぶ。そのためには、数多くの計算問題を実際に解いていくことが重要である。したがって、様々な練習問題を解きながら、授業を進めていく方針である。履修条件としては、簿記原理または会計学を履修し、なおかつ、原価計算論 I を修得した学生を対象とする。				
成績評価方法	練習問題や小テスト (随時)、定期試験、授業の参加態度により評価する。				
基準					
授業の予習・復習	テキストに従って授業を進めていくので、予習をしてください。また、問題のすべてを授業時間内にはできないので、残った問題を必ず自宅で復習してください。				
教科書	『合格テキスト日商簿記2級 [工業簿記] Ver.6.0』TAC 出版 2,100 円 原価計算のプリントを配布する。				
参考文献	瀬戸裕司、浅川昭久共著『やさしく学べる日商簿記1級マスター工業簿記原価計算テキスト』税務経理協会 2,600 円				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	標準原価計算 (1)	標準原価計算の目的、価格差異、数量差異			
第2回	標準原価計算 (2)	賃率差異、作業時間差異			
第3回	標準原価計算 (3)	予算差異、能率差異、操業度差異			
第4回	直接原価計算 (1)	貢献利益			
第5回	直接原価計算 (2)	固定費調整			
第6回	CVP 分析 (1)	損益分岐点			
第7回	CVP 分析 (2)	目標利益、営業レバレッジ度			
第8回	CVP 分析 (3)	固定費と変動費の分解方法			
第9回	最適セールス・ミックス	グラフによる解法			
第10回	資本予算 (1)	回収期間法、会計的利益率法			
第11回	資本予算 (2)	正味現在価値法、内部利益率法			
第12回	資本予算 (3)	収益性指数法、原価比較法			
第13回	資本コスト	加重平均資本コスト			
第14回	活動基準原価計算 (ABC)	多品種少量生産、コスト・ドライバー			
第15回	特殊原価	差額原価、機会原価、埋没原価等			

# 経済

授業番号	B200070001				
科目名 (英語表記)	健康科学 (Health science)			A	
担当者 (英語表記)	高岡 英氣 (Hideki Takaoka)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	近年、子どもの体力や運動能力の低下、肥満傾向児の増加、中高齢者におけるメタボリックシンドロームの広がりとともに、超高齢少子化社会へと進む中で、健康や医療、福祉に関する社会的関心が高まっている。こうした時代背景のもとに、自分自身にとっての「健康」について改めて考え直し、将来的により健康な社会生活を送るための知識や方法を身につけることを目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	生活習慣病、心の健康、喫煙と肺がんリスク、薬物乱用、性感染症、スポーツと健康等、様々なテーマについて解説し、健康な社会生活を営むための正しい知識を学び、生涯にわたり健康増進に取り組む姿勢や習慣を身につける。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内課題 (50%)				
基準					
授業の予習・復習	授業で得た知識を基に、自分自身がより健康的な生活を送るための具体的なプランを立ててみる。				
教科書	特になし				
参考文献	授業内で適宜提示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法等について解説			
第 2 回	健康とは何か	世界保健機構、平均寿命、健康寿命、死因構造、健康日本 21			
第 3 回	生活習慣病	癌、動脈硬化、糖尿病、骨粗しょう症などの疾患と生活習慣との関連、その予防について概説			
第 4 回	栄養・食事と健康	食生活の変化、食料自給率、食中毒、五大栄養素			
第 5 回	休養・睡眠と健康	不眠症、アテネ不眠尺度、体内時計、レム睡眠			
第 6 回	歯の健康	8020 運動、う蝕、歯周病、予防法、歯周疾患と全身疾患			
第 7 回	心の健康	うつ病、統合失調症、不安障害などについて知り、対処法や予防法を学ぶ。			
第 8 回	性感染症	若年化傾向にある性感染症の現状を理解し、自分の身を守るための正しい知識を身につける。			
第 9 回	妊娠と避妊の正しい知識	望まない妊娠を防ぐための知識および将来の不妊につながる疾患等を概説			
第 10 回	肺がんと禁煙教育	喫煙による健康への影響と肺がんのリスク等について学ぶ。			
第 11 回	アルコールとの上手なつきあい方	アルコール依存症、アルコール・ハラズメント、飲酒の健康影響、女性と飲酒			
第 12 回	薬物乱用	反復使用、フラッシュバック現象、主な乱用薬物とその害、薬物乱用の防止、薬物依存からの回復と自律			
第 13 回	スポーツの歴史	スポーツの語源、古代オリンピック、剣闘士、中世期のスポーツ、近代スポーツの誕生と発展			
第 14 回	運動と健康	運動と生活習慣病、運動と心の健康、運動基準、運動のリスク			
第 15 回	まとめ	授業の総括と試験対策の解説			



経済

授業番号	B200070002				
科目名 (英語表記)	健康科学 (Health science)			B	
担当者 (英語表記)	高岡 英氣 (Hideki Takaoka)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	近年、子どもの体力や運動能力の低下、肥満傾向児の増加、中高齢者におけるメタボリックシンドロームの広がりとともに、超高齢少子化社会へと進む中で、健康や医療、福祉に関する社会的関心が高まっている。こうした時代背景のもとに、自分自身にとっての「健康」について改めて考え直し、将来的により健康な社会生活を送るための知識や方法を身につけることを目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	生活習慣病、心の健康、喫煙と肺がんリスク、薬物乱用、性感染症、スポーツと健康等、様々なテーマについて解説し、健康な社会生活を営むための正しい知識を学び、生涯にわたり健康増進に取り組む姿勢や習慣を身につける。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内課題 (50%)				
基準					
授業の予習・復習	授業で得た知識を基に、自分自身がより健康的な生活を送るための具体的なプランを立ててみる。				
教科書	特になし				
参考文献	授業内で適宜提示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法等について解説			
第 2 回	健康とは何か	世界保健機構、平均寿命、健康寿命、死因構造、健康日本 21			
第 3 回	生活習慣病	癌、動脈硬化、糖尿病、骨粗しょう症などの疾患と生活習慣との関連、その予防について概説			
第 4 回	栄養・食事と健康	食生活の変化、食料自給率、食中毒、五大栄養素			
第 5 回	休養・睡眠と健康	不眠症、アテネ不眠尺度、体内時計、レム睡眠			
第 6 回	歯の健康	8020 運動、う蝕、歯周病、予防法、歯周疾患と全身疾患			
第 7 回	心の健康	うつ病、統合失調症、不安障害などについて知り、対処法や予防法を学ぶ。			
第 8 回	性感染症	若年化傾向にある性感染症の現状を理解し、自分の身を守るための正しい知識を身につける。			
第 9 回	妊娠と避妊の正しい知識	望まない妊娠を防ぐための知識および将来の不妊につながる疾患等を概説			
第 10 回	肺がんと禁煙教育	喫煙による健康への影響と肺がんのリスク等について学ぶ。			
第 11 回	アルコールとの上手なつきあい方	アルコール依存症、アルコール・ハラズメント、飲酒の健康影響、女性と飲酒			
第 12 回	薬物乱用	反復使用、フラッシュバック現象、主な乱用薬物とその害、薬物乱用の防止、薬物依存からの回復と自律			
第 13 回	スポーツの歴史	スポーツの語源、古代オリンピック、剣闘士、中世期のスポーツ、近代スポーツの誕生と発展			
第 14 回	運動と健康	運動と生活習慣病、運動と心の健康、運動基準、運動のリスク			
第 15 回	まとめ	授業の総括と試験対策の解説			

# 経済

授業番号	B200420002				
科目名 (英語表記)	憲法 I (Constitution I)			経済	
担当者 (英語表記)	寛正 豊和 (Toyokazu Kakusho)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>憲法の概要は、すでに中学の「公民」や高等学校の「現代社会」「政治・経済」などで理解してきているように、国家の根本原則、すなわち国家の統治組織・統治作用や権利保障（人権）のあり方について定めた基本となる法律です。したがって、憲法をさらに把握理解し、よりよい社会の創造にむけていくことは、国民としての必須の事柄です。</p> <p>本講義は、憲法の保障する原理や思想を近代憲法発展の歴史のなかで捉え、また、問題点などについて諸外国との比較や判例・学説を素材として平易に具体的に理解していくことを目的とします。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的に教科書にしたがって分かりやすい授業を展開していきますが、法学入門を併せて履修することが望ましいです。				
成績評価方法	平常点（授業内に適示おこなうリアクションペーパー等や任意課題レポート）30%、定期試験 70%で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	教科書等を読みよく理解できない点を把握し、確認しましょう。				
教科書	斉藤静敬・寛正豊和 共著『法学・憲法』八千代出版				
参考文献	各回の授業時において適宜紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	導入	憲法を学ぶ意義			
第 2 回	憲法の概念 (1)	憲法の意義・憲法の種類			
第 3 回	憲法の概要 (2)	法の支配、三権分立			
第 4 回	日本国憲法の成立過程	日本国憲法の内容の概観と理解			
第 5 回	憲法の制定・改正および変遷	憲法の制定・改正および変遷とは			
第 6 回	憲法改正と限界	改正限界説と改正無限界説			
第 7 回	憲法の基本原理	憲法の基本原理とは・基本的人権の種類			
第 8 回	国民主義	国民主義とは			
第 9 回	基本的人権 (1)	精神的自由 ( 思想、良心 )			
第 10 回	基本的人権 (2)	精神的自由 ( 信教、学問、表現、集会、結社 )			
第 11 回	基本的人権 (3)	経済的自由 ( 職業選択、財産権 )			
第 12 回	基本的人権 (4)	人身の自由			
第 13 回	平和主義	平和主義とは			
第 14 回	統治機構・地方自治	統治機構とは・地方自治の基本原則、地方公共団体、地方自治特別法			
第 15 回	総括	まとめおよび質疑			

# 経済

授業番号	B200420003				
科目名 (英語表記)	憲法 I (Constitution I)			経済	
担当者 (英語表記)	寛正 豊和 (Toyokazu Kakusho)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>憲法の概要は、すでに中学の「公民」や高等学校の「現代社会」「政治・経済」などで理解してきているように、国家の根本原則、すなわち国家の統治組織・統治作用や権利保障（人権）のあり方について定めた基本となる法律です。したがって、憲法をさらに把握理解し、よりよい社会の創造にむけていくことは、国民としての必須の事柄です。</p> <p>本講義は、憲法の保障する原理や思想を近代憲法発展の歴史のなかで捉え、また、問題点などについて諸外国との比較や判例・学説を素材として平易に具体的に理解していくことを目的とします。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的に教科書にしたがって分かりやすい授業を展開していきますが、法学入門を併せて履修することが望ましいです。				
成績評価方法	平常点（授業内に適応おこなうリアクションペーパー等や任意課題レポート）30%、定期試験 70%で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	教科書等を読みよく理解できない点を把握し、確認しましょう。				
教科書	斉藤静敬・寛正豊和 共著『法学・憲法』八千代出版				
参考文献	各回の授業時において適宜紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	導入	憲法を学ぶ意義			
第 2 回	憲法の概念 (1)	憲法の意義・憲法の種類			
第 3 回	憲法の概要 (2)	法の支配、三権分立			
第 4 回	日本国憲法の成立過程	日本国憲法の内容の概観と理解			
第 5 回	憲法の制定・改正および変遷	憲法の制定・改正および変遷とは			
第 6 回	憲法改正と限界	改正限界説と改正無限界説			
第 7 回	憲法の基本原理	憲法の基本原理とは・基本的人権の種類			
第 8 回	国民主義	国民主義とは			
第 9 回	基本的人権 (1)	精神的自由 (思想、良心)			
第 10 回	基本的人権 (2)	精神的自由 (信教、学問、表現、集会、結社)			
第 11 回	基本的人権 (3)	経済的自由 (職業選択、財産権)			
第 12 回	基本的人権 (4)	人身の自由			
第 13 回	平和主義	平和主義とは			
第 14 回	統治機構・地方自治	統治機構とは・地方自治の基本原則、地方公共団体、地方自治特別法			
第 15 回	総括	まとめおよび質疑			

# 経済

授業番号	B200430002		
科目名 (英語表記)	憲法 II (Constitution II)		経済
担当者 (英語表記)	寛正 豊和 (Toyokazu Kakusho)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>憲法の概要は、すでに中学の「公民」や高等学校の「現代社会」「政治・経済」などで理解してきているように、国家の根本原則、すなわち国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方について定めた基本となる法律です。したがって、憲法をさらに把握理解し、よりよい社会の創造にむけていくことは、国民としての必須の事柄です。</p> <p>本講義は、憲法の統治機構の仕組みを理解し、また、問題点などについて諸外国との比較や判例・学説を素材として平易に具体的に理解していくことを目的とします。</p>		
授業の進め方 (履修条件など)	基本的に教科書にしたがって分かりやすい授業を展開していきますが、法学入門、憲法 I を併せて履修することが望ましいです。		
成績評価方法	平常点 (授業内に適応おこなうリアクションペーパー等や任意課題レポート) 30%、定期試験 70% で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	教科書等を読みよく理解できない点を把握し、確認しましょう。		
教科書	斉藤静敬・寛正豊和 共著『法学・憲法』八千代出版		
参考文献	各回の授業時において適宜紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	国家と憲法	憲法を学ぶ	
第 2 回	国会 (1)	国会中心主義	
第 3 回	国会 (2)	国会の構成と活動	
第 4 回	国会 (3)	国会議員の地位と機能	
第 5 回	内閣 (1)	内閣と議員内閣制	
第 6 回	内閣 (2)	内閣と国民主権	
第 7 回	裁判所 (1)	裁判所の組織と機能	
第 8 回	裁判所 (2)	違憲立法審査権の意義と性格	
第 9 回	裁判所 (3)	国民審査と国民主権、司法権の限界	
第 10 回	財政 (1)	財政民主主義	
第 11 回	財政 (2)	憲法原則	
第 12 回	地方自治 (1)	地方自治と憲法原則	
第 13 回	地方自治 (2)	地方公共団体の権能	
第 14 回	判例学習	憲法の判例学習および必要性	
第 15 回	総括	まとめおよび質疑	

# 経済

授業番号	B201040001				
科目名 (英語表記)	公共経済学 (Public economics)				
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義においては、まず市場経済の特質と限界を明らかにする。さらに、環境汚染などの外部性の問題やフリーライダー (ただ乗り) を排除できない公共財の問題について概説し、公共部門が果たすべき役割を明らかにする。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業は板書を中心に進めていくので、授業に出て、しっかりノートをとることが求められる。質問は授業中いつでも受け付けるが、質問表を毎時間配布するので、それに質問、意見などを記入すれば次の授業の初めに答える。				
成績評価方法	定期試験 (70%)・授業内小テスト (15%)・レポート及びその他の課題 (15%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：下記の参考文献は予習のために最適な文献であるので、是非利用してもらいたい。 復習：復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。				
教科書	教科書は指定しないが、下記の参考文献の必要か書のコピーやその他の資料を適宜配布する。				
参考文献	『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社、井堀利宏著 『公共政策学入門』有斐閣、足立幸男著				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	公共経済学の目的と方法	公共経済学の考え方とは			
第 2 回	市場経済のメカニズム	市場経済と指令経済の比較			
第 3 回	市場経済の効率性と社会的厚生	消費者余剰および生産者余剰と市場の効率性			
第 4 回	市場の失敗	市場の失敗とは何か。			
第 5 回	効率と公平	効率性とパレート最適			
第 6 回	不完全競争の問題	独占・寡占市場における価格決定と市場の効率性			
第 7 回	外部性をめぐる問題 (1)	外部経済と外部不経済			
第 8 回	外部性をめぐる問題 (2)	外部性と市場の失敗			
第 9 回	外部性をめぐる問題 (3)	規制と罰金			
第 10 回	外部性をめぐる問題 (4)	規制措置の問題点			
第 11 回	公共財をめぐる問題 (1)	公共財とは			
第 12 回	公共財をめぐる問題 (2)	フリーライダーの問題			
第 13 回	公共財をめぐる問題 (3)	公共財の最適供給			
第 14 回	費用逓減産業における問題点	費用逓減産業における市場の失敗			
第 15 回	授業のまとめ	公共経済学からみた市場経済の限界について (総括)			

# 経済

授業番号	B200020001				
科目名 (英語表記)	口頭表現 (Oral expression)			(1)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	プレゼンテーション技法および語彙習得を通して、日本語運用能力を高める。 この講義の最終到達目標は、TPO にあった日本語の話し方を習得することである。				
授業の進め方 (履修条件など)	オリジナルプリント教材をもとにして、講義・演習・グループワークをおこなう。なお、語彙力増強のため、毎回漢字テストや作文を実施する。				
成績評価方法 基準	課題への取り組み、定期テストにより評価する。 積極的に授業へ参加していないと判断した場合 (私語、内職、居眠り、携帯電話の操作等) 成績評価に影響する。				
授業の予習・復習	授業で扱った内容は、次回までにしっかり復習しておくこと。 毎回、発表の機会があるので、次回発表すると指示された内容について、前もって準備しておくこと。				
教科書	オリジナルプリント教材を使用する。各自ファイルすること。				
参考文献	説明と説得のためのプレゼンテーション—文章表現、図解、話術、議論のすべて (海保博之著、共立出版) 現代プレゼンテーション正攻法 (プリブル・チャールズ、坂本 正裕著、ナカニシヤ出版) 小室淑恵の超実践プレゼン講座 (小室淑恵著、日経 BP ムック)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	前期の復習 (1) 漢字テスト (1)	前期の復習と、後期の口頭表現について理解する。			
第 2 回	話し方のポイントを学ぶ (1) 漢字テスト (2)	早口言葉の練習を通して、はっきりと正確な言葉を話す練習をする。			
第 3 回	話し方のポイントを学ぶ (2) 漢字テスト (3)	適切な態度や表情について学ぶ。 グループワーク (自らの振る舞いや表情の傾向を知る) (仲間にインタビューする)			
第 4 回	1 分間スピーチ (1) 漢字テスト (4)	「私のおすすめ」という内容でスピーチ原稿を書き、練習する。			
第 5 回	1 分間スピーチ (2) 漢字テスト (5)	「私のおすすめ」の 1 分間スピーチをグループ内で発表する。意見交換する。			
第 6 回	1 分間スピーチ (3) ロールプレイ (1)	各自発表したい内容の 1 分間スピーチ原稿を作る。			
第 7 回	1 分間スピーチ (4) ロールプレイ (2)	1 分間スピーチと相互評価を行う。			
第 8 回	中間テスト	第 1 ～ 7 講までの範囲で出題			
第 9 回	プレゼンテーションの方法と実践 (1)	プレゼンテーションの概要を学ぶ グループワーク (顔合わせ、自己紹介)			
第 10 回	プレゼンテーションの方法と実践 (2) 漢字テスト (6)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク (調査、発表内容の決定)			
第 11 回	プレゼンテーションの方法と実践 (3) 漢字テスト (7)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク (調査、発表内容の決定)			
第 12 回	プレゼンテーションの方法と実践 (4) 漢字テスト (8)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク (台本作り)			
第 13 回	プレゼンテーションの方法と実践 (5) 漢字テスト (9)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク (リハーサル)			
第 14 回	プレゼンテーションの方法と実践 (6)	グループごとにプレゼンテーションを行い、批評する			
第 15 回	プレゼンテーションの方法と実践 (7)	グループごとにプレゼンテーションを行い、批評する			

# 経済

授業番号	B200020002				
科目名 (英語表記)	口頭表現 (Oral expression)			(2)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	プレゼンテーション技法および語彙習得を通して、日本語運用能力を高める。 この講義の最終到達目標は、TPO にあった日本語の話し方を習得することである。				
授業の進め方 (履修条件など)	オリジナルプリント教材をもとにして、講義・演習・グループワークをおこなう。なお、語彙力増強のため、毎回漢字テストや作文を実施する。				
成績評価方法 基準	課題への取り組み、定期テストにより評価する。 積極的に授業へ参加していないと判断した場合 (私語、内職、居眠り、携帯電話の操作等) 成績評価に影響する。				
授業の予習・復習	授業で扱った内容は、次回までにしっかり復習しておくこと。 毎回、発表の機会があるので、次回発表すると指示された内容について、前もって準備しておくこと。				
教科書	オリジナルプリント教材を使用する。各自ファイルすること。				
参考文献	説明と説得のためのプレゼンテーション—文章表現、図解、話術、議論のすべて (海保博之著、共立出版) 現代プレゼンテーション正攻法 (プリブル・チャールズ、坂本 正裕著、ナカニシヤ出版) 小室淑恵の超実践プレゼン講座 (小室淑恵著、日経 BP ムック)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	前期の復習 (1) 漢字テスト (1)	前期の復習と、後期の口頭表現について理解する。			
第 2 回	話し方のポイントを学ぶ (1) 漢字テスト (2)	早口言葉の練習を通して、はっきりと正確な言葉を話す練習をする。			
第 3 回	話し方のポイントを学ぶ (2) 漢字テスト (3)	適切な態度や表情について学ぶ。 グループワーク (自らの振る舞いや表情の傾向を知る) (仲間にインタビューする)			
第 4 回	1 分間スピーチ (1) 漢字テスト (4)	「私のおすすめ」という内容でスピーチ原稿を書き、練習する。			
第 5 回	1 分間スピーチ (2) 漢字テスト (5)	「私のおすすめ」の 1 分間スピーチをグループ内で発表する。意見交換する。			
第 6 回	1 分間スピーチ (3) ロールプレイ (1)	各自発表したい内容の 1 分間スピーチ原稿を作る。			
第 7 回	1 分間スピーチ (4) ロールプレイ (2)	1 分間スピーチと相互評価を行う。			
第 8 回	中 間 テ ス ト	第 1 ～ 7 講までの範囲で出題			
第 9 回	プレゼンテーションの方法と実践 (1)	プレゼンテーションの概要を学ぶ グループワーク (顔合わせ、自己紹介)			
第 10 回	プレゼンテーションの方法と実践 (2) 漢字テスト (6)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク (調査、発表内容の決定)			
第 11 回	プレゼンテーションの方法と実践 (3) 漢字テスト (7)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク (調査、発表内容の決定)			
第 12 回	プレゼンテーションの方法と実践 (4) 漢字テスト (8)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク (台本作り)			
第 13 回	プレゼンテーションの方法と実践 (5) 漢字テスト (9)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク (リハーサル)			
第 14 回	プレゼンテーションの方法と実践 (6)	グループごとにプレゼンテーションを行い、批評する			
第 15 回	プレゼンテーションの方法と実践 (7)	グループごとにプレゼンテーションを行い、批評する			

# 経済

授業番号	B200020003				
科目名 (英語表記)	口頭表現 (Oral expression)			(3)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	プレゼンテーション技法および語彙習得を通して、日本語運用能力を高める。 この講義の最終到達目標は、TPO にあった日本語の話し方を習得することである。				
授業の進め方 (履修条件など)	オリジナルプリント教材をもとにして、講義・演習・グループワークをおこなう。なお、語彙力増強のため、毎回漢字テストや作文を実施する。				
成績評価方法基準	課題への取り組み、定期テストにより評価する。 積極的に授業へ参加していないと判断した場合 (私語、内職、居眠り、携帯電話の操作等) 成績評価に影響する。				
授業の予習・復習	授業で扱った内容は、次回までにしっかり復習しておくこと。 毎回、発表の機会があるので、次回発表すると指示された内容について、前もって準備しておくこと。				
教科書	オリジナルプリント教材を使用する。各自ファイルすること。				
参考文献	説明と説得のためのプレゼンテーション—文章表現、図解、話術、議論のすべて (海保博之著、共立出版) 現代プレゼンテーション正攻法 (ブリブル・チャールズ、坂本 正裕著、ナカニシヤ出版) 小室淑恵の超実践プレゼン講座 (小室淑恵著、日経 BP ムック)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	前期の復習 (1) 漢字テスト (1)	前期の復習と、後期の口頭表現について理解する。			
第 2 回	話し方のポイントを学ぶ (1) 漢字テスト (2)	早口言葉の練習を通して、はっきりと正確な言葉を話す練習をする。			
第 3 回	話し方のポイントを学ぶ (2) 漢字テスト (3)	適切な態度や表情について学ぶ。 グループワーク (自らの振る舞いや表情の傾向を知る) (仲間にインタビューする)			
第 4 回	1 分間スピーチ (1) 漢字テスト (4)	「私のおすすめ」という内容でスピーチ原稿を書き、練習する。			
第 5 回	1 分間スピーチ (2) 漢字テスト (5)	「私のおすすめ」の 1 分間スピーチをグループ内で発表する。意見交換する。			
第 6 回	1 分間スピーチ (3) ロールプレイ (1)	各自発表したい内容の 1 分間スピーチ原稿を作る。			
第 7 回	1 分間スピーチ (4) ロールプレイ (2)	1 分間スピーチと相互評価を行う。			
第 8 回	中 間 テ ス ト	第 1 ～ 7 講までの範囲で出題			
第 9 回	プレゼンテーションの方法と実践 (1)	プレゼンテーションの概要を学ぶ グループワーク (顔合わせ、自己紹介)			
第 10 回	プレゼンテーションの方法と実践 (2) 漢字テスト (6)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク (調査、発表内容の決定)			
第 11 回	プレゼンテーションの方法と実践 (3) 漢字テスト (7)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク (調査、発表内容の決定)			
第 12 回	プレゼンテーションの方法と実践 (4) 漢字テスト (8)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク (台本作り)			
第 13 回	プレゼンテーションの方法と実践 (5) 漢字テスト (9)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク (リハーサル)			
第 14 回	プレゼンテーションの方法と実践 (6)	グループごとにプレゼンテーションを行い、批評する			
第 15 回	プレゼンテーションの方法と実践 (7)	グループごとにプレゼンテーションを行い、批評する			



# 経済

授業番号	B200020004				
科目名 (英語表記)	口頭表現 (Oral expression)			(4)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	プレゼンテーション技法および語彙習得を通して、日本語運用能力を高める。 この講義の最終到達目標は、TPO にあった日本語の話し方を習得することである。				
授業の進め方 (履修条件など)	オリジナルプリント教材をもとにして、講義・演習・グループワークをおこなう。なお、語彙力増強のため、毎回漢字テストや作文を実施する。				
成績評価方法 基準	課題への取り組み、定期テストにより評価する。 積極的に授業へ参加していないと判断した場合 (私語、内職、居眠り、携帯電話の操作等) 成績評価に影響する。				
授業の予習・復習	授業で扱った内容は、次回までにしっかり復習しておくこと。 毎回、発表の機会があるので、次回発表すると指示された内容について、前もって準備しておくこと。				
教科書	オリジナルプリント教材を使用する。各自ファイルすること。				
参考文献	説明と説得のためのプレゼンテーション—文章表現、図解、話術、議論のすべて (海保博之著、共立出版) 現代プレゼンテーション正攻法 (プリブル・チャールズ、坂本 正裕著、ナカニシヤ出版) 小室淑恵の超実践プレゼン講座 (小室淑恵著、日経 BP ムック)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	前期の復習 (1) 漢字テスト (1)	前期の復習と、後期の口頭表現について理解する。			
第 2 回	話し方のポイントを学ぶ (1) 漢字テスト (2)	早口言葉の練習を通して、はっきりと正確な言葉話す練習をする。			
第 3 回	話し方のポイントを学ぶ (2) 漢字テスト (3)	適切な態度や表情について学ぶ。 グループワーク (自らの振る舞いや表情の傾向を知る) (仲間にインタビューする)			
第 4 回	1 分間スピーチ (1) 漢字テスト (4)	「私のおすすめ」という内容でスピーチ原稿を書き、練習する。			
第 5 回	1 分間スピーチ (2) 漢字テスト (5)	「私のおすすめ」の 1 分間スピーチをグループ内で発表する。意見交換する。			
第 6 回	1 分間スピーチ (3) ロールプレイ (1)	各自発表したい内容の 1 分間スピーチ原稿を作る。			
第 7 回	1 分間スピーチ (4) ロールプレイ (2)	1 分間スピーチと相互評価を行う。			
第 8 回	中 間 テ ス ト	第 1 ～ 7 講までの範囲で出題			
第 9 回	プレゼンテーションの方法と実践 (1)	プレゼンテーションの概要を学ぶ グループワーク (顔合わせ、自己紹介)			
第 10 回	プレゼンテーションの方法と実践 (2) 漢字テスト (6)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク (調査、発表内容の決定)			
第 11 回	プレゼンテーションの方法と実践 (3) 漢字テスト (7)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク (調査、発表内容の決定)			
第 12 回	プレゼンテーションの方法と実践 (4) 漢字テスト (8)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク (台本作り)			
第 13 回	プレゼンテーションの方法と実践 (5) 漢字テスト (9)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク (リハーサル)			
第 14 回	プレゼンテーションの方法と実践 (6)	グループごとにプレゼンテーションを行い、批評する			
第 15 回	プレゼンテーションの方法と実践 (7)	グループごとにプレゼンテーションを行い、批評する			

# 経済

授業番号	B201310001		
科目名 (英語表記)	国際金融論 I (International finance theory I)		
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	国際金融論とは、「国境を超える金融」をめぐる議論です。金融論の国際版であるとともに、国際経済学の金融領域でもあります。国際化が飛躍的に進展した今日、様々な経済分析において、国際金融論の知識や視点が必要不可欠になります。国際金融論は様々な議論から構成されますが、本講義では、外国為替論を取り上げます。国際金融のイメージを鮮明にする第1歩となります。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義レジュメを使い、外国為替の諸概念を解説します。金融論を学習していることが望ましいですが、前提ではありません。		
成績評価方法	授業への取り組み姿勢 (40%)、定期試験 (60%)。		
基準	なお、出席を取る際、講義内容の理解を確認する易しいクイズを実施します。		
授業の予習・復習	予習：参考文献を中心に行ってください。 復習：講義ノートを中心に行ってください。		
教科書	教科書は指定しません。プリントを配布します。		
参考文献	桜井錠治郎『国際金融の基礎知識』中央経済社 経済法令研究会編『外国為替入門』経済法令研究会 この他、講義の中で随時紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	授業の方針など	
第2回	外国為替のしくみと形態1	外国為替のしくみ・諸形態	
第3回	外国為替のしくみと形態2	荷為替信用状取引	
第4回	外国為替のしくみと形態3	輸入実務に見る決済の具体例	
第5回	外国為替市場1	外国為替市場のすがた	
第6回	外国為替市場2	世界の主要為替市場 - BIS 統計を中心に	
第7回	外国為替市場3	中央銀行の市場介入	
第8回	外国為替相場1	直物為替相場と先物為替相場	
第9回	外国為替相場2	直先スプレッドの計算	
第10回	外国為替相場3	銀行間相場と対顧客相場	
第11回	記事読解1	外国為替関連記事の読み込み	
第12回	記事読解2	外国為替関連記事の読み込み	
第13回	為替リスクの回避策1	デリバティブのしくみ、多国籍企業の実例	
第14回	為替リスクの回避策2	通貨オプション	
第15回	まとめ	授業内容のまとめ	

# 経済

授業番号	B201320001				
科目名 (英語表記)	国際金融論 II (International finance theory II)				
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	原則として「国際金融論 I」の履修者を対象に、国際収支分析と国際通貨制度を取り上げ、解説します。国際金融に関する現実の問題を論理的に考察する力を養います。また、より専門的な国際金融論を勉強するための足がかりを作ります。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義レジュメを使います。金融論を学習していることが望ましいですが、前提ではありません。				
成績評価方法	授業への取り組み姿勢 (40%)、定期試験 (60%)。				
基準	なお、出席を取る際、講義内容の理解を確認する易しいクイズを実施します。				
授業の予習・復習	予習：参考文献を中心に行ってください。 復習：講義ノートを中心に行ってください。				
教科書	教科書は使用しません。プリントを配布します。				
参考文献	桜井錠治郎『国際金融の基礎知識』中央経済社 経済法令研究会編『外国為替入門』経済法令研究会 この他、講義の中で随時紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の方針など			
第 2 回	国際収支の概念としくみ 1	国際収支とは何か、各収支項目の内容と関係			
第 3 回	国際収支の概念としくみ 2	経常収支と IS 理論、国際収支発展段階説など			
第 4 回	国際収支と為替相場の関係	為替相場の貿易収支調整機能、弾力性アプローチ			
第 5 回	為替相場の決定理論	古典的学説、近代理論			
第 6 回	国際通貨制度のしくみと評価	国際通貨 (制度)、国際通貨発行国の便益と負担			
第 7 回	国際通貨制度の変遷 1	国際金本位制			
第 8 回	国際通貨制度の変遷 2	国際金為替本位制			
第 9 回	国際通貨制度の変遷 3	ブレトンウッズ体制			
第 10 回	国際通貨制度の変遷 4	変動相場制			
第 11 回	ヨーロッパの通貨統合 1	経済統合から通貨統合へ、EMS			
第 12 回	ヨーロッパの通貨統合 2	単一通貨ユーロの誕生			
第 13 回	欧州債務危機	ユーロへの信認、欧州債務問題の動向			
第 14 回	記事読解	国際収支・国際通貨制度関連記事の読み込み			
第 15 回	まとめ	授業内容のまとめ			

# 経済

授業番号	B202370001		
科目名 (英語表記)	国際経営論 (International management theory)		
担当者 (英語表記)	長島 芳枝 (Yoshie Nagashima)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	国際経営の理解にあたっては、国際的な政治・経済環境や、企業の競争戦略、経営管理手法といった多様な課題の検討が必要となる。本講義の目的の一つに、履修者が多国籍企業及び企業を取り巻く環境に興味を持つようになることがある。また、国際経営に関わる基礎知識を習得したうえで、次のステップに進む準備とすることを目指す。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式とし、パワーポイントを利用しながら配布資料を用いて授業を実施する。事例考察では、グローバルに事業展開する国内外の多国籍企業を取り上げる。映像教材も活用して、多面的・総合的な視点を重視した学習とする。		
成績評価方法	定期試験 (40%)・レポート作成 (30%)・授業参加態度 (30%) の割合で総合的に成績を評価する。レポート作成は授業内レポートとし、事例考察に際して提出する。		
授業の予習・復習	授業の予習としては、授業で紹介する参考文献や資料を適宜読むことが望ましい。復習は配布資料の見直しを中心に行ない、講義内容を理解したか確認する。本講義では、復習が特に重要となる。		
教科書	教科書は特に使用せず、講義資料を配布する。		
参考文献	江夏健一・太田正孝・藤井健編『国際ビジネス入門』中央経済社、2008年 江夏健一・桑名義晴・IBI 国際ビジネス研究センター著『理論とケースで学ぶ国際ビジネス (三訂版)』同文館出版、2012年		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	講義計画、成績評価基準の説明および教材の紹介	
第2回	国際経営を取り巻く環境	グローバル経済と企業活動	
第3回	多国籍企業とは	多国籍企業の定義と特徴	
第4回	先進国の多国籍企業①	様々な分野における代表的な多国籍企業	
第5回	先進国の多国籍企業②	台頭するグローバルサービス企業	
第6回	国際マーケティング①	事例考察①	
第7回	国際マーケティング②	国内マーケティングと国際マーケティング	
第8回	国際経営分野の諸理論	国際経営の変遷と理論	
第9回	新規市場参入戦略①	事例考察②	
第10回	新規市場参入戦略②	戦略提携・買収統合と市場参入	
第11回	国際経営組織と異文化経営①	多国籍企業の組織モデル	
第12回	国際経営組織と異文化経営②	異文化組織におけるビジネスコミュニケーション	
第13回	海外生産と技能の国際移転①	事例考察③	
第14回	海外生産と技能の国際移転②	国際的な生産活動の特徴	
第15回	まとめ	全講義内容の主要な点について復習する。	

# 経済

授業番号	B200990001				
科目名 (英語表記)	国際経済論 I (International economy theory I)				
担当者 (英語表記)	土井 修 (Osamu Doi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	国際経済に関する基礎知識の習得を目的として、貿易、投資、移民、国際収支、国際通貨等に関する基礎理論および現状を説明します。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書は使用せず、プリントと板書によって授業を進めますので、ノートをきちんととることが大切です。				
成績評価方法	試験結果を中心としつつも、授業参加態度も加味します。				
基準					
授業の予習・復習	復習については、ノートを再度チェックし、理解を深めてください。予習については、参考書や新聞における国際経済関連記事を読むようにしてください。				
教科書	使用しません。				
参考文献	西川潤「世界経済入門」(岩波書店) 楊井克己「概説国際経済論」(東大出版会) 財経詳報社編「図説国際金融」(財経詳報社) 関下稔「現代世界経済論」(有斐閣)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	序論	国際経済研究動向			
第 2 回	国際収支	国際収支構造と経済発展			
第 3 回	国際収支	アメリカ経済と国際収支			
第 4 回	国際収支	日本経済と国際収支			
第 5 回	貿易	リカードの比較生産費説			
第 6 回	貿易	最近の世界の貿易動向			
第 7 回	貿易	最近の日本の貿易動向			
第 8 回	国際投資	資本輸出入に関する基礎理論			
第 9 回	国際投資	対外証券投資の理論と動向			
第 10 回	国際投資	対外直接投資の理論と類型			
第 11 回	国際投資	対外貸付投資の理論と動向			
第 12 回	国際通貨	国際通貨体制の変遷			
第 13 回	国際通貨	外国為替相場の仕組みとその変動要因			
第 14 回	国際労働力移動	移民・出稼ぎ労働者の経済的意義			
第 15 回	まとめ	授業の総括と質疑応答			

# 経済

授業番号	B201000001				
科目名 (英語表記)	国際経済論 II (International economy theory II)				
担当者 (英語表記)	土井 修 (Osamu Doi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義では、「国際経済論 I」の講義を踏まえて、国際経済の歴史的発展過程および現代国際経済の構造について説明します。歴史的発展過程については、15世紀末以降第二次世界大戦に至るまでの国際経済の生成・確立・発展・解体過程を概説し、現代国際経済については、第二次大戦以降現在に至るまでの国際経済を概観した後、その中における重要なテーマをいくつか取り上げ、それらを詳細に検討します。なお、貿易、国際投資、国際労働力移動、国際収支、国際通貨等に関する理論については、必要に応じて説明します。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書は使用せず、プリントや板書によって授業を進めますので、ノートをきちんととることが大切です。「国際経済論 I」を履修していることが望ましい。				
成績評価方法	試験結果を中心としつつも、授業参加態度も加味する。				
基準					
授業の予習・復習	復習については、ノートを再度チェックし理解を深めてください。予習については、参考書を読んでください。				
教科書	使用しません。				
参考文献	西川潤「世界経済入門」(岩波書店)、楊井克己「概説国際経済論」(東大出版会)、関下稔「現代世界経済論」(有斐閣ブックス)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	序論	国際経済学研究動向			
第 2 回	国際経済の確立	アメリカ・ヨーロッパ・東洋間貿易			
第 3 回	国際経済の確立	イギリスの対外経済政策と国際分業構造			
第 4 回	国際経済の発展	ドイツ、アメリカの台頭と国際経済構造の変容			
第 5 回	国際経済の発展	第一次大戦とアメリカ			
第 6 回	国際経済の発展	1920 年代の国際経済構造			
第 7 回	国際経済の解体	アメリカの 1929 年恐慌			
第 8 回	国際経済の解体	世界不況とブロック経済の形成			
第 9 回	現代国際経済	ドル体制の成立 (IMF=GATT 体制)			
第 10 回	現代国際経済	EU の成立と発展			
第 11 回	現代国際経済	「南北問題」の登場			
第 12 回	現代国際経済	アメリカ経済の衰退と日・欧の台頭			
第 13 回	現代国際経済	グローバル化の進展と多国籍企業の展開			
第 14 回	現代国際経済	中国の台頭と国際経済の再編成			
第 15 回	まとめ	授業の総括と質疑応答			

# 経済

授業番号	B202390001				
科目名 (英語表記)	国際法 I (International law I)				
担当者 (英語表記)	庄司 真理子 (Mariko Shoji)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	法とは何か? 法 の概念と歴史などの視点を織り込みつつ、法のなかでも国際法に焦点をあてて考察します。国際法とは何か? 国際法はどのような形をした法律であるか? などの観点から考察を深めていきます。次に国際法の主体、特に国家についてどのように捉えているかを考察します。最後に、外交関係と国際法の関連についても言及します。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式で進めます。講義への参加度、各自が自分で主体的にものを考えているかを確認しながらすすめます。必要に応じて、講義中に課題を出して、それについてグループ・ディスカッションやリアクション・ペーパーを書いてもらいます。				
成績評価方法	講義の参加態度 40%、中間のテスト 30%、期末試験 30%				
基準					
授業の予習・復習	予習としては、講義予定の箇所の教科書を読んできて下さい。基本的に授業中が勝負です。授業に真剣に取り組んで欲しいと思います。教科書を中心に復習をしてください。				
教科書	中谷・河野・山本・植木・森田著『国際法』有斐閣アルマ				
参考文献	奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	授業のガイダンス	この授業の内容を概観する			
第 2 回	法源論の基本的考察	法とは何か?			
第 3 回	国際法とは何か	国際法の法源について考察します。			
第 4 回	条約 I	成文法としての条約について、条約の定義について学ぶ			
第 5 回	条約 II	条約の成立プロセス、留保などを学ぶ。			
第 6 回	国際慣習法	不文法としての国際慣習法: 国際慣習法について学ぶ			
第 7 回	国際法の主体	国際社会の多様なアクター			
第 8 回	中間まとめ	ここまで 7 回分に修得した知識を確認します。			
第 9 回	国家	国家をめぐる国際法上の諸問題、国家承認論			
第 10 回	承認論	政府承認論、交戦団体の承認			
第 11 回	国家承継論	外国承継について学ぶ			
第 12 回	国家と国際関係	外交使節と領事: 外交使節、外交特権			
第 13 回	領事について	その職務内容は何か。外交特権、領事特権			
第 14 回	主権、平等、国内事項不干涉	国家主権、平等、国内事項不干涉			
第 15 回	まとめ	国際法学について習得した知識を確認します。			

# 経済

授業番号	B202400001				
科目名 (英語表記)	国際法 II (International law II)				
担当者 (英語表記)	庄司 真理子 (Mariko Shoji)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	基本的な国際法の知識に加えて、国際法学をひととおり勉強することを目指します。まずは国際責任と紛争の解決、裁判について学びます。次に、国際法と領域について、陸・海・空さらに時間があれば宇宙空間についても学びます。公務員試験および教員採用試験などにも役立つように講義を進めます。				
授業の進め方 (履修条件など)	国際法をすでに履修した学生のみを対象とする。 公務員試験、教員採用試験などを念頭において履修する学生も多いため、すでに国際法の基礎的な内容を習得しているものを対象として講義をすすめる。講義中にグループ・ディスカッションやリアクション・ペーパーをとり入れる。				
成績評価方法	授業の参加態度 40%、中間のテスト 30%、期末試験 30%				
基準					
授業の予習・復習	教科書を中心に予習をしてきてください。講義のあとで、講義ノート、配布資料、教科書をみながら復習してください。				
教科書	中谷・河野・山本・植木・森田著『国際法』有斐閣アルマ				
参考文献	奥脇直也『国際条約集』有斐閣				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	国際紛争の法的解決と地的管轄権			
第2回	国際紛争の法的解決 I	国際責任 I 中心的帰属と周辺の帰属			
第3回	国際紛争の法的解決 II	国際責任 II 外交的保護権			
第4回	国際紛争の法的解決 III	国際責任 III コンセッションの破棄 カルボー条項			
第5回	国際紛争の法的解決 IV	第三者の仲介と法的解決、平和的解決、仲裁裁判			
第6回	国際紛争の法的解決 V	国際司法裁判所 選択条項受託宣言 勧告的意見			
第7回	中間まとめ	七回の講義について修得した知識を確認する。			
第8回	海の国際法 I	海の法秩序			
第9回	海の国際法 II	領海の幅 公海自由の原則			
第10回	海の国際法 III	接続水域・排他的経済水域をめぐる諸問題			
第11回	海の国際法 V	国際河川 国際海峡をめぐる諸問題			
第12回	海の国際法 VI	海底の秩序			
第13回	南極	南極について学ぶ			
第14回	空と宇宙の国際法	領空と宇宙について学ぶ			
第15回	まとめ	国際法学について習得した知識を確認します。			



経済

授業番号	B202380001		
科目名 (英語表記)	国際貿易論 (International trade theory)		
担当者 (英語表記)	織井 啓介 (Keisuke Orii)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	①国際貿易の実務、②貿易英語を学習します。国際貿易実務の基礎力がしっかり身につく、国際ビジネスに必要な英語の実務能力も伸ばせます。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義とプリントによる簡単な演習が中心です。予備知識はとくに必要としませんが、上記②で貿易英語を学ぶため、一定の英語力が必要です。毎時間ノートをしっかり取り、章ごとに復習しましょう。		
成績評価方法	①期末試験 (教場試験またはレポート) 50%、②平常点 50%が評価の目安です。		
基準			
授業の予習・復習	予習：配布プリントを予習しましょう。 復習：練習問題を自宅で演習し、次の授業時間に答え合わせをしましょう。		
教科書	とくに使用しません。		
参考文献	日本貿易実務検定協会編『図解貿易実務ハンドブック (ベーシック版)』日本能率協会マネジメントセンター、2013年。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	「国際貿易論」講義の概要	講義スケジュールの説明等	
第2回	第1部：国際貿易の実務①	貿易の流れ	
第3回	第1部：国際貿易の実務②	通関手続①	
第4回	第1部：国際貿易の実務③	通関手続②	
第5回	第1部：国際貿易の実務④	貿易運送 (海上運送・航空運送)	
第6回	第1部：国際貿易の実務⑤	貿易条件 (インコタームズ)	
第7回	第1部：国際貿易の実務⑥	信用状取引①	
第8回	第1部：国際貿易の実務⑦	信用状取引②	
第9回	第1部：国際貿易の実務⑧	保険 (海上保険と貿易保険)	
第10回	第1部：国際貿易の実務⑨	信用状なし輸出手形 (D/P・D/A)	
第11回	第1部：国際貿易の実務⑩	貿易の外国為替相場	
第12回	第2部：貿易英語①	インボイスと売買契約書	
第13回	第2部：貿易英語②	信用状と荷為替手形	
第14回	第2部：貿易英語③	船荷証券と保険証券	
第15回	「国際貿易論」講義のまとめ	総括と補遺事項	

# 経済

授業番号	B202580001				
科目名 (英語表記)	サービス産業論 (Service-industries theory)				
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	サービス産業は日本経済において大きなウェイトを占めています。本講義では、戦後日本経済においてみられた産業構造の変化を概観しながら、サービス産業の成長と現状、その課題について学びます。また、サービスにかかわるマーケティングについての理解を深めます。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式で理論とケースを学びます。パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で講義し、必要に応じて、ケース・スタディのためのビデオ教材を用います。				
成績評価方法	中間レポート (40%)、定期試験 (60%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の進行に合わせ参考文献を読んでおくことをおすすめします。 復習：前回の講義資料を再読しておくことをおすすめします。				
教科書	特にありません。毎回必要な資料を作成し講義します。				
参考文献	飯盛信男『構造改革とサービス産業』青木書店、2007年。 山本昭二『サービス・マーケティング入門』日本経済新聞出版社、2007年。 伊藤宗彦・高室裕史編著『1からのサービス経営』碩学舎、2010年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方についての説明			
第2回	イントロダクション	サービス産業とは			
第3回	イントロダクション	経済のサービス化で変わるビジネスと消費者			
第4回	産業構造の変化	産業構造からみた戦後日本経済の変遷			
第5回	産業構造の変化	構造改革のもとでの産業構造の変化			
第6回	サービス産業の展開	サービス産業の新たな展開			
第7回	サービス産業の展開	日本経済におけるサービス産業の役割			
第8回	サービス産業の展開	地域サービス産業の展開			
第9回	サービス・マーケティング	サービス・マーケティングとは			
第10回	県庁担当者による講義	県庁担当者による講義			
第11回	サービス・マーケティング	サービス品質の考え方			
第12回	サービス・マーケティング	サービス商品のプロモーション			
第13回	サービス・マーケティング	サービス・エンカウンター管理			
第14回	サービス・マーケティング	インターナル・マーケティング			
第15回	サービス・マーケティング	リレーションシップ・マーケティング			

# 経済

授業番号	B201100001				
科目名 (英語表記)	財政赤字の経済学 (Economics of a budget deficit)				
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本の財政赤字は膨大な規模に達しているが、このような状況に陥った原因を探り、それが日本経済にどのような影響を及ぼすかを考察するのが本講義の目的である。本講義では日本の財政状況の推移と現状、公共サービスの需要と供給、赤字財政の政治・経済的要因について明らかにする。同時に、公債、国債の国民負担に関する問題について検討する。				
授業の進め方 (履修条件など)	必要であればプリントを配布するが、授業は板書を中心に進めていくので、しっかりノートをとること。質問は授業中いつでも受け付けるが、質問表を毎時間配布するので、質問、意見を記入すれば次の授業の初めに答える。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・レポート及びその他の課題 (30%)・授業内小テスト (20%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：下記の参考文献は予習のために最適な文献であるので、是非利用してもらいたい。 復習：復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。				
教科書	使用しない				
参考文献	『スティグリッツマクロ経済学第3版』5章および15章 東洋経済新報社、ジョセフ・E・スティグリッツ/カール・E・ウォルツシュ 著 『公共経済学』日本評論社、野口悠紀雄 著				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	日本の財政収支	日本の財政赤字の実態と推移			
第2回	財政と公債発行	公共サービスの供給と公債費の増大			
第3回	財政赤字の要因分析 (1)	デフレ経済と高齢社会の到来			
第4回	財政赤字の要因分析 (2)	社会保障費をめぐる問題			
第5回	財政赤字の要因分析 (3)	景気対策による財政赤字の拡大			
第6回	財政赤字の要因分析 (4)	政治的要請と官僚主導の予算			
第7回	公債の経済理論 (1)	公債負担転嫁論の概説：公債はだれの負担か？			
第8回	公債の経済理論 (2)	内国債と外債、および国債と地方債			
第9回	公債の経済理論 (3)	モジリアニの負担転嫁論			
第10回	公債の経済理論 (4)	リカード＝バローの等価定理			
第11回	公債の経済理論 (5)	クラウドディングアウトと民間投資への影響			
第12回	財政健全化に向けて (1)	公共投資の抑制と課題			
第13回	財政健全化に向けて (2)	社会保障制度の改革			
第14回	財政健全化に向けて (3)	財政支出による景気刺激策の限界と財政均衡への課題			
第15回	全体のまとめ	財政赤字と公債発行の問題の復習：確認テスト			

# 経済

授業番号	B200950001		
科目名 (英語表記)	財政学 I (Public Finance I)		
担当者 (英語表記)	金子 林太郎 (Rintarou Kaneko)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	現在、わが国の財政がどのような状況にあるか、どのような課題を抱えているのかを知ることがねらいである。また、課題に対する処方箋についても考えたい。財政学 I では、財政の役割、予算の意義を確認した上で、歳入面に注目して、わが国の税制の現状と課題を学ぶ。		
授業の進め方 (履修条件など)	毎回レジメを配布し、スライドを示して解説しながら進める。受講者はノートを用意して、重要だと思った話をメモすることが望ましい。授業の最後に毎回 KCN 上で復習テストを課すので、解答すること。出席は毎回を取る。また、小レポートを課すことがある。		
成績評価方法	毎回の復習テストと期末試験の点数を基本に、聴講態度、小レポートの内容を踏まえて評価する。		
基準			
授業の予習・復習	配布したレジメを整理して保管すること。新聞等で財政・税制関連のニュースをフォローすること。KCN の復習テスト (小テスト) に毎回解答すること。		
教科書	特定のテキストは使用しない。適宜プリントを配布する。		
参考文献	神野直彦『財政学 (改訂版)』有斐閣 持田信樹『財政学』東京大学出版会 宇波弘真『図説日本の税制 (平成 25 年度版)』財経詳報社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	この講義の概要と評価方法の説明	
第 2 回	財政の役割 1	財政の意義、役割	
第 3 回	財政の役割 2	財政の仕組み、特徴	
第 4 回	予算の意義と制度 1	予算の意義	
第 5 回	予算の意義と制度 2	予算原則	
第 6 回	予算の意義と制度 3	予算の内容と形式、予算過程	
第 7 回	前半のまとめ	前半の内容の確認、質疑、小テスト	
第 8 回	租税の基礎 1	政府の歳入と租税	
第 9 回	租税の基礎 2	課税の根拠・目的、租税原則	
第 10 回	租税の基礎 3	租税の分類と体系	
第 11 回	所得税 1	租税の生成と人税	
第 12 回	所得税 2	所得税の発生経路、所得概念	
第 13 回	所得税 3	所得税の仕組み	
第 14 回	所得税 4	所得税の課題	
第 15 回	まとめ	前期の授業内容のまとめ、質疑応答	

# 経済

授業番号	B200960001		
科目名 (英語表記)	財政学 II (Public Finance II)		
担当者 (英語表記)	金子 林太郎 (Rintarou Kaneko)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	現在、わが国の財政がどのような状況にあるか、どのような課題を抱えているのかを知ることがねらいである。また、課題に対する処方箋についても考えたい。財政学 II では、前期に続いて歳入面 (消費課税、資産課税、公債金収入) に注目した後、歳出面にも目を向け、わが国の財政の現状と課題を学ぶ。		
授業の進め方 (履修条件など)	毎回レジュメを配布し、スライドを示して解説しながら進める。受講者はノートを用意して、重要だと思った話をメモすることが望ましい。授業の最後に毎回 KCN 上で復習テストを課すので、解答すること。出席は毎回を取る。また、小レポートを課すことがある。		
成績評価方法	毎回の復習テストと期末試験の点数を基本に、聴講態度、小レポートの内容を踏まえて評価する。		
基準			
授業の予習・復習	配布したレジュメを整理して保管すること。新聞等で財政・税制関連のニュースをフォローすること。KCN の復習テスト (小テスト) に毎回解答すること。		
教科書	特定の教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。		
参考文献	『図説日本の税制 (平成 26 年度版)』財経詳報社 『図説日本の財政 (平成 26 年度版)』東洋経済新報社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	この講義の概要と評価方法の説明、前期試験の解説	
第 2 回	法人税 1	法人税の意義、生成経路	
第 3 回	法人税 2	法人税の仕組み、現状と課題	
第 4 回	消費課税 1	消費税 (付加価値税) の体系、個別消費税	
第 5 回	消費課税 2	個別消費税の転嫁と帰着、一般消費税の誕生と発展	
第 6 回	消費課税 3	消費税 (付加価値税) の誕生、付加価値の計算方式	
第 7 回	消費課税 4	付加価値税の計算方式、付加価値税の現状と課題	
第 8 回	公債金収入 1	公債の意義・種類、公債原則	
第 9 回	公債金収入 2	公債負担転嫁論	
第 10 回	公債金収入 3	IS-LM モデルとクラウディングアウト	
第 11 回	公債金収入 4	公債管理政策、公債発行のこれまでの歩み・現状・課題	
第 12 回	公共財の理論 1	公共財の理論、無償のサービス供給	
第 13 回	公共財の理論 2	公共財の最適供給量の決定	
第 14 回	公共支出の現状と課題	公共支出の分類と体系、公共支出の現状と課題	
第 15 回	まとめ	後期の授業のまとめ、質疑応答	

# 経済

授業番号	B202090001		
科目名 (英語表記)	産業論 I (Industrial theory I)		
担当者 (英語表記)	森谷 英樹 (Hideki Moriya)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	産業および企業活動を観察して興味を持ち、自分の人生にプラスになる多くの智恵を得ることが目的である。誤解をおそれずにあえて言うならば、楽しんで得するには、何を勉強して何になるのがいいか、知ることである。		
授業の進め方 (履修条件など)	板書と説明をノートにとりまとめる形で進める。教科書はないが随時プリントを配布して教材にする。基礎的な常識 (理論)、過去の経験 (歴史的な事実)、現状と問題点 (政策課題) など分かりやすく説明する。		
成績評価方法	定期試験 90%、出席 10%		
基準	試験では自筆ノートのみ持ち込み可。ノートがなければ合格は困難であろう。		
授業の予習・復習	授業の始めに前回の復習をする。		
教科書	使用しない。		
参考文献	南亮進『日本の経済発展』東洋経済新報社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	授業の概要と目標	講義の聞き方、ノートのとり方、まとめ方	
第 2 回	産業とは何か、企業とは何か?	付加価値のひみつ、珈琲一杯の価格	
第 3 回	企業行動	市場・価格・原価、企業の目的	
第 4 回	損益分岐点 (1)	固定費と変動費、費用と収益の関係	
第 5 回	損益分岐点 (2)	損益分岐点を計算する	
第 6 回	規模の経済性、外部経済	大量生産・大量販売	
第 7 回	企業成長論	競争と比較優位、企業戦略、輸出戦略	
第 8 回	近代経済成長論	日本の成功は何故か	
第 9 回	日本の産業化の経験から	初期の近代化・産業政策とその評価	
第 10 回	セットアップコスト論	産業政策と貿易立国、幼稚産業育成論	
第 11 回	経済成長論	付加価値生産性と賃金、成長政策論	
第 12 回	乗用車産業論	産業政策と経営者、新規参入	
第 13 回	ケーススタディ (1)	事例研究とその要点	
第 14 回	ケーススタディ (2)	事例研究とその要点	
第 15 回	試験対策	復習	

# 経済

授業番号	B202100001		
科目名 (英語表記)	産業論 II (Industrial theory II)		
担当者 (英語表記)	森谷 英樹 (Hideki Moriya)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	産業および企業活動を観察して興味を持ち、自分の人生にプラスになる多くの智恵や手かがりを得てほしい。講義の前半は公的規制をめぐる問題を取り扱い、後半は国際化するアジア、日本、米国の産業について取り扱う。		
授業の進め方 (履修条件など)	板書と説明をノートにとりまとめる形で進める。教科書はないが随時プリントを配布して教材にする。基礎的な常識 (理論)、過去の経験 (歴史的な事実)、現状と問題点 (政策課題) など分かりやすく説明する。		
成績評価方法	定期試験 90%、出席 10%		
基準	試験では自筆ノートのみ持ち込み可。ノートがなければ合格は困難であろう。		
授業の予習・復習	予習：授業の始めに前回の復習をする。 復習：終わったあと分からないことについて質問を認める。		
教科書	使用しない		
参考文献	植草益『公約規制の経済学』筑摩書房		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	授業の概要と目標	講義の聞き方、ノートのとおり方、まとめ方	
第 2 回	公的規制の経済学	ルールと裁量、自由と責任	
第 3 回	市場の失敗	政府の規制とその根拠、目標	
第 4 回	規制の目標と現実	参入規制、価格規制をめぐる議論	
第 5 回	規制緩和論と事例研究	電力、鉄道、水道、政策としての問題	
第 6 回	総括原価主義と問題点	特定都市鉄道整備積立金制度	
第 7 回	中間とりまとめ	規制緩和論について (事例研究と要点)	
第 8 回	産業育成と外国貿易	貿易立国は可能か	
第 9 回	世界最適調達	JC ペニーの事例	
第 10 回	技術知識と公共財的性格	外部経済と市場指向の製品戦略	
第 11 回	経済成長と工業の発展	雁行形態論、空洞化論	
第 12 回	産業内貿易と国際分業	付加価値を求めて	
第 13 回	ケーススタディ (1)	事例研究とその要点	
第 14 回	ケーススタディ (2)	事例研究とその要点	
第 15 回	試験対策	復習	

# 経済

授業番号	B200340001		
科目名 (英語表記)	時事英語 III (Current English I I I)		
担当者 (英語表記)	内野 泰子 (Yasuko Uchino)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	グローバル化が進む中、世界で起こっている色々な出来事の多くは私たちの生活と密接に関連しています。このクラスでは、テレビ、インターネット、新聞など種々のメディアで報じられた最新の英語ニュースをフォローして英語の基礎力アップをはかるとともに、私たちを取り巻く様々な出来事や問題への関心を深め、世界に向けて視野を広げていきましょう。		
授業の進め方 (履修条件など)	様々な分野の平易な最新英語ニュースをとりあげ、時事英語の特徴や時事英語でよく使われる表現を学習し、時事英語理解の基礎力を固めます。また、ニュースの背景情報を知るため、日本語のニュース記事資料も適宜配布し、時事問題についての理解も一緒に深めていきましょう。テレビ・ニュース番組などを使ってリスニング活動も行います。最初はスポーツ、エンタメ、天気などなじみやすいトピックから始め、社会、政治、経済などに関する話題に進んでいきます。		
成績評価方法	平常点 50 パーセント、期末テスト 50 パーセントで評価します。		
基準			
授業の予習・復習	授業内で指示しますので、指示に必ず従って次の授業にのぞんで下さい。		
教科書	最新英語ニュースの配布プリント (教科書は使いません。)		
参考文献	必要に応じて授業内で指示します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	導入	時事英語とは？	
第 2 回	トピック 1-1 (身近な話題)	スポーツ・エンタメ (野球、サッカー、映画など)	
第 3 回	トピック 1-2 (身近な話題)	スポーツ・エンタメ	
第 4 回	トピック 2-1 (自然をめぐるニュース)	天気・天候・災害	
第 5 回	トピック 2-2 (自然をめぐるニュース)	天気・天候・災害	
第 6 回	トピック 3-1 (事件・事故をめぐるニュース)	最近話題になった事件	
第 7 回	トピック 3-2 (事件・事故をめぐるニュース)	最近話題となった事故	
第 8 回	トピック 4-1 (環境・社会問題をめぐるニュース)	環境汚染・エネルギー問題など	
第 9 回	トピック 4-2 (環境・社会問題をめぐるニュース)	高齢化社会、就職事情など	
第 10 回	トピック 5-1 (国内政治ニュース)	安倍政権の動向、都知事選挙など	
第 11 回	トピック 5-2 (国内経済ニュース)	最新動向 (アベノミクスの現状、株式市場、TPP など)	
第 12 回	トピック 6-1 (国際政治ニュース)	米国・欧州・中国などをめぐる最新海外事情	
第 13 回	トピック 6-2 (国際経済ニュース)	国際貿易、国際金融などをめぐる最新動向	
第 14 回	トピック 7-1	その他	
第 15 回	トピック 7-2	その他、まとめ	



# 経済

授業番号	B200350001				
科目名 (英語表記)	時事英語 IV (Current English I V)				
担当者 (英語表記)	内野 泰子 (Yasuko Uchino)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	グローバル化が進む中、世界で起こっている色々な出来事の多くは私たちの生活と密接に関連しています。このクラスでは、テレビ、インターネット、新聞などの種々のメディアで報じられた最新の英語ニュースをフォローして英語の基礎力アップをはかるとともに、私たちをとりまく様々な出来事や問題への関心を深め、世界に向けて視野を広げていきましょう。				
授業の進め方 (履修条件など)	様々な分野の平易な最新英語ニュースをとりあげ、時事英語の特徴や時事英語でよく使われる表現を学習し、時事英語理解の基礎力を固めます。また、ニュースの背景情報を知るため、日本語のニュース記事資料も適宜配布し、時事問題についての理解も一緒に深めていきましょう。平易なテレビ・ニュース番組を使ってリスニング活動も行います。				
成績評価方法	平常点 50 パーセント、期末テスト 50 パーセントで評価します。				
基準					
授業の予習・復習	授業内で指示しますので、指示に必ず従って次の授業にのぞんで下さい。				
教科書	最新英語ニュースの配布プリント (教科書は使いません。)				
参考文献	必要に応じて授業内で指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	導入	夏休み中の重大ニュース			
第 2 回	トピック 1-1 (ビジネス・ニュース)	日本企業の動向			
第 3 回	トピック 1-2 (ビジネス・ニュース)	日本企業の海外事業など			
第 4 回	トピック 2-1 (政治・経済ニュース)	最新動向 1			
第 5 回	トピック 2-2 (政治・経済ニュース)	最新動向 2			
第 6 回	トピック 3-1 (スポーツ・エンタメ・ニュース)	スポーツのビッグ・イベント			
第 7 回	トピック 3-2 (スポーツ・エンタメ・ニュース)	最新エンタメ情報			
第 8 回	トピック 4-1 (環境・社会問題)	日本を取り巻く環境、エネルギー事情など			
第 9 回	トピック 4-2 (環境・社会問題)	雇用情勢、食糧事情など			
第 10 回	トピック 5-1 (サイエンス関連)	宇宙・科学・医療の最新動向 1			
第 11 回	トピック 5-2 (サイエンス関連)	宇宙・科学・医療の最新動向 2			
第 12 回	トピック 6-1 (事件・事故・災害)	最新情報 1			
第 13 回	トピック 6-2 (事件・事故・災害)	最新情報 2			
第 14 回	トピック 7-1	その他			
第 15 回	トピック 7-2	その他、まとめ			

# 経済

授業番号	B200570001		
科目名 (英語表記)	自然地理学 I (Physical geography I)		
担当者 (英語表記)	近藤 昭彦 (Akihiko Kondoh)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	自然地理学は“人と自然の関係”を扱う学問分野です。地形学、気候学、水文学、生態学を中心に自然のあり方と暮らしとの関係を、日本と世界各地の事例を通じて学びます。前期は主に地形学に関する内容を解説します。講義を通じて環境の持つ多様性、関連性、空間性、歴史性、階層性を認識する力を身につけることを目標とします。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書に沿って講義を進めますが、様々な地域の景観を観察するためプロジェクトを使って画像・写真も紹介します。発展的内容、関連情報も示しながら自然と人の関わりの総合的な理解を目指します。		
成績評価方法	定期試験の成績と授業参加態度により評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：基本は教科書を良く読むこと。 復習：教科書にない内容はノートで復習すること。関連する情報を様々な情報源から取得する習慣を身につけること。		
教科書	古今書院、杉谷・平井・松本著、風景の中の自然地理。		
参考文献	高橋日出男・小泉武栄編著「自然地理学概論」、朝倉書店、173p。 その他、講義中にその都度指示します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	講義概要概説	自然環境の仕組みについて概説する。	
第 2 回	火山 I	日本の風土を形成する火山と人間の関わり (前半)。	
第 3 回	火山 II	日本の風土を形成する火山と人間の関わり (後半)。	
第 4 回	山と川 I	地形を形成するプロセスと人間の関わり (前半)。	
第 5 回	山と川 II	地形を形成するプロセスと人間の関わり (後半)。	
第 6 回	台地と丘陵 I	暮らしと関わりの深い地形の性質 (前半)。	
第 7 回	台地と丘陵 II	暮らしと関わりの深い地形の性質 (後半)。	
第 8 回	平野 I	人間活動の主要な場である平野の性質 (前半)。	
第 9 回	平野 II	人間活動の主要な場である平野の性質 (後半)。	
第 10 回	湖沼 I	湖沼の成因と人間による改変 (前半)。	
第 11 回	湖沼 II	湖沼の成因と人間による改変 (後半)。	
第 12 回	海岸 I	海岸地形の成因と人間による改変 (前半)。	
第 13 回	海岸 II	海岸地形の成因と人間による改変 (後半)。	
第 14 回	日本の地形 I	これまでに学んだ地形を日本各地の空中写真により判読 (前半)。	
第 15 回	日本の地形 II	これまでに学んだ地形を日本各地の空中写真により判読 (後半)。	

# 経済

授業番号	B200580001				
科目名 (英語表記)	自然地理学 II (Physical geography II)				
担当者 (英語表記)	近藤 昭彦 (Akihiko Kondoh)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	自然地理学は“人と自然の関係”を扱う学問分野です。地形学、気候学、水文学、生態学を中心に自然のあり方と暮らしとの関係を、日本と世界各地の事例を通じて学びます。後期は気候・植生および災害について解説します。講義を通じて環境の持つ多様性、関連性、空間性、歴史性、階層性を認識する力を身につけることを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書と配付資料に沿って講義を進めますが、プロジェクトを使って様々な画像・写真をみながら発展的内容、関連情報を紹介します。自然と人の関わりを理解し、自然の恵みを楽しむ態度の習得を目指します。				
成績評価方法	定期試験の成績と授業参加態度により評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：基本は教科書を良く読むこと。 復習：教科書にない内容はノートで復習すること。関連する情報を様々な情報源から取得する習慣を身につけること。				
教科書	今書院、杉谷・平井・松本著、風景の中の自然地理。				
参考文献	高橋日出男・小泉武栄編著「自然地理学概論」、朝倉書店、173p。 その他、講義中にその都度指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義概要概説	自然環境と人間の関わりについて概説する。			
第 2 回	森林と人間 I	森林の景観の形成と人との関わり (前半)。			
第 3 回	森林と人間 II	森林の景観の形成と人との関わり (後半)。			
第 4 回	水と森林 I	人の暮らしに関わる森林の機能 (前半)。			
第 5 回	水と森林 II	人の暮らしに関わる森林の機能 (後半)。			
第 6 回	沙漠と沙漠化	乾燥・半乾燥地域の環境と人間の関係。			
第 7 回	気象・気候と人間 I	気象・気候がもたらす恵みと災いについて (前半)。			
第 8 回	気象・気候と人間 II	気象・気候がもたらす恵みと災いについて (後半)。			
第 9 回	自然災害 I	低地の災害－水害。			
第 10 回	自然災害 II	山地の災害－地すべり、土石流。			
第 11 回	自然災害 III	地震・津波災害。			
第 12 回	自然災害 IV	火山災害。			
第 13 回	自然災害 V	その他の災害。			
第 14 回	地球温暖化と人間 I	気候変動と人の暮らし。			
第 15 回	地球温暖化と人間 II	食糧・水・エネルギー問題と地球温暖化。			

# 経済

授業番号	B200610001				
科目名 (英語表記)	実践会話 I (Practice conversation I)			A	
担当者 (英語表記)	斉木 かおり (Kaori Saiki)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日常の会話表現を豊かにし、自分の考え、意見を相手に分かりやすく伝えられるようにする。社会や周辺の出来事に目を向け、たくさんの言葉や情報に触れ、自分らしい表現で会話できるようにする。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義だけではなく、ロールプレイ、会話、スピーチなど実践中心の授業です。演習形式で、コミュニケーションスキルを楽しく身につけていきます。				
成績評価方法	課題の発表内容及びスピーチ、レポートで評価。授業への積極的な取り組み、意欲的な発表を重視します。				
基準					
授業の予習・復習	授業に応じてテーマを考えたり 資料を集めたりするなど、課題が出る場合があります。				
教科書	講義ごとに、雑誌、写真、新聞など身近なものを使用。 また プリントをワークシートとして配布。				
参考文献	特になし				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、コミュニケーションの大切さ			
第 2 回	声を出そう	聞きやすい声とは? 発声、滑舌トレーニング			
第 3 回	コミュニケーションとは	コミュニケーションの基礎概念			
第 4 回	非言語コミュニケーションとは	身振り、手振り、表情、視線、体を使ったパフォーマンス			
第 5 回	実践会話術 I	わかりやすく話すために必要なことは			
第 6 回	実践会話術 II	自分の考えを整理し、伝える。			
第 7 回	実践会話術 III	実際に自分の意見を発表。他者の意見を評価する。			
第 8 回	情報収集	気になる話題を集め、会話にいかす。			
第 9 回	豊かな表現 I	状況、情景描写にチャレンジ			
第 10 回	豊かな表現 II	実際にプレゼンテーションをしてみる			
第 11 回	パネルトーク I	写真をもとに、話を広げよう。			
第 12 回	パネルトーク II	パネルを使って、紙芝居のように話を組み立てる。			
第 13 回	グループディスカッション	テーマを決めて討論 賛成反対の意見を主張する			
第 14 回	スピーチ	実践ショートスピーチに挑戦			
第 15 回	前期まとめ	前期の振り返りレポート、質疑応答			

経済

授業番号	B200610002				
科目名 (英語表記)	実践会話 I (Practice conversation I)			B	
担当者 (英語表記)	斉木 かおり (Kaori Saiki)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日常の会話表現を豊かにし、自分の考え、意見を相手に分かりやすく伝えられるようにする。社会や周辺の出来事に目を向け、たくさんの言葉や情報に触れ、自分らしい表現で会話できるようにする。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義だけではなく、ロールプレイ、会話、スピーチなど実践中心の授業です。演習形式で、コミュニケーションスキルを楽しく身につけていきます。				
成績評価方法	課題の発表内容及びスピーチ、レポートで評価。授業への積極的な取り組み、意欲的な発表を重視します。				
基準					
授業の予習・復習	授業に応じてテーマを考えたり 資料を集めたりするなど、課題が出る場合があります。				
教科書	講義ごとに、雑誌、写真、新聞など身近なものを使用。 また プリントをワークシートとして配布。				
参考文献	特になし				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、コミュニケーションの大切さ			
第 2 回	声を出そう	聞きやすい声とは? 発声、滑舌トレーニング			
第 3 回	コミュニケーションとは	コミュニケーションの基礎概念			
第 4 回	非言語コミュニケーションとは	身振り、手振り、表情、視線、体を使ったパフォーマンス			
第 5 回	実践会話術 I	わかりやすく話すために必要なことは			
第 6 回	実践会話術 II	自分の考えを整理し、伝える。			
第 7 回	実践会話術 III	実際に自分の意見を発表。他者の意見を評価する。			
第 8 回	情報収集	気になる話題を集め、会話にいかす。			
第 9 回	豊かな表現 I	状況、情景描写にチャレンジ			
第 10 回	豊かな表現 II	実際にプレゼンテーションをしてみる			
第 11 回	パネルトーク I	写真をもとに、話を広げよう。			
第 12 回	パネルトーク II	パネルを使って、紙芝居のように話を組み立てる。			
第 13 回	グループディスカッション	テーマを決めて討論 賛成反対の意見を主張する			
第 14 回	スピーチ	実践ショートスピーチに挑戦			
第 15 回	前期まとめ	前期の振り返りレポート、質疑応答			

経済

授業番号	B200620001				
科目名 (英語表記)	実践会話 II (Practice conversation II)			A	
担当者 (英語表記)	斉木 かおり (Kaori Saiki)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日常の会話表現を豊かにし、自分の考えを相手にわかりやすく伝えることを目指します。コミュニケーション能力を高めることはもちろん、就職活動に役立つ会話術やマナーも習得する。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義だけではなく、ロールプレイ、対話、スピーチなど実践中心の授業です。テーマによっては、小テストもあり、身体全体で自己表現法を習得してもらいます。				
成績評価方法	発表内容及びスピーチ、小テスト、レポート、授業への取り組み、積極的な参加を評価します。				
基準					
授業の予習・復習	講義によっては、テーマを考えてくるなどの課題が、またスピーチやレポートの準備が必要です。				
教科書	新聞、雑誌等を使用。プリントを作成し、ワークシートとして配布。				
参考文献	特になし				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	前期のまとめ	自己紹介、前期の振り返り			
第 2 回	スピーチ実践	夏休みの出来事、体験を伝える。			
第 3 回	プレゼンテーション	図表を使って、伝えるおもしろさを習得する。			
第 4 回	敬語 I	敬語の基本を学ぶ			
第 5 回	敬語 II	ロールプレイやプリントワークで実践的に学ぶ。			
第 6 回	敬語 III	小テスト 実践敬語が身についたか確認します。			
第 7 回	グループディスカッション	相手の意見を聞きながらいかに主張するか。			
第 8 回	自己 PR I	自分史を作ってセールスポイントをさがす。			
第 9 回	自己 PR II	実践自己 PR あなたの印象は？			
第 10 回	マナーについて	学生、社会人としてのマナーとは？			
第 11 回	就職面接の準備①	好印象を持たれるには？			
第 12 回	就職面接の準備②	志望理由、将来のビジョンを考える			
第 13 回	面接実践	模擬面接をやってみましょう			
第 14 回	即興スピーチ	今までの力だめし。即興スピーチにチャレンジしましょう。			
第 15 回	後期のまとめ	後期の振り返りレポート、質疑応答			

経済

授業番号	B200620002				
科目名 (英語表記)	実践会話 II (Practice conversation II)			B	
担当者 (英語表記)	斉木 かおり (Kaori Saiki)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日常の会話表現を豊かにし、自分の考えを相手にわかりやすく伝えることを目指します。コミュニケーション能力を高めることはもちろん、就職活動に役立つ会話術やマナーも習得する。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義だけではなく、ロールプレイ、対話、スピーチなど実践中心の授業です。テーマによっては、小テストもあり、身体全体で自己表現法を習得してもらいます。				
成績評価方法	発表内容及びスピーチ、小テスト、レポート、授業への取り組み、積極的な参加を評価します。				
基準					
授業の予習・復習	講義によっては、テーマを考えてくるなどの課題が、またスピーチやレポートの準備が必要です。				
教科書	新聞、雑誌等を使用。プリントを作成し、ワークシートとして配布。				
参考文献	特になし				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	前期のまとめ	自己紹介、前期の振り返り			
第 2 回	スピーチ実践	夏休みの出来事、体験を伝える。			
第 3 回	プレゼンテーション	図表を使って、伝えるおもしろさを習得する。			
第 4 回	敬語 I	敬語の基本を学ぶ			
第 5 回	敬語 II	ロールプレイやプリントワークで実践的に学ぶ。			
第 6 回	敬語 III	小テスト 実践敬語が身についたか確認します。			
第 7 回	グループディスカッション	相手の意見を聞きながらいかに主張するか。			
第 8 回	自己 PR I	自分史を作ってセールスポイントをさがす。			
第 9 回	自己 PR II	実践自己 PR あなたの印象は？			
第 10 回	マナーについて	学生、社会人としてのマナーとは？			
第 11 回	就職面接の準備①	好印象を持たれるには？			
第 12 回	就職面接の準備②	志望理由、将来のビジョンを考える			
第 13 回	面接実践	模擬面接をやってみましょう			
第 14 回	即興スピーチ	今までの力だめし。即興スピーチにチャレンジしましょう。			
第 15 回	後期のまとめ	後期の振り返りレポート、質疑応答			

経済

授業番号	B201800001				
科目名 (英語表記)	シミュレーション論 (Simulation theory)				
担当者 (英語表記)	森島 隆晴 (Takaharu Morishima)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	授業のねらいは、不確実性の下でのさまざまな経営環境を確率モデルとして数理的に捉え、Excel を用いて経営シミュレーションを行う方法を学ぶことで、到達目標はそのための知識と技能を習得することです。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件は、Excel の数式・関数を用いた操作ができることです。人数制限があるため履修希望者は必ず第 1 回目から出席してください。1 回目を欠席した場合、受講できなこともあります。講義と演習を行い、毎回課題を提出してもらいます。				
成績評価方法	期末試験 (実技) (60%)、提出課題 (40%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	授業内容、用語について予習してください。その回の内容は次回以降利用しますのでやり方を復習しておいてください。				
教科書	教科書は使いません。代わりに毎回資料とデータを配布します。				
参考文献	荒木勉、栗原和夫「Excel でまなぶ経営科学入門シリーズ IV シミュレーション」実教出版				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認、講義概要、Excel の操作確認			
第 2 回	シミュレーションとは	経営問題のモデル化とシミュレーション			
第 3 回	ランダムネス検定	シミュレーション可能な確率的現象かどうかを調べる			
第 4 回	度数分布と累積分布	確率的現象を確率モデルで表す			
第 5 回	カイ 2 乗検定	確率モデルの再現性を確認する			
第 6 回	決定問題 1	中古バイクの販売方法の決定 ( その 1 )			
第 7 回	決定問題 2	中古バイクの販売方法の決定 ( その 2 )			
第 8 回	決定問題 3	取引相手の決定			
第 9 回	決定問題 4	採用試験の実施方法の決定			
第 10 回	在庫問題 1	在庫なしの在庫問題			
第 11 回	在庫問題 2	定期発注方式			
第 12 回	在庫問題 3	発注点発注方式			
第 13 回	待ち行列 1	定期到着ランダムサービス			
第 14 回	待ち行列 2	ランダム到着ランダムサービス			
第 15 回	まとめ	模擬試験と解説			



# 経済

授業番号	B200560001				
科目名 (英語表記)	社会学概論 (Sociology introduction)				
担当者 (英語表記)	菊池 真弓 (Mayumi Kikuchi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本授業では、社会学的な理論や方法論、社会学の歴史を学ぶことを目的とする。また、新聞や統計・世論調査、DVD 教材、ロールプレイなどに基づき、現代社会に起こっている社会問題と課題について学び、体験し考え、討論につなげる力をつけることを目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業の進め方は、社会学の理論や方法論、歴史などの基礎を学びながら、私たちの身近な人間関係、集団との関係、現代社会に起こっている少子高齢化、環境、ジェンダーなどの問題とその課題について考え、報告・討論を行う。				
成績評価方法 基準	レポート課題及び口頭発表 (70%)、授業内の課題 (10%)、授業態度 (20%) を総合的に勘案して評価する。				
授業の予習・復習	予習：次回授業のキーワードに関する資料収集や事例検討を行い、身近な社会問題に関心をもって授業に臨むこと。 復習：毎回授業の終了時に授業を振り返り、質問時間を設ける。				
教科書	教科書は使用しない。新聞や統計・世論調査などの資料を随時配布する。				
参考文献	秋元・石川・羽田・袖井『社会学入門』有斐閣新書、1991 年 森下伸也『社会学がわかる事典』日本実業出版、2000 年				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	社会学とは何か	社会学的な視点・方法			
第 2 回	社会的存在としての人間	社会集団と文化			
第 3 回	社会学の歴史	社会学の成立・確立・展開			
第 4 回	家族とは何か	現代家族の機能・役割とその変化			
第 5 回	地域社会とは何か	都市と農村の現状と課題、コミュニティ形成			
第 6 回	社会問題とは何か	社会問題の定義とその捉え方			
第 7 回	現代社会の社会問題 (1)	少子高齢社会の現状と課題			
第 8 回	現代社会の社会問題 (2)	環境問題の現状と課題			
第 9 回	現代社会の社会問題 (3)	社会福祉の現状と課題			
第 10 回	現代社会の社会問題 (4)	ジェンダーの現状と課題			
第 11 回	現代社会の社会問題 (5)	災害・復興の現状と課題			
第 12 回	社会調査・社会計画	社会調査・社会計画について			
第 13 回	社会問題を考える (1)	報告・討論 (個人・家族・地域の視点から)			
第 14 回	社会問題を考える (2)	報告・討論 (マクロの視点から)			
第 15 回	まとめ	全体のまとめと今後の展望			

# 経済

授業番号	B201810001				
科目名 (英語表記)	社会思想史 II (History of Social Thought II)				
担当者 (英語表記)	折原 裕 (Yutaka Orihara)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	ヨーロッパ社会思想史の後半期について理解します。				
授業の進め方 (履修条件など)	市民革命以後の、ヨーロッパ社会思想史の歩みの後半期を概観します。種々の思想家の思想像のみならず、その人物像や、時代背景についても、できる限り触れることにしたいと思います。				
成績評価方法	定期試験 (60%)、授業内小テスト (40%)。				
基準					
授業の予習・復習	予習：分野にこだわらず多くの書物を読んで下さい。 復習：簡単でいいから励行して下さい。				
教科書	市販のテキストは用いず、毎回講義の概要を記載した印刷物「講義メモ」を配布します。これに、講義中の指示などによって学生諸君が適宜書き込みをほどこしたものが、テキスト兼ノートになります。				
参考文献	土屋恵一郎『ベンサムという男』青土社、ナガイ・ケイ『喧嘩屋マルクス』富士書房、上野千鶴子『家父長制と資本制』岩波書店、上野千鶴子『主婦論争を読む』勁草書房 (すべて、メディアセンター所定のコーナーに5冊ずつ常備してあります。)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	講義ガイダンス	本講義の特徴、成績について等			
第2回	アダム・スミスの思想	スミスの倫理学			
第3回	アダム・スミスの思想	スミスの経済学			
第4回	功利主義	ベンサム			
第5回	功利主義	J・S・ミル			
第6回	小テスト	小テスト			
第7回	初期社会主義	ロバート・オウエン			
第8回	初期社会主義	サン・シモン			
第9回	初期社会主義	シャルル・フーリエ			
第10回	マルクス主義	マルクスの生涯と思想			
第11回	マルクス主義	マルクスの経済学			
第12回	フェミニズム	フェミニズムの諸理論			
第13回	フェミニズム	主婦論争について			
第14回	小テスト	小テスト			
第15回	まとめ	まとめ			

経済

授業番号	B200410001		
科目名 (英語表記)	社会心理学 (Social psychology)		
担当者 (英語表記)	藤井 輝男 (Teruo Fujii)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	対人行動に関連する心理学の研究成果を概観し、人間の行動に対して他者や環境がどのように影響を及ぼしているかを心理学的に理解する。		
授業の進め方 (履修条件など)	具体的な研究例を取り上げ、わかりやすく概説する。その際、必要に応じてプリント、ビデオ、パワーポイント等を利用する。		
成績評価方法	定期試験 (80%)・レポート及びその他の課題 (20%)		
基準			
授業の予習・復習	授業内容をその都度、整理し、理解しておくこと。		
教科書	使用しない。適宜、印刷資料を配付する。		
参考文献	重野純編著「キーワードコレクション・心理学」新曜社		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて	
第2回	動 機 (1)	動機の種類について	
第3回	動 機 (2)	動機の働きについて	
第4回	動 機 (3)	日常生活における動機について	
第5回	感情、表情	シャクターの情動二要因説などを解説	
第6回	性 格 (1)	性格の記述方法について	
第7回	性 格 (2)	類型論、特性論の解説	
第8回	性 格 (3)	測定方法、性格検査について	
第9回	性 格 (4)	性格に関するの事例研究の紹介	
第10回	社会と個人	個人が集団からどのように影響を受けるか	
第11回	態度変化 (1)	態度変化はどのような状況で生じるのか	
第12回	態度変化 (2)	説得行動に関する代表的研究の紹介	
第13回	態度変化 (3)	日常生活における説得行動について	
第14回	対人魅力	対人魅力を規定している要因について	
第15回	まとめ	まとめと質問	

# 経済

授業番号	B200930001		
科目名 (英語表記)	社会政策 I (Social policy I)		
担当者 (英語表記)	星 真実 (Masami Hoshi)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	「社会政策」とは、歴史的には労働運動にたいする国家の譲歩策として成立した。そこで、本講義では、労働経済論の概説的意味を含めて、広く労働問題に関わって考察を行う。具体的には、労働時間、賃金、雇用などの各論を概説する。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。		
成績評価方法	授業内小テスト (感想文) と、期末試験により判定する。		
基準			
授業の予習・復習	講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。		
教科書	特に使用しない。		
参考文献	土六文人『社会政策制度史論』啓文社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス	
第 2 回	はじめに	「社会政策」とは何か	
第 3 回	社会政策の制度体系	労働経済と社会保障	
第 4 回	労働問題に関わる社会政策	労働時間用語の多様化	
第 5 回	労働問題に関わる社会政策	労働時間の歴史的推移と規制	
第 6 回	労働問題に関わる社会政策	日本の労働時間問題	
第 7 回	労働問題に関わる社会政策	労働時間と賃金の実態	
第 8 回	労働問題に関わる社会政策	雇用・失業問題	
第 9 回	労働問題に関わる社会政策	雇用情勢の現況	
第 10 回	労働問題に関わる社会政策	フリーターの実態 I	
第 11 回	労働問題に関わる社会政策	フリーターの実態 II	
第 12 回	労働問題に関わる社会政策	フリーターの実態 III	
第 13 回	労働問題に関わる社会政策	「日本の経営」とは何か	
第 14 回	労働問題に関わる社会政策	閉鎖的労働市場について	
第 15 回	おわりに	まとめ	

# 経済

授業番号	B200940001		
科目名 (英語表記)	社会政策 II (Social policy II)		
担当者 (英語表記)	星 真実 (Masami Hoshi)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	「社会政策」とは、現段階では国民生活全般に大きな影響を与える学問である。そこで、本講義では、社会保障論の概論的意味を含めて、広く生活問題に関わって考察を行う。具体的には、労働災害、介護、生活保護、社会福祉などの各論を概説する。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。		
成績評価方法	授業内小テスト (感想文) と、期末試験により判定する。		
基準			
授業の予習・復習	講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。		
教科書	特に使用しない。		
参考文献	土穴文人『社会政策制度史論』啓文社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス	
第 2 回	はじめに	「社会政策」とは何か	
第 3 回	社会政策の制度体系	労働経済と社会保障	
第 4 回	生活問題に関わる社会政策	健康保険	
第 5 回	生活問題に関わる社会政策	公的年金制度	
第 6 回	生活問題に関わる社会政策	労災保険と雇用保険	
第 7 回	生活問題に関わる社会政策	介護保険と要介護認定	
第 8 回	生活問題に関わる社会政策	介護保険の実施実態	
第 9 回	生活問題に関わる社会政策	生活保護とは	
第 10 回	生活問題に関わる社会政策	8 つの法定扶助と児童手当	
第 11 回	生活問題に関わる社会政策	社会福祉とは	
第 12 回	生活問題に関わる社会政策	パートタイマーの実態 I	
第 13 回	生活問題に関わる社会政策	パートタイマーの実態 II	
第 14 回	生活問題に関わる社会政策	不安定就業層について	
第 15 回	おわりに	まとめ	

経済

授業番号	B201130001		
科目名 (英語表記)	社会福祉論 (Social welfare theory)		
担当者 (英語表記)	星 真実 (Masami Hoshi)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	「社会福祉」という学問は限りなく拡大解釈可能であるが、本講義では社会保障制度の一環としての「狭義」の社会福祉について考察する。その歴史的展開過程を辿り、国際比較を交えつつ、生活最低限という視点から分析を行う。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。		
成績評価方法	授業内小テスト (感想文) と、期末試験により判定する。		
基準			
授業の予習・復習	講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。		
教科書	特に使用しない。		
参考文献	寺久保光良 『「福祉」が人を殺すとき』 あけび書房		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス	
第 2 回	はじめに	「社会福祉論」の学問領域	
第 3 回	救貧制度史	「エリザベス救貧法」と貧困観	
第 4 回	救貧制度史	「改正救貧法」と貧困観	
第 5 回	救貧制度史	公衆衛生について	
第 6 回	救貧制度史	日本の救貧制度史	
第 7 回	公的扶助論	生活保護法とは	
第 8 回	公的扶助論	生活保護をめぐる訴訟・事件 I	
第 9 回	公的扶助論	生活保護をめぐる訴訟・事件 II	
第 10 回	公的扶助論	生活保護の現況	
第 11 回	公的扶助論	生活保護と公的年金制度	
第 12 回	社会福祉の三本柱	高齢者福祉	
第 13 回	社会福祉の三本柱	障がい者福祉	
第 14 回	社会福祉の三本柱	児童福祉	
第 15 回	おわりに	まとめ	

経済

授業番号	B201110001				
科目名 (英語表記)	社会保障論 I (Theory of social security I)				
担当者 (英語表記)	星 真実 (Masami Hoshi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	社会保障成立に至るまでの長い歴史的過程を辿ることから、その本質とは何かについて解明し、その目的は「生存権保障」であることを確認する。現代の財源論主導の社会保障のあり方についても検討を加える。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。				
成績評価方法	授業内小テスト (感想文) と、期末試験により判定する。				
基準					
授業の予習・復習	講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。				
教科書	特に使用しない。				
参考文献	工藤恒夫『資本制社会保障の一般理論』新日本出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス			
第 2 回	社会保障の概念	社会保障とは何か			
第 3 回	社会保障の概念	方法的視点の理論的課題			
第 4 回	資本主義と生活問題	自助原則とは何か			
第 5 回	資本主義と生活問題	賃金保障の意義			
第 6 回	社会保障前史	救貧・共済体制			
第 7 回	社会保障前史	社会保険の成立			
第 8 回	社会保障前史	社会保険の本質と制約			
第 9 回	社会保険から社会保障へ	イギリスの場合			
第 10 回	社会保険から社会保障へ	ドイツの場合			
第 11 回	社会保険から社会保障へ	第二次大戦後の展開過程			
第 12 回	社会保障の本質	目的 = 生存権保障について			
第 13 回	社会保障の本質	制度化原則について I			
第 14 回	社会保障の本質	制度化原則について II			
第 15 回	おわりに	まとめ			

経済

授業番号	B201120001				
科目名 (英語表記)	社会保障論 II (Theory of social security II)				
担当者 (英語表記)	星 真実 (Masami Hoshi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	現代社会において、社会保障にはいかなる問題があるのか。高齢化社会の進行に伴う年金・医療・介護という現在抱えている社会問題を中心に、国際比較を交えつつ、わが国の社会保障の特質について検討する。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。				
成績評価方法	授業内小テスト (感想文) と、期末試験により判定する。				
基準					
授業の予習・復習	講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。				
教科書	特に使用しない。				
参考文献	工藤恒夫『資本制社会保障の一般理論』新日本出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス			
第 2 回	日本の社会保障史	戦後の生活保障体制			
第 3 回	日本の社会保障史	日本の社会保障計画			
第 4 回	日本の社会保障史	国民皆年金・皆保険体制			
第 5 回	日本の社会保障史	1980 年以降の「改革」			
第 6 回	現代日本の社会保障	公的年金とは何か			
第 7 回	現代日本の社会保障	日本の公的年金制度の問題点			
第 8 回	現代日本の社会保障	医療保障とは何か			
第 9 回	現代日本の社会保障	日本の医療保険の問題点			
第 10 回	現代日本の社会保障	日本の医療供給体制の問題点			
第 11 回	現代日本の社会保障	介護保険とは何か			
第 12 回	現代日本の社会保障	日本の介護問題			
第 13 回	現代日本の社会保障	介護をめぐる死について			
第 14 回	社会保障の本質	財政原則について			
第 15 回	おわりに	まとめ			



経済

授業番号	B202620001				
科目名 (英語表記)	生涯スポーツ実習 I (Lifelong sport training I)				
担当者 (英語表記)	高岡 英氣 (Hideki Takaoka)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	「生涯スポーツ」の観点からスポーツ・体操等の指導を行うための知識・技能を学ぶ。すなわち、将来、地域社会において、若年層から高齢層まで、競技志向からレジャー・健康志向まで、様々なニーズを持った人々への指導を行う上で有効な技術を身につける。				
授業の進め方 (履修条件など)	学内体育館にて、健康促進や能力開発等の効果があるリラクゼーション体操「ゆる体操」、およびバドミントンを中心に行う。スポーツウェアおよびインドア用シューズを必ず着用する。				
成績評価方法	授業内課題 (70%)・レポート (30%)				
基準					
授業の予習・復習	授業内で取り組んだ内容を日頃のスポーツ実践に取り入れ、効果を検証してみる。				
教科書	高岡英夫著『「ゆる」身体・脳革命 不可能を可能に変える 27 の実証』講談社				
参考文献	授業内で適宜提示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法等について解説			
第 2 回	ゆる体操 (1)	手首、前腕、上腕の開発—手首ブラブラ体操、ひじクルン体操、上腕ジョウワーン体操			
第 3 回	ゆる体操 (2)	肩、堅甲部の開発—肩ユツリ回し体操、肩こりギュードサー体操、肩甲骨モゾモゾ体操			
第 4 回	ゆる体操 (3)	体幹部の開発—足ネバネバ歩き			
第 5 回	ゆる体操 (4)	股関節の開発—踵クルクル体操			
第 6 回	ゆる体操 (5)	ハムストリングの開発—ウッススリスリ体操、リアストレッチ			
第 7 回	ゆる体操 (6)	全身のリラクゼーション—寝ゆる、座ゆる			
第 8 回	ゆる体操 (7)	対人間の相互調整法—脊椎通し			
第 9 回	バドミントン (1)	様々な遊戯の実践によるバドミントンの歴史の追体験			
第 10 回	バドミントン (2)	基本的なラケット操作、身体操作の学習			
第 11 回	バドミントン (3)	サービスと各種フライトの学習			
第 12 回	バドミントン (4)	足さばき、移動法の学習			
第 13 回	バドミントン (5)	基本的なルール理解とゲームの実践			
第 14 回	バドミントン (6)	シングルスゲームの練習と実践			
第 15 回	バドミントン (7)	ダブルスゲームの練習と実践			

経済

授業番号	B202630001				
科目名 (英語表記)	生涯スポーツ実習 II (Lifelong sport training II)				
担当者 (英語表記)	高岡 英氣 (Hideki Takaoka)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	「生涯スポーツ」の観点からスポーツ・体操等の指導を行うための知識・技能を学ぶ。すなわち、将来、地域社会において、若年層から高齢層まで、競技志向からレジャー・健康志向まで、様々なニーズを持った人々への指導を行う上で有効な技術を身につける。				
授業の進め方 (履修条件など)	学内体育館にて、バスケットボール、バレーボールの基本的なルール、技術、戦術を学び、各種ゲームを実践する。スポーツウェアおよびインドア用シューズを必ず着用する。				
成績評価方法	授業内課題 (70%)・レポート (30%)				
基準					
授業の予習・復習	授業内で取り組んだ内容を日頃のスポーツ実践に取り入れ、効果を検証してみる。				
教科書	特になし				
参考文献	授業内で適宜提示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法等について解説			
第 2 回	バスケットボール (1)	基本技術の習得 (1)ーパス			
第 3 回	バスケットボール (2)	基本技術の習得 (2)ードリブル			
第 4 回	バスケットボール (3)	基本技術の習得 (3)ーシュート			
第 5 回	バスケットボール (4)	攻撃と防御 (1)ーハーフコートでの 2 対 2 および 3 対 3 の練習			
第 6 回	バスケットボール (5)	攻撃と防御 (2)ー 5 対 5 でのミニゲーム			
第 7 回	バスケットボール (6)	ルールの理解とゲームの実践 (1)ーリーグ戦形式によるゲーム			
第 8 回	バスケットボール (7)	ルールの理解とゲームの実践 (2)ートーナメント戦形式によるゲーム			
第 9 回	バレーボール (1)	基本技術の習得 (1)ーオーバーハンドパス、アンダーハンドパス			
第 10 回	バレーボール (2)	基本技術の習得 (2)ースパイク			
第 11 回	バレーボール (3)	基本技術の習得 (3)ーサーブ			
第 12 回	バレーボール (4)	基本技術の習得 (4)ーレシーブ、ブロック			
第 13 回	バレーボール (5)	ミニゲームーチーム編成とプレイヤーの役割			
第 14 回	バレーボール (6)	6 人制ゲーム (1)ールールの理解と審判法			
第 15 回	バレーボール (7)	6 人制ゲーム (2)ーチーム戦術			

経済

授業番号	B203000001				
科目名 (英語表記)	商業科教材研究 (Department teaching-materials research of commerce)				
担当者 (英語表記)	坂本 義孝 (Yoshitaka Sakamoto)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	商業科教員としての指導力、実践力の育成を主たる目標とし、各科目の具体的な指導法を身に付けさせる。				
授業の進め方 (履修条件など)	指導計画や学習指導案を実際に作成し、模擬授業をとおして学習指導にかかる計画、実施、評価についての実践力がつくように進める。 なお、「商業科指導法」を履修・修得済であること。				
成績評価方法	レポート提出、平常点、定期試験、その他の小テストの結果を勘案し、評価する。				
基準					
授業の予習・復習	その都度指示する。				
教科書	「高等学校学習指導要領解説商業編」文部科学省				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	学習指導の工夫 (1)	学習指導計画について			
第2回	学習指導の工夫 (2)	指導形態や指導方法について			
第3回	学習指導の工夫 (3)	教科書や副教材について			
第4回	学習指導案 (1)	指導案の意義とその作成方法			
第5回	学習指導案 (2)	模擬授業用指導案の検討			
第6回	模擬授業 (1)	基礎的な科目による			
第7回	模擬授業 (2)	マーケティング分野の科目による			
第8回	模擬授業 (3)	ビジネス経済分野の科目による			
第9回	模擬授業 (4)	会計分野の科目による			
第10回	模擬授業 (5)	ビジネス情報分野の科目による			
第11回	教育課程の編成 (1)	教育課程の意義とその編成			
第12回	教育課程の編成 (2)	各校の教育課程表にみる特色			
第13回	商業教育と評価	評価のあり方と単位認定			
第14回	商業教育と研修	指導力の向上を目指した研修			
第15回	商業教育の展望	これまでとこれから			

経済

授業番号	B202990001				
科目名 (英語表記)	商業科指導法 (Department method of instruction of commerce)				
担当者 (英語表記)	坂本 義孝 (Yoshitaka Sakamoto)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	商業教育に関する基本的な事項について学習するとともに、商業科教師として必要な知識・技術の習得を目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	高等学校における商業教育の担当者として活躍できるように、できるだけ実践的な内容とするとともに、学生からの質問やそれへの回答をととして学生が意欲的に学習できるように進める。				
成績評価方法	レポート提出、平常点、定期試験、その他の小テストの結果を勘案し評価する。				
基準					
授業の予習・復習	その都度指示する。				
教科書	「高等学校学習指導要領解説商業編」文部科学省				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	学校教育と学習指導要領	後期中等教育としての高校教育			
第 2 回	普通教育と専門教育	普通科高校と専門高校			
第 3 回	商業高校と商業教育	産業教育としての商業教育			
第 4 回	教科「商業」の目標	商業教育の目指すもの			
第 5 回	教科の組織	学習分野と科目の構成			
第 6 回	商業諸科目の内容 (1)	基礎的な科目について			
第 7 回	商業諸科目の内容 (2)	総合的な科目について			
第 8 回	商業諸科目の内容 (3)	マーケティング分野の科目について			
第 9 回	商業諸科目の内容 (4)	ビジネス経済分野の科目について			
第 10 回	商業諸科目の内容 (5)	会計分野の科目について			
第 11 回	商業諸科目の内容 (6)	ビジネス情報分野の科目について			
第 12 回	商業に関する学科	各専門学科の特色について			
第 13 回	学習指導と資格取得	商業に関する職業資格とその指導			
第 14 回	商業教育とキャリア教育	商業高校における進路指導			
第 15 回	商業科指導法のまとめ	商業教育の現状と課題			

# 経済

授業番号	B201270001				
科目名 (英語表記)	証券経済論 I (Security Economy Theory I)				
担当者 (英語表記)	土井 修 (Osamu Doi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	現代資本主義の発展において、証券市場は必要不可欠であるが、本講義では証券および証券市場に対する基本的理解を得た上で、それらの経済全体および企業経営に果たしている役割を明らかにする。具体的には、株式、債券等の証券の特徴、証券価格の形成メカニズム、証券市場と景気循環との関係などについての基礎知識を習得し、それらを踏まえて主要資本主義国における経済発展と証券市場の相互関係を歴史的に概観する。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書に基づいて講義を進めるが、新聞・雑誌やインターネットの資料を配付し、証券および証券市場についての具体的・実的な理解を得られるよう努めたい。				
成績評価方法	試験の結果を中心としつつも、授業態度も加味する。				
基準					
授業の予習・復習	予習として教科書の該当部分を予め読んでおくこと。復習はノートを基に必ず行ってください。				
教科書	土井 修『証券経済論』(白桃書房)				
参考文献	『ゼミナール日本経済入門』(日本経済新聞出版社)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	序論	証券・証券市場についての概要と授業計画			
第 2 回	証券の種類と特徴	株式、債券等証券の種類と種別化の意味			
第 3 回	証券市場の構造と機能	金融市場と証券市場			
第 4 回	証券市場の構造と機能	株式の発行市場・流通市場			
第 5 回	証券市場の構造と機能	債券の発行市場と流通市場			
第 6 回	擬制資本	擬制資本の成立とその意義			
第 7 回	擬制資本	株式価格の変動要因			
第 8 回	擬制資本	株式価格と景気循環			
第 9 回	擬制資本	創業者利得			
第 10 回	資本主義の発展と証券市場	金融資本の成立と証券市場			
第 11 回	資本主義の発展と証券市場	イギリス			
第 12 回	資本主義の発展と証券市場	ドイツ			
第 13 回	資本主義の発展と証券市場	アメリカ			
第 14 回	資本主義の発展と証券市場	日本			
第 15 回	まとめ	授業の総括と質疑応答			

# 経済

授業番号	B201280001				
科目名 (英語表記)	証券経済論 II (Security Economy Theory II)				
担当者 (英語表記)	土井 修 (Osamu Doi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	アメリカと日本を中心として、経済の発展における証券市場の役割を歴史的・具体的に検討し、同時に、現在の日本や諸外国での国債発行残高の増大など最近の証券市場をめぐる諸問題にも触れる。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書に基づいて講義を進めるが、新聞・雑誌やインターネットの資料を配付し、証券および証券市場についての具体的・実的な理解を得られるよう努めたい。				
成績評価方法	試験結果を中心としつつも、授業態度も加味する。				
基準					
授業の予習・復習	予習として教科書の該当部分を予め読んでおくこと。復習はノートを基に必ず行ってください。				
教科書	土井 修『証券経済論』(白桃書房)				
参考文献	『ゼミナル日本経済入門』(日本経済新聞出版社)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	序論	経済発展における証券市場の役割の概要と授業計画			
第 2 回	資本主義の発展段階と証券市場	自由主義段階の証券市場 (イギリス)			
第 3 回	資本主義の発展段階と証券市場	帝国主義段階の証券市場 (アメリカ、ドイツ)			
第 4 回	アメリカ経済の発展と証券市場	金融資本の確立と証券市場			
第 5 回	アメリカ経済の発展と証券市場	第一次大戦期の証券市場			
第 6 回	アメリカ経済の発展と証券市場	1920 年代の証券市場と 1929 年恐慌			
第 7 回	アメリカ経済の発展と証券市場	1930 年代の不況と金融・証券制度改革			
第 8 回	アメリカ経済の発展と証券市場	企業金融形態の変化と証券市場 (1930 年代以降)			
第 9 回	アメリカ経済の発展と証券市場	国債の発行と証券市場の変化 (1930 年代以降)			
第 10 回	日本経済の発展と証券市場	産業資本の成立と証券市場			
第 11 回	日本経済の発展と証券市場	金融資本の成立と証券市場			
第 12 回	日本経済の発展と証券市場	第二次大戦期の証券市場			
第 13 回	日本経済の発展と証券市場	高度成長期の証券市場			
第 14 回	日本経済の発展と証券市場	不況期の証券市場			
第 15 回	まとめ	授業の総括と質疑応答			

# 経済

授業番号	B202690001		
科目名 (英語表記)	消費者行動論 (Consumer behavior)		
担当者 (英語表記)	藤井 輝男 (Teruo Fujii)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	購買→使用→廃棄にいたる消費過程、消費者の動向および消費者をとりまく文化要因など、消費者行動に関する基礎知識を修得し、消費者行動を心理学的に理解することを目指す。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書に則して、消費者行動に関する基礎知識を概説する。必要に応じてビデオやパワーポイントでの説明も行う。さらに、各テーマに関して、学生各自が分担して報告を行う。その報告内容に関して、教員が補足説明を加える形式で授業を進める。		
成績評価方法	試験 (40%)、その他の課題 (60%)		
基準			
授業の予習・復習	事前に教科書を読んで授業に臨むこと。		
教科書	杉本徹雄編著 (2012)『新・消費者理解のための心理学』福村出版		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて	
第 2 回	消費者行動の概要 1	消費行動への心理学的アプローチ	
第 3 回	消費者行動の概要 2	消費者行動とマーケティング	
第 4 回	購買意思決定 1	問題解決過程としての購買意思決定	
第 5 回	購買意思決定 2	フレーミング効果について	
第 6 回	情報探索と選択肢評価 1	消費者の情報検索について	
第 7 回	情報探索と選択肢評価 2	意思決定に関する選択肢評価と決定方略	
第 8 回	購買決定後の過程	消費者の満足、不満足について	
第 9 回	消費者の態度形成と変容	説得的コミュニケーションについて	
第 10 回	消費者の関与	購買と関与について	
第 11 回	消費者の個人特性	消費者のライフスタイルと消費者行動の関係	
第 12 回	消費者行動と状況的要因	消費者行動に影響を及ぼす様々な状況について	
第 13 回	対人・集団の要因	口コミや情報の伝播について	
第 14 回	文化的要因	サブカルチャーと消費者行動	
第 15 回	まとめ	まとめと講義全般に関する質疑、試験に関する説明	

# 経済

授業番号	B200080001				
科目名 (英語表記)	情報基礎 I (The information basics I)			A	
担当者 (英語表記)	清水 麻実 (Mami Shimizu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	パスワードの管理やネチケツト、コンピュータに関する基礎的知識を理解し、Microsoft Office Word の知識・操作方法を学習します。実社会において Word を有効活用し、ビジネスで使用される文書の作成ができるようになることを目的とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキスト必須です。Windows の基本操作やネチケツトなども学習します。Word では表・図形を含めた基本的なビジネス文書の作成ができるようにします。操作等は個々の画面に提示しながら説明します。				
成績評価方法	定期試験 (60%) 課題・授業態度 (40%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：タイピングは各自練習するようにしてください。 復習：欠席した場合は次回授業時までその分を終えておくことが望ましいです。				
教科書	30 時間でマスター Word2010 実教出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認・叩"イと叩"わ・パスワード変更			
第 2 回	Windows 入門	Windows の基本操作			
第 3 回	タイピング・ネチケツト	タイピング・E-Leaning による学習			
第 4 回	KCN の使い方	パスワード変更等			
第 5 回	G Mail	メールの送受信・ファイルの添付方法			
第 6 回	インターネット入門	インターネットの基礎知識・IE の概要・基本操作			
第 7 回	コンピュータのしくみ	五大機能・五大装置について			
第 8 回	IME 入門	文字の入力と編集・単語登録・検索			
第 9 回	Word の基礎 (MOS 検定の範囲含)	Word の概要・画面構成・設定・文字の編集			
第 10 回	ページ設定	ページ設定・図形の作成・印刷・表作成①			
第 11 回	表・オブジェクトの挿入	表作成②・ワードアート・写真・イラスト挿入			
第 12 回	グラフの挿入	組織図・図形・グラフ挿入			
第 13 回	社内文書	ビジネス文書作成① (社内文書)			
第 14 回	社外文書	ビジネス文書作成② (社外文書)			
第 15 回	まとめ	総合問題			



経済

授業番号	B200080002				
科目名 (英語表記)	情報基礎 I (The information basics I)			B	
担当者 (英語表記)	清水 麻実 (Mami Shimizu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	パスワードの管理やネチケツト、コンピュータに関する基礎的知識を理解し、Microsoft Office Word の知識・操作方法を学習します。実社会において Word を有効活用し、ビジネスで使用される文書の作成ができるようになることを目的とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキスト必須です。Windows の基本操作やネチケツトなども学習します。Word では表・図形を含めた基本的なビジネス文書の作成ができるようにします。操作等は個々の画面に提示しながら説明します。				
成績評価方法	定期試験 (60%) 課題・授業態度 (40%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：タイピングは各自練習するようにしてください。 復習：欠席した場合は次回授業時までその分を終えておくことが望ましいです。				
教科書	30 時間でマスター Word2010 実教出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認・叩"イと叩"わ・パスワード変更			
第 2 回	Windows 入門	Windows の基本操作			
第 3 回	タイピング・ネチケツト	タイピング・E-Leaning による学習			
第 4 回	KCN の使い方	パスワード変更等			
第 5 回	G Mail	メールの送受信・ファイルの添付方法			
第 6 回	インターネット入門	インターネットの基礎知識・IE の概要・基本操作			
第 7 回	コンピュータのしくみ	五大機能・五大装置について			
第 8 回	IME 入門	文字の入力と編集・単語登録・検索			
第 9 回	Word の基礎 (MOS 検定の範囲含)	Word の概要・画面構成・設定・文字の編集			
第 10 回	ページ設定	ページ設定・図形の作成・印刷・表作成①			
第 11 回	表・オブジェクトの挿入	表作成②・ワードアート・写真・イラスト挿入			
第 12 回	グラフの挿入	組織図・図形・グラフ挿入			
第 13 回	社内文書	ビジネス文書作成① (社内文書)			
第 14 回	社外文書	ビジネス文書作成② (社外文書)			
第 15 回	まとめ	総合問題			

経済

授業番号	B200080003				
科目名 (英語表記)	情報基礎 I (The information basics I)			C	
担当者 (英語表記)	清水 麻実 (Mami Shimizu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	パスワードの管理やネチケツト、コンピュータに関する基礎的知識を理解し、Microsoft Office Word の知識・操作方法を学習します。実社会において Word を有効活用し、ビジネスで使用される文書の作成ができるようになることを目的とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキスト必須です。Windows の基本操作やネチケツトなども学習します。Word では表・図形を含めた基本的なビジネス文書の作成ができるようにします。操作等は個々の画面に提示しながら説明します。				
成績評価方法	定期試験 (60%) 課題・授業態度 (40%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：タイピングは各自練習するようにしてください。 復習：欠席した場合は次回授業時までその分を終えておくことが望ましいです。				
教科書	30 時間でマスター Word2010 実教出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認・お"い"と"わ"わ・パスワード変更			
第 2 回	Windows 入門	Windows の基本操作			
第 3 回	タイピング・ネチケツト	タイピング・E-Leaning による学習			
第 4 回	KCN の使い方	パスワード変更等			
第 5 回	G Mail	メールの送受信・ファイルの添付方法			
第 6 回	インターネット入門	インターネットの基礎知識・IE の概要・基本操作			
第 7 回	コンピュータのしくみ	五大機能・五大装置について			
第 8 回	IME 入門	文字の入力と編集・単語登録・検索			
第 9 回	Word の基礎 (MOS 検定の範囲含)	Word の概要・画面構成・設定・文字の編集			
第 10 回	ページ設定	ページ設定・図形の作成・印刷・表作成①			
第 11 回	表・オブジェクトの挿入	表作成②・ワードアート・写真・イラスト挿入			
第 12 回	グラフの挿入	組織図・図形・グラフ挿入			
第 13 回	社内文書	ビジネス文書作成① (社内文書)			
第 14 回	社外文書	ビジネス文書作成② (社外文書)			
第 15 回	まとめ	総合問題			

# 経済

授業番号	B200080004				
科目名 (英語表記)	情報基礎 I (The information basics I)			D	
担当者 (英語表記)	濱野 和人 (Kazuhito Hamano)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本講義では、①タッチタイピング、②電子メールによるビジネスメールの書き方、③インターネットを活用した情報検索スキルと情報発信スキル、④アカデミックスキルとしての文書作成方法やビジネス文書の作成方法、の基礎的知識および活用スキルの習得を目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件：実習中心の講義となるため、遅刻・欠席をすると後に響くので遅刻・欠席はしないこと。欠席をした場合は次回講義までに演習や課題をやっておくこと。 進め方：操作方法等を画面に提示しながら講義を進める。				
成績評価方法	①タイピングテスト (10%)・②演習・課題・試験 (75%)・③参加意欲・コメント (15%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：毎日 10 分以上タイピング練習をすること。 復習：講義で扱った内容や操作方法を他人に教えられるようにすること。				
教科書	使用しない。				
参考文献	柏木将宏・坂田哲人・濱野和人他 (2012)『アカデミックリテラシー入門【第三版】』, プイツーソリューション				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	講義概要、ログインとログオフ、パスワード変更			
第 2 回	タイピング入門 (1)	タッチタイピングによるタイピング練習			
第 3 回	電子メール入門 (1)	メールの流れとメールアドレスの仕組み、操作方法			
第 4 回	電子メール入門 (2)	アドレス帳、署名、メールの書き方、添付ファイル			
第 5 回	電子メール入門 (3)	フォルダ、フィルタリング、SNS への登録			
第 6 回	インターネット入門	URL (URI) の形式と意味、検索技法、Web2.0			
第 7 回	文書作成入門 (1)	画面構成、書式の機能と設定			
第 8 回	文書作成入門 (2)	検索力と文章表現力を駆使した入力練習			
第 9 回	文書作成入門 (3)	オブジェクトの挿入と編集			
第 10 回	文書作成入門 (4)	ビジネス文書 (内部向け) の作成			
第 11 回	文書作成入門 (5)	ビジネス文書 (外部向け) の作成とマナー			
第 12 回	文書作成入門 (6)	レポートの組み立て方とレポート作成			
第 13 回	総合演習 (1)	学習内容のおさらいと復習			
第 14 回	タイピング入門 (2)	タッチタイピングによるタイピングテスト			
第 15 回	総合演習 (2)	まとめ (Word に関する筆記試験)			

# 経済

授業番号	B200080005				
科目名 (英語表記)	情報基礎 I (The information basics I)			E	
担当者 (英語表記)	濱野 和人 (Kazuhito Hamano)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本講義では、①タッチタイピング、②電子メールによるビジネスメールの書き方、③インターネットを活用した情報検索スキルと情報発信スキル、④アカデミックスキルとしての文書作成方法やビジネス文書の作成方法、の基礎的知識および活用スキルの習得を目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件：実習中心の講義となるため、遅刻・欠席をすると後に響くので遅刻・欠席はしないこと。欠席をした場合は次回講義までに演習や課題をやっておくこと。 進め方：操作方法等を画面に提示しながら講義を進める。				
成績評価方法	①タイピングテスト (10%)・②演習・課題・試験 (75%)・③参加意欲・コメント (15%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：毎日 10 分以上タイピング練習をすること。 復習：講義で扱った内容や操作方法を他人に教えられるようにすること。				
教科書	使用しない。				
参考文献	柏木将宏・坂田哲人・濱野和人他 (2012)『アカデミックリテラシー入門【第三版】』, プイツーソリューション				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	講義概要、ログインとログオフ、パスワード変更			
第 2 回	タイピング入門 (1)	タッチタイピングによるタイピング練習			
第 3 回	電子メール入門 (1)	メールの流れとメールアドレスの仕組み、操作方法			
第 4 回	電子メール入門 (2)	アドレス帳、署名、メールの書き方、添付ファイル			
第 5 回	電子メール入門 (3)	フォルダ、フィルタリング、SNS への登録			
第 6 回	インターネット入門	URL (URI) の形式と意味、検索技法、Web2.0			
第 7 回	文書作成入門 (1)	画面構成、書式の機能と設定			
第 8 回	文書作成入門 (2)	検索力と文章表現力を駆使した入力練習			
第 9 回	文書作成入門 (3)	オブジェクトの挿入と編集			
第 10 回	文書作成入門 (4)	ビジネス文書 (内部向け) の作成			
第 11 回	文書作成入門 (5)	ビジネス文書 (外部向け) の作成とマナー			
第 12 回	文書作成入門 (6)	レポートの組み立て方とレポート作成			
第 13 回	総合演習 (1)	学習内容のおさらいと復習			
第 14 回	タイピング入門 (2)	タッチタイピングによるタイピングテスト			
第 15 回	総合演習 (2)	まとめ (Word に関する筆記試験)			

# 経済

授業番号	B200080006				
科目名 (英語表記)	情報基礎 I (The information basics I)			F	
担当者 (英語表記)	濱野 和人 (Kazuhito Hamano)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本講義では、①タッチタイピング、②電子メールによるビジネスメールの書き方、③インターネットを活用した情報検索スキルと情報発信スキル、④アカデミックスキルとしての文書作成方法やビジネス文書の作成方法、の基礎的知識および活用スキルの習得を目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件：実習中心の講義となるため、遅刻・欠席をすると後に響くので遅刻・欠席はしないこと。欠席をした場合は次回講義までに演習や課題をやっておくこと。 進め方：操作方法等を画面に提示しながら講義を進める。				
成績評価方法	①タイピングテスト (10%)・②演習・課題・試験 (75%)・③参加意欲・コメント (15%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：毎日 10 分以上タイピング練習をすること。 復習：講義で扱った内容や操作方法を他人に教えられるようにすること。				
教科書	使用しない。				
参考文献	柏木将宏・坂田哲人・濱野和人他 (2012)『アカデミックリテラシー入門【第三版】』, プイツーソリューション				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	講義概要、ログインとログオフ、パスワード変更			
第 2 回	タイピング入門 (1)	タッチタイピングによるタイピング練習			
第 3 回	電子メール入門 (1)	メールの流れとメールアドレスの仕組み、操作方法			
第 4 回	電子メール入門 (2)	アドレス帳、署名、メールの書き方、添付ファイル			
第 5 回	電子メール入門 (3)	フォルダ、フィルタリング、SNS への登録			
第 6 回	インターネット入門	URL (URI) の形式と意味、検索技法、Web2.0			
第 7 回	文書作成入門 (1)	画面構成、書式の機能と設定			
第 8 回	文書作成入門 (2)	検索力と文章表現力を駆使した入力練習			
第 9 回	文書作成入門 (3)	オブジェクトの挿入と編集			
第 10 回	文書作成入門 (4)	ビジネス文書 (内部向け) の作成			
第 11 回	文書作成入門 (5)	ビジネス文書 (外部向け) の作成とマナー			
第 12 回	文書作成入門 (6)	レポートの組み立て方とレポート作成			
第 13 回	総合演習 (1)	学習内容のおさらいと復習			
第 14 回	タイピング入門 (2)	タッチタイピングによるタイピングテスト			
第 15 回	総合演習 (2)	まとめ (Word に関する筆記試験)			

# 経済

授業番号	B200080007				
科目名 (英語表記)	情報基礎 I (The information basics I)			G	
担当者 (英語表記)	成富 慶子 (Keiko Naritomi)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている 本講義では、コンピュータに関する基礎知識、ネチケットなどを理解し、Microsoft Word を使用した基本的な文書作成を習熟してもらう				
授業の進め方 (履修条件など)	Windows の基本操作からネチケットを学習し、Microsoft Word を使用して、実習を通して文書作成を行う				
成績評価方法	実技テストで総合評価する				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書を見ながら操作する、またブラインドタッチができるよう練習する 復習：授業内に行った操作を配布プリント、教科書、練習問題などで復習する				
教科書	FOM 出版 Microsoft Office Word 2010 基礎 978-4-89311-849-3				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認・講義概要 ログイン, ログオフ, パスワード変更			
第 2 回	Word の基礎知識	Word の概要, IME2010 の設定			
第 3 回	文書の作成	ページ設定, 文章入力, 範囲選択, 文字の削除・挿入・コピー・移動・配置・装飾, 文書の保存・印刷			
第 4 回	表の作成	表作成, 表の範囲選択, 表のレイアウト変更, 表の書式設定, 表にスタイルを適用, 段落罫線の設定			
第 5 回	文書の編集	さまざまな書式設定, 段組みの設定, ページ番号の挿入			
第 6 回	表現力をアップする機能	ワードアートの挿入, クリップアートの挿入, 図の挿入, 図形作成, ページ罫線の設定, テーマの設定			
第 7 回	文書の作成 2	フォントと段落の属性を適用, 文書内の検索, インデントとタブの設定, 文字間隔・行間隔の設定, 箇条書きと段落番号			
第 8 回	文書の編集 2	ページのレイアウトの設定, ページの背景, ヘッダーとフッター			
第 9 回	表現力をアップする機能 2	SmartArt の挿入, テキストボックスの挿入			
第 10 回	文書の校正	スペルチェック, オートコレクト, コメントを挿入・編集			
第 11 回	参考資料とハイパーリンク	ハイパーリンク, 文末脚注や脚注, 目次作成			
第 12 回	差し込み印刷の実行	差し込み印刷の設定と実行			
第 13 回	文書の共有と管理	さまざまな文書表示, 文書の保護, 文書のバージョン管理, 文書の共有, テンプレートの適用			
第 14 回	総合問題 1	総合問題 1			
第 15 回	総合問題 2	総合問題 2			

# 経済

授業番号	B200080008				
科目名 (英語表記)	情報基礎 I (The information basics I)			H	
担当者 (英語表記)	成富 慶子 (Keiko Naritomi)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている</p> <p>本講義では、コンピュータに関する基礎知識、ネチケットなどを理解し、Microsoft Word を使用した基本的な文書作成を習熟してもらう</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	Windows の基本操作からネチケットを学習し、Microsoft Word を使用して、実習を通して文書作成を行う				
成績評価方法	実技テストで総合評価する				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習：教科書を見ながら操作する、またブラインドタッチができるよう練習する</p> <p>復習：授業内に行った操作を配布プリント、教科書、練習問題などで復習する</p>				
教科書	FOM 出版 Microsoft Office Word 2010 基礎 978-4-89311-849-3				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認・講義概要 ログイン, ログオフ, パスワード変更			
第 2 回	Word の基礎知識	Word の概要, IME2010 の設定			
第 3 回	文書の作成	ページ設定, 文章入力, 範囲選択, 文字の削除・挿入・コピー・移動・配置・装飾, 文書の保存・印刷			
第 4 回	表の作成	表作成, 表の範囲選択, 表のレイアウト変更, 表の書式設定, 表にスタイルを適用, 段落罫線の設定			
第 5 回	文書の編集	さまざまな書式設定, 段組みの設定, ページ番号の挿入			
第 6 回	表現力をアップする機能	ワードアートの挿入, クリップアートの挿入, 図の挿入, 図形作成, ページ罫線の設定, テーマの設定			
第 7 回	文書の作成 2	フォントと段落の属性を適用, 文書内の検索, インデントとタブの設定, 文字間隔・行間隔の設定, 箇条書きと段落番号			
第 8 回	文書の編集 2	ページのレイアウトの設定, ページの背景, ヘッダーとフッター			
第 9 回	表現力をアップする機能 2	SmartArt の挿入, テキストボックスの挿入			
第 10 回	文書の校正	スペルチェック, オートコレクト, コメントを挿入・編集			
第 11 回	参考資料とハイパーリンク	ハイパーリンク, 文末脚注や脚注, 目次作成			
第 12 回	差し込み印刷の実行	差し込み印刷の設定と実行			
第 13 回	文書の共有と管理	さまざまな文書表示, 文書の保護, 文書のバージョン管理, 文書の共有, テンプレートの適用			
第 14 回	総合問題 1	総合問題 1			
第 15 回	総合問題 2	総合問題 2			

経済

授業番号	B200080009				
科目名 (英語表記)	情報基礎 I (The information basics I)			R	
担当者 (英語表記)	清水 麻実 (Mami Shimizu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	Microsoft 社の Word は実社会において必須です。最初にネチケットを学習し、Word Ver.2010 の知識・操作を習得します。社内・社外文書の作成、オブジェクトの挿入、テンプレートの利用を学習など、実務上必要な操作をひとつとおり行います。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキスト必須です。基本的な操作はテキストを中心に行います。その他プリントも配布します。操作等は個々の画面に提示し、インターネットやプレゼンテーションを使い情報を与えることもあります。				
成績評価方法	定期試験 (60%) 課題・授業態度 (40%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：タイピングは各自練習するようにしてください。 復習：欠席した場合は次回授業時までにはその分を終えておくことが望ましいです。				
教科書	30 時間でマスター Word2010 実教出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者確認、クイズ			
第 2 回	Windows の操作・ネットワーク	フォルダ作成・Public の参照			
第 3 回	ネチケット・GMail	ネチケット・メールの送受信			
第 4 回	五大機能・OS・IME	五大機能について・OS・IME の概要			
第 5 回	Word の基礎 (MOS の範囲含)	画面名称・入力・保存・拡張子について			
第 6 回	入力と編集	書式設定・ヘッダーとフッター			
第 7 回	表作成	表の作成と編集、計算式の挿入			
第 8 回	オブジェクトの挿入	クリップアート・ワードアートの挿入と編集			
第 9 回	ページ設定	セクション区切り、ページ設定			
第 10 回	グラフの挿入	組織図・グラフの挿入と編集			
第 11 回	テンプレートの利用	テンプレートの利用、PDF への変換			
第 12 回	地図の作成	地図の作成			
第 13 回	社内文書	ビジネス文書 (社内文書)			
第 14 回	社外文書	ビジネス文書 (社外文書)・印刷プレビュー、印刷			
第 15 回	まとめ	総合問題			



経済

授業番号	B200080010				
科目名 (英語表記)	情報基礎 I (The information basics I)			R	
担当者 (英語表記)	清水 麻実 (Mami Shimizu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	Microsoft 社の Word は実社会において必須です。最初にネチケットを学習し、Word Ver.2010 の知識・操作を習得します。社内・社外文書の作成、オブジェクトの挿入、テンプレートの利用を学習など、実務上必要な操作をひとつとおり行います。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキスト必須です。基本的な操作はテキストを中心に行います。その他プリントも配布します。操作等は個々の画面に提示し、インターネットやプレゼンテーションを使い情報を与えることもあります。				
成績評価方法	定期試験 (60%) 課題・授業態度 (40%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：タイピングは各自練習するようにしてください。 復習：欠席した場合は次回授業時までにはその分を終えておくことが望ましいです。				
教科書	30 時間でマスター Word2010 実教出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者確認、クイズ			
第 2 回	Windows の操作・ネットワーク	フォルダ作成・Public の参照			
第 3 回	ネチケット・GMail	ネチケット・メールの送受信			
第 4 回	五大機能・OS・IME	五大機能について・OS・IME の概要			
第 5 回	Word の基礎 (MOS の範囲含)	画面名称・入力・保存・拡張子について			
第 6 回	入力と編集	書式設定・ヘッダーとフッター			
第 7 回	表作成	表の作成と編集、計算式の挿入			
第 8 回	オブジェクトの挿入	クリップアート・ワードアートの挿入と編集			
第 9 回	ページ設定	セクション区切り、ページ設定			
第 10 回	グラフの挿入	組織図・グラフの挿入と編集			
第 11 回	テンプレートの利用	テンプレートの利用、PDF への変換			
第 12 回	地図の作成	地図の作成			
第 13 回	社内文書	ビジネス文書 (社内文書)			
第 14 回	社外文書	ビジネス文書 (社外文書)・印刷プレビュー、印刷			
第 15 回	まとめ	総合問題			

# 経済

授業番号	B200090001				
科目名 (英語表記)	情報基礎 II (The information basics I I)		A		
担当者 (英語表記)	清水 麻実 (Mami Shimizu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	Microsoft 社の表計算ソフト Excel は実社会において必要不可欠なソフトです。Excel の知識・操作を習得することを目的とし、単純な入力だけでなく、計算式の挿入、表やグラフの作成・編集、データベース機能など、実務上必要な操作をひとつひとつ学習します。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的な操作はテキストを中心にを行います。小テストや練習問題ではプリントで配布することもあります。操作等は個々の画面に提示し、インターネットやプレゼンテーションを使い情報を与えることもあります。				
成績評価方法	定期試験 (60%) 課題・授業態度 (40%)				
基準					
授業の予習・復習	欠席した場合は次回授業時までにはその分を終えておくことが望ましいです。				
教科書	実務に必須! Excel 活用法 創成社				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者確認、Q&A と Q&A			
第 2 回	Windows の操作	ファイル削除・フォルダ作成・Excel の概要			
第 3 回	ネットワークフォルダ、Excel の概要	Public の参照方法、画面名称・入力・保存			
第 4 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	拡張子について・オートフィル機能・行 / 列の操作			
第 5 回	数式の入力	式の入力と修正・四則演算子・相対参照			
第 6 回	関数の入力	関数の書式・集合関数・比較演算子・絶対参照			
第 7 回	セルの書式設定	セルの書式設定・罫線・表のレイアウト			
第 8 回	シートの操作	シートの操作・シートの保護・オプションの設定			
第 9 回	グラフの作成	グラフ作成・グラフの編集・関数②			
第 10 回	ページ設定	印刷範囲・ビュー・改ページビュー・ページ設定			
第 11 回	関数のネスト	印刷・関数のネスト・ヘッダーとフッター			
第 12 回	複合グラフ	複合グラフ・Word への表の貼り付け			
第 13 回	データベース機能	データベース機能・オブジェクトの作成			
第 14 回	テンプレートの利用	テンプレートの利用・リンク貼り付け			
第 15 回	まとめ	総合問題			

経済

授業番号	B200090002				
科目名 (英語表記)	情報基礎 II (The information basics I I)			B	
担当者 (英語表記)	清水 麻実 (Mami Shimizu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	Microsoft 社の表計算ソフト Excel は実社会において必要不可欠なソフトです。Excel の知識・操作を習得することを目的とし、単純な入力だけでなく、計算式の挿入、表やグラフの作成・編集、データベース機能など、実務上必要な操作をひとつひとつ学習します。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的な操作はテキストを中心に行います。小テストや練習問題ではプリントで配布することもあります。操作等は個々の画面に提示し、インターネットやプレゼンテーションを使い情報を与えることもあります。				
成績評価方法	定期試験 (60%) 課題・授業態度 (40%)				
基準					
授業の予習・復習	欠席した場合は次回授業時までにはその分を終えておくことが望ましいです。				
教科書	実務に必須! Excel 活用法 創成社				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者確認、Q&A と A&Q			
第 2 回	Windows の操作	ファイル削除・フォルダ作成・Excel の概要			
第 3 回	ネットワークフォルダ、Excel の概要	Public の参照方法、画面名称・入力・保存			
第 4 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	拡張子について・オートフィル機能・行 / 列の操作			
第 5 回	数式の入力	式の入力と修正・四則演算子・相対参照			
第 6 回	関数の入力	関数の書式・集合関数・比較演算子・絶対参照			
第 7 回	セルの書式設定	セルの書式設定・罫線・表のレイアウト			
第 8 回	シートの操作	シートの操作・シートの保護・オプションの設定			
第 9 回	グラフの作成	グラフ作成・グラフの編集・関数②			
第 10 回	ページ設定	印刷プレビュー・改ページプレビュー・ページ設定			
第 11 回	関数のネスト	印刷・関数のネスト・ヘッダーとフッター			
第 12 回	複合グラフ	複合グラフ・Word への表の貼り付け			
第 13 回	データベース機能	データベース機能・オブジェクトの作成			
第 14 回	テンプレートの利用	テンプレートの利用・リンク貼り付け			
第 15 回	まとめ	総合問題			

# 経済

授業番号	B200090003				
科目名 (英語表記)	情報基礎 II (The information basics I I)			C	
担当者 (英語表記)	清水 麻実 (Mami Shimizu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	Microsoft 社の表計算ソフト Excel は実社会において必要不可欠なソフトです。Excel の知識・操作を習得することを目的とし、単純な入力だけでなく、計算式の挿入、表やグラフの作成・編集、データベース機能など、実務上必要な操作をひとつひとつ学習します。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的な操作はテキストを中心に行います。小テストや練習問題ではプリントで配布することもあります。操作等は個々の画面に提示し、インターネットやプレゼンテーションを使い情報を与えることもあります。				
成績評価方法	定期試験 (60%) 課題・授業態度 (40%)				
基準					
授業の予習・復習	欠席した場合は次回授業時までその分を終えておくことが望ましいです。				
教科書	実務に必須! Excel 活用法 創成社				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者確認、Q&A と Q&A			
第 2 回	Windows の操作	ファイル削除・フォルダ作成・Excel の概要			
第 3 回	ネットワークフォルダ、Excel の概要	Public の参照方法、画面名称・入力・保存			
第 4 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	拡張子について・オートフィル機能・行 / 列の操作			
第 5 回	数式の入力	式の入力と修正・四則演算子・相対参照			
第 6 回	関数の入力	関数の書式・集合関数・比較演算子・絶対参照			
第 7 回	セルの書式設定	セルの書式設定・罫線・表のレイアウト			
第 8 回	シートの操作	シートの操作・シートの保護・オプションの設定			
第 9 回	グラフの作成	グラフ作成・グラフの編集・関数②			
第 10 回	ページ設定	印刷プレビュー・改ページプレビュー・ページ設定			
第 11 回	関数のネスト	印刷・関数のネスト・ヘッダーとフッター			
第 12 回	複合グラフ	複合グラフ・Word への表の貼り付け			
第 13 回	データベース機能	データベース機能・オブジェクトの作成			
第 14 回	テンプレートの利用	テンプレートの利用・リンク貼り付け			
第 15 回	まとめ	総合問題			

# 経済

授業番号	B200090004				
科目名 (英語表記)	情報基礎 II (The information basics I I)			D	
担当者 (英語表記)	濱野 和人 (Kazuhito Hamano)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本講義では、タッチタイピングの向上を目指すと共に、Excel を使用し、①スプレッドシートの基礎、②表計算の基礎、③関数の基礎、④グラフ作成の基礎、⑤データ分析の基礎、に関する知識やそれを活用するスキルの強化を通じて、数値情報による基礎的表現技法の習得を目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件：実習中心の講義となるため、遅刻・欠席をすると後に響くので遅刻・欠席はしないこと。欠席をした場合は次回講義までに演習や課題をやっておくこと。 進め方：操作方法等を画面に提示しながら講義を進める。				
成績評価方法	①タイピングテスト (10%)・②演習・課題・試験 (75%)・③参加意欲・コメント (15%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：毎日 10 分以上タイピング練習をすること。 復習：講義で扱った内容や操作方法を他人に教えられるようにすること。				
教科書	使用しない。				
参考文献	柏木将宏・坂田哲人・濱野和人他 (2012)『アカデミックリテラシー入門 [第三版]』, プイツーソリューション				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	講義概要、タッチタイピングの復習			
第 2 回	スプレッドシート入門 (1)	画面構成、拡張子、書式設定、罫線			
第 3 回	スプレッドシート入門 (2)	セル調整・結合、オートフィル、ページレイアウト			
第 4 回	スプレッドシート入門 (3)	Sheet 名の変更、四則演算子、相対参照			
第 5 回	表計算入門 (1)	関数①、絶対参照			
第 6 回	表計算入門 (2)	Excel の機能を駆使した書類作成			
第 7 回	表計算入門 (3)	関数②、入れ子関数			
第 8 回	表計算入門 (4)	関数③、ウィンドウ枠の固定、ソート、フィルタ			
第 9 回	表計算入門 (5)	関数④、文字の分割と結合			
第 10 回	グラフ作成入門	グラフの作成と編集			
第 11 回	データ分析入門 (1)	ピボットテーブル			
第 12 回	データ分析入門 (2)	相関分析 (相関係数と散布図)			
第 13 回	総合演習 (1)	学習内容のおさらいと復習			
第 14 回	タイピング入門	タッチタイピングによるタイピングテスト			
第 15 回	総合演習 (2)	まとめ (Excel に関する筆記試験)			

経済

授業番号	B200090005				
科目名 (英語表記)	情報基礎 II (The information basics I I)			E	
担当者 (英語表記)	濱野 和人 (Kazuhito Hamano)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本講義では、タッチタイピングの向上を目指すと共に、Excel を使用し、①スプレッドシートの基礎、②表計算の基礎、③関数の基礎、④グラフ作成の基礎、⑤データ分析の基礎、に関する知識やそれを活用するスキルの強化を通じて、数値情報による基礎的表現技法の習得を目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件：実習中心の講義となるため、遅刻・欠席をすると後に響くので遅刻・欠席はしないこと。欠席をした場合は次回講義までに演習や課題をやっておくこと。 進め方：操作方法等を画面に提示しながら講義を進める。				
成績評価方法	①タイピングテスト (10%)・②演習・課題・試験 (75%)・③参加意欲・コメント (15%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：毎日 10 分以上タイピング練習をすること。 復習：講義で扱った内容や操作方法を他人に教えられるようにすること。				
教科書	使用しない。				
参考文献	柏木将宏・坂田哲人・濱野和人他 (2012)『アカデミックリテラシー入門 [第三版]』, プイツーソリューション				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	講義概要、タッチタイピングの復習			
第 2 回	スプレッドシート入門 (1)	画面構成、拡張子、書式設定、罫線			
第 3 回	スプレッドシート入門 (2)	セル調整・結合、オートフィル、ページレイアウト			
第 4 回	スプレッドシート入門 (3)	Sheet 名の変更、四則演算子、相対参照			
第 5 回	表計算入門 (1)	関数①、絶対参照			
第 6 回	表計算入門 (2)	Excel の機能を駆使した書類作成			
第 7 回	表計算入門 (3)	関数②、入れ子関数			
第 8 回	表計算入門 (4)	関数③、ウィンドウ枠の固定、ソート、フィルタ			
第 9 回	表計算入門 (5)	関数④、文字の分割と結合			
第 10 回	グラフ作成入門	グラフの作成と編集			
第 11 回	データ分析入門 (1)	ピボットテーブル			
第 12 回	データ分析入門 (2)	相関分析 (相関係数と散布図)			
第 13 回	総合演習 (1)	学習内容のおさらいと復習			
第 14 回	タイピング入門	タッチタイピングによるタイピングテスト			
第 15 回	総合演習 (2)	まとめ (Excel に関する筆記試験)			

# 経済

授業番号	B200090006				
科目名 (英語表記)	情報基礎 II (The information basics I I)			F	
担当者 (英語表記)	濱野 和人 (Kazuhito Hamano)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本講義では、タッチタイピングの向上を目指すと共に、Excel を使用し、①スプレッドシートの基礎、②表計算の基礎、③関数の基礎、④グラフ作成の基礎、⑤データ分析の基礎、に関する知識やそれを活用するスキルの強化を通じて、数値情報による基礎的表現技法の習得を目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件：実習中心の講義となるため、遅刻・欠席をすると後に響くので遅刻・欠席はしないこと。欠席をした場合は次回講義までに演習や課題をやっておくこと。 進め方：操作方法等を画面に提示しながら講義を進める。				
成績評価方法	①タイピングテスト (10%)・②演習・課題・試験 (75%)・③参加意欲・コメント (15%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：毎日 10 分以上タイピング練習をすること。 復習：講義で扱った内容や操作方法を他人に教えられるようにすること。				
教科書	使用しない。				
参考文献	柏木将宏・坂田哲人・濱野和人他 (2012)『アカデミックリテラシー入門 [第三版]』, プイツーソリューション				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	講義概要、タッチタイピングの復習			
第 2 回	スプレッドシート入門 (1)	画面構成、拡張子、書式設定、罫線			
第 3 回	スプレッドシート入門 (2)	セル調整・結合、オートフィル、ページレイアウト			
第 4 回	スプレッドシート入門 (3)	Sheet 名の変更、四則演算子、相対参照			
第 5 回	表計算入門 (1)	関数①、絶対参照			
第 6 回	表計算入門 (2)	Excel の機能を駆使した書類作成			
第 7 回	表計算入門 (3)	関数②、入れ子関数			
第 8 回	表計算入門 (4)	関数③、ウィンドウ枠の固定、ソート、フィルタ			
第 9 回	表計算入門 (5)	関数④、文字の分割と結合			
第 10 回	グラフ作成入門	グラフの作成と編集			
第 11 回	データ分析入門 (1)	ピボットテーブル			
第 12 回	データ分析入門 (2)	相関分析 (相関係数と散布図)			
第 13 回	総合演習 (1)	学習内容のおさらいと復習			
第 14 回	タイピング入門	タッチタイピングによるタイピングテスト			
第 15 回	総合演習 (2)	まとめ (Excel に関する筆記試験)			

経済

授業番号	B200090007				
科目名 (英語表記)	情報基礎 II (The information basics I I)			G	
担当者 (英語表記)	成富 慶子 (Keiko Naritomi)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている 本講義では表計算ソフト Microsoft Excel を使用した基本操作を習熟してもらう				
授業の進め方 (履修条件など)	Microsoft Excel を使用して、実習を通して表計算を行う				
成績評価方法	実技テストで総合評価する				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書を見ながら操作する 復習：授業内に行った操作を練習問題などで復習する				
教科書	FOM 出版 Microsoft Office Excel 2010 基礎 978-4-89311-847-9				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認・講義概要			
第 2 回	Excel の基礎知識	Excel の概要, データ入力, データを編集, セルの範囲選択, ブックの保存, オートフィルの利用			
第 3 回	表の作成	関数の入力, 罫線の塗りつぶし・表示形式・配置・フォント書式・列幅や行の高さの設定, 列・行を削除・挿入			
第 4 回	数式の入力	関数の入力 2, さまざまな関数の利用, 相対参照と絶対参照			
第 5 回	表の印刷	表の印刷, 改ページプレビュー			
第 6 回	複数シートの操作	シート名の変更, 作業グループの設定, シートの移動・コピー, シート間の集計, シートを挿入・削除, 別シートのセルの参照			
第 7 回	グラフの作成	グラフ機能と概要, 円グラフ・棒グラフの作成			
第 8 回	データベースの利用	データベース機能の概要, データの並べ替え, データの抽出, データベースの効率的操作			
第 9 回	セルやワークシートの書式設定	セル結合・解除, 列・行の見出し設定, 列・行の表示・非表示, ページ設定のオプション, セルのスタイルの作成・適用			
第 10 回	数式の入力 2	優先順位の理解, 数式の条件付き論理, 数式の名前付き範囲, 数式のセル範囲の適用			
第 11 回	視覚的データ	図の適用, 画像作成・修正, スパークライン			
第 12 回	データの共有	Backstage の使用とブックの共有, コメントの管理			
第 13 回	データの分析と整理	条件付き書式			
第 14 回	総合問題 1	総合問題 1			
第 15 回	総合問題 2	総合問題 2			



経済

授業番号	B200090008				
科目名 (英語表記)	情報基礎 II (The information basics I I)			H	
担当者 (英語表記)	成富 慶子 (Keiko Naritomi)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている 本講義では表計算ソフト Microsoft Excel を使用した基本操作を習熟してもらう				
授業の進め方 (履修条件など)	Microsoft Excel を使用して、実習を通して表計算を行う				
成績評価方法	実技テストで総合評価する				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書を見ながら操作する 復習：授業内に行った操作を練習問題などで復習する				
教科書	FOM 出版 Microsoft Office Word 2010 基礎 978-4-89311-849-3				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認・講義概要			
第 2 回	Excel の基礎知識	Excel の概要, データ入力, データを編集, セルの範囲選択, ブックの保存, オートフィルの利用			
第 3 回	表の作成	関数の入力, 罫線の塗りつぶし・表示形式・配置・フォント書式・列幅や行の高さの設定, 列・行を削除・挿入			
第 4 回	数式の入力	関数の入力 2, さまざまな関数の利用, 相対参照と絶対参照			
第 5 回	表の印刷	表の印刷, 改ページプレビュー			
第 6 回	複数シートの操作	シート名の変更, 作業グループの設定, シートの移動・コピー, シート間の集計, シートを挿入・削除, 別シートのセルの参照			
第 7 回	グラフの作成	グラフ機能と概要, 円グラフ・棒グラフの作成			
第 8 回	データベースの利用	データベース機能の概要, データの並べ替え, データの抽出, データベースの効率的操作			
第 9 回	セルやワークシートの書式設定	セル結合・解除, 列・行の見出し設定, 列・行の表示・非表示, ページ設定のオプション, セルのスタイルの作成・適用			
第 10 回	数式の入力 2	優先順位の理解, 数式の条件付き論理, 数式の名前付き範囲, 数式のセル範囲の適用			
第 11 回	視覚的データ	図の適用, 画像作成・修正, スパークライン			
第 12 回	データの共有	Backstage の使用とブックの共有, コメントの管理			
第 13 回	データの分析と整理	条件付き書式			
第 14 回	総合問題 1	総合問題 1			
第 15 回	総合問題 2	総合問題 2			

経済

授業番号	B200090009				
科目名 (英語表記)	情報基礎 II (The information basics II)			R	
担当者 (英語表記)	清水 麻実 (Mami Shimizu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	Microsoft 社の表計算ソフト Excel は実社会において必要不可欠なソフトです。Ver.2010 での知識・操作を習得することを目的とし、実務上必要な操作をひとつとおり学習します。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストは必須です。基本的な操作はテキストを中心に行います。小テストや練習問題ではプリントを配布することもあります。操作等は個々の画面に提示し、インターネットを使い情報を与えることもあります。				
成績評価方法	定期試験 (60%) 課題・授業態度 (40%)				
基準					
授業の予習・復習	欠席した場合は次回授業時までにはその分を終えておくことが望ましいです。				
教科書	実務に必須! Excel 活用法 創成社				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	利用法、Windows の操作	受講者確認、ファイル削除・フォルダ作成			
第 2 回	ネットワーク、Excel の概要	ネットワーク、Excel の概要			
第 3 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	画面名称・入力・保存、拡張子について			
第 4 回	数式の入力	オートフィル機能・行 / 列の操作・式の入力と修正			
第 5 回	関数の入力	四則演算子・相対参照・関数の書式・集合関数			
第 6 回	セルの書式設定	比較演算子・絶対参照・セルの書式設定			
第 7 回	表作成	表のレイアウト・シートの保護・オプションの設定			
第 8 回	グラフ作成	グラフの作成・編集・関数②			
第 9 回	ページ設定	印刷範囲・改ページ・ページ設定			
第 10 回	関数のネスト	印刷・関数のネスト・ヘッダーとフッター			
第 11 回	複合グラフ	複合グラフ・Word への表の貼り付け			
第 12 回	データベース機能	データベース機能・オブジェクトの作成			
第 13 回	オブジェクトの作成	図形・オブジェクトの作成			
第 14 回	テンプレートの利用	テンプレートの利用・リンク貼り付け			
第 15 回	まとめ	総合問題			

経済

授業番号	B200090010				
科目名 (英語表記)	情報基礎 II (The information basics II)			R	
担当者 (英語表記)	清水 麻実 (Mami Shimizu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	Microsoft 社の表計算ソフト Excel は実社会において必要不可欠なソフトです。Ver.2010 での知識・操作を習得することを目的とし、実務上必要な操作をひとつとおり学習します。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストは必須です。基本的な操作はテキストを中心に行います。小テストや練習問題ではプリントを配布することもあります。操作等は個々の画面に提示し、インターネットを使い情報を与えることもあります。				
成績評価方法	定期試験 (60%) 課題・授業態度 (40%)				
基準					
授業の予習・復習	欠席した場合は次回授業時までにはその分を終えておくことが望ましいです。				
教科書	実務に必須! Excel 活用法 創成社				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	利用法、Windows の操作	受講者確認、ファイル削除・フォルダ作成			
第 2 回	ネットワーク、Excel の概要	ネットワーク、Excel の概要			
第 3 回	Excel の基礎 (MOS の範囲含)	画面名称・入力・保存、拡張子について			
第 4 回	数式の入力	オートフィル機能・行 / 列の操作・式の入力と修正			
第 5 回	関数の入力	四則演算子・相対参照・関数の書式・集合関数			
第 6 回	セルの書式設定	比較演算子・絶対参照・セルの書式設定			
第 7 回	表作成	表のレイアウト・シートの保護・オプションの設定			
第 8 回	グラフ作成	グラフの作成・編集・関数②			
第 9 回	ページ設定	印刷プレビュー・改ページプレビュー・ページ設定			
第 10 回	関数のネスト	印刷・関数のネスト・ヘッダーとフッター			
第 11 回	複合グラフ	複合グラフ・Word への表の貼り付け			
第 12 回	データベース機能	データベース機能・オブジェクトの作成			
第 13 回	オブジェクトの作成	図形・オブジェクトの作成			
第 14 回	テンプレートの利用	テンプレートの利用・リンク貼り付け			
第 15 回	まとめ	総合問題			

# 経済

授業番号	B203470001				
科目名 (英語表記)	情報システム論 (Information system theory)				
担当者 (英語表記)	森島 隆晴 (Takaharu Morishima)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	インターネット上には、情報システムを活用した様々なインターネットビジネスが存在します。授業のねらいは、情報システムの仕組みとそれを活用したインターネットビジネスのビジネスモデルについて学ぶことです。そのビジネスモデルを理解・説明できるようになることが到達目標です。				
授業の進め方 (履修条件など)	PowerPoint を用いた講義を聞いて配布資料の空欄にキーワード等をメモしてください。毎回、講義の後にグループディスカッションして小テストにまとめ、各々提出してもらいます。				
成績評価方法	期末試験 (60%)、小テスト (40%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	授業内容、用語などを予習して講義に臨んでください。基本的概念や考え方、実例を説明できるように復習してください。				
教科書	教科書は使いません。代わりに毎回資料を配布します。				
参考文献	片岡信弘 他 (2011)『インターネットビジネス概論』共立出版 八子知礼 (2010)『図解クラウド早わかり』中経出版				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	インターネットビジネスとは	講義概要と進め方、インターネットビジネスの現状			
第 2 回	ビジネスモデルとは	ビジネスモデルの収益構造、無料ビジネスのビジネスモデル			
第 3 回	電子商取引	電子商取引の種類と仕組み、ネットショッピングのメリット			
第 4 回	電子決済	電子決済と電子マネーの関係、電子マネーの利便性			
第 5 回	デジタルコンテンツ	デジタルコンテンツのビジネスモデル、コンテンツの形式と著作権			
第 6 回	インターネットマーケティング	インターネット広告の仕組み、ネットショップ内のプロモーション			
第 7 回	データマイニング	ビッグデータの活用、リコメンデーションとアマゾンのビジネスモデル			
第 8 回	検索エンジン	検索エンジンの種類と特徴、グーグルのビジネスモデル			
第 9 回	クラウドコンピューティングとは	従来の情報システムとクラウドの違い、クラウド企業の現状			
第 10 回	クラウドの仕組み	仮想化と分散処理による効率化、クラウドのビジネスモデル			
第 11 回	クラウド企業の戦略 1	プラットフォーム戦略、グーグルとアマゾンの戦略			
第 12 回	クラウド企業の戦略 2	マイクロソフトの戦略、アップルの戦略			
第 13 回	クラウドのメリット	ビジネスにもたらすメリット、個人や社会にもたらすメリット			
第 14 回	クラウドによる社会の変化	ビジネスの変化、個人や社会の変化			
第 15 回	まとめ	総括、ディスカッション、試験対策			

経済

授業番号	B201760001				
科目名 (英語表記)	情報社会と倫理 (Information society and ethics)				
担当者 (英語表記)	井手 雅哉 (Masaya Ide)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	情報技術の向上により社会における情報化が進展し、様々な分野にその成果をもたらしているが、同時に負の影響も少なからず存在する。本科目では、情報化の浸透を概観し、状況を理解するとともに、トラブルに巻き込まれたり、他者へ迷惑をかけたりしないような姿勢を身につけることを目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	通常の講義形式で、実例の紹介を多く取り入れていく。				
成績評価方法	期末試験 (100%)				
基準					
授業の予習・復習	予習・復習：関連報道・書籍に目を通す。				
教科書	教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。				
参考文献	村田潔、『情報倫理：インターネット時代の人と組織』、有斐閣、2004.12.25.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業内容・進め方・評価に関する説明			
第 2 回	社会における情報化の進展 1	コンピュータの普及と情報処理能力の向上			
第 3 回	社会における情報化の進展 2	ネットワークの形成			
第 4 回	社会における情報化の進展 3	産業における情報化の進展 1 (銀行オンライン, CRS など)			
第 5 回	社会における情報化の進展 4	産業における情報化の進展 2 (NC 工作, POS など)			
第 6 回	社会における情報化の進展 5	行政における情報化の進展			
第 7 回	社会における情報化の進展 6	生活における情報化の進展 (組込みシステム, インターネットの普及)			
第 8 回	社会における情報化の進展 7	情報社会の概念			
第 9 回	情報化の進展に伴う諸問題 1	セキュリティ確保の必要性 1 (機密性)			
第 10 回	情報化の進展に伴う諸問題 2	セキュリティ確保の必要性 2 (完全性)			
第 11 回	情報化の進展に伴う諸問題 3	セキュリティ確保の必要性 3 (可用性)			
第 12 回	情報化の進展に伴う諸問題 4	犯罪のツールとしてのコンピュータ			
第 13 回	情報化の進展に伴う諸問題 5	情報発信手段の一般化とモラルの低下			
第 14 回	情報化の進展に伴う諸問題 6	ネチケット			
第 15 回	情報化の進展に伴う諸問題 7	著作権の保護			

# 経済

授業番号	B201390001		
科目名 (英語表記)	情報セキュリティ論 (Information security theory)		
担当者 (英語表記)	森島 隆晴 (Takaharu Morishima)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	インターネット利用の急激な普及とともに、IT リスクから個人や企業・社会を守るための情報セキュリティが大きな問題となっています。授業のねらいはIT リスクと情報セキュリティ対策を学ぶことで、到達目標は個人や企業の立場から情報セキュリティ対策を身につけることです。		
授業の進め方 (履修条件など)	PowerPoint を用いた講義を聞いて配布資料の空欄にキーワード等をメモしてください。毎回、講義の後にグループディスカッションして小テストにまとめ、各々提出してもらいます。		
成績評価方法	期末試験 (60%)、小テスト (40%) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	授業内容、用語などを予習して講義に臨んでください。基本的概念や考え方、実例を説明できるように復習してください。		
教科書	教科書は使いません。代わりに毎回資料を配布します。		
参考文献	片岡信弘 他 (2011) 『インターネットビジネス概論』 共立出版 松本隆明、岡本龍明 (2000) 『情報セキュリティ技術』 電気通信協会		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	情報セキュリティとは	講義概要と進め方、情報セキュリティとコンプライアンス	
第 2 回	情報社会の IT リスク	偶発的脅威と意図的脅威、IT リスクと情報セキュリティ	
第 3 回	情報セキュリティの脅威と対策	情報セキュリティへの脅威、情報セキュリティ対策	
第 4 回	アクセス制御技術	ユーザー認証技術、アクセス制限技術	
第 5 回	ファイアーウォール	ファイアーウォールの機能、ファイアーウォールの仕組み	
第 6 回	マルウェア	マルウェアのタイプと侵入経路、マルウェア対策技術	
第 7 回	暗号技術	共通鍵暗号の仕組み、公開鍵暗号の仕組み	
第 8 回	デジタル署名	本人認証の仕組み、メッセージ認証の仕組み	
第 9 回	暗号強度	暗号技術の実際、暗号強度の考え方	
第 10 回	電子商取引のセキュリティ	電子商取引の仕組み、電子商取引のセキュリティ技術	
第 11 回	IC カードのセキュリティ	IC カードの種類と仕組み、IC カードのセキュリティ技術	
第 12 回	電子マネーのセキュリティ	電子マネーの種類と仕組み、電子マネーのセキュリティ技術	
第 13 回	インターネットビジネスと法	著作権法、個人情報保護法	
第 14 回	著作権の保護術	著作権保護技術、電子透かし技術	
第 15 回	まとめ	総括、ディスカッション、試験対策	

# 経済

授業番号	B201030001		
科目名 (英語表記)	情報マネジメント (Information management)		
担当者 (英語表記)	森島 隆晴 (Takaharu Morishima)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	現在の情報社会では、情報に価値があり、情報サービスそのものが商品として取引されています。授業のねらいは、そのような情報の財としての特性やプラットフォーム戦略に関する概念や考え方を学ぶことです。その知識を用いて、情報を活用したビジネスの仕組みを理解することが到達目標です。		
授業の進め方 (履修条件など)	PowerPoint を用いた講義を聞いて配布資料の空欄にキーワード等をメモしてください。毎回、講義の後にグループディスカッションして小テストにまとめ、各々提出してもらいます。		
成績評価方法	期末試験 (60%)、小テスト (40%) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	授業内容、用語などを予習して講義に臨んでください。基本的な概念や考え方、実例を説明できるように復習してください。		
教科書	教科書は使いません。代わりに毎回資料を配布します。		
参考文献	C シャピロ & HR バリアン (1999) 『ネットワーク経済の法則』 IDG コミュニケーションズ 雨宮寛二 (2012) 『アップル、アマゾン、グーグルの競争戦略』 NTT 出版 平野敦士カール & A. ハギウ (2010) 『プラットフォーム戦略』 東洋経済新報社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	情報社会におけるマネジメント	講義概要と進め方、市場原理とビジネス	
第 2 回	情報の定義と特性	情報財の費用構造、情報財のネットワーク外部性	
第 3 回	情報財市場の構造	コストリーダーシップ戦略と独占市場、差別化戦略と差別化市場	
第 4 回	情報財の価格戦略	情報の価値と価格差別、自己選別によるスクリーニング戦略	
第 5 回	インターネットビジネス	インターネットビジネスの考え方、インターネットビジネスの現状	
第 6 回	経営戦略と競争優位	イノベーションの考え方、ビジネスモデルの考え方	
第 7 回	プラットフォーム戦略とは	プラットフォームの機能、プラットフォーム戦略が選ばれる理由	
第 8 回	勝てるプラットフォーム戦略	プラットフォーム戦略の特徴、プラットフォーム構築のステップ	
第 9 回	アップルの戦略	企業理念と経営戦略、事業領域と事業モデル	
第 10 回	アップルの製品戦略	iPod・iPhone の戦略、iPad の戦略	
第 11 回	アマゾンの戦略	企業理念と経営戦略、事業領域と事業モデル	
第 12 回	アマゾンの販売戦略	オンライン書店の展開とイノベーション、Kindle のビジネスモデル	
第 13 回	グーグルの戦略	企業理念と経営戦略、事業領域と事業モデル	
第 14 回	グーグルの広告戦略	アドワーズの特徴と収益モデル、アドセンスの特徴とイノベーション	
第 15 回	まとめ	総括、ディスカッション、試験対策	

経済

授業番号	B203080001				
科目名 (英語表記)	職業指導 I (Vocational counseling I)				
担当者 (英語表記)	坂本 義孝 (Yoshitaka Sakamoto)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	職業指導は、一人一人の生徒が自己を理解して自ら将来進むべき道を選択し、自ら決定できる能力を育てるとともに、自分の生きがいと深くかかわる自覚を深めさせる指導である。生徒に対してそのような指導ができる教員として必要な知識・技法について学び、在るべき職業指導について研究する。				
授業の進め方 (履修条件など)	職業指導の概念、歴史的背景等について考察し、職業指導、進路指導、キャリア教育の基礎理論を中心に進める。				
成績評価方法	レポート提出、平常点、定期試験、その他の小テストの結果を勘案し、評価する。				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習 自らの勤労観、職業観を考察するとともに、自己のキャリア形成の観点からも職業指導のあり方を展望し、関係情報を収集しておくこと。</p> <p>復習 毎回の講義内容を整理するとともに、疑問な点は調査確認をするなり、質問するなりして確実なものとすること。</p>				
教科書	プリント教材を配布する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業計画概要			
第 2 回	社会の変化と職業	職業の発生、職業の種類			
第 3 回	職業指導と進路指導	概念と定義			
第 4 回	職業指導・キャリア教育	草創と社会的背景			
第 5 回	キャリア教育	概念と定義			
第 6 回	我が国の職業指導	学校教育への導入と歴史的発展			
第 7 回	職業指導・キャリア教育	選択理論、適応理論、発達理論			
第 8 回	職業適性	適性の分類と検査法			
第 9 回	進路指導の理念と性格	基本的性格、進路指導の一般原理			
第 10 回	進路学習指導	教育課程への位置づけ			
第 11 回	進路指導の現状と課題	高等学校の進路指導の状況			
第 12 回	校内組織体制の確立	校内組織と指導体制			
第 13 回	進路指導・キャリア教育	各教員の役割			
第 14 回	進路指導と進路相談	進路相談の目的、担任の役割			
第 15 回	まとめ	講義のまとめ			



経済

授業番号	B203090001		
科目名 (英語表記)	職業指導 II (Vocational counseling II)		
担当者 (英語表記)	坂本 義孝 (Yoshitaka Sakamoto)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	職業指導は、一人一人の生徒が自己を理解して自ら将来進むべき道を選択し、自ら決定できる能力を育てるとともに、自分の生きがいと深くかかわる自覚を深めさせる指導である。生徒に対してそのような指導ができる教員として必要な知識・技法について学び、在るべき職業指導について研究する。		
授業の進め方 (履修条件など)	高等学校における進路キャリア教育の実践に必要な知識・技法について、できるだけ具体的な内容を取り上げ、教員としての実践的な指導力がつくよう進める。		
成績評価方法	レポート提出、平常点、定期試験、その他の小テストの結果を勘案し、評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習 自らの勤労観、職業観を考察するとともに、自己のキャリア形成の観点からも職業指導のあり方を展望し、関係情報を収集しておくこと。 復習 毎回の講義内容を整理するとともに、疑問な点は調査確認するなり、質問するなりして確実なものとする。		
教科書	プリント教材を配布する。		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	学校におけるキャリア教育	現状とその重要性	
第 2 回	学ぶ力の育成とキャリア教育	キャリア教育の意義	
第 3 回	キャリア発達のガイドライン	育成する能力領域	
第 4 回	自己情報の理解	理解の方法と理解に当たっての留意点	
第 5 回	進路情報の理解	進路情報理解のための指導及び支援	
第 6 回	啓発的経験	キャリア教育における体験と経験	
第 7 回	キャリア カウンセリング	展開と手順並びに基礎的スキルと留意点	
第 8 回	進路選択決定への支援	進路選択・進路決定への支援	
第 9 回	追指導	追指導の内容と学校キャリア教育の評価	
第 10 回	キャリア教育の計画・実践・評価	目標と留意点	
第 11 回	産業界が重視する能力	企業が採用時に重視する能力	
第 12 回	インターンシップ	意義とその実施	
第 13 回	労働界における職業指導	経済・雇用状況と諸課題	
第 14 回	職業に関する法規	関係法規、雇用対策	
第 15 回	まとめ	講義のまとめ	

# 経済

授業番号	B201940001		
科目名 (英語表記)	食料経済論 (Food economy theory)		
担当者 (英語表記)	稲葉 弘道 (Hiromichi Inaba)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	わが国の食料需給は米などの過剰と大豆等の不足が共存している。一方、世界の食料需給については、穀物生産は量的には十分といえるが、先進国の過剰と開発途上国の不足が共存している。これは食料生産を増やせばよいというだけでなく、経済問題であることの証である。以上の困難な食料農業問題を考える能力をつけることを目的とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	食料に関わる経済的な問題を基礎から説明する。まず、わが国および世界の食料農業問題の全体像を配布資料により簡潔に説明した後、教科書を使って個別の事項を詳しく学ぶ。説明にはパワーポイントを利用する。		
成績評価方法	定期試験 ( 60 %) ・ 課題作成および授業参加態度 ( 40 % )		
基準			
授業の予習・復習	予習：教科書と配布資料により予習をしておくこと。 復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行っておく。		
教科書	高橋正郎著『食料経済』理工学社		
参考文献	農林水産省『農業白書』農林統計協会		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要	
第 2 回	わが国の食料需給の現状	食生活の変化・主要農産物の生産動向	
第 3 回	わが国の食料需給の現状	農産物の自給率と農業政策	
第 4 回	わが国の食料需給の現状	農産物輸入と食料の安全保障	
第 5 回	世界の食料需給の現状	食料需要の変化と食料の南北問題	
第 6 回	世界の食料需給の現状	世界の食料の需給動向	
第 7 回	世界の食料需給の現状	世界の農業政策	
第 8 回	わが国の食料・農業問題と食の安全	わが国の食料供給の問題点	
第 9 回	わが国の食料・農業問題と食の安全	食料の安定供給と展望	
第 10 回	食生活の変遷と特徴	わが国の食生活小史	
第 11 回	食生活の変遷と特徴	第 2 次大戦後の食生活の変化	
第 12 回	食生活の変遷と特徴	食生活変化の背景	
第 13 回	食生活の変遷と特徴	“食”の国際比較	
第 14 回	食生活の変遷と特徴	“食”の地域性。地産地消とスローフード	
第 15 回	まとめ	まとめと質疑応答	

経済

授業番号	B202270001				
科目名 (英語表記)	人的資源管理 I (Human Resource Management I)				
担当者 (英語表記)	高木 朋代 (Tomoyo Takagi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	これから社会に出ていく皆さんが、企業内で行われている人事管理の仕組みを知っておくことは極めて重要といえます。本講義は、企業がどのような論理に基づいて、人の採用、配置、評価・処遇等を決めているのかを理解することを目的としています。				
授業の進め方 (履修条件など)	人的資源管理 I と II を合わせて受講することをお勧めします。人的資源管理 I では、特に「採用」「異動」「能力開発」を中心に勉強します。授業では、ビデオ鑑賞や討論などの実習をまじえながら、理論と実際の両方について解説します。				
成績評価方法	授業内で実施する小論文 (30%) と定期試験 (70%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の前に、前回の授業ノートを再読しておくことをお勧めします。 復習：授業で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。				
教科書	必要に応じて独自に資料を配布します。				
参考文献	必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図			
第 2 回	人という資源	人の育成と活用について考える			
第 3 回	採用のマネジメント	柔軟な企業モデルと人材ポートフォリオ			
第 4 回	採用のマネジメント	企業は新卒者に何を期待しているのか			
第 5 回	採用のマネジメント	採用の方法とその注意点、問題点			
第 6 回	異動のマネジメント	人事異動とジョブ・ローテーション			
第 7 回	異動のマネジメント	異動方式の多様化とその意味			
第 8 回	異動のマネジメント	キャリア開発としての異動、その注意点			
第 9 回	能力開発のマネジメント	能力の種類			
第 10 回	能力開発のマネジメント	能力開発の方法			
第 11 回	能力開発のマネジメント	能力開発をめぐる個人と組織			
第 12 回	企業と人	若年者雇用と人的資源管理			
第 13 回	企業と人	経営思想と人的資源管理			
第 14 回	企業と人	企業経営と人的資源管理			
第 15 回	日本の人的資源管理	採用・異動・能力開発における今日的課題			

# 経済

授業番号	B202280001				
科目名 (英語表記)	人的資源管理 II (Human Resource Management II)				
担当者 (英語表記)	高木 朋代 (Tomoyo Takagi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	これから社会に出ていく皆さんが、企業内で行われている人事管理の仕組みを知っておくことは極めて重要といえます。本講義は、企業がどのような論理に基づいて、人の採用、配置、評価・処遇等を決めているのかを理解することを目的としています。				
授業の進め方 (履修条件など)	人的資源管理 I と II を合わせて受講することをお勧めします。人的資源管理 II では、特に「評価・処遇」「組織からの退出」を中心に勉強します。授業では、ビデオ鑑賞や討論などの実習をまじえながら、理論と実際の両方について解説します。				
成績評価方法	授業内で実施する小論文 (30%) と定期試験 (70%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の前に、前回の授業ノートを再読しておくことをお勧めします。 復習：授業で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。				
教科書	必要に応じて独自に資料を配布します。				
参考文献	必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図			
第 2 回	評価・処遇のマネジメント	評価・処遇をめぐる個人と組織			
第 3 回	評価・処遇のマネジメント	人事考課と昇格・昇進システム			
第 4 回	評価・処遇のマネジメント	評価の仕組みとその注意点、問題点			
第 5 回	評価・処遇のマネジメント	賃金といわれるものの中身			
第 6 回	評価・処遇のマネジメント	賃金体系の特徴とそのメリット・デメリット			
第 7 回	退出のマネジメント	雇用調整の論理			
第 8 回	退出のマネジメント	雇用調整の時期と方法			
第 9 回	退出のマネジメント	解雇と中途退職			
第 10 回	退出のマネジメント	定年退職と雇用継続			
第 11 回	退出のマネジメント	入社から退職までの長期的なキャリアマネジメント			
第 12 回	ビデオ鑑賞と討論	成功者の職業キャリア①			
第 13 回	ビデオ鑑賞と討論	成功者の職業キャリア②			
第 14 回	働くということ	幸せな職業人生とは			
第 15 回	日本の人的資源管理	評価・処遇・退出管理における今日的課題			

経済

授業番号	B200400001				
科目名 (英語表記)	心理学 (Psychology)			A	
担当者 (英語表記)	藤井 輝男 (Teruo Fujii)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	「行動科学」とも呼ばれている心理学の研究方法、研究成果を理解し、人間の行動を心理学的に理解する。				
授業の進め方 (履修条件など)	具体的な研究例を取り上げ、初学者でも分かるように概説する。その際、必要に応じてプリント、OHP、ビデオ、パワーポイント等を利用する。				
成績評価方法	定期試験 (80%)・レポート及びその他の課題 (20%)				
基準					
授業の予習・復習	講義内容をその都度整理し、理解しておく。				
教科書	使用しない。授業時に資料を配付する。				
参考文献	重野純編著「キーワードコレクション・心理学」新曜社				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて			
第2回	心理学とは	行動科学としての心理学			
第3回	心理学の方法 (1)	観察法、実験法について具体例をあげて解説する			
第4回	心理学の方法 (2)	質問紙法、事例研究法などについて解説する			
第5回	心理学のもののとらえ方	心をどう考えるか、心を知るための研究とは			
第6回	感覚・知覚 (1)	視覚情報の入り口である目について解説する			
第7回	感覚・知覚 (2)	視覚の特性について			
第8回	感覚・知覚 (3)	錯視・錯覚現象について具体例をあげながら解説する			
第9回	学 習 (1)	古典的条件付け			
第10回	学 習 (2)	道具的条件付け			
第11回	学 習 (3)	学習理論と日常生活について			
第12回	記 憶 (1)	記憶の構造について			
第13回	記 憶 (2)	記憶の種類 (短期記憶と長期記憶)			
第14回	記 憶 (3)	忘却について			
第15回	まとめ	まとめと質問			

経済

授業番号	B200400002				
科目名 (英語表記)	心理学 (Psychology)			B	
担当者 (英語表記)	藤井 輝男 (Teruo Fujii)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	「行動科学」とも呼ばれている心理学の研究手法、研究成果を理解し、人間の行動を心理学的に理解する。				
授業の進め方 (履修条件など)	具体的な研究例を取り上げ、初学者でも分かるように概説する。その際、必要に応じてプリント、OHP、ビデオ、パワーポイント等を利用する。				
成績評価方法	定期試験 (80%)・レポート及びその他の課題 (20%)				
基準					
授業の予習・復習	講義内容をその都度整理し、理解しておく。				
教科書	使用しない。授業時に資料を配付する。				
参考文献	重野純編著「キーワードコレクション・心理学」新曜社				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて			
第2回	心理学とは	行動科学としての心理学			
第3回	心理学の方法 (1)	観察法、実験法について具体例をあげて解説する			
第4回	心理学の方法 (2)	質問紙法、事例研究法などについて解説する			
第5回	心理学のもののとらえ方	心をどう考えるか、心を知るための研究とは			
第6回	感覚・知覚 (1)	視覚情報の入り口である目について解説する			
第7回	感覚・知覚 (2)	視覚の特性について			
第8回	感覚・知覚 (3)	錯視・錯覚現象について具体例をあげながら解説する			
第9回	学 習 (1)	古典的条件付け			
第10回	学 習 (2)	道具的条件付け			
第11回	学 習 (3)	学習理論と日常生活について			
第12回	記 憶 (1)	記憶の構造について			
第13回	記 憶 (2)	記憶の種類 (短期記憶と長期記憶)			
第14回	記 憶 (3)	忘却について			
第15回	まとめ	まとめと質問			

経済

授業番号	B201450001				
科目名 (英語表記)	進路支援講座 (金融・情報) V (Course support lecture V Finance and information)				
担当者 (英語表記)	佐竹 勇子 (Yuko Satake)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	この講義ではシステム化を推進するために必要な、情報機器・システム構成など、情報技術に関する幅広い基礎知識を習得し、「IT パスポート」試験合格レベルの基礎力をつけます。情報化が進む現在社会では、パソコン操作ができるだけでなく、IT を正しく理解し、業務に効果的に IT を活用することのできる IT 力が求められています。IT に関する基礎的な知識を証明できる国家試験、「IT パスポート」試験の合格を目指します。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書と配布プリントを使って講義を進めていきます。				
成績評価方法	確認テストと定期試験で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書を読んでください。 復習：新しい用語を整理して理解してください。				
教科書	IT パスポート試験 対策テキスト 平成 26-27 年度版 FOM 出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方および IT パスポート試験の概要説明			
第 2 回	コンピュータシステム (1)	コンピュータの構成要素 五大装置ほか			
第 3 回	コンピュータシステム (2)	ソフトウェア オペレーティングシステムほか			
第 4 回	技術要素 (1)	インタフェース、マルチメディア			
第 5 回	技術要素 (2)	データベース			
第 6 回	技術要素 (3)	ネットワーク			
第 7 回	技術要素 (4)	セキュリティ			
第 8 回	基礎理論 (1)	基礎理論			
第 9 回	基礎理論 (2)	アルゴリズムとプログラミング			
第 10 回	企業と法務 (1)	企業活動			
第 11 回	企業と法務 (2)	法務			
第 12 回	経営戦略 (1)	経営戦略マネジメント			
第 13 回	経営戦略 (2)	技術戦略、ビジネスインダストリ			
第 14 回	マネジメント	開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント			
第 15 回	まとめ	模擬問題を利用したまとめ			

経済

授業番号	B201460001				
科目名 (英語表記)	進路支援講座 (金融・情報) VI (Course support lecture VI Finance and information)				
担当者 (英語表記)	佐竹 勇子 (Yuko Satake)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	この講義ではシステム化を推進するために必要な、情報機器・システム構成など、情報技術に関する幅広い基礎知識を習得し、「IT パスポート」試験合格レベルの基礎力をつけます。情報化が進む現在社会では、パソコン操作ができるだけでなく、IT を正しく理解し、業務に効果的に IT を活用することのできる IT 力が求められています。IT に関する基礎的な知識を証明できる国家試験、「IT パスポート」試験の合格を目指します。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書と配布プリントを使って、専門用語を覚えながら、より知識を深め、模擬問題と解説を組み合わせることで講義を進めていきます。				
成績評価方法	確認テストと定期試験で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書を読んでください。 復習：新しい用語を整理して理解してください。				
教科書	IT パスポート試験 対策テキスト 平成 26-27 年度版 FOM 出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方および IT パスポート試験の概要説明			
第 2 回	テクノロジ系 (1)	コンピュータシステム (1) コンピュータの構成要素 五大装置ほか			
第 3 回	テクノロジ系 (2)	コンピュータシステム (2) ソフトウェア オペレーティングシステムほか			
第 4 回	テクノロジ系 (3)	技術要素 (1) インタフェース、マルチメディア			
第 5 回	テクノロジ系 (4)	技術要素 (2) データベース			
第 6 回	テクノロジ系 (5)	技術要素 (3) ネットワーク			
第 7 回	テクノロジ系 (6)	技術要素 (4) セキュリティ			
第 8 回	テクノロジ系 (7)	基礎理論 (1) 基数変換 集合 確率 統計 情報量			
第 9 回	テクノロジ系 (8)	基礎理論 (2) アルゴリズムとプログラミング			
第 10 回	ストラテジ系 (1)	企業と法務 (1) 企業活動			
第 11 回	ストラテジ系 (2)	企業と法務 (2) 法務			
第 12 回	ストラテジ系 (3)	経営戦略 (1) 経営戦略マネジメント			
第 13 回	ストラテジ系 (4)	経営戦略 (2) 技術戦略、ビジネスインダストリ			
第 14 回	マネジメント系	マネジメント 開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント			
第 15 回	まとめ	模擬問題を利用したまとめ			



# 経済

授業番号	B201430001				
科目名 (英語表記)	進路支援講座 (金融・情報) III (Course support lecture III Finance and information)				
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、FP技能検定3級の内容について、理解することにある。FP技能検定の目的は、顧客の資産に応じた貯蓄・投資などのプランの立案・相談に必要な技能の程度を検定することである。この授業では、技能検定3級に合格できる知識と技能を習得することを到達目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的には、テキストを活用して検定の出題範囲となるテーマを学習する。また、履修者の理解を促すために、適宜問題集や過去問題を用いた問題演習を行う。こうして、ファイナンシャル・プランニングの機能やその一連の流れについて、理解できるようにする。さらに、毎回の授業では、前回までの復習を行うことで、知識の定着を図る。毎回、電卓を必ず持参すること。				
成績評価方法 基準	課題：各回で課題提出を義務付け、成績評価に換算する。 (関連科目) 金融論、銀行論、簿記論、会計学、保険論、財政学等の社会保障などが関連科目である。本気で学習に取り組み、資格試験を受験し合格する意欲のある履修者の受講を期待する。				
授業の予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次回の授業までに、テキストの該当箇所を熟読して授業にのぞむこと。</li> <li>・ 授業で取り上げた箇所の復習を怠らないこと。</li> <li>・ 課題や宿題については、必ずやり遂げ提出すること。</li> </ul>				
教科書	「2013-2014年版 みんなが欲しかった! FPの教科書 3級」 滝澤ななみ (TAC出版)				
参考文献	各種資料は適宜、講義で紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の概要と今後の進め方、成績評価について FP総論・倫理・関連法規			
第2回	ライフプランニング I	ファイナンシャル・プランニングと倫理, ファイナンシャル・プランニングと関連法規			
第3回	ライフプランニング II	年金と税金, ライフプラン策定上の資金計画, ローン及びカード			
第4回	リスクと保険 I	リスクマネジメント, 保険制度全般, 生命保険, 損害保険			
第5回	リスクと保険 II	第三分野の保険, リスク管理及び保険, リスク管理の最新の動向			
第6回	金融資産運用設計 I	マーケット環境の理解, 預貯金・金融類似商品等, 投資信託, 債券投資, 株式投資, 外貨建商品			
第7回	金融資産運用設計 II	ポートフォリオ運用, 金融商品と税金, セーフティネット, 関連法規, 金融資産運用の最新の動向			
第8回	タックスプランニング I	わが国の税制, 所得税の仕組み, 各種所得の内容, 損益通算, 所得控除, 税額控除, 定率減税			
第9回	タックスプランニング II	所得税の申告と納付, 個人住民税, 個人事業税, タックスプランニングの最新の動向			
第10回	不動産運用設計 I	不動産の見方, 不動産の取引, 不動産に関する法令上の規制, 不動産の取得・保有に係る税金			
第11回	不動産運用設計 II	不動産の譲渡に係る税金, 不動産の賃貸, 不動産の有効活用, 不動産の証券化			
第12回	相続・事業承継 I	贈与と法律, 贈与と税金, 相続と法律, 相続及び税金			
第13回	相続・事業承継 II	相続財産の評価, 不動産の相続対策, 相続と保険の活用, 相続・事業承継の最新の動向			
第14回	問題演習①	過去に出題された問題を使用した問題演習の実施①			
第15回	問題演習②	過去に出題された問題を使用した問題演習の実施②			

# 経済

授業番号	B201440001				
科目名 (英語表記)	進路支援講座 (金融・情報) IV (Course support lecture IV Finance and information)				
担当者 (英語表記)	平屋 伸洋 (Nobuhiro Hiraya)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、日商簿記検定3級の内容について理解することにある。簿記とは、企業の経営活動を記録・計算・整理し、財政状態と経営成績を明らかにするための技法である。この授業では、簿記検定3級に合格できる知識と技能を習得することを到達目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的には、テキストを活用して検定の出題範囲となるテーマを学習する。また、履修者の理解を促すために、適宜問題集や過去問題を用いた問題演習を行う。こうして、簿記一巡や財務諸表の作成について理解できるようにする。さらに、毎回の授業では、前回までの復習を行うことで知識の定着を図る。				
成績評価方法	課 題： 13回の課題提出を義務づけており、各10点満点で採点し、それを成績評価に換算する。				
基準					
授業の予習・復習	① 次回の授業までに、テキストの該当箇所を熟読して授業に臨むこと。 ② 授業で取り上げた箇所の復習を怠らないこと。 ③ 課題や宿題については必ずやり遂げ提出すること。				
教科書	『村田の簿記検定合格シリーズ 日商3級』(村田学園)				
参考文献	TAC 簿記検定講座著『合格テキスト 日商簿記3級 Ver.6.0 (よくわかる簿記シリーズ)』TAC 出版、第6版、2011年。 TAC 簿記検定講座著『合格トレーニング 日商簿記3級 Ver.6.0 (よくわかる簿記シリーズ)』TAC 出版、第6版、2011年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	本授業の概要と今後の進め方、成績評価について説明			
第2回	簿記の基礎概念	資産と負債・純資産の均衡、収益と費用			
第3回	複式簿記の基本構造	取引の意義と複式記入、借方・貸方、勘定、仕訳、仕訳帳、元帳			
第4回	取引から決算まで	貸借平均の原理、取引の仕訳から決算まで			
第5回	資産勘定の処理	現金・預金・売掛金の仕訳、元帳転記			
第6回	負債・資本勘定の処理	買掛金・借入金・資本金等の仕訳、元帳転記			
第7回	収益・費用勘定の処理	売上・受取利息等の収益と給料・交通費・支払利息等の費用の仕訳、元帳転記			
第8回	諸勘定の仕訳と元帳転記	複雑な取引と元帳転記			
第9回	現金・預金の処理	小切手、小口現金、普通預金、当座預金等			
第10回	手形取引の処理	手形の意義、約束手形、為替手形の処理、裏書・割引、不渡、金融手形の意味			
第11回	決算の仕方と試算表	決算の意義・構造、試算表の構造			
第12回	決算整理 I	決算整理の処理①			
第13回	決算整理 II	決算整理の処理②			
第14回	精算表	精算表の仕組と作成			
第15回	財務諸表の作成	貸借対照表と損益計算書の作成練習			

# 経済

授業番号	B201620001				
科目名 (英語表記)	進路支援講座 (経済) V (Course support lecture V Economy)				
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	多くの企業が採用テストとして実施している SPI 試験のうち、非言語 (数学に相当) の問題で、とりわけ重要と思われるものに焦点を充てて解説する。解法のパターンを理解し、問題練習を行うことで、SPI 2 の問題に対して「慣れる」ことを目標としている。				
授業の進め方 (履修条件など)	頻出単元を 7 つに絞り、各単元を 2 週で完結する。第 1 週目は、例題を使い解法を解説する。第 2 週目には問題演習に取り組んでもらう。授業時間内に解き切れなかった者には、後日解いて提出させる。				
成績評価方法	演習問題の解答提出状況 (時間内・時間外を問わない) = 50%、				
基準	定期試験 (SPI 試験を想定した問題) = 50%				
授業の予習・復習	予習 = 計算力を維持するために、簡単な計算問題を毎日解くこと 復習 = 配布された例題や演習問題を完全に自力で解けるようになるまで繰り返し解き直すこと 解法を「暗記」するつもりで声に出して、自分で自分に教えてみる。				
教科書	毎回講師が作成したプリントを配布します。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	SPI とは何か? 授業の進め方・評価方法の解説			
第 2 回	損益算①	問題演習			
第 3 回	損益算②	問題演習			
第 4 回	分割払い①	問題演習			
第 5 回	分割払い②	問題演習			
第 6 回	料金の割引①	問題演習			
第 7 回	料金の割引②	問題演習			
第 8 回	代金の精算①	問題演習			
第 9 回	代金の精算②	問題演習			
第 10 回	速さ・時間・距離①	問題演習			
第 11 回	速さ・時間・距離②	問題演習			
第 12 回	順列・組み合わせ①	問題演習			
第 13 回	順列・組み合わせ②	問題演習			
第 14 回	確率①	問題演習			
第 15 回	確率②	問題演習			

# 経済

授業番号	B201630001				
科目名 (英語表記)	進路支援講座 (経済) VI (Course support lecture VI Economy)				
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	多くの企業が採用テストとして実施している SPI 試験のうち、非言語 (数学に相当) の問題で、とりわけ重要と思われるものに焦点を充てて解説する。解法のパターンを理解し、問題練習を行うことで、SPI 2 の問題に対して「慣れる」ことを目標としている。				
授業の進め方 (履修条件など)	頻出単元を 7 つに絞り、各単元を 2 週で完結する。第 1 週目は、例題を使い解法を解説する。第 2 週目には問題演習に取り組んでもらう。授業時間内に解き切れなかった者には、後日解いて提出させる。				
成績評価方法	演習問題の解答提出状況 (時間内・時間外を問わない) = 50%、				
基準	定期試験 (SPI 2 を想定した問題) = 50%				
授業の予習・復習	予習 = 計算力を維持するために、簡単な計算問題を毎日解くこと 復習 = 配布された例題や演習問題を完全に自力で解けるようになるまで繰り返し解き直すこと 解法を「暗記」するつもりで声に出して、自分で自分に教えてみる。				
教科書	毎回講師が作成したプリントを配布します。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	推論①	問題演習			
第 2 回	推論②	問題演習			
第 3 回	集合①	問題演習			
第 4 回	集合②	問題演習			
第 5 回	表の読み取り①	問題演習			
第 6 回	表の読み取り②	問題演習			
第 7 回	グラフの領域①	問題演習			
第 8 回	グラフの領域②	問題演習			
第 9 回	ブラックボックス, 物の流れと比率①	問題演習			
第 10 回	ブラックボックス, 物の流れと比率②	問題演習			
第 11 回	割合①	問題演習			
第 12 回	割合②	問題演習			
第 13 回	言語①	問題演習			
第 14 回	言語②	問題演習			
第 15 回	総合演習	SPI 試験問題を実践練習			

# 経済

授業番号	B201600001				
科目名 (英語表記)	進路支援講座 (経済) III (Course support lecture III Economy)				
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	多くの企業が採用テストとして実施している SPI 試験のうち、非言語 (数学に相当) の問題で、とりわけ重要と思われるものに焦点を充てて解説する。解法のパターンを理解し、問題練習を行うことで、SPI 2の問題に対して「慣れる」ことを目標としている。				
授業の進め方 (履修条件など)	頻出単元を7つに絞り、各単元を2週で完結する。第1週目は、例題を使い解法を解説する。第2週目には問題演習に取り組んでもらう。授業時間内に解き切れなかった者には、後日解いて提出させる。				
成績評価方法	演習問題の解答提出状況 (時間内・時間外を問わない) = 50%、				
基準	定期試験 (SPI を想定した問題) = 50%				
授業の予習・復習	予習 = 計算力を維持するために、簡単な計算問題を毎日解くこと 復習 = 配布された例題や演習問題を完全に自力で解けるようになるまで繰り返し解き直すこと 解法を「暗記」するつもりで声に出して、自分で自分に教えてみる。				
教科書	毎回講師が作成したプリントを配布します。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	SPI とは何か? 授業の進め方・評価方法の解説			
第2回	損益算①	例題の解説			
第3回	損益算②	問題演習			
第4回	分割払い①	例題の解説			
第5回	分割払い②	問題演習			
第6回	料金の割引①	例題の解説			
第7回	料金の割引②	問題演習			
第8回	代金の精算①	例題の解説			
第9回	代金の精算②	問題演習			
第10回	速さ・時間・距離①	例題の解説			
第11回	速さ・時間・距離②	問題演習			
第12回	順列・組み合わせ①	例題の解説			
第13回	順列・組み合わせ②	問題演習			
第14回	確率①	例題の解説			
第15回	確率②	問題演習			

# 経済

授業番号	B201610001				
科目名 (英語表記)	進路支援講座 (経済) IV (Course support lecture IV Economy)				
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	多くの企業が採用テストとして実施している SPI 試験のうち、非言語 (数学に相当) を中心に、とりわけ重要と思われるものに焦点を充てて解説する。解法のパターンを理解し、問題練習を行うことで、SPI の問題に対して「慣れる」ことを目標としている。				
授業の進め方 (履修条件など)	頻出単元を 7 つに絞り、各単元を 2 週で完結する。第 1 週目は、例題を使い解法を解説する。第 2 週目には問題演習に取り組んでもらう。授業時間内に解き切れなかった者には、後日解いて提出させる。				
成績評価方法	演習問題の解答提出状況 (時間内・時間外を問わない) = 50%、				
基準	定期試験 (SPI を想定した問題) = 50%				
授業の予習・復習	予習 = 計算力を維持するために、簡単な計算問題を毎日解くこと 復習 = 配布された例題や演習問題を完全に自力で解けるようになるまで繰り返し解き直すこと 解法を「暗記」するつもりで声に出して、自分で自分に教えてみる。				
教科書	毎回講師が作成したプリントを配布します。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	推論①	例題の解説			
第 2 回	推論②	問題演習			
第 3 回	集合①	例題の解説			
第 4 回	集合②	問題演習			
第 5 回	表の読み取り①	例題の解説			
第 6 回	表の読み取り②	問題演習			
第 7 回	グラフの領域①	例題の解説			
第 8 回	グラフの領域②	問題演習			
第 9 回	ブラックボックス, 物の流れと比率①	例題の解説			
第 10 回	ブラックボックス, 物の流れと比率②	問題演習			
第 11 回	割合①	例題の解説			
第 12 回	割合②	問題演習			
第 13 回	言語①	例題の解説			
第 14 回	言語②	問題演習			
第 15 回	総合演習	SPI 試験問題を実践練習			

# 経済

授業番号	B201250001				
科目名 (英語表記)	進路支援講座 (公務員) V (Course support lecture V Government official)				
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本授業では、就職対策講座として公務員試験合格を目的とし、1年後の公務員試験に万全の体制で臨むため、基礎事項の確認と演習の授業を行います。				
授業の進め方 (履修条件など)	公務員試験に対応できるよう人文科学・自然科学・面接対策・論作文の基礎と応用を繰り返し学習します。欠席せずに、受講すれば公務員試験の実戦力が身につくよう講義を展開します。なお、民間就職希望の学生でも、役に立つ内容なのでぜひ履修してください。				
成績評価方法	定期試験、授業態度				
基準					
授業の予習・復習	復習：授業で指示した箇所については、必ず次回の講義までに復習して授業に臨んでください。				
教科書	初回の授業時に指示します。				
参考文献	初回の授業時に指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	面接対策	公務員・民間企業の就職試験で課される人物試験対策			
第2回	論作文	論作文の書き方			
第3回	人文科学 1	日本史			
第4回	人文科学 2	日本史			
第5回	人文科学 3	世界史			
第6回	人文科学 4	世界史			
第7回	人文科学 5	地理			
第8回	人文科学 6	地理			
第9回	人文科学 7	思想・文芸			
第10回	自然科学 1	生物			
第11回	自然科学 2	生物			
第12回	自然科学 3	物理			
第13回	自然科学 4	物理			
第14回	自然科学 5	化学			
第15回	自然科学 6	地学			

経済

授業番号	B201260001				
科目名 (英語表記)	進路支援講座 (公務員) VI (Course support lecture VI Government official)				
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本授業では、就職対策講座として公務員試験合格を目的とし、1年後の公務員試験に万全の体制で臨むため、基礎事項の確認と演習の授業を行います。				
授業の進め方 (履修条件など)	公務員試験に対応できるよう数的処理・自然科学・社会科学・文章理解の基礎と応用を繰り返し学習します。欠席せずに、受講すれば公務員試験の実戦力が身につくよう講義を展開します。なお、民間就職希望の学生でも、役に立つ内容なのでぜひ履修してください。				
成績評価方法	定期試験、授業態度				
基準					
授業の予習・復習	復習：授業で指示した箇所については、必ず次回の講義までに復習して授業に臨んでください。				
教科書	初回の授業時に指示します。				
参考文献	初回の授業時に指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	自然科学 1	数学			
第2回	自然科学 2	数学			
第3回	自然科学 3	地学			
第4回	自然科学 4	地学			
第5回	自然科学 5	自然科学まとめ			
第6回	自然科学 6	自然科学まとめ			
第7回	自然科学 7	自然科学まとめ			
第8回	社会科学 1	社会科学まとめ			
第9回	社会科学 2	社会科学まとめ			
第10回	社会科学 3	社会科学まとめ			
第11回	文章表現 1	文章理解まとめ			
第12回	文章表現 2	文章理解まとめ			
第13回	文章表現 3	文章理解まとめ			
第14回	数的処理 1	数的処理まとめ			
第15回	数的処理 2	数的処理まとめ			



経済

授業番号	B201230001				
科目名 (英語表記)	進路支援講座 (公務員) III (Course support lecture III Government official)				
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本授業では、就職対策講座として公務員試験の基礎を学ぶことを目的とし、2年後の公務員試験に万全の体制で臨むための基礎作りを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	公務員試験に対応できるよう数的処理・文章理解・社会科学の基礎を繰り返し学習します。欠席せずに、受講すれば公務員試験の基礎が身につくよう講義を展開します。なお、民間就職希望の学生でも、役に立つ内容なのでぜひ履修してください。				
成績評価方法	定期試験、授業態度				
基準					
授業の予習・復習	復習：授業で指示した箇所については、必ず次回の講義までに復習して授業に臨んでください。				
教科書	初回の授業時に指示します。				
参考文献	初回の授業時に指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	数的処理 1	判断推理			
第2回	数的処理 2	判断推理			
第3回	数的処理 3	数的処理			
第4回	数的処理 4	数的処理			
第5回	数的処理 5	資料解釈			
第6回	文章表現 1	現代文			
第7回	文章表現 2	現代文			
第8回	文章表現 3	現代文			
第9回	文章表現 4	英文			
第10回	文章表現 5	英文			
第11回	社会科学 1	政治			
第12回	社会科学 2	政治			
第13回	社会科学 3	政治			
第14回	社会科学 4	経済			
第15回	社会科学 5	経済			

経済

授業番号	B201240001				
科目名 (英語表記)	進路支援講座 (公務員) IV (Course support lecture IV Government official)				
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本授業では、就職対策講座として公務員試験の基礎を学ぶことを目的とし、2年後の公務員試験に万全の体制で臨むための基礎作りを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	公務員試験に対応できるよう数的処理・文章理解・社会科学の基礎を繰り返し学習します。欠席せずに、受講すれば公務員試験の基礎が身につくよう講義を展開します。なお、民間就職希望の学生でも、役に立つ内容なのでぜひ履修してください。				
成績評価方法	定期試験、授業態度				
基準					
授業の予習・復習	復習：授業で指示した箇所については、必ず次回の講義までに復習して授業に臨んでください。				
教科書	初回の授業時に指示します。				
参考文献	初回の授業時に指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	数的処理 1	判断推理			
第2回	数的処理 2	判断推理			
第3回	数的処理 3	数的処理			
第4回	数的処理 4	数的処理			
第5回	数的処理 5	図形			
第6回	文章表現 1	現代文			
第7回	文章表現 2	現代文			
第8回	文章表現 3	現代文			
第9回	文章表現 4	英文			
第10回	文章表現 5	英文			
第11回	社会科学 1	政治			
第12回	社会科学 2	政治			
第13回	社会科学 3	政治			
第14回	社会科学 4	経済			
第15回	社会科学 5	経済			

# 経済

授業番号	B201210001				
科目名 (英語表記)	進路支援講座I(コース共通)(Course support lecture I)				
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本授業では、就職対策講座として公務員試験または民間就職筆記試験の基礎を学ぶことを目的とし、3年後の就職試験に万全の体制で臨むための基礎作りを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	公務員試験、民間就職筆記試験に対応できるよう基礎を繰り返し学習します。 欠席せずに、受講すれば基礎が身につくよう講義を展開します。 なお、公務員就職希望、民間企業就職希望の学生は、ぜひ履修してください。				
成績評価方法	定期試験、授業態度				
基準					
授業の予習・復習	復習：授業で指示した箇所については、必ず次回の講義までに復習して授業に臨んでください。				
教科書	初回の授業時に指示します				
参考文献	初回の授業時に指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	数学の基礎①	整数の性質			
第2回	数学の基礎②	計算			
第3回	数学の基礎③	展開と因数分解			
第4回	数学の基礎④	方程式			
第5回	数学の基礎⑤	関数			
第6回	数学の基礎⑥	規則性			
第7回	数学の基礎⑦	比と割合			
第8回	数学の基礎⑧	速さ			
第9回	数学の基礎⑨	特殊算			
第10回	数学の基礎⑩	場合の数と確率			
第11回	数学の基礎⑪	図形の基本			
第12回	数学の基礎⑫	円の性質			
第13回	数学の基礎⑬	合同と相似			
第14回	数学の基礎⑭	三平方の定理			
第15回	数学の基礎全般	数学の基礎全般			

経済

授業番号	B201220001				
科目名 (英語表記)	進路支援講座II(コース共通)(Course support lecture II)				
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本授業では、就職対策講座として公務員試験または民間就職筆記試験の基礎を学ぶことを目的とし、3年後の就職試験に万全の体制で臨むための基礎作りを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	公務員試験、民間就職筆記試験に対応できるよう基礎を繰り返し学習します。欠席せずに、受講すれば基礎が身につくよう講義を展開します。 なお、公務員就職希望、民間企業就職希望の学生は、ぜひ履修してください。				
成績評価方法	定期試験、授業態度				
基準					
授業の予習・復習	復習：授業で指示した箇所については、必ず次回の講義までに復習して授業に臨んでください。				
教科書	初回の授業時に指示します。				
参考文献	初回の授業時に指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	数的処理①	判断推理① (論理・真偽)			
第2回	数的処理②	判断推理② (対応関係)			
第3回	数的処理③	判断推理③ (順序関係・暗号)			
第4回	数的処理④	判断推理④ (操作手順)			
第5回	数的処理⑤	数的推理① (整数・比と割合)			
第6回	数的処理⑥	数的推理② (記数法・数列)			
第7回	数的処理⑦	数的推理③ (速さ・文章題)			
第8回	数的処理⑧	数的推理④ (場合の数・確率)			
第9回	数的処理⑨	図形① (正多面体・軌跡・移動)			
第10回	数的処理⑩	図形② (図形の計量)			
第11回	数的処理⑪	資料解釈 (資料の見方・簡単な計算)			
第12回	数的処理⑫	判断推理のまとめ			
第13回	数的処理⑬	数的推理のまとめ			
第14回	数的処理⑭	図形・資料解釈のまとめ			
第15回	数的処理⑮	数的処理全般			

経済

授業番号	B200440001		
科目名 (英語表記)	数学 I (Mathematics I)		
担当者 (英語表記)	小林 忠 (Tadashi Kobayashi)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	数学の基本的な思考法の習得を目標とし、線形代数の基礎部分を丁寧に紹介します。		
授業の進め方 (履修条件など)	基本となる概念、定義を繰り返し説明しますので、欠席せずに受講すれば理解できる講義内容です。数学に関する予備知識としては、高校での数学 I 程度を必要とします。毎回演習を行います。		
成績評価方法	試験成績 80%、授業参加態度 20%		
基準			
授業の予習・復習	予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。 復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。		
教科書	矢野健太郎他著『社会科学者のための基礎数学』裳華房		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	概論	線形代数論の紹介	
第 2 回	行列	行列の定義、行列の演算	
第 3 回	行列	特殊な行列、ベクトル、単位行列	
第 4 回	行列	行列の演算の諸性質	
第 5 回	行列	正方行列、逆行列の存在について	
第 6 回	行列式	互換、奇順列、偶順列	
第 7 回	行列式	行列式の定義、計算例	
第 8 回	行列式	行列式の四つの特性 (1)	
第 9 回	行列式	行列式の四つの特性 (2)	
第 10 回	行列式	行列式の計算の簡素化	
第 11 回	行列式	行列式の計算の簡素化 (余因子)	
第 12 回	行列式	行列式の余因子展開	
第 13 回	行列と行列式	逆行列の求め方	
第 14 回	行列と行列式	正則行列とその行列式の値 (1)	
第 15 回	行列と行列式	正則行列とその行列式の値 (2)	

経済

授業番号	B200450001		
科目名 (英語表記)	数学 II (Mathematics II)		
担当者 (英語表記)	小林 忠 (Tadashi Kobayashi)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	数学の基本的な思考法の習得を目標とし、線形代数と微積分の基礎部分を丁寧に紹介します。		
授業の進め方 (履修条件など)	「数学 I」に続く講義である。「数学 I」を履修済みのこと。 基本となる概念、定義を繰り返し説明しますので、欠席せずに受講すれば理解できる講義内容です。毎回演習を行います。		
成績評価方法	試験成績 80%、授業参加態度 20%		
基準			
授業の予習・復習	予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。 復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。		
教科書	矢野健太郎他著『社会科学者のための基礎数学』裳華房		
参考文献	齋藤正彦著『線型代数入門』東京大学出版会 高木貞二著『解析概論』岩波書店		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	行列と行列式	連立一次方程式とクラメルの公式	
第 2 回	ベクトル	ベクトルの一次独立、一次従属	
第 3 回	ベクトル	連立一次方程式と非自明解	
第 4 回	ベクトル	行列の階数 (1)	
第 5 回	ベクトル	行列の階数 (2)	
第 6 回	概論	微積分学の紹介	
第 7 回	準備	実数、数列の極限、関数の連続	
第 8 回	準備	三角関数と指数関数の定義	
第 9 回	微分	微分の定義、微分の公式	
第 10 回	微分	多項式の微分	
第 11 回	微分	指数関数の微分	
第 12 回	微分	三角関数の微分	
第 13 回	積分	原始関数、定積分	
第 14 回	積分	定積分と図形の面積、不定積分	
第 15 回	積分	微積分学の基本定理	

経済

授業番号	B202610001		
科目名 (英語表記)	スポーツ科学概論 (Sports science introduction)		
担当者 (英語表記)	福川 裕司 (Yuji Fukukawa)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	スポーツ・運動と健康について科学の視点からアプローチし、心と体についての理解を深める。 また、主体的に問題を提起し、人への興味関心を深める。		
授業の進め方 (履修条件など)	視覚教材を用いて授業を展開していく。		
成績評価方法	定期試験 (50%)、授業内小レポート (10%)、授業への参加度 (40%)		
基準			
授業の予習・復習	メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットを利用することが必要。		
教科書	使用しない。必要な資料はその都度配布する。		
参考文献	①新版 運動心理学入門、松田岩男・杉原隆編著、大修館書店 ②モチベーション理論の新展開ー スポーツ科学からのアプローチ ー、Glyn C Roberts 著、中島宣行監訳、株式会社創成社 ③健康・スポーツの心理学、青木高・太田壽城 監修、建帛社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業に関する説明など	
第 2 回	スポーツ・健康科学概論	スポーツ・運動は人によってどのような意味を持つのか	
第 3 回	スポーツと心身の健康 (1)	運動、栄養、休養について考える	
第 4 回	スポーツと心身の健康 (2)	スポーツと動機づけ	
第 5 回	人のからだ (1)	人体の不思議	
第 6 回	人のからだ (2)	発育と発達におけるスポーツの効果	
第 7 回	筋と骨	人はどのように力を発揮しているのか	
第 8 回	スポーツの心理的特性	スポーツの心理的効用とは	
第 9 回	スポーツにおけるメンタル	不安や緊張を取り除くには	
第 10 回	スポーツと安全	スポーツ外傷・障害とその予防	
第 11 回	トレーニングの基礎知識 (1)	運動を安全に実施するには	
第 12 回	トレーニングの基礎知識 (2)	より効果的な運動とは	
第 13 回	トレーニングの基礎知識 (3)	ストレッチングを考える	
第 14 回	スポーツと疾病	スポーツによる疾病予防について	
第 15 回	まとめ	総括	

経済

授業番号	B200360001				
科目名 (英語表記)	スポーツ教育 I (Sport I)			A	
担当者 (英語表記)	福川 裕司 (Yuji Fukukawa)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	運動・スポーツを通じて健康の保持・増進を図り、生涯スポーツとしてのスポーツ習慣を形成する。				
授業の進め方 (履修条件など)	室内で行う各種スポーツ実技を通して上記の狙いの達成を図る。 運動着および運動靴を着用する。				
成績評価方法	授業への参加度 (60%)・実技テスト (30%)・意欲・態度 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習: スポーツ・運動の実践を通し、心身のコンディションを整えておくようにする。 復習: 授業後は十分なクーリングダウン時間がとれないため、積極的に体を動かし、積極的に疲労回復するようにする。また、個人技能を高めるように積極的にスポーツ・運動に取り組むようにする。				
教科書	使用しない。必要な資料はその都度配布する。				
参考文献	授業時に紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業に関する説明など			
第 2 回	バレーボール (1)	基本練習とゲーム (1)			
第 3 回	バレーボール (2)	基本練習とゲーム (2)			
第 4 回	バレーボール (3)	基本練習とゲーム (3)			
第 5 回	バレーボール (4)	基本練習とゲーム (4)			
第 6 回	バレーボール (5)	基本練習とゲーム (5)			
第 7 回	バスケットボール (1)	基本練習とオールコートゲーム (1)			
第 8 回	バスケットボール (2)	基本練習とオールコートゲーム (2)			
第 9 回	バスケットボール (3)	基本練習とオールコートゲーム (3)			
第 10 回	バスケットボール (4)	基本練習と 3on3 (1)			
第 11 回	バスケットボール (5)	基本練習と 3on3 (2)			
第 12 回	バトミントン (1)	基本練習とゲーム (1)			
第 13 回	バトミントン (2)	基本練習とゲーム (2)			
第 14 回	バトミントン (3)	基本練習とゲーム (3)			
第 15 回	バトミントン (4)	基本練習とゲーム (4)			



経済

授業番号	B200360002				
科目名 (英語表記)	スポーツ教育 I (Sport I)			B	
担当者 (英語表記)	福川 裕司 (Yuji Fukukawa)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	運動・スポーツを通じて健康の保持・増進を図り、生涯スポーツとしてのスポーツ習慣を形成する。				
授業の進め方 (履修条件など)	室内で行う各種スポーツ実技を通して上記の狙いの達成を図る。 運動着および運動靴を着用する。				
成績評価方法	授業への参加度 (60%)・実技テスト (30%)・意欲・態度 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習: スポーツ・運動の実践を通し、心身のコンディションを整えておくようにする。 復習: 授業後は十分なクーリングダウン時間がとれないため、積極的に体を動かし、積極的に疲労回復するようにする。また、個人技能を高めるように積極的にスポーツ・運動に取り組むようにする。				
教科書	使用しない。必要な資料はその都度配布する。				
参考文献	授業時に紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業に関する説明など			
第 2 回	バレーボール (1)	基本練習とゲーム (1)			
第 3 回	バレーボール (2)	基本練習とゲーム (2)			
第 4 回	バレーボール (3)	基本練習とゲーム (3)			
第 5 回	バレーボール (4)	基本練習とゲーム (4)			
第 6 回	バレーボール (5)	基本練習とゲーム (5)			
第 7 回	バスケットボール (1)	基本練習とオールコートゲーム (1)			
第 8 回	バスケットボール (2)	基本練習とオールコートゲーム (2)			
第 9 回	バスケットボール (3)	基本練習とオールコートゲーム (3)			
第 10 回	バスケットボール (4)	基本練習と 3on3 (1)			
第 11 回	バスケットボール (5)	基本練習と 3on3 (2)			
第 12 回	バトミントン (1)	基本練習とゲーム (1)			
第 13 回	バトミントン (2)	基本練習とゲーム (2)			
第 14 回	バトミントン (3)	基本練習とゲーム (3)			
第 15 回	バトミントン (4)	基本練習とゲーム (4)			

経済

授業番号	B200370001				
科目名 (英語表記)	スポーツ教育 II (Sport II)			A	
担当者 (英語表記)	福川 裕司 (Yuji Fukukawa)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	運動・スポーツを通じて健康の保持・増進を図り、生涯スポーツとしてのスポーツ習慣を形成する。				
授業の進め方 (履修条件など)	室内で行う各種スポーツ実技を通して上記の狙いの達成を図る。 運動着および運動靴を着用する。				
成績評価方法	授業への参加度 (60%)・実技テスト (30%)・意欲・態度 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習: スポーツ・運動の実践を通し、心身のコンディションを整えておくようにする。 復習: 授業後は十分なクーリングダウン時間がとれないため、積極的に体を動かし、積極的に疲労回復するようにする。また、個人技能を高めるように積極的にスポーツ・運動に取り組むようにする。				
教科書	使用しない。必要な資料はその都度配布する。				
参考文献	授業時に紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業に関する説明など			
第 2 回	バレーボール (1)	基本練習とゲーム (1)			
第 3 回	バレーボール (2)	基本練習とゲーム (2)			
第 4 回	バレーボール (3)	基本練習とゲーム (3)			
第 5 回	バレーボール (4)	基本練習とゲーム (4)			
第 6 回	バレーボール (5)	基本練習とゲーム (5)			
第 7 回	バスケットボール (1)	基本練習とオールコートゲーム (1)			
第 8 回	バスケットボール (2)	基本練習とオールコートゲーム (2)			
第 9 回	バスケットボール (3)	基本練習とオールコートゲーム (3)			
第 10 回	バスケットボール (4)	基本練習と 3on3 (1)			
第 11 回	バスケットボール (5)	基本練習と 3on3 (2)			
第 12 回	バトミントン (1)	基本練習とゲーム (1)			
第 13 回	バトミントン (2)	基本練習とゲーム (2)			
第 14 回	バトミントン (3)	基本練習とゲーム (3)			
第 15 回	バトミントン (4)	基本練習とゲーム (4)			

経済

授業番号	B200370002				
科目名 (英語表記)	スポーツ教育 II (Sport II)			B	
担当者 (英語表記)	福川 裕司 (Yuji Fukukawa)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	運動・スポーツを通じて健康の保持・増進を図り、生涯スポーツとしてのスポーツ習慣を形成する。				
授業の進め方 (履修条件など)	室内で行う各種スポーツ実技を通して上記の狙いの達成を図る。 運動着および運動靴を着用する。				
成績評価方法	授業への参加度 (60%)・実技テスト (30%)・意欲・態度 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習: スポーツ・運動の実践を通し、心身のコンディションを整えておくようにする。 復習: 授業後は十分なクーリングダウン時間がとれないため、積極的に体を動かし、積極的に疲労回復するようにする。また、個人技能を高めるように積極的にスポーツ・運動に取り組むようにする。				
教科書	使用しない。必要な資料はその都度配布する。				
参考文献	授業時に紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業に関する説明など			
第 2 回	バレーボール (1)	基本練習とゲーム (1)			
第 3 回	バレーボール (2)	基本練習とゲーム (2)			
第 4 回	バレーボール (3)	基本練習とゲーム (3)			
第 5 回	バレーボール (4)	基本練習とゲーム (4)			
第 6 回	バレーボール (5)	基本練習とゲーム (5)			
第 7 回	バスケットボール (1)	基本練習とオールコートゲーム (1)			
第 8 回	バスケットボール (2)	基本練習とオールコートゲーム (2)			
第 9 回	バスケットボール (3)	基本練習とオールコートゲーム (3)			
第 10 回	バスケットボール (4)	基本練習と 3on3 (1)			
第 11 回	バスケットボール (5)	基本練習と 3on3 (2)			
第 12 回	バトミントン (1)	基本練習とゲーム (1)			
第 13 回	バトミントン (2)	基本練習とゲーム (2)			
第 14 回	バトミントン (3)	基本練習とゲーム (3)			
第 15 回	バトミントン (4)	基本練習とゲーム (4)			

経済

授業番号	B202650001				
科目名 (英語表記)	スポーツ産業論 (Sport industrial theory)				
担当者 (英語表記)	高岡 英氣 (Hideki Takaoka)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	私たちは日々、様々な形で産業化されたスポーツと関わっている。スポーツウェアを身に纏い、近所のフィットネスクラブで汗を流し、テレビでスポーツ中継を観戦する。スポーツ産業は用品、施設、クラブ、メディアなど多様な領域にまたがる複合的な産業であり、他の産業（健康、福祉、医療、建設業など）とも関わりが深い。こうしたスポーツ産業の幅広く多様な内実について、多くの事例と研究成果を踏まえ理解を深めていく。				
授業の進め方 (履修条件など)	「サービス・情報」、「用品」、「施設」という伝統的な3領域から、フィットネスクラブ、スポーツツーリズム等に代表される複合領域まで、スポーツ産業を広く学ぶことでスポーツに関する職業領域を理解する。様々なケーススタディを通じて学習し、将来スポーツ産業で働くために有用な知識を身につける。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内課題 (50%)				
基準					
授業の予習・復習	授業内で扱った様々なスポーツ産業の領域について、自分自身の具体的な経験と関連づけて考えをまとめてみる。				
教科書	特になし				
参考文献	授業内で適宜提示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法等について解説			
第2回	スポーツ産業の領域範囲	スポーツ市場の現状、伝統的3領域、スポーツハイブリッド産業、スポーツ関連 IT 産業			
第3回	スポーツ用品産業	スポーツ用品産業の歴史、市場規模、ビジネスサイクル、ブランドビジネス			
第4回	スポーツ施設産業	官主導から PPP へ、PFI 法、指定管理者制度、改正補助金適正化法			
第5回	スポーツサービス産業	サービスプロダクト、3つの品質要素、スポーツサービスの特性、ブランディングとロイヤルティ			
第6回	スポーツとメディア	メディアの多様化、プロスポーツとメディア、判定とテクノロジー			
第7回	産業としての「するスポーツ」	「するスポーツ」の現状と実態、スポーツ振興の現状と課題、投資的価値と受益者負担意識、ソーシャル・キャピタル			
第8回	産業としての「見るスポーツ」	「見るスポーツ」の市場規模、スポーツファンの特性、スポーツ観戦の動機、スポーツファンの心理と行動			
第9回	フィットネスクラブ	産業動向、事業特性、多様化する業態			
第10回	スポーツ・スポンサーシップ	歴史と現状、スポンサーシップの効果、スポンサー獲得のプロセス			
第11回	スポーツ資格制度	フィットネス産業関連資格、レクリエーション指導者の資格制度、競技別指導者の資格制度			
第12回	スポーツツーリズム	概念と分類、機能とシステム、スポーツツーリストの特性、国内における推進の課題			
第13回	スポーツと地域振興	総合型地域スポーツクラブ、地域活性化戦略、スポーツ・コミュニティビジネス、スポーツ NPO			
第14回	スポーツと IT	ソーシャルメディア、ファン・コミュニティ、e スポーツ			
第15回	まとめ	授業の総括と試験対策の解説			

# 経済

授業番号	B202640001		
科目名 (英語表記)	スポーツビジネス論 (Sports business theory)		
担当者 (英語表記)	高岡 英氣 (Hideki Takaoka)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	"business" という言葉には、「商業上の取引」という意味がある。本授業では、「スポーツビジネス」を、スポーツを巡る商業取引 (経済的交換) として捉え、その本質と多様性について学んでいく。特に、スポーツビジネスの中核を占めるプロスポーツについて考察し、そこに関わるステークホルダー間の関係構造や、ビジネスが安定的に継続するためのバランス・メカニズムの在り方について理解を深める。		
授業の進め方 (履修条件など)	プロスポーツ・ビジネスが成立した歴史的背景や、その本質的な関係構造を明らかにしつつ、メジャーリーグ、プレミアリーグ、PGA ツアー、F1 といった海外のものから、プロ野球、Jリーグ、大相撲、公営競技といった国内のものまで、様々なケーススタディを通じて、その多様な在り方を学んでいく。		
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内課題 (50%)		
基準			
授業の予習・復習	授業内で扱う事例については、新聞、雑誌、テレビ、インターネット等を通じ、予備知識を得る。		
教科書	特になし		
参考文献	授業内で適宜提示する。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法等について解説	
第 2 回	スポーツとは何か	遊戯論、カテゴリー、疎外感、スポーツ構造論	
第 3 回	プロスポーツの職業性	職業性と専門性、経済、技術、倫理	
第 4 回	プロスポーツの産業性	スポーツの商品化、ゲームの生産局面・交換局面、プロモーション・ミックス	
第 5 回	プロスポーツの成立条件	文化産業、スポーツ文化の大衆化、スポーツのメディア化	
第 6 回	世界のプロスポーツ (1):メジャーリーグ	クローズ・リーグ、ドラフト、フリーエージェント、収益再配分、公的支出	
第 7 回	世界のプロスポーツ (2):プレミアリーグ	オープン・リーグ、FA、UEFA、ボスマン判決	
第 8 回	世界のプロスポーツ (3):PGA ツアー	個人ツアー型、トーナメントの発展、リスク分散、コストの変動費化	
第 9 回	世界のプロスポーツ (4):F1	組織ツアー型、ワークス、プライベート、FIA、FOG、コンコルド協定	
第 10 回	国内のプロスポーツ (1):プロ野球	クラブ個人主義型、広告媒体化、巨人型再配分、自律への模索	
第 11 回	国内のプロスポーツ (2):Jリーグ	リーグ社会主義型、百年構想、地域密着、toto	
第 12 回	国内のプロスポーツ (3):大相撲	日本相撲協会、部屋制度、褒章金と年功賃金、年寄株	
第 13 回	国内のプロスポーツ (4):公営競技	競馬、競輪、競艇、オートレース	
第 14 回	プロスポーツの周縁:実業団スポーツ	プレミアリーグ、ラグビートップリーグ、日本ハンドボールリーグ、Xリーグ	
第 15 回	まとめ	授業の総括と試験対策の解説	

# 経済

授業番号	B202480001		
科目名 (英語表記)	税務会計論 I (Theory of tax accounting I)		
担当者 (英語表記)	鈴木 明男 (Akio Suzuki)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	最終的には法人（会社）の課税所得と税額算出を学ぶ。これらを規定する法人税法は、会社法や金融商品取引法と一体となつてわが国の会計制度を形成しそれぞれ関連しあうことから、あわせてこの概要を学ぶ。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を中心に授業を進めるが、近年法人税法を含め会計制度全般に極めて急速に変革が進められている。そのため、教科書の改訂を待つ時間的余裕がなく、口頭あるいはプリントを配布して教科書を補う。 毎回、今回の授業の狙いと前回及び次回の授業の関連を説明する。		
成績評価方法	定期試験 80% 授業内小テスト及び課題 20%を目安とする。		
基準			
授業の予習・復習	特に会計関連資格の受験者には最近の出版物の予習・復習が望ましい。		
教科書	「 Semester 法人税法」 鈴木明男・鈴木豊 税務経理協会		
参考文献	「税務会計総論」 富岡幸雄 森山書店 「体系法人税法」 山本守之 税務経理協会		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	運営方針と講義の概要	
第 2 回	法人税の特質と体系	法人税の役割と特徴	
第 3 回	法人税の法源性	租税法主義と関連法規	
第 4 回	法人税の本質	法人税、配当金二重課税の排除	
第 5 回	基礎概念	法人、同族会社、事業年度他	
第 6 回	企業会計	企業会計の概要及会計法規	
第 7 回	企業会計と税務会計 I	会計法規と税務会計の関連	
第 8 回	企業会計と税務会計 II	確定決算基準、国際会計と会社法・税法	
第 9 回	課税所得 I	課税所得の特徴	
第 10 回	課税所得 II	課税所得の算出と税務調整	
第 11 回	益金・損金 I	益金の内容と計上原則	
第 12 回	益金・損金 II	損金の内容と計上原則	
第 13 回	益金・損金 III	資産評価益・損	
第 14 回	益金・損金 IV	主要項目の益金・損金の概要	
第 15 回	課税所得と税額の算出	計算練習	

経済

授業番号	B202490001				
科目名 (英語表記)	税務会計論 II (Theory of tax accounting II)				
担当者 (英語表記)	鈴木 明男 (Akio Suzuki)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	法人〔会社〕の課税所得と税額算出やその根底にある基礎理念を学ぶが、法人税法の特徴を知るためあわせて個人の課税関係〔所得税法〕も検討する。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を中心に授業を進めるが、近年法人税法を含め会計制度全般に極めて急速に変革が進められている。そのため、教科書の改訂を待つ時間的余裕がなく、口頭あるいはプリントを配布して教科書を補う。 毎回、今回の授業の狙いと前回及び次回の授業の関連を説明する。				
成績評価方法	定期試験 80% 授業内小テスト及び課題 20%を目安とする。				
基準					
授業の予習・復習	特に会計関連資格の受験者には最近の出版物の予習・復習が望ましい。				
教科書	「 Semester 法人税法」 鈴木明男・鈴木豊 税務経理協会				
参考文献	「税務会計総論」 富岡幸雄 森山書店 「体系法人税法」 山本守之 税務経理協会				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	運営方針と講義の概要			
第 2 回	所得税と法人税 I	所得税と法人税の特徴・差異			
第 3 回	所得税と法人税 II	所得税と法人税の特徴・差異			
第 4 回	会社法決算と課税所得	確定決算基準と課税所得の算出			
第 5 回	益金各論 I	売上と益金			
第 6 回	益金各論 II	その他の収益と益金			
第 7 回	損金各論 I	売上原価、減価償却費と損金			
第 8 回	損金各論 II	給与、交際費と損金			
第 9 回	損金各論 III	租税公課、貸倒損失と損金			
第 10 回	損金各論 IV	その他の諸費用と損金			
第 11 回	資産	資産の計上と評価益・損の取扱			
第 12 回	引当金、準備金	税法上と会計上の引当金・準備金			
第 13 回	資本・課税所得と税額	資本及課税所得、税率、欠損金の繰越、繰戻し			
第 14 回	申告等	申告、更正・決定、修正、附帯税、不服申立			
第 15 回	課税所得と税額の算出	計算練習と解説			

# 経済

授業番号	B200830001				
科目名 (英語表記)	西洋経済史 I (Western Economic History I)				
担当者 (英語表記)	牧野 俊重 (Toshishige Makino)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	歴史と経済史を学ぶ意義とその研究方法を明らかにし、次いで総合的・グローバルな視点から経済発展を軸に経済史を考究する。				
授業の進め方 (履修条件など)	口授と黒板利用による。ノートを用意して毎回出席すること。				
成績評価方法	定期試験 100%				
基準					
授業の予習・復習	毎回、キーワードや敷衍して学ぶべき関連事項について言及するので、それらを調べながら復習を行い、幅広く知識を広げ理解してください。				
教科書	使用しない。				
参考文献	Joel Mokyr (ed.) , The Oxford Encyclopedia of Economic History, 5 vols. ( 2003) . Rondo Cameron and Larry Neal, A Concise Economic History of the World, 4th ed. (2003) . Elias H. Tuma, European Economic History (1971) . その他は講義中随時紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の方針と進め方、評点等について			
第 2 回	歴史の意義と経済史学 I	歴史とは何か			
第 3 回	歴史の意義と経済史学 II	経済史学の研究対象			
第 4 回	歴史の意義と経済史学 III	経済史学の研究方法			
第 5 回	経済発展の要因 I	人口・資源・技術			
第 6 回	経済発展の要因 II	資本・その他			
第 7 回	経済発展の要因 III	シュンペーターとイノベーション			
第 8 回	経済発展段階説 I	ドイツ歴史学派の諸説 ( 1 )			
第 9 回	経済発展段階説 II	ドイツ歴史学派の諸説 ( 2 ) (リストとロツシャーの説)			
第 10 回	経済発展段階説 III	ドイツ歴史学派の諸説 ( 3 ) (ヒルデブラントとビュッヒャーとシュモラーの説)			
第 11 回	経済発展段階説 IV	マルクスの経済発展論			
第 12 回	W・W・ロストウの経済成長段階説 I	伝統的社会			
第 13 回	W・W・ロストウの経済成長段階説 II	先行条件とテイク・オフ			
第 14 回	W・W・ロストウの経済成長段階説 III	成熟への前進と高度大衆消費時代			
第 15 回	W・W・ロストウの経済成長段階説 IV	その後に来る社会			



# 経済

授業番号	B200840001				
科目名 (英語表記)	西洋経済史 II (Western Economic History II)				
担当者 (英語表記)	牧野 俊重 (Toshishige Makino)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	西洋諸国 (西ヨーロッパ) の経済史的基盤とその経済的発達のプロセスを考究する。				
授業の進め方 (履修条件など)	口授と黒板利用による。ノートを用意して毎回出席すること。				
成績評価方法	定期試験 100%				
基準					
授業の予習・復習	毎回、キーワードや敷衍して学ぶべき関連事項について言及するので、それらを調べながら復習を行い、幅広く知識を広げ理解してください。				
教科書	使用しない。				
参考文献	前期の参考文献の項に同じ。参照されたい。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	封建社会と荘園制 I	封建社会の発達 (1)			
第 2 回	封建社会と荘園制 II	封建社会の発達 (2)			
第 3 回	封建社会と荘園制 III	荘園制と農村			
第 4 回	中世都市の発達 I	中世都市の成立			
第 5 回	中世都市の発達 II	都市経済の特質			
第 6 回	近代社会の成立と重商主義 I	ヨーロッパ近世の意義、文芸復興と宗教改革			
第 7 回	近代社会の成立と重商主義 II	重商主義政策 (1)			
第 8 回	近代社会の成立と重商主義 III	重商主義政策 (2)			
第 9 回	産業革命の進展 I	イギリスの産業革命 (1)			
第 10 回	産業革命の進展 II	イギリスの産業革命 (2)			
第 11 回	産業革命の進展 III	欧州諸国の産業革命			
第 12 回	産業革命の進展 IV	アメリカの産業革命			
第 13 回	独占資本主義の成立と両世界大戦 I	独占資本主義の成立、第一次世界大戦			
第 14 回	独占資本主義の成立と両世界大戦 II	戦間期の経済問題、第二次世界大戦			
第 15 回	独占資本主義の成立と両世界大戦 III	大戦後の世界経済			

# 経済

授業番号	B201500001		
科目名 (英語表記)	世界経済地理 (World economy geography)		
担当者 (英語表記)	青木 英一 (Hidekazu Aoki)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	国際化が進む現在、私たちは様々な視点から世界を理解する必要があります。この授業では、経済地理的な視点すなわち空間的視点から世界を分析します。そこから、各地の空間的相違の実態やその意味を考えてみます。そして、諸君が世界の空間的な相違を理解できるようになることがこの授業の目標です。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業は教科書を用いて行います。日本との関係が特に重視される中国とアメリカ合衆国に重点を置きながら、世界各地の特徴を明らかにしていきます。各地で取り上げるテーマは異なりますが、共通項としては民族がキーワードになります。		
成績評価方法	定期試験 (50%) と平常点 (50%、コメントカードの内容による) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	教科書を予め読んで授業内容のポイントをつかんでおき、授業後は必ず教科書やノートを見直しておくこと。		
教科書	青木英一・北村嘉行『世界を読む 改訂版』 原書房		
参考文献	高野 孟『最新・世界地図の読み方』講談社 21世紀研究会『民族の世界地図』文春新書		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	授業の方針、教科書・参考文献の解説	
第2回	空間的視点とは何か	空間的視点と地域的視点	
第3回	世界地図の利用法	メルカトル地図の特徴と限界	
第4回	人と環境から見た世界	民族問題、環境問題	
第5回	世界の経済と貿易	国際的分業の変化	
第6回	中国の経済改革 (1)	経済改革実施の背景	
第7回	中国の経済改革 (2)	経済改革の内容	
第8回	中国の経済改革 (3)	経済改革実施に伴う諸問題	
第9回	オセアニア諸国	対日関係の強化	
第10回	アメリカ合衆国 (1)	多様な地域性と日米関係	
第11回	アメリカ合衆国 (2)	産業の特質と資源環境	
第12回	ラテンアメリカ諸国	北アメリカとの開発の違い	
第13回	アフリカ諸国	遅れる工業化	
第14回	ヨーロッパ諸国	EUの形成と域内問題	
第15回	まとめ	授業内容のまとめ	

# 経済

授業番号	B200720002		
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	土井 修 (Osamu Doi)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	国際経済について、理論、歴史、現状分析の視点から総合的に研究し、4年次の卒業論文作成に繋げていきます。各自がレジюмеを作成し発表し、プレゼン能力の涵養に務め、同時に、興味のあるテーマを模索してもらいます。		
授業の進め方 (履修条件など)	ゼミ生をいくつかのグループに分け、教科書をグループ毎に輪読します。各グループは、分担部分を各ゼミ生にさらに細かく割り当て、レジюмеを作成・発表し、他グループとの質疑応答を行います。		
成績評価方法	授業参加態度と発表内容によって評価します。		
基準			
授業の予習・復習	輪読の分担部分に関する情報を集め (新聞やインターネットなど)、理解を深めプレゼンを充実させてください。		
教科書	上野泰也『No. 1 エコノミストが書いた世界一わかりやすい経済の本』(かんき出版)		
参考文献	著書、新聞、雑誌、インターネットなどを通して国際経済に関する情報を得ること。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方	
第 2 回	世界経済の現状	変わりゆく世界経済	
第 3 回	世界経済の現状	貿易の流れと経済摩擦	
第 4 回	世界経済の現状	多国籍企業と海外投資	
第 5 回	世界経済の現状	国際通貨体制と円	
第 6 回	地球経済の諸要因	世界の人口問題	
第 7 回	地球経済の諸要因	世界の食糧問題。	
第 8 回	地球経済の諸要因	エネルギーと資源	
第 9 回	地球経済の諸要因	工業化と公害・環境	
第 10 回	新しい国際経済秩序	南北問題と経済協力	
第 11 回	新しい国際経済秩序	様々な地域秩序	
第 12 回	新しい国際経済秩序	社会主義圏の経済	
第 13 回	世界経済の将来と日本	経済軍事化と平和	
第 14 回	世界経済の将来と日本	世界経済と日本	
第 15 回	まとめ	世界経済と日本経済の動向に関する総括と質疑応答。	

経済

授業番号	B200720005				
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	野口 明宏 (Akihiro Noguchi)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	わが国の会社の実情を解説した教科書を皆で読み進め、問題点を考えていきます。皆さんの将来に関する内容です。自分の将来に関心を持って、ゼミに参加してください。				
授業の進め方 (履修条件など)	皆で教科書を読み進め、内容を理解できるように解説します。問題点を考えていきます。				
成績評価方法 基準	授業に意欲的に取り組んでいるか否かによって、評価します。				
授業の予習・復習	あらかじめ教科書に目を通し、授業の後に、再度教科書を読み直してください。				
教科書	奥村宏著 「会社とはなにか」 岩波書店				
参考文献	授業の中で紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	三年ゼミの方針、自己紹介			
第 2 回	株主総会ー日本の実態	委任状の提出、観客のいないショー、総会屋			
第 3 回	機関投資家	投資信託、生命保険、大株主として会社の提案に賛成			
第 4 回	コーポレート・ガバナンス	企業統治、株主代表訴訟、経営者のチェック			
第 5 回	銀行による会社支配	メインバンク、相手の会社の大株主			
第 6 回	企業金融の変化	直接金融、間接金融、銀行の証券業への進出			
第 7 回	銀行による株式所有	銀行の株式所有に制限なし、米国商業銀行の株式所有禁止			
第 8 回	就職ーどんな仕事がしたいのか	職業選択の自由、自分がやりたい仕事、自分に向いた仕事			
第 9 回	職業の選択	職業ではなく、会社を選んでいる			
第 10 回	就職ではなく就社	仕事は会社に入ってから決まる、人事部が一括採用			
第 11 回	日本型就職システム	一斉、一括、一律、派遣社員、契約社員の普及			
第 12 回	終身雇用	日本的経営、年功序列賃金、若者の転職			
第 13 回	揺れる平等神話	成果主義、賃金格差、会社内格差の拡大			
第 14 回	会社本位の企業別組合	労働組合、企業別組合、企業防衛の思想、法人資本主義を強固にした			
第 15 回	前期のまとめ	前期ゼミの反省、後期への展望			

# 経済

授業番号	B200720006		
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	加茂川 益郎 (Masuro Kamogawa)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	戦後から現在までの日本経済の展開と日本型企業システムの形成・変容を学び、多くの新たな困難に直面する日本経済をいかに捉え、どのような処方箋を提示すべきかを考える。		
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを輪読し、班別に報告してもらい、討論する。適時、時事経済問題を取り上げて議論する。		
成績評価方法	参加態度、発表、討論、レポートによって評価する。		
基準			
授業の予習・復習	テキストを何度も読んで、疑問点、問題点を調べ考えておくこと。ゼミでの討論を踏まえて要点を整理すること。		
教科書	橋本寿郎、長谷川信、宮島英昭、齊藤直『現代日本経済 第3版』有斐閣		
参考文献	『ゼミナール 現代日本経済入門』日本経済新聞社 山家悠紀夫『暮らし視点の経済学』新日本出版社		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	現代日本経済を見る眼	日本経済が直面する課題、基本的視点と叙述方法	
第2回	戦後改革	戦後改革のインパクト、経済改革、労働改革、	
第3回	高度成長のメカニズム、概説	輸出の成長と国際収支、小さな政府、産業構造の重化学工業化、労使関係の安定化	
第4回	産業政策の効果	産業政策の手段、コンピュータ企業と産業政策、産業政策の変化	
第5回	メインバンクシステム	メインバンクシステムの特徴、戦時・戦後改革期、高度成長期、メインバンクの役割	
第6回	安定株主化	1955年の経営者と株主、高度成長期前半、高度成長期後半、安定株主の役割	
第7回	輸出世界一の鉄鋼業	モデルとしてのコンパクトな工場	
第8回	「民族大移動」と大量消費社会の出現	「民族大移動」、都市化と核家族化、大量消費時代、労働力不足への転換、高度成長の到達点	
第9回	エネルギー革命	1ドル原油と工場の臨海立地	
第10回	石油危機と経済構造の転換、概説、	ニクソンショックと、石油ショック、スタグフレーションからの早期脱却	
第11回	安定成長への転換	安定成長の定着、減量経営、構造不況業種の発生、輸出拡大と円高の進展	
第12回	赤字国債	不況と税収、サミットと積極財政、増税論と行政改革	
第13回	下請制	下請けの定義、下請けはミゼラブルか、受注の多様化、長期相対関係下の組み立て企業と部品企業	
第14回	生産台数世界一の自動車産業	国内市場の制約と製品開発、世界的な需要構造の変化と競争優位	
第15回	前期ゼミ総括	内容理解の確認	

# 経済

授業番号	B200720007		
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済政策の理論として、マクロ経済学を習得し、その後現実の政策課題 (不良債権処理、バブル崩壊以降のデフレ経済からの脱却、財政赤字の問題、年金や医療など社会保障制度改革など) について研究することを目的とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを輪読しながら、経済政策の基礎となるマクロ経済学について習得する。本演習では、3年次終了時点で論文を作成することを義務づけているので、その指導も同時に行う。これは4年次の演習において指導する卒論作成の準備段階と位置づけるものである。		
成績評価方法	授業中の報告 (60%)・レポート及びその他の課題 (40%)		
基準			
授業の予習・復習	予習:ゼミの授業はテキスト並びに配布プリントをある程度理解した上で、質疑応答、討論という形で進めていくため、予習していなければ学習効果は期待できない。 復習:ゼミの時間は自分の研究を進めていくためのものであるから、自宅学習の時間を十分取り、早い段階で自分の研究テーマを見つけることが必要である。		
教科書	『スティグリッツ 入門経済学 (第3版)』 東洋経済新報社、J.E. スティグリッツ、C.E. ウォルシュ著		
参考文献	『スティグリッツ マクロ経済学 (第3版)』 東洋経済新報社、スティグリッツ、C.E. ウォルシュ著		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	不完全市場 (1)	基本競争モデルの拡張	
第2回	不完全市場 (2)	不完全競争と市場構造	
第3回	不完全市場 (3)	不完全情報	
第4回	不完全市場 (4)	外部性	
第5回	不完全市場 (5)	公共財	
第6回	不完全市場 (6)	市場の失敗の様々な要因	
第7回	不完全市場 (7)	レポート作成と練習問題による演習	
第8回	公共部門 (1)	経済における政府の役割	
第9回	公共部門 (2)	税制の評価: アメリカの税制を例として	
第10回	公共部門 (3)	所得移転: 福祉給付、社会保険	
第11回	公共部門 (4)	政府による政策の決定と政府の失敗	
第12回	公共部門 (5)	レポート作成と練習問題による演習	
第13回	マクロ経済学と完全雇用 (1)	GDPと経済成長	
第14回	マクロ経済学と完全雇用 (2)	失業とインフレーション	
第15回	マクロ経済学と完全雇用 (3)	基本的マクロモデルによる均衡国民所得の決定	

# 経済

授業番号	B200720008		
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	森谷 英樹 (Hideki Moriya)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	できるだけケーススタディを中心にしながら企業経営と収益動向に興味をもってもらえるようにしたい。テキストはマーケティングを取りあげる。企業は市場において厳しい競争に直面している。身近な企業の経営戦略について考えることを通して就職活動を支援する。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義を通じて人の話を理解して要点をメモすることが大切である。就職にあたって社会人として何が重要なのか言及する。卒論のテーマを早期に決定してそれをまとめることを期待している。新聞記事、雑誌、ネット、ビデオなどを教材に活用してみたい。		
成績評価方法	出席 40%、その他 60%		
基準			
授業の予習・復習	テキストを読んできて欲しい。復習は分からなかった時に質問に来て下さい。常時卒論のテーマを念頭においてもらいたい。		
教科書	『MBA マーケティング』改定3版 クロービス著 ダイアモンド社		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第1回	マーケティングとは	イントロダクション	
第2回	基礎編	①市場機会	
第3回	基礎編	②ターゲティング	
第4回	基礎編	③ポジショニング	
第5回	マーケティング戦略	④製品戦略	
第6回	マーケティング戦略	⑤価格戦略	
第7回	マーケティング戦略	⑥流通戦略	
第8回	マーケティング戦略	⑦コミュニケーション戦略	
第9回	応用編	⑧ブランド	
第10回	応用編	⑨低価格	
第11回	応用編	⑩サプライチェーン	
第12回	応用編	⑪最適調達	
第13回	応用編	⑫規模の経済	
第14回	応用編	⑬範囲の経済	
第15回	応用編	結びにかえて	

# 経済

授業番号	B200720009				
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	青木 英一 (Hidekazu Aoki)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	立地論や経済地理の考え方や方法を使って、産業や地域の特色を分析し、産業と地域の関係を明らかにできるような能力の養成を目指します。このゼミを通して、実地調査の仕方、資料の分析の仕方、分析結果のまとめ方、レポートの作成方法を学びます。産業と地域の関係をレポートで明らかにできるようになることが目標です。				
授業の進め方 (履修条件など)	産業と地域の関係を理解するために夏休み (8 月か 9 月) や休日に工場や商店街・商業施設の見学を行います。いくつかの班に分かれて担当する工場や商店街を決め、現地に行って見学や調査を行います。I では見学や調査のための準備 (資料集めや資料分析、調査項目の検討など) を行います。				
成績評価方法	レポート (50%) と平常点 (50%, 報告や質問の内容、調査への参加度) から評価します。				
基準					
授業の予習・復習	自分達が担当する分野の企業や商店街については、予め文献や資料等で調べておく。ゼミ時に指導された分析方法や分析内容については必ず復習しておくこと。				
教科書	使用しません。必要に応じてプリントを配布します。				
参考文献	三菱総合研究所 産業・市場戦略研究本部編『日本産業読本 (第 8 版)』東洋経済新報社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方			
第 2 回	見学先の紹介	見学や調査を予定している工場や商店街の紹介、班分け			
第 3 回	見学先の概況報告 (1)	班単位で調べた資料の報告 (商店街・商業施設担当の班)			
第 4 回	見学先の概況報告 (2)	班単位で調べた資料の報告 (工場担当の班)			
第 5 回	資料分析の方法	得られた資料や統計を利用した分析の仕方			
第 6 回	調査項目の検討	実地調査の際に確認すべき項目の検討			
第 7 回	商業施設調査報告	大規模商業施設の調査報告 (第 1 班)			
第 8 回	商店街調査報告 (1)	JR 稲毛駅前商店街の調査報告 (第 2 班)			
第 9 回	商店街調査報告 (2)	東京都品川区の商店街調査報告 (第 3 班)			
第 10 回	商店街調査報告 (3)	東京都江東区の商店街調査報告 (第 4 班)			
第 11 回	商店街調査報告 (4)	東京都台東区の商店街調査報告 (第 5 班)			
第 12 回	工場見学の準備報告	日本の機械工業、千葉県機械工場について (第 6 班)			
第 13 回	商店街活性化について	全員によるディスカッション			
第 14 回	レポートの作成について	レポートの作成方法についての説明			
第 15 回	レポートの添削指導	レポートの下書きの添削指導			



経済

授業番号	B200720010		
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	折原 裕 (Yutaka Orihara)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	一にも二にも卒業論文の準備につきます。		
授業の進め方 (履修条件など)	前期は、折原が『敬愛大学・研究論集』に公表したものを材料に、論文の作成方法全般について学びます。		
成績評価方法	平常点とレポートなど課題との総合評価によります。		
基準			
授業の予習・復習	進行状況次第で、予習、復習ともに必要になるでしょう。		
教科書	折原裕「古典の読み方——『アリストテレス、スミス、マルクス』に寄せて——」『敬愛大学研究論集』第79号、他。コピーを配布します。		
参考文献	指定しません。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	テキスト輪読	教員の論文1-①	
第2回	テキスト輪読	教員の論文1-②	
第3回	テキスト輪読	教員の論文1-③	
第4回	テキスト輪読	教員の論文2-①	
第5回	テキスト輪読	教員の論文2-②	
第6回	テキスト輪読	教員の論文2-③	
第7回	テキスト輪読	教員の論文3-①	
第8回	テキスト輪読	教員の論文3-②	
第9回	テキスト輪読	教員の論文3-③	
第10回	テキスト輪読	教員の論文4-①	
第11回	テキスト輪読	教員の論文4-②	
第12回	テキスト輪読	教員の論文4-③	
第13回	テキスト輪読	教員の論文5-①	
第14回	テキスト輪読	教員の論文5-②	
第15回	テキスト輪読	教員の論文5-③	

# 経済

授業番号	B200720011		
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	2年ゼミ同様楽しく・休まず続けましょう。新しく入る方は、PCが使えること、ディスカッションに溶け込んでくれることを希望します。就活が始まりますので、ゼミでもそれを意識して進めます。卒論は12月の年内最後のゼミで、出来たところまで出して頂きます。		
授業の進め方 (履修条件など)	卒論草稿を書くこと、就職活動にも役立つグループディスカッションに慣れることを中心に進めます。自己分析等にも通じるように、あるテーマに添ったキーワードのメモ、事例の思い起こしとメモ→まとまった文章にまとめる練習もしましょう。		
成績評価方法	定期試験 (実施せず)・授業内小テスト (実施せず)・課題の達成度 (50%)・ゼミでのパフォーマンス (50%)		
基準			
授業の予習・復習	卒論執筆が入り始めると、今までと違い、個人のスケジュールに沿って作業を進めるようになります。自分自身で作ったスケジュールに遅れぬよう、自宅での作業も必須となります。		
教科書	特に指定しません。		
参考文献	必要に応じて一緒に見つけましょう。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	課題の卒論スケルトン報告	卒論相互講評	
第2回	ディスカッション	インターンシップについてグループディスカッションしましょう。 次週の項目を見て、その準備をお願いします。	
第3回	短文作成	エントリーシートを素材に、短文作成演習	
第4回	ディスカッション	みんなが出してくれ案からテーマを選び、問題解決型グループワーク (図解を使ったディスカッション) をやりましょう。	
第5回	プレゼンテーション	前回の議論結果を図解にし報告、図表・画像のワードファイルへの取り込	
第6回	卒論	作成済みの目次の中から1項目選び、その内容を決めていこう	
第7回	卒論	作成済みの目次の中から1項目選び、その内容を決めていこう	
第8回	ディスカッション	前回選んだテーマでディベートをやりましょう。	
第9回	メモ取り→短文構成	講師が、極力新しいニュースを用意し、メモをとりながら聴き取ります。講師の用意するいくつかの質問に口頭で答えていきながら、メモを修正します→修正済みメモをもとに内容を再構成し、文章にまとめましょう。	
第10回	ディスカッション	グループに分かれて図解を使って問題解決型のディスカッションをやり、その結果を短くプレゼンしましょう。	
第11回	卒論	作成済みの目次の中から1項目選び、項目内の粗筋を図解、それに合う内容を検索して、自分の文章で千字書き込む	
第12回	卒論	作成済みの目次の中から1項目選び、項目内の粗筋を図解、それに合う内容を検索して、自分の文章で千字書き込む	
第13回	卒論報告 1	ゼミの1/2が卒論内容について報告します。残りの1/2の方々は口頭でそのコメントをします。 課題として、次回報告の方は、卒論報告準備 (wordで作成した本文を「課題提出」のフォルダに入れておく、パワーポイントファイルを用意する) をお願いします。	
第14回	卒論報告 2	前回報告しなかった方々が卒論内容について報告します。残りの方々は口頭でそのコメントをします。	
第15回	ディスカッション	夏休み卒論作成スケジュール表の作成を終えたら、自由なテーマでディスカッションしましょう。 *夏休みの課題：卒論本文書き込みを進める。	

# 経済

授業番号	B200720012		
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	日本経済史、日本経営史に関する学術論文を読み、その内容をまとめる文献発表を行う。これにより学問的な理解を深めることと、プレゼンテーション能力の向上をねらいとする。前期の到達目標は、文献の内容を正確にまとめることができるようになることである。		
授業の進め方 (履修条件など)	日本経済史あるいは日本経営史に関する学術講座に掲載された論文の内容を発表させる。取り上げる論文については、各自の興味関心に基づいて選択させるので、選択した責任と義務を必ず果たすこと。		
成績評価方法	発表内容 (60 点～レジュメ (20 点) + 発表態度 (10 点) + 内容 (30 点)) と、質疑応答 (4 点× 10 回 = 40 点) の内容によって評価する。		
授業の予習・復習	予習：まず担当する論文をよく読むこと。次に内容を整理し、発表用のレジュメを作成すること 復習： 質疑応答を踏まえて、発表内容に補足・修正などを行えるように継続して研究すること		
教科書	各自が、以下のシリーズの中から論文を 1 編選択すること ・ 石井寛治・原朗ほか編『日本経済史』(全 6 巻、東京大学出版会、2000 年～) ・ 梅村又次・新保博 ほか編『日本経済史』(全 8 巻、岩波書店、1988 年～) ・ 安岡重明・天野正敏ほか編『日本経営史』(全 5 巻、岩波書店、1995 年～)		
参考文献	各報告者が取り上げた論文に関連するものや、報告者の関心に応じて適宜紹介する。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	各自の興味から、自分が要約する論文を選択する。	
第 2 回	模範	教員が論文内容をまとめたレジュメを作り、内容要約の発表をやって見せる。	
第 3 回	レジュメ作り	論文内容をまとめたレジュメを作る作業をする。	
第 4 回	論文輪読 (1)	発表担当者が選択した論文の内容要約を発表する。	
第 5 回	論文輪読 (2)	発表担当者が選択した論文の内容要約を発表する。	
第 6 回	論文輪読 (3)	発表担当者が選択した論文の内容要約を発表する。	
第 7 回	論文輪読 (4)	発表担当者が選択した論文の内容要約を発表する。	
第 8 回	論文輪読 (5)	発表担当者が選択した論文の内容要約を発表する。	
第 9 回	論文輪読 (6)	発表担当者が選択した論文の内容要約を発表する。	
第 10 回	論文輪読 (7)	発表担当者が選択した論文の内容要約を発表する。	
第 11 回	論文輪読 (8)	発表担当者が選択した論文の内容要約を発表する。	
第 12 回	論文輪読 (9)	発表担当者が選択した論文の内容要約を発表する。	
第 13 回	論文輪読 (10)	発表担当者が選択した論文の内容要約を発表する。	
第 14 回	論文輪読 (11)	発表担当者が選択した論文の内容要約を発表する。	
第 15 回	論文輪読 (12)	発表担当者が選択した論文の内容要約を発表する。	

経済

授業番号	B200720013				
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	藤井 輝男 (Teruo Fujii)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	消費者心理、消費社行動に関してやや専門的な内容の本や研究を読み、研究の基礎的技術を身につけることを目標とする。同時に、卒業研究に向けた準備も行う。				
授業の進め方 (履修条件など)	専門書や研究論文を読んで、内容をまとめて発表する。さらに、他者の発表を聴いて積極的に討論に参加してもらう。				
成績評価方法	ゼミでの発言、参加意欲など平常点 (50%)、ショートレポート (50%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	自分に割り当てられた内容について、他の学生に説明が出来る程度に調べて理解してくる。さらに、ゼミで指摘されたことや新たな疑問についてインターネット等で調べる。				
教科書	授業時に指示する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方、自己紹介等			
第 2 回	心理学的研究とは (1)	心理学の研究方法の紹介			
第 3 回	心理学的研究とは (2)	社会心理学領域の研究方法の紹介			
第 4 回	消費者行動に関する研究 (1)	消費者行動研究の研究方法について			
第 5 回	消費者行動に関する研究 (2)	消費者行動に関する研究論文紹介			
第 6 回	消費者行動に関する研究 (3)	消費者行動についての論文紹介			
第 7 回	文献紹介 (1)	各自で興味ある研究論文を選び発表する。発表担当者の発表を聴き、全員で討論する。			
第 8 回	文献紹介 (2)	各自で興味ある研究論文を選び発表する。発表担当者の発表を聴き、全員で討論する。			
第 9 回	文献紹介 (3)	各自で興味ある研究論文を選び発表する。発表担当者の発表を聴き、全員で討論する。			
第 10 回	文献紹介 (4)	各自で興味ある研究論文を選び発表する。発表担当者の発表を聴き、全員で討論する。			
第 11 回	文献紹介 (5)	各自で興味ある研究論文を選び発表する。発表担当者の発表を聴き、全員で討論する。			
第 12 回	文献紹介 (6)	各自で興味ある研究論文を選び発表する。発表担当者の発表を聴き、全員で討論する。			
第 13 回	文献紹介 (7)	各自で興味ある研究論文を選び発表する。発表担当者の発表を聴き、全員で討論する。			
第 14 回	文献紹介 (8)	各自で興味ある研究論文を選び発表する。発表担当者の発表を聴き、全員で討論する。			
第 15 回	まとめ	ゼミで扱った内容の振り返り。			

経済

授業番号	B200720015				
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	森島 隆晴 (Takaharu Morishima)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本演習のねらいは、ビジネス理論を基にした論理的思考方法と業界の現状を学ぶことで、到達目標は戦略的思考方法や表現方法を習得することです。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回、分担者が教科書の分担分を報告し、それに基づいてディスカッションしてもらいます。各自でレポートにまとめて提出してください。				
成績評価方法	報告とレポート (80%) とディスカッションなどへの参加態度 (20%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習として教科書や必要な情報について下調べし、報告時は PowerPoint の資料を作成してください。復習としてディスカッションの内容を踏まえてレポートの作成をおこなってください。				
教科書	中野明 (2010) 『即今日から使える最強ビジネス戦略 51』朝日新聞出版				
参考文献	小宮一慶 (2012) 『一番役立つ! ロジカルシンキング』PHP ビジネス新書				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	講義スケジュールの確認と分担決定			
第 2 回	卒論テーマ報告 1	卒論テーマと卒論作成スケジュールの報告 (1 回目)			
第 3 回	ビジネス理論 1	ボトルネック、バレートの法則とロングテール			
第 4 回	ビジネス理論 2	ロックイン戦略、価格差別と自己選別			
第 5 回	ビジネス理論 3	クーポン戦略、非価格競争戦略			
第 6 回	ビジネス理論 4	ホテリングモデル、投票戦略			
第 7 回	ビジネス理論 5	ネットワーク外部性、バンドワゴン効果			
第 8 回	ビジネス理論 6	ビジネス理論の総括			
第 9 回	卒論テーマ報告 2	卒論テーマと卒論作成スケジュールの報告 (2 回目)			
第 10 回	業界研究 1	研究対象候補のリストアップ			
第 11 回	業界研究 2	研究対象候補の現状調査			
第 12 回	業界研究 3	研究対象候補の情報の整理・分析			
第 13 回	業界研究 4	研究対象の絞り込みと情報の整理・分析			
第 14 回	業界研究 5	研究対象業界の現状報告			
第 15 回	卒論テーマ報告 3	卒論テーマと卒論作成スケジュールの報告 (3 回目)			

# 経済

授業番号	B200720019		
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	「日本の経済成長と構造改革」をテーマとして、日本経済を景気循環および経済成長の過程に注目して捉え、かつて高度成長を経験した日本の経済と企業および家計が今日直面しているさまざまな問題を検討する。3年次は卒業論文の基礎となるマクロ経済、金融と制度改革、企業と雇用問題、規制緩和と公共政策などに関する諸問題に関する知識を学ぶ期間とし、共通の文献を講読しながらこれらを考える。前期においては後期に卒業論文のテーマを決めるために必要な基礎知識と問題意識を持つことを到達目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	より進んだ学習のために必要な事項を学び、後期以降の本格的な研究の準備とする。		
成績評価方法	レポート及びその他の課題、授業参加態度。後者にはゼミでの発言など参加の積極性を反映させる。		
基準			
授業の予習・復習	予習：発表担当者にはレジュメ作成などの準備が、それ以外のメンバーには当該箇所に関する十分な予習が求められる。復習：毎回の内容を自分の卒業論文のテーマ選びに結びつけ、計画をたてる参考とする。		
教科書	雇用、所得分配、金融、公共政策などの観点から日本経済を捉えた日本語文献を選定、使用する。		
参考文献	浅子和美・篠原総一編「入門・日本経済 (第4版)」有斐閣、長谷川啓之編「経済政策の理論と現実」学文社など。この他、各回の論題や受講者の関心に応じて適宜紹介する。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	はじめに (1)	この科目の紹介、進め方などについて	
第2回	はじめに (2)	教科書の紹介と選定	
第3回	はじめに (3)	この演習を卒論執筆とどう結びつけるか	
第4回	基礎的事項の確認 (1)	日本経済をとりまくさまざまな問題 (1)	
第5回	基礎的事項の確認 (2)	日本経済をとりまくさまざまな問題 (2)	
第6回	レポートと発表について	進度に応じて、順序を変更する場合がある。	
第7回	レポート資料の探し方	進度に応じて、順序を変更する場合がある。	
第8回	文献講読と発表 (1)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第9回	文献講読と発表 (2)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第10回	文献講読と発表 (3)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第11回	文献講読と発表 (4)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第12回	文献講読と発表 (5)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第13回	文献講読と発表 (6)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第14回	文献講読と発表 (7)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第15回	前期のまとめ	夏休みの課題レポートと後期の専門演習に向けての準備	

# 経済

授業番号	B200720021		
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	高木 朋代 (Tomoyo Takagi)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	本演習では、学生の皆さんがより堅実な職業人生を歩んでいけるよう、人材マネジメントの論理について学びます。また卒業論文の準備として、社会調査の方法論についても学びます。これらの学習を通じて、自分の頭で考え整理し、物事の関連性を見極め、解決の糸口を見出していく論理的思考力を向上させることを目指します。		
授業の進め方 (履修条件など)	専門演習 I では、人材マネジメントの仕組みと論理とともに、社会調査法について学びます。授業は、文献の輪読と実習によって進めていきます。討論に積極的に参加することが求められます。		
成績評価方法	授業内で実施する課題 (50%) と参加態度 (50%) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：演習の前に、前回の資料等を再読しておくことをお勧めします。 復習：演習で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。		
教科書	必要に応じて独自に資料を配布します。		
参考文献	必要に応じて紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図	
第 2 回	社会科学の方法論	資料の輪読	
第 3 回	社会科学の方法論	資料に関する討論	
第 4 回	社会科学の方法論	<実習>：スライドを見てクイズに答える	
第 5 回	人材マネジメント I	人を雇い入れる：資料の輪読	
第 6 回	人材マネジメント I	採用に関する討論	
第 7 回	人材マネジメント I	人を配置する：資料の輪読	
第 8 回	人材マネジメント I	人事異動に関する討論	
第 9 回	社会調査法	資料の輪読	
第 10 回	社会調査法	資料に関する討論	
第 11 回	社会調査法	定性調査法と定量調査法についてまとめ	
第 12 回	定性調査法	資料の輪読	
第 13 回	定性調査法	資料に関する討論	
第 14 回	定性調査法	定性調査法の実践	
第 15 回	まとめ	総括と討論	

# 経済

授業番号	B200720022				
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	金子 林太郎 (Rintarou Kaneko)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	やや専門的な内容の本を読んで、4年次に卒業研究を行うための基盤を整えること (できれば卒論のテーマ設定) を目標とする。また、来るべき就職活動に向けて、心の準備を整えることも目標としたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的に前期はテキストを全員で輪読し、教員がポイントを解説する。その際、教員が一方向的に解説し、学生は聞くのではなく、内容に関する質疑を通して理解を深めてもらう。テキストの内容を要約する練習もする。				
成績評価方法	ゼミ中の態度 (発言の量、内容)、小レポートの内容等によって総合的に評価する。無断欠席は厳禁である。				
基準					
授業の予習・復習	予習: テキストの予告した範囲を読んで質問事項を整理しておくこと。 復習: その日の議論を振り返り、疑問に思ったことをインターネット等で調べること。				
教科書	北村巨『政令指定都市-百万都市から都構想へ』(中公新書)				
参考文献	岡本全勝『新地方自治入門』(時事通信社) 佐々木信夫『道州制』(ちくま新書) 砂原庸介『大阪-大都市は国家を超えるか』(中公新書) 田村秀『暴走する地方自治』(ちくま新書)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	ゼミの進め方、評価方法の説明、自己紹介等			
第2回	個人目標の設定	今年度の個人目標を設定、発表			
第3回	テキストの輪読 1	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説			
第4回	テキストの輪読 2	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説			
第5回	テキストの輪読 3	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説			
第6回	復習と小レポート作成 1	ここまでで輪読したテキストの内容の振り返りと小括レポートの作成			
第7回	テキストの輪読 4	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説			
第8回	テキストの輪読 5	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説			
第9回	テキストの輪読 6	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説			
第10回	復習と小レポート作成 2	ここまでで輪読したテキストの内容の振り返りと小括レポートの作成			
第11回	テキストの輪読 7	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説			
第12回	テキストの輪読 8	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説			
第13回	テキストの輪読 9	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説			
第14回	復習と小レポート作成 3	ここまでで輪読したテキストの内容の振り返りと小括レポートの作成			
第15回	前期のまとめ	前期のゼミで扱った内容の振り返り			



# 経済

授業番号	B200720025		
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	① 3～4年次の行動計画作り、②卒業論文の作成準備、③卒業論文の作成始動の3つです。		
授業の進め方 (履修条件など)	まず初めに、各自の以後2年間の状況を想定し、具体的な行動計画を作ります。つづいて、専門導入演習での学習を基に、専門的な論文を3点輪読します。その後、調査や資料集めの方法を学び、さらには自分で研究テーマを見つけ、自由に研究してもらいます。この際、継続的かつ頻繁にアドバイスをもらうよう心掛けてください。		
成績評価方法	授業への取り組み姿勢 (60%)、報告などの成果 (40%)。		
基準			
授業の予習・復習	自分の課題に主体的に取り組んでください。		
教科書	教科書は指定しません。		
参考文献	鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社 高木仁『アメリカの金融制度』東洋経済新報社 銀行経理問題研究会編『銀行経理の実務』金融財政事情研究会 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社 この他、演習の中で随時紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	イントロダクション	2年間の行動計画作り	
第2回	論文の輪読 1	論文 1 (前編)	
第3回	論文の輪読 2	論文 1 (後編)	
第4回	論文の輪読 3	論文 2 (前編)	
第5回	論文の輪読 4	論文 2 (後編)	
第6回	論文の輪読 5	論文 3 (前編)	
第7回	論文の輪読 6	論文 3 (後編)	
第8回	論文の書き方	卒業論文の具体的な作成方法	
第9回	卒業論文のテーマ選び 1	テーマや計画について質疑応答 1	
第10回	卒業論文のテーマ選び 2	テーマや計画について質疑応答 2	
第11回	卒業論文のテーマ選び 3	テーマや計画について質疑応答 3	
第12回	卒業論文の作成 1	進捗状況の確認、内容について質疑応答 1	
第13回	卒業論文の作成 2	進捗状況の確認、内容について質疑応答 2	
第14回	卒業論文の作成 3	進捗状況の確認、内容について質疑応答 3	
第15回	卒業論文の作成 4	進捗状況の確認、内容について質疑応答 4	

経済

授業番号	B200720026		
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	本演習では、教科書の輪読を進めるとともに、経済界で観察される面白い現象について自分なりの理解を深め他人とディスカッションする方法を学びます。また、ゼミ生の興味に沿ったディスカッション・テーマを設定し、グループ・ワークとして資料調査し、その結果を発表する練習をします。		
授業の進め方 (履修条件など)	毎回輪読の担当者(レポーターおよびコメンテーター)を決めてゼミ生の司会のもとディスカッションを進めます。レポーターは担当章のサマリーを、コメンテーターは担当章についての疑問点および自分なりの回答をまとめてきます。前期は2回のグループ・ワークを予定しています。		
成績評価方法	ディスカッションへの参加意欲 (50%)、授業態度 (50%) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：輪読時は教科書の決められたチャプターを読んでください。 復習：教科書 (学習したチャプター) を再読してください。		
教科書	鈴木 敏文『売る力 心をつかむ仕事術』文藝春秋、2013年。		
参考文献	必要に応じて紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	授業内容、ゼミの進め方についての説明	
第2回	輪読	第1章	
第3回	輪読	第2章	
第4回	輪読	第3章	
第5回	輪読	第4章	
第6回	輪読	第5章	
第7回	グループ・ワーク1	テーマ決定、資料調査	
第8回	グループ・ワーク1	資料調査	
第9回	グループ・ワーク1	プレゼンテーション&グループ・ディスカッション	
第10回	輪読	第6章	
第11回	輪読	第7章	
第12回	輪読	第8章	
第13回	グループ・ワーク2	テーマ決定、資料調査	
第14回	グループ・ワーク2	資料調査	
第15回	グループ・ワーク2	プレゼンテーション&グループ・ディスカッション	

# 経済

授業番号	B200720027		
科目名 (英語表記)	専門演習 I (Junior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	平屋 伸洋 (Nobuhiro Hiraya)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、日商簿記検定 1・2 級の内容について理解することにある。簿記とは、企業の経営活動を記録・計算・整理し、財政状態と経営成績を明らかにするための技法である。この授業では、簿記検定 1・2 級に合格できる知識と技能を習得することを到達目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	基本的には、テキストを活用して検定の出題範囲となるテーマを学習する。また、履修者の理解を促すために、適宜問題集や過去問題を用いた問題演習を行う。こうして、簿記一巡や財務諸表の作成について理解できるようにする。さらに、毎回の授業では、前回までの復習を行うことで知識の定着を図る。		
成績評価方法	課 題： 13 回の課題提出を義務づけており、各 10 点満点で採点し、それを成績評価に換算する。		
基準			
授業の予習・復習	① 次回の授業までに、テキストの該当箇所を熟読して授業に臨むこと。 ② 授業で取り上げた箇所の復習を怠らないこと。 ③ 課題や宿題については必ずやり遂げ提出すること。		
教科書	『村田の簿記検定合格シリーズ 日商 2 級 (商業簿記)』(村田学園) 『村田の簿記検定合格シリーズ 日商 2 級 (工業簿記)』(村田学園)		
参考文献	TAC 簿記検定講座著『合格テキスト 日商簿記 2 級 Ver.6.0 (よくわかる簿記シリーズ)』TAC 出版、第 6 版、2011 年。 TAC 簿記検定講座著『合格トレーニング 日商簿記 2 級 Ver.6.0 (よくわかる簿記シリーズ)』TAC 出版、第 6 版、2011 年。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	本授業の概要と今後の進め方、成績評価について説明	
第 2 回	簿記の基礎概念	資産と負債・純資産の均衡、収益と費用	
第 3 回	複式簿記の基本構造	取引の意義と複式記入、借方・貸方、勘定、仕訳、仕訳帳、元帳	
第 4 回	取引から決算まで	貸借平均の原理、取引の仕訳から決算まで	
第 5 回	資産勘定の処理	現金・預金・売掛金の仕訳、元帳転記	
第 6 回	負債・資本勘定の処理	買掛金・借入金・資本金等の仕訳、元帳転記	
第 7 回	収益・費用勘定の処理	売上・受取利息等の収益と給料・交通費・支払利息等の費用の仕訳、元帳転記	
第 8 回	諸勘定の仕訳と元帳転記	複雑な取引と元帳転記	
第 9 回	現金・預金の処理	小切手、小口現金、普通預金、当座預金等	
第 10 回	手形取引の処理	手形の意義、約束手形、為替手形の処理、裏書・割引、不渡、金融手形の意味	
第 11 回	決算の仕方と試算表	決算の意義・構造、試算表の構造	
第 12 回	決算整理 I	決算整理の処理①	
第 13 回	決算整理 II	決算整理の処理②	
第 14 回	精算表	精算表の仕組と作成	
第 15 回	財務諸表の作成	貸借対照表と損益計算書の作成練習	

# 経済

授業番号	B200730002				
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	土井 修 (Osamu Doi)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	国際経済について、理論、歴史、現状分析の視点から総合的に研究し、4年次の卒業論文作成に繋げていきます。各自がレジジュメを作成し発表し、プレゼン能力の涵養に務め、同時に、興味のあるテーマを模索してもらいます。				
授業の進め方 (履修条件など)	ゼミ生をいくつかのグループに分け、教科書をグループ毎に輪読します。各グループは、分担部分を各ゼミ生にさらに細かく割り当て、レジジュメを作成・発表し、他グループとの質疑応答を行います。				
成績評価方法	授業参加態度と発表内容によって評価します。				
基準					
授業の予習・復習	輪読の分担部分に関する情報を集め (新聞やインターネットなど)、理解を深めプレゼンを充実させてください。				
教科書	宮崎勇他「世界経済図説 (第三版)」(岩波新書)				
参考文献	著書、雑誌、新聞、インターネットなどを通して国際経済に関する情報を得ること。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方			
第 2 回	世界経済の輪郭	国の数・国土、人口・民族、GNP			
第 3 回	世界経済の輪郭	産業構造、天然資源・エネルギー分布、国際化の進展			
第 4 回	国際貿易	貿易構造、関税・非関税障壁、GATT/WTO 体制			
第 5 回	国際金融	世界における資本の流れ、IMF 体制、ドル・ユーロ・円・人民元			
第 6 回	多極化と地域統合	世界経済の再編成、アジアの地域統合、日・韓・中の経済関係			
第 7 回	指令経済と「南」の市場経済化。	ソ連の解体、中国の市場経済化、インドの経済発展			
第 8 回	人口・食料・エネルギー・資源	世界人口の急増、食糧事情、エネルギー需給			
第 9 回	地球環境保全	広域化する環境問題、大気汚染・地球温暖化、自然環境と生態系			
第 10 回	軍縮の経済と「平和の配当」	軍拡のムダ、軍縮の経済効果、地域紛争と難民			
第 11 回	経済危機	繰り返される経済危機、1929 年のアメリカ大恐慌、1930 年代の世界不況			
第 12 回	経済危機	日本のバブル経済崩壊とその後の不況、アメリカ発グローバル金融危機			
第 13 回	世界経済の構造変化	市場経済の諸形態、世界経済の一体化、覇権国としてのアメリカ			
第 14 回	世界経済の構造変化	EU の挑戦、中国経済の躍進、世界の中の日本			
第 15 回	まとめ	世界経済の動向に関する総括と質疑応答			

# 経済

授業番号	B200730005				
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	野口 明宏 (Akihiro Noguchi)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	現代経済の担い手である株式会社の実情を、投資の対象としての会社、会社の倒産、企業買収などの問題から考えます。				
授業の進め方 (履修条件など)	皆さんで教科書を読み進め、内容を解説しながら、皆で問題点を考えていきます。				
成績評価方法 基準	ゼミに意欲的に参加したか否かにもとづいて評価します。発表も重要な評価要因といたします。				
授業の予習・復習	教科書の授業予定箇所を、あらかじめ読んできてください。授業後は、教科書を読み直してください。				
教科書	奥村宏著 「会社とはなにか」 岩波書店				
参考文献	必要な場合に、授業の中で紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	経営参加	ドイツ共同決定法、労働者の経営参加、従業員持株会社			
第 2 回	ビル・ゲイツと孫正義	起業家、ソフトバンク、マイクロソフト			
第 3 回	ベンチャー・ビジネス	第一次ベンチャー・ビジネス・ブーム、第二次ベンチャー・ビジネス・ブーム、IT 革命ブーム			
第 4 回	株式公開	平成 17 年会社法、証券取引所での株式売買、株式公開ブーム			
第 5 回	会社の倒産	山一証券の倒産、従業員の解雇			
第 6 回	倒産の形態	(1) 手形・小切手の不渡りを出した場合、(2) 裁判所に会社更正法の適用を申請した場合			
第 7 回	倒産企業の再建	銀行に見放された企業の再建は困難、会社から赤字部分を分割			
第 8 回	会社乗取り	テーク・オーバー、M & A、白木屋百貨店の乗取り、株式の相互保有による乗取り防止			
第 9 回	TOB	資本の自由化、株式買占めによる会社乗取りの横行、株式公開買付制度			
第 10 回	投機対象としての会社	第三者割当増資、LBO による会社乗取り、会社を投機的手段とする			
第 11 回	会社を外資に売却する	自発的な第三者割当増資、日産自動車ガルーノ傘下に、マツダがフォード支配下に			
第 12 回	直接投資と証券投資	会社支配目的の直接投資、値上がり益目的の証券投資、外国資本による日本の会社買収の活発化			
第 13 回	多国籍企業	無国籍企業ではない、本国政府の保護に依存、大きいリスクをとまなう			
第 14 回	巨大株式会社の時代	世界の経済、政治、外交を動かす存在、大企業病、再構築により好況を謳歌			
第 15 回	後期のまとめ	授業の反省、四年生への期待			

# 経済

授業番号	B200730006		
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	加茂川 益郎 (Masuro Kamogawa)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	戦後の日本経済の展開と日本型生産システムの形成・変容を学び、多くの新たな困難に直面する日本経済をいかに捉え、どのような処方箋を提示すべきかを考える。		
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを輪読し、班別に報告してもらい、討論する。適時、時事経済問題を取り上げ議論する。		
成績評価方法	参加態度、発表、討論、レポートによって評価する。		
基準			
授業の予習・復習	テキストを何度も読んで、疑問点、問題点を調べ考える。ゼミ討論を要約しておくこと。		
教科書	橋本寿郎、長谷川信、宮島英昭、斉藤直『現代日本経済 第3版』有斐閣		
参考文献	『ぜみなーる現代日本経済入門』日本経済新聞社 山家悠紀夫『暮らし視点の経済学』新日本出版会		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	債権国・経済大国への道、概説	安定成長化のマクロ経済、急速な円高から「平成景気」へ、民営化と規制緩和、日本経済のサービス化	
第2回	債権大国日本	債権大国への道、プラザ合意と直接投資の第3の波、証券投資の急拡大、債権国の含意	
第3回	日本企業の国際競争力	加工組立産業の比較優位、ハイテク・ハードウェアの競争優位、半導体メモリーへの集中	
第4回	トヨタ生産システム	トヨタ生産システムの基本、新生産システムの発生と洗練、トヨタ生産システムの普及	
第5回	流通革命	流通産業の構造、「流通革命」と日本型流通システム	
第6回	バブル崩壊と日本型企業システムの転換、概説	経済環境の変化、「失われた十年」、バブルの崩壊と不況の長期化	
第7回	長期停滞とその克服	銀行危機とデフレの進行、構造改革路線の定着、IT革命下の生産性	
第8回	財政赤字の深刻化	財政の急激な悪化、赤字財政の歴史的展開、日本財政の構造的課題	
第9回	東アジアの台頭	成長する東アジア経済圏、アジアとの関係強化、貿易構造の変容、対外開放の進展	
第10回	新たなビジネスモデルを模索する企業経営	産業構造変化の方向、貿易財産業の明暗、	
第11回	情報化のインパクトと組織革新	流通業の変化と通信インターネット事業の成長、企業組織の改革	
第12回	規制緩和の進展と企業制度改革	規制緩和と行政改革、金融システムの再編成、金融制度改革、企業制度改革	
第13回	日本型企業システムの転換点	変容する日本型企業システム、メインバンク関係の後退、株式相互持合いの解体	
第14回	リーマンショックと危機後の日本経済	インパクト、経済危機への対応、世界経済の構造変化と中国の大国化、山積する国内経済の課題、危機後の日本企業システムの再設計	
第15回	ゼミまとめ	テキスト読了後の要点、問題点の確認	

# 経済

授業番号	B200730007				
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済政策の理論として、マクロ経済学を習得し、その後現実の政策課題（不良債権処理、バブル崩壊以降のデフレ経済からの脱却、財政赤字の問題、年金や医療など社会保障制度改革など）について研究することを目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを輪読しながら、経済政策の基礎となるマクロ経済学について習得する。本演習では、3年次終了時点で論文を作成することを義務づけているので、その指導も同時に行う。これは4年の演習において指導する卒論作成の準備段階と位置づけるものである。				
成績評価方法	授業中の報告 (60%)・レポート及びその他の課題 (40%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：ゼミの授業はテキスト並びに配布プリントをある程度理解した上で、質疑応答、討論という形で進めていくため、予習していなければ学習効果は期待できない。 復習：ゼミの時間は自分の研究を進めていくためのものであるから、自宅学習の時間を十分取り、早い段階で自分の研究テーマを見つけることが必要である。				
教科書	『スティグリッツ 入門経済学 (第3版)』東洋経済新報社、J.E. スティグリッツ、C.E. ウォルシュ著				
参考文献	『スティグリッツ マクロ経済学 (第3版)』東洋経済新報社、スティグリッツ、C.E. ウォルシュ著				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	乗数と国際貿易 (1)	乗数理論：投資乗数と財政乗数			
第2回	乗数と国際貿易 (2)	国際貿易の影響			
第3回	乗数と国際貿易 (3)	レポート作成と練習問題による演習			
第4回	インフレーションとデフレーション (1)	インフレとデフレのコスト			
第5回	インフレーションとデフレーション (2)	インフレと失業の関係：フィリップス曲線			
第6回	インフレーションとデフレーション (3)	インフレの自己持続性			
第7回	インフレーションとデフレーション (4)	金融政策			
第8回	インフレーションとデフレーション (5)	金融政策と財政政策			
第9回	インフレーションとデフレーション (6)	日本の金融政策			
第10回	インフレーションとデフレーション (7)	日本の財政政策			
第11回	インフレーションとデフレーション (8)	レポート作成と練習問題による演習			
第12回	長期的経済成長の分析 (1)	投資と貯蓄			
第13回	長期的経済成長の分析 (2)	労働の質の改善			
第14回	長期的経済成長の分析 (3)	技術進歩と全要素生産性			
第15回	全体のまとめ	レポート作成と練習問題による演習			

# 経済

授業番号	B200730008		
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	森谷 英樹 (Hideki Moriya)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	できるだけケーススタディを中心にしながら企業経営と収益動向に興味をもってもらえるようにしたい。テキストはマーケティングを取りあげる。企業は市場において厳しい競争に直面している。身近な企業の経営戦略について考えることを通して就職活動を支援する。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義を通じて人の話を理解して要点をメモすることが大切である。就職にあたって社会人として何が重要なのか言及する。卒論のテーマを早期に決定してそれをまとめることを期待している。新聞記事、雑誌、ネット、ビデオなどを教材に活用してみたい。		
成績評価方法	出席 40%、その他 60%		
基準			
授業の予習・復習	テキストを読んできて欲しい。復習は分からなかった時に質問に来て下さい。常時卒論のテーマを念頭においてもらいたい。		
教科書	専門演習 I と同じ。		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	日本経済の課題	イントロダクション	
第 2 回	企業研究入門	①沿革	
第 3 回	企業研究入門	②経営者	
第 4 回	企業研究入門	③株式	
第 5 回	企業研究入門	④セグメント別	
第 6 回	企業研究入門	⑤総合評価	
第 7 回	企業研究入門	⑥総合評価	
第 8 回	企業研究入門	⑦総合評価	
第 9 回	産業研究入門	①鉄鋼	
第 10 回	産業研究入門	②電力	
第 11 回	産業研究入門	③鉄道	
第 12 回	産業研究入門	④自動車	
第 13 回	産業研究入門	⑤半導体	
第 14 回	産業研究入門	⑥石油	
第 15 回	産業研究入門	⑦日本の産業	



# 経済

授業番号	B200730009		
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	青木 英一 (Hidekazu Aoki)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	立地論や経済地理の考え方や方法を使って、産業や地域の特色を分析し、産業と地域の関係を明らかにできるような能力の養成を目指します。このゼミを通して、実地調査の仕方、資料の分析の仕方、分析結果のまとめ方、レポートの作成方法を学びます。産業と地域の関係をレポートで明らかにできるようになることが目標です。		
授業の進め方 (履修条件など)	前期に行った商店街や商業施設の見学・調査をさらに深めたり、夏休みに行った工場の見学・調査の内容をまとめたりします。レポートは前期同様、班単位で提出してもらいます。提出後はディバートの練習を行います。		
成績評価方法	レポート (50%) と平常点 (50%、報告や質問の内容、調査への参加度、ディバート等) から評価します。		
基準			
授業の予習・復習	自分達が担当する分野の企業や商店街については、予め文献や資料等で調べておく。ゼミ時に指導された分析方法や分析内容については必ず復習しておくこと。		
教科書	使用しません。必要に応じてプリントを配布します。		
参考文献	三菱総合研究所 産業・市場戦略研究本部編『日本産業読本 (第 8 版)』東洋経済新報社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	後期ゼミの進め方	
第 2 回	工場調査報告	機械工場の調査報告 (第 6 班)	
第 3 回	商業施設の追加調査報告	別の大規模商業施設の調査報告 (第 1 班)	
第 4 回	商店街の追加調査報告 (1)	別の千葉県内商店街の調査報告 (第 2 班)	
第 5 回	商店街の追加調査報告 (2)	東京都世田谷区の商店街の調査報告 (第 3 班)	
第 6 回	商店街の追加調査報告 (3)	新小岩駅前商店街の調査報告 (第 4 班)	
第 7 回	商店街の追加調査報告 (4)	東京都豊島区の商店街の調査報告 (第 5 班)	
第 8 回	商店街の活性化について	前期と比較して全員によるディスカッション	
第 9 回	レポートの作成について	レポートの作成方法についての説明	
第 10 回	ディバート練習 (1)	ディバートについての説明	
第 11 回	ディバート練習 (2)	ディバートの実施 (大学生活をテーマにして)	
第 12 回	ディバート練習 (3)	ディバートの実施 (社会問題をテーマにして)	
第 13 回	ディバート練習 (4)	ディバートの実施 (経済問題をテーマにして)	
第 14 回	卒業論文について (1)	卒業論文の意義と作成について説明	
第 15 回	卒業論文について (2)	卒業論文のテーマと研究方法について指導	

経済

授業番号	B200730010				
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	折原 裕 (Yutaka Orihara)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	一にも二にも卒業論文の準備につきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	後期は、夏休み中に書いてもらうレポートをもとに、卒業論文準備報告書を執筆することを目標にします。				
成績評価方法	平常点とレポートなど課題との総合評価によります。				
基準					
授業の予習・復習	進行状況次第で、予習、復習ともに必要になるでしょう。				
教科書	指定しません。				
参考文献	指定しません。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	レポートの検討	学生レポートの検討 A 君			
第 2 回	レポートの検討	学生レポートの検討 B 君			
第 3 回	レポートの検討	学生レポートの検討 C 君			
第 4 回	レポートの検討	学生レポートの検討 D 君			
第 5 回	レポートの検討	学生レポートの検討 E 君			
第 6 回	レポートの検討	学生レポートの検討 F 君			
第 7 回	レポートの検討	学生レポートの検討 G 君			
第 8 回	レポートの検討	学生レポートの検討 H 君			
第 9 回	レポートの検討	学生レポートの検討 I 君			
第 10 回	レポートの検討	学生レポートの検討 J 君			
第 11 回	レポートの検討	学生レポートの検討 K 君			
第 12 回	レポートの検討	学生レポートの検討 L 君			
第 13 回	レポートの検討	学生レポートの検討 M 君			
第 14 回	レポートの検討	学生レポートの検討 N 君			
第 15 回	レポートの検討	学生レポートの検討 O 君			

# 経済

授業番号	B200730011		
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	OB 訪問や就活生としてではない会社見学、インターンシップ報告会準備、そして正式な就活開始と、かなり忙しい中、卒論を 12 月最後のゼミで提出して頂きます。ゼミでそれらの支援をします。		
授業の進め方 (履修条件など)	プレゼン演習、卒論草稿を書くこと、就職活動にも役立つグループディスカッションに慣れることを中心に進めます。		
成績評価方法	定期試験 (実施せず)・授業内小テスト (実施せず)・課題の達成度 (50%)・ゼミでのパフォーマンス (50%)		
基準			
授業の予習・復習	卒論執筆が入り始めると、今までと違い、個人のスケジュールに沿って作業を進めるようになります。自分自身で作ったスケジュールに遅れぬよう、自宅での作業も必須となります。		
教科書	特に指定しません。		
参考文献	必要に応じて一緒に見つけましょう。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ディスカッション	直近の新卒採用に関するニュースを見てグループディスカッションしましょう。	
第 2 回	卒論	夏休み中に進めた卒論本文のスケレトンと文章をファイルサーバに入れ、互いに見ながらいくつかの論文を取り上げて口頭で講評します。講評で出たポイントに注意しながら、それぞれおうちで自分の文章を直していきましょう。	
第 3 回	プレゼンテーション	任意のテーマでゼミの半数がプレゼンを行い、全員が moodle 上にプレゼンへの講評を書き込みます。講評書き込みも達成課題となります。講評は、報告者にフィードバックされます。	
第 4 回	プレゼンテーション	前回到引き続き、任意のテーマでゼミの半数がプレゼンを行い、全員が moodle 上にプレゼンへの講評を書き込みます。講評書き込みも達成課題となります。講評は、報告者にフィードバックされます。	
第 5 回	卒論	作成済みの目次の中から 1 項目選び、項目内の粗筋を図解、それに合う内容を検索して、自分の文章で千字書き込みます。出所明記を忘れずに。不明点はどんどん質問して下さい。	
第 6 回	卒論	前回の作業を継続します。	
第 7 回	卒論報告	次回、卒論報告を全員しますので、本文、パワーポイントファイル、ご用意下さい。	
第 8 回	ディスカッション	仕事観を問うようなテーマでグループ・ディスカッションを行います。	
第 9 回	短文作成	次週の項目を見て、前期で作ったシートを用意のうえ、極力シートに書き込む内容を追加的に思い出しておいて下さい。	
第 10 回	短文作成	エントリーシートを素材に、短文作成演習。	
第 11 回	ディスカッション	今年の就職状況について、グループ・ディスカッションを行います。	
第 12 回	卒論報告 1	2 人のグループワークで「今年の 5 大ニュース」(経済に絡めること)を選び、その紹介文を相互に回し合って発表します。	
第 13 回	卒論報告 2	ゼミの 1/3 が卒論内容について報告します。残りの 2/3 の方々は口頭でそのコメントをします。	
第 14 回	卒論報告 3	ゼミの 1/3 が卒論内容について報告します。残りの 2/3 の方々は口頭でそのコメントをします。	
第 15 回	ディスカッション	卒論ファイルを「課題提出」フォルダに入れて頂いた後、自由なテーマでディスカッションしましょう。	

経済

授業番号	B200730012				
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	各自の卒業研究に向けてのテーマを決定し、調査・分析し報告書にまとめる。調査や分析手法を学ぶことと、それを説得的に報告することができるようになることが到達目標である。				
授業の進め方 (履修条件など)	個別に研究テーマを決定し、関連する先行研究の文献調査を最初に報告する。次に、それらの先行研究を踏まえて、研究上の問題点や自分なりの研究視点を明確にすること。最後に関連する資料・データを所在確認、および史料批判など資料や史料の検討をおこなう。				
成績評価方法 基準	3回の報告を各20点で採点 3×20 = 60点 他者の報告に対する質疑応答などの参加状況を毎回1点で評価 1×15 = 15点 最後に提出された報告書の「質」を25点満点で評価する 25点				
授業の予習・復習	予習 : 研究報告に必要な調査を行うこと 復習 : 質疑応答を受けて内容を向上させ、報告書を作成すること				
教科書	特に指定はしない。参考文献などは授業中に紹介する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の進め方を説明 (文献調査方法、研究史の整理、資料の確認)			
第2回	文献調査報告(1)	各自の研究テーマに関する先行研究のリストを作成し報告する。			
第3回	文献調査報告(2)	各自の研究テーマに関する先行研究のリストを作成し報告する。			
第4回	文献調査報告(3)	各自の研究テーマに関する先行研究のリストを作成し報告する。			
第5回	文献調査報告(4)	各自の研究テーマに関する先行研究のリストを作成し報告する。			
第6回	研究視点報告(1)	研究上の問題点や課題、自分なりの研究方法など、研究視点を報告する。			
第7回	研究視点報告(2)	研究上の問題点や課題、自分なりの研究方法など、研究視点を報告する。			
第8回	研究視点報告(3)	研究上の問題点や課題、自分なりの研究方法など、研究視点を報告する。			
第9回	研究視点報告(4)	研究上の問題点や課題、自分なりの研究方法など、研究視点を報告する。			
第10回	資料調査報告(1)	資料の所在、その性格、活用方法などについて報告する。			
第11回	資料調査報告(2)	資料の所在、その性格、活用方法などについて報告する。			
第12回	資料調査報告(3)	資料の所在、その性格、活用方法などについて報告する。			
第13回	資料調査報告(4)	資料の所在、その性格、活用方法などについて報告する。			
第14回	報告書作成	これまでの報告を踏まえて報告書を作成する。			
第15回	卒論に向けての準備	報告書に基づき、卒業論文作成への準備を確認する。			

経済

授業番号	B200730013				
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	藤井 輝男 (Teruo Fujii)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	消費者心理、消費社行動に関してやや専門的な内容の本や研究を読み、研究の基礎的技術を身につけることを目標とする。同時に、卒業研究に向けた準備も行う。				
授業の進め方 (履修条件など)	専門書や研究論文を読んで、内容をまとめて発表する。さらに、他者の発表を聴いて積極的に討論に参加してもらう。				
成績評価方法	ゼミでの発言、参加意欲など平常点 (50%)、ショートレポート (50%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	自分に割り当てられた内容について、他の学生に説明が出来る程度に調べて理解してくる。さらに、ゼミで指摘されたことや新たな疑問についてインターネット等で調べる。				
教科書	授業時に指示する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方			
第 2 回	文献購読 (1)	各自で興味ある研究論文を選び発表する。発表担当者の発表を聴き、全員で討論する。			
第 3 回	文献購読 (2)	各自で興味ある研究論文を選び発表する。発表担当者の発表を聴き、全員で討論する。			
第 4 回	文献購読 (3)	各自で興味ある研究論文を選び発表する。発表担当者の発表を聴き、全員で討論する。			
第 5 回	文献購読 (4)	各自で興味ある研究論文を選び発表する。発表担当者の発表を聴き、全員で討論する。			
第 6 回	文献購読 (5)	各自で興味ある研究論文を選び発表する。発表担当者の発表を聴き、全員で討論する。			
第 7 回	文献購読 (6)	各自で興味ある研究論文を選び発表する。発表担当者の発表を聴き、全員で討論する。			
第 8 回	文献購読 (7)	各自で興味ある研究論文を選び発表する。発表担当者の発表を聴き、全員で討論する。			
第 9 回	文献購読 (8)	各自で興味ある研究論文を選び発表する。発表担当者の発表を聴き、全員で討論する。			
第 10 回	卒業論文について	卒業論文 (研究) の概要について			
第 11 回	研究テーマの明確化	各自で卒業論文に向けて、興味あるテーマを明確化し、関連する研究論文を選ぶ。			
第 12 回	研究計画の策定 (1)	卒業研究のテーマと研究計画を各自で検討する。			
第 13 回	研究計画の策定 (2)	卒業研究のテーマと研究計画を各自で検討する。			
第 14 回	研究計画の発表	卒業研究のテーマと研究計画を各自で発表する。全員で討論する。			
第 15 回	まとめ	ゼミで扱った内容の振り返り。			

経済

授業番号	B200730015		
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	森島 隆晴 (Takaharu Morishima)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	本演習のねらいは、ビジネス理論を基にした論理的思考方法と業界の現状を学ぶことで、到達目標は戦略的思考方法や表現方法を習得することです。		
授業の進め方 (履修条件など)	調査・分析、報告、ディスカッション、レポート作成の手順で演習を行います。		
成績評価方法	報告とレポート (80%) とディスカッションなどへの参加態度 (20%) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習として必要な情報について下調べし、報告時は PowerPoint の資料を作成してください。復習としてディスカッションの内容を踏まえてレポートの作成をおこなってください。		
教科書	教科書は使いません。		
参考文献	小宮一慶 (2012) 『一番役立つ! ロジカルシンキング』 PHP ビジネス新書 中野明 (2010) 『即今日から使える最強ビジネス戦略 51』 朝日新聞出版		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	講義スケジュールの確認	
第 2 回	企業研究 1	研究対象候補の現状調査	
第 3 回	企業研究 2	研究対象候補の情報の整理・分析	
第 4 回	企業研究 3	研究対象の絞り込みと情報の整理・分析	
第 5 回	企業分析 4	研究対象業界の現状報告	
第 6 回	卒論テーマ報告 4	卒論テーマと卒論作成スケジュールの報告 (4 回目)	
第 7 回	研究課題調査 1	研究対象の現状調査 1	
第 8 回	研究課題調査 2	研究対象の現状調査 2	
第 9 回	研究課題調査 3	研究対象の現状調査 3	
第 10 回	卒論テーマ報告 5	卒論テーマと卒論作成スケジュールの報告 (5 回目)	
第 11 回	研究課題分析 1	研究対象の課題調査と情報の整理・分析 1	
第 12 回	研究課題分析 2	研究対象の課題調査と情報の整理・分析 2	
第 13 回	研究課題分析 3	研究対象の課題調査と情報の整理・分析 3	
第 14 回	研究課題分析 4	研究対象の課題調査と情報の整理・分析 4	
第 15 回	卒論テーマ報告 6	卒論テーマと卒論作成スケジュールの報告 (6 回目)	

# 経済

授業番号	B200730019		
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	「日本の経済成長と構造改革」をテーマとして、日本経済を景気循環および経済成長の過程に注目して捉え、かつて高度成長を経験した日本の経済と企業および家計が今日直面しているさまざまな問題を検討する。3年次は卒業論文の基礎となるマクロ経済、金融と制度改革、企業と雇用問題、規制緩和と公共政策などに関する諸問題に関する知識を学ぶ期間とし、共通の文献を講読しながらこれらを考える。特に後期においては、次年度における卒業論文の執筆に必要な知識を確かなものとし、明確なテーマを持つことを到達目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	より進んだ学習のために必要な事項を学び、後期以降の本格的な研究の準備とする過程において、卒業論文における自身の研究テーマを見つけ出し、4年次における論文執筆の準備とする。		
成績評価方法	レポート及びその他の課題、授業参加態度。後者にはゼミでの発言など参加の積極性を反映させる。		
基準			
授業の予習・復習	予習：発表担当者にはレジュメ作成などの準備が、それ以外のメンバーには当該箇所に関する十分な予習が求められる。復習：毎回の内容を自分の卒業論文のテーマ選びに結びつけ、計画をたてる参考とする。		
教科書	雇用、所得分配、金融、公共政策などの観点から日本経済を捉えた日本語文献を選定、使用する。		
参考文献	浅子和美・篠原総一編「入門・日本経済 (第4版)」有斐閣、長谷川啓之編「経済政策の理論と現実」学文社など。この他、各回の論題や受講者の関心に応じて適宜紹介する。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	はじめに (1)	前期からのまとめ	
第2回	夏休みの課題レポート発表 (1)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第3回	夏休みの課題レポート発表 (2)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第4回	夏休みの課題レポート発表 (3)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第5回	文献講読と発表 (1)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第6回	文献講読と発表 (2)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第7回	文献講読と発表 (3)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第8回	文献講読と発表 (4)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第9回	文献講読と発表 (5)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第10回	文献講読と発表 (6)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第11回	文献講読と発表 (7)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第12回	卒業論文の計画について (1)	「卒業論文に向けての関心が生まれたか」、について各受講者の報告	
第13回	卒業論文の計画について (2)	「卒業論文に向けての関心が生まれたか」、について各受講者の報告	
第14回	卒業論文の計画について (3)	「卒業論文に向けての関心が生まれたか」、について各受講者の報告	
第15回	まとめ	4年次の演習、卒論執筆に向けての準備	

# 経済

授業番号	B200730021				
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	高木 朋代 (Tomoyo Takagi)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本演習では、学生の皆さんがより堅実な職業人生を歩んでいけるよう、人材マネジメントの論理について学びます。また卒業論文の準備として、社会調査の方法論についても学びます。これらの学習を通じて、自分の頭で考え整理し、物事の関連性を見極め、解決の糸口を見出していく論理的思考力を向上させることを目指します。				
授業の進め方 (履修条件など)	専門演習 II では、人材マネジメントの仕組みと論理とともに、社会調査法について学びます。授業は、文献の輪読と実習によって進めています。討論に積極的に参加することが求められます。				
成績評価方法	授業内で実施する課題 (50%) と参加態度 (50%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：演習の前に、前回の資料等を再読しておくことをお勧めします。 復習：演習で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。				
教科書	必要に応じて独自に資料を配布します。				
参考文献	必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図			
第 2 回	社会科学の方法論	資料の輪読			
第 3 回	社会科学の方法論	資料に関する討論と実習			
第 4 回	人材マネジメント II	人を評価する：資料の輪読			
第 5 回	人材マネジメント II	昇進・昇格に関する討論			
第 6 回	人材マネジメント II	処遇を決める：資料の輪読			
第 7 回	人材マネジメント II	賃金体系に関する討論			
第 8 回	人材マネジメント III	解雇する：資料の輪読			
第 9 回	人材マネジメント III	雇用調整に関する討論			
第 10 回	人材マネジメント III	定年退職：資料の輪読			
第 11 回	人材マネジメント III	定年と雇用継続に関する討論			
第 12 回	定量調査法	資料の輪読			
第 13 回	定量調査法	資料に関する討論			
第 14 回	定量調査法	定量調査法の実践			
第 15 回	まとめ	総括と討論			



経済

授業番号	B200730022		
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	金子 林太郎 (Rintarou Kaneko)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	やや専門的な内容の本を読んで、4年次に卒業研究を行うための基盤を整えること (できれば卒論のテーマ設定) を目標とする。また、来るべき就職活動に向けて、心の準備を整えることも目標としたい。		
授業の進め方 (履修条件など)	前半はテキストを全員で輪読し、教員がポイントを解説する。その際、教員が一方的に解説し、学生は聞くのではなく、内容に関する質疑を通して理解を深めてもらう。後半にはグループに分かれてテキストの内容を要約し、みんなの前で発表してもらう。		
成績評価方法	ゼミ中の態度 (発言の量、内容)、小レポートの内容等によって総合的に評価する。無断欠席は厳禁である。		
基準			
授業の予習・復習	予習: テキストの予告した範囲を読んで質問事項を整理しておくこと。 復習: その日の議論を振り返り、疑問に思ったことをインターネット等で調べること。		
教科書	根本裕二『「豊かな地域」はどこが違うのかー地域間競争の時代』(ちくま新書)		
参考文献	山下祐介『限界集落の現実ー過疎の村は消えるか?』(ちくま新書) 久繁哲之介『地域再生の罫ーなぜ市民と地方は豊かになれないのか』(ちくま新書) 佐々木信夫『自治体をどう変えるか』(ちくま新書)		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	ゼミの進め方、評価方法の説明、自己紹介等	
第2回	個人目標の確認、中間評価、修正	今年度の個人目標の中間評価、修正 (後期の目標設定)、発表	
第3回	テキストの輪読 1	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説	
第4回	テキストの輪読 2	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説	
第5回	テキストの輪読 3	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説	
第6回	復習と小レポート作成 1	ここまでで輪読したテキストの内容の振り返りと小括レポートの作成	
第7回	グループ報告の準備 1	3~4つのグループに分かれて、報告の準備 (要旨作成等)	
第8回	グループ報告の準備 2	3~4つのグループに分かれて、報告の準備 (スライド作り等)	
第9回	グループ報告 1	テキストの内容を要約して報告、全員で議論、講評 (1回目)	
第10回	グループ報告の準備 3	3~4つのグループに分かれて、報告の準備 (要旨作成等)	
第11回	グループ報告の準備 4	3~4つのグループに分かれて、報告の準備 (スライド作り等)	
第12回	グループ報告 2	テキストの内容を要約して報告、全員で議論、講評 (2回目)	
第13回	復習と小レポート作成 2 / 卒業論文のテーマ検討 1	ここまでで読んだテキストの内容の振り返りと小括レポートの作成 / 卒業論文のテーマ設定についての解説、テーマ検討	
第14回	卒業論文のテーマ検討 2	ゼミ卒業生の卒業論文テーマ参照、各自で卒業論文テーマの検討	
第15回	まとめ	今年度のゼミで扱った内容の振り返り、個人目標の達成状況評価	

経済

授業番号	B200730025				
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	専門演習 I における学習の延長として、卒業論文の骨格を作ります。				
授業の進め方 (履修条件など)	自分が選んだ研究テーマについて、先行研究を調査・検討し、主張内容や検証方法、論文構成などを具体化しつつ、検証作業を進めます。各自による演習内での報告が中心となります。				
成績評価方法	授業への取り組み姿勢 (60%)、報告などの成果 (40%)。				
基準					
授業の予習・復習	自分の課題に主体的に取り組んでください。				
教科書	教科書は指定しません。				
参考文献	各自研究テーマが異なるので、個別に紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	卒業論文の作成 5	進捗状況の確認、内容について質疑応答 5			
第 2 回	卒業論文の作成 6	進捗状況の確認、内容について質疑応答 6			
第 3 回	卒業論文の作成 7	進捗状況の確認、内容について質疑応答 7			
第 4 回	卒業論文の作成 8	進捗状況の確認、内容について質疑応答 8			
第 5 回	卒業論文の作成 9	進捗状況の確認、内容について質疑応答 9			
第 6 回	卒業論文の作成 10	進捗状況の確認、内容について質疑応答 10			
第 7 回	卒業論文の作成 11	進捗状況の確認、内容について質疑応答 11			
第 8 回	卒業論文の作成 12	進捗状況の確認、内容について質疑応答 12			
第 9 回	卒業論文の作成 13	進捗状況の確認、内容について質疑応答 13			
第 10 回	卒業論文の作成 14	進捗状況の確認、内容について質疑応答 14			
第 11 回	卒業論文の作成 15	進捗状況の確認、内容について質疑応答 15			
第 12 回	卒業論文の作成 16	進捗状況の確認、内容について質疑応答 16			
第 13 回	卒業論文の作成 17	進捗状況の確認、内容について質疑応答 17			
第 14 回	卒業論文の作成 18	進捗状況の確認、内容について質疑応答 18			
第 15 回	卒業論文の作成 19	進捗状況の確認、内容について質疑応答 19			

# 経済

授業番号	B200730026		
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	本演習では、教科書の輪読を進めるとともに、経済界で観察される面白い現象について自分なりの理解を深め他人とディスカッションする方法を学びます。また、卒論に備えゼミ生各自の興味分野について話し合い、研究テーマを決めていきます。		
授業の進め方 (履修条件など)	毎回輪読の担当者(レポーターおよびコメンテーター)を決めてディスカッションを進めます。レポーターは担当章のサマリーを、コメンテーターは担当章についての疑問点および自分なりの回答をまとめてきます。後期の後半は各自の卒論テーマを決めていきます。		
成績評価方法	ディスカッションへの参加意欲 (50%)、授業態度 (50%) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：輪読時は教科書の決められたチャプターを読んでください。 復習：教科書 (学習したチャプター) を再読してください。		
教科書	月泉 博『ユニクロ vs しまむら』日本経済新聞出版社、2009 年。		
参考文献	必要に応じて紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	授業内容、ゼミの進め方についての説明	
第 2 回	輪読	プロローグ なぜ今、「ユニクロ vs しまむら」なのか？	
第 3 回	輪読	第 1 章 中間流通の不要化 (ユニクロ) と内包化 (しまむら)	
第 4 回	輪読	第 2 章 [早わかり] ユニクロ、しまむら 創業と成長の軌跡	
第 5 回	輪読	第 3 章 まさに対極に位置する経営・業態構造	
第 6 回	輪読	第 4 章 トップのマネジメントとその生き様	
第 7 回	輪読	第 5 章 成熟消費時代を突破する 2 強の「市場解読力」	
第 8 回	輪読	第 6 章 「日本発」世界標準流通業を目指して	
第 9 回	輪読	第 7 章 「2 強の天下」はいつまで続く？	
第 10 回	輪読	エピローグ ユニクロ、しまむらは何を破壊し何を想像したのか？	
第 11 回	グループ・ディスカッション	興味分野の発表①	
第 12 回	グループ・ディスカッション	興味分野の発表②	
第 13 回	グループ・ディスカッション	興味分野の発表③	
第 14 回	グループ・ディスカッション	卒論テーマの決定①	
第 15 回	グループ・ディスカッション	卒論テーマの決定②	

# 経済

授業番号	B200730027		
科目名 (英語表記)	専門演習 II (Junior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	平屋 伸洋 (Nobuhiro Hiraya)	対象学年	3
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、日商簿記検定 1・2 級の内容について理解することにある。簿記とは、企業の経営活動を記録・計算・整理し、財政状態と経営成績を明らかにするための技法である。この授業では、簿記検定 1・2 級に合格できる知識と技能を習得することを到達目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	基本的には、テキストを活用して検定の出題範囲となるテーマを学習する。また、履修者の理解を促すために、適宜問題集や過去問題を用いた問題演習を行う。こうして、簿記一巡や財務諸表の作成について理解できるようにする。さらに、毎回の授業では、前回までの復習を行うことで知識の定着を図る。		
成績評価方法	課 題： 13回の課題提出を義務づけており、各10点満点で採点し、それを成績評価に換算する。		
基準			
授業の予習・復習	①次回の授業までに、テキストの該当箇所を熟読して授業に臨むこと。 ②授業で取り上げた箇所の復習を怠らないこと。 ③課題や宿題については必ずやり遂げ提出すること。		
教科書	『村田の簿記検定合格シリーズ 日商 2 級 (商業簿記)』(村田学園) 『村田の簿記検定合格シリーズ 日商 2 級 (工業簿記)』(村田学園)		
参考文献	TAC 簿記検定講座著『合格テキスト 日商簿記 2 級 Ver.6.0 (よくわかる簿記シリーズ)』TAC 出版、第 6 版、2011 年。 TAC 簿記検定講座著『合格トレーニング 日商簿記 2 級 Ver.6.0 (よくわかる簿記シリーズ)』TAC 出版、第 6 版、2011 年。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	本授業の概要と今後の進め方、成績評価について説明	
第 2 回	工業簿記の基礎概念	工業簿記の流れ	
第 3 回	費目別計算 I	材料費、労務費、経費	
第 4 回	費目別計算 II	製造間接費の配賦問題、先入先出法と平均法	
第 5 回	総合原価計算 I	単純総合原価計算	
第 6 回	総合原価計算 II	工程別総合原価計算	
第 7 回	総合原価計算 III	組別総合原価計算	
第 8 回	総合原価計算 IV	等級別総合原価計算	
第 9 回	直接原価計算	直接原価計算、損益分岐点、CVP 分析	
第 10 回	標準原価計算	標準原価計算	
第 11 回	本社工場会計	本社工場会計	
第 12 回	財務諸表	貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書の作成	
第 13 回	個別原価計算 I	個別原価計算の基礎	
第 14 回	個別原価計算 II	部門別個別原価計算	
第 15 回	問題演習	過去に出題された問題を用いて問題演習を行う。	

# 経済

授業番号	B200700002				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	土井 修 (Osamu Doi)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	専門教育への「橋渡し」を狙いとして、経済学の基礎的知識の習得とともに、各自がレジュメを作成し発表できるようにします(基礎的経済知識の習得とプレゼン能力の涵養)。特に、本演習では経済学および経済事情に関する知識の習得に努めます。				
授業の進め方(履修条件など)	ゼミ生をいくつかのグループに分け、教科書をグループ毎に輪読します。各グループは、分担部分を各ゼミ生にさらに細かく割り当て、レジュメを作成・発表し、他グループとの質疑応答を行います。				
成績評価方法	授業参加態度と発表内容によって評価します。				
基準					
授業の予習・復習	輪読の分担部分に関する情報を集め(新聞やインターネットなど)、理解を深めプレゼンを充実させてください。				
教科書	上野泰也『No. 1 エコノミストが書いた世界一わかりやすい経済の本』(かんき出版)				
参考文献	著書、新聞、雑誌、インターネットなどを通して経済に関する情報を得ること。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方			
第 2 回	経済を動かす基本的な仕組みと法則	経済とは何か?			
第 3 回	経済を動かす基本的な仕組みと法則	生産と消費、家計・企業・政府			
第 4 回	経済を動かす基本的な仕組みと法則	市場メカニズム			
第 5 回	経済を動かす基本的な仕組みと法則	企業間競争・自由貿易			
第 6 回	経済を動かす基本的な仕組みと法則	選択に伴う機会費用とインセンティブ			
第 7 回	現実の経済活動の把握	GDP とは何か?			
第 8 回	現実の経済活動の把握	国際収支(経常収支と資本収支)			
第 9 回	現実の経済活動の把握	家計金融資産			
第 10 回	現実の経済活動の把握	景気循環			
第 11 回	金融政策	金融政策とは何か?			
第 12 回	金融政策	日銀の金融政策と景気循環			
第 13 回	金融政策	日銀の金融緩和政策			
第 14 回	金融政策	インフレ目標とは何か?			
第 15 回	まとめ	前期の研究に関する総括と質疑応答			

# 経済

授業番号	B200700005		
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)		
担当者 (英語表記)	野口 明宏 (Akihiro Noguchi)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>会社について簡単に解説した教科書を皆で読み進めていきます。</p> <p>まず全員が教科書を揃えるように、お願いいたします。</p> <p>内容は、皆さんの将来に関係する事項ですから、関心を持って取り組んでください。</p>		
授業の進め方 (履修条件など)	<p>教科書を皆で読み進めていきます。解説を加えて、問題点を皆で考えていきます。</p> <p>興味のある問題が出てきた場合は、ゼミ生の発表をお願いいたします。</p>		
成績評価方法	ゼミの授業に、意欲的に取り組んでいるか否かによって評価します。		
基準	発表能力が向上したか否かが、重要な評価要因になります。		
授業の予習・復習	あらかじめ教科書に目を通してきてください。授業の後は、教科書を読み直してください。		
教科書	奥村宏著 「会社とはなにか」 岩波書店		
参考文献	授業の中で、随時紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、自己紹介	
第 2 回	会社という言葉	会社主義、多数人の就職先	
第 3 回	会社中心の社会	利潤の追求、法人資本主義	
第 4 回	政治献金	献金の目的、八幡製鉄政治献金事件	
第 5 回	誰が日本を支配しているか	政・官・財の三位一体構造	
第 6 回	J. S. ミルの会社生活	東インド会社での勤務状態	
第 7 回	日本人の出世観	人生の目標は会社経営者、高い社長の社会的地位	
第 8 回	会社の格と人間の格	会社の格付、一流の会社、二流の会社	
第 9 回	バブルの発生と崩壊	法人資本主義、会社本位主義、バブル経済の原因	
第 10 回	会社人間よさらば	大会社の経営破綻、会社人間の意識改革	
第 11 回	会社、企業、法人	会社という言葉、企業概念、法人とは	
第 12 回	会社の種類	合名会社、合資会社、合同会社、株式会社、日本の会社数	
第 13 回	株式会社の歴史	オランダ領東インド会社、危険の分散、株主の有限責任	
第 14 回	株主は有限責任	株式会社への批判、資本充実の原則、資産内容の開示	
第 15 回	合併によって巨大化	株式の買占め、株主総会の多数決で決定	

# 経済

授業番号	B200700006				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	加茂川 益郎 (Masuro Kamogawa)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済を理解するための基礎的な知識の習得。主体的な勉強、研究心の涵養。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを輪読し、内容を私が解説する。理解を確かめるためにゼミ生と質疑応答する。 日本経済、世界経済のニュースを話題にして、経済問題への関心を高め理解を深める。				
成績評価方法	参加態度、発表、討論、レポートによって評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習 テキストを熟読すること 復習 ポイントをノートしておくこと				
教科書	平野和之『図解 経済入門 基本と常識』西東社				
参考文献	新聞、雑誌、ネットの記事				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	自己紹介。 ゼミ生各自の勉学目標、ゼミの達成目標。			
第 2 回	スタート	生活と経済、マクロ経済とミクロ経済、マネーリテラシー			
第 3 回	通貨の役割と経済の動き	通貨の発行。役目ー交換、価値尺度、蓄え			
第 4 回	通貨と世界	円高・円安とは？為替レート、円高・円安が進むと？			
第 5 回	経済と物価の関係	消費者物価指数、需要曲線、供給曲線、価格の決定			
第 6 回	インフレ、デフレと物価	インフレ、デフレ、デフレスパイラル、スタグフレーション			
第 7 回	まとめ	通貨、物価の復習			
第 8 回	もっとも身近な家計	家計・企業・政府、家計の収入・支出・貯蓄、給料、他の収入			
第 9 回	支出とお金の貸し借り	税金、支出、預金、ローン			
第 10 回	お金の貸し借りと投資	利息、固定金利と変動金利、貯蓄から投資へ			
第 11 回	企業の経済への影響	企業とは、企業の数、企業の利益			
第 12 回	企業とお金	直接金融、間接金融、利益を出すしくみ			
第 13 回	企業の今	競争、買収・合併、景気と雇用、正規雇用と非正規雇用			
第 14 回	まとめ	家計と企業の復習			
第 15 回	総まとめとレポート	通貨、物価、家計および企業の復習。夏休みレポート課題。			

# 経済

授業番号	B200700007		
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)		
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	専門導入演習は3, 4年の演習に進むための基礎固めという位置づけである。3年以降では、より専門的な研究を目指すため、ここでは『経済学の基礎』を習得してもらう。経済学の基礎として幅広い知識はもちろん、『経済学の考え方』を身につけることに重点を置いて勉強していくことにしよう。		
授業の進め方 (履修条件など)	本ゼミは、テキストを輪読しながら、経済理論の基礎について習得する。毎回報告者 (発表者) を当てておくので、授業は報告者が予習し、理解したことを発表したのち、それに対する質疑応答を中心に進めていく。また『公務員試験』の過去問を解きながら演習を進めていく予定である。		
成績評価方法	レポート及びその他の課題 (60%) , 授業中の発表, コメントなどの評価 (40%)		
基準			
授業の予習・復習	テキストは必ず予習してくること。発表者はレジメ (報告要旨) を作ることを義務づける。 復習: セメスターの終わりに課題を与えるので、常にノートを整理しておくこと。		
教科書	『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版、西村和雄、八木尚志		
参考文献	『スティグリッツ 入門経済学』(第3版) 東洋経済新報社、J.E. スティグリッツ、 C.E. ウォルシュ、藪下 史郎、秋山 太郎		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	経済学とは何か (1)	ミクロ経済学とマクロ経済学	
第2回	経済学とは何か (2)	トレードオフ、インセンティブ、交換、分配	
第3回	科学としての経済学	因果関係と相関関係	
第4回	様々な経済理論	なぜ経済学者の意見は異なるのか	
第5回	基本的競争モデル (1)	合理的消費者と利潤極大企業	
第6回	基本的競争モデル (2)	競争的市場	
第7回	基本的競争モデル (3)	効率と配分、基準モデルとしての競争モデル	
第8回	機会集合とトレードオフ (1)	予算制約と時間制約	
第9回	機会集合とトレードオフ (2)	生産可能性曲線	
第10回	費用	機会費用、サンクコスト、限界費用	
第11回	経済学の考え方 (復習)	レポート作成と練習問題による演習	
第12回	取引と貿易 (1)	経済的相互依存の便益	
第13回	取引と貿易 (2)	交換と取引からの利益	
第14回	取引と貿易 (3)	比較優位の理論と貿易の利益	
第15回	競争モデルと貿易のまとめ	レポート作成と練習問題による演習	



# 経済

授業番号	B200700010				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	折原 裕 (Yutaka Orihara)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済学発祥の地がヨーロッパであったことから、私達は、私達自身の経済的思惟のルーツを、とかくヨーロッパに求めがちです。けれども、私達日本人にも、固有の経済的思惟の歴史はありました。そうした日本の経済思想史を知ることによって、私達は、現在の私達が持つ経済思想の性格を、よりよく自覚することができるようになるでしょう。				
授業の進め方 (履修条件など)	当面は、下記のテキストによりつつ、日本人の経済的思惟の変遷をたどります。				
成績評価方法	平常点とレポートなど課題との総合評価によります。				
基準					
授業の予習・復習	進行状況次第で、予習、復習ともに必要になるでしょう。				
教科書	テッサ・モーリス・鈴木『日本の経済思想——江戸期から現代まで——』岩波書店、コピーを配布します。				
参考文献	指定しません。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	テキスト輪読	徳川時代の経済思想 1			
第 2 回	テキスト輪読	徳川時代の経済思想 2			
第 3 回	テキスト輪読	徳川時代の経済思想 3			
第 4 回	テキスト輪読	徳川時代の経済思想 4			
第 5 回	テキスト輪読	徳川時代の経済思想 5			
第 6 回	テキスト輪読	徳川時代の経済思想 6			
第 7 回	テキスト輪読	徳川時代の経済思想 7			
第 8 回	テキスト輪読	徳川時代の経済思想 8			
第 9 回	テキスト輪読	徳川時代の経済思想 9			
第 10 回	テキスト輪読	徳川時代の経済思想 1 0			
第 11 回	テキスト輪読	西洋経済思想の導入 1			
第 12 回	テキスト輪読	西洋経済思想の導入 2			
第 13 回	テキスト輪読	西洋経済思想の導入 3			
第 14 回	テキスト輪読	西洋経済思想の導入 4			
第 15 回	テキスト輪読	西洋経済思想の導入 5			

# 経済

授業番号	B200700011				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	卒論の目次+各章・節・項の概要が出来上がることを目標とします。ディスカッションでは、就職活動でのグループディスカッションの練習をかねて、簡潔で論理的な発言に慣れましょう。この習慣が文章での表現にも現れることを期待しています。				
授業の進め方 (履修条件など)	3年次終了までに卒論の草稿が終わることを目的に、2年次では論文作成の基礎を勉強します。希望によっては、ディベート、グループディスカッションを頻繁に行います。かなり詰めて作業をプログラムしていますので、集中して進めてください。				
成績評価方法	レポート及びその他の課題 (30%)・授業中のパフォーマンス (70%)。授業に集中していない場合は出席を取り消します。				
基準					
授業の予習・復習	前の回の作業の上に次回の作業を積み重ねますので、極力休まず、休んだら、またゼミ中に作業が終わらなかつたら、その回の作業を課題として必ずやっておいて下さい。				
教科書	特に指定せず、必要があればプリントを使います。口頭の指示だけになる回もあります。				
参考文献	必要に応じて指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	いろいろな登録	moodle 登録、ゼミカルテ登録の後、お互いに名前がわかるよう歓談しましょう。			
第 2 回	ディベート	このゼミではディスカッションを多く行うことになると思います。まずは yes no にわかれて議論するディベートを身近なテーマでやってみましょう。			
第 3 回	卒論開始	卒論のテーマを仮決めし、そのテーマで文献が存在するか、検索を進めましょう。テーマの見つけ方、検索の方法も覚えましょう。			
第 4 回	卒論 2	卒論目次のテンプレートからアウトライン形式で卒論ファイルを作ります。章のタイトルを仮決めしましょう。			
第 5 回	グループディスカッション	グループディスカッションの形式と定番の進め方を覚えましょう。そして、軽いテーマで 1 回目のグループディスカッションを進めます。			
第 6 回	小論文	軽いテーマで小論文を 1 本書いてみましょう。短くても論文なので、それなりの構成と文体、表現が要求されます。これをもって、卒論の文体や表現について学びます。			
第 7 回	図解の紹介と応用法	図解のいろいろを学びます。ディスカッションやグループ作業を進める際、また卒論に何を書き込むか考える時、マインドマップが取っつきやすいので、これを学びましょう。さらに、論理を考える時、フローチャートが便利です。			
第 8 回	文献利用方法	文献のコピーに書き込みをし、それを論文に利用していく作業			
第 9 回	グループディスカッション	時事テーマでグループディスカッションをやってみましょう。終わった後で、細かい点までコメントします。みなさんも相互にコメントしてください。			
第 10 回	卒論 3	章のタイトルの下に節を作り、そのタイトルを仮決めしましょう。それぞれの節にどんな内容が入りうるか、少し考えてみましょう。			
第 11 回	卒論 4	論文に図表や写真等を多く入れましょう。その作り方・取り込み方・著作権への配慮などを学びます。			
第 12 回	グラフィック・ファシリテーション	ディスカッションのやり方を工夫してみましょう。いろんなツールがディスカッションをわかりやすく、流れを見通しやすくします。以前に学んだマインドマップやフローチャートも応用出来ます。			
第 13 回	グループディスカッション	前回学んだファシリテーションの応用として、グループごとに解決すべき問題に答えを見つけるため、図解を作りながら議論しましょう。			
第 14 回	プレゼンテーション	グループごとに、ソリューションを発表します。			
第 15 回	ディスカッション	極力学生自身のことに関するテーマを選び、今まで学んだいろいろなツールを使い、自分自身の工夫を新たに盛り込みながらディスカッションしましょう。夏休み課題として、卒論目次の章タイトル、節タイトル、項タイトルを決めてもらいます。後期 1 回目に、それについて全員 1 分間報告をして頂きます。			

# 経済

授業番号	B200700012		
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)		
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>経済学を学んでいくために、経済理論の基礎的な理解を形成することをねらいとしている。また内容を理解し、それを要約することで、文章理解力と文章表現力を身に着けること、さらにそれを発表することでプレゼンテーション力を付けることも合わせてねらいとしている。</p> <p>前期の到達目標は、まず人前でプレゼンテーションする経験を積むこととする。</p>		
授業の進め方 (履修条件など)	<p>テキストを輪読し、その内容に解説を加える。授業の後に、学習した内容をコンパクトにまとめた内容要約文を全員に作成させる。また発表担当者にはレジュメを作成させ、翌週には、そのレジュメに基づき内容要約を発表させる。</p>		
成績評価方法	隔週で提出される内容要約文を5段階で評価する。(50点)		
基準	隔週で実施される発表と質疑応答授業への参加態度 (50点)		
授業の予習・復習	<p>予習 ~ テキストを読んでおくこと</p> <p>復習 ~ 内容要約文を作成すること</p>		
教科書	『マンガ DE 経済学・第2版』(西村和雄、日本評論社) 1999年12月		
参考文献	<p>『ゼミナール経済学入門』(福岡正夫著、日本経済新聞社)</p> <p>『ハンドブック経済学』(神戸大学経済経営学会編、ミネルヴァ書房)</p>		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法を説明する。またテキストを紹介し、学習内容をダイジェストで紹介する。	
第2回	市場の発生①	テキスト輪読 (ミクロとマクロ、分業、取引、価格、弾力性)	
第3回	市場の発生②	内容要約発表	
第4回	消費者需要の理論(1)①	テキスト輪読 (消費者、需要の決定、所得の変化と需要)	
第5回	消費者需要の理論(1)②	内容要約発表	
第6回	消費者需要の理論(2)①	テキスト輪読 (価格の変化、代替財と補完財、顕示選好理論、労働供給)	
第7回	消費者需要の理論(2)②	内容要約発表	
第8回	生産の理論①	テキスト輪読 (生産関数、生産費用)	
第9回	生産の理論②	内容要約発表	
第10回	市場の構造(1)①	テキスト輪読 (市場均衡とパレート効率性、寡占市場、収穫逦増)	
第11回	市場の構造(1)②	内容要約発表	
第12回	市場の構造(2)①	テキスト輪読 (外部効果、マーケット外部性、公共財)	
第13回	市場の構造(2)②	内容要約発表	
第14回	不確実性とゲーム①	テキスト輪読 (不確実性、不完全情報、囚人のジレンマ)	
第15回	不確実性とゲーム②	内容要約発表	

# 経済

授業番号	B200700013				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	藤井 輝男 (Teruo Fujii)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済活動や経営活動を人間の行動との関わりから捉える一つの方法として、心理学的なアプローチがある。その手始めとして、心理学の基礎的研究方法 (主として実験法) を体験し心理学的視点から経済、経営を捉える基礎的訓練を体験することを目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的に3週を1クルーとし、グループごとに基礎的実験を実施し、次の週に教員による解説を行い、3週目にエビデンスレポートの作成を行う。				
成績評価方法	エビデンスレポートの内容、参加状況等から総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	実験実習で行った内容をまとめ直しておくこと。				
教科書	使用しない。				
参考文献	その都度指示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション 1	授業の進め方、スケジュールの説明、個人紹介シート記入、自己紹介など			
第2回	オリエンテーション 2	心理学における実験とは			
第3回	実験実習 1	錯視 (M-L 錯視) の測定			
第4回	実験の解説 (1)	実験内容の説明を行う			
第5回	実験の解説 (2)	実験結果のまとめ方、レポートの書き方について			
第6回	エビデンスレポート作成	各自のデータを元に報告書をまとめる			
第7回	実験実習 2	鏡映描写実験			
第8回	実験の解説	実験内容の説明			
第9回	エビデンスレポート作成	各自のデータを元に報告書をまとめる			
第10回	実験実習 3	囚人のジレンマ			
第11回	実験の解説	実験内容の説明			
第12回	エビデンスレポート作成	各自のデータを元に報告書をまとめる			
第13回	実験実習 4	判断と意思決定			
第14回	実験の解説	実験内容の説明			
第15回	エビデンスレポート作成	各自のデータを元に報告書をまとめる			

# 経済

授業番号	B200700015				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	森島 隆晴 (Takaharu Morishima)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本演習のねらいは、経営学の基礎知識と考え方を基にした論理的思考方法を学ぶことで、到達目標は思考方法や表現方法を習得することです。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回、分担者が教科書の分担分を報告し、それに基づいてディスカッションしてもらいます。各自でレポートにまとめて提出してください。				
成績評価方法	報告とレポート (80%) とディスカッションなどへの参加態度 (20%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	毎回、教科書を予習し、報告分担分は PowerPoint の資料を作成してください。復習としてディスカッションの内容を踏まえてレポートの作成をおこなってください。				
教科書	中野明 (2010) 『即今日から使える最強ビジネス戦略 51』 朝日新聞出版				
参考文献	酒井穰 (2013) 『新版これからの思考の教科書』 光文社知恵の森文庫				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	講義スケジュールの確認と分担決定			
第 2 回	ロジカルシンキング	論理的思考とディスカッション			
第 3 回	報告方法	パワーポイントの使い方と資料の作成方法			
第 4 回	ビジネス理論 1	ボトルネック、パレートの法則とロングテール			
第 5 回	ビジネス理論 2	ロックイン戦略、価格差別と自己選別			
第 6 回	ビジネス理論 3	クーポン戦略、非価格競争戦略			
第 7 回	ビジネス理論 4	ホテリングモデル、投票戦略			
第 8 回	ビジネス理論 5	ネットワーク外部性、バンドワゴン効果			
第 9 回	ビジネス理論 6	ビジネス理論の総括			
第 10 回	フレームワーク 1	SWOT、競争環境			
第 11 回	フレームワーク 2	競合分析、ポジショニング戦略			
第 12 回	フレームワーク 3	PPM、製品ライフサイクル			
第 13 回	フレームワーク 4	製品・市場マトリックス、経験曲線			
第 14 回	フレームワーク 5	バリューチェーン、ランカスター戦略			
第 15 回	フレームワーク 6	フレームワークの総括			

経済

授業番号	B200700016				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	星 真実 (Masami Hoshi)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	労働と生活、ひいては人間そのものについて探求するゼミである。従って、自分のことにしか関心がないという学生の参加は望まない。実際に街頭調査などを行う予定である。				
授業の進め方 (履修条件など)	実態調査を行う。				
成績評価方法	調査内容で判断する。				
基準					
授業の予習・復習	調査内容を見直す。				
教科書	特に使用しない。				
参考文献	星真実「千葉県のパートタイマー 2008」(『敬愛大学研究論集』74号)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	ゼミの進行方法について			
第 2 回	自己紹介	5 分間スピーチ I			
第 3 回	自己紹介	5 分間スピーチ II			
第 4 回	20 答法	Who am I Test			
第 5 回	アンケート調査 1	アンケート調査説明			
第 6 回	アンケート調査 2	街頭調査と調査結果報告 (1 班)			
第 7 回	アンケート調査 3	街頭調査と調査結果報告 (2 班)			
第 8 回	アンケート調査 4	街頭調査と調査結果報告 (3 班)			
第 9 回	アンケート調査 5	街頭調査と調査結果報告 (4 班)			
第 10 回	アンケート調査 6	街頭調査と調査結果報告 (5 班)			
第 11 回	アンケート調査 7	街頭調査と調査結果報告 (1 班)			
第 12 回	アンケート調査 8	街頭調査と調査結果報告 (2 班)			
第 13 回	アンケート調査 9	街頭調査と調査結果報告 (3 班)			
第 14 回	アンケート調査 10	街頭調査と調査結果報告 (4 班)			
第 15 回	アンケート調査 11	街頭調査と調査結果報告 (5 班)			

経済

授業番号	B200700017				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	敷内 正樹 (Masaki Yabuuchi)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	中国に進出した日本企業の事例から、法律・制度のみならず、政治、文化、国民性などを正しく理解することの重要性、市場開拓の実際について正しい知識や具体的なイメージを持つことを目指します。前期は、輸出によって中国市場開拓に挑む日本の中小企業の事例を見ていきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書または配布資料の担当部分について、分からない事を調べながら読み、何を学んだか、何が分からないか、さらに何を調べたいかについて順次発表してもらいます。これに対して教師が解説しディスカッションします。				
成績評価方法	発表の内容 (30%)、ディスカッションの積極性 (30%)、レポート (40%)				
基準					
授業の予習・復習	担当部分について、事前にメモを作り、発表に備えてください。学んだことを復習し、レポートに備えてください。				
教科書	『中国市場開拓に挑む中小企業—成功に向けたビジネスモデルの検証—2013年9月』 ジェトロホームページ>海外ビジネス情報>国・地域別情報>アジア>中国>調査レポートから無償ダウンロード可能				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	自己紹介 (自分の関心事項など)、ゼミの進め方			
第2回	日系企業の中国進出事例 (1)	ゼミ生の発表、教師による解説、全員によるディスカッション			
第3回	日系企業の中国進出事例 (2)	ゼミ生の発表、教師による解説、全員によるディスカッション			
第4回	日系企業の中国進出事例 (3)	ゼミ生の発表、教師による解説、全員によるディスカッション			
第5回	日系企業の中国進出事例 (4)	ゼミ生の発表、教師による解説、全員によるディスカッション			
第6回	日系企業の中国進出事例 (5)	ゼミ生の発表、教師による解説、全員によるディスカッション			
第7回	日系企業の中国進出事例 (6)	ゼミ生の発表、教師による解説、全員によるディスカッション			
第8回	前半のまとめ、中国ビジネス成功の条件	日系企業の事例から、中国ビジネス成功の条件は何かを考える。			
第9回	日系企業の中国進出事例 (7)	ゼミ生の発表、教師による解説、全員によるディスカッション			
第10回	日系企業の中国進出事例 (8)	ゼミ生の発表、教師による解説、全員によるディスカッション			
第11回	日系企業の中国進出事例 (9)	ゼミ生の発表、教師による解説、全員によるディスカッション			
第12回	日系企業の中国進出事例 (10)	ゼミ生の発表、教師による解説、全員によるディスカッション			
第13回	日系企業の中国進出事例 (11)	ゼミ生の発表、教師による解説、全員によるディスカッション			
第14回	後半のまとめ、レポート作成指導	中国ビジネス成功の条件をまとめ、レポート作成法を指導する。			
第15回	レポート作成指導	レポートの添削指導			

# 経済

授業番号	B200700019				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	現代の日本経済におけるさまざまな現象・課題を考えることを通じて、マクロ経済、企業、家計、財政と金融などの基礎的な考え方を学び、専門演習などより進んだ学習・研究のための基礎を作る。講義とは違って参加者自身が問題意識を持って能動的に取り組み、その成果を確実にすることを目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	日本経済に関する入門的な読み物を用い、直面する問題とその解決について考える。取り上げられた題材について自分自身の意見を整理し、理解を深める。なお、以下に示した各回の取り扱い内容は大まかな目安であり、進捗と内容は参加者の関心の所在など状況を見て適宜修正し、変更することがある。また、これに加えてメディアセンター他での文献や資料の利用法、専門演習に向けての考え方などについても時間をとるため、内容の一部を削ることがある。				
成績評価方法	レポート及びその他の課題、出席の状況。後者にはゼミでの発言など参加の積極性を反映させる。				
基準					
授業の予習・復習	予習：事前に教科書の指定されたところを読み、それに関する自分の意見をまとめておく。 復習：その回の内容を整理し、さらに深く知るために受講すべき専門科目が何かを考える。				
教科書	田中隆之編著「日本経済 その構造変化をとらえる」専修大学出版局、を予定しているが、変更の可能性もある。				
参考文献	長谷川啓之編『経済政策の理論と現実』学文社、2009年など。この他にも適宜紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	はじめに (1)	この科目の紹介と今後の方針			
第2回	はじめに (2)	演習の進め方			
第3回	日本経済の構造変化 (1)	レポート資料の探し方			
第4回	日本経済の構造変化 (2)	レポートと発表について			
第5回	日本経済と企業 (1)	「取引コスト (取引費用)」という考え方			
第6回	日本経済と企業 (2)	戦後日本の経済成長と企業			
第7回	日本経済と企業 (3)	「産業集積」という考え方			
第8回	貿易構造の変化と日本経済 (1)	リーマンショックと日本の貿易			
第9回	貿易構造の変化と日本経済 (2)	「世界の工場」としての東アジア			
第10回	貿易構造の変化と日本経済 (3)	アジアの域内貿易の特徴			
第11回	変わる「日本的経営」と雇用・賃金・労使関係 (1)	日本的経営システムとは			
第12回	変わる「日本的経営」と雇用・賃金・労使関係 (2)	日本的雇用慣行とその変容			
第13回	変わる「日本的経営」と雇用・賃金・労使関係 (3)	「成果主義」と経済のグローバル化			
第14回	変わる「日本的経営」と雇用・賃金・労使関係 (4)	日本における労使関係の特徴			
第15回	まとめ	前期のまとめと後期への橋渡し			



# 経済

授業番号	B200700021				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	高木 朋代 (Tomoyo Takagi)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	学生の皆さんが、将来的に、より堅実な職業人生を歩んでいけるよう、本演習では、人事管理について学びながら、自分の頭で考え整理し、物事の関連性を見極め、解決の糸口を見出していく論理的思考力を向上させることを目指します。				
授業の進め方 (履修条件など)	専門導入演習 I では、大学や演習での学びの意義と創造性の開発について、人事管理に関する議論をまじえながら学びます。授業は、文献の輪読と実習によって進めていきます。討論に積極的に参加することが求められます。				
成績評価方法	授業内で実施する課題 (50%) と参加態度 (50%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：演習の前に、前回の資料等を再読しておくことをお勧めします。 復習：演習で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。				
教科書	必要に応じて独自に資料を配布します。				
参考文献	必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図			
第 2 回	大学での学びについて考える	資料の輪読			
第 3 回	大学での学びについて考える	資料に関する討論			
第 4 回	大学での学びについて考える	<実習>：言葉で表現する、意味を汲み取る			
第 5 回	演習での学びについて考える	資料の輪読			
第 6 回	演習での学びについて考える	資料に関する討論			
第 7 回	演習での学びについて考える	日本の大学教育と諸外国の大学教育			
第 8 回	演習での学びについて考える	諸外国の教育の根底にある原理			
第 9 回	実 習	事実を認識する：情報の整理と理解			
第 10 回	実 習	推論と解釈			
第 11 回	実 習	現象の本質を捉える			
第 12 回	新しい何かをつくるということ	文献の輪読			
第 13 回	新しい何かをつくるということ	文献に関する討論			
第 14 回	新しい何かをつくるということ	文献の輪読			
第 15 回	新しい何かをつくるということ	文献に関する討論			

# 経済

授業番号	B200700022				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	金子 林太郎 (Rintarou Kaneko)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済学的なものの考え方を学んでもらうことが第 1 のねらいである。テキストの内容をレジュメにまとめ、みんなの前で報告してもらうことが第 2 のねらいである。報告に対してコメントや質問をして、報告者と討論をってもらうことが第 3 のねらいである。これらを通して、3, 4 年ゼミで卒業研究をする基礎を養う。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを 1 週に 1 章のペースで勉強して行く。最初は輪読形式をとる。適当な時期から報告者を指名し、報告者の報告を聞き、それ以外の者はそれにコメントや質問をして、全員で議論することで理解を深める。数回、テキストの内容をまとめる復習レポートを課す。				
成績評価方法	ゼミ中の発言の積極性、発表 (プレゼンテーション) の出来栄、復習レポートの内容等を踏まえて、総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：指定されたテキストの範囲に目を通しておくこと。 復習：ゼミで扱った内容を咀嚼すること。				
教科書	梶井厚志『故事成語でわかる経済学のキーワード』中公新書				
参考文献	外山滋比古『思考の整理学』ちくま文庫 横山光輝『史記』小学館文庫				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	ゼミの進め方の説明、自己紹介、個人目標設定、写真撮影			
第 2 回	テキスト輪読の準備 1	本の読み方、内容のまとめ方の説明			
第 3 回	テキスト輪読の準備 2	本の読み方、内容のまとめ方の説明の続きと練習			
第 4 回	テキストの輪読 1	第 1 章「覆水盆に返らずーサンク・コスト」の輪読、解説、討論			
第 5 回	テキストの輪読 2	第 2 章「蛇足ー追加的利害を考える」の輪読、解説、討論			
第 6 回	テキストの輪読 3	第 3 章「矛盾ートレードオフ」の輪読、解説、討論			
第 7 回	テキストの輪読 4	第 4 章「他山の石ー分業と専門の経済効果」の輪読、解説、討論			
第 8 回	テキストの輪読 5	第 5 章「洛陽の紙価を貴むー価格理論」の輪読、解説、討論			
第 9 回	テキストの輪読 6	第 6 章「先ず隗より始めよーケインズと乗数効果」の輪読、解説、討論			
第 10 回	グループ報告の準備 1	グループ報告の方法の説明、グループ分け (第 7 ~ 10 章)			
第 11 回	グループ報告の準備 2	報告準備 (グループワーク)			
第 12 回	グループ報告の準備 3	報告準備 (グループワーク) の続き			
第 13 回	グループ報告と講評	報告会、相互評価、講評			
第 14 回	夏休みの個人研究課題設定	夏休み中の個人研究課題の設定、研究方法の助言			
第 15 回	前期のまとめ	前期のゼミの総括			

経済

授業番号	B200700023				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	高岡 英氣 (Hideki Takaoka)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	様々なテーマについての学びを通じ、スポーツおよびその周辺領域への理解を深めると共に、自分の考えを論理的に表現したり、相手に気を配って信頼関係を築いていくコミュニケーション能力、人から指示されなくとも自分で問題を発見する問題発見能力等を身につけることを目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書やその他の題材を使ったディスカッションを通じ、各人の視野を広げ、コミュニケーション能力、問題発見能力等を養成する。				
成績評価方法	平常点 (ディスカッションへの貢献度、その他の授業態度) (70%)・レポート (30%)				
基準					
授業の予習・復習	次回扱う教科書の範囲を読んでおくことが望ましい。				
教科書	多木浩二著『スポーツを考える 身体・資本・ナショナリズム』筑摩書房				
参考文献	授業内で適宜提示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方の説明、自己紹介			
第 2 回	輪読・ディスカッション (1)	方法としてのスポーツ			
第 3 回	輪読・ディスカッション (2)	近代スポーツはなぜイギリスで生じたか (1): 競争の非暴力モデル、スポーツと議会主義			
第 4 回	輪読・ディスカッション (3)	近代スポーツはなぜイギリスで生じたか (2): サッカーとラグビー、スポーツと身体			
第 5 回	輪読・ディスカッション (4)	近代オリンピックの政治学 (1): 古代オリンピック			
第 6 回	輪読・ディスカッション (5)	近代オリンピックの政治学 (2): 政治文化としてのオリンピック			
第 7 回	輪読・ディスカッション (6)	スポーツのアメリカナイゼーション (1): いかにもアメリカらしいスポーツの誕生			
第 8 回	輪読・ディスカッション (7)	スポーツのアメリカナイゼーション (2): 消費されるスポーツ			
第 9 回	輪読・ディスカッション (8)	スポーツの記号論 (1): ルールとゲーム、ルールの近代性			
第 10 回	輪読・ディスカッション (9)	スポーツの記号論 (2): 進化と歴史、勝敗の記号論			
第 11 回	輪読・ディスカッション (10)	過剰な身体 (1): デジタルなゲーム、ドーピングと身体			
第 12 回	輪読・ディスカッション (11)	過剰な身体 (2): 規律・訓練を離脱する身体			
第 13 回	輪読・ディスカッション (12)	三度目のスポーツ革命			
第 14 回	輪読・ディスカッション (13)	スポーツの現在			
第 15 回	輪読・ディスカッション (14)	終章 理想は遠くに			

# 経済

授業番号	B200700025		
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)		
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済を包括的に理解するには、実物的な側面 (モノの生産・販売や雇用など) だけでなく、カネの側面を理解する必要があります。しかも、カネの側面を良く理解し、その視点から実物的な側面を観察すると、まるで裏側から表舞台をみるような、広範で良好な視界を確保することができます。本演習では、入門的な金融論のテキストを用い、金融の基礎や企業の資金調達、銀行・金融システムについて学びます。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を輪読します。金融論の履修をお勧めします。		
成績評価方法	授業への取り組み姿勢 (60%)、報告などの成果 (40%)。		
基準			
授業の予習・復習	予習：教科書や参考文献を中心に行ってください。 復習：演習後に残された課題について、引き続き調査・検討して下さい。		
教科書	細野薫、石原秀彦、渡部和孝『グラフィック金融論』新世社		
参考文献	日本経済新聞社編『ベーシック/金融入門』日本経済新聞 鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社 館龍一郎、浜田宏一『金融』岩波書店 この他、授業の中で随時紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	イントロダクション	ゼミ運営上の取りきめ、重要事項の説明	
第 2 回	金融システム 1	金融市場、金融仲介機関	
第 3 回	金融システム 2	リスク分散、情報生産 1	
第 4 回	金融システム 3	情報生産 2、流動性の供給	
第 5 回	金融システム 4	金融危機、金融規制、貯蓄と投資	
第 6 回	貨幣 1	貨幣の定義と機能、マネーストック	
第 7 回	貨幣 2	インフレ・デフレ、貨幣数量説	
第 8 回	企業の資金調達 1	企業の資本構成	
第 9 回	企業の資金調達 2	モジリアーニ・ミラー定理	
第 10 回	企業の資金調達 3	コーポレートファイナンスの実際	
第 11 回	銀行の役割と課題 1	銀行の活動	
第 12 回	銀行の役割と課題 2	銀行の財務	
第 13 回	金融規制 1	預金保険制度、自己資本比率規制 1	
第 14 回	金融規制 2	自己資本比率規制 2、政府の金融活動	
第 15 回	映像でみる金融	動画視聴	

# 経済

授業番号	B200700026				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本演習では、教科書の輪読を進めるとともに、経済界で観察される面白い現象について自分なりの理解を深め他人とディスカッションする方法を学びます。また、ゼミ生の興味に沿ったディスカッション・テーマを設定し、グループ・ワークとして資料調査し、その結果を発表する練習をします。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回輪読の担当者(レポーターおよびコメンテーター)を決めてディスカッションを進めます。レポーターは担当章のサマリーを、コメンテーターは担当章についての疑問点および自分なりの回答をまとめてきます。前期は2回のグループ・ワークを予定しています。				
成績評価方法	ディスカッションへの参加意欲 (50%)、授業態度 (50%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：輪読時は教科書の決められたチャプターを読んでください。 復習：教科書 (学習したチャプター) を再読してください。				
教科書	月泉 博『ユニクロ vs しまむら』日本経済新聞出版社、2009年。				
参考文献	必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業内容、ゼミの進め方についての説明			
第2回	輪読	プロローグ なぜ今、「ユニクロ vs しまむら」なのか？			
第3回	輪読	第1章 中間流通の不要化 (ユニクロ) と内包化 (しまむら)			
第4回	輪読	第2章 [早わかり] ユニクロ、しまむら 創業と成長の軌跡			
第5回	輪読	第3章 まさに対極に位置する経営・業態構造			
第6回	輪読	第4章 トップのマネジメントとその生き様			
第7回	輪読	第5章 成熟消費時代を突破する2強の「市場解読力」			
第8回	グループ・ワーク1	テーマ決定、資料調査			
第9回	グループ・ワーク1	プレゼンテーション&グループ・ディスカッション			
第10回	輪読	第6章 「日本発」世界標準流通業を目指して			
第11回	輪読	第7章 「2強の天下」はいつまで続く？			
第12回	輪読	エピローグ ユニクロ、しまむらは何を破壊し何を想像したのか？			
第13回	グループ・ワーク2	テーマの決定、資料調査			
第14回	グループ・ワーク2	資料調査			
第15回	グループ・ワーク2	プレゼンテーション&グループ・ディスカッション			

# 経済

授業番号	B200700027				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 I (Sophomore Seminar I)				
担当者 (英語表記)	平屋 伸洋 (Nobuhiro Hiraya)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、日商簿記検定 2・3 級の内容について理解することにある。簿記とは、企業の経営活動を記録・計算・整理し、財政状態と経営成績を明らかにするための技法である。この授業では、簿記検定 2・3 級に合格できる知識と技能を習得することを到達目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的には、テキストを活用して検定の出題範囲となるテーマを学習する。また、履修者の理解を促すために、適宜問題集や過去問題を用いた問題演習を行う。こうして、簿記一巡や財務諸表の作成について理解できるようにする。さらに、毎回の授業では、前回までの復習を行うことで知識の定着を図る。				
成績評価方法	課 題： 13 回の課題提出を義務づけており、各 10 点満点で採点し、それを成績評価に換算する。				
基準					
授業の予習・復習	① 次回の授業までに、テキストの該当箇所を熟読して授業に臨むこと。 ② 授業で取り上げた箇所の復習を怠らないこと。 ③ 課題や宿題については必ずやり遂げ提出すること。				
教科書	『村田の簿記検定合格シリーズ 日商 3 級』(村田学園)				
参考文献	TAC 簿記検定講座著『合格テキスト 日商簿記 3 級 Ver.6.0 (よくわかる簿記シリーズ)』TAC 出版、第 6 版、2011 年。 TAC 簿記検定講座著『合格トレーニング 日商簿記 3 級 Ver.6.0 (よくわかる簿記シリーズ)』TAC 出版、第 6 版、2011 年。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	本授業の概要と今後の進め方、成績評価について説明			
第 2 回	簿記の基礎概念	資産と負債・純資産の均衡、収益と費用			
第 3 回	複式簿記の基本構造	取引の意義と複式記入、借方・貸方、勘定、仕訳、仕訳帳、元帳			
第 4 回	取引から決算まで	貸借平均の原理、取引の仕訳から決算まで			
第 5 回	資産勘定の処理	現金・預金・売掛金の仕訳、元帳転記			
第 6 回	負債・資本勘定の処理	買掛金・借入金・資本金等の仕訳、元帳転記			
第 7 回	収益・費用勘定の処理	売上・受取利息等の収益と給料・交通費・支払利息等の費用の仕訳、元帳転記			
第 8 回	諸勘定の仕訳と元帳転記	複雑な取引と元帳転記			
第 9 回	現金・預金の処理	小切手、小口現金、普通預金、当座預金等			
第 10 回	手形取引の処理	手形の意義、約束手形、為替手形の処理、裏書・割引、不渡、金融手形の意味			
第 11 回	決算の仕方と試算表	決算の意義・構造、試算表の構造			
第 12 回	決算整理 I	決算整理の処理①			
第 13 回	決算整理 II	決算整理の処理②			
第 14 回	精算表	精算表の仕組と作成			
第 15 回	財務諸表の作成	貸借対照表と損益計算書の作成練習			

# 経済

授業番号	B200710002				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	土井 修 (Osamu Doi)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	専門教育への「橋渡し」を狙いとして、経済学の基礎的知識の習得とともに、各自がレジュメを作成し発表できるようにします (基礎的経済知識の習得とプレゼン能力の涵養)。特に、本演習では、経済学および経済事情に関する知識の習得に努めます。				
授業の進め方 (履修条件など)	ゼミ生をいくつかのグループに分け、教科書をグループ毎に輪読します。各グループは、分担部分を各ゼミ生にさらに細かく割り当て、レジュメを作成・発表し、他グループとの質疑応答を行います。				
成績評価方法	授業参加態度と発表内容によって評価します。				
基準					
授業の予習・復習	輪読の分担部分に関する情報を集め (新聞やインターネットなど)、理解を深めプレゼンを充実させてください。				
教科書	上野泰也「No.1 エコノミストが書いた世界一わかりやすい経済の本」(かんき出版)				
参考文献	著書、雑誌、新聞、インターネットなどを通して経済に関する情報を得ること。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方			
第 2 回	財政政策	財政政策とは何か?			
第 3 回	財政政策	財政政策の決定過程			
第 4 回	財政政策	日本の財政構造			
第 5 回	財政政策	日本の国債発行をめぐる諸問題			
第 6 回	グローバリゼーション	グローバリゼーションとは何か?			
第 7 回	グローバリゼーション	対外投資活動の進展			
第 8 回	グローバリゼーション	日本の貿易構造の変化			
第 9 回	グローバリゼーション	グローバリゼーションの功罪			
第 10 回	世界経済の状況	ドルと米国経済			
第 11 回	世界経済の状況	世界一の経済圏の E U			
第 12 回	世界経済の状況	世界第 2 位の規模になった中国経済			
第 13 回	日本経済をめぐる諸問題	少子高齢化と日本経済			
第 14 回	日本経済をめぐる諸問題	国債発行残高と日本経済			
第 15 回	まとめ	後期の研究に関する総括と質疑応答			

# 経済

授業番号	B200710005				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	野口 明宏 (Akihiro Noguchi)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>前期に引き続き、会社に関する解説書を皆で読み進めていきます。皆さんの将来に関係する内容ですから、意欲的に取り組んでください。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>教科書を読みながら、内容を理解できるように解説します。わが国の会社に関する問題点を明らかにしていきます。</p>				
成績評価方法 基準	<p>授業に意欲的に取り組んだか否かによって評価します。</p>				
授業の予習・復習	<p>あらかじめ教科書に目を通しておいてください。授業の後は、教科書を読み直してください。</p>				
教科書	奥村宏著 「会社とはなにか」 岩波書店				
参考文献	必要な場合に、授業の中で紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	大企業	企業規模の拡大、産業革命、大量生産			
第 2 回	アメリカの自動車産業	フォード T 型車、大量生産、大量販売			
第 3 回	日本の家庭電気産業	松下幸之助の水道哲学、家電製品の大量生産、大量販売			
第 4 回	大企業病	経営の多角化、コングロマリット、管理不能状態			
第 5 回	系列化	系列会社、経済の二重構造、系列切捨て			
第 6 回	国有企業の失敗	非能率性、管理不能状態			
第 7 回	国有企業の株式会社化	組織の肥大化、官僚主義、民営化			
第 8 回	日本の民営化	電電公社、国鉄、郵便事業、株式の公開			
第 9 回	会社は株主のものか	証券取引所への上場、大株主、機関投資家、会社は会社のもの			
第 10 回	資本家とは	財閥による会社支配、銀行、事業会社などの法人が大株主			
第 11 回	経営者	取締役、監査役、株主総会で選任			
第 12 回	アメリカの経営者支配	近代株式会社と私有財産、株式を持たない経営者による支配			
第 13 回	日本の経営者支配	法人への株式集中、株式の持合い、所有と経営の分離			
第 14 回	誰が経営者になるのか	取締役を決めるのは社長、社長を決めるのは取締役、会社本位主義			
第 15 回	後期のまとめ	後期ゼミの反省、三年ゼミへの抱負			



# 経済

授業番号	B200710006				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	加茂川 益郎 (Masuro Kamogawa)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済を理解するための基礎的な知識の習得。 主体的な勉強、研究心の涵養。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを輪読し、内容を私が解説する。理解を確かめるためにゼミ生と質疑応答する。 日本経済、世界経済のニュースを話題にし経済問題への関心を高め理解を深める。				
成績評価方法	参加態度、発表、討論、レポートによって評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習 テキストを熟読すること 復習 ポイントをノートしておくこと				
教科書	平野和之『図解 経済入門 基本と常識』西東社				
参考文献	新聞、雑誌、ネットの記事				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	ゼミ生の夏休みの生活と勉学、レポート提出			
第 2 回	政府・日本銀行と経済の動き	政府の役割			
第 3 回	政府と日銀	日本銀行ー中央銀行、三つの役割			
第 4 回	金融政策	マネーストック、金利と物価、金融引き締め・金融緩和、ゼロ金利			
第 5 回	世界経済の流れ	アメリカ、ヨーロッパ、新興国、アジア、中東			
第 6 回	貿易と通貨、人口問題	基軸通貨ドル、通貨危機、貿易収支、人口爆発			
第 7 回	まとめ	政府・日本銀行と世界経済の復習			
第 8 回	日本経済のこれまでとこれから	GDP, バブル崩壊、景気拡大、世界金融危機から景気減速			
第 9 回	景気	景気動向指数、月例経済報告、景気循環			
第 10 回	日本の信用、収支	国債評価、プライマリーバランス、個人金融資産			
第 11 回	経済問題	食料自給率、少子高齢化、年金問題			
第 12 回	経済のこれから	日本の未来、少子化対策と日本の強み			
第 13 回	まとめ	日本経済のこれまでとこれからの復習			
第 14 回	総まとめ	日本経済の課題についてのフリーディベート			
第 15 回	ゼミ総括	ゼミで習得したものの、反省点をフリートーキング			

# 経済

授業番号	B200710007		
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)		
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	専門導入演習は3, 4年の演習に進むための基礎固めという位置づけである。3年以降では、より専門的な研究を目指すため、ここでは『経済学の基礎』を習得してもらう。経済学の基礎として幅広い知識はもちろん、『経済学の考え方』を身につけることに重点を置いて勉強していくことにしよう。		
授業の進め方 (履修条件など)	本ゼミは、テキストを輪読しながら、経済理論の基礎について習得する。毎回報告者 (発表者) を当てておくので、授業は報告者が予習し、理解したことを発表したのち、それに対する質疑応答を中心に進めていく。また『公務員試験』の過去問を解きながら演習を進める予定である。		
成績評価方法	レポート及びその他の課題 (60%)・授業中の発表・コメントなどの評価 (40%)		
基準			
授業の予習・復習	予習: テキストは必ず予習してくる。発表者はレジメ (報告要旨) を作ることを義務づける。 復習: セメスターの終わりに課題を与えるので、常にノートを整理しておくこと。		
教科書	『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版、西村和雄、八木尚志		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第1回	需要・供給と価格 (1)	価格の役割	
第2回	需要・供給と価格 (2)	個別需要曲線、市場需要曲線	
第3回	需要・供給と価格 (3)	供給曲線の形状と限界費用	
第4回	需要・供給と価格 (4)	供給曲線のシフト要因	
第5回	需要・供給と価格 (5)	余剰分析: 生産者余剰、消費者余剰	
第6回	需要・供給と価格 (まとめ)	レポート作成と練習問題による演習	
第7回	需要・供給分析の応用 (1)	需要の価格弾力性	
第8回	需要・供給分析の応用 (2)	需要の価格弾力性の決定要因	
第9回	需要・供給分析の応用 (3)	供給の価格弾力性	
第10回	需要・供給分析の応用 (4)	需要・供給の価格弾力性の応用	
第11回	需要・供給分析の応用 (5)	不足と過剰	
第12回	需要・供給分析の応用 (6)	需要・供給の法則への介入: 上限価格規制と下限価格規制	
第13回	課税の経済効果 (1)	課税のタイプ	
第14回	課税の経済効果 (2)	物品税の帰着と転嫁	
第15回	需要・供給分析のまとめ	レポート作成と練習問題による演習	

# 経済

授業番号	B200710010				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	折原 裕 (Yutaka Orihara)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済学発祥の地がヨーロッパであったことから、私達は、私達自身の経済的思惟のルーツを、とかくヨーロッパに求めがちです。けれども、私達日本人にも、固有の経済的思惟の歴史はありました。そうした日本の経済思想史を知ることによって、私達は、現在の私達が持つ経済思想の性格を、よりよく自覚することができるようになるでしょう。				
授業の進め方 (履修条件など)	当面は、下記のテキストによりつつ、日本人の経済的思惟の変遷をたどります。				
成績評価方法	平常点とレポートなど課題との総合評価によります。				
基準					
授業の予習・復習	進行状況次第で、予習、復習ともに必要になるでしょう。				
教科書	テッサ・モーリス・鈴木『日本の経済思想——江戸期から現代まで——』岩波書店、コピーを配布します。				
参考文献	指定しません。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	テキスト輪読	戦後の経済学 1			
第 2 回	テキスト輪読	戦後の経済学 2			
第 3 回	テキスト輪読	戦後の経済学 3			
第 4 回	テキスト輪読	戦後の経済学 4			
第 5 回	テキスト輪読	戦後の経済学 5			
第 6 回	テキスト輪読	戦後の経済学 6			
第 7 回	テキスト輪読	戦後の経済学 7			
第 8 回	テキスト輪読	戦後の経済学 8			
第 9 回	テキスト輪読	戦後の経済学 9			
第 10 回	テキスト輪読	戦後の経済学 1 0			
第 11 回	テキスト輪読	現代日本の経済思想 1			
第 12 回	テキスト輪読	現代日本の経済思想 2			
第 13 回	テキスト輪読	現代日本の経済思想 3			
第 14 回	テキスト輪読	現代日本の経済思想 4			
第 15 回	テキスト輪読	現代日本の経済思想 5			

# 経済

授業番号	B200710011		
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)		
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	卒論の目次+各章・節・項の概要が出来上がることを目標とします。ディスカッションでは、就職活動でのグループディスカッションの練習をかねて、簡潔で論理的な発言に慣れましょう。この習慣が文章での表現にも現れることを期待しています。		
授業の進め方 (履修条件など)	3年次終了までに卒論の草稿が終わることを目的に、2年次では論文作成の基礎を勉強します。希望によっては、ディベート、グループディスカッションを頻繁に行います。かなり詰めて作業をプログラムしていますので、集中して進めてください。		
成績評価方法	定期試験 (行わない)・授業内小テスト (行わない)・レポート及びその他の課題 (30%)・出席 (70%)。授業に集中していない場合は出席を取り消します。		
基準			
授業の予習・復習	前の回の作業の上に次回の作業を積み重ねますので、極力休まず、休んだら、またゼミ中に作業が終わらなかつたら、その回の作業を課題として必ずやっておいて下さい。		
教科書	特に指定せず、必要があればプリントを使います。口頭の指示だけになる回もあります。		
参考文献	必要に応じて指示します。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	夏休みの課題チェック	卒論目次の章タイトル、節タイトル、項タイトルの報告	
第2回	ディスカッション	時事テーマなどでグループディスカッション	
第3回	テキストリーディング	実際に各自が使う文献を読んでマーキング、メモ→論文に利用という流れを実習	
第4回	テキストリーディング	前回と同じ作業を、次の項目に関して行います。授業最後には千字以上の小論文 (論文の1項目をなす) を書き終わらしましょう。	
第5回	ディスカッション	前期に学習したいろいろなツールを使い、時事テーマなどでグループディスカッションをしましょう。	
第6回	卒論	卒論各項タイトルのもとに、10行ずつ内容をメモ、図解で確認	
第7回	卒論	卒論各項タイトルのもとに、10行ずつ内容をメモ、図解で確認	
第8回	ディスカッション	グループごとに解決すべき問題に答えを見つけるため、図解を作りながら議論しましょう	
第9回	プレゼンテーション	議論結果をそれぞれのグループが図解を提示しながら報告します。	
第10回	卒論	先輩達の書いた卒論をざっと見て、どれが良い卒論か moodle 上で投票します。それぞれの卒論について、なぜ投票したかの理由を述べてもらい、講師が講評します。	
第11回	プレゼンテーション	自分の卒論の主旨と構成について1分間プレゼンテーションします。プレゼンテーションのコメントを皆さんにお願いします。	
第12回	ディスカッション	グループごとに解決すべき問題に答えを見つけるため、図解を作りながら議論しましょう	
第13回	プレゼンテーション	議論結果をそれぞれのグループが図解を提示しながら報告します。	
第14回	卒論	卒論各項タイトルのもとに、10行ずつ内容をメモ、図解で確認	
第15回	ディスカッション	職業観を問うテーマでグループディスカッションしましょう。3年になるとインターンシップ申込が始まりますので、ご自身が進む方向を徐々に頭に置くようにしましょう。	

# 経済

授業番号	B200710012				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>経済学を学んでいくために、経済理論の基礎的な理解を形成することをねらいとしている。また内容を理解し、それを要約することで、文章理解力と文章表現力を身に着けること、さらにそれを発表することでプレゼンテーション力を付けることも合わせてねらいとしている。</p> <p>後期の到達目標は、プレゼンテーション力を向上させることとする。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを輪読し、その内容に解説を加える。授業の後に、学習した内容をコンパクトにまとめた内容要約文を全員に作成させる。また発表担当者にはレジュメを作成させ、翌週には、そのレジュメに基づき内容要約を発表させる。				
成績評価方法	隔週で提出される内容要約文を5段階で評価する。(50点)				
基準	隔週で実施される発表と質疑応答授業への参加態度 (50点)				
授業の予習・復習	予習 ~ テキストを読んでおくこと 復習 ~ 内容要約文を作成すること				
教科書	『マンガ DE 経済学・第2版』(西村和雄、日本評論社) 1999年12月				
参考文献	『ゼミナール経済学入門』(福岡正夫著、日本経済新聞社) 『ハンドブック経済学』(神戸大学経済経営学会編、ミネルヴァ書房)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	マクロ経済学①	テキスト輪読 (産業連関表、GNPとGDP、フォローとストック、資本減耗)			
第2回	マクロ経済学②	内容要約発表			
第3回	均衡国民所得(1)①	テキスト輪読 (貯蓄と投資の均衡、消費関数)			
第4回	均衡国民所得(1)②	内容要約発表			
第5回	均衡国民所得(2)①	テキスト輪読 (投資の決定、乗数効果)			
第6回	均衡国民所得(2)②	内容要約発表			
第7回	貨幣の需要と供給(1)①	テキスト輪読 (貨幣市場、ハイパワードマネー、手形割引)			
第8回	貨幣の需要と供給(1)②	内容要約発表			
第9回	貨幣の需要と供給(2)①	テキスト輪読 (総需要、財政政策の効果)			
第10回	貨幣の需要と供給(2)②	内容要約発表			
第11回	短期から長期へ①	テキスト輪読 (労働市場と供給曲線、インフレーション、景気循環)			
第12回	短期から長期へ②	内容要約発表			
第13回	国際経済①	テキスト輪読 (ハクシャー=オリーンモデル、為替レート)			
第14回	国際経済②	内容要約発表			
第15回	まとめ	学習内容に関する確認			

# 経済

授業番号	B200710013				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	藤井 輝男 (Teruo Fujii)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済活動や経営活動を人間の行動との関わりから捉える一つの方法として、心理学的なアプローチがある。その手始めとして、心理学の基礎的研究方法 (主として実験法) を体験し心理学的視点から経済、経営を捉える基礎的訓練を体験することを目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的に3週を1クルーとし、グループごとに基礎的実験を実施し、次の週に教員による解説を行い、3週目にエビデンスレポートの作成を行う。				
成績評価方法	エビデンスレポートの内容、参加状況等から総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	実験実習で行った内容をまとめ直しておくこと。				
教科書	使用しない。				
参考文献	その都度指示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	実験実習 1	記憶、認知領域の実験			
第2回	実験の解説	実験内容の説明			
第3回	エビデンスレポート作成	各自のデータを元に報告書をまとめる			
第4回	実験実習 2	性格の測定 (性格検査)			
第5回	実験の解説	実験内容の説明			
第6回	エビデンスレポート作成	各自のデータを元に報告書をまとめる			
第7回	実験実習 3	対人行動に関する実験			
第8回	実験の解説	実験内容の説明			
第9回	エビデンスレポート作成	各自のデータを元に報告書をまとめる			
第10回	実験実習 4	「フェルミ推定」			
第11回	実験の解説	「フェルミ推定」の実際			
第12回	エビデンスレポート作成	「フェルミ推定」が可能なテーマを探し実施する			
第13回	報告会 1	各グループごとの発表、相互評価、講評			
第14回	報告会 2	各グループごとの発表、相互評価、講評			
第15回	まとめ	年度全体のまとめと質疑			

# 経済

授業番号	B200710015				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	森島 隆晴 (Takaharu Morishima)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本演習のねらいは、経営学の基礎知識と考え方を基にした論理的思考方法を学ぶことで、到達目標は思考方法や表現方法を習得することです。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回、分担者が教科書の分担分を報告し、それに基づいてディスカッションしてもらいます。各自でレポートにまとめて提出してください。				
成績評価方法	報告とレポート (80%) とディスカッションなどへの参加態度 (20%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	毎回、教科書を予習し、報告分担分は PowerPoint の資料を作成してください。復習としてディスカッションの内容を踏まえてレポートの作成をおこなってください。				
教科書	中野明 (2010) 『即今日から使える最強ビジネス戦略 51』朝日新聞出版				
参考文献	酒井穰 (2013) 『新版これからの思考の教科書』光文社知恵の森文庫				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	講義スケジュールの確認と分担決定			
第 2 回	経営分析 1	利益計算、スキミング価格とペネトレーション価格			
第 3 回	経営分析 2	価格弾力性と所得弾力性、割引現在価値			
第 4 回	経営分析 3	市場シェア目標値、三点攻略法			
第 5 回	経営分析 4	貸借対照表、損益計算書			
第 6 回	経営分析 5	貸借対照表と損益計算書の関係、経営分析ベーシック			
第 7 回	経営分析 6	損益分岐点			
第 8 回	経営分析 7	経営分析の総括			
第 9 回	ビジネス戦略 1	ゲーム理論の考え方			
第 10 回	ビジネス戦略 2	ハフエット戦略、合理的な豚戦略			
第 11 回	ビジネス戦略 3	囚人のジレンマ、契約と協定			
第 12 回	ビジネス戦略 4	しっぺ返し戦略、ジレンマの戦略的活用			
第 13 回	ビジネス戦略 5	コミットメント、瀬戸際戦略			
第 14 回	ビジネス戦略 6	逆選択、シグナリング			
第 15 回	ビジネス戦略 7	チェーンストアパラドックス、ビジネス戦略の総括			

経済

授業番号	B200710016				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	星 真実 (Masami Hoshi)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	労働と生活、ひいては人間そのものについて探求するゼミである。従って、自分のことにしか関心がないという学生の参加は望まない。実際に街頭調査などを行う予定である。				
授業の進め方 (履修条件など)	実態調査を行う。				
成績評価方法	調査内容で判断する。				
基準					
授業の予習・復習	調査内容を見直す。				
教科書	特に使用しない。				
参考文献	星真実「千葉県のパートタイマー 2008」(『敬愛大学研究論集』74号)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	ゼミの進行方法について			
第 2 回	ヒアリング調査 1	ヒアリング調査説明			
第 3 回	ヒアリング調査 2	ヒアリング調査と調査結果報告 (1 班)			
第 4 回	ヒアリング調査 3	ヒアリング調査と調査結果報告 (2 班)			
第 5 回	ヒアリング調査 4	ヒアリング調査と調査結果報告 (3 班)			
第 6 回	ヒアリング調査 5	ヒアリング調査と調査結果報告 (4 班)			
第 7 回	ヒアリング調査 6	ヒアリング調査と調査結果報告 (5 班)			
第 8 回	ヒアリング調査 7	ヒアリング調査と調査結果報告 (1 班)			
第 9 回	ヒアリング調査 8	ヒアリング調査と調査結果報告 (2 班)			
第 10 回	ヒアリング調査 9	ヒアリング調査と調査結果報告 (3 班)			
第 11 回	ヒアリング調査 10	ヒアリング調査と調査結果報告 (4 班)			
第 12 回	ヒアリング調査 11	ヒアリング調査と調査結果報告 (5 班)			
第 13 回	年間まとめ 1	アンケート調査まとめ			
第 14 回	年間まとめ 2	ヒアリング調査まとめ			
第 15 回	20 答法	Who am I Test II			



# 経済

授業番号	B200710017				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	藪内 正樹 (Masaki Yabuuchi)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	前期では、輸出によって中国市場開拓に挑む日本の中小企業の事例を見てきましたが、後期は、中国に工場を作り、生産と販売に挑む日系企業の事例を見ていきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書または配布資料の担当部分について、分からない事を調べながら読み、何を学んだか、何が分からないか、さらに何を調べたいかについて順次発表してもらいます。これに対して教師が解説しディスカッションします。				
成績評価方法	発表の内容 (30%)、ディスカッションの積極性 (30%)、レポート (40%)				
基準					
授業の予習・復習	担当部分について、事前にメモを作り、発表に備えてください。学んだことを復習し、レポートに備えてください。				
教科書	『中国市場に挑む日系企業—その戦略と課題を探る』2004年、ジェトロ				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	ゼミの進め方			
第2回	日系企業の中国進出事例 (1)	ゼミ生の発表、教師による解説、全員によるディスカッション			
第3回	日系企業の中国進出事例 (2)	ゼミ生の発表、教師による解説、全員によるディスカッション			
第4回	日系企業の中国進出事例 (3)	ゼミ生の発表、教師による解説、全員によるディスカッション			
第5回	日系企業の中国進出事例 (4)	ゼミ生の発表、教師による解説、全員によるディスカッション			
第6回	日系企業の中国進出事例 (5)	ゼミ生の発表、教師による解説、全員によるディスカッション			
第7回	日系企業の中国進出事例 (6)	ゼミ生の発表、教師による解説、全員によるディスカッション			
第8回	前半のまとめ、中国市場開拓の条件	日系企業の事例から、中国市場開拓の成功条件は何かを考える。			
第9回	日系企業の中国進出事例 (7)	ゼミ生の発表、教師による解説、全員によるディスカッション			
第10回	日系企業の中国進出事例 (8)	ゼミ生の発表、教師による解説、全員によるディスカッション			
第11回	日系企業の中国進出事例 (9)	ゼミ生の発表、教師による解説、全員によるディスカッション			
第12回	日系企業の中国進出事例 (10)	ゼミ生の発表、教師による解説、全員によるディスカッション			
第13回	日系企業の中国進出事例 (11)	ゼミ生の発表、教師による解説、全員によるディスカッション			
第14回	後半のまとめ、レポート作成指導	中国市場開拓の成功条件をまとめ、レポート作成を指導する。			
第15回	レポート作成指導	レポートの添削指導			

# 経済

授業番号	B200710019		
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)		
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	現代の日本経済におけるさまざまな現象・課題を考えるを通じて、マクロ経済、企業、家計、財政と金融などの基礎的な考え方を学び、専門演習などより進んだ学習・研究のための基礎を作る。講義とは違って参加者自身が問題意識を持って能動的に取り組み、その成果を確実にすることを目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	前期の専門導入演習 I から継続して、日本経済に関する入門的な読み物を用い、直面する問題とその解決について考える。取り上げられた題材について自分自身の意見を整理し、理解を深める。なお、以下に示した各回の取り扱い内容はだまかな目安であり、進度と内容は参加者の関心の所在など状況を見て適宜修正し、変更することがある。また、これに加えてメディアセンター他での文献や資料の利用法、専門演習に向けての考え方などについても時間をとるため、内容の一部を削ることがある。		
成績評価方法	レポート及びその他の課題、授業参加態度の状況。後者にはゼミでの発言など参加の積極性を反映させる。		
基準			
授業の予習・復習	予習：事前に教科書の指定されたところを読み、それに関する自分の意見をまとめておく。 復習：その回の内容を整理し、さらに深く知るために受講すべき専門科目が何かを考える。		
教科書	田中隆之編著「日本経済 その構造変化をとらえる」専修大学出版局、を予定しているが、変更の可能性もある。		
参考文献	長谷川啓之編『経済政策の理論と現実』学文社、2009年など。この他にも適宜紹介する。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	はじめに (1)	演習の進め方と今後の方針	
第2回	はじめに (2)	前期の復習と課題の発表	
第3回	大きく変貌する日本の金融システム (1)	金融システムの果たす役割、直接金融とは何か	
第4回	大きく変貌する日本の金融システム (2)	直接金融における情報生産と「格付け」の経済的機能	
第5回	大きく変貌する日本の金融システム (3)	間接金融とは何か、金融仲介機関の経済機能	
第6回	大きく変貌する日本の金融システム (4)	戦後日本の金融システムと競争制限的規制	
第7回	大きく変貌する日本の金融システム (5)	「市場型間接金融」と「金融の証券化」	
第8回	ここまでのまとめ	専門演習をどう選ぶか	
第9回	わが国の財政の何が問題なのか (1)	「失われた20年」とわが国の財政	
第10回	わが国の財政の何が問題なのか (2)	日本の社会保障、急激な高齢化と社会保障制度	
第11回	わが国の財政の何が問題なのか (3)	政府債務増加の原因	
第12回	わが国の財政の何が問題なのか (4)	財政再建への取り組み	
第13回	農業と貿易自由化 (1)	高度成長期の日本の農業	
第14回	農業と貿易自由化 (2)	貿易自由化と日本の農業	
第15回	全体のまとめ	3年次演習に向けて	

# 経済

授業番号	B200710021		
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)		
担当者 (英語表記)	高木 朋代 (Tomoyo Takagi)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	学生の皆さんが、将来的に、より堅実な職業人生を歩んでいけるよう、本演習では、人事管理について学びながら、自分の頭で考え整理し、物事の関連性を見極め、解決の糸口を見出していく論理的思考力を向上させることを目指します。		
授業の進め方 (履修条件など)	専門導入演習 II では、社会科学の方法論と人事管理の仕組みと論理について学びます。授業は、文献の輪読と実習によって進めていきます。討論に積極的に参加することが求められます。		
成績評価方法	授業内で実施する課題 (50%) と参加態度 (50%) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：演習の前に、前回の資料等を再読しておくことをお勧めします。 復習：演習で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。		
教科書	必要に応じて独自に資料を配布します。		
参考文献	必要に応じて紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図	
第 2 回	社会科学の方法論	資料の輪読	
第 3 回	社会科学の方法論	資料に関する討論	
第 4 回	社会科学の方法論	<実習>：スライドを見てクイズに答える	
第 5 回	人の育成と活用について学ぶ I	働く人々の類型：資料の輪読	
第 6 回	人の育成と活用について学ぶ I	雇用と労働に関する討論	
第 7 回	人の育成と活用について学ぶ I	人を雇い入れる：資料の輪読	
第 8 回	人の育成と活用について学ぶ I	採用に関する討論	
第 9 回	社会調査の方法について学ぶ	資料の輪読	
第 10 回	社会調査の方法について学ぶ	資料に関する討論	
第 11 回	社会調査の方法について学ぶ	定性調査法と定量調査法についてまとめ	
第 12 回	人の育成と活用について学ぶ II	能力の種類：資料の輪読	
第 13 回	人の育成と活用について学ぶ II	職務能力に関する討論	
第 14 回	人の育成と活用について学ぶ II	能力の開発：資料の輪読	
第 15 回	人の育成と活用について学ぶ II	能力開発に関する討論	

# 経済

授業番号	B200710022		
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)		
担当者 (英語表記)	金子 林太郎 (Rintarou Kaneko)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済学的なものの考え方を学んでもらうことが第1のねらいである。テキストの内容を要約し、レジュメにまとめ、みんなの前で報告してもらうことが第2のねらいである。報告に対してコメントや質問をして、報告者と討論してもらうことが第3のねらいである。これらを通して、3, 4年ゼミで卒業研究をする基礎を養う。		
授業の進め方 (履修条件など)	後期は報告者 (最初はグループ、後に個人) を指名し、報告者の報告を聞き、報告者以外の者はそれにコメントや質問をして、全員で議論することで理解を深める。報告の仕方も練習する。数回テキストの内容をまとめる復習レポートを課す。		
成績評価方法 基準	ゼミ中の発言の積極性、発表 (プレゼンテーション) の出来栄、復習レポートの内容等を踏まえて、総合的に評価する。		
授業の予習・復習	予習: 指定されたテキストの範囲に目を通しておくこと。 復習: ゼミで扱った内容を咀嚼すること。		
教科書	梶井厚志『故事成語でわかる経済学のキーワード』中公新書		
参考文献	横山光輝『史記』小学館文庫 藤沢晃次『「分かりやすい表現」の技術』講談社ブルーバックス		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	後期のゼミの概要確認、後期個人目標の設定	
第2回	夏休み中の個人研究発表会	夏休み中の個人研究の発表、講評	
第3回	第1回グループ報告の準備1	グループ分け、報告準備 (グループワーク) (第11章~13章)	
第4回	第1回グループ報告の準備2	報告準備 (グループワーク) の続き	
第5回	第1回グループ報告会	報告会、相互評価、講評	
第6回	第2回グループ発表の準備1	グループ分け、報告準備 (グループワーク) (第14章~16章)	
第7回	第2回グループ報告の準備2	報告準備 (グループワーク) の続き	
第8回	第2回グループ報告会	報告会、相互評価、講評	
第9回	第1回個人報告の準備1	分担の決定、報告準備 (個人作業) (第17章~第22章)	
第10回	第1回個人報告の準備2	報告準備 (個人作業) の続き	
第11回	第1回個人報告会	報告会、相互評価、講評	
第12回	第2回個人報告の準備	分担の決定、報告準備 (個人作業) (第23章~28章)	
第13回	第2回個人報告の準備2	報告準備 (個人作業) の続き	
第14回	第2回個人報告会	報告会、相互評価、講評	
第15回	まとめ	今年度のゼミの総括	

経済

授業番号	B200710023				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	高岡 英氣 (Hideki Takaoka)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	様々なテーマについての学びを通じ、スポーツおよびその周辺領域への理解を深めると共に、自分の考えを論理的に表現したり、相手に気を配って信頼関係を築いていくコミュニケーション能力、人から指示されなくとも自分で問題を発見する問題発見能力等を身につけることを目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書やその他の題材を使ったディスカッションを通じ、各人の視野を広げ、コミュニケーション能力、問題発見能力等を養成する。				
成績評価方法	平常点 (ディスカッションへの貢献度、その他の授業態度) (70%)・レポート (30%)				
基準					
授業の予習・復習	次回扱う教科書の範囲を読んでおくことが望ましい。				
教科書	川谷茂樹著『スポーツ倫理学講義』ナカニシヤ出版				
参考文献	授業内で適宜提示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方の説明			
第 2 回	輪読・ディスカッション (1)	イントロダクション 「スポーツ哲学/倫理学」へのいざない			
第 3 回	輪読・ディスカッション (2)	弱点を攻めるのは悪いことなのか? (1): ラシュワンとアンチ = ラシュワン、勝利の追求という大原則			
第 4 回	輪読・ディスカッション (3)	弱点を攻めるのは悪いことなのか? (2): 自然と反自然 (所与と課題) の反転、異なる観点同士の闘争			
第 5 回	輪読・ディスカッション (4)	卓越性、強さ、勝利 (1): 卓越性理論と松井の五連続敬遠			
第 6 回	輪読・ディスカッション (5)	卓越性、強さ、勝利 (2): 勝った方が強いということの意味			
第 7 回	輪読・ディスカッション (6)	ルールとエトス (1): 構成的ルールとルール絶対主義			
第 8 回	輪読・ディスカッション (7)	ルールとエトス (2): アンチノミー再考			
第 9 回	輪読・ディスカッション (8)	スポーツと暴力 (1): ボクシング存廃論争			
第 10 回	輪読・ディスカッション (9)	スポーツと暴力 (2): スポーツそのものの本質的暴力性			
第 11 回	輪読・ディスカッション (10)	スポーツの本質 (1): スポーツの本質に関する対立軸			
第 12 回	輪読・ディスカッション (11)	スポーツの本質 (2): 対戦相手について			
第 13 回	輪読・ディスカッション (12)	スポーツの周辺 (1): 見る娯楽としての競技スポーツ			
第 14 回	輪読・ディスカッション (13)	スポーツの周辺 (2): オルタナティブ・オブ・スポーツ			
第 15 回	輪読・ディスカッション (14)	スポーツの「内」と「外」			

# 経済

授業番号	B200710025				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	専門導入演習 I における学習の延長として、金融市場や金融政策について学びます。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を輪読します。金融論を履修することをお勧めします。				
成績評価方法	授業への取り組み姿勢 (60%)、報告などの成果 (40%)。				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書や参考文献を中心に行ってください。 復習：演習後に残された課題について、引き続き調査・検討して下さい。				
教科書	細野薫、石原秀彦、渡部和孝『グラフィック金融論』新世社				
参考文献	日本経済新聞社編『ベーシック/金融入門』日本経済新聞 鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社 館龍一郎、浜田宏一『金融』岩波書店 この他、演習の中で随時紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	金利 1	債券の価格・リスク・金利、金利の期間構造			
第 2 回	金利 2	割引現在価値			
第 3 回	金利 3	名目金利と実質金利			
第 4 回	株価 1	株式市場、株式の収益率とリスク、株価			
第 5 回	株価 2	ポートフォリオの理論、効率的市場仮説			
第 6 回	株価 3	株式収益率の決まり方			
第 7 回	為替相場 1	為替と為替相場、通貨制度			
第 8 回	為替相場 2	名目為替相場と実質為替相場、国際収支			
第 9 回	為替相場 3	為替相場の決まり方			
第 10 回	貨幣市場の需要と供給 1	貨幣供給のメカニズム、貨幣の取引需要			
第 11 回	貨幣市場の需要と供給 2	流動性選好、貨幣市場における名目利子率の決定			
第 12 回	金融政策 1	中央銀行、金融政策の目的と手段			
第 13 回	金融政策 2	金融政策のメカニズム、中央銀行の独立性			
第 14 回	映像でみる金融	動画視聴			
第 15 回	まとめ	全体を通して興味や関心をもった内容の確認			

# 経済

授業番号	B200710026				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本演習では、教科書の輪読を進めるとともに、経済界で観察される面白い現象について自分なりの理解を深め他人とディスカッションする方法を学びます。また、ゼミ生の興味に沿ったディスカッション・テーマを設定し、グループ・ワークとして資料調査し、その結果を発表する練習をします。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回輪読の担当者(レポーターおよびコメンテーター)を決めてゼミ生の司会のもとディスカッションを進めます。レポーターは担当章のサマリーを、コメンテーターは担当章についての疑問点および自分なりの回答をまとめてきます。後期は2回のグループ・ワークを予定しています。				
成績評価方法	ディスカッションへの参加意欲 (50%)、授業態度 (50%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：輪読時は教科書の決められたチャプターを読んでください。 復習：教科書 (学習したチャプター) を再読してください。				
教科書	鈴木 敏文『売る力 心をつかむ仕事術』文藝春秋、2013年。				
参考文献	必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業内容、ゼミの進め方についての説明			
第2回	輪読	第1章			
第3回	輪読	第2章			
第4回	輪読	第3章			
第5回	輪読	第4章			
第6回	輪読	第5章			
第7回	グループ・ワーク1	テーマ決定、資料調査			
第8回	グループ・ワーク1	資料調査			
第9回	グループ・ワーク1	プレゼンテーション&グループ・ディスカッション			
第10回	輪読	第6章			
第11回	輪読	第7章			
第12回	輪読	第8章			
第13回	グループ・ワーク2	テーマ決定、資料調査			
第14回	グループ・ワーク2	資料調査			
第15回	グループ・ワーク2	プレゼンテーション&グループ・ディスカッション			

経済

授業番号	B200710027				
科目名 (英語表記)	専門導入演習 II (Sophomore Seminar II)				
担当者 (英語表記)	平屋 伸洋 (Nobuhiro Hiraya)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、日商簿記検定 2・3 級の内容について理解することにある。簿記とは、企業の経営活動を記録・計算・整理し、財政状態と経営成績を明らかにするための技法である。この授業では、簿記検定 2・3 級に合格できる知識と技能を習得することを到達目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的には、テキストを活用して検定の出題範囲となるテーマを学習する。また、履修者の理解を促すために、適宜問題集や過去問題を用いた問題演習を行う。こうして、簿記一巡や財務諸表の作成について理解できるようにする。さらに、毎回の授業では、前回までの復習を行うことで知識の定着を図る。				
成績評価方法	課 題： 13 回の課題提出を義務づけており、各 10 点満点で採点し、それを成績評価に換算する。				
基準					
授業の予習・復習	① 次回の授業までに、テキストの該当箇所を熟読して授業に臨むこと。 ② 授業で取り上げた箇所の復習を怠らないこと。 ③ 課題や宿題については必ずやり遂げ提出すること。				
教科書	『村田の簿記検定合格シリーズ 日商 3 級』(村田学園)				
参考文献	TAC 簿記検定講座著『合格テキスト 日商簿記 3 級 Ver.6.0 (よくわかる簿記シリーズ)』TAC 出版、第 6 版、2011 年。 TAC 簿記検定講座著『合格トレーニング 日商簿記 3 級 Ver.6.0 (よくわかる簿記シリーズ)』TAC 出版、第 6 版、2011 年。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	本授業の概要と今後の進め方、成績評価について説明			
第 2 回	工業簿記の基礎概念	工業簿記の流れ			
第 3 回	費目別計算 I	材料費、労務費、経費			
第 4 回	費目別計算 II	製造間接費の配賦問題、先入先出法と平均法			
第 5 回	総合原価計算 I	単純総合原価計算			
第 6 回	総合原価計算 II	工程別総合原価計算			
第 7 回	総合原価計算 III	組別総合原価計算			
第 8 回	総合原価計算 IV	等級別総合原価計算			
第 9 回	直接原価計算	直接原価計算、損益分岐点、CVP 分析			
第 10 回	標準原価計算	標準原価計算			
第 11 回	本社工場会計	本社工場会計			
第 12 回	財務諸表	貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書の作成			
第 13 回	個別原価計算 I	個別原価計算の基礎			
第 14 回	個別原価計算 II	部門別個別原価計算			
第 15 回	問題演習	過去に出題された問題を用いて問題演習を行う。			



# 経済

授業番号	B200490001		
科目名 (英語表記)	総合科目 I「国際社会を知る」(A comprehensive subject I I International society)		
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	この講義では、他の授業では比較的接することが少ないが重要な 3 つの国や地域を選んで、その国／地域の概要や世界の中での位置づけ、人々の生活など、身近な話題からその国を実感してもらおう、という目的で授業を進めます。講師は、その国／地域とのつながりが濃く、現地での生活経験のある先生方です。将来仕事で外国とのつながりを持つ際、その国・地域の生活・基礎知識を得ることが狙いです。		
授業の進め方 (履修条件など)	3 人の先生がそれぞれの専門の国／地域について各 5 回ずつ講義します。履修者は、基礎的情報の習得から、各自がその国／地域に関し意見が持てる程度までの学習が求められます。資料が配付されることもありますが、基本的にノートをしっかりとりながら聴講しましょう。先生方は全力で講義されますので、ノートは、講義を聴きながら早書きのメモで記録し、後でわかりやすいようまとめ直しましょう。授業に集中せず他の聴講生の妨げになる場合はその場で退場して頂き、学籍番号・氏名を記録した上で出席は取り消します。		
成績評価方法 基準	レポート (アラブのシリーズでは必須) と定期試験 (授業態度・小テスト等を加味) で決めます。定期試験は小論文方式で、3 人の先生が 1 問ずつ出された 3 つの問題のうち 2 つを選んで解答します。定期試験は、ノートのみ持込可とし、講義内容の理解と自分の意見を小論文で表現できるかどうかをみます。退場 2 回で不合格の評価とします。		
授業の予習・復習	復習として、授業中のメモを後で見てもわかるような講義録にまとめなおす作業を 1 回 1 回ずつにやっておきましょう。先生が推薦された参考図書は極力メディアセンターに入れておくようにします。読んでおきましょう。		
教科書	テキストはありません。ノートをしっかりとして下さい。		
参考文献	各担当講師からその都度参考文献の紹介があります。先生が推薦された参考図書は極力メディアセンターに入れておくようにします。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	東欧を知ろう (森下 嘉之)	東欧という地域について (講義の前 5 分間ガイダンスがあります。早めにご参集下さい)	
第 2 回	東欧を知ろう (森下 嘉之)	東欧の歴史と文化を振り返る (19 世紀以前を中心に)	
第 3 回	東欧を知ろう (森下 嘉之)	東欧の歴史と文化を振り返る (20 世紀前半を中心に)	
第 4 回	東欧を知ろう (森下 嘉之)	社会主義という経験 (20 世紀後半)	
第 5 回	東欧を知ろう (森下 嘉之)	東欧のいま (21 世紀のチェコを中心に)	
第 6 回	アラブ世界を知ろう (水口 章)	アラブ人と国家 (20 世紀の創造物としての国境)	
第 7 回	アラブ世界を知ろう (水口 章)	国民国家と少数派 (宗教的少数派と民族的少数派)	
第 8 回	アラブ世界を知ろう (水口 章)	今日のアラブ社会 (人口、結婚、女性、教育)	
第 9 回	アラブ世界を知ろう (水口 章)	アラブ諸国の経済 (農業、商業、石油産業)	
第 10 回	アラブ世界を知ろう (水口 章)	アラブと国際関係	
第 11 回	朝鮮半島を知ろう (文 浩一)	南北朝鮮の人々の暮らし	
第 12 回	朝鮮半島を知ろう (文 浩一)	南北分断の歴史と統一問題	
第 13 回	朝鮮半島を知ろう (文 浩一)	韓国の政治と経済	
第 14 回	朝鮮半島を知ろう (文 浩一)	北朝鮮の政治と経済	
第 15 回	朝鮮半島を知ろう (文 浩一)	授業の振り返りテストにより、理解を確実にする。	

# 経済

授業番号	B200500001		
科目名 (英語表記)	総合科目 II「国際社会を知る」(A comprehensive subject I International society)		
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	この講義では、他の授業では比較的接することが少ないが重要な3つの国や地域を選んで、その国/地域の概要や世界の中での位置づけ、人々の生活など、身近な話題からその国を実感してもらおう、という目的で授業を進めます。講師は、その国/地域とのつながりが濃く、現地での生活経験のある先生方です。将来仕事で外国とのつながりを持つ際、その国・地域の生活・基礎知識を得ることが狙いです。		
授業の進め方 (履修条件など)	3人の先生がそれぞれの専門の国/地域について各5回ずつ講義します。履修者は、基礎的情報の習得から、各自がその国/地域に関し意見が持てる程度までの学習が求められます。資料が配付されることもありますが、基本的にノートをしっかりとりながら聴講しましょう。先生方は全力で講義されますので、ノートは、講義を聴きながら早書きのメモで記録し、後でわかりやすいようまとめ直しましょう。授業に集中せず他の聴講生の妨げになる場合はその場で退場して頂き、学籍番号・氏名を記録した上で出席は取り消します。		
成績評価方法 基準	評点は、授業態度・小テスト等を加味し、主として定期試験の結果によって決めます。単位取得のため必須のレポートが出される場合もありますので、ご注意下さい。定期試験は小論文方式で、3人の先生が1問ずつ出された3つの問題のうち2つを選んで解答します。定期試験は、ノートのみ持込可とし、講義内容の理解と自分の意見を小論文で表現できるかどうかをみます。退場2回で不合格の評価とします。		
授業の予習・復習	復習として、授業中のメモを後で見てもわかるような講義録にまとめなおす作業を1回1回すぐにやっておきましょう。先生が推薦された参考図書は極力メディアセンターに入れておくようにします。読んでおきましょう。		
教科書	テキストはありません。ノートをしっかりとって下さい。		
参考文献	各担当講師からその都度参考文献の紹介があります。先生が推薦された参考図書は極力メディアセンターに入れておくようにします。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	『躍動するブラジル』 (近田 亮平)	2013年11月に発行された『躍動するブラジルー新しい変容と挑戦ー』(近田亮平編著)の概要を解説し、最近のブラジルの変化について理解を深める。	
第2回	ブラジルの経済 (近田 亮平)	前掲書の中で主に第2章(経済)と第3章(企業)を中心に取り上げ、ブラジルの経済について最近の動向に関する理解を深める。	
第3回	ブラジルの社会保障 (近田 亮平)	前掲書の中で主に第4章(社会)を中心に取り上げ、ブラジルの社会保障制度などについて最近の動向に関する理解を深める。	
第4回	ブラジルの住宅 (近田 亮平)	ブラジルの住宅に関する問題や状況、および、主に低所得者層向け住宅政策などを取り上げ都市貧困層の居住環境改善の取り組みについて理解を深める。	
第5回	ブラジルの日系社会 (近田 亮平)	ブラジルへの日本移民、ブラジルの日系社会、日本の日系ブラジル人社会などを取り上げブラジルと日本のヒトや経済などに関する関係について理解を深める。	
第6回	深まる東南アジアと日本の経済関係 (山田 紀彦)	東南アジアの概要と歴史	
第7回	深まる東南アジアと日本の経済関係 (山田 紀彦)	ベトナム戦争	
第8回	深まる東南アジアと日本の経済関係 (山田 紀彦)	開発独裁と経済発展	
第9回	深まる東南アジアと日本の経済関係 (山田 紀彦)	東南アジアの民主化	
第10回	深まる東南アジアと日本の経済関係 (山田 紀彦)	東南アジアの社会主義	
第11回	ロシアを知ろう (吉村 貴之)	多民族からなるロシア世界	
第12回	ロシアを知る (吉村 貴之)	世界帝国から革命へ	
第13回	ロシアを知る (吉村 貴之)	社会主義と民族問題	
第14回	ロシアを知る (吉村 貴之)	社会主義体制の発展と冷戦	
第15回	ロシアを知る (吉村 貴之)	再び体制転換	

経済

授業番号	B200740005		
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	野口 明宏 (Akihiro Noguchi)	対象学年	4
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	皆さんが選んだテーマについて、卒業論文を作成し、完成させてください。		
授業の進め方 (履修条件など)	ゼミ生ごとに個別指導を行います。 たとえば、テーマに関する資料収集の方法、書けた文書の修正など、具体的に指導します。		
成績評価方法	卒業論文作成への意欲、		
基準	授業に参加する姿勢などにもとづいて評価します。		
授業の予習・復習	自分のテーマに関する単行本、新聞・雑誌の記事、HPなどを常に探すように心がけてください。 書けた文書を常に推敲し、納得のいくものに仕上げてください。 地道に作業を続けることが大切です。		
教科書	使用しません。		
参考文献	皆さんのテーマごとに、必要な資料、その入手方法などを紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	テーマ、論文作成のスケジュールを確認	
第 2 回	論文資料の探し方	単行本、雑誌論文、 新聞記事、HP などの探し方	
第 3 回	資料の読み方	アンダーライン、付箋、 メモのとり方など	
第 4 回	論文の構成	何を書きたいのか、項目の組み立て方	
第 5 回	文書のまとめ方	抜き書き、引用、下書きメモの活用	
第 6 回	文書の推敲 1	ていねいに、慎重に、根気よく取り組む	
第 7 回	文書の推敲 2	コピー・ペースト機能の有効活用	
第 8 回	個別指導 1	書いた範囲の文書指導	
第 9 回	個別指導 2	書いた範囲の文書指導	
第 10 回	個別指導 3	書いた範囲の文書指導	
第 11 回	中間講評—書き方のアドバイス	書き方の問題点を指摘	
第 12 回	個別指導 4	書いた範囲の文書指導	
第 13 回	個別指導 5	書いた範囲の文書指導	
第 14 回	個別指導 6	書いた範囲の文書指導	
第 15 回	前期の講評	後期に向けて、 書き方の問題点を指摘	

# 経済

授業番号	B200740006		
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	加茂川 益郎 (Masuro Kamogawa)	対象学年	4
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	3年次に引き続いて日本経済の研究を進めるとともに、ゼミ生各自が研究テーマを絞り込み、卒論を執筆完成することを目標とする		
授業の進め方 (履修条件など)	テキストの輪読、研究とともに、ゼミ生の卒論作成指導をおこなっていく。		
成績評価方法	参加態度、発表、討論、レポートによって評価する。		
基準			
授業の予習・復習	テキストの語句、疑問点を調べておくこと。ゼミ討論の内容、論点の整理をおこなっておくこと。		
教科書	橋本寿郎・長谷川信・宮島英昭・齊藤直『現代日本経済』有斐閣		
参考文献	経済雑誌、新聞の経済記事		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	卒論指導	ゼミ生の研究テーマの確定	
第2回	卒論作成手順	卒論の執筆要領、論文作成の方法	
第3回	生産台数世界一の自動車産業	国内市場の制約と製品開発。 世界的な需要構造の変化と競争優位	
第4回	第4部 債権国・経済大国への道 概説	安定成長下のマクロ経済、急速な円高から、「平成景気」へ、民営化と規制緩和、日本経済のサービス化	
第5回	債権大国日本	債権大国への道、プラザ合意と直接投資の第3の波、証券投資の急拡大、債権国の含意	
第6回	日本企業の国際競争力	強まった加工組立産業の比較優位、ハイテク・ハードウェアの競争優位、半導体メモリーへの集中	
第7回	トヨタ生産システム	トヨタ生産システムの基本、新生産システムの発生と洗練、トヨタ生産システムの普及	
第8回	流通革命	流通産業の構造、「流通革命」と日本型流通システム	
第9回	第5部 バブル崩壊と日本型企業システムの転換 概説	経済環境の変化、「失われた10年」、バブルの崩壊と不況の長期化 銀行危機とデフレの進行、構造改革路線の定着、IT革命化の生産性	
第10回	財政赤字の深刻化	財政の急激な悪化、赤字財政の歴史的展開、日本財政の構造的な問題	
第11回	東アジアの台頭	成長する被害アジア経済圏、アジアとの関係強化、貿易構造の変容、対外開放の進展	
第12回	新たなビジネスモデルを模索する 企業経営	産業構造変化の構造、貿易財産業の明暗、	
第13回	卒論研究 I	ゼミ生の卒論研究の進捗確認と指導	
第14回	卒論研究 II	ゼミ生の卒論進捗確認と指導	
第15回	ゼミ前期総括	卒論指導と日本経済研究のまとめ	

# 経済

授業番号	B200740007				
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済政策の理論として、マクロ経済学を習得し、その後現実の政策課題 (不良債権処理、バブル崩壊以降のデフレ経済からの脱却、財政赤字の問題、年金や医療など社会保障制度改革など) について研究することを目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを輪読しながら、経済政策の理論と具体的問題について研究する。				
成績評価方法	レポート及びその他の課題 (60%) ・授業中の発表・コメントなどの評価 (40%)				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習:ゼミの授業はテキスト並びに配布プリントをある程度理解した上で、質疑応答、討論という形で進めていくため、予習していなければ学習効果は期待できない。</p> <p>復習:ゼミの時間は自分の研究を進めていくためのものであるから、自宅学習の時間を十分取り、早い段階で自分の研究テーマを見つけることが必要である。</p>				
教科書	『スティグリッツ マクロ経済学 (第3版)』東洋経済新報社、スティグリッツ、C.E. ウォルシュ著				
参考文献	『スティグリッツ 入門経済学』(第3版)東洋経済新報社、J.E. スティグリッツ、C.E. ウォルシュ、藪下 史郎、秋山 太郎				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	マクロ経済活動の測定 (1)	名目GDPと実質GDPの計測			
第2回	マクロ経済活動の測定 (2)	GDPを構成する要素と潜在GDP			
第3回	マクロ経済活動の測定 (3)	失業と失業統計			
第4回	マクロ経済活動の測定 (4)	失業の形態			
第5回	マクロ経済活動の測定 (5)	インフレーションの測定			
第6回	マクロ経済活動の測定 (6)	様々な物価指数: 消費者物価指数、卸売物価指数、GDPデフレーター			
第7回	マクロ経済活動の測定 (7)	国民経済計算とSNA			
第8回	マクロ経済活動の測定 (8)	練習問題による演習			
第9回	完全雇用マクロモデル (1)	総需要と均衡産出量			
第10回	完全雇用マクロモデル (2)	限界消費性向と投資乗数			
第11回	完全雇用マクロモデル (3)	政府の導入と乗数: 減税乗数と財政支出乗数			
第12回	完全雇用マクロモデル (4)	レポート作成			
第13回	貨幣と銀行システム (1)	貨幣の機能と役割			
第14回	貨幣と銀行システム (2)	金融システムのメカニズム			
第15回	貨幣と銀行システム (3)	マネーサプライの定義と計測			

# 経済

授業番号	B200740008		
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	森谷 英樹 (Hideki Moriya)	対象学年	4
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	できるだけケーススタディを中心にしながら企業経営と収益動向に興味をもってもらえるようにしたい。テキストはマーケティングを取りあげる。企業は市場において厳しい競争に直面している。身近な企業の経営戦略について、考えることを通じて就職活動を支援する。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義を通じて人の話を理解して、要点をメモすることが大切である。就職にあたって社会人として何が重要なのか言及する。卒論のテーマを早期に決定してそれをまとめることを期待している。新聞記事、雑誌、ネット、ビデオなどを教材に活用してみたい。		
成績評価方法	出席 40%、その他 60%		
基準			
授業の予習・復習	.		
教科書	使用しない		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	「モノが売れない」	①百貨店	
第 2 回	日本の小売業	②スーパー	
第 3 回	日本の小売業	③専門店	
第 4 回	日本の小売業	④ CVS	
第 5 回	日本の小売業	⑤ SPA	
第 6 回	「産業と付加価値」	①鉄鋼業	
第 7 回	日本の産業	②自動車	
第 8 回	日本の産業	③エネルギー	
第 9 回	日本の産業	④ロボット	
第 10 回	日本の産業	⑤円高と産業	
第 11 回	「サービス産業の課題」	①ホテル	
第 12 回	日本のサービス産業	②外食	
第 13 回	日本のサービス産業	③エンタテインメント	
第 14 回	卒論準備	①個別相談	
第 15 回	卒論準備	②個別相談	

経済

授業番号	B200740009				
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	青木 英一 (Hidekazu Aoki)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	専門演習 I・II (3年次) で学んだ産業と地域の関係を明らかにする手法を使って、各自がテーマを定め、準備し調査して内容をまとめ、論文として発表できるように指導していきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	3年次にすでにテーマは決まっているので、そのテーマに従って調べてきたことを順次発表します。また、3年次に引き続きディベート練習も行います。				
成績評価方法	レジュメを含む発表内容 (50%) と平常点 (50%、ディベート、他の発表者への質問等) から評価します。				
基準					
授業の予習・復習	発表には十分な準備を行うとともに、発表後は指摘された問題にしっかり対応すること。				
教科書	使用しません				
参考文献	一人一人異なるので個別に紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方			
第 2 回	ディベート練習 (1)	ディベートの実施 (産業立地問題をテーマにして)			
第 3 回	ディベート練習 (2)	ディベートの実施 (企業活動をテーマにして)			
第 4 回	ディベート練習 (3)	ディベートの実施 (千葉県産業をテーマにして)			
第 5 回	卒業論文のテーマと目的 (1)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (1～3)			
第 6 回	卒業論文のテーマと目的 (2)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (4～6)			
第 7 回	卒業論文のテーマと目的 (3)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (7～9)			
第 8 回	卒業論文のテーマと目的 (4)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (10～11)			
第 9 回	文献・資料の紹介 (1)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (1～3)			
第 10 回	文献・資料の紹介 (2)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (4～6)			
第 11 回	文献・資料の紹介 (3)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (7～9)			
第 12 回	文献・資料の紹介 (4)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (10～11)			
第 13 回	調査・研究方法 (1)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (1～6)			
第 14 回	調査・研究方法 (2)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (7～11)			
第 15 回	前期の講評	課題解決のための指導			

経済

授業番号	B200740010				
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	折原 裕 (Yutaka Orihara)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	一にも二にも卒業論文の準備につきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	3年次春休みに書いてもらう卒業論文準備報告書を、次第に拡充していくことで、卒業論文を完成に導きます。文献や資料の使い方、論理や表現の仕方、なども学びます。				
成績評価方法	平常点とレポートなど課題との総合評価によります。				
基準					
授業の予習・復習	進行状況次第で、予習、復習ともに必要になるでしょう。				
教科書	指定しません。				
参考文献	指定しません。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	レポートの検討	学生レポートの検討 A 君			
第 2 回	レポートの検討	学生レポートの検討 B 君			
第 3 回	レポートの検討	学生レポートの検討 C 君			
第 4 回	レポートの検討	学生レポートの検討 D 君			
第 5 回	レポートの検討	学生レポートの検討 E 君			
第 6 回	レポートの検討	学生レポートの検討 F 君			
第 7 回	レポートの検討	学生レポートの検討 G 君			
第 8 回	レポートの検討	学生レポートの検討 H 君			
第 9 回	レポートの検討	学生レポートの検討 I 君			
第 10 回	レポートの検討	学生レポートの検討 J 君			
第 11 回	レポートの検討	学生レポートの検討 K 君			
第 12 回	レポートの検討	学生レポートの検討 L 君			
第 13 回	レポートの検討	学生レポートの検討 M 君			
第 14 回	レポートの検討	学生レポートの検討 N 君			
第 15 回	レポートの検討	学生レポートの検討 O 君			



経済

授業番号	B200740011		
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	4
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	将来ビジネス文書作成に応用出来るような卒論作成の手法を工夫しながら、4年制大学レベルの卒論完成を目指します。同時に、就職活動にも全力を尽くして下さい。		
授業の進め方 (履修条件など)	就職活動とのバランスを調整しながらのゼミ進行になると思います。前期は、ゼミでは進行状況を報告して頂き、学生相互評価、教員によるアドバイスを行います。ゼミ外では連絡を取り合いながら卒論完成と就職活動のお手伝い、後期はゼミでの卒論報告と学生相互評価、教員による評価、卒論草稿の修正作業で忙しくなります。秋からはアルバイトを極力入れず、卒論の時間を取って下さい。		
成績評価方法	レポート及びその他の課題 (90%)・授業中のパフォーマンス (10%)		
基準			
授業の予習・復習	個人のスケジュールに沿って作業を進めるようになります。ゼミでの各作業の締切も設けますので、遅れ遅れにならぬよう自宅での作業が必須になります。		
教科書	指定しません		
参考文献	それぞれがインターネット等駆使して参考文献を見つけて下さい。授業ではそれをお手伝いします。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	卒論計画書チェック	これまでの卒論進行を振り返り、今年度一年間の計画書をチェックする	
第2回	卒論報告 1	ゼミ生の1/4が卒論内容について報告します。(1)	
第3回	卒論報告 2	ゼミ生の1/4が卒論内容について報告します。(2)	
第4回	卒論報告 3	ゼミ生の1/4が卒論内容について報告します。(3)	
第5回	卒論報告 4	ゼミ生の1/4が卒論内容について報告します。(4)	
第6回	卒論執筆 1	ゼミ生の1/4について、進めてきた卒論の内容を開示しあい、詳細な点についても全員の前でコメントします。(1)	
第7回	卒論執筆 2	ゼミ生の1/4について、進めてきた卒論の内容を開示しあい、詳細な点についても全員の前でコメントします。(2)	
第8回	卒論執筆 3	ゼミ生の1/4について、進めてきた卒論の内容を開示しあい、詳細な点についても全員の前でコメントします。(3)	
第9回	卒論執筆 4	ゼミ生の1/4について、進めてきた卒論の内容を開示しあい、詳細な点についても全員の前でコメントします。(4)	
第10回	卒論執筆 5	ゼミ生の1/4が卒論内容について報告し、相互評価し合います (1)	
第11回	卒論執筆 6	ゼミ生の1/4が卒論内容について報告し、相互評価し合います (2)	
第12回	卒論執筆 7	ゼミ生の1/4が卒論内容について報告し、相互評価し合います (3)	
第13回	卒論執筆 8	ゼミ生の1/4が卒論内容について報告し、相互評価し合います (4)	
第14回	卒論作成作業 1	これまでの相互評価・教員コメントを踏まえ、実際に卒論を修正し、教員がチェックします (1)	
第15回	卒論作成作業 2	これまでの相互評価・教員コメントを踏まえ、実際に卒論を修正し、教員がチェックします (2)	

経済

授業番号	B200740012				
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	卒業論文執筆に向けて、卒論の書き方を理解すること、研究論文を輪読することで、先行研究の水準を知ることが目標である。				
授業の進め方 (履修条件など)	卒業論文執筆に向けて、卒論の書き方をレクチャーする。また、研究論文を輪読する。				
成績評価方法 基準	平常点で評価する。毎回の授業での発言・報告 (30%)、レポート作成 (70%) によって判定する。				
授業の予習・復習	予習：テキストを読んでおくこと 復習：発表の準備を行う				
教科書	特に使用しない。論文などはコピーを配布する。				
参考文献	各自の卒論テーマに応じて指摘する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、卒論テーマ			
第 2 回	卒論の書き方①	研究とは？			
第 3 回	卒論の書き方②	調査方法			
第 4 回	卒論の書き方③	卒論の構成 (序論・本論・結論) と形式 (註、図表、参考文献)			
第 5 回	各自の卒論構成の検討	各自の卒論構成を作成			
第 6 回	研究論文を読む①	先行研究の論文を読んでもみる。			
第 7 回	研究論文を読む②	先行研究の論文を読んでもみる。			
第 8 回	研究論文を読む③	先行研究の論文を読んでもみる。			
第 9 回	卒論を書いてみる①	個別指導			
第 10 回	卒論を書いてみる②	個別指導			
第 11 回	卒論を書いてみる③	個別指導			
第 12 回	卒論を書いてみる④	個別指導			
第 13 回	卒論を書いてみる⑤	個別指導			
第 14 回	卒論を書いてみる⑥	個別指導			
第 15 回	まとめ	卒論準備報告の提出			

# 経済

授業番号	B200740014		
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	和田 良子 (Ryoko Wada)	対象学年	4
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	企業のプロジェクト評価や、企業経営に財務活動がどのように影響するのか、リスクの分散とはどのようなことなのか、などをテキストと現実のデータを用いながら理解していきます。		
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを輪読して PPT で報告してもらいます。報告者に決まったら、報告の少なくとも 2 週間前には準備を始め、わからないところは研究室で徹底的に理解します。PPT のビジュアルにもこだわり、美しくわかりやすいプレゼンテーションしてもらいます。 聞いている人は、その内容についていけるよう、ゼミの間だけは緊張感を持って出席してもらいます。あてられた人は即座に質問に回答しなければなりません。このような訓練を繰り返して、最終的に就職活動でも行うようなプレゼンができるようになることが到達目標です。		
成績評価方法	出席しているときの受け答えや、プレゼンテーションの内容で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	プレゼンテーションの準備が予習であり、ゼミで勉強したことを現実に活かして就職活動に役立てるのが復習となります。		
教科書	グロービス社「新版：MBA ファイナンス」		
参考文献	ゼミの中で適宜伝えます。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	イントロダクション：自己紹介	就職の面接のつもりで自己紹介してもらいます。 今まで力を入れてきたこと、自分が得意なことをアピールします。	
第 2 回	自己紹介とゼミでの役割の決定	ゼミでの役割の決定をします。ゼミ代表、副ゼミ代表を決め、連絡網を作ります。自分のことを客観的に伝えられるよう、皆の前で PPT を用いて自己紹介します。	
第 3 回	ファイナンスの基本－1 事業の収益性	事業の収益性を評価するさまざまな考え方を学びます。	
第 4 回	ファイナンスの基本－2 キャッシュフロー	キャッシュフローとは何か、その概念と企業の経営の在り方を学びます	
第 5 回	ファイナンスの基本－3 現在価値	将来の CF を現在価値に割り引き、比較することを理解します	
第 6 回	ファイナンスの基本－4 リスク	リスクの定義、ポートフォリオによるリスクの分散を学びます	
第 7 回	ファイナンスの基本－5 CAPM	ポートフォリオの管理とリスクの軽減方法を学びます。ベータ、CAPM を学びます。	
第 8 回	効率的市場仮説	効率的市場仮説について学びます	
第 9 回	資本コスト 1	資本コスト EBIT を学びます。それが負債コストと株式コストからできていること、負債比率を増やせば税金の支払いが小さくすむことなどを学びます	
第 10 回	資本コスト 2	現実の企業のなかから、ソフトバンクと NTT ドコモを用いて、その財務の大きな違いとそれがもたらす事業の収益性について学びます。	
第 11 回	バリエーション	NPV と EPV の違いについて学びます	
第 12 回	復習と発表の補足	今までの授業の中で報告が遅くなった人の分をここで行います	
第 13 回	就職活動に向けた取組	後期にはじまる就職活動の前に、企業の概要・沿革・決算短信からその性質を比較する方法を学び、知らない企業について知識を得る方法を学びます。	
第 14 回	ゼミで学んだことのまとめ	毎時間どんな新しい発見があったかについて、ファイナンスの基礎について話題を再度ピックアップつつ、全体の流れを理解します。	
第 15 回	後期に向けての準備	後期に向けて、ファイナンスの基礎を自分なりに噛み砕いた表現で解説できるようにします。	

経済

授業番号	B200740016				
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	星 真実 (Masami Hoshi)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	2年・3年次の実態調査をもとに、卒業論文を完成させる。				
授業の進め方 (履修条件など)	執筆内容についての添削を中心に指導する。				
成績評価方法	卒業論文の内容によって評価する。				
基準					
授業の予習・復習	12,000字目指して先ずは書き進めること。				
教科書	特に使用しない。				
参考文献	卒業論文の内容に応じて随時紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	卒業論文作成を中心とするゼミの進め方			
第2回	卒業論文作成 1	卒論の章立てについて			
第3回	卒業論文作成 2	卒論の概要発表 (1班)			
第4回	卒業論文作成 3	卒論の概要発表 (2班)			
第5回	卒業論文作成 4	卒論の概要発表 (3班)			
第6回	卒業論文作成 5	卒論の概要発表 (4班)			
第7回	卒業論文作成 6	卒論のタイトル仮決定			
第8回	卒業論文作成 7	卒論の章立て発表 (1班)			
第9回	卒業論文作成 8	卒論の章立て発表 (2班)			
第10回	卒業論文作成 9	卒論の章立て発表 (3班)			
第11回	卒業論文作成 10	卒論の章立て発表 (4班)			
第12回	卒業論文作成 11	内容についてのディスカッション (1班)			
第13回	卒業論文作成 12	内容についてのディスカッション (2班)			
第14回	卒業論文作成 13	内容についてのディスカッション (3班)			
第15回	卒業論文作成 14	内容についてのディスカッション (4班)			

# 経済

授業番号	B200740019		
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	4
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>「戦後日本の経済発展と構造変化」をテーマとして、日本経済を景気循環および経済成長の過程に注目して捉え、戦後の日本経済の展開と政府や企業、家計が今日直面している諸問題を考える。</p> <p>また、並行して卒業後の就職および進路について考えてもらう。</p>		
授業の進め方 (履修条件など)	<p>前年の専門演習の受講者を対象に、3年次において日本経済の構造変化に関する共通の文献を講読することで上記の問題を中心に一通りの知識を確認してきたものを基礎として、卒業論文における自身の研究テーマを見つけ出し、論文執筆の準備とする。</p>		
成績評価方法	卒業論文、レポートおよびその他の課題、学修の取組みの状況を考慮して評価する。		
基準			
授業の予習・復習	<p>予習：発表担当者にはレジュメ作成などの準備が、それ以外のメンバーには当該箇所に関する十分な予習が求められる。</p> <p>復習：毎回の内容を自分の卒業論文のテーマ選びに結びつけ、計画をたてる参考とする。</p>		
教科書	マクロ経済学の観点から日本経済を捉えた専門書、論文集を引き続き使用する。		
参考文献	各回の論題にあわせて適宜紹介する他、卒論と結び付けられるよう研究テーマに応じて個別に紹介する。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	はじめに (1)	春休みの課題提出、コメント、卒論の計画書に向けて (1)	
第2回	はじめに (2)	春休みの課題提出、コメント、卒論の計画書に向けて (2)	
第3回	はじめに (3)	春休みの課題提出、コメント、卒論の計画書に向けて (3)	
第4回	文献講読および卒論計画 (1)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第5回	文献講読および卒論計画 (2)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第6回	文献講読および卒論計画 (3)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第7回	文献講読および卒論計画 (4)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第8回	文献講読および卒論計画 (5)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第9回	文献講読および卒論計画 (6)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第10回	文献講読および卒論計画 (7)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第11回	文献講読および卒論計画 (8)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第12回	文献講読および卒論計画 (9)	発表とコメント、必要に応じて関連分野の解説	
第13回	詳細な卒論計画書について (1)	夏休みに必要な作業	
第14回	詳細な卒論計画書について (2)	課題の提示と指示	
第15回	詳細な卒論計画書について (3)	前期のまとめ	

経済

授業番号	B200740022		
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	金子 林太郎 (Rintarou Kaneko)	対象学年	4
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	各自が設定したテーマをもとに卒業論文を書き上げることが最大の目標である。問題意識を明確にして常に意識し、調べたことを整理してまとめるという知的作業に励んでもらう。前期末までにテーマを固め、章立てができることを目標とする (構想メモを提出してもらう)。		
授業の進め方 (履修条件など)	前半は全員出席で卒論作成方法 (テーマ設定、構成の仕方、文献の調べ方等) を解説する。後半 (6月以降) は個別に卒論作成を進めてもらう。順番を決めて月に 1 回程度進捗状況を報告してもらい、必要な指導を行う。		
成績評価方法	全員出席の日と個人報告の日の参加態度 40%、卒論作成への取り組み方 30%、卒論構想メモの内容 30% で評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習: 個人報告の際は、草稿のほかにレジユメを用意すること。 復習: 指導された内容を踏まえ、適切に卒論の内容に反映させること。		
教科書	指定しない。		
参考文献	酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために』(共立出版) 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書)		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	ゼミのスケジュール (卒論指導の進め方) の説明	
第 2 回	卒論作成方法の解説 1	論文を書くということ、論文のパターンについて	
第 3 回	卒論作成方法の解説 2	テーマの設定方法 (問題の絞り方) について	
第 4 回	卒論作成方法の解説 3	資料収集、分析方法について	
第 5 回	卒論作成方法の解説 4	論文の構成の仕方 (章立て、節割りなど) について	
第 6 回	卒論作成方法の解説 5	分かりやすい文章の書き方について	
第 7 回	卒論作成方法の解説 6	執筆上の注意 (卒論の体裁、わかりやすい文章の書き方)	
第 8 回	個別指導 1	ワークシートまたはレジユメに沿って卒論の構想報告 (2 人程度)	
第 9 回	個別指導 2	ワークシートまたはレジユメに沿って卒論の構想報告 (2 人程度)	
第 10 回	個別指導 3	ワークシートまたはレジユメに沿って卒論の構想報告 (2 人程度)	
第 11 回	進捗状況の確認 1	全員出席して進捗状況の報告	
第 12 回	個別指導 4	ワークシートまたはレジユメに沿って卒論の構想報告 (2 人程度)	
第 13 回	個別指導 5	ワークシートまたはレジユメに沿って卒論の構想報告 (2 人程度)	
第 14 回	個別指導 6	ワークシートまたはレジユメに沿って卒論の構想報告 (2 人程度)	
第 15 回	進捗状況の確認 2	全員出席して卒業論文のテーマ・問題意識・構想 (章立て案) の発表会	

経済

授業番号	B200740025		
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	4
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	専門演習における取り組みの延長として、卒業論文の完成度を高めます。		
授業の進め方 (履修条件など)	就職活動の状況に十分配慮し、卒業論文の作成に専念します。個別の相談が中心となります。		
成績評価方法	授業への取り組み姿勢。		
基準			
授業の予習・復習	自分の課題に主体的に取り組んでください。		
教科書	教科書は指定しません。		
参考文献	各自研究テーマが異なるので、個別に紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	卒業論文の作成 20	進捗状況の確認、内容について質疑応答 20	
第 2 回	卒業論文の作成 21	進捗状況の確認、内容について質疑応答 21	
第 3 回	卒業論文の作成 22	進捗状況の確認、内容について質疑応答 22	
第 4 回	卒業論文の作成 23	進捗状況の確認、内容について質疑応答 23	
第 5 回	卒業論文の作成 24	進捗状況の確認、内容について質疑応答 24	
第 6 回	卒業論文の作成 25	進捗状況の確認、内容について質疑応答 25	
第 7 回	卒業論文の作成 26	進捗状況の確認、内容について質疑応答 26	
第 8 回	卒業論文の作成 27	進捗状況の確認、内容について質疑応答 27	
第 9 回	卒業論文の作成 28	進捗状況の確認、内容について質疑応答 28	
第 10 回	卒業論文の作成 29	進捗状況の確認、内容について質疑応答 29	
第 11 回	卒業論文の作成 30	進捗状況の確認、内容について質疑応答 30	
第 12 回	卒業論文の作成 31	進捗状況の確認、内容について質疑応答 31	
第 13 回	卒業論文の作成 32	進捗状況の確認、内容について質疑応答 32	
第 14 回	卒業論文の作成 33	進捗状況の確認、内容について質疑応答 33	
第 15 回	卒業論文の作成 34	進捗状況の確認、内容について質疑応答 34	

経済

授業番号	B200740026				
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	卒業演習 I では、各自の興味や問題意識から卒業論文のテーマを明確にし、必要なデータを収集・分析することを目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	前半は、卒業論文のテーマを確定し、論文の書き方について学ぶ。 後半は、各自のテーマに基づき必要なデータを収集し分析する。				
成績評価方法	卒業論文への取組み (進捗状況、内容)、授業態度で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：必要なデータの収集と報告時のレジュメを準備する。 復習：演習でのコメントを卒業論文の内容に反映させる。				
教科書	指定しない。				
参考文献	指定しない。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション&卒業論文のテーマ決定	ゼミの進め方について説明 グループ 1			
第 2 回	卒業論文のテーマ決定	グループ 2			
第 3 回	卒業論文のテーマ決定	グループ 3			
第 4 回	卒業論文のテーマ決定	グループ 4			
第 5 回	論文の書き方	問題意識とテーマの設定、データ収集と分析			
第 6 回	論文の書き方	参考論文の講読 (指定した配布論文を事前に読んでくること) と論文の書き方についての理解			
第 7 回	論文の書き方	卒業論文の構成			
第 8 回	データの収集と分析	グループ 1			
第 9 回	データの収集と分析	グループ 2			
第 10 回	データの収集と分析	グループ 3			
第 11 回	データの収集と分析	グループ 4			
第 12 回	データの収集と分析	グループ 1			
第 13 回	データの収集と分析	グループ 2			
第 14 回	データの収集と分析	グループ 3			
第 15 回	データの収集と分析	グループ 4			



# 経済

授業番号	B200740028		
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)		
担当者 (英語表記)	牧野 俊重 (Toshishige Makino)	対象学年	4
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深め、併せて経済・経営に関する知識を広める。		
授業の進め方 (履修条件など)	前年度の研究を続行しながら、併せて各人の選択したテーマについて卒業論文の作成指導を行う。卒業に必要な所定単位の修得、就職の決定、卒業論文の作成が本年度の最大の目標となる。		
成績評価方法	レポート、口頭発表、授業への参加態度、卒業論文等により評価する。		
基準			
授業の予習・復習	演習の時間において、為すべき予習・復習についてはその都度指示する。課題も与えるので、取り組まざるを得なくなるであろう。		
教科書	猿谷 要著 『物語アメリカの歴史』 (中公新書 820 円 + 税)		
参考文献	演習中、個別の研究テーマに応じて随時紹介する。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	演習の方針と進め方等について	
第 2 回	テキスト講読	前年に継続してテキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。	
第 3 回	テキスト講読	前年に継続してテキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。	
第 4 回	テキスト講読	前年に継続してテキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。	
第 5 回	テキスト講読	前年に継続してテキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。	
第 6 回	就職対策	就職活動指導	
第 7 回	就職対策	就職活動支援	
第 8 回	卒業論文の課題決定	全ゼミ生の作成必須である卒業論文の研究課題を資料・文献等を基にして早い時期に決定させる。これは個別指導となるために数回に及ぶ。	
第 9 回	卒業論文の課題決定	全ゼミ生の作成必須である卒業論文の研究課題を資料・文献等を基にして早い時期に決定させる。これは個別指導となるために数回に及ぶ。	
第 10 回	卒業論文の課題決定	全ゼミ生の作成必須である卒業論文の研究課題を資料・文献等を基にして早い時期に決定させる。これは個別指導となるために数回に及ぶ。	
第 11 回	卒業論文の課題決定	全ゼミ生の作成必須である卒業論文の研究課題を資料・文献等を基にして早い時期に決定させる。これは個別指導となるために数回に及ぶ。	
第 12 回	テキスト講読	前年に継続してテキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。	
第 13 回	テキスト講読	前年に継続してテキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。	
第 14 回	テキスト講読	この前期を以てテキストは読了する予定である。	
第 15 回	総まとめ	この期の演習を総括	

経済

授業番号	B200740029				
科目名 (英語表記)	卒業演習 I (Senior Seminar I)				
担当者 (英語表記)	岸本 太一 (Taichi Kishimoto)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	卒業論文を作成するための研究を行います。 論文のテーマを確定し、執筆のための材料を創りあげることが、到達目標です。				
授業の進め方 (履修条件など)	各自、2週間に1回のペースで、調査や分析した内容を、レジュメにまとめてきてもらいます。 講義では、レジュメを基に、発表してもらいます。 そして、発表を基に受講者全員でディスカッションし、研究を進めていきます。				
成績評価方法	提出するレジュメの質、および、ゼミにおける発言によって総合的に判断します。				
基準	無断欠席した場合、単位を与えません。				
授業の予習・復習	予習：毎回受講者に必ず何らかの課題を課します。その課題を行ってきて下さい。 復習：適時、ゼミにおけるディスカッションおよび配布資料を振り返って下さい。				
教科書	特定の教科書を使用しません。				
参考文献	ゼミにて適時紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	今後のゼミの見取り図など			
第2回	卒業論文指導 (1)	テーマの探索と決定 (1)			
第3回	卒業論文指導 (2)	テーマの探索と決定 (2)			
第4回	卒業論文指導 (3)	テーマの探索と決定 (3)			
第5回	卒業論文指導 (4)	テーマの探索と決定 (4)			
第6回	卒業論文指導 (5)	テーマの探索と決定 (5)			
第7回	卒業論文指導 (6)	テーマの探索と決定 (6)			
第8回	卒業論文指導 (7)	調査と分析の報告および個人別指導 (1)			
第9回	卒業論文指導 (8)	調査と分析の報告および個人別指導 (2)			
第10回	卒業論文指導 (9)	調査と分析の報告および個人別指導 (3)			
第11回	卒業論文指導 (10)	調査と分析の報告および個人別指導 (4)			
第12回	卒業論文指導 (11)	調査と分析の報告および個人別指導 (5)			
第13回	卒業論文指導 (12)	調査と分析の報告および個人別指導 (6)			
第14回	卒業論文指導 (13)	夏休みの調査計画報告 (1)			
第15回	卒業論文指導 (14)	夏休みの調査計画報告 (2)			

経済

授業番号	B200750005				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	野口 明宏 (Akihiro Noguchi)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	卒業論文の完成に向けて、最終段階の指導を行います。 個別指導を基本にして、ゼミ生の作業過程に応じて、きめ細かく対応いたします。				
授業の進め方 (履修条件など)	書きかけの文書を点検し、より分かりやすい文になるよう、アドバイスしながら、授業を進めていきます。				
成績評価方法 基準	卒業論文作成への取組み方が、意欲的であったか否かにもとづいて、評価いたします。				
授業の予習・復習	指摘された問題点を修正して、授業に臨むようにしてください。 一行でも先に文書を書き進められるように、地道な努力を続けてください。				
教科書	使用しません。				
参考文献	ゼミ生各人のテーマに関する参考文献は、その都度紹介いたします。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	後期のガイダンス	卒業論文を何としても完成させる			
第 2 回	文書のまとめ方の確認	よりよい文になるよう修正をくり返す、 きめ細かい推敲の継続			
第 3 回	文献活用方法の確認	アンダーライン、付箋、 メモのとり方など			
第 4 回	参考文献の読み込み	他人の文書を読みながら、 自分の方向性を模索する			
第 5 回	HP の有効活用	活用できる HP はお気に入り 登録しておき、随時参照する			
第 6 回	個別指導 1	書いた範囲の文書指導			
第 7 回	個別指導 2	書いた範囲の文書指導			
第 8 回	個別指導 3	書いた範囲の文書指導			
第 9 回	個別指導 4	書いた範囲の文書指導			
第 10 回	中間講評—書き方のアドバイス	書き方の問題点を指摘			
第 11 回	個別指導 5	書いた範囲の文書指導			
第 12 回	個別指導 6	書いた範囲の文書指導			
第 13 回	個別指導 7	書いた範囲の文書指導			
第 14 回	個別指導 8	書いた範囲の文書指導			
第 15 回	後期の講評	卒業論文提出に向けて 最終確認			

# 経済

授業番号	B200750006				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	加茂川 益郎 (Masuro Kamogawa)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	現代日本経済の研究、テキストの終了。卒論の完成。				
授業の進め方 (履修条件など)	ゼミ生のテキスト理解を深めさせ、日本の経済と経営の将来を考えさせる。卒論の中間発表をおこなわせて指導する。				
成績評価方法	参加態度、発表、卒論によっておこなう。				
基準					
授業の予習・復習	テキストを予習して内容理解に努める。ゼミでの指導を復習し整理しておくこと。				
教科書	橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齊藤直『現代日本経済』有斐閣				
参考文献	経済雑誌。新聞の経済記事。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	卒論指導	卒論の進捗状況確認、指導			
第 2 回	情報化のインパクトと組織革新	流通業の変化と通信インターネット事業の成長 企業組織の改革			
第 3 回	規制緩和の進展と企業制度改革	規制緩和と行政改革、金融システムの再編成、 金融制度改革、企業制度改革			
第 4 回	日本型企業システムの転換点	変容する日本型企業システム、メインバンク関係の後退、株式相互持合いの解体、雇用システムの修正、内部投資機構の改革、日本型企業システムの多様化			
第 5 回	終章 リーマンショックと危機後の日本経済	リーマンショックのインパクト、経済危機への対応、世界経済の構造変化と中国の大国化、山積する国内経済の課題、危機後の日本企業システムの再検討			
第 6 回	日本経済研究 I	日本の経済力、推移と国際比較			
第 7 回	日本経済研究 II	日本財政の問題点			
第 8 回	日本経済研究 III	社会保障の諸問題と展望			
第 9 回	日本経済研究 IV	産業構造と雇用問題			
第 10 回	日本経済研究 V	世界経済と日本経済。卒論発表			
第 11 回	卒論指導 I	卒論発表			
第 12 回	卒論指導 II	卒論発表			
第 13 回	卒論指導 IV	卒論発表			
第 14 回	卒論指導 V	卒論提出確認			
第 15 回	ゼミまとめ	日本経済の進路、卒論提出確認			

# 経済

授業番号	B200750007				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済政策の理論として、マクロ経済学を習得し、その後現実の政策課題 (不良債権処理、バブル崩壊以降のデフレ経済からの脱却、財政赤字の問題、年金や医療など社会保障制度改革など) について研究することを目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを輪読しながら、経済政策の理論と具体的問題について研究する。後期は卒論作成の指導を併せておこなう。卒論のテーマについては柔軟に対応するつもりであるが、経済政策に関連するテーマを選択することを望む。				
成績評価方法	レポート及びその他の課題 (60%) ・授業中の発表・コメントなどの評価 (40%)				
基準					
授業の予習・復習	予習:ゼミの授業はテキスト並びに配布プリントをある程度理解した上で、質疑応答、討論という形で進めていくため、予習していなければ学習効果は期待できない。 復習:ゼミの時間は自分の研究を進めていくためのものであるから、自宅学習の時間を十分取り、早い段階で自分の研究テーマを見つけることが必要である。				
教科書	『スティグリッツ マクロ経済学 (第3版)』東洋経済新報社、スティグリッツ、C.E. ウォルシュ著				
参考文献	『スティグリッツ 入門経済学』(第3版) 東洋経済新報社、J.E. スティグリッツ、C.E. ウォルシュ、藪下 史郎、秋山 太郎				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	貨幣と銀行システム 2(1)	貨幣と信用			
第2回	貨幣と銀行システム 2(2)	マネーサプライと信用創造			
第3回	貨幣と銀行システム 2(3)	中央銀行の役割とフェデラル・ファンド・マーケット (コール市場)			
第4回	金融政策の手段 (1)	準備率操作: 準備金の需要と供給			
第5回	金融政策の手段 (2)	公開市場操作と公定歩合の変更			
第6回	金融政策の手段 (3)	金融政策の操作方法			
第7回	金融政策の手段 (4)	バブル崩壊後の日本の金融システムの破綻と不良債権問題			
第8回	金融政策の手段 (5)	練習問題による演習			
第9回	財政と開放経済 (1)	政府・海外部門の導入と資本市場			
第10回	財政と開放経済 (2)	開放経済における貯蓄・投資恒等式の導出			
第11回	財政と開放経済 (3)	財政赤字の世代間負担をめぐる議論			
第12回	財政と開放経済 (4)	小国開放経済における財政赤字の影響			
第13回	財政と開放経済 (5)	基本的な貿易の恒等式			
第14回	財政と開放経済 (6)	為替レートと貿易収支			
第15回	全体のまとめ	レポート作成			

経済

授業番号	B200750008		
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	森谷 英樹 (Hideki Moriya)	対象学年	4
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	できるだけケーススタディを中心にしながら企業経営と収益動向に興味をもってもらえるようにしたい。テキストはマーケティングを取りあげる。企業は市場において厳しい競争に直面している。身近な企業の経営戦略について、考えることを通して就職活動を支援する。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義を通じて人の話を理解して、要点をメモすることが大切である。就職にあたって社会人として何が重要なのか言及する。卒論のテーマを早期に決定してそれをまとめることを期待している。新聞記事、雑誌、ネット、ビデオなどを教材に活用してみたい。		
成績評価方法	出席 40%、その他 60%		
基準			
授業の予習・復習	.		
教科書	使用しない		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	既存研究集め	①問題発見	
第 2 回	既存研究集め	②問題発見	
第 3 回	既存研究集め	③問題発見	
第 4 回	既存研究集め	④問題発見	
第 5 回	データ・資料集め	①仮説と検討	
第 6 回	データ・資料集め	②仮説と検討	
第 7 回	データ・資料集め	③仮説と検討	
第 8 回	データ・資料集め	④仮説と検討	
第 9 回	中間稿報告	①データのとりまとめ	
第 10 回	中間稿報告	②データのとりまとめ	
第 11 回	中間稿報告	③データのとりまとめ	
第 12 回	中間稿報告	④データのとりまとめ	
第 13 回	個別報告	①最終調整	
第 14 回	個別報告	②最終調整	
第 15 回	個別報告	③最終調整	

経済

授業番号	B200750009				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	青木 英一 (Hidekazu Aoki)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	専門演習 I・II で学んだ手法を使って、各自が定めたテーマを基に、資料・文献収集や調査を通して、課題解決に至れるよう指導していきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	夏休み中に調査した内容をまとめて発表し、指摘された問題を解決するためにさらに補充調査を行って発表内容の質を高めていくようにします。				
成績評価方法	レジュメを含む発表内容 (60%) と平常点 (40%、他の発表者への質問等) から評価します。				
基準					
授業の予習・復習	発表には十分な準備を行うとともに、発表後は指摘された問題にしっかり対応すること。				
教科書	使用しません				
参考文献	一人一人異なるので個別に紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	後期のゼミの進め方			
第 2 回	調査結果の報告 (1)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (1～3)			
第 3 回	調査結果の報告 (2)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (4～6)			
第 4 回	調査結果の報告 (3)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (7～9)			
第 5 回	調査結果の報告 (4)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (10～11)			
第 6 回	論文構成と目次	論文の構成の仕方について説明			
第 7 回	論文構成の報告 (1)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (1～3)			
第 8 回	論文構成の報告 (2)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (4～6)			
第 9 回	論文構成の報告 (3)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (7～9)			
第 10 回	論文構成の報告 (4)	各自がレジュメをもとに発表・討論する (10～11)			
第 11 回	論文の執筆について (1)	はしがきやむすびの書き方、図表の使い方について			
第 12 回	論文の執筆について (2)	本文の論の進め方について			
第 13 回	論文の執筆について (3)	下書きの添削指導 (1～6)			
第 14 回	論文の執筆について (4)	下書きの添削指導 (7～11)			
第 15 回	後期の講評	発表内容の評価			

経済

授業番号	B200750010				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	折原 裕 (Yutaka Orihara)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	一にも二にも卒業論文の準備につきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	3年次春休みに書いてもらう卒業論文準備報告書を、次第に拡充していくことで、卒業論文を完成に導きます。文献や資料の使い方、論理や表現の仕方、なども学びます。				
成績評価方法	平常点とレポートなど課題との総合評価によります。				
基準					
授業の予習・復習	進行状況次第で、予習、復習ともに必要になるでしょう。				
教科書	指定しません。				
参考文献	指定しません。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	レポートの検討	学生レポートの検討 A 君			
第 2 回	レポートの検討	学生レポートの検討 B 君			
第 3 回	レポートの検討	学生レポートの検討 C 君			
第 4 回	レポートの検討	学生レポートの検討 D 君			
第 5 回	レポートの検討	学生レポートの検討 E 君			
第 6 回	レポートの検討	学生レポートの検討 F 君			
第 7 回	レポートの検討	学生レポートの検討 G 君			
第 8 回	レポートの検討	学生レポートの検討 H 君			
第 9 回	レポートの検討	学生レポートの検討 I 君			
第 10 回	レポートの検討	学生レポートの検討 J 君			
第 11 回	レポートの検討	学生レポートの検討 K 君			
第 12 回	レポートの検討	学生レポートの検討 L 君			
第 13 回	レポートの検討	学生レポートの検討 M 君			
第 14 回	レポートの検討	学生レポートの検討 N 君			
第 15 回	レポートの検討	学生レポートの検討 O 君			



経済

授業番号	B200750011		
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	飯野 由美子 (Yumiko Iino)	対象学年	4
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	将来ビジネス文書作成に応用出来るような卒論作成の手法を工夫しながら、4年制大学レベルの卒論完成を目指します。同時に、就職活動にも全力を尽くして下さい。		
授業の進め方 (履修条件など)	就職活動とのバランスを調整しながらのゼミ進行になると思います。前期は、ゼミでは進行状況を報告して頂き、学生相互評価、教員によるアドバイスを行います。ゼミ外では連絡を取り合いながら卒論完成と就職活動のお手伝い、後期はゼミでの卒論報告と学生相互評価、教員による評価、卒論草稿の修正作業で忙しくなります。秋からはアルバイトを極力入れず、卒論の時間を取って下さい。		
成績評価方法	レポート及びその他の課題 (90%)・授業中のパフォーマンス (10%)		
基準			
授業の予習・復習	個人のスケジュールに沿って作業を進めるようになります。ゼミでの各作業の締切も設けますので、遅れ遅れにならぬよう自宅での作業が必須になります。		
教科書	指定しません		
参考文献	それぞれがインターネット等駆使して参考文献を見つけて下さい。授業ではそれをお手伝いします。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	卒論計画書チェック	夏休みの卒論進行を振り返り、後期の計画書をチェックする	
第 2 回	卒論報告 1	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告します (1)	
第 3 回	卒論報告 2	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告します (2)	
第 4 回	卒論報告 3	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告します (3)	
第 5 回	卒論報告 4	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告します (4)	
第 6 回	卒論作成作業 1	これまでの相互評価・教員コメントを踏まえ、実際に卒論を修正し、教員がチェックします。(1)	
第 7 回	卒論作成作業 2	これまでの相互評価・教員コメントを踏まえ、実際に卒論を修正し、教員がチェックします。(2)	
第 8 回	卒論報告 1	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告します (1)	
第 9 回	卒論報告 2	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告します (2)	
第 10 回	卒論報告 3	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告します (3)	
第 11 回	卒論報告 4	ゼミ生の 1/4 が卒論内容について報告します (4)	
第 12 回	卒論仕上げ作業 1	卒論の構成や個々の事例、脚注、図表等をチェックし、仕上げていきます。(1)	
第 13 回	卒論仕上げ作業 2	卒論の構成や個々の事例、脚注、図表等をチェックし、仕上げていきます。(2)	
第 14 回	卒論仕上げ作業 3	卒論の構成や個々の事例、脚注、図表等をチェックし、仕上げていきます。(3)	
第 15 回	卒論仕上げ作業 4	要旨を作成します。	

経済

授業番号	B200750012				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	卒業論文執筆のための指導を行う。より完成度の高い卒業論文が作成することが目標である。				
授業の進め方 (履修条件など)	各自 PC で作成し、机間巡視しながら個別指導を行う。				
成績評価方法	平常点で評価する。毎回の授業での取り組み方 (30%)、卒業論文の完成度 (70%) で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：各自で卒論を執筆し、授業で個別指導を受ける準備をすること。 復習：指摘された問題点などを踏まえて、卒論に加筆修正を加えること。				
教科書	特に使用しない。				
参考文献	各自の卒論テーマごとに指摘する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、卒論準備報告を添削して返却する。			
第 2 回	卒論執筆①	個別指導			
第 3 回	卒論執筆②	個別指導			
第 4 回	卒論執筆③	個別指導			
第 5 回	卒論執筆④	個別指導			
第 6 回	卒論執筆⑤	個別指導			
第 7 回	中間報告	執筆出来ているところまでを中間報告			
第 8 回	卒論執筆⑥	個別指導			
第 9 回	卒論執筆⑦	個別指導			
第 10 回	卒論執筆⑧	個別指導			
第 11 回	卒論執筆⑨	個別指導			
第 12 回	卒論執筆⑩	個別指導			
第 13 回	卒論提出	卒論を完成させ提出する。			
第 14 回	卒論口頭試問	各自の卒論について口頭試問を行う			
第 15 回	卒論講評会	全員の卒論の講評ならびに優秀作を表彰			

経済

授業番号	B200750014				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	和田 良子 (Ryoko Wada)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	卒業論文を完成させることです。学士の名にはじない、自分の力で収集したデータを用いてストーリーを作り、得られた仮説を検証するためにまた客観的なデータを探します。そのようなことを繰り返して分析する力をつけます				
授業の進め方 (履修条件など)	個別指導になります。				
成績評価方法	完成した卒業論文の完成度、完成までの道のり、速さ、オリジナリティ、文章などによって評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習は、前の週に指導されたことをきちんとこなすことになります				
教科書	ありません				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	個別指導 データによる現状認識とストーリーの作成	企業情報から集めたデータを用いて、現状を分析します。収益力分析で、マクロデータやセグメント情報にブレイクダウンしていきます。			
第 2 回	マクロ分析とセグメント分析	マクロデータの収集を日銀や財務省統計、などで行います、セグメント分析は、適宜必要に応じて行い、マーケットがどこかなどを調べ、利益に直結する為替を分析します			
第 3 回	マクロ分析とセグメント分析	前回と同じ内容を、5人程度にまで指導します。			
第 4 回	セグメント分析の詳細	企業がどの分野で収益を上げているのか、どこが赤字なのか、どのマーケットで強いのか、などを見ていきます。			
第 5 回	セグメント分析の詳細	前回と同じ内容を、5人程度にまで指導します。			
第 6 回	財務力分析	財務構成を調べ、それが経営にどう影響しているかを分析します			
第 7 回	財務力分析	前回と同じ内容を5人程度にまで指導します			
第 8 回	CF 分析	投資のCFを中心に、投資を行っているかどうかを分析します。それと、新製品などの開発や店舗拡大の関係を調べます			
第 9 回	CF 分析	前回と同じ内容を5人程度に指導します			
第 10 回	配当政策	企業の配当政策と株価の安定性を調べます。			
第 11 回	配当政策	企業の配当政策と株価の安定性を調べたり、株主対策を調べます。追加的な5人に対して指導します			
第 12 回	結論を導く	客観的な分析に基づいた結論をまとめます。			
第 13 回	結論を導く	客観的な分析に基づいた結論をまとめます。最後に問題意識を上げます			
第 14 回	報告会	出来上がった論文を報告しあいます			
第 15 回	報告会	総括します			

経済

授業番号	B200750016				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	星 真実 (Masami Hoshi)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	前期に執筆した卒業論文を更に納得のいくまで仕上げていく。				
授業の進め方 (履修条件など)	卒業論文の添削を中心に指導を行う。				
成績評価方法	卒業論文の内容によって評価する。				
基準					
授業の予習・復習	前期に執筆した論文に推敲を重ねること。				
教科書	特に使用しない。				
参考文献	卒業論文の内容に応じて随時紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	前期内容のおさらい	前期に書き進めた内容についてのディスカッション			
第 2 回	卒業論文作成 15	卒論についての個別添削指導 (1 班)			
第 3 回	卒業論文作成 16	卒論についての個別添削指導 (2 班)			
第 4 回	卒業論文作成 17	卒論についての個別添削指導 (3 班)			
第 5 回	卒業論文作成 18	卒論についての個別添削指導 (4 班)			
第 6 回	卒業論文作成 19	卒論についての個別添削指導 (全体)			
第 7 回	卒業論文作成 20	卒論についての個別添削指導 (全体)			
第 8 回	卒業論文作成 21	まえがきとあとがきについて 1			
第 9 回	卒業論文作成 22	まえがきとあとがきについて 2			
第 10 回	卒業論文作成 23	卒論タイトルの本決定			
第 11 回	卒業論文作成 24	引用文献についての確認			
第 12 回	卒業論文作成 25	参考文献についての確認			
第 13 回	卒業論文作成 26	注釈についての確認			
第 14 回	卒業論文作成 27	卒論の完成			
第 15 回	卒業論文完成	卒論要旨の作成			

# 経済

授業番号	B200750019				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	「戦後日本の経済発展と構造変化」をテーマとして、日本経済を景気循環および経済成長の過程に注目して捉え、戦後の日本経済の展開と政府や企業、家計が今日直面している諸問題を考える。				
授業の進め方 (履修条件など)	前年および前期に学んだ文献のなかで提示された様々な論点を中心しつつ、受講者の関心に応じてそれ以外の日本経済や経済学に関する分野も含めたなかから自身の研究テーマを選択し、卒業論文の完成を目指す。				
成績評価方法 基準	卒業論文、レポートおよびその他の課題、授業参加態度の状況を考慮して評価する。卒業論文については、テーマ選びの妥当性、テーマと実際の執筆内容の一致性、研究のオリジナリティの程度、参考文献への依拠の充分性、論旨および文章の適切さなどの観点から、その完成度と努力の程度を評価する。				
授業の予習・復習	予習：自分の報告回にあわせて現時点での卒論執筆の途中経過をまとめ、準備をする。 復習：報告に対してコメントをするので、それを参考にして執筆方針と内容を再検討する。				
教科書	マクロ経済学の観点から日本経済を捉えた専門書、論文集を引き続き使用する。				
参考文献	各回の論題にあわせて適宜紹介する他、卒論と結び付けられるよう研究テーマに応じて個別に紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	はじめに	詳細な卒論計画書について			
第 2 回	卒論計画書へのコメントとリプライ (1)	卒論執筆の目標は定まったか			
第 3 回	卒論計画書へのコメントとリプライ (2)	卒論執筆の目標は定まったか			
第 4 回	卒業論文作成指導	全体および個々の受講者に対して並行して実施			
第 5 回	卒業論文作成指導	全体および個々の受講者に対して並行して実施			
第 6 回	卒業論文作成指導	全体および個々の受講者に対して並行して実施			
第 7 回	卒業論文作成指導	全体および個々の受講者に対して並行して実施			
第 8 回	卒業論文作成指導	全体および個々の受講者に対して並行して実施			
第 9 回	卒業論文作成指導	全体および個々の受講者に対して並行して実施			
第 10 回	卒業論文作成指導	全体および個々の受講者に対して並行して実施			
第 11 回	卒業論文作成指導	全体および個々の受講者に対して並行して実施			
第 12 回	卒業論文提出に向けて (1)	作成に関する注意事項			
第 13 回	卒業論文提出に向けて (2)	作成への最終まとめ			
第 14 回	卒業論文提出に向けて (3)	提出の際の注意事項			
第 15 回	全体の総括	卒業論文へのコメント			

経済

授業番号	B200750022		
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)		
担当者 (英語表記)	金子 林太郎 (Rintarou Kaneko)	対象学年	4
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	各自が設定したテーマをもとに卒業論文を書き上げることが最大の目標である。問題意識を明確にして常に意識し、調べたことを整理してまとめるという知的作業に励んでもらう。後期は、11月末までに草稿を最低1度見せること、12月末までに卒論を完成させること、1月のゼミで概要を発表することを到達目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	月に1回程度全員集合して進捗状況の確認・相互参照を行うほかは、毎週2人程度ずつ順番に個別指導を行う。ゼミの時間以外にも、可能な限り卒論指導に応じる。		
成績評価方法	全員出席の日と個人報告の日の参加態度 30%、卒論作成への取り組み方 30%、卒論の出来栄え 30%、卒論発表の出来栄え 10%で評価する。		
授業の予習・復習	予習：個人報告の際は、草稿のほかにレジュメを用意すること。 復習：指導された内容を踏まえ、適切に卒論の内容に反映させること。		
教科書	指定しない。		
参考文献	酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために』(共立出版) 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書)		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	後期のゼミのスケジュール (卒論指導の進め方) の説明	
第2回	進捗状況と課題の確認 1	全員出席して進捗状況と今後の課題の確認	
第3回	個別指導 1	構想メモ、レジュメ、草稿をもとに個別に執筆指導 (3人程度)	
第4回	個別指導 2	構想メモ、レジュメ、草稿をもとに個別に執筆指導 (3人程度)	
第5回	個別指導 3	構想メモ、レジュメ、草稿をもとに個別に執筆指導 (3人程度)	
第6回	進捗状況と課題の確認 2	全員出席して進捗状況と今後の課題の確認	
第7回	個別指導 4	構想メモ、レジュメ、草稿をもとに個別に執筆指導 (3人程度)	
第8回	個別指導 5	構想メモ、レジュメ、草稿をもとに個別に執筆指導 (3人程度)	
第9回	個別指導 6	構想メモ、レジュメ、草稿をもとに個別に執筆指導 (3人程度)	
第10回	進捗状況と課題の確認 3	全員出席して進捗状況と今後の課題の確認	
第11回	個別指導 7	構想メモ、レジュメ、草稿をもとに個別に執筆指導 (3人程度)	
第12回	個別指導 8	構想メモ、レジュメ、草稿をもとに個別に執筆指導 (3人程度)	
第13回	進捗状況と課題の確認 4	全員出席して進捗状況と今後の課題の確認、仕上げ	
第14回	卒業論文 (ゼミ内) 発表会の準備	卒業論文の概要をゼミ生全員の前で報告する準備 (スライド作り)	
第15回	卒業論文 (ゼミ内) 発表会	卒業論文の概要をゼミ生全員の前で報告 (プレゼンテーション)	

経済

授業番号	B200750025				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	添田 利光 (Toshimitsu Soeda)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	卒業演習 I における取り組みの延長として、卒業論文を完成させます。				
授業の進め方 (履修条件など)	卒業論文の評価を念頭に置いた報告会を開催します。ここで、最後の修正指導が入ります。				
成績評価方法	授業への取り組み姿勢 (60%)、報告などの成果 (40%)。				
基準					
授業の予習・復習	自分の課題に主体的に取り組んでください。				
教科書	教科書は指定しません。				
参考文献	各自研究テーマが異なるので、個別に紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	卒業論文報告会 1	進捗状況の確認、報告会の説明			
第 2 回	卒業論文報告会 2	一人につき 20 分間の報告と 20 分間の質疑応答 1			
第 3 回	卒業論文報告会 3	一人につき 20 分間の報告と 20 分間の質疑応答 2			
第 4 回	卒業論文報告会 4	一人につき 20 分間の報告と 20 分間の質疑応答 3			
第 5 回	卒業論文報告会 5	一人につき 20 分間の報告と 20 分間の質疑応答 4			
第 6 回	卒業論文報告会 6	一人につき 20 分間の報告と 20 分間の質疑応答 5			
第 7 回	卒業論文の完成 1	修正作業 1			
第 8 回	卒業論文の完成 2	修正作業 2			
第 9 回	卒業論文の完成 3	修正作業 3			
第 10 回	卒業論文の完成 4	修正作業 4			
第 11 回	卒業論文の完成 5	修正作業 5			
第 12 回	卒業論文の完成 6	修正作業 6			
第 13 回	卒業論文の完成 7	修正作業 7			
第 14 回	卒業論文の完成 8	修正作業 8			
第 15 回	まとめ	3 年間の成果や成長の検証			

経済

授業番号	B200750026				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	前期に決めたテーマに基づき卒業論文を書き上げることを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	前半は、卒業論文の執筆における注意点を学んだ上で論文の執筆に取り掛かります。 後半は、個別指導を交えながら卒業論文を完成させます。				
成績評価方法	卒業論文への取組み (進捗状況、内容) と授業態度で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：章立てに従って卒業論文を執筆する。 復習：指導内容を反映させながら卒業論文を書き上げる。				
教科書	指定しない。				
参考文献	指定しない。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション&論文の書き方	ゼミの進め方について説明 論文の書き方の復習			
第 2 回	論文執筆における注意点	参考文献・データの使い方、出所の明記と脚注の付け方			
第 3 回	中間報告 (全体)	卒業論文の進捗状況の報告			
第 4 回	個別指導	卒業論文の執筆指導			
第 5 回	個別指導	卒業論文の執筆指導			
第 6 回	中間報告 (全体)	卒業論文の進捗状況の確認			
第 7 回	個別指導	卒業論文の執筆指導			
第 8 回	個別指導	卒業論文の執筆指導			
第 9 回	中間報告 (全体)	卒業論文の進捗状況の確認			
第 10 回	個別指導	卒業論文の執筆指導			
第 11 回	個別指導	卒業論文の執筆指導			
第 12 回	中間報告 (全体)	卒業論文の進捗状況の確認			
第 13 回	個別指導	卒業論文の執筆指導			
第 14 回	個別指導	卒業論文の執筆指導			
第 15 回	評価	卒業論文の評価			



# 経済

授業番号	B200750028				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	牧野 俊重 (Toshishige Makino)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深め、併せて経済・経営に関する知識を広める。				
授業の進め方 (履修条件など)	前年度の研究を続行しながら、併せて各人の選択したテーマについて卒業論文の作成指導を行う。卒業に必要な所定単位の修得、就職の決定、卒業論文の作成が本年度の最大の目標となる。				
成績評価方法	レポート、口頭発表、授業への参加態度、卒業論文等により評価する。				
基準					
授業の予習・復習	演習の時間において、為すべき予習・復習についてはその都度指示する。課題も与えるので、取り組まざるを得なくなるであろう。				
教科書	猿谷 要著 『物語アメリカの歴史』 (中公新書 820円 + 税)				
参考文献	演習中、個別の研究テーマに応じて随時紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	演習の方針と進め方等について			
第2回	卒業論文の作成	卒業論文の作成指導を行い、完成に導く。			
第3回	卒業論文の作成	卒業論文の作成指導を行い、完成に導く。			
第4回	卒業論文の作成	卒業論文の作成指導を行い、完成に導く。			
第5回	世界・経済・経営・企業の時局研究・総合研究	卒業論文の作成と同時に、併せて行う。資料については、新聞・雑誌・文献等のコピーを配布して、討論も含めて行う。			
第6回	世界・経済・経営・企業の時局研究・総合研究	卒業論文の作成と同時に、併せて行う。資料については、新聞・雑誌・文献等のコピーを配布して、討論も含めて行う。			
第7回	世界・経済・経営・企業の時局研究・総合研究	卒業論文の作成と同時に、併せて行う。資料については、新聞・雑誌・文献等のコピーを配布して、討論も含めて行う。			
第8回	世界・経済・経営・企業の時局研究・総合研究	卒業論文の作成と同時に、併せて行う。資料については、新聞・雑誌・文献等のコピーを配布して、討論も含めて行う。			
第9回	世界・経済・経営・企業の時局研究・総合研究	卒業論文の作成と同時に、併せて行う。資料については、新聞・雑誌・文献等のコピーを配布して、討論も含めて行う。			
第10回	卒業論文のレジュメ発表	卒業論文のレジュメを発表させ、論文の完全化を図る。			
第11回	卒業論文のレジュメ発表	卒業論文のレジュメを発表させ、論文の完全化を図る。			
第12回	卒業論文のレジュメ発表	卒業論文のレジュメを発表させ、論文の完全化を図る。			
第13回	卒業論文のレジュメ発表	卒業論文のレジュメを発表させ、論文の完全化を図る。			
第14回	卒業論文の完成	卒業論文の完成へ。提出へ。			
第15回	総まとめ	演習の全般を総括			

経済

授業番号	B200750029				
科目名 (英語表記)	卒業演習 II (Senior Seminar II)				
担当者 (英語表記)	岸本 太一 (Taichi Kishimoto)	対象学年	4	単位数	1
授業のねらいと到達目標	卒業論文を作成するための研究を行います。 調査・分析を行った内容を基に、卒業論文を完成させることが到達目標です。				
授業の進め方 (履修条件など)	各自、2週間に1回のペースで、作成した内容を、レジュメおよび原稿にまとめてきてもらいます。 講義では、レジュメおよび原稿を基に、発表してもらいます。 そして、発表を基に受講者全員でディスカッションし、研究を進めていきます。				
成績評価方法 基準	提出するレジュメおよび原稿の質、および、ゼミにおける発言によって総合的に判断します。 無断欠席した場合、単位を与えません。				
授業の予習・復習	予習：毎回受講者に必ず何らかの課題を課します。その課題を行ってきて下さい。 復習：適時、ゼミにおけるディスカッションおよび配布資料を振り返って下さい。				
教科書	特定の教科書を使用しません。				
参考文献	ゼミにて随時紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	卒業論文指導 (15)	夏休みの作業結果の報告 (1)			
第2回	卒業論文指導 (16)	夏休みの作業結果の報告 (2)			
第3回	卒業論文指導 (17)	論文の章立ておよびアウトラインの報告 (1)			
第4回	卒業論文指導 (18)	論文の章立ておよびアウトラインの報告 (2)			
第5回	卒業論文指導 (19)	論文の章立ておよびアウトラインの報告 (3)			
第6回	卒業論文指導 (20)	論文の章立ておよびアウトラインの報告 (4)			
第7回	卒業論文指導 (21)	論文の詳細なアウトラインの報告 (1)			
第8回	卒業論文指導 (22)	論文の詳細なアウトラインの報告 (2)			
第9回	卒業論文指導 (23)	論文執筆の進捗状況報告 (1)			
第10回	卒業論文指導 (24)	論文執筆の進捗状況報告 (2)			
第11回	卒業論文指導 (25)	論文執筆の進捗状況報告 (3)			
第12回	卒業論文指導 (26)	論文執筆の進捗状況報告 (4)			
第13回	卒業論文指導 (27)	論文執筆の進捗状況報告 (5)			
第14回	卒業論文指導 (28)	論文執筆の進捗状況報告 (6)			
第15回	卒業論文指導 (29)	完成した論文を基にしたディスカッション			

# 経済

授業番号	B202590001				
科目名 (英語表記)	地域企業会計論 (Local business-accounting theory)				
担当者 (英語表記)	高橋 隆明 (Takaaki Takahashi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	地域の中堅企業の企業会計を念頭に置き、制度会計と会計理論の違いを明らかにしつつ財務諸表の表す意味・内容を理解する。				
授業の進め方 (履修条件など)	特に資産と負債の時価評価に着目し、社会問題でもある不良債権について発生の原因を探るとともに、解消方法も明らかにする。実務的な問題も具体的に取り上げることで、地域企業における会計を広く理解する。				
成績評価方法	定期試験 (10%)・授業内小テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (50%)				
基準					
授業の予習・復習	復習：授業内容を復習すれば足りる				
教科書	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。				
参考文献	必要に応じてコピーを配布する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	地域企業の概要	地域企業会計とは何か。経営成績・財政状態とは何か			
第2回	財務諸表の意味	財務諸表の種類と内容。P/L、B/Sの表す意味			
第3回	損益計算書 (総論)	経営成績について会計学の立場から理解する			
第4回	損益計算書 (各論)	収益・費用のとらえ方を会計学の立場から理解する			
第5回	貸借対照表 (総論)	財政状態について、会計学の立場から理解する			
第6回	貸借対照表 (各論)	資産と負債のとらえ方を理解する			
第7回	キャッシュフロー会計	キャッシュの動きに着目して財務諸表を理解する			
第8回	財務諸表の読み方	実際の財務諸表を理解する			
第9回	経営指標とビジネスプラン	経営指標の意味を理解するとともに、ビジネスプランを概観する			
第10回	資産・負債の時価価値	簿価と時価の違いを理解する			
第11回	信用リスクとは	地域企業における信用リスクとは何かを理解する			
第12回	不良債権の実態	不良債権の発生原因、解消方法を経済学の視点から明らかにする			
第13回	借入金過剰企業の問題	借入金過剰の地域企業の問題を経営学の視点から明らかにする			
第14回	経営破綻と企業倒産	経営が破綻する地域企業の問題を明らかにする			
第15回	まとめ	講義全体のまとめと試験 (レポート) 対策			

# 経済

授業番号	B202470001				
科目名 (英語表記)	地域企業マネジメント論 (Local company management theory)				
担当者 (英語表記)	三幣 利夫 (Toshio Sampei)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	国際ビジネスを展開する千葉県在の企業経営者から、経営戦略や実際の企業活動に関し直接話を伺い、県内の経済活動と国際ビジネスについての理解を深める。また、就職に向けてのキャリア教育も兼ねる。				
授業の進め方 (履修条件など)	企業経営者によるオムニバス形式の講義を中心に、企業訪問も行う。 これらを通じ学習したことを、レポートにまとめ、教室で発表し議論も行う。				
成績評価方法	企業ごとにレポートを必ず提出する。 また、授業における発表・議論を通じての参加度合を重視する。				
基準					
授業の予習・復習	予習： 経営者からの講義前に、各自で企業について調べ、質問も用意する。 復習： レポートを作成する。				
教科書	特になし。				
参考文献	特になし。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	講義の進め方の説明、千葉県経済の概要			
第2回	空港関連ビジネス (1)	経営者の講義 (成田国際空港)			
第3回	空港関連ビジネス (2)	空港見学			
第4回	空港関連ビジネス (3)	成田空港関連の事業活動についての復習			
第5回	空港関連ビジネス (4)	レポート発表			
第6回	千葉港関連ビジネス (1)	経営者の講義 (千葉共同サイロ)			
第7回	千葉港関連ビジネス (2)	企業見学			
第8回	千葉港関連ビジネス (3)	千葉港関連の事業活動についての復習			
第9回	千葉港関連ビジネス (4)	レポート発表			
第10回	物流関連ビジネス (1)	経営者の講義 (住商ロジスティクス)			
第11回	物流関連ビジネス (2)	物流施設見学			
第12回	物流関連ビジネス (3)	物流関連の事業活動についてのまとめ			
第13回	物流関連ビジネス (4)	レポート発表			
第14回	輸出関連ビジネス (1)	経営者の講義			
第15回	輸出関連ビジネス (2)	レポート発表			

# 経済

授業番号	B202540001		
科目名 (英語表記)	地域産業論 (Local-jobs theory)		
担当者 (英語表記)	青木 英一 (Hidekazu Aoki)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	地域で生まれた地域産業は地元との関係が密接ですが、他地域から進出してきた企業も地元と様々な関係を有しています。この講義では特に千葉県に重点を置きながら、地域の中で産業がどのように成立し、地域とどのような関係を有しているのか等について考えます。千葉県の産業について正しく理解できるようになることが目標です。		
授業の進め方 (履修条件など)	前半では、他県を事例にして地域と産業の関係や、地域産業の成立・発展について検討します。後半では、千葉県を事例に特に工業の成立や特徴について検討します。なお、千葉県庁の担当者による経済政策の説明が2回行われる予定です。		
成績評価方法	定期試験 (50%)、平常点 (50%、コメントカードの内容による) から評価します。		
基準			
授業の予習・復習	参考文献や新聞、ウェブ検索などで授業に出てくる地域の産業を調べておく。授業後は配布プリントやノート等で理解を深めること。		
教科書	使用しません。プリントを配布します。		
参考文献	伊藤正昭『地域産業論』学文社 青木英一・仁平耕一編『変貌する千葉経済 - 新しい可能性を求めて -』白桃書房		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、授業の受け方、参考文献解説	
第2回	地域産業を取り巻く環境	経済のグローバル化、政府の政策	
第3回	地域と産業の関係 (1)	三重県四日市市における大企業工場の進出	
第4回	地域と産業の関係 (2)	静岡県東伊豆町における観光産業	
第5回	地域産業のグローバル化	浜松市における楽器工業とオートバイ工業	
第6回	大都市における地場産業	名古屋市の仏壇産業	
第7回	地方における地場産業	高山市と旭川市の家具工業	
第8回	千葉県の産業概況	農業、水産業、工業の全国における位置づけ	
第9回	首都圏における千葉県の工業	東京都、神奈川県、埼玉県や北関東諸県と比較して見られる特色	
第10回	千葉県内の工業地域 (1)	京葉臨海地域の工業の特質	
第11回	千葉県内の工業地域 (2)	京葉内陸地域の工業の特質	
第12回	千葉県庁担当者による講義 (1)	千葉県の元気な地域・企業づくり	
第13回	千葉県庁担当者による講義 (2)	アクアラインや成田空港を活用した地域活性化戦略	
第14回	千葉県内の工業地域 (3)	房総東部地域の工業の特質	
第15回	まとめ	授業内容のまとめ	

# 経済

授業番号	B200550001				
科目名 (英語表記)	地域ボランティア活動 (Local activity volunteer)				
担当者 (英語表記)	松藤 和生 (Kazuki Matsufuji)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	ボランティア活動や社会貢献についての基礎的知識・原理原則並びに地域ボランティア活動の種類・活動方法を学び、一人ひとりの学生が、自己にあった地域ボランティア活動を見つけて、社会人・企業人としての心構えを学ぶ事を目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	ボランティア活動の基礎知識を講義により習得する。教員・福祉関係職を希望するものはもちろんだが、サービス職・営業職などを希望する学生でボランティア活動に興味がある学生は受講することが望ましい。				
成績評価方法	各自のボランティア活動の体験や将来の取組みについてレポートを期末に提出。定期試験は、教科書持込によるボランティア活動の基礎的知識の確認。定期試験 50%・レポート 50%で評価。				
授業の予習・復習	予習：特に予習は必要ない。 復習：授業の中で紹介されたボランティア活動で自身の興味のあるものについて、インターネット等を利用して調べる。				
教科書	『いちばんはじめのボランティア』(樹村房)				
参考文献	なし				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ボランティアの原理・原則	ボランティアとは何か?			
第 2 回	ボランティア活動の理念	ボランティアの基本と性格			
第 3 回	ボランティア活動の歴史	「ボランティア」の起源、ボランティア活動の歴史			
第 4 回	ボランティア活動の法と制度	NPO 法、ボランティア活動と助成団体、ボランティア保険			
第 5 回	ボランティア関係機関	社会福祉協議会、ボランティアセンター			
第 6 回	ボランティア活動の担い手	わが国のボランティア活動者の推移			
第 7 回	地域社会とボランティア活動	小地域の定義と地域ボランティア活動			
第 8 回	社会福祉施設とボランティア活動	社会福祉施設の種類と社会福祉施設でのボランティア活動			
第 9 回	福祉教育とボランティア活動	福祉教育としてのボランティア活動			
第 10 回	災害支援とボランティア活動	災害時のボランティア活動			
第 11 回	企業の地域貢献とボランティア活動	企業と地域の繋がり、日本企業の地域貢献活動			
第 12 回	ボランティア活動の新しい形	NPO 法、住民参加型有償サービス、地域通貨			
第 13 回	国際社会とボランティア	海外のボランティア活動、国際支援、NGO 活動			
第 14 回	ボランティアコーディネート	ボランティアコーディネーターの活動			
第 15 回	これからのボランティア活動	ボランティア論再考、ボランティア活動再考			

# 経済

授業番号	B201410001		
科目名 (英語表記)	知的財産権論 (Intellectual-property-rights theory)		
担当者 (英語表記)	森島 隆晴 (Takaharu Morishima)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	さまざまな知的財産の活用によって、現代社会の豊かさは支えられて一方で、企業の興亡を左右しています。授業のねらいは、知的財産の保護制度と知的財産の活用戦略について学ぶことです。その知識をもとに、企業の成功事例を理解・説明できることが到達目標です。		
授業の進め方 (履修条件など)	PowerPoint を用いた講義を聞いて配布資料の空欄にキーワード等をメモしてください。毎回、講義の後にグループディスカッションして小テストにまとめ、各々提出してもらいます。		
成績評価方法	期末試験 (60%)、小テスト (40%) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	授業内容、用語などを予習して講義に臨んでください。基本的概念や考え方、実例を説明できるように復習してください。		
教科書	教科書は使いません。代わりに毎回資料を配布します。		
参考文献	経済産業省特許庁監修 (2012) 『事業戦略と知的財産マネジメント』 独立行政法人工業所有権情報・研修館 入山章栄 (2012) 『世界の経営学者はいま何を考えているのか』 英治出版		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	イノベーションと知的財産	講義概要と進め方、イノベーションと社会的豊かさ	
第 2 回	知的財産とその保護	情報の複製可能性と知的財産、知的財産の保護	
第 3 回	知的財産権制度の概要	法制度の種類と概要、産業財産権	
第 4 回	知財マネジメントと企業経営	事業機会の拡大のための知財、事業リスクの回避のための知財	
第 5 回	標準化と知財マネジメント	産業構造と知財マネジメント、標準化のための知財マネジメント	
第 6 回	独占市場形成型ビジネスモデル	医薬品産業の知財マネジメント、素材型産業の知財マネジメント	
第 7 回	技術相互利用型ビジネスモデル	技術のライセンス利用、製品ライフサイクルと知財マネジメント	
第 8 回	基幹部品主導型ビジネスモデル	モジュラー型製品と国際斜形分業、インテル社のインサイドモデル	
第 9 回	完成品主導型ビジネスモデル	コンセプト主導型製品、アップル社のアウトサイドモデル	
第 10 回	垂直統合型ビジネスモデル	プリンタ事業の知財マネジメント、エレベータ事業の知財マネジメント	
第 11 回	サービス提供型ビジネスモデル	ソリューションビジネス、オペレーションビジネス	
第 12 回	ブランド形成の知財マネジメント	商標権とブランド、知的財産権ミックス	
第 13 回	ブランド活用の知財マネジメント	地域ブランド、部材ブランドと技術ブランド	
第 14 回	中小企業経営と知財マネジメント	中堅企業の知財マネジメント、零細企業の知財マネジメント	
第 15 回	まとめ	総括、ディスカッション、試験対策	

# 経済

授業番号	B201060001				
科目名 (英語表記)	地方財政論 I (Local-public-finance theory I)				
担当者 (英語表記)	金子 林太郎 (Rintarou Kaneko)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	私たちは生まれて (生まれる前) から死ぬ (死んだ後) まで、さまざまな公共サービスのお世話になる。その多くは、中央政府ではなく地方政府 (それも主に市町村) が提供している。本講義では、わが国の地方財政の現状と課題を、近年の地方分権 (地域主権) 改革の動きも意識しながら、紹介する。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回レジュメを配り、またスライドを示して解説しながら進める。話をよく聞き、重要と思うことをメモするのが望ましい。毎回出席を取り、KCN 上で復習テストを課す。小レポートを課すことがある。財政学を履修中または履修済みであることが望ましい。				
成績評価方法	KCN 上での復習テストと期末試験の成績を基本に、小レポートの成績、聴講態度を加味して評価する。				
基準					
授業の予習・復習	プリントやノートを整理し、KCN の復習テストに解答し、講義で聞いた内容を咀嚼すること。新聞等で地方財政に関するニュースをフォローすること。				
教科書	特定のテキストは使用しない。適宜プリントを配布する。				
参考文献	小坂紀一郎『一番やさしい自治体財政の本』学陽書房 持田信樹『地方財政論』東京大学出版会 伊東弘文『入門地方財政』ぎょうせい 総務省『地方財政白書』				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	この講義の概要、評価方法等の説明			
第 2 回	自治体財政への招待 1	自治体財政を知る意義、自治体の仕事の概観			
第 3 回	自治体財政への招待 2	自治体の種類、自治体間・国との役割分担			
第 4 回	自治体財政への招待 3	自治体財政 (歳入、歳出) の概要			
第 5 回	地方税 1	地方税の分類と体系、地方税原則			
第 6 回	地方税 2	住民税の現状と課題			
第 7 回	地方税 3	固定資産税の現状と課題			
第 8 回	地方税 4	事業税の現状と課題			
第 9 回	地方税 5	地方消費税の意義、現状と課題			
第 10 回	地方税 6	課税自主権活用の現状と課題			
第 11 回	政府間財政移転 1	地方交付税の意義と概要			
第 12 回	政府間財政移転 2	地方交付税の仕組み			
第 13 回	政府間財政移転 3	地方交付税の課題			
第 14 回	政府間財政移転 4	国庫支出金の意義、現状と課題			
第 15 回	まとめ	この講義のまとめ、期末試験に向けた諸注意、質疑応答			



# 経済

授業番号	B201070001		
科目名 (英語表記)	地方財政論 II (Local-public-finance theory II)		
担当者 (英語表記)	金子 林太郎 (Rintarou Kaneko)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	私たちは生まれて (生まれる前) から死ぬ (死んだ後) まで、さまざまな公共サービスのお世話になる。その多くは、中央政府ではなく地方政府 (それも主に市町村) が提供している。本講義では、わが国の地方財政の現状と課題を、近年の地方分権 (地域主権) 改革の動きも意識しながら、紹介する。		
授業の進め方 (履修条件など)	毎回レジュメを配り、またスライドを示して解説しながら進める。話をよく聞き、重要と思うことをメモするのが望ましい。毎回出席を取り、KCN 上で復習テストを課す。小レポートを課すことがある。財政学を履修中または履修済みであることが望ましい。		
成績評価方法	KCN 上での復習テストと期末試験の成績を基本に、小レポートの成績、聴講態度を加味して評価する。		
基準			
授業の予習・復習	プリント、ノートを整理し、KCN の復習テストに解答し、講義で聞いた内容を咀嚼すること。新聞等で地方財政に関するニュースをフォローすること。		
教科書	特定のテキストは使用しない。適宜プリントを配布する。		
参考文献	小坂紀一郎『一番やさしい自治体財政の本』学陽書房 伊東弘文『入門地方財政』ぎょうせい 持田信樹『地方財政論』東京大学出版会 総務省『地方財政白書』		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	この講義の概要、評価方法等の説明、前期試験の解説	
第 2 回	地方債 1	地方債の意義と概要	
第 3 回	地方債 2	地方債の現状と課題	
第 4 回	自治体の予算 1	予算の意義、予算原則	
第 5 回	自治体の予算 2	予算の形式	
第 6 回	自治体の予算 3	予算循環	
第 7 回	予算の見方 1	歳入の勘所	
第 8 回	予算の見方 2	歳出の急所	
第 9 回	自治体財政分析 1	決算を使った財政分析	
第 10 回	自治体財政分析 2	決算統計 (地方財政状況調査)、類似団体との比較、自治体財政の豊かさ	
第 11 回	自治体財政分析 3	財政収支に関する諸指標	
第 12 回	自治体財政分析 4	借金の重さに関する分析指標、財政構造の弾力性の分析指標	
第 13 回	自治体財政分析 5	人件費の分析、地方自治体財政の健全化	
第 14 回	自治体財政の課題	自治体の財政運営の目的、議会の意義、住民の監視	
第 15 回	まとめ	この講義のまとめ、期末試験に向けた諸注意、質疑応答	

# 経済

授業番号	B201080001				
科目名 (英語表記)	地方自治論 I (Local autonomy theory I)				
担当者 (英語表記)	岡崎 加奈子 (Kanako Okazaki)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>本講義では、地方自治についての基礎的な知識を習得し、社会における地方自治や自治体の役割を理解することを目的とする。私たちの生活と、自治体や自治体における政策にはどのような関係性があるのだろうか。</p> <p>本講義では、地方自治に関する基礎的な概念、歴史的経緯、自治体の制度などについて幅広く学んでいく。その中で、地方自治の抱える問題や今後の課題についても考えていく。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	レジメを用いておこなう。地方自治の制度的・政策的な事柄について、基礎的な知識の習得と基本的な理解をめざしていく。				
成績評価方法	期末試験及び授業への取り組みを考慮して、判断する。				
基準					
授業の予習・復習	講義の内容については、毎回講義後にノートやレジメを見直し、復習しておくこと。				
教科書	また、普段から地方自治に関する時事的ニュースについて関心をもつことがのぞましい。				
参考文献	とくに指定しない。毎回レジメを配布する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	講義全体の目標、内容、進め方などについての説明			
第 2 回	地方自治とは何か	地方自治と市民・社会との関係			
第 3 回	自治体とは何か①	自治体の制度			
第 4 回	自治体とは何か②	基礎自治体の役割			
第 5 回	地方自治の変遷①	戦前期における国と地方の関係			
第 6 回	地方自治の変遷②	戦後民主主義と地方自治			
第 7 回	自治体の首長・行政機構	自治体の首長と行政機構について			
第 8 回	自治体の議会	自治体の議会および議員の役割			
第 9 回	地方分権改革①	地方分権改革の歴史的変遷			
第 10 回	地方分権改革②	地方分権改革による制度変化			
第 11 回	自治体合併①	「平成の大合併」について			
第 12 回	自治体合併②	自治体合併からみる地方自治の現状			
第 13 回	地方自治の新しい潮流①	行政機構の改革と課題			
第 14 回	地方自治の新しい潮流②	市民と自治体の新たな関係			
第 15 回	まとめ	講義全体の振り返り			

# 経済

授業番号	B201090001				
科目名 (英語表記)	地方自治論 II (Local autonomy theory II)				
担当者 (英語表記)	岡崎 加奈子 (Kanako Okazaki)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>本講義では、地方自治のおこなう財政や政策について、より具体的に学んでいく。</p> <p>地方分権改革が進められる中、今日の自治体には、財務や政策立案の能力が求められている。</p> <p>自治体が直面する今日的な課題を考え、さまざまな事例を通じて、自治体の政策について考えていく。</p> <p>地域の実状など時事的な事例についても触れつつ、多角的に地方自治のあり方についての理解を深めていく。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	レジメを用いておこなう。自治体政策についてより深く理解するとともに、資料をもとに自らも検証する力を養っていく。				
成績評価方法	期末試験及び授業への取組みを考慮して、評価する。				
基準					
授業の予習・復習	講義内容については、毎回ノートやレジメを見直し、復習しておくこと。 また、普段から地方自治に関する時事的なニュースに関心を持つことが望ましい。				
教科書	とくに指定しない。毎回レジメを配布する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	講義全体の目標、内容、進め方等についての説明			
第 2 回	政策とは何か①	現代社会と政策の関係について			
第 3 回	政策とは何か②	政策の類型化と分化について			
第 4 回	自治体の政策形成過程①	政策形成のしくみについて			
第 5 回	自治体の政策形成過程②	自治体における政策法務			
第 6 回	自治体の政策①	自治体基本条例の事例紹介			
第 7 回	自治体の政策②	まちづくり政策の事例紹介			
第 8 回	自治体の政策③	環境政策の事例紹介			
第 9 回	自治体の財政①	地方分権と自治体財政			
第 10 回	自治体の財政②	歳入と歳出の仕組み			
第 11 回	自治体の財政③	自治体財政の現状と課題			
第 12 回	自治体政策と市民①	市民による政策への参加			
第 13 回	自治体政策と市民②	住民投票について			
第 14 回	地方自治の政策的課題	自治体政策をめぐる今日的な問題性と課題について			
第 15 回	まとめ	講義全体の振り返り			

経済

授業番号	B200200001				
科目名 (英語表記)	中国語 I (Chinese I)			A	
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	まず、言葉の基本である発音を重点的に学習する。この学習には「ピンイン」という中国語のローマ字表記を使用し、これを習得する。その後、基本的な文型を学習する。小テストを随時実施し、その都度解説する。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『チャレンジ! 一年生の中国語』 朝日出版社				
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	中国語とは	中国語という言葉の概要			
第 2 回	発音 I	声調 四声の練習			
第 3 回	発音 II	母音 単母音と復母音の練習			
第 4 回	発音 III	鼻母音及び子音 鼻母音と唇音、舌尖音、舌根音の練習			
第 5 回	発音 IV	子音 舌面音、そり舌音、舌歯音の練習			
第 6 回	基本文型	基本語順 (日本語の膠着性と中国語の独立性の違いを踏まえて)			
第 7 回	疑問文 I	疑問詞疑問文			
第 8 回	疑問文 II	諾否疑問文 (疑問詞疑問文との違いを意識して)			
第 9 回	構造助詞	構造助詞「的」と連体修飾語			
第 10 回	指示代名詞 I	指示代名詞の基本			
第 11 回	指示代名詞 II	量詞 (助数詞) 量詞と指示代名詞の関係			
第 12 回	指示代名詞 III	この、その、あの、どのの表現 指示代名詞と名詞の関係			
第 13 回	数詞 I	数詞 ものの数え方			
第 14 回	判断動詞 I	判断動詞「是」の用法			
第 15 回	判断動詞 II	判断動詞「是」の省略文			

経済

授業番号	B200200002				
科目名 (英語表記)	中国語 I (Chinese I)			B	
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	まず、言葉の基本である発音を重点的に学習する。この学習には「ピンイン」という中国語のローマ字表記を使用し、これを習得する。その後、基本的な文型を学習する。小テストを随時実施し、その都度解説する。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『チャレンジ! 一年生の中国語』 朝日出版社				
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	中国語とは	中国語という言葉の概要			
第 2 回	発音 I	声調 四声の練習			
第 3 回	発音 II	母音 単母音と復母音の練習			
第 4 回	発音 III	鼻母音及び子音 鼻母音と唇音、舌尖音、舌根音の練習			
第 5 回	発音 IV	子音 舌面音、そり舌音、舌歯音の練習			
第 6 回	基本文型	基本語順 (日本語の膠着性と中国語の独立性の違いを踏まえて)			
第 7 回	疑問文 I	疑問詞疑問文			
第 8 回	疑問文 II	諾否疑問文 (疑問詞疑問文との違いを意識して)			
第 9 回	構造助詞	構造助詞「的」と連体修飾語			
第 10 回	指示代名詞 I	指示代名詞の基本			
第 11 回	指示代名詞 II	量詞 (助数詞) 量詞と指示代名詞の関係			
第 12 回	指示代名詞 III	この、その、あの、どのの表現 指示代名詞と名詞の関係			
第 13 回	数詞	数詞 ものの数え方			
第 14 回	判断動詞 I	判断動詞「是」の用法			
第 15 回	判断動詞 II	判断動詞「是」の省略文			

経済

授業番号	B200200003				
科目名 (英語表記)	中国語 I (Chinese I)			C	
担当者 (英語表記)	山影 統 (Subaru Yamakage)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	まず、言葉の基本である発音を重点的に学習する。この学習には「ピンイン」という中国語のローマ字表記を使用し、これを習得する。その後、基本的な文型を学習する。小テストを随時実施し、その都度解説する。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『チャレンジ! 一年生の中国語』 朝日出版社				
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	中国語とは	中国語という言葉の概要			
第 2 回	発音 I	声調 四声の練習			
第 3 回	発音 II	母音 単母音と復母音の練習			
第 4 回	発音 III	鼻母音及び子音 鼻母音と唇音、舌尖音、舌根音の練習			
第 5 回	発音 IV	子音 舌面音、そり舌音、舌歯音の練習			
第 6 回	基本文型	基本語順 (日本語の膠着性と中国語の独立性の違いを踏まえて)			
第 7 回	疑問文 I	疑問詞疑問文			
第 8 回	疑問文 II	諾否疑問文 (疑問詞疑問文との違いを意識して)			
第 9 回	構造助詞	構造助詞「的」と連体修飾語			
第 10 回	指示代名詞 I	指示代名詞の基本			
第 11 回	指示代名詞 II	量詞 (助数詞) 量詞と指示代名詞の関係			
第 12 回	指示代名詞 III	この、その、あの、どのの表現 指示代名詞と名詞の関係			
第 13 回	数詞 I	数詞 ものの数え方			
第 14 回	判断動詞 I	判断動詞「是」の用法			
第 15 回	判断動詞 II	判断動詞「是」の省略文			

経済

授業番号	B200200004				
科目名 (英語表記)	中国語 I (Chinese I)			D	
担当者 (英語表記)	山影 統 (Subaru Yamakage)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	まず、言葉の基本である発音を重点的に学習する。この学習には「ピンイン」という中国語のローマ字表記を使用し、これを習得する。その後、基本的な文型を学習する。小テストを随時実施し、その都度解説する。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『チャレンジ! 一年生の中国語』 朝日出版社				
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	中国語とは	中国語という言葉の概要			
第 2 回	発音 I	声調 四声の練習			
第 3 回	発音 II	母音 単母音と復母音の練習			
第 4 回	発音 III	鼻母音及び子音 鼻母音と唇音、舌尖音、舌根音の練習			
第 5 回	発音 IV	子音 舌面音、そり舌音、舌歯音の練習			
第 6 回	基本文型	基本語順 (日本語の膠着性と中国語の独立性の違いを踏まえて)			
第 7 回	疑問文 I	疑問詞疑問文			
第 8 回	疑問文 II	諾否疑問文 (疑問詞疑問文との違いを意識して)			
第 9 回	構造助詞	構造助詞「的」と連体修飾語			
第 10 回	指示代名詞 I	指示代名詞の基本			
第 11 回	指示代名詞 II	量詞 (助数詞) 量詞と指示代名詞の関係			
第 12 回	指示代名詞 III	この、その、あの、どのの表現 指示代名詞と名詞の関係			
第 13 回	数詞 I	数詞 ものの数え方			
第 14 回	判断動詞 I	判断動詞「是」の用法			
第 15 回	判断動詞 II	判断動詞「是」の省略文			

経済

授業番号	B200200005				
科目名 (英語表記)	中国語 I (Chinese I)			R( a)	
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	まず、言葉の基本である発音を重点的に学習する。この学習には「ピンイン」という中国語のローマ字表記を使用し、これを習得する。その後、基本的な文型を学習する。小テストを随時実施し、その都度解説する。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『言える中国語』 同学社				
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	中国語とは	中国語という言葉の概要			
第 2 回	発音 I	声調 四声の練習			
第 3 回	発音 II	母音 単母音と復母音の練習			
第 4 回	発音 III	鼻母音及び子音 鼻母音と唇音、舌尖音、舌根音の練習			
第 5 回	発音 IV	子音 舌面音、そり舌音、舌歯音の練習			
第 6 回	基本文型	基本語順 (日本語の膠着性と中国語の独立性の違いを踏まえて)			
第 7 回	疑問文 I	疑問詞疑問文			
第 8 回	疑問文 II	諾否疑問文 (疑問詞疑問文との違いを意識して)			
第 9 回	構造助詞	構造助詞「的」と連体修飾語			
第 10 回	指示代名詞 I	指示代名詞の基本			
第 11 回	指示代名詞 II	量詞 (助数詞) 量詞と指示代名詞の関係			
第 12 回	指示代名詞 III	この、その、あの、どのの表現 指示代名詞と名詞の関係			
第 13 回	数詞 I	数詞 ものの数え方			
第 14 回	判断動詞 I	判断動詞「是」の用法			
第 15 回	判断動詞 II	判断動詞「是」の省略文			



経済

授業番号	B200200006				
科目名 (英語表記)	中国語 I (Chinese I)			R(b)	
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	まず、言葉の基本である発音を重点的に学習する。この学習には「ピンイン」という中国語のローマ字表記を使用し、これを習得する。その後、基本的な文型を学習する。小テストを随時実施し、その都度解説する。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『言える中国語』 同学社				
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	中国語とは	中国語という言葉の概要			
第 2 回	発音 I	声調 四声の練習			
第 3 回	発音 II	母音 単母音と復母音の練習			
第 4 回	発音 III	鼻母音及び子音 鼻母音と唇音、舌尖音、舌根音の練習			
第 5 回	発音 IV	子音 舌面音、そり舌音、舌歯音の練習			
第 6 回	基本文型	基本語順 (日本語の膠着性と中国語の独立性の違いを踏まえて)			
第 7 回	疑問文 I	疑問詞疑問文			
第 8 回	疑問文 II	諾否疑問文 (疑問詞疑問文との違いを意識して)			
第 9 回	構造助詞	構造助詞「的」と連体修飾語			
第 10 回	指示代名詞 I	指示代名詞の基本			
第 11 回	指示代名詞 II	量詞 (助数詞) 量詞と指示代名詞の関係			
第 12 回	指示代名詞 III	この、その、あの、どのの表現 指示代名詞と名詞の関係			
第 13 回	数詞 I	数詞 ものの数え方			
第 14 回	判断動詞 I	判断動詞「是」の用法			
第 15 回	判断動詞 II	判断動詞「是」の省略文			

経済

授業番号	B200210001				
科目名 (英語表記)	中国語 II (Chinese I I)	A			
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	前期の「中国語 I」で学習したことをふまえて、さらに必要と思われる構文、表現を学習する。小テストは随時実施しその都度かいせつをする。また、中国の文化や伝統といったものにも触れる。 中国語 I の単位を取得していること。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『チャレンジ! 一年生の中国語』 朝日出版社				
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	復習	中国語 I の復習			
第 2 回	動詞述語文 I	動詞述語文			
第 3 回	動詞述語文 II	動詞「有」の用法			
第 4 回	時間表現 II	年月日、曜日、時刻の表現			
第 5 回	時間表現 II	時間名詞の文中の位置			
第 6 回	動詞述語文 III	連動文			
第 7 回	疑問文 III	反復疑問文			
第 8 回	小テスト	半期分のテスト及び解説			
第 9 回	連体修飾	構造助詞を用いない連体修飾			
第 10 回	副詞	「也」、「都」の用法			
第 11 回	形容詞 I	形容詞述語文			
第 12 回	形容詞 II	修飾語としての形容詞			
第 13 回	数詞 II	100 以上の数詞			
第 14 回	中国の通貨	口語と文語の「元」			
第 15 回	小テスト	半期分のテスト及び解説			

経済

授業番号	B200210002				
科目名 (英語表記)	中国語 II (Chinese I I)	B			
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	前期の「中国語 I」で学習したことをふまえて、さらに必要と思われる構文、表現を学習する。小テストは随時実施しその都度かいせつをする。また、中国の文化や伝統といったものにも触れる。 中国語 I の単位を取得していること。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『チャレンジ! 一年生の中国語』 朝日出版社				
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	復習	中国語 I の復習			
第 2 回	動詞述語文 I	動詞述語文			
第 3 回	動詞述語文 II	動詞「有」の用法			
第 4 回	時間表現 II	年月日、曜日、時刻の表現			
第 5 回	時間表現 II	時間名詞の文中の位置			
第 6 回	動詞述語文 III	連動文			
第 7 回	疑問文 III	反復疑問文			
第 8 回	復習	半期分のテスト及び解説			
第 9 回	連体修飾	構造助詞を用いない連体修飾			
第 10 回	副詞	「也」、「都」の用法			
第 11 回	形容詞 I	形容詞述語文			
第 12 回	形容詞 II	修飾語としての形容詞			
第 13 回	数詞 II	100 以上の数詞			
第 14 回	中国の通貨	口語と文語の「元」			
第 15 回	復習	半期分のテスト及び解説			

経済

授業番号	B200210003				
科目名 (英語表記)	中国語 II (Chinese I I)			C	
担当者 (英語表記)	山影 統 (Subaru Yamakage)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	前期の「中国語 I」で学習したことをふまえて、さらに必要と思われる構文、表現を学習する。小テストは随時実施しその都度かいせつをする。また、中国の文化や伝統といったものにも触れる。 中国語 I の単位を取得していること。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『チャレンジ! 一年生の中国語』 朝日出版社				
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	復習	中国語 I の復習			
第 2 回	動詞述語文 I	動詞述語文			
第 3 回	動詞述語文 II	動詞「有」の用法			
第 4 回	時間表現 II	年月日、曜日、時刻の表現			
第 5 回	時間表現 II	時間名詞の文中の位置			
第 6 回	動詞述語文 III	連動文			
第 7 回	疑問文 III	反復疑問文			
第 8 回	小テスト	半期分のテスト及び解説			
第 9 回	連体修飾	構造助詞を用いない連体修飾			
第 10 回	副詞	「也」、「都」の用法			
第 11 回	形容詞 I	形容詞述語文			
第 12 回	形容詞 II	修飾語としての形容詞			
第 13 回	数詞 II	100 以上の数詞			
第 14 回	中国の通貨	口語と文語の「元」			
第 15 回	小テスト	半期分のテスト及び解説			

経済

授業番号	B200210004				
科目名 (英語表記)	中国語 II (Chinese I I)			D	
担当者 (英語表記)	山影 統 (Subaru Yamakage)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	前期の「中国語 I」で学習したことをふまえて、さらに必要と思われる構文、表現を学習する。小テストは随時実施しその都度かいせつをする。また、中国の文化や伝統といったものにも触れる。 中国語 I の単位を取得していること。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『チャレンジ! 一年生の中国語』 朝日出版社				
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	復習	中国語 I の復習			
第 2 回	動詞述語文 I	動詞述語文			
第 3 回	動詞述語文 II	動詞「有」の用法			
第 4 回	時間表現 II	年月日、曜日、時刻の表現			
第 5 回	時間表現 II	時間名詞の文中の位置			
第 6 回	動詞述語文 III	連動文			
第 7 回	疑問文 III	反復疑問文			
第 8 回	小テスト	半期分のテスト及び解説			
第 9 回	連体修飾	構造助詞を用いない連体修飾			
第 10 回	副詞	「也」、「都」の用法			
第 11 回	形容詞 I	形容詞述語文			
第 12 回	形容詞 II	修飾語としての形容詞			
第 13 回	数詞 II	100 以上の数詞			
第 14 回	中国の通貨	口語と文語の「元」			
第 15 回	小テスト	半期分のテスト及び解説			

経済

授業番号	B200210005		
科目名 (英語表記)	中国語 II (Chinese I I)	R(a)	
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。		
授業の進め方 (履修条件など)	前期の「中国語 I」で学習したことをふまえて、さらに必要と思われる構文、表現を学習する。小テストは随時実施しその都度かいせつをする。また、中国の文化や伝統といったものにも触れる。 中国語 I の単位を取得していること。		
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)		
基準			
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。		
教科書	『言える中国語』 同学社		
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	復習	中国語 I の復習	
第 2 回	動詞述語文 I	動詞述語文	
第 3 回	動詞述語文 II	動詞「有」の用法	
第 4 回	時間表現 II	年月日、曜日、時刻の表現	
第 5 回	時間表現 II	時間名詞の文中の位置	
第 6 回	動詞述語文 III	連動文	
第 7 回	疑問文 III	反復疑問文	
第 8 回	復習	半期分のテスト及び解説	
第 9 回	連体修飾	構造助詞を用いない連体修飾	
第 10 回	副詞	「也」、「都」の用法	
第 11 回	形容詞 I	形容詞述語文	
第 12 回	形容詞 II	修飾語としての形容詞	
第 13 回	数詞 II	100 以上の数詞	
第 14 回	中国の通貨	口語と文語の「元」	
第 15 回	復習	半期分のテスト及び解説	

経済

授業番号	B200210006		
科目名 (英語表記)	中国語 II (Chinese I I)	R(b)	
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。		
授業の進め方 (履修条件など)	前期の「中国語 I」で学習したことをふまえて、さらに必要と思われる構文、表現を学習する。小テストは随時実施しその都度かいせつをする。また、中国の文化や伝統といったものにも触れる。 中国語 I の単位を取得していること。		
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)		
基準			
授業の予習・復習	予習 : 各課の発音練習を予めしておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。		
教科書	『言える中国語』 同学社		
参考文献	『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	復習	中国語 I の復習	
第 2 回	動詞述語文 I	動詞述語文	
第 3 回	動詞述語文 II	動詞「有」の用法	
第 4 回	時間表現 II	年月日、曜日、時刻の表現	
第 5 回	時間表現 II	時間名詞の文中の位置	
第 6 回	動詞述語文 III	連動文	
第 7 回	疑問文 III	反復疑問文	
第 8 回	復習	半期分のテスト及び解説	
第 9 回	連体修飾	構造助詞を用いない連体修飾	
第 10 回	副詞	「也」、「都」の用法	
第 11 回	形容詞 I	形容詞述語文	
第 12 回	形容詞 II	修飾語としての形容詞	
第 13 回	数詞 II	100 以上の数詞	
第 14 回	中国の通貨	口語と文語の「元」	
第 15 回	復習	半期分のテスト及び解説	

経済

授業番号	B200220001				
科目名 (英語表記)	中国語 III (Chinese I I I)			A	
担当者 (英語表記)	黄麗華 (Ko Reika)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法 (文法) 等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『大学生のための初級中国語 24 回』 白帝社				
参考文献	『プログレッシブ中国語辞典』 小学館				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	復習	中国語 I、II の復習			
第 2 回	存現文	存在表現 方位詞			
第 3 回	強調構文	強調構文			
第 4 回	動態表現 I	進行表現			
第 5 回	主述述語文	主述述語文			
第 6 回	助動詞 I	可能助動詞			
第 7 回	補語 I	結果補語			
第 8 回	復習	半期分のテスト及び解説			
第 9 回	助動詞 II	可能助動詞 II			
第 10 回	二重目的語の文	授与動詞構文			
第 11 回	補語 II	様態補語			
第 12 回	助動詞 III	可能助動詞 III			
第 13 回	「少々」の表現	動詞の重ね型			
第 14 回	補語 III	方向補語			
第 15 回	復習	半期分のテスト及び解説			



経済

授業番号	B200220002				
科目名 (英語表記)	中国語 III (Chinese I I I)			B	
担当者 (英語表記)	黄麗華 (Ko Reika)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法 (文法) 等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『大学生のための初級中国語 24 回』 白帝社				
参考文献	『プログレッシブ中国語辞典』 小学館				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	復習	中国語 I、II の復習			
第 2 回	存現文	存在表現 方位詞			
第 3 回	強調構文	強調構文			
第 4 回	動態表現 I	進行表現			
第 5 回	主述述語文	主述述語文			
第 6 回	助動詞 I	可能助動詞			
第 7 回	補語 I	結果補語			
第 8 回	復習	半期分のテスト及び解説			
第 9 回	助動詞 II	可能助動詞 II			
第 10 回	二重目的語の文	授与動詞構文			
第 11 回	補語 II	様態補語			
第 12 回	助動詞 III	可能助動詞 III			
第 13 回	「少々」の表現	動詞の重ね型			
第 14 回	補語 III	方向補語			
第 15 回	復習	半期分のテスト及び解説			

経済

授業番号	B200220003				
科目名 (英語表記)	中国語 III (Chinese I I I)			C	
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法 (文法) 等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『大学生のための初級中国語 24 回』 白帝社				
参考文献	『プログレッシブ中国語辞典』 小学館				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	復習	中国語 I、II の復習			
第 2 回	存現文	存在表現 方位詞			
第 3 回	強調構文	強調構文			
第 4 回	動態表現 I	進行表現			
第 5 回	主述述語文	主述述語文			
第 6 回	助動詞 I	可能助動詞			
第 7 回	補語 I	結果補語			
第 8 回	復習	半期分のテスト及び解説			
第 9 回	助動詞 II	可能助動詞 II			
第 10 回	二重目的語の文	授与動詞構文			
第 11 回	補語 II	様態補語			
第 12 回	助動詞 III	可能助動詞 III			
第 13 回	「少々」の表現	動詞の重ね型			
第 14 回	補語 III	方向補語			
第 15 回	復習	半期分のテスト及び解説			

経済

授業番号	B200220004				
科目名 (英語表記)	中国語 III (Chinese I I I)			R	
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法 (文法) 等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『セレクト8時事中国語2014』朝日出版社				
参考文献	『プログレッシブ中国語辞典』小学館				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	復習	中国語 I、II の復習			
第2回	存現文	存在表現 方位詞			
第3回	強調構文	強調構文			
第4回	動態表現 I	進行表現			
第5回	主述述語文	主述述語文			
第6回	助動詞 I	可能助動詞			
第7回	補語 I	結果補語			
第8回	復習	半期分のテスト及び解説			
第9回	助動詞 II	可能助動詞 II			
第10回	二重目的語の文	授与動詞構文			
第11回	補語 II	様態補語			
第12回	助動詞 III	可能助動詞 III			
第13回	「少々」の表現	動詞の重ね型			
第14回	補語 III	方向補語			
第15回	復習	半期分のテスト及び解説			

経済

授業番号	B200230001				
科目名 (英語表記)	中国語 IV (Chinese I V)			A	
担当者 (英語表記)	黄麗華 (Ko Reika)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法 (文法) 等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『大学生のための初級中国語 24 回』 白帝社				
参考文献	『プログレッシブ中国語辞典』 小学館				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	復習	中国語Ⅲの復習			
第 2 回	不定詞	疑問詞の不定用法			
第 3 回	仮定表現	仮定表現			
第 4 回	助動詞Ⅳ	助動詞のまとめ			
第 5 回	補語Ⅳ	可能補語			
第 6 回	介詞Ⅰ	「在」等の用法			
第 7 回	介詞Ⅱ	「把」等の用法			
第 8 回	復習	半期分のテスト及び解説			
第 9 回	選択疑問文	選択疑問文			
第 10 回	形容詞の重ね型	動詞の重ね型との違いに留意して			
第 11 回	介詞Ⅲ	使役表現			
第 12 回	未来表現	「要～了」等の表現			
第 13 回	介詞Ⅳ	受け身表現			
第 14 回	動態表現Ⅱ	完了および経験の表現			
第 15 回	復習	半期分のテスト及び解説			

経済

授業番号	B200230002				
科目名 (英語表記)	中国語 IV (Chinese I V)			B	
担当者 (英語表記)	黄麗華 (Ko Reika)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法 (文法) 等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『大学生のための初級中国語 24 回』 白帝社				
参考文献	『プログレッシブ中国語辞典』 小学館				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	復習	中国語Ⅲの復習			
第 2 回	不定詞	疑問詞の不定用法			
第 3 回	仮定表現	仮定表現			
第 4 回	助動詞Ⅳ	助動詞のまとめ			
第 5 回	補語Ⅳ	可能補語			
第 6 回	介詞Ⅰ	「在」等の用法			
第 7 回	介詞Ⅱ	「把」等の用法			
第 8 回	復習	半期分のテスト及び解説			
第 9 回	選択疑問文	選択疑問文			
第 10 回	形容詞の重ね型	動詞の重ね型との違いに留意して			
第 11 回	介詞Ⅲ	使役表現			
第 12 回	未来表現	「要～了」等の表現			
第 13 回	介詞Ⅳ	受け身表現			
第 14 回	動態表現Ⅱ	完了および経験の表現			
第 15 回	復習	半期分のテスト及び解説			

経済

授業番号	B200230003				
科目名 (英語表記)	中国語 IV (Chinese I V)			C	
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法 (文法) 等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『大学生のための初級中国語 24 回』 白帝社				
参考文献	『プログレッシブ中国語辞典』 小学館				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	復習	中国語Ⅲの復習			
第 2 回	不定詞	疑問詞の不定用法			
第 3 回	仮定表現	仮定表現			
第 4 回	助動詞Ⅳ	助動詞のまとめ			
第 5 回	補語Ⅳ	可能補語			
第 6 回	介詞Ⅰ	「在」等の用法			
第 7 回	介詞Ⅱ	「把」等の用法			
第 8 回	復習	半期分のテスト及び解説			
第 9 回	選択疑問文	選択疑問文			
第 10 回	形容詞の重ね型	動詞の重ね型との違いに留意して			
第 11 回	介詞Ⅲ	使役表現			
第 12 回	未来表現	「要～了」等の表現			
第 13 回	介詞Ⅳ	受け身表現			
第 14 回	動態表現Ⅱ	完了および経験の表現			
第 15 回	復習	半期分のテスト及び解説			

経済

授業番号	B200230004				
科目名 (英語表記)	中国語 IV (Chinese I V)			R	
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法 (文法) 等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習 : 単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと。 復習 : 毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	『セレクト8時事中国語2014』朝日出版社				
参考文献	『プログレッシブ中国語辞典』小学館				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	復習	中国語Ⅲの復習			
第2回	不定詞	疑問詞の不定用法			
第3回	仮定表現	仮定表現			
第4回	助動詞Ⅳ	助動詞のまとめ			
第5回	補語Ⅳ	可能補語			
第6回	介詞Ⅰ	「在」等の用法			
第7回	介詞Ⅱ	「把」等の用法			
第8回	復習	半期分のテスト及び解説			
第9回	選択疑問文	選択疑問文			
第10回	形容詞の重ね型	動詞の重ね型との違いに留意して			
第11回	介詞Ⅲ	使役表現			
第12回	未来表現	「要～了」等の表現			
第13回	介詞Ⅳ	受け身表現			
第14回	動態表現Ⅱ	完了および経験の表現			
第15回	復習	半期分のテスト及び解説			

経済

授業番号	B202420001				
科目名 (英語表記)	中国語検定講座 I (Chinese official approval lecture I)				
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	中国語 I 及び II の単位を取得した学生を対象とし、日本中国語検定協会の準 4 級から 4 級の合格を目指す。準 4 級認定基準に「基本単語約 500 語 (簡体字を正しく書けること)、ピンイン (表音ローマ字) の読み方と綴り方、単文の基本文型、簡単な日常挨拶語約 50 ~ 80」とあり、これらの完全習得を目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	発音においては単音節、複音節の音節を聞いてそれをピンインで書けるまでにする。基本文法においては判断動詞述語文、動詞述語文、形容詞述語文を 500 ほどの語彙で反復学習する。				
成績評価方法	定期試験 (50%) ・授業内テスト (40%) ・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：発音練習を予めしておくこと。 復習：毎時間後発音の復習をすること。				
教科書	プリント配布				
参考文献	なし				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今期の授業の概観、諸注意			
第 2 回	発音 1	ピンインの綴り方			
第 3 回	発音 2	リスニングからピンイン表記			
第 4 回	発音 3	発音総確認			
第 5 回	挨拶 1	出会いと別れ			
第 6 回	挨拶 2	感謝、労い等			
第 7 回	挨拶 3	挨拶総確認			
第 8 回	基本文型 1	判断動詞述語文			
第 9 回	基本文型 2	一般動詞述語文			
第 10 回	基本文型 3	形容詞述語文			
第 11 回	基本文型 4	疑問文			
第 12 回	基本文型 5	存現文			
第 13 回	実践テスト 1	過去問題によるテスト及び解説			
第 14 回	実践テスト 2	過去問題によるテスト及び解説			
第 15 回	実践テスト 3	予想問題によるテスト及び解説			



経済

授業番号	B202430001				
科目名 (英語表記)	中国語検定講座 II (Chinese official approval lecture II)				
担当者 (英語表記)	矢澤 秀昭 (Hideaki Yazawa)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	中国語 I 及び II の単位を取得した学生を対象とし、日本中国語検定協会の 4 級以上の合格を目指し、3 級認定基準の到達を目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	2000 以上の語彙を習得する。これを用いて日本語から中国語、中国語から日本語へと訳せ、簡単な会話が出来るようにする。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・授業内テスト (40%)・レポート及びその他の課題 (10%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：発音練習、新単語の意味調べを予めしておくこと。 復習：毎時間後、発音、新単語、新文型の復習をすること。				
教科書	プリント配布				
参考文献	なし				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今期の授業の概観、諸注意			
第 2 回	基本確認 1	ピンイン表記			
第 3 回	基本確認 2	基本文型			
第 4 回	作文 1	判断動詞述語文			
第 5 回	リスニング 1	判断動詞述語文			
第 6 回	会話 1	判断動詞述語文			
第 7 回	作文 2	一般動詞述語文 (含複文)			
第 8 回	リスニング 2	一般動詞述語文 (含複文)			
第 9 回	会話 2	一般動詞述語文 (含複文)			
第 10 回	作文 3	形容詞述語文			
第 11 回	リスニング 2	形容詞述語文			
第 12 回	会話 3	形容詞述語文			
第 13 回	実践テスト 1	過去問題によるテスト及び解説			
第 14 回	実践テスト 2	過去問題によるテスト及び解説			
第 15 回	実践テスト 3	予想問題によるテスト及び解説			

# 経済

授業番号	B202360001				
科目名 (英語表記)	中国の流通産業 (The Chinese distribution industry)				
担当者 (英語表記)	藪内 正樹 (Masaki Yabuuchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	中国の流通産業を、供給側と消費者側の両方の視点から理解する。流通の役割、改革開放政策の下での変化、消費市場の特徴、物流業の実態、商品・形態別の流通業の実態を理解し、日本との違いやビジネスチャンスについて考える。				
授業の進め方 (履修条件など)	事前に配布する資料を解説する形で進め、最終回は、日本との違いやビジネスチャンスについて討論する。				
成績評価方法	質問や発言の積極性 (40%)、期末試験 (60%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：資料を事前に読み、分からないことは質問する準備をしてください。 復習：前回の資料やノートを再読してください。				
教科書	指定しない。事前に資料を配布します。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	自己紹介 (受講動機、関心事など)、講義の進め方			
第 2 回	流通とは何か	市場の機能、流通業の役割、商流・物流・金流			
第 3 回	中国の経済・産業	計画経済、地域完結型産業形態、改革開放、WTO 加盟			
第 4 回	中国の流通改革	改革開放、外資の参入、WTO 加盟			
第 5 回	中国の消費市場	所得向上、耐久消費財の普及、多様性、権利意識の向上			
第 6 回	中国の物流業	鉄道、自動車輸送、宅配業、低温物流			
第 7 回	穀物の流通	自由市場、統一買付・販売、物流の制約、流通自由化			
第 8 回	生鮮食品の流通	食品市場、スーパー、百貨店			
第 9 回	自動車・建設機械の流通	販売代理店の役割、建設機械の事例			
第 10 回	住宅・建材・家具の流通	住宅販売の特徴、建材市場、家具市場			
第 11 回	家電の流通	百貨店、量販店、メーカーのアフターサービス			
第 12 回	中国の卸売業	商品別、地域別、規模別の状況			
第 13 回	中国の小売業	個人商店、百貨店、スーパー、コンビニエンスストア			
第 14 回	中国の通信販売	テレビ通販、インターネット販売			
第 15 回	まとめ・ディスカッション	中国と日本の違いは？ 何がチャンスか？			

# 経済

授業番号	B202320001				
科目名 (英語表記)	中国ビジネス論 (China business theory)				
担当者 (英語表記)	藪内 正樹 (Masaki Yabuuchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	中国を正しく理解し、中国に的確に向き合う力を養うことを目指す。中国ビジネスのチャンスとリスク、成功の条件を理解するため、日中経済関係、中国の発展過程と問題点、中国の産業・科学技術・市場、ビジネス環境、リスクと対処方法、日本企業・日本人の課題、中国人の国民性を理解する。				
授業の進め方 (履修条件など)	事前に配布した資料を解説する形で進め、最終回は学生が講義を通じて得た印象や考えを発表し、討論する。				
成績評価方法	質問や発言の積極性 (40%)、期末試験 (60%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：資料を事前に読み、分からないことは質問する準備をしてください。 復習：前回の資料やノートを再読してください。				
教科書	指定しない。事前に資料を配布する。				
参考文献	藪内正樹『ビジネスのための中国経済論』2014年2月、ジェトロ				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	互いの自己紹介 (中国に対するイメージ、関心事等)、中国ビジネスとは、講義の進め方			
第2回	日中経済関係	古代・近代の日中関係、戦後の貿易関係、改革開放後の対中投資、今や切っても切れない緊密な経済関係			
第3回	中国経済の発展過程	計画経済、改革開放、WTO加盟、高度経済成長			
第4回	対外開放政策と投資インセンティブ	外資優遇政策、インフラ整備、安くて優秀な労働力、世界の工場、世界の市場、転換期に入ったビジネス環境			
第5回	中国の産業①	農業、鋳業、エネルギー、鉄鋼			
第6回	中国の産業②	造船、自動車、機械、家電、繊維			
第7回	中国の科学技術	一部の領域では世界のトップクラス (宇宙、深海調査、スーパーコンピューター、等々)、しかし産業社会の研究開発意欲は高くない			
第8回	大きくて多様な中国市場	地域による多様性、所得格差、世代間格差			
第9回	中国経済の問題点	水不足、環境汚染、高齢化、成長率の減速			
第10回	中国政治の問題点	政治体制、腐敗、社会の不満、言論・報道			
第11回	中国ビジネスのリスク管理①	法制度、労務管理、知財権保護、債権回収			
第12回	中国ビジネスのリスク管理②	カントリーリスク (政治・社会、反日感情、自然災害、感染症)			
第13回	日本企業・日本人の課題	製品・サービスの現地化、人材の現地化、権限委譲と管理・評価、コミュニケーション能力、中国を正しく理解する			
第14回	中国人の国民性	面子 (メンツ)、個人主義、人脈社会、実利主義 (プラグマティズム)			
第15回	まとめ・ディスカッション	いかに中国を理解し、いかに中国と向き合うか			

# 経済

授業番号	B202500001				
科目名 (英語表記)	中小企業論 I (Small-and-medium-sized-enterprises I)				
担当者 (英語表記)	岸本 太一 (Taichi Kishimoto)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは二つあります。一つは、中小企業の〈長期存続〉を分析するための基礎的な理論的枠組みを理解することです。もう一つは、日本の製造業中小企業のそれらに関する現状と歴史に触れることです。到達目標は、講義で紹介した理論を用いて、自力で中小企業の基礎的な分析ができるようになる点にあります。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義の内容は二つあります。一つは理論に関するレクチャーです。もう一つは、紹介した理論に関連する中小企業の事例をふんだんに紹介することです。この二つの内容を交互に進めていきます。				
成績評価方法	中間レポート (40%)、期末レポート (40%)、授業への貢献 (20%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：次回のテーマに関連しそうな企業について、調べておいてください。 復習：講義で板書したノートを再読し、理解を深めて下さい。				
教科書	岸本太一・糸野博行編著『中小企業の空洞化適応 ? 日本の現場から導き出されたモデル?』同友館				
参考文献	講義にて随時紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図など			
第 2 回	中小企業論の必要性	経営学において、なぜ「中小企業論」が必要なのか			
第 3 回	中小企業論 I のテーマ	日本の中小企業は、空洞化問題にどのように適応してきたのか			
第 4 回	理論を生み出す基となった事例	精密機械の産業集積に立地する中小企業			
第 5 回	事業構造とビジネスモデルの転換	依存度の低さ			
第 6 回	空洞化適応の基本手段	今ある事業の日常的なアレンジ			
第 7 回	顧客を獲得するためのコアサービス	ブチ製品開発と量産整流化			
第 8 回	中間レポートセッション	優秀レポートを用いた発表セッション			
第 9 回	コアサービスを生み出す基礎能力	製品・工程アレンジ能力			
第 10 回	基礎能力の利用と蓄積のメカニズム	日常受注における細かなギャップの創出と解消			
第 11 回	新規顧客の獲得の仕方	新規顧客を獲得する活動の種類			
第 12 回	分業と雇用の構造	適応を支える企業内部の構造			
第 13 回	大手セットメーカーからの影響	コア能力蓄積への貢献、転換圧力の創出、つなぎの受注の供給			
第 14 回	産業集積からの影響	新規受注獲得の支援、地域での存続の目的化			
第 15 回	紹介した理論の全体像	まとめとして			

経済

授業番号	B202510001				
科目名 (英語表記)	中小企業論 II (Small-and-medium-sized-enterprises II)				
担当者 (英語表記)	岸本 太一 (Taichi Kishimoto)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは二つあります。一つは、中小企業の〈規模拡大〉と〈海外展開〉を分析するための基礎的な理論的枠組みを理解することです。もう一つは、日本の製造業中小企業におけるそれらの現状と歴史に触れることです。到達目標は、講義で紹介した理論を用いて、自力で中小企業の基礎的な分析ができるようになる点にあります。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業では「理論に関するレクチャー」と「紹介した理論に関連する中小企業の事例を紹介する」という二つの内容を交互に進めていきます。 中小企業論 I を履修しておくことを勧めます。				
成績評価方法	中間レポート (40%)、期末レポート (40%)、授業への貢献 (20%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：次回のテーマに関連しそうな企業について、調べておいてください。 復習：講義で板書したノートを再読することをお勧めします。				
教科書	岸本太一・糸野博行編著『中小企業の空洞化適応 ? 日本の現場から導き出されたモデル?』同友館				
参考文献	講義にて随時紹介していきます。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業の見取り図など			
第 2 回	中小企業 II のテーマ	規模拡大、海外展開、理論の他産業への当てはめ			
第 3 回	理論を生み出す基となった事例	輸送用機械の産業集積に立地する中小企業			
第 4 回	中小企業の規模拡大①	実態の紹介			
第 5 回	中小企業の規模拡大②	拡大の基礎メカニズム (サプライチェーンにおけるポジショニングの視点から)			
第 6 回	中小企業の規模拡大③	拡大の基礎メカニズム (企業内分業と雇用の視点から)			
第 7 回	中小企業の海外展開①	グローバル化に直面する中小企業			
第 8 回	中間レポートセッション	優秀レポートを用いた発表セッション			
第 9 回	中小企業の海外展開②	海外での成功パターンと成功の論理			
第 10 回	中小企業の海外展開③	国内拠点から海外拠点への支援			
第 11 回	海外拠点が国内拠点にもたらす影響①	マイナスの影響、それを小さくするための工夫			
第 12 回	海外拠点が国内拠点にもたらす影響②	プラスの影響、それを生み出すための工夫			
第 13 回	理論の他産業の当てはめ①	当てはまらない部分			
第 14 回	理論の他産業への当てはめ②	当てはまる部分			
第 15 回	紹介した理論の全体像	まとめとして			

経済

授業番号	B201730001				
科目名 (英語表記)	データベースオペレーション (Database operation)			A	
担当者 (英語表記)	成富 慶子 (Keiko Naritomi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている          本講義ではデータベースソフト Microsoft Access による実習を通して、データベースの利用と構築技能に習熟してもらう</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>Microsoft Access の操作を中心に データベースの構築・作成を行う          履修条件: 情報基礎 1,2 の単位を取得済み、または同等レベルであること</p>				
成績評価方法	実技テストで総合評価する				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習: 教科書を見ながら操作する          復習: 授業内に行った操作を練習問題などで復習する</p>				
教科書	FOM 出版 Microsoft Access2010 基礎 978-4-89311-854-7				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認・講義概要			
第 2 回	データベースとは	Access の機能と概要			
第 3 回	データベースの設計と作成	データベースの設計とファイルの作成			
第 4 回	テーブル 1	フィールドの設定, 主キーの設定			
第 5 回	テーブル 2	プロパティの設定、データの入力、レコードの並べ替え, フィルター			
第 6 回	テーブル 3	リレーションシップの設定と種類, 参照整合性, データのインポート			
第 7 回	クエリ 1	ソーステーブルとリレーションシップの管理, フィールドの結合, 演算フィールドの作成			
第 8 回	フォーム 1	概要と種類、作成方法			
第 9 回	フォーム 2	レイアウトの変更, デザイン, 配置, 書式オプションの適用			
第 10 回	クエリ 2	条件の抽出, データの集計, 関数の利用, フィールドプロパティ			
第 11 回	レポート 1	概要と種類、作成方法			
第 12 回	レポート 2	レイアウトの変更, デザイン・配置・書式・ページ設定オプションの適用, レコード並べ替え・フィルターの実行後のレポート作成			
第 13 回	クエリ 3	アクションクエリ・不一致クエリの作成			
第 14 回	総合練習問題 1	総合練習問題 1			
第 15 回	総合練習問題 2	総合練習問題 2			

経済

授業番号	B201730002				
科目名 (英語表記)	データベースオペレーション (Database operation)			B	
担当者 (英語表記)	成富 慶子 (Keiko Naritomi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている          本講義ではデータベースソフト Microsoft Access による実習を通して、データベースの利用と構築技能に習熟してもらう</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>Microsoft Access の操作を中心に データベースの構築・作成を行う          履修条件: 情報基礎 1,2 の単位を取得済み、または同等レベルであること</p>				
成績評価方法	実技テストで総合評価する				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習: 教科書を見ながら操作する          復習: 授業内に行った操作を練習問題などで復習する</p>				
教科書	FOM 出版 Microsoft Access2010 基礎 978-4-89311-854-7				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認・講義概要			
第 2 回	データベースとは	Access の機能と概要			
第 3 回	データベースの設計と作成	データベースの設計とファイルの作成			
第 4 回	テーブル 1	フィールドの設定, 主キーの設定			
第 5 回	テーブル 2	プロパティの設定、データの入力、レコードの並べ替え, フィルター			
第 6 回	テーブル 3	リレーションシップの設定と種類, 参照整合性, データのインポート			
第 7 回	クエリ 1	ソーステーブルとリレーションシップの管理, フィールドの結合, 演算フィールドの作成			
第 8 回	フォーム 1	概要と種類、作成方法			
第 9 回	フォーム 2	レイアウトの変更, デザイン, 配置, 書式オプションの適用			
第 10 回	クエリ 2	条件の抽出, データの集計, 関数の利用, フィールドプロパティ			
第 11 回	レポート 1	概要と種類、作成方法			
第 12 回	レポート 2	レイアウトの変更, デザイン・配置・書式・ページ設定オプションの適用, レコード並べ替え・フィルターの実行後のレポート作成			
第 13 回	クエリ 3	アクションクエリ・不一致クエリの作成			
第 14 回	総合練習問題 1	総合練習問題 1			
第 15 回	総合練習問題 2	総合練習問題 2			

経済

授業番号	B200160002				
科目名 (英語表記)	ドイツ語 I (German I)				
担当者 (英語表記)	志村 哲也 (Tetsuya Shimura)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	ドイツ語の基礎の基礎を身に付ける。正確な読み書きの練習から始め、最重要文法項目に習熟する。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストをレッスン毎に読み進める。毎回配布する授業プリント (小テスト) が出席調査票・受講証明書となるので、必ず授業時間内に提出し、返却後も保管すること。				
成績評価方法	平常点 (50%) および定期試験 (50%) の合計で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：自発的にテキストを読んでおくこと。 復習：Web 上から授業プリントをダウンロードし反復練習すること。				
教科書	「ドイツ語ベーシック・コース」三修社。大園正彦ほか。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	受講の心得			
第 2 回	序	アルファベット、つづりと発音			
第 3 回	序	あいさつ、数字			
第 4 回	Lektion 1	動詞の人称変化			
第 5 回	Lektion 1	練習問題			
第 6 回	Lektion 2	名詞の性			
第 7 回	Lektion 2	練習問題			
第 8 回	文法まとめ①	序 - Lektion 2 復習			
第 9 回	Lektion 3	名詞の格変化			
第 10 回	Lektion 3	練習問題			
第 11 回	Lektion 4	名詞の複数形			
第 12 回	Lektion 4	練習問題			
第 13 回	文法まとめ②	Lektion 3-4 復習			
第 14 回	ドイツ芸術鑑賞	音楽または映画			
第 15 回	プレテスト	テスト形式による序 - Lektion 4 復習			



経済

授業番号	B200170002				
科目名 (英語表記)	ドイツ語 II (German I I)				
担当者 (英語表記)	志村 哲也 (Tetsuya Shimura)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	ドイツ語 I に引き続きドイツ語の基礎を身に付ける。ドイツ語検定 4 級レベルの習得を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストをレッスン毎に読み進める。毎回配布する授業プリント (小テスト) が出席調査票・受講証明書となるので、必ず授業時間内に提出し、返却後も保管すること。				
成績評価方法	平常点 (50%) および定期試験 (50%) の合計で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：自発的にテキストを読んでおくこと。 復習：Web 上から授業プリントをダウンロードし反復練習すること。				
教科書	「ドイツ語ベーシック・コース」三修社。大園正彦ほか。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	受講の心得			
第 2 回	ドイツ語 I 復習	序 - Lektion 4 復習			
第 3 回	Lektion 5	前置詞			
第 4 回	Lektion 5	練習問題			
第 5 回	Lektion 6	冠詞類			
第 6 回	Lektion 6	練習問題			
第 7 回	文法まとめ③	Lektion 5-6 復習			
第 8 回	Lektion 7	分離動詞			
第 9 回	Lektion 7	練習問題			
第 10 回	Lektion 8	再帰動詞			
第 11 回	Lektion 8	練習問題			
第 12 回	Lektion 9	話法の助動詞			
第 13 回	Lektion 9	練習問題			
第 14 回	文法まとめ④	Lektion 7-9 復習			
第 15 回	プレテスト	テスト形式による Lektion 5-9 復習			

経済

授業番号	B200180001				
科目名 (英語表記)	ドイツ語 III (German I I I)				
担当者 (英語表記)	志村 哲也 (Tetsuya Shimura)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	長文読解を中心としたテキストを用い、初級文法の復習を交えつつ徐々に高度なドイツ語の習得を目指す。また独和辞典を使いこなせるようにする。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストをレッスン毎に読み進める。毎回配布する授業プリント (小テスト) が出席調査票・受講証明書となるので、必ず授業時間内に提出し、返却後も保管すること。ドイツ語 I・II 不合格者は原則として受講不可。				
成績評価方法	平常点 (50%) および定期試験 (50%) の合計で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：長文読解は宿題とし、授業で答え合わせをする。 復習：Web 上から授業プリントをダウンロードし反復練習すること。				
教科書	「ヴァインズベルグー私の郷里の町」朝日出版社。ヴェルナー・アンゲリカほか。				
参考文献	独和辞典必須 (初回授業で紹介する)。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	受講の心得			
第 2 回	ドイツ語 I・II 復習	アルファベット、発音、初級文法			
第 3 回	Lektion 1	動詞の現在人称変化 (1)、動詞 sein の現在人称変化、疑問詞、定動詞の位置 (1)			
第 4 回	Lektion 1	長文読解			
第 5 回	Lektion 2	動詞 haben の現在人称変化、名詞の性と冠詞、名詞の複数形、定動詞の位置 (2)			
第 6 回	Lektion 2	長文読解			
第 7 回	Lektion 3	動詞の現在人称変化 (2)、命令法、非人称動詞、前置詞の格支配			
第 8 回	Lektion 3	長文読解			
第 9 回	Lektion 4	定冠詞類、不定冠詞類、疑問代名詞			
第 10 回	Lektion 4	長文読解			
第 11 回	Lektion 4	長文読解 (承前)			
第 12 回	Lektion 5	複合動詞、動詞の 3 基本形と過去人称変化			
第 13 回	Lektion 5	長文読解			
第 14 回	Lektion 5	長文読解 (承前)			
第 15 回	まとめ	Lektion 1-5 復習			

経済

授業番号	B200190002				
科目名 (英語表記)	ドイツ語 IV (German I V)				
担当者 (英語表記)	志村 哲也 (Tetsuya Shimura)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	ドイツ語Ⅲに引き続き中級独文法に習熟しつつ、更に高度な長文読解力を身に付ける。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストをレッスン毎に読み進める。毎回配布する授業プリント (小テスト) が出席調査票・受講証明書となるので、必ず授業時間内に提出し、返却後も保管すること。ドイツ語Ⅰ・Ⅱ不合格者は原則として受講不可。				
成績評価方法	平常点 (50%) および定期試験 (50%) の合計で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：長文読解は宿題とし、授業で答え合わせをする。 復習：Web 上から授業プリントをダウンロードし反復練習すること。				
教科書	「ヴァインズベルグー私の郷里の町」朝日出版社。ヴェルナー・アンゲリカほか。				
参考文献	独和辞典必須 (初回授業で紹介する)。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	受講の心得			
第 2 回	ドイツ語Ⅲ復習	Lektion 1-5 復習			
第 3 回	Lektion 6	形容詞の付加語的用法、再帰動詞、再帰代名詞			
第 4 回	Lektion 6	長文読解			
第 5 回	Lektion 6	長文読解 (承前)			
第 6 回	Lektion 7	話法の助動詞、未来			
第 7 回	Lektion 7	長文読解			
第 8 回	Lektion 7	長文読解 (承前)			
第 9 回	Lektion 8	現在完了			
第 10 回	Lektion 8	長文読解			
第 11 回	Lektion 8	長文読解 (承前)			
第 12 回	Lektion 9	受動			
第 13 回	Lektion 9	長文読解			
第 14 回	Lektion 9	長文読解 (承前)			
第 15 回	まとめ	Lektion 6-9 復習			

# 経済

授業番号	B200460001		
科目名 (英語表記)	統計学 I (Statistics I)		
担当者 (英語表記)	小林 忠 (Tadashi Kobayashi)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	記述統計学から推測統計学に至る現代統計学の基礎と基本的な統計手法の習得を目標とし、多くの実例から統計的なものの見方、考え方を丁寧に紹介します。		
授業の進め方 (履修条件など)	基本となる概念、定義を繰り返し説明しますので、欠席せずに受講すれば理解できる講義内容です。数学に関する予備知識としては、高校での数学 I 程度を必要とします。毎回演習を行います。		
成績評価方法	試験成績 80%、授業参加態度 20%		
基準			
授業の予習・復習	予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。 復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。		
教科書	小寺平治著『新統計学入門』裳華房		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	概論	概論	
第 2 回	標本データの記述	データの分類、グラフによる表示	
第 3 回	標本データの記述	算術的記述	
第 4 回	標本データの記述	標準偏差の意味	
第 5 回	標本データの記述	中央値、最頻値	
第 6 回	確率	標本空間、事象の確率	
第 7 回	確率	加法、乗法の定理	
第 8 回	確率	独立事象の乗法の定理	
第 9 回	確率	ベイズの定理	
第 10 回	確率	計数の方法、順列組合せ (1)	
第 11 回	確率	計数の方法、順列組合せ (2)	
第 12 回	確率分布	確率変数、期待値、分散	
第 13 回	確率分布	離散型変数、連続型変数	
第 14 回	確率分布	確率分布の性質 (1)	
第 15 回	確率分布	確率分布の性質 (2)	

経済

授業番号	B200470001				
科目名 (英語表記)	統計学 II (Statistics II)				
担当者 (英語表記)	小林 忠 (Tadashi Kobayashi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	記述統計学から推測統計学に至る現代統計学の基礎と基本的な統計手法の習得を目標とし、多くの実例から統計的なものの見方、考え方を丁寧に紹介します。				
授業の進め方 (履修条件など)	「統計学 I」に続く講義である。「統計学 I」を履修済みのこと。 基本となる概念、定義を繰り返し説明しますので、欠席せずに受講すれば理解できる講義内容です。数学に関する予備知識としては、高校での数学 I 程度を必要とします。毎回演習を行います。				
成績評価方法	試験成績 80%、授業参加態度 20%				
基準					
授業の予習・復習	予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。 復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。				
教科書	小寺平治著『新統計学入門』裳華房				
参考文献	東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』東京大学出版会				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	主な確率分布	二項分布			
第 2 回	主な確率分布	正規分布 (1)			
第 3 回	主な確率分布	正規分布 (2)			
第 4 回	主な確率分布	大数の法則、中心極限定理			
第 5 回	標本抽出	無作為抽出、不偏推定値			
第 6 回	標本抽出	正規母集団からの抽出 (1)			
第 7 回	標本抽出	正規母集団からの抽出 (2)			
第 8 回	標本抽出	非正規母集団からの抽出			
第 9 回	推定	点推定と区間推定			
第 10 回	推定	点推定の考え方とその手順			
第 11 回	推定	区間推定			
第 12 回	仮説検定	検定の考え方			
第 13 回	仮説検定	正規母集団に対する仮説検定			
第 14 回	相関と回帰	直線回帰			
第 15 回	相関と回帰	最小二乗法			

# 経済

授業番号	B201010001				
科目名 (英語表記)	統計学総論 I (Statistics introduction I)				
担当者 (英語表記)	稲葉 弘道 (Hiromichi Inaba)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済社会の諸現象を理解するには質的だけでなく数量的に分析することが不可欠です。数量的に分析するための手法としての統計学を初歩から勉強します。理論よりも、実際にどのように統計学が利用されるかを学びます。使用する教科書はハンバーガーショップの経営で必要となる統計手法を題材にしています。				
授業の進め方 (履修条件など)	統計分析にはパソコン(EXCEL)を使います。レジュメなどは、ネットワーク上に掲示します。この講義に必要なパソコンやネットワークの知識は初歩から説明します。				
成績評価方法	定期試験 ( 50 %)・課題作成 ( 20 %)・授業参加態度 ( 30 %)				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書をよく読んでおくこと。 復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行っておく。 特にパソコンでの課題と実習は常に行うこと。				
教科書	向後千春・富永敦子著『統計学がわかる ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学』技術評論社				
参考文献	小島寛之著『統計学入門』ダイヤモンド社 唯是康彦編著『EXCEL で学ぶ経済統計入門』東洋経済新報社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要			
第 2 回	パソコン操作基礎	パソコン操作の再確認			
第 3 回	表計算操作法	表、グラフ作成			
第 4 回	表計算操作法	絶対参照座標			
第 5 回	ポテトの長さは揃っている	平均と度数分布			
第 6 回	ポテトの長さは揃っている	分散と標準偏差			
第 7 回	ポテトの本数はどのくらい	母集団と標本			
第 8 回	ポテトの本数はどのくらい	区間推定の考えと信頼区間			
第 9 回	ライバル店と売り上げを比較	仮説検定の考え方			
第 10 回	ライバル店と売り上げを比較	カイ 2 乗検定			
第 11 回	どちらの商品がウケていますか	平均の差の信頼区間			
第 12 回	どちらの商品がウケていますか	t 検定 (対応なし)			
第 13 回	もっと詳しく調べたい	対応があるとは?			
第 14 回	もっと詳しく調べたい	t 検定 (対応あり)			
第 15 回	まとめ	まとめと質疑応答			

# 経済

授業番号	B201020001				
科目名 (英語表記)	統計学総論 II (Statistics introduction II)				
担当者 (英語表記)	稲葉 弘道 (Hiromichi Inaba)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	統計学総論 I と同様に、理論的よりも、実際にどのように統計学が利用されるかを学びます。使用する教科書はハンバーガーショップとアイスクリームショップの経営に必要となる統計学です。アイスクリームの需要と温度の関係など、実践的な分析手法を学びます。				
授業の進め方 (履修条件など)	統計分析にはパソコン (EXCEL) を使います。レジュメなどは、ネットワーク上に掲示します。統計学総論 I の内容を理解しているものとして、講義を進めます。				
成績評価方法	定期試験 ( 50 %) ・ 課題作成 ( 20 %) ・ 授業参加態度 ( 30 % )				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書をよく読んでおくこと。 復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行っておく。 特にパソコンでの課題と実習は常に行うこと。				
教科書	向後千春・富永敦子著『統計学がわかる ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学』技術評論社 向後千春・富永敦子著『統計学がわかる 回帰分析・因子分析編 アイスクリームで味わう、“関係”の統計学』技術評論社				
参考文献	小島寛之著『統計学入門』ダイヤモンド社 唯是康彦編著『EXCEL で学ぶ経済統計入門』東洋経済新報社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要			
第 2 回	3 つ目のライバル店現る	3 つともえのポテト競争			
第 3 回	3 つ目のライバル店現る	分散分析 ( 1 要因 )			
第 4 回	新メニューで差をつける	分散分析 ( 2 要因 )			
第 5 回	最高気温と客数の関係を知りたい	散布図			
第 6 回	相関の強さを知りたい	相関係数の計算			
第 7 回	相関の強さを知りたい	相関係数の意味			
第 8 回	その相関係数の意味はあるのか	無相関検定			
第 9 回	最高気温で客数を予測したい	回帰分析の原理			
第 10 回	最高気温で客数を予測したい	回帰直線の計算			
第 11 回	最低気温と客数の関係を知りたい	偏相関			
第 12 回	最低気温と客数の関係を知りたい	もうひとつの偏相関係数			
第 13 回	最高気温と最低気温から客数を予測したい	重回帰モデルでの予測			
第 14 回	最高気温と最低気温から客数を予測したい	重回帰分析の信頼性			
第 15 回	まとめ	まとめと質疑応答			

# 経済

授業番号	B200810001				
科目名 (英語表記)	日本経済史 I (The Japanese economic history I)				
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	近代日本 (明治時代) の経済成長の歴史を、近世 (江戸時代) から考える。この授業を通じて、近代日本経済史の通史的な理解が得られること、とりわけ資本主義成立過程についての理解を獲得することが目標である。また、毎回の授業テーマについて、内容要約文を書く課題を与える。論理的な文章を書く技術を修得してもらいたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回の授業内容をまとめたレジュメに基づいて講義を行います。講義を聴きながら、レジュメにキーワードや、まとめの文章などを記入する。最後に授業内容を確認するプリントを提出してもらいます。				
成績評価方法	定期試験 70%、毎回提出するプリント 30%				
基準					
授業の予習・復習	予習：参考文献を読むこと。復習：毎回の授業テーマを要約する文章を書いておくこと。希望者には添削指導を行う。				
教科書	使用しない。毎回レジュメを配布する。				
参考文献	三和良一『概説日本経済史』第2編 (東京大学出版会、2002年)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の進め方、日本経済史とはどのような学問か			
第2回	第1講 経済史入門	生産様式による時代区分			
第3回	第2講 幕藩制的全国市場	全国的流通の成立			
第4回	第3講 近世の都市商業	流通に介在する新興商人の経営形態、経営管理の発展			
第5回	第4講 藩政改革と重商主義	藩政改革にみる国産化と重商主義政策			
第6回	第5講 開国と資本主義への包摂	開国の経済的影響			
第7回	第6講 明治維新と資本制社会	資本制社会構成体の成立			
第8回	第7講 明治前期の財政と金融	地租改正、国立銀行、秩禄処分			
第9回	第8講 殖産興業	殖産興業政策、官業払下げ			
第10回	第9講 原蓄過程	大隈財政、松方財政			
第11回	第10講 日本の産業革命	産業革命のメルクマール			
第12回	第11講 近代産業の発達①	綿紡績業、製糸業			
第13回	第12講 近代産業の発展②	重工業			
第14回	予備試験	定期試験の予備的試験、論述のポイントを解説			
第15回	まとめ	答案の返却、採点講評、前期授業全体のポイント解説			



# 経済

授業番号	B200820001		
科目名 (英語表記)	日本経済史 II (The Japanese economic history II)		
担当者 (英語表記)	小山 幸伸 (Yukinobu Koyama)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	"現代日本の経済政策の歴史を、理論を踏まえて考える。この授業を通じて、現代日本経済史の通史的な理解が得られること、その理論的な背景についての理解を獲得することが目標である。また、毎回の授業テーマについて、内容要約文を書く課題を与える。論理的な文章を書く技術を修得してもらいたい。"		
授業の進め方 (履修条件など)	"毎回の授業内容をまとめたレジュメに基づいて講義を行います。講義を聴きながら、レジュメにキーワードや、まとめの文章などを記入する。最後に授業内容を確認するプリントを提出してもらいます。"		
成績評価方法	定期試験 70%、毎回提出するプリント 30%		
基準			
授業の予習・復習	予習：参考文献を読むこと。復習：毎回の授業テーマを要約する文章を書いておくこと。希望者には添削指導を行う。		
教科書	使用しない。毎回レジュメを配布する。		
参考文献	三和良一『概説日本経済史』第2編 (東京大学出版会、2002年)		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	第13講 日清・日露期の日本経済	財政の拡大と近代化、日本の植民地経営	
第2回	第14講 第1次世界大戦期の日本経済	大戦ブーム、戦後恐慌	
第3回	第15講 1920年代の日本経済	世界経済の構造変化、日本経済の新局面	
第4回	第16講 金融恐慌	割引現在価値、震災手形処理問題	
第5回	第17講 金解禁	金本位制の機能	
第6回	第18講 昭和恐慌	昭和恐慌、ドル買いとテロ	
第7回	第19講 高橋財政	有効需要の創出	
第8回	第20講 戦時統制経済	ブロック経済、統制経済	
第9回	第21講 戦後の経済改革	財閥解体、農地改革、労働改革	
第10回	第22講 戦後の経済復興	金融緊急措置令、傾斜生産方式、ドッジラインと安定恐慌	
第11回	第23講 高度経済成長①	景気変動、耐久消費財の発展と設備投資	
第12回	第24講 高度経済成長②	二重構造 (大企業と中小企業・過疎と過密)、市場の失敗 (四大公害訴訟)	
第13回	第25講 安定成長からバブル経済	2つのショックと安定成長、プラザ合意とバブル景気	
第14回	予備試験	定期試験の予備的試験、論述のポイントを解説	
第15回	まとめ	答案の返却、採点講評、後期授業全体のポイント解説	

# 経済

授業番号	B201490001		
科目名 (英語表記)	日本経済地理 (Japanese economic geography)		
担当者 (英語表記)	青木 英一 (Hidekazu Aoki)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本の首都圏、近畿圏、中京圏など場所が異なると、そこに展開する産業も違った特徴を見せています。どのように違うのか、なぜ違うのか、違うことにどのような意味があるのかについて考察していきます。授業を通して日本各地の地域性を正しく認識できるようになるのが目標です。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業は教科書を用いて行います。最初は経済地理学的なものの考え方を説明し、その後に、日本を首都圏、近畿圏、中京圏などいくつかの地域に分けて、それぞれの地域の産業を中心とした経済地理的な特徴を説明していきます。毎時間、コメントカードを提出してもらいます。		
成績評価方法	定期試験 (50%) と平常点 (50%、コメントカードの内容による) で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	教科書を予め読んで授業内容のポイントをつかんでおき、授業後は教科書やノートを見直しておくこと。		
教科書	青木英一・北村嘉行『世界を読む 改訂版』 原書房		
参考文献	竹内淳彦編著『日本経済地理読本 第8版』 東洋経済新報社 山本健児『経済地理学入門 新版』 原書房		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	授業の方針、教科書・参考文献の説明	
第2回	経済地理学の目的と方法	経済地理学とは何か、経済地理学の方法論	
第3回	都市と農村	都市化、都市圏の形成	
第4回	風土の地域差	関東と関西の相違	
第5回	首都圏 (1)	環境と産業	
第6回	首都圏 (2)	一極集中の形成と変容	
第7回	近畿圏	複核構造の都市圏と産業	
第8回	中京圏	多核的産業都市群の形成	
第9回	回廊地帯	交通体系の変容と産業変化	
第10回	日本海岸	風土的特質と環日本海経済圏	
第11回	東北	首都圏との一体化と産業変化	
第12回	北海道	道内産業の特質	
第13回	瀬戸内	域内連関の弱い産業	
第14回	九州	環東シナ海経済圏の形成	
第15回	まとめ	授業内容のまとめ	

# 経済

授業番号	B201470001		
科目名 (英語表記)	日本経済論 I (Japanese economy theory I)		
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	マクロ経済の視点から日本の経済復興と高度成長、中成長への移行、バブル経済の発生と崩壊、経済危機と構造改革について論じる。高度成長からバブル経済の崩壊と長期不況に至る時期を中心として、日本経済がこれまでどのような問題に直面し、どのように対処してきた結果今日に至るのかを知ることを目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	本科目では、上記の内容を中心に、経済の構造変化に直面した日本経済がどのように対応してきたのかという点から考える。テーマごとに論述課題を課し、成績評価に反映させるとともに試験勉強の際の参考に供する。		
成績評価方法 基準	定期試験 (80%)、レポート及びその他の課題 (20%) を考慮して評価する。ただし著しい出席不良・課題提出不良者には定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。		
授業の予習・復習	予習：前回の講義での説明を参考にして、必要に応じて参考文献の関連する部分などを見ておく。 復習：参考文献や毎回配布するプリントなどをを用いた復習を欠かさないこと。		
教科書	指定しない。毎回プリントを配布する。ただし、以下の参考文献のうち少なくとも1つを見ておくこと。		
参考文献	正村公宏・山田節夫「日本経済論」東洋経済新報社。 篠原総一・浅子和美編「入門日本経済 (第4版)」有斐閣。 小峰隆夫「最新日本経済入門 (第3版)」日本評論社。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	はじめに	日本経済論の分析対象・前期および年間の計画	
第2回	日本経済の現在と課題 (1)	今日の日本経済の姿	
第3回	日本経済の現在と課題 (2)	世界の中で見た日本経済、直面する問題の整理	
第4回	日本経済の歩み・復興から高度成長へ	高度成長を準備した諸条件	
第5回	日本経済の歩み・高度経済成長 (1)	高度成長のメカニズム (投資が投資を呼ぶ)	
第6回	日本経済の歩み・高度経済成長 (2)	高度成長の帰結 (国際収支の天井と構造変化)	
第7回	日本経済の歩み・高度成長の終わり (1)	通貨危機と石油危機	
第8回	日本経済の歩み・高度成長の終わり (2)	企業の対応と財政政策の転換	
第9回	日本経済の歩み・中成長とバブル (1)	財政危機と失業の深刻化	
第10回	日本経済の歩み・中成長とバブル (2)	対外不均衡と円高、日本経済のストック化	
第11回	日本経済の歩み・中成長とバブル (3)	バブル経済を準備した諸要因	
第12回	バブル経済の形成と崩壊 (1)	バブル経済形成のメカニズム	
第13回	バブル経済の形成と崩壊 (2)	バブル経済の崩壊と実物経済への打撃	
第14回	バブル経済の形成と崩壊 (3)	平成不況と「失われた20年」	
第15回	バブル経済の形成と崩壊 (4)	日本経済の構造改革、講義全体のまとめ	

# 経済

授業番号	B201480001		
科目名 (英語表記)	日本経済論 II (Japanese economy theory II)		
担当者 (英語表記)	馬場 正弘 (Masahiro Baba)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	今日の日本経済が直面し、解決を迫られている様々な課題について、産業、企業、雇用問題などを中心に日本の経済システムの変容という観点から分野別に展望する。かつて日本経済の強さの理由として語られていたこのシステムが、構造変動に直面してむしろ改革と成長を阻む壁になりうることを明らかにすることを目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	本科目では、上記の内容を中心に、経済の構造変化に直面した日本経済がどのように対応してきたのかという点から考える。テーマごとに論述課題を課し、成績評価に反映させるとともに試験勉強の際の参考に供する。		
成績評価方法 基準	定期試験 (80%)、レポート及びその他の課題 (20%) を考慮して評価する。ただし著しい出席不良・課題提出不良者には定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。		
授業の予習・復習	予習：前回の講義での説明を参考にして、必要に応じて参考文献の関連する部分などを見ておく。 復習：テキストや毎回配布するプリントなどを用いた復習を欠かさないこと。		
教科書	指定しない。毎回プリントを配布する。ただし、以下の参考文献のうち少なくとも1つを見ておくこと。		
参考文献	<p>篠原総一・浅子和美編「入門日本経済 (第4版)」有斐閣。</p> <p>星岳雄・アノル .K. カシャップ「何が日本の経済成長を止めたのか」日本経済新聞出版社。</p> <p>小峰隆夫「最新日本経済入門 (第3版)」日本評論社。</p> <p>上記を中心に次のものも適宜参照。</p> <p>田中隆之『金融危機にどう立ち向かうか (ちくま新書)』筑摩書房。</p> <p>正村公宏・山田節夫「日本経済論」東洋経済新報社。</p>		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	はじめに	今日の日本経済の課題・後期授業計画について	
第2回	財政・金融システム危機と構造改革 (1)	平成不況と財政危機	
第3回	財政・金融システム危機と構造改革 (2)	不良債権問題と金融システムの危機	
第4回	財政・金融システム危機と構造改革 (3)	日本型経済システムの限界と構造改革	
第5回	財政・金融システム危機と構造改革 (4)	構造改革政策をめぐる評価	
第6回	日本の産業構造の変化 (1)	日本の産業構造を変化させた要因	
第7回	日本の産業構造の変化 (2)	「リーディング・インダストリー」論について	
第8回	日本企業の行動と構造変化 (1)	日本の企業システム～企業を取り巻く環境変化	
第9回	日本企業の行動と構造変化 (2)	日本の企業システム～コーポレートガバナンス	
第10回	日本企業の行動と構造変化 (3)	構造変化のなかでの企業と政府の課題	
第11回	日本の雇用システム (1)	日本的雇用システムの特徴	
第12回	日本の雇用システム (2)	日本的雇用システムの変化	
第13回	日本の雇用システム (3)	若年層と女性の就労をめぐる問題	
第14回	財政と構造改革 (1)	財政構造改革、公共投資の構造改革	
第15回	財政と構造改革 (2)	公的部門の構造改革、講義内容のまとめ	

経済

授業番号	B200240002				
科目名 (英語表記)	日本語 I (Japanese I)				
担当者 (英語表記)	沢野 美由紀 (Miyuki Sawano)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	大学の講義を受講するために必要な日本語力の向上を目指す。「読む・書く・聞く・話す」の4技能を総合的に伸ばすこと、また、レポートや論文を作成するための日本語表現技術の習得を目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的にテキストに沿って行う。各課の理解を確認し演習問題を行いながら、補強すべきと思われる点については適宜資料を配布し、学習する。時事問題の理解のために新聞記事の読解やニュースの聞き取りなども行う。				
成績評価方法	定期試験 (50%) 授業内小テスト (20 %) レポート及びその他の課題 (30%)				
基準					
授業の予習・復習	新たに学習する課について新出語彙等の確認を行い、講義後は学習した項目について与えられた課題を行う。				
教科書	『小論文への12のステップ』友松悦子著 スリーエーネットワーク 『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』銅直信子・坂東実子著 国書刊行会				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	日本語の表記 1	日本語の表記のしかた			
第2回	日本語の表記 2	句読点の打ち方・原稿用紙の使い方			
第3回	日本語の表記 3	日本語の表記まとめ			
第4回	紹介文 1-1	紹介文「私の好きなもの (こと)」			
第5回	紹介文 1-2	紹介文「私の好きなもの (こと)」			
第6回	紹介文スピーチ 1	「私の好きなもの (こと)」スピーチ、フィードバック			
第7回	日本語の文体 1	文章の種類と文体			
第8回	日本語の文体 2	書き言葉の文体			
第9回	日本語の文体 3	日本語の文体まとめ			
第10回	文体のモードチェンジ 1	小論文の文体			
第11回	文体のモードチェンジ 2	叙述文			
第12回	紹介文 2-1	紹介文「私の故郷」			
第13回	紹介文 2-2	紹介文「私の故郷」			
第14回	紹介文スピーチ 2	「私の故郷」スピーチ、フィードバック			
第15回	まとめ	1～15回のまとめ			

経済

授業番号	B200250002		
科目名 (英語表記)	日本語 II (Japanese I I)		
担当者 (英語表記)	沢野 美由紀 (Miyuki Sawano)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	日本語 I で学んだことをベースに、更なる日本語力の向上を目指す。日本語 II では、各自テーマを決めアンケート調査を行って、レポートを作成する。また、プレゼンテーションの技法を学び、調査結果について発表を行う。		
授業の進め方 (履修条件など)	基本的にテキストに沿って行う。各課の理解を確認し、演習問題を行う。補強すべきと思われる点については、適宜資料を配布し、学習する。また、時事問題に加え、ビジネス日本語なども学ぶ。		
成績評価方法	定期試験 (50%) 授業内小テスト (20%) レポート及びその他の課題 (30%)		
基準			
授業の予習・復習	新たに学習する課、また、講義で学習した項目について、その都度予習と復習の内容と方法を指示する。		
教科書	『小論文への 12 のステップ』友松悦子著 スリーエーネットワーク 『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』銅直信子・坂東実子著 国書刊行会		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	文の構造 1	主語と述語	
第 2 回	文の構造 2	修飾語・被修飾語、文末制限	
第 3 回	文のつながり 1	指示語	
第 4 回	文のつながり 2	接続の表現	
第 5 回	賛成・反対の意見文 1	意見文の書き方	
第 6 回	賛成・反対の意見文 2	意見文を書く	
第 7 回	小論文に用いる表現 1	文末表現	
第 8 回	小論文に用いる表現 2	助詞相当語	
第 9 回	段落 1	段落と中心文	
第 10 回	段落 2	中心文・支持文	
第 11 回	アンケート調査 1	テーマと目的の決定	
第 12 回	アンケート調査 2	質問項目の作成	
第 13 回	アンケート調査 3	データの分析と考察	
第 14 回	アンケート調査 4	プレゼンテーションのアウトラインを考える	
第 15 回	アンケート調査 5	プレゼンテーション・フィードバック	

経済

授業番号	B200260001				
科目名 (英語表記)	日本語 III (Japanese I I I)			(A)	
担当者 (英語表記)	沢野 美由紀 (Miyuki Sawano)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	論理的な日本語の文章を読むにはどのような技法が必要かということを中心に学ぶ。レポート・論文などの資料を理解するために必要な日本語の表現、文の構成等について学習し、専門的な資料が読めるようになることを目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的にテキストに沿って行う。各課の理解を確認し、演習問題を行う。さらに、新聞、雑誌の記事や一般書、時事問題をもとに、ディスカッションや意見発表を行う。				
成績評価方法	定期試験 (50%) 授業内小テスト (20%) レポートおよびその他の課題 (30%)				
基準					
授業の予習・復習	予習として、事前に教材を読み、語彙や意味を調べておく。復習の内容と方法はその都度指示する。				
教科書	『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』 一橋大学留学生センター 『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』 銅直信子・坂東実子著 国書刊行会				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	文の内容理解 1	キーワードの探し方			
第 2 回	文の内容理解 2	キーワードを用いた要約			
第 3 回	文の内容理解 3	応用文の読解			
第 4 回	文の主題 1	主題を探す			
第 5 回	文の主題 2	序論と本論			
第 6 回	文の主題 3	応用文の読解			
第 7 回	文の主張を読み取る 1	文章の「問い」を探す			
第 8 回	文の主張を読み取る 2	論点表示文			
第 9 回	文の主張を読み取る 3	応用文の読解			
第 10 回	歴史を扱った文章 1	ものごとの因果関係・前後関係の理解			
第 11 回	歴史を扱った文章 2	時系列に沿った文章の読み方			
第 12 回	歴史を扱った文章 3	応用文の読解			
第 13 回	時事問題を読む 1	記事の構成を理解する			
第 14 回	時事問題を読む 2	記事を要約する			
第 15 回	時事問題を読む 3	記事をもとにしたディスカッション			

経済

授業番号	B200260002				
科目名 (英語表記)	日本語 III (Japanese I I I)			(C)	
担当者 (英語表記)	銅直 信子 (Nobuko Dobeta)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	アカデミックな場面で必要とされる応用的な日本語の口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。教科書に掲載されている論説文を読んだり、論文分析を行うことで、読む力、書く力を向上させる。特にこの授業では日本語という言語を通して日本の文化や社会について考えることを目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	まず、教科書・論文・ビデオやDVDの中に出てくる語彙を理解する。意味や用法を確認し、小レポートを書く際に使えるように準備する。全員が情報を共有した後、各自小レポートにまとめて提出する。				
成績評価方法	定期試験 50%、レポート・クラス内テスト 30%、発表点 10%、クラス活動点 10%で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：語彙リストの中の漢字の読み方・語彙の意味を事前に調べておく。わからない語彙は授業中に確認する。 復習：返却された小レポート類の誤用の原因を確認し、正しい用法を理解する。各課の漢小テストがあるので準備しておく。				
教科書	『大学生のための文章表現&口頭発表 練習帳』 図書刊行会 1600円+税				
参考文献	『ストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』 一橋大学留学生センター スリーエーネットワーク 『大学・大学院 留学生の日本語』③論文読解編④論文作成編 アルク				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ストラテジーを身につける	漢字・語彙の確認→練習問題			
第2回	何の話かをつかむ	本文を精読し設問に答える。			
第3回	何の話かをつかむ	練習問題と要約文 漢字小テスト			
第4回	文章表現 第6課 before / after の文章 2	設計図に沿ってアウトラインを作成する。→提出→添削			
第5回	before / after の文章 2	添削された設計図に基づいて、作文を仕上げる。			
第6回	何が問題かをつかむ	練習問題と要約文 漢字小テスト			
第7回	新聞教材を読む	設計図に沿って3段落の意見文を書く。			
第8回	言いたいことをつかむ	序論・本論・結論の流れをつかむ。日本語表現を理解し覚える。			
第9回	言いたいことをつかむ	問題提起文・結論表示文を見つける。			
第10回	言いたいことをつかむ	本文を精読し設問に答える。			
第11回	口頭発表 第8課 プレゼンテーション	2課「何が問題になっているかをつかむ」の1.2.3.4から一つテーマを選び各グループで資料を収集する。			
第12回	口頭発表 第8課 プレゼンテーション	発表用のレジュメ、スクリプトを作成する。			
第13回	プレゼンテーション	パワーポイントを使って発表する。			
第14回	プレゼンテーション	パワーポイントを使って発表する。			
第15回	レポート作成	収集した資料を基にレポートを仕上げる(800字)。			



経済

授業番号	B200260003				
科目名 (英語表記)	日本語 III (Japanese I I I)			(B)	
担当者 (英語表記)	銅直 信子 (Nobuko Dobeta)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	論理的な日本語の文章を読むにはどのような技法が必要かということを中心に学ぶ。レポート・論文などの資料を理解するために必要な日本語の表現、文の構成等について学習し、専門的な資料が読めるようになることを目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的にテキストに沿って行う。各課の理解を確認し、演習問題を行う。さらに、新聞、雑誌の記事や一般書、時事問題をもとに、ディスカッションや意見発表を行う。				
成績評価方法	定期試験 (50%) 授業内小テスト (20%) レポートおよびその他の課題 (30%)				
基準					
授業の予習・復習	予習として、事前に教材を読み、語彙や意味を調べておく。復習の内容と方法はその都度指示する。				
教科書	『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』 一橋大学留学生センター 『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』 銅直信子・坂東実子著 国書刊行会				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	文の内容理解 1	キーワードの探し方			
第 2 回	文の内容理解 2	キーワードを用いた要約			
第 3 回	文の内容理解 3	応用文の読解			
第 4 回	文の主題 1	主題を探す			
第 5 回	文の主題 2	序論と本論			
第 6 回	文の主題 3	応用文の読解			
第 7 回	文の主張を読み取る 1	文章の「問い」を探す			
第 8 回	文の主張を読み取る 2	論点表示文			
第 9 回	文の主張を読み取る 3	応用文の読解			
第 10 回	歴史を扱った文章 1	ものごとの因果関係・前後関係の理解			
第 11 回	歴史を扱った文章 2	時系列に沿った文章の読み方			
第 12 回	歴史を扱った文章 3	応用文の読解			
第 13 回	時事問題を読む 1	記事の構成を理解する			
第 14 回	時事問題を読む 2	記事を要約する			
第 15 回	時事問題を読む 3	記事をもとにしたディスカッション			

経済

授業番号	B200270001				
科目名 (英語表記)	日本語 IV (Japanese I V)	(A)			
担当者 (英語表記)	沢野 美由紀 (Miyuki Sawano)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	日本語Ⅲ同様、論理的な日本語の文章を読むにはどのような技法が必要かということを中心に学び、それらを活用して専門にかかわるレポートが書けるようになることを到達目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的にテキストに沿って行う。各課の理解を確認し、演習問題を行う。後半は各自が専門にかかわる課題を設定し、レポートの作成とプレゼンテーションを行う。				
成績評価方法	定期試験 (50%) 授業内小テスト (20%) レポート及びその他の課題 (30%)				
基準					
授業の予習・復習	予習として、事前に教材を読み、語彙や意味を調べておく。復習の内容と方法はその都度指示する。				
教科書	『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』一橋大学留学生センター 『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』銅直信子・坂東実子著 国書刊行会				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	二項対立の文 1	対比を示す表現			
第 2 回	二項対立の文 2	二項対立の文の構造			
第 3 回	二項対立の文 3	応用文の読解			
第 4 回	明確な意見の表現 1	譲歩・逆接を示す表現			
第 5 回	明確な意見の表現 2	立場による主張の表現			
第 6 回	明確な意見の表現 3	応用文の読解			
第 7 回	順序を示す表現 1	列挙の構造と表現			
第 8 回	順序を示す表現 2	接続の表現			
第 9 回	順序を示す表現 3	応用文の読解			
第 10 回	レポート作成 1	テーマの設定			
第 11 回	レポート作成 2	参考文献を読む			
第 12 回	レポート作成 3	アウトラインを考える			
第 13 回	レポート作成 4	レポートを書く 1			
第 14 回	レポート作成 5	レポートを書く 2			
第 15 回	まとめ	プレゼンテーション・フィードバック			

# 経済

授業番号	B200270002		
科目名 (英語表記)	日本語 IV (Japanese I V)	(C)	
担当者 (英語表記)	銅直 信子 (Nobuko Dobeta)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	アカデミックな場面で必要とされる応用的な日本語の口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。教科書に掲載されている論説文を読んだり、論文分析を行うことで、読む力、書く力を向上させる。自分の思いや考えを説得力をもって話したり、書いたりするにはどのような技法が必要かをグループ学習を通して学んでいく。立論・反論を組み立て、最後にディベートマッチを行い、各自意見文を提出する(800~1000字)。		
授業の進め方 (履修条件など)	まず、教科書・論文・ビデオやDVDの中に出てくる語彙を理解する。意味や用法を確認し、小レポートを書く際に使えるように準備する。全員が情報を共有した後、各自小レポートにまとめて提出する。		
成績評価方法	定期試験 50%、レポート・クラス内テスト 30%、発表点 10%、クラス活動点 10%で評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：語彙リストの中の漢字の読み方・語彙の意味を事前に調べておく。わからない語彙は授業中に確認する。 復習：返却された小レポート類の誤用の原因を確認し、正しい用法を理解する。各課の漢字小テストがあるので準備しておく。		
教科書	『大学生のための文章表現&口頭発表 練習帳』 銅直信子・坂東実子 図書刊行会 1600円+税		
参考文献	『ストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』一橋大学留学生センター スリーエーネットワーク 『大学・大学院 留学生の日本語』③論文読解編④論文作成編 『留学生のための時代を読み解く上級日本語』スリーエーネットワーク		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	二項対立文	「死刑制度」に関する新聞教材を読む。	
第2回	二項対立文	外国人の参政権 論文を読む①	
第3回	二項対立文	「ディベート教育」に関する資料を読む。漢字小テスト	
第4回	二項対立文	「夫婦別姓制度」に関する新聞教材を読む。	
第5回	文章表現 第4課 賛成・反対の意見文2	夫婦別姓制度 論文を読む②	
第6回	筆者の立場	環境税導入 漢字小テスト	
第7回	賛成・反対の意見	筆者に賛成か反対か。	
第8回	賛成・反対の意見	根拠を3つに整理して書く。漢字小テスト	
第9回	文章を整理して理解	NGOについて 論文を読む③	
第10回	文章を整理して理解	DVDを視聴し意見を述べる。	
第11回	口頭発表 第6課 ディスカッション	メンバーのアイディアを出しながらマッピングしていく。 各グループで話し合ったことを報告する。	
第12回	口頭発表 第7課 ディベート	テーマを決め、資料を収集する。論文を読む④ 漢字小テスト	
第13回	第7課 ディベート	立論の根拠をを3つにまとめる。反論を予想し答えを考える。	
第14回	ディベートマッチ	4グループに分かれディベートマッチを行う。	
第15回	意見文	ディベートのテーマについて各自意見文を書く(800-1000)。	

経済

授業番号	B200270003		
科目名 (英語表記)	日本語 IV (Japanese I V)	(B)	
担当者 (英語表記)	銅直 信子 (Nobuko Dobeta)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	日本語Ⅲ同様、論理的な日本語の文章を読むにはどのような技法が必要かということを中心に学び、それらを活用して専門にかかわるレポートが書けるようになることを到達目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	基本的にテキストに沿って行う。各課の理解を確認し、演習問題を行う。後半は各自が専門にかかわる課題を設定し、レポートの作成とプレゼンテーションを行う。		
成績評価方法	定期試験 (50%) 授業内小テスト (20%) レポート及びその他の課題 (30%)		
基準			
授業の予習・復習	予習として、事前に教材を読み、語彙や意味を調べておく。復習の内容と方法はその都度指示する。		
教科書	『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』一橋大学留学生センター 『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』銅直信子・坂東実子著 国書刊行会		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	二項対立の文 1	対比を示す表現	
第 2 回	二項対立の文 2	二項対立の文の構造	
第 3 回	二項対立の文 3	応用文の読解	
第 4 回	明確な意見の表現 1	譲歩・逆接を示す表現	
第 5 回	明確な意見の表現 2	立場による主張の表現	
第 6 回	明確な意見の表現 3	応用文の読解	
第 7 回	順序を示す表現 1	列挙の構造と表現	
第 8 回	順序を示す表現 2	接続の表現	
第 9 回	順序を示す表現 3	応用文の読解	
第 10 回	レポート作成 1	テーマの設定	
第 11 回	レポート作成 2	参考文献を読む	
第 12 回	レポート作成 3	アウトラインを考える	
第 13 回	レポート作成 4	レポートを書く 1	
第 14 回	レポート作成 5	レポートを書く 2	
第 15 回	まとめ	プレゼンテーション・フィードバック	

経済

授業番号	B202440001				
科目名 (英語表記)	日本語検定講座 I (Japanese official approval lecture I)				
担当者 (英語表記)	飯田 真己 (Mami Iida)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本語 I・II を履修した学生を対象に「日本語能力試験」N1 に合格できる日本語能力を習得することを目標とする。「言語知識 (文字・語彙・文法)」「読解」「聴解」の各分野で合格のために必要とされる点数をクリアできるように、日本語能力試験の概要を把握した上で、各分野の設問の特徴を掴み、能力試験用の参考書・問題集に沿って練習を進めていく。2 回の模擬試験を行い、各学生にチャートを使って自分の弱点を分析させた後、対策方法を指導する				
授業の進め方 (履修条件など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業に全て参加すること</li> <li>・宿題、予習復習を積極的に行うこと</li> <li>・N1 の試験を受験すること</li> </ul>				
成績評価方法	授業参加態度 50%、第 5 週文字語彙テストと第 13 週文法テストの結果 50%				
基準					
授業の予習・復習	予習：テキストの予習、配布プリントの整理 (30 分) 復習：宿題、テスト準備 (3 時間)				
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語能力試験 N1 文法対策 (高橋書店)</li> <li>・日本語パワードリル N1 文字語彙 (アスク出版)</li> </ul>				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	文字語彙	N2 の復習			
第 2 回	文字語彙、読解	演習			
第 3 回	文字語彙、読解	演習			
第 4 回	文字語彙、読解	演習			
第 5 回	聴解、文字語彙テスト	聴解の演習、文字語彙テスト			
第 6 回	文法	N2 の復習			
第 7 回	文法、読解	演習			
第 8 回	文法、読解	演習			
第 9 回	文法、読解	演習			
第 10 回	文法、読解	演習			
第 11 回	文法テスト	文法テスト			
第 12 回	模擬試験 1	問題解説、聴解			
第 13 回	模擬試験 2	問題解説、聴解			
第 14 回	ビジネス日本語	実際の試験の聴解と問題の解説			
第 15 回	ビジネス日本語	実際の試験の聴解と問題の解説			

経済

授業番号	B202450001				
科目名 (英語表記)	日本語検定講座 II (Japanese official approval lecture II)				
担当者 (英語表記)	飯田 真己 (Mami Iida)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本語検定講座 I に続き、「日本語能力試験」N 1 に合格できる日本語能力を習得することを目標とする。各分野で合格のために必要とされる点数をクリアできるように、能力試験用の参考書・問題集に沿って練習を進めていく。2 回の模擬試験を実施し結果をチャートを使って分析し、伸びた分野、伸びない分野を認識した後、基準に達しない分野に関して課題を与え習熟させる。合格レベルに達した学生については、Can-do リストに沿った実践的能力の習得を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業に全て参加すること</li> <li>・宿題、予習復習を積極的に行うこと</li> <li>・N 1 の試験を受験すること</li> </ul>				
成績評価方法 基準	授業参加態度 5 0 %、第 5 週文字語彙テストと第 13 週文法テストの結果 5 0 %				
授業の予習・復習	予習：テキストの予習、配布プリントの整理 (30 分) 復習：宿題、テスト準備 (3 時間)				
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語能力試験 N1 文法対策 (高橋書店)</li> <li>・日本語パワードリル N 1 文字語彙 (アスク出版)</li> </ul>				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	文字語彙	N 2 の復習			
第 2 回	文字語彙、読解	演習			
第 3 回	文字語彙、読解	演習			
第 4 回	文字語彙、読解	演習			
第 5 回	聴解、文字語彙テスト	聴解の演習、文字語彙テスト			
第 6 回	文法	N 2 の復習			
第 7 回	文法、読解	演習			
第 8 回	文法、読解	演習			
第 9 回	文法、読解	演習			
第 10 回	文法、読解	演習			
第 11 回	文法テスト	文法テスト			
第 12 回	模擬試験 1	問題解説、聴解			
第 13 回	模擬試験 2	問題解説、聴解			
第 14 回	ビジネス日本語	実際の試験の聴解と問題の解説			
第 15 回	ビジネス日本語	実際の試験の聴解と問題の解説			

# 経済

授業番号	B200050001				
科目名 (英語表記)	入門経営学 (Introduction business administration)			(A)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>新入生の皆さんに、経営学に興味をもってもらうことが目的です。授業の受講により、経営学科にある「アジアビジネスコース」、「企業経営・会計コース」と「スポーツビジネスコース」の3コースの学習内容を理解し、2年次以降の学習の方向性を定めることを到達目標とします。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>履修条件：2008年以前の入学者は履修登録することができません。</p> <p>経営学科の教員が全員で分担し、各自の専門を中心に、わかりやすく講義します。学籍番号によるクラス分けを行ないますので、注意して下さい。</p>				
成績評価方法	レポートなどによって評価します。				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習：『授業計画書』に目を通して、各コースの講義内容を確認しておいて下さい。</p> <p>復習：教員が説明した専門用語を辞典等で確認して下さい。興味を持った事例についてメディアセンターで資料を探してみして下さい。</p>				
教科書	指定しません。必要に応じてプリント等を配布します。				
参考文献	指定しません。必要に応じてプリント等を配布します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	本科目の概要と運営方針			
第2回	アジアビジネスコース導入①	立地論から見たトヨタの特色			
第3回	アジアビジネスコース導入②	情報社会の経営～Amazon.comの戦略～			
第4回	アジアビジネスコース導入③	商業における構造と関係			
第5回	アジアビジネスコース導入④	小売業態のイノベーション			
第6回	アジアビジネスコース導入⑤	中国ビジネスのチャンスとリスク			
第7回	企業経営・会計コース導入①	企業活動と組織のマネジメント			
第8回	企業経営・会計コース導入②	企業と会計			
第9回	企業経営・会計コース導入③	付加価値ということ			
第10回	企業経営・会計コース導入④	会社法が定める会社とは			
第11回	スポーツビジネスコース①	クラブビジョンとサッカービジネス (講師：ジェフユナイテッド株式会社) (司会：藤井)			
第12回	スポーツビジネスコース②	首都圏に立地する球団の事業展開について (講師：株式会社千葉ロッテマリーンズ) (司会：高岡)			
第13回	スポーツビジネスコース③	消費者の態度形成と態度変容			
第14回	スポーツビジネスコース④	プロスポーツ・ビジネスの存立構造			
第15回	まとめ	各コース内容の振り返りとまとめ			

# 経済

授業番号	B200050002				
科目名 (英語表記)	入門経営学 (Introduction business administration)			(B)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	新入生の皆さんに、経営学に興味をもってもらうことが目的です。授業の受講により、経営学科にある「アジアビジネスコース」、「企業経営・会計コース」と「スポーツビジネスコース」の3コースの学習内容を理解し、2年次以降の学習の方向性を定めることを到達目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件：2008年以前の入学者は履修登録することができません。 経営学科の教員が全員で分担し、各自の専門を中心に、わかりやすく講義します。学籍番号によるクラス分けを行ないますので、注意して下さい。				
成績評価方法	レポートなどによって評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：『授業計画書』に目を通して、各コースの講義内容を確認しておいて下さい。 復習：教員が説明した専門用語を辞典等で確認して下さい。興味を持った事例についてメディアセンターで資料を探してみして下さい。				
教科書	指定しません。必要に応じてプリント等を配布します。				
参考文献	指定しません。必要に応じてプリント等を配布します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	本科目の概要と運営方針			
第2回	アジアビジネスコース導入①	立地論から見たトヨタの特色			
第3回	アジアビジネスコース導入②	情報社会の経営～Amazon.comの戦略～			
第4回	アジアビジネスコース導入③	商業における構造と関係			
第5回	アジアビジネスコース導入④	小売業態のイノベーション			
第6回	アジアビジネスコース導入⑤	中国ビジネスのチャンスとリスク			
第7回	企業経営・会計コース導入①	企業活動と組織のマネジメント			
第8回	企業経営・会計コース導入②	企業と会計			
第9回	企業経営・会計コース導入③	付加価値ということ			
第10回	企業経営・会計コース導入④	会社法が定める会社とは			
第11回	スポーツビジネスコース①	クラブビジョンとサッカービジネス (講師：ジェフユナイテッド株式会社) (司会：藤井)			
第12回	スポーツビジネスコース②	首都圏に立地する球団の事業展開について (講師：株式会社千葉ロッテマリーンズ) (司会：高岡)			
第13回	スポーツビジネスコース③	消費者の態度形成と態度変容			
第14回	スポーツビジネスコース④	プロスポーツ・ビジネスの存立構造			
第15回	まとめ	各コース内容の振り返りとまとめ			



# 経済

授業番号	B200040001				
科目名 (英語表記)	入門経済学 (Introduction economics)			(A)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>経済学とはどのような学問であり、経済学を含むどのような社会現象についてかについて理解することが目標です。専門の先生による経済学のテーマやトピックスについて学ぶことで、経済学科で学べることを知り、どのコースで専門的な勉強をするのかを決めるのに役立ちます。もちろん、経済系の教員をすべて知ることができます。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>ガイダンスで授業の進め方、勉強の仕方と評価の仕方について詳しい説明があります。</p> <p>第2回から第13回までは、一人の先生が一つのテーマについて1回ずつ講義をしていきます。</p> <p>各コースで学べる内容の簡単な説明については、各コースの最初の回に説明があります。</p> <p>第2回から第5回までは現代経済コース、 第6回から第9回までは公共経済コース、 第10回から第13回までは金融・情報コースです。</p>				
成績評価方法 基準	<p>予習・復習を含めた毎回の平常点と、最終回のレポートの内容によって決めます。</p> <p>レポートのテーマについては第14回に各コースの先生から30分程度説明・解説・質疑応答があります。</p> <p>それを踏まえて第15回ではレポート作成指導があります。</p>				
授業の予習・復習	<p>原則として予習は、数日前に添付ファイルなどで示される資料を読んで、場合によって問題に答えることによって行われます。</p> <p>復習は、原則として小テストや小レポートによって行われます。</p>				
教科書	<p>さまざまな先生が行うオムニバス授業ですので、予習用、講義用に用いられるプリントや配布資料などが教科書の代わりとなります。</p>				
参考文献	<p>各授業内で各先生から提示されます。</p>				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス (経済学科長)	この授業のねらい、効果的な勉強法、評価方法について			
第2回	現代経済コース 経済学の生誕 (折原)	経済学の父 アダム・スミス			
第3回	現代経済コース 経済学史 (加茂川)	経済学の歩み			
第4回	現代経済コース 一般経済史 (牧野)	世界経済の歩み			
第5回	現代経済コース 日本経済史 (小山)	日本経済の歩み			
第6回	公共経済コース 公共経済学 (仁平)	政府の意義と役割			
第7回	公共経済コース 財政学 (金子)	政府の収入と支出			
第8回	公共経済コース 社会政策 (星)	社会政策の意義			
第9回	公共経済コース メカニズムデザイン (和田)	政府の制度設計			
第10回	金融・情報コース 金融入門 (添田)	金融論を学ぶ意義			
第11回	金融・情報コース 金融政策 (馬場)	中央銀行の役割			
第12回	金融・情報コース 国際金融論 (土井)	国際社会と金融			
第13回	金融・情報コース 金融と情報社会 (飯野)	金融と情報の接点			
第14回	まとめ1 各コースのまとめ (添田)	各コース内容の振り返りとまとめ			
第15回	まとめ2 (添田)	レポートの作成指導			

# 経済

授業番号	B200040002				
科目名 (英語表記)	入門経済学 (Introduction economics)			(B)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>経済学とはどのような学問であり、経済学を含むどのような社会現象についてかについて理解することが目標です。専門の先生による経済学のテーマやトピックスについて学ぶことで、経済学科で学べることを知り、どのコースで専門的な勉強をするのかを決めるのに役立ちます。もちろん、経済系の教員をすべて知ることができます。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>ガイダンスで授業の進め方、勉強の仕方と評価の仕方について詳しい説明があります。</p> <p>第2回から第13回までは、一人の先生が一つのテーマについて1回ずつ講義をしていきます。</p> <p>各コースで学べる内容の簡単な説明については、各コースの最初の回に説明があります。</p> <p>第2回から第5回までは現代経済コース、 第6回から第9回までは公共経済コース、 第10回から第13回までは金融・情報コースです。</p>				
成績評価方法 基準	<p>予習・復習を含めた毎回の平常点と、最終回のレポートの内容によって決めます。</p> <p>レポートのテーマについては第14回に各コースの先生から30分程度説明・解説・質疑応答があります。</p> <p>それを踏まえて第15回ではレポート作成指導があります。</p>				
授業の予習・復習	<p>原則として予習は、数日前に添付ファイルなどで示される資料を読んで、場合によって問題に答えることによって行われます。</p> <p>復習は、原則として小テストや小レポートによって行われます。</p>				
教科書	<p>さまざまな先生が行うオムニバス授業ですので、予習用、講義用に用いられるプリントや配布資料などが教科書の代わりとなります。</p>				
参考文献	<p>各授業内で各先生から提示されます。</p>				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス (経済学科長)	この授業のねらい、効果的な勉強法、評価方法について			
第2回	現代経済コース 経済学の生誕 (折原)	経済学の父 アダム・スミス			
第3回	現代経済コース 経済学史 (加茂川)	経済学の歩み			
第4回	現代経済コース 一般経済史 (牧野)	世界経済の歩み			
第5回	現代経済コース 日本経済史 (小山)	日本経済の歩み			
第6回	公共経済コース 公共経済学 (仁平)	政府の意義と役割			
第7回	公共経済コース 財政学1 (金子)	日本の財政状況			
第8回	公共経済コース 財政学2 (金子)	所得税や消費税の現状			
第9回	公共経済コース 社会政策 (星)	社会政策の意義			
第10回	金融・情報コース 金融入門 (添田)	金融論を学ぶ意義			
第11回	金融・情報コース 金融政策 (馬場)	中央銀行の役割			
第12回	金融・情報コース 国際金融論 (土井)	国際社会と金融			
第13回	金融・情報コース 金融と情報社会 (飯野)	金融と情報の接点			
第14回	まとめ1 各コースのまとめ (添田)	各コース内容の振り返りとまとめ			
第15回	まとめ2 (添田)	レポートの作成指導			

# 経済

授業番号	B201950001		
科目名 (英語表記)	農業政策 (Agricultural policy)		
担当者 (英語表記)	稲葉 弘道 (Hiromichi Inaba)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	わが国の食料需給率は50%を割り先進国では最低である。しかし、米のように自給率の高い農産物もあり、自給率が高いものと低いものとの二重構造が存在する。この二重構造には農業政策の関与も大きい。農業政策はいかにあるべきかを考える。		
授業の進め方 (履修条件など)	食料経済論 (前期) の内容を理解しているものとして授業を進めるので、食料経済学を受講していることが望ましい。食料需給と農業政策の関わりを説明する。説明にはパワーポイントを利用する。		
成績評価方法	定期試験 ( 60 %) ・ 課題作成および授業参加態度 ( 40 % )		
基準			
授業の予習・復習	予習：教科書と配布資料により予習をしておくこと。 復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行っておく。		
教科書	高橋正一郎編著『食料経済』理工学社		
参考文献	農林水産省『農業白書』農林統計協会		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要	
第2回	成熟期にきた食の需給	食料の需給システム	
第3回	成熟期にきた食の需給	成熟期にきたわが国の食料需要	
第4回	成熟期にきた食の需給	高齢化社会の食スタイル	
第5回	すすむ食の外部化	食の外部化	
第6回	すすむ食の外部化	飲食業と外食産業	
第7回	すすむ食の外部化	外食産業の食材調達	
第8回	日本の食料政策と食品政策	フードシステム観点からの政策課題	
第9回	日本の食料政策と食品政策	戦前から続く米政策とその変貌	
第10回	日本の食料政策と食品政策	ガット、WTO 体制化の農産物貿易交渉	
第11回	食料の安全性と環境問題	なぜ安全な食料が供給されないか	
第12回	食料の安全性と環境問題	安全な食料の安定的供給に向けた対応策	
第13回	食料の安全性と環境問題	環境問題への食品企業の対応	
第14回	食料の安全性と環境問題	21世紀の食生活の展望	
第15回	まとめ	まとめと質疑応答	

経済

授業番号	B200320001				
科目名 (英語表記)	ビジネス英語 III (Business English I I I)				
担当者 (英語表記)	内野 泰子 (Yasuko Uchino)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	経済活動がグローバル化する中で、日本企業においても、英語が公用語化される、上司や同僚、部下が外国人になる、英語による会議が頻繁に行われる、TOEIC 受験が必須になるなど、ビジネス英語の必要性がさらに高まってきています。この授業では、こうした状況に対応できるよう、様々なビジネス場面で英語を使って簡単なコミュニケーションがはかれるよう、ビジネス英語の基礎力を築くことを目指します。TOEIC の受験準備にも対応できるようにしていきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを使い、様々なビジネス場面で求められるスピーキング、リスニング、ライティング、リーディングの基本スキルやビジネス英語の基本表現などを学習します。また、テレビ番組なども見ながら、色々な職場でどのように英語が使われているのかについても実践的に学びます。				
成績評価方法	平常点 50 パーセント、期末テスト 50 パーセントで評価します。				
基準					
授業の予習・復習	授業内で指示しますので、指示に必ず従って次の授業にのぞんで下さい。				
教科書	First Steps to Office English (Tae Kudo 著、センゲージ・ラーニング) ならびに配布プリント				
参考文献	必要に応じて授業内で指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	導入	グローバル化の中でのビジネス英語とは？			
第 2 回	Unit 1-1	ビジネスマンの自己紹介			
第 3 回	Unit1-2	ビジネスマンの自己紹介、Eメールの基本			
第 4 回	Unit 2-1	英語が分からない時の聞き直し方			
第 5 回	Unit 2-2	英語が分からない時の聞き直し方、ビジネス・レターの基本			
第 6 回	Unit 3-1	電話の会話 t			
第 7 回	Unit 3-2	電話の会話 2			
第 8 回	Unit 4-1	伝言・留守電 1			
第 9 回	Unit 4-2	伝言・留守電 2			
第 10 回	Unit 5-1	職場でのあいさつ 1			
第 11 回	Unit 5-2	職場でのあいさつ 2			
第 12 回	Unit 6-1	面会の約束・会議 1			
第 13 回	Unit 6-2	面会の約束、会議 2			
第 14 回	Unit 7-1	会社訪問者への対応			
第 15 回	Unit 7-2	会社訪問者への対応、まとめ			

経済

授業番号	B200330001				
科目名 (英語表記)	ビジネス英語 IV (Business English I V)				
担当者 (英語表記)	内野 泰子 (Yasuko Uchino)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>経済活動がグローバル化する中で、日本企業においても、英語が公用語化される、上司や同僚、部下が外国人になる、英語による会議が頻繁に行われる、TOEIC 受験が必須になるなど、ビジネス英語の必要性がさらに高まってきています。この授業では、こうした状況に対応できるよう、様々なビジネス場面で英語を使って簡単なコミュニケーションがはかれるよう、ビジネス英語の基礎力を築くことを目指します。TOEIC の受験準備にも対応できるようにしていきます。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>テキストを使い、様々なビジネス場面で求められるスピーキング、リスニング、ライティング、リーディングの基本スキルやビジネス英語の基本表現などを学習します。また、テレビ番組なども見ながら、色々な職場でどのように英語が使われているのかについても実践的に学びます。</p>				
成績評価方法	平常点 50 パーセント、期末テスト 50 パーセントで評価します。				
基準					
授業の予習・復習	授業内で指示しますので、指示に必ず従って次の授業にのぞんで下さい。				
教科書	First Steps to Office English (Tae Kudo 著、センゲージ・ラーニング) ならびに配布プリント				
参考文献	必要に応じて授業内で指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	導入	後期授業について			
第 2 回	Unit 8-1	招待・誘い、返事 1			
第 3 回	Unit8-2	招待・誘い、返事 2			
第 4 回	Unit 9-1	職場での雑談 1			
第 5 回	Unit 9-2	職場での雑談 2			
第 6 回	Unit 10-1	会社の所在地や配置 1			
第 7 回	Unit 10-2	会社の所在地や配置 2			
第 8 回	Unit 11-1	道案内 1			
第 9 回	Unit 11-2	道案内 2			
第 10 回	Unit 12	オフィス機器の使い方			
第 11 回	Unit 13	海外出張 (1)			
第 12 回	Unit 14	海外出張 (2)			
第 13 回	Unit 15	海外出張 (3)			
第 14 回	応用	学習事項の応用			
第 15 回	まとめ	学習事項の総まとめ			

# 経済

授業番号	B201140001		
科目名 (英語表記)	福祉経済論 (Welfare economy theory)		
担当者 (英語表記)	星 真実 (Masami Hoshi)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	「豊かな社会」と言われるわが国では、貧困問題は既に解消された過去のものとして扱われることが多い。しかし、国際的に貧困は現代的課題であり、わが国でも高齢者を中心に、全国民が貧困に陥る危険性があることを認識するため、実態調査を中心に考察を行う。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。		
成績評価方法	授業内小テスト (感想文) と、期末試験により判定する。		
基準			
授業の予習・復習	講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。		
教科書	特に使用しない。		
参考文献	日本労働研究機構『フリーターの意識と実態 - 97人へのヒアリング結果より』		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	ガイダンス	
第2回	はじめに	「福祉経済論」とは何か	
第3回	実態調査に見る高齢者問題	路上生活者問題 I	
第4回	実態調査に見る高齢者問題	路上生活者問題 II	
第5回	実態調査に見る高齢者問題	路上生活者問題 III	
第6回	実態調査に見る高齢者問題	日雇労働者問題 I	
第7回	実態調査に見る高齢者問題	日雇労働者問題 II	
第8回	実態調査に見る労働者問題	失業者問題 I	
第9回	実態調査に見る労働者問題	失業者問題 II	
第10回	実態調査に見る労働者問題	フリーター問題 I	
第11回	実態調査に見る労働者問題	フリーター問題 II	
第12回	生活保障とその課題	医療保障	
第13回	生活保障とその課題	医療供給体制	
第14回	生活保障とその課題	雇用保障	
第15回	おわりに	まとめ	

経済

授業番号	B200140001				
科目名 (英語表記)	フランス語 III (French I I I)			(A)	
担当者 (英語表記)	寺尾 いつみ (Izumi Terao)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	1年次の学習を踏まえ、より楽にフランス語を聞く・話す・読むことを目指す。食べたいもの・家族や天気の話など、伝えたい内容を表現できるようにする。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書の会話を聞き、繰り返して覚える。単語を入れ替えて語彙・文法を定着させる。教師と、あるいは学生どうしでやりとりを練習し、流暢さを身につける。 原則として、昨年度フランス語 I A・II A を履修した学生を対象とする。				
成績評価方法	授業内小テスト 6 回 (30%)、オーラルテスト 4 回 (20%)、定期試験 (50%) の合計点で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：学習する課の会話を CD や podcast で聞いてシャドーイングする。 復習：学習した課の単語を対応アプリで学習する。				
教科書	『話してみようフランス語—Oui ;-)』 大久保政憲著、朝日出版社、2011 年、2415 円 (1 年次で前半を使用)。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	復習	1 年次の学習内容を復習し、不十分なところがあれば補う。			
第 2 回	第 8 課「～するつもり、～したばかり」	疑問代名詞「何を」「誰を」を含む表現を学ぶ。			
第 3 回	第 8 課「～するつもり、～したばかり」	近接未来「～するつもり」を含む応答を練習する。			
第 4 回	第 8 課「～するつもり、～したばかり」	レストランでの注文の仕方を学ぶ。			
第 5 回	第 8 課「～するつもり、～したばかり」	近接過去「～したばかり」を含む表現を学ぶ。			
第 6 回	第 8 課「～するつもり、～したばかり」	動詞 finir, partir の活用を覚える。中性代名詞 y を含む応答を練習する。			
第 7 回	第 9 課「比べる」	比較級・最上級を含む表現を学ぶ。			
第 8 回	第 9 課「比べる」	家族のことについて尋ねる・話す。			
第 9 回	第 9 課「比べる」	動詞 faire の活用を覚える。faire を含む表現を学ぶ。			
第 10 回	第 9 課「比べる」	疑問代名詞「誰が」を含む表現を学ぶ。			
第 11 回	第 9 課「比べる」	天気に関する表現を学ぶ。			
第 12 回	第 10 課「～に会う、～を知っている」	動詞 connaître の活用を覚える。直接目的語人称代名詞の使い方を学ぶ。			
第 13 回	第 10 課「～に会う、～を知っている」	間接目的語人称代名詞の使い方を学ぶ。			
第 14 回	第 10 課「～に会う、～を知っている」	動詞 voir, attendre の活用を覚える。同タイプの動詞を含む表現を学ぶ。			
第 15 回	まとめ	前期の学習内容を概観し復習する。			

経済

授業番号	B200140002		
科目名 (英語表記)	フランス語 III (French I I I)	(B)	
担当者 (英語表記)	浅野 信二 (Shinji Asano)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	一年次に引き続き、日常よく使う簡単な会話表現を中心に、フランス語を「聞く」「話す」「読む」「書く」能力をバランスよく総合的に習得することを目指す。また、フランスの文化面についても毎回紹介する。		
授業の進め方 (履修条件など)	AV 教材を活用し、繰り返し「読む練習」「書く練習」を行う。また、教科書などの練習問題を解くことで、基礎文法と語彙力をつけていく。毎回の積み重ねを前提に授業を進めていくので、できるだけ欠席しないこと。		
成績評価方法	定期試験 50%・授業中に行う小テスト 30%・授業参加態度 20%		
基準			
授業の予習・復習	短い文章の書きとりを毎回授業の冒頭で行うので、よく練習しておくこと。		
教科書	藤田裕二『パリのクール・ジャパン』(朝日出版社)		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明	
第 2 回	復習	1 年次に学んだ文法項目の復習	
第 3 回	Le?on10 (1)	命令形	
第 4 回	Le?on10 (2)	補語人称代名詞	
第 5 回	Le?on10 (3)	中性代名詞 y	
第 6 回	Le?on10 (4)	conna?tre	
第 7 回	Le?on11 (1)	代名動詞	
第 8 回	Le?on11 (2)	非人称構文	
第 9 回	Le?on11 (3)	女性形容詞の特殊な形	
第 10 回	Le?on11 (4)	partir	
第 11 回	まとめ	ここまでの文法のまとめ/フランスの文化	
第 12 回	Le?on12 (1)	疑問代名詞 qui	
第 13 回	Le?on12 (2)	複合過去 (1)	
第 14 回	Le?on12 (3)	複合過去 (2)	
第 15 回	Le?on12 (4)	savoir	



# 経済

授業番号	B200150001				
科目名 (英語表記)	フランス語 IV (French I V)			(A)	
担当者 (英語表記)	寺尾 いつみ (Izumi Terao)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	前期に引き続き、フランス語で話せる・書ける表現を増やす。より個人的な話題で、ある程度まとまった会話ができ、自分のことについて簡単な文章が書けるようになることを目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書の会話文を聞き、繰り返して覚える。単語を入れ替えて語彙・文法を定着させる。教師と、あるいは学生どうしでやりとりを練習し、流暢さを身につける。 原則として、前期にフランス語Ⅲ A を履修した学生を対象とする。				
成績評価方法	授業内小テスト 5 回 (25%)、オーラルテスト 3 回 (15%)、仏作文 2 回 (10%)、定期試験 (50%) の合計点で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：学習する課の会話を CD や podcast で聞いてシャドーイングする。 復習：学習した課の単語を対応アプリで学習する。				
教科書	フランス語Ⅲ A と同じ。				
参考文献	仏和辞典 (書名は指定しない。電子辞書も可)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	復習	前期の学習内容を復習し、不十分なところがあれば補う。			
第 2 回	第 10 課「～に会う、～を知っている」	有名人や作品を紹介する文を書く。			
第 3 回	同上	有名人や作品を互いに紹介しあう。			
第 4 回	第 11 課「起きる、寝る、散歩する」	代名動詞について学ぶ。			
第 5 回	同上	代名動詞を含む応答を練習する。			
第 6 回	同上	命令形について学ぶ。			
第 7 回	同上	非人称構文を含む応答を練習する。			
第 8 回	同上	代名動詞を用いて生活習慣について話す。			
第 9 回	第 12 課「過去のことを言う」	複合過去形 (助動詞 avoir) について学び、文を作る。			
第 10 回	同上	日付の表現を学び、生年月日に関する応答を練習する。			
第 11 回	同上	複合過去形 (助動詞 être) について学び、文を作る。			
第 12 回	同上	疑問代名詞「何が」を含む応答を練習する。			
第 13 回	同上	過去のできごとについて文を書く。			
第 14 回	まとめ (1)	後期の学習内容を概観し復習する。			
第 15 回	まとめ (2)	1 ～ 12 課を通して復習し、学習の成果を確認する。			

経済

授業番号	B200150002		
科目名 (英語表記)	フランス語 IV (French I V)	(B)	
担当者 (英語表記)	浅野 信二 (Shinji Asano)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	前期に続いて、日常よく使う簡単な会話表現を中心に、フランス語を「聞く」「話す」「読む」「書く」能力をバランスよく総合的に習得することを目指す。また、フランスの文化面についても毎回紹介する。		
授業の進め方 (履修条件など)	AV 教材を活用し、繰り返し「読む練習」「書く練習」を行う。また、教科書などの練習問題を解くことで、基礎文法と語彙力をつけていく。毎回の積み重ねを前提に授業を進めていくので、できるだけ欠席しないこと。		
成績評価方法	定期試験 50%・授業中に行う小テスト 30%・授業参加態度 20%		
基準			
授業の予習・復習	短い文章の書きとりを毎回授業の冒頭で行うので、よく練習しておくこと。		
教科書	藤田裕二『パリのクール・ジャパン』(朝日出版社)		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明・前期の復習	
第 2 回	復習 (1)	Le?on1 ～ 6 の復習/フランスの文化	
第 3 回	復習 (2)	Le?on7 ～ 12 の復習/フランスの文化	
第 4 回	Le?on13 (1)	複合過去 (2)	
第 5 回	Le?on13 (2)	複合過去 (2) 続き	
第 6 回	Le?on13 (3)	否定文 (2)	
第 7 回	Le?on13 (4)	疑問副詞 comment	
第 8 回	Le?on13 (5)	pouvoir	
第 9 回	まとめ	ここまでの文法のまとめ/フランスの文化	
第 10 回	Le?on14 (1)	単純未来 (1)	
第 11 回	Le?on14 (2)	単純未来 (2)	
第 12 回	Le?on14 (3)	近接未来	
第 13 回	Le?on14 (4)	感嘆文	
第 14 回	Le?on14 (5)	フランスの四季	
第 15 回	まとめ	この教科書のまとめ/フランスの文化	

経済

授業番号	B201740001				
科目名 (英語表記)	プレゼンテーション論 I (Presentation I)			A	
担当者 (英語表記)	成富 慶子 (Keiko Naritomi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている 本講義では実習を通して、Microsoft PowerPoint を習熟してもらう				
授業の進め方 (履修条件など)	Microsoft PowerPoint を使用して、プレゼンテーション資料を作成する (対象学年：全学年)				
成績評価方法	実技テストで総合評価する				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書を見ながら操作する 復習：授業内に行った操作を練習問題などで復習する				
教科書	FOM 出版 Microsoft Power Point 2010 978-4-89311-851-6				
参考文献	FOM 出版 Microsoft PowerPoint 2010 応用				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認・講義概要			
第 2 回	基本的なプレゼンテーションの作成	PowerPoint の概要、画面構成、新しいプレゼンテーションの作成、プレースホルダー、簡条書きテキスト、文字・段落に書式の設定、プレゼンテーションの構成の変更、スライドショーの実行、プレゼンテーションの保存			
第 3 回	表の作成	表の作成、行列の操作、表の書式設定			
第 4 回	グラフの作成	グラフの作成、グラフのレイアウト変更 グラフの書式設定、グラフデータ修正			
第 5 回	図形や SmartArt グラフィックの作成	図形の作成、図形の書式設定、SmartArt グラフィックの作成、SmartArt グラフィックの書式設定、簡条書きテキストを SmartArt グラフィックに変換			
第 6 回	図・クリップアート・ワードアートの挿入	図の挿入、クリップアートの挿入、ワードアートの挿入			
第 7 回	画像の加工	図の外観の変更、図の回転、図のトリミング、図のスタイルカスタマイズ、図の背景の削除			
第 8 回	グラフィックの活用	ページ設定変更、スライドの背景設定、グリッド・ガイドを表示、図形の作成、図形の書式設定、オブジェクトの配置調整、クリップアートの配置、テキストボックスの配置			
第 9 回	マルチメディアの活用	ビデオの挿入、ビデオの編集、オーディオの挿入 プレゼンテーションのビデオ作成			
第 10 回	特殊効果とスライドのデザイン設定	アニメーション効果の設定、スライドの自動実行			
第 11 回	プレゼンテーションのサポート機能	ノートの作成、配布資料の作成、スライドの効率的な切り替え、プレゼンテーションの印刷、リハーサル、目的別スライドショーの作成			
第 12 回	スライドのカスタマイズ	スライドマスターの編集、タイトルスライドのスライドマスター編集、ヘッダーとフッターを挿入、オブジェクト動作設定、動作設定ボタンの作成			
第 13 回	ほかのアプリケーションとの連携	Word のデータの利用、Excel のデータの利用、ほかの PowerPoint のデータの利用、スクリーンショットの挿入			
第 14 回	総合練習問題 1	総合練習問題 1			
第 15 回	総合練習問題 2	総合練習問題 2			

# 経済

授業番号	B201740002				
科目名 (英語表記)	プレゼンテーション論 I (Presentation I)			B	
担当者 (英語表記)	成富 慶子 (Keiko Naritomi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている 本講義では実習を通して、Microsoft PowerPoint を習熟してもらう				
授業の進め方 (履修条件など)	Microsoft PowerPoint を使用して、プレゼンテーション資料を作成する (対象学年：全学年)				
成績評価方法	実技テストで総合評価する				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書を見ながら操作する 復習：授業内に行った操作を練習問題などで復習する				
教科書	FOM 出版 Microsoft Power Point 2010 978-4-89311-851-6				
参考文献	FOM 出版 Microsoft PowerPoint 2010 応用				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講者の確認・講義概要			
第 2 回	基本的なプレゼンテーションの作成	PowerPoint の概要、画面構成、新しいプレゼンテーションの作成、プレースホルダー、簡条書きテキスト、文字・段落に書式の設定、プレゼンテーションの構成の変更、スライドショーの実行、プレゼンテーションの保存			
第 3 回	表の作成	表の作成、行列の操作、表の書式設定			
第 4 回	グラフの作成	グラフの作成、グラフのレイアウト変更 グラフの書式設定、グラフデータ修正			
第 5 回	図形や SmartArt グラフィックの作成	図形の作成、図形の書式設定、SmartArt グラフィックの作成、SmartArt グラフィックの書式設定、簡条書きテキストを SmartArt グラフィックに変換			
第 6 回	図・クリップアート・ワードアートの挿入	図の挿入、クリップアートの挿入、ワードアートの挿入			
第 7 回	画像の加工	図の外観の変更、図の回転、図のトリミング、図のスタイルカスタマイズ、図の背景の削除			
第 8 回	グラフィックの活用	ページ設定変更、スライドの背景設定、グリッド・ガイドを表示、図形の作成、図形の書式設定、オブジェクトの配置調整、クリップアートの配置、テキストボックスの配置			
第 9 回	マルチメディアの活用	ビデオの挿入、ビデオの編集、オーディオの挿入 プレゼンテーションのビデオ作成			
第 10 回	特殊効果とスライドのデザイン設定	アニメーション効果の設定、スライドの自動実行			
第 11 回	プレゼンテーションのサポート機能	ノートの作成、配布資料の作成、スライドの効率的な切り替え、プレゼンテーションの印刷、リハーサル、目的別スライドショーの作成			
第 12 回	スライドのカスタマイズ	スライドマスターの編集、タイトルスライドのスライドマスター編集、ヘッダーとフッターを挿入、オブジェクト動作設定、動作設定ボタンの作成			
第 13 回	ほかのアプリケーションとの連携	Word のデータの利用、Excel のデータの利用、ほかの PowerPoint のデータの利用、スクリーンショットの挿入			
第 14 回	総合練習問題 1	総合練習問題 1			
第 15 回	総合練習問題 2	総合練習問題 2			

経済

授業番号	B201750001				
科目名 (英語表記)	プレゼンテーション論 II (Presentation II)				
担当者 (英語表記)	井手 雅哉 (Masaya Ide)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	プレゼンテーションに際して心がけておくこと、ツールとしての Powerpoint の利用法について学習する。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件：「情報基礎」履修済相当 (学外サイトへのアクセス権とある程度のワープロソフト操作能力が必要) 進め方：プレゼンテーションの準備から実行までを順を追って進めていく。				
成績評価方法	授業内小テスト=発表 (40%)・レポート及びその他の課題 (30%)・取組姿勢 (30%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：発表の構想を練ったり、資料・素材を集めておく。				
教科書	教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。				
参考文献	技術評論社編集部著、『今すぐ使えるかんたん PowerPoint2010』, 技術評論社, 2010.6. 山口弘明,『プレゼンテーションの進め方』, 日本経済新聞社 (日経文庫)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業内容・進め方・評価に関する説明			
第 2 回	テーマ設定	発表の目的等の考察			
第 3 回	発表内容の具体化	「アウトライン」機能の利用			
第 4 回	スライドの大まかなデザイン	「レイアウト」機能			
第 5 回	文字の配置	テキスト編集			
第 6 回	口述メモの準備	「ノート」機能の利用			
第 7 回	図表の準備 1	画像ファイルの準備			
第 8 回	図表の準備 2	画像ファイルの配置			
第 9 回	図表の準備 3	グラフの編集			
第 10 回	図表の準備 4	階層図, 流れ図等の編集			
第 11 回	スライドの仕上げ 1	「アニメーション」の基本設定			
第 12 回	スライドの仕上げ 2	いろいろな「アニメーション」			
第 13 回	発表直前の準備	「スライドショー」機能, 予行演習			
第 14 回	発表 1	発表と検討 1			
第 15 回	発表 2	発表と検討 2			

経済

授業番号	B201660001				
科目名 (英語表記)	プログラミング入門 VB (Programming introduction(VB))				
担当者 (英語表記)	小林 忠 (Tadashi Kobayashi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	プログラミングに必要な基礎知識を解説します。簡単なサンプルを介してプログラムの構造、流れを説明します。				
授業の進め方 (履修条件など)	受講者は「情報処理」を履修済みのこと。初回または二回目の講義に必ず出席すること。尚、受講者は 15 名以内とします。言語は VB を使用し、コードを記述するだけで動作する環境を用意します。				
成績評価方法	試験成績 50%、授業参加態度 50%				
基準					
授業の予習・復習	予習：前回の授業で強調した箇所を確り復習して、授業に臨んで下さい。 復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。				
教科書	プリントを用意します。				
参考文献	林晴比古著『新 VisualBasic 入門』ソフトバンク				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	概論	概論			
第 2 回	概論	OS、言語の歴史			
第 3 回	概論	CPU、メモリー、二進数			
第 4 回	概論	p 進数、補数			
第 5 回	乱数機能	サイコロを一億回振る			
第 6 回	乱数機能	円の面積を求める			
第 7 回	乱数機能	数当てゲーム			
第 8 回	計算機能	浮動小数点数 (1)			
第 9 回	計算機能	浮動小数点数 (2)			
第 10 回	計算機能	桁の大きい整数の四則演算 (1)			
第 11 回	計算機能	桁の大きい整数の四則演算 (2)			
第 12 回	計算機能	桁の大きい整数の四則演算 (3)			
第 13 回	計算機能	階乗の計算 (1)			
第 14 回	計算機能	階乗の計算 (2)			
第 15 回	計算機能	階乗の計算 (3)			

経済

授業番号	B200010001				
科目名 (英語表記)	文章表現 (Sentence expression)			(1)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	文章作成技法および語彙習得を通して、日本語運用能力を高める。この講義の最終到達目標は、TPO にあった日本語を使いこなせるようになることである。				
授業の進め方 (履修条件など)	オリジナルプリント教材をもとにして、講義と演習をおこなう。 また、自らが作成した文章を発表する機会を設ける。 なお、語彙力増強のため、漢字テストや作文を実施する。				
成績評価方法 基準	課題への取り組み、定期テストにより評価する。 積極的に授業へ参加していないと判断した場合 (私語、内職、居眠り、携帯電話の操作等) 成績評価に影響する。				
授業の予習・復習	授業で扱った内容は、次回までにしっかり復習しておくこと。 次の授業で書くと指示された内容について、前もって準備しておくこと。 授業中に完成しなかった作文・小論文・手紙などを完成させて次回提出すること。				
教科書	オリジナルプリント教材を使用する。各自ファイルすること。				
参考文献	表記の手引き 第四版 (教育出版編集局編、教育出版) 新装版 日本語の作文技術 (本多勝一著、講談社) 文章は接続詞で決まる (石黒圭著、光文社新書)、国語便覧 (出版社は問わない)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス 自己紹介文を書く	講義の進め方、注意事項の確認			
第 2 回	自己紹介をする 友達紹介をする	質問カードによる応答練習 友達を紹介する文を書き、読み合う。			
第 3 回	わかりやすい文を書く (1)	文の乱れ (呼応関係、主語と述語のねじれ)			
第 4 回	わかりやすい文を書く (2) 漢字テスト (1)	主述関係、あいまいな表現、修飾関係			
第 5 回	敬語 (1) 漢字テスト (2)	敬語 1 手紙の書き方			
第 6 回	敬語 (2) 漢字テスト (3)	敬語 2 手紙の書き方			
第 7 回	敬語 (3) 漢字テスト (4)	敬語 3 電話のかけ方			
第 8 回	中間テスト	第 1 ～ 7 講までの範囲で出題			
第 9 回	小論文とは (1) 漢字テスト (5)	小論文の考え方・接続詞の使い方 小論文の書き方の基本を理解する。			
第 10 回	小論文 (2) 漢字テスト (6)	フリーターについての賛否 小論文の書き方			
第 11 回	小論文 (3) 漢字テスト (7)	女性が働くことについての小論文			
第 12 回	小論文作成 (1) 漢字テスト (8)	大学秋入学・英語社内公用語化について			
第 13 回	小論文作成 (2) 漢字テスト (9)	小論文を書くためのテーマを探す。現代日本の現状から問題点を見つける。			
第 14 回	小論文作成 (3)	800字で、小論文を完成させる。			
第 15 回	小論文作成 (4)	小論文の相互評価をする。			

経済

授業番号	B200010002				
科目名 (英語表記)	文章表現 (Sentence expression)			(2)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	文章作成技法および語彙習得を通して、日本語運用能力を高める。この講義の最終到達目標は、TPO にあった日本語を使いこなせるようになることである。				
授業の進め方 (履修条件など)	オリジナルプリント教材をもとにして、講義と演習をおこなう。 また、自らが作成した文章を発表する機会を設ける。 なお、語彙力増強のため、漢字テストや作文を実施する。				
成績評価方法 基準	課題への取り組み、定期テストにより評価する。 積極的に授業へ参加していないと判断した場合 (私語、内職、居眠り、携帯電話の操作等) 成績評価に影響する。				
授業の予習・復習	授業で扱った内容は、次回までにしっかり復習しておくこと。 次の授業で書くと指示された内容について、前もって準備しておくこと。 授業中に完成しなかった作文・小論文・手紙などを完成させて次回提出すること。				
教科書	オリジナルプリント教材を使用する。各自ファイルすること。				
参考文献	表記の手引き 第四版 (教育出版編集局編、教育出版) 新装版 日本語の作文技術 (本多勝一著、講談社) 文章は接続詞で決まる (石黒圭著、光文社新書)、国語便覧 (出版社は問わない)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス 自己紹介文を書く	講義の進め方、注意事項の確認			
第 2 回	自己紹介をする 友達紹介をする	質問カードによる応答練習 友達を紹介する文を書き、読み合う。			
第 3 回	わかりやすい文を書く (1)	文の乱れ (呼応関係、主語と述語のねじれ)			
第 4 回	わかりやすい文を書く (2) 漢字テスト (1)	主述関係、あいまいな表現、修飾関係			
第 5 回	敬語 (1) 漢字テスト (2)	敬語 1 手紙の書き方			
第 6 回	敬語 (2) 漢字テスト (3)	敬語 2 手紙の書き方			
第 7 回	敬語 (3) 漢字テスト (4)	敬語 3 電話のかけ方			
第 8 回	中 間 テ ス ト	第 1 ～ 7 講までの範囲で出題			
第 9 回	小論文とは (1) 漢字テスト (5)	小論文の考え方・接続詞の使い方 小論文の書き方の基本を理解する。			
第 10 回	小論文 (2) 漢字テスト (6)	フリーターについての賛否 小論文の書き方			
第 11 回	小論文 (3) 漢字テスト (7)	女性が働くことについての小論文			
第 12 回	小論文作成 (1) 漢字テスト (8)	大学秋入学・英語社内公用語化について			
第 13 回	小論文作成 (2) 漢字テスト (9)	小論文を書くためのテーマを探す。現代日本の現状から問題点を見つける。			
第 14 回	小論文作成 (3)	800字で、小論文を完成させる。			
第 15 回	小論文作成 (4)	小論文の相互評価をする。			



経済

授業番号	B200010003				
科目名 (英語表記)	文章表現 (Sentence expression)			(3)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	文章作成技法および語彙習得を通して、日本語運用能力を高める。この講義の最終到達目標は、TPO にあった日本語を使いこなせるようになることである。				
授業の進め方 (履修条件など)	オリジナルプリント教材をもとにして、講義と演習をおこなう。 また、自らが作成した文章を発表する機会を設ける。 なお、語彙力増強のため、漢字テストや作文を実施する。				
成績評価方法 基準	課題への取り組み、定期テストにより評価する。 積極的に授業へ参加していないと判断した場合 (私語、内職、居眠り、携帯電話の操作等) 成績評価に影響する。				
授業の予習・復習	授業で扱った内容は、次回までにしっかり復習しておくこと。 次の授業で書くと指示された内容について、前もって準備しておくこと。 授業中に完成しなかった作文・小論文・手紙などを完成させて次回提出すること。				
教科書	オリジナルプリント教材を使用する。各自ファイルすること。				
参考文献	表記の手引き 第四版 (教育出版編集局編、教育出版) 新装版 日本語の作文技術 (本多勝一著、講談社) 文章は接続詞で決まる (石黒圭著、光文社新書)、国語便覧 (出版社は問わない)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス 自己紹介文を書く	講義の進め方、注意事項の確認			
第 2 回	自己紹介をする 友達紹介をする	質問カードによる応答練習 友達を紹介する文を書き、読み合う。			
第 3 回	わかりやすい文を書く (1)	文の乱れ (呼応関係、主語と述語のねじれ)			
第 4 回	わかりやすい文を書く (2) 漢字テスト (1)	主述関係、あいまいな表現、修飾関係			
第 5 回	敬語 (1) 漢字テスト (2)	敬語 1 手紙の書き方			
第 6 回	敬語 (2) 漢字テスト (3)	敬語 2 手紙の書き方			
第 7 回	敬語 (3) 漢字テスト (4)	敬語 3 電話のかけ方			
第 8 回	中 間 テ ス ト	第 1 ～ 7 講までの範囲で出題			
第 9 回	小論文とは (1) 漢字テスト (5)	小論文の考え方・接続詞の使い方 小論文の書き方の基本を理解する。			
第 10 回	小論文 (2) 漢字テスト (6)	フリーターについての賛否 小論文の書き方			
第 11 回	小論文 (3) 漢字テスト (7)	女性が働くことについての小論文			
第 12 回	小論文作成 (1) 漢字テスト (8)	大学秋入学・英語社内公用語化について			
第 13 回	小論文作成 (2) 漢字テスト (9)	小論文を書くためのテーマを探す。現代日本の現状から問題点を見つける。			
第 14 回	小論文作成 (3)	800字で、小論文を完成させる。			
第 15 回	小論文作成 (4)	小論文の相互評価をする。			

経済

授業番号	B200010004				
科目名 (英語表記)	文章表現 (Sentence expression)			(4)	
担当者 (英語表記)	経済教務委員会 (Keizai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	文章作成技法および語彙習得を通して、日本語運用能力を高める。この講義の最終到達目標は、TPO にあった日本語を使いこなせるようになることである。				
授業の進め方 (履修条件など)	オリジナルプリント教材をもとにして、講義と演習をおこなう。 また、自らが作成した文章を発表する機会を設ける。 なお、語彙力増強のため、漢字テストや作文を実施する。				
成績評価方法 基準	課題への取り組み、定期テストにより評価する。 積極的に授業へ参加していないと判断した場合 (私語、内職、居眠り、携帯電話の操作等) 成績評価に影響する。				
授業の予習・復習	授業で扱った内容は、次回までにしっかり復習しておくこと。 次の授業で書くと指示された内容について、前もって準備しておくこと。 授業中に完成しなかった作文・小論文・手紙などを完成させて次回提出すること。				
教科書	オリジナルプリント教材を使用する。各自ファイルすること。				
参考文献	表記の手引き 第四版 (教育出版編集局編、教育出版) 新装版 日本語の作文技術 (本多勝一著、講談社) 文章は接続詞で決まる (石黒圭著、光文社新書)、国語便覧 (出版社は問わない)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス 自己紹介文を書く	講義の進め方、注意事項の確認			
第 2 回	自己紹介をする 友達紹介をする	質問カードによる応答練習 友達を紹介する文を書き、読み合う。			
第 3 回	わかりやすい文を書く (1)	文の乱れ (呼応関係、主語と述語のねじれ)			
第 4 回	わかりやすい文を書く (2) 漢字テスト (1)	主述関係、あいまいな表現、修飾関係			
第 5 回	敬語 (1) 漢字テスト (2)	敬語 1 手紙の書き方			
第 6 回	敬語 (2) 漢字テスト (3)	敬語 2 手紙の書き方			
第 7 回	敬語 (3) 漢字テスト (4)	敬語 3 電話のかけ方			
第 8 回	中 間 テ ス ト	第 1 ～ 7 講までの範囲で出題			
第 9 回	小論文とは (1) 漢字テスト (5)	小論文の考え方・接続詞の使い方 小論文の書き方の基本を理解する。			
第 10 回	小論文 (2) 漢字テスト (6)	フリーターについての賛否 小論文の書き方			
第 11 回	小論文 (3) 漢字テスト (7)	女性が働くことについての小論文			
第 12 回	小論文作成 (1) 漢字テスト (8)	大学秋入学・英語社内公用語化について			
第 13 回	小論文作成 (2) 漢字テスト (9)	小論文を書くためのテーマを探す。現代日本の現状から問題点を見つける。			
第 14 回	小論文作成 (3)	800字で、小論文を完成させる。			
第 15 回	小論文作成 (4)	小論文の相互評価をする。			

経済

授業番号	B202070001		
科目名 (英語表記)	簿記論 I (Bookkeeping theory I)	C	
担当者 (英語表記)	塚本 利平 (Toshihira Tsukamoto)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	会計は「ビジネスの言語」とも言われ、企業の財政状態や経営成績の理解に不可欠なものである。この会計における基本原理が複式簿記である。本講義では、その最も基本となる部分を学習することを到達目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	まず各論点についての講義を行い、次に理解を深めるために練習問題を解いてもらう形式で授業を進めていく。		
成績評価方法	おおむね、定期試験 (80%)・授業内小テストあるいはレポート及びその他の課題 (20%)		
基準			
授業の予習・復習	予習： 時間に余裕がある人は、参考文献にあげた教材を購入し読んでおくことよい。 復習： 配布プリントの説明内容、練習問題の再確認を必ず行ってほしい。		
教科書	特に指定しない。毎回プリントを配布する。		
参考文献	「日商簿記 3 級」 T A C 簿記検定講座著 T A C 出版		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業の概要	
第 2 回	簿記の仕組み	簿記の流れと複式の意味、仕訳の基礎	
第 3 回	簿記の仕組み	利益算定と決算書	
第 4 回	取引の仕分と勘定記入	取引の概念と仕訳の法則	
第 5 回	取引の仕分と勘定記入	勘定記入の仕組み	
第 6 回	取引の仕分と勘定記入	仕訳帳と元帳	
第 7 回	試算表の作成	各種試算表の仕組み	
第 8 回	試算表の作成	試算表の作成	
第 9 回	決算 1 - 決算基本的な流れ	決算の意味	
第 10 回	決算 1 - 決算基本的な流れ	精算表の作成	
第 11 回	決算 1 - 決算基本的な流れ	決算本手続：損益勘定と決算振替	
第 12 回	決算 1 - 決算基本的な流れ	繰越記入と締切	
第 13 回	決算 1 - 決算基本的な流れ	繰越試算表と仕訳帳の締切、決算振替	
第 14 回	決算 1 - 決算基本的な流れ	大陸式決算法	
第 15 回	まとめ	修得した知識のまとめ	

# 経済

授業番号	B202070002				
科目名 (英語表記)	簿記論 I (Bookkeeping theory I)			B	
担当者 (英語表記)	鈴木 明男 (Akio Suzuki)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	簿記は企業経営に不可欠な業績把握と財務管理の基礎となる。本講義は簿記の基本構造や決算までの仕組みを、社会人として必要な常識程度まで学ぶ。				
授業の進め方 (履修条件など)	簿記は人工言語といわれるように特有のルールによって成り立っている。それゆえ簿記を理解するには繰り返し反復練習する必要がある。授業はできるだけ教科書を利用するが、頻繁にプリントを配布して練習する。毎回、講義の流れを説明する。				
成績評価方法	定期試験 80%、授業内小テスト及び課題 20%を目安とする。				
基準					
授業の予習・復習	特に会計関連資格の受験者には練習問題と最近の出版物の予習・復習が望ましい。				
教科書	「簿記入門」 小野保之、霧日出郎他 森山書店				
参考文献	「検定簿記講義 2・3 級」 中央経済社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と今後の運営方針 複式簿記の重要性と会計法規			
第 2 回	基礎概念	資産と負債・純資産の均衡、収益と費用			
第 3 回	複式簿記の基本構造	取引の意義と複式記入、借方・貸方、勘定、仕訳、仕訳帳、元帳			
第 4 回	取引から決算まで I	貸借平均の原理、取引の仕訳から決算まで			
第 5 回	取引から決算まで II	試算表の構造、貸借対照表と損益計算書の構造			
第 6 回	資産勘定の処理 I	現金・預金・売掛金の仕訳、元帳転記			
第 7 回	資産勘定の処理 II	土地・建物・車両等の仕訳、元帳転記			
第 8 回	負債・資本勘定の処理	買掛金・借入金・資本金等の仕訳、元帳転記			
第 9 回	収益・費用勘定の処理	売上・受取利息等の収益と給料・交通費・支払利息等の費用の仕訳、元帳転記			
第 10 回	諸勘定の仕訳と元帳転記 I	若干複雑な取引と元帳転記			
第 11 回	諸勘定の仕訳と元帳転記 II	若干複雑な取引と元帳転記			
第 12 回	決算整理	試算表の作成			
第 13 回	決算 I	簡単な貸借対照表と損益計算書の作成			
第 14 回	決算 II	簡単な貸借対照表と損益計算書の作成			
第 15 回	取引記録の仕組	帳簿組織の意義と内容			

経済

授業番号	B202070003				
科目名 (英語表記)	簿記論 I (Bookkeeping theory I)			A	
担当者 (英語表記)	平屋 伸洋 (Nobuhiro Hiraya)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、簿記の基本構造や決算までの仕組みを理解できるようになることである。また到達目標は、日商簿記3級レベルの仕訳ならびに精算表・財務諸表の作成ができることである。				
授業の進め方 (履修条件など)	簿記はビジネスの言語といわれるように、特有のルールに基づいて成り立っている。それゆえ、簿記を理解するには問題演習を繰り返す必要がある。この授業では、取り上げるテーマごとの講義と、それに対応する問題演習を行うことによって進めていく。				
成績評価方法	小テスト: 30% (簿記論 I では、3回の小テストを行う。100点満点で採点し、それを成績評価の30%に換算する。)				
基準	期末試験: 70% (期末試験は100点満点で採点し、それを成績評価の70%分に換算する。)				
授業の予習・復習	次の授業までに、テキストの該当箇所を熟読して授業に臨むこと。またレポートについては、期日までに提出できるように授業で取り上げた箇所の復習を怠らないこと。				
教科書	『村田の簿記検定合格シリーズ 日商3級』(村田学園)				
参考文献	森久・長吉眞一・浅野千鶴・石川文子・蔣飛鴻・関利恵子著『企業簿記論』創成社、2010年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	本授業の概要と今後の進め方、成績評価について説明			
第2回	簿記の基礎概念	資産と負債・純資産の均衡、収益と費用			
第3回	複式簿記の基本構造	取引の意義と複式記入、借方・貸方、勘定、仕訳、仕訳帳、元帳			
第4回	取引から決算まで I	貸借平均の原理、取引の仕訳から決算まで			
第5回	取引から決算まで II	試算表の構造、貸借対照表と損益計算書の構造			
第6回	資産勘定の処理 I	現金・預金・売掛金の仕訳、元帳転記			
第7回	資産勘定の処理 II	土地・建物・車両等の仕訳、元帳転記			
第8回	負債・資本勘定の処理	買掛金・借入金・資本金等の仕訳、元帳転記			
第9回	収益・費用勘定の処理	売上・受取利息等の収益と給料・交通費・支払利息等の費用の仕訳、元帳転記			
第10回	諸勘定の仕訳と元帳転記 I	複雑な取引と元帳転記			
第11回	諸勘定の仕訳と元帳転記 II	複雑な取引と元帳転記			
第12回	決算整理	試算表の作成			
第13回	決算 I	貸借対照表と損益計算書の作成			
第14回	決算 II	貸借対照表と損益計算書の作成			
第15回	取引記録の仕組み	帳簿組織の意義と内容			

経済

授業番号	B202080001				
科目名 (英語表記)	簿記論 II (Bookkeeping theory II)			C	
担当者 (英語表記)	塚本 利平 (Toshihira Tsukamoto)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	企業の財政状態や経営成績を理解するために不可欠な基本原理である複式簿記の理解を深めるための知識の習得を目指す。各取引事例、決算整理の処理を通して、前期に行われる簿記論 I に比べ、より、具体的で複雑な取引・仕訳を学習する。日商簿記 3 級程度の知識習得を到達目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	各論点についての講義を行い、学習上の基本ポイントを理解してもらい、さらに授業中に練習問題を解くことにも取り組んでいく。前期に行われる簿記論 I の履修済みであること、あるいは、同等の知識を有することを条件とする。				
成績評価方法	おおむね、定期試験 (80%)・授業内小テストあるいはレポート及びその他の課題 (20%)				
基準					
授業の予習・復習	予習： 時間に余裕がある人は、参考文献にあげた教材を購入し読んでおくことよい。 復習： 配布プリントの説明内容、練習問題の再確認を必ず行ってほしい。				
教科書	特に指定しない。毎回プリントを配布する。				
参考文献	「日商簿記 3 級」 T A C 簿記検定講座著 T A C 出版				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の概要			
第 2 回	各取引事例の分析	現金・預金			
第 3 回	各取引事例の分析	売掛金と買掛金			
第 4 回	各取引事例の分析	手形			
第 5 回	各取引事例の分析	各種債権・債務			
第 6 回	各取引事例の分析	有価証券、有形固定資産			
第 7 回	決算 2 - 決算整理 -	決算整理の意味			
第 8 回	決算 2 - 決算整理 -	現金過不足			
第 9 回	決算 2 - 決算整理 -	引当金			
第 10 回	決算 2 - 決算整理 -	有価証券の評価替え			
第 11 回	決算 2 - 決算整理 -	売上原価の算定			
第 12 回	決算 2 - 決算整理 -	減価償却費			
第 13 回	決算 2 - 決算整理 -	収益費用の見越・繰延			
第 14 回	決算 2 - 決算整理 -	8 桁精算表			
第 15 回	まとめ	修得した知識のまとめ			

# 経済

授業番号	B202080002				
科目名 (英語表記)	簿記論 II (Bookkeeping theory II)			B	
担当者 (英語表記)	鈴木 明男 (Akio Suzuki)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	簿記の基礎知識を持つ学生を対象に、簿記論 I より高度な知識習得を旨とする。最終的には貸借対照表と損益計算書作成を目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業内容が一層複雑になることから、繰り返し勉強することが必要となる。プリント配布により頻繁に練習するが、欠席すると途端に理解不能となる。欠席は禁物である。毎回、講義の流れを説明する。				
成績評価方法	定期試験 80% 授業内小テスト及び課題 20.%を目安とする。				
基準					
授業の予習・復習	特に会計関連資格の受験者には練習問題と最近の出版物の予習・復習が望ましい。				
教科書	「簿記入門」 小野保之、霧日出郎他 森山書店				
参考文献	「検定簿記講義 2・3 級」 中央経済社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	現金・預金の処理	小切手、小口現金、普通預金、当座預金等			
第 2 回	資産勘定の処理 I	受取手形、売掛金、有価証券、前渡金、未収金等			
第 3 回	資産勘定の処理 II	構築物、土地、建設仮勘定等			
第 4 回	負債・資本勘定の処理	支払手形、買掛金、前受金、借入金等			
第 5 回	収益・費用勘定の処理と商品売買の処理	種々の収益・費用勘定の理解 商品売買の分割法			
第 6 回	手形取引の処理	手形の意義、約束手形、為替手形の処理、裏書・割引、不渡、金融手形の意味			
第 7 回	決算の仕方と試算表	決算の意義・構造、試算表の構造			
第 8 回	決算整理 I	現金・預金・売掛金・商品等の残高照合と評価			
第 9 回	決算整理 II	貸倒引当金、諸引当金			
第 10 回	決算整理 III	減価償却			
第 11 回	決算整理 IV	収益・費用の見越と繰延			
第 12 回	精算表 I	精算表の仕組と作成			
第 13 回	精算表 II	精算表の仕組と作成			
第 14 回	財務諸表の作成 I	貸借対照表と損益計算書の構造と作成			
第 15 回	財務諸表の作成 II	貸借対照表と損益計算書の作成練習			

# 経済

授業番号	B202080003				
科目名 (英語表記)	簿記論 II (Bookkeeping theory II)			A	
担当者 (英語表記)	平屋 伸洋 (Nobuhiro Hiraya)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、簿記の基本構造や決算までの仕組みを理解できるようになることである。また到達目標は、日商簿記3級レベルの仕訳ならびに精算表・財務諸表の作成ができることである。				
授業の進め方 (履修条件など)	簿記はビジネスの言語といわれるように、特有のルールに基づいて成り立っている。それゆえ、簿記を理解するには問題演習を繰り返す必要がある。この授業では、取り上げるテーマごとの講義と、それに対応する問題演習を行うことによって進めていく。				
成績評価方法	小テスト: 30% (簿記論 II では、3回の小テストを行う。100点満点で採点し、それを成績評価の30%に換算する。)				
基準	期末試験: 70% (期末試験は100点満点で採点し、それを成績評価の70%分に換算する。)				
授業の予習・復習	次の授業までに、テキストの該当箇所を熟読して授業に臨むこと。またレポートについては、期日までに提出できるように授業で取り上げた箇所の復習を怠らないこと。				
教科書	『村田の簿記検定合格シリーズ 日商3級』(村田学園)				
参考文献	森久・長吉眞一・浅野千鶴・石川文子・蔣飛鴻・関利恵子著『企業簿記論』創成社、2010年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	本授業の概要と今後の進め方、成績評価について説明			
第2回	現金・預金の処理	小切手、小口現金、普通預金、当座預金等			
第3回	資産勘定の処理 I	受取手形、売掛金、有価証券、前渡金、未収金等			
第4回	資産勘定の処理 II	構築物、土地、建設仮勘定等			
第5回	負債・資本勘定の処理	支払手形、買掛金、前受金、借入金等			
第6回	収益・費用勘定の処理と商品売買の処理	種々の収益・費用勘定の理解、商品売買の分割法			
第7回	手形取引の処理	手形の意義、約束手形、為替手形の処理、裏書・割引、不渡、金融手形の意味			
第8回	決算の仕方と試算表	決算の意義・構造、試算表の構造			
第9回	決算整理 I	現金・預金・売掛金・商品等の残高照合と評価			
第10回	決算整理 II	貸倒引当金、諸引当金			
第11回	決算整理 III	減価償却			
第12回	決算整理 IV	収益・費用の見越と繰延			
第13回	精算表 I	精算表の仕組と作成			
第14回	精算表 II	精算表の仕組と作成			
第15回	財務諸表の作成	貸借対照表と損益計算書の構造と作成			



経済

授業番号	B201360001				
科目名 (英語表記)	保険論 (Insurance theory)				
担当者 (英語表記)	姜 英英	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義の前半では、保険がどのように成立つかを理解することを目標としている。講義の後半では、われわれにとって身近な保険商品は、経済学的視点からリスクというものの本質とは何か、またリスク・マネジメント手段の一つとしての仕組みなどについて、理解することを目標としている。				
授業の進め方 (履修条件など)	本講義を受講するにあたって、高度な統計学知識は必要としませんが、分散や標準偏差など統計学の基礎的概念を理解しておくことが望ましいです。				
成績評価方法	授業参加態度と定期試験の結果に基づいて評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習・復習をしておくことが望ましいです。				
教科書	下和田 功編 (2010)『はじめて学ぶリスクと保険』(第3版)、有斐閣				
参考文献	米山 高生 (2012)『リスクと保険の基礎理論』、同文館出版				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	講義内容、授業の到達目標について説明する。			
第2回	保険の基礎 (1)	リスクに関する様々な定義について、紹介する。			
第3回	保険の基礎 (2)	確率分布および期待値などの概念を利用して、「リスク」を理解する。			
第4回	保険の基礎 (3)	数値例を用いて、リスクの測定・評価の方法を学習する。			
第5回	保険の基礎 (4)	リスクのプーリング・アレンジメントの仕組みについて解説する。			
第6回	保険の基礎 (5)	リスクのプーリング・アレンジメントの効果について解説する。			
第7回	保険の基礎 (6)	保険の定義および保険制度の仕組みについて解説する。			
第8回	保険の基礎 (7)	保険購入によって本当にリスクを軽減できるかを検証する。			
第9回	保険の基礎 (8)	個人の保険需要に影響をあたえる要素について説明する。			
第10回	生命保険について	生命保険の分類および主な商品について説明する。			
第11回	火災保険と地震保険	火災保険の概要および地震保険の概要について説明する。			
第12回	自動車保険について	自動車保険の補償内容および自賠責保険制度について説明する。			
第13回	医療保険について	公的医療保険制度の仕組みおよび課題について概観する。			
第14回	年金について	公的年金制度の仕組みおよび課題について概観する。			
第15回	まとめ	授業内容のまとめ			

経済

授業番号	B202250001		
科目名 (英語表記)	マーケティングリサーチ I (Market research I)		
担当者 (英語表記)	藪内 正樹 (Masaki Yabuuchi)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	商品・サービスの開発・販売戦略を考える際、顧客の需要や好みなどを調査・分析するマーケティングリサーチは不可欠です。本講義では、基本的な考え方、方法などについて学びます。データの分析方法を学ぶマーケティングリサーチⅡも合わせて受講することをお勧めします。		
授業の進め方 (履修条件など)	事前に配布する資料を説明し、時々、演習問題を解いてもらいます。		
成績評価方法	演習の回答状況・質問の積極性 (50%)、定期試験 (50%)		
基準			
授業の予習・復習	予習：配布資料を事前に読み、分からない点について質問を準備してください。 復習：前回の講義資料、演習問題を再読してください。		
教科書	特にありません。事前に資料を配布します。		
参考文献	恩田直人・富田健司『1からのマーケティング分析』碩学社、2011年。 向後千春・富永敦子『統計学がわかる』技術評論社、2009年。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	互いの自己紹介 (関心事など)、講義の進め方	
第2回	マーケティングリサーチとは	事業戦略策定のための調査・分析、製品志向・販売指向・マーケティング志向	
第3回	マーケティング・プロセス	経営環境の把握、マーケティング政策の策定、マーケティング成果の把握	
第4回	リサーチ・デザイン	探索的リサーチ、記述的サーチ、因果的リサーチ	
第5回	リサーチの方法	定量調査、定性調査、ダイレクト・リサーチ、ビッグデータ	
第6回	リサーチの企画	目標の設定、仮説の設定、調査計画	
第7回	データの収集	調査目的と質問項目、質問表の回答形式、質問表作成の留意事項	
第8回	データの集計①	全数調査とサンプリング、サンプリングの方法	
第9回	データの集計②	データの評価に役立つグラフ表現	
第10回	データの集計③	平均と標準偏差	
第11回	データの集計④	平均と標準偏差の適用例	
第12回	データの分析	さまざまな分析方法	
第13回	リサーチの評価	分析結果の解釈、仮説の検証、仮説の発見	
第14回	リサーチ結果の活用	報告書の作成、プレゼンテーション	
第15回	まとめ	何が分かって何が分からないか、もう一度考え、発表しよう	

経済

授業番号	B202260001				
科目名 (英語表記)	マーケティングリサーチ II (Market research II)				
担当者 (英語表記)	藪内 正樹 (Masaki Yabuuchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は、マーケティングリサーチ I で学習した内容に基づき、データ分析の手法を具体的に学びます。統計学的な理論を学ぶとともに、データ分析を実習することにより、データを処理し、分析結果を解釈する力を身に付けます。				
授業の進め方 (履修条件など)	マーケティングリサーチ I と II を合わせて受講することを勧めます。事前に配布する資料を解説し、それぞれの分析手法について解説し、適宜、演習問題を解いてもらいます。				
成績評価方法	演習の回答状況 (50%)、定期試験 (50%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：配布資料を事前に読み、分からない点は質問を準備すること。 復習：前回の資料や演習結果を再読すること。				
教科書	特にありません。事前に資料を配布します。				
参考文献	恩田直人・富田健司『1からのマーケティング分析』碩学社、2011年 向後千春・富永敦子『統計学がわかる』技術評論社、2009年				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	「マーケティングリサーチ I」の復習、講義の進め方			
第2回	相関分析①	2つの変数の関連性の分析、散布図と相関、相関係数、無相関検定			
第3回	相関分析②	相関分析の演習			
第4回	X <sup>2</sup> (カイ 2 乗) 検定①	独立性の検定、適合度の検定、自由度、有意水準			
第5回	X <sup>2</sup> (カイ 2 乗) 検定②	X <sup>2</sup> 検定の演習			
第6回	t 検定①	2つのグループの平均値の差に意味があるか否かの検定			
第7回	t 検定②	t 検定の演習			
第8回	分散分析①	3つ以上の平均値の間の差の分析			
第9回	分散分析②	分散分析の演習			
第10回	回帰分析①	原因と結果となる2つの変数の関係の数式化、検定・予測・比較			
第11回	回帰分析②	回帰分析の演習			
第12回	因子分析	観測される複数の変数間の相関関係から潜在的な要因を発見する			
第13回	コンジョイント分析	価格・性能・デザインなど複数の要素のどの組合せが好まれるかの分析			
第14回	マーケットリサーチの実際	具体的なリサーチ事例を見てみよう			
第15回	まとめ	学んだことから、自分の関心事をテーマにリサーチ企画を考えてみよう			

# 経済

授業番号	B202110001				
科目名 (英語表記)	マーケティング論 (Introduction to Marketing)				
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本授業は、初めてマーケティングを学ぶ学生が、マーケティングの基本概念とその全体像を理解することを目指します。マーケティングとは、市場での交換を通じて顧客価値を実現するプロセスです。この交換の連鎖を生み出す生産者、販売者、消費者の活動を考察の対象にしなが、マーケティングの基礎を学びます。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式で理論とケースを学びます。パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で講義し、必要に応じて、ケース・スタディのためのビデオ教材を用います。				
成績評価方法	中間レポート (40%)、定期試験 (60%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の進行に合わせ参考文献を読んでおくことをおすすめします。 復習：前回の講義資料を再読しておくことをおすすめします。				
教科書	特にありません。毎回必要な資料を作成し講義します。				
参考文献	石井淳蔵・廣田章光編著『1からのマーケティング 第3版』碩学舎、2009年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方についての説明			
第2回	マーケティングとは	マーケティング発想の経営			
第3回	マーケティングとは	マーケティング論のなりたち			
第4回	マーケティングとは	マーケティングの基本概念			
第5回	マーケティングとは	戦略的マーケティング			
第6回	マーケティング・ミックス	製品のマネジメント			
第7回	マーケティング・ミックス	価格のマネジメント			
第8回	マーケティング・ミックス	広告のマネジメント			
第9回	マーケティング・ミックス	チャネルのマネジメント			
第10回	ブランド	ブランド構築のマネジメント			
第11回	ブランド	ブランド組織のマネジメント			
第12回	県庁担当者による講義	県庁担当者による講義			
第13回	リレーションシップ・マーケティング	顧客関係のマネジメント			
第14回	リレーションシップ・マーケティング	顧客理解のマネジメント			
第15回	サプライチェーン	サプライチェーンのマネジメント			

# 経済

授業番号	B200870001		
科目名 (英語表記)	マクロ経済学 I (Macro-economics I)		
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	マクロ経済学は国民経済あるいは国際間の経済関係を理論的に明らかにし、金融・財政政策の基礎理論を習得することを目的とする。具体的には、景気変動や物価変動のメカニズム、実物経済と貨幣経済、国際取引が国内の経済に及ぼす影響など、より専門的な経済分析に必要な知識を身につけさせることをねらいとしている。		
授業の進め方 (履修条件など)	必要があればプリントを配布するが、授業は板書を中心に進めていくので、しっかりノートをとること。また重要項目を授業で説明した後、理解を深めるため、演習問題を課題として出すので、必ず自分で解くこと。		
成績評価方法	定期試験 (70%)・授業内小テスト (15%)・レポート及びその他の課題 (15%)		
基準			
授業の予習・復習	下記の参考文献は予習、復習に最適であるから利用すること。復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。		
教科書	使用しない		
参考文献	『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版、西村和雄、八木尚志 『スティグリッツ マクロ経済学』東洋経済新報社、J.E. スティグリッツ、C.E. ウォルシュ		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	マクロ経済学の範囲と手段	マクロ経済政策の課題と均衡分析	
第 2 回	国民経済計算 (1)	国内総生産と三面等価の原則, 名目値と実質値	
第 3 回	国民経済計算 (2)	国内総生産と国内純生産、国民所得	
第 4 回	物価指数	物価指数の種類、ラスパイレス指数とパーシェ指数	
第 5 回	国民所得の決定 (1)	三面等価と均衡国民所得の決定	
第 6 回	国民所得の決定 (2)	インフレギャップとデフレギャップ	
第 7 回	乗数効果 (1)	投資乗数と政府支出乗数	
第 8 回	乗数効果 (2)	租税乗数と均衡乗数	
第 9 回	貨幣の役割	貨幣の定義と機能	
第 10 回	貨幣供給 (1)	ハイパワード・マネーとマネーサプライ	
第 11 回	貨幣供給 (2)	信用創造の考え方	
第 12 回	貨幣供給 (3)	金融政策のメカニズムと手段	
第 13 回	貨幣需要 (1)	貨幣数量説と貨幣ヴェール観	
第 14 回	貨幣需要 (2)	ケインズの流動性選好理論	
第 15 回	授業のまとめ	マクロ経済政策への適用	

# 経済

授業番号	B200880001		
科目名 (英語表記)	マクロ経済学 II (Macro-economics II)		
担当者 (英語表記)	仁平 耕一 (Kouichi Nidaira)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	マクロ経済学は国民経済あるいは国際間の経済関係を理論的に明らかにし、金融・財政政策の基礎理論を習得することを目的とする。具体的には、景気変動や物価変動のメカニズム、実物経済と貨幣経済、国際取引が国内の経済に及ぼす影響など、より専門的な経済分析に必要な知識を身につけさせることをねらいとしている。		
授業の進め方 (履修条件など)	必要があればプリントを配布するが、授業は板書を中心に進めていくので、しっかりノートをとること。また重要項目を授業で説明した後、理解を深めるため、演習問題を課題として出すので、必ず自分で解くこと。		
成績評価方法	定期試験 (70%)・授業内小テスト (15%)・レポート及びその他の課題 (15%)		
基準			
授業の予習・復習	下記の参考文献は予習、復習に最適であるから利用すること。復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。		
教科書	使用しない		
参考文献	『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版、西村和雄、八木尚志 『スティグリッツ マクロ経済学』東洋経済新報社、J.E. スティグリッツ、C.E. ウォルシュ		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	IS-LM 分析 (1)	均衡国民所得と均衡利子率	
第 2 回	IS-LM 分析 (2)	IS-LM モデルによる財政・金融政策	
第 3 回	IS-LM 分析 (3)	IS-LM 曲線の形状と流動性トラップ	
第 4 回	IS-LM 分析 (4)	政策効果の計算	
第 5 回	総需要と総供給 (1)	総需要曲線の導出	
第 6 回	総需要と総供給 (2)	総需要曲線のシフト	
第 7 回	総需要と総供給 (3)	労働市場と総供給曲線	
第 8 回	総需要と総供給 (4)	総供給曲線の導出	
第 9 回	総需要と総供給 (5)	総供給曲線のシフト	
第 10 回	総需要と総供給 (6)	物価水準の決定	
第 11 回	総需要と総供給 (7)	政府支出の物価と国民所得に及ぼす効果	
第 12 回	開放マクロ経済 (1)	総需要・インフレ曲線に及ぼす国際的要因	
第 13 回	開放マクロ経済 (2)	為替レートの変動のインフレに及ぼす影響	
第 14 回	開放マクロ経済 (3)	開放経済における金融政策の有効性	
第 15 回	まとめ	閉鎖体系と開放体系の比較	

# 経済

授業番号	B200850001		
科目名 (英語表記)	ミクロ経済学 I (Micro-economics I)		
担当者 (英語表記)	和田 良子 (Ryoko Wada)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	ミクロ経済学の考え方によって経済事象や毎日の生活の行動原理を理解します。ミクロ経済学の最終的な目標が、効率的な資源配分にあることを繰り返し学び、理解していきます。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義ののち、小テストを毎回出します。これによって、復習と予習を促します。ノートを必ず取り、毎回の理解を積み上げていくこと。		
成績評価方法	小テストによって 6 割, 期末テストによって 4 割を評価の対象とします。		
基準			
授業の予習・復習	予習: 小テストによって行います。 復習: 小テストによって行います。		
教科書	井堀利宏 『コンパクト経済学』 新世社		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	イントロダクション	ミクロ経済学とはどのような学問か	
第 2 回	ミクロ経済学の目標	ミクロ経済学の理解目標と応用事例	
第 3 回	消費理論 1	選ぶということ, 最も良い選び方, 選好の仮定と効用	
第 4 回	消費理論 2	選好の仮定と効用関数	
第 5 回	消費理論 3	無差別曲線, 予算制約	
第 6 回	消費理論 4	限界代替率, 効用の最大化	
第 7 回	配分 1	配分とはなにか, 配分方法, 価格メカニズム	
第 8 回	配分 2	パレート効率性, アローの一般不可能性	
第 9 回	生産理論 1	企業の活動目的, ステークホルダー	
第 10 回	生産理論 2	技術と生産関数	
第 11 回	生産理論 3	利益の最大化と生産の理論	
第 12 回	生産理論 4	費用最小化問題, 平均費用, 限界費用	
第 13 回	社会選択の理論	選挙と多数決原理, マッチング理論	
第 14 回	ゲームの理論	ゲームの理論, 囚人のジレンマ	
第 15 回	まとめと応用	環境経済学への応用	

# 経済

授業番号	B200860001		
科目名 (英語表記)	ミクロ経済学 II (Micro-economics II)		
担当者 (英語表記)	和田 良子 (Ryoko Wada)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>ミクロ経済学の理論の理解を深めます。また、ミクロ経済学 I では扱うことができなかった応用を扱います。I よりも丁寧な定義のもとで、厳密な理論を学ぶことが目標です。</p> <p>厚生経済学、社会選択の理論、労働市場や結婚市場のマッチング理論、ゲームの理論などについて理解し、世の中を経済学によって捉える視点を手に入れます。</p> <p>また、規範的な経済学だけでなく、よりプラクティカルな経済学を学びます。行動経済学、実験経済学を紹介します。</p>		
授業の進め方 (履修条件など)	<p>ミクロ経済学 II では、履修を制限します。</p> <p>定義をきちんとするため、添え字が多いので、字が正確に見えるように、パソコン教室を使います。</p> <p>PPT とホワイトボードを使って講義をします。</p> <p>最初に実験をして直観的理解を進めます。実験と理論を組み合わせることで、難解な理論もすんなり理解できるようにします。</p>		
成績評価方法 基準	授業のあとの小テストへの回答が 60%、最終テストが 40%です。		
授業の予習・復習	予習はありませんが、小テストを行うことで復習になります。		
教科書	教科書は白桃書房から出版予定。		
参考文献	授業内容に応じて指示します。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	選好の理論	合理的選好の条件、合理的でない選好、顕示選好の理論と公理。選好の意味を掘り下げます。	
第 2 回	演習による (非) 合理的選好の理解	個人の合理的選好の条件が必要とする、推移性、独立性が敗れる例を体験する。また、社会選択において、推移性が簡単に敗れることを体験する。	
第 3 回	厚生経済学、パレート効率性による配分の評価	配分の定義、エッジワースボックスの理解、パレート効率性の定義、パレート改善について理解する。	
第 4 回	社会選択の理論、多数決の評価、アローの一般可能性定理についての演習	演習としてはアローの一般可能性定理の証明を実験によって直観的に理解します。どの公理を緩めるべきなのか考えます。	
第 5 回	ゲームの理論とナッシュ均衡	非協力ゲームの定義をし、利得構造を理解します。戦略における支配的戦略を理解します。また、ナッシュ均衡があるゲームとないゲームについて理解します。	
第 6 回	協力ゲーム理論	協力ゲームの理解をします。さまざまな利得構造のもとで、協力ゲームにおけるシャーププレー値を求めます。合併などの実例を用いて現実妥当性を評価します。	
第 7 回	社会選択の理論：マッチング	スクールチョイスや、医療制度において用いられるマッチングのアルゴリズムを学びます。ゲール・シャープレー方式、ポストン方式の違いを学びます。	
第 8 回	マッチングの実用例	公立高校のスクールチョイスの都道府県による違いを実証的に検証します。	
第 9 回	不確実性下の理論	セント・ペテルスブルグのパラドックスにより、期待値の問題を知ります。その後、期待効用理論を学びます。期待効用理論が説明できない、アレのパラドックスを学びます。	
第 10 回	不確実性下の選択：ブライオア理論およびプロスペクト理論	確率がわかっているときの人々の選択によって、プロスペクト理論を学びます。また、確率が客観的に与えられないときの選択によって、ブライオア理論を学びます。	
第 11 回	主観的確率による選択	確率が与えられているのに、その通りに評価しない主観的確率とは何かを選択により学びます。また、エルスバークパラドックスによって、あいまいさ回避を学びます。	
第 12 回	あいまいさ回避と主観的確率形成	保険選択などのベースになるあいまいさ回避について、くじのチョイスを使って理解します。	
第 13 回	利他主義の存在と最後通牒ゲーム	公平さとは何か、望ましい分配とはなにか、利他主義とは何かを直観的に学びます	
第 14 回	市場の失敗：公共財と市場	公共財があるときの市場の失敗を、ゲームを用いて直観的に理解します。ただ乗りの存在を理解し、メカニズムデザインを理解します。	
第 15 回	外部性の理論	外部性があるときの市場の失敗を、環境経済学のフレーミングで理解する	



経済

授業番号	B201190001		
科目名 (英語表記)	民法 I (Civil Code I)		
担当者 (英語表記)	古川 晴雄 (Haruo Furukawa)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	民法は私法の基本である。民法の基礎理論 (総則) 及び物権について講義し、私法問題について、自らの判断で対処できるに足る基礎的知識を習得することを目的とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	民法を学んだことのない学生が理解しやすいように、裁判案件、相談案件、判例等の具体的事例をとりいれて、出来るだけわかりやすく講義を進める予定である。また、物権法については、学生が理解し易いように、所有権、抵当権等の各論を先に講義し、その後に物権総論を講義する予定である。なお、講義はレジメを使用して行う予定である。		
成績評価方法	授業参加態度、定期試験により評価する。		
基準			
授業の予習・復習	基本書による予習、レジメによる復習が望まれる。		
教科書	民法入門の入門 財産編 (中川淳編 法律文化社)		
参考文献	プリメール民法1 (民法入門・総則 安井宏ほか共著)、 プリメール民法2 (物権・担保物件 松井宏興ほか共著) (法律文化社)		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	民法の意義と基本原則	民法とは何か、民法の基本原則について	
第2回	権利能力論、行為能力制度	権利能力の得喪、制限行為能力者の保護と相手方保護	
第3回	法人論	法人の成立、能力、役割	
第4回	権利の客体	物の意義と分類	
第5回	法律行為論	法律行為の意義、分類、解釈、目的	
第6回	意思表示1	心裡留保、虚偽表示、錯誤	
第7回	意思表示2	詐欺、強迫	
第8回	代理制度1	代理の意義、代理の構造、復代理等	
第9回	代理制度2	無権代理、表見代理	
第10回	時効制度	取得時効、消滅時効	
第11回	物権総則	物権の意義、種類、債権との違い	
第12回	所有権	所有権の意義と効力	
第13回	各種物権	占有権、担保物権等	
第14回	物権の効力・変動	物権の効力、物権変動と対抗問題	
第15回	民法総則、物権のまとめ	民法総則及び物権法全般のまとめ	

# 経済

授業番号	B201200001				
科目名 (英語表記)	民法 II (Civil Code II)				
担当者 (英語表記)	古川 晴雄 (Haruo Furukawa)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	講義は債権法が中心である。現代社会は多様化し、その対応は社会生活を営む上で、極めて重要となっている。民法総則・物権 (民法 1 前期) とあわせ、債権法を学ぶことで、学生が、私法問題 について対処できるような基礎的知識の習得を目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	債権法の分野は極めて広範囲であり多岐にわたっている。そこで、基本原則と重要分野を中心に、できるだけ裁判案件、相談案件、判例等の具体的事例を とりいれてわかりやすく講義を進める予定である。また、学生が理解しやすいように、各論を講義して、その後、総論部分を講義する方法を進めたい。分野が広範囲なこともあり、レジメを配布し、レジメを中心とした講義を行う予定である。				
成績評価方法	授業参加態度、定期試験により評価する。				
基準					
授業の予習・復習	債権法は、分野が広く多岐にわたるため、基本書による予習、レジメによる復習が望まれる。				
教科書	民法入門の入門 財産編 (中川淳編 法律文化社)				
参考文献	プリメール民法 3 (債権総論 宇佐見大司ほか共著)、 プリメール民法 4 (債権各論 大島俊之ほか共著) (法律文化社)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	物権と債権の相違	物権と債権の違い			
第 2 回	売買契約	売買契約の要件、機能、効力			
第 3 回	貸借契約	賃貸借、消費貸借等の意義、要件、効果			
第 4 回	その他契約	贈与、請負、雇用、委任等の要件と効果			
第 5 回	契約総論 1	契約の成立、種類等			
第 6 回	契約総論 2	契約の効力について			
第 7 回	契約総論 3	契約の解除等について			
第 8 回	事務管理、不当利得	事務管理、不当利得の意義、要件、効果			
第 9 回	不法行為 1	一般不法行為の意義と要件			
第 10 回	不法行為 2	不法行為の効果			
第 11 回	不法行為 3	不法行為の効力			
第 12 回	債権総論 1	債権の効力全般			
第 13 回	債権総論 2	詐害行為取消権、債権者代位権等			
第 14 回	債権総論 3	多数当事者関係、債権譲渡、弁済、相殺等			
第 15 回	債権法のまとめ	債権法全般のまとめ			

# 経済

授業番号	B201370001				
科目名 (英語表記)	有価証券法 (Negotiable-securities method)				
担当者 (英語表記)	野口 明宏 (Akihiro Noguchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済界で支払や金融の手段として有用性を発揮してきた、手形・小切手に関する法律の規制を学びます。技術的な法律ですから、基本的な考え方を理解すれば、有価証券は身近なものになるでしょう。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書を使用し、板書しながら授業を進めます。試験に備えるためにも、ノートを取るようになしてください。有価証券制度が理解できるように、分かりやすい説明に心がけます。				
成績評価方法	基本的に定期試験によって評価します。授業中の質問に対する解答、受講する姿勢などを考慮して、				
基準	評価します。				
授業の予習・復習	あらかじめ教科書を読んできてください。授業後は、ノートをもとに知識を整理しておくようにしましょう。				
教科書	近藤光男編 「現代商法入門」 有斐閣				
参考文献	必要な場合に、授業の中で紹介いたします。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の方針、試験の方法			
第 2 回	手形・小切手の機能	約束手形、為替手形、小切手の定義			
第 3 回	有価証券とは	定義、完全有価証券、設権証券、無因証券、呈示証券、受戻証券			
第 4 回	手形行為	要式性、文言性、無因性、手形客観解釈の原則、手形外観解釈の原則、手形行為独立の原則			
第 5 回	手形行為の成立	署名・記名捺印、創造説、交付契約説、発行説			
第 6 回	意思表示	制限能力者の手形行為、心裡留保、虚偽表示、錯誤、詐欺、強迫の場合			
第 7 回	他人を使った手形行為	代理方式、機関方式、無権代理、表見代理			
第 8 回	手形の偽造	機関方式との区別、偽造者の責任、手形法 8 条類推適用説、偽造者行為説			
第 9 回	手形の振出	支払のための振出、手形要件、確定日払手形、振出日の要件性			
第 10 回	白地手形	補充権、白地の不当補充、白地の補充期間			
第 11 回	手形の譲渡	裏書の方式、権利移転的効力、資格授与的効力			
第 12 回	裏書の連続	形式的資格者、適法な所持人の推定、裏書の不連続、法人の場合			
第 13 回	善意取得	民法の即時取得との相違、成立要件の比較、無権利者からの取得			
第 14 回	手形抗弁	物的抗弁、人的抗弁、人的抗弁の切断、悪意の抗弁、融通手形の抗弁			
第 15 回	特殊な裏書	白地式裏書、無担保裏書、裏書禁止裏書、戻裏書、期限後裏書、取立委任裏書、隠れた取立委任裏書、質入裏書			

# 経済

授業番号	B202350001				
科目名 (英語表記)	流通経営論 (Retailing)				
担当者 (英語表記)	藪内 正樹 (Masaki Yabuuchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	私たちの生活に必要な様々な商品を手に入れるには、生産者と消費者を結ぶ流通が欠かせない役割を担っています。流通の役割、形態、社会に応じた変化などの基礎的知識を身に付けることを目指します。最終回では、新たな流通、未来の流通について自由にディスカッションします。				
授業の進め方 (履修条件など)	事前に配布する資料を説明し、これに関する質問やディスカッションを求める形で進めます。				
成績評価方法	質問や発言の積極性 (40%)、定期試験 (60%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：配布資料を事前に読み、分からないことを質問する準備をすること。 復習：前回の資料やノートを再読すること。				
教科書	ありません。事前に資料を配布します。				
参考文献	石原武政・竹村正明『1からの流通論』碩学舎、2008年				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	自己紹介 (受講動機、関心事など)、講義の進め方			
第2回	流通 (商業) とは何か	市場の機能、生産者と消費者、流通の役割、卸売と小売			
第3回	商業の形態①	耐久消費財 (百貨店、量販店、総合スーパー)			
第4回	商業の形態②	衣類 (百貨店、SPA、中小小売業)			
第5回	商業の形態③	食品 (食品スーパー、コンビニ、中小小売業)			
第6回	商業の形態④	無店舗販売 (カタログ販売、TVショッピング、インターネット販売)			
第7回	流通構造の変化①	商業集積、商店街、ショッピングセンター			
第8回	流通構造の変化②	コンビニ (フランチャイズ・チェーン) による革新			
第9回	流通構造の変化③	家電メーカーの流通系列化と家電量販店			
第10回	商品の価格形成	メーカー希望価格とオープン価格、価格競争と経営合理化			
第11回	物流の役割と革新	商品輸送の仕組み、物流センターの機能、物流技術の革新			
第12回	商業の機能と効用	事業者の行動・効用、消費者・生産者への効用			
第13回	投機的流通と延期的流通	需要を予測し在庫を抱える投機的流通、発注まで生産・配送を遅らせて在庫を最小化する延期的流通			
第14回	生産・流通の分業から協働へ	売れ筋情報の生産へのフィードバック、在庫削減			
第15回	まとめ・ディスカッション	新たな流通、未来の流通を考えてみよう			

# 経済

授業番号	B202660001				
科目名 (英語表記)	流通情報論 (IT and Distribution Industry)				
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は、私たちの生活と密接にかかわる流通についての基礎知識を身につけ、実際の産業界で見られる流通現象を理解することを目標とします。また、流通における新たな動きとしての情報化の流れを概観し、生産者、商業者、消費者等、様々なメンバーが参加する流通システムにおいて観察される変化について理解を深めます。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式で理論とケースを学びます。パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で講義し、必要に応じて、ケース・スタディのためのビデオ教材を用います。流通とは何かを理論的に学び、身近な流通現象についての理解を深めます。				
成績評価方法	中間レポート (40%)、定期試験 (60%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の進行に合わせ参考文献を読んでおくことをおすすめします。 復習：前回の講義資料を再読しておくことをおすすめします。				
教科書	特にありません。毎回必要な資料を作成し講義します。				
参考文献	高嶋克義『現代商業学』有斐閣アルマ、2002年。 石原武政・竹村正明『1からの流通論』碩学舎、2008年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方についての説明			
第2回	小売業者による製販統合	小売業者による製販統合			
第3回	小売業者による製販統合	延期型の流通システム			
第4回	小売業者によるPB開発	小売業者によるPB開発			
第5回	小売業者によるPB開発	製販同盟に基づく共同商品開発			
第6回	商業における革新	商業における革新			
第7回	商業における革新	環境適応と革新			
第8回	変化する小売業	小売業態革新の展開			
第9回	変化する小売業	小売業態革新のパターン			
第10回	変化する卸売業	変化する卸売業			
第11回	変化する卸売業	製販統合への戦略的対応			
第12回	ケース・スタディ	セブン・イレブン			
第13回	中小商業問題	中小商業問題			
第14回	中小商業問題	商業集積における革新の難しさ			
第15回	流通の国際化	流通の国際化			

# 経済

授業番号	B202170001				
科目名 (英語表記)	流通論 (Distributive System)				
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	私たちの生活に必要な様々な商品・サービスを得るうえで流通は重要な役割を果たします。本講義は、私たちの生活と密接にかかわる流通についての基礎知識を身につけ、実際の産業界で見られる流通現象を理解することを目標とします。加えて、流通の国際化や近年の流通における新たな動きについて学びます。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式で理論とケースを学びます。パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で講義し、必要に応じて、ケース・スタディのためのビデオ教材を用います。流通とは何かを理論的に学び、身近な流通現象についての理解を深めます。				
成績評価方法	中間レポート (40%)、定期試験 (60%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業の進行に合わせ参考文献を読んでおくことをおすすめします。 復習：前回の講義資料を再読しておくことをおすすめします。				
教科書	特にありません。毎回必要な資料を作成し講義します。				
参考文献	高嶋克義『現代商業学』有斐閣アルマ、2002年。 石原武政・竹村正明『1からの流通論』碩学舎、2008年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方についての説明			
第2回	商業とは何か	流通の定義と機能			
第3回	商業とは何か	直接流通と間接流通			
第4回	小売商業の構造	小売商業の構造			
第5回	小売商業の構造	商品特性と消費者行動			
第6回	卸売商業の構造	卸売商業の構造			
第7回	卸売商業の構造	多段階流通と消費者費用			
第8回	現代の流通構造	現代の流通構造			
第9回	現代の流通構造	インターネット販売			
第10回	商業における信頼関係	商業における信頼関係			
第11回	商業における信頼関係	信頼関係と市場取引			
第12回	学生によるプレゼンテーション	中間レポートのプレゼンテーション			
第13回	商業におけるパワー関係	商業におけるパワー関係			
第14回	商業におけるパワー関係	パワー関係の形成			
第15回	生産者による流通系列化	生産者による流通系列化			

経済

授業番号	B201580001				
科目名 (英語表記)	労働法 (Labor law I)				
担当者 (英語表記)	高橋 良裕 (Yoshihiro Takahashi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	労働基準法の基本的な枠組みの理解を図りつつ、限られた時間の中で、個々の問題に対しアプローチする思考力を養うことを目指したいと思います。				
授業の進め方 (履修条件など)	労働基準法上の制度と解釈論を同法の基本的な枠組みや関係者の利益調整という視点を示しつつ解説を行いたいと思います。また、近年の社会情勢を受けた労働法の改正の動きについても、このような視点からできるだけフォローしたいと思います。				
成績評価方法	定期試験 (80%)・授業参加態度 (20%)。レポートは救済措置とします。骨太な考え方が身に付いているかを重視して評価を行います。				
授業の予習・復習	レジュメの項目から予め流れを掴み、授業のメモ、教科書等を参照して理解を深めてもらいたいと思います。				
教科書	新世社「ライブラリ法学基本講義 労働法」(土田道夫著)				
参考文献	六法, 有斐閣「別冊ジュリスト 労働判例百選 (第8版)」, 弘文堂「労働法 (第10版)」(菅野和夫著)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	ガイダンス			
第2回	労働法総論	労働法の意義・理念・指導原理			
第3回	労働契約関係 (1)	労働契約・労働協約			
第4回	労働契約関係 (2)	就業規則			
第5回	労働契約の成立に関する法規整	採用の事由, 採用内定, 試用			
第6回	非典型的労働契約 (1)	有期雇用, パートタイム労働者			
第7回	非典型的労働関係 (2)	他企業労働者			
第8回	賃金 (1)	賃金の意義と体系			
第9回	賃金 (2)	労基法による賃金保護, 最低賃金制度, 賃金債権の履行確保			
第10回	労働時間・休暇 (1)	労働時間・休日の原則, 時間外・休日労働			
第11回	労働時間・休暇 (2), 少子高齢化と労働関係	法定労働時間の弾力化, 柔軟な労働時間制度, 年次有給休暇, 高齢・少子社会の就業援助			
第12回	労働災害の補償	労災補償制度, 労災保険制度, 法定外補償			
第13回	企業秩序と懲戒	服務規律, 企業秩序, 内部告発の保護, 懲戒の意義・根拠と限界等			
第14回	人事	教育訓練, 昇進・昇給・降給			
第15回	労働契約関係終了に関する法規整	解雇以外の終了事由, 解雇			

国際					
授業番号	B100430001				
科目名 (英語表記)	College English I (College English I)				
担当者 (英語表記)	英語担当教員	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	英語の4技能(読む、聞く、話す、書く)を伸ばすための基礎となる知識を固めることが目的です。クラスは3レベル(初級、中級、上級)6クラスに分かれ、受講者はそれぞれの英語運用能力に適った環境で学びます。上から3クラスは定期試験(年2回)としてTOEIC IPテストを受験します(学生負担無し)。1年次に受験する機会がなかった人も2年以降College English III・IVを受講することで、同じようにTOEIC IPテストを受けることができます。College English I・IIでしっかり実力をつけ、卒業までに高得点を獲得できるようにしましょう。				
授業の進め方(履修条件など)	小テストの方法や授業の内容、進め方はレベルにより異なりますが、初回の授業で担当教員が説明しますので、受講者はそれぞれの先生の指示に従ってください。なお、上級・中級クラスは教科書のExerciseやCD-ROMを活用して、文法の知識を予習しておくこと。				
成績評価方法	平常点(小テストなど)(40%)、中間試験(30%)、TOEIC IPテストのスコア(30%)				
基準					
授業の予習・復習	予習・復習: 教科書のCD-ROMを使用し、指示に従って問題演習を終わらせ、小テストに備えること(上級・中級)。演習の量、範囲はレベルにより異なるため、担当教員の指示に従ってください。				
教科書	上級 Grammar in Use: Intermediate with CD-ROM. Raymond Murphy et.al. Cambridge University Press. またはマーフィーのケンブリッジ英文法(中級編) 中級 Grammar in Use: Basic with CD-ROM. Raymond Murphy et.al. Cambridge University Press. またはマーフィーのケンブリッジ英文法(初級編) 初級 担当者によるテキスト				
参考文献	Oxford Wordpower Dictionary for Learners of English. Oxford University Press; 3rd Revised edition 版				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	授業の進め方について	教科書の概要。TOEIC IPテストについて。			
第2回	Grammar ①	Present Continuous and Simple Present			
第3回	Reading Comprehension ①	※テキストは各レベルにより異なります。受講者の上達の度合いに応じて随時適切な教材を配布。			
第4回	Grammar ②	Present Perfect and Past			
第5回	Reading Comprehension ②	※参照			
第6回	Grammar ③	Will			
第7回	Reading Comprehension ③	※参照			
第8回	Grammar ④	I will and I'm going to Will be doing and will have done			
第9回	Reading Comprehension ④	※参照			
第10回	中間試験 (50分)	要点について解説			
第11回	Grammar ⑤	Could (do) and could have (done), Must			
第12回	Reading Comprehension ⑤	※参照			
第13回	Grammar ⑥	May and might			
第14回	Reading Comprehension ⑥	※参照			
第15回	Grammar ⑦	Should, Would			



国際			
授業番号	B100440003		
科目名 (英語表記)	College English II (College English II)		
担当者 (英語表記)	英語担当教員	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	英語の4技能(読む、聞く、話す、書く)を伸ばすための基礎となる知識を固めることが目的です。クラスは3レベル(初級、中級、上級)6クラスに分かれ、受講者はそれぞれの英語運用能力に適った環境で学びます。上から3クラスは定期試験(年2回)としてTOEIC IPテストを受験します(学生負担無し)。1年次に受験する機会がなかった人も2年以降College English III・IVを受講することで、同じようにTOEIC IPテストを受けることができます。College English I・IIでしっかり実力をつけ、卒業までに高得点を獲得できるようにしましょう。		
授業の進め方(履修条件など)	小テストの方法や授業の内容、進め方はレベルにより異なりますが、初回の授業で担当教員が説明しますので、受講者はそれぞれの先生の指示に従ってください。なお、上級・中級クラスは各自教科書添付のCD-ROMで演習を繰り返し、文法の知識を確認してください。		
成績評価方法	平常点(小テストなど)(40%)、中間試験(30%)、TOEIC IPテストのスコア(30%)		
基準			
授業の予習・復習	予習・復習:教科書のCD-ROMを使用し、指示に従って問題演習を終わらせ、小テストに備えること(上級・中級)。演習の量、範囲はレベルにより異なるため、担当教員の指示に従ってください。		
教科書	上級 Grammar in Use: Intermediate with CD-ROM. Raymond Murphy et.al. Cambridge University Press. 中級 Grammar in Use: Basic with CD-ROM. Raymond Murphy et.al. Cambridge University Press. 初級 担当者によるテキスト		
参考文献	Oxford Wordpower Dictionary for Learners of English. Oxford University Press; 3rd Revised edition 版		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	TOEIC IPテスト結果について	教科書の概要。TOEIC IPテストについて。	
第2回	Grammar ①	If and Wish	
第3回	Reading Comprehension ①	※テキストは各レベルにより異なります。受講者の上達の度合いに応じて随時適切な教材を配布。	
第4回	Grammar ②	Passive	
第5回	Reading Comprehension ②	※参照	
第6回	Grammar ③	Reported Speech	
第7回	Reading Comprehension ③	※参照	
第8回	Grammar ④	Articles and Nouns, -ing and the Infinitive	
第9回	Reading Comprehension ④	※参照	
第10回	中間試験 (50分)	要点について解説	
第11回	Grammar ⑤	Relative Clauses	
第12回	Reading Comprehension ⑤	※参照	
第13回	Grammar ⑥	Adjectives and Adverbs	
第14回	Reading Comprehension ⑥	※参照	
第15回	Grammar ⑦	Conjunctions and Prepositions	

国際

授業番号	B100450002				
科目名 (英語表記)	College English III (College English III)				
担当者 (英語表記)	George Whalley (George Whalley)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	This class is designed for students who wish to further develop and apply the skills learned in College English I and II. The majority of class time will be spent building vocabulary, reviewing grammar, practicing conversations and reading short stories. Emphasis will be placed on improving students verbal and written communication skills. There will also be a portion of this class devoted to TOEIC test contents and strategies. Students are highly encouraged to take the TOEIC IP test free of charge as part of this course.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should have passed College English I and II to take this class.				
成績評価方法	Grading will be equally based on participation, classwork and TOEIC test results.				
基準					
授業の予習・復習	Students will be asked to briefly explain current events in their lives and in the news to the instructor each class. Preparation for this task is required.				
教科書	The instructor will provide materials for this class. No textbook is assigned.				
参考文献	Students should bring a dictionary to each class.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Food Restaurants and Cooking	Food Q&A, Current Topics, Grammar (Questions)			
第 2 回	Shopping Department Stores and Clothing	Shopping Q&A, Current Topics, Grammar (Questions)			
第 3 回	Music Styles and Singers	Music Q&A, Current Topics, Grammar (Auxiliary Verbs)			
第 4 回	Transportation Public Transportation and Travel	Transportation Q&A, Current Topics, Grammar (Tag Questions)			
第 5 回	Work and Lifestyle	Work Q&A, Current Topics, Grammar (Verbs - ing)			
第 6 回	Movie	Slumdog Millionaire			
第 7 回	Slumdog Millionaire	Story Telling, Current Topics, Grammar (Verb- to)			
第 8 回	Family Marriage and Children	Family Q&A, Current Topics, Grammar (Verb - Object - to)			
第 9 回	Airports Airplanes and Destinations	Airport Q&A, Current Topics and Grammar (prefer vs rather)			
第 10 回	Famous People Stars and Legends	Famous People Q&A, Current Topics, Grammar (Prepositions)			
第 11 回	Sports Olympics and Games	Sports Q&A, Current Topics and Grammar (Be/Get used to)			
第 12 回	Home and Housework	Home Q&A, Current Topics, Grammar (Purpose)			
第 13 回	TOEIC Preparation	TOEIC Contents and practice questions			
第 14 回	TOEIC Preparation	TOEIC Strategies, WH- Questions, Frequent Errors			
第 15 回	TOEIC Preparation	TOEIC Practice Test and Review			

国際					
授業番号	B100450003				
科目名 (英語表記)	College English III (College English III)				
担当者 (英語表記)	増井 由紀美 (Yukimi Masui)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	身近な問題を扱った英文エッセイを主な教材にします。基本的文法のミスを極力少なくし、より正確な英語力向上へと導きます。TOEIC 400 点～700 点程度が対象です。50～100 点以上伸びることを目指しましょう。				
授業の進め方 (履修条件など)	College English I, II を修了し、TOEIC 400 以上であることが履修条件です。				
成績評価方法	授業内評価 3 0 %、TOEIC 試験結果 3 0 %、クイズおよび提出物など 4 0 %				
基準					
授業の予習・復習	予習： 教員の指示に従い、授業で扱う範囲の文章を読みます。 復習： 語彙・文法事項の理解度を試験および提出物で確認します。				
教科書	Life Topics [Advanced]: A Critical Thinking Approach to English Proficiency by Takashi SHimaoka and Jonathan Berman, Nan-un-do, 2014.				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction	授業の進め方を説明します。英語力確認のために短いエッセイを読みます。			
第 2 回	Physical Fitness	身体に関する語彙を学びます。読解により、語彙の使い方を身につけます。聞き取りにより、内容の理解を確認します。			
第 3 回	Blood Types	ゲーム感覚で血液型に関するエッセイを読みます。本文で頻出する語彙を用いながら会話の練習をします。			
第 4 回	Dreams	夢の意味についてのエッセイで自分自身について考えます。そして、夢判断を英文で試みます。			
第 5 回	Speed Dating	人はどういう風にして知り合うのでしょうか。「合コン」はひとつの場を提供します。ここでどのように自己紹介しますか。その方法を探りましょう。			
第 6 回	Review, Quiz 1	これまでカバーした 4 Lessons が範囲となります。			
第 7 回	Pet in Japan	ペットと人間の関係について考えます。			
第 8 回	Stress	誰もがストレスを感じたことがあるでしょう。原因、現状、問題解決などを表現するための語彙を学び、自己分析します。			
第 9 回	Fast Food: Super Size Me	食と健康は多くに関わりがあります。好物が健康には敵になることもあります。アメリカで有名になった映画を資料に、自らの食生活についても考えてみましょう。			
第 10 回	Watching a film	Super Size Me の映画を見ます。			
第 11 回	Shopping Trends	買い物の形は時代ごとに変化を見せます。今私たちが楽しむショッピングの形は？ アメリカのケースを学びつつ、日本の事情についても考えます。			
第 12 回	Review, Quiz 2	"Pet in Japan" "Stress" "Fast Food" が試験範囲です。			
第 13 回	Women and Work	先進国の中で、日本は女性の社会的地位が低いと言われていています。なぜそうなるのでしょうか。興味深い問題です。			
第 14 回	The Internet	IT 時代と言われ初めて既に四半世紀が過ぎました。新しい時代は新しい言葉を生み出します。これを英語で表現すると？ 楽しみましょう。			
第 15 回	Review	これまで学んだことを整理します。			

国際

授業番号	B100460001				
科目名 (英語表記)	College English IV (College English IV)				
担当者 (英語表記)	George Whalley (George Whalley)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	This class is designed for students who wish to develop and apply the skills learned in College English I and II. It is a continuation of College English III but can be taken as a separate course. The majority of class time will be spent on building vocabulary, reviewing grammar, practicing conversations and reading short stories. Emphasis will be placed on improving verbal and written communication skills. There will also be a portion of this class devoted to TOEIC test contents and strategies. Students are highly encouraged to take the TOEIC IP test free of charge as part of this course.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should have passed College English I and II to take this class				
成績評価方法 基準	Grading will be based equally on participation, classwork and TOEIC test scores.				
授業の予習・復習	Students will be asked to explain current events in their lives and in the news to the instructor each class. Preparation for this task is required.				
教科書	The instructor will provide all materials for this class. No textbook is assigned.				
参考文献	Students should bring a dictionary to each class.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Mental and Physical Health	Mental and Physical Health Q&A, Current Topics, Grammar (Adjective + to)			
第 2 回	Entertainment Movies and Music	Entertainment Movies and Music Q&A, Current Topics, Grammar (See somebody do)			
第 3 回	Pets and Animals	Pets and Animals Q&A, Current Topics, Grammar (Countable and Uncountable Nouns)			
第 4 回	Weather Disasters and Seasons	Weather Disasters and Seasons Q&A, Current Topics, Grammar (Articles)			
第 5 回	America People Places and Things	America People Places and Things Q&A, Current Topics, Grammar (Singular and Plural)			
第 6 回	Forrest Gump (movie)	Movie			
第 7 回	Forrest Gump Review	Forrest Gump Q&A, Current Topics, Grammar (Possessive Pronouns)			
第 8 回	Religion Faith and Values	Religion Faith and Values Q&A, Current Topics, Grammar (Agreement)			
第 9 回	Education University and Study	Education University and Study Q&A, Current Topics, Grammar (Relative Clauses)			
第 10 回	Nations and Nationalities	Nations and Nationalities Q&A, Current Topics, Grammar (Comparisons)			
第 11 回	Children and Parenting	Children and Parenting Q&A, Current Topics, Grammar (Word Order)			
第 12 回	Choices in Life	Choices in Life Q&A, Current Topics, Grammar (Word Order con` t)			
第 13 回	TOEIC test preparation	TOEIC test review and practice test questions			
第 14 回	TOEIC test preparation	TOEIC test strategies (Listening for key words)			
第 15 回	TOEIC test preparation	TOEIC test strategies (key vocabulary)			

国際						
授業番号	B100460003					
科目名 (英語表記)	College English IV (College English IV)					
担当者 (英語表記)	増井 由紀美 (Yukimi Masui)	対象学年	2	単位数	2	
授業のねらいと到達目標	身近な話題を英文で読むことにより、短期間集中力 (読み/聞き取り) が持続できるように訓練をします。					
授業の進め方 (履修条件など)	授業では度々クイズを行います。弱点に気づき、効果的な自習が出来るように導きます。受講者は教員の指示に従い、読解、聴解の訓練を受けます。					
成績評価方法	授業内評価 30%、TOEIC 30%、クイズ及び提出物 40%					
基準						
授業の予習・復習	予習：教員の指示に従い、授業範囲を読んでおくこと。 復習：授業で学んだことを自分のものにするために繰り返し聞き、読む。					
教科書	Life Topics [Advanced]: A Critical Thinking Approach to English Proficiency by Takashi Shimaoka and Jonathan Berman, Nan'un-do, 2014.					
参考文献						
回数	授業項目	授業内容				
第 1 回	Introduction	College English III で勉強したことについて復習します。				
第 2 回	Kawaii	日本初の言葉 Kawaii は英語圏にも徐々に広がってきました。日本語で言う「可愛い」との違いは何なのか考えましょう。				
第 3 回	Same-Sex Marriage	同性結婚という言葉がテレビや新聞に頻出する時代になりました。英語のエッセイを読みながら、正確な知識を身につけましょう。				
第 4 回	Japan Dresses Casual	国の政策としてのファッションとは？ 興味深いテーマですね。				
第 5 回	World Happiness	私たちは幸福を追求することが憲法で保障されています。世界の幸せはどうなっているのでしょうか。				
第 6 回	Review, Quiz 1	これまで勉強してきたことを基に中間試験をします。これは復習の機会だと捉えて下さい。				
第 7 回	The Right to Die	誰もが死と向き合う時がきます。人には死ぬ権利があるのでしょうか。その問題を一緒に考えます。				
第 8 回	Pet Cloning	ペットは益々可愛くきれいになっているようです。売買が可能ですから、より高く売るためにはより魅力的に「製造」しますか？ 生き物ですけど、...				
第 9 回	Salt, Sugar, Fat	食の問題について考えます。より健康に、安全な食生活を送るための工夫が見つかるでしょうか。				
第 10 回	Artificial Insemination	artificial と natural は相対立する言語です。生命は後者のものでしょう。ただ、今は「人口受精」の技術が発達した社会なのです。先端技術の分野を英語で学ぶのは面白いですよ。				
第 11 回	Review, Quiz 2	これまで勉強したところの復習テストです。				
第 12 回	Smoking	禁煙車も増え、禁煙レストランも増えました。社会が喫煙に No! を突きつけています。どこに理由があるのでしょうか。探ります。				
第 13 回	Photoshop Ads	"photoshopped" という言葉から見えて来る現代社会とは？				
第 14 回	Are Men Necessary	「人類」「男」「女」について考えます。				
第 15 回	Review	これまで勉強したことの総復習です。				

国際

授業番号	B100880001				
科目名 (英語表記)	D e b a t e I (Debate I)				
担当者 (英語表記)	増井 由紀美 (Yukimi Masui)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本授業では Debate とは何かを知り、その練習を繰り返すことにより、論理的な思考、及び相手の意見を尊重しながら対話する技術を身につけます。教材及びクラス内での言語を英語に限ることにより、英語の上達を促します。				
授業の進め方 (履修条件など)	グループで練習する場面が多いので、遅刻や欠席をしないということを守って下さい。授業はまず教師の与える配布資料、あるいは板書での指示に従い、各回目的を押さえます。グループに分かれて訓練します。提出物などの課題は個々で完成させます。				
成績評価方法	出席 3 0 %、提出物 3 0 %、期末試験 4 0 %				
基準					
授業の予習・復習	各回、宿題を課します。				
教科書	授業内配布資料を用います。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Debate って何？	そもそも Debate って何でしょう？意見交換との違いを学びます。			
第 2 回	事実と意見	賛成する、あるいは反対する時に役に立つ表現を学びます。			
第 3 回	事実、意見、主義、価値観	正しいとか間違いは、何が根拠になって決められるのでしょうか。			
第 4 回	Debate の型	事実と意見はどちらが説得力がありますか。			
第 5 回	理由	効果的な理由づけを考えます。			
第 6 回	説得力	どんな例をあげたら説明しやすいですか。専門家の意見や統計は役に立ちますか。			
第 7 回	説得できないものは？	偏見、肩書き、統計などにゆがめられていませんか？			
第 8 回	理解 (基礎)	簡単な Debate の例 (1 ページ) を読む、あるいは聞いて分析します。			
第 9 回	実践 (基礎)	先週の例を用いながら実際に作ります。			
第 10 回	理解 (初級)	2 ページ程の例文を読んで分析します。			
第 11 回	実践 (初級)	先週の例を参考に、実際に Debate をします。			
第 12 回	理解 (中級)	Debate 大会のテーマを決めます。			
第 13 回	実践 (中級)	用いる資料について話し合います。			
第 14 回	実践 (中級)	グループに分かれて Debate 大会です。			
第 15 回	Debate はどんな場面で役立つか？	Debate はどんな場面で役に立つか、意見交換しながらこの授業で学んだことを総復習します。			

国際

授業番号	B100890001				
科目名 (英語表記)	D e b a t e II (Debate II)				
担当者 (英語表記)	Thomas O'Leary (Thomas O'leary)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	To communicate as part of a debate group - How to present a point developed after collecting research and exploring reasons. Debate I is not necessary for Debate II. This is not a difficult course.				
授業の進め方 (履修条件など)	12 study themes. Participation score. 3 review tests.				
成績評価方法	Students practice speaking to communicate ideas and understand how to introduce a case in debate. We learn skills step-by-step				
基準					
授業の予習・復習	Participation - 65%. Test scores - 35%.				
教科書	One-page copied print passed out by the teacher for each new theme. Students will bring a notebook to class every week.				
参考文献	Effort and a good attitude are most important.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction	Outline of Course			
第 2 回	How Debates Take Place	Vocabulary for learning to debate.			
第 3 回	Words of Agreement and Disagreement	How verbs are chosen to express differences			
第 4 回	How a Team Prepares	Individual statements of a case			
第 5 回	Key Points about Skills	How to phrase a point well			
第 6 回	First Test	We review key points.			
第 7 回	Inter-relationship Skills	Working together with group aims			
第 8 回	Reporting Skills	Fact Finding and Investigation Practice			
第 9 回	Organizing Well	How to shape research results			
第 10 回	The Role of the Judge	We try to discover our weak points.			
第 11 回	Second Test	We describe a team's preparation.			
第 12 回	Making a Presentation	We improve our thinking skills.			
第 13 回	Checking Your Skills	We try to analyze our skill level.			
第 14 回	Outlining a Project	We outline a full two-team debate.			
第 15 回	Final Appraisal	We test our mastery of debate points.			

国際

授業番号	B100910001				
科目名 (英語表記)	English for Children I (English for Children I)				
担当者 (英語表記)	Jayne Ikeshima (Jayne Ikeshima)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This is a course to introduce students to the traditional rhymes, games, and songs played and sung by American children. At the end of the course, students will know understand, and be able to sing or recite all of the items listed in the weekly syllabus.				
授業の進め方 (履修条件など)	Class space is limited, so students who want to be in the class should attend the class on the first day.				
成績評価方法 基準	Grading will be based on attendance and classwork, homework, quizzes, and tests.				
授業の予習・復習	予習 : Students should try to use as much English as possible in their daily lives. 復習 : Students should review the class material after each class, and do any homework that was assigned.				
教科書	Printed material				
参考文献	Students should bring a dictionary to class.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Lesson 1	Introductions			
第 2 回	Lesson 2	Eensy Weensy Spider			
第 3 回	Lesson 3	Peanut Butter			
第 4 回	Lesson 4	Head and Shoulders			
第 5 回	Lesson 5	Rain Rain Go Away			
第 6 回	Lesson 6	Bingo			
第 7 回	Lesson 7	Review			
第 8 回	Lesson 8	Test			
第 9 回	Lesson 9	The Ants Go Marching			
第 10 回	Lesson 10	Skinamarink			
第 11 回	Lesson 11	Word Puzzles and Jokes			
第 12 回	Lesson 12	There Was an Old Woman Who Lived in a Shoe			
第 13 回	Lesson 13	U.S. Animated Cartoons			
第 14 回	Lesson 14	Review			
第 15 回	Lesson 15	Final Exam			



国際

授業番号	B100920001				
科目名 (英語表記)	English for Children II (English for Children II)				
担当者 (英語表記)	Jayne Ikeshima (Jayne Ikeshima)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This course is a continuation of English for Children I. It will introduce students to more of the traditional rhymes, games, and songs played and sung by American children. At the end of the course students will understand and be able to play, sing, and recite a variety of songs and games.				
授業の進め方 (履修条件など)	Class space is limited so students who want to be in the class should attend on the first day.				
成績評価方法 基準	Grading will be based on attendance and classwork, quizzes, and tests.				
授業の予習・復習	Students should try to use as much English as possible in their daily lives. Students should review the class material after each class and do any homework that was assigned.				
教科書	Printed material.				
参考文献	Students should bring a dictionary to class.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Lesson 1	Introductions			
第 2 回	Lesson 2	Counting games			
第 3 回	Lesson 3	Alphabet games			
第 4 回	Lesson 4	Songs			
第 5 回	Lesson 5	Rhymes and Rhythms			
第 6 回	Lesson 6	Poems			
第 7 回	Lesson 7	Reading stories			
第 8 回	Lesson 8	Test			
第 9 回	Lesson 9	Jazz chants			
第 10 回	Lesson 10	Jokes and riddles			
第 11 回	Lesson 11	Word puzzles			
第 12 回	Lesson 12	Vocabulary and hidden pictures			
第 13 回	Lesson 13	Television and cartoons			
第 14 回	Lesson 14	Review			
第 15 回	Lesson 15	Test			

国際

授業番号	B100730001				
科目名 (英語表記)	Listening I (Listening I)				
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This class is for the high beginners and pre-intermediate level students. The purpose is to acquire basic listening skill. Through the variety of exercises students will listen everyday spoken English and become familiar with correct English pronunciation, rhythm and intonation.				
授業の進め方 (履修条件など)	(1) Check your placement test score and class level. (2) Attend the first class for course registration. (3) Bring textbook and dictionaries to the lesson. (4) Take review quiz of each unit.				
成績評価方法	(1) Class participation (2) Exercises (3) Review quiz (4) Final Test				
基準					
授業の予習・復習	Read the textbook and prepare for the next lesson. Practice what they learned in class and prepare for the review quiz.				
教科書	PRISM Listening red				
参考文献	Reference books or study-aid materials will be indicated during lessons.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Guidance	Introduction of lesson / What is listening? / warm-up			
第 2 回	Unit 1	Do You Want to Be Famous?			
第 3 回	Unit 2	Facebook Me			
第 4 回	Unit 3	Breaking the Rules			
第 5 回	Unit 4	The Sudoku Craze			
第 6 回	Unit 5	Here' s Your Allowance			
第 7 回	Unit 6	Picky Eaters			
第 8 回	Unit 7	Brain Training			
第 9 回	Unit 8	Fact or Fiction			
第 10 回	Unit 9	Green Cell Phones			
第 11 回	Unit 10	Pet Talk			
第 12 回	Unit 11	Stop Snoring			
第 13 回	Unit 12	Spare Time			
第 14 回	Unit 13	Street Art			
第 15 回	Unit 14	Hurricane Warning			

国際

授業番号	B100730002				
科目名 (英語表記)	Listening I (Listening I)				
担当者 (英語表記)	池嶋 保幸 (Yasuyuki Ikeshima)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This course is to improve listening comprehension by studying the basic English sound system. Students are encouraged to listen to real world English.				
授業の進め方 (履修条件など)	We will watch English movies, dramas, listen to various songs and watch news from various sources.				
成績評価方法	Small tests will be given frequently and the grades will be based on the test scores, which means that students participation is strongly encouraged.				
基準					
授業の予習・復習	Students will be asked to recite a passage or practice a song.				
教科書	Printed materials will be used. No textbooks necessary.				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Lesson 1	Introduction			
第 2 回	Lesson 2	Listen to a song and practice dictation and pronunciation 1			
第 3 回	Lesson 3	Listen to a song and practice dictation and pronunciation 2			
第 4 回	Lesson 4	Listen to a song and practice dictation and pronunciation 3			
第 5 回	Lesson 5	Listen to a song and practice dictation and pronunciation 4			
第 6 回	Lesson 6	Listen to a song and practice dictation and pronunciation 5			
第 7 回	Lesson 7	Listen to a song and practice dictation and pronunciation 6			
第 8 回	Lesson 8	Watch and listen to a part of a drama and practice dictation and pronunciation 1			
第 9 回	Lesson 9	Watch and listen to a part of a drama and practice dictation and pronunciation 2			
第 10 回	Lesson 10	Watch and listen to a part of a drama and practice dictation and pronunciation 3			
第 11 回	Lesson 11	Watch and listen to a part of a drama and practice dictation and pronunciation 4			
第 12 回	Lesson 12	Watch and listen to a part of a drama and practice dictation and pronunciation 5			
第 13 回	Lesson 13	Watch and listen to a part of a drama and practice dictation and pronunciation 6			
第 14 回	Lesson 14	Watch and listen to a part of a drama and practice dictation and pronunciation 7			
第 15 回	Lesson 15	Overall review of the course			

国際

授業番号	B100740001				
科目名 (英語表記)	Listening II (Listening II)				
担当者 (英語表記)	池嶋 保幸 (Yasuyuki Ikeshima)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This course is a continuation of Listening 1. Students who wish to take this course should have taken Listening 1 and/ or should be able to speak and understand English fairly well. Students will listen to real world English.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students will watch segments from movies, TV dramas, and documentary. They will be encouraged to learn vocabulary and expressions as well as sounds.				
成績評価方法	Small tests will be given frequently. The grades will be based on the tests and class participation.				
基準					
授業の予習・復習	Students will be asked to study vocabulary and phrases so that they will be ready to listen to segments.				
教科書	Printed materials will be used.				
参考文献	None				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Lesson 1	Introduction			
第 2 回	Lesson 2	Watch segment 1			
第 3 回	Lesson 3	Watch segment 2			
第 4 回	Lesson 4	Watch segment 3			
第 5 回	Lesson 5	Watch segment 4			
第 6 回	Lesson 6	Watch segment 5			
第 7 回	Lesson 7	Watch segment 6			
第 8 回	Lesson 8	Watch segment 7			
第 9 回	Lesson 9	Review			
第 10 回	Lesson 10	Watch segment 8			
第 11 回	Lesson 11	Watch segment 9			
第 12 回	Lesson 12	Watch segment 10			
第 13 回	Lesson 13	Watch segment 11			
第 14 回	Lesson 14	Watch segment 12			
第 15 回	Lesson 15	Overall review			

国際

授業番号	B100740002		
科目名 (英語表記)	Listening II (Listening II)		
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	This class is for the students at intermediate level. The purpose is to acquire four skills of English, focusing on mainly listening. Through the variety of exercises students will learn and practice many types of listening and speaking situations to communicate in English.		
授業の進め方 (履修条件など)	(1) Check your placement test score and class level. (2) Attend the first class for course registration. (3) Bring textbook and dictionaries to the lesson. (4) Take review quiz of each unit.		
成績評価方法	(1) Class participation (2) Exercises (3) Review quiz (4) Final Test		
基準			
授業の予習・復習	Read the textbook and prepare for the next lesson. Practice what they learned in class and prepare for the review quiz.		
教科書	AIRWAVES Basic -Developing Better Listening Skills- (Second Edition)		
参考文献	Reference books or study-aid materials will be indicated during lessons.		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	Guidance	Introduction of lesson / listening method / warm-up	
第 2 回	Unit 1	It' s Fun to Make Friends	
第 3 回	Unit 2	We Like the Same Things	
第 4 回	Unit 3	A Weekend to Enjoy	
第 5 回	Unit 4	Your Family' s Not Like Mine	
第 6 回	Unit 5	An Interesting Date	
第 7 回	Unit 6	A Good Day to Go Shopping	
第 8 回	Unit 7	Here' s a Good Restaurant	
第 9 回	Unit 8	First Day at Work	
第 10 回	Unit 9	I Need a Vacation	
第 11 回	Unit 10	What a Beautiful Voice!	
第 12 回	Unit 11	A Five-Year Plan	
第 13 回	Unit 12	It' s Only Money	
第 14 回	Unit 13	Staying Stylish	
第 15 回	Unit 14	Let' s Watch a Movie	

国際

授業番号	B100740004				
科目名 (英語表記)	Listening II (Listening II)				
担当者 (英語表記)	池嶋 保幸 (Yasuyuki Ikeshima)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This course is a continuation of Listening 1. Students who wish to take this course should have taken Listening 1 and/ or should be able to speak and understand English fairly well. Students will listen to real world English.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students will watch segments from movies, TV dramas, and documentary. They will be encouraged to learn vocabulary and expressions as well as sounds.				
成績評価方法	Small tests will be given frequently. The grades will be based on the tests and class participation.				
基準					
授業の予習・復習	Students will be asked to study vocabulary and phrases so that they will be ready to listen to segments.				
教科書	Printed materials will be used.				
参考文献	None				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Lesson 1	Introduction			
第 2 回	Lesson 2	Watch segment 1			
第 3 回	Lesson 3	Watch segment 2			
第 4 回	Lesson 4	Watch segment 3			
第 5 回	Lesson 5	Watch segment 4			
第 6 回	Lesson 6	Watch segment 5			
第 7 回	Lesson 7	Watch segment 6			
第 8 回	Lesson 8	Watch segment 7			
第 9 回	Lesson 9	Review			
第 10 回	Lesson 10	Watch segment 8			
第 11 回	Lesson 11	Watch segment 9			
第 12 回	Lesson 12	Watch segment 10			
第 13 回	Lesson 13	Watch segment 11			
第 14 回	Lesson 14	Watch segment 12			
第 15 回	Lesson 15	Overall review			

国際

授業番号	B100800001				
科目名 (英語表記)	S p e a k i n g I (Speaking I)				
担当者 (英語表記)	Scot Hill (Scot Hill)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This is a course for high beginners. It will include study in speaking, listening, vocabulary and grammar. Class work will be interactive and students will be expected to work together in pairs as well as individually.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should have a basic high school level knowledge of English.				
成績評価方法	Evaluation will be based on attendance, class participation and tests.				
基準					
授業の予習・復習	Students can prepare by reading lessons beforehand and looking up vocabulary.				
教科書	English FIRSHAND 1 (The New English Firsthand Series) by Helgesen, Brown and Wiltshier Pearson Longman (ISBN 978-988-00-3059-8)				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	greetings	meeting people			
第 2 回	sharing information	giving personal information			
第 3 回	describing people	appearance adjectives; personal schedules			
第 4 回	simple present tense	talking about family and friends			
第 5 回	daily activities and routines	personal schedules; how often			
第 6 回	daily activities	making a date; adverbs of frequency			
第 7 回	review	review Units 1-3			
第 8 回	test	Units 1-3			
第 9 回	locations	furniture, household items			
第 10 回	locations	prepositions with "There is" and "There are"; describing places			
第 11 回	directions	giving directions; following a map			
第 12 回	directions	asking for directions; prepositions			
第 13 回	talking about the past	important life events and past activities			
第 14 回	talking about the past	talking about experiences; time expressions; irregular verbs			
第 15 回	test	Units 4-6			

国際

授業番号	B100810001				
科目名 (英語表記)	S p e a k i n g II (Speaking II)				
担当者 (英語表記)	Scot Hill (Scot Hill)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This is a course for high beginners. It will include study in speaking, listening, vocabulary and grammar. Class work will be interactive and students will be expected to work together in pairs as well as individually.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should have a basic high school level knowledge of English.				
成績評価方法	Evaluation will be based on attendance, class participation and tests.				
基準					
授業の予習・復習	Students can prepare by reading lessons beforehand and looking up vocabulary.				
教科書	English FIRSTHAND 1 (The New English Firsthand Series) by Helgesen, Brown and Wiltshier Pearson Longman (ISBN 978-988-00-3059-8)				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	introduction	greetings			
第 2 回	occupations	talking about types of jobs			
第 3 回	occupations	interviewing for a job; job skill information			
第 4 回	entertainment	situations and times; making a plan			
第 5 回	entertainment	planning a perfect day; verb patterns for invitations			
第 6 回	future	future plans and activities			
第 7 回	future / review	predicting the future; making a travel plan; review Units 7-9			
第 8 回	test	Units 7-9			
第 9 回	shopping	clothing, electronics and personal items; prices			
第 10 回	shopping	asking questions at a shop; comparatives			
第 11 回	processes	describing a process; food and cooking words			
第 12 回	processes	asking for advice; origami; imperatives			
第 13 回	music	giving opinions			
第 14 回	music / review	music preferences; simple past and present perfect; review Units 10-12			
第 15 回	test	Units 10-12			



国際

授業番号	B100810002				
科目名 (英語表記)	S p e a k i n g II (Speaking II)				
担当者 (英語表記)	Thomas O'Leary (Thomas O'leary)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This course will improve English speaking skills. We learn a communication theme in each class. This is not a difficult course.				
授業の進め方 (履修条件など)	10 communication situations. We study word and phrase inter-relations step by step.				
成績評価方法	Students speak and study patterns through question and answer. 3 short tests for review.				
基準					
授業の予習・復習	Participation and Class Work - 65% - Test Scores - 35%.				
教科書	One new copied print every week passed out by the teacher. We will study dialogs on the prints. Students will bring a notebook to class.				
参考文献	Study with a good attitude and participate.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction	Exchanging Personal Information			
第 2 回	The Topic of People	We speak of family members - Facts & Impressions			
第 3 回	Using Questions	Ways to make good questions			
第 4 回	Comparisons	Positive and Negative Expressions			
第 5 回	Likes and Dislikes	Words to express making choices			
第 6 回	Review Quiz	We test our new vocabulary			
第 7 回	Words about Time Experiences	Holidays and Festivals			
第 8 回	Giving Suggestions	We speak about doing various actions.			
第 9 回	Change and Possibility	To introduce conditional expressions			
第 10 回	Second Quiz	We test vocabulary use.			
第 11 回	Skills and Occupations	To introduce means and ends			
第 12 回	Playing Speaking Roles	To express opinion on a topic			
第 13 回	Emotions and Gestures	Words of Permission and Obligation			
第 14 回	Review of Skills	We compare our new and former skills.			
第 15 回	Final Evaluation	To consider progress and how to develop English speaking skill			

国際

授業番号	B100810003				
科目名 (英語表記)	S p e a k i n g II (Speaking II)				
担当者 (英語表記)	Jayne Ikeshima (Jayne Ikeshima)	対象学年	1	単位数	1

授業のねらいと 到達目標	This is a continuation of Speaking I. Students should be fairly confident with the basics of English conversation and be willing to speak up in class frequently. The course will be topic-oriented and students will speak about a variety of topics.
授業の進め方 (履修条件など)	Students should attend the class on the first day for further explanation.
成績評価方法 基準	Class participation will count heavily toward the final grade. Grading will be based on attendance, classroom work, and tests.
授業の予習・復習	Students should try to use as much English as possible in their daily lives. Students should review after each class.
教科書	Printed material.
参考文献	Students should bring a dictionary to every class.

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	Lesson 1	Introductions
第 2 回	Lesson 2	Talking about work
第 3 回	Lesson 3	Talking about different countries
第 4 回	Lesson 4	Talking about experiences
第 5 回	Lesson 5	Talking about food
第 6 回	Lesson 6	Suggesting and inviting
第 7 回	Lesson 7	Test
第 8 回	Lesson 8	Talking about the future
第 9 回	Lesson 9	Feelings and emotions
第 10 回	Lesson 10	Requesting
第 11 回	Lesson 11	Giving advice and making suggestions
第 12 回	Lesson 12	Talking about movies and television
第 13 回	Lesson 13	Giving directions
第 14 回	Lesson 14	Making predictions
第 15 回	Lesson 15	Test

国際

授業番号	B100810005				
科目名 (英語表記)	S p e a k i n g II (Speaking II)				
担当者 (英語表記)	池嶋 保幸 (Yasuyuki Ikeshima)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This is a continuation of Speaking I, so students who wish to take the course should have fairly good speaking ability. In other words, beginner level students are advised not to take the course. The course will be topic based and students will practice speaking on various topics.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students are expected to talk about various topics as a group or sometimes individually. Students who have taken Speaking I are eligible to take this course.				
成績評価方法 基準	The grades will be based on small tests which are given frequently. Students are evaluated based on class participation. Therefore, good attendance is expected.				
授業の予習・復習	Students will be asked to prepare to talk about topics which are notified beforehand.				
教科書	Printed materials will be used. No textbooks will be used.				
参考文献	None				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Lesson 1	Introduction			
第 2 回	Lesson 2	Talk about work.			
第 3 回	Lesson 3	Talk about different countries.			
第 4 回	Lesson 4	Talk about environmental issues.			
第 5 回	Lesson 5	Talk about environmental issues 2.			
第 6 回	Lesson 6	Talk about peoples health			
第 7 回	Lesson 7	Talk about future of the world			
第 8 回	Lesson 8	Talk about movies and television			
第 9 回	Lesson 9	Talk about religion			
第 10 回	Lesson 10	Talk about mind and feelings			
第 11 回	Lesson 11	Talk about world economy			
第 12 回	Lesson 12	Talk about life and happiness			
第 13 回	Lesson 13	Talk about aging			
第 14 回	Lesson 14	Talk about peace and war			
第 15 回	Lesson 15	Overall review			

国際

授業番号	B100860001				
科目名 (英語表記)	World English I (World English I)				
担当者 (英語表記)	Jayne Ikeshima (Jayne Ikeshima)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	People all over the world learn English from American songs. Students will learn and sing English songs in class every week, and then will practice using words and expressions from the songs. Students will also learn something about the singers and artists whose songs are studied. At the end of the course students will be able to sing a variety of English songs.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should attend the class on the first day for further explanation.				
成績評価方法	Grades will be calculated on the basis of attendance, homework, classwork, and tests.				
基準					
授業の予習・復習	Students should try to use as much English as possible in their daily lives. Students should review after each class.				
教科書	Printed material.				
参考文献	Students should bring a dictionary to class.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Lesson 1	Introductions			
第 2 回	Lesson 2	Song #1			
第 3 回	Lesson 3	Song #2			
第 4 回	Lesson 4	Song #3			
第 5 回	Lesson 5	Song #4			
第 6 回	Lesson 6	Song #5			
第 7 回	Lesson 7	Review			
第 8 回	Lesson 8	Test			
第 9 回	Lesson 9	Song #6			
第 10 回	Lesson 10	Song #7			
第 11 回	Lesson 11	Song #8			
第 12 回	Lesson 12	Song #9			
第 13 回	Lesson 13	Song #10			
第 14 回	Lesson 14	Review			
第 15 回	Lesson 15	Test			

国際

授業番号	B100870001				
科目名 (英語表記)	World English II (World English II)				
担当者 (英語表記)	Jayne Ikeshima (Jayne Ikeshima)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	People all over the world enjoy American movies. Students will study a scene from a movie every week. At the end of the course students will be able to understand and use the expressions they have learned from the movie scenes, and they will better understand the English in movies that they watch on their own.				
授業の進め方 (履修条件など)	Class space is limited, so students should attend the class on the first day if they want to be in the class.				
成績評価方法 基準	Grades will be calculated on the basis of attendance and classwork, weekly quizzes, and tests.				
授業の予習・復習	予習 : Students should try to use as much English as possible in their daily lives. 復習 : Students should review the class material after each class, and do any homework that was assigned				
教科書	Printed material				
参考文献	Students should bring a dictionary to class.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Lesson 1	Introductions			
第 2 回	Lesson 2	Movie Scene #1			
第 3 回	Lesson 3	Movie Scene #2			
第 4 回	Lesson 4	Movie Scene #3			
第 5 回	Lesson 5	Movie Scene #4			
第 6 回	Lesson 6	Movie Scene #5			
第 7 回	Lesson 7	Review			
第 8 回	Lesson 8	Test			
第 9 回	Lesson 9	Movie Scene #6			
第 10 回	Lesson 10	Movie Scene #7			
第 11 回	Lesson 11	Movie Scene #8			
第 12 回	Lesson 12	Movie Scene #9			
第 13 回	Lesson 13	Movie Scene #10			
第 14 回	Lesson 14	Review			
第 15 回	Lesson 15	Final Test			

国際

授業番号	B100650001				
科目名 (英語表記)	W r i t i n g I (Writing I)				
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This class is for the students at pre-intermediate level who get used to writing English sentences. The purpose is to acquire basic writing skills with reviewing important English grammar for writing proper English. Students will learn various expressions through writing activities.				
授業の進め方 (履修条件など)	(1) Check your placement test score and class level. (2) Attend the first class for course registration. (3) Bring textbook and dictionaries to the lesson. (4) Turn in the Task sheet at the end of each unit.				
成績評価方法	(1) Class participation (2) Class exercises (3) Task sheet for homework (4) Final Test				
基準					
授業の予習・復習	Review the lesson and complete the exercises in the textbook. Turn in the task sheet for homework.				
教科書	New English Composition Workbook				
参考文献	Reference books or study-aid materials will be indicated during lessons.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Guidance	Introduction of lesson / warm-up writing			
第 2 回	Unit 1	Self-Introduction (verbs)			
第 3 回	Unit 2	My Family, My Friends (noun, article, adjective)			
第 4 回	Unit 3	My Room (there, preposition)			
第 5 回	Unit 4	Everyday Activities (present and present continuous tense)			
第 6 回	Unit 5	Recipes (transitive and intransitive verbs)			
第 7 回	Unit 6	Introducing My Town (adverb, comparative)			
第 8 回	Unit 7	Asking Questions (wh-questions)			
第 9 回	Unit 8	Diary (five sentence structures)			
第 10 回	Unit 9	Making a Reservation (future tense, would like to)			
第 11 回	Unit 10	Writing a Postcard (passive voice)			
第 12 回	Unit 11	Job Hunting (can, be able to)			
第 13 回	Unit 12	Writing a Letter (infinitive)			
第 14 回	Unit 13	Giving Advice (auxiliary verbs)			
第 15 回	Unit 14	Invitation (would)			

国際

授業番号	B100650002				
科目名 (英語表記)	W r i t i n g I (Writing I)				
担当者 (英語表記)	Scot Hill (Scot Hill)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This is a beginning course in English writing. We will study grammar, punctuation and simple writing techniques. We will work toward increasing student's writing fluency as we study different types of writing.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should have a basic level of ability in English (high school level).				
成績評価方法	Evaluation will be based on: 1) attendance, classroom work / attitude and 2) tests.				
基準					
授業の予習・復習	Students should have an English dictionary.				
教科書	Get Ready to Write - Second Edition (Pearson / Longman) by Blanchard / Root				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction	Class introduction			
第 2 回	Punctuation	Punctuation / writing introductions			
第 3 回	Classmates	Writing about a classmate			
第 4 回	Family	Writing about your family			
第 5 回	Conjunctions	And, so and but; paragraphs			
第 6 回	Correspondence	Letters and postcards			
第 7 回	When	Using 'when' ; review			
第 8 回	Test	Test			
第 9 回	Activities	Writing about activities			
第 10 回	Time sequence	Writing in time sequence			
第 11 回	Daily schedule	Writing about your daily life			
第 12 回	Descriptions 1	Writing descriptions of people			
第 13 回	Descriptions 2	Writing descriptions of things			
第 14 回	Review	Review			
第 15 回	Test	Test			

国際

授業番号	B100650004				
科目名 (英語表記)	W r i t i n g I (Writing I)				
担当者 (英語表記)	Thomas O'Leary (Thomas O'leary)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	To study basic ways to express your meaning through writing.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students write short exercises using model writings. (This is not a difficult course)				
成績評価方法	12 Study goals-we go slowly.				
基準					
授業の予習・復習	Attending class regularly is needed for a good score.Attendance will count as 60% of the final score.				
教科書	The teacher will supply the study materials. Copied prints every week for study.				
参考文献	Study with a good attitude and participate.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Introduction	We find out how much English we know.			
第 2 回	Natural Writing	Using pronouns.			
第 3 回	Using Simple Description	We group our vocabulary for usefulness.			
第 4 回	Vocabulary Work	We introduce some key new words.			
第 5 回	Describing Places	Linking words.			
第 6 回	Review Quiz	We test our review skills.			
第 7 回	Words about Experiences	Events have a story to tell			
第 8 回	Writing of Holidays	Time expressions.			
第 9 回	Writing About People	Kinds and nuances.			
第 10 回	Second Quiz	We test vocabulary use.			
第 11 回	Writing a Postcard	Future verbs.			
第 12 回	Writing E-Mail	Polite expressions.			
第 13 回	Writing a Story	Adverbs and adjectives.			
第 14 回	Review Check Test	We compare our new and former skills.			
第 15 回	Final Appraisal	We assess how best to improve more skills.			



国際

授業番号	B100660001				
科目名 (英語表記)	W r i t i n g II (Writing II)				
担当者 (英語表記)	Jayne Ikeshima (Jayne Ikeshima)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	Guided writing practice on a wide variety of traditional topics is provided in this course. Vocabulary study is included in each topic.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should bring all previous printed material to class.				
成績評価方法	Classroom participation will count heavily toward the final grade.				
基準	Grading will be based on attendance, classwork, homework, and tests.				
授業の予習・復習	予習 : 復習 : Students should review the class material after each class and do the homework.				
教科書	.				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Lesson 1	Introductions			
第 2 回	Lesson 2	Introducing yourself			
第 3 回	Lesson 3	Identifying Family and Home			
第 4 回	Lesson 4	Describing a special place or event			
第 5 回	Lesson 5	Describing a typical activity			
第 6 回	Lesson 6	Describing an outing			
第 7 回	Lesson 7	Review			
第 8 回	Lesson 8	Test			
第 9 回	Lesson 9	Describing locations			
第 10 回	Lesson 10	Describing activities			
第 11 回	Lesson 11	Describing future activities			
第 12 回	Lesson 12	Describing future plans			
第 13 回	Lesson 13	Describing past events			
第 14 回	Lesson 14	Review			
第 15 回	Lesson 15	Test			

国際

授業番号	B100660002		
科目名 (英語表記)	W r i t i n g II (Writing II)		
担当者 (英語表記)	池嶋 保幸 (Yasuyuki Ikeshima)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	Project based writing practice will be given. Topics will be given and students will work on a specific topic. Such as email writing, creating brochures, and so on.		
授業の進め方 (履修条件など)	Students should bring A4 size folders and A4 size paper to class. Color markers may be used in class.		
成績評価方法	Class performance will be important part of the overall grades. The final grades will be based on class work, attendance, participation.		
基準			
授業の予習・復習	Students will prepare material and collect data which are needed for projects.		
教科書	NONE Printed materials will be provided.		
参考文献	NONE		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	Lesson 1	Introduction	
第 2 回	Lesson 2	How to write email messages 1	
第 3 回	Lesson 3	How to write email messages 2	
第 4 回	Lesson 4	How to write email messages 3	
第 5 回	Lesson 5	Review	
第 6 回	Lesson 6	Test	
第 7 回	Lesson 7	How to write a resume 1	
第 8 回	Lesson 8	How to write a resume 2	
第 9 回	Lesson 9	TEST	
第 10 回	Lesson 10	How to write a brochre 1	
第 11 回	Lesson 11	How to write a brochure 2	
第 12 回	Lesson 12	Free writing	
第 13 回	Lesson 13	Free writing 2	
第 14 回	Lesson 14	Overall review of the course	
第 15 回	Lesson 15	TEST	

国際					
授業番号	B100660003				
科目名 (英語表記)	W r i t i n g II (Writing II)				
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This class is for the students at intermediate level who get used to writing English. The purpose is to acquire functional writing skills to write from sentences to a short essay. Students will learn various expressions through writing activities and be expected to write personally about the unit topic.				
授業の進め方 (履修条件など)	(1) Check your placement test score and class level. (2) Attend the first class for course registration. (3) Bring textbook and dictionaries to the lesson. (4) Turn in the writing homework at the end of each unit.				
成績評価方法	(1) Class participation (2) Exercises (3) Writing homework (4) Final Test				
基準					
授業の予習・復習	Review the textbook and complete the writing homework. Turn in the homework sheet by the next class.				
教科書	New Easy Writing -Basic Composition Skills for Japanese Students-				
参考文献	Reference books or study-aid materials will be indicated during lessons.				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Guidance	Introduction of lesson / warm-up writing			
第 2 回	Unit 1	Nice to meet you			
第 3 回	Unit 2	My Family			
第 4 回	Unit 3	I Like Soccer and Cooking			
第 5 回	Unit 4	What Type of Music Do You Like?			
第 6 回	Unit 5	What's for Lunch?			
第 7 回	Unit 6	I'm a Sports Fan			
第 8 回	Unit 7	Do You Want to See a Movie?			
第 9 回	Unit 8	Time for a Trip			
第 10 回	Unit 9	You've Got to Read This Book!			
第 11 回	Unit 10	Running Errands			
第 12 回	Unit 11	People I Admire			
第 13 回	Unit 12	I'm Scared!			
第 14 回	Unit 13	What Kind of Person Are You?			
第 15 回	Unit 14	The Kind of Job I'd Like			

国際

授業番号	B100660004				
科目名 (英語表記)	W r i t i n g II (Writing II)				
担当者 (英語表記)	George Whalley (George Whalley)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	This class is designed to build on the writing skills developed in Writing I. Emphasis will be placed on paragraph writing and composition skills.				
授業の進め方 (履修条件など)	Students should have completed Writing I.				
成績評価方法	Grading will be equally based on the quality and completion of weekly written assignments, participation in class and a final written test.				
基準					
授業の予習・復習	The instructor will provide materials however students should bring a dictionary to each class.				
教科書	There is no textbook for this class.				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Class Introduction	Student Information Card, 10 Things About This Class			
第 2 回	Understanding Paragraphs	The Topic Sentence, The Body, The Conclusion			
第 3 回	Organzing Information	Explaining events based on relative importance			
第 4 回	Organizing Information (continued)	Explaining events based on position			
第 5 回	Organizing Information (continued)	Explaining events based on time			
第 6 回	The Writing Process	Pre-writing, Writing, Correcting			
第 7 回	Supporting Main Ideas	Facts and Opinions			
第 8 回	Describing people, places and things	Using Adjectives and Adverbs			
第 9 回	Writing Letters	Business Letter Form			
第 10 回	E-mail	E-mail for Buisness			
第 11 回	Comparing and Contrasting	Using Comparative and Superlative Forms			
第 12 回	Reporting	Factual Reporting			
第 13 回	Reporting (continued)	Opinionated Reporting			
第 14 回	Creative Writing	Story Writing			
第 15 回	Creative Writing (continued)	Story Writing (continued)			

国際		
授業番号	B102660001	
科目名 (英語表記)	アグリ・エコビジネスI (Agribusiness and Ecobusiness I)	
担当者 (英語表記)	平井 静 (Shizuka Hirai)、鈴木 祐嘉合 (Yukari Suzuki)、加藤 顕 (Akira Kato)	
対象学年	3	
単位数	2	
授業のねらいと到達目標	農業に関連した地球環境問題や食の安全性の問題などを理解するとともに、持続的社会的な実現のためのエコシステムやフードビジネスへの展開について、自ら考える力を習得することを目的とする。	
授業の進め方 (履修条件など)	授業は3名の教官によるリレー方式で行う。パワーポイントまたはプリントを用いた講義を行う。講義時間内に簡単な小テストを行い、理解度を確認する。	
成績評価方法	学習態度、講義時間内に行う小テスト、レポートについて、およそ50:30:20の割合で総合的に評価する。	
基準		
授業の予習・復習	予習：講義内容に関する書籍や新聞記事などを読み、予備知識を得ておくことが望ましい。 復習：講義時間内に指示する。	
教科書	オリジナルプリントを配付する。 参考図書は講義時間内に適宜紹介する。	
参考文献	なし	
回数	授業項目	授業内容
第1回	地球環境とアグリカルチャー1	食品容器とリサイクル (平井)
第2回	食の安全性1	食品汚染 (平井)
第3回	地球環境とアグリカルチャー2	食料自給率 (平井)
第4回	食品の科学とフードビジネス1	酒の科学 (平井)
第5回	食品の科学とフードビジネス2	おいしさの科学～味 (平井)
第6回	食品の科学とフードビジネス3	おいしさの科学～香り (平井)
第7回	地球環境とアグリカルチャー3	世界の資源 (加藤)
第8回	地球環境とアグリカルチャー4	地球温暖化と環境保護 (加藤)
第9回	地球環境とアグリカルチャー5	森林資源モニタリング (加藤)
第10回	地球環境とアグリカルチャー6	排出量取引と環境政策 (加藤)
第11回	食の安全性2	食品衛生の制度 (鈴木)
第12回	食の安全性3	食中毒 (鈴木)
第13回	食の安全性4	寄生虫、狂牛病 (鈴木)
第14回	副産物の利用とフードビジネス1	食品としての利用～肝障害抑制作用 (鈴木)
第15回	副産物の利用とフードビジネス2	化粧品としての利用 (鈴木)

国際

授業番号	B102670001		
科目名 (英語表記)	アグリ・エコビジネスII (Agribusiness and Ecobusiness II)		
担当者 (英語表記)	平井 静 (Shizuka Hirai)、鈴木 祐嘉合 (Yukari Suzuki)、加藤 顕 (Akira Kato)	対象学年	3
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	農業に関連した地球環境問題や食の安全性の問題などを理解するとともに、持続的社会的な実現のためのエコシステムやフードビジネスへの展開について、自ら考える力を習得することを目的とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	授業は3名の教官によるリレー方式で行う。パワーポイントまたはプリントを用いた講義を行う。講義時間内に簡単な小テストを行い、理解度を確認する。		
成績評価方法	学習態度、講義時間内に行う小テスト、レポートについて、およそ50:30:20の割合で総合的に評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：講義内容に関する書籍や新聞記事などを読み、予備知識を得ておくことが望ましい。 復習：講義時間内に指示する。		
教科書	オリジナルプリントを配付する。 参考図書は講義時間内に適宜紹介する。		
参考文献	なし		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	地球環境とアグリカルチャー1	食品容器とリサイクル (平井)	
第2回	食の安全性1	食品汚染 (平井)	
第3回	地球環境とアグリカルチャー2	食料自給率 (平井)	
第4回	食品の科学とフードビジネス1	酒の科学 (平井)	
第5回	食品の科学とフードビジネス2	おいしさの科学～味 (平井)	
第6回	食品の科学とフードビジネス3	おいしさの科学～香り (平井)	
第7回	地球環境とアグリカルチャー3	世界の資源 (加藤)	
第8回	地球環境とアグリカルチャー4	地球温暖化と環境保護 (加藤)	
第9回	地球環境とアグリカルチャー5	森林資源モニタリング (加藤)	
第10回	地球環境とアグリカルチャー6	排出量取引と環境政策 (加藤)	
第11回	食の安全性2	食品衛生の制度 (鈴木)	
第12回	食の安全性3	食中毒 (鈴木)	
第13回	食の安全性4	寄生虫、狂牛病 (鈴木)	
第14回	副産物の利用とフードビジネス1	食品としての利用～肝障害抑制作用 (鈴木)	
第15回	副産物の利用とフードビジネス2	化粧品としての利用 (鈴木)	

国際

授業番号	B102590001				
科目名 (英語表記)	アグリ・フードサイエンス (Agriscience and Foodscience)				
担当者 (英語表記)	平井 静 (Shizuka Hirai)、鈴木 祐嘉合 (Yukari Suzuki)、加藤 顕 (Akira Kato)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日々の生活の中で我々が食している農産物やその生産に関わる地球環境、および加工食品の特性、生理機能、製造・開発、衛生管理などに関する知識の習得を通じて、食品および環境ビジネスにおいて重要な、食の安全・安心の問題や、食品の製造・開発等について自ら考える力を習得することを目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業は3名の教官によるリレー方式で行う。パワーポイントまたはプリントを用いた講義を行う。講義時間内に簡単な小テストを行い、理解度を確認する。				
成績評価方法	学習態度、講義時間内に行う小テスト、レポートについて、およそ50:30:20の割合で総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：講義内容に関する書籍や新聞記事などを読み、予備知識を得ておくことが望ましい。 復習：講義時間内に指示する。				
教科書	オリジナルプリントを配付する。 参考図書は講義時間内に適宜紹介する。				
参考文献	なし				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	アグリフードサイエンス概要	講義内容・講義の進め方など (平井)			
第2回	食品材料とビジネス1	穀類 (鈴木)			
第3回	食品材料とビジネス2	肉・卵 (平井)			
第4回	食品の科学と生理機能1	アミノ酸 (鈴木)			
第5回	食品材料とビジネス3	乳製品 (平井)			
第6回	食品の科学と生理機能2	ビタミン (鈴木)			
第7回	食品の科学と生理機能3	脂質 (平井)			
第8回	加工食品と食品開発1	食品添加物概論 (鈴木)			
第9回	加工食品と食品開発2	食品添加物各論 (平井)			
第10回	食品の科学と生理機能4	糖・食物繊維 (鈴木)			
第11回	加工食品と食品開発3	栄養機能食品 (平井)			
第12回	地球環境とビジネス1	環境問題とビジネス (加藤)			
第13回	地球環境とビジネス2	排出量取引ビジネス (加藤)			
第14回	地球環境とビジネス3	生物多様性ビジネス (加藤)			
第15回	地球環境とビジネス4	緑化ビジネス (加藤)			

国際					
授業番号	B102650001				
科目名 (英語表記)	アグリ・フードビジネス (Agribusiness and foodbusiness)				
担当者 (英語表記)	平井 静 (Shizuka Hirai)、鈴木 祐嘉合 (Yukari Suzuki)、加藤 顕 (Akira Kato)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	農業に関連した地球環境問題や食の安全性の問題などを理解するとともに、持続的社会的な実現のためのエコシステムやフードビジネスへの展開について、自ら考える力を習得することを目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業は3名の教官によるリレー方式で行う。パワーポイントまたはプリントを用いた講義を行う。講義時間内に簡単な小テストを行い、理解度を確認する。				
成績評価方法	学習態度、講義時間内に行う小テスト、レポートについて、およそ50:30:20の割合で総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：講義内容に関する書籍や新聞記事などを読み、予備知識を得ておくことが望ましい。 復習：講義時間内に指示する。				
教科書	オリジナルプリントを配付する。 参考図書は講義時間内に適宜紹介する。				
参考文献	なし				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	地球環境とアグリカルチャー1	食品容器とリサイクル (平井)			
第2回	食の安全性1	食品汚染 (平井)			
第3回	地球環境とアグリカルチャー2	食料自給率 (平井)			
第4回	食品の科学とフードビジネス1	酒の科学 (平井)			
第5回	食品の科学とフードビジネス2	おいしさの科学～味 (平井)			
第6回	食品の科学とフードビジネス3	おいしさの科学～香り (平井)			
第7回	地球環境とアグリカルチャー3	世界の資源 (加藤)			
第8回	地球環境とアグリカルチャー4	地球温暖化と環境保護 (加藤)			
第9回	地球環境とアグリカルチャー5	森林資源モニタリング (加藤)			
第10回	地球環境とアグリカルチャー6	排出量取引と環境政策 (加藤)			
第11回	食の安全性2	食品衛生の制度 (鈴木)			
第12回	食の安全性3	食中毒 (鈴木)			
第13回	食の安全性4	寄生虫、狂牛病 (鈴木)			
第14回	副産物の利用とフードビジネス1	食品としての利用～肝障害抑制作用 (鈴木)			
第15回	副産物の利用とフードビジネス2	化粧品としての利用 (鈴木)			



国際					
授業番号	B101570001				
科目名 (英語表記)	アフリカ (Area Studies: Africa)				
担当者 (英語表記)	大月 隆成 (Takashige Otsuki)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本から見た場合、アフリカという地域は最もなじみが薄く、様々な面でかけ離れた存在であるため、偏った情報に基づく歪んだイメージが形成されやすい。この授業の狙いは、こうした関係の特殊性に注意しながら、アフリカについての基本的な知識とバランスの取れた見方を身につけてもらうことである。				
授業の進め方 (履修条件など)	ドラマや音楽、文学作品、ドキュメンタリーなどを手がかりに、「アフリカ初心者」にも配慮した「敷居の低い」授業を実施する予定である。				
成績評価方法	課題の提出状況および学期末試験の結果に基づいて行う。				
基準					
授業の予習・復習	予習：日頃からアフリカに関心を持ち、積極的に情報収集を心がける。 復習：授業で出された課題や関連するテーマについて、調べてみる。				
教科書	特定の教科書は使用しない。				
参考文献	伊谷純一郎ほか『アフリカを知る事典』平凡社 大迫秀樹『アフリカのことがマンガで3時間でわかる本』アスカ				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	アフリカ入門 (1)	アフリカの多様性と共通性			
第2回	アフリカ入門 (2)	北アフリカとサハラ以南アフリカ			
第3回	アフリカ入門 (3)	共通性の起源～共通の歴史的経験			
第4回	アフリカの歴史を知る (1)	「ルーツ」～アフリカの伝統社会			
第5回	アフリカの歴史を知る (2)	「ルーツ」～大西洋奴隷貿易			
第6回	アフリカの歴史を知る (3)	「不可思議な国境線」～アフリカ分割			
第7回	アフリカの歴史を知る (4)	「シャーロック・ホームズとアフリカ」～植民地支配			
第8回	アフリカの歴史を知る (5)	「地図のない国」～ギニアの独立			
第9回	アフリカの現在を知る (1)	「ルワンダの義足工房」～アフリカの内戦 (1)			
第10回	アフリカの現在を知る (2)	「ブラッド・ダイヤモンド」～アフリカの内戦 (2)			
第11回	アフリカの現在を知る (3)	「ブラッド・ダイヤモンド」～天然資源の「恵み」			
第12回	アフリカの現在を知る (4)	「ブラッド・ダイヤモンド」～少年兵			
第13回	アフリカの現在を知る (5)	「ディマクコンダ」～深刻なエイズ問題			
第14回	南アフリカを知る (1)	「インビクタス」～アパルトヘイトとネルソン・マンデラ			
第15回	南アフリカを知る (2)	「インビクタス」～アパルトヘイト後の南アフリカ			

国際

授業番号	B101480001				
科目名 (英語表記)	アフリカの歴史と社会 (African History and Society)				
担当者 (英語表記)	大月 隆成 (Takashige Otsuki)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	アフリカは日本人やアジア各地からの留学生にとって、最もなじみの薄い地域である。現在はアフリカに関する情報も溢れているが、日常生活の中でそれらに接する機会は限られている。この授業では、アフリカをほとんど知らない者が、アフリカに関心を持ち、その歴史と社会、問題について理解するようになることを目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	各種の視聴覚教材を積極的に活用しながら、「アフリカ初心者」にも配慮した授業を実施する予定である。				
成績評価方法	課題の提出状況と期末試験の結果に基づいて評価を行う。				
基準					
授業の予習・復習	予習：日頃からアフリカに関心を持ち、積極的に情報収集を心がける。 復習：授業で出された課題や関連するテーマについて、調べてみる。				
教科書	特定の教科書は使用しない。				
参考文献	伊谷純一郎ほか『アフリカを知る事典』平凡社 大迫秀樹『アフリカのことがマンガで3時間でわかる本』アスカ				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	「アフリカ入門講座」(1)	アフリカの多様性と共通性			
第2回	「アフリカ入門講座」(2)	共通性の歴史的起源			
第3回	「アフリカ入門講座」(3)	サハラ以南アフリカと北アフリカ			
第4回	アフリカの伝統社会(1)	経済・社会の二重構造			
第5回	アフリカの伝統社会(2)	様々な伝統的生業形態			
第6回	アフリカの伝統社会(3)	狩猟・採集民の生活			
第7回	アフリカの伝統社会(4)	農耕民の生活			
第8回	アフリカの伝統社会(5)	伝統農業と近代農業			
第9回	アフリカの伝統社会(6)	牧畜民の生活			
第10回	アフリカの伝統社会(7)	漁撈民の生活			
第11回	アフリカの伝統社会(8)	自給自足と貨幣経済			
第12回	アフリカの伝統社会(9)	経済指標と生活水準			
第13回	南アフリカの歴史(1)	多人種社会の成り立ち			
第14回	南アフリカの歴史(2)	アパルトヘイト体制下の南アフリカ			
第15回	南アフリカの歴史(3)	ネルソン・マンデラの人物と生涯			

国際					
授業番号	B101620001				
科目名 (英語表記)	アメリカの経済 (American Economy)				
担当者 (英語表記)	織井 啓介 (Keisuke Orii)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	アメリカ経済の最新動向にアプローチします。アメリカのマーケット、マクロ経済、主要企業、金融政策を学び、アメリカとのビジネスの基礎知識が得られるほか、世界経済の理解にも役立ちます。英文記事・ニュースも学び、時事英語力も伸ばせます。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義とプリントによる簡単な演習が中心です。ノートをしっかり取り、章ごとに整理・復習しましょう。				
成績評価方法	①期末試験 (教場試験またはレポート) 50%、②平常点 50%が評価の目安です。				
基準					
授業の予習・復習	予習：配布プリントで予習するとともに、新聞・テレビで米国の経済ニュースに親しみましょう。 復習：練習問題を自宅で演習し、次の授業時間に答え合わせをしましょう。				
教科書	とくに使用しません。				
参考文献	M.B.Lehman, The Irwin Guide to Using the Wall Street Journal, McGraw Hill, 2005. 地主敏樹他『現代アメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2012年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	「アメリカの経済」講義の概要	講義スケジュール等を説明			
第2回	第1章：市場①	株式市場			
第3回	第1章：市場②	金融市場			
第4回	第1章：市場③	外為市場と商品市場			
第5回	第2章：マクロ経済①	景気サイクル			
第6回	第2章：マクロ経済②	GDP 指標			
第7回	第2章：マクロ経済③	生産・雇用指標			
第8回	第2章：マクロ経済④	物価・国際収支指標			
第9回	第3章：企業動向①	主要企業四半期業績			
第10回	第3章：企業動向②	アグリ・エネルギービジネス			
第11回	第3章：企業動向③	自動車・IT・航空ビジネス			
第12回	第4章：金融・財政①	主要金融機関			
第13回	第4章：金融・財政②	中央銀行と金融政策			
第14回	第4章：金融・財政③	政府機関と財政・予算プロセス			
第15回	「アメリカの経済」講義のまとめ	総括と補遺事項			

国際

授業番号	B101630001				
科目名 (英語表記)	アメリカの社会 (American Society)				
担当者 (英語表記)	村川 庸子 (Yoko Murakawa)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	アメリカは伝統的な移民国家である。移民は時代毎にアメリカの都市や農村の景観、人種間関係を構築・再構築し、労働市場、家族、教育、文化、宗教、政治など社会のあらゆる部分に影響を与えてきた。本授業ではアメリカの移民政策とこれをめぐる政治について歴史的・現代的視点から考察する。				
授業の進め方 (履修条件など)	事前に配布する資料に基づき、授業開始時に小テストを行う。コーネル式ノート作成法を活用する。積極的な授業への参加を期待する。				
成績評価方法	成績評価は次の方法で行う。①小テスト 40% ②ノート (特にコメント部分を中心に) 60%				
基準	尚、自主的な学習を奨励する意味で、提出されるレポートなどについては加点の対象とする。				
授業の予習・復習	予習：配布資料を読み、概要をまとめること、共感する部分、疑問に思う部分を抜き出しておくこと。 復習：ノートの「コメント」欄を中心にまとめておくこと。				
教科書	特に無し				
参考文献	論文や新聞雑誌記事を事前に配布する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	導入	授業の進め方、成績評価の方法、等			
第2回	アメリカ移民社会の現状	オバマ政権下の移民政策			
第3回	移民国家であること	アメリカの歴史と移民政策——20世紀			
第4回	国境を超える人の移動	移民に関する理論—ブッシュ = フル仮説			
第5回	エスニック・コミュニティの形成	移民に関する理論—るつぼ、同化、サラダボール			
第6回	差別の構造	移民に関する理論—差別と偏見			
第7回	複数のアイデンティティをもつこと	移民に関する理論—エスニック・アイデンティティ			
第8回	公民権運動の行方	アメリカの公民権運動			
第9回	市民権制度	アメリカの市民権制度—外国人、市民、不法入国者			
第10回	国外退去政策	不法入国者政策			
第11回	米国の難民政策	難民受入政策			
第12回	米国の福祉政策	移民と福祉政策			
第13回	戦争と移民—日系アメリカ人の場合	戦争と移民			
第14回	安全保障政策と移民	9.11後の移民政策—ナショナル・セキュリティとの関連で			
第15回	総括	まとめ			

国際

授業番号	B101510002		
科目名 (英語表記)	アメリカの政治 (American Politics)		
担当者 (英語表記)	榎田 久代 (Hisayo Kushida)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	授業では、アメリカの政治と社会について、大統領選挙を中心に多方面から取り上げます。特移民の国といわれるアメリカの人口構成とその変化、政治文化の特徴、選挙と代表制、州と連邦の関係、民主党と共和党の二大政党を通して、現代のアメリカ政治および社会に対する理解を深めることを目標としています。		
授業の進め方 (履修条件など)	配布するプリントを中心に進めます。授業参加者の規模にもよりますが、少人数の場合は、時折、みなさんの理解を確認するために、演習形式で行います。		
成績評価方法	期末試験 80% , 授業内に適宜行う小レポート 20%。		
基準			
授業の予習・復習	予習：日頃から時事ニュースに関心を持って下さい。 復習：授業内でわからなかったことは、解決するようにして下さい。		
教科書	なし。		
参考文献	渡辺 靖編『現代アメリカ』有斐閣、2009年。他。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	アメリカの今	
第2回	2012年大統領選挙(1)	大統領選挙の仕組み	
第3回	2012年大統領選挙(2)	大統領選挙の結果分析	
第4回	2012年大統領選挙(3)	民主党と共和党の二大政党	
第5回	アメリカの連邦制(1)	The United States of America	
第6回	アメリカの連邦制(2)	連邦政府と州政府	
第7回	アメリカ人と社会(1)	2010年国勢調査の結果とアメリカの民族構成	
第8回	アメリカ人と社会(2)	移民の国と不法移民	
第9回	テロとの戦い(1)	9.11テロの傷跡	
第10回	テロとの戦い(2)	アフガニスタン戦争、イラク戦争	
第11回	超大国の動揺(1)	9.15リーマン・ショック	
第12回	超大国の動揺(2)	アメリカン・ドリーム	
第13回	超大国の動揺(3)	アフターマティブ・アクションの今	
第14回	超大国の同様(4)	世界の中のアメリカ	
第15回	期末試験	期末試験と試験後、試験問題の解説	

国際

授業番号	B102880001				
科目名 (英語表記)	アメリカの文化と社会 (American Culture and Society)				
担当者 (英語表記)	増井 由紀美 (Yukimi Masui)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	アメリカ社会は常に変化し続けています。今あるアメリカ社会/文化はどのようにして作られてきたのでしょうか。植民地時代から現代までを通史的に見て行くことにより、歴史が過去のものではなく現在に生きていることが理解します。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義が中心となりますがテーマによっては授業内討論、ビデオ鑑賞、学生報告が行われます。				
成績評価方法	授業内提出物が2点 (それぞれ20%)。期末試験 (60%)。				
基準					
授業の予習・復習	授業に関連するテーマの読み物/ビデオが与えられます。それについての感想文が求められます。				
教科書	授業内配布資料。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	アメリカって何?	授業の進め方の説明及びアンケート。			
第2回	アメリカ史のはじまりは?	インディアンと入植者、その関係について学びます。			
第3回	ピューリタンと現代	17世紀のアメリカ社会を映像を用いながら見て行きます。そして、ピューリタンのものが現代アメリカにどのような形で残されているかを考えます。			
第4回	アメリカ建国期の絵画/工芸品	歴史的な人物の顔は、どのように記憶されて行くのでしょうか。有名な絵画、及び工芸品からその秘密を探ります。			
第5回	南北戦争、及びその語られ方	リンカーン大統領や南北戦争の時代を描いた『風と共にさりぬ』は国内だけでなく世界的に知られていますが、人種問題はどのように議論されていたのでしょうか。一緒に考えます。			
第6回	再建の時代 (工業化と万国博覧会)	近代化のはじまりはどのように起こったのでしょうか。機械と文化がどのように紹介されていたか 1876年のフィラデルフィア万国博覧会について学びます。			
第7回	工業化と移民	「都会」がどのように作られて行き、移民がどのようにコミュニティを作っていたかを見て行きます。			
第8回	人権問題と女性活動家	近代化がもたらしたのものには、「市民」の意識改革があります。女性及びマイノリティを焦点に世紀転換期の価値観の変遷を見て行きます。			
第9回	都会の問題	20世紀になると写真や映像で記録が残されています。それらを用いながら、20世紀初めの子供の労働やストライキ、都市の腐敗などを見て行きます。			
第10回	理論でみる人種問題	アメリカは「るつぼ」「サラダボール」「オーケストラ」「モザイク」? 議論をしながら考えます。			
第11回	文学に描かれた人種問題 (1950年代)	バーナード・マラマッドの作品を用いながらユダヤ性について考えます。			
第12回	文学に表された人種問題 (1980年代)	アリス・ウォーカーの作品を用いながらアフリカ系アメリカ人の社会について考えます。			
第13回	作られ続ける記念碑	アメリカの記念碑について各人が調べて、授業内で報告します。			
第14回	変わり続けるアメリカ	1990年代からマルティ・カルチャリズムの教育が盛んになりました。20年以上経ってどのような変化が見られるのでしょうか。教育、宗教、祭り、CMなどを取り上げながら、21世紀のアメリカについて考えます。			
第15回	まとめ&復習	この講義を受ける前と後で、あなたのアメリカ観に変化が生まれ了吗か。意見交換をしながら今学期の学びを振り返ります。			

国際

授業番号	B101460001		
科目名 (英語表記)	アメリカの歴史と社会 (American History and Society)		
担当者 (英語表記)	土田 宏 (Hiroshi Tsuchida)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	ジェファソン、リンカン、ケネディの三人の大統領とその時代に焦点を当てて、アメリカ合衆国の歴史を概観し、その在り方を考える。造られた国アメリカの本質を理解することを目標としたい。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義が中心となるが、授業中の積極的な質問や発言などを期待したい。上に述べた三人の大統領に関しては彼らの演説などを読むことになるだろう。		
成績評価方法 基準	定期試験 (筆記) を主な評価基準とする。出席が70パーセントに満たない場合は、自動的に登録放棄と判断する。		
授業の予習・復習	予習：初回の授業で配る予定表に従って、教科書を読んでおくこと 復習：毎回の授業内容を確認しておくこと。不明な点は次回の授業で質問すること。		
教科書	土田 宏 『ケネディ [神話] と実像』 中公新書		
参考文献	明石紀雄 『トマス・ジェファソンと「自由の帝国」』 ミネルヴァ 土田 宏 『リンカン 神になった男の功罪』 彩流社		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	はじめに	アメリカ合衆国の意義 独立に至る道	
第2回	独立宣言書 1	宣言書の目的と内容 自明の真理	
第3回	独立宣言書 2	独立宣言書の意義：その後の世代への影響	
第4回	ジェファソン大統領 1	その生涯と人間観：平等と権利	
第5回	ジェファソン大統領 2	農業への強い思いと教育観	
第6回	ジェファソン大統領 3	合衆国観と大統領としての業績	
第7回	「1830年代」の風潮	「コモンマン」と新しい価値観	
第8回	リンカン大統領 1	その生涯と黒人奴隷観	
第9回	リンカン大統領 2	南北戦争の指揮官としての問題点	
第10回	リンカン大統領 3	奴隷解放宣言の真の意味とは？	
第11回	リンカン大統領 4	ゲティスバーグの演説 赦しの精神	
第12回	リンカン大統領 5	第二次就任演説 国家再統合への呼びかけ	
第13回	1950年代 冷戦	対ソ封じ込め政策 ヨーロッパとアジアと	
第14回	ケネディ大統領 1	その生涯と就任演説	
第15回	ケネディ大統領 2	政策と夢 新しい世界の構築に向けて	

国際					
授業番号	B102930001				
科目名 (英語表記)	アメリカ文学史 (History of American Literature)				
担当者 (英語表記)	有馬 容子 (Yoko Arima)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	17世紀の植民地時代からはじまって、アメリカ文学が成熟する20世紀初頭までの歴史をそれぞれの時代を代表する作品とともに概観します。取り上げる作品はいずれも時代を越えて評価され続けているアメリカを代表する古典ばかりです。古典という敬遠されがちですが、映画やドキュメンタリーなど視覚教材を適宜用いて親しみやすく紹介します。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業中に配布するプリントは学期末レポート作成に欠かせない資料です。配布は各授業時間中に限られるので欠席しないこと。				
成績評価方法 基準	平常点 (毎回作品の内容について自分の考えおよび評価を提出) (60%) 及び学期末提出のレポート (40%)。ただし、他者の文章を無断で貼り付けた場合は単位を認めない。また、第1回、第2回の両授業を欠席した者は平常点合計の20%減点となる。				
授業の予習・復習	復習：興味を持った作品について全体を読み、学期末レポートに備える。				
教科書	プリントおよび作品リストを配布				
参考文献	『はじめて学ぶアメリカ文学史』板橋・高田編著 ミネルヴァ書房 『アメリカ文学史講義』〈1〉～〈3〉亀井 俊介著 南雲堂 『講義 アメリカ文学史』第Ⅰ巻～Ⅲ巻 渡辺利雄著 研究社				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	講義概要	アメリカ文学の背景			
第2回	植民地時代	ベンジャミン・フランクリン『自伝』			
第3回	アメリカ文学の独立期 (1)	①アーヴィング Washington Irving 「スリーピー・ホロー伝説」			
第4回	アメリカ文学の独立期 (2)	②クーパー James Fenimore Cooper 『モヒカン族の最後』			
第5回	アメリカ文学の開花 (1)	①ソーロー Henry David Thoreau 『ウォールデン』			
第6回	アメリカ文学の開花 (2)	②ポー Edgar Allan Poe 「モルグ街の殺人事件」			
第7回	アメリカ文学の開花 (3)	③ホーソーン Nathaniel Hawthorne 『緋文字』			
第8回	アメリカ文学の開花 (4)	④メルヴィル Herman Melville 『白鯨』			
第9回	リアリズムと自然主義 (1)	①トウェイン Mark Twain と tall tale			
第10回	リアリズムと自然主義 (2)	トウェイン Mark Twain 『ハックルベリィ・フィンの冒険』			
第11回	リアリズムと自然主義 (3)	③ロンドン Jack London 『野生の呼び声』			
第12回	リアリズムと自然主義 (4)	④ドライサー T. Dreiser 『アメリカの悲劇』			
第13回	アメリカ文学の成熟 (1)	①フィッツジェラルド F. Scott Fitzgerald 『偉大なるギャツビー』			
第14回	アメリカ文学の成熟 (2)	②スタインベック John Ernst Steinbeck 『怒りの葡萄』			
第15回	アメリカ文学の成熟 (3)	③ヘミングウェイ Ernest Hemingway 『老人と海』			



国際

授業番号	B102890001				
科目名 (英語表記)	イギリスの文化と社会 (Culture and Society of Great Britain)				
担当者 (英語表記)	新堀 司 (Tsukasa Niibori)	対象学年	1	単位数	2

授業のねらいと到達目標	この授業のねらいは、イギリスの文化と社会の諸相を学習することを通じて、イギリスという異文化社会に対する理解を深めることである。到達目標としては、イギリスの文化と社会に関する基礎的な知識を身につけることである。
授業の進め方 (履修条件など)	毎回、異なるテーマ (多様性など) にそって解説を行う。その際、Power Point などを用いる。授業の最後に、まとめとして問題演習 (プリント、提出) を行う。
成績評価方法	提出物 (問題演習、35%)、学期末の試験の結果 (65%) による総合的評価。
基準	
授業の予習・復習	予習：必要に応じて指示。 復習：必要に応じて指示。
教科書	プリントおよび Power Point を使用する。
参考文献	授業中に指示する。

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方などの説明
第 2 回	多様性	イギリスの各地域の概要など
第 3 回	イギリスとヨーロッパ	イギリスとヨーロッパの関わり
第 4 回	ロンドン	ロンドンの形成など
第 5 回	クラス	階級など
第 6 回	王室	王室の概要など
第 7 回	教育	教育制度など
第 8 回	祭り	主な祭りなど
第 9 回	スポーツ	サッカーなど
第 10 回	食生活	紅茶など
第 11 回	交通	鉄道など
第 12 回	環境保護	ナショナル・トラストなど
第 13 回	神話・伝説	ケルト神話など
第 14 回	芸術	絵画など
第 15 回	まとめ	授業内容の総まとめ

国際					
授業番号	B102940001				
科目名 (英語表記)	イギリス文学史 (History of English Literature)				
担当者 (英語表記)	新堀 司 (Tsukasa Niibori)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、イギリスの中世文学期から 20 世紀文学期前半ぐらいまでをとりあげる。授業のねらいは、それぞれの文学期の概要、主要作家・作品などを学習することによって、イギリスの文学に関する理解を深めることである。到達目標は、各文学期の概要、主要作家・作品、用語などに関する基礎的な知識を身につけることである。				
授業の進め方 (履修条件など)	プリントおよび Power Point を通じて、イギリスの各文学期の概要、主要作家・作品、用語などを学び、その後各文学期に関連した作品からの引用 (原文、訳文) を読み、最後に問題演習 (提出) を行う。				
成績評価方法	提出物 (問題演習、30%)、試験の結果 (70%) による総合的評価。				
基準					
授業の予習・復習	予習：必要に応じて指示。 復習：必要に応じて指示。				
教科書	プリントおよび Power Point を用いる。CD など活用する。				
参考文献	授業中に指示。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス、イントロダクション	授業の内容などの説明、文学史の区分など			
第 2 回	中世	概要、主要作家・作品、用語、引用、問題演習			
第 3 回	ルネッサンス-詩	概要、主要作家・作品、用語、引用、問題演習			
第 4 回	ルネッサンス-劇	概要、主要作家・作品、用語、引用、問題演習			
第 5 回	シェイクスピア	略伝、主要作品、用語、引用、問題演習			
第 6 回	シェイクスピアの劇場	ルネッサンス期の劇場など、問題演習			
第 7 回	17 世紀	概要、主要作家・作品、用語、引用、問題演習			
第 8 回	18 世紀-詩・劇	概要、主要作家・作品、用語、引用、問題演習			
第 9 回	18 世紀-小説	概要、主要作家・作品、用語、引用、問題演習			
第 10 回	ロマン主義	概要、主要作家・作品、用語、引用、問題演習			
第 11 回	ヴィクトリア朝-詩・散文	概要、主要作家・作品、用語、引用、問題演習			
第 12 回	ヴィクトリア朝-小説①	概要、主要作家・作品、用語、問題演習			
第 13 回	ヴィクトリア朝-小説②	引用、問題演習			
第 14 回	20 世紀前半	概要、主要作家・作品、用語、引用、問題演習			
第 15 回	まとめ	授業内容の総まとめ			

国際					
授業番号	B101500001				
科目名 (英語表記)	イスラムの歴史と社会 (Islamic History and Society)				
担当者 (英語表記)	水口 章 (Akira Mizuguchi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	今日の「世界史」の観点では、かつて「中洋」といわれた地域の歴史の欠落がしばしば見られます。本講義では、そこを埋め、バランスのとれた歴史認識を身につけてもらうため、イスラム商業圏やモンゴル帝国の歴史を取り上げます。そのことで、新たな「世界史」の起点について考え、歴史観を形成することを到達目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	各回授業は基本的には講義形式をとります。また、毎回授業の終わりに、授業内容について意見をまとめた短文を書いてもらいます。				
成績評価方法	学習態度 (課題レポート、討論参加) 20%、試験 80% で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。 復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べて理解を深めてください。				
教科書	宮崎正勝『世界史の誕生とイスラーム』原書房、2009年3月				
参考文献	タミム・アンサーリー (小沢千重子訳)『イスラームから見た「世界史」』紀伊國屋書店、2011年9月 三木亘『世界史の第二ラウンドは可能か』平凡社、1998年9月				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	はじめに	「世界史」における西アジア史のとらえ方			
第2回	イスラム以前の西アジア	地中海文化圏について			
第3回	イスラムの誕生と正統カリフ	イスラム共同体について			
第4回	イスラムの拡大	大征服運動の世界史的意義			
第5回	後ウマイヤ朝	12世紀ルネサンスの萌芽について			
第6回	アッバース朝	イスラム法の体系化について			
第7回	巨大商業圏の成立	商業ネットワークについて			
第8回	マムルークの活躍する時代	イスラム社会と奴隷について			
第9回	セルジューク朝	イクター制と地方支配について			
第10回	十字軍とジハード	十字軍の侵入とイスラム世界について			
第11回	騎馬遊牧民の支配	トルコ人の台頭について			
第12回	ティムール朝	モンゴル帝国のユーラシア世界の再編について			
第13回	オスマン帝国 1	統治の仕組み (中央と地方) について			
第14回	オスマン帝国 2	ナポレオンの遠征とムハンマド・アリーについて			
第15回	イスラム国家と近代化	各地での近代化への制度改革について			

国際					
授業番号	B102950001				
科目名 (英語表記)	異文化コミュニケーション (Intercultural Communication)				
担当者 (英語表記)	嶋川 洋一 (Youichi Shimakawa)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	国内外で多様化する教育・学習、そしてビジネス環境下で異なる考え方、価値観、行動様式を持つ人々と共同し、共生していくために必要な姿勢、知識、技能を身につけることを目標としています。				
授業の進め方 (履修条件など)	指定の教科書を中心に異文化コミュニケーションの様々な側面を考察し、ディスカッションして行きます。日本語を聞く、話す、読む、書く能力とクラスや小グループ内で発言する積極的な態度が必要です。				
成績評価方法 基準	<p>出席は必要最低条件です。出席が3分の2以下になると、仮に授業評価が良くても、不合格になります。(注意：遅刻・早退は2回で1回欠席扱いになります。)</p> <p>1. 「参加度」(クラスでの積極的な発言を意味します) (25%)</p> <p>2. 事例分析# 1 : 中間の異文化コミュニケーション事例分析 (25%)</p> <p>3. グループ毎の模擬異文化訓練・トレーニング (25%) : 指定された異文化について調べ、クラスでミニ・トレーニングを行います。</p> <p>4. 事例分析# 2 (25%) を総合して、100点満点で評価します。</p>				
授業の予習・復習	クラスに参加するためには指定された教科書の予習が必要です。				
教科書	『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション -- 多文化共生と平和構築に向けて』 有斐閣 (2013/11/13) ISBN-13: 978-4641281332 2000円 (税別)				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	コース概要説明、グループ分け	シラバス、発表グループ、発表形式についての質問等			
第2回	教科書第1章	異文化コミュニケーションの基礎概念			
第3回	第2章	自己とアイデンティティ			
第4回	第3章	異文化コミュニケーションの障壁			
第5回	第4章	深層文化の探求			
第6回	第5章	言語コミュニケーション			
第7回	第6章	非言語コミュニケーション			
第8回	事例分析# 1	事例分析その1と分析結果の提出			
第9回	第7章	カルチャーショックと適応のプロセス			
第10回	第8章	対人コミュニケーション			
第11回	第9章	異文化コミュニケーションの教育・訓練			
第12回	第10章	異文化コミュニケーションの研究			
第13回	異文化模擬訓練	学生グループによる模擬訓練第1部			
第14回	異文化訓練	学生グループによる模擬トレーニング第2部			
第15回	総括・事例分析# 2	最終事例分析と分析結果の提出			

国際

授業番号	B102760001				
科目名 (英語表記)	英語学概論 (Introduction to English Philology)				
担当者 (英語表記)	加藤 希 (Nozomi Kato)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	英語学とは、言語学の一部門で、English Philology (Linguistics)、すなわち英語「言語学」ということです。つまり単なる英語の勉強ではなく、人間というものの性質を総合的に捉えようとする「認知科学」の一部といえます。英語の音・語・文・変遷等を、具体例を通して分析し、英語力だけでなく認知科学的思考力を高めることが、この授業の目標です。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業は、講義・演習・ディスカッション・発表を織り交ぜた形で進めますので、受動的ではなく能動的な参加が求められます。また、毎回授業の「始め」に小テストを行い、前回の授業内容の理解を確認します。				
成績評価方法	中間・期末試験 (50%)・課題作成 (50%)				
基準					
授業の予習・復習	予習： 教科書を読む。 復習： 授業で学んだことを再確認して小テストに備える。				
教科書	影山太郎他著 First Steps in English Linguistics 2nd Edition くろしお出版				
参考文献	授業中に提示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	受講上の諸注意、導入活動			
第 2 回	Knowledge of Language	Why Study English Linguistics			
第 3 回	History of English	How English Has Changed over the Centuries			
第 4 回	Morphology	How Words Are Made			
第 5 回	Semantics I	How Words Mean			
第 6 回	Syntax I	How English Phrases Are Formed			
第 7 回	Syntax II	How English Sentences Are Formed			
第 8 回	Semantics II	How Sentences Mean			
第 9 回	中間試験	試験、解説、前半の総復習			
第 10 回	Pragmatics	How to Communicate with Other People			
第 11 回	Phonetics and Phonology	The Sounds of English			
第 12 回	Sociolinguistics I	Regional Varieties of English			
第 13 回	Sociolinguistics II	English in Society			
第 14 回	Psycholinguistics	How English Is Acquired			
第 15 回	Applied Linguistics	How English as a Second/Foreign Language Is Acquired			

# 国際

授業番号	B102820001		
科目名 (英語表記)	英語学特講 I (English Philology I)		
担当者 (英語表記)	加藤 希 (Nozomi Kato)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	英語学特講 I では、「日英比較」を扱います。普段使用している日本語を、英語というレンズで眺めることによって新しい発見をすることをねらいとします。同時に、英語を日本語のレンズで眺めることによって様々な発見をすることもねらいとします。		
授業の進め方 (履修条件など)	日本語と英語を比較する様々な課題が出されますが、個人やグループでそれらに取り組み、発表をしてもらいます。歌などを通して音声的な課題も含まれます。毎回授業の初めに、復習となる小テストをします。		
成績評価方法	中間・期末試験 (50%)・課題作成 (50%)		
基準			
授業の予習・復習	予習： 授業で指示される事前調査を行う。 復習： 授業で扱った内容を学び直し、小テストに備える。		
教科書	なし。プリントを配布します。		
参考文献	菅井三実 『英語を通して学ぶ日本語のツボ』 開拓社		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	世界の中の日本語と英語	日本語と英語は世界の言語の中でどのように位置づけられているのか？	
第 2 回	日英の品詞の対応	日英の品詞の共通点と相違点は何か？	
第 3 回	日英の品詞のはたらき	日英に共通する品詞の働き方は同じか？	
第 4 回	日英の文法用語の対応	日英で共通する文法項目はそれぞれ何と呼ばれているか？	
第 5 回	日本語のテイル形と英語の進行形	日本語の「テイル」はすべて英語の進行形で訳せるか？	
第 6 回	動詞・形容詞の不規則変化	動詞・形容詞の不規則変化は日英で共通点があるか？	
第 7 回	時制と相	日英の時制・相の表現法は 1 対 1 の対応ではない？	
第 8 回	日英の助動詞	助動詞が連続するといけないのか？	
第 9 回	中間試験	試験。日英の音声比較。	
第 10 回	日英の受動文	日本語の方が受動文のバラエティが多い？	
第 11 回	日英の使役表現	英語の方が使役表現のバラエティが多い？	
第 12 回	形容詞の派生	日英で形容詞の派生は似ているのか？	
第 13 回	連体修飾	内・外の関係とは？	
第 14 回	日英の主語	日本語の「が」や「は」は主語ではない？	
第 15 回	動詞の重さ	日英では動詞の重さがどう違うのか？	

国際

授業番号	B103950001				
科目名 (英語表記)	英語科指導法 I (Teaching Methods in English I)				
担当者 (英語表記)	柳原 由美子 (Yumiko Yanagihara)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	英語科指導法 I では、中学校・高等学校の英語教員として知っておくべき国内外における英語教育理論や、これまで実践・議論されてきた様々な教授法の概要を理解することを目的とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回レジュメを配布し、その単元で習得すべき事柄を最初に表示し、それに沿って授業を展開していきます。				
成績評価方法 基準	1) 筆記試験 (中間・期末) 60% 2) 英語教授法に関する英語文献の要約 (発表とデモンストレーション) 30% 3) 授業への参加度 10%				
授業の予習・復習	予習: 予告されている次回の授業に関する教科書の各章を読んでおくこと 復習: 毎回配布されるレジュメに書かれている、各単元の到達目標事項の理解がなされているかどうかを、各自確認しておくこと				
教科書	望月明彦 編著 『新学習指導要領に基づく英語科教育法』 大修館書店 (改訂版)				
参考文献	初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	クラス・オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、参考文献、プレゼンテーションなどについての説明			
第 2 回	英語教育と英語教育学	英語教育の目的、日本における英語教育の存廃論・実用論・教養論、英語教育と英語科教育、英語教育学とは何か			
第 3 回	英語の国際化と日本の英語教育 (1)	国際化時代の英語の役割、国際語としての英語			
第 4 回	英語の国際化と日本の英語教育 (2)	国際語としての英語の特徴、国際コミュニケーションとしての英語教育、EIL と日本の英語教育			
第 5 回	学習指導要領	学習指導要領とは、その変遷と特色 (中学と高校)			
第 6 回	学習者	発達の要因、適性要因、認知的要因、動機づけなど			
第 7 回	英語教員	英語教師の役割、教師が関わる様々な要因、学習内容定着への工夫など			
第 8 回	中間試験	試験の解説 (復習)			
第 9 回	小学校における外国語 (英語) 活動	外国語活動新設の経緯、教育課程上の位置づけ、外国語活動の目的と内容、コミュニケーション能力の「素地」と「基礎」			
第 10 回	英語教授法 1 (はじめに)	英語教授法に関する英語文献の概略説明			
第 11 回	英語教授法 2 (発表と実践)	Grammar Translation Method, Oral Method, etc.			
第 12 回	英語教授法 3 (発表と実践)	Direct Method, Reading Method, etc.			
第 13 回	英語教授法 4 (発表と実践)	Audio Lingual Method, Restoring the Cognitive Element			
第 14 回	英語教授法 5 (発表と実践)	Natural Language Learning, Eclectic Approach			
第 15 回	英語教授法 (まとめ)	論争分野			

国際			
授業番号	B103960001		
科目名 (英語表記)	英語科指導法 II (Teaching Methods in English II)		
担当者 (英語表記)	柳原 由美子 (Yumiko Yanagihara)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	英語科指導法 II では、英語科指導法 I (前期) で学習した基礎理論を踏まえて、実践に必要な知識と技術を習得することを目的とします。特に、4 技能 (リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング) の指導方法や指導上の問題点・留意点などについて、具体例や授業のビデオなどを用いながら解説します。		
授業の進め方 (履修条件など)	毎回レジュメを配布し、その単元で習得すべき事柄を最初に提示し、それに沿って授業を展開していきます。原則として、「英語科指導法 I」を履修済みの学生を対象とします。		
成績評価方法	1) 筆記試験 (中間・期末試験) 60%		
基準	2) 4 技能の一つを選択し、簡単な指導案の作成と模擬授業 (実習) 40%		
授業の予習・復習	予習: 予告されている次回の授業に関する教科書の各章を読んでおくこと 復習: 毎回配布されるレジュメに書かれている、各単元における到達目標事項の理解がなされているかを、各自確認すること		
教科書	望月明彦 編著 『新学習指導要領に基づく英語科教育法』 大修館書店 (改訂版)		
参考文献	初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	クラス・オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、参考文献、プレゼンテーションなどについての説明	
第 2 回	第二言語習得と英語教育 (1)	英語教育における第二言語習得研究の意義、第二言語とは、第二言語の習得と言語観	
第 3 回	第二言語習得と英語教育 (2)	第二言語習得研究と英語教育、教室内第二言語習得の諸問題	
第 4 回	コミュニケーション能力の育成	コミュニケーションとは、コミュニケーション能力とは、コミュニケーション・ストラテジーとは、コミュニケーション活動の特徴	
第 5 回	リスニングの指導 (1)	リスニングとは、その諸相と指導の視点、指導過程	
第 6 回	リスニングの指導 (2)	リスニングに関する授業のビデオ視聴と討論	
第 7 回	中間試験	試験の解説 (復習)	
第 8 回	スピーキングの指導 (1)	スピーキングとは、その諸相と指導の視点、指導過程	
第 9 回	スピーキングの指導 (2)	スピーキングに関する授業のビデオ視聴と討論	
第 10 回	リーディングの指導 (1)	リーディングとは、その諸相と指導の視点、指導過程	
第 11 回	リーディングの指導 (2)	リーディングに関する授業のビデオ視聴と討論	
第 12 回	ライティングの指導 (1)	ライティングとは、その諸相と指導の視点、指導過程	
第 13 回	ライティングの指導 (2)	ライティングに関する授業のビデオ視聴と討論	
第 14 回	ミニ模擬授業 (1)	学生による模擬授業 (15 分間) (4 技能のどれかを選択して)	
第 15 回	ミニ模擬授業 (2)	学生による模擬授業 (15 分間) (4 技能のどれかを選択して)	



国際

授業番号	B103970001				
科目名 (英語表記)	英語科指導法 III (Teaching Methods in English III)				
担当者 (英語表記)	柳原 由美子 (Yumiko Yanagihara)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	英語科指導法Ⅲでは、実際に授業をする場合に必要となる1コマ分(45分間)の授業案の作成ができるようになることを目的とします。そのため、チーム・ティーチング、テストングと評価、マルチメディア機器の活用、教材、授業の運営、学習指導案の書き方などについて学習します。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回レジュメを配布し、その単元で習得すべき事柄を最初に提示し、それにしたがって授業を展開していきます。原則として、「英語科指導法Ⅰ」、「英語科指導法Ⅱ」を履修済みの学生を対象とします。				
成績評価方法	1) 筆記試験 (中間・期末) 80%				
基準	2) 試験の作成・採点・評価 (実習) 20%				
授業の予習・復習	予習: 予告されている次回の授業に関する教科書の各章を読んでおくこと 復習: 毎回配布されるレジュメに書かれている、各単元における到達目標事項の理解がなされているか、各自確認しておくこと				
教科書	望月明彦 編著 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』 大修館書店 (改訂版)				
参考文献	初回の授業時に提示しますので、初回の授業には必ず出席してください。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	クラス・オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法、参考文献、提出物などについての説明			
第2回	チーム・ティーチング	JETプログラム、TTの理論・定義とその課題、効果的な役割分担、具体的な指導方法			
第3回	測定と評価(1)	測定とは、評価とは、テストの種類、テスト作成上の必須条件			
第4回	測定と評価(2)	実験結果の簡単な処理方法、実習を含む			
第5回	EラーニングとCALL教室	ICTと語学教育、CALLの機能と活用、様々な授業場面における利用方法			
第6回	教科書と教材研究	教材とは、教材研究の意義、教科書で教えるということ、教材分析と評価の視点、教材の全体的/個別的分析			
第7回	中間試験	試験の解説(復習)			
第8回	文法の学習と指導(1)	コミュニケーションと文法の知識、文法指導の目的と課題、習得の補助手段としての学校文法、文法指導の理論と方法			
第9回	文法の学習と指導(2)	コミュニケーションを指向した文法指導、文法指導に関する授業のビデオ視聴と討論			
第10回	語彙と辞書検索指導	語の形態的特徴、語と語の意味関係、語と語の連結、意味の透明性、語義検索と品詞・連語など			
第11回	授業運営	1コマの授業の流れ(復習・ウォームアップ・導入・展開・まとめ)、授業分析の目的、代表的な授業分析方法			
第12回	学習指導案の書き方	学習指導案作成の目的、書き方、作成(実習)			
第13回	模擬授業(1)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論			
第14回	模擬授業(2)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業を討論			
第15回	模擬授業(3)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論			

国際

授業番号	B103980001		
科目名 (英語表記)	英語科指導法 IV (Teaching Methods in English IV)		
担当者 (英語表記)	柳原 由美子 (Yumiko Yanagihara)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	「英語科指導法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」で学習した英語教育理論やさまざまな教授法の理論を踏まえて、実際に授業をする場合の準備、および進め方の演習を行います。したがって、履修者は各自作成した学習指導案に基づいて模擬授業（45分間）を行い、授業後に全員でディスカッションをし、教育実習に向けての準備を目的とします。		
授業の進め方 (履修条件など)	はじめに外部講師を招いて、教育実習の心構え等を話してもらいます。その後は各自学習指導案を作成し、模擬授業を実施、討論をします。原則として「英語科指導法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を履修済みの学生を対象とします。		
成績評価方法 基準	1) 学習指導案の作成 30% 2) 模擬授業の実施 (実習) 40% 3) 模擬授業後の討論への参加 30%		
授業の予習・復習	予習： 学習指導案の作成・模擬授業の準備		
教科書	望月 昭彦 編著 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』 大修館書店		
参考文献	初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	外部講師による講義 (1)	英語教育現場の現状と問題点、教員採用試験などについての講義、夏休みの宿題であった学習指導案の提出	
第2回	外部講師による講義 (2)	提出した学習指導案についての総評、模擬授業の実施と討論	
第3回	模擬授業 (1)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第4回	模擬授業 (2)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第5回	模擬授業 (3)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第6回	模擬授業 (4)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第7回	模擬授業 (5)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第8回	模擬授業 (6)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第9回	模擬授業 (7)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第10回	模擬授業 (8)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第11回	模擬授業 (9)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第12回	模擬授業 (10)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第13回	模擬授業 (11)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第14回	模擬授業 (12)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	
第15回	模擬授業 (13)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論	

国際					
授業番号	B102780001				
科目名 (英語表記)	英語史 (History of the English Language)				
担当者 (英語表記)	新堀 司 (Tsukasa Niibori)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業のねらいはイギリスの歴史などを学びながら、英語という言葉に関する理解を深めることである。到達目標は英語の歴史 (古英語期、中英語期、近代英語期) に関する基礎的な知識を身につけることである。				
授業の進め方 (履修条件など)	プリントおよび Power Point を用いて解説を行い、その後問題演習 (提出) を実施する。問題演習の内容はその都度指示する。				
成績評価方法	提出物 (問題演習、35%)、学期末の試験の結果 (65%) による総合的評価。				
基準					
授業の予習・復習	予習：必要に応じて指示。 復習：必要に応じて指示。				
教科書	プリントおよび Power Point を使用する。				
参考文献	授業中に指示。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス、イントロダクション	授業内容などの説明、英語の時代区分など			
第 2 回	古英語期 ①	時代状況、方言と文学、借入語			
第 3 回	古英語期 ②	ルーン文字、アルファベット			
第 4 回	古英語期 ③	発音、原文			
第 5 回	古英語期 ④	語形			
第 6 回	中英語期 ①	時代状況、方言と文学、借入語			
第 7 回	中英語期 ②	発音、チョーサー			
第 8 回	中英語期 ③	語形			
第 9 回	近代英語期 ①	時代状況①、文学①、借入語			
第 10 回	近代英語期 ②	発音、シェイクスピア、欽定訳聖書			
第 11 回	近代英語期 ③	時代状況②、文学②、規範文法、辞書			
第 12 回	近代英語期 ④	イギリス英語とアメリカ英語			
第 13 回	主な文法的発達 ①	語順、否定文など			
第 14 回	主な文法的発達 ②	完了形、受動態など			
第 15 回	まとめ	授業内容の総まとめ			

国際

授業番号	B102790001		
科目名 (英語表記)	英語の音声 (Phonetics)		
担当者 (英語表記)	柳原 由美子 (Yumiko Yanagihara)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	英語の音声についての基礎的な知識を学び、日本語の音声との比較も考慮しながら、教職課程における英語教育への実践的応用ができるようにすることを目的とします。英語の正しい発音ができるように、そして聞き取りができるように、また、発音記号を読むことができるように練習します。そして、さらに、英語の音声に関する英文読解と基礎的な語彙を習得することを目指します。		
授業の進め方 (履修条件など)	基礎的な知識に関しては、教科書に沿って授業を進めていきます。したがって、履修者は必ず教科書を購入してください。		
成績評価方法	1) 筆記試験 (中間・期末) 70 %		
基準	2) 英語の音声に関する英語文献の読解とプレゼンテーション、または発音記号の読解 30 %		
授業の予習・復習	予習: 次回の授業予告があった単元を読んでおくこと 復習: 毎回配布されるレジュメのタイトルの下に書かれている、各単元での重要事項の理解がなされているかどうか、各自確認すること		
教科書	佐藤 寧/佐藤 努 著 『現代の英語音声学』 金星堂		
参考文献	初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	1) クラス・オリエンテーション 2) 音声学とは?	1) 授業の進め方・評価、プレゼンテーションなど 2) なぜ音声学が必要か、音声学の 3 分野など	
第 2 回	発生のメカニズム	発音器官の名称と場所、発声過程など	
第 3 回	音声表記	R P と G A の相違、I P A とは何か、精密表記と簡略表記	
第 4 回	母音の調音 1	母音の特徴と分類の仕方、母音の音声記号を用いての表記	
第 5 回	母音の調音 2	母音の正しい発音練習とその聞き分け	
第 6 回	子音の調音 1	子音の特徴と分類の仕方、子音の音声記号を用いての表記	
第 7 回	子音の調音 2	子音の正しい発音練習とその聞き分け	
第 8 回	子音の調音 3	子音表の作成	
第 9 回	中間試験	試験の解説 (復習)	
第 10 回	音節	音節の切れ目のルール、音節に分ける、音節構造	
第 11 回	語強勢	語強勢の生成と知覚、強勢の有無と音節、強勢と品詞	
第 12 回	イントネーション	ピッチとイントネーション、音調句、音調核、核音調	
第 13 回	音変化 1	音の短縮、音の消失、発音と聞き取り練習	
第 14 回	音変化 2	音の脱落、音の連結、発音と聞き取り練習	
第 15 回	音変化 3	音の同化、音の弱化、発音と聞き取り練習	

国際					
授業番号	B102770001				
科目名 (英語表記)	英文法 (English grammar)				
担当者 (英語表記)	加藤 希 (Nozomi Kato)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	英文法は、英語の4技能(きく、話す、読む、書く)全ての運用の基礎となります。また、TOEIC等の資格試験においても、英文法の知識が問われる問題が出題されます。この授業では、英文法が実用的に機能する具体例に数多く触れて理解することにより、英文法の知識を深め、かつ英語の運用能力を高めることを目標とします。				
授業の進め方(履修条件など)	重要な文法事項をTOEICの問題形式で演習しながら学びます。歌を使って声も出して学びます。毎回授業の「始め」に小テストを行い、前回の授業内容の理解を確認します。				
成績評価方法	中間・期末試験(50%)・課題作成(50%)				
基準					
授業の予習・復習	予習： 授業で扱う文法項目を文法書等で調べておく。 復習： 問題を解き直し、小テストに備える。				
教科書	古家聡他著 Practical Grammar for the TOEIC Test 南雲堂				
参考文献	授業中に提示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	受講上の諸注意、導入活動			
第2回	品詞の種類	品詞の見分け方と並べ方(文型)			
第3回	動詞(1)	時制と態に応じた動詞の形			
第4回	動詞(2)	様々な接続詞節内での動詞の形			
第5回	助動詞	法助動詞の基本的な意味と派生的な意味			
第6回	準動詞(1)	不定詞と動名詞を用いた表現			
第7回	準動詞(2)	分詞を用いた表現			
第8回	形容詞と副詞	修飾語句の語順と形			
第9回	中間試験	試験、解説、前半の総復習			
第10回	前置詞	前置詞の基本イメージと前置詞句の形			
第11回	接続詞	接続詞の種別用法と紛らわしい前置詞との区別			
第12回	名詞	名詞の種類と冠詞			
第13回	代名詞	人称代名詞の格と不定代名詞の用法			
第14回	比較	比較の基本表現と慣用表現			
第15回	関係詞	先行詞による種類分けおよび複合関係詞の用法			

国際

授業番号	B104690001				
科目名 (英語表記)	英米児童文学 (British and American Literature for Children)				
担当者 (英語表記)	佐藤 佳子 (Keiko Sato)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	イギリスの児童文学の成立や背景を学び、代表的な作品を英語で読む。さまざまなジャンルの作品に触れながら、イギリス児童文学の魅力を探る。				
授業の進め方 (履修条件など)	ゼミ形式で実施する。授業で扱う作品ごとに担当者を決めて発表を行う。				
成績評価方法	授業への積極的な参加、発表、学期末レポートを総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業で扱う作品を読む。 復習：授業の内容を整理し、まとめる。作品の理解を深める。				
教科書	必要に応じて資料を配布する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業の進め方・担当の決定			
第2回	講義①	児童文学の歴史			
第3回	講義②	子どもという概念の誕生、子ども観、ジャンルについて			
第4回	ダニエル・デフォー	『ロビンソン・クルーソー』			
第5回	ルイス・キャロル	『不思議の国のアリス』			
第6回	E. ネズビット	『砂の妖精』			
第7回	ビアトリクス・ポター	『ピーターラビットのおはなし』			
第8回	フランシス・ホジソン・バーネット	『秘密の花園』			
第9回	ジェイムズ・マシュー・バリ	『ピーター・パンとウェンディ』			
第10回	A.A. ミルン	『クマのプーさん』			
第11回	C.S. ルイス	ナルニア国ものがたり			
第12回	J.R.R. トールキン	指輪物語			
第13回	ロアルド・ダール	『マチルダは小さな大天才』			
第14回	J.K. ローリング	『ハリー・ポッターと賢者の石』			
第15回	まとめ	第1～14回の授業を振り返って			

国際					
授業番号	B102970001				
科目名 (英語表記)	英米児童文学 I (British and American Literature for Children I)				
担当者 (英語表記)	佐藤 佳子 (Keiko Sato)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	イギリスの児童文学の成立や背景を学び、代表的な作品を英語で読む。さまざまなジャンルの作品に触れながら、イギリス児童文学の魅力を探る。				
授業の進め方 (履修条件など)	ゼミ形式で実施する。授業で扱う作品ごとに担当者を決めて発表を行う。				
成績評価方法	授業への積極的な参加、発表、学期末レポートを総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業で扱う作品を読む。 復習：授業の内容を整理し、まとめる。作品の理解を深める。				
教科書	必要に応じて資料を配布する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方・担当の決定			
第 2 回	講義①	児童文学の歴史			
第 3 回	講義②	子どもという概念の誕生、子ども観、ジャンルについて			
第 4 回	ダニエル・デフォー	『ロビンソン・クルーソー』			
第 5 回	ルイス・キャロル	『不思議の国のアリス』			
第 6 回	E. ネズビット	『砂の妖精』			
第 7 回	ビアトリクス・ポター	『ピーターラビットのおはなし』			
第 8 回	フランシス・ホジソン・バーネット	『秘密の花園』			
第 9 回	ジェイムズ・マシュー・バリ	『ピーター・パンとウェンディ』			
第 10 回	A.A. ミルン	『クマのプーさん』			
第 11 回	C.S. ルイス	ナルニア国ものがたり			
第 12 回	J.R.R. トールキン	指輪物語			
第 13 回	ロアルド・ダール	『マチルダは小さな大天才』			
第 14 回	J.K. ローリング	『ハリー・ポッターと賢者の石』			
第 15 回	まとめ	第 1 ～ 14 回の授業を振り返って			

国際

授業番号	B102980001				
科目名 (英語表記)	英米児童文学 II (British and American Literature for Children II)				
担当者 (英語表記)	佐藤 佳子 (Keiko Sato)	対象学年	2	単位数	2

授業のねらいと到達目標	イギリスの児童文学の成立や背景を学び、代表的な作品を英語で読む。さまざまなジャンルの作品に触れながら、イギリス児童文学の魅力を探る。
授業の進め方 (履修条件など)	ゼミ形式で実施する。授業で扱う作品ごとに担当者を決めて発表を行う。
成績評価方法	授業への積極的な参加、発表、学期末レポートを総合的に評価する。
基準	
授業の予習・復習	予習：授業で扱う作品を読む。 復習：授業の内容を整理し、まとめる。作品の理解を深める。
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考文献	

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方・担当の決定
第 2 回	講義①	児童文学の歴史
第 3 回	講義②	子どもという概念の誕生、子ども観、ジャンルについて
第 4 回	ダニエル・デフォー	『ロビンソン・クルーソー』
第 5 回	ルイス・キャロル	『不思議の国のアリス』
第 6 回	E. ネズビット	『砂の妖精』
第 7 回	ビアトリクス・ポター	『ピーターラビットのおはなし』
第 8 回	フランシス・ホジソン・バーネット	『秘密の花園』
第 9 回	ジェイムズ・マシュー・バリ	『ピーター・パンとウェンディ』
第 10 回	A.A. ミルン	『クマのプーさん』
第 11 回	C.S. ルイス	ナルニア国ものがたり
第 12 回	J.R.R. トールキン	指輪物語
第 13 回	ロアルド・ダール	『マチルダは小さな大天才』
第 14 回	J.K. ローリング	『ハリー・ポッターと賢者の石』
第 15 回	まとめ	第 1 ～ 14 回の授業を振り返って



国際					
授業番号	B102900001				
科目名 (英語表記)	英米文学概論 (Introduction to British and American Literature)				
担当者 (英語表記)	有馬 容子 (Yoko Arima)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	優れた文学作品には時代と国境を越えた普遍的なテーマが描かれています。この講義では特に英米の現代的なテーマを扱った古典的作品とそれらから影響を受けて書かれた現代作品を読み、具体的に鑑賞します。将来的には原文で読めるようになることを目標に、主な作品については適宜、原文の一部を配布し精読してもらいますので、受講者はある程度の英語力が必要です。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業中に配布するプリントは学期末試験の範囲となります。プリントの配布は各授業時間中に限られるので欠席しないこと。				
成績評価方法 基準	毎回実施の小テスト (英文訳) (30%)、学期末試験およびレポート (70%)。第1回、第2回の両授業を欠席した場合は平常点合計の20%を減点する。				
授業の予習・復習	復習：プリントの内容および作品の一部 (英語) を熟読する。 興味を持った作品は全体を読み定期試験に備える。				
教科書	プリントおよび作品リストを配布				
参考文献	『サロン・ドット・コム——現代英語作家ガイド』ローラ・ミラー著 柴田元幸訳 研究社 その他、参考文献リストを配布				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	講義概要	取り上げる作家の概要とその作品の特徴について			
第2回	ホーソーン Nathaniel Hawthorne (1)	「ヤンググッドマン・ブラウン」			
第3回	ホーソーン (2)	「ウェイクフィールド」			
第4回	キング Stephen King	「黒いスーツの男」			
第5回	オースター Paul Auster	「幽霊たち」			
第6回	メルヴィル Herman Melville	『代書人バートルビー』			
第7回	トウェイン Mark Twain	『不思議な少年4号』			
第8回	ヴォネガット Kurt Vonnegut (1)	『スローターハウス 5』(前半)			
第9回	ヴォネガット (2)	『スローターハウス 5』(後半)			
第10回	ヘンリー・ジェイムズ Henry James	『ねじの回転』			
第11回	カズオ・イシグロ (1)	『わたしを離さないで』			
第12回	カズオ・イシグロ (2)	『わたしを離さないで』			
第13回	ウエルズ H.G.Wells	『タイム・マシン』			
第14回	クロウリー John Crowley	『時の偉業』			
第15回	総括筆記試験	解説			

国際

授業番号	B103000001				
科目名 (英語表記)	英米文学講読 II (Reading (British and American Literature ) II)			(英語授業)	
担当者 (英語表記)	増井 由紀美 (Yukimi Masui)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	映像でも見ることができ、かつ平易な文章で書かれた作品をテキストに、話の流れ、風景描写、心の動きが読み取れるように指導します。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業は英語で行われます。受講者は前もって課題を読んでから出席しなければなりません。				
成績評価方法 基準	授業内発表 20 % 中間試験 30 % 期末試験 50 %				
授業の予習・復習	指定されたところを必ず読みます。				
教科書	Breakfast at Tiffany's by Truman Capote, Penguin Modern Classics.				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	American Literature and Film	Why do we need film versions?			
第 2 回	Before the 1st scene	This part is not shown in the film. Discuss why the author puts it in the beginning. (pp. 9-16)			
第 3 回	Holiday Golightly is introduced to the audience.	Discuss the method of introducing characters. (pp. 16-21)			
第 4 回	Film showing (1) and discussion	Compare the film with the text (the 1st part).			
第 5 回	Holly starts to talk about herself.	How does the reader get more information? (pp. 21-25)			
第 6 回	Darker side of Holly is revealed.	How the author describe the backgrounds of the scenes. (pp. 26-30)			
第 7 回	Another voice about Holly.	What do you learn about Holly through her friends? (pp. 30-36)			
第 8 回	Midterm examination	Review			
第 9 回	Cat means special.	What is the role of her cat? (pp. 36-41)			
第 10 回	From fall to Christmas in 1943.	How does the relationship develop? (pp. 52-57)			
第 11 回	Holly's husband shows up.	What is told by Doc? (pp. 60-68)			
第 12 回	A piece of sad news arrives.	How does the author describe Holly's mental conditions? (pp. 70-74)			
第 13 回	Holly is arrested.	What happens to Holly? (pp. 82-87)			
第 14 回	A happy ending, or not?	Discuss whether we take this story a tragedy or comedy? (pp. 94-100)			
第 15 回	Review	Which do you like better, the novel or the film?			

国際

授業番号	B103010001				
科目名 (英語表記)	英米文学特講 I (British and American Literature I)				
担当者 (英語表記)	平出 昌嗣 (Shoji Hiraide)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>文学に親しむとともに、イギリス・アメリカの古典的作品を通して、西欧の人たちが人生や社会をどのように捕らえてきたかを理解します。</p> <p>また日本人の人生や社会に対する見方との違いも考えます。</p> <p>英文学を通して、人生や社会に対し、より深い認識を得ることが目標になります。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>授業は、テキストに基づき、1時間に1章の割合で進めます。</p> <p>学生にはあらかじめ読んできてもらい、授業では、抜粋文の解釈を中心に、重要な箇所を説明していきます。</p>				
成績評価方法 基準	<p>筆記テスト70%、授業における態度30%</p> <p>筆記テストでは、授業で扱った作品についてまとめてもらいます。</p>				
授業の予習・復習	<p>予習として、必ず該当する章を読んでくるようにします。</p> <p>授業外学習として、作品を実際に読んだり、授業で扱わない章にも目を通し、文学に対する理解を深めてください。</p>				
教科書	平出昌嗣著『名作英米小説の読み方・楽しみ方』(学術出版会)				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	イギリス小説とアメリカ小説について			
第2回	ジェーン・エア	ブロンテの小説の理解と鑑賞			
第3回	デイヴィッド・コパフィールド	ディケンズの小説の理解と鑑賞			
第4回	ダーバーヴィル家のテス	ハーディの小説の理解と鑑賞			
第5回	ノストローモ	コンラッドの小説の理解と鑑賞			
第6回	虹	ロレンスの小説の理解と鑑賞			
第7回	ユリシイズ	ジョイスの小説の理解と鑑賞			
第8回	インドへの道	フォースターの小説の理解と鑑賞			
第9回	緋文字	ホーソンの小説の理解と鑑賞			
第10回	ある婦人の肖像	ジェームズの小説の理解と鑑賞			
第11回	ハックルベリー・フィンの冒険	トウェインの小説の理解と鑑賞			
第12回	グレート・ギャツビー	フィッツジェラルドの小説の理解と鑑賞			
第13回	八月の光	フォークナーの小説の理解と鑑賞			
第14回	怒りの葡萄	スタインベックの小説の理解と鑑賞			
第15回	ライ麦畑でつかまえて	サリンジャーの小説の理解と鑑賞			

国際

授業番号	B103020001		
科目名 (英語表記)	英米文学特講 II (British and American Literature II)		
担当者 (英語表記)	有馬 容子 (Yoko Arima)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	ユーモラスな視点あるいは幻想的な視点から現実を見ることにより、新たな物の見方を学ぶことが目的です。前半は現実を誇張したトール・テールを代表とするアメリカ独自のユーモアをマーク・トウェインの作品に読み、後半は現代作家の幻想的な短編を読みながらその「現実性」を考察します。		
授業の進め方 (履修条件など)	全員が期間中に一度は発表することが単位認定のために必要な条件となります (方法については開講時に説明)。「アメリカ文学史」「英米文学概論」の両方、あるいはいずれかを既に受講している人に適しています。		
成績評価方法	発表内容 (35%) 毎回提出するコメント (30%) 学期末提出のレポート (35%)		
基準			
授業の予習・復習	復習：特に興味を持った作品については作品全体を読み、学期末のレポートに備える。		
教科書	講義で取り上げる作品。購入の必要な図書についてはリストを配布。		
参考文献	『ほら話の中のアメリカ』ウォルター・ブレア 北星堂		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	講義概要	授業の進め方と取り上げる作品について	
第 2 回	アメリカのユーモアについて	「話しの語り方」	
第 3 回	Mark Twain (1)	"An Encounter with an Interviewer"	
第 4 回	Mark Twain (2)	"Fitz Smythe' s Horse"	
第 5 回	Mark Twain (3)	"Some Rambling Notes of an Idle Excursion"	
第 6 回	Mark Twain (4)	"Traveling with a Reformer"	
第 7 回	F. Scott Fitzgerald (1)	「ベンジャミン・バトン」(1)	
第 8 回	F. Scott Fitzgerald (2)	「ベンジャミン・バトン」(2)	
第 9 回	Howard Waldrop (1)	「みっともないニワトリ」(1)	
第 10 回	Howard Waldrop (2)	「みっともないニワトリ」(2)	
第 11 回	James P. Blaylock (1)	「ペーパー・ドラゴン」(1)	
第 12 回	James P. Blaylock (2)	「ペーパー・ドラゴン」(2)	
第 13 回	Bernard Malamud (1)	「喋る馬」(1)	
第 14 回	Bernard Malamud (2)	「喋る馬」( 2)	
第 15 回	総括	レポートの書き方	

国際

授業番号	B103030001		
科目名 (英語表記)	英米文学特講 III (British and American Literature III)		
担当者 (英語表記)	新堀 司 (Tsukasa Niibori)	対象学年	3
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、第 19 世紀の主だったイギリスの詩人の作品をとりあげる。授業のねらいは、詩人たちの主だった詩篇を通じて、イギリスの詩に対する鑑賞力を養うことである。また到達目標は、詩の基礎的な読解力・鑑賞力を身につけることである。		
授業の進め方 (履修条件など)	受講生の発表を主体とした演習形式。担当者による発表の後に、他の受講生を含めて詩を検討、鑑賞する。なお、とりあげる詩篇の順番は講義スケジュール参照 (状況に応じて進度を調整する)。		
成績評価方法	平常点 (40%)、試験の結果 (60%) による総合的評価。		
基準			
授業の予習・復習	予習：次回にとりあげる詩の予習 (不明な単語の発音・意味調べなど)。 復習：必要に応じて指示。		
教科書	プリントを用いる。		
参考文献	授業中に指示。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業内容などの説明	
第 2 回	Wordsworth の詩 ①	'My heart leaps when I behold', 'I wandered lonely as a Cloud'	
第 3 回	Wordsworth の詩 ②	'Composed Upon Westminster Bridge'	
第 4 回	P. B. Shelley の詩 ①	'Ozymandias', 'To a Skylark'	
第 5 回	P. B. Shelley の詩 ②	'Ode to the West Wind'	
第 6 回	Keats の詩 ①	'On First Looking into Chapman's Homer', Endymion	
第 7 回	Keats の詩 ②	'To Autumn'	
第 8 回	Tennyson の詩 ①	'Break, break, break', In Memoriam	
第 9 回	Tennyson の詩 ②	'The Lady of Shalott'	
第 10 回	R. Browning の詩 ①	Pippa Passes, 'Life in a Love'	
第 11 回	R. Browning の詩 ②	'My Last Duchess'	
第 12 回	C. Rossetti の詩	'A Birthday', 'When I am dead, my dearest'	
第 13 回	Yeats の詩 ①	'The Lake Isle of Innisfree', 'Who Goes with Fergus?'	
第 14 回	Yeats の詩 ②	'Down by the Shalley Gardens'	
第 15 回	まとめ	授業内容の総まとめ	

# 国際

授業番号	B101790001				
科目名 (英語表記)	援助政策 (Social Development in DevelopingCountry)				
担当者 (英語表記)	大月 隆成 (Takashige Otsuki)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	途上国に対する援助が行われるようになったのは、第2次世界大戦後のことであり、まだ七十年に満たない歴史しかないが、この間に国際情勢も開発援助のあり方も大きく変化した。この授業では、この間の経緯を振り返りつつ、現代の援助がどのような特徴を持つものであるか、様々な角度から検証してみたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	この授業では、途上国の政治経済、国際政治、国際経済、経済政策等に関する様々な知識を前提に、議論を進めていくことになる。したがって、これらに関連する科目を履修した後に受講するのが望ましい。				
成績評価方法	期末試験 (論述式) の結果に基づいて行う。				
基準					
授業の予習・復習	配布された資料をよく読む。演習問題を解く。				
教科書	授業中に参考資料を配布する。特定の教科書は使用しない。				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下村恭民・中川淳司・齋藤淳「ODA 大綱の政治経済学」有斐閣</li> <li>・ 白鳥正喜「開発と援助の政治経済学」東洋経済新報社</li> <li>・ 世界銀行「世界開発報告」各年版</li> <li>・ 国連開発計画「人間開発報告」各年版</li> </ul>				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	開発援助の始まり (1)	ブレトン・ウッズ体制の成立			
第2回	開発援助の始まり (2)	戦後復興から開発援助へ			
第3回	開発援助の始まり (3)	初期の開発援助理論			
第4回	工業化の光と影 (1)	工業化の理論と実際			
第5回	工業化の光と影 (2)	輸入代替工業化とその失敗			
第6回	工業化の光と影 (3)	輸出指向型工業化とその成功例			
第7回	70年代の開発援助理論 (1)	O P E Cと資源ナショナリズム			
第8回	70年代の開発援助理論 (2)	従属論～世界システム論			
第9回	70年代の開発援助理論 (3)	B H N——経済開発から社会開発へ			
第10回	構造調整後の開発援助 (1)	累積債務問題と途上国の経済危機			
第11回	構造調整後の開発援助 (2)	構造調整の始まり			
第12回	構造調整後の開発援助 (3)	ガバナンスと政治的コンディショナリティ			
第13回	開発援助の現在と今後の課題 (1)	主要先進国の開発援助 (1)			
第14回	開発援助の現在と今後の課題 (2)	主要先進国の開発援助 (2)			
第15回	開発援助の現在と今後の課題 (3)	21世紀の開発援助に求められるもの			

国際

授業番号	B104180001				
科目名 (英語表記)	音楽 (Music)			(A)	
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	1	単位数	2

授業のねらいと到達目標	音楽に対する素養・教養を身につけるとともに実際の音楽活動を通して音楽の楽しさや多様な音楽に気づくことを目的とします。現在の音楽の基礎となっている西洋音楽を中心とした基本的な知識を理解し、日本の楽器にも触れます。合わせる楽しさを味わい、人間と音楽の関係を考えながら、音楽の魅力や役割についても考えられるようにしたいと思います。
授業の進め方 (履修条件など)	日常生活に溶け込んでいる音楽ですが、人間にとって音楽とは何なのかということを一度深く考えてほしいと思います。自分自身の音楽経験を振り返り、一人一人の音楽に対する疑問や問題意識を大切にしながら、音楽の基本を学んでほしいと思います。
成績評価方法	授業への取り組み、毎時間の提出物 (平常点)、テストなどを総合的に評価します。
基準	
授業の予習・復習	予習：教科書をあらかじめ読んで、疑問等を整理しておきます。 復習：学んだことを教科書等で確認・定着させる。プリントを整理します。
教科書	「改訂音楽通論」教育芸術社 (2010)
参考文献	「小学校学習指導要領解説音楽編」文部科学省

回数	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション	音楽ってなんだろう 歌う楽しさ
第2回	音楽の基礎的な理解①	音の長さ・音の高さ
第3回	音楽の基礎的な理解②	記号・楽器 いろいろな音色
第4回	音楽の基礎的な理解③	音程と音階
第5回	音楽の基礎的な理解④	音程と和音
第6回	音楽の基礎的な理解⑤	合わせる楽しさ①
第7回	音楽の基礎的な理解⑥	合わせる楽しさ②
第8回	音楽の基礎的な理解⑦	コード①
第9回	音楽の基礎的な理解⑧	コード②
第10回	音楽の楽しさ①	合唱の楽しさ
第11回	音楽の楽しさ②	合奏の楽しさ
第12回	日本の楽器に触れる①	箏 (楽器の特徴・奏法) に親しむ
第13回	日本の楽器に触れる②	三弦 (楽器の特徴・奏法) に親しむ
第14回	音楽の楽しさ③	音楽発表会
第15回	まとめ	音楽と私

国際			
授業番号	B104180002		
科目名 (英語表記)	音楽 (Music)	(B)	
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	音楽に対する素養・教養を身につけるとともに実際の音楽活動を通して音楽の楽しさや多様な音楽に気づくことを目的とします。現在の音楽の基礎となっている西洋音楽を中心とした基本的な知識を理解し、日本の楽器にも触れます。合わせる楽しさを味わい、人間と音楽の関係を考えながら、音楽の魅力や役割についても考えられるようにしたいと思います。		
授業の進め方 (履修条件など)	日常生活に溶け込んでいる音楽ですが、人間にとって音楽とは何なのかということ一度深く考えてほしいと思います。自分自身の音楽経験を振り返り、一人一人の音楽に対する疑問や問題意識を大切にしながら、音楽の基本を学んでほしいと思います。		
成績評価方法	授業への取り組み、毎時間の提出物 (平常点)、テストなどを総合的に評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：教科書をあらかじめ読んで、疑問等を整理しておきます。 復習：学んだことを教科書等で確認・定着させる。プリントを整理します。		
教科書	「改訂音楽通論」教育芸術社 (2010)		
参考文献	「小学校学習指導要領解説音楽編」文部科学省		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	音楽ってなんだろう 歌う楽しさ	
第2回	音楽の基礎的な理解①	音の長さ・音の高さ	
第3回	音楽の基礎的な理解②	記号・楽器 いろいろな音色	
第4回	音楽の基礎的な理解③	音程と音階	
第5回	音楽の基礎的な理解④	音程と和音	
第6回	音楽の基礎的な理解⑤	合わせる楽しさ①	
第7回	音楽の基礎的な理解⑥	合わせる楽しさ②	
第8回	音楽の基礎的な理解⑦	コード①	
第9回	音楽の基礎的な理解⑧	コード②	
第10回	音楽の楽しさ①	合唱の楽しさ	
第11回	音楽の楽しさ②	合奏の楽しさ	
第12回	日本の楽器に触れる①	箏 (楽器の特徴・奏法) に親しむ	
第13回	日本の楽器に触れる②	三弦 (楽器の特徴・奏法) に親しむ	
第14回	音楽の楽しさ③	音楽発表会	
第15回	まとめ	音楽と私	



# 国際

授業番号	B104280001				
科目名 (英語表記)	音楽と表現 I (合唱) (Music Performance I)				
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>自分自身の声で表現する歌唱は音楽の基本です。発声の基本や音程感・リズム感を身につけます。音楽表現の基礎となる平易な楽譜を読み取る読譜力や移動ド唱法による音程感を学びます。</p> <p>小学校レベルの歌唱教材を中心に響き合う感覚を体感し、歌う心地よさやみんなで合わせる楽しさを味わいます。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>合わせる楽しさを味わうことを目指します。音程感を身につけ、読譜力をつけるための基礎練習を積み重ねます。歌集を使ってレパートリーを増やします。グループでの活動を重視します。希望でピアノ伴奏もさせていただきます。</p>				
成績評価方法	課題への取り組みの姿勢、個人の伸長度、音楽性などを総合的に評価します。				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習：配布された楽譜や歌集をあらかじめ見ておきます。</p> <p>復習：レパートリーを定着させる。プリント類を整理してファイルします。</p>				
教科書	適宜プリントを配布します。				
参考文献	ポケット歌集を使用します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	事前調査 授業の内容の確認			
第 2 回	発声の基本①	斉唱① 自然な発声			
第 3 回	発声の基本②	斉唱② 曲想にあった表現			
第 4 回	読譜の基礎①	リズムの読譜			
第 5 回	読譜の基礎②	音程 全音と半音 移動ド唱法			
第 6 回	読譜して歌う①	拍子を意識して			
第 7 回	読譜して歌う②	リズム唱 階名唱			
第 8 回	音の重なり①	輪唱			
第 9 回	音の重なり②	2部合唱			
第 10 回	合唱の基本①	声部の役割			
第 11 回	合唱の基本②	互いに聴き合って			
第 12 回	合唱①	響きを感じ取って			
第 13 回	合唱②	表現の工夫			
第 14 回	合唱③	曲想表現の工夫 聴き合って			
第 15 回	合唱④	発表会 録音			

国際

授業番号	B104320001				
科目名 (英語表記)	音楽と表現 II (リコーダ) (Music Performance II)				
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	小学校で使用するソプラノリコーダーを中心に学びます。リコーダーの導入指導の実際や個人、ペア、アンサンブルなどの活動を通して音楽、リコーダーに対する理解を深めます。コードネームから、簡易な伴奏やベースの付け方等を知り、実践的に音楽に親しみ、いろいろな楽器を合わせる楽しさを味わいます。				
授業の進め方 (履修条件など)	各自ソプラノリコーダーを用意してください。そのほか個人持ちの楽器があれば持参し、音楽室にある楽器と合わせた合奏もしたいと思います。				
成績評価方法	課題への取り組みの姿勢や個人の伸長度、音楽性などを総合的に評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：ソプラノリコーダー等の楽器を準備し、楽譜を用意します。 復習：演奏表現の工夫を考えたり練習をしたりします。				
教科書	特に使用しません。必要に応じてプリント等配布します。				
参考文献	授業時間内に適宜紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業の進め方 事前調査			
第2回	リコーダーの基本①	姿勢 構え方 タンギング			
第3回	リコーダーの基本②	シ～ソ、高いド・レ			
第4回	リコーダーの基本③	ファ～ド、高いミ～ラ			
第5回	リコーダー2重奏①	輪奏を中心に			
第6回	リコーダー2重奏②	メロディと副・対旋律			
第7回	リコーダー2重奏③	フレーズ			
第8回	音楽の仕組み	楽器の役割と分担 特性			
第9回	コードの理解	メロディとコード			
第10回	簡単な伴奏①	ベースの付け方			
第11回	簡単な伴奏②	メロディとコード ベース 音の重なり			
第12回	アンサンブル①	編曲のポイント			
第13回	アンサンブル②	楽器の工夫 パートの工夫			
第14回	アンサンブル③	互いに聴き合って			
第15回	まとめ	発表会			

国際

授業番号	B104330001		
科目名 (英語表記)	音楽と表現 III (ピアノ) (Music Performance III)		
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	電子ピアノ (鍵盤楽器) を中心に、音楽の基本を学びます。コードネームを理解し、簡易な伴奏法等、実際の場面で使える実践的な伴奏の方法を身につけながら、音楽に親しみます。合わせることの楽しさを体感し、よりよい表現を目指していきます。		
授業の進め方 (履修条件など)	ピアノの経験の有無は問いません。希望者が多い場合は音楽室の設備・スペースから人数を制限することがあります。(28名以下)		
成績評価方法	課題への取り組みの姿勢、個人の伸長度、音楽性などを総合的に評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：楽譜を歌えるようにしておきます。 復習：学んだことを各自練習して定着させます。		
教科書	特にありません。必要に応じてプリントを配布します。		
参考文献	授業時間内に適宜紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	授業の進め方 事前調査	
第2回	ピアノ奏法の基本①	楽譜を読む 運指の基本	
第3回	ピアノ奏法の基本②	リズムに合わせて指を動かす 指使いの基本	
第4回	メロディとコード	メロディに合うコードの選び方 I・IV・V (7)	
第5回	コードネームの意味と理解	調とコードの関係	
第6回	ピアノ伴奏の実際①	低音 (単音) で伴奏をつける	
第7回	ピアノ伴奏の実際②	コード (和音) 伴奏をつける	
第8回	ピアノ伴奏の実際③	二人組 (ペア) で合わせる 分担奏	
第9回	ピアノ伴奏の実際④	伴奏のリズム型や低音の工夫を知る	
第10回	ピアノ伴奏の実際⑤	メロディと伴奏を合わせる へ長調 ト長調	
第11回	ピアノ伴奏の実際⑥	曲想に合う伴奏の工夫	
第12回	ピアノ伴奏の実際⑦	互いに聴き合う	
第13回	オリジナル伴奏づくり①	各自選曲し、適切なコード付け、伴奏を工夫する	
第14回	オリジナル伴奏づくり②	ペアで伴奏を工夫する	
第15回	まとめ	発表会 よく聴き合って	

国際						
授業番号	B101200002					
科目名 (英語表記)	外国語特殊 I (A foreign language I)				(ハングル)	
担当者 (英語表記)	森 万佑子 (Mayuko Mori)	対象学年	1	単位数	1	
授業のねらいと到達目標	<p>&lt;授業のねらい&gt; アンニョンハセヨ？ このクラスは初めて韓国語を学ぶ人を対象にするクラスです。半年間で文字と発音を習得し、基礎を固めることを目指します。最初はハングル文字の読み方、書き方を学び、発音を繰り返し学習します。文字に慣れてきたら、簡単な挨拶や日常会話をできるようにすることをねらいとします。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハングルが読めるようになる</li> <li>・ハングルが書けるようになる</li> <li>・韓国語で自己紹介ができる</li> <li>・韓国語で短い挨拶ができる</li> <li>・韓国語で「これ・それ・あれ」の表現ができる</li> </ul>					
授業の進め方 (履修条件など)	<p>授業では教科書の文法問題を解く時間を作りますので、各自ノートを準備してください。</p> <p>授業ではなるべく多くの発話の機会を設けますので、積極的に韓国語を使ってください。</p> <p>また、韓国の韓国語学校で使われている学習プリントも随時用いることで、実際に韓国で使われている生きた韓国語に親しめるようにします。</p>					
成績評価方法 基準	出席 (7 割以上) : 20%、平常点 (授業内態度や宿題提出など) : 30%、期末テスト (会話と筆記) : 50%					
授業の予習・復習	<p>授業で学習した事柄について復習プリントを配布するので自宅ですっかり復習してください。</p> <p>韓国語は日本語と同じ語順なので、いくつかの単語を覚えれば会話ができるようになります。単語学習と基本文型の暗誦もしっかりおこなってください。</p>					
教科書	金東漢・張銀英『韓国語レッスン初級 I』(スリーエーネットワーク)					
参考文献						
回数	授業項目	授業内容				
第 1 回	ガイダンス、1 部 第 1 課	授業の進め方の説明、韓国語についての概論、基本母音字 (1)				
第 2 回	第 1 課	基本母音字 (2)				
第 3 回	第 2 課	基本子音字 (1)				
第 4 回	第 2 課	基本子音字 (2)				
第 5 回	第 3 課	濃音 (1)				
第 6 回	第 3 課	濃音 (2)				
第 7 回	第 4 課	合成母音字 (1)				
第 8 回	第 4 課	合成母音字 (2)				
第 9 回	第 5 課	パッチム				
第 10 回	第 6 課	発音のルール				
第 11 回	2 部 ?1?	自己紹介 (わたしは○○○○です)				
第 12 回	?1?	初対面のあいさつ				
第 13 回	?2?	これは何ですか？				
第 14 回	?2?	訪問時のあいさつ				
第 15 回	まとめ	授業のまとめ				

国際

授業番号	B101210002				
科目名 (英語表記)	外国語特殊 II (A foreign language II)			(ハングル)	
担当者 (英語表記)	森 万佑子 (Mayuko Mori)	対象学年	1	単位数	1

授業のねらいと到達目標	<p>&lt;授業のねらい&gt;</p> <p>この授業は、ハングルの読み書きが一通りできる人を対象にするクラスです。文字に慣れていることを前提とし、簡単な挨拶や日常会話を覚えていきます。同時に、基礎的な文法事項の学習をまじえながら、基本的な文章を中心に聞く、話す、書くの訓練をくりかえします。</p> <p>また、ドラマや歌を通して生きた韓国語に触れるようにし、韓国語に親しんでいけるようにすることをねらいとします。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国語でここ・そこ・あそこの表現ができる</li> <li>・韓国語の数字 (漢数字と固有数字) を言うことができる</li> <li>・口語体の韓国語を話すことができる</li> <li>・韓国語で過去の事柄を表現できる</li> <li>・目上の人には尊敬語を用いた韓国語の会話ができる</li> </ul>
-------------	---

授業の進め方 (履修条件など)	<p>授業では教科書の文法問題を解く時間を作りますので、各自ノートを準備してください。</p> <p>授業ではなるべく多くの発話の機会を設けますので、積極的に韓国語を使ってください。</p> <p>また、韓国の韓国語学校で使われている学習プリントも随時用いることで、実際に韓国で使われている生きた韓国語に親しめるようにします。</p>
-----------------	---

成績評価方法 基準	出席 (7 割以上) : 20%、平常点 (授業内態度や宿題提出など) : 30%、期末テスト (会話と筆記) : 50%
-----------	---

授業の予習・復習	<p>毎回、授業で学習した事柄の復習プリントを配布するので自宅でしっかり復習してください。</p> <p>韓国語は日本語と同じ語順なので、いくつかの単語を覚えれば会話ができるようになります。単語学習と基本文型の暗誦もしっかりおこなってください。</p>
----------	--

教科書	金東漢・張銀英『韓国語レッスン初級 I』(スリーエーネットワーク)
-----	-----------------------------------

参考文献	
------	--

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	ガイダンス、前期の復習	授業の進め方の説明、ハングルの復習
第 2 回	?3?	ここ・そこ・あそこの表現
第 3 回	?3?	漢数字
第 4 回	?4?	予定の表現
第 5 回	?5?	固有数字
第 6 回	?5?	時間の表現
第 7 回	?6?	助数詞
第 8 回	?7?	口語体 (「-??」 「-??」 の表現)
第 9 回	?7?	家族の紹介
第 10 回	?8?	過去形 (1)
第 11 回	?8?	過去形 (2)
第 12 回	?9?	尊敬の表現 (1)
第 13 回	?9?	尊敬の表現 (2)
第 14 回	?10?	勧誘の表現
第 15 回	まとめ	授業のまとめ

国際			
授業番号	B104240001		
科目名 (英語表記)	かたちの数学 (Mathematics of figures)		
担当者 (英語表記)	辻山 洋介 (Yosuke Tsujiyama)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	私たちの身のまわりには、様々なものの「かたち」が存在します。算数・数学の学習を通じて、「かたち」のみえ方が変わってきます。本授業は、算数・数学における「かたち」に関する性質の考察、身の回りに存在する「かたち」の性質の考察、それらの考察に必要な見方や考え方を身に付けられるようにすることを目標とします。小学校算数科の「量と測定」と「図形」、中学校数学科の「図形」を中心に扱います。		
授業の進め方 (履修条件など)	問題解決を中心に授業を進めます。ものの「かたち」に関する問題を解決し、解決を発表・議論する中で、どのような知識・技能や見方・考え方が潜んでいるか、また必要なかを把握してもらいます。		
成績評価方法	課題解決、議論への貢献 (40%程度)、および期末試験 (60%程度)。		
基準			
授業の予習・復習	予習：前時に指定された教科書やプリントの内容を把握しておくこと。適宜提示します。 復習：授業内容を振り返り、理解を深めるとともに、残された疑問や新たな課題を明確にすること。		
教科書	プリント教材を配布します。		
参考文献	新算数教育研究会編『リーディングス新しい算数研究 3 量と測定』(2011年, 東洋館出版社) 新算数教育研究会編『リーディングス新しい算数研究 4 図形』(2013年, 東洋館出版社)		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	「図形」と「量と測定」の概要	
第2回	学校数学における「かたち」の学習内容	算数・数学における図形と計量の系統	
第3回	図形の計量の考え方 (1)	図形の面積の求め方	
第4回	図形の計量の考え方 (2)	図形の面積の求め方における文字式の利用	
第5回	図形の計量の考え方 (3)	数に関する性質の考察における長方形の面積の求め方の利用	
第6回	図形の計量の考え方 (4)	問題解決と問題設定	
第7回	図形の計量の考え方 (5)	多角形の内角の和における多様な考え方	
第8回	図形に関する性質の考え方 (1)	図形の構成要素と次元	
第9回	図形に関する性質の考え方 (2)	作図と証明	
第10回	図形に関する性質の考え方 (3)	作図と証明の利用	
第11回	図形に関する性質の考え方 (4)	証明に基づいて図形に関する性質を見返す	
第12回	図形に関する性質の考え方 (5)	図と図形	
第13回	図形と計量の考察における考え方 (1)	前提と結論	
第14回	図形と計量の考察における考え方 (2)	特殊の場合に成り立つ性質の一般化	
第15回	授業のまとめ	図形と計量に関する問題解決に必要な見方・考え方	

国際		
授業番号	B104530001	
科目名 (英語表記)	学校の安全教育 (Safety education of a school)	
担当者 (英語表記)	池谷 美佐子 (Misako Ikeya)	
対象学年	2	
単位数	2	
授業のねらいと到達目標	小学校の安全管理の在り方を認識すると共に、児童に、自他の生命を尊重し、健康で安全な生活を生涯にわたって営むことのできる態度や能力を身に付けさせるためには、どのような指導や配慮をしていくことが必要であるかについて、学校生活の具体的な場面を想定しながら考えていきます。	
授業の進め方 (履修条件など)	積極的な参加態度を重視します。具体的な事例や実践事例を示しながら、学校安全に対する危機感を磨き、対応力を身につけていきます。	
成績評価方法	授業ごとのリアクションペーパー、参加態度、期末試験	
基準		
授業の予習・復習	予習： 学校安全に関する情報を収集する。 復習： 授業内容について復習し、危機感を磨くようにする。	
教科書	授業でプリントを配布。	
参考文献	必要に応じて紹介。	
回数	授業項目	授業内容
第 1 回	オリエンテーション	学校の安全教育の授業の進め方についての説明
第 2 回	学校安全の意義と目的	学校教育における学校安全の必要性についての意義と目的並びに学校安全の位置づけについて
第 3 回	学校安全について	学校安全の教育体系並びに学校安全をめぐる課題について
第 4 回	学校の危機管理①	学校の危機管理の在り方と学校内外の危険について
第 5 回	学校の危機管理②	危機管理マニュアルについて
第 6 回	学校の安全管理の進め方①	学校の安全管理のねらいと組織づくり
第 7 回	学校の安全管理の進め方②	安全点検と体制づくりについて
第 8 回	安全教育の進め方①	子どもをとりまく危険について
第 9 回	安全教育の進め方②	学習と安全 (体育・理科)
第 10 回	安全教育の進め方③	学習と安全 (生活科・音楽・図工・家庭科)
第 11 回	安全教育の進め方④	学習と安全 (図書室・コンピュータ室・給食)
第 12 回	安全教育の進め方⑤	学習と安全 (休み時間・登下校)
第 13 回	安全教育の進め方⑥	保健指導、学級活動、道徳の時間における安全教育の在り方について
第 14 回	危機発生に対する指導	避難訓練・不審者対応・自然災害発生時の対応について
第 15 回	まとめ	学校の安全教育についての重要性について意見交換をする。

国際

授業番号	B104210001				
科目名 (英語表記)	家庭 (Housecraft)			(A)	
担当者 (英語表記)	小谷 教子 (Noriko Kodani)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校学習指導要領に基づいた「家庭」で扱う内容について、広く一般的な見地から理解を深める。学習指導要領に示されている目標や内容の理解と衣・食・住・消費生活や環境教育の各領域について、指導者としての基本的な知識理解や技能の習得を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	「家庭」の指導者としての基礎力を身につけるために、学習指導要領やテキストを基に講義や実習、製作活動等を行う。				
成績評価方法	レポート、実習、作品製作、試験等により評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習： 次週の講義内容をテキストや資料集で確認しておく。 示された課題について取り組む。				復習：
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学習指導要領解説家庭編：東洋館出版社</li> <li>・小学校 5,6 年私たちの家庭科：開隆堂</li> </ul>				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	家庭科の目標と内容			
第 2 回	家庭生活と家族 (1)	家族をみつめる			
第 3 回	家庭生活と家族 (2)	家族の機能と変化			
第 4 回	家庭生活と家族 (3)	家族が抱える問題			
第 5 回	家庭生活と家族 (4)	家庭生活の工夫と生活時間			
第 6 回	衣生活・消費生活 (1)	小学校家庭「衣生活」の内容			
第 7 回	衣生活・消費生活 (2)	衣服の働きと快適な着方の工夫			
第 8 回	衣生活・消費生活 (3)	衣服の手入れ・管理			
第 9 回	衣生活・消費生活 (4)	製作のための基礎知識・技能			
第 10 回	衣生活・消費生活 (5)	消費生活と環境			
第 11 回	食生活 (1)	現代の食生活の問題			
第 12 回	食生活 (2)	小学校家庭「食生活」の内容・とらえ方、栄養素の種類と働き			
第 13 回	食生活 (3)	食品群のとらえ方、食事調査			
第 14 回	食生活 (4)	調理器具と調理のポイント			
第 15 回	食生活 (5)	食品の性質と調理			



国際

授業番号	B104210002				
科目名 (英語表記)	家庭 (Housecraft)			(B)	
担当者 (英語表記)	小谷 教子 (Noriko Kodani)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校学習指導要領に基づいた「家庭」で扱う内容について、広く一般的な見地から理解を深める。学習指導要領に示されている目標や内容の理解と衣・食・住・消費生活や環境教育の各領域について、指導者としての基本的な知識理解や技能の習得を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	「家庭」の指導者としての基礎力を身につけるために、学習指導要領やテキストを基に講義や実習、製作活動等を行う。				
成績評価方法	レポート、実習、作品製作、試験等により評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習: 次週の講義内容をテキストや資料集で確認しておく。 示された課題について取り組む。				復習:
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学習指導要領解説家庭編 : 東洋館出版社</li> <li>・小学校 5,6 年私たちの家庭科 : 開隆堂</li> </ul>				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	家庭科の目標と内容			
第 2 回	家庭生活と家族 (1)	家族をみつめる			
第 3 回	家庭生活と家族 (2)	家族の機能と変化			
第 4 回	家庭生活と家族 (3)	家族が抱える問題			
第 5 回	家庭生活と家族 (4)	家庭生活の工夫と生活時間			
第 6 回	衣生活・消費生活 (1)	小学校家庭「衣生活」の内容			
第 7 回	衣生活・消費生活 (2)	衣服の働きと快適な着方の工夫			
第 8 回	衣生活・消費生活 (3)	衣服の手入れ・管理			
第 9 回	衣生活・消費生活 (4)	製作のための基礎知識・技能			
第 10 回	衣生活・消費生活 (5)	消費生活と環境			
第 11 回	食生活 (1)	現代の食生活の問題			
第 12 回	食生活 (2)	小学校家庭「食生活」の内容・とらえ方、栄養素の種類と働き			
第 13 回	食生活 (3)	食品群のとらえ方、食事調査			
第 14 回	食生活 (4)	調理器具と調理のポイント			
第 15 回	食生活 (5)	食品の性質と調理			

国際

授業番号	B102690001				
科目名 (英語表記)	環境アセスメント (Environmental Assessment)				
担当者 (英語表記)	松本 太 (Futoshi Matsumoto)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	近年様々な環境問題が顕在化する中、環境保全の必要性が注目されています。この講義では環境保全や公害防止のために、開発による環境への影響を事前に予測、評価を行う環境アセスメントに関して講義します。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件等は特にありません。授業中の私語、携帯電話は厳禁、授業態度の悪い学生は受講を中止させることがあります。進行状況により、授業内容が変更になることがあります。				
成績評価方法	レポート、試験、学習意欲、授業態度により、総合的に評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習、復習は特に必要ありませんが、宿題を課すことがあります。				
教科書	テキストは使用しません。				
参考文献	特にありません。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方や環境アセスメントの定義を概説			
第 2 回	開発と環境	開発前に行われる環境影響評価の流れ			
第 3 回	地球環境の変化	地球温暖化など地球規模の環境問題について			
第 4 回	都市環境の変化	都市域の環境変化を時代別に概説			
第 5 回	公害問題	日本における公害の歴史および概容について			
第 6 回	環境アセスメントの必要性	環境アセスメントの必要性、歴史について			
第 7 回	水環境の生物への影響評価	湖沼等の水環境が生物へ及ぼす影響について			
第 8 回	大気環境の生物への影響評価	大気汚染や都市温暖化の生物への影響について			
第 9 回	都市の熱環境の評価	衛星画像等を利用した熱環境の評価			
第 10 回	地域の環境アセスメント	自治体・企業・住民等による合意形成について			
第 11 回	環境アセスメント実習①	実習 (土地利用計画) の方法等の説明、班分け			
第 12 回	環境アセスメント実習②	土地利用の作業開始 (班別のミーティング含む)			
第 13 回	環境アセスメント実習③	土地利用の配置図の作成 (データの集計および解析)			
第 14 回	環境アセスメント実習④	レポート作成、報告会・討論会			
第 15 回	まとめ	授業の総括と今後の環境アセスメントの課題について			

# 国際

授業番号	B102710001				
科目名 (英語表記)	環境と開発 (Environment and Development)				
担当者 (英語表記)	松本 太 (Futoshi Matsumoto)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本ではこれまで経済が発展、成長を遂げる一方、開発に伴い様々な環境汚染、環境破壊を引き起こしてきた。この講義では開発の結果生じた環境問題について考えるとともに、環境保全や公害防止のために何をすべきか、開発はどうあるべきか、また環境に配慮したまちづくりはどうあるべきかについて講義します。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件等は特にありません。授業中の私語、携帯電話は厳禁、授業態度の悪い学生は受講を中止させることがあります。進行状況により、授業内容を変更することがあります。				
成績評価方法	レポート、試験、学習意欲、授業態度により、総合的に評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習、復習は特に必要ありませんが、宿題を課すことがあります。				
教科書	テキストは使用しません。				
参考文献	特にありません。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	この講義の内容や進め方について概説			
第 2 回	世界の環境問題と開発	世界各地における開発に伴う環境問題について			
第 3 回	日本の環境問題と開発	日本における開発に伴う環境問題について			
第 4 回	日本における公害の歴史	日本の公害の歴史を大気汚染と水質汚濁について			
第 5 回	国・自治体の環境問題への取り組み	国や自治体の環境対策の取り組みについて			
第 6 回	開発と環境保全	開発に伴う環境汚染を防止するための様々な対策について			
第 7 回	土地利用の変化と環境	土地利用の経年的な変化に伴う自然、生態系の変化について			
第 8 回	環境アセスメントの必要性	公害防止や環境保全のための環境アセスメントについて			
第 9 回	開発が及ぼす自然環境への影響	開発が及ぼす自然環境への影響を、大気、水環境について			
第 10 回	開発が及ぼす生態系への影響	開発が及ぼす生態系への影響を、植物や河川生物について			
第 11 回	都市における開発と環境問題	都市における開発に伴うさまざまな環境問題について			
第 12 回	都市の大気、水環境の変化	開発に伴う都市の大気、水環境の経年的な変化について			
第 13 回	都市の生態系の変化	開発に伴う都市の生態系の経年的な変化について			
第 14 回	環境に配慮したまちづくりの可能性	環境に配慮した快適なまちづくりの実現のためには何が必要か			
第 15 回	まとめ	授業の総括と持続可能な開発のあるべき姿について			

国際

授業番号	B102600001		
科目名 (英語表記)	環境と農業 (Environment and Agriculture)		
担当者 (英語表記)	梅田 克樹 (Katsuki Umeda)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本の農業粗生産額の内訳をみると、畜産のウェイトが最も大きい。とりわけ、生乳を生産するのみならず肉用牛生産の基盤ともなる酪農の役割は、きわめて大きいと言えよう。その酪農がたどってきた発展の歴史と、今後の課題について解き明かしたい。酪農がもたらす環境負荷の問題についても、理解を深めたいと考えている。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義により行う。		
成績評価方法	酪農がたどってきた発展の歴史を理解し、環境負荷の問題を含む今後の課題について深く考えることを求めたい。		
基準			
授業の予習・復習	随時指示を出すので、しっかりと予習・復習すること。		
教科書	特に指定しない。		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	世界の牛、日本の牛	牛の品種ごとの特徴や、その地域的分布について概括的に把握する。	
第 2 回	日本の酪農黎明期	明治初期における都市搾乳業の勃興から、1920 年代に農村酪農が広まる過程を理解する。	
第 3 回	酪農の高度成長期	食生活の洋風化と所得向上に伴って、生乳生産量が急増した時期の動向を知る。	
第 4 回	酪農の安定成長期	生乳計画生産制度が導入された 1980 年代以降における酪農の動向を概括する。	
第 5 回	酪農政策の史的展開	1970 年代以前の酪農を規定していた要因の一つとして、政策がどのように展開されてきたのかを知る。	
第 6 回	生乳計画生産制度のその空間性	1980 年代における酪農の動向を規定してきた生乳計画生産制度について理解する。	
第 7 回	自由化時代における酪農政策の展開	国際競争にさらされる 21 世紀の日本における酪農政策と、それを取り巻く国際情勢について論じる。	
第 8 回	乳業の勃興と酪農の展開	酪農地域を規定するもう一つの要因として、乳業会社の動向に注目する。	
第 9 回	酪農の安定成長期における乳業会社の生乳調達戦略	生乳計画生産制度の実施と生乳流通の広域化によって、乳業会社の生乳調達戦略がどのように変容したのかを知る。	
第 10 回	大都市近郊酪農地域の変容 (1)	典型的な近郊酪農地域である千葉県において、酪農地域がどのように変容してきたのかを把握する。	
第 11 回	大都市近郊酪農地域の変容 (2)	千葉県とは異なるプロセスを経てきた愛知県や福岡県を事例に、酪農地域がどのように変容してきたのかを知る。	
第 12 回	旧加工原料乳地帯の変容	市乳化率の急増により大きく変貌した北海道酪農の現状を知る。	
第 13 回	ニュージーランドの酪農	フォンテラの出現によりグローバル戦略を強めているニュージーランド酪農について理解をふかめる。	
第 14 回	中国の酪農	多国籍アグリビジネスの強い影響下において、急激な発展を遂げつつある中国の酪農の現状を知る。	
第 15 回	インドの酪農	世界最大の乳用牛飼養頭数を誇るインド、その現状を知るとともに今後の可能性について考える。	

国際

授業番号	B102680001				
科目名 (英語表記)	観光事業論 (Tourism)				
担当者 (英語表記)	奥山 隆哉 (Takaya Okuyama)	対象学年	3 (こどもは2)	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>ヒトの交流が価値を生み出す時代になってきた。地球規模で人的交流が劇的に増加する中、グローバル化しつつある観光事業について、前期は、旅行業と地域における観光事業を中心に顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、地域ビジネス理解などについて経営的視点から学習する。</p> <p>【到達目標】①観光事業を考えるための基礎的視点や知識を覚える。②新聞雑誌の観光関係記事の意味を解釈できるようになる。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>最初に、当該授業のテーマに関係する時事を新聞記事やDVD映像で紹介し、実践的基礎理解を深める。次に、経営一般の基礎知識を織り込みながら、各観光事業に固有の基礎事項や課題について、パワーポイント資料を用い授業を進める。</p>				
成績評価方法	<p>定期試験における筆記試験および学期中のクラス参加度により成績評価する。</p>				
基準	<p>筆記試験による配点は概ね60%前後、クラス参加度による配点は概ね40%前後とする。</p>				
授業の予習・復習	<p>予習： 旅行会社、ホテル/旅館、航空会社等の観光産業および国・自治体の観光施策等や地域観光振興に関するニュースに日頃から目を通しておく。</p> <p>復習： 配布プリントに目を通す。</p>				
教科書	<p>教科書は用いない。毎回プリントを配布する。</p>				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	講義ガイダンス	前期授業の方針と授業内容の説明			
第2回	観光(事業)の発展過程(世界および日本)	移動する人類、中世の聖地巡礼、近代ツーリズムの誕生、中産階級とマスツーリズムの拡がり//古事記と温泉、伊勢参りと旅行業、旅行業の草創期、高度成長・技術革新と旅行の大衆化、旅行価値の変化など			
第3回	観光全般 1 (観光市場の現状)	観光・旅行全般の状況、生活の価値観の変化、様々な旅行形態、国内宿泊・訪日外国人・海外旅行の市場動向、世界の観光の現状など			
第4回	観光全般 2 (観光とは)	観光の語源、定義、意義、効果、観光の構成要素、観光主体、観光行動、観光客体など			
第5回	観光事業と地域 1 (地域と観光)	地域にとっての観光の意味、経済的効果、社会・文化的効果、観光資源、観光事業の社会的責任など			
第6回	観光事業と地域 2 (地域活性化と観光事業)	地域の課題、観光圏整備事業、地域観光活性化のための課題、観光まちづくり、様々な観光地づくり、観光地域ブランド、観光デザインなど			
第7回	観光事業と地域 3 (ニューツーリズム)	新しい旅のスタイル、ニューツーリズムと地域、エコツーリズム、グリーン・ツーリズム、文化観光、産業観光、スポーツ観光、医療観光など			
第8回	観光マーケティング 1 (マーケティングの基礎)	マーケティングの目的、AIDMA、PPM、3C、ターゲティング、4P、商品のライフサイクル、マーケティングの原則、満足のしくみなど			
第9回	観光マーケティング 2 (観光マーケティング)	観光商品の特性とブランド、観光マーケティングの特徴、マーケティング活動、ブランドの機能と絆、観光地域ブランドづくりなど			
第10回	旅行事業 1 (旅行業全般)	旅行業に求められること、トーマス・クック、日本の旅行業と特性・形態、旅行市場における旅行業、社会の変化と今後の旅行業など			
第11回	旅行事業 2 (旅行商品と販売)	旅行業の種類と業務、旅行会社の商品構成、旅行業の形態と流通構造、旅行商品の特性、旅行業販売における変化など			
第12回	旅行事業 3 (旅行業の存在価値)	旅行業の特性と機能、時代の求めるものの変遷と「情報」「流通」「集客交流」の価値、サプライヤーとの関係の変化と旅行業の変革など			
第13回	旅行事業 4 (情報化社会の進展と旅行業)	インターネットの伸展、旅行会社が販売するもの、旅行情報流通と旅行者の意思決定、オンライン・トラベルエージェント、新しい旅行業など			
第14回	旅行事業 5 (旅行取引と消費者)	旅行業法、旅行取引と約款、旅行業務の流れ、ネット取引、消費者保護、旅程管理業務、旅程保証、特別補償など			
第15回	リキャップ	前期授業の整理と主要な点についての復習、テスト範囲について			

国際					
授業番号	B102440001				
科目名(英語表記)	観光事業論 II (Tourism II)				
担当者(英語表記)	奥山 隆哉 (Takaya Okuyama)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>経済成長の著しいアジアでの国際旅行者数が10年で2倍に増えるところから、観光事業は世界的規模で高い成長が期待される産業分野として重みが増している。後期では、この倍増する旅行者に観光サービスを提供する宿泊・航空事業を中心に、国の観光立国政策、訪日外国人旅行、国際会議等 MICE について顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、地域ビジネス理解などを経営的視点から学習する。</p> <p>【到達目標】①観光事業を考えるための基礎的視点や知識を覚える。②新聞雑誌の観光関係記事の意味を解釈できるようになる。</p>				
授業の進め方(履修条件など)	最初に、当該授業のテーマに関係する時事を新聞記事や DVD 映像で紹介し、実践的基礎理解を深める。次に、経営一般の基礎知識を織り込みながら、各観光事業に固有の基礎事項や課題について、パワーポイント資料を用い授業を進める。				
成績評価方法	定期試験における筆記試験と平常のクラス参加度により評価する。				
基準	配点は、筆記試験は概ね60%前後、クラス参加度は概ね40%前後とする。				
授業の予習・復習	<p>予習： ホテル/旅館、航空会社、旅行会社等の観光産業および国・自治体の観光施策等に関する新聞記事などを読みひろって、目を通しておく。</p> <p>復習： 配布プリントに目を通す。</p>				
教科書	教科書は用いない。毎回プリントを配布する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	講義ガイダンス	後期授業の方針と授業内容の概要を説明			
第2回	観光事業の基礎 1 (観光事業の役割、機能)	観光事業の概念と機能、観光行動と観光生産物、観光サービスの特性、観光事業の経済効果・地域への効果など			
第3回	観光事業の基礎 2 (観光事業の特性)	観光事業の特性(立地性、季節性、人・情報、収容力など)、社会・経済環境の変化と観光事業の成長・進化、地域のアトラクティブスなど			
第4回	観光立国 1 (国の政策)	日本の観光政策の変遷(明治、戦後、万博、少子高齢化)、観光振興施策の意味、観光立国の意義、観光立国推進基本計画など			
第5回	観光立国 2 (訪日旅行)	外国人訪日旅行の市場、受入環境整備、訪日旅行者の消費行動、訪日旅行促進のマーケティング・プロモーション、多様な取組みなど			
第6回	観光立国 3 (世界の観光市場)	国際観光市場の現状、アジアにおける相互観光交流、ツーウェイ・ツーリズム、海外旅行、各国政府観光局の活動など			
第7回	観光立国 4 (コンベンション・MICE)	MICE とは、意義と効果、MICE と地域、MICE の各事業(ミーティング、インセンティブトラベル、コンベンション、エグジビション・イベント)など			
第8回	宿泊事業 1 (宿泊業全般)	ホテルと旅館、ホテル・旅館の発展史、宿泊施設が提供する商品、国内宿泊旅行市場、宿泊事業の環境変化、宿泊事業の特性など			
第9回	宿泊事業 2 (ホテル業)	世界のホテルブランド、ホテルの機能、ホテルの分類、ホテル事業の経営形態、ホテルの経営組織、ホテルの収入構造など			
第10回	宿泊事業 3 (旅館業)	旅館業と地域、老舗企業としての旅館業、社会の変化と旅館業、旅館の特質と課題、旅館の業務、おもてなしとホスピタリティなど			
第11回	航空事業 1 (航空業全般)	航空の歴史、世界の航空市場とプレイヤー、航空事業の特徴、航空会社の経費構造と経営、航空会社を取り巻く課題、航空会社の組織など			
第12回	航空事業 2 (航空政策と空港)	航空政策の変遷と航空事業、空の自由、オープンスカイ、ネットワーク、空港の機能、空港でのビジネス、空港と地域との関わりなど			
第13回	航空事業 3 (航空会社の動き)	航空会社のビジネスモデル、アライアンス、ローコストキャリア(LCC)と需要創造、航空座席の販売流通、チャーターと地域など			
第14回	宿泊・航空事業共通 4 (レベニューマネジメント・イールドマネジメント)	レベニューマネジメント・イールドマネジメントの生まれた背景、考え方、宿泊業のレベニューマネジメント、航空業のイールドマネジメントなど			
第15回	リキャップ	後期授業の整理と主要な点についての復習、テスト範囲について			

国際						
授業番号	B100030003					
科目名 (英語表記)	基礎数学 (Basic Mathematics)					
担当者 (英語表記)	大月 隆成 (Takashige Otsuki)	対象学年	1	単位数	2	
授業のねらいと到達目標	数学が苦手 (嫌い) という人は少なくないが、数学とは本来、美しく面白いものである。この授業の目的は、数学の魅力を十分に味わう機会がなかった人を対象に、数学を基本からやり直し、数学アレルギーを取り除くことである。また、就職試験で課される適性検査対策も随時行っていく。					
授業の進め方 (履修条件など)	数学的なものの見方や考え方に慣れ、なぜそうなるのか理解することに主眼を置いて授業を行う。そのため、授業内で行うことのできる問題演習は限られるので、その分を課題で補ってもらうことになる。					
成績評価方法	授業内で行うまとめテストおよび期末試験の結果に基づいて行う。					
基準						
授業の予習・復習	事前に問題を自分の頭で考えて解いてみる。授業の後で自分で解けるかできるかどうか確認する					
教科書	特定の教科書は使用しない。					
参考文献	何森仁・小沢健一『数学がまるごと8時間でわかる』明日香出版社 1994年					
回数	授業項目	授業内容				
第1回	四則演算、正の数・負の数	四則演算の基本、負の数の考え方、負の数の計算				
第2回	分数の計算	分数の考え方、分数の足し算・引き算、分数の掛け算・割り算、分数の応用計算				
第3回	有理数と無理数	無理数とは?、平方根の計算				
第4回	指数の基本	指数の考え方、指数の計算				
第5回	さまざまな方程式 (1)	文字式の計算、一次方程式の基本				
第6回	さまざまな方程式 (2)	連立方程式の基本、方程式の応用問題				
第7回	さまざまな方程式 (3)	展開と因数分解				
第8回	さまざまな方程式 (4)	二次方程式の基本と応用				
第9回	比と割合	割合の考え方、比と割合の応用問題				
第10回	関数とグラフ (1)	比例と反比例				
第11回	関数とグラフ (2)	一次関数とグラフ				
第12回	関数とグラフ (3)	二次関数とグラフ				
第13回	図形の基礎と応用 (1)	三角形と四角形、円と楕円、面積の計算				
第14回	図形の基礎と応用 (2)	空間図形、体積と表面積				
第15回	図形の基礎と応用 (3)	合同と相似、三平方の定理				



国際					
授業番号	B103120001				
科目名 (英語表記)	キャリアデザイン1 (Career Designing I)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本文化、日本の常識、ビジネス社会に必要な言葉遣い、マナー、ビジネス文書記述、およびプレゼンテーション力を学びます。就職活動においても有意義な内容になっています。				
授業の進め方 (履修条件など)	日本の社会での常識を積極的に学びたい人。 聴く、書く、まとめる、話す、立ち振る舞う、等々を実践的に行動に移す講座です。 ・2年生の推奨科目です ・3,4年生も履修が可能です				
成績評価方法	授業態度、定期試験・授業内小テスト・レポート及びその他の課題をもとに採点します。				
基準					
授業の予習・復習	講師からの課題は、事前に必ず準備しておいてください。 また講義終了後に配布したプリントには必ず目を通しファイリングして下さい。				
教科書	講義初回にテキストを販売します。				
参考文献	その都度紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	ビジネス最前線と授業のねらいを説明します。			
第2回	ビジネスマナーとは	「知らなかった」では済まされない 「知る」ことの必要性、重要性の講義をします。			
第3回	ビジネスマナーの基本	第一印象の重要性と身だしなみについて			
第4回	言葉遣い ①	尊敬語、謙譲語、丁寧語の使い方について			
第5回	言葉遣い ②	言葉遣いの間違いについて			
第6回	ビジネス文書 ①	文書の基本と作成手順について			
第7回	ビジネス文書 ②	文書の作成を実践します。			
第8回	電子メールの基本	メールの基本、ルールとマナーについて			
第9回	電話のかけ方と訪問の仕方	電話応対の基本について講義をします。			
第10回	自己紹介の仕方	プレゼンテーションの仕方について			
第11回	面接の対応 ①	自己PRについて考えてみます。			
第12回	面接の対応 ②	志望動機について考えてみます。			
第13回	面接の対応 ③	グループディスカッションについて考えてみます。			
第14回	ビジネスマナーの訓練	マナーの実践			
第15回	まとめ	いままでの講義について振り返りと 質疑応答します。			



国際

授業番号	B103130001				
科目名 (英語表記)	キャリアデザイン2 (Career Designing II)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	1 (こども は2)	単位数	2
授業のねらいと 到達目標	先入観や自分に縛られた将来像から脱却し、環境変化や自分の成長を入れ、選択肢を広げる。 ツールとしてコンビニエンスストアを素材としたソフトを使用します。				
授業の進め方 (履修条件など)	グループディスカッション、プレゼンテーション、質疑応答をファシリテートしていく形進行していきます。 シュミレーション教材を使用し、情報活用、合意形成、意思決定など 今の社会で必要とされているスキルを体験プログラムの中で身につけていきます。 ・3年生を優先します (各クラス 定員28名) ・4年生も履修が可能です。 ・履修申込みは、キャリアセンターとします				
成績評価方法 基準	授業態度、レポート、“チバイチバン” 力評価、及びその他の課題 グループごとの相互評価と自己評価を成績評価に加味します。				
授業の予習・復習	前回講義のワークシート作成				
教科書	マイキャリアカードビジネスシュミレーション、コンビニ model、ワークシート				
参考文献	得になし				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	ビジネスシュミレーション講座の進め方			
第2回	行動へのキャリアデザイン	なぜ今キャリアデザイン？			
第3回	MYキャリアカード	キャリア占いゲーム編			
第4回	MYキャリアデザイン シート①	自分資源探索編			
第5回	MYキャリアデザイン シート②	ワークスタイル読解編			
第6回	求人情報からみた企業データ	求人情報読解編			
第7回	コンビニ model シュミレーション①	買う側から売る側への視点転換			
第8回	コンビニ model シュミレーション②	データから絵を読む情報読解			
第9回	コンビニ model シュミレーション③	仮説 ・ 検証 ・ 修正の実践			
第10回	コンビニ model シュミレーション④	欲しい情報を引き出す質問			
第11回	コンビニ model シュミレーション⑤	自分リソース活用との重ね合わせ			
第12回	志望企業調査 ①	エントリーシートの作成 ①			
第13回	志望企業調査 ②	エントリーシートの作成 ②			
第14回	調査発表 ①	プレゼンテーション、振り返り ①			
第15回	調査発表 ②	プレゼンテーション、振り返り ②			

国際

授業番号	B103130002				
科目名 (英語表記)	キャリアデザイン2 (Career Designing II)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	1 (こども は2)	単位数	2
授業のねらいと 到達目標	先入観や自分に縛られた将来像から脱却し、環境変化や自分の成長を入れ、選択肢を広げる。 ツールとしてコンビニエンスストアを素材としたソフトを使用します。				
授業の進め方 (履修条件など)	グループディスカッション、プレゼンテーション、質疑応答をファシリテートしていく形進行していきます。 シュミレーション教材を使用し、情報活用、合意形成、意思決定など 今の社会で必要とされているスキルを体験プログラムの中で身につけていきます。 ・3年生を優先します (各クラス 定員28名) ・4年生も履修が可能です。 ・履修申込みは、キャリアセンターとします				
成績評価方法 基準	授業態度、レポート、“チバイチバン” 力評価、及びその他の課題 グループごとの相互評価と自己評価を成績評価に加味します。				
授業の予習・復習	前回講義のワークシート作成				
教科書	マイキャリアカードビジネスシュミレーション、コンビニ model、ワークシート				
参考文献	得になし				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	ビジネスシュミレーション講座の進め方			
第2回	行動へのキャリアデザイン	なぜ今キャリアデザイン？			
第3回	MYキャリアカード	キャリア占いゲーム編			
第4回	MYキャリアデザイン シート①	自分資源探索編			
第5回	MYキャリアデザイン シート②	ワークスタイル読解編			
第6回	求人情報からみた企業データ	求人情報読解編			
第7回	コンビニ model シュミレーション①	買う側から売る側への視点転換			
第8回	コンビニ model シュミレーション②	データから絵を読む情報読解			
第9回	コンビニ model シュミレーション③	仮説 ・ 検証 ・ 修正の実践			
第10回	コンビニ model シュミレーション④	欲しい情報を引き出す質問			
第11回	コンビニ model シュミレーション⑤	自分リソース活用との重ね合わせ			
第12回	志望企業調査 ①	エントリーシートの作成 ①			
第13回	志望企業調査 ②	エントリーシートの作成 ②			
第14回	調査発表 ①	プレゼンテーション、振り返り ①			
第15回	調査発表 ②	プレゼンテーション、振り返り ②			

国際

授業番号	B103140001				
科目名 (英語表記)	キャリアデザイン3 (Career Designing III)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>1年次に履修したキャリア特殊1の2年生向け授業です。</p> <p>就業力向上・社会化の推進に向けて、社会情勢・就職活動の実態の理解や社会人へのインタビュー等を通じ、社会を知ると同時に自己理解を促します。</p> <p>また、講座を通じ幅広いコミュニケーション能力及び主体性の向上をはかります。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>具体的事例を取り入れながら、裏付けとなる理論、考え方を解説し座学と実践演習を併用して進めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生を優先します (定員40名)</li> <li>・3、4年生も履修が可能です。</li> <li>・履修申し込みは、キャリアセンターとします。</li> </ul>				
成績評価方法	レポート、“チバイチバン”力評価、及びその他の課題により判断します。				
基準					
授業の予習・復習	講師より出題された課題は事前に準備をしておいてください。				
教科書	プリントを配布します。				
参考文献	その都度紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス「社会を知る」ことの重要性	導入 動機づけ 現状把握			
第2回	業界動向と就職活動の実態	業界動向 就職活動の実態 就職活動の流れ			
第3回	興味を知る	興味ある職業領域・職業分類について目途を付ける			
第4回	コミュニケーション① (社会人と接する / 質問する)	マナー 質問の仕方			
第5回	ゲストスピーチ①幅広いジャンルより選定	生き様に学ぶ			
第6回	ゲストスピーチ② 実績ある企業人より選定	生き様に学ぶ			
第7回	コミュニケーション② (レポート作成の基礎)	レポート作成			
第8回	OB / OGスピーチ ①	生き様に学ぶ			
第9回	OB / OG スピーチ②	生き様に学ぶ			
第10回	コミュニケーション ③ (インタビューの基礎)	インタビュー			
第11回	コミュニケーション ④ (プレゼンテーションの基礎)	プレゼンテーション			
第12回	発表会	グループ発表			
第13回	自己棚卸・自己理解	タイプの類型と目標			
第14回	活動計画 ①	1回～7回まとめ			
第15回	活動計画 ②	8回～13回まとめ			

国際

授業番号	B103150001				
科目名 (英語表記)	キャリアデザイン4 (Career Designing IV)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	PBL (Problem Based Learning : 課題解決型) の授業。ビジネスシーンでの課題に向き合うことで、働くことの厳しさ、やりがいを感じてもらえることが目標です。自分に関する情報、企業など目標に対する情報、それらを取りまく社会に関する情報の3情報の収集の仕方、分析の仕方を学び、それらで発掘できた自分自身のリソースを活用した自分提案のトレーニングは、就活力向上に直結します。				
授業の進め方 (履修条件など)	5～6名程度のグループワーク (最大15グループ程度) で授業を進めます。 授業には10社の企業様にご参加いただき、授業運営や“チバイチバン”力の評価についてご協力をいただきます。評価結果は、採用試験の可否判断の材料として活用されます。 ・3年生を優先します (定員80名 但し、火曜日3限40名、4限40名) ・履修申し込みは、キャリアセンターとします。				
成績評価方法 基準	レポート、授業取組姿勢、“チバイチバン”力評価により評価します。				
授業の予習・復習	授業内に指示します。				
教科書	授業内で資料などを配布します。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	Time Table、授業への取り組み方			
第2回	事例1 (A社の紹介)	課題提示と状況の推測、課題分析			
第3回	分析内容のプレゼン	分析内容の共有、視点確認			
第4回	インタビュー	社員の方からのヒアリング			
第5回	問題分析とプレゼン	ヒアリングを受けて課題分析と発表			
第6回	ソリューション企画	課題解決策の立案と発表			
第7回	プレゼンと評価	社員の方向けに発表			
第8回	再企画	社員の方からの評価を受けて、再立案			
第9回	事例2 (B社の紹介)	課題提示と状況の推測、課題分析			
第10回	分析内容のプレゼン	分析内容の共有、視点確認			
第11回	インタビュー	社員の方からのヒアリング			
第12回	問題分析とプレゼン	ヒアリングを受けて課題分析と発表			
第13回	ソリューション企画	課題解決策の立案と発表			
第14回	プレゼンと評価	社員の方向けに発表			
第15回	再企画	社員の方からの評価を受けて、再立案			

国際

授業番号	B103150002				
科目名 (英語表記)	キャリアデザイン4 (Career Designing IV)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	PBL (Problem Based Learning : 課題解決型) の授業。ビジネスシーンでの課題に向き合うことで、働くことの厳しさ、やりがいを感じてもらえることが目標です。自分に関する情報、企業など目標に対する情報、それらを取りまく社会に関する情報の3情報の収集の仕方、分析の仕方を学び、それらで発掘できた自分自身のリソースを活用した自分提案のトレーニングは、就活力向上に直結します。				
授業の進め方 (履修条件など)	5～6名程度のグループワーク (最大15グループ程度) で授業を進めます。 授業には10社の企業様にご参加いただき、授業運営や“チバイチバン”力の評価についてご協力をいただきます。評価結果は、採用試験の可否判断の材料として活用されます。 ・3年生を優先します (定員80名 但し、火曜日3限40名、4限40名) ・履修申し込みは、キャリアセンターとします。				
成績評価方法 基準	レポート、授業取組姿勢、“チバイチバン”力評価により評価します。				
授業の予習・復習	授業内に指示します。				
教科書	授業内で資料などを配布します。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	Time Table、授業への取り組み方			
第2回	事例1 (A社の紹介)	課題提示と状況の推測、課題分析			
第3回	分析内容のプレゼン	分析内容の共有、視点確認			
第4回	インタビュー	社員の方からのヒアリング			
第5回	問題分析とプレゼン	ヒアリングを受けて課題分析と発表			
第6回	ソリューション企画	課題解決策の立案と発表			
第7回	プレゼンと評価	社員の方向けに発表			
第8回	再企画	社員の方からの評価を受けて、再立案			
第9回	事例2 (B社の紹介)	課題提示と状況の推測、課題分析			
第10回	分析内容のプレゼン	分析内容の共有、視点確認			
第11回	インタビュー	社員の方からのヒアリング			
第12回	問題分析とプレゼン	ヒアリングを受けて課題分析と発表			
第13回	ソリューション企画	課題解決策の立案と発表			
第14回	プレゼンと評価	社員の方向けに発表			
第15回	再企画	社員の方からの評価を受けて、再立案			

国際

授業番号	B103160001				
科目名 (英語表記)	キャリアデザイン5 (Career Designing V)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>産業界の研究をするためには、各種業界を知る必要があります。          業界・業種を知るためには数多くの方法がありますが、          業界で営業を経験したことのある方から話を聞くこと重要だと考え、営業管理職経験者を招聘します。          業界研究は就職活動の基本です。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>外部担当講師による講義となります。業界により異なる営業のシステムを学んでいただきます。          厳しい部分と楽しい部分、仕事のやりがいを語っていただきます。          ・4年生も履修が可能です          ・1、2年生も聴講できます (正課外)</p>				
成績評価方法	授業態度、各回ごとの感想文、“チバイチバン”力評価、及び最終レポートを参考にします。				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習 : 該当業界の事前研究          復習 : 興味業界の場合一層の研究</p>				
教科書	プリントを配布				
参考文献	プリントを配布				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス 鉄鋼業界	授業の案内 新日本製鐵株式会社、鈴木金属工業株式会社			
第2回	信託銀行業界	三菱UFJ信託銀行株式会社			
第3回	半導体業界	株式会社東芝、株式会社東芝 セミコンダクター&ストレージ社			
第4回	～特別授業～	～インターンシップ報告会へ参加～			
第5回	生命保険業界	あいおい生命保険株式会社			
第6回	繊維業界	東レ株式会社、株式会社東レ経営研究所			
第7回	化学業界	信越化学工業株式会社			
第8回	食品業界	ハウス食品株式会社			
第9回	電力業界	東京電力株式会社			
第10回	物流業界	株式会社富士銀行 株式会社バンテック			
第11回	住宅業界 (戸建住宅)	住友林業株式会社			
第12回	リース業界	東銀リース株式会社			
第13回	テレビ業界	株式会社日本経済新聞社、株式会社テレビ東京			
第14回	百貨店業界	松坂屋 (現 J. フロント リテイリング株式会社)			
第15回	小売業界 (カー用品)	株式会社オートバックスセブン			

国際

授業番号	B103170001				
科目名 (英語表記)	キャリアデザイン 7 (成田プログラム) (Career Designing VII)				
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	4	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>「2週間以内で何が何でも内定をとるぞ」「就職先を決める」というおなじ目標を持つ仲間とチームワークを大事にしながら取り組んでもらう2週間プログラムです。</p> <p>自分により合った職場を選べるよう志向や考えを認識したり、今までしなかった意外な自分が見つかったり、きっと有意義な時間になると思います。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成田空港の内部を見学</li> <li>・求人票の見方</li> <li>・企業への取材・コーナ企画制作企業カタログの制作</li> <li>・取材に応じて頂いた企業を招いての発表</li> <li>・就職エントリーの準備 等</li> </ul> <p>企業活動の現場を知るとともに、将来の進路決定の一助としてもらうことを目的としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生も履修が可能です (採用選考対象外、単価認定なし)</li> <li>・履修申込みは、キャリアセンターとします。</li> </ul>				
成績評価方法	授業態度、レポート及びその他の課題で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習 : 講師より出題された課題は事前に調べおくこと。</p> <p>復習 : 興味業界の場合は一層の業界研究をする。</p>				
教科書	プリントを配布します。				
参考文献	特別なものはありません				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	事前説明会	プログラム履修希望者にプログラム参加における留意点や参加意義などを話します。			
第2回	ガイダンス	プログラムの説明 モチベーションアップセミナー			
第3回	成田国際空港見学	成田国際空港へ行き空港第2ビル他見学 チーム毎に空港での仕事探し			
第4回	企業取材準備	「求人シート」の作成 (企業の立場を理解) 企業訪問をして求人に関する取材準備			
第5回	企業取材	チーム毎に直接企業に出向いて取材			
第6回	企業取材	取材終了後、チーム毎に取材報告書作成 報告資料をパワーポイントで作成する。			
第7回	プレゼンテーション資料作成	チーム毎に作成資料の点検 完成した資料の提出			
第8回	プレゼンテーション準備	発表会前の機会利用しリハーサルを実施 リハーサル			
第9回	プレゼンテーション	取材に応じて頂いた企業を招いての発表			
第10回	プレゼンテーション	各チーム毎、メンバー全員が分担して発表			
第11回	就職エントリー準備	エントリー企業の決定			
第12回	就職エントリー準備	履歴書の作成			
第13回	就職エントリー準備	受験対策の指導			
第14回	就職活動	各個人が、エントリー先で就職活動を行う。			
第15回	プログラム終了にあたって	感想文発表 エールの交換			

国際

授業番号	B103200001				
科目名 (英語表記)	キャリア特殊 1 (Career Advanced I)			(A)	
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	入学時より充実した学生生活を過ごすことがなぜ重要なのか、大学生活と卒業後の社会生活がどのように結びついているのか、を学びます。最終的には、卒業後に目標とする人物像、(ロールモデル) を作成し、主体的な学生生活を過ごす姿勢を身につけることを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	20名前後のゼミ方式で、グループワークを中心に授業を進めます。それぞれのグループ (ゼミ) でワイワイガヤガヤとディスカッションをします。 ・日本人学生を対象 (こども学科を除く) ・水曜日 1 限 2 クラス、2 限 1 クラス				
成績評価方法	授業態度、提出物の内容、“チバイチバン” 力評価により判断します。				
基準					
授業の予習・復習	予習 ・ 復習 : 講師より出題された課題は事前に準備をしておいて下さい。				
教科書	必要に応じて、プリント等を配布致します。				
参考文献	その都度、紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	キャリアとは	全体講義			
第 2 回	コミュニケーションの基礎 ①	～ 自分を語ろう ・ 相手を知ろう ～			
第 3 回	コミュニケーションの基礎 ②	～ 姿勢 ・ 動作 ・ 表情の基礎を知ろう ～			
第 4 回	コミュニケーションの基礎 ③	～ 話し方の基本 ・ 話し方の違いによる違いを知ろう ～			
第 5 回	ゲスト ・ スピーカー	全体講義			
第 6 回	ビジョンボードを創ろう	少人数制クラスでのファシリテーション			
第 7 回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ①			
第 8 回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ②			
第 9 回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ①			
第 10 回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ②			
第 11 回	チバイチバンカ«イ»	イノベーション			
第 12 回	チバイチバンカ«チ»	知識			
第 13 回	チバイチバンカ«バ»	バランス感覚			
第 14 回	チバイチバンカ«ン»	気づき notice			
第 15 回	まとめ	コンピテンシーモデルの作成			



国際

授業番号	B103200002				
科目名 (英語表記)	キャリア特殊1 (Career Advanced I)			(C)	
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	1	単位数	2

授業のねらいと到達目標	入学時より充実した学生生活を過ごすことがなぜ重要なのか、大学生活と卒業後の社会生活がどのように結びついているのか、を学びます。 最終的には、卒業後に目標とする人物像、(ロールモデル) を作成し、主体的な学生生活を過ごす姿勢を身につけることを目標とします。
授業の進め方 (履修条件など)	20名前後のゼミ方式で、グループワークを中心に授業を進めます。 それぞれのグループ (ゼミ) でワイワイガヤガヤとディスカッションをします。 ・留学生を対象 ・水曜日 1 限 1 クラス
成績評価方法	授業態度、提出物の内容、“チバイチバン” 力評価、受講態度により判断します。
基準	
授業の予習・復習	予習 ・ 復習 : 講師より出題された課題は事前に準備をしておいて下さい。
教科書	必要に応じて、プリント等を配布致します。
参考文献	その都度、紹介します。

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	キャリアとは	全体講義
第 2 回	コミュニケーションの基礎 ①	～ 自分を語ろう ・ 相手を知ろう ～
第 3 回	コミュニケーションの基礎 ②	～ 姿勢 ・ 動作 ・ 表情の基礎を知ろう ～
第 4 回	コミュニケーションの基礎 ③	～ 話し方の基本 ・ 話し方の違いによる違いを知ろう ～
第 5 回	ゲスト ・ スピーカー	全体講義
第 6 回	ビジョンボードを創ろう	少人数制クラスでのファシリテーション
第 7 回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ①
第 8 回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ②
第 9 回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ①
第 10 回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ②
第 11 回	チバイチバンカ«イ»	イノベーション
第 12 回	チバイチバンカ«チ»	知識
第 13 回	チバイチバンカ«バ»	バランス感覚
第 14 回	チバイチバンカ«ン»	気づき notice
第 15 回	まとめ	コンピテンシーモデルの作成

国際

授業番号	B103200003				
科目名 (英語表記)	キャリア特殊 1 (Career Advanced I)			(留)	
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	1	単位数	2

授業のねらいと到達目標	入学時より充実した学生生活を過ごすことがなぜ重要なのか、大学生活と卒業後の社会生活がどのように結びついているのか、を学びます。 最終的には、卒業後に目標とする人物像、(ロールモデル) を作成し、主体的な学生生活を過ごす姿勢を身につけることを目標とします。
授業の進め方 (履修条件など)	20名前後のゼミ方式で、グループワークを中心に授業を進めます。 それぞれのグループ (ゼミ) でワイワイガヤガヤとディスカッションをします。 ・日本人学生を対象 (こども学科を除く) ・水曜日 1 限 2 クラス、2 限 1 クラス
成績評価方法	授業態度、提出物の内容、“チバイチバン” 力評価により判断します。
基準	
授業の予習・復習	予習 ・ 復習 : 講師より出題された課題は事前に準備をしておいて下さい。
教科書	必要に応じて、プリント等を配布致します。
参考文献	その都度、紹介します。

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	キャリアとは	全体講義
第 2 回	コミュニケーションの基礎 ①	～ 自分を語ろう ・ 相手を知ろう ～
第 3 回	コミュニケーションの基礎 ②	～ 姿勢 ・ 動作 ・ 表情の基礎を知ろう ～
第 4 回	コミュニケーションの基礎 ③	～ 話し方の基本 ・ 話し方の違いによる違いを知ろう ～
第 5 回	ゲスト ・ スピーカー	全体講義
第 6 回	ビジョンボードを創ろう	少人数制クラスでのファシリテーション
第 7 回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ①
第 8 回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ②
第 9 回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ①
第 10 回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ②
第 11 回	チバイチバンカ«イ»	イノベーション
第 12 回	チバイチバンカ«チ»	知識
第 13 回	チバイチバンカ«バ»	バランス感覚
第 14 回	チバイチバンカ«ン»	気づき notice
第 15 回	まとめ	コンピテンシーモデルの作成

国際

授業番号	B103200004				
科目名 (英語表記)	キャリア特殊 1 (Career Advanced I)			(B)	
担当者 (英語表記)	キャリアセンター (Career Center)	対象学年	1	単位数	2

授業のねらいと到達目標	入学時より充実した学生生活を過ごすことがなぜ重要なのか、大学生活と卒業後の社会生活がどのように結びついているのか、を学びます。 最終的には、卒業後に目標とする人物像、(ロールモデル) を作成し、主体的な学生生活を過ごす姿勢を身につけることを目標とします。
授業の進め方 (履修条件など)	20名前後のゼミ方式で、グループワークを中心に授業を進めます。 それぞれのグループ (ゼミ) でワイワイガヤガヤとディスカッションをします。 ・日本人学生を対象 (こども学科を除く) ・水曜日 1 限 2 クラス、2 限 1 クラス
成績評価方法	授業態度、提出物の内容、“チバイチバン” 力評価により判断します。
基準	
授業の予習・復習	予習 ・ 復習 : 講師より出題された課題は事前に準備をしておいて下さい。
教科書	必要に応じて、プリント等を配布致します。
参考文献	その都度、紹介します。

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	キャリアとは	全体講義
第 2 回	コミュニケーションの基礎 ①	～ 自分を語ろう ・ 相手を知ろう ～
第 3 回	コミュニケーションの基礎 ②	～ 姿勢 ・ 動作 ・ 表情の基礎を知ろう ～
第 4 回	コミュニケーションの基礎 ③	～ 話し方の基本 ・ 話し方の違いによる違いを知ろう ～
第 5 回	ゲスト ・ スピーカー	全体講義
第 6 回	ビジョンボードを創ろう	少人数制クラスでのファシリテーション
第 7 回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ①
第 8 回	チバイチバンカ«チ»	チームワーク ②
第 9 回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ①
第 10 回	チバイチバンカ«バ»	バイタリティ ②
第 11 回	チバイチバンカ«イ»	イノベーション
第 12 回	チバイチバンカ«チ»	知識
第 13 回	チバイチバンカ«バ»	バランス感覚
第 14 回	チバイチバンカ«ン»	気づき notice
第 15 回	まとめ	コンピテンシーモデルの作成

国際						
授業番号	B103940001					
科目名 (英語表記)	教育課程論 (Principles of Education)					
担当者 (英語表記)	武内 清 (Kiyoshi Takeuchi)	対象学年	1	単位数	2	
授業のねらいと到達目標	現代の教育や学校のシステムや制度、組織、集団の実態を講義する。また、実際の学校の中でどのような教育や学習がなされているのか、さらに意図しないことでもどのような影響が子どもたちに及んでいるのかを講義し、また体験に基づく討論も行う。教育に及ぼす、国際社会、国家、政治、経済、文化、地域社会の影響も考察する。					
授業の進め方 (履修条件など)	講義を中心にすすめるが、討論も取り入れ、皆の意見も聞きながら進める。					
成績評価方法	授業・討論への積極的参加 20%、リアクション・ペーパー 20%、期末試験 60%。					
基準						
授業の予習・復習	配布されたプリントを読み返し、授業の復習を必ず行うこと。					
教科書	武内清編『子どもと学校』(学文社、2010)。さらに授業時にプリントを配布する。					
参考文献	授業時に指示。					
回数	授業項目	授業内容				
第1回	教育の社会的側面 1	現代社会と教育				
第2回	教育の社会的側面 2	政治、経済と教育				
第3回	脱学校論	学校教育の可能性と制約				
第4回	学習指導要領	その変遷				
第5回	教師と子ども	その関係性を問う				
第6回	教育現場	教育現場と子ども				
第7回	子どもの成長	子どもの成長と学校				
第8回	カリキュラム	その思想的背景と子ども				
第9回	進路指導	キャリア教育の思想と実際				
第10回	道徳教育	小学校でのキャリア教育				
第11回	部活動	中学校でのキャリア教育				
第12回	多文化教育	高等学校でのキャリア教育				
第13回	ジェンダーと教育	大学でのキャリア教育と進路				
第14回	情報教育	教育改革				
第15回	まとめ	教育の理念と実際を考える				

国際							
授業番号	B104800001						
科目名（英語表記）	教育課程論（Principles of Education）				13 カリ国際		
担当者（英語表記）	上野 正道（Masamichi Ueno）			対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	教育原論Ⅰの学習を踏まえて、学校教育を構成する教育課程（カリキュラム）に関する基礎的知識を習得しながら、教育課程の理論や歴史、制度、学校における教育課程編成の方法と実践について理解することを目標とする。						
授業の進め方（履修条件など）	教科書とプリントを使用して、それらをもとにしながら授業を進めていく。適宜、ビデオ、パワーポイント等の視聴覚教材も用いる。ほぼ毎回、授業の終わりに出欠と授業内容の確認を兼ねた小レポートの提出を求める。						
成績評価方法	平常点（30%）、レポート（30%）、試験（40%）						
基準							
授業の予習・復習	予習：教科書と配布資料を読んでくる。 復習：						
教科書	上野正道『民主主義への教育－学びのシニシズムを超えて』東京大学出版会、2013年						
参考文献	文部科学省 『小学校学習指導要領解説－総則編－』 東京書籍 文部科学省 『小学校学習指導要領』 東京書籍 文部科学省 『中学校学習指導要領』 東山書房 文部科学省 『高等学校学習指導要領』 東山書房						
回数	授業項目	授業内容					
第1回	オリエンテーション	教育課程とは何か					
第2回	教育課程の歴史	明治から戦前までの教育課程の歴史と展開					
第3回	教育課程の歴史	戦後の教育課程の変遷					
第4回	教育課程の原理	教科中心カリキュラム、経験中心カリキュラム					
第5回	教育課程の原理	学問中心カリキュラム、人間中心カリキュラム					
第6回	教育課程の実践的課題	授業とカリキュラム					
第7回	教育課程の実践的課題	教師とカリキュラム					
第8回	教育課程の実践的課題	学力とは何か					
第9回	教育課程の実践的課題	学習論とカリキュラム					
第10回	外国の教育課程	アメリカのカリキュラム					
第11回	外国の教育課程	ドイツのカリキュラム					
第12回	外国の教育課程	中国と韓国の事例					
第13回	教育課程の今日的課題	21世紀のカリキュラム構想					
第14回	教育課程の今日的課題	カリキュラムの公共性へ					
第15回	まとめ	全体の総括					

国際

授業番号	B103930001				
科目名 (英語表記)	教育原論 (Principles of Education)				
担当者 (英語表記)	武内 清 (Kiyoshi Takeuchi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	教育の思想、歴史を通して、教育の哲学、原理を学ぶ。教育を成り立たせている学校の制度、組織、集団的特質、教育改革について講義する。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義、小集団討論、リアクションペーパーなどで、進める。				
成績評価方法	授業・討論への積極的参加 20%、リアクションペーパー 20%、試験 60%。				
基準					
授業の予習・復習	予習は教科書を読み、復習は配布プリントを中心に行うこと。				
教科書	武内清編『子どもと学校』学文社、2010。				
参考文献	授業時に指示				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	イントロダクション	教育とは			
第 2 回	学校 1	学校の特質			
第 3 回	学校 2	学校の歴史、学校の社会的背景			
第 4 回	学校 3	教育法規 (教育基本法、学校教育法、ほか)			
第 5 回	学校 4	学校組織の特質			
第 6 回	学級	学級成立の歴史			
第 7 回	教育思想 1	西洋の教育思想 1			
第 8 回	教育思想 2	西洋の教育思想 2			
第 9 回	教育思想 3	日本の教育思想			
第 10 回	教育言説 1	教育言説とは			
第 11 回	教育言説 2	教育言説の特質			
第 12 回	教育言説 3	子ども言説			
第 13 回	教育改革 1	教育改革の思想			
第 14 回	教育改革 2	教育改革の流れ			
第 15 回	まとめ	教育の原理について考える。			

国際					
授業番号	B103930002				
科目名 (英語表記)	教育原論 (Principles of Education)			13 カリ国際	
担当者 (英語表記)	中山 幸夫 (Yukio Nakayama)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	教員免許取得を希望する学生の皆さんに健全な人間観、教育観を構築してもらうことを授業のねらいとする。教育の基礎理論、教育の思想、わが国の近代化と教育改革の軌跡を辿りながら、人間教育の本質をめぐる諸問題を深く知り、課題解決に取り組む確かな視点を持つことを目標としたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	テキストの内容をふまえた講義要項、資料をテーマごとに配付し、それらに基づいて授業を進めていく。ビデオ・DVD等の映像資料、パワーポイント等も適宜用いる。まずは授業に出席し、「聞く」姿勢を大事にしてほしい。				
成績評価方法	定期試験 (50%)・課題レポート (30%)・授業参加態度 (20%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：次回のテーマに関してテキスト、資料の指定範囲を読んでおく。 復習：授業の終わりに授業内容の確認を兼ねた課題レポートの提出を求める。				
教科書	平野智美監修、中山幸夫他編著 『教育学のグランドデザイン』 八千代出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	教育をめぐる今日の状況	問題としての教育、家庭・学校・地域社会の現状			
第 2 回	教育の意義	教育の語義、教育の概念、人間の発達と教育			
第 3 回	教育の理念・目的	教育の理念、教育目的の普遍性と特殊性			
第 4 回	教育の思想	西洋古代・中世の教育思想			
第 5 回	教育の思想	西洋近世の教育思想			
第 6 回	教育の思想	西洋近代の教育思想			
第 7 回	教育の思想	公教育思想の発展と近代公教育制度の成立			
第 8 回	教育の思想	新教育の思想と新教育運動の展開			
第 9 回	日本の近代化と教育	近代公教育の導入と明治期の教育			
第 10 回	日本の近代化と教育	大正デモクラシーと新教育			
第 11 回	日本の近代化と教育	戦争と教育			
第 12 回	教育改革の軌跡	戦後教育改革の始動と展開			
第 13 回	教育改革の軌跡	高度経済成長と教育			
第 14 回	教育改革の軌跡	教育改革の模索と臨時教育審議会			
第 15 回	教育改革の軌跡	教育改革の動向と展望			

国際

授業番号	B104080001				
科目名 (英語表記)	教育実践研究 (小学校) (Educational Practice)				
担当者 (英語表記)	山口 政之 (Masayuki Yamaguchi)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	教育実習では授業を行うだけでなく、休み時間には子供と遊び、放課後には担任の先生の仕事の手伝いをし、自分の授業の準備をします。子供と指導教諭から謙虚に学ぶという心構えと具体的な行動・判断の仕方を学んでください。あなたの教師としての資質・人間性が総合的に問われています。				
授業の進め方 (履修条件など)	この授業では学生を教育実習生と見做します。資料に基づいてグループで話し合ったり、意見交換をしたりします。実習生ですから、無遅刻無欠席を求めますし、飲食・携帯操作は厳禁です。				
成績評価方法 基準	課題への取り組み、発言、定期試験等をふまえ総合的に評価します。遅刻・熟睡は大きく減点し、ガイダンスの欠席者は履修放棄とみなします。				
授業の予習・復習	予習：新聞を読み、教育関連の話題には意見が言えるようにしておく。 復習：資料やノートを読み返し、授業内容の理解に努める。				
教科書	藤本浩行 『新任教師 はじめの一歩』 さくら社				
参考文献	灰谷健次郎 『兎の眼』 角川文庫				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス (欠席者は履修不可)	教育実習で何を学ぶのか (立場やマナー等の理解)			
第 2 回	発問と机間指導	国語の模擬授業を通して教師の役割を理解する			
第 3 回	机間指導と指名計画	算数の模擬授業を通して教師の役割を理解する			
第 4 回	自己紹介	自分の長所を端的に表現し子供の心をつかむ			
第 5 回	児童理解のために①	教室で花瓶が割れた時、嘔吐があった時等の対応			
第 6 回	児童理解のために②	放課後の備品から (机、ロッカー、靴箱から)			
第 7 回	指導案	指導案作成上の留意点			
第 8 回	生活指導の実際	授業以外の場面で教師はどんな指導をしているのか			
第 9 回	実習記録簿の書き方①	記録簿の役割と記載事項を理解する			
第 10 回	実習記録簿の書き方②	日々の実践記録として実践場面を描写し考察する			
第 11 回	4年生 4月・教育実習の事前指導	教育実習に関する事務的な手続きを確認する			
第 12 回	4月・実習期間中の教科指導の教材研究	実習先の年間指導計画から、自分が担当する教科の単元を把握し、教材研究を進める			
第 13 回	5月・精練指導案の作成	学級の児童の実態を踏まえて指導案を作成し、指導を受ける			
第 14 回	6月・教育実習報告会	教員採用試験の前に、教育実習で把握した課題や、仕事へのやりがい等を報告する会に参加する			
第 15 回	7月・教育実習記録簿提出と面談	実習校より記録簿が返却されたら、すみやかにゼミ担当に実習の報告をする			



国際

授業番号	B104100001				
科目名 (英語表記)	教職実践演習 (Teacher Training Practical Seminar)			(小学校)	
担当者 (英語表記)	池谷 美佐子 (Misako Ikeya)	対象学年	4	単位数	2
授業のねらいと到達目標	教員になる上で、受講生一人一人にとって必要と思われる課題を把握し、不足している知識や技能等を補完する。①教師としての使命・責任・教育愛、②社会人としての社会性・対人関係能力、③授業の根幹をなす児童理解・学級経営、④教科内容の理解と指導力				
授業の進め方 (履修条件など)	担当教員による講義時間を少なくし、学生主体の発表、役割演技、模擬授業を積極的に取り入れ、実際の教育場面を想定した演習の時間を多くする。模擬授業も1単位時間にこだわらず、実践的な場面に焦点を当てる。その際、大学4年間で学んだ知識や表現力が十分に発揮させつつも、不足している部分の自覚を促し、指導を重ねていく。				
成績評価方法	授業への参加姿勢、小テスト、発表内容、レポート等を総合的に評価する。その際、複数の教員が多角的な角度から評価を行うようにする。				
基準					
授業の予習・復習	演習参加の準備として調査等を求める場合がある。				
教科書	毎時間、必要な印刷物を配布する。				
参考文献	適宜紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ロールプレイ1	演習の進め方・ロールプレイ概説・演習課題(事前学習の課題含む)の提示			
第2回	ロールプレイ2	演習1: "気になる子ども" に対する対応を考える(1) 不登校の児童			
第3回	ロールプレイ3	演習2: "気になる子ども" に対する対応を考える(2) 授業を妨害する児童			
第4回	ロールプレイ4	演習3: "気になる保護者" への対応を考えるー保護者をモンスターにしないためにー			
第5回	ディベート1	身近な問題を論題として練習ディベートを行い、役割を理解する。			
第6回	ディベート2	演習1: 学級の問題を論題としてディベートをする。			
第7回	ディベート3	演習2: 学校の問題を論題としてディベートをする。			
第8回	小学校へ授業参観	近隣の小学校においてICT教育の授業を参観する。			
第9回	授業研究1	教育実習で実践した授業の振り返り			
第10回	授業研究2	演習1: 学習指導案の再考			
第11回	授業研究3	演習2: 模擬授業と研究協議(1) 教材を中心に			
第12回	授業研究4	演習3: 模擬授業と研究協議(2) 指導法を中心に			
第13回	学びの総括1	演習1: よき社会人を目指して、主として口語表現の実践的な言語能力の向上を図る。			
第14回	学びの総括2	演習2: よき組織人を目指して、主として文章表現の実践的な言語能力の向上を図る。			
第15回	学びの総括3	4年間の勉学を振り返り、履修カルテによるまとめを行う。			

国際

授業番号	B104100002				
科目名 (英語表記)	教職実践演習 (Teacher Training Practical Seminar)			(小学校)	
担当者 (英語表記)	山口 政之 (Masayuki Yamaguchi)	対象学年	4	単位数	2
授業のねらいと到達目標	教員になる上で、受講生一人一人にとって必要と思われる課題を把握し、不足している知識や技能等を補完する。①教師としての使命・責任・教育愛、②社会人としての社会性・対人関係能力、③授業の根幹をなす児童理解・学級経営、④教科内容の理解と指導力				
授業の進め方 (履修条件など)	担当教員による講義時間を少なくし、学生主体の発表、役割演技、模擬授業を積極的に取り入れ、実際の教育場面を想定した演習の時間を多くする。模擬授業も1単位時間にこだわらず、実践的な場面に焦点を当てる。その際、大学4年間で学んだ知識や表現力が十分に発揮させつつも、不足している部分の自覚を促し、指導を重ねていく。				
成績評価方法	授業への参加姿勢、小テスト、発表内容、レポート等を総合的に評価する。その際、複数の教員が多角的な角度から評価を行うようにする。				
基準					
授業の予習・復習	演習参加の準備として調査等を求める場合がある。				
教科書	毎時間、必要な印刷物を配布する。				
参考文献	適宜紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ロールプレイ1	演習の進め方・ロールプレイ概説・演習課題(事前学習の課題含む)の提示			
第2回	ロールプレイ2	演習1: "気になる子ども" に対する対応を考える(1) 不登校の児童			
第3回	ロールプレイ3	演習2: "気になる子ども" に対する対応を考える(2) 授業を妨害する児童			
第4回	ロールプレイ4	演習3: "気になる保護者" への対応を考えるー保護者をモンスターにしないためにー			
第5回	ディベート1	身近な問題を論題として練習ディベートを行い、役割を理解する。			
第6回	ディベート2	演習1: 学級の問題を論題としてディベートをする。			
第7回	ディベート3	演習2: 学校の問題を論題としてディベートをする。			
第8回	小学校へ授業参観	近隣の小学校においてICT教育の授業を参観する。			
第9回	授業研究1	教育実習で実践した授業の振り返り			
第10回	授業研究2	演習1: 学習指導案の再考			
第11回	授業研究3	演習2: 模擬授業と研究協議(1) 教材を中心に			
第12回	授業研究4	演習3: 模擬授業と研究協議(2) 指導法を中心に			
第13回	学びの総括1	演習1: よき社会人を目指して、主として口語表現の実践的な言語能力の向上を図る。			
第14回	学びの総括2	演習2: よき組織人を目指して、主として文章表現の実践的な言語能力の向上を図る。			
第15回	学びの総括3	4年間の勉学を振り返り、履修カルテによるまとめを行う。			

国際

授業番号	B104100003		
科目名 (英語表記)	教職実践演習 (Teacher Training Practical Seminar)		(小学校)
担当者 (英語表記)	田中 未央 (Mio Tanaka)	対象学年	4 単位数 2
授業のねらいと到達目標	<p>教員になる上で、受講生一人一人にとって必要と思われる課題を把握し、不足している知識や技能等を補完する。①教師としての使命・責任・教育愛、②社会人としての社会性・対人関係能力、③授業の根幹をなす児童理解・学級経営、④教科内容の理解と指導力</p>		
授業の進め方 (履修条件など)	<p>担当教員による講義時間を少なくし、学生主体の発表、役割演技、模擬授業を積極的に取り入れ、実際の教育場面を想定した演習の時間を多くする。模擬授業も1単位時間にこだわらず、実践的な場面に焦点を当てる。その際、大学4年間で学んだ知識や表現力が十分に発揮させつつも、不足している部分の自覚を促し、指導を重ねていく。</p>		
成績評価方法	<p>授業への参加姿勢、小テスト、発表内容、レポート等を総合的に評価する。その際、複数の教員が多角的な角度から評価を行うようにする。</p>		
基準			
授業の予習・復習	<p>演習参加の準備として調査等を求める場合がある。</p>		
教科書	<p>毎時間、必要な印刷物を配布する。</p>		
参考文献	<p>適宜紹介する。</p>		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ロールプレイ1	演習の進め方・ロールプレイ概説・演習課題(事前学習の課題含む)の提示	
第2回	ロールプレイ2	演習1: "気になる子ども" に対する対応を考える(1) 不登校の児童	
第3回	ロールプレイ3	演習2: "気になる子ども" に対する対応を考える(2) 授業を妨害する児童	
第4回	ロールプレイ4	演習3: "気になる保護者" への対応を考えるー保護者をモンスターにしないためにー	
第5回	ディベート1	身近な問題を論題として練習ディベートを行い、役割を理解する。	
第6回	ディベート2	演習1: 学級の問題を論題としてディベートをする。	
第7回	ディベート3	演習2: 学校の問題を論題としてディベートをする。	
第8回	小学校へ授業参観	近隣の小学校においてICT教育の授業を参観する。	
第9回	授業研究1	教育実習で実践した授業の振り返り	
第10回	授業研究2	演習1: 学習指導案の再考	
第11回	授業研究3	演習2: 模擬授業と研究協議(1) 教材を中心に	
第12回	授業研究4	演習3: 模擬授業と研究協議(2) 指導法を中心に	
第13回	学びの総括1	演習1: よき社会人を目指して、主として口語表現の実践的な言語能力の向上を図る。	
第14回	学びの総括2	演習2: よき組織人を目指して、主として文章表現の実践的な言語能力の向上を図る。	
第15回	学びの総括3	4年間の勉学を振り返り、履修カルテによるまとめを行う。	

国際

授業番号	B104100004				
科目名 (英語表記)	教職実践演習 (Teacher Training Practical Seminar)			(小学校)	
担当者 (英語表記)	辻山 洋介 (Yosuke Tsujiyama)	対象学年	4	単位数	2
授業のねらいと到達目標	教員になる上で、受講生一人一人にとって必要と思われる課題を把握し、不足している知識や技能等を補完する。①教師としての使命・責任・教育愛、②社会人としての社会性・対人関係能力、③授業の根幹をなす児童理解・学級経営、④教科内容の理解と指導力				
授業の進め方 (履修条件など)	担当教員による講義時間を少なくし、学生主体の発表、役割演技、模擬授業を積極的に取り入れ、実際の教育場面を想定した演習の時間を多くする。模擬授業も1単位時間にこだわらず、実践的な場面に焦点を当てる。その際、大学4年間で学んだ知識や表現力が十分に発揮させつつも、不足している部分の自覚を促し、指導を重ねていく。				
成績評価方法	授業への参加姿勢、小テスト、発表内容、レポート等を総合的に評価する。その際、複数の教員が多角的な角度から評価を行うようにする。				
基準					
授業の予習・復習	演習参加の準備として調査等を求める場合がある。				
教科書	毎時間、必要な印刷物を配布する。				
参考文献	適宜紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ロールプレイ1	演習の進め方・ロールプレイ概説・演習課題(事前学習の課題含む)の提示			
第2回	ロールプレイ2	演習1: "気になる子ども" に対する対応を考える(1) 不登校の児童			
第3回	ロールプレイ3	演習2: "気になる子ども" に対する対応を考える(2) 授業を妨害する児童			
第4回	ロールプレイ4	演習3: "気になる保護者" への対応を考えるー保護者をモンスターにしないためにー			
第5回	ディベート1	身近な問題を論題として練習ディベートを行い、役割を理解する。			
第6回	ディベート2	演習1: 学級の問題を論題としてディベートをする。			
第7回	ディベート3	演習2: 学校の問題を論題としてディベートをする。			
第8回	小学校へ授業参観	近隣の小学校においてICT教育の授業を参観する。			
第9回	授業研究1	教育実習で実践した授業の振り返り			
第10回	授業研究2	演習1: 学習指導案の再考			
第11回	授業研究3	演習2: 模擬授業と研究協議(1) 教材を中心に			
第12回	授業研究4	演習3: 模擬授業と研究協議(2) 指導法を中心に			
第13回	学びの総括1	演習1: よき社会人を目指して、主として口語表現の実践的な言語能力の向上を図る。			
第14回	学びの総括2	演習2: よき組織人を目指して、主として文章表現の実践的な言語能力の向上を図る。			
第15回	学びの総括3	4年間の勉学を振り返り、履修カルテによるまとめを行う。			

国際

授業番号	B104110001				
科目名 (英語表記)	教職実践演習 (Teacher Training Practical Seminar)			(中・高)	
担当者 (英語表記)	中山 幸夫 (Yukio Nakayama)	対象学年	4	単位数	2
授業のねらいと到達目標	教育実習の体験とこれまでの履修状況をふまえ、教員として必要な資質能力の土台強化を図るとともに、求められる心構えや知識、教育技術を補完する。				
授業の進め方 (履修条件など)	教育実習を振り返り、模擬授業と相互の講評を通して、教科の授業計画の立案及び授業の方法について多面的に追究する。また、学校教育において重要な学級経営のあり方について、講義とグループ討論を中心に探求する。				
成績評価方法	学習指導案および学級指導案：30%、模擬授業 20%、授業への出席及び参加態度 20%、最終レポート 30%				
基準					
授業の予習・復習	予習：次回テーマに関して実習体験を整理しておく。 復習：授業内容を整理し、実践的指導力の涵養に努める。				
教科書	特に指定しない				
参考文献	授業の中で適宜紹介する				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業の目的と進め方			
第2回	講義・討論	よりよい授業計画と授業実践			
第3回	講義・討論	学習指導要領の確認			
第4回	実習・討論	教科指導について (学習指導案作成の現状と課題)			
第5回	実習・討論	教科指導について (模擬授業①)			
第6回	実習・討論	教科指導について (模擬授業②)			
第7回	講義・討論	いじめ、不登校への対応			
第8回	講義・討論	学校教育と家庭・地域社会との連携			
第9回	講義・討論	職場としての学校での人間関係づくり			
第10回	講義・討論	学級経営を考える① (学校教育における学級経営)			
第11回	講義・討論	学級経営を考える② (生徒指導を生かした学級経営)			
第12回	講義・討論	学級経営を考える③ (発達障害の生徒についての対応)			
第13回	講義・討論	学級経営を考える④ (よりよい学級づくりへのアプローチ)			
第14回	講義・実習	学級経営を考える⑤ (学級経営案の作成)			
第15回	講義・討論	総括 (教員としての今後の課題について)			

国際					
授業番号	B104540001				
科目名 (英語表記)	共生支援教育 (Symbiosis support education)				
担当者 (英語表記)	山口 政之 (Masayuki Yamaguchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	通常学級における特別な支援を要する子供への理解を深めることを目指します。具体的には、軽度発達障害だけでなく、先天的な障害を持った子供の実情を知ることから具体的な支援のありかたを特別支援教育の理念と関連付けて理解していきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義では関連する文献資料を取り上げるだけでなく、共生支援に関わる文学作品や映画の一部を鑑賞し、言葉だけではわからない障害者の特性や苦勞を理解していきます。				
成績評価方法	出席及び発言を重視します。欠席3回は履修放棄、もしくは特別課題の措置をとります。				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書の関連箇所を音読しておく。 復習：新聞に目を通して、共生支援教育に関する記事については内容を要約し書きとめておく。				
教科書	杉山登志郎『発達障害の子どもたち』講談社現代新書				
参考文献	長谷川修平『長谷川君きらいや』、丘修三『ぼくのお姉さん』				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	新聞から共生社会の断片を拾う			
第2回	LD ①	特別支援学級と一般学級にみる LD 児			
第3回	LD ②	映画「インハーシューズ」から主人公の苦惱を理解する			
第4回	ディスレクシア	読みの障害に対する理解と支援の在り方			
第5回	ADHD ①	ADHD について医学的、教育的な理解をする			
第6回	ADHD ②	教室の ADHD 児への対応の仕方を知る			
第7回	自閉症、高機能自閉症	映画「レインマン」から自閉症の事例を学ぶ			
第8回	アスペルガー症候群	ちょっと変わった子がクラスで孤立しないための配慮について理解する			
第9回	先天的な障害	『さっちゃんのまほうのて』を例に、先天的な障害のある子供について理解を深める			
第10回	教育行政の取り組み	学校に配布される資料から教育の在り方を考える			
第11回	学校の支援体制	「校内委員会」の設置と運営			
第12回	特別支援学校の参観	特別支援学校の文化祭に参加し、参観記録を書く			
第13回	特別支援学校の実際	特別支援学校の文化祭参加の報告会			
第14回	児童文学にみる共生①	『窓際のトットちゃん』から学習障害を考える			
第15回	児童文学にみる共生②	『ぼくのお姉さん』から特別支援学校を考える			

国際

授業番号	B102250001				
科目名 (英語表記)	金融論 (Monetary Theory)				
担当者 (英語表記)	織井 啓介 (Keisuke Orii)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	金融の基礎知識を平易に講義します。①金融の役割、②銀行とその種類、③金融商品と利率・利回り計算、④中央銀行と金融政策、が主な内容です。経済活動を営むのに不可欠な「金融」について包括的な知識が身につくほか、金融機関への就職にも役立ちます。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義とプリントによる簡単な演習が中心です。毎時間ノートをしっかり取り、章ごとに整理・復習しましょう。				
成績評価方法	①期末試験 (教場試験またはレポート) 50%、②平常点 50%が評価の目安です。				
基準					
授業の予習・復習	予習：配布プリントを予習するとともに、TV・新聞で経済ニュースに親しみましょう。 復習：練習問題を自宅で演習し、次の授業時間に答え合わせをしましょう。				
教科書	とくに使用しません。				
参考文献	藤田康範『よくわかる金融と金融理論』学陽書房、2004年。 日本銀行金融研究所『日本銀行の機能と業務』有斐閣、2011年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	「金融論」講義の概要	講義スケジュール等を説明			
第2回	第1章：金融の役割	直接金融と間接金融			
第3回	第2章：金融機関①	銀行の業務 (預金業務)			
第4回	第2章：金融機関②	銀行の業務 (貸出業務)			
第5回	第2章：金融機関③	銀行業務 (為替業務・付随業務)			
第6回	第3章：金融制度①	民間金融機関			
第7回	第3章：金融制度②	公的金融機関			
第8回	第4章：金融商品①	預金・株式			
第9回	第4章：金融商品②	債券・投資信託			
第10回	第5章：日本銀行①	日本銀行の組織と役割			
第11回	第5章：日本銀行②	貨幣の種類 (現金貨幣と預金貨幣)			
第12回	第5章：日本銀行③	貨幣の需要と供給			
第13回	第6章：金融政策①	金融政策の概要			
第14回	第6章：金融政策②	日本銀行の金融政策			
第15回	「金融論」講義のまとめ	総括と補遺事項			



国際

授業番号	B102240001		
科目名 (英語表記)	経営学 (Business Administration)		
担当者 (英語表記)	坂本 旬 (Jun Sakamoto)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義のねらいは、具体的な企業の事例を通して、企業の誕生や発展、企業の戦略やマネジメント、ガバナンスについて検討することにある。実際の企業経営に関わるケースを中心に学習し、それに伴うキーワードや経営学上の意味を把握することで、経営学の基本的な考え方を理解することを到達目標とする。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義では、企業とは何か、どのように経営されているかという問題について、具体的なケースを提示し、それを経営学の基本的な用語を用いて考察していく。経営学の理論に注目する際には、適宜、追加資料を配布する。		
成績評価方法	課題レポート：30%		
基準	期末試験：70%		
授業の予習・復習	講義へ参加する準備として、前回の内容についての復習を各自行うこと。また、講義では具体的な企業の事例を中心に学習するので、日本や世界の経済・経営・社会情勢に関わる新聞記事やニュースに注意を払うこと。		
教科書	特に指定しない。適時資料を配布する。		
参考文献	東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学 (新版)』(有斐閣, 2008年) また、テーマ毎に適時紹介する。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	経営学を学ぶ意義	経営学の問題意識や論点、意義について検討する。さらに、本講義の概要やねらいについても説明する。	
第2回	現代企業の発生	現代企業が発生するプロセスと現代企業の特徴について、スタンダード・オイル社の発展を事例に学習する。	
第3回	ベンチャー企業のビジネスモデル	ベンチャー企業が創業されるプロセスとその成功について、グーグル社などの事例で検討する。	
第4回	企業の戦略と組織	企業を取り巻く環境と企業がとる戦略、そしてその戦略を実行するための組織について、フォードとGMの事例で学習する。	
第5回	企業の競争戦略	企業が競争上の優位をどのように確保するかについて、マクドナルドとモスバーガーの対照的な競争戦略の事例を用いて学習する。	
第6回	事業のリストラクチャリングと組織改革	多角化した企業が環境変化に対していかに事業を再編し、資源配分の手法と組織を革新したかということについて、ゼネラル・エレクトリック社の事例で検討する。	
第7回	M&A と外部資源の利用	ソニーのコロンビア映画会社買収をケースに用い、M&Aによって外部の経営資源を利用しながら展開する事業について学習する。	
第8回	企業の国際戦略	携帯電話メーカーであるノキアの世界規模での事業展開に焦点を当て、国際戦略のあり方について学習する。	
第9回	日本的生産システム	日本的生産システムと呼ばれているものの特徴について、トヨタの生産方式を事例に学習する。	
第10回	組織の革新と再生	松下電器産業 (パナソニック) の変革を事例に、不連続な環境変化に直面した企業の組織変革のプロセスを学習する。	
第11回	企業の研究開発活動	シャープにおける研究開発をケースに用い、知識体系の組替えの仕組みを検討する。	
第12回	日本的経営と人事管理制度	ブラザー工業の人材マネジメントを事例に、日本的経営の特徴とその変革について学習する。	
第13回	消費者の変化に対応する事業システム	消費者のニーズの変化に対応する事業システムのあり方について、セブンイレブン・ジャンの事例を通して学習する。	
第14回	日本企業の支配構造	日本企業の支配構造の特徴とその変遷について、カゴメのファン株主拡大戦略をケースとして学習する。	
第15回	ビジネスの倫理	三菱ふそうのハブ欠陥事件を事例に用い、社会的な存在である企業の倫理性の問題について学習する。	



国際					
授業番号	B102170001				
科目名 (英語表記)	経営学入門 (Introduction to Business Administration)				
担当者 (英語表記)	畑野 浩 (Hiroshi Hatano)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	企業の経営全般に関する基本的な用語・理論を理解し、2年次以降で国際ビジネスに関連する専門科目を学習するための基礎を作る。企業は、社会人基礎力を重視しており、働きかけ力、計画力、課題発見力を求めている。現地調査をとりいれ、企業研究と就職活動の実践的な訓練をする。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回配布するレジュメ、事例に沿って、講義形式で進めるが、ディスカッションもとりいれる。学生がなるべく授業中に発言してもらうように指導していく。				
成績評価方法 基準	出席 30% オンラインによる理解度テスト 30% 企業研究発表と課題レポート提出 30% 稲毛駅周辺の現地調査 10%				
授業の予習・復習	予習：KCN上の電子資料と配布資料を予習しましょう。 復習：授業内でのディスカッションを復習しましょう。 ビジネス関連の時事ニュースには関心を持って、読み、かつ聞くこと。				
教科書	特になし。				
参考文献	伊丹敬之著「ゼミナール経営学入門」 日本経済新聞出版社 上林憲雄他「経営学入門」 有斐閣				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	講義の進め方、経営学の概要			
第2回	会社の経営	会社とは何か、経営資源とは			
第3回	会社の役割	会社はどのように社会に役立っているか			
第4回	会社の形態と統治	誰が会社を動かしているか			
第5回	経営理念	会社はどのような方針で動いているか			
第6回	経営戦略	会社の戦略、事業戦略			
第7回	マーケティング I	マーケティングの領域			
第8回	マーケティング II	マーケティング戦略の策定			
第9回	中間発表	企業研究、課題レポート			
第10回	現地調査	マーケットリサーチ			
第11回	国際経営	海外でどのように経営するか			
第12回	企業会計	財務諸表の読み方			
第13回	リーダーシップ	人を動かすリーダーの役割			
第14回	最終発表 I	企業研究、課題レポート			
第15回	最終発表 II	企業研究、課題レポート			

国際					
授業番号	B102190001				
科目名 (英語表記)	経済学概論 I (Introduction to Economics I)				
担当者 (英語表記)	小林 啓祐 (Keisuke Kobayashi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は前・後期の講義を通して、経済学 (マクロ経済学・ミクロ経済学) の知識、およびその知識を用いて日本経済の構造を理解することを目的とする。前期は主にマクロ経済学について学ぶ。講義では、時事問題を扱うことにより、現代の日本経済がどのような構造にあるのかを理解することを目標としたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	小テストを3回行うので、すべて受けること。				
成績評価方法	毎講義中の参加態度 (10%)、および3回の小テスト (30%) をあわせて評価する				
基準					
授業の予習・復習	シラバスを事前に確認し、教科書にて予習をすること。				
教科書	辻正次・八田英二『What's 経済学』(第三版), 有斐閣, 2010年。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	本講義のガイダンスを行い、経済学が射程とする問題領域について学ぶ			
第2回	GDPと景気変動	GDPがどのような指標であるか、またなぜ景気変動がおこるのかについて学ぶ			
第3回	金融政策と経済	金融市場の特徴と金融政策が同市場に与える影響について学ぶ			
第4回	為替と経済	為替がなぜ変動するのかについて学ぶ			
第5回	小テスト1	第2回から4回までの講義内容の小テストを行う			
第6回	貿易と国際収支	貿易黒字・赤字が経済にどのような影響を与えているのかについて学ぶ			
第7回	バブル経済	バブル経済と言われる経済状況がなぜ起こるのかについて学ぶ			
第8回	貯蓄と経済	貯蓄率の変動が持つ意味について学ぶ			
第9回	国債と経済	国債が政府の財政、経済に与える影響について学ぶ			
第10回	小テスト2	第6回から9回までの範囲で小テストを行います			
第11回	インフレとデフレ	物価があがる、さがるという変化が経済に与える影響について学ぶ			
第12回	様々な経済成長のかたち	経済成長をするということとはどのようなことなのか、様々なケースを用いて考察する			
第13回	経済構造の変化	日本を事例として、なぜ経済構造に変化が必要なのかについて学ぶ			
第14回	まとめ	まとめと復習を行います			
第15回	小テスト3	まとめの小テストを行います			

国際

授業番号	B102180001				
科目名 (英語表記)	経済学概論 I (マクロ経済学) (Introduction to Economics I)				
担当者 (英語表記)	小林 啓祐 (Keisuke Kobayashi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は前・後期の講義を通して、経済学 (マクロ経済学・ミクロ経済学) の知識、およびその知識を用いて日本経済の構造を理解することを目的とする。前期は主にマクロ経済学について学ぶ。講義では、時事問題を扱うことにより、現代の日本経済がどのような構造にあるのかを理解することを目標とした。				
授業の進め方 (履修条件など)	小テストを 3 回行うので、すべて受けること。				
成績評価方法	毎講義中の参加態度 (10%)、および 3 回の小テスト (30%) をあわせて評価する				
基準					
授業の予習・復習	シラバスを事前に確認し、教科書にて予習をすること。				
教科書	辻正次・八田英二『What's 経済学』(第三版), 有斐閣, 2010 年。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	本講義のガイダンスを行い、経済学が射程とする問題領域について学ぶ			
第 2 回	GDP と景気変動	GDP がどのような指標であるか、またなぜ景気変動がおこるのかについて学ぶ			
第 3 回	金融政策と経済	金融市場の特徴と金融政策が同市場に与える影響について学ぶ			
第 4 回	為替と経済	為替がなぜ変動するのかについて学ぶ			
第 5 回	小テスト 1	第 2 回から 4 回までの講義内容の小テストを行う			
第 6 回	貿易と国際収支	貿易黒字・赤字が経済にどのような影響を与えているのかについて学ぶ			
第 7 回	バブル経済	バブル経済と言われる経済状況がなぜ起こるのかについて学ぶ			
第 8 回	貯蓄と経済	貯蓄率の変動が持つ意味について学ぶ			
第 9 回	国債と経済	国債が政府の財政、経済に与える影響について学ぶ			
第 10 回	小テスト 2	第 6 回から 9 回までの範囲で小テストを行います			
第 11 回	インフレとデフレ	物価があがる、さがるという変化が経済に与える影響について学ぶ			
第 12 回	様々な経済成長のかたち	経済成長をするということとはどのようなことなのか、様々なケースを用いて考察する			
第 13 回	経済構造の変化	日本を事例として、なぜ経済構造に変化が必要なのかについて学ぶ			
第 14 回	まとめ	まとめと復習を行います			
第 15 回	小テスト 3	まとめの小テストを行います			

国際					
授業番号	B102220001				
科目名 (英語表記)	経済学概論 II (Introduction to Economics II)				
担当者 (英語表記)	小林 啓祐 (Keisuke Kobayashi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は前・後期の講義を通して、経済学 (マクロ経済学・ミクロ経済学) の知識、およびその知識を用いて日本経済の構造を理解することを目的とする。後期は主にミクロ経済学について学ぶ。講義では、時事問題を扱うことにより、現代の日本経済がどのような構造にあるのかを理解することを目標としたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	小テストを3回行うので、すべて受けること。				
成績評価方法	毎講義中の発言・参加態度 (10%)、および3回の小テスト (90%) をあわせて評価する				
基準					
授業の予習・復習	シラバスを事前に確認し、教科書にて予習をすること。				
教科書	辻正次・八田英二『What's 経済学』(第三版), 有斐閣, 2010年。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	価格と市場	価格決定のメカニズムについて学ぶ			
第2回	所得の変化と経済	所得の変化が価格や賃金などにどのように影響を与えるのかについて学ぶ			
第3回	企業の供給行動	企業が様々な条件のもとでどのような生産を行うのかについて学ぶ			
第4回	価格変動のメカニズム	価格が様々な条件のもと、どのようにして変化していくのかについて学ぶ			
第5回	小テスト1	第1回から4回までの内容について小テストを行う			
第6回	独占の功罪	独占企業の存在が経済にどのような影響を与えているのかについて学ぶ			
第7回	不完全競争	市場における不完全競争がどのような結果をもたらすかについて学ぶ			
第8回	公共財と経済	国などが管理する公共財が経済活動にどのような意味をもっているのかについて学ぶ			
第9回	外部性の発生	他者の経済活動からなんらかの影響をうけることが、どのような変化をもたらすかについて学ぶ			
第10回	小テスト2	第6回から9回までの内容の小テストを行います			
第11回	情報と市場	情報の不足が市場にもたらす影響について学ぶ			
第12回	日本型経営システム	世界的にみて特殊ともいえる日本型の経営システムがどのような特徴をもっているのかについて学ぶ			
第13回	様々な市場と経済	具体的な事例を用いて、いろいろな市場・価格について考察する			
第14回	まとめ	ミクロ経済学のまとめと総復習を行います			
第15回	小テスト3	まとめの小テストを行います			

国際

授業番号	B102210001				
科目名 (英語表記)	経済学概論 II (ミクロ経済学) (Introduction to Economics II)				
担当者 (英語表記)	小林 啓祐 (Keisuke Kobayashi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は前・後期の講義を通して、経済学 (マクロ経済学・ミクロ経済学) の知識、およびその知識を用いて日本経済の構造を理解することを目的とする。後期は主にミクロ経済学について学ぶ。講義では、時事問題を扱うことにより、現代の日本経済がどのような構造にあるのかを理解することを目標としたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	小テストを 3 回行うので、すべて受けること。				
成績評価方法	毎講義中の発言・参加態度 (10%)、および 3 回の小テスト (90%) をあわせて評価する				
基準					
授業の予習・復習	シラバスを事前に確認し、教科書にて予習をすること。				
教科書	辻正次・八田英二『What's 経済学』(第三版), 有斐閣, 2010 年。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	価格と市場	価格決定のメカニズムについて学ぶ			
第 2 回	所得の変化と経済	所得の変化が価格や賃金などにどのように影響を与えるのかについて学ぶ			
第 3 回	企業の供給行動	企業が様々な条件のもとでどのような生産を行うのかについて学ぶ			
第 4 回	価格変動のメカニズム	価格が様々な条件のもと、どのようにして変化していくのかについて学ぶ			
第 5 回	小テスト 1	第 1 回から 4 回までの内容について小テストを行う			
第 6 回	独占の功罪	独占企業の存在が経済にどのような影響を与えているのかについて学ぶ			
第 7 回	不完全競争	市場における不完全競争がどのような結果をもたらすかについて学ぶ			
第 8 回	公共財と経済	国などが管理する公共財が経済活動にどのような意味をもっているのかについて学ぶ			
第 9 回	外部性の発生	他者の経済活動からなんらかの影響をうけることが、どのような変化をもたらすかについて学ぶ			
第 10 回	小テスト 2	第 6 回から 9 回までの内容の小テストを行います			
第 11 回	情報と市場	情報の不足が市場にもたらす影響について学ぶ			
第 12 回	日本型経営システム	世界的にみて特殊ともいえる日本型の経営システムがどのような特徴をもっているのかについて学ぶ			
第 13 回	様々な市場と経済	具体的な事例を用いて、いろいろな市場・価格について考察する			
第 14 回	まとめ	ミクロ経済学のまとめと総復習を行います			
第 15 回	小テスト 3	まとめの小テストを行います			

国際

授業番号	B102160001				
科目名 (英語表記)	経済学入門 (Introduction to Economics)				
担当者 (英語表記)	小林 啓祐 (Keisuke Kobayashi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は経済学をはじめて学ぶ学生のために、その入門的な知識をえることを目的とする。講義では、理論のみに徹することなく、日本が歩んできた歴史をもとに、身近な話題を抱負に盛り込むことで理解を深めていきたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	小テストを3回行うので、すべて受けること。				
成績評価方法	毎講義中の参加態度 (10%)、および3回の小テスト (各30%) をあわせて評価する				
基準					
授業の予習・復習	シラバスを事前に確認し、教科書にて予習をすること。				
教科書	中谷武 中村保編著『1からの経済学』碩学社, 2010年				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	講義方法の説明などを行う			
第2回	経済学とは	そもそも経済学とはどういう学問かを学びます			
第3回	分業とは	経済学で最も基本的な概念といえる分業について学びます			
第4回	需要と供給	需要と供給がどのように関係しているのかを学びます			
第5回	小テスト1	第2回から第4回までの小テストを行います			
第6回	価格メカニズムと市場の効率性	価格決定と市場の基本的なメカニズムについて学びます			
第7回	市場の失敗と限界	市場が失敗する要因とその限界について学びます			
第8回	労働市場	労働市場の動きについて学びます			
第9回	GDPとは	GDPとは何か、そしてどのようにして決まるのかについて学びます			
第10回	小テスト2	第6回から9回までの範囲で小テストを行います			
第11回	消費需要と投資需要	消費と投資がもたらす経済への影響について学びます			
第12回	貨幣と金融	貨幣の基本的な役割と金融について学びます			
第13回	政府の役割と経済成長率	政府が行う経済政策と経済指標の一つである成長率について学びます			
第14回	外国貿易と為替レート	貿易と為替がどのようにして変動するのか、そのメカニズムについて学びます			
第15回	小テスト3	第10回～14回の範囲の小テストを行う			

国際					
授業番号	B102000001				
科目名 (英語表記)	刑法 (Criminal Law)				
担当者 (英語表記)	寛正 豊和 (Toyokazu Kakusho)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>現代社会におけるさまざまな犯罪現象に対して、刑法がどのように対応しているかについて明らかにしていきたいと思えます。</p> <p>一般的に刑法の講義は、「刑法総論」と「刑法各論」に分かれています。刑法総論は犯罪の成立要件と刑罰の内容を説明する部分で、刑法各論は法律上犯罪とされる行為はどのようなものであるかについて各条文を一つ一つ検討していくものです。この講義では、公務員試験をはじめとする各種試験に向けた入門としての役割をも持たせようと考えています。よって、刑法の全体的概要、基本的しくみ、理念、解釈などについてわかり易く説明していくつもりです。ぜひ、興味をもって受講されることを望んでいます。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	特にありません。				
成績評価方法 基準	初回の授業において、指示します。				
授業の予習・復習	初回の授業において、指示します。				
教科書	齊藤静敬・寛正豊和 共著『刑法(総論)への招待』創成社 齊藤静敬・寛正豊和 共著『刑法(各論)への招待』創成社				
参考文献	授業において指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	導入	受講のガイダンス			
第2回	刑法の意義と機能	刑法の内容、構造、犯罪と刑罰、刑法解釈など			
第3回	刑法の基本原則	罪刑法定主義、謙抑主義、学派の対立、適用範囲など			
第4回	構成要件該当性	構成要件論、行為論、不作為犯論、因果関係論、故意論、錯誤論、過失論			
第5回	違法性	違法性の本質、正当行為、緊急行為、安楽死など			
第6回	有責性	責任の本質、責任能力、期待可能性など			
第7回	未遂犯・不能犯	実行の着手、中止犯、不能犯など			
第8回	共犯	共同正犯、教唆犯、幫助犯など			
第9回	個人的法益に対する罪	生命・身体に対する犯罪			
第10回	個人的法益に対する罪	自由、プライバシー、名誉・信用に対する犯罪			
第11回	個人的法益に対する罪	財産に対する犯罪			
第12回	社会的法益に対する罪	放火罪、通貨・有価証券・文書偽造罪・風俗罪			
第13回	国家的法益に対する罪	公務執行妨害罪、偽証罪、賄賂罪			
第14回	基本知識チェック	練習問題			
第15回	総括	まとめおよび質疑			

国際					
授業番号	B100140001				
科目名 (英語表記)	健康運動科学 (Health Sports Science)			国際専用	
担当者 (英語表記)	岩井 幸博 (Yukihiro Iwai)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	様々な運動遊びやスポーツ、あるいは日本の伝承遊びを通して、からだを動かす心地よさや楽しさを十分に味わい、仲間作りや健康・体力の維持・増進を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	上記のねらいを達成するために、各種運動遊び・伝承遊び・スポーツを経験する。 各回で実技課題を設定する。個々の能力に合わせて、達成目標を設定し、真摯に課題に取り組むこととする。 授業時は、運動のできる格好に着替え、体育館で使用できる靴を用意する。				
成績評価方法	出席状況 (50%)、授業態度 (30%)、実技課題 (20%) を総合的に判断して評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：どんな運動遊び・スポーツを経験してきたか、自身の運動経験を振りかえっておく。 復習：授業で取り上げる運動遊び・スポーツの課題に取り組む。適宜プリント資料を配付するので各自復習する。				
教科書	なし				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明等			
第 2 回	ソフトバレーボール①	ソフトバレーボール① ルール・基本的な技能の確認 (円陣パスを中心に)			
第 3 回	伝承遊び①・ソフトバレーボール②	お手玉①・ソフトバレーボール② 基本的な技能の確認 (パス、スパイク)			
第 4 回	伝承遊び②・ソフトバレーボール③	お手玉②・ソフトバレーボール③ 試合			
第 5 回	伝承遊び③・ソフトバレーボール④	お手玉③・ソフトバレーボール④ 試合			
第 6 回	伝承遊び④・バスケットボール①	長なわとび①・バスケットボール① ルール・基本的な技能の確認 (パス・ドリブル・シュート)			
第 7 回	伝承遊び⑤・バスケットボール②	長なわとび②・バスケットボール② 基本的な技能の応用			
第 8 回	伝承遊び⑥・バスケットボール③	長なわとび③・バスケットボール③ 試合			
第 9 回	伝承遊び⑦・バスケットボール④	竹トンボ・バスケットボール④ 試合			
第 10 回	伝承遊び⑧・インドアサッカー①	コマ回し①・インドアサッカー① 基本的な技能の確認 (パス・シュート)			
第 11 回	伝承遊び⑨・インドアサッカー②	コマ回し②・インドアサッカー② 基本技能の確認 (トラップ・リフティング)			
第 12 回	運動遊び①・インドアサッカー③	紙ブーメラン・インドアサッカー③ 試合			
第 13 回	運動遊び②・インドアサッカー④	紙フリスビー①・インドアサッカー④ 試合			
第 14 回	運動遊び③・ドッジボール	紙フリスビー②・ドッジボール 投捕の動作の確認と試合			
第 15 回	まとめ	授業の振り返り			



国際

授業番号	B100140002				
科目名 (英語表記)	健康運動科学 (Health Sports Science)			こども専用 (A)	
担当者 (英語表記)	西野 明 (Akira Nishino)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講座は、教員免許取得に必要な必須科目である。本講座においては、色々な運動・スポーツの実践を通して、スキルの上達のみならず、運動・スポーツが心身に及ぼす影響などについても理解を深める。また、改めて自分自身の健康についても再認識し、生涯スポーツ実践者を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的には実技を行うので、それにふさわしい恰好を準備し、お互いが協力できるように、仲間と積極的にかかわる。				
成績評価方法	授業に参加するだけでなく、スキル上達や授業への取り組みなどを判断して評価する。				
基準	出席状況 (40%)、実技テスト (40%)、その他 (20%)				
授業の予習・復習	授業の予習としては、実施する運動の特徴などを理解し、スキル向上への取り組みが必要で、復習としては、授業内容を中心に実技の向上や知識習得を目指してほしい。				
教科書	なし				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業に関する詳細説明など			
第 2 回	ソフトバレーボール (1)	歴史、特性、ルールなどの理解			
第 3 回	ソフトバレーボール (2)	基本的スキル (パス、スパイクなど) の練習・実践			
第 4 回	ソフトバレーボール (3)	三段攻撃やブロックの練習・実践			
第 5 回	ソフトバレーボール (4)	試合形式による実践			
第 6 回	バレーボール (1)	基本的スキルの確認・実践			
第 7 回	バレーボール (2)	試合形式の実践 (1)			
第 8 回	バレーボール (3)	試合形式の実践 (2)			
第 9 回	バスケットボール (1)	基本的スキルの確認・実践			
第 10 回	バスケットボール (2)	応用的スキルの練習・実践			
第 11 回	バスケットボール (3)	試合形式の実践 (1)			
第 12 回	バスケットボール (4)	試合形式の実践 (2)			
第 13 回	運動・スポーツが人体に与える影響 (1)	身体的側面への影響			
第 14 回	運動・スポーツが人体に与える影響 (2)	心理的 (精神的) 側面への影響			
第 15 回	まとめ	実技・講義を通じた内容の理解			

国際

授業番号	B100140003				
科目名 (英語表記)	健康運動科学 (Health Sports Science)			こども専用 (B)	
担当者 (英語表記)	西野 明 (Akira Nishino)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講座は、教員免許取得に必要な必須科目である。本講座においては、色々な運動・スポーツの実践を通して、スキルの上達のみならず、運動・スポーツが心身に及ぼす影響などについても理解を深める。また、改めて自分自身の健康についても再認識し、生涯スポーツ実践者を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的には実技を行うので、それにふさわしい恰好を準備し、お互いが協力できるように、仲間と積極的にかかわる。				
成績評価方法	授業に参加するだけでなく、スキル上達や授業への取り組みなどを判断して評価する。				
基準	出席状況 (40%)、実技テスト (40%)、その他 (20%)				
授業の予習・復習	授業の予習としては、実施する運動の特徴などを理解し、スキル向上への取り組みが必要で、復習としては、授業内容を中心に実技の向上や知識習得を目指してほしい。				
教科書	なし				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業に関する詳細説明など			
第 2 回	ソフトバレーボール (1)	歴史、特性、ルールなどの理解			
第 3 回	ソフトバレーボール (2)	基本的スキル (パス、スパイクなど) の練習・実践			
第 4 回	ソフトバレーボール (3)	三段攻撃やブロックの練習・実践			
第 5 回	ソフトバレーボール (4)	試合形式による実践			
第 6 回	バレーボール (1)	基本的スキルの確認・実践			
第 7 回	バレーボール (2)	試合形式の実践 (1)			
第 8 回	バレーボール (3)	試合形式の実践 (2)			
第 9 回	バスケットボール (1)	基本的スキルの確認・実践			
第 10 回	バスケットボール (2)	応用的スキルの練習・実践			
第 11 回	バスケットボール (3)	試合形式の実践 (1)			
第 12 回	バスケットボール (4)	試合形式の実践 (2)			
第 13 回	運動・スポーツが人体に与える影響 (1)	身体的側面への影響			
第 14 回	運動・スポーツが人体に与える影響 (2)	心理的 (精神的) 側面への影響			
第 15 回	まとめ	実技・講義を通じた内容の理解			

国際

授業番号	B103800001				
科目名 (英語表記)	言語学入門 (Introduction to Linguistics)				
担当者 (英語表記)	黄麗華 (Ko Reika)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本語教育を視野に入れながら、言語全般に関する基本的な知識の理解・習得を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的には講義形式であるが、適宜さまざまな練習問題を解くことで理解を深めていく。 留学生で受講を希望する者は、日本語能力試験2級相当の日本語力を必要とするので、注意すること。				
成績評価方法 基準	定期試験7割、平常点3割。 3回以上欠席した者、または受講態度の良くない者は評価から外す。遅刻も認めない。				
授業の予習・復習	予習：授業時に指示する。 復習：授業時に指示する。				
教科書	教科書は使用せず、プリントを配布する。				
参考文献	授業時に適宜紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	概要			
第2回	音声学 1	人間の発する音声について その1			
第3回	音声学 2	人間の発する音声について その2			
第4回	音韻論 1	日本語で使われる音の概要			
第5回	音韻論 2	アクセントやイントネーション			
第6回	形態論 1	日本語の単語を中心に その1			
第7回	形態論 2	日本語の単語を中心に その2			
第8回	統語論 1	日本語の文法を中心に その1			
第9回	統語論 2	日本語の文法を中心に その2			
第10回	意味論 1	ことばや表現の意味について考える その1			
第11回	意味論 2	ことばや表現の意味について考える その2			
第12回	意味論 3	ことばや表現の意味について考える その3			
第13回	文字論 1	日本語の文字を中心に			
第14回	文字論 2	世界の文字			
第15回	まとめ	総まとめ			

国際

授業番号	B100060001				
科目名 (英語表記)	憲法 (The Japanese Constitution)			(B) 国際・こども	
担当者 (英語表記)	寛正 豊和 (Toyokazu Kakusho)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>憲法の概要は、すでに中学の「公民」や高等学校の「現代社会」「政治・経済」などで理解してきているように、国家の根本原則、すなわち国家の統治組織・統治作用や権利保障 (人権) のあり方について定めた基本となる法律です。したがって、憲法をさらに把握理解し、よりよい社会の創造にむけていくことは、国民としての必須の事柄です。</p> <p>本講義は、憲法の保障する原理や思想を近代憲法発展の歴史のなかで捉え、また、問題点などについて諸外国との比較や判例・学説を素材として平易に具体的に理解していくことを目的とします。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的に教科書にしたがって分かりやすい授業を展開していきますが、法学入門を併せて履修することが望ましいです。				
成績評価方法	平常点 (授業内に適応おこなうリアクションペーパー等や任意課題レポート) 30%、定期試験 70%で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	教科書等を読みよく理解できない点を把握し、確認しましょう。				
教科書	斉藤静敬・寛正豊和 共著『法学・憲法』八千代出版				
参考文献	各回の授業時において適宜紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	導入	憲法を学ぶ意義			
第 2 回	憲法 の 概念 (1)	憲法の意義・憲法の種類			
第 3 回	憲法 の 概要 (2)	法の支配、三権分立			
第 4 回	日本国憲法の成立過程	日本国憲法の内容の概観と理解			
第 5 回	憲法の制定・改正および変遷	憲法の制定・改正および変遷とは			
第 6 回	憲法改正と限界	改正限界説と改正無限界説			
第 7 回	憲法の基本原理	憲法の基本原理とは・基本的人権の種類			
第 8 回	国民主義	国民主義とは			
第 9 回	基本的人権 (1)	精神的自由 (思想、良心)			
第 10 回	基本的人権 (2)	精神的自由 (信教、学問、表現、集会、結社)			
第 11 回	基本的人権 (3)	経済的自由 (職業選択、財産権)			
第 12 回	基本的人権 (4)	人身の自由			
第 13 回	平和主義	平和主義とは			
第 14 回	統治機構・地方自治	統治機構とは・地方自治の基本原則、地方公共団体、地方自治特別法			
第 15 回	総括	まとめおよび質疑			

国際

授業番号	B100060002				
科目名 (英語表記)	憲法 (The Japanese Constitution)			(A) 国際・こども	
担当者 (英語表記)	寛正 豊和 (Toyokazu Kakusho)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>憲法の概要は、すでに中学の「公民」や高等学校の「現代社会」「政治・経済」などで理解してきているように、国家の根本原則、すなわち国家の統治組織・統治作用や権利保障（人権）のあり方について定めた基本となる法律です。したがって、憲法をさらに把握理解し、よりよい社会の創造にむけていくことは、国民としての必須の事柄です。</p> <p>本講義は、憲法の保障する原理や思想を近代憲法発展の歴史のなかで捉え、また、問題点などについて諸外国との比較や判例・学説を素材として平易に具体的に理解していくことを目的とします。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的に教科書にしたがって分かりやすい授業を展開していきますが、法学入門を併せて履修することが望ましいです。				
成績評価方法	平常点（授業内に適応おこなうリアクションペーパー等や任意課題レポート）30%、定期試験 70%で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	教科書等を読みよく理解できない点を把握し、確認しましょう。				
教科書	斉藤静敬・寛正豊和 共著『法学・憲法』八千代出版				
参考文献	各回の授業時において適宜紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	導入	憲法を学ぶ意義			
第 2 回	憲法 の 概念 (1)	憲法の意義・憲法の種類			
第 3 回	憲法 の 概要 (2)	法の支配、三権分立			
第 4 回	日本国憲法の成立過程	日本国憲法の内容の概観と理解			
第 5 回	憲法の制定・改正および変遷	憲法の制定・改正および変遷とは			
第 6 回	憲法改正と限界	改正限界説と改正無限界説			
第 7 回	憲法の基本原理	憲法の基本原理とは・基本的人権の種類			
第 8 回	国民主義	国民主義とは			
第 9 回	基本的人権 (1)	精神的自由 ( 思想、良心 )			
第 10 回	基本的人権 (2)	精神的自由 ( 信教、学問、表現、集会、結社 )			
第 11 回	基本的人権 (3)	経済的自由 ( 職業選択、財産権 )			
第 12 回	基本的人権 (4)	人身の自由			
第 13 回	平和主義	平和主義とは			
第 14 回	統治機構・地方自治	統治機構とは・地方自治の基本原則、地方公共団体、地方自治特別法			
第 15 回	総括	まとめおよび質疑			

国際		
授業番号	B100010001	
科目名 (英語表記)	口頭表現 (Colloquial Expression) 日本人 (B)	
担当者 (英語表記)	坂東 実子 (Jitsuko Bando) 対象学年 1 単位数 2	
授業のねらいと到達目標	大学で学んで行くうえで必要な、口頭表現 (スピーチ、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション) などを学ぶ。メディアセンターや KCN のシステムを実際に使えるようになる。 自分でテーマを決めて、アンケート調査・報告・考察したレポートを作成し、パワーポイントを用いてプレゼンテーションする。作成したレポートやスピーチスクリプトをまとめた個人文集を完成させる。	
授業の進め方 (履修条件など)	課題①「私のおすすめの本」紹介文、課題②「私のおすすめの本」スピーチスクリプト スピーチ (本の紹介) 課題③「お世話になった方への手紙」(敬語の練習)。手書きの手紙 課題④賛否の分かれるテーマについて、賛成の立論作成。ディスカッション 課題⑤賛否の分かれるテーマについて、反対の立論作成。ディスカッション ディベート (立論部分) 課題⑥「意見文」、課題⑦「アンケート調査報告レポート」 課題⑧「アンケート調査報告レポート」パワーポイント資料作成 プレゼンテーション。 添削された課題を受け取ったらすみやかに PC で清書してメール提出。 これらをまとめた個人文集を完成させる。	
成績評価方法・基準	上記の 4 つの課題への取り組みと、最後にまとめる個人文集の完成度で判定します。	
授業の予習・復習	予習は、授業で行っていることを考えてくる。 復習は、返却された課題を PC で清書してメールで送る。	
教科書	銅直信子・坂東実子著「大学生のための文章表現&口頭発表練習帳」(2013.03 国書刊行会) 初回授業時に、文集製本ファイル代あわせて 1300 円で販売します。	
参考文献	特になし	
回数	授業項目	授業内容
第 1 回	授業概要。課題①「私のおすすめの本」	授業概要。原稿用紙の使い方。メディアセンターで本を選び、紹介文の下書きを書く。A「だ・である体」
第 2 回	課題①「私のおすすめの本」	ことばのドリル (主観・客観表現の書き分け、敬体・常体の書き分け) 紹介文 (だ・である体)。引用のしかた。4 段構成。
第 3 回	課題②「私のおすすめの本」スピーチスクリプト	前週に書いた紹介文 (だ・である体) をスピーチスクリプト (です・ます体) に書き換える。 スピーチのポイント。練習。
第 4 回	課題②「私のおすすめの本」スピーチ・審査	順にスピーチし、審査用紙に記入・提出。
第 5 回	課題③「お世話になった方への手紙」(敬語を用いた手紙文) 下書き	「敬語のドリル」。手紙文の構成。下書き
第 6 回	課題③「お世話になった方への手紙」(手書き清書)	「敬語のドリル」。「お世話になった方への手紙」添削返却されたものを手書きで清書する。
第 7 回	課題④「意見の主張」(賛成側立論) 課題⑦「アンケート調査レポート」の準備	賛否の分かれる新聞記事についてグループディスカッションし、根拠を三つあげて賛成側立論をする。 「アンケート調査報告レポート」の準備を進める。
第 8 回	課題⑤「意見の主張」(反対側立論) 課題⑦「アンケート調査レポート」準備	前週と同じ新聞記事についてグループディスカッションし、根拠を三つあげて反対立論をする。 「アンケート調査報告レポート」の準備をする。
第 9 回	課題④⑤「意見の主張」模擬ディベート。 課題⑦「アンケート調査報告レポート」の準備を進める。	課題④⑤について、グループを賛成側・反対側の二つにわけて模擬ディベートを行う。 模擬ディベートを見て、投票する。 「アンケート調査報告レポート」の準備を進める。
第 10 回	課題⑥「意見文」 課題⑦「アンケート調査レポート」レポート準備	④⑤で賛成意見・反対意見を整理したものを踏まえて、自分の意見を 5 段構成で書く意見文。 「アンケート調査報告レポート」準備。
第 11 回	課題⑦「アンケート調査レポート」集計・考察	「アンケート調査報告レポート」設計図作成
第 12 回	課題⑦「アンケート調査レポート」作成	レポートを書く
第 13 回	課題⑧「アンケート調査報告レポート」パワーポイント資料作成、文集作成	PC のある教室で、課題⑧パワーポイント資料を作成。 文集 (表紙、目次、課題①～⑧、あとがき) を作成する。
第 14 回	文集作成続き	PC のある教室で、文集を完成させ提出する。 口頭発表 (レポートのプレゼンテーション) の練習をする。
第 15 回	口頭発表発表会、まとめの授業	パワーポイントを使って、アンケート調査レポートを口頭発表。/ 発表の後、完成した文集の返却を受ける。

国際

授業番号	B100010003		
科目名 (英語表記)	口頭表現 (Colloquial Expression)		日本人 (C)
担当者 (英語表記)	櫻木 紀子 (Noriko Sakuragi)	対象学年	1
		単位数	2

授業のねらいと到達目標	大学の授業に必要な話し方 (スピーチ他) や表現力を学ぶ。発表のテーマを自分で決め、資料の整理・要約更に自分の考えを伝える原稿を作成する。パワーポイントを使って発表する。スピーチ原稿をまとめた自分の文集を作る。
授業の進め方 (履修条件など)	(1) KCNで紹介された本 j を読み、自分の「おすすめの本」として発表。 (2) 「敬語」を使ったシナリオを作成、発表。 (3) アンケート調査報告のプレゼンテーション。 (4) 上記 3 つの課題の原稿をまとめて自分の文集を作る。
成績評価方法	上記 (1) から (3) の課題への取り組みと (4) の完成度によって評価する。
基準	
授業の予習・復習	予習：授業内で行ったことを考える。 復習：返却された課題を PC で清書し提出原稿にする。
教科書	学期の始めに教室で販売する。「大学生のための文章表現 & 口頭発表練習帳」
参考文献	なし。但し、授業中に適当な参考文献が紹介されることもある。

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	オリエンテーション。 課題 (1) の 1 : 本の選択と紹介文	授業について説明する。普通体と丁寧体の練習。 メディアセンターで本を選ぶ。「紹介文」を普通体で書く。
第 2 回	課題 (1) の 2 の 1 : スピーチ原稿を書く	課題 (1) の 1 を丁寧体で書く。課題 (1) の 1, 2 は PC で清書して締め切りまでに提出する。
第 3 回	課題 (1) の 2 の 2 : 発表練習。 課題 (3) の 1 : アンケート調査報告計画書作成	発表の練習。アンケート調査報告の計画書を作成し、提出する。アンケート対象は敬愛大学国際学部 1 年生とする。
第 4 回	課題 (1) の 2 の 3 : 発表。互いに審査する。 課題 (3) の 2 : 計画書を見直す。	発表を聞き審査する。審査結果を用紙に書き、提出する。 アンケート調査計画書を練り直す。
第 5 回	課題 (1) の 2 の 3 : 発表の続き 課題 (3) の 3 : 質問項目を検討作成する。	発表：前週の続き。 アンケート調査報告の質問項目と選択肢を検討し作成する。
第 6 回	課題 (2) 「敬語シナリオ」について知る。 課題 (3) の 4 : アンケート調査	シナリオ作成のグループ決定。グループで場面や筋立てを考える。全員のアンケートに回答する。
第 7 回	課題 (2) の 2 : シナリオ作成 課題 (3) の 5 : アンケート集計	グループでシナリオ作成。 アンケート集計結果から各自の問題への解答抽出、表などを作成する。
第 8 回	課題 (2) の 3 : 発表練習 課題 (3) の 6 : 結果考察	シナリオ推敲と発表練習。 アンケート結果と事前予想比較。予想通り、予想外の理由を考える。
第 9 回	課題 (2) の 4 : 発表と審査。 課題 (3) の 7 : アンケート調査報告書作成	シナリオを上演し、互いの発表を審査する。シナリオを PC 教室で作成し締め切りまでに提出する。／／報告書のハンドアウトを作成する。
第 10 回	課題 (2) の 4 : 発表の続き。 課題 (3) の 7 : 報告書作成の続き	上演の発表と審査、続き。シナリオを PC で清書し締め切りまでに提出。 ハンドアウト完成。清書して提出。
第 11 回	課題 (3) 8 : 調査報告の発表資料作成。	PC 教室で発表資料を作成。パワーポイントを使う練習。
第 12 回	課題 f (3) の 8 : 報告書作成の続き	PC 教室で発表資料作成、提出。
第 13 回	課題 (4) : 文集作成	PC 教室で文集作成。表紙、目次、課題 (1) の 1, 2。課題 (2)。課題 (3) 報告書、パワーポイント資料。あとがき。
第 14 回	課題 (4) : 文集作成続き。	PC 教室で文集作成。完成させる。
第 15 回	課題 (4) 発表。 今学期を振り返る。	パワーポイントを使って課題 (4) の発表。 発表後文集返却。

国際

授業番号	B100010004		
科目名 (英語表記)	口頭表現 (Colloquial Expression)		留学生
担当者 (英語表記)	本多 久美子 (Kumiko Honda)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、身近なテーマについて話したり書いたりする練習をしながら、大学生活に必要な "発表" や "スピーチ" を行うことができるような日本語力を身につけることを目標にしている。 また、聞きやすい、わかりやすい日本語を話すために、発音練習や聞き取り練習も随時行う。		
授業の進め方 (履修条件など)	(1) 発音練習、および、聞き取り練習 (2) テーマについて話し合う (3) 内容をまとめて発表する (4) 他の人の発表について自分の意見を述べる		
成績評価方法	毎回の課題作成 (30%) 発表 (40%) 作文集 (30%)		
基準			
授業の予習・復習	予習：発表内容について調査をし、発表の準備をしておく。 復習：発表した内容をワープロで清書して、提出する。		
教科書	毎回、プリントを配るので、なくさないようにファイルしておくこと。		
参考文献	授業内で指示する。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	説明 I 自己紹介と他者紹介	発表課題「自分を紹介する」	
第 2 回	説明 II 意味を説明する	発表課題「私の生まれた町」	
第 3 回	説明 III 理由を説明する	発表課題「〇〇はなぜ人気があるのか」	
第 4 回	第 1 回発表会の準備	発表課題「私の大切なもの」	
第 5 回	第 1 回発表会	発表課題「私の大切なもの」	
第 6 回	説明 V 状態を説明する (1)	発表課題「ネガボ辞典」を作ろう①	
第 7 回	説明 VI 状態を説明する (2)	発表課題「ネガボ辞典」を作ろう②	
第 8 回	第 2 回発表会の準備	スピーチのための発音練習	
第 9 回	第 2 回発表会	発表課題「私の生まれた町」	
第 10 回	意見 I 短く自分の意見を述べる	発表課題「〇〇と〇〇とどちらが重要か」	
第 11 回	意見 II わかりやすく自分の意見を述べる	発表課題「〇〇はなぜ〇〇なのか」	
第 12 回	意見 III 段落構成を考えて自分の意見を述べる	発表課題「〇〇の是非」	
第 13 回	意見 IV 対立する 2 つの意見を対比させる	発表課題「〇〇の功罪」	
第 14 回	第 3 回発表会の準備	発表用スライドとハンドアウトの作成と発表練習	
第 15 回	第 3 回発表会	発表課題「はじめての〇〇」	



国際

授業番号	B100010005				
科目名 (英語表記)	口頭表現 (Colloquial Expression)			(B) こども専用	
担当者 (英語表記)	山口 政之 (Masayuki Yamaguchi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	大学生活及び教育実習で求められる口語表現能力を高めるために、様々な聞く話す活動を行います。また、ライセンス取得を支援するために、問題集等を適宜活用しますので、進んで挑戦してください。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回、次のように進めます。①出席確認、②小テスト・課題発表、③本時の課題。電子辞書は必要ですが、原則として携帯・スマホの使用は認めません。				
成績評価方法	出席の状況、課題への取り組み、発言、定期試験等をふまえ総合的に評価します。自己責任による遅刻は減点し、欠席4回は履修放棄とみなします。				
授業の予習・復習	発表の準備等、授業で出た課題は、次の時間に各自が発表するので必ず取り組んでください。				
教科書	適宜、印刷物を配布します。				
参考文献	『伝える力』池上彰、PHP ビジネス新書 (この著者の児童向けの本も読んでおきたい)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	口頭表現と文章表現の授業の関連を理解し、発表のための準備に対する心構えをもつ。			
第2回	スピーチ1	自己紹介のための資料を集め、主題が明確であるスピーチをする			
第3回	スピーチ2	自己紹介の練習をして、発表原稿を修正する。			
第4回	スピーチ3	集めた資料を提示しながら自己紹介をする。(実技試験)			
第5回	スピーチ4	他己紹介の目的、方法を理解し、実際に行う。			
第6回	プレゼン1	人物紹介の要点を理解し、発表の準備をする。			
第7回	プレゼン2	歴史上の人物を一人取り上げて、2分間で紹介する。(実技試験)			
第8回	プレゼン3	都道府県を紹介する際の要点を理解し、発表の準備をする。			
第9回	プレゼン4	都道府県を一つ取り上げて、2分間で紹介する。(実技試験)			
第10回	ディベート1	マイクロディベートを行い、立論・反論・審判の役割を理解する。			
第11回	ディベート2	マイクロディベートを行い、立論・反論・審判の役割に慣れる。			
第12回	ディベート3	ディベートの形式を理解する。			
第13回	ディベート4	大学生生活を論題とし、実際にディベートを行う。			
第14回	ディベート5	社会問題を論題とし、実際にディベートを行う。			
第15回	まとめ	自分の口頭表現力を今後いかにして伸ばしていくか見通しをもつ。			

国際

授業番号	B100010006				
科目名 (英語表記)	口頭表現 (Colloquial Expression)			日本人 (A)	
担当者 (英語表記)	坂東 実子 (Jitsuko Bando)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>大学で学んで行くうえで必要な、口頭表現 (スピーチ、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション) などを学ぶ。メディアセンターや KCN のシステムを実際に使えるようになる。</p> <p>自分でテーマを決めて、アンケート調査・報告・考察したレポートを作成し、パワーポイントを用いてプレゼンテーションする。作成したレポートやスピーチスクリプトをまとめた個人文集を完成させる。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>課題①「私のおすすめの本」紹介文, 課題②「私のおすすめの本」スピーチスクリプト スピーチ (本の紹介)</p> <p>課題③「お世話になった方への手紙」(敬語の練習)。 手書きの手紙</p> <p>課題④賛否の分かれるテーマについて、賛成の立論作成。ディスカッション</p> <p>課題⑤賛否の分かれるテーマについて、反対の立論作成。ディスカッション ディベート (立論部分)</p> <p>課題⑥「意見文」, 課題⑦「アンケート調査報告レポート」</p> <p>課題⑧「アンケート調査報告レポート」パワーポイント資料作成 プレゼンテーション。</p> <p>添削された課題を受け取ったらすみやかに PC で清書してメール提出。</p> <p>これらをまとめた個人文集を完成させる。</p>				
成績評価方法・基準	上記の 4 つの課題への取り組みと、最後にまとめる個人文集の完成度で判定します。				
授業の予習・復習	<p>予習は、授業で行っていることを考えてくる。</p> <p>復習は、返却された課題を PC で清書してメールで送る。</p>				
教科書	<p>銅直信子・坂東実子著「大学生のための文章表現&amp;口頭発表練習帳」(2013.03 国書刊行会)</p> <p>初回授業時に、文集製本ファイル代あわせて 1300 円で販売します。</p>				
参考文献	特になし				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	授業概要。課題①「私のおすすめの本」	授業概要。原稿用紙の使い方。メディアセンターで本を選び、紹介文の下書きを書く。A [だ・である体]			
第 2 回	課題①「私のおすすめの本」	ことばのドリル (主観・客観表現の書き分け、敬体・常体の書き分け) 紹介文 (だ・である体)。引用のしかた。4 段構成。			
第 3 回	課題②「私のおすすめの本」スピーチスクリプト	前週に書いた紹介文 (だ・である体) をスピーチスクリプト (です・ます体) に書き換える。スピーチのポイント。練習。			
第 4 回	課題②「私のおすすめの本」スピーチ・審査	順にスピーチし、審査用紙に記入・提出。			
第 5 回	課題③「お世話になった方への手紙」(敬語を用いた手紙文) 下書き	「敬語のドリル」。手紙文の構成。下書き			
第 6 回	課題③「お世話になった方への手紙」(手書き清書)	「敬語のドリル」。「お世話になった方への手紙」添削返却されたものを手書きで清書する。			
第 7 回	課題④「意見の主張」(賛成側立論) 課題⑦「アンケート調査レポート」の準備	賛否の分かれる新聞記事についてグループディスカッションし、根拠を三つあげて賛成側立論をする。 「アンケート調査報告レポート」の準備を進める。			
第 8 回	課題⑤「意見の主張」(反対側立論) 課題⑦「アンケート調査レポート」の準備	前週と同じ新聞記事についてグループディスカッションし、根拠を三つあげて反対立論をする。 「アンケート調査報告レポート」の準備をする。			
第 9 回	課題④⑤「意見の主張」模擬ディベート。課題⑦「アンケート調査報告レポート」の準備を進める。	課題④⑤について、グループを賛成側・反対側の二つにわけて模擬ディベートを行う。模擬ディベートを見て、投票する。 「アンケート調査報告レポート」の準備を進める。			
第 10 回	課題⑥「意見文」 課題⑦「アンケート調査レポート」レポート準備	④⑤で賛成意見・反対意見を整理したものを踏まえて、自分の意見を 5 段構成で書く意見文。 「アンケート調査報告レポート」準備。			
第 11 回	課題⑦「アンケート調査レポート」集計・考察	「アンケート調査報告レポート」設計図作成			
第 12 回	課題⑦「アンケート調査レポート」作成	レポートを書く			
第 13 回	課題⑧「アンケート調査報告レポート」パワーポイント資料作成, 文集作成	PC のある教室で、課題⑧パワーポイント資料を作成。 文集 (表紙、目次、課題①～⑧、あとがき) を作成する。			
第 14 回	文集作成続き	PC のある教室で、文集を完成させ提出する。 口頭発表 (レポートのプレゼンテーション) の練習をする。			
第 15 回	口頭発表発表会、まとめの授業	パワーポイントを使って、アンケート調査レポートを口頭発表。/ 発表の後、完成した文集の返却を受ける。			

# 国際

授業番号	B100010007				
科目名 (英語表記)	口頭表現 (Colloquial Expression)			(A) こども専用	
担当者 (英語表記)	山口 政之 (Masayuki Yamaguchi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	大学生活及び教育実習で求められる口頭表現能力を高めるために、様々な聞く話す活動を行います。また、ライセンス取得を支援するために、問題集等を適宜活用しますので、進んで挑戦してください。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回、次のように進めます。①出席確認、②小テスト・課題発表、③本時の課題。電子辞書は必要ですが、原則として携帯・スマホの使用は認めません。				
成績評価方法	出席の状況、課題への取り組み、発言、定期試験等をふまえ総合的に評価します。自己責任による遅刻は減点し、欠席4回は履修放棄とみなします。				
授業の予習・復習	発表の準備等、授業で出た課題は、次の時間に各自が発表するので必ず取り組んでください。				
教科書	適宜、印刷物を配布します。				
参考文献	『伝える力』池上彰、PHP ビジネス新書 (この著者の児童向けの本も読んでおきたい)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	口頭表現と文章表現の授業の関連を理解し、発表のための準備に対する心構えをもつ。			
第2回	スピーチ1	自己紹介のための資料を集め、主題が明確であるスピーチをする			
第3回	スピーチ2	自己紹介の練習をして、発表原稿を修正する。			
第4回	スピーチ3	集めた資料を提示しながら自己紹介をする。(実技試験)			
第5回	スピーチ4	他己紹介の目的、方法を理解し、実際に行う。			
第6回	プレゼン1	人物紹介の要点を理解し、発表の準備をする。			
第7回	プレゼン2	歴史上の人物を一人取り上げて、2分間で紹介する。(実技試験)			
第8回	プレゼン3	都道府県を紹介する際の要点を理解し、発表の準備をする。			
第9回	プレゼン4	都道府県を一つ取り上げて、2分間で紹介する。(実技試験)			
第10回	ディベート1	マイクロディベートを行い、立論・反論・審判の役割を理解する。			
第11回	ディベート2	マイクロディベートを行い、立論・反論・審判の役割に慣れる。			
第12回	ディベート3	ディベートの形式を理解する。			
第13回	ディベート4	大学生生活を論題とし、実際にディベートを行う。			
第14回	ディベート5	社会問題を論題とし、実際にディベートを行う。			
第15回	まとめ	自分の口頭表現力を今後いかにして伸ばしていくか見通しをもつ。			

国際							
授業番号	B104140001						
科目名 (英語表記)	国語 (Japanese language)				(B)		
担当者 (英語表記)	畑中 千晶 (Chiaki Hatanaka)			対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>国語は小学校で学ぶあらゆる科目の基礎となります。子どもたちの国語力を十分に伸ばすことのできる教員を目指し、</p> <p>①教科に必要な国語の専門知識</p> <p>②教員にふさわしい国語運用能力</p> <p>この二つを身につけることを到達目標として本講義を進めていきます。</p>						
授業の進め方 (履修条件など)	講義中心ですが、自発的に考える力を伸ばすため、適宜、グループ討議なども行っていきます。						
成績評価方法	小テスト (25%)、クラス内活動への取り組み (25%)、期末試験 (50%)						
基準							
授業の予習・復習	<p>予習：テキスト、配付資料に目を通す。小テスト準備。</p> <p>復習：宿題として課されたタスクに取り組む。</p>						
教科書	鈴木真喜男 / 長尾勇 (2012) 『新編 日本語要説』学芸図書 (修正版第2刷)						
参考文献	このほか適宜配布資料を追加する。						
	授業時に適宜指示する。						
回数	授業項目	授業内容					
第1回	イントロダクション	授業の進め方、評価方法など					
第2回	総論「言葉というもの」	基本的な考え方、要約作成					
第3回	総論「言葉の種々相」	言葉の分析方法					
第4回	音声	音が出る仕組み					
第5回	音声	鼻音化・わたり・連音などの諸現象					
第6回	意味	言葉の意味とは					
第7回	語彙	単語量、語種 (和語・漢語・外来語)、位相、新語					
第8回	語彙	教科書の設問分析 (和語・漢語・外来語)					
第9回	語彙	グループに分かれて考察・発表					
第10回	文法	代表的な文法論、文・文節・品詞					
第11回	文法	考える楽しみを知る					
第12回	敬語	新分類について知る、実際の運用場面に即した考察					
第13回	文字	六書、仮名、ローマ字					
第14回	方言	標準語と共通語、方言とは、共通語と方言					
第15回	書写	書写教育の要点					

国際							
授業番号	B104140002						
科目名 (英語表記)	国語 (Japanese language)				(A)		
担当者 (英語表記)	畑中 千晶 (Chiaki Hatanaka)			対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>国語は小学校で学ぶあらゆる科目の基礎となります。子どもたちの国語力を十分に伸ばすことのできる教員を目指し、</p> <p>①教科に必要な国語の専門知識 ②教員にふさわしい国語運用能力</p> <p>この二つを身につけることを到達目標として本講義を進めていきます。</p>						
授業の進め方 (履修条件など)	講義中心ですが、自発的に考える力を伸ばすため、適宜、グループ討議なども行っていきます。						
成績評価方法	小テスト (25%)、クラス内活動への取り組み (25%)、期末試験 (50%)						
基準							
授業の予習・復習	<p>予習：テキスト、配付資料に目を通す。小テスト準備。</p> <p>復習：宿題として課されたタスクに取り組む。</p>						
教科書	鈴木真喜男 / 長尾勇 (2012) 『新編 日本語要説』学芸図書 (修正版第2刷)						
参考文献	このほか適宜配布資料を追加する。 授業時に適宜指示する。						
回数	授業項目	授業内容					
第1回	イントロダクション	授業の進め方、評価方法など					
第2回	総論「言葉というもの」	基本的な考え方、要約作成					
第3回	総論「言葉の種々相」	言葉の分析方法					
第4回	音声	音が出る仕組み					
第5回	音声	鼻音化・わたり・連音などの諸現象					
第6回	意味	言葉の意味とは					
第7回	語彙	単語量、語種 (和語・漢語・外来語)、位相、新語					
第8回	語彙	教科書の設問分析 (和語・漢語・外来語)					
第9回	語彙	グループに分かれて考察・発表					
第10回	文法	代表的な文法論、文・文節・品詞					
第11回	文法	考える楽しみを知る					
第12回	敬語	新分類について知る、実際の運用場面に即した考察					
第13回	文字	六書、仮名、ローマ字					
第14回	方言	標準語と共通語、方言とは、共通語と方言					
第15回	書写	書写教育の要点					

国際					
授業番号	B101830001				
科目名 (英語表記)	国際移動論 (International Migration)				
担当者 (英語表記)	村川 庸子 (Yoko Murakawa)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	現代の国際的労働力移動の問題を、人口学、経済学、政治学、社会学、比較文化・社会など様々な角度から考察する。「国境」「国家」の持つ意味もあわせて考えていきたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義中心の授業となるが、統計・地図・新聞雑誌記事・映像資料などを用い、その扱い方の習得も目指したい。コーネル式ノート作成法を用いて成績評価を行う。				
成績評価方法基準	コーネル式ノート作成法を用いて成績評価を行う。(確認テスト 30%; ノートのコメント欄を中心に 70%) 尚、主体的な学びを奨励する意味で、自主的に提出されるレポートなどは加点の対象とする。				
授業の予習・復習	予習: 授業の参考になる新聞雑誌記事などを事前に配布し、授業のはじめに簡単な確認テストを行う。 復習: ノートの「コメント」欄の記述を重視する。				
教科書	特に使用しない。				
参考文献	必要に応じ資料を配布する				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	導入	講義の進め方			
第 2 回	統計に見る「国際的労働力移動」①	伝統的移民国家と近年の移民国家			
第 3 回	統計に見る「国際的労働力移動」②	人口の地域的偏在と移動			
第 4 回	現代移民事情①	移民をめぐる諸問題—イギリス・フランスの場合			
第 5 回	現代移民事情②	移民をめぐる諸問題—ドイツの場合			
第 6 回	immigration の意味	入移民のメリット・デメリット—アメリカの場合			
第 7 回	emigration の意味	出移民のメリット・デメリット—フィリピンの場合			
第 8 回	移民の法的地位	外国人・市民・非合法移民—米国の市民権制度			
第 9 回	ナショナル・アイデンティティ	移民とアイデンティティ			
第 10 回	グローバル化時代の越境	グローバル化の時代の国際移動			
第 11 回	日本の移民送出の歴史	日本と国際労働力移動—移民送出の歴史			
第 12 回	日本移民受入の歴史と現状	日本と国際労働力移動—移民受入政策の現状			
第 13 回	日本の国際結婚	日本と国際労働力移動—外国人花嫁			
第 14 回	ポスト 9. 1 1 の移民政策	移民とナショナル・セキュリティ			
第 15 回	総括	まとめ			

国際					
授業番号	B102360001				
科目名 (英語表記)	国際会計 (International Accounting)				
担当者 (英語表記)	織井 啓介 (Keisuke Orii)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	「英語・パソコン・国際会計」は現代ビジネスパーソン「三種の神器」と言われます。①英文簿記の基本、②IFRS (国際財務報告基準) の概要を学び、国際化時代に必要な会計の基礎知識が身につきます。①②の学習を通じて、英文表記の企業決算書が読めるようになります。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義とプリントによる簡単な演習が中心です。簿記会計の基礎知識 (「簿記会計基礎」受講程度) とビジネス英語の基礎力のあることが望ましいです。電卓を常備してください。				
成績評価方法	①期末試験 (教場試験またはレポート) 50%、②平常点 50%が評価の目安です。				
基準					
授業の予習・復習	予習：配布プリントを予習しましょう。 復習：練習問題を自宅で演習し、次の授業時間に答え合わせをしましょう。				
教科書	とくに使用しません。				
参考文献	東京商工会議所編『BATIC 公式テキスト』中央経済社、各年版。 Hennie van Greuning, International Financial Reporting Standards: A Practical Guide, The World Bank, 2009.				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	「国際会計」講義の概要	講義スケジュールの説明等			
第2回	第1部：英文簿記①	簿記の基礎概念			
第3回	第1部：英文簿記②	取引と仕訳			
第4回	第1部：英文簿記③	試算表			
第5回	第1部：英文簿記④	決算整理			
第6回	第1部：英文簿記⑤	精算表			
第7回	第2部：国際会計①	IFRS の概要			
第8回	第2部：国際会計②	財務諸表表示			
第9回	第2部：国際会計③	キャッシュフロー計算書			
第10回	第2部：国際会計④	連結財務諸表			
第11回	第2部：国際会計⑤	財政状態計算書①資産の会計基準			
第12回	第2部：国際会計⑥	財政状態計算書②負債の会計基準			
第13回	第2部：国際会計⑦	包括利益計算書①収益の認識基準			
第14回	第2部：国際会計⑧	包括利益計算書②研究開発費他			
第15回	「国際会計」講義のまとめ	総括と補遺事項			

国際						
授業番号	B100040001					
科目名 (英語表記)	国際関係入門 (International Relations)				(A)	
担当者 (英語表記)	榎田 久代 (Hisayo Kushida)	対象学年	1	単位数	2	
授業のねらいと到達目標	授業では、第2次世界大戦後の国際関係を政治学、経済学、歴史学、社会学の観点から扱います。様々な意味でグローバル化が進行する今日の世界が抱える問題について多角的に理解するだけでなく、みなさんがこれから4年間本学部で国際学を学ぶ意味を考えることを目的としています。					
授業の進め方 (履修条件など)	配布したプリントを中心に授業を進めます。国際関係論は、国際学部の中でも数少ない必修科目です。そのため、履修条件を厳しくします。3分の2以上出席していない場合は、期末試験受験資格はありません。					
成績評価方法	期末試験 70%と小レポート (授業内) および小テスト (KCN を利用) 30%により総合的に評価します。					
基準						
授業の予習・復習	期末試験 80%と授業内に適宜行う小レポート 20%。					
教科書	なし					
参考文献	原 彬久編『国際関係学 講義 [第四版]』(有斐閣、2011年)。他。					
回数	授業項目	授業内容				
第1回	ガイダンス	国際関係を見る視点				
第2回	国際関係のトピック	ビデオ鑑賞				
第3回	国際関係理解の基礎 (1)	国際関係のアクター				
第4回	国際関係理解の基礎 (2)	国際政治からみた国際関係				
第5回	国際関係理解の基礎 (3)	国際経済からみた国際関係				
第6回	国際関係理解の基礎 (4)	南北問題				
第7回	国際関係理解の基礎 (5)	国際法からみた国際関係				
第8回	国際関係理解の基礎 (6)	国際連合				
第9回	国際関係理解の基礎 (7)	人の移動からみた国際関係				
第10回	冷戦という時代 (1)	第2次世界大戦後の世界秩序				
第11回	冷戦という時代 (2)	米ソ対立 (ビデオ鑑賞)				
第12回	冷戦後の世界 (1)	民主化と民族紛争				
第13回	冷戦後の世界 (2)	テロの時代				
第14回	冷戦後の世界 (3)	グローバリゼーション				
第15回	期末試験	期末試験、試験後に問題の解説				



国際						
授業番号	B100040002					
科目名 (英語表記)	国際関係入門 (International Relations)				(B)	
担当者 (英語表記)	高田 洋子 (Yoko Takada)	対象学年	1	単位数	2	
授業のねらいと到達目標	現代世界の仕組みを理解する上で、最も大切な基礎単位である「国民国家」について学びます。近代社会における国民国家システムの起源は西欧にあります。その概念の定義、歴史的展開、メリット・デメリット、現在のグローバリゼーションのなかの国民国家・民族、トランスナショナルな動きなどについても基礎的知識を身につけましょう。					
授業の進め方 (履修条件など)	世界地図を広げてみましょう。世界中が国境線で区切られています。これらの境界線はいつ、どのように決まってきたのでしょうか？ 授業では知識の習得と同時に、問題発見的なアプローチを重視します。					
成績評価方法 基準	授業への取り組みの状態 (出席回数、授業参加の態度、課題提出など)、期末試験の結果を通して、成績を評価します。					
授業の予習・復習	予習：国内外のさまざまな問題や紛争にも興味をもち、新聞を読みましょう。 復習：授業内容を十分に理解してもらうために、しばしば宿題の提出を求めます。					
教科書	指定しません。					
参考文献	百瀬宏著『国際関係学』東京大学出版会ほか。					
回数	授業項目	授業内容				
第1回	序：現代はどんな時代か	今、世界で何が起きているだろうか？				
第2回	現代世界の課題	19世紀、20世紀、そして21世紀へ				
第3回	近代の幕開け	近代国民国家の起源：フランス型 (西欧型)				
第4回	フランス革命の国	(ベルサイユ宮殿の一日)				
第5回	ヨーロッパ世界の国際関係	国民国家の類型と国家の安全保障 勢力均衡の原理				
第6回	ヨーロッパ近代の拡大	資本主義、植民地、移民国家アメリカ、移動する人びと				
第7回	国民国家と民主主義	民主主義の起源、発展、そして逸脱				
第8回	帝国主義とは何か	多様な非ヨーロッパ世界との対峙、侵略				
第9回	帝国主義と民族 (1)	植民地ナショナリズムと独立のための戦い				
第10回	帝国主義と民族 (2)	国民国家形成の課題 内なる帝国：多民族国家の課題				
第11回	戦争はなぜ起こるのか	20世紀における2つの世界大戦 戦後の地域紛争				
第12回	冷戦体制とその溶解	<核> を持った人類				
第13回	世界システムの変化	グローバリゼーション 新しい巨大国家の台頭				
第14回	21世紀 国民国家の内部構造	グローバルとローカルの交錯 新しい地域主義・地域協力を求めて				
第15回	まとめ：世界平和への貢献	変わりゆく国の姿 拡大する民主化 連携する市民社会				

# 国際

授業番号	B101720001				
科目名 (英語表記)	国際協力入門 (Introduction to International Cooperation)				
担当者 (英語表記)	水口 章 (Akira Mizuguchi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本授業では、国際協力の基本認識を深め、国際協力の仕組みや動向について学びます。そのことで、国際協力が身近なものであるとの認識を持ち、実践するための基礎的知識を修得することが到達目標です。				
授業の進め方 (履修条件など)	各回授業は基本的には講義形式をとります。また、授業を3区分し、1、2の区分の終了時に理解度を確認するためのグループ討論を行います。また第3区分はグループ別のテーマ発表とします。				
成績評価方法	学習態度 (課題レポート、討論参加) 20%、試験 80%で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。 復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べ、理解を深めてください。				
教科書	特に指定しませんが、適宜プリントを配布します。				
参考文献	高木保興編『国際協力学』、東京大学出版会、2004年6月 内海成治編『国際協力論を学ぶ人のために』世界思想社、2005年1月				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	今なぜ国際協力が必要か	国際社会に生きる者としての責任と分担について			
第2回	国際政治・経済システムの潮流	「フラット化」「パワー・シフト」について			
第3回	貧困問題の観点から	貧困と経済成長の関係について			
第4回	環境問題の観点から	開発と環境の関係について			
第5回	グループ討論「自分ができる国際協力」	「思いやり」という社会行動を考える			
第6回	政府開発援助	政府間援助の仕組みについて			
第7回	復興支援	紛争後の平和構築について			
第8回	民間ベースの国際協力	民間の貿易、投資、援助での役割について			
第9回	国際協力のマネジメント	異文化組織マネジメントのあり方について			
第10回	グループ討論「国際機関の役割の限界」	NGO組織の現状と問題点を考える			
第11回	技術協力	技術移転に関するグループ発表			
第12回	教育協力	人間開発にかかわる協力に関するグループ発表			
第13回	保健医療協力	保健医療協力に関するグループ発表			
第14回	文化協力	文化協力 (遺跡保存など) に関するグループ発表			
第15回	グループ討論「国際協力の意義」	どのような国際協力が望ましいかを考える			

# 国際

授業番号	B101730001				
科目名 (英語表記)	国際協力の理念と実践 (Idea and Practice of International Cooperation)				
担当者 (英語表記)	清水 俊弘 (Toshihiro Shimizu)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発 (貧困) 問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。 この講座では政府、非政府の立場で行われている国際協力活動に着目し、具体例を元に、問題の捉え方、関わり方に関する多様な視点を養うことを目標とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタンなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。				
成績評価方法	期末考査 (小論文またはレポート) 70%。平常授業への参加度、課題提出など 30%。				
基準					
授業の予習・復習	各授業の前に予備知識として必要な事柄を説明し、事前の準備をしてもらう。				
教科書	日本国際ボランティアセンター著『NGOの選択』めこん 2005年				
参考文献	『クラスター爆弾なんてもういらぬ』合同出版 2008年				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	本講座受講に際して	オリエンテーション			
第2回	世界各地の紛争と国際協力①	アフガニスタンにおける「対テロ戦争」と復興協力の実態について考える。その1。			
第3回	世界各地の紛争と国際協力②	アフガニスタンにおける...、その2。			
第4回	世界各地の紛争と国際協力③	イラク戦争と国際社会の関わり、その1。			
第5回	世界各地の紛争と国際協力④	イラク戦争と...、その2。			
第6回	世界各地の紛争と国際協力⑤	パレスチナ問題と国際社会の関わり			
第7回	紛争予防を考える	東アジアにおける平和と私たち			
第8回	紛争後の開発協力を考える①	カンボジアの復興過程と開発、その1			
第9回	紛争後の開発協力を考える②	カンボジアの...、その2			
第10回	紛争後の開発協力を考える③	ラオスにおける開発問題、その1			
第11回	紛争後の開発協力を考える④	ラオスにおける...、その2			
第12回	国際的課題に取り組む①	ミレニアム開発目標とHIV/AIDS①			
第13回	国際的課題に取り組む②	南アフリカにおけるHIV/AIDSとNGOの取り組み			
第14回	無差別兵器の廃絶と国際社会①	対人地雷禁止条約の成立過程における市民社会の役割			
第15回	無差別兵器の廃絶と国際社会②	クラスター爆弾禁止条約の成立過程と市民社会の役割			

国際					
授業番号	B101780001				
科目名 (英語表記)	国際協力法 (International Cooperation I aw)				
担当者 (英語表記)	庄司 真理子 (Mariko Shoji)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	基本的な国際法の知識に加えて、国際法学をひととおり勉強することを目指します。まずは国際責任と紛争の解決、裁判について学びます。次に、国際法と領域について、陸・海・空さらに時間があれば宇宙空間についても学びます。公務員試験および教員採用試験などにも役立つように講義を進めます。				
授業の進め方 (履修条件など)	国際法をすでに履修した学生のみを対象とする。 公務員試験、教員採用試験などを念頭において履修する学生も多いため、すでに国際法の基礎的な内容を習得しているものを対象として講義をすすめる。講義中にグループ・ディスカッションやリアクション・ペーパーをとり入れる。				
成績評価方法	授業の参加態度 40%、中間のテスト 30%、期末試験 30%				
基準					
授業の予習・復習	教科書を中心に予習をしてきてください。講義のあとで、講義ノート、配布資料、教科書をみながら復習してください。				
教科書	中谷・河野・山本・植木・森田著『国際法』有斐閣アルマ				
参考文献	奥脇直也『国際条約集』有斐閣				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	国際紛争の法的解決と地的管轄権			
第2回	国際紛争の法的解決 I	国際責任 I 中心的帰属と周辺の帰属			
第3回	国際紛争の法的解決 II	国際責任 II 外交的保護権			
第4回	国際紛争の法的解決 III	国際責任 III コンセッションの破棄 カルボー条項			
第5回	国際紛争の法的解決 IV	第三者の仲介と法的解決、平和的解決、仲裁裁判			
第6回	国際紛争の法的解決 V	国際司法裁判所 選択条項受託宣言 勧告的意見			
第7回	中間まとめ	七回の講義について修得した知識を確認する。			
第8回	海の国際法 I	海の法秩序			
第9回	海の国際法 II	領海の幅 公海自由の原則			
第10回	海の国際法 III	接続水域・排他的経済水域をめぐる諸問題			
第11回	海の国際法 V	国際河川 国際海峡をめぐる諸問題			
第12回	海の国際法 VI	海底の秩序			
第13回	南極	南極について学ぶ			
第14回	空と宇宙の国際法	領空と宇宙について学ぶ			
第15回	まとめ	国際法学について習得した知識を確認します。			

国際					
授業番号	B102310001				
科目名 (英語表記)	国際金融論 (International Finance)				
担当者 (英語表記)	織井 啓介 (Keisuke Orii)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	国際金融の主要テーマを紹介します。①金融為替市場、②国民所得計算 (GDP)、③国際収支、④外国為替、⑤国際金融の諸課題について講義します。グローバル化とともに、ますます必要性の増す金融・為替の知識がしっかり身につきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義とプリントによる簡単な演習が中心です。予備知識はとくに必要ありません。毎時間ノートをしっかり取り、章ごとに復習しましょう。電卓を常備してください。				
成績評価方法	①期末試験 (教場試験またはレポート) 50%、②平常点 50%が評価の目安です。				
基準					
授業の予習・復習	予習：配布プリントで予習するとともに、TV・新聞で経済ニュースに親しみましょう。 復習：練習問題を自宅で演習し、次の授業時間に答え合わせをしましょう。				
教科書	とくに使用しません。				
参考文献	高木信二『入門国際金融 (第4版)』日本評論社、2011年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	「国際金融論」講義の概要	講義スケジュール等を説明			
第2回	第1章：金融為替市場①	証券市場と金融市場			
第3回	第1章：金融為替市場②	外国為替市場			
第4回	第2章：国民所得計算①	GDPの概要			
第5回	第2章：国民所得計算②	実質成長率と1人当たりGDP			
第6回	第2章：国民所得計算③	その他の国民所得指標			
第7回	第3章：国際収支①	国際収支の概要			
第8回	第3章：国際収支②	経常収支と資本収支			
第9回	第3章：国際収支③	経済発展と国際収支			
第10回	第4章：外国為替①	外国為替の概要			
第11回	第4章：外国為替②	外国為替市場			
第12回	第4章：外国為替③	外国為替相場制度			
第13回	第4章：外国為替④	為替レートの決定理論			
第14回	第5章：国際金融の諸課題	国際金融アーキテクチャーとBasel III			
第15回	「国際金融論」講義のまとめ	総括と補遺事項			

国際					
授業番号	B102340001				
科目名 (英語表記)	国際経営 (Internationa Management)				
担当者 (英語表記)	畑野 浩 (Hiroshi Hatano)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	経済がグローバル化する中で増加している企業の海外進出に関し、経営学の視点からその背景と諸問題について学習する。企業は、社会人基礎力を重視しており、働きかけ力、計画力、課題発見力を求めている。企業研究と就職活動の心構えも学習する。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回配布するレジュメ、事例にそって、講義形式で進め、一部ディスカッションを行う。TV番組によるグローバル化の視聴もとられる。				
成績評価方法 基準	出席 30% オンラインによる理解度テスト 30% 中間および最終発表 (または、レポート提出) 30% 稲毛駅周辺の現地調査 10%				
授業の予習・復習	予習: 毎週、共有フォルダにある資料を予習しましょう。 復習: 配布資料と授業内でのディスカッションを復習しましょう。 日頃から、国際経営あるいは企業の海外進出関連のニュースに関心を持って、新聞やTV・ネットから情報を収集すること。				
教科書	特になし。				
参考文献	吉原英樹編「国際経営への招待」 有斐閣 伊丹敬之著「ゼミナール経営学入門」 日本経済新聞出版社				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	講義の進め方の説明、国際化とは			
第2回	国際経営とは	国際経営の形態と特徴、なぜ国際化するか			
第3回	グローバルマーケティング	グローバルマーケティングの領域			
第4回	企業研究 (1)	吉野家のグローバルブランド管理			
第5回	地域研究 (1)	吉野家 (台湾)			
第6回	企業研究 (2)	ユニクロのグローバルマーケティング			
第7回	地域研究 (2)	ユニクロ (中国)			
第8回	企業研究 (3)	花王 (米国)			
第9回	地域研究 (3)	花王のグローバルマーケティング			
第10回	中間発表	企業研究テーマの選択 (企業、商品、国)			
第11回	現地調査	マーケットリサーチ			
第12回	企業研究 (4)	INAX のグローバルマーケティング			
第13回	地域研究 (4)	INAX (ベトナム)			
第14回	最終発表 I	企業研究発表			
第15回	最終発表 II	企業研究発表、まとめ			

国際					
授業番号	B102320001				
科目名 (英語表記)	国際経済学 (International Economics)				
担当者 (英語表記)	織井 啓介 (Keisuke Orii)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	①国際経済の基礎知識、②世界経済の現状と見通し、③ WTO と FTA、④外国為替、⑤国際貿易の基礎理論を中心に平易に紹介します。国際経済の基礎知識がスピーディに身につく、国際学科の経済・経営系科目の受講に役立つほか、就職活動にも役に立ちます。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義とプリントによる簡単な演習が中心です。予備知識はとくに必要としません。毎時間ノートをしっかり取り、章ごとに復習しましょう。				
成績評価方法	①期末試験 (教場試験またはレポート) 50%、②平常点 50%が評価の目安です。				
基準					
授業の予習・復習	予習：配布プリントで予習します。TV・新聞で経済ニュースに親しみましょう。 復習：練習問題を自宅で演習し、次の授業時間に答え合わせをしましょう。				
教科書	とくに使用しません。				
参考文献	浦田秀次郎・小川英治・澤田康幸『はじめて学ぶ国際経済』有斐閣アルマ、2011年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	「国際経済学」講義の概要	講義スケジュール等を説明			
第2回	第1章：国際経済の基礎①	ミクロ経済の基礎概念 (市場メカニズム)			
第3回	第1章：国際経済の基礎②	マクロ経済の基礎概念 (国民所得)			
第4回	第1章：国際経済の基礎③	国際機関 (IMF・世銀他)			
第5回	第1章：国際経済の基礎④	地域連合 (EU・ASEAN 他)			
第6回	第2章：世界経済の現状と見通し①	先進国経済 (米国と欧州)			
第7回	第2章：世界経済の現状と見通し②	途上国・新興国経済			
第8回	第3章：自由貿易の推進①	WTO (世界貿易機関)			
第9回	第3章：自由貿易の推進②	FTA (自由貿易協定)			
第10回	第4章：外国為替の基礎①	通貨の種類と為替レートの見方			
第11回	第4章：外国為替の基礎②	円高・円安と貿易の関係			
第12回	第5章：国際貿易の基礎理論①	リカードモデルとHOモデル			
第13回	第5章：国際貿易の基礎理論②	規模の経済性モデル			
第14回	第5章：国際貿易の基礎理論③	関税と補助金			
第15回	「国際経済学」講義のまとめ	総括と補遺事項			

# 国際

授業番号	B101820001				
科目名 (英語表記)	国際社会学 (International Sociology)				
担当者 (英語表記)	水口 章 (Akira Mizuguchi)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本授業では、現代を代表する社会学者の1人サスキア・サッセンの著作をもとに情報通信技術の発達と社会変化の関係を考察します。そのことで、21世紀の社会システムについて認識を深めることを到達目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	各回授業は基本的には講義形式をとります。また、授業を3区分し、各区分の終了時に理解度を確認するためのグループ討論を行います。				
成績評価方法	学習態度 (課題レポート、討論参加) 20%、試験 80%で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。 復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べ、理解を深めてください。				
教科書	特に指定しませんが、適宜プリントを配布します。				
参考文献	サスキア・サッセン『グローバル空間の政治経済学』岩波書店、2004年12月 同『グローバル・シティ』筑摩書房、2008年11月				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	時空の圧縮のとらえ方	地球規模の社会変化について			
第2回	技術革新と社会変化	インターネット社会について			
第3回	帝国の通信ネットワーク	情報と経済発展について			
第4回	新聞の創業	国民意識の形成について			
第5回	グループ討論「情報と国家」	情報が社会変化をどのようにもたらすかを考える			
第6回	通信社	情報のスピードと正確性について			
第7回	ラジオとテレビ	一対多の通信と社会変化			
第8回	グローバルメディアの誕生	国境を越えた連帯について			
第9回	地域意識と社会運動	社会運動の実態について			
第10回	グループ討論「同一性と公共性」	「公共空間の生成」を考える			
第11回	グローバル・シティ論	都市の公共空間について			
第12回	リチャード・フロリダの都市論	発展する都市について			
第13回	世界都市と移民	都市の生活スタイルの多様性について			
第14回	グローバル化と市民社会	異文化理解を深めた政策について			
第15回	グループ討論「21世紀の都市と社会」	「近未来の日本社会の都市」の暮らしを考える			



# 国際

授業番号	B101810001				
科目名 (英語表記)	国際社会と犯罪 (Criminology)				
担当者 (英語表記)	寛正 豊和 (Toyokazu Kakusho)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>犯罪とは何か、刑罰とは何か、非収容者の処遇の実態、犯罪者をどのように再社会化させるかなどについて単なる犯罪対策にとどまるのではなく、その社会的・文化的要因や身体的要因、犯罪学仮説、警察機構、刑事司法対策等の諸問題にわたり比較犯罪学的展開を踏まえた上で理解していきます。そして、犯罪学における基本理念をわが国の理論的現状をも対比しつつ、国際的動向との関係から正しく捉え犯罪を防衛するための合理的、合理的な手段・方法を探求していくことを目的とします。今日、とうとうと流れる国際社会において、犯罪者という社会のもっとも片隅においやられた人権の在り方を考えるということは、ますます重要な問題になってくるはずです。講義を通じてそれを概観していきたいと思います。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	分かりやすい授業を展開するので、特にありません。				
成績評価方法	初回の授業において指示します。				
基準					
授業の予習・復習	初回の授業において指示します。				
教科書	斉藤静敬・寛正豊和 共著『刑事政策論』八千代出版				
参考文献	授業において指示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	受講のガイダンス	犯罪学と規範学との相違について学ぶ。			
第2回	犯罪の概念	犯罪とはなにか。日常わたしたちが用いるよりも広義なものであることを学ぶ。			
第3回	現代犯罪学の課題	ラベリング理論、非犯罪化、非刑罰化、社会的統制理論などについて学ぶ。			
第4回	刑事政策と暗数	犯罪統計と暗数の意味、被害調査、¥ 事故報告調査などについて学ぶ。			
第5回	犯罪の原因 1	身体的・生理的要因について学ぶ。			
第6回	犯罪の原因 2	個人環境的要因について学ぶ。			
第7回	犯罪の原因 3	社会環境的要因について学ぶ。			
第8回	刑罰の意義	機能・沿革－意義、機能はもちろん一般予防、特別予防、抑止主義、刑罰の種類などについて学ぶ。			
第9回	死刑	憲法と死刑、存廃論、代替刑などについて学ぶ。			
第10回	自由刑・財産刑	意義、歴史的考察、短期自由刑、不定期刑、罰金の特質、罰金と科料などについて学ぶ。			
第11回	保安処分	意義、種類、要件などについて学ぶ。			
第12回	被害者補償	意義、歴史、必要性、法的制度などについて学ぶ。			
第13回	各種犯罪と対策 1	少年非行、女性犯罪などについて学ぶ。			
第14回	各種犯罪と対策 2	組織犯罪、ホワイトカラー犯罪、薬物、アルコール犯罪などについて学ぶ。			
第15回	総括	まとめおよび質疑			

国際					
授業番号	B101800001				
科目名 (英語表記)	国際政治学 (International Politics)				
担当者 (英語表記)	金子 新 (Shin Kaneko)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>激動のグローバル化時代。国際政治は大きな変化を迎えています。シリアや中央アフリカなど内戦や紛争、テロに苦しむ地域もあれば、長引く財政金融危機にあえぐヨーロッパ地域もあります。ダイナミックな経済成長を続ける中国やインドのような諸国もある一方で、私たちが住む日本は、東京オリンピックの開催も決まり国際社会にその存在感を示したいものの、近隣諸国との関係さえ良好ではありません。領土問題や国境問題はどうか？ ナショナリズムの衝突は？ 交渉が難航する TPP はどうか？ 沖縄米軍基地問題など日米同盟の将来はどうか？ 具体的なテーマに即しながら、日本がいま置かれている国際政治状況を一緒に考え、私たちの生きる世界の平和と繁栄にはいかなる政治的努力が必要なのか、共に探究してみませんか？</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>毎回レジュメを用意します。また映像や DVD を使って、国際政治の具体的なイメージをよりリアルに感じられるように工夫します。各授業は積極的なディスカッションに参加してもらいます。なお国際政治学は 20 世紀、特に第 2 次大戦後に発達した分野ですから、20 世紀の世界史をざっとおさらいしておきましょう。</p>				
成績評価方法 基準	レポート 70%、授業への出席と発言 30%。				
授業の予習・復習	<p>予習：授業内容について教科書の該当箇所を事前に読んでみよう。復習：レジュメと教科書をよく読み返し、学んだ知識を活かして、国際政治の具体的な出来事を自分なりに分析してみよう。</p>				
教科書	細谷雄一・矢澤達宏 (編) 『国際学入門』(創文社、2004 年)				
参考文献	村田 晃嗣、君塚 直隆、石川 卓、栗栖 薫子『国際政治学をつかむ』(有斐閣、2009 年)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	国際政治の見方	国際政治での 3 つの競争—力、利益、理念			
第 2 回	国際政治と国際システム	国際政治を動かす基本単位、主権国家とは何か？			
第 3 回	リアリズムの国際政治理論	大国の存在は危険？ それとも大国がいたほうが安全？			
第 4 回	リベラリズムの国際政治理論	国際機関は何のためにあるのか？ 地域統合のメリットは何か？			
第 5 回	構造主義の国際政治理論	先進国が途上国を支配したり搾取したりしているという主張は本当か？			
第 6 回	グローバリゼーション①	グローバリゼーションの光と影、長所と短所は何か？			
第 7 回	グローバリゼーション②	グローバル化は、超大国アメリカだけが得をする現象なのか？			
第 8 回	グローバリゼーション③	環境破壊、感染症、テロなど国境を超えるマイナス要素への対応策は？			
第 9 回	開発と援助のグローバル化	途上国への開発援助、「人間の安全保障」とはどのような考えか？			
第 10 回	価値と規範のグローバル化	人権、自由、民主主義は、万国共通の価値観なのか？			
第 11 回	グローバリズムとナショナリズム	TPP での自由貿易よりも農家を守るべき。この主張をどう評価するか？			
第 12 回	岐路にある国連と PKO	頻発する紛争やテロに、国連や国際社会はどう立ち向かうか？			
第 13 回	戦後日本の外交①	日米安保体制と国連中心主義、それぞれどのような意義があるのか？			
第 14 回	戦後日本の外交②	アジア諸国との和解、先進国としての国際貢献を求めて。			
第 15 回	戦後日本の外交③	領土問題、日米同盟問題、TPP 問題などを具体的に考えてみよう。			

国際					
授業番号	B101750001				
科目名 (英語表記)	国際政治史 (History of International Politics)				
担当者 (英語表記)	家近 亮子 (Ryoko Iechika)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	20世紀以降の国際政治史を概説します。20世紀は帝国主義と民族主義、社会主義と資本主義などという二極分離的対立が特徴的な時代でありました。また、二つの世界大戦を経験した時代でもあり、国際連盟や国際連合などの国際的安定システムを導入、確立した時代でもありました。授業においては、現在の国際社会がどのような歴史を経て形成されたのかを明らかにしていきます。到達目標は、国際政治の歴史の流れを知り、なぜ現在のような世界ができあがったのかを理解することにあります。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件は特にありません。授業は配布プリントを中心に適宜、映像資料を使いながら進めていきます。				
成績評価方法	小テスト 30%、学期末試験 70%で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：ニュースや新聞等で国際政治に関心をもつこと。次週の授業内容の予習 復習：配付資料・ノートの整理。疑問点を書いて提出すること				
教科書	教科書はありません。毎時間配布するプリントが教科書代わりになります。全部で 30 頁になります。欠ける頁がないように注意してください。				
参考文献	授業内容をすべてカバーする参考文献はないため、授業項目に合わせて、適宜紹介していきます。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	講義の概要と授業の進め方の説明、20 世紀			
第 2 回	20 世紀の国際政治の特徴	帝国主義、社会主義、ファシズム、民族主義の説明			
第 3 回	第一次世界大戦への道	産業革命とアジア・アフリカの植民地化			
第 4 回	第一次世界大戦の勃発	バルカン半島情勢と第一次世界大戦の拡大と特徴			
第 5 回	ロシア革命	ロシアの情勢とレーニン革命、社会主義国の誕生			
第 6 回	アメリカの台頭	アメリカの外交戦略 (モンロー主義) と第一次世界大戦			
第 7 回	日本の参戦と中国進出	「対華二十一カ条の要求」と中国の対応			
第 8 回	第一次世界大戦の戦後処理	ウィルソンの民族自決主義と国際連盟の設立			
第 9 回	第一次世界大戦後の国際政治	対ドイツ賠償問題とアメリカ中心経済体制の確立			
第 10 回	第二次世界大戦への道	イタリア・ドイツにおけるファシズムの台頭			
第 11 回	第二次世界大戦の勃発	戦争の展開と終息			
第 12 回	第二次世界大戦の戦後処理	国際連合の成立と冷戦構造の創出			
第 13 回	冷戦下の国際政治	朝鮮戦争とベトナム戦争			
第 14 回	冷戦の終結	ソ連邦解体と東欧の民主化、独立			
第 15 回	冷戦後の国際社会	グローバリズムとリージョナリズム—その問題点			

国際					
授業番号	B102350001				
科目名 (英語表記)	国際投資論 (International Investment Study)				
担当者 (英語表記)	織井 啓介 (Keisuke Orii)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	「海外直接投資」と「国際証券投資」に大別して、それぞれのエッセンスを学習します。「海外直接投資 (FDI)」では、企業のFDIの重要性を理解し必要知識を身につけます。「国際証券投資」では、標準的なポートフォリオ理論 (分散投資理論) と国際分散投資を学ぶことにより、投資のリターンとリスクが計算できるようになります。				
授業の進め方 (履修条件など)	予備知識は特に必要ありません。講義後半 (国際証券投資) では電卓を持参のこと。				
成績評価方法	①期末試験 (教場試験またはレポート) 50%、②平常点 50%が評価の目安です。				
基準					
授業の予習・復習	予習: 配布プリントで予習しましょう。 復習: 配布する練習問題を自宅で演習し、理解を深めましょう。				
教科書	とくに使用しません。				
参考文献	小林孝雄他『新・証券投資論 (理論編)』日本経済新聞出版社、2009年。 伊藤敬介他『新・証券投資論 (実務編)』日本経済新聞出版社、2009年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	「国際投資論」講義の概要	講義スケジュール等を説明			
第2回	国際投資の概要	海外直接投資と国際証券投資			
第3回	第1部: 海外直接投資	企業の海外進出			
第4回	第1部: 海外直接投資	直接投資のプロセス			
第5回	第1部: 海外直接投資	ホスト国の投資誘致政策			
第6回	第1部: 海外直接投資	直接投資の理論①			
第7回	第1部: 海外直接投資	直接投資の理論②			
第8回	第1部: 海外直接投資	直接投資の理論③			
第9回	第2部: 国際証券投資	ポートフォリオ理論①			
第10回	第2部: 国際証券投資	ポートフォリオ理論②			
第11回	第2部: 国際証券投資	ポートフォリオ理論③			
第12回	第2部: 国際証券投資	ポートフォリオ理論④			
第13回	第2部: 国際証券投資	国際分散投資①			
第14回	第2部: 国際証券投資	国際分散投資②			
第15回	「国際投資論」講義のまとめ	総括と補遺事項			

国際					
授業番号	B101740001				
科目名 (英語表記)	国際法 (International law)				
担当者 (英語表記)	庄司 真理子 (Mariko Shoji)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	法とは何か? 法 の概念と歴史などの視点を織り込みつつ、法のなかでも国際法に焦点をあてて考察します。国際法とは何か? 国際法はどのような形をした法律であるか? などの観点から考察を深めていきます。次に国際法の主体、特に国家についてどのように捉えているかを考察します。最後に、外交関係と国際法の関連についても言及します。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式で進めます。講義への参加度、各自が自分で主体的にものを考えているかを確認しながらすすめます。必要に応じて、講義中に課題を出して、それについてグループ・ディスカッションやリアクション・ペーパーを書いてもらいます。				
成績評価方法	講義の参加態度 40%、中間のテスト 30%、期末試験 30%				
基準					
授業の予習・復習	予習としては、講義予定の箇所の教科書を読んできて下さい。基本的に授業中が勝負です。授業に真剣に取り組んで欲しいと思います。教科書を中心に復習をしてください。				
教科書	中谷・河野・山本・植木・森田著『国際法』有斐閣アルマ				
参考文献	奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	授業のガイダンス	この授業の内容を概観する			
第2回	法源論の基本的考察	法とは何か?			
第3回	国際法とは何か	国際法の法源について考察します。			
第4回	条約 I	成文法としての条約について、条約の定義について学ぶ			
第5回	条約 II	条約の成立プロセス、留保などを学ぶ。			
第6回	国際慣習法	不文法としての国際慣習法: 国際慣習法について学ぶ			
第7回	国際法の主体	国際社会の多様なアクター			
第8回	中間まとめ	ここまで7回分に修得した知識を確認します。			
第9回	国家	国家をめぐる国際法上の諸問題、国家承認論			
第10回	承認論	政府承認論、交戦団体の承認			
第11回	国家承継論	外国承継について学ぶ			
第12回	国家と国際関係	外交使節と領事: 外交使節、外交特権			
第13回	領事について	その職務内容は何か。外交特権、領事特権			
第14回	主権、平等、国内事項不干涉	国家主権、平等、国内事項不干涉			
第15回	まとめ	国際法学について習得した知識を確認します。			

国際					
授業番号	B102330001				
科目名 (英語表記)	国際貿易論 (International Trade)				
担当者 (英語表記)	織井 啓介 (Keisuke Orii)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	①国際貿易の実務、②貿易英語を学習します。国際貿易実務の基礎力がしっかり身につく、国際ビジネスに必要な英語の実務能力も伸ばせます。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義とプリントによる簡単な演習が中心です。予備知識はとくに必要としませんが、上記②で貿易英語を学ぶため、一定の英語力が必要です。毎時間ノートをしっかり取り、章ごとに復習しましょう。				
成績評価方法 基準	①期末試験 (教場試験またはレポート) 50%、②平常点 50%が評価の目安です。				
授業の予習・復習	予習：配布プリントを予習しましょう。 復習：練習問題を自宅で演習し、次の授業時間に答え合わせをしましょう。				
教科書	とくに使用しません。				
参考文献	日本貿易実務検定協会編『図解貿易実務ハンドブック (ベーシック版)』日本能率協会マネジメントセンター、2013年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	「国際貿易論」講義の概要	講義スケジュールの説明等			
第2回	第1部：国際貿易の実務①	貿易の流れ			
第3回	第1部：国際貿易の実務②	通関手続①			
第4回	第1部：国際貿易の実務③	通関手続②			
第5回	第1部：国際貿易の実務④	貿易運送 (海上運送・航空運送)			
第6回	第1部：国際貿易の実務⑤	貿易条件 (インコタームズ)			
第7回	第1部：国際貿易の実務⑥	信用状取引①			
第8回	第1部：国際貿易の実務⑦	信用状取引②			
第9回	第1部：国際貿易の実務⑧	保険 (海上保険と貿易保険)			
第10回	第1部：国際貿易の実務⑨	信用状なし輸出手形 (D/P・D/A)			
第11回	第1部：国際貿易の実務⑩	貿易の外国為替相場			
第12回	第2部：貿易英語①	インボイスと売買契約書			
第13回	第2部：貿易英語②	信用状と荷為替手形			
第14回	第2部：貿易英語③	船荷証券と保険証券			
第15回	「国際貿易論」講義のまとめ	総括と補遺事項			

国際							
授業番号	B101760001						
科目名 (英語表記)	国際連合の仕組みと活動 (System and Activities of the UN)				日本語授業		
担当者 (英語表記)	庄司 真理子 (Mariko Shoji)			対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	国連をはじめとする国際機構について考えます。本講義では、国連の組織構造を考察することに重点を置きながら、国連に私たちがどうコミットしていったら良いのかを考えます。国連は国際機構だから、国家間関係中心の組織構造で、などと堅く考えずに、地球上に住む人を中心に据えた組織構造を考えていきます。						
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式で進めます。授業の参加度を重視します。授業中に、講義内容について課題を出し、適宜グループ・ディスカッションをしてもらうことがあります。						
成績評価方法	講義の参加態度 40%、中間テスト 30%、期末試験 30%						
基準							
授業の予習・復習	予習については授業中に指示する。授業中が勝負です。授業に真剣に取り組んでください。復習については、講義内容をしっかり把握すること。						
教科書	使用しない。						
参考文献	横田洋三編著『新国際機構論』国際書院						
回数	授業項目	授業内容					
第1回	国連を疑似体験	ビデオをとおして国連を疑似体験。					
第2回	国際機構の誕生と歴史	国際機構の誕生の歴史と、国際機構、国連システム、国連の定義を学ぶ					
第3回	国際連盟の成立	国際連盟の成立までの歴史を学ぶ					
第4回	国連の創設	国連の創設と第二次世界大戦後の世界秩序。					
第5回	国連の目的および原則	国連の目的および原則と、国連加盟。					
第6回	国連総会	世界の議会をめざす国連総会					
第7回	安全保障理事会	安全保障理事会と大国による平和。					
第8回	中間まとめ	中間試験とその解説					
第9回	経済社会理事会	機能強化が望まれる経済社会理事会。					
第10回	国際司法裁判所	国際司法裁判所と真の司法機関への展望。					
第11回	事務局	機構改革の要としての事務局。					
第12回	国連事務総長	世界で最も難しい役割、国連事務総長。					
第13回	国連人権理事会	21世紀の新しい組織、人権理事会と国際的な人権擁護制度					
第14回	国連平和構築委員会	21世紀の新しい組織、平和構築委員会の活動と組織					
第15回	国連と企業	地球市民社会と国連 企業との関係					

国際		
授業番号	B101760002	
科目名 (英語表記)	国際連合の仕組みと活動 (System and Activities of the UN) 英語授業	
担当者 (英語表記)	庄司 真理子 (Mariko Shoji) 対象学年 2 単位数 2	
授業のねらいと到達目標	This course studies the United Nations (UN) as well as the International Organizations. The main objective of this course is to study the structure of the United Nations. From the viewpoint of the UN structure, we will discuss how we can access this world organ. The UN is not out of reach for the common people but it is an important factor in all our lives. "We the people of the United Nations", this one sentence is written in the preamble of the UN Charter. The UN is the organization for us, civil society.	
授業の進め方 (履修条件など)	Lecture, Class participation will be strongly required.	
成績評価方法 基準	1) Class Participation 40% 2) in class short Reports 30% 3) Final examination 30%	
授業の予習・復習	At the orientation, reading materials will be introduced. Class participation is the most important. Students are required to take active role in the class. Students need to read the suggested materials before and after the class.	
教科書	Teacher will distribute materials.	
参考文献	United Nations, <i>United Nations Today</i> , United Nations (August 10, 2008) Linda Fasulo, <i>An Insider's Guide to the UN</i> , Yale University Press; 2 edition (June 9, 2009)	
回数	授業項目	授業内容
第1回	Video of the UN	Simulated experience of the UN by Video
第2回	History and birth of the IO	History and birth of the International Organizations
第3回	Definition	Definition of the International Organizations
第4回	The League of Nations	The birth of The League of Nations
第5回	The birth of the UN	The birth of the UN and the World Order after WWII
第6回	Purposes and Principles	Purposes and Principles of the UN: accession
第7回	The UN General Assembly	The UN General Assembly as the World Congress
第8回	The Security Council	The Security Council and the Peace by the Powers
第9回	ECOSOC	Functional enhancement of Economic and Social Council
第10回	The ICJ	The International Court of Justice: Real judicial organ
第11回	The Secretariat	The Secretariat; center of the reform
第12回	The Secretary-General	The SG: The most difficult role in the world
第13回	The HRC	The Human Rights Council and Human Rights protection
第14回	The PBC	Peacebuilding and the Peacebuilding Commission
第15回	The UN and corporations	The UN, Global Civil Society and Corporations



国際

授業番号	B104470001				
科目名 (英語表記)	こどもと遊び (Child and play)				
担当者 (英語表記)	藤井 喜一 (Kiichi Fujii)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	現在の子どもたちの生活実態をとらえ、子どもの発育とともに変わっていく子どもの遊びを理解し、実際にいくつかの遊びや伝承遊びを行うことができるようにする。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義と実際に遊びを行うことにより学習を進めていく。				
成績評価方法	受講態度、通常時における小レポート、論述試験等によって評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：小レポートに沿った内容を調べること。 復習：ノートに授業の要点や学習した遊びの内容をまとめる。				
教科書	適宜プリントを配布				
参考文献	こどもとあそび かこさとし 大月書店				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、諸注意			
第2回	現在の子どもたちの生活	社会変化に伴う子どもたちの生活の変容			
第3回	子どもの遊びの発達①	乳幼児の遊び			
第4回	子どもの遊びの発達②	お絵かき遊びの種類と変遷			
第5回	子どもの遊びの発達③	ジャンケン遊びのルーツを探る			
第6回	子どもの遊びの発達④	地面とり、石けり遊び			
第7回	子どもの遊びの発達⑤	笹船、松葉を使った遊び			
第8回	子どもの遊びの発達⑥	自然保護論と木を使った遊び			
第9回	子どもの遊びの発達⑦	おはじき、お手玉、あやとり遊び			
第10回	子どもの遊びの発達⑧	ざれごと、替え歌、ことば遊び			
第11回	子どもの遊びの発達⑨	小さな動物たちとの遊び			
第12回	子どもの遊びの発達⑩	鬼ごっこ、かくれんぼ遊び			
第13回	子どもの遊びの発達⑪	コマ回し、ビー玉、メンコ			
第14回	子どもの心と体の発達と遊び①	子どもの心の発達			
第15回	子どもの心と体の発達と遊び②	子どもの体の発達			

国際					
授業番号	B104560001				
科目名 (英語表記)	こどもと家庭の関係論 (The related theory of a child and a home)				
担当者 (英語表記)	池谷 美佐子 (Misako Ikeya)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	学校教育の現場において、子どもに関わる様々な話題や課題対応は、親子の関係や家庭教育の在り方を抜きには語れない。子どもの心の発達・社会性・コミュニケーション能力等を中心に子どもと家庭との関係を、「人と家屋」についての人間学的な見地も加えながら考察し理解を深める。				
授業の進め方 (履修条件など)	課題意識を持って積極的な理解に努める意欲と態度を重視します。				
成績評価方法	リアクションペーパー, 期末試験				
基準					
授業の予習・復習	予習 子どもたちにかかわる最近の話題に関心を持ち、自分の課題を明確にしておく。 復習 課題を整理し、まとめておく。				
教科書	使用しない。				
参考文献	O.F. ボルノー 「問いへの教育」 川島書店 門脇厚司 「親と子の社会力」 朝日新聞社				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の進め方についての説明			
第2回	子どもについての理解①	最近の子どもたちの実態			
第3回	子どもについての理解②	子どもたちの一日の生活の変化について			
第4回	親と子どものかかわり①	親の価値観と子どもの生活について			
第5回	親と子どものかかわり②	親と子どものかかわりに見られる課題			
第6回	親の役割	親が子にしてやるべきこと			
第7回	家庭の役割	子どもにとって家庭とは何か			
第8回	家庭と地域のかかわり	家庭と地域のかかわりと、子どもとの関係			
第9回	家庭の機能と教育力	家庭の機能の変化と教育力の変容について			
第10回	さまざまな教育機関とこどもの生活	子育てにかかわる様々な機関の現状と子どもの生活とのかかわりについての考察			
第11回	人間と家屋についての人間学的考察	ボルノー「人と家屋」についての解説			
第12回	子どもと家庭についての人間学的考察	子どもと家庭についての人間学的な考察			
第13回	家庭と学校のかかわり	学校から見えてくる家庭の実態について			
第14回	家庭と学校の望ましい連携	家庭と学校の望ましい連携の在り方について検討する。			
第15回	子どもと家庭の関係論	子どもと家庭の望ましいあり方について討論する。			

# 国際

授業番号	B104490001		
科目名 (英語表記)	こどもと国際交流 (Child and international exchange)		
担当者 (英語表記)	庄司 真理子 (Mariko Shoji)	対象学年	2
		単位数	2

授業のねらいと到達目標	日本の内なる国際化にともなって、こどもたちも他の国のこどもの生活、遊び、社会問題などを学ぶ必要が出てくる。言語、生活習慣の異なる国のこどもたちへの人間的な共感と理解を深めることを本講義のねらいとします。なお、講義の前半は、こどもをめぐる国際問題について勉強する。後半は、ゲスト講師にそれぞれの観点から「こどもと国際交流」についてお話しただくとともに、他の国のこどもの生活、遊び、社会問題について、グループごとに調べてもらう。
授業の進め方 (履修条件など)	前半は講義形式で進めます。後半は、ゲストの先生の講義およびグループ発表をおこないます。
成績評価方法	授業の参加態度で20%。中間まとめのテスト(30%)をします。ゲスト講師の授業(20%)は、授業内レポートを書いてもらう。後半はグループ発表の内容とそのレポート(30%)で成績をつける。
予習・復習	予習としては、グループ発表の際の準備をすることが必要となる。これについては初回の講義時に説明する。復習については、特にこの講義の前半の内容は、きちんと配布資料を読んで予習して欲しい。後半の内容については、各自、考察を深めて最終的にはレポートを提出してもらう。
教科書	特に使用しない。
参考文献	グループごとにメディアセンターに相談に行つて、必要な文献を紹介してもらってください。

回数	授業項目	授業内容
第1回	授業のガイダンス	この授業の進め方を説明する
第2回	国際問題とこどもⅠ	何歳までがこどもか? 大人への反抗権はあるか?
第3回	アメリカのこども	こどもと遊び、おやつ、歌、習慣、アニメについて
第4回	国際問題とこどもⅡ	児童労働・貧困について学ぶ
第5回	国際問題とこどもⅢ	こども兵について学ぶ
第6回	国際問題とこどもⅣ	女子教育について考える
第7回	国際問題とこどもⅤ	ユニセフ・ユネスコについて学ぶ
第8回	中間まとめ	ここまでの内容をテストする
第9回	ゲスト講師のお話1	こどもと国際交流についてゲスト講師のお話を伺う
第10回	ゲスト講師のお話2	こどもと国際交流についてゲスト講師のお話を伺う
第11回	ゲスト講師のお話3	こどもと国際交流についてゲスト講師のお話を伺う
第12回	グループ発表Ⅰ	グループごとに選んだ国のこどもについて発表する
第13回	グループ発表Ⅱ	グループごとに選んだ国のこどもについて発表する
第14回	グループ発表Ⅲ	グループごとに選んだ国のこどもについて発表する
第15回	グループ発表Ⅳとまとめ	グループごとに選んだ国のこどもについて発表する

国際

授業番号	B104570001				
科目名 (英語表記)	こどもと地域の教育論 (The educational theory of a child and the area)				
担当者 (英語表記)	武内 清 (Kiyoshi Takeuchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>こどもは社会の中のさまざまな媒体の影響を受けて育っている。家庭、仲間集団、地域社会、学校、塾、お稽古、大学、メディア、消費社会、企業、国際社会など。</p> <p>これらの社会的要因のこどもへの影響を、解明することは極めて重要なことである。また、こどもは単に受け身の存在ではなく、これらの要因の影響を受けながらも、主体的に関わり、行動し、自己成長を遂げていく。</p> <p>このような、社会とこどもとの関係を、この授業では取り上げる。</p> <p>とりわけ、学校と地域社会に注目し、</p> <p>の両者の関係と、それらが、こどもの成長、教育にどのようにかかわるのかを明らかにする。</p> <p>教員も視野を学校内に限るのではなく、広い社会的視野を持ち、現在のこどもが社会のどのような影響を受けているかを客観的に把握し、教員としてできること、やらねばならないことを考えなければならない。その助けになるような授業を展開する。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	講義とグループ発表、討議によって進める。				
成績評価方法 基準	授業への積極的参加 20%、授業時のコメント (リアクション) 20%、学期末レポート 60%。				
授業の予習・復習	配布プリントをよく読むこと。				
教科書	授業時に指示。				
参考文献	武内清編『子どもの「問題」行動』学文社、2010。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方に関して説明する。			
第 2 回	子ども 1	子どもに関する理論と言説			
第 3 回	子ども 2	子どもの発達と家族			
第 4 回	子ども 3	子どもと仲間集団			
第 5 回	子どもと学校	学校における社会化			
第 6 回	子どもとメディア 1	情報化社会と子ども			
第 7 回	子どもとメディア 2	インターネットとケイタイ			
第 8 回	ユース カルチャー	サブ カルチャーと若者			
第 9 回	地域社会	地域社会論と地域の実態			
第 10 回	地域社会と子ども 1	地域社会での子ども遊び			
第 11 回	地域社会と子ども 2	地域社会での子ども生活			
第 12 回	地域社会と若者	若者の地域により生活の違いと移動			
第 13 回	国際社会	多文化教育 (海外子女教育、ニューカマー教育)			
第 14 回	国際社会と大学	留学と国際的競争と大学			
第 15 回	まとめ	総括と討論			

国際

授業番号	B104580001				
科目名 (英語表記)	こどもと法律 (Child and law)				
担当者 (英語表記)	寛正 豊和 (Toyokazu Kakusho)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この講義では、よりよい民主主義社会創設の担い手に対し法の役割と使命、とりわけ学校教育において必要とされる法を理解させることを目標とします。 その概要としては、①人権尊重教育・・・人権保障についての法的メカニズムの確認 ②教育現場における法的諸問題を概観するとともに、その法的解決・・・例えば近年マスコミ等で大きく取り上げられている児童虐待、いじめ、不登校、非行、体罰問題から学校事故など ③比較的考察・・・例えば欧米諸国とのこども年齢の相違、学校などにおいて発生する諸問題に対する考え方の相違などについてもみていきたいと思います。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的にプリント等にしたがって分かりやすい授業を展開します。				
成績評価方法 基準	平常点 (授業内に適示おこなうリアクションペーパー等や、任意課題レポート 30%・定期試験 70%で評価します。				
授業の予習・復習	プリント等をよく読み、よくできない点を把握し、確認しましょう。				
教科書	なし。				
参考文献	授業において指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	導入	受講のガイダンス			
第 2 回	学校と法 1	人権保障と法的メカニズム			
第 3 回	学校と法 2	憲法と教育基本法、学校教育法、子どもの権利条約			
第 4 回	生徒指導と法 1	いじめと法			
第 5 回	生徒指導と法 2	不登校と法			
第 6 回	生徒指導と法 3	児童虐待と法			
第 7 回	生徒指導と法 4	児童買春・児童ポルノと法			
第 8 回	生徒指導と法 5	懲戒、体罰と法			
第 9 回	学校事故と法 1	学校事故の刑事責任			
第 10 回	学校事故と法 2	学校事故の民事責任			
第 11 回	学校事故と法 3	学校事故と危機管理			
第 12 回	学校事故と法 4	学校事故と情報公開			
第 13 回	非行問題 1	非行問題と特徴			
第 14 回	非行問題 2	少年院、児童自立支援施設			
第 15 回	総括	まとめおよび質疑			

国際

授業番号	B104480001				
科目名 (英語表記)	こどもものづくり教育 (A child and craftsmanship education)				
担当者 (英語表記)	田口 功 (Isao Taguchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	自然科学分野の基礎的な原理や法則を身につけ、それをもとに、小学校で役立つ簡単な実験装置を作り、原理や法則を深く身につけることを目的とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	前半、後半を通し歴史的な背景の記述文書を見ながら、原理や法則の成り立ちを把握する。また、非常に易しい教材を取り入れ、目に見える形の実験装置を作成していく。				
成績評価方法	授業で作成したものを提出する。小試験も行い総合評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：与えられた問題についてインターネットなどで調査し、よく資料を見て研究して下さい。 復習：授業中に指摘された事柄などについて良く復習して下さい。				
教科書	授業でプリントを配布				
参考文献	ゆかいな物理実験 K. ギブス著 笠 耐 訳 朝倉書店 平成 12 年				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について			
第 2 回	風力発電や太陽光発電	太陽電池を使って発光ダイオードを点灯してみよう			
第 3 回	1 次電池	異種金属による発電，果物電池作成			
第 4 回	静電気による発電装置	静電気による発光ダイオード点灯回路作成			
第 5 回	磁石と電気 - (1)	電磁石から電磁誘導実験装置の作成			
第 6 回	磁石と電気 - (2)	電磁誘導回路と発電装置の利用法			
第 7 回	シャボン玉	シャボン玉の形，大きさについて色々工夫してみよう			
第 8 回	力と安定性 - (1)	力と安定性，テングスリティーの作成の説明			
第 9 回	力と安定性 - (2)	実際にテングスリティーを作ってみよう			
第 10 回	ばねとカー - (1)	ばねとフックの法則			
第 11 回	ばねとカー - (2)	ばねを用いたおもちゃの作成			
第 12 回	光とレンズ - (1)	凹レンズ凸レンズによる光の進み方の数式的理解			
第 13 回	光とレンズ - (2)	凹レンズ凸レンズによる像のでき方			
第 14 回	フリップフロップ回路	電子部品の組み合わせでフリップフロップ回路作成			
第 15 回	全体のまとめ	提出物の確認			

国際

授業番号	B100380001		
科目名 (英語表記)	こどもの心と体 (A child's heart and the body)		
担当者 (英語表記)	田中 未央 (Mio Tanaka)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	子どもの日常生活や学校生活に関する現状を把握し、子どもを取り巻く諸問題について心理学的な観点から考察する。特に、子どもが抱える問題の複雑さについて理解して欲しい。		
授業の進め方 (履修条件など)	原則として講義形式で授業を進めるが、授業内で紹介した事例についての討論やロールプレイを行う場合がある。授業内で課題を行った場合にはリアクションペーパーの提出を求める。授業内で取り上げる事例は教育現場や子どもの生活に関わるものである。したがって、討論やロールプレイには積極的かつ真剣に取り組んでほしい。		
成績評価方法 基準	試験 (論述)・リアクションペーパー・授業への参加度を評価の対象とする。 評価基準は試験 (60%)・リアクションペーパー (20%)・授業への参加度 (20%) である。 ※授業内課題 (討論・ロールプレイ) へ参加しない場合には大幅に減点する。 ※欠席が6回以上の履修者には単位の認定を行わない。		
授業の予習・復習	予習: 次回のテーマに関連した書籍や新聞記事を読む。 復習: 授業の内容を整理し、まとめる。		
教科書	指定なし。必要に応じて資料を配布する。		
参考文献	・『子どものこころー児童心理学入門』 桜井茂男・向井隆代・浜口住知 (著) 有斐閣 ・子どもの「10歳の壁」とは何か? 乗り越えるための発達心理学 (光文社新書)		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	講義の概要, 授業の進め方, 評価方法, 受講マナーについて	
第2回	子どもとは?	"子ども" の定義, 児童期の位置づけ	
第3回	子どもの生活	家庭環境, 学校生活, コミュニケーション	
第4回	子どもの体①	身体の成長と発達, 運動機能の発達	
第5回	子どもの体②	子どもの体と心の問題 (肥満と痩せ・思春期やせ症)	
第6回	子どもの学力①	子どもの学力は低下しているのか?・学習遅滞児の問題	
第7回	発達障害に対する理解①	学習障害児の特徴、学習障害児への支援について	
第8回	発達障害への理解②	注意欠陥多動性障害 (ADHD) の児童の特徴、ADHD の児童への支援	
第9回	発達障害への理解③	広汎性発達障害とは何か? 発達障害の児童に対する支援について	
第10回	子どもをとりまく諸問題①	子どもへの虐待について 虐待の兆候、被虐待児の心理的な特徴、被虐待児とその保護者への支援	
第11回	子どもをとりまく諸問題②	いじめの問題 "現代型" いじめとは? いじめの新しい形態、いじめの発見と対応について	
第12回	子どもをとりまく諸問題③	体罰問題 "体罰" はなぜいけないのか? 体罰の影響、体罰のない指導とは?	
第13回	子どもをとりまく諸問題④	学級崩壊について 子どもはなぜ"モンスター" になるのか?	
第14回	子どもを取り巻く諸問題⑤	小1プロブレム、9歳の壁、多様な子どもを理解するために	
第15回	まとめ	第2回~第14回で扱ったテーマのレビュー、質問への対応	

# 国際

授業番号	B104150001		
科目名 (英語表記)	算数 (Elementary school mathematics)		(A)
担当者 (英語表記)	辻山 洋介 (Yosuke Tsujiyama)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	算数の授業を行うためには、基礎的・基本的な算数・数学を学んでおく必要があります。本授業は、算数の授業に必要な知識や技能、能力、態度を身に付けられるようにすることを目標とします。具体的には、算数学習の目標と内容の理解、算数学習の考え方、算数・数学に取り組む態度を身に付けることを中心とします。		
授業の進め方 (履修条件など)	算数・数学の教科書や教材、学習指導要領とその解説資料、大規模調査の問題、教員採用試験の問題等を具体的に扱い、問題解決を中心として授業を進めます。「算数科指導法」を履修する前提として、本科目を履修する必要があります。		
成績評価方法	課題解決、議論への貢献 (50%程度)、および期末試験 (50%程度)。		
基準			
授業の予習・復習	予習：前時に指定された教科書やプリントの内容を把握しておくこと。適宜提示します。 復習：授業内容を振り返り、理解を深めるとともに、残された疑問や新たな課題を明確にすること。		
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』(2008年、東洋館出版) およびプリント教材。		
参考文献	杉山吉茂『初等科数学科教育序節』(2008年、東洋館出版) G. ポリア著・柿内賢信訳『いかにして問題をとくか』(1954年、丸善)		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	算数科の目標と算数・数学の探究	
第2回	算数・数学の探究(1)	数に関する性質の探究	
第3回	数と計算(1)	加法・減法の計算の仕方と意味	
第4回	数と計算(2)	乗法・除法の計算の仕方と意味	
第5回	算数学習の目標(1)	算数学習の系統と授業のねらい	
第6回	算数学習の目標(2)	教育課程とその変遷	
第7回	量と測定(1)	任意単位と普遍単位による測定の意味	
第8回	量と測定(2)	量の数値化と単位の意味	
第9回	算数・数学の探究(2)	図形に関する探究とその結果や過程の振り返り	
第10回	図形(1)	図形とその構成要素	
第11回	図形(2)	図形の合同と作図	
第12回	算数的活動・数学的活動	算数的活動・数学的活動のタイプと意義	
第13回	数量関係(1)	伴って変わる数量の関係、変化と対応	
第14回	数量関係(2)	比例、反比例、関数的な考え	
第15回	授業のまとめ	小学校教師に必要な数学的知識・技能	



# 国際

授業番号	B104150002		
科目名 (英語表記)	算数 (Elementary school mathematics)		(B)
担当者 (英語表記)	辻山 洋介 (Yosuke Tsujiyama)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	算数の授業を行うためには、基礎的・基本的な算数・数学を学んでおく必要があります。本授業は、算数の授業に必要な知識や技能、能力、態度を身に付けられるようにすることを目標とします。具体的には、算数学習の目標と内容の理解、算数学習の考え方、算数・数学に取り組む態度を身に付けることを中心とします。		
授業の進め方 (履修条件など)	算数・数学の教科書や教材、学習指導要領とその解説資料、大規模調査の問題、教員採用試験の問題等を具体的に扱い、問題解決を中心として授業を進めます。「算数科指導法」を履修する前提として、本科目を履修する必要があります。		
成績評価方法	課題解決、議論への貢献 (50%程度)、および期末試験 (50%程度)。		
基準			
授業の予習・復習	予習：前時に指定された教科書やプリントの内容を把握しておくこと。適宜提示します。 復習：授業内容を振り返り、理解を深めるとともに、残された疑問や新たな課題を明確にすること。		
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』(2008年、東洋館出版) およびプリント教材。		
参考文献	杉山吉茂『初等科数学科教育序節』(2008年、東洋館出版) G. ポリア著・柿内賢信訳『いかにして問題をとくか』(1954年、丸善)		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	算数科の目標と算数・数学の探究	
第2回	算数・数学の探究(1)	数に関する性質の探究	
第3回	数と計算(1)	加法・減法の計算の仕方と意味	
第4回	数と計算(2)	乗法・除法の計算の仕方と意味	
第5回	算数学習の目標(1)	算数学習の系統と授業のねらい	
第6回	算数学習の目標(2)	教育課程とその変遷	
第7回	量と測定(1)	任意単位と普遍単位による測定の意味	
第8回	量と測定(2)	量の数値化と単位の意味	
第9回	算数・数学の探究(2)	図形に関する探究とその結果や過程の振り返り	
第10回	図形(1)	図形とその構成要素	
第11回	図形(2)	図形の合同と作図	
第12回	算数的活動・数学的活動	算数的活動・数学的活動のタイプと意義	
第13回	数量関係(1)	伴って変わる数量の関係、変化と対応	
第14回	数量関係(2)	比例、反比例、関数的な考え	
第15回	授業のまとめ	小学校教師に必要な数学的知識・技能	

国際

授業番号	B104000001				
科目名 (英語表記)	算数科指導法 (Teaching Elementary School Mathematics) (A)				
担当者 (英語表記)	辻山 洋介 (Yosuke Tsujiyama)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	算数の授業を行うためには、基礎的・基本的な算数・数学とともに、授業の目標や方法を教育的な視点から学んでおく必要があります。本授業では、授業を計画し、実践し、評価・改善していくために必要な知識や考え方を身に付けられるようにすることを目標とします。具体的には、問題解決授業の意味と方法の理解、児童の活動の評価、学習指導案の作成、研究協議を行えるようにすることを中心とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	実際に行われた授業やその学習指導案の分析、学習指導案の作成、模擬授業とその協議を中心に授業を進めます。履修条件は、「算数」が履修済みであることです。				
成績評価方法	課題解決、議論への貢献 (30%程度)、学習指導案と模擬授業 (40%程度)、期末レポート (30%程度)				
基準					
授業の予習・復習	予習：前時に指定された課題に取り組むこと。 復習：授業内容を振り返り、理解を深めるとともに、残された疑問や新たな課題を明確にすること。				
教科書	文部科学省・国立教育政策研究所教育課程研究センター『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 小学校算数』(2011年, 教育出版) およびプリント教材				
参考文献	新算数教育研究会『算数授業の新展開 7 算数的活動』(2010年, 東洋館出版) J.W. スティグラー & J. ヒーバート著・湊三郎訳『日本の算数・数学教育に学べる米国が目指す jugyou kenkyuu』(2002年, 教育出版)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	実際に行われた算数の授業の観察とその学習指導案の検討			
第2回	授業のねらいの特定	これまでの学習とこれからの学習からみた本時の位置と意義			
第3回	授業のねらいに即した学習課題の設定	問題解決授業における学習課題の意味			
第4回	学習課題に対する児童の活動の分析	児童の活動と、その活動を通じて期待される学習			
第5回	ねらい、課題、活動の関係	具体的な事例に基づく三者関係の再考			
第6回	教材研究 (1)	既習に基づく分析と数学的な分析			
第7回	教材研究 (2)	数値の設定と児童の活動			
第8回	児童の活動の評価とその規準	指導と評価の一体化と観点別学習状況評価			
第9回	学習活動の支援と指導	問題解決授業における教師の指導			
第10回	学習指導案の検討 (1)	各自の作成した学習指導案のグループでの検討			
第11回	学習指導案の検討 (2)	グループでの学習指導案の作成			
第12回	模擬授業・研究協議 (1)	「数と計算」における模擬授業と研究協議			
第13回	模擬授業・研究協議 (2)	「量と測定」における模擬授業と研究協議			
第14回	模擬授業・研究協議 (3)	「図形」と「数量関係」における模擬授業と研究協議			
第15回	学習指導案の再検討	模擬授業と研究協議に基づく学習指導案の評価・改善			

国際

授業番号	B104000002				
科目名 (英語表記)	算数科指導法 (Teaching Elementary School Mathematics) (B)				
担当者 (英語表記)	辻山 洋介 (Yosuke Tsujiyama)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	算数の授業を行うためには、基礎的・基本的な算数・数学とともに、授業の目標や方法を教育的な視点から学んでおく必要があります。本授業では、授業を計画し、実践し、評価・改善していくために必要な知識や考え方を身に付けられるようにすることを目標とします。具体的には、問題解決授業の意味と方法の理解、児童の活動の評価、学習指導案の作成、研究協議を行えるようにすることを中心とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	実際に行われた授業やその学習指導案の分析、学習指導案の作成、模擬授業とその協議を中心に授業を進めます。履修条件は、「算数」が履修済みであることです。				
成績評価方法	課題解決、議論への貢献 (30%程度)、学習指導案と模擬授業 (40%程度)、期末レポート (30%程度)				
基準					
授業の予習・復習	予習：前時に指定された課題に取り組むこと。 復習：授業内容を振り返り、理解を深めるとともに、残された疑問や新たな課題を明確にすること。				
教科書	文部科学省・国立教育政策研究所教育課程研究センター『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 小学校算数』(2011年, 教育出版) およびプリント教材				
参考文献	新算数教育研究会『算数授業の新展開 7 算数的活動』(2010年, 東洋館出版) J.W. ステイグラー & J. ヒーバート著・湊三郎訳『日本の算数・数学教育に学べる米国が目指す jugyou kenkyuu』(2002年, 教育出版)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	実際に行われた算数の授業の観察とその学習指導案の検討			
第2回	授業のねらいの特定	これまでの学習とこれからの学習からみた本時の位置と意義			
第3回	授業のねらいに即した学習課題の設定	問題解決授業における学習課題の意味			
第4回	学習課題に対する児童の活動の分析	児童の活動と、その活動を通じて期待される学習			
第5回	ねらい、課題、活動の関係	具体的な事例に基づく三者関係の再考			
第6回	教材研究 (1)	既習に基づく分析と数学的な分析			
第7回	教材研究 (2)	数値の設定と児童の活動			
第8回	児童の活動の評価とその規準	指導と評価の一体化と観点別学習状況評価			
第9回	学習活動の支援と指導	問題解決授業における教師の指導			
第10回	学習指導案の検討 (1)	各自の作成した学習指導案のグループでの検討			
第11回	学習指導案の検討 (2)	グループでの学習指導案の作成			
第12回	模擬授業・研究協議 (1)	「数と計算」における模擬授業と研究協議			
第13回	模擬授業・研究協議 (2)	「量と測定」における模擬授業と研究協議			
第14回	模擬授業・研究協議 (3)	「図形」と「数量関係」における模擬授業と研究協議			
第15回	学習指導案の再検討	模擬授業と研究協議に基づく学習指導案の評価・改善			

国際

授業番号	B102640001				
科目名 (英語表記)	自然地理学 (Physical Geography)				
担当者 (英語表記)	中村 圭三 (Keizo Nakamura)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	21世紀は環境の世紀と言われています。地形・気候・生物などの地球上の自然環境に関わる基礎的な知識を理解した上で、種々の環境問題や自然保護を地域から地球規模までのスケール別の視点で考察していきます。これらを理解する上では、まずは自然地理学の基本的理解にあります。自然地理学を学習することにより周囲の自然環境が身近になります。				
授業の進め方 (履修条件など)	最初に自然地理学に関する基礎的な知識を習得します。ビジュアルなどの映像を用いて、地形・気候・水環境などを紹介し、自然地理学を多面的・立体的に理解できるようにします。毎時間の講義が、バーチャルリラベルが体験でき、海外旅行において不可欠な知識・教養が身につくような講義を行います。				
成績評価方法	積極的な授業参加、定期試験の成績などで評価します。				
基準					
授業の予習・復習	平素から自然地理・自然環境に関心を持ち、新聞・テレビなどのマスメディアから情報を得ておくのも有効な参考書となりますので、これらを通して予備知識を得ておくことが授業をより一層理解が深まります。				
教科書	特に指定しませんが、授業毎にプリントを配布します。地図帳を持参して下さい。				
参考文献	『フィールドの環境科学』中村圭三著 青山社				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	自己紹介、講義の概要、受講方法、成績評価など			
第2回	大地形	地球のすがた、プレート			
第3回	小地形 1	山地、火山			
第4回	小地形 2	平野、海岸			
第5回	気候 1	気温、風、降水量			
第6回	気候 2	世界の気候区分			
第7回	気候 3	植生、土壌			
第8回	水環境	陸水と海洋			
第9回	自然・環境保護 1	自然災害			
第10回	自然・環境保護 2	環境問題 (地球温暖化・森林破壊)			
第11回	自然・環境保護 3	環境問題 (酸性雨・砂漠化・オゾンホール)			
第12回	自然・環境保護 4	生態系・生物多様性			
第13回	世界自然遺産 1	世界の自然遺産			
第14回	世界自然遺産 2	日本の自然遺産			
第15回	まとめ	総整理・疑問点の解明			

国際

授業番号	B102800001				
科目名 (英語表記)	実践英語 I (Practical English I)				
担当者 (英語表記)	増井 由紀美 (Yukimi Masui)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	英語上達の「秘密」は motivation です。この言葉の意味を共有できる仲間と一緒に英語強化訓練を受けます。留学前に留学生活についてある程度の知識を英文で身につけます。				
授業の進め方 (履修条件など)	アメリカのキャンパスライフについて、学生のアドバイスが詰まった本から学びます。TOEIC400 以上が望ましいのですが、留学を計画している人は相談して下さい。				
成績評価方法 基準	クラス内評価 30% 中間試験 30% 期末試験 40%				
授業の予習・復習	授業内で出される課題をこなす。				
教科書	Navigating Your Freshman Year by Natavi Guides, Inc. 2005.				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	導入	授業の進め方について説明します。			
第 2 回	Some Advice from American College Students	What do most students worry about when they enter college?			
第 3 回	Leaving Home	What do we need at college?			
第 4 回	Make New Friends.	You learn something new every day.			
第 5 回	Getting your bearings	Let's learn how to ask things to seniors, teachers, etc.			
第 6 回	Homesick	Let's learn how to face loneliness or homesick?			
第 7 回	Avoiding Living Hell	Learn how to be polite to your roommates.			
第 8 回	Midterm Examination	Review			
第 9 回	Getting to Work	Learn how to make a schedule.			
第 10 回	Study Hall	Find your favorite place to study.			
第 11 回	After-Class Fun	You never lose time at college.			
第 12 回	Sports	Find your own pastime.			
第 13 回	Getting a Social Life	Learn how to say no.			
第 14 回	Navigating the Dating Maze	It is important to talk about love.			
第 15 回	Review	Are you ready for studying abroad?			

国際
----

授業番号	B102810001				
科目名 (英語表記)	実践英語 II (Practical English II)				
担当者 (英語表記)	George Whalley (George Whalley)	対象学年	2	単位数	2

授業のねらいと到達目標	This is an elective English course. It is designed for students with an interest in improving their knowledge of health and fitness through the medium of English. Each class we will explore ways to improve physical and mental well being using articles, films and discussion. . Three of the of the class sessions will be devoted to physical activities and sports skills in the gym. Students are expected to participate to the best of their abilities. For these sessions, clean indoor sports shoes are required.
授業の進め方 (履修条件など)	Students must wear clothing appropriate for physical activity, including clean sports shoes to the three scheduled activity classes.
成績評価方法 基準	Grading will be equally based on the participation and effort in the activity part of class and a report based on material covered in the classroom.
授業の予習・復習	The instructor will provide all materials.
教科書	There is no book for this class.
参考文献	

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	Introduction	Ten Things About This Class, Survey
第 2 回	Living to 100	Aging Factors
第 3 回	Cancer Prevention	Reducing your cancer risk
第 4 回	Gym + Smoking	Aerobic activity + Tobacco Facts
第 5 回	Passive Smoking	Effects of passive smoking
第 6 回	Exercise	The Benefits of Exercise
第 7 回	Exercising the Brain	Increasing Brain Power
第 8 回	Food	Movie (Supersize Me)
第 9 回	Food	Movie (Supersize Me)
第 10 回	Gym + Super Foods	Basketball skills + 8 Super foods
第 11 回	Alcohol	Dangers of Alcohol
第 12 回	Stress	Fighting Stress
第 13 回	Gym + Obesity	Relays + Games + Dieting
第 14 回	Healthy Teeth	Good oral hygiene habits
第 15 回	Presentations	Student Report Presentations

国際

授業番号	B102830001		
科目名 (英語表記)	実践英語 III (Practical English III)		
担当者 (英語表記)	有馬 容子 (Yoko Arima)	対象学年	3
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	これまで学んできた英語の知識を最大限活用し、書くことにより自己表現することを目的とする。毎回、様々なタイプの人が記述した主張——自分の最も大事にしていること、主義、生き方など——を紹介する。それらを参考に段階的に文章の書き方を学び、最終的には自分についての主張を英語で記述してもらう。Writing I・II で学んだ英文の書き方や College English で学んだ基礎知識を実践してもらいたい。		
授業の進め方 (履修条件など)	毎回少しずつ英文を書き提出してもらいます。辞書 (電子辞書など) を必ず持参すること。Writing (I・II) を履修していることが望ましい。		
成績評価方法	毎回提出する英文 (60%) 学期末提出の英文 (40%)		
基準			
授業の予習・復習	復習: 学んだ表現を覚え、自分に即した内容を英文にして学期末提出の英文エッセイに備える。		
教科書	プリントを配布。		
参考文献	『論理的な英語が書ける本』崎村耕二著 大修館 Jay Allison, ed. This I Believe: More Personal Philosophies of Remarkable Men and Women. Picador, 2006.		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	授業の進め方について説明	参考文献について解説	
第 2 回	センテンスを書く	参考エッセイ "The Fellowship of the World"	
第 3 回	パラグラフを書く (1)	"The Artistry in Hidden Talents"	
第 4 回	パラグラフを書く (2)	"The Hardest Work You Will Ever Do "	
第 5 回	パラグラフを書く (3)	"Have I Learned Anything Important Since I Was Sixteen? "	
第 6 回	整理する (1)	"Growth That Starts from Thinking"	
第 7 回	整理する (2)	"Unleashing the Power of Creativity"	
第 8 回	展開する (1)	"The People Who Love You When No One Else Will"	
第 9 回	展開する (2)	"The Willingness to Work for Solutions"	
第 10 回	展開する (3)	"Science Nourishes the Mind and the Soul"	
第 11 回	効果的に表現す (1)	"Tomorrow Will Be a Better Day"	
第 12 回	効果的に表現す (2)	"The Benefits of Restlessness and Jagged Edges"	
第 13 回	書いてみよう (1)	"The Power of Mysteries"	
第 14 回	書いてみよう (2)	"There Is More to Life than My Life"	
第 15 回	総まとめ	自分のエッセイを書く	

国際					
授業番号	B101340002				
科目名 (英語表記)	実践日本語 I (Practice Japanese I)				
担当者 (英語表記)	銅直 信子 (Nobuko Dobeta)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	アカデミックな場面で必要とされる実践的な口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。新聞の論説文や新書本の文章を読み、考える力を身につけていく。また、ビデオ・DVDを視聴し、内容や意見を発表することで聞く力、話す力を養っていく。最後に各グループでテーマを決めディベートマッチを行う。資料を収集し、立論・反論を組み立てる。ディベートマッチ後、各自の意見をまとめ提出する(800～1000字)。要望に応じて日本語能力試験N1対策を随時行う。				
授業の進め方 (履修条件など)	日本語能力試験N1レベルの日本語能力を有する学生を想定して授業を進める。新聞教材を読んだり、DVDを視聴した後、内容や意見をまとめ授業終了後、提出する。添削して返却するので、正しい日本語表現を確認する。リーダーに頼らず全員が協力してグループ活動を行う。				
成績評価方法	定期試験 50%、レポート・クラス内テスト 30%、発表点 10%、クラス活動点 10%で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：語彙リストの中の漢字の読み方・意味を事前に調べておく。わからない語彙は授業中に確認する。 復習：返却された小レポート類の正しい日本語表現をよく復習する。				
教科書	教科書は使わず、プリントを配布する。各自ファイルしていつでも使えるように準備しておく。				
参考文献	『大学・大学院 留学生の日本語』③論文読解編 『大学・大学院 留学生の日本語』③論文作成編 アカデミック・ジャパニーズ研究会 アルク 『聴解・発表ワークブック』犬飼康弘 スリーエーネットワーク				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス・読解文テスト	ガイダンス後、読解文(オリジナル)の試験を行う。			
第2回	貧困問題	語彙の確認。論文を読む①			
第3回	貧困問題	マイクロクレジットとは。			
第4回	社会的起業家	ビデオを視聴し、内容をまとめる。 有識者の意見をまとめ、それに対する各自の意見を書く。			
第5回	日本における社会的起業家 NPOとは何か。	インターネットで調べたことを発表する。			
第6回	NGOとは何か。	新聞教材を読む。論文を読む②			
第7回	ベシヤワール会	DVDを視聴し、内容をまとめる。			
第8回	国際関係におけるNGO	本文を精読し、問題点を整理する。論文を読む③			
第9回	リーダーの資質とは何か。	ユニクロの店舗拡大			
第10回	外国人の参政権 ディベートについて	反対論・賛成論を読む。			
第11回	賛成論と反対論	モデルを参考にして賛成か反対かを述べた後、書いて提出する。 論文を読む④			
第12回	環境税の導入 ディスカッションの技法	ディスカッションしてテーマを絞る。			
第13回	死刑制度 立論と反論	根拠を絞り、立論を組み立てる。			
第14回	夫婦別姓制度 立論と反論	相手の立論を予想し、質問・反論を準備する。			
第15回	ディベートマッチ	ディベートマッチを行う。ディベーター以外は評価表に点数とコメントを記入する。各自の意見文を提出する(800～1000)。			



国際

授業番号	B101340003				
科目名 (英語表記)	実践日本語 I (Practice Japanese I)				
担当者 (英語表記)	本多 久美子 (Kumiko Honda)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	この授業では、現代社会のさまざまな問題について読んだり話したりしながら、大学生活に必要な「レポート」や「発表レジュメ」を書いたり、「発表」したりすることができるような日本語力を身につけることを目標にしている。また、聞きやすい、わかりやすい日本語を身につけるために、発音練習を随時行う。				
授業の進め方 (履修条件など)	(1) 発音練習、および、発表練習 (2) N1 レベルの語彙や文法を学ぶ (3) 新聞などの記事を読む (4) 内容について議論し、自分の意見をまとめる				
成績評価方法	毎回の課題作成 (30%) 発音 (20%) 総合復習 (20%) レポートとスピーチ (30%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：事前に予習して授業に参加することが望ましい。 復習：授業で学んだ語彙や文法を復習しておくこと。				
教科書	講師作成の教材を使用。プリントは、なくさないようにファイルしておくこと。				
参考文献	授業内で適宜指示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	社会と家族について考える I	「絆ビジネス：震災後の「絆」ブーム」			
第 2 回	社会と家族について考える II	「結婚しない」という新しい生き方			
第 3 回	社会と家族について考える III	「正規か非正規か：雇用問題について考えよう」			
第 4 回	社会と家族について考える IV	「夫は外、妻は家庭」なぜ増加			
第 5 回	職業について考える I	「就職はしたけれど：転職する理由」			
第 6 回	職業について考える II	「希望は女子：男性不況と元気女子」			
第 7 回	職業について考える III	総合復習			
第 8 回	レポート演習 I	「記憶と記録：私たちはなぜ写真をとるのか」			
第 9 回	レポート演習 II	「差異と差別：いじめはなぜ生まれるのか」			
第 10 回	レポート演習 III	「LOVE と LIKE」			
第 11 回	レポート演習 IV	「はじめての ONE PIECE」			
第 12 回	レポート演習 V	「はじめての村上春樹」			
第 13 回	スピーチ演習 I	スピーチのための日本語発音練習			
第 14 回	スピーチ演習 II	スピーチ・プレゼンを成功させるには			
第 15 回	スピーチ演習 III	最終発表会			

国際

授業番号	B101350001				
科目名 (英語表記)	実践日本語 II (Practice Japanese II)			留学生のみ	
担当者 (英語表記)	櫻木 紀子 (Noriko Sakuragi)	対象学年	3	単位数	1
授業のねらいと到達目標	現実の社会現象などについて聞いたり話したりする力を身につける。レポートを書く、発表するなどの練習を積む。グループで協力しながらの作業を経験する。また日本語力だけでなくその発話をするときの態度などについても学ぶ。				
授業の進め方 (履修条件など)	(1) 課題について調べる。 (2) 文章化する。 (3) 発表する。3回を予定。				
成績評価方法	授業中の活動。課題の提出。発表等の合計。配点はその都度知らせる。課題全ての提出及び全て60%以上とることが必須条件				
基準					
授業の予習・復習	予習：発表内容の準備。 復習：発表した内容を清書し、提出。				
教科書	なし。櫻木オリジナルの資料が配付されることがある。テレビの番組を視聴することがある				
参考文献	なし。学期中に適当と思われるものがあれば紹介する				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション。課題①情報収集。 課題①の1：各自の持つ情報を互いに共有する。	小グループ或いはクラス全体で話し合う。話す内容は、今興味を惹かれていることや問題だと考えていることなど。			
第2回	課題①の2：集めた情報を整理し、その中から各グループの課題を選ぶ。	二人又は数人のグループで行う			
第3回	課題①の3：レポート作成のための調査。	インターネットなどで調べ材料を集める。その中から発表する内容を検討。何をどの順に書くか、どのような具体例を示すかなどを話し合う。			
第4回	課題①の4：原稿作成。	発表原稿をグループで作成する。			
第5回	課題①の5：発表	グループ毎に発表する。聞き手はメモや質問の仕方を練習する。			
第6回	課題②：企画する。 課題②の1：イベントを企画する。	イベントを企画するために、実際にあるイベントを調査する。			
第7回	課題②の2：報告	調べた内容を報告する。何をどの順に、どのような文法や表現を用いて話すか練習。興味を惹かれた点などについても話す。出典も報告する。			
第8回	課題②の3：検討	大学在学中にできるイベントについて検討する。内容、日程、予算などについて想像し計画を練ってみる。			
第9回	課題②の4：企画する。	実現可能か否かを想像しながら計画を練ってみる。			
第10回	課題②の5：発表	企画内容を発表。その実行の可能性について全体で検討。			
第11回	課題③：ボランティア 課題③の1：ボランティアについて考え、情報を収集する。	各自の経験について話す。今必要とされているであろうボランティア活動について検討する。			
第12回	課題③の2：ボランティア活動をするためにしなければならないことを考え、話し合う。	人を集めたり指示したりする方法などを検討する。			
第13回	課題③の3：発表原稿(1)下書き作成	聴衆を説得し、活動に参加してもらうために工夫する。			
第14回	課題③の4：発表原稿(2)手書き清書作成	発表原稿(1)を推敲し、清書作成。			
第15回	課題③の5：発表、 課題④：課題集作成。	発表する。			

国際						
授業番号	B104610001					
科目名 (英語表記)	児童福祉論 (Child welfare)					
担当者 (英語表記)	矢作 由美子 (Yumiko Yahagi)	対象学年	2	単位数	2	
授業のねらいと到達目標	児童・家庭福祉分野では、児童への福祉的対応の課題を見つけることが重要です。児童の権利が保障されるようになったのはごく最近のことです。児童福祉という領域は、時代とともに広がりを見せていますが、「児童の福祉」という観点から、一体どのように各時代で考えられてきたのでしょうか。わが国における児童・家庭福祉制度の発展過程の中では、「児童保護」から「児童福祉」へとつくり変わってきました。その意義はどのにあったのでしょうか。歴史を知りながら、「児童福祉法」以外にも児童・家庭福祉の法制度があります。そして、実際の現場は今どのように取り組んでいるのでしょうか。本授業では、児童への福祉的対応について理解を深めることを目標にしながら、児童や家庭に対する支援とは何かを一緒に考えたいと思います。さらに、家庭以外の場所で暮らす子どもたちがいます。また、多言語多文化をもつ子どもたちの存在や、子どもの成長段階において、早期にセクシャルマイノリティの視点を加えることも必要です。その為には、当事者の声を知り、児童福祉、家庭支援の現場で働く人たちの声を聞く機会を提供できればと考えています。					
授業の進め方 (履修条件など)	初回の授業に、今後のスケジュールについて説明します。この授業は当事者の声や現場の声を重視した授業となります。児童福祉にかかわる方々の声を集め、映像から、そして、直接、現場の声を聞く機会をもうけます。また、各自、児童福祉分野に関連した課題を見つけて頂き、報告とまとめる作業があります。そのまとめた内容が、最終的に試験の際に活用することになります。					
成績評価方法	レポート報告と期末試験を含めて総合点で判断します。					
基準						
授業の予習・復習	児童への福祉的対応の課題を見つけることが重要です。まず、資料を探し、行政が発表する統計やグラフなどから、その数字をどう読み込むかです。表面的な数字だけをみて本当に「減少」、「増加」と言えるのでしょうか。積極的に情報収集してください。					
教科書	授業時にプリントを配布します。					
参考文献	【サイト検索】47News (よんななにゅーす) 全国地方新聞社参加「47 スクール」					
回数	授業項目	授業内容				
第1回	本授業の概略と視点－児童福祉の生成と発展－	児童・家庭の生活実態と社会情勢及び児童・家庭福祉制度の発展過程				
第2回	児童・家庭福祉制度における関連機関と役割	児童相談所の役割と各機関との連携				
第3回	児童福祉法の改正	児童福祉法改正ポイントと児童福祉施設の種類				
第4回	現場の声 (報道から)	新聞報道の現場の声 (1)				
第5回	児童への福祉的対応の課題を見つける (1)	各自の関心事を紹介する。				
第6回	児童・家庭福祉の法制度 (1)	児童虐待について				
第7回	子どもへの新たな視点	セクシャルマイノリティの視点から (現場の声)				
第8回	発達障害とは何か	障害について理解を深める。DVD を活用し当事者の声を聞く。				
第9回	児童福祉関連機関の現場の声	現場の声を含む DVD の活用 (1)				
第10回	里親制度について	DVD を活用してその概要と現場の声を紹介する。				
第11回	障害者施設から (現場の声)	現場の声を聞く (2)				
第12回	家族支援 (現場の声)	現場の声を聞く (3)				
第13回	ふりかえり	児童や家庭に対する支援と児童福祉施策について				
第14回	児童への福祉的対応の課題を見つける (2)	各自レポート報告				
第15回	まとめ	各自レポート発表				

国際					
授業番号	B104600001				
科目名 (英語表記)	児童文学論 (Children's literature)				
担当者 (英語表記)	畑中 千晶 (Chiaki Hatanaka)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	児童文学とは何か、歴史・ジャンル・テーマなどについて基本的な知識を得るとともに、具体的な作品の分析を通じて、読み深めるための方法を学ぶ。子どもに本を手渡す大人として、児童文学の価値を見定める力を身につけることが到達目標である。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式を基本としつつ、毎回、5分程度、学生の個人発表を取り入れていく。 なお、受講生には、興味を覚えた作品を実際に手に取り、積極的に読み進めていくことを求める。メディアセンターの教員推薦図書コーナー参照のこと。				
成績評価方法	クラス内の活動への参加度 (予習・復習の成果を示す発言や発表活動等) 50%、期末試験 50%。				
基準					
授業の予習・復習	予習：テキストの当該ページを読み、疑問点、注目箇所等をマークする。 復習：講義内容を整理し、次週、クラスでコメントを求められた際、発表できるように用意を行う。				
教科書	川端有子『児童文学の教科書』玉川大学出版部 ISBN978-4-472-40463-4				
参考文献	桂有子 / 牟田おりえ編『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房 鳥越信編『はじめて学ぶ日本児童文学史』ミネルヴァ書房 ひこ・田中『大人のための児童文学講座』徳間書店 宮崎駿『本へのとびら 一岩波少年文庫を語る』岩波新書				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	イントロダクション、序章	講義の進め方、発表担当の決定、児童文学とはなにか			
第2回	第1章 子どもの本の分類	形式別、対象年齢別、ジャンル別			
第3回	第2章 英米の子どもの本の歴史	1「子ども概念」の出現、2 イギリスにおける児童文学の出現			
第4回	第2章 英米の子どもの本の歴史	3 二つの「子ども観」、4 伝承文芸からファンタジーへ			
第5回	第2章 英米の子どもの本の歴史	5 黄金期から二〇世紀まで、6 二〇世紀後半から現在へ			
第6回	第3章 日本の子どもの本の歴史	1 明治以前、2 明治の児童文学			
第7回	第3章 日本の子どもの本の歴史	3 大正デモクラシーのもとで、4 戦中の児童文学			
第8回	第3章 日本の子どもの本の歴史	5 戦後児童文学の再出発、6 現代の動向			
第9回	第4章 伝承から子どものための物語へ	神話・伝説・昔話			
第10回	第5章 ファンタジー	1 創作童話、象徴童話～4 日常のファンタジー			
第11回	第6章 リアリズム	日常・家族・学校・友情・人生			
第12回	第7章 冒険物語	探索・試練・挑戦・救出・サバイバル			
第13回	第14章 絵本のいろいろ	赤ちゃん絵本、物語絵本、しかけ絵本			
第14回	第15章 幼年文学とYA文学	幼年文学、YA文学			
第15回	まとめ、発展項目	総復習、および、児童図書館サービスについて			

国際							
授業番号	B104160001						
科目名 (英語表記)	社会 (Society)				(A)		
担当者 (英語表記)	田村 孝 (Takashi Tamura)			対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校社会科という科目の構造とその内容について学ぶことをねらいとする。戦後の教育の中で、社会科という科目がどのように構想されつられていったか、また現在の学習指導要領には何がうたわれているのかを学ぶ。						
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式による。今年度は歴史分野と公民分野とに分けて個別のテーマを設け、これに沿って講義をする予定である。						
成績評価方法	出席状況と試験による。授業内容をどれくらい理解しているかが評価の基準となる。						
基準							
授業の予習・復習	特に必要とはしないが、特別に課題を出すこともあるので、その場合は期日までに提出すること。						
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領 平成 20 年 3 月告示』 東京書籍 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編 平成 20 年 8 月』 東洋館出版社						
参考文献	そのつど指示する。						
回数	授業項目	授業内容					
第 1 回	オリエンテーション	受講上の注意 その他					
第 2 回	人物史学習のポイントと学習指導要領	ある時代を理解するには単に個人の歴史的業績を理解するだけでは不十分で、当該時代の歴史的な背景とともに学ぶことが重要である。これを数回にわたって実例をあげて学ぶこととする。					
第 3 回	古代の首長とその社会	卑弥呼を取り上げる。					
第 4 回	摂関政治を学ぶ。	藤原氏の権力掌握過程を取り上げる。					
第 5 回	武家政治を学ぶ。	源頼朝と鎌倉幕府の成立					
第 6 回	鎖国の実態を学ぶ。	近世の東アジアと日本					
第 7 回	近代化を学ぶ。	幕末と明治維新					
第 8 回	民主主義とは何か	第二次大戦前の政治制度					
第 9 回	戦後民主主義	敗戦と民主化の過程					
第 10 回	日本国憲法の制定	日本国憲法の内容とその精神					
第 11 回	教育の民主化 (その 1)	戦前の実態 (教育勅語下の教育)					
第 12 回	教育の民主化 (その 2)	教育基本法の制定と民主教育					
第 13 回	選挙制度の変遷	普通選挙法の制定と戦後民主主義					
第 14 回	家族のあり方	家父長制度と戦後の家族のあり方					
第 15 回	基本的人権	自由を考える。					

# 国際

授業番号	B104160003				
科目名 (英語表記)	社会 (Society)			(B)	
担当者 (英語表記)	鎌田 正男 (Masao Kamada)	対象学年	1	単位数	2

授業のねらいと到達目標	小学校社会科でどんな事象が取り上げられるかを知り、その元となる素材を幅広く探求し、社会科の学習に興味と関心を持てるようにしていく。そのためにはまず各学年の指導内容を知り、そこに上げるとよい素材はどのようなものがよいか具体事例を通して解説していく。あわせて郷土千葉県への関心をより深めてもらいたい。
授業の進め方 (履修条件など)	まず学習指導要領から社会科の内容を確認する。続いて3年から6年までの素材から学年ごとに数例取り上げてその素材の価値や面白さなどを考えていく。解説の後にできるだけグループ討議など参加型の学習を行っていく。
成績評価方法	講義や演習形式の学習への参加状況 レポート 確認テストを総合的に評価する。
基準	
授業の予習・復習	小学校学習指導要領解説社会科編のうち各回の講義に関わる部分を読んでおくこと。また日常のニュースや旅行などで常に社会科の授業に使えないかという視点でものを見ておくことが望まれる。
教科書	小学校学習指導要領解説社会編 H20 東洋館出版
参考文献	

回数	授業項目	授業内容
第1回	小学校社会科の指導内容	小学校社会科はどんな教科か
第2回	3年生の指導内容と年間指導計画	3年生の年間指導計画と各単元の指導内容
第3回	地図指導の導入 暮らしの変化	地図学習のはじめ 歴史学習のはじめ
第4回	4年生の指導内容と年間指導計画	4年生の年間指導計画と各単元の指導内容
第5回	飲料水の確保と廃棄物の処理	飲料水が届くまで、廃棄物が処理されるまで
第6回	5年生の指導内容と年間指導計画	5年生の年間指導計画と各単元の指導内容
第7回	5年 わが国の国土	わが国の領土 地形 気候
第8回	5年 工業と貿易・運輸	日本の工業とそれを支える貿易と運輸
第9回	6年の指導内容1 歴史学習	6年生の歴史学習とその指導計画
第10回	6年の指導内容2 政治・国際理解学習	6年生の政治・国際理解学習とその指導計画
第11回	6年 鎌倉幕府と元寇	鎌倉幕府と元寇に秘められた歴史
第12回	6年 江戸幕府と庶民の暮らし	江戸幕府の政治と庶民の暮らし
第13回	千葉県を知ろう1 地理の目から	地理の目で見ると千葉県はどんな県か
第14回	千葉県を知ろう2 歴史の目から	歴史の目で見ると千葉県はどんな県か
第15回	小学校の社会を考える	社会科の小中関連について 講義のまとめ

国際

授業番号	B104420001				
科目名 (英語表記)	小学校英語 I (Junior school English I)			(A)	
担当者 (英語表記)	佐藤 佳子 (Keiko Sato)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	子どもの発達、特に言語発達を理解し、小学校外国語活動の基本的な知識や理論、指導方法を学び、小学校外国語教育についての在り方を考える。様々なアクティビティを体験し、小学校外国語活動を担当する教師として適切な指導技能を理解するとともに、学生自身の英語運用能力の向上を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義とグループワーク形式で実施する。				
成績評価方法	授業への積極的な参加・発表・リアクションペーパーによって総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	復習：授業の内容を整理する。授業で取り上げた内容関連の資料文献を読む。自主的なボランティア活動。				
教科書	必要に応じて資料を配布する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、外国語学習 (自分の体験から)、小学校英語について			
第 2 回	小学校外国語活動について	概要 (導入の背景、基本的な知識、めざすもの、MEXT 指導要領、評価)			
第 3 回	第二言語習得理論	母語の習得、第二言語の習得			
第 4 回	外国語指導方法および Classroom English ①	授業で使える英語表現			
第 5 回	外国語指導方法および Classroom English ②	TPR, Communicative Language Teaching			
第 6 回	Activities ①	songs, chants			
第 7 回	Activities ②	games			
第 8 回	Activities ③	picture books			
第 9 回	Activity の作成①	chants			
第 10 回	Activity の作成②	games			
第 11 回	Activity のプレゼンテーション	Activity の評価			
第 12 回	Hi, friends! 考察	Hi, friends! における activity の考察			
第 13 回	授業計画について	レッスンプラン (通年の構成、単元シラバス)			
第 14 回	教材について	ICT の活用、教材開発の仕方			
第 15 回	まとめ	第 1 ~ 14 回の授業内容をふりかっ			

国際

授業番号	B104420002				
科目名 (英語表記)	小学校英語 I (Junior school English I)			(B)	
担当者 (英語表記)	執行 智子 (Tomoko Shigyo)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	子どもの発達、特に言語発達を理解し、小学校外国語活動の基本的な知識や理論、指導方法を学び、小学校外国語教育についての在り方を考える。様々なアクティビティを体験し、小学校外国語活動を担当する教師として適切な指導技能を理解するとともに、学生自身の英語運用能力の向上を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義とグループワーク形式で実施する。				
成績評価方法	授業への積極的な参加・発表・リアクションペーパーによって総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	復習：授業の内容を整理する。授業で取り上げた内容関連の資料文献を読む。自主的なボランティア活動。				
教科書	必要に応じて資料を配布する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、外国語学習 (自分の体験から)、小学校英語について			
第 2 回	小学校外国語活動について	概要 (導入の背景、基本的な知識、めざすもの、MEXT 指導要領、評価)			
第 3 回	第二言語習得理論	母語の習得、第二言語の習得			
第 4 回	外国語指導方法および Classroom English ①	授業で使える英語表現			
第 5 回	外国語指導方法および Classroom English ②	TPR, Communicative Language Teaching			
第 6 回	Activities ①	songs, chants			
第 7 回	Activities ②	games			
第 8 回	Activities ③	picture books			
第 9 回	Activity の作成①	chants			
第 10 回	Activity の作成②	games			
第 11 回	Activity のプレゼンテーション	Activity の評価			
第 12 回	Hi, friends! 考察	Hi, friends! における activity の考察			
第 13 回	授業計画について	レッスンプラン (通年の構成、単元シラバス)			
第 14 回	教材について	ICT の活用、教材開発の仕方			
第 15 回	まとめ	第 1 ~ 14 回の授業内容をふりかっ			



国際

授業番号	B104430001		
科目名 (英語表記)	小学校英語 II (Junior school English II)	(A)	
担当者 (英語表記)	佐藤 佳子 (Keiko Sato)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、小学校外国語活動を担当する教師として適切な技能を、実践を通して、理解し深めていくことをねらいとする。今学期は、これまで学んできた一つひとつの Activity をレッスンプランにつなげていく作業を中心にグループで取り組む。Classroom English などの英語運用能力の向上を目指す。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義とグループワーク形式で実施する。		
成績評価方法	授業への積極的な参加・リアクションペーパー・発表によって総合的に評価する。		
基準			
授業の予習・復習	復習：授業の内容を整理し、まとめ、理解する。授業で取り上げた内容関連の資料文献を読む。自主的なボランティア活動。		
教科書	必要に応じて資料を配布する。		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、外国語学習 (自分の体験から)	
第 2 回	小学校外国語活動について	現状 (MEXT 指導要領) と課題 (評価)	
第 3 回	第二言語習得理論	母語の習得、第二言語の習得	
第 4 回	外国語指導方法および Classroom English ①	授業で使える英語表現、phonics	
第 5 回	外国語指導方法および Classroom English ②	TPR, Communicative Language Teaching、phonics	
第 6 回	Activities ①	songs, chants	
第 7 回	Activities ②	games	
第 8 回	Activities ③	picture books	
第 9 回	英語学習理論	input theory, interaction theory, output hypothesis	
第 10 回	グループワーク①	chants, songs, games	
第 11 回	グループワーク②	chants, songs	
第 12 回	グループワーク③	chants, games	
第 13 回	グループワーク④	picture books	
第 14 回	グループワーク⑤	picture books, games	
第 15 回	まとめ	第 1 ～ 14 回の授業内容をふりかえって	

国際

授業番号	B104430002		
科目名 (英語表記)	小学校英語 II (Junior school English II)	(B)	
担当者 (英語表記)	執行 智子 (Tomoko Shigyo)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、小学校外国語活動を担当する教師として適切な技能を、実践を通して、理解し深めていくことをねらいとする。今学期は、これまで学んできた一つひとつの Activity をレッスンプランにつなげていく作業を中心にグループで取り組む。Classroom English などの英語運用能力の向上を目指す。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義とグループワーク形式で実施する。		
成績評価方法	授業への積極的な参加・リアクションペーパー・発表によって総合的に評価する。		
基準			
授業の予習・復習	復習：授業の内容を整理し、まとめ、理解する。授業で取り上げた内容関連の資料文献を読む。自主的なボランティア活動。		
教科書	必要に応じて資料を配布する。		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、外国語学習 (自分の体験から)	
第 2 回	小学校外国語活動について	現状 (MEXT 指導要領) と課題 (評価)	
第 3 回	第二言語習得理論	母語の習得、第二言語の習得	
第 4 回	外国語指導方法および Classroom English ①	授業で使える英語表現、phonics	
第 5 回	外国語指導方法および Classroom English ②	TPR, Communicative Language Teaching、phonics	
第 6 回	Activities ①	songs, chants	
第 7 回	Activities ②	games	
第 8 回	Activities ③	picture books	
第 9 回	英語学習理論	input theory, interaction theory, output hypothesis	
第 10 回	グループワーク①	chants, songs, games	
第 11 回	グループワーク②	chants, songs	
第 12 回	グループワーク③	chants, games	
第 13 回	グループワーク④	picture books	
第 14 回	グループワーク⑤	picture books, games	
第 15 回	まとめ	第 1 ～ 14 回の授業内容をふりかえって	

国際

授業番号	B104440001				
科目名 (英語表記)	小学校英語指導法 I (Elementary school English) (A) method of instruction I				
担当者 (英語表記)	佐藤 佳子 (Keiko Sato)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校外国語活動についての意義を考え、小学校教師として外国語活動を実践する能力を育成する。レッスンプランの作成、模擬授業形式の発表などの実践を通して、小学校教師として適切な指導技能の習得、教材研究、授業の進め方について理解を深める。学生自身の英語運用能力のさらなる強化にも力を入れる。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業は、講義とゼミ形式で実施する。				
成績評価方法	授業への積極的な参加・発表・リアクションペーパーによって総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	復習：授業の内容を整理し、まとめ、理解する。授業で取り上げた内容関連の文献資料を読む。				
教科書	必要に応じて資料を配布する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、外国語学習 (自分の体験から)			
第 2 回	小学校外国語活動について	現状 (MEXT 指導要領) と課題 (評価)			
第 3 回	外国語教授法および外国語学習①	communicative approach			
第 4 回	外国語教授法および外国語学習②	content-based, task-based, MI, immersion			
第 5 回	教材研究①	教材開発の仕方			
第 6 回	教材研究②	ICT の活用			
第 7 回	評価について	評価方法の実際			
第 8 回	レッスンプラン作成①	プロジェクト作成①			
第 9 回	レッスンプラン作成②	プロジェクト作成②			
第 10 回	発表①	模擬授業①			
第 11 回	発表②	模擬授業②			
第 12 回	発表③	模擬授業③			
第 13 回	発表④	模擬授業④			
第 14 回	これからの小学校英語教育	今後の課題について、ディスカッション			
第 15 回	まとめ	第 1 ~ 14 回の授業内容をふりかっ			

国際

授業番号	B104440002				
科目名 (英語表記)	小学校英語指導法 I (Elementary school English) (B) method of instruction I)				
担当者 (英語表記)	執行 智子 (Tomoko Shigyo)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校外国語活動についての意義を考え、小学校教師として外国語活動を実践する能力を育成する。レッスンプランの作成、模擬授業形式の発表などの実践を通して、小学校教師として適切な指導技能の習得、教材研究、授業の進め方について理解を深める。学生自身の英語運用能力のさらなる強化にも力を入れる。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業は、講義とゼミ形式で実施する。				
成績評価方法	授業への積極的な参加・発表・リアクションペーパーによって総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	復習：授業の内容を整理し、まとめ、理解する。授業で取り上げた内容関連の文献資料を読む。				
教科書	必要に応じて資料を配布する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、外国語学習 (自分の体験から)			
第 2 回	小学校外国語活動について	現状 (MEXT 指導要領) と課題 (評価)			
第 3 回	外国語教授法および外国語学習①	communicative approach			
第 4 回	外国語教授法および外国語学習②	content-based, task-based, MI, immersion			
第 5 回	教材研究①	教材開発の仕方			
第 6 回	教材研究②	ICT の活用			
第 7 回	評価について	評価方法の実際			
第 8 回	レッスンプラン作成①	プロジェクト作成①			
第 9 回	レッスンプラン作成②	プロジェクト作成②			
第 10 回	発表①	模擬授業①			
第 11 回	発表②	模擬授業②			
第 12 回	発表③	模擬授業③			
第 13 回	発表④	模擬授業④			
第 14 回	これからの小学校英語教育	今後の課題について、ディスカッション			
第 15 回	まとめ	第 1 ~ 14 回の授業内容をふりかっ			

国際

授業番号	B104450001				
科目名 (英語表記)	小学校英語指導法 II (Elementary school English) (A) method of instruction II)				
担当者 (英語表記)	佐藤 佳子 (Keiko Sato)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校外国語活動についての意義を考え、小学校教師として外国語活動を実践する能力を育成する。レッスンプランの作成、模擬授業形式の発表などの実践を通して、小学校教師として適切な指導技能の習得、教材研究、授業の進め方について理解を深める。学生自身の英語運用能力のさらなる強化にも力を入れる。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業は、講義とゼミ形式で実施する。				
成績評価方法	授業への積極的な参加・発表・リアクションペーパーによって総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	復習：授業の内容を整理し、まとめ、理解する。授業で取り上げた内容関連の文献資料を読む。				
教科書	必要に応じて資料を配布する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、外国語学習 (自分の体験から)			
第 2 回	小学校外国語活動について	現状 (MEXT 指導要領) と課題 (評価)			
第 3 回	外国語教授法および外国語学習①	communicative approach			
第 4 回	外国語教授法および外国語学習②	content-based, task-based, MI, immersion			
第 5 回	教材研究①	教材開発の仕方			
第 6 回	教材研究②	ICT の活用			
第 7 回	評価について	評価方法の実際			
第 8 回	レッスンプラン作成①	プロジェクト作成①			
第 9 回	レッスンプラン作成②	プロジェクト作成②			
第 10 回	発表①	模擬授業①			
第 11 回	発表②	模擬授業②			
第 12 回	発表③	模擬授業③			
第 13 回	発表④	模擬授業④			
第 14 回	これからの小学校英語教育	今後の課題について、ディスカッション			
第 15 回	まとめ	第 1 ～ 14 回の授業内容をふりかかって			

国際

授業番号	B104450002				
科目名 (英語表記)	小学校英語指導法 II (Elementary school English method of instruction II)		(B) 4年生用		
担当者 (英語表記)	執行 智子 (Tomoko Shigyo)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校外国語活動についての意義を考え、小学校教師として外国語活動を実践する能力を育成する。レッスンプランの作成、模擬授業形式の発表などの実践を通して、小学校教師として適切な指導技能の習得、教材研究、授業の進め方について理解を深める。学生自身の英語運用能力のさらなる強化にも力を入れる。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業は、講義とゼミ形式で実施する。				
成績評価方法	授業への積極的な参加・発表・リアクションペーパーによって総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	復習：授業の内容を整理し、まとめ、理解する。授業で取り上げた内容関連の文献資料を読む。				
教科書	必要に応じて資料を配布する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、外国語学習 (自分の体験から)			
第 2 回	小学校外国語活動について	現状 (MEXT 指導要領) と課題 (評価)			
第 3 回	外国語教授法および外国語学習①	communicative approach			
第 4 回	外国語教授法および外国語学習②	content-based, task-based, MI, immersion			
第 5 回	教材研究①	教材開発の仕方			
第 6 回	教材研究②	ICT の活用			
第 7 回	評価について	評価方法の実際			
第 8 回	レッスンプラン作成①	プロジェクト作成①			
第 9 回	レッスンプラン作成②	プロジェクト作成②			
第 10 回	発表①	模擬授業①			
第 11 回	発表②	模擬授業②			
第 12 回	発表③	模擬授業③			
第 13 回	発表④	模擬授業④			
第 14 回	これからの小学校英語教育	今後の課題について、ディスカッション			
第 15 回	まとめ	第 1 ~ 14 回の授業内容をふりかっ			

国際

授業番号	B104450003				
科目名 (英語表記)	小学校英語指導法 II (Elementary school English) (C) method of instruction II)				
担当者 (英語表記)	執行 智子 (Tomoko Shigyo)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校外国語活動についての意義を考え、小学校教師として外国語活動を実践する能力を育成する。レッスンプランの作成、模擬授業形式の発表などの実践を通して、小学校教師として適切な指導技能の習得、教材研究、授業の進め方について理解を深める。学生自身の英語運用能力のさらなる強化にも力を入れる。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業は、講義とゼミ形式で実施する。				
成績評価方法	授業への積極的な参加・発表・リアクションペーパーによって総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	復習：授業の内容を整理し、まとめ、理解する。授業で取り上げた内容関連の文献資料を読む。				
教科書	必要に応じて資料を配布する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、外国語学習 (自分の体験から)			
第 2 回	小学校外国語活動について	現状 (MEXT 指導要領) と課題 (評価)			
第 3 回	外国語教授法および外国語学習①	communicative approach			
第 4 回	外国語教授法および外国語学習②	content-based, task-based, MI, immersion			
第 5 回	教材研究①	教材開発の仕方			
第 6 回	教材研究②	ICT の活用			
第 7 回	評価について	評価方法の実際			
第 8 回	レッスンプラン作成①	プロジェクト作成①			
第 9 回	レッスンプラン作成②	プロジェクト作成②			
第 10 回	発表①	模擬授業①			
第 11 回	発表②	模擬授業②			
第 12 回	発表③	模擬授業③			
第 13 回	発表④	模擬授業④			
第 14 回	これからの小学校英語教育	今後の課題について、ディスカッション			
第 15 回	まとめ	第 1 ～ 14 回の授業内容をふりかっ			

国際

授業番号	B104450004				
科目名 (英語表記)	小学校英語指導法 II (Elementary school English) (D) method of instruction II)				
担当者 (英語表記)	執行 智子 (Tomoko Shigyo)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校外国語活動についての意義を考え、小学校教師として外国語活動を実践する能力を育成する。レッスンプランの作成、模擬授業形式の発表などの実践を通して、小学校教師として適切な指導技能の習得、教材研究、授業の進め方について理解を深める。学生自身の英語運用能力のさらなる強化にも力を入れる。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業は、講義とゼミ形式で実施する。				
成績評価方法	授業への積極的な参加・発表・リアクションペーパーによって総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	復習：授業の内容を整理し、まとめ、理解する。授業で取り上げた内容関連の文献資料を読む。				
教科書	必要に応じて資料を配布する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、外国語学習 (自分の体験から)			
第 2 回	小学校外国語活動について	現状 (MEXT 指導要領) と課題 (評価)			
第 3 回	外国語教授法および外国語学習①	communicative approach			
第 4 回	外国語教授法および外国語学習②	content-based, task-based, MI, immersion			
第 5 回	教材研究①	教材開発の仕方			
第 6 回	教材研究②	ICT の活用			
第 7 回	評価について	評価方法の実際			
第 8 回	レッスンプラン作成①	プロジェクト作成①			
第 9 回	レッスンプラン作成②	プロジェクト作成②			
第 10 回	発表①	模擬授業①			
第 11 回	発表②	模擬授業②			
第 12 回	発表③	模擬授業③			
第 13 回	発表④	模擬授業④			
第 14 回	これからの小学校英語教育	今後の課題について、ディスカッション			
第 15 回	まとめ	第 1 ～ 14 回の授業内容をふりかっ			



国際						
授業番号	B101420001					
科目名(英語表記)	情報処理 I (情報基礎) (Information Processing I)			(A) こども専用		
担当者(英語表記)	田口 功 (Isao Taguchi)	対象学年	1	単位数	1	
授業のねらいと到達目標	情報社会では、コンピュータについて正しく理解し、上手に利用できる能力(コンピュータリテラシー)が必要である。本講義では、コンピュータリテラシーを身につける。また、パソコン使用で最も基本的な使い方として、Word2007を用いて文書作成の方法を学ぶ。MOUS 検定を意識した演習問題や実用的な資料を多く取り入れる。					
授業の進め方(履修条件など)	Word ソフト使用している学生は多い。前半、後半を通し実用的な演習課題を多くした。各自課題を作成し提出をする。					
成績評価方法	提出物を重視する。小試験も授業中に行ない総合評価します。					
基準						
授業の予習・復習	予習：教科書には Word, Excel, Power point について要点がまとめてある。目をとおしておくことが望まれる。課題についてよく資料を見て研究をして下さい。復習：授業中に指摘された事柄などについて良く復習して下さい。					
教科書	情報リテラシー Office 2007 実教出版					
参考文献						
回数	授業項目	授業内容				
第 1 回	情報処理の基本	オリエンテーション授業の進め方を説明、パソコンの構成やソフトについての説明、キータッチの説明、テキスト内容紹介				
第 2 回	文字列の入力	文字列や記号の入力方法と編集の仕方、ファイルの基本的操作				
第 3 回	文字列の入力と編集	文字列や記号の入力と編集、簡単な図表の作成、演習問題				
第 4 回	検索および編集	文字列や記号の入力と編集、検索、置換、図表の作成、インデントとタブ、演習問題、印刷の仕方				
第 5 回	書式設定	文字や段落についての書式設定、段組、ヘッダーおよびフッター、ページ設定、図の挿入、演習問題				
第 6 回	表の作成と画像の挿入	表の作成、クリップアート、文字や段落についての書式設定、ページ設定、演習問題				
第 7 回	箇条書き	箇条書きやアウトライン作成、ハイパーリンクや表の挿入方法、演習問題				
第 8 回	ブロック図の作成	箇条書、図形の作成、ブロック図の作成、表の挿入方法、演習問題				
第 9 回	ポスター作成	ページ罫線を用いたポスター作成、箇条書、罫線の種類、色、演習問題				
第 10 回	ポスター作成(2)	まとめとしての大学祭のポスター作成				
第 11 回	Power Point の基本事項	Power Point の使用方法の基本画面を Word と対応させ説明し、今まで作成した資料を紹介する。スライドショー表示する。押さえておく基本事項の説明をする。				
第 12 回	スライド作成	自己紹介のスライドを作成する。提出をする。				
第 13 回	テキストボックス	イラストや画像の挿入、グラフの作成と画像挿入の仕方、文字の選択、テキストボックスの使い方				
第 14 回	図表グラフの作成	図表、グラフ、表の作成を取り入れたプレゼンテーションの作成、提出				
第 15 回	印刷、まとめ	スライドの印刷方法、まとめ、印刷提出				

国際					
授業番号	B101420002				
科目名 (英語表記)	情報処理 I (情報基礎) (Information Processing I)			(B)	
担当者 (英語表記)	佐竹 勇子 (Yuko Satake)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	大学生生活や日常においてコンピュータを扱うために必要なリテラシー (活用能力) を身につけることを目標とする。MS Office ソフトを活用して、文書作成 (Word) 表計算 (Excel) を実習し基礎力修得を目指す。 MOS 資格取得のために、毎年ライセンス講座を開講している。この講義を基礎力として MOS 対策講座への参加および資格取得を期待する。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書および配布プリントをもとにインターネットやメール、Word2010、Excel2010 を実習する。				
成績評価方法	平常点及び課題提出 (40%)・定期試験 (60%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：タイピングが苦手な学生は、タイピング練習を心がけてください。 復習：教科書を見直して機能や操作方法を覚えてください。				
教科書	『30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2010』実教出版				
参考文献	MOS Word2010 対策テキスト&問題集 FOM 出版 MOS Excel?2010 対策テキスト&問題集 FOM 出版				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と評価方法・パスワード管理			
第 2 回	大学のコンピュータと OS	Windows の基本操作と大学での使い方 タイピング			
第 3 回	インターネット	ブラウザと情報倫理、情報セキュリティ			
第 4 回	電子メール	G-Mail の使い方			
第 5 回	Word-(1)	Word2010 の画面構成・ファイル管理			
第 6 回	Word-(2)	文書の作成と表の作成			
第 7 回	Word-(3)	文書の編集			
第 8 回	Word-(4)	表現力をアップするツール			
第 9 回	Word-(5)	長文作成をサポートするツール			
第 10 回	Excel-(1)	Excel2010 の画面構成・データ入力			
第 11 回	Excel-(2)	表の作成 (1)			
第 12 回	Excel-(3)	表の作成 (2)			
第 13 回	Excel-(4)	計算式と関数の入力			
第 14 回	Excel-(5)	表の印刷			
第 15 回	まとめ	復習と定期試験対策			

国際						
授業番号	B101420003					
科目名(英語表記)	情報処理 I (情報基礎) (Information Processing I)			(B) こども専用		
担当者(英語表記)	田口 功 (Isao Taguchi)	対象学年	1	単位数	1	
授業のねらいと到達目標	情報社会では、コンピュータについて正しく理解し、上手に利用できる能力(コンピュータリテラシー)が必要である。本講義では、コンピュータリテラシーを身につける。また、パソコン使用で最も基本的な使い方として、Word2007を用いて文書作成の方法を学ぶ。MOUS 検定を意識した演習問題や実用的な資料を多く取り入れる。					
授業の進め方(履修条件など)	Word ソフト使用している学生は多い。前半、後半を通し実用的な演習課題を多くした。各自課題を作成し提出をする。					
成績評価方法	提出物を重視する。小試験も授業中に行ない総合評価します。					
基準						
授業の予習・復習	予習：教科書には Word, Excel, Power point について要点がまとめてある。目をとおしておくことが望まれる。課題についてよく資料を見て研究をして下さい。復習：授業中に指摘された事柄などについて良く復習して下さい。					
教科書	情報リテラシー Office 2007 実教出版					
参考文献						
回数	授業項目	授業内容				
第 1 回	情報処理の基本	オリエンテーション授業の進め方を説明、パソコンの構成やソフトについての説明、キータッチの説明、テキスト内容紹介				
第 2 回	文字列の入力	文字列や記号の入力方法と編集の仕方、ファイルの基本的操作				
第 3 回	文字列の入力と編集	文字列や記号の入力と編集、簡単な図表の作成、演習問題				
第 4 回	検索および編集	文字列や記号の入力と編集、検索、置換、図表の作成、インデントとタブ、演習問題、印刷の仕方				
第 5 回	書式設定	文字や段落についての書式設定、段組、ヘッダーおよびフッター、ページ設定、図の挿入、演習問題				
第 6 回	表の作成と画像の挿入	表の作成、クリップアート、文字や段落についての書式設定、ページ設定、演習問題				
第 7 回	箇条書き	箇条書きやアウトライン作成、ハイパーリンクや表の挿入方法、演習問題				
第 8 回	ブロック図の作成	箇条書、図形の作成、ブロック図の作成、表の挿入方法、演習問題				
第 9 回	ポスター作成	ページ罫線を用いたポスター作成、箇条書、罫線の種類、色、演習問題				
第 10 回	ポスター作成(2)	まとめとしての大学祭のポスター作成				
第 11 回	Power Point の基本事項	Power Point の使用方法の基本画面を Word と対応させ説明し、今まで作成した資料を紹介する。スライドショー表示する。押さえておく基本事項の説明をする。				
第 12 回	スライド作成	自己紹介のスライドを作成する。提出をする。				
第 13 回	テキストボックス	イラストや画像の挿入、グラフの作成と画像挿入の仕方、文字の選択、テキストボックスの使い方				
第 14 回	図表グラフの作成	図表、グラフ、表の作成を取り入れたプレゼンテーションの作成、提出				
第 15 回	印刷、まとめ	スライドの印刷方法、まとめ、印刷提出				

国際

授業番号	B101420004		
科目名 (英語表記)	情報処理 I (情報基礎) (Information Processing I)	(C)	
担当者 (英語表記)	佐竹 勇子 (Yuko Satake)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	大学生生活や日常においてコンピュータを扱うために必要なリテラシー (活用能力) を身につけることを目標とする。MS Office ソフトを活用して、文書作成 (Word) 表計算 (Excel) を実習し基礎力修得を目指す。 MOS 資格取得のために、毎年ライセンス講座を開講している。この講義を基礎力として MOS 対策講座への参加および資格取得を期待する。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書および配布プリントをもとにインターネットやメール、Word2010、Excel2010 を実習する。		
成績評価方法	平常点及び課題提出 (40%)・定期試験 (60%)		
基準			
授業の予習・復習	予習：タイピングが苦手な学生は、タイピング練習を心がけてください。 復習：教科書を見直して機能や操作方法を覚えてください。		
教科書	『30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2010』実教出版		
参考文献	MOS Word2010 対策テキスト&問題集 FOM 出版 MOS Excel?2010 対策テキスト&問題集 FOM 出版		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と評価方法・パスワード管理	
第 2 回	大学のコンピュータと OS	Windows の基本操作と大学での使い方 タイピング	
第 3 回	インターネット	ブラウザと情報倫理、情報セキュリティ	
第 4 回	電子メール	G-Mail の使い方	
第 5 回	Word-(1)	Word2010 の画面構成・ファイル管理	
第 6 回	Word-(2)	文書の作成と表の作成	
第 7 回	Word-(3)	文書の編集	
第 8 回	Word-(4)	表現力をアップするツール	
第 9 回	Word-(5)	長文作成をサポートするツール	
第 10 回	Excel-(1)	Excel2010 の画面構成・データ入力	
第 11 回	Excel-(2)	表の作成 (1)	
第 12 回	Excel-(3)	表の作成 (2)	
第 13 回	Excel-(4)	計算式と関数の入力	
第 14 回	Excel-(5)	表の印刷	
第 15 回	まとめ	復習と定期試験対策	

国際

授業番号	B101420005		
科目名 (英語表記)	情報処理 I (情報基礎) (Information Processing I)	(A)	
担当者 (英語表記)	佐竹 勇子 (Yuko Satake)	対象学年	1
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	大学生生活や日常においてコンピュータを扱うために必要なリテラシー (活用能力) を身につけることを目標とする。MS Office ソフトを活用して、文書作成 (Word) 表計算 (Excel) を実習し基礎力修得を目指す。 MOS 資格取得のために、毎年ライセンス講座を開講している。この講義を基礎力として MOS 対策講座への参加および資格取得を期待する。		
授業の進め方 (履修条件など)	教科書および配布プリントをもとにインターネットやメール、Word2010、Excel2010 を実習する。		
成績評価方法	平常点及び課題提出 (40%)・定期試験 (60%)		
基準			
授業の予習・復習	予習：タイピングが苦手な学生は、タイピング練習を心がけてください。 復習：教科書を見直して機能や操作方法を覚えてください。		
教科書	『30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2010』実教出版		
参考文献	MOS Word2010 対策テキスト&問題集 FOM 出版 MOS Excel?2010 対策テキスト&問題集 FOM 出版		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と評価方法・パスワード管理	
第 2 回	大学のコンピュータと OS	Windows の基本操作と大学での使い方 タイピング	
第 3 回	インターネット	ブラウザと情報倫理、情報セキュリティ	
第 4 回	電子メール	G-Mail の使い方	
第 5 回	Word-(1)	Word2010 の画面構成・ファイル管理	
第 6 回	Word-(2)	文書の作成と表の作成	
第 7 回	Word-(3)	文書の編集	
第 8 回	Word-(4)	表現力をアップするツール	
第 9 回	Word-(5)	長文作成をサポートするツール	
第 10 回	Excel-(1)	Excel2010 の画面構成・データ入力	
第 11 回	Excel-(2)	表の作成 (1)	
第 12 回	Excel-(3)	表の作成 (2)	
第 13 回	Excel-(4)	計算式と関数の入力	
第 14 回	Excel-(5)	表の印刷	
第 15 回	まとめ	復習と定期試験対策	

国際

授業番号	B101430001				
科目名 (英語表記)	情報処理 II (プレゼンテーション演習) (Information Processing II) (A)				
担当者 (英語表記)	佐竹 勇子 (Yuko Satake)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	情報処理 I に引き続き情報処理 II においてもコンピュータリテラシーを身につけることを目標とする。プレゼンテーション (Power Point) 表計算 (Excel) を実習し基礎力修得を目指す。 MOS 資格取得のために、毎年ライセンス講座を開講している。この講義を基礎力として MOS 対策講座への参加および資格取得を期待する。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書および配布プリントをもとに Power Point2010、Excel 2010 を実習する。				
成績評価方法	平常点及び課題提出 (40%)・定期試験 (60%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：タイピングが苦手な学生は、タイピング練習を心がけてください。 復習：教科書を見直して機能や操作方法を覚えてください。				
教科書	『30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2010』実教出版				
参考文献	MOS PowerPoint?2010 対策テキスト & 問題集 FOM 出版 MOS Excel?2010 対策テキスト & 問題集 FOM 出版				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と評価方法			
第 2 回	Power Point-(1)	画面構成とプレゼンテーションの操作			
第 3 回	Power Point-(2)	スライドの作成とデザインの適用			
第 4 回	Power Point-(3)	図表・グラフ・表の挿入と編集			
第 5 回	Power Point-(4)	特殊効果の設定とスライドショー			
第 6 回	Power Point-(5)	配布資料の作成と印刷			
第 7 回	Power Point-(6)	プレゼンテーション実習 (1)			
第 8 回	Power Point-(7)	プレゼンテーション実習 (2)			
第 9 回	Excel-(1)	相対参照と絶対参照			
第 10 回	Excel-(2)	いろいろな関数の利用			
第 11 回	Excel-(3)	グラフ作成			
第 12 回	Excel-(4)	グラフと図形			
第 13 回	Excel-(5)	データベース機能			
第 14 回	Excel-(6)	Excel データを Word や Power Point に利用する			
第 15 回	まとめ	復習と試験対策			

国際

授業番号	B101430002		
科目名 (英語表記)	情報処理 II (プレゼンテーション演習) (Information Processing II)	(B) こども専用	
担当者 (英語表記)	田口 功 (Isao Taguchi)	対象学年	1 単位数 1
授業のねらいと到達目標	本講義では、最初Windowsの基本的な扱い方について学ぶ。情報処理 I に引き続き、コンピュータリテラシーとして必要表計算ソフト Excel の使い方を学ぶ。表計算ソフトは、Excel2007 を使用し、MOUS 検定に適した内容をおこむ。時間に応じて文書作成ソフト Tex の簡単な演習も行なう。		
授業の進め方 (履修条件など)	前半、後半を通し、教科書を使いながら演習課題を各自作成し、授業を進めます。説明、実技、説明、実技という繰り返しの授業を進める。		
成績評価方法	前期と同様に提出物、小試験の 2 点により総合評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：教科書に Excel については詳しくまとめられている。目を通しておくことが望まれる。復習：授業中に指摘された事柄について良く復習してください。		
教科書	情報リテラシー Office 2007 実教出版		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	Excel の基本	Excel2007 の初期画面について、Word、Power Point の画面と比較しながら、画面構成を説明。できるだけたくさんの関数を用いて計算を行い簡単な文字入力、演算機能に慣れる。	
第 2 回	Excel の基本 (2)	文字型データと数値型データがあることを確認する。両データの入力に関する規則を学び作表を行ないセルの概念も習得する。	
第 3 回	相対番地、絶対番地、混合番地	式のコピーをするうえで、相対番地、絶対番地、混合番地の概念が必要となる。2 個の表作成を通して、相対番地、絶対番地、混合番地の有効な使用法を学ぶ。	
第 4 回	基本関数	Excel 関数の最も基本となる関数の使い方、合計、平均、最大、最小の使い方と式の書き方について例題を通して学習する。	
第 5 回	データの作成とグラフ	数学でよく使用される sin 関数や cos 関数のグラフを書く前にどのようにデータを作成したらよいかを説明する。例題を通して点の集まりとしての簡単なグラフを作成し、グラフの基本を学ぶ。	
第 6 回	グラフと根	折れ線グラフを作成し、多項式の根を求める。さらに、ニュートン法を用い、公式を説明し、繰り返し計算の概念を学ぶ。電卓と同じように繰り返し計算によって根が求められることを学ぶ。	
第 7 回	グラフ	与えられた例題データに対して、棒グラフや円グラフ、折れ線グラフをによって作成する。タイトルや x 軸のラベルの表示方法、y 軸のラベルの表示方法も覚え、グラフを見やすくする。	
第 8 回	演習問題	グラフ、関数の作り方、ニュートン法を用いて多項式の根を求める。グラフ、根を求め、画面にその過程を表示し、印刷し提出する。	
第 9 回	表の作成	売上管理票を通して、さまざまな機能を用い表を作成する。文字の表示形式、配置の仕方、列幅や行の高さを調節する。フォントの書式、配置の仕方についても例題を通して学ぶ。	
第 10 回	表の作成 (2)	表作成に対して、セルの分割、結合を行ない表を整えることを学ぶ。罫線の色や種類についてもいろいろ取り入れる。行の削除や挿入概念についても例題を通して学ぶ。	
第 11 回	式の作り方	例題を通して、式の作り方を学習する。比率の計算、すなわち、構成比や達成率などを求める例題を行なう。if 文も取り入れ表を完成させる。	
第 12 回	条件指定関数	野球の成績表を用い countif 文、sumif 文についても使用方法を学ぶ。打率や出塁率なども計算し、表としてまとめ印刷を行ない提出する。	
第 13 回	関数の使い方と印刷	条件指定関数や if 文、RANK 関数などを用い、順位などを求め、表を完成する。式のコピーについて理解を深め、印刷の仕方についても注意をする。	
第 14 回	参照関数	商品一覧表を例として用い、vlookup 関数、切り捨て、切り上げ、四捨五入を行なって明細票を完成させる。印刷を行ない提出を行なう。	
第 15 回	まとめ	まとめとして、EXCEL で作成したデータ、Word で作成した文章を用い、グラフや表を作成し、POWER POINT で発表するスライドを作成する。	



国際

授業番号	B101430003				
科目名 (英語表記)	情報処理 II (プレゼンテーション演習) (Information Processing II)			(A) こども専用	
担当者 (英語表記)	田口 功 (Isao Taguchi)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本講義では、最初Windowsの基本的な扱い方について学ぶ。情報処理 I に引き続き、コンピュータリテラシーとして必要表計算ソフト Excel の使い方を学ぶ。表計算ソフトは、Excel2007 を使用し、MOUS 検定に適した内容をおこむ。時間に応じて文書作成ソフト Tex の簡単な演習も行なう。				
授業の進め方 (履修条件など)	前半、後半を通し、教科書を使いながら演習課題を各自作成し、授業を進めます。説明、実技、説明、実技という繰り返しの授業を進める。				
成績評価方法	前期と同様に提出物、小試験の 2 点により総合評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書に Excel については詳しくまとめられている。目を通しておくことが望まれる。復習：授業中に指摘された事柄について良く復習してください。				
教科書	情報リテラシー Office 2007 実教出版				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	Excel の基本	Excel2007 の初期画面について、Word、Power Point の画面と比較しながら、画面構成を説明。できるだけたくさんの関数を用いて計算を行い簡単な文字入力、演算機能に慣れる。			
第 2 回	Excel の基本 (2)	文字型データと数値型データがあることを確認する。両データの入力に関する規則を学び作表を行ないセルの概念も習得する。			
第 3 回	相対番地、絶対番地、混合番地	式のコピーをするうえで、相対番地、絶対番地、混合番地の概念が必要となる。2 個の表作成を通して、相対番地、絶対番地、混合番地の有効な使用法を学ぶ。			
第 4 回	基本関数	Excel 関数の最も基本となる関数の使い方、合計、平均、最大、最小の使い方と式の書き方について例題を通して学習する。			
第 5 回	データの作成とグラフ	数学でよく使用される sin 関数や cos 関数のグラフを書く前にどのようにデータを作成したらよいかを説明する。例題を通して点の集まりとしての簡単なグラフを作成し、グラフの基本を学ぶ。			
第 6 回	グラフと根	折れ線グラフを作成し、多項式の根を求める。さらに、ニュートン法を用い、公式を説明し、繰り返し計算の概念を学ぶ。電卓と同じように繰り返し計算によって根が求められることを学ぶ。			
第 7 回	グラフ	与えられた例題データに対して、棒グラフや円グラフ、折れ線グラフをによって作成する。タイトルや x 軸のラベルの表示方法、y 軸のラベルの表示方法も覚え、グラフを見やすくする。			
第 8 回	演習問題	グラフ、関数の作り方、ニュートン法を用いて多項式の根を求める。グラフ、根を求め、画面にその過程を表示し、印刷し提出する。			
第 9 回	表の作成	売上管理票を通して、さまざまな機能を用い表を作成する。文字の表示形式、配置の仕方、列幅や行の高さを調節する。フォントの書式、配置の仕方についても例題を通して学ぶ。			
第 10 回	表の作成 (2)	表作成に対して、セルの分割、結合を行ない表を整えることを学ぶ。罫線の色や種類についてもいろいろ取り入れる。行の削除や挿入概念についても例題を通して学ぶ。			
第 11 回	式の作り方	例題を通して、式の作り方を学習する。比率の計算、すなわち、構成比や達成率などを求める例題を行なう。if 文も取り入れ表を完成させる。			
第 12 回	条件指定関数	野球の成績表を用い countif 文、sumif 文についても使用方法を学ぶ。打率や出塁率なども計算し、表としてまとめ印刷を行ない提出する。			
第 13 回	関数の使い方と印刷	条件指定関数や if 文、RANK 関数などを用い、順位などを求め、表を完成する。式のコピーについて理解を深め、印刷の仕方についても注意をする。			
第 14 回	参照関数	商品一覧表を例として用い、vlookup 関数、切り捨て、切り上げ、四捨五入を行なって明細票を完成させる。印刷を行ない提出を行なう。			
第 15 回	まとめ	まとめとして、EXCEL で作成したデータ、Word で作成した文章を用い、グラフや表を作成し、POWER POINT で発表するスライドを作成する。			



国際

授業番号	B101430004				
科目名 (英語表記)	情報処理 II (プレゼンテーション演習) (Information Processing II) (C)				
担当者 (英語表記)	佐竹 勇子 (Yuko Satake)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	情報処理 I に引き続き情報処理 II においてもコンピュータリテラシーを身につけることを目標とする。プレゼンテーション (Power Point) 表計算 (Excel) を実習し基礎力修得を目指す。 MOS 資格取得のために、毎年ライセンス講座を開講している。この講義を基礎力として MOS 対策講座への参加および資格取得を期待する。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書および配布プリントをもとに Power Point2010、Excel 2010 を実習する。				
成績評価方法	平常点及び課題提出 (40%)・定期試験 (60%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：タイピングが苦手な学生は、タイピング練習を心がけてください。 復習：教科書を見直して機能や操作方法を覚えてください。				
教科書	『30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2010』実教出版				
参考文献	MOS PowerPoint?2010 対策テキスト & 問題集 FOM 出版 MOS Excel?2010 対策テキスト & 問題集 FOM 出版				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と評価方法			
第 2 回	Power Point-(1)	画面構成とプレゼンテーションの操作			
第 3 回	Power Point-(2)	スライドの作成とデザインの適用			
第 4 回	Power Point-(3)	図表・グラフ・表の挿入と編集			
第 5 回	Power Point-(4)	特殊効果の設定とスライドショー			
第 6 回	Power Point-(5)	配布資料の作成と印刷			
第 7 回	Power Point-(6)	プレゼンテーション実習 (1)			
第 8 回	Power Point-(7)	プレゼンテーション実習 (2)			
第 9 回	Excel-(1)	相対参照と絶対参照			
第 10 回	Excel-(2)	いろいろな関数の利用			
第 11 回	Excel-(3)	グラフ作成			
第 12 回	Excel-(4)	グラフと図形			
第 13 回	Excel-(5)	データベース機能			
第 14 回	Excel-(6)	Excel データを Word や Power Point に利用する			
第 15 回	まとめ	復習と試験対策			

国際

授業番号	B101430005				
科目名 (英語表記)	情報処理 II (プレゼンテーション演習) (Information Processing II) (B)				
担当者 (英語表記)	佐竹 勇子 (Yuko Satake)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	情報処理 I に引き続き情報処理 II においてもコンピュータリテラシーを身につけることを目標とする。プレゼンテーション (Power Point) 表計算 (Excel) を実習し基礎力修得を目指す。 MOS 資格取得のために、毎年ライセンス講座を開講している。この講義を基礎力として MOS 対策講座への参加および資格取得を期待する。				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書および配布プリントをもとに Power Point2010、Excel 2010 を実習する。				
成績評価方法	平常点及び課題提出 (40%)・定期試験 (60%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：タイピングが苦手な学生は、タイピング練習を心がけてください。 復習：教科書を見直して機能や操作方法を覚えてください。				
教科書	『30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2010』実教出版				
参考文献	MOS PowerPoint?2010 対策テキスト & 問題集 FOM 出版 MOS Excel?2010 対策テキスト & 問題集 FOM 出版				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と評価方法			
第 2 回	Power Point-(1)	画面構成とプレゼンテーションの操作			
第 3 回	Power Point-(2)	スライドの作成とデザインの適用			
第 4 回	Power Point-(3)	図表・グラフ・表の挿入と編集			
第 5 回	Power Point-(4)	特殊効果の設定とスライドショー			
第 6 回	Power Point-(5)	配布資料の作成と印刷			
第 7 回	Power Point-(6)	プレゼンテーション実習 (1)			
第 8 回	Power Point-(7)	プレゼンテーション実習 (2)			
第 9 回	Excel-(1)	相対参照と絶対参照			
第 10 回	Excel-(2)	いろいろな関数の利用			
第 11 回	Excel-(3)	グラフ作成			
第 12 回	Excel-(4)	グラフと図形			
第 13 回	Excel-(5)	データベース機能			
第 14 回	Excel-(6)	Excel データを Word や Power Point に利用する			
第 15 回	まとめ	復習と試験対策			

国際

授業番号	B101440001				
科目名 (英語表記)	情報処理 III (データベース) (Information Processing III)				
担当者 (英語表記)	佐竹 勇子 (Yuko Satake)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>コンピュータを利用した情報の管理、整理方法としてデータベースがある。この講義では、データベース管理システム (DBMS) の基本的な知識を学び、IT パスポート試験データベース分野の基礎固めと MS Office ソフトのリレーショナル型データベース Access を習得することを目的とする。</p> <p>MOS 資格取得のために、毎年ライセンス講座を開講している。この講義を基礎力として MOS 対策講座への参加および資格取得を期待する。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書および課題ファイルをもとに Access 2010 を実習する。				
成績評価方法 基準	平常点及び課題提出 (40%)・定期試験 (60%)				
授業の予習・復習	<p>予習：タイピングが苦手な学生は、タイピング練習を心がけてください。</p> <p>復習：教科書を見直して機能や操作方法を覚えてください。</p>				
教科書	データベース+ Access2007/2010 実教出版				
参考文献	MOS Access2010 対策テキスト & 問題集 FOM 出版				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と評価方法			
第 2 回	データベース概要	データベース方式、設計、データ操作			
第 3 回	システム開発とその技術 (1)	システム開発のプロセス			
第 4 回	システム開発とその技術 (2)	システム開発モデル			
第 5 回	システム開発とその技術 (3)	要求分析と業務分析の手法			
第 6 回	Access によるシステム構築 (1)	Access の基礎知識			
第 7 回	Access によるシステム構築 (2)	テーブルの作成			
第 8 回	Access によるシステム構築 (3)	リレーションシップと入力フォーム			
第 9 回	Access によるシステム構築 (4)	クエリの作成			
第 10 回	Access によるシステム構築 (5)	レポートの作成			
第 11 回	Access によるシステム構築 (6)	マクロとメニューフォームの作成			
第 12 回	Access によるシステム構築 (7)	実践的な機能 サブフォームとサブレポート			
第 13 回	Access によるシステム構築 (8)	集計処理とメニューフォーム作成			
第 14 回	Access と SQL	クエリデザインビューから SQL の入力			
第 15 回	まとめ	復習と定期試験対策			

国際					
授業番号	B102380001				
科目名 (英語表記)	情報ビジネス論 (Business Intelligence)				
担当者 (英語表記)	高橋 和子 (Kazuko Takahashi)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	加速する情報社会にあって、企業の意思決定を高度し迅速化するためには、誰もが情報を有効に利用し分析できる必要があります。授業のねらいは、経営戦略とIT戦略を融合させた新しい経営組織・管理・活動について解説することです。到達目標は、これらの知識を得ることで、新しい経営感覚を身につけることです。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件は特にありません。理解を深めるために、毎回、授業の途中で小テスト (クイズ) を数回行います				
成績評価方法	平常点：授業内小テスト (毎回) 40% 定期試験：60%				
基準					
授業の予習・復習	予習：日頃から企業のIT活用に関連するニュースに注意してください。 復習：専門用語が多いので、授業中によく理解をし、復習に努めるようにして下さい。				
教科書	『ビジネス情報学概論』 定道宏著 オーム社 2006年				
参考文献	適宜、プリントを配布します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	経営と情報活用 (1)	企業経営の変化、IT投資、戦略的経営のためのIT基盤			
第2回	経営と情報活用 (2)	事例の紹介			
第3回	全社企業システム体系	EAとは、EAの役割、フレームワーク、利用者			
第4回	データウェアハウス	データウェアハウス、データマート、多次元データベース			
第5回	BI (ビジネスインテリジェンス) (1)	BIとは、BIの目的、バランススコアカード			
第6回	BI (ビジネスインテリジェンス) (2)	BIソリューション、データマイニングとOLAPの比較			
第7回	BI (ビジネスインテリジェンス) (3)	テキストマイニング			
第8回	ERP (全社業務資源管理)	ERPとは、ERPの役割、フレームワーク			
第9回	SCM (サプライチェーン生産管理)	SCMとは、SCMの役割、生産ERP			
第10回	DCM (デマンドチェーン顧客管理)	DCMとは、CRM、DCMの役割			
第11回	BPM (ビジネスプロセス管理)	BPMとは、BPMシステムの構成、SOA、EAI			
第12回	EC (電子商取引)	ECとは、EDI、セキュリティ			
第13回	今後の情報ビジネス (1)	アジャイルなビジネスとシステムの実現			
第14回	今後の情報ビジネス (2)	ビッグデータの活用、クラウド・コンピューティングなど			
第15回	総括	情報ビジネスに関する知識のまとめ			

国際					
授業番号	B104270001				
科目名 (英語表記)	書写 (Calligraphy)				
担当者 (英語表記)	板倉 由香里 (Yukari Itakura)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	小学校国語科書写に関する授業担当者としての書写力 (知識・技能)・基礎基本を習得することをねらいとしています。小学校国語科書写に関する授業担当者としての書写力・基礎基本を習得し、文字を正しく美しく整えて書くことを目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	小学校学習指導要領の書写に関する事項を踏まえ、小学校国語科書写の基本的な内容を講義します。文字について、基礎的能力を理論と実技の両面から培います。硬筆および毛筆で仮名 (ひらがな・カタカナ)、漢字 (楷書) の実技を通して、その指導法を学びます。				
成績評価方法	学習目標の到達度、個人の伸長を評価の主とし、毎時間の提出物により評価します。また、学習態度、意欲も評価の対象とします。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業に使用する用具用材を準備してください。 復習：学んだことを振り返りノートをまとめよう。また、実技は繰り返し練習してください。				
教科書	『新編 書写指導』 (萱原書房) 全国大学書道教育学会編				
参考文献	学習指導要領準拠 漢字指導の手引き』 久米公編著 教育出版 小学校学習指導要領 国語編 文部科学省				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・用具用材などについて			
第 2 回	目標と指導事項	国語科書写の目標と指導事			
第 3 回	実技 1	書写で使用する用具用材			
第 4 回	実技 2	姿勢・執筆法			
第 5 回	実技 3	漢字に基本点画			
第 6 回	実技 4	点画の長短・接し方・交わり方			
第 7 回	実技 5	文字の組み立て 1			
第 8 回	実技 6	文字の組み立て 2			
第 9 回	実技 7	ひらがな			
第 10 回	実技 8	カタカナ			
第 11 回	実技 9	文字の形・大きさ・配列 1			
第 12 回	実技 10	文字の配列・大きさ・配列 2			
第 13 回	文部科学省後援書写技能検定 (硬筆)	検定			
第 14 回	文部科学省後援書写技能検定 (毛筆)	検定			
第 15 回	まとめ	講評・作品返却			

国際

授業番号	B104030001				
科目名 (英語表記)	初等音楽科指導法 (Elementary music department method of instruction) (A)				
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校音楽科教育の意義を理解し、基本的な授業づくりを行う能力を養うことを目指します。学習指導要領の小学校音楽科の目標と内容、指導計画、評価などを知り、実際の音楽科授業についての理解を深めます。				
授業の進め方 (履修条件など)	「音楽」の履修済を原則とします。音楽に対する基礎的な理解を前提に、実際の授業について具体的な事例を取り上げながら、進めます。ソプラノリコーダーを用意してください。				
成績評価方法	毎時間の取り組み、課題レポート、実際の活動、試験等 総合的に評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：あらかじめ教科書を読んで、疑問や課題意識をもてるようにします。 復習：学んだこと、活動したことを記録・整理します。				
教科書	「小学校学習指導要領解説音楽編」文部科学省 「最新 初等科音楽教育法 改訂版」(音楽之友社)				
参考文献	教育芸術社 教育出版 教科書				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	音楽教育の目的と意義	なぜ音楽を学ぶのか			
第2回	学習指導要領	音楽科の目標 各学年の目標と内容			
第3回	音楽教育の変遷	音楽教育の歴史 日本の音楽教育			
第4回	授業づくりに向けて①	年間指導計画と題材 共通事項と音楽の理解			
第5回	授業づくりに向けて②	子どもの発達と音楽・発達段階による授業づくりのポイント			
第6回	授業づくりに向けて③	音楽科の評価			
第7回	授業づくりの実際①	低学年の授業①			
第8回	授業づくりの実際②	低学年の授業②			
第9回	授業づくりの実際③	中学年の授業			
第10回	授業づくりの実際④	高学年の授業			
第11回	授業づくりの実際⑤	低・中学年授業の実際① 題材を選んで			
第12回	授業づくりの実際⑥	低・中学年授業の実際② グループで話し合っ			
第13回	授業づくりの実際⑦	低・中学年授業の実際③ 発表を見合っ①			
第14回	授業づくりの実際⑧	低・中学年授業の実際④ 発表を見合っ②			
第15回	授業づくりの実際⑨	まとめ			

国際

授業番号	B104030002				
科目名 (英語表記)	初等音楽科指導法 (Elementary music department method of instruction) (B)				
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校音楽科教育の意義を理解し、基本的な授業づくりを行う能力を養うことを目指します。学習指導要領の小学校音楽科の目標と内容、指導計画、評価などを知り、実際の音楽科授業についての理解を深めます。				
授業の進め方 (履修条件など)	「音楽」の履修済を原則とします。音楽に対する基礎的な理解を前提に、実際の授業について具体的な事例を取り上げながら、進めます。ソプラノリコーダーを用意してください。				
成績評価方法	毎時間の取り組み、課題レポート、実際の活動、試験等 総合的に評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：あらかじめ教科書を読んで、疑問や課題意識をもてるようにします。 復習：学んだこと、活動したことを記録・整理します。				
教科書	「小学校学習指導要領解説音楽編」文部科学省 「最新 初等科音楽教育法 改訂版」(音楽之友社)				
参考文献	教育芸術社 教育出版 教科書				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	音楽教育の目的と意義	なぜ音楽を学ぶのか			
第2回	学習指導要領	音楽科の目標 各学年の目標と内容			
第3回	音楽教育の変遷	音楽教育の歴史 日本の音楽教育			
第4回	授業づくりに向けて①	年間指導計画と題材 共通事項と音楽の理解			
第5回	授業づくりに向けて②	子どもの発達と音楽・発達段階による授業づくりのポイント			
第6回	授業づくりに向けて③	音楽科の評価			
第7回	授業づくりの実際①	低学年の授業①			
第8回	授業づくりの実際②	低学年の授業②			
第9回	授業づくりの実際③	中学年の授業			
第10回	授業づくりの実際④	高学年の授業			
第11回	授業づくりの実際⑤	低・中学年授業の実際① 題材を選んで			
第12回	授業づくりの実際⑥	低・中学年授業の実際② グループで話し合っ			
第13回	授業づくりの実際⑦	低・中学年授業の実際③ 発表を見合っ①			
第14回	授業づくりの実際⑧	低・中学年授業の実際④ 発表を見合っ②			
第15回	授業づくりの実際⑨	まとめ			

国際						
授業番号	B104060001					
科目名 (英語表記)	初等家庭科指導法 (Elementary homemaking course) (A) method of instruction)					
担当者 (英語表記)	小谷 教子 (Noriko Kodani)	対象学年	2	単位数	2	
授業のねらいと到達目標	小学校「家庭」の指導者育成を目指して、家庭科の基本的な指導法の理解を図り、実践的な力を培う。目標として学習の指導計画の立案や学習指導案の作成を目指す。					
授業の進め方 (履修条件など)	学習の指導計画や指導法、評価等について理解した上で、授業場面を想定し、題材について指導内容を確認したり、指導方法を工夫したりして学習指導案を作成する。					
成績評価方法	提出物 (レポート、学習指導案等)、実習、作品製作、試験等により評価する。					
基準						
授業の予習・復習	予習： 次週の授業内容をテキストや資料で確認しておく。 復習： 示された課題について取り組む。					
教科書	・小学校学習指導要領解説家庭編：東洋館出版社 ・授業力 UP 家庭科の授業：鶴田敦子・伊藤葉子編著 日本標準					
参考文献	・小学校家庭科の指導：中間美砂子・多々納道子編著 建帛社、 ・小学校 5, 6 年私たちの家庭科：開隆堂					
回数	授業項目	授業内容				
第 1 回	家庭科を学ぶ意義	家庭科の歩みといのちと暮らしを守る家庭科				
第 2 回	家庭科の目標と内容	学習指導要領の読み方－子どもたちの生活実態をふまえて－				
第 3 回	家庭科の評価	評価の意義、評価の計画・観点・基準・方法				
第 4 回	家庭科の指導計画	指導計画の意義、作成上の留意事項				
第 5 回	学習指導案 (1)	題材案、時案				
第 6 回	学習指導案 (2)	指導案の相互評価				
第 7 回	教材研究 (1)	さまざまな指導法				
第 8 回	教材研究 (2)	「家族」の授業、「消費生活」の授業				
第 9 回	教材研究 (3)	「食生活」の授業、「衣生活」の授業				
第 10 回	「ごはんとみそ汁」の調理実習計画	調理実習計画と指導内容の確認				
第 11 回	「ごはんとみそ汁」の調理実習	調理実習と評価				
第 12 回	「生活に役立つ小物作り」の実習計画	実習計画と指導内容の確認				
第 13 回	「生活に役立つ小物作り」の製作	作品製作と作品評価				
第 14 回	模擬授業	観察と評価				
第 15 回	まとめ	話し合いと評価				



国際

授業番号	B104060002				
科目名 (英語表記)	初等家庭科指導法 (Elementary homemaking course) (B) method of instruction)				
担当者 (英語表記)	小谷 教子 (Noriko Kodani)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校「家庭」の指導者育成を目指して、家庭科の基本的な指導法の理解を図り、実践的な力を培う。目標として学習の指導計画の立案や学習指導案の作成を目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	学習の指導計画や指導法、評価等について理解した上で、授業場面を想定し、題材について指導内容を確認したり、指導方法を工夫したりして学習指導案を作成する。				
成績評価方法	提出物 (レポート、学習指導案等)、実習、作品製作、試験等により評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習： 次週の授業内容をテキストや資料で確認しておく。 復習： 示された課題について取り組む。				
教科書	・小学校学習指導要領解説家庭編：東洋館出版社 ・授業力 UP 家庭科の授業：鶴田敦子・伊藤葉子編著 日本標準				
参考文献	・小学校家庭科の指導：中間美砂子・多々納道子編著 建帛社、 ・小学校5, 6年私たちの家庭科：開隆堂				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	家庭科を学ぶ意義	家庭科の歩みといのちと暮らしを守る家庭科			
第2回	家庭科の目標と内容	学習指導要領の読み方—子どもたちの生活実態をふまえて—			
第3回	家庭科の評価	評価の意義、評価の計画・観点・基準・方法			
第4回	家庭科の指導計画	指導計画の意義、作成上の留意事項			
第5回	学習指導案 (1)	題材案、時案			
第6回	学習指導案 (2)	指導案の相互評価			
第7回	教材研究 (1)	さまざまな指導法			
第8回	教材研究 (2)	「家族」の授業、「消費生活」の授業			
第9回	教材研究 (3)	「食生活」の授業、「衣生活」の授業			
第10回	「ごはんとみそ汁」の調理実習計画	調理実習計画と指導内容の確認			
第11回	「ごはんとみそ汁」の調理実習	調理実習と評価			
第12回	「生活に役立つ小物作り」の実習計画	実習計画と指導内容の確認			
第13回	「生活に役立つ小物作り」の製作	作品製作と作品評価			
第14回	模擬授業	観察と評価			
第15回	まとめ	話し合いと評価			

国際					
授業番号	B103990001				
科目名 (英語表記)	初等国語科指導法 (Elementary Japanese method of instruction) (A)				
担当者 (英語表記)	山口 政之 (Masayuki Yamaguchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	国語科教育の現状と課題をふまえて、これからの時代に求められる適切な表現力や正確な理解力を養うための国語科学習のあり方を学習指導要領の内容に即して理解することをねらいます。初等国語科におけるキーワードが口頭で説明できるように理解してください。				
授業の進め方 (履修条件など)	学習指導要領に示された内容と、学習材 (授業では主に教科書教材)、学習者の実態、学習指導案の4者のつながりを踏まえて、実際の授業における教師の役割や教育方法等について理解を深めてもらいます。電子辞書は必要ですが、原則として携帯スマホの使用は認めません。				
成績評価方法	出席の状況、課題への取り組み、発言、定期試験等をふまえ総合的に評価します。自己責任による遅刻は減点し、欠席4回は履修放棄とみなします。				
授業の予習・復習	予習：『小学校学習指導要領解説国語編』を読んでおいて下さい。 復習：資料やノートを読み返し、授業内容の理解に努めて下さい。				
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版社、『ひろがる言葉 小学国語 5上』『同5下』教育出版				
参考文献	西本鶏介監修『教科書にでてくるお話5年生』ポプラ社。その他、授業の中で適宜紹介していく。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	国語科の本質と目的	明治期からの国語科教育を概観し、現行の学習指導要領と言語活動について理解する。			
第2回	話すこと・聞くこと①	5年上「討論会」を例に、ディベートの指導法を理解する。			
第3回	話すこと・聞くこと②	5年下「効果的に発表しよう」を例に、プレゼンの指導法を理解する。			
第4回	書くこと①虚構文	5年上「自分を中心人物にして物語を書こう」を例に、設定の役割を理解する。			
第5回	書くこと②生活文	5年下「コラムを書こう」を例に、設定の役割と学習支援を理解する。			
第6回	書くこと③実践場面演習	書くことの取材・構想場面を取り上げ、略案を作成し、模擬授業を行う。			
第7回	読むこと①説明文	5年上「言葉と真実」を例に、事実と意見の関係の指導法を理解する。			
第8回	読むこと②物語文	5年下「雪わたり」を例に、人物関係を押さえた読みの指導法を理解する。			
第9回	読むこと③実践場面演習	読解場面を取り上げ、略案を作成し、模擬授業を行う。			
第10回	伝統的な言語文化①	5年上「漢文に親しむ」を例に、漢文の入門的な指導法を理解する。			
第11回	伝統的な言語文化②	5年下「物語を楽しむ」を例に、古典(文学、芸能)の入門的な指導法を理解する。			
第12回	伝統的な言語文化③実践場面演習	音読場面を取り上げ、略案を作成し、模擬授業を行う。			
第13回	国語の特質	「漢字の広場」をいくつか取り上げ、漢字学習の指導法を理解する。			
第14回	読書指導	図書館の機能活用を促す学習や読書会などの指導法を理解する。			
第15回	学級経営と国語科教育	小学校の学級担任の仕事を言語活動の観点から理解する。			

国際		
授業番号	B103990002	
科目名 (英語表記)	初等国語科指導法 (Elementary Japanese method of instruction) (B)	
担当者 (英語表記)	山口 政之 (Masayuki Yamaguchi) 対象学年 2 単位数 2	
授業のねらいと到達目標	国語科教育の現状と課題をふまえて、これからの時代に求められる適切な表現力や正確な理解力を養うための国語科学習のあり方を学習指導要領の内容に即して理解することをねらいます。初等国語科におけるキーワードが口頭で説明できるように理解してください。	
授業の進め方 (履修条件など)	学習指導要領に示された内容と、学習材 (授業では主に教科書教材)、学習者の実態、学習指導案の4者のつながりを踏まえて、実際の授業における教師の役割や教育方法等について理解を深めてもらいます。電子辞書は必要ですが、原則として携帯スマホの使用は認めません。	
成績評価方法 基準	出席の状況、課題への取り組み、発言、定期試験等をふまえ総合的に評価します。自己責任による遅刻は減点し、欠席4回は履修放棄とみなします。	
授業の予習・復習	予習：『小学校学習指導要領解説国語編』を読んでおいて下さい。 復習：資料やノートを読み返し、授業内容の理解に努めて下さい。	
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版社、『ひろがる言葉 小学国語 5上』『同5下』教育出版	
参考文献	西本鶏介監修『教科書にでてくるお話5年生』ポプラ社。その他、授業の中で適宜紹介していく。	
回数	授業項目	授業内容
第1回	国語科の本質と目的	明治期からの国語科教育を概観し、現行の学習指導要領と言語活動について理解する。
第2回	話すこと・聞くこと①	5年上「討論会」を例に、ディベートの指導法を理解する。
第3回	話すこと・聞くこと②	5年下「効果的に発表しよう」を例に、プレゼンの指導法を理解する。
第4回	書くこと①虚構文	5年上「自分を中心人物にして物語を書こう」を例に、設定の役割を理解する。
第5回	書くこと②生活文	5年下「コラムを書こう」を例に、設定の役割と学習支援を理解する。
第6回	書くこと③実践場面演習	書くことの取材・構想場面を取り上げ、略案を作成し、模擬授業を行う。
第7回	読むこと①説明文	5年上「言葉と真実」を例に、事実と意見の関係の指導法を理解する。
第8回	読むこと②物語文	5年下「雪わたり」を例に、人物関係を押さえた読みの指導法を理解する。
第9回	読むこと③実践場面演習	読解場面を取り上げ、略案を作成し、模擬授業を行う。
第10回	伝統的な言語文化①	5年上「漢文に親しむ」を例に、漢文の入門的な指導法を理解する。
第11回	伝統的な言語文化②	5年下「物語を楽しむ」を例に、古典(文学、芸能)の入門的な指導法を理解する。
第12回	伝統的な言語文化③実践場面演習	音読場面を取り上げ、略案を作成し、模擬授業を行う。
第13回	国語の特質	「漢字の広場」をいくつか取り上げ、漢字学習の指導法を理解する。
第14回	読書指導	図書館の機能活用を促す学習や読書会などの指導法を理解する。
第15回	学級経営と国語科教育	小学校の学級担任の仕事を言語活動の観点から理解する。

国際

授業番号	B104010003				
科目名 (英語表記)	初等社会科指導法 (Elementary social-studies) (A) method of instruction				
担当者 (英語表記)	鎌田 正男 (Masao Kamada)	対象学年	2	単位数	2

授業のねらいと到達目標	小学校社会科はどのような教科で学習指導要領ではどのように定められているのか。そして実際の授業はどのように行われているのか。さらにその中で子どもたちにどのような力をつけようとしているのかなどについて考えていく。そのような学習の中で望ましい社会科の指導法が見えてくることが期待される。
授業の進め方 (履修条件など)	できるだけ具体的な授業のイメージが持てるように実際の現場で取り扱われている素材を例に指導法を学んでいく。講義では実践的な学習を重視し、テーマに基づく内容を解説した後、設定された課題についてのグループ討議や後半では指導案作成と模擬授業・協議を取り入れていく。
成績評価方法	講義や演習形式の話し合いへの参加の状況、レポート 確認テストで総合的に評価する。
基準	
授業の予習・復習	小学校学習指導要領解説社会科編を各回の講義の内容に沿って読んでおくことが望ましい。
教科書	小学校学習指導要領解説社会編 H20 東洋館出版
参考文献	第8回目以降 小学校社会科の教科書があるとよい

回数	授業項目	授業内容
第1回	小学校社会科の目標と内容	教科としての社会科の目標 各学年の目標 現行指導要領のポイント
第2回	中学年の指導内容と留意点	3年、4年の指導内容と年間計画および指導上の留意点
第3回	高学年の指導内容と留意点	5年、6年の指導内容と年間計画および指導上の留意点
第4回	社会科の学力と指導過程	学力観と学力論争 問題解決学習について
第5回	問題解決学習での事象提示と課題把握	どのように事象と向き合わせ、どんな課題を把握させるか
第6回	問題解決学習での予想と検証	予想の意義と検証のさせ方
第7回	問題解決学習での比較検討とまとめ	調べたことの話し合いとまとめのさせ方
第8回	事例研究1 3年市の学習	生活科との関連 身近な地域の学習について
第9回	上記単元での模擬授業と協議	身近な地域の模擬授業を行い協議する
第10回	事例研究2 4年 県の学習	県をどう学ばせるか 総合的な学習との関連
第11回	上記単元での模擬授業と協議	県の学習の模擬授業を行い協議する
第12回	事例研究3 5年 産業学習	産業学習の範囲 日本人の暮らしと食について
第13回	上記単元での模擬授業と協議	産業学習の模擬授業を行い協議する
第14回	事例研究4 6年 歴史学習	小学校での歴史学習のあり方と具体例
第15回	上記単元での模擬授業と協議	歴史の模擬授業を行い協議する

国際

授業番号	B104010004				
科目名 (英語表記)	初等社会科指導法 (Elementary social-studies method of instruction)		(B)		
担当者 (英語表記)	鎌田 正男 (Masao Kamada)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校社会科はどのような教科で学習指導要領ではどのように定められているのか。そして実際の授業はどのように行われているのか。さらにその中で子どもたちにどのような力をつけようとしているのかなどについて考えていく。そのような学習の中で望ましい社会科の指導法が見えてくることが期待される。				
授業の進め方 (履修条件など)	できるだけ具体的な授業のイメージが持てるように実際の現場で取り扱われている素材を例に指導法を学んでいく。講義では実践的な学習を重視し、テーマに基づく内容を解説した後、設定された課題についてのグループ討議や後半では指導案作成と模擬授業・協議を取り入れていく。				
成績評価方法	講義や演習形式の話し合いへの参加の状況 レポート 確認テストを総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	小学校学習指導要領解説社会科編を各回の講義の内容に沿って読んでおくことが望ましい。				
教科書	小学校学習指導要領解説社会編 H20 東洋館出版				
参考文献	第8回目以降 小学校社会科の教科書があるとよい				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	小学校社会科の目標と内容	教科としての社会科の目標 各学年の目標 現行指導要領のポイント			
第2回	中学年の指導内容と留意点	3年、4年の指導内容と年間計画および指導上の留意点			
第3回	高学年の指導内容と留意点	5年、6年の指導内容と年間計画および指導上の留意点			
第4回	社会科の学力と指導過程	学力観と学力論争 問題解決学習について			
第5回	問題解決学習での事象提示と課題把握	どのように事象と向き合わせ、どんな課題を把握させるか			
第6回	問題解決学習での予想と検証	予想の意義と検証のさせ方			
第7回	問題解決学習での比較検討とまとめ	調べたことの話し合いとまとめのさせ方			
第8回	事例研究1 3年市の学習	生活科との関連 身近な地域の学習について			
第9回	上記単元での模擬授業と協議	身近な地域の模擬授業を行い協議する			
第10回	事例研究2 4年 県の学習	県をどう学ばせるか 総合的な学習との関連			
第11回	上記単元での模擬授業と協議	県の学習の模擬授業を行い協議する			
第12回	事例研究3 5年 産業学習	産業学習の範囲 日本人の暮らしと食について			
第13回	上記単元での模擬授業と協議	産業学習の模擬授業を行い協議する			
第14回	事例研究4 6年 歴史学習	小学校での歴史学習のあり方と具体例			
第15回	上記単元での模擬授業と協議	歴史の模擬授業を行い協議する			

国際

授業番号	B104050001				
科目名 (英語表記)	初等体育科指導法 (Elementary athletics method of instruction) (A)				
担当者 (英語表記)	藤井 喜一 (Kiichi Fujii)	対象学年	2	単位数	2

授業のねらいと到達目標	小学校学習指導要領「体育科」の目標及び内容を理解し、学習内容や学習の進め方に関する基礎的な考え方を理解する。さらに、学習計画立案の手順を理解し、学習指導案の作成を行うことができるようにする。
授業の進め方 (履修条件など)	学習指導案の内容と授業の組み立て方を学んだ後、グループ、あるいは個人で学習指導案を作成し、模擬授業を行う。そして、授業後に研究協議を行う。
成績評価方法	模擬授業に対する積極性、作成した学習指導案 論述試験により評価する。
基準	
授業の予習・復習	予習：指導要領解説の各領域を読み内容をノートにメモすること。 復習：授業の要点をまとめる。また、模擬授業のj授業内容、研究協議については詳細に記録すること。
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領解説体育編 東洋館出版社 文部科学省 中学校学習指導要領解説保健体育編 東山書房
参考文献	

回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス	体育科で学ぶものは何か
第2回	小学校学習指導要領 (体育編)	学習指導要領の全体を概観する
第3回	体育科の歴史	基本的性格、目標、内容の変遷
第4回	体育のカリキュラム	カリキュラムの構造と授業設計
第5回	評価について	体育の授業評価の方法
第6回	教師の指導技術	体育の授業における教師の指導技術とは
第7回	指導計画について	指導計画をどのように作成するか
第8回	学習指導案の作成①	模擬授業に向けての学習指導案づくり
第9回	学習指導案の作成②	模擬授業に向けての学習指導案づくり
第10回	模擬授業①	模擬授業と授業後の協議会
第11回	模擬授業②	模擬授業と授業後の協議会
第12回	学習指導案の作成③	模擬授業に向けての学習指導案づくり
第13回	学習指導案の作成④	模擬授業に向けての学習指導案づくり
第14回	模擬授業③	模擬授業と授業後の協議会
第15回	模擬授業④	模擬授業と授業後の協議会

国際

授業番号	B104050002				
科目名 (英語表記)	初等体育科指導法 (Elementary athletics method of instruction) (B)				
担当者 (英語表記)	藤井 喜一 (Kiichi Fujii)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校学習指導要領「体育科」の目標及び内容を理解し、学習内容や学習の進め方に関する基礎的な考え方を理解する。さらに、学習計画立案の手順を理解し、学習指導案の作成を行うことができるようにする。				
授業の進め方 (履修条件など)	学習指導案の内容と授業の組み立て方を学んだ後、グループ、あるいは個人で学習指導案を作成し、模擬授業を行う。そして、授業後に研究協議を行う。				
成績評価方法	模擬授業に対する積極性、作成した学習指導案 論述試験により評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：指導要領解説の各領域を読み内容をノートにメモすること。 復習：授業の要点をまとめる。また、模擬授業のj授業内容、研究協議については詳細に記録すること。				
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領解説体育編 東洋館出版社 文部科学省 中学校学習指導要領解説保健体育編 東山書房				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	体育科で学ぶものは何か			
第2回	小学校学習指導要領 (体育編)	学習指導要領の全体を概観する			
第3回	体育科の歴史	基本的性格、目標、内容の変遷			
第4回	体育のカリキュラム	カリキュラムの構造と授業設計			
第5回	評価について	体育の授業評価の方法			
第6回	教師の指導技術	体育の授業における教師の指導技術とは			
第7回	指導計画について	指導計画をどのように作成するか			
第8回	学習指導案の作成①	模擬授業に向けての学習指導案づくり			
第9回	学習指導案の作成②	模擬授業に向けての学習指導案づくり			
第10回	模擬授業①	模擬授業と授業後の協議会			
第11回	模擬授業②	模擬授業と授業後の協議会			
第12回	学習指導案の作成③	模擬授業に向けての学習指導案づくり			
第13回	学習指導案の作成④	模擬授業に向けての学習指導案づくり			
第14回	模擬授業③	模擬授業と授業後の協議会			
第15回	模擬授業④	模擬授業と授業後の協議会			



国際

授業番号	B104020001				
科目名 (英語表記)	初等理科指導法 (Department method of instruction (A) of first Tomomichi)				
担当者 (英語表記)	土井 仁 (Jin Doi)	対象学年	2	単位数	2

授業のねらいと到達目標	小学校理科の目標や内容を十分に理解し、目標達成のための実践的な方法について学習します。教材研究の進め方、授業の構成、実験・観察の実際、子どもの活動の場づくりなどを学びます。 安全管理や安全指導を踏まえ、ねらいが達成できる授業の指導案をつくることことができる。
授業の進め方 (履修条件など)	『理科』を履修した学生が対象です。毎時間授業プリントを配布します。各分野から小単元を選び、小学校の授業を念頭に、観察・実験を中心に据えた実践的な学習を行います。
成績評価方法 基準	①学習意欲・態度、②実験・観察、表現、③レポート、④定期テスト (めやす① 20%、② 10%、③ 30%、④ 40%)
授業の予習・復習	〔予習〕 シラバス、次時の学習内容に関する予習を進める。 〔復習〕 配布プリントをもとに学習を深める。
教科書	小学校学習指導要領解説「理科編」文部科学省 小学校理科用教科書 (大日本図書)
参考文献	小学校理科用教科書 (各出版社)

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	ガイダンス	「教師に必要な資質・能力」「授業の構成と進め方」「評価問題」
第 2 回	理科授業の創造	「学習意欲と導入」「実験の指導 (化学実験法)」「授業展開と思考活動」
第 3 回	『物質』(1) 授業研究	VTR 視聴「模範授業 (水溶液)」構成と展開 (興味・思考の持続と発展)
第 4 回	『物質』(2) 指導案	「金属と酸の反応」指導案 (略案) の作成。〔予備実験、板書計画〕
第 5 回	『物質』(3)	「水溶液」気体が溶けた水溶液。〔効果的な実験：検討と指導プラン〕
第 6 回	授業場面の検討	「授業の進め方」導入、課題把握、実験・観察。安全管理・安全指導。
第 7 回	『エネルギー』(1)	「振り子の運動」導入場面の研究。実験条件の制御。
第 8 回	『エネルギー』(2)	「てこの規則性」教具の効果的な演示法。モデル思考。ものづくり。
第 9 回	『エネルギー』(3)	「電流の働き」電気回路、電流計、電圧計。回路作りと測定実習。
第 10 回	『生命』(1)	「水の中の小さな生物」の指導。観察器具の使い方と指導。記録の方法。
第 11 回	『生命』(2)	「植物の養分と水の通り道」観察試料の準備。観察器具の習熟と記録法の指導。
第 12 回	『生命』(3)	「人の体のつくりと働き」指導資料の作成と活用。
第 13 回	『地球』(1)	「月の形と動き」「月の位置や形と太陽の位置」モデルの活用。指導案。
第 14 回	『地球』(2)	「流水の働き」簡易実験器具の活用と説明の工夫。視聴覚教材の活用。
第 15 回	『地球』(3)	「土地のつくりと変化」地層の観察。火山灰の観察と指導。



国際

授業番号	B104020002				
科目名 (英語表記)	初等理科指導法 (Department method of instruction) (C) of first Tomomichi				
担当者 (英語表記)	土井 仁 (Jin Doi)	対象学年	2	単位数	2

授業のねらいと到達目標	小学校理科の目標や内容を十分に理解し、目標達成のための実践的な方法について学習します。教材研究の進め方、授業の構成、実験・観察の実際、子どもの活動の場づくりなどを学びます。 安全管理や安全指導を踏まえ、ねらいが達成できる授業の指導案をつくることができる。
授業の進め方 (履修条件など)	『理科』を履修した学生が対象です。毎時間授業プリントを配布します。各分野から小単元を選び、小学校の授業を念頭に、観察・実験を中心に据えた実践的な学習を行います。
成績評価方法 基準	①学習意欲・態度、②実験・観察、表現、③レポート、④定期テスト (めやす① 20%、② 10%、③ 30%、④ 40%)
授業の予習・復習	〔予習〕 シラバス、次時の学習内容に関する予習を進める。 〔復習〕 配布プリントをもとに学習を深める。
教科書	小学校学習指導要領解説「理科編」文部科学省 小学校理科用教科書 (大日本図書)
参考文献	小学校理科用教科書 (各出版社)

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	ガイダンス	「教師に必要な資質・能力」「授業の構成と進め方」「評価問題」
第 2 回	理科授業の創造	「学習意欲と導入」「実験の指導 (化学実験法)」「授業展開と思考活動」
第 3 回	『物質』(1) 授業研究	VTR 視聴「模範授業 (水溶液)」構成と展開 (興味・思考の持続と発展)
第 4 回	『物質』(2) 指導案	「金属と酸の反応」指導案 (略案) の作成。〔予備実験、板書計画〕
第 5 回	『物質』(3)	「水溶液」気体が溶けた水溶液。〔効果的な実験：検討と指導プラン〕
第 6 回	授業場面の検討	「授業の進め方」導入、課題把握、実験・観察。安全管理・安全指導。
第 7 回	『エネルギー』(1)	「振り子の運動」導入場面の研究。実験条件の制御。
第 8 回	『エネルギー』(2)	「てこの規則性」教具の効果的な演示法。モデル思考。ものづくり。
第 9 回	『エネルギー』(3)	「電流の働き」電気回路、電流計、電圧計。回路作りと測定実習。
第 10 回	『生命』(1)	「水の中の小さな生物」の指導。観察器具の使い方と指導。記録の方法。
第 11 回	『生命』(2)	「植物の養分と水の通り道」観察試料の準備。観察器具の習熟と記録法の指導。
第 12 回	『生命』(3)	「人の体のつくりと働き」指導資料の作成と活用。
第 13 回	『地球』(1)	「月の形と動き」「月の位置や形と太陽の位置」モデルの活用。指導案。
第 14 回	『地球』(2)	「流水の働き」簡易実験器具の活用と説明の工夫。視聴覚教材の活用。
第 15 回	『地球』(3)	「土地のつくりと変化」地層の観察。火山灰の観察と指導。

国際					
授業番号	B104020003				
科目名 (英語表記)	初等理科指導法 (Department method of instruction) (B) of first Tomomichi				
担当者 (英語表記)	土井 仁 (Jin Doi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>小学校理科の目標や内容を十分に理解し、目標達成のための実践的な方法について学習します。教材研究の進め方、授業の構成、実験・観察の実際、子どもの活動の場づくりなどを学びます。</p> <p>安全管理や安全指導を踏まえ、ねらいが達成できる授業の指導案をつくることができる。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	『理科』を履修した学生が対象です。毎時間授業プリントを配布します。各分野から小単元を選び、小学校の授業を念頭に、観察・実験を中心に据えた実践的な学習を行います。				
成績評価方法 基準	①学習意欲・態度、②実験・観察、表現、③レポート、④定期テスト (めやす① 20%、② 10%、③ 30%、④ 40%)				
授業の予習・復習	〔予習〕 シラバス、次時の学習内容に関する予習を進める。 〔復習〕 配布プリントをもとに学習を深める。				
教科書	小学校学習指導要領解説「理科編」文部科学省 小学校理科用教科書 (大日本図書)				
参考文献	小学校理科用教科書 (各出版社)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	「教師に必要な資質・能力」「授業の構成と進め方」「評価問題」			
第 2 回	理科授業の創造	「学習意欲と導入」「実験の指導 (化学実験法)」「授業展開と思考活動」			
第 3 回	『物質』(1) 授業研究	VTR 視聴「模範授業 (水溶液)」構成と展開 (興味・思考の持続と発展)			
第 4 回	『物質』(2) 指導案	「金属と酸の反応」指導案 (略案) の作成。(予備実験、板書計画)			
第 5 回	『物質』(3)	「水溶液」気体が溶けた水溶液。(効果的な実験: 検討と指導プラン)			
第 6 回	授業場面の検討	「授業の進め方」導入、課題把握、実験・観察。安全管理・安全指導。			
第 7 回	『エネルギー』(1)	「振り子の運動」導入場面の研究。実験条件の制御。			
第 8 回	『エネルギー』(2)	「てこの規則性」教具の効果的な演示法。モデル思考。ものづくり。			
第 9 回	『エネルギー』(3)	「電流の働き」電気回路、電流計、電圧計。回路作りと測定実習。			
第 10 回	『生命』(1)	「水の中の小さな生物」の指導。観察器具の使い方と指導。記録の方法。			
第 11 回	『生命』(2)	「植物の養分と水の通り道」観察試料の準備。観察器具の習熟と記録法の指導。			
第 12 回	『生命』(3)	「人の体のつくりと働き」指導資料の作成と活用。			
第 13 回	『地球』(1)	「月の形と動き」「月の位置や形と太陽の位置」モデルの活用。指導案。			
第 14 回	『地球』(2)	「流水の働き」簡易実験器具の活用と説明の工夫。視聴覚教材の活用。			
第 15 回	『地球』(3)	「土地のつくりと変化」地層の観察。火山灰の観察と指導。			

国際

授業番号	B103910001				
科目名 (英語表記)	人文地理学 (Human Geography)				
担当者 (英語表記)	松尾 宏 (Hiroshi Matsuo)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	地理学の重要なテーマは、問題意識をもって如何に地域を捉えるかが重要です。人間の暮らしをテーマに、私たちが目にする空間や社会の動き、話題性のある地域などについて多角的に捉え、地域を見る目を養う基礎力を養成する。				
授業の進め方 (履修条件など)	人文地理学の基本的なテーマを学習するとともに、現在起こっている話題や各地の情報、地域の問題、地域資源などについてもとりあげ、プリントやPPT (パワーポイント) で紹介しながら講義を行い、学生参加型の授業内容を展開する。				
成績評価方法	課題レポート、期末テストを総合して成績を評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：世の中で起こっていること、見てきた風景などから問題、疑問を整理予習しておくこと。 復習：学習した授業内容に関し、復習しておくこと。				
教科書	指定する教科書はありません、地図帳を利用します。詳細は講義で説明します。				
参考文献	その他読んで欲しい本は、講義で紹介する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	地理学の概念と地理学史	地理学について、自然と人文、領域			
第2回	地域と地域区分	地域概念と地域区分、日本の市町村			
第3回	地理学の自然的基礎	地域にとっての水、地形、気候			
第4回	日本の地理	日本の特徴と地方の特色			
第5回	地図学	古地図と現代地図、地形図などについて			
第6回	食料と生産活動	農業と生産地域、食料問題			
第7回	資源・エネルギー	資源・エネルギー利用とその問題			
第8回	国土と地域変化	国土の変貌と地域変化			
第9回	災害の地理	日本の災害史と地域の生活			
第10回	川と平野、山地と生活	水利用と暮らしを通じて、川、平野、山の特色、人々の暮らしを知る			
第11回	集落・景観地理	村落・都市の風景と地域の風土			
第12回	環境と環境問題	環境論、世界や日本の環境問題			
第13回	観光と地域	交通と観光、観光資源と地域文化			
第14回	地域問題	地域の課題と町おこし、村おこし			
第15回	地域資源と活用	土木遺産、産業遺産、世界遺産など			

# 国際

授業番号	B100050001				
科目名 (英語表記)	心理学 (Psychology)				
担当者 (英語表記)	田中 未央 (Mio Tanaka)	対象学年	1	単位数	2

授業のねらいと到達目標	心理学の基礎的な理論を学び、我々の日常生活における行動の理解に役立てることを目指す。
授業の進め方 (履修条件など)	①原則として講義形式で授業を進めるが、授業内で簡単な実習やグループワークを求める場合がある。 ②実習やグループワークを行った際にはリアクションペーパーの提出を求める。 ③必要に応じてビデオなどの映像資料も使用する。
成績評価方法	学期末のレポート・リアクションペーパーを成績評価の対象とする。
基準	評価基準はレポート (80%)・リアクションペーパー (20%) である。
授業の予習・復習	予習：次回のテーマに関連した書籍や新聞記事を読む。 復習：授業の内容を整理し資料をまとめる。
教科書	使用しない。必要に応じて資料を配布する。
参考文献	・心理学ってどんなもの (岩波ジュニア新書) ・心理学・入門 -- 心理学はこんなに面白い (有斐閣アルマ) サトウタツヤ・渡邊芳之 (著) 有斐閣

回数	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要、授業の進め方、評価方法、受講マナーについて
第2回	パーソナリティ①	性格とは何か?・性格の違いを説明する理論について
第3回	パーソナリティ②	パーソナリティ障害に関する問題
第4回	パーソナリティ③	性格検査 (エゴグラム) を体験する。
第5回	知覚・認知①	錯覚について
第6回	知覚・認知②	注意力はなぜ必要か?・ヒューマンエラーの問題
第7回	知覚・認知③	記憶の不思議
第8回	社会心理学①	囚人のジレンマゲームを体験する。
第9回	社会心理学②	自分さえ良ければ... は損をする (社会的ジレンマ)
第10回	社会心理学③	恋愛を科学的に考えてみる
第11回	犯罪心理学①	なぜ人は犯罪に走るのか?
第12回	犯罪心理学②	ストーカーから身をまもるために ドメスティックバイオレンスに陥らないために
第13回	臨床心理学①	ストレスが心に与える影響について
第14回	臨床心理学②	現代人が抱える心の病について (うつ病・ストレス障害など)
第15回	まとめ	第2回~第14回で扱ったテーマのレビュー、質問への対応

国際

授業番号	B103810001				
科目名 (英語表記)	心理言語学 (Psychological linguistics)				
担当者 (英語表記)	黄麗華 (Ko Reika)	対象学年	2	単位数	2

授業のねらいと到達目標	人間はことばを用いてどのようにコミュニケーションを図るのか、その様々な側面を理解する。また、言語的/非言語的コミュニケーションや異文化間コミュニケーションなども考慮に入れ、人間とことばについて総合的に考える。
授業の進め方 (履修条件など)	基本的には講義形式であるが、適宜さまざまな資料を読んだり、グループワークを行ったりしながら理解を深める。留学生で受講を希望する者は、日本語能力試験2級相当の日本語力を必要とするので、注意すること。
成績評価方法 基準	定期試験7割、平常点3割。 3回以上欠席した者、または受講態度の良い者とは評価から外す。遅刻も認めない。
授業の予習・復習	予習：授業時に指示する。 復習：授業時に指示する。
教科書	教科書は使用せず、プリントを配布する。
参考文献	授業時に適宜紹介する。

回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス	概要
第2回	言語的コミュニケーション1	記号とことば
第3回	言語的コミュニケーション2	言語の特徴
第4回	言語的コミュニケーション3	コミュニケーションの諸相
第5回	言語的コミュニケーション4	言語的コミュニケーション
第6回	言語的コミュニケーション5	非言語的コミュニケーション
第7回	異文化間コミュニケーション1	コンテキストについて
第8回	異文化間コミュニケーション2	言語運用能力について
第9回	異文化間コミュニケーション3	会話の公準
第10回	異文化間コミュニケーション4	異文化接触1
第11回	異文化間コミュニケーション5	異文化接触2
第12回	バイリンガリズム1	バイリンガリズムの基礎
第13回	バイリンガリズム2	ダイグロシアについて
第14回	バイリンガリズム3	中間言語について
第15回	バイリンガリズム4	国家レベルで見た中間言語の形成

国際					
授業番号	B104230001				
科目名 (英語表記)	数の不思議 (Wonder of numbers)				
担当者 (英語表記)	辻山 洋介 (Yosuke Tsujiyama)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校算数科で扱う「数」には、様々な数学的な性質や身の回りの現象が潜んでいます。本授業は、算数・数学における数に関する性質の考察、日常生活や社会における数を用いた身の回りの性質の考察、それらの考察に必要な見方や考え方を身に付けられるようにすることを目標とします。小学校算数科の「数と計算」と「数量関係」、中学校数学科の「数と式」、「関数」を中心に扱います。				
授業の進め方 (履修条件など)	問題解決を中心に授業を進めます。数に関する問題を解決し、解決を発表・議論する中で、どのような知識・技能や見方・考え方が潜んでいるか、また必要なかを把握してもらいます。				
成績評価方法	課題解決、議論への貢献 (40%程度)、および期末試験 (60%程度)。				
基準					
授業の予習・復習	予習：前時に指定された教科書やプリントの内容を把握しておくこと。適宜提示します。 復習：授業内容を振り返り、理解を深めるとともに、残された疑問や新たな課題を明確にすること。				
教科書	プリント教材を配布します。				
参考文献	G. ポリア著・柿内賢信訳『いかにして問題をとくか』(1954年, 丸善) 清水静海編著『小学校 新算数科の考え方と授業展開』(2010年, 文溪堂)				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	導入課題と授業内容のデモンストレーション			
第2回	数の規則の探究 (1)	自然数の表に現れる数の規則の観察			
第3回	数の探究の規則 (2)	図を用いた数の規則の説明と発展			
第4回	数の探究の規則 (3)	文字式を用いた数の規則の説明と発展			
第5回	数の規則の探究 (4)	かけ算九九の表に現れる数の規則の探究			
第6回	数の規則の統合	数表に現れる性質を視点とした多様な事象の統合			
第7回	関数関係の探究 (1)	変わり方に着目した数量関係の捉え			
第8回	関数関係の探究 (2)	変化と対応、関数的な見方・考え方			
第9回	演算の意味の探究と利用 (1)	四則演算の意味と相互関係			
第10回	演算の意味の探究と利用 (2)	問題解決と問題設定			
第11回	大規模調査における数に関する性質 (1)	全国学力・学習状況調査 (小学校算数) における数に関する性質の発展			
第12回	大規模調査における数に関する性質 (2)	全国学力・学習状況調査 (中学校数学) における数に関する性質の発展			
第13回	日常生活と社会における数に関する性質の利用 (1)	資料の分類・整理			
第14回	日常生活と社会における数に関する性質の利用 (2)	資料の活用			
第15回	授業のまとめ	数に関する性質の考察に必要な見方・考え方			

国際

授業番号	B104190001				
科目名 (英語表記)	図画工作 (Arts and crafts)			(A)	
担当者 (英語表記)	山口 荘一 (Souichi Yamaguchi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>小学校図画工作科を指導する上で必要な実技と造形理論の習得を目標とします。</p> <p>授業では、小学校図画工作科で扱う基本的な材料や道具、用具を知り、その特徴に応じた扱い方や表現方法について実技を通して学びます。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>小学校図画工作科の教科書に掲載されている題材を基に、安全な用具や道具の取り扱い方、多様な材料体験を含んだの造形活動を実技形式で行います。</p>				
成績評価方法 基準	<p>材料や用具、道具の事前準備 (20%)、課題提出状況 (50%)、レポート、授業態度等 (30%) を総合的に判断します。</p>				
授業の予習・復習	<p>予習：課題に対する材料集めや用具、道具の準備をしっかりと行う。</p> <p>復習：配布資料、作品、活動のプロセス等の記録をファイリング保存する。</p>				
教科書	<p>授業の第一回目に指定します。</p>				
参考文献	<p>必要に応じて適時紹介します。</p>				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	小学校図画工作科の内容についてと、使用する道具、用具の解説。			
第 2 回	低学年向け実技 1・絵に表す	クレヨン、パス、水彩絵の具を使つての実技。			
第 3 回	低学年向け実技 2・工作	紙を基にした工作の実技。			
第 4 回	低学年向け実技 3・立体に表す	粘土等を基にした立体の実技。			
第 5 回	低学年造形遊びについて	材料を基にした造形遊びの実技。			
第 6 回	中学年向け実技 1・絵に表す	ローラー等用具を使つての実技。			
第 7 回	中学年向け実技 2・工作	動く仕組み等を基にした工作の実技。			
第 8 回	中学年向け実技 3・立体に表す	雑材を基にした立体の実技。			
第 9 回	中・高学年造形遊び	材料や場所を基にした造形遊びの実技。			
第 10 回	高学年向け実技 1・絵に表す	モダンテクニックを用いての実技。			
第 11 回	高学年向け実技 2・版に表す	彫り進み版画等版に表す活動の実技。			
第 12 回	高学年向け実技 3・工作、立体	材料を総合的に用いての実技。 計画・活動			
第 13 回	高学年向け実技 4・工作、立体	材料を総合的に用いての実技。 活動、発表			
第 14 回	鑑賞について	鑑賞と表現の実際と美術史との関連についての講義等。			
第 15 回	造形理論について	造形理論と小学校図画工作科との関連についての講義等。			

# 国際

授業番号	B104190002				
科目名 (英語表記)	図画工作 (Arts and crafts)			(B)	
担当者 (英語表記)	山口 荘一 (Souichi Yamaguchi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>小学校図画工作科を指導する上で必要な実技と造形理論の習得を目標とします。</p> <p>授業では、小学校図画工作科で扱う基本的な材料や道具、用具を知り、その特徴に応じた扱い方や表現方法について実技を通して学びます。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>小学校図画工作科の教科書に掲載されている題材を基に、安全な用具や道具の取り扱い方、多様な材料体験を含んだの造形活動を実技形式で行います。</p>				
成績評価方法 基準	<p>材料や用具、道具の事前準備 (20%)、課題提出状況 (50%)、レポート、授業態度等 (30%) を総合的に判断します。</p>				
授業の予習・復習	<p>予習：課題に対する材料集めや用具、道具の準備をしっかりと行う。</p> <p>復習：配布資料、作品、活動のプロセス等の記録をファイリング保存する。</p>				
教科書	<p>授業の第一回目に指定します。</p>				
参考文献	<p>必要に応じて適時紹介します。</p>				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	小学校図画工作科の内容についてと、使用する道具、用具の解説。			
第 2 回	低学年向け実技 1・絵に表す	クレヨン、パス、水彩絵の具を使つての実技。			
第 3 回	低学年向け実技 2・工作	紙を基にした工作の実技。			
第 4 回	低学年向け実技 3・立体に表す	粘土等を基にした立体の実技。			
第 5 回	低学年造形遊びについて	材料を基にした造形遊びの実技。			
第 6 回	中学年向け実技 1・絵に表す	ローラー等用具を使つての実技。			
第 7 回	中学年向け実技 2・工作	動く仕組み等を基にした工作の実技。			
第 8 回	中学年向け実技 3・立体に表す	雑材を基にした立体の実技。			
第 9 回	中・高学年造形遊び	材料や場所を基にした造形遊びの実技。			
第 10 回	高学年向け実技 1・絵に表す	モダンテクニックを用いての実技。			
第 11 回	高学年向け実技 2・版に表す	彫り進み版画等版に表す活動の実技。			
第 12 回	高学年向け実技 3・工作、立体	材料を総合的に用いての実技。 計画・活動			
第 13 回	高学年向け実技 4・工作、立体	材料を総合的に用いての実技。 活動、発表			
第 14 回	鑑賞について	鑑賞と表現の実際と美術史との関連についての講義等。			
第 15 回	造形理論について	造形理論と小学校図画工作科との関連についての講義等。			



国際

授業番号	B104040001				
科目名 (英語表記)	図画工作科指導法 (Department method of (B) instruction of arts and crafts)				
担当者 (英語表記)	色部 和子 (Kazuko Irobe)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	図画工作科教育の目的と意義、内容について理解し、授業構成を考える能力を養うことを目的とする。理論と演習を通して、教材開発の力や自らの造形教育観を持つことができることを目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	初等図画工作概説の履修を原則とする。講義と演習を組み合わせながら進めていく。授業内で学んだことをもとに教材研究を行い、グループ内で、計画、準備、活動実施、評価等をする演習を行う。				
成績評価方法	授業への取組、提出物 (作品・ノート)、グループ演習への参加、レポート等に出席状況をふまえて評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：課題意識を持つ 次回の授業の準備 (材料・道具) 復習：授業で指示された課題を行う ノート・資料の整理				
教科書	①形・色・イメージ+これからの図画工作 日本文教出版 ②小学校学習指導要領解説 図画工作編 日本文教出版				
参考文献	小学校教科書「ずがこうさく」(1・2上下)「図画工作」(3・4上下/5・6上下) 開隆堂出版 その他：授業時に適宜紹介 小学校学習指導要領解説「図画工作編」日本文教出版 「色・形・イメージ+これからの図画工作」日本文教出版				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業概要 図画工作の目的			
第2回	表出と表現について	線描を通して子どもの発達と関連させ表現について考える			
第3回	図画工作科の目標と内容	図画工作科の目標・内容の構成とその意義について			
第4回	「造形遊び」の目的と内容	内容と意義および展開例の検討			
第5回	「表したいものを表す」ことの意味と内容	内容とその意義、および題材例の検討			
第6回	「表現」と「鑑賞」の関係について	表現と鑑賞の関係について題材例を通して検討			
第7回	材料と道具の関係について①	描画材 (クレヨン・パス・絵の具) の組成と使用方法と内容、留意事項について検討			
第8回	材料と道具の関係について②	木材等立体造形にかかわる道具 (切る・彫る・穴をあける・打つ・接着) の使用方法と内容、留意事項について検討			
第9回	「グループワーク」のための活動案作成	図工授業の事例検討とグループワークのための授業計画立案・試作のための準備・確認			
第10回	「グループワーク」のための実験・準備①	題材内容の検討と試作			
第11回	「グループワーク」のための実験・準備②	題材の検討と活動のための準備			
第12回	グループワーク①	計画の実施と評価			
第13回	グループワーク②	計画の実施と評価			
第14回	グループワーク③	計画の実施と評価			
第15回	これからの図画工作	図画工作科の授業の可能性、他領域とのかかわり			

国際

授業番号	B104040002				
科目名 (英語表記)	図画工作科指導法 (Department method of (A) instruction of arts and crafts)				
担当者 (英語表記)	色部 和子 (Kazuko Irobe)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	図画工作科教育の目的と意義、内容について理解し、授業構成を考える能力を養うことを目的とする。理論と演習を通して、教材開発の力や自らの造形教育観を持つことができることを目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	初等図画工作概説の履修を原則とする。講義と演習を組み合わせながら進めていく。授業内で学んだことをもとに教材研究を行い、グループ内で、計画、準備、活動実施、評価等をする演習を行う。				
成績評価方法	授業への取組、提出物 (作品・ノート)、グループ演習への参加、レポート等に出席状況をふまえて評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：課題意識を持つ 次回の授業の準備 (材料・道具) 復習：授業で指示された課題を行う ノート・資料の整理				
教科書	①形・色・イメージ+これからの図画工作 日本文教出版 ②小学校学習指導要領解説 図画工作編 日本文教出版				
参考文献	小学校教科書「ずがこうさく」(1・2上下)「図画工作」(3・4上下/5・6上下) 開隆堂出版 その他：授業時に適宜紹介 小学校学習指導要領解説「図画工作編」日本文教出版 「色・形・イメージ+これからの図画工作」日本文教出版				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業概要 図画工作の目的			
第2回	表出と表現について	線描を通して子どもの発達と関連させ表現について考える			
第3回	図画工作科の目標と内容	図画工作科の目標・内容の構成とその意義について			
第4回	「造形遊び」の目的と内容	内容と意義および展開例の検討			
第5回	「表したいものを表す」ことの意味と内容	内容とその意義、および題材例の検討			
第6回	「表現」と「鑑賞」の関係について	表現と鑑賞の関係について題材例を通して検討			
第7回	材料と道具の関係について①	描画材 (クレヨン・パス・絵の具) の組成と使用方法と内容、留意事項について検討			
第8回	材料と道具の関係について②	木材等立体造形にかかわる道具 (切る・彫る・穴をあける・打つ・接着) の使用方法と内容、留意事項について検討			
第9回	「グループワーク」のための活動案作成	図工授業の事例検討とグループワークのための授業計画立案・試作のための準備・確認			
第10回	「グループワーク」のための実験・準備①	題材内容の検討と試作			
第11回	「グループワーク」のための実験・準備②	題材の検討と活動のための準備			
第12回	グループワーク①	計画の実施と評価			
第13回	グループワーク②	計画の実施と評価			
第14回	グループワーク③	計画の実施と評価			
第15回	これからの図画工作	図画工作科の授業の可能性、他領域とのかかわり			

国際

授業番号	B104410001		
科目名 (英語表記)	スポーツ教育 (実技) (Sport education)		
担当者 (英語表記)	藤井 喜一 (Kiichi Fujii)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	体育の指導実践者としての基礎的な体力を得るとともに子どもの遊び、運動の基本的な知識と技術の習得を目指す。また、生涯体育という観点から、技術とルールを考え初心者から楽しめるスポーツのあり方等も追求する。		
授業の進め方 (履修条件など)	体育館において実技を行う。その実技を通して技術の獲得をはかれるようにする。		
成績評価方法	出席 60%、受講態度 20%、論述試験 20%		
基準			
授業の予習・復習	予習：技術の系統、ゲームのルール等を調べる。 復習：授業の内容、感想、反省等をまとめておくこと。		
教科書	無し		
参考文献	体育科教育別冊 新しいマット運動の授業づくり (大修館書店) 体育科教育別冊 新しい跳び箱運動の授業づくり (大修館書店)		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	授業の 0 進め方、評価方法、諸注意	
第 2 回	からだほぐしの運動①	体づくり	
第 3 回	からだほぐしの運動②	仲間とともに	
第 4 回	器械運動	マット運動①	
第 5 回	器械運動	マット運動②	
第 6 回	器械運動	とびばこ運動①	
第 7 回	器械運動	とびばこ運動②	
第 8 回	ボール運動	バレーボール①	
第 9 回	ボール運動	バレーボール②	
第 10 回	ボール運動	バスケットボール①	
第 11 回	ボール運動	バスケットボール②	
第 12 回	ボール運動	アルティメット①	
第 13 回	ボール運動	アルティメット②	
第 14 回	ボール運動	フットサル①	
第 15 回	ボール運動	フットサル②	

国際		
授業番号	B104220001	
科目名 (英語表記)	生活 (Life) (A)	
担当者 (英語表記)	池谷 美佐子 (Misako Ikeya) 対象学年 1 単位数 2	
授業のねらいと到達目標	小学校学習指導要領が示す生活科の目標や内容について学びながら、小学校生活科という教科の特性をとらえる。また、小学校低学年の児童の興味や関心を理解し、生活科指導と教材の関連についてもその特徴をとらえていく。	
授業の進め方 (履修条件など)	毎回の授業の積み重ねで理解を深めていくことを目指しているため、出席を重視します。授業には積極的な態度で臨んでいただきたい。	
成績評価方法 基準	授業毎のリアクションペーパー 期末試験	
授業の予習・復習	予習： 次回の授業内容に関する教科書の部分を読み概要をとらえておく。連絡された学習材の準備。 復習： 教科の独自性がかめられるように各自ノートの整理をする。	
教科書	小学校学習指導要領 生活編 (文部科学省) 必ず各自購入し毎時間持参すること。	
参考文献	必要に応じて紹介	
回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方についての説明
第2回	生活科の目標・主旨	教科の目標の構成と主旨について解説
第3回	生活科の学年目標	学年目標の構成・主旨について解説
第4回	生活科の内容構成	内容構成の考え方について解説
第5回	内容(1)「学校と生活」	内容(1)について具体的な事例を含めて学ぶ
第6回	内容(2)「家庭と生活」	内容(2)について具体的な事例を含めて学ぶ
第7回	内容(3)「地域と生活」	内容(3)について具体的な事例を含めて学ぶ
第8回	内容(4)「公共物や公共施設の利用」	内容(4)について具体的な事例を含めて学ぶ
第9回	内容(5)「季節の変化と生活」	内容(5)について具体的な事例を含めて学ぶ
第10回	内容(6)「自然や物をつかった遊び」	内容(6)について具体的な事例を含めて学ぶ
第11回	内容(7)「動植物の飼育・栽培」	内容(7)について具体的な事例を含めて学ぶ
第12回	内容(8)「生活の出来事の交流」	内容(8)について具体的な事例を含めて学ぶ
第13回	内容(9)「自分の成長」	内容(9)について具体的な事例を含めて学ぶ
第14回	生活科の教材と学習指導	内容(4)(5)(6)を中心に教材化について考える
第15回	生活科の活動や体験の表現	表現する学習活動を具体化して検討する

国際					
授業番号	B104220002				
科目名 (英語表記)	生活 (Life)			(B)	
担当者 (英語表記)	池谷 美佐子 (Misako Ikeya)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校学習指導要領が示す生活科の目標や内容について学びながら、小学校生活科という教科の特性をとらえる。また、小学校低学年の児童の興味や関心を理解し、生活科指導と教材の関連についてもその特徴をとらえていく。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回の授業の積み重ねで理解を深めていくことを目指しているため、出席を重視します。授業には積極的な態度で臨んでいただきたい。				
成績評価方法	授業毎のリアクションペーパー 期末試験				
基準					
授業の予習・復習	予習： 次回の授業内容に関する教科書の部分を読み概要をとらえておく。連絡された学習材の準備。 復習： 教科の独自性がかめられるように各自ノートの整理をする。				
教科書	小学校学習指導要領 生活編 (文部科学省) 必ず各自購入し毎時間持参すること。				
参考文献	必要に応じて紹介				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の進め方についての説明			
第2回	生活科の目標・主旨	教科の目標の構成と主旨について解説			
第3回	生活科の学年目標	学年目標の構成・主旨について解説			
第4回	生活科の内容構成	内容構成の考え方について解説			
第5回	内容(1)「学校と生活」	内容(1)について具体的な事例を含めて学ぶ			
第6回	内容(2)「家庭と生活」	内容(2)について具体的な事例を含めて学ぶ			
第7回	内容(3)「地域と生活」	内容(3)について具体的な事例を含めて学ぶ			
第8回	内容(4)「公共物や公共施設の利用」	内容(4)について具体的な事例を含めて学ぶ			
第9回	内容(5)「季節の変化と生活」	内容(5)について具体的な事例を含めて学ぶ			
第10回	内容(6)「自然や物をつかった遊び」	内容(6)について具体的な事例を含めて学ぶ			
第11回	内容(7)「動植物の飼育・栽培」	内容(7)について具体的な事例を含めて学ぶ			
第12回	内容(8)「生活の出来事の交流」	内容(8)について具体的な事例を含めて学ぶ			
第13回	内容(9)「自分の成長」	内容(9)について具体的な事例を含めて学ぶ			
第14回	生活科の教材と学習指導	内容(4)(5)(6)を中心に教材化について考える			
第15回	生活科の活動や体験の表現	表現する学習活動を具体化して検討する			

国際

授業番号	B104070001				
科目名 (英語表記)	生活科指導法 (Home economics method of instruction) (A)				
担当者 (英語表記)	池谷 美佐子 (Misako Ikeya)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	生活科の特性をふまえ、児童の生活圏における「人、社会、自然」についての理解を深めたり、児童の発達特性をもとに行動や思いについての理解を深めたりしながら、生活科の教材化について学び、実践をふまえた指導計画や学習指導案の作成、並びに模擬授業に取り組みます。また、生活科の指導に必要な、基礎的なことから・習慣・技能についても具体的に理解し、実践に生かせるように取り組みます。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回の授業の取り組み内容を積み重ねていくので、出席を重視します。				
成績評価方法	授業毎に作成するリアクションペーパー 指導案と模擬授業 期末試験				
基準					
授業の予習・復習	予習 生活科の指導計画についての理解を深めてくる 復習 授業内に完成しなかった課題をしあげる				
教科書	小学校学習指導要領解説 生活科 (文部科学省)				
参考文献	必要に応じて紹介				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の進め方についての説明			
第2回	低学年児童についての理解	低学年児童の発達特性についての理解			
第3回	低学年児童の生活圏と学習の場や学習対象	地域の公園の活用について考える			
第4回	学習の場と対象の教材化	学習対象の教材化について考える			
第5回	指導計画の作成 (1)	学習指導の特質について解説			
第6回	指導計画の作成 (2)	年間指導計画の作成について解説			
第7回	指導計画の作成 (3)	単元指導計画についての解説			
第8回	単元指導計画の作成 (1)	学習指導案の作成について解説			
第9回	単元指導計画の作成 (2)	学習指導案について話し合い、単元指導計画を作成する			
第10回	単元指導計画の作成 (3)	学習指導案の本案の検討と作成			
第11回	授業実践について	学習指導の進め方についての解説			
第12回	模擬授業 (1)	模擬授業の準備をする			
第13回	模擬授業 (2)	模擬授業を行い、相互討論により検討する。			
第14回	模擬授業 (3)	模擬授業を行い、相互討論し検討する			
第15回	生活科で指導する「生活に必要な技能」	「生活上必要な技能」について確認し、具体的に理解する			

国際

授業番号	B104070002				
科目名 (英語表記)	生活科指導法 (Home economics method of instruction) (B)				
担当者 (英語表記)	池谷 美佐子 (Misako Ikeya)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	生活科の特性をふまえ、児童の生活圏における「人、社会、自然」についての理解を深めたり、児童の発達特性をもとに行動や思いについての理解を深めたりしながら、生活科の教材化について学び、実践をふまえた指導計画や学習指導案の作成、並びに模擬授業に取り組みます。また、生活科の指導に必要な、基礎的なことから・習慣・技能についても具体的に理解し、実践に生かせるように取り組みます。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回の授業の取り組み内容を積み重ねていくので、出席を重視します。				
成績評価方法	授業毎に作成するリアクションペーパー 指導案と模擬授業 期末試験				
基準					
授業の予習・復習	予習 生活科の指導計画についての理解を深めてくる 復習 授業内に完成しなかった課題をしあげる				
教科書	小学校学習指導要領解説 生活科 (文部科学省)				
参考文献	必要に応じて紹介				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の進め方についての説明			
第2回	低学年児童についての理解	低学年児童の発達特性についての理解			
第3回	低学年児童の生活圏と学習の場や学習対象	地域の公園の活用について考える			
第4回	学習の場と対象の教材化	学習対象の教材化について考える			
第5回	指導計画の作成 (1)	学習指導の特質について解説			
第6回	指導計画の作成 (2)	年間指導計画の作成について解説			
第7回	指導計画の作成 (3)	単元指導計画についての解説			
第8回	単元指導計画の作成 (1)	学習指導案の作成について解説			
第9回	単元指導計画の作成 (2)	学習指導案について話し合い、単元指導計画を作成する			
第10回	単元指導計画の作成 (3)	学習指導案の本事案の検討と作成			
第11回	授業実践について	学習指導の進め方についての解説			
第12回	模擬授業 (1)	模擬授業の準備をする			
第13回	模擬授業 (2)	模擬授業を行い、相互討論により検討する。			
第14回	模擬授業 (3)	模擬授業を行い、相互討論し検討する			
第15回	生活科で指導する「生活に必要な技能」	「生活上必要な技能」について確認し、具体的に理解する			

# 国際

授業番号	B101940001		
科目名 (英語表記)	政治学概論 II (Introduction to Political Science II)		
担当者 (英語表記)	榎田 久代 (Hisayo Kushida)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、日本の政治過程を扱います。政治学入門あるいは政治学概論 I で学んだ政治の基礎概念や基礎理論が、日本政治の中でどのように展開しているのかを主眼に、政治の実態を具体的に理解し政治的知識を増やすことを目的としています。国際学部の社会科学教職科目でもありますから、しっかりと知識を身につけてもらいたいと思います。		
授業の進め方 (履修条件など)	配布するプリントを中心に授業を進めます。時折、みなさんの理解を確認するために演習形式で行うときもあります。なお、社会科学関係の教職課程の学生は必修です。		
成績評価方法	期末試験 80%、授業内に適宜行う小レポート 20%により総合的に評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：日頃から時事ニュースに関心を持つようにして下さい。 復習：授業中わからなかったことは、授業後解決するようにして下さい。		
教科書	なし。		
参考文献	久米郁男他編『政治学 (New Liberal Arts Selection) 補訂版』(有斐閣、2011 年) 他。 ※参考文献は、3 階メディアセンターの榎田「指定図書」コーナーにあります。		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	日本政治の今	
第 2 回	政治を見る目 (1)	日本政治の課題	
第 3 回	政治を見る目 (2)	外交と国内政治	
第 4 回	日本の政治制度	議院内閣制と政党	
第 5 回	行政部 (1)	内閣と行政部	
第 6 回	行政部 (2)	行政部の現状と問題点	
第 7 回	立法部 (1)	国会	
第 8 回	立法部 (2)	立法過程	
第 9 回	立法部 (3)	立法の現状と問題点	
第 10 回	司法部 (1)	裁判所の役割	
第 11 回	司法部 (2)	市民の司法参加	
第 12 回	マスメディアと世論	第 4 の権力	
第 13 回	地方自治 (1)	地方自治の推進	
第 14 回	地方自治 (2)	地方自治が抱える課題	
第 15 回	まとめ	日本政治の現状再考	



国際

授業番号	B100220001		
科目名 (英語表記)	世界の音楽 (World music)		
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	2
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	音楽は日常生活に欠かせないものとなっていますが、その多くは限られた狭いジャンルにとどまっています。グローバルな世界にあって、日本人の音楽とは何かを問いつつ、自分にとっての音楽を探りながら、世界各国の音楽に触れ、その多様性や共通性に気づくことを目標とします。合わせて西洋音楽中心になされてきた日本の音楽教育のこれからについても考えていきたいと思います。		
授業の進め方 (履修条件など)	自分の生活の中の音楽について考えることから始めます。学生からも自国の音楽や好む音楽についての情報提供を求めます。学生同士その音楽について伝え合う機会もつくりたいと思います。		
成績評価方法	毎回の出席、授業への取り組み、提出物、レポート、発表などを総合的に判断します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：音楽に興味をもって意識的に聴くようにします。 復習：授業で取り上げた音楽の地域や時代を地図帳や年表を使って確認します。		
教科書	特に指定しません。 必要に応じてプリント等配布します。		
参考文献	適宜、紹介します。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	イントロダクション	授業の進め方 音楽と私	
第2回	音楽って何だろう①	人間と音楽 音楽の発生	
第3回	音楽って何だろう②	現代の音楽	
第4回	日本の音楽①	日本の民俗芸能音楽	
第5回	日本の音楽②	日本の音楽 歴史・現状	
第6回	世界の音楽①	アジアの音楽① (朝鮮・中国)	
第7回	世界の音楽②	アジアの音楽② (東南アジア 西アジア)	
第8回	世界の音楽③	ヨーロッパの音楽	
第9回	世界の音楽④	オセアニア・アフリカの音楽	
第10回	世界の音楽⑤	アメリカの音楽	
第11回	世界の音楽⑥	文化としての音楽	
第12回	私と音楽①	私の国の音楽	
第13回	私と音楽②	私の好きな音楽	
第14回	私と音楽③	私にとっての音楽	
第15回	まとめ	人間にとっての音楽	

国際					
授業番号	B104590001				
科目名 (英語表記)	世界のこども教育 (Child education in the world)				
担当者 (英語表記)	山本 陽子 (Yoko Yamamoto)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本や世界の教育制度や現状など、情報を交換しながら学びます。また感性を育てる言葉のもつ力についても考えます。各国および地域の教育の歴史や教育についての考え方、こどもに対するとらえ方などを比較して理解を深めます。また留学生の母国での教育を取材したり、現地の教育を知る国際学科教員の話や海外スクーリングに参加した学生などからの直接の情報を通して、多様なこども教育を知り、現在の日本のこども教育のよさや問題点などを考えます。				
授業の進め方 (履修条件など)	これまでのこども学科での学びを通して感じたことを大切に、課題意識を明確にして取り組みます。グループで意見を交換しながら考えを深め、発表活動を通して互いの情報を交換して、広い視野で教育について理解が深まるようにします。				
成績評価方法	課題への取り組みの姿勢、意見交換、さまざまな情報などから自分の考えを深めていく過程を総合的に評価します。				
基準					
授業の予習・復習	授業内容について自分で調べたり、広げたり、深めたりして、自分の課題解決の方法を探ります。				
教科書	特に使用しません。参考図書、新聞の情報など授業内で紹介します。				
参考文献	適宜紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方 事前調査			
第 2 回	感性と創造性①	心と言葉			
第 3 回	感性と創造性②	言葉の力			
第 4 回	日本の教育①	自分の受けた教育			
第 5 回	日本の教育②	日本の教育の特徴 よさ 問題点			
第 6 回	各国の教育①	教育制度			
第 7 回	各国の教育②	教育の現状①			
第 8 回	各国の教育③	教育の現状②			
第 9 回	教育の現状と課題①	各自課題の検討①			
第 10 回	教育の現状と課題②	課題グループ作り・話し合い			
第 11 回	教育の現状と課題③	課題解決に向けて①			
第 12 回	教育の現状と課題④	課題解決のに向けて②			
第 13 回	課題発表会①	グループでまとめたことを発表する①			
第 14 回	課題発表会②	グループでまとめたことを発表する②			
第 15 回	課題発表会③ まとめ	グループでまとめたことを発表する③ 自分の考えを広げ深める。			

国際		
授業番号	B102570001	
科目名 (英語表記)	世界の食と農 (World food and agriculture)	
担当者 (英語表記)	原山 浩介 (Kosuke Harayama)	
対象学年	1	
単位数	2	
授業のねらいと到達目標	本講義は、食と農業をめぐって、広い視野の下でその問題点と可能性を探っていく。グローバル化が進み、とめどない市場原理への信頼が政治や思考の軸になり得る今日において、日本および世界の農業の現状を見直す。その際、「食の安全」や農村の過疎化、都市と農村の経済格差といった、今日的なトピックスにも目配りしつつ、それが世界の政治・経済の潮流とどう絡むのかを見ていく。	
授業の進め方 (履修条件など)	概論的な講義の中に、適宜、具体的な事例やニュース、あるいはマンガなどを織り込み、多角的に食と農業が見えるような講義にしたいと考えている。受講生には、農業や食に興味を持ちながら講義に参加してほしい。	
成績評価方法	提出物とレポートによって評価を行う。	
基準		
授業の予習・復習	予習：特になし。 復習：各回の講義内容に関わる新聞記事や書籍を探し、情報収集に努め、知識の定着を図ること。	
教科書	池上甲一・原山浩介編『食と農のいま』ナカニシヤ出版、2011	
参考文献	随時指示する。	
回数	授業項目	授業内容
第1回	イントロダクション	講義の方針と、進め方に関する説明。
第2回	起点としての戦争時代の原体験	とりわけ日本において戦後農業政策の起点となった、食料の欠乏の経験を考える。
第3回	食料増産の現代史	現代における食料増産の歴史を、国民経済の枠組みと、近年のグローバル化の双方を視野に入れながら捉え直し、その問題点を考える。
第4回	主食としてのコメ	日本ならびにアジア世界におけるコメの持つ意味について考える。
第5回	経済成長と自給率	経済成長に伴う、食料需要の拡大と、農業生産の減少という、アンビバレントな現象をめぐって考察する。
第6回	食品公害の発生と日本の有機農業	農業の近代化の弊害と、これを克服しようとした取り組みとして有機農業を捉え直す。
第7回	ファストフードと食の変容	ファストフードの世界への浸透とその問題点を考える。
第8回	遺伝子組換えとは何か	技術水準の現状とその可能性を考えるとともに、農業に対する食料メジャーによる支配の問題点を検討する。
第9回	食の「安心・安全」とその問題点	食の安全に関わる身近な制度を踏まえ、今日の安心・安全をめぐる発想の限界や問題点を考える。
第10回	食のローカライゼーションの動き	地産地消・スローフードなど、日本の内外の取り組みを概観する
第11回	農地と水の争奪	グローバルに展開する農地と農業用水をめぐる攻防を起点に、世界の食料需給を考える。
第12回	バイオ燃料と食料市場	新たな農産物需要の現状と、これによって引き起こされる食料需給の逼迫などの問題点を考える。
第13回	農業生産と移民労働	今日の移民労働力と農業生産の関係を批判的に検討する。
第14回	原発事故が提起する問題	事故の推移に即して、農業と食の観点から原子力災害を考える。
第15回	まとめ	講義の総括をする

# 国際

授業番号	B101850001				
科目名 (英語表記)	世界の人権論 (Theory of Human Rights)				
担当者 (英語表記)	寛正 豊和 (Toyokazu Kakusho)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	アメリカ社会において、人権、マイノリティ、ジェンダー、階級、セクシャリティなどの差異性を発端とする人種問題は、さまざまな社会問題として露呈または隠蔽されてきています。この講義では、そうした人権問題の現状を正しく捉え人道主義的立場から理解し、解決の方途についても模索していきます。すなわち、自由権保障、人身保護権保障、人権保障制度等がどのように運用されているかなど基礎的事項についても整理、理解していくことを目的とします。同時にそれは、グローバルなボーダレス化した社会のなかで私達が生きていく意味と異文化状況を的確に判断する能力、よりよい国際人としての能力を身につけていくためにも必要なものです。				
授業の進め方 (履修条件など)	基本的にプリント等にしたがって分かりやすい授業を展開します。				
成績評価方法 基準	平常点 (授業内に適応おこなうリアクションペーパー等や、任意課題レポート 30%・定期試験 70%で評価します。				
授業の予習・復習	プリント等をよく読み、よくできない点を把握し、確認しましょう。				
教科書	なし				
参考文献	授業において指示します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	受講のガイダンス	人権擁護の推進と啓発			
第 2 回	比較分析のためのフレームワーク	人権と社会常識のあいだ			
第 3 回	ヒューマン・ライツ 1	基本的人権の原理・性格			
第 4 回	ヒューマン・ライツ 2	基本的人権の歴史・国際化			
第 5 回	ヒューマン・ライツ 3	開かれた社会と情報			
第 6 回	人権問題 1	各種人権問題その 1			
第 7 回	人権問題 2	各種人権問題その 2			
第 8 回	人権問題 3	各種人権問題その 3			
第 9 回	人権問題 4	各種人権問題その 4			
第 10 回	人権問題 5	各種人権問題その 5			
第 11 回	人権と法 1	人権条約－イノベーション、モニタリング、グローバル化			
第 12 回	人権と法 2	司法解決と限界 (国際刑事裁判所)			
第 13 回	人権と法 3	リーガルエイド－諸外国の実践と対応			
第 14 回	人権と展望	まとめと展望			
第 15 回	総括	全体のまとめと質疑			

国際

授業番号	B104380001				
科目名 (英語表記)	造形と表現 I (Expression and formative arts I)				
担当者 (英語表記)	山口 荘一 (Souichi Yamaguchi)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	<p>発想、構想、表現活動、鑑賞のプロセスをふまえて、作品を制作する。</p> <p>制作を通して必要な技術や技能を習得し、活用する力を培う。</p> <p>また、鑑賞を通して自他の違いやよさに気づき、相互理解の大切さを知る。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>造形 1 では、立体、工作の表現活動を通して多様な材料を知り、用具や道具の基本的な取り扱いについて学ぶ。</p> <p>造形 1 と造形 2 は継続して学ぶことが望ましい。</p>				
成績評価方法	材料や用具、道具の事前準備 (20%)、課題提出状況 (50%)、授業態度等 (30%) を総合的に判断します。				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習：材料や用具、道具等を含む準備を行う。</p> <p>復習：作品の記録や活動のプロセス等をファイリングする。</p>				
教科書	授業ごとにレジュメを配布。				
参考文献	必要に応じて適時紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について。 材料、用具、道具についての説明。			
第 2 回	紙での立体表現 1・計画	紙を切る、折る、貼る等の操作を知る。			
第 3 回	紙での立体表現 2・制作	紙の操作から発想して立体に表す。			
第 4 回	紙での立体表現 3・鑑賞	作品を相互に見せ合い、違いやよさについて話し合う。			
第 5 回	粘土での立体表現 1・計画	丸める、伸ばす、よる等の粘土の操作を知る。			
第 6 回	粘土での立体表現 2・制作	粘土の操作から発想して立体に表す。			
第 7 回	粘土での立体表現 3・鑑賞	作品を相互に見せ合い、違いやよさについて話し合う。			
第 8 回	液体粘土の立体表現 1・計画	液体粘土の特徴を知る。			
第 9 回	液体粘土の立体表現 2・制作	他の材料との組み合わせを考えて立体に表す。			
第 10 回	液体粘土の立体表現 3・鑑賞	作品を相互に見せ合い、違いやよさについて話し合う。			
第 11 回	金属の立体表現 1・計画、制作	金属の特徴を知り、その特徴から発想する。			
第 12 回	金属の立体表現 2・制作、鑑賞	金属の特徴から発想して、立体に表し、発表し合う。			
第 13 回	木材での立体表現 1・計画	木工用の用具、道具について知る。			
第 14 回	木材での立体表現 2・制作	木材の形を生かして立体に表す。			
第 15 回	木材での立体表現 3・鑑賞	作品を相互に見せ合い、違いやよさについて話し合う。			

国際						
授業番号	B104390001					
科目名 (英語表記)	造形と表現 II (Expression and formative arts II)					
担当者 (英語表記)	山口 荘一 (Souichi Yamaguchi)	対象学年	2	単位数	1	
授業のねらいと到達目標	<p>発想、構想、表現活動、鑑賞のプロセスをふまえて、作品を制作する。</p> <p>制作を通して基本的、基礎的な技術や技能を習得し、活用する力を培う。</p> <p>鑑賞を通して自他の違いやよさに気づき、相互理解の大切さについて知る。</p>					
授業の進め方 (履修条件など)	<p>造形 2 では、平面表現の活動を通して、多様な表現様式や形式について学ぶ。</p> <p>造形 1 と造形 2 は継続して学ぶことが望ましい。</p>					
成績評価方法 基準	材料や用具、道具の事前準備 (20%)、課題提出状況 (50%)、授業態度等 (30%) を総合的に判断します。					
授業の予習・復習	<p>予習：材料や用具、道具の準備を行う。</p> <p>復習：作品の記録や活動のプロセス等をファイリングする。</p>					
教科書	授業ごとにレジュメを配布。					
参考文献	必要に応じて適時紹介します。					
回数	授業項目	授業内容				
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について。 平面表現の様式、形式についての説明。				
第 2 回	発想法 1・お花紙を使って	操作を生かしてお花紙を貼り、平面に表す。				
第 3 回	発想法 2・シャボン玉から生まれた形で	シャボン玉から生まれた偶然の形を見立てて絵に表す。				
第 4 回	ドローイング 1・発想、構想	テーマに合わせて材料を選び、構想を練る。				
第 5 回	ドローイング 2・制作	テーマに合わせて表現方法を工夫して絵に表す。				
第 6 回	ドローイング 3・鑑賞	作品を相互に見せ合い、違いやよさについて話し合う。				
第 7 回	ペインティング 1・発想、構想	テーマに合わせて表し方の構想を練る。				
第 8 回	ペインティング 2・制作	テーマに合わせて、ペインティングの方法を活用して絵に表す。				
第 9 回	ペインティング 3・鑑賞	作品を相互に見せ合い、違いやよさについて話し合う。				
第 10 回	モダンテクニック 活動その 1	フロッタージュの技法について知り、活動に取り組む。				
第 11 回	モダンテクニック 活動その 2	デカルコマニーの技法について知り、活動に取り組む。				
第 12 回	モダンテクニック 活動その 3	スパッタリングの技法について知り、活動に取り組む。				
第 13 回	モダンテクニック 活動その 4	コラージュの技法について知り、活動に取り組む。				
第 14 回	版に表す 活動その 1	版画の種類を知り、彫刻刀の安全な扱い方に慣れる。				
第 15 回	版に表す 活動その 2	インクのつけ方や刷りを経験して凸版版画を制作する。				

国際					
授業番号	B103070001				
科目名 (英語表記)	総合講座 II (Integrated Study II)				
担当者 (英語表記)	Steve Ryan (Steve Ryan)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	The goal: To learn filmmaking; to learn English.				
授業の進め方 (履修条件など)	Harvard case study approach. We'll watch a film. We'll talk about how the film was made. We'll make conclusions about filmmaking.				
成績評価方法 基準	Attendance is everything. You don't need to study before the class. You don't need to study after the class. You just need to come to class. And try your hardest while you're there. There are no tests. There are no assignments. But during class, you need to be there (both in mind and body).				
授業の予習・復習	Preparation: Improve your English. Review: Go over the new words and expressions you picked up from the class (to improve your English).				
教科書	There is no textbook for this class.				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	The Adventure of Filmmaking.	An introduction to the course and style of teaching.			
第 2 回	On Writing.	How to get ideas. How to be a good writer.			
第 3 回	On Writing for Film.	How to write a movie.			
第 4 回	On Directing.	Directing actors. Directing the crew.			
第 5 回	Directing Again.	Advanced directing techniques. Taking opportunities. Making compromises.			
第 6 回	On Acting.	How to act for film.			
第 7 回	Acting Again.	Acting mistakes and tips. Reacting.			
第 8 回	On the camera.	Simple ways to take good pictures.			
第 9 回	Camera Again.	Advanced ways to take good pictures.			
第 10 回	On Sound.	How to get good sound in your pictures.			
第 11 回	On Producing.	How to put together a film with no money.			
第 12 回	On Editing.	How to put the cuts together.			
第 13 回	Pre to Production.	How to prepare for making a film. And how to enjoy making it.			
第 14 回	Production to Post.	How to enjoy making a film. And how to finish it.			
第 15 回	The Adventure of Filmmaking Again.	A review of the main points made in the course.			

国際					
授業番号	B104200002				
科目名(英語表記)	体育 (Physical education)				
担当者(英語表記)	藤井 喜一 (Kiichi Fujii)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校体育科の目的・目標、学習内容、方法、評価等についての基本理論を学習する。また、小学校学習指導要領「体育科」の運動領域の内容についてもとりあげる。これらの学習を通して、小学校における体育科の意義について理解を深める。				
授業の進め方(履修条件など)	講義が中心であるが、実技も適宜行い、理論との整合性を図れるように進める。				
成績評価方法	受講態度、通常時における小レポート、論述試験等によって評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書である指導要領解説書の次時の領域に目を通す。 復習：ノートに授業の要点等をまとめる。				
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領解説体育編 東洋館出版社 文部科学省 中学校学習指導要領解説保健体育編 東山書房				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、諸注意			
第2回	体育・スポーツの概念	体育科の学習内容について			
第3回	体育科の目標と内容	指導要領の変遷をたどりながら			
第4回	体育科の学習計画	学習計画の構成について			
第5回	体育科の学習指導と評価	学習の評価の方法について			
第6回	運動領域①	小学校低学年の構成について			
第7回	運動領域②	器械運動(マット運動)			
第8回	運動領域③	器械運動(跳び箱運動)			
第9回	運動領域④	器械運動(鉄棒運動)			
第10回	運動領域⑤	水泳			
第11回	運動領域⑥	陸上運動			
第12回	運動領域⑦	ボール運動(ゴール型)			
第13回	運動領域⑧	ボール運動(ベースボール型)			
第14回	運動領域⑨	体づくりの運動			
第15回	保健領域	保健の学習について			



国際

授業番号	B102610001				
科目名 (英語表記)	大気・水環境論 (Land/Water Environmental Studies)				
担当者 (英語表記)	中村 圭三 (Keizo Nakamura)	対象学年	2	単位数	2

授業のねらいと到達目標	本講義では、都市域における大気環境および水環境について、理論と測定法を講義します。特に、都市の大気環境に関しては、本学周辺における『ヒートアイランド』についての観測を実施し、講義内容を体験させます。
授業の進め方 (履修条件など)	最初に各週の授業内容に関する基礎事項について説明し、その上で、調査事例を中心とした授業内容を展開します。
成績評価方法	授業態度と定期試験の成績などで評価します。
基準	
授業の予習・復習	予習：テキストの「基礎技法」を、学習しておいてください。 復習：学習した授業内容に関連する環境問題に、関心を持って生活してください。
教科書	『フィールドの環境科学』 中村圭三著 青山社 2007.
参考文献	授業の中で、適宜指示します。

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	ガイダンス	大気・水環境論概説
第 2 回	都市の大気環境 (1)	都市の大気環境の成り立ち
第 3 回	都市の大気環境 (2)	大気環境観測法
第 4 回	都市の大気環境 (3)	ヒートアイランド 観測
第 5 回	都市の大気環境 (4)	都市大気環境図の作成 (1)
第 6 回	都市の大気環境 (5)	都市大気環境図の作成 (2)
第 7 回	都市の大気環境 (6)	都市大気環境図の作成 (3)
第 8 回	山岳と海洋	長野の山岳気候とオホーツク海の海氷
第 9 回	水環境 (1)	都市の水環境
第 10 回	水環境 (2)	雨水の利用
第 11 回	水環境 (3)	河川の汚染
第 12 回	水環境 (4)	湖沼の汚染
第 13 回	水環境 (5)	地下水の汚染
第 14 回	水環境 (6)	水の汚染と環境問題
第 15 回	まとめ	総括

国際

授業番号	B100150001				
科目名 (英語表記)	千葉学 I (Manabu Chiba I)				
担当者 (英語表記)	小林 啓祐 (Keisuke Kobayashi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義では千葉の自然・文化・政治・経済・社会・歴史について広く学ぶものである。昨今地域研究が盛んになされてきているものの、千葉県出身者であってもそれらを中学高校で学ぶ機会は限られているといっただろう。本講義をとおして千葉県がどのような特徴をもっているのかを学び、他者に教えるきっかけとなってくれればと思う。				
授業の進め方 (履修条件など)	特になし				
成績評価方法	小テスト3回および講義中の発言によって評価する				
基準					
授業の予習・復習	参考文献などで事前に予習し、配布レジュメを用いて復習することが望ましい				
教科書	特に指定しない				
参考文献	千葉県史料研究財団『千葉県の歴史』『千葉県の自然誌』全51巻 各講義中にも適宜参考文献を紹介する				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	本講義のガイダンスを行います			
第2回	千葉の概要	統計などを用いて千葉の概要を学びます			
第3回	千葉の自然	千葉の自然環境について学びます			
第4回	千葉の文化	千葉の民俗や文化について学びます			
第5回	小テスト1	第2回から4回までの内容のテストを行います			
第6回	千葉の歴史1	千葉の中近世期について学びます			
第7回	千葉の歴史2	千葉の近代について学びます			
第8回	千葉の歴史3	千葉の千葉の高度成長期について学びます			
第9回	千葉の歴史4	千葉の安定成長期・バブル期について学びます			
第10回	小テスト2	第6回から9回までの内容の小テストを行います			
第11回	映像に見る千葉	映像資料に記録された千葉の姿について学びます			
第12回	現在の千葉1	現在の千葉における政治状況について学びます			
第13回	現在の千葉2	現在の千葉における社会について学びます			
第14回	現在の千葉3	現在の千葉における経済状況について学びます			
第15回	小テスト3	まとめの小テストを行います			

国際						
授業番号	B100180001					
科目名(英語表記)	千葉学 II (Manabu Chiba II)					
担当者(英語表記)	小林 啓祐 (Keisuke Kobayashi)	対象学年	2	単位数	2	
授業のねらいと到達目標	日本でも有数の工業地域である京葉工業地域を有し、農業生産額は日本で常に上位に入り続ける千葉県。さらに日本の空の玄関である成田空港や、来園者数が年 2000 万人を超えるテーマパークを県内に有する千葉県だが、この姿は最近できたものではない。講義では千葉県経済の歴史と現在を学び、その構造をつかむことを目的とする。					
授業の進め方(履修条件など)	適宜質問等により、学生の興味関心にそった内容も盛りこんでいく。					
成績評価方法	全部で 3 回小テストを行う。すべての小テストの合計点 (90%)、および参加態度 (10%) をあわせて評価する。					
基準						
授業の予習・復習	予習：千葉県の公共図書館の郷土資料コーナーから、千葉県の経済に関する書籍を読了していることが望ましい。 復習：講義中に配布するレジュメ、講義ノートにより復習すること。					
教科書	特に使用しません					
参考文献	千葉県史料研究財団『千葉県の歴史』近現代編、三浦茂一『千葉県の百年』1990 年 山川出版					
回数	授業項目	授業内容				
第 1 回	ガイダンス	本講義のガイダンスを行う				
第 2 回	醤油の町－商工業 1	伝統的な産業である醤油生産について学ぶ				
第 3 回	工業化する千葉－商工業 2	戦後の急速な工業化と劇的に変化する商業について学ぶ				
第 4 回	現在の商工業－商工業 3	商工業のまとめと現在をみる				
第 5 回	小テスト 1	第 2 回から第 4 回までの内容の小テストを行います				
第 6 回	多様化する農漁業－農漁業 1	高成長期以降多様化してきた千葉県農漁業について学ぶ				
第 7 回	現在の農漁業－農漁業 2	現在の千葉県農漁業について学ぶ				
第 8 回	人口増加と住宅団地－人口 1	戦後に急成長する千葉県の人口について、住宅団地を中心として学ぶ				
第 9 回	宅地開発の新展開－人口 2	昨今の千葉県の人口動態について、経済状況の変化とあわせて学ぶ				
第 10 回	小テスト 2	第 6 回から 9 回までの内容の小テストを行います				
第 11 回	千葉県鉄道網の成り立ち－交通 1	千葉県の交通網が整備されていく過程を鉄道を中心にして学びます				
第 12 回	開発と交通－交通 2	千葉県交通網の現在を開発を軸にして学びます				
第 13 回	房総半島の観光－観光 1	千葉県の伝統的な観光業について房総半島を中心にして学ぶ				
第 14 回	テーマパーク型の観光－観光 2	伝統的な観光とは違った、テーマパーク型の観光業について学ぶ				
第 15 回	小テスト 3	まとめの小テストを行います				

国際					
授業番号	B100190001				
科目名 (英語表記)	千葉学 III (Manabu Chiba III)				
担当者 (英語表記)	三幣 利夫 (Toshio Sampei)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	国際ビジネスを展開する千葉県在の企業経営者から、経営戦略や実際の企業活動に関し直接話を伺い、県内の経済活動と国際ビジネスについての理解を深める。また、就職に向けてのキャリア教育も兼ねる。				
授業の進め方 (履修条件など)	企業経営者によるオムニバス形式の講義を中心に、企業訪問も行う。 これらを通じ学習したことを、レポートにまとめ、教室で発表し議論も行う。				
成績評価方法	企業ごとにレポートを必ず提出する。 また、授業における発表・議論を通じての参加度合を重視する。				
基準					
授業の予習・復習	予習： 経営者からの講義前に、各自で企業について調べ、質問も用意する。 復習： レポートを作成する。				
教科書	特になし。				
参考文献	特になし。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	講義の進め方の説明、千葉県経済の概要			
第 2 回	空港関連ビジネス (1)	経営者の講義 (成田国際空港)			
第 3 回	空港関連ビジネス (2)	空港見学			
第 4 回	空港関連ビジネス (3)	成田空港関連の事業活動についての復習			
第 5 回	空港関連ビジネス (4)	レポート発表			
第 6 回	千葉港関連ビジネス (1)	経営者の講義 (千葉共同サイロ)			
第 7 回	千葉港関連ビジネス (2)	企業見学			
第 8 回	千葉港関連ビジネス (3)	千葉港関連の事業活動についての復習			
第 9 回	千葉港関連ビジネス (4)	レポート発表			
第 10 回	物流関連ビジネス (1)	経営者の講義 (住商ロジスティクス)			
第 11 回	物流関連ビジネス (2)	物流施設見学			
第 12 回	物流関連ビジネス (3)	物流関連の事業活動についてのまとめ			
第 13 回	物流関連ビジネス (4)	レポート発表			
第 14 回	輸出関連ビジネス (1)	経営者の講義			
第 15 回	輸出関連ビジネス (2)	レポート発表			

国際						
授業番号	B101060001					
科目名 (英語表記)	中国語 I (Chinese I)					
担当者 (英語表記)	山影 統 (Subaru Yamakage)	対象学年	1	単位数	1	
授業のねらいと到達目標	中国語 I では、中国語の基礎を身につけることを目的とする。 具体的には、発音の学習を重点的に行い、併せて最も基本的な文法を学んでいく。					
授業の進め方 (履修条件など)	基本的には指定した教科書に沿って行う。 履修条件：中国 (語) に興味があること。母語が中国語でない者。					
成績評価方法	中間・期末テスト 70%、平常点 (授業参加度、小テスト等) 30%					
基準						
授業の予習・復習	予習：付属の CD を聞きながら教科書の本文を読んでおくこと。 復習：教科書に付録されている問題集をやること。					
教科書	竹島金吾 監修、尹景春・竹島毅 著 『<最新 2 訂版> 中国語はじめての一步』(白水社、2012 年)					
参考文献						
回数	授業項目	授業内容				
第 1 回	中国と「中国語」	オリエンテーション				
第 2 回	発音①四声と母音	「四声」と母音の練習				
第 3 回	発音②子音の発音	子音の練習				
第 4 回	発音③鼻母音の発音	鼻母音の練習				
第 5 回	発音④複合母音	複合母音の練習				
第 6 回	発音学習の総復習	これまで学んできた発音の総復習				
第 7 回	中間テスト	発音のテスト				
第 8 回	教科書第一課「? 是中国人??」	新出単語、文法 (人称代名詞、「是」の文)				
第 9 回	教科書第一課②	本文精読				
第 10 回	教科書第二課「? 是什??」	新出単語、文法 (指示代名詞、疑問詞疑問文)				
第 11 回	教科書第二課②	文法の続き (「的」の用法、副詞)、本文精読				
第 12 回	教科書第三課「? 去? 儿??」	新出単語、文法 (動詞の文、所有の「有」)				
第 13 回	教科書第三課②	文法の続き (省略疑問文)、本文精読				
第 14 回	教科書第四課「? 个包多少??」	新出単語、文法 (助数詞、指示代名詞②)、形容詞				
第 15 回	教科書第四課②	文法の続き (数を問う疑問詞)、本文精読				

国際						
授業番号	B101070001					
科目名 (英語表記)	中国語 II (Chinese II)					
担当者 (英語表記)	山影 統 (Subaru Yamakage)	対象学年	1	単位数	1	
授業のねらいと到達目標	中国語 II では、中国語 I で身に付けた基礎的な発音と文法の知識の底上げと共に、使用頻度の高い語彙と文法を習得することを目的とする。					
授業の進め方 (履修条件など)	基本的には指定された教科書に沿って行う。 履修条件：中国語 I を履修済みであること。					
成績評価方法	テスト 70%、平常点 (授業参加度、小テスト等) 30%					
基準						
授業の予習・復習	予習：付属の CD を聞きながら教科書の本文を読んでおくこと。 復習：教科書に付録されている問題集をやること。					
教科書	竹島金吾 監修、尹景春・竹島毅 著 『<最新 2 訂版> 中国語ははじめの一步』(白水社、2012 年)					
参考文献						
回数	授業項目	授業内容				
第 1 回	中国語 I の復習①	復習				
第 2 回	中国語 I の復習②	復習				
第 3 回	教科書第五課「?? 上有事??」	新出単語、文法 (数字、日付・時刻)				
第 4 回	教科書第五課②	文法の続き (動作の時点の使い方)、本文精読				
第 5 回	教科書第六課「? 吃? 了??」	新出単語、文法 (完了の「了」、所在の「在」)				
第 6 回	教科書第六課②	文法の続き (助動詞「想」)、本文精読				
第 7 回	教科書第七課「? 家有几口人?」	新出単語、文法 (介詞の「在」・「?」、所在の「有」)				
第 8 回	教科書第七課②	文法の続き (反復疑問文)、本文精読				
第 9 回	中間テスト	中間テスト				
第 10 回	中間テスト②	中間テストの答え合わせ				
第 11 回	教科書第八課「? 从几点? 始打工?」	新出単語、文法 (時間量、助動詞「得」)				
第 12 回	教科書第八課②	文法の続き (介詞「从」)、本文精読				
第 13 回	教科書第九課「? 去? 美国??」	新出単語、文法 (経験の「?」、「是～的」の文)				
第 14 回	教科書第九課②	文法の続き (介詞の「跟」・「?」)、本文精読				
第 15 回	総復習	総復習				

国際					
授業番号	B101660001				
科目名 (英語表記)	中国の経済 (Chinese Economy)				
担当者 (英語表記)	藪内 正樹 (Masaki Yabuuchi)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	中国を正しく理解し、中国に的確に向き合う力を養うことを目指す。中国ビジネスのチャンスとリスク、成功の条件を理解するため、日中経済関係、中国の発展過程と問題点、中国の産業・科学技術・市場、ビジネス環境、リスクと対処方法、日本企業・日本人の課題、中国人の国民性を理解する。				
授業の進め方 (履修条件など)	事前に配布した資料を解説する形で進め、最終回は学生が講義を通じて得た印象や考えを発表し、討論する。				
成績評価方法	質問や発言の積極性 (40%)、期末試験 (60%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：資料を事前に読み、分からないことは質問する準備をしてください。 復習：前回の資料やノートを再読してください。				
教科書	指定しない。事前に資料を配布する。				
参考文献	藪内正樹『ビジネスのための中国経済論』2014年2月、ジェトロ				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	互いの自己紹介 (中国に対するイメージ、関心事等)、中国ビジネスとは、講義の進め方			
第2回	日中経済関係	古代・近代の日中関係、戦後の貿易関係、改革開放後の対中投資、今や切っても切れない緊密な経済関係			
第3回	中国経済の発展過程	計画経済、改革開放、WTO加盟、高度経済成長			
第4回	対外開放政策と投資インセンティブ	外資優遇政策、インフラ整備、安くて優秀な労働力、世界の工場、世界の市場、転換期に入ったビジネス環境			
第5回	中国の産業①	農業、鉱業、エネルギー、鉄鋼			
第6回	中国の産業②	造船、自動車、機械、家電、繊維			
第7回	中国の科学技術	一部の領域では世界のトップクラス (宇宙、深海調査、スーパーコンピューター、等々)、しかし産業社会の研究開発意欲は高くない			
第8回	大きくて多様な中国市場	地域による多様性、所得格差、世代間格差			
第9回	中国経済の問題点	水不足、環境汚染、高齢化、成長率の減速			
第10回	中国政治の問題点	政治体制、腐敗、社会の不満、言論・報道			
第11回	中国ビジネスのリスク管理①	法制度、労務管理、知財権保護、債権回収			
第12回	中国ビジネスのリスク管理②	カントリーリスク (政治・社会、反日感情、自然災害、感染症)			
第13回	日本企業・日本人の課題	製品・サービスの現地化、人材の現地化、権限委譲と管理・評価、コミュニケーション能力、中国を正しく理解する			
第14回	中国人の国民性	面子 (メンツ)、個人主義、人脈社会、実利主義 (プラグマティズム)			
第15回	まとめ・ディスカッション	いかに中国を理解し、いかに中国と向き合うか			

国際

授業番号	B101530001				
科目名 (英語表記)	中国の政治 (Chinese Politics)				
担当者 (英語表記)	家近 亮子 (Ryoko Iechika)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>中国は 1978 年 12 月以来改革開放政策を実施し、経済成長を続け、2010 年には国別 GDP が日本を抜いて世界第 2 位になりました。これは、経済において資本主義を導入した結果であります。政治的にはあくまでも社会主義体制を堅持し、共産党の一党支配を続けています。</p> <p>本授業においては、中華人民共和国の歴史をまず概説した上で改革開放政策がもたらした経済的、社会的、対外的変容を解明し、格差の拡大する中国の抱える諸問題を歴史的視点から分析していきます。到達目標は、建国以来の中国の歴史を知り、その上で現状を理解することにあります。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>履修条件は特にありません。</p> <p>教科書・配布プリントを中心に、適宜映像資料を使いながら授業を進めていきます。</p>				
成績評価方法 基準	小テスト 40%、期末試験 60%				
授業の予習・復習	<p>予習：教科書を読んでくること。新聞・ニュース等で中国の動向に関心をもつこと</p> <p>復習：教科書による復習。授業で配布した資料とノートの整理。疑問点の提出</p>				
教科書	家近亮子・唐亮・松田康博編著『改訂版 5 分野から読み解く現代中国 一歴史・政治・経済・社会・外交一』（晃洋書房、2009 年）				
参考文献	授業では、詳細なプリントを配布します。授業項目に応じて、適宜紹介していきます。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の内容と進め方、評価の方法の説明 中国に関する基礎知識			
第 2 回	中華人民共和国史—①	建国期の政治・経済・社会・外交			
第 3 回	中華人民共和国史—②	社会主義建設期の政治・経済・社会・外交			
第 4 回	中華人民共和国史—③	経済調整期の政治・経済・社会・外交			
第 5 回	中華人民共和国史—④	文化大革命期の政治・経済・社会・外交			
第 6 回	中華人民共和国史—⑤	改革開放政策の特徴について			
第 7 回	中国の現状	経済発展と格差の拡大			
第 8 回	中国の政治体制—①	中国の国家制度の特徴・・・人代制度と不完全な三権分立			
第 9 回	中国の政治体制—②	中国共産党の一党支配の構造			
第 10 回	中国の政治体制—③	民族政策と民族問題			
第 11 回	中国の社会問題—①	人口問題—「一人っ子政策」の特徴と問題点			
第 12 回	中国の社会問題—②	教育制度の変遷と現状			
第 13 回	中国の社会問題—③	格差の要因としての戸籍制度			
第 14 回	中国の社会問題—④	環境問題			
第 15 回	中国の外交政策	国連中心主義と大国外交への転換			



国際					
授業番号	B101560001				
科目名 (英語表記)	中東イスラム圏 (Area Studies: Middle East/ Islamic Countries)				
担当者 (英語表記)	水口 章 (Akira Mizuguchi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本授業では、中東・イスラム諸国の社会空間の特性を学びます。そのことで、同地域を取り巻く国際環境の今後の動向を分析できる基礎能力を養うことを到達目標とします。				
授業の進め方 (履修条件など)	各回授業は基本的には講義形式をとります。また、授業を2区分し、各区分の終了時に理解度を確認するためのグループ討論を行います。				
成績評価方法	学習態度 (課題レポート、討論参加) 20%、試験 80%で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。 復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べ、理解を深めてください。				
教科書	水口章『中東を理解する』日本評論社、2010年3月				
参考文献	山崎孝史『政治・空間・場所―「政治の地理学」にむけて』ナカニシヤ出版、2011年1月				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	社会空間の考え方	人間生活と空間について			
第2回	人間行動と空間の特性	人と基層文化の関係について			
第3回	イスラムの基礎知識1	イスラムの教義について			
第4回	イスラムの基礎知識2	ムスリムの日常生活について			
第5回	法と統治	イスラム法について			
第6回	国家を超える連帯意識	アラブ主義、イスラム主義について			
第7回	イスラム過激思想	ジハード論について			
第8回	グループ討論「社会空間の特性とは」	「高度情報通信社会がもたらす変化」を考える			
第9回	東南アジア地域のイスラム	インドネシア、マレーシアなど			
第10回	アラビア半島地域のイスラム	カタール、サウジアラビアなど			
第11回	東地中海地域のイスラム	シリア、ヨルダンなど			
第12回	北アフリカ地域のイスラム	チュニジア、リビアなど			
第13回	中央アジア地域のイスラム	カザフスタン、キルギスタンなど			
第14回	グループ討論「経済発展と中東・イスラム諸国」	「イスラム諸国の特性」を考える			
第15回	まとめ	21世紀の中東・イスラム社会の課題について			

国際					
授業番号	B101540001				
科目名 (英語表記)	朝鮮 (Area Studies: Korea)				
担当者 (英語表記)	森 万佑子 (Mayuko Mori)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>&lt;授業のねらい&gt;</p> <p>韓国・北朝鮮は、歴史的な関係だけでなく、現在の政治、経済、社会、文化にいたるまで、あらゆる側面において、日本と密接な関係を持っています。そんな隣人である韓国・北朝鮮のことについてあなたはどんなことを知っているでしょうか。韓国ドラマ、韓流スター、化粧品、拉致問題、ミサイル問題・・・</p> <p>今日のマスコミは韓国・北朝鮮の情報で溢れています。そもそも韓国・北朝鮮ってどんな国なのでしょう。この授業では、朝鮮半島が分断される1945年から今日までの、韓国・北朝鮮の政治・経済・社会・文化を幅広く学びます。本授業は特に、現代の韓国・北朝鮮に焦点をあてるので、歴史的な背景や知識の習得については科目「日韓関係」を受講してください。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>本講義ではほぼ毎回の講義で講義内容に関連した映画やドキュメンタリー教材を使用することで、現代韓国・北朝鮮に関する知識や理解が定着することを目指します。</p> <p>また、講師が一方向的に講義するのではなく、講師と学生が共に考えるプロセスを大切にしたいと考えます。そのためにも、履修者が主体的に現代韓国・北朝鮮について関心を持ち、考える機会がもてるように、講義で扱うトピックの中から一つを選んで個人もしくはグループ (3名程度) で発表をしてもらいます。</p> <p>中間発表では、どのようなテーマを取り上げる予定であるか5分程度で発表してもらい、それについてどのような調査をすればよいかみんなで考えます。期末発表では、1人 (または1グループ) 当たり15分程度で発表してもらい、各発表についてみんなで討論します。</p>				
成績評価方法・基準	出席 (7割以上が必須) と、講義後に提出するコメントペーパー、中間・期末発表、そしてレポートから総合的に判断します。				
授業の予習・復習	<p>&lt;予習・復習&gt;</p> <p>新聞やニュースで報道される韓国・北朝鮮の動向に関心を持つこと。</p> <p>授業で紹介した事柄を整理し、疑問点を提出すること。</p> <p>授業で紹介した書籍を読み、理解を深めること。</p> <p>授業で扱うテーマから一つを選び、各自の関心に沿って発表の準備を進めること。</p>				
教科書	教科書は特に定めません。授業時にレジユメを配布します。				
参考文献	<p>木宮正史『国際政治のなかの韓国現代史』山川出版社、2012年。</p> <p>石坂浩一、館野哲 (編著)『現代韓国を知るための55章』明石書店、2000年。</p> <p>石坂浩一『北朝鮮を知るための51章』2006年。</p> <p>上記以外は、授業の際に随時お知らせします。</p>				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方の説明。現在の韓国の様子の紹介。			
第2回	「韓国」を考える	歴史・世界の中の韓国。日韓相互認識。¥			
第3回	韓国政治 (1)	朴槿恵大統領ってどんな人？			
第4回	韓国政治 (2)	建国から権威主義体制、そして民主化へ。			
第5回	韓国経済 (1)	「漢江の奇跡」とは？			
第6回	韓国経済 (2)	韓国経済の今：韓流・メディア・化粧品産業。			
第7回	中間発表	テーマ・概要・調査方法を発表。			
第8回	韓国社会 (1)	選挙と地域感情、光州民主化運動。			
第9回	韓国社会 (2)	徴兵制度。養子問題。			
第10回	韓国文化 (1)	「学縁・地縁・血縁」のうち「学縁」。学歴社会。			
第11回	韓国文化 (2)	「学縁・地縁・血縁」のうち「地縁・血縁」。名節。祭祀。族譜。			
第12回	北朝鮮 (1)	金日成。金正日。主体思想。計画経済。学生の日常生活。			
第13回	北朝鮮 (2)	北朝鮮の一般の人々の生活に関するドキュメンタリー映画の鑑賞。			
第14回	期末発表	1人 (または1グループ) 15分程度で発表。			
第15回	まとめ	授業全体のまとめ。			

国際

授業番号	B101550001				
科目名 (英語表記)	東南アジアの地誌 (Southeast Asia topography)				
担当者 (英語表記)	田中 和彦 (Kazuhiko Tanaka)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は、東南アジアの地誌を、まず広い視野で把握するため、東南アジア全体の地形、気候、植物相と動物相、鉱山資源を概観する。その上で、筆者がフィリピンで行っているフィールドワークをふまえ、フィリピンの民族と食文化についての講義を行う。また、講義の中では、私自身が現地で実際に撮影した写真や現地で入手した現物を提示しながら、授業を行う。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式ですすめる。				
成績評価方法	リアクションペーパー 20%、学期末に課題本を読んだレポート 80%で評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：当該する地域を見ておくこと。 復習：ノートをまとめ、見直しておくこと。				
教科書	特に指定しない。				
参考文献	授業の中で、その都度指示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	本講義に関する参考文献の紹介。			
第 2 回	東南アジアの地形	大陸部と群島部の地形。			
第 3 回	東南アジアの気候帯	モンスーンの影響と雨季、乾季。			
第 4 回	東南アジアの植物相	熱帯雨林。			
第 5 回	東南アジアの動物相	大形獣と小形動物。			
第 6 回	東南アジアの鉱物資源	鉄、金、銀の産地と採掘技術。			
第 7 回	フィリピンの地形と気候	山地と気候帯。			
第 8 回	フィリピンの民族 - 1	狩猟採集民①。			
第 9 回	フィリピンの民族 - 2	狩猟採集民②。			
第 10 回	フィリピンの民族 - 3	漁撈民①。			
第 11 回	フィリピンの民族 - 4	漁撈民②。			
第 12 回	フィリピンの食物	稲作と米。			
第 13 回	フィリピンの食物調理 - 1	フィリピンの土器作り①。			
第 14 回	フィリピンの食物調理 - 2	フィリピンの土器作り②。			
第 15 回	フィリピンの食物調理 - 3	フィリピンの土器作り③。			

国際					
授業番号	B104250001				
科目名 (英語表記)	読書入門 (Introduction to reading)				
担当者 (英語表記)	山口 政之 (Masayuki Yamaguchi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では小学校の学級担任が日常的に行っている読書活動を一通り紹介します。教壇に立つ前に読んでおいた方がよい文献を厳選しましたので、教師として生きることとは学び続けることなのだとすることを具体的に理解し、学生のうちに読書習慣を身に付けてほしいと思います。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎時間講義の終わりに次の授業で使う資料を配布します。課題も出す場合がありますので、家で読み込んでください。次の授業の始めに発表してもらおうこともあります。電子辞書は必要ですが、原則として携帯スマホの使用は認めません。				
成績評価方法	出席の状況、課題への取り組み、発言、定期試験等をふまえて総合的に評価します。自己責任による遅刻は減点し、欠席3回は履修放棄、もしくは特別課題の措置をとります。				
基準					
授業の予習・復習	予習：事前に配布された資料を読み、内容を理解しておいて下さい。 復習：学習したジャンルの文献を図書館や書店などで手にとって読んでみましょう。				
教科書	特になし。毎回、印刷物を配布するので、必ずファイルしておくこと。				
参考文献	アドラー『本を読む本』講談社学術文庫				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	教師にとって、子供にとって、読書とは何か			
第2回	新聞	自身の要約力を鍛え、話題が豊富な担任となる			
第3回	教育雑誌、学会誌	専門的に研修を深める			
第4回	教育学の古典	ヘルバルトのタクト論			
第5回	教育実践者の個人全集	芦田恵之助の「自己を読む」			
第6回	ビジネス書	社会人として自己啓発のきっかけをつかむ			
第7回	日本の絵本、外国の絵本	読書指導のための読み聞かせが出来るようにする			
第8回	児童文学	児童理解に役立つ作品を講読する			
第9回	古典文学	伊曾保物語とイソップ、Aesopを読み比べる			
第10回	学習指導要領と教科書	両者を比べて読み、関連を理解する			
第11回	教科書と指導書	両者を比べて読み、関連を理解する			
第12回	分野別の教育書	学級経営に役立つための読み方を理解する			
第13回	教科の専門書	教材研究をより深く行うための読み方を理解する			
第14回	かるた	様々なかるたを実際に試し、馴染む			
第15回	ブックトーク	1冊の本を紹介しつつ、自己を語る			

国際

授業番号	B101770001				
科目名 (英語表記)	途上国社会経済論 (Societies and Economies of Developing Countries)				
担当者 (英語表記)	高田 洋子 (Yoko Takada)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	世界の大半を占める発展途上国の経済・社会・政治を学びます。途上国の多くは、欧米列強に植民地支配を被った歴史を共有しています。その影響と独立後の諸課題、その後の多様な発展現象への理解を深めましょう。途上国と先進国の互いの関係性も大切な学習のポイントです。両者のよりよい関係性の構築を、考察する力を涵養します。				
授業の進め方 (履修条件など)	シラバスにそって進めます。2年次までにアジア、アフリカ、ラテンアメリカなどの地域に関する授業を履修しておくようにしましょう。基本的な概念や社会理論を分かりやすく講義します。国際社会に発生する諸紛争、新しい動きも適宜取りあげ、現代の途上国が抱える課題を解説します。学生によるグループ学習・発表なども取り入れるつもりです。				
成績評価方法	出席を重視します。授業中の討論、理解度を確かめる小テストを多く実施します。そのほか宿題の提出内容などもみて、平常点を中心に成績をつけます。				
授業の予習・復習	新聞の国際面を読む習慣をつけましょう。授業で学んだことを基にして、興味を抱いた問題について情報を自分で集め、日頃から考えることが大切です。				
教科書	指定しません。授業中にレジュメと資料・統計等のプリントを配付します。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	はじめに：途上国はどのような国か？	マクロ指標を基に途上国をみる。定義をしてみよう。			
第2回	世界地図から先進国と途上国を捉える	先進国と途上国の関係を、植民地支配、地理的位置、国境線、アジア・アフリカ・ラテンアメリカの3大陸の比較等を通して、概観する。			
第3回	独立年を比較する	途上国を独立国家としての誕生から現在までの長さで分類し、比較してみよう。資料をみて、各自で作業し、まとめ、発表する。			
第4回	国民国家としての独立の初期条件 (1)	植民地の社会構造：ファーニヴァルの「複合社会論」から、多民族社会の形成と特徴について学ぶ。			
第5回	独立国家の初期条件 (2)	植民地の経済構造：モノカルチャ経済論、ブーケの「二重経済論」から従属的経済の形成を学ぶ。			
第6回	国家形成の課題 (1)	植民地ナショナリズムの発生、発展と独立の達成、その後の国家統一のための独裁体制について学ぶ。			
第7回	国家形成の課題 (2)	国民づくりのための言語、教育等の近代化諸政策について学ぶ。			
第8回	経済的自立の課題 (1)	独立後の途上国が直面した「人口爆発」について学ぶ。			
第9回	経済的自立の課題 (2)	食糧自給と「緑の革命」について学ぶ。			
第10回	経済的自立の課題 (3)	工業化のための戦略と達成について学ぶ。			
第11回	途上国と先進国の関係 (1)	経済発展と外資導入の関係を学ぶ。外資導入のメリットおよびデメリット (累積債務等) について、さらに詳しく公的投資、企業進出の諸事例をとりあげながら、途上国と先進国の相互依存関係を考える。			
第12回	途上国と先進国の関係 (2)	グローバル化する現代世界において、途上国と先進国が対立する基本的問題とは何かを考える。			
第13回	都市と農村	途上国の農村から都市への労働移動、都市化の現象について、先進国との比較を通して学ぶ。			
第14回	途上国間の分化および地域協力	発展する途上国、低迷する途上国、そのような分化が生じる諸要因について考察する。また途上国間の地域協力の事例を学ぶ。			
第15回	まとめとテスト、その解説	授業全体を通して振り返り、途上国への関心の高まりを確認する。世界における途上国の存在状況とその貢献について、知見を文章にまとめて表現する。			

国際

授業番号	B102060001				
科目名 (英語表記)	日米関係 (Japan-US Relations)				
担当者 (英語表記)	村川 庸子 (Yoko Murakawa)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	戦後の日本と日米関係の有り様に決定的な影響を与えたと言われる占領期。近年、日米両国において新たな資料が公開されていることから、この時期に関する研究が相次いで発表されている。これら最新の研究業績を踏まえてこの時代を、そして我々の時代に対する影響を考えてみたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義を中心とするが、できるだけ学生の皆さんの議論を引き出せるようにしたい。積極的に参加してくれることを希望している。				
成績評価方法	コーネル式ノート作成法を活用する。				
基準					
授業の予習・復習	事前に配布する新聞雑誌記事を読み、概要をまとめること。 授業後はノートの特に「コメント」欄の作成に注力すること。				
教科書	特に指定しない。				
参考文献	ジョン・ダワー『容赦なき戦争—太平洋戦争における人種差別』(平凡社ライブラリー)、『敗北を抱きしめて』(岩波書店)、他				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	導入	「日米関係」をどう考える？ 講義の進め方			
第2回	原爆をめぐる論争① 真珠湾	スミソニアン原爆展示をめぐる論争より			
第3回	原爆をめぐる論争② 第五福竜丸と Fukushima	原爆、第五福竜丸、Fukushima			
第4回	戦争と日米相互のイメージ	敗戦を超えて			
第5回	戦争と日系人	日系人の強制収容			
第6回	マッカーサーと日本人	マッカーサーの見た日本			
第7回	「ベアテの贈物」-日本国憲法	日本国憲法は押し付けられたのか？			
第8回	冷戦と逆コース、55年体制の成立	冷戦後の日米関係			
第9回	マッカーシズムの時代	冷戦、反共主義			
第10回	日本の教育改革	「アメリカ的」教育制度			
第11回	天皇制をめぐる論議	終戦の詔勅から人間宣言、戦後の昭和天皇			
第12回	日米安全保障体制	在日米軍基地をどう捉えるか			
第13回	沖縄をどう考えるか	うちなんちゅとやまとんちゅ			
第14回	戦争の記憶	戦争の記憶の語られ方			
第15回	まとめ	総括			

国際		
授業番号	B102100001	
科目名 (英語表記)	日韓関係 (Japan-Korea Relation)	
担当者 (英語表記)	森 万佑子 (Mayuko Mori)	
対象学年	3	
単位数	2	
授業のねらいと到達目標	<p>&lt;授業のねらい&gt;</p> <p>昨今、新聞やニュースで、日本と韓国のあいだで歴史認識問題がしばしば政治や外交問題にまで発展するのを見たり聞いたりした人は少なくないはずです。では、具体的に、日本と韓国の歴史のどの部分に関して、どのように認識が異なるのでしょうか。</p> <p>本講義は、朝鮮半島の人びとが経験した近現代の歴史を、日本との関係を踏まえながらたどっていきこうとするものです。その際、一つのテーマについて主に日本でなされる解釈と主に韓国でなされる解釈の両方を、あるいは一つのテーマに関して異なる二つの解釈などを講義で説明します。講義を通して、みなさん個人個人がそれぞれのテーマについて自分はどういうように解釈するか、考えるきっかけになることをねらいとします。</p>	
授業の進め方 (履修条件など)	<p>&lt;授業の進め方&gt;</p> <p>①毎回の講義のはじめに、その日に扱うテーマに関して1～3問の「問い」を提示します</p> <p>②その「問い」にどのように答えるかを考えながら講義をきいてください</p> <p>③講義の最後に「問い」に対する「あなたの考え」をコメントペーパーに書いて提出してください</p> <p>④次回の講義のはじめに、みなさんの考えをシェアし、討論する時間を作ります</p>	
成績評価方法	・出席 (7割以上) : 30% ・毎回提出してもらう「あなたの意見」(コメントペーパー) : 40%	
基準	・期末レポート : 30%	
授業の予習・復習	<p>&lt;授業の予習・復習&gt;</p> <p>毎回の講義で配布するレジユメをよく読み直し、提示される参考文献を読んで理解を深めてください。</p> <p>次回の講義のはじめに、前回の講義内容の復習を兼ねて討論する時間を設けるので、自分の考えを深めてきてください。</p>	
教科書	特に定めません。毎回の講義でレジユメを配布します。	
参考文献	<p>各テーマに関する参考文献は、毎回の講義で提示します。</p> <p>なお、この授業は、毎回、一つのテーマを取り上げ、それについて解説する方法をとります。そのため、各テーマの背景にある歴史の細かな流れ (通史) については各自、下記の参考書を参照してください。</p> <p>・武田幸男編『朝鮮史』山川出版社、2000年。</p> <p>・世界の教科書シリーズ④『新版・韓国の歴史』明石書店、2000年。</p>	
回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方についての説明
第2回	19世紀東アジア世界と朝鮮 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本はなぜ朝鮮を植民地化しようとしたのだろうか？</li> <li>日本は1876年の日朝修好条規締結から朝鮮を植民地化しようとしたのだろうか？</li> <li>福沢諭吉はどんな気持ちで「脱亜論」を書いたのだろうか？</li> </ul>
第3回	19世紀東アジア世界と朝鮮 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝鮮の近代化を担当できる勢力はどのグループだったのだろうか？</li> <li>甲申政変を起こした金玉均ら開化派？ ・国王やその側近たち？</li> <li>その他 (民衆など)？</li> </ul>
第4回	韓国併合	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の韓国併合は法的に行われたのだろうか？</li> <li>日本の韓国併合は非法的に行われたのだろうか？</li> <li>今日、日韓併合の合法性・非合法性を問うことはどんな意味をもつのだろうか？</li> </ul>
第5回	植民地支配 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本による植民地化は朝鮮の近代化の機会を奪ったのだろうか？</li> <li>日本による植民地化は朝鮮の近代化に貢献したのだろうか？</li> </ul>
第6回	植民地支配 (2)	植民地期の「京城」(現在のソウル) にタイムスリップしてみよう
第7回	植民地支配 (3)	あなたが植民地期朝鮮を生きる朝鮮人だったら創氏改名をするだろうか？
第8回	日本の敗戦・朝鮮の解放 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本にはなぜ多くの「在日朝鮮人」が生活しているのだろうか？</li> <li>あなたが「在日朝鮮人」だったら、1945年の日本の敗戦と共に、朝鮮半島に戻ったのだろうか？</li> </ul>
第9回	日本の敗戦・朝鮮の解放 (2)	<p>ドキュメンタリー映画鑑賞</p> <p>日本へ渡った時は分断されていなかった祖国・朝鮮が、解放後には韓国と北朝鮮に分断されてしまい、そのどちらかの国籍を、もしくは日本に帰化する道を、選ぶことになる「在日」の人たちについて考えてみよう</p>
第10回	解放後の政治空間	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝鮮半島では、「独立」という重要な目標を前にして、なぜ左派と右派が分裂したのだろうか？</li> <li>「親日派」「親米派」について考えてみると、強大国に依存して発展する道は間違っているのだろうか？ (「愛国」って何だろう?)</li> </ul>
第11回	南北分断	日本の敗戦によって、国家が分断されたのが日本ではなく、なぜ朝鮮だったのだろうか？
第12回	朝鮮戦争	朝鮮戦争はなぜ起こったのだろうか？
第13回	日韓国交正常化交渉	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ日本は日韓国交正常化に消極的だったのだろうか？</li> <li>なぜアメリカは日韓国交正常化を重要な目標として掲げたのだろうか？</li> </ul>
第14回	日韓国交正常化交渉	<p>日朝関係の今後について考えてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国交は正常化すべきだろうか？</li> <li>国交を正常化する必要はないだろうか？</li> </ul>
第15回	まとめ	これまでの講義のまとめを行います



国際					
授業番号	B102070001				
科目名 (英語表記)	日中関係 (Japan-China Relations)				
担当者 (英語表記)	家近 亮子 (Ryoko Iechika)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>日本と中国は、近代以前共に鎖国（中国は海禁）政策を実行して、国を閉ざしていました。「西洋の衝撃」によって、開国を余儀なくされた両国は、近代化の道を歩み出しますが、その方向性と方法論は必ずしも同じではありませんでした。日本は、積極的に西洋を模倣して近代化に励み、対外拡張主義に邁進しました。その結果、1937年7月日中戦争がおきます。日中戦争は1941年12月の日米開戦によって太平洋戦争、第二次世界大戦の一部に組み込まれます。そのため、その戦後処理はアメリカが主導し、その意向が強く反映されました。また、中国に戦後内戦が起き、中華民国（台湾）と中華人民共和国に分断されたことも戦後処理を複雑にしました。</p> <p>本講義においては、現在日中間で問題となっている歴史認識問題、靖国神社参拝問題、尖閣諸島をめぐる領土問題などを歴史の文脈から分析するために必要な歴史事象を多角的に概説します。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件は特にありません。教科書と配付資料を中心に、適宜映像資料を使いながら授業を進めていきます。				
成績評価方法 基準	小テスト40%、学期末試験60%で評価していきます。				
授業の予習・復習	予習：教科書と配布資料を事前に読んでくること。日中関係のニュースに関心をもつこと。 復習：配付資料とノートの整理。教科書による確認。疑問点をまとめて次の授業の時に提出すること。				
教科書	家近亮子『日中関係の基本構造』、晃洋書房、2004年				
参考文献	家近亮子・松田康博・段瑞聡編著『岐路に立つ日中関係』(晃洋書房、2012年)、その他、テーマ毎に適宜紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の概説と進め方の説明、日中関係の現状			
第2回	近代における日中関係―①	日清戦争、対華二十一カ条の要求、五四運動、中国共産党の誕生			
第3回	近代における日中関係―②	満州事変とその後の日中関係、?介石の「日本は、敵か?友か?」			
第4回	近代における日中関係―③	日中戦争―①			
第5回	近代における日中関係―④	日中戦争―②			
第6回	戦後の日中関係―①	戦後処理の決定過程、GHQによる日本の占領統治			
第7回	戦後の日中関係―②	東京裁判と靖国神社参拝問題			
第8回	戦後の日中関係―③	サンフランシスコ平和条約と日華平和条約、台湾問題			
第9回	日中国交正常化―①	民間貿易と民間文化交流			
第10回	日中国交正常化―②	周恩来外交と米中接近			
第11回	日中国交正常化―③	田中角栄訪中と日中共同宣言			
第12回	日中関係の諸問題―①	歴史認識問題			
第13回	日中関係の諸問題―②	尖閣諸島問題、ガス田開発問題			
第14回	日中関係の諸問題―③	安全保障問題			
第15回	今後の日中関係	戦略的互恵関係の展望			



国際

授業番号	B101110001				
科目名 (英語表記)	日中翻訳 (Japanese-Chinese translation)				
担当者 (英語表記)	家近 亮子 (Ryoko Iechika)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	日本人にとっては、中国語能力を、留学生にとっては日本語の文章力を高めることを目標とします。到達目標は、中級程度の中国語の文章をなめらかで分かりやすい文章に訳すことができるようになることです。				
授業の進め方 (履修条件など)	日本人学生と中国以外からの留学生は、1年の時に中国語を履修していることが条件となります。				
成績評価方法	授業への積極的な参加と取り組み。課題の提出状況によって評価します。				
基準					
授業の予習・復習	配付文章の予習、課題の完成と提出。				
教科書	特に定めません。『人民日報』などの記事や時事中国語の教科書から文章を選んで毎回配付します。				
参考文献	『漢日翻訳教程』(商務印書館、2008年)など。必要に応じて紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方、授業評価の方法についての説明。 「翻訳とは何か？」について			
第2回	翻訳の定義・基準と過程について	翻訳の国際的定義とその方法 (準備・執筆・推敲) について			
第3回	中国語と日本語の比較	日中の「形同義同」「形異義同」「形同義異」文字について			
第4回	中国語の「多義詞」について	「多義詞」の使い分けの事例について。翻訳の実践。			
第5回	簡単な文章の翻訳	逐語訳と意識、抄訳の実践			
第6回	時事中国語の文章①の翻訳	逐語訳の実践			
第7回	時事中国語の文章①の推敲	翻訳原稿の発表と討論。推敲と完成。			
第8回	時事中国語の文章②の翻訳	逐語訳の実践			
第9回	時事中国語の文章②の推敲	翻訳原稿の発表と討論。推敲と完成。			
第10回	『人民日報』記事の翻訳—①	逐語訳の実践。			
第11回	『人民日報』記事の翻訳—②	翻訳原稿の発表と討論。推敲と完成			
第12回	『人民日報』記事の翻訳—③	完成原稿の意識、抄訳の実践			
第13回	中国の小説の翻訳—①	逐語訳の実践			
第14回	中国の小説の翻訳—②	翻訳原稿の発表と討論。推敲と完成			
第15回	中国の小説の翻訳—③	完成原稿の意識、抄訳の実践			

国際					
授業番号	B102130001				
科目名 (英語表記)	日本・アフリカ関係 (Japan-Africa Relations)				
担当者 (英語表記)	大月 隆成 (Takashige Otsuki)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本から見た場合、アフリカは重要な相手とは見なされておらず、偏った情報に基づく歪んだイメージが形成されてしまうことが少なくない。授業の主眼はこうした日本とアフリカの関係の特殊性とその結果について理解を深めてもらうことである。また、最近アフリカとの関係を深めている中国についても取り上げることしたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業では、様々な角度から日本・アフリカ関係を光を当ててみることにする。その上で、受講者諸君の自由な発想に基づくレポートの作成をお願いしたい。				
成績評価方法	学期末のレポートに基づいて行う。期末試験は実施しない。				
基準					
授業の予習・復習	予習：日頃からアフリカに関心を持ち、積極的に情報収集を心がける。 復習：授業で出された課題や関連するテーマについて、調べてみる。				
教科書	特定の教科書は使用しない。				
参考文献	伊谷純一郎ほか『アフリカを知る事典』平凡社 大迫秀樹『アフリカのことがマンガで3時間でわかる本』アスカ				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業の進め方およびレポート作成について			
第2回	アフリカ入門講座 (1)	アフリカの共通性と多様性			
第3回	アフリカ入門講座 (2)	北アフリカとサハラ以南アフリカ			
第4回	アフリカ入門講座 (3)	共通性の起源～共通の歴史的経験			
第5回	日本・アフリカ関係の特徴 (1)	日本から見たアフリカの重要性			
第6回	日本・アフリカ関係の特徴 (2)	関係の非対称性～経済規模の比較～			
第7回	レポート作成の進め方	テーマ設定のヒント、資料収集の方法			
第8回	日本とアフリカのつながり (1)	日本に住むアフリカ人、アフリカに住む日本人			
第9回	日本とアフリカのつながり (2)	貿易や援助などの経済関係			
第10回	日本とアフリカのつながり (3)	日本人のアフリカ・イメージ			
第11回	日本とアフリカのつながり (4)	教科書や文学作品などに見るアフリカ			
第12回	日本とアフリカのつながり (5)	日常生活におけるアフリカとの接点			
第13回	中国とアフリカ (1)	アフリカにあふれる中国製品			
第14回	中国とアフリカ (2)	アフリカの天然資源と中国			
第15回	中国とアフリカ (3)	政治と国際関係			

国際					
授業番号	B102110001				
科目名(英語表記)	日本・東南アジア関係 (Japan-Southeast Relations)				
担当者(英語表記)	高田 洋子 (Yoko Takada)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	東南アジアは日本と密接な歴史的・経済的関係をもつ近隣地域です。ベトナム・日本関係を中心に、前近代から現代までのさまざまな交流史について、基本的な事項と流れを把握しましょう。比較史の方法および民衆史の視点を学びます。その大切さ、意義をしっかりと理解しましょう。				
授業の進め方(履修条件など)	地域研究の「東南アジア I」または「東南アジア II」を履修した人を前提に、シラバスに沿ったトピックを講義します。				
成績評価方法	真剣な受講態度、授業への積極的取り組みと、期末のレポートによって評価をつけます。				
基準					
授業の予習・復習	予習：日頃から東南アジアと日本の関係についての情報を収集しましょう。 復習：毎回、授業内レスポンスペーパーを提出します。				
教科書	指定しません。				
参考文献	テーマ別レポート提出のための参考文献(数冊ずつ)リストを授業中に配布します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	序論：比較史および民衆史の手法を学ぶ意義	ベトナムはどんな国か 日越の比較のおもしろさ			
第 2 回	前近代の関係史	17世紀の経済交流：ベトナムの日本人町ホイアン			
第 3 回	近代の幕開け	明治日本のベトナム認識：エリートと大衆			
第 4 回	ふたつの近代国家	近代日本の国づくりと仏領インドシナ植民地体制の比較			
第 5 回	東アジアの連帯を求めて	ベトナム東遊(日本留学)運動：ファンボイチャウと浅羽村の人びと			
第 6 回	戦前日本の東南アジア経済進出	フランス植民地の保護主義と日本の貿易摩擦			
第 7 回	「大東亜共栄圏」の時代	日本軍の「仏印進駐」と「200万人餓死説」			
第 8 回	もう一つの太平洋戦争(1)	残留日本兵とベトナム独立同盟			
第 9 回	もう一つの太平洋戦争(2)	残留日本兵のこどもたち			
第 10 回	冷戦の時代	ベトナム戦争と日本			
第 11 回	インドシナの地域紛争	日本外交とインドシナ 失われた1980年代			
第 12 回	したたかな友人	ASEANの発展戦略と日本			
第 13 回	グローバル時代の社会主義国家	ベトナム、その「眠れる市場」を求めて(日本の企業進出ブーム)			
第 14 回	インドシナの地政学と日本	日本・ベトナム・中国、東南アジアの国際関係と大メコン経済圏			
第 15 回	授業の総括と質疑応答	21世紀の東南アジア・日本関係への展望			

国際					
授業番号	B103720001				
科目名 (英語表記)	日本語学 I (Japanese Linguistics I)				
担当者 (英語表記)	長谷川 頼子 (Yoriko Hasegawa)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本語教育では、日本の国語文法では通用しません。日本語を一つの外国語として扱い、理解する必要があります。そこで、教科書に出てくる多くの例文を分析的に見る作業を通じて、背後に見られる文法に対する基本的な考え方を学びます。実際に初級日本語教材を使って、実践的に文法を見る目を養います。				
授業の進め方 (履修条件など)	外国人に日本語を教えてみたい人、コミュニケーションに関心のある学生の受講を歓迎します。第1週の授業を欠席しないこと、全員の発言ですすめる講義形式に協力できることが履修条件です。				
成績評価方法	授業態度・提出物 30%と、期末試験 70%で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：教科書の指定範囲を事前に予習すること。 復習：規則としての文法、使い分けの仕組みという点から整理しておくこと。				
教科書	長谷川頼子 (2009)『にほんご日記ノート』アルク				
参考文献	佐々木泰子 (編) (2007)「ベーシック日本語教育」ひつじ書房 庵功雄 (2001)「新しい日本語学入門-ことばのしくみを考える」スリーエーネットワーク				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	講義ガイダンス	イントロダクション：日本語学とは何か			
第2回	品詞①	日本語の品詞とはどういうものか			
第3回	品詞②	品詞の観点から非文を分析してみよう			
第4回	主な文型①	文とは何か、単文・複文について			
第5回	主な文型②	構造文型・表現文型について			
第6回	格①	格とは何か・必須の格・任意の格			
第7回	格②	必須格のさまざまなパターン			
第8回	格③	さまざまな格の使い分けについて分析する			
第9回	活用①	学校文法の活用について復習			
第10回	活用②	子音語幹動詞・母音語幹動詞・不規則動詞			
第11回	活用③	日本語教育から見た動詞の活用			
第12回	ヴォイス①	受動文のタイプ、動作主を表すマーカーについて			
第13回	ヴォイス②	受動文のさまざまな機能について			
第14回	ヴォイス③	使役文について			
第15回	総まとめ	「日本語教育の影響を受けた日本語文法」を読む			

国際					
授業番号	B103730001				
科目名 (英語表記)	日本語学 II (Japanese Linguistics II)				
担当者 (英語表記)	長谷川 頼子 (Yoriko Hasegawa)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本語学 I に引き続き、外国人に日本語を教えるために必要な日本語の知識を、初級文法を中心に取り上げ解説します。日本語教科書に書かれていることを、教師の立場で理解できるようになることが目標です。初級日本語教材も参考にしながら、理解できたという実感を持ち、文法に対する自信をつけます。				
授業の進め方 (履修条件など)	外国人に日本語を教えてみたい人、コミュニケーションに関心のある学生の受講を歓迎します。日本語学 I を履修していることが望ましいです。				
成績評価方法	授業 (態度・提出物) 30%、期末試験 70% で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習: プリント等の指定範囲を事前に学習すること。 復習: 規則としての文法、使い分けの仕組みという観点から整理しておくこと。				
教科書	授業時に、テーマ毎のプリントを配布します。				
参考文献	佐々木泰子 (2007) 「ベーシック日本語教育」 ひつじ書房 庵功雄 (2001) 「新しい日本語学入門-ことばのしくみを考える」 スリーエーネットワーク				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義ガイダンス、イントロダクション	日本語学 I の総括、日本語学 II の概要・進め方・評価について説明			
第 2 回	テンス①	「テンス」とは何か、ル形とタ形			
第 3 回	テンス②	複文におけるテンス			
第 4 回	テンス③	テンスの特別な用法をめぐって			
第 5 回	テンス④	文章におけるテンス			
第 6 回	さまざまな文末表現①	可能の表現について			
第 7 回	さまざまな文末表現②	自発の表現について			
第 8 回	さまざまな文末表現③	依頼・勧誘の表現			
第 9 回	さまざまな文末表現④	命令の表現			
第 10 回	さまざまな文末表現⑤	許可・禁止の表現			
第 11 回	さまざまな文末表現⑥	義務の表現			
第 12 回	接続表現①	「バ」と「タラ」について			
第 13 回	接続表現②	「バ」と「タラ」と「ト」について			
第 14 回	接続表現③	「ナラ」について			
第 15 回	接続表現④	「バ」「タラ」「ト」「ナラ」の総まとめ			

国際

授業番号	B103710001				
科目名 (英語表記)	日本語学入門 (Introduction to Japanese Linguistics)				
担当者 (英語表記)	長谷川 頼子 (Yoriko Hasegawa)	対象学年	1	単位数	2

授業のねらいと到達目標	「やり・もらい」や「敬意表現」、「方言」など、日本語社会におけるコミュニケーションに特徴的に見られる項目をとりあげ、そこに関わる文化的背景についても理解を深めます。単なる知識の詰め込みではなく、練習問題にもとり組みつつ、自分が使うことばである日本語を客観的に観察し、そのありようを探っていきます。
授業の進め方 (履修条件など)	外国人に日本語を教えてみたい人、コミュニケーションに関心のある学生なら誰でも受講を歓迎します。ただし、全員の発言で進める講義形式に協力できることが条件です。段階的に理解を深めるので欠席をしないこと。
成績評価方法	授業 (態度・提出物) 30%、期末試験 70%で評価します。
基準	
授業の予習・復習	予習：自分の周りの日本人、留学生が話す日本語に関心を持ちましょう。 復習：ことばの多様性と、その背景にある規則性や使い分けについて整理しましょう。
教科書	とくに使用しません。講義時にプリントを配布します。
参考文献	佐々木泰子 (編) (2007) 『ベーシック日本語教育』 ひつじ書房

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	講義ガイダンス	講義の概要・進め方・評価について説明
第 2 回	総論	「日本語学」の各領域について
第 3 回	人称と視点①	「あげる・もらう・くれる」について
第 4 回	人称と視点②	授受動詞の補助動詞的用法について
第 5 回	人称と視点③	授受表現のバリエーション
第 6 回	敬語と敬意表現①	敬語と敬意表現
第 7 回	敬語と敬意表現②	敬語 (1) 尊敬語
第 8 回	敬語と敬意表現③	敬語 (2) 謙譲語 I
第 9 回	敬語と敬意表現④	敬語 (3) 謙譲語 II
第 10 回	敬語と敬意表現⑤	敬語 (4) 丁寧語・美化語
第 11 回	敬語と敬意表現⑥	敬意表現の役割と機能
第 12 回	日本語社会における言語行動①	言語行動を構成する要素
第 13 回	日本語社会における言語行動②	方言・共通語・標準語
第 14 回	日本語社会における言語行動③	話しことばの地域差
第 15 回	日本語社会における言語行動④	話しことばのダイナミズム

国際						
授業番号	B103900001					
科目名 (英語表記)	日本語教育実習 (Teaching Japanese as a Practicum)					
担当者 (英語表記)	長谷川 頼子 (Yoriko Hasegawa)	対象学年	3	単位数	2	
授業のねらいと到達目標	日本語教員養成講座の総まとめとして、これまで知識として学んできた日本語及び日本語教育を、一人ひとりが体験的に振り返ることを学習の目的とします。具体的には、初級日本語教科書「みんなの日本語初級 I 本冊」の各課を分担して分析を行い、発表する演習形式で行います。					
授業の進め方 (履修条件など)	日本語教員養成講座科目をすべて履修していること。未履修科目を残して先に実習に参加することはできません。また、教員の資格認定に向け、高度な日本語能力が必要です。					
成績評価方法	提出課題、発表内容、発表者への質問などから総合的に評価します。					
基準						
授業の予習・復習	予習：担当する課の前後を良く分析し、形式的にも揃ったレジュメを作成すること。 復習：各課のつながりを意識し、積極的に質問やコメントなどをすること。					
教科書	スリーエーネットワーク(2012)「みんなの日本語初級 I 第 2 版本冊」を使います。初版(1998)を持っている人は教員まで申し出て下さい。					
参考文献	実習内で適宜紹介します。					
回数	授業項目	授業内容				
第 1 回	実習ガイダンス	実習生紹介、実習の進め方、発表の方法、教科書について解説				
第 2 回	模擬発表	「みんなの日本語初級 I 本冊」第 4 課模擬発表、担当課決め				
第 3 回	実習生による発表①	第 5 課				
第 4 回	実習生による発表②	第 6 課				
第 5 回	実習生による発表③	第 7 課				
第 6 回	実習生による発表④	第 8 課				
第 7 回	実習生による発表⑤	第 9 課				
第 8 回	実習生による発表⑥	第 10 課				
第 9 回	実習生による発表⑦	第 11 課				
第 10 回	実習生による発表⑧	第 12 課				
第 11 回	実習生による発表⑨	第 13 課				
第 12 回	実習生による発表⑩	第 14 課				
第 13 回	実習生による発表⑪	第 15 課				
第 14 回	実習生による発表⑫	第 16 課				
第 15 回	実習生による発表⑬	第 17 課				

国際

授業番号	B103840001				
科目名 (英語表記)	日本語教授法 I (Teaching Japanese as a Foreign Language I)				
担当者 (英語表記)	稲村 すみ代 (Sumiyo Inamura)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	第二言語としての日本語を日本語を母語としない学習者に教授する方法の基礎を学びます。日本語教育とは何か、言語教育の基礎など、基本的なことがらの理解と、日本語教育の実際について、学習し、「ことばを学ぶ」「ことばを教える」とは、どのようなことなのかを知り基礎を固めていきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	日本語を母語としない人へ日本語を教えてみようと思う人、ことなる母語話者とのコミュニケーションをことばの面から深めてみたい人を歓迎します。双方向授業中心であるため、積極的に授業に参加できる学生を対象とします。				
成績評価方法	授業 (態度・発表・提出物) 40% 期末試験・期末レポート 60%				
基準					
授業の予習・復習	予習：日本人学生留学生とも、基礎的な日本語力を確認し、コミュニケーション能力の向上に努めること。 復習：日本語教育とは何か、教師の資質役割は何かを常に意識し、第二言語 (外国語) としての日本語を教えるとはどのようなことか、整理します。				
教科書	授業中、必要に応じてプリントを配布します。				
参考文献	清水義昭 (2005) 『概説日本語学・日本語教育』おうふう 小島聡子 (2002) 『日本語の教え方』アルク 水谷信子 (1997) 『日本語教育概論』放送大学教育振興会				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義ガイダンス	講義の概要。進め方。評価について イントロダクション。ラポール形成			
第 2 回	日本語の特色①	第二言語としての日本語。日本語教育の概要			
第 3 回	日本語の特色②	日本語教師に必要な条件。資質。日本語力確認			
第 4 回	日本語の特色③	国語教育、外国語教育との比較。対照言語学の基礎			
第 5 回	日本語教育の現状と問題点①	日本国内の現状と問題点について			
第 6 回	日本語教育の現状と問題点②	海外事情①中国・韓国・アジア諸国			
第 7 回	日本語教育の現状と問題点③	海外事情②米欧諸国			
第 8 回	コースデザイン①	コースデザインとは何か			
第 9 回	コースデザイン②	ニーズとレディネス、カリキュラム			
第 10 回	コースデザイン③	さまざまなシラバスの種類			
第 11 回	授業計画・教案①	教案について 市販の教科書付属教案。教案の作成			
第 12 回	授業計画・教案②	日本語の授業、授業案と実際			
第 13 回	教材①	日本語教育における教材・教具			
第 14 回	教材②	教材開発について 初級・中級・上級の教科書			
第 15 回	総まとめ	日本語教育のまとめ。用語整理。			



国際

授業番号	B103840002				
科目名 (英語表記)	日本語教授法 I (Teaching Japanese as a Foreign Language I)				
担当者 (英語表記)	長谷川 頼子 (Yoriko Hasegawa)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	外国人に日本語を教えることの基本的な知識を学びます。国内・世界各国別にみた日本語教育の現状を紹介した上で、「日本語を教える」とは何をすることなのか、実例を挙げながら詳しく解説し、「ことばの教え方」を学ぶための基礎をしっかりと築きます。				
授業の進め方 (履修条件など)	外国人に日本語を教えてみたい人、コミュニケーションに関心のある学生なら学年を問わず受講を歓迎します。全員の発言で進める講義形式に協力できることが履修条件です。				
成績評価方法	授業 (態度・提出物) 30%、期末試験 70% で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：日本人・留学生が互いの日本語に関心を持ち、積極的にコミュニケーションしよう。 復習：「外国語としての日本語」に対する自分なりの見方を培うつもりで内容を整理しよう。				
教科書	とくに使用しません。講義時にプリントを配布します。				
参考文献	佐々木泰子 (2007) 『ベーシック日本語教育』 ひつじ書房 石田敏子 (1995) 『入門日本語教授法』 大修館書店				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義ガイダンス・イントロダクション	講義の概要・進め方・評価について説明			
第 2 回	日本語教育の特色①	日本語教育の概要			
第 3 回	日本語教育の特色②	日本語教師に必要な要件			
第 4 回	日本語教育の特色③	国語教育や外国語教育との比較			
第 5 回	日本語教育の現状と問題点①	日本国内の現状と問題点について			
第 6 回	日本語教育の現状と問題点②	中国・韓国・アメリカでの日本語教育			
第 7 回	日本語教育の現状と問題点③	アジア諸国での日本語教育			
第 8 回	コースデザイン①	コースデザインとは何か			
第 9 回	コースデザイン②	ニーズとレディネス			
第 10 回	コースデザイン③	さまざまなシラバスの種類			
第 11 回	授業計画・教案①	教案作成について			
第 12 回	授業計画・教案②	日本語の授業について			
第 13 回	教材①	日本語教育における教材・教具			
第 14 回	教材②	教材開発について			
第 15 回	総まとめ	学習した用語の整理			

国際

授業番号	B103850001				
科目名 (英語表記)	日本語教授法 II (Teaching Japanese as a Foreign Language II)				
担当者 (英語表記)	長谷川 頼子 (Yoriko Hasegawa)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	「日本語教授法 I」に続いて、さまざまな外国語教授法を紹介し具体的な指導の方法を理解します。その作業を通じて「外国語としての日本語」を教えることに向き合うことが目標です。教材や評価法についても取り上げ、日本語教育の基礎的知識をしっかりと身につけ、次のステップへつなぎます。				
授業の進め方 (履修条件など)	外国人に日本語を教えてみたい人、コミュニケーションに関心のある学生なら学年を問わず歓迎します。全員の発言で進める講義形式に協力できることが履修条件です。日本語教授法 I を履修していることが望ましいです。				
成績評価方法	授業 (態度・提出物) 30%、期末試験 70% で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：自分の外国語学習経験を思い出しましょう。教師はどんな教え方をしていましたか？ 復習：留学生に日本語学習経験を聞いて、教授法を具体的にイメージしてみよう。				
教科書	とくに使用しません。講義時にプリントを配布します。				
参考文献	佐々木泰子 (2007) 「ベーシック日本語教育」ひつじ書房				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義ガイダンス	講義の概要・進め方・評価について説明、イントロダクション			
第 2 回	外国語教授法各論①	GT方式～直説法			
第 3 回	外国語教授法各論②	オーラル・メソッド～アーミー・メソッド			
第 4 回	外国語教授法各論③	構造言語学の影響を受けた教授法			
第 5 回	外国語教授法各論④	心理学の影響を受けた教授法			
第 6 回	外国語教授法各論⑤	ナチュラル・アプローチ			
第 7 回	外国語教授法各論⑥	コミュニカティブ・アプローチ			
第 8 回	学習活動①	3つのレベルと学習項目			
第 9 回	学習活動②	初級の指導			
第 10 回	学習活動③	中級の指導			
第 11 回	学習活動④	上級の指導			
第 12 回	日本語教育評価法①	テストの種類、テストの妥当性・信頼性			
第 13 回	日本語教育評価法②	テストの諸形式について			
第 14 回	日本語教育評価法③	平均・分散・標準偏差について			
第 15 回	総まとめ	各教授法、用語の整理			

国際

授業番号	B103850002				
科目名 (英語表記)	日本語教授法 II (Teaching Japanese as a Foreign Language II)				
担当者 (英語表記)	稲村 すみ代 (Sumiyo Inamura)	対象学年	2	単位数	2

授業のねらいと到達目標	「日本語教授法 I」に引き続き、さまざまな外国語教授法を紹介し、具体的な指導の方法を検討します。学習段階を知り、段階に応じた教授方法を考察します。クラスアクティビティの実践を通して、学習活動教室活動の方法を学び、第二言語としての日本語を教えるための知識を深めていきます。
授業の進め方 (履修条件など)	日本語教授法 I を受講していることが望ましい。日本語を教えることに興味意欲を持ち、日本語を母語としている人と、そうでない人のコミュニケーションに関心を持つ学生を歓迎します。双方向で行われる授業であるため、授業に積極的に参加できる学生を対象とします。
成績評価方法	授業 (態度・提出物・発表) 40% 期末試験レポート 60%
基準	
授業の予習・復習	予習: 自分自身の外国語学習経験を思い出し、どのように外国語を身につけてきたのかを整理しておきましょう。 復習: さまざまな教授法をまとめ、学習活動の種々相を整理しましょう。
教科書	必要に応じて、プリントを配布します。
参考文献	鎌田修 (編) (1996) 『日本語教授法ワークショップ』 凡人社 日本語教育学会 (編) (1995) 『タスク日本語教授法』 寺田和子 (他) 『日本語の教え方 A B C』 アルク

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	講義ガイダンス	講義の概要・進め方・評価について・イントロダクション。ラポール形成
第 2 回	外国語教授法①	オーディオリンガル・メソッド他
第 3 回	外国語教授法②	ダイレクトメソッド (直接法)、TPR 他
第 4 回	外国語教授法③	心理学の影響を受けた教授法 サジェストベディア他
第 5 回	外国語教授法④	ナチュラル・アプローチ コミュニカティブ・アプローチ CLL 他
第 6 回	外国語教授法⑤	日本語教育と異文化トレーニング
第 7 回	学習活動①	段階別教授法 初級・中級・上級・段階のシラバス (学習項目)
第 8 回	学習活動②	初級レベルの教材と指導。文型積み上げ法
第 9 回	学習活動③	中級レベルの教材と指導。四技能の指導
第 10 回	学習活動④	上級レベルの教材と指導。生教材
第 11 回	学習活動⑤	日本事情、その他の指導。超上級。
第 12 回	日本語教育評価法①	テストの種類、テストの妥当性・信頼性
第 13 回	日本語教育評価法②	テストの諸形式
第 14 回	教授法と教材	視聴覚教材、コンピュータ教材の扱い方
第 15 回	総まとめ	各教授法の整理。段階別教授法のまとめ

国際

授業番号	B103860001				
科目名 (英語表記)	日本語教授法 III (Teaching Japanese as a Foreign Language III)				
担当者 (英語表記)	長谷川 頼子 (Yoriko Hasegawa)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本語教育の方法について、四技能（聞く・話す・読む・書く）別にみた指導のあり方について検討します。各技能について理解した上で、具体的な教え方や教材などを紹介します。				
授業の進め方 (履修条件など)	外国人に日本語を教えてみたい人、コミュニケーションに関心のある学生の受講を歓迎します。日本語教授法 I・II を履修していれば、より理解が深まります。				
成績評価方法	授業（態度・提出物）30%、期末試験 70% で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：これまでに学習した内容を良く復習し、思い出しておくこと。 復習：「自分が教師ならどう教えたいか」と想像しながら、授業内容を整理しましょう。				
教科書	基本的にはプリントを講義時に配布します。				
参考文献	国際交流基金日本語教授法シリーズ『話すことを教える』『読むことを教える』『書くことを教える』『聞くことを教える』ひつじ書房				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義ガイダンス	講義の概要・進め方・評価について説明、イントロダクション			
第 2 回	四技能とは何か①	子供の言語獲得について			
第 3 回	四技能とは何か②	外国語における四技能の学習について			
第 4 回	聞き方の指導①	聞くとはどういうことか			
第 5 回	聞き方の指導②	初級における「聞き方」の指導			
第 6 回	聞き方の指導③	中・上級における「聞き方」の指導			
第 7 回	話し方の指導①	日本語の話しことばの特徴			
第 8 回	話し方の指導②	初級における「話し方」の指導			
第 9 回	話し方の指導③	中・上級における「話し方」の指導			
第 10 回	読み方の指導①	「読み」に必要なストラテジー			
第 11 回	読み方の指導②	初級における「読み方」の指導			
第 12 回	読み方の指導③	中・上級における「読み方」の指導			
第 13 回	書き方の指導①	ひらがな・かたかなの指導について			
第 14 回	書き方の指導②	漢字の指導について			
第 15 回	書き方の指導③	作文の指導について			

国際

授業番号	B103870002				
科目名 (英語表記)	日本語教授法 IV (Teaching Japanese as a Foreign Language IV)				
担当者 (英語表記)	長谷川 頼子 (Yoriko Hasegawa)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本語教育における音声指導をテーマに取り上げ、日本語の音声に関する知識を体得します。日本語教育でも音声指導は難しいものの1つとされていますが、外国人学習者に対してどのような指導を行っていけばよいか、授業内で実際に発音練習も行いながら、項目別に詳しく検討していきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業の理解度に関わるので、日本語学、日本語教授法、言語学、英語音声学などの授業を既習しているか、履修すること。				
成績評価方法	授業 (態度・提出物) 30%、期末試験 70%で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：自分の音声器官、発音の仕方をよく観察しよう。 復習：学習した知識に基づいて、再度発音の仕組みを確認しよう。				
教科書	基本的には講義時に配布するプリントを使用します。				
参考文献	佐々木泰子 (編) (2007)「ベーシック日本語教育」ひつじ書房 国際交流基金 (2009)「音声を教える」日本語教授法シリーズ 2				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	講義ガイダンス	講義の概要・進め方・評価について説明、イントロダクション			
第 2 回	基本的用語	音声器官、音素・異音			
第 3 回	日本語の母音①	日本語の母音の作られ方			
第 4 回	日本語の母音②	日本語の母音にみられる特徴			
第 5 回	日本語の母音③	外国人学習者に見られる母音の発音上の問題点			
第 6 回	日本語の子音①	子音の作られ方、調音点・調音法			
第 7 回	日本語の子音②	カ、ガ、サ、ザ、タ、ダの子音			
第 8 回	日本語の子音③	ナ、ハ、バ、パ、マ、ラの子音			
第 9 回	日本語の子音④	半母音、撥音・促音・拗音・長音			
第 10 回	日本語の子音⑤	外国人学習者に見られる子音の発音上の問題点			
第 11 回	日本語の拍・リズム	拍と拍感覚について			
第 12 回	日本語のアクセント①	アクセントとは何か、アクセントの式と型			
第 13 回	日本語のアクセント②	外国人学習者に見られるアクセント上の問題点			
第 14 回	日本語のイントネーション①	イントネーションとは何か			
第 15 回	日本語のイントネーション②	外国人学習者に見られるイントネーションの問題点			

国際					
授業番号	B102030001				
科目名 (英語表記)	日本社会と多文化共生 (Multiculturalization of Japanese Society)				
担当者 (英語表記)	森 万佑子 (Mayuko Mori)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>&lt;授業のねらい&gt;            あなたは自分のことを何人だと思えますか？日本人？中国人？韓国人？            そう思う理由は何ですか？            この授業では、まず、自分のことを「〇〇人」だと思えるようになる歴史的な背景について、国際社会の成り立ちと、その影響を受けておこなわれた明治期日本の国家形成及び「日本人」の形成にまでさかのぼって考えます。            次に、そのような日本社会の成り立ちを前提に、日本で暮らす外国人との共生について考えます。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国民国家の成り立ちについて説明できる</li> <li>・ 日本の戸籍と国籍について説明できる</li> <li>・ 在日朝鮮人の歴史的背景及び現在について説明できる</li> <li>・ 多文化共生の今後について自分の考えをまとめることができる</li> </ul>				
授業の進め方 (履修条件など)	多文化共生という問題は現在進行形のテーマです。そのため、今を生きるみなさん個々人が自分も関係する身近な問題として考えて欲しいと思います。 そのためにも毎回の授業では、前半は講師が各トピックについて解説する講義の時間にし、後半はみなさんがそのトピックについてどのように考えるか議論し、そして考えをまとめる時間にします。				
成績評価方法 基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席 (7割以上) : 30%</li> <li>・ 毎回提出してもらおうコメントペーパー : 40%</li> <li>・ 期末レポート : 30%</li> </ul>				
授業の予習・復習 教科書	毎回の授業で扱うトピックについて、提示する参考文献を読む他、知人・友人とたくさん議論をしてください。 特に定めません。授業時に詳細なレジユメを配布します。				
参考文献	渡戸一郎・井沢泰樹編『多民族化社会・日本』明石書店、2010年。 塩原良和『共に生きる』弘文堂、2012年。 田中宏『在日外国人 第三版』岩波新書、2013年。 遠藤正敬『戸籍と国籍の近現代史』明石書店、2013年。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の進め方の説明			
第2回	国際社会の成り立ち (1)	国家、民族の概念			
第3回	国際社会の成り立ち (2)	国民国家の概念			
第4回	日本の成り立ち	明治期における日本の形成			
第5回	「日本人」の形成 (1)	戸籍と国籍 (1)			
第6回	「日本人」の形成 (2)	戸籍と国籍 (2)			
第7回	「日本人」の形成 (3)	アイヌと琉球			
第8回	在日朝鮮人 (1)	在日朝鮮人の歴史的背景			
第9回	在日朝鮮人 (2)	ドキュメンタリー映画の鑑賞			
第10回	多文化共生の模索 (1)	グローバル・マイグレーションと外国人・移民			
第11回	多文化共生の模索 (2)	在日外国人のいま			
第12回	多文化共生の模索 (3)	ニューカマーとオールドカマー			
第13回	多文化共生の模索 (4)	外国人の日本社会への「参加」			
第14回	多文化共生の模索 (5)	外国につながる子ども・若者の生き方			
第15回	まとめ	授業全体のまとめ			

国際						
授業番号	B101960001					
科目名 (英語表記)	日本の経済 (Japanese Economy)					
担当者 (英語表記)	小林 啓祐 (Keisuke Kobayashi)	対象学年	2	単位数	2	
授業のねらいと到達目標	本講義は日本の経済がどのような構造になっているのか、様々な視点・データによって学んでいく講義である。昨今の経済状況の変化はめまぐるしいものとなっている。その変化に対応するためには、どのような特徴を日本経済が持っているのかを知らなければいけない。講義を通じて、現代を分析する目を養って欲しいと思う。					
授業の進め方 (履修条件など)	小テストを3回行うので、すべて受けること。					
成績評価方法	毎講義中の参加態度 (10%)、および3回の小テスト (90%) をあわせて評価する					
基準						
授業の予習・復習	シラバスを事前に確認し、教科書にて予習をすること。					
教科書	小峰隆夫『Visual 日本経済の基本 第4版』日本経済新聞社, 2010年					
参考文献						
回数	授業項目	授業内容				
第1回	ガイダンス	講義方法の説明などを行い、日本経済に関する簡単なアンケートをとる				
第2回	日本のマクロデータ1	日本経済の基本的なマクロデータについて学ぶ				
第3回	日本のマクロデータ2	前回の続きを行う				
第4回	日本の雇用	日本における雇用情勢について学ぶ				
第5回	小テスト1	第2回から第4回までの小テストを行う				
第6回	日本企業の経営状況	日本企業の経営状況について学ぶ				
第7回	経済政策	日本政府が取り組む経済政策の特徴について学ぶ				
第8回	財政課題	日本政府が抱える財政問題について学ぶ				
第9回	金融課題	日本の金融機関が抱える問題について学ぶ				
第10回	小テスト2	6回～9回の範囲の小テストを行う				
第11回	日本の福祉	日本における福祉政策の現状を学ぶ				
第12回	世界の中の日本1	日本を中心とした貿易・為替について学ぶ				
第13回	世界の中の日本2	世界経済の動向を学ぶ				
第14回	まとめ	まとめと復習を行います				
第15回	小テスト3	まとめの小テストを行います				

国際					
授業番号	B101950001				
科目名 (英語表記)	日本の政治 (Japanese Politics)				
担当者 (英語表記)	榎田 久代 (Hisayo Kushida)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、日本の政治過程を扱います。政治学入門あるいは政治学概論 I で学んだ政治の基礎概念や基礎理論が、日本政治の中でどのように展開しているのかを主眼に、政治の実態を具体的に理解し政治的知識を増やすことを目的としています。国際学部の社会科学教職科目でもありますから、しっかりと知識を身につけてもらいたいと思います。				
授業の進め方 (履修条件など)	配布するプリントを中心に授業を進めます。時折、みなさんの理解を確認するために演習形式で行うときもあります。なお、社会科学関係の教職課程の学生は必修です。				
成績評価方法	期末試験 80%、授業内に適宜行う小レポート 20%により総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：日頃から時事ニュースに関心を持つようにして下さい。 復習：授業中わからなかったことは、授業後解決するようにして下さい。				
教科書	なし。				
参考文献	久米郁男他編『政治学 (New Liberal Arts Selection) 補訂版』(有斐閣、2011 年) 他。 ※参考文献は、3 階メディアセンターの榎田「指定図書」コーナーにあります。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	日本政治の今			
第 2 回	政治を見る目 (1)	日本政治の課題			
第 3 回	政治を見る目 (2)	外交と国内政治			
第 4 回	日本の政治制度	議院内閣制と政党			
第 5 回	行政部 (1)	内閣と行政部			
第 6 回	行政部 (2)	行政部の現状と問題点			
第 7 回	立法部 (1)	国会			
第 8 回	立法部 (2)	立法過程			
第 9 回	立法部 (3)	立法の現状と問題点			
第 10 回	司法部 (1)	裁判所の役割			
第 11 回	司法部 (2)	市民の司法参加			
第 12 回	マスメディアと世論	第 4 の権力			
第 13 回	地方自治 (1)	地方自治の推進			
第 14 回	地方自治 (2)	地方自治が抱える課題			
第 15 回	まとめ	日本政治の現状再考			



国際					
授業番号	B103780002				
科目名 (英語表記)	日本の文化 I (Japanese Culture I)				
担当者 (英語表記)	畑中 千晶 (Chiaki Hatanaka)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	「花札」に描かれた図柄を切り口として、日本文化の諸相を探究していく (文学、演劇、絵画、工芸、宗教など)。まず古典世界のコードを学び、次にそのコードを用いて読み解くことのできる具体例について学ぶ。最終的には、身近な生活の中に息づく伝統文化を自ら見出せるようになることが到達目標である。				
授業の進め方 (履修条件など)	パワーポイント、DVD 等の映像資料を多用する。古典芸能の視聴 (解説付) など含まれるので、留学生の場合は、日本語能力試験 N1 (1 級) 程度の日本語力が不可欠である。				
成績評価方法	クラスで指示した課題への取り組み (50%)、期末試験 (50%)				
基準					
授業の予習・復習	予習: Eラーニングを用いて、授業内容に関連した Web サイト等に目を通す。 復習: Eラーニングを用いて、学習内容に関する意見交換を行う。				
教科書	毎回、レジユメと複数の資料を配布する。これらが教科書の代わりとなるので、必ずファイリング管理すること。				
参考文献	加藤周一『日本文学史序説 上・下』ちくま学芸文庫 青木美智男『全集 日本の歴史 別巻 日本文化の原型』小学館				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	イントロダクション	日本文化について考える方法			
第 2 回	「正月 松」	黄山 VTR、松のめでたさ・霊力			
第 3 回	「二月 梅」	菅原道真、飛梅伝説			
第 4 回	「二月 梅」	天神信仰、歌舞伎『菅原伝授手習鑑』			
第 5 回	発展項目	絵を読む (紅白梅図 映像視聴)			
第 6 回	「三月 桜」	桜のイメージの両義性			
第 7 回	「三月 桜」	禁忌の恋・・・『源氏物語』			
第 8 回	「三月 桜」	禁忌の恋・・・『菅原伝授手習鑑』			
第 9 回	「四月 藤」	藤のデザインと季節感の演出			
第 10 回	「五月 あやめ」	『伊勢物語』と琳派の絵			
第 11 回	「六月 牡丹」	牡丹と中国趣味、能楽 [『石橋』の世界			
第 12 回	「六月 牡丹」	蕪村の愛した牡丹、漢詩と俳句			
第 13 回	「七月 萩」	猪はポエティックな動物			
第 14 回	「八月～十二月」十二月概観	十二月の札に季節感のズレがある理由			
第 15 回	発展項目	ことば遊び、浮世絵に見る遊び			

国際					
授業番号	B103790001				
科目名 (英語表記)	日本の文化 II (Japanese Culture II)				
担当者 (英語表記)	畑中 千晶 (Chiaki Hatanaka)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	「花札」に描かれた図柄を切り口として、日本文化の諸相を探究していく (文学、演劇、絵画、工芸、宗教など)。まず古典世界のコードを学び、次にそのコードを用いて読み解くことのできる具体例について学ぶ。最終的には、身近な生活の中に息づく伝統文化を自ら見出せるようになることが到達目標である。				
授業の進め方 (履修条件など)	パワーポイント、DVD 等の映像資料を多用する。古典芸能の視聴 (解説付) など含まれるので、留学生の場合は、日本語能力試験 N1 (1 級) 程度の日本語力が不可欠である。				
成績評価方法	クラスで指示した課題への取り組み (50%)、期末試験 (50%)				
基準					
授業の予習・復習	予習: Eラーニングを用いて、授業内容に関連した Web サイト等に目を通す。 復習: Eラーニングを用いて、学習内容に関する意見交換を行う。				
教科書	毎回、レジユメと複数の資料を配布する。これらが教科書の代わりとなるので、必ずファイリング管理すること。				
参考文献	加藤周一『日本文学史序説 上・下』ちくま学芸文庫 青木美智男『全集 日本の歴史 別巻 日本文化の原型』小学館				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	イントロダクション	日本文化について考える方法			
第 2 回	「正月 松」	黄山 VTR、松のめでたさ・霊力			
第 3 回	「二月 梅」	菅原道真、飛梅伝説			
第 4 回	「二月 梅」	天神信仰、歌舞伎『菅原伝授手習鑑』			
第 5 回	発展項目	絵を読む (紅白梅図 映像視聴)			
第 6 回	「三月 桜」	桜のイメージの両義性			
第 7 回	「三月 桜」	禁忌の恋・・・『源氏物語』			
第 8 回	「三月 桜」	禁忌の恋・・・『菅原伝授手習鑑』			
第 9 回	「四月 藤」	藤のデザインと季節感の演出			
第 10 回	「五月 あやめ」	『伊勢物語』と琳派の絵			
第 11 回	「六月 牡丹」	牡丹と中国趣味、能楽 [『石橋』の世界			
第 12 回	「六月 牡丹」	蕪村の愛した牡丹、漢詩と俳句			
第 13 回	「七月 萩」	猪はポエティックな動物			
第 14 回	「八月～十二月」十二月概観	十二月の札に季節感のズレがある理由			
第 15 回	発展項目	ことば遊び、浮世絵に見る遊び			

国際					
授業番号	B101990001				
科目名 (英語表記)	日本の歴史 (Japanese history)				
担当者 (英語表記)	家近 亮子 (Ryoko Iechika)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	幕末から現代に至る日本の近現代史を学びます。日本がどのような思想と政治過程を経て現在の政治、経済、社会、国際関係を構築するようになったかを解明します。到達目標は、日本の近現代史の基本的な流れをつかみ、その特徴を理解し、その上で日本の現状を分析することができるようになることにあります。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件は特にありません。授業は、配付資料を中心に適宜映像資料を取り入れながら進めていきます。				
成績評価方法 基準	小テスト 40%、期末試験 60%				
授業の予習・復習	予習：新聞やニュースでの日本の歴史に関することに興味を持つこと。 復習：配布資料を読み、授業の内容、疑問点をまとめること。				
教科書	特に定めません。毎回テーマ毎の講義ノートと資料を配付します。				
参考文献	宮地正人監修、大日方純夫・山田朗他著『日本近現代史を読む』、新日本出版社、2010年。 家近亮子『日中関係の基本構造』、晃洋書房、2004年。 テーマごとにその都度紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方、評価の方法の説明。 今日の日本の政治、経済、社会、外交について。			
第2回	江戸という時代	江戸時代の政治・経済・社会・対外関係			
第3回	開国への道	幕末の政治と思想、外交			
第4回	明治維新	日本の近代化はどのようにして行われたのか？ 明治の三大改革について			
第5回	大日本帝国憲法 (明治憲法) の成立	明治憲法の成立過程と特徴、解釈の問題点について			
第6回	明治時代の政治と思想、文化	自由民権運動と政党政治の開始			
第7回	近代日本の対外認識と政策	福沢諭吉の「学問のすすめ」と「脱亜論」、日清・日露戦争			
第8回	対外拡張政策の展開 - ①	軍国日本の形成			
第9回	対外拡張主義の展開 - ②	台湾・韓国に対する植民地支配			
第10回	「暗い昭和」への道	軍部の台頭とファシズム			
第11回	日中戦争の勃発と戦時体制	戦時下の社会と人々の生活、思想、文化			
第12回	太平洋戦争	戦争の要因、経過、戦後処理			
第13回	戦後の日本 - ①	GHQによる占領政策と「日本国憲法」			
第14回	戦後の日本 - ②	戦後の政治と社会の変容			
第15回	戦後の日本 - ③	経済発展と外交、思想、文化			

国際						
授業番号	B103770001					
科目名 (英語表記)	日本文化論 (Japanese Culture)				(B)	
担当者 (英語表記)	畑中 千晶 (Chiaki Hatanaka)	対象学年	2	単位数	2	
授業のねらいと到達目標	「花札」に描かれた図柄を切り口として、日本文化の諸相を探究していく (文学、演劇、絵画、工芸、宗教など)。まず古典世界のコードを学び、次にそのコードを用いて読み解くことのできる具体例について学ぶ。最終的には、身近な生活の中に息づく伝統文化を自ら見出せるようになることが到達目標である。					
授業の進め方 (履修条件など)	パワーポイント、DVD 等の映像資料を多用する。古典芸能の視聴 (解説付) など含まれるので、留学生の場合は、日本語能力試験 N1 (1 級) 程度の日本語力が不可欠である。					
成績評価方法	クラスで指示した課題への取り組み (50%)、期末試験 (50%)					
基準						
授業の予習・復習	予習：Eラーニングを用いて、授業内容に関連した Web サイト等に目を通す。 復習：Eラーニングを用いて、学習内容に関する意見交換を行う。					
教科書	毎回、レジメと複数の資料を配布する。これらが教科書の代わりとなるので、必ずファイリング管理すること。					
参考文献	加藤周一『日本文学史序説 上・下』ちくま学芸文庫 青木美智男『全集 日本の歴史 別巻 日本文化の原型』小学館					
回数	授業項目	授業内容				
第 1 回	イントロダクション	日本文化について考える方法				
第 2 回	「正月 松」	黄山 VTR、松のめでたさ・霊力				
第 3 回	「二月 梅」	菅原道真、飛梅伝説				
第 4 回	「二月 梅」	天神信仰、歌舞伎『菅原伝授手習鑑』				
第 5 回	発展項目	絵を読む (紅白梅図 映像視聴)				
第 6 回	「三月 桜」	桜のイメージの両義性				
第 7 回	「三月 桜」	禁忌の恋・・・『源氏物語』				
第 8 回	「三月 桜」	禁忌の恋・・・『菅原伝授手習鑑』				
第 9 回	「四月 藤」	藤のデザインと季節感の演出				
第 10 回	「五月 あやめ」	『伊勢物語』と琳派の絵				
第 11 回	「六月 牡丹」	牡丹と中国趣味、能楽 [『石橋』の世界				
第 12 回	「六月 牡丹」	蕪村の愛した牡丹、漢詩と俳句				
第 13 回	「七月 萩」	猪はポエティックな動物				
第 14 回	「八月～十二月」十二月概観	十二月の札に季節感のズレがある理由				
第 15 回	発展項目	ことば遊び、浮世絵に見る遊び				

国際							
授業番号	B103770002						
科目名 (英語表記)	日本文化論 (Japanese Culture)				(A)		
担当者 (英語表記)	畑中 千晶 (Chiaki Hatanaka)			対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	「花札」に描かれた図柄を切り口として、日本文化の諸相を探究していく (文学、演劇、絵画、工芸、宗教など)。まず古典世界のコードを学び、次にそのコードを用いて読み解くことのできる具体例について学ぶ。最終的には、身近な生活の中に息づく伝統文化を自ら見出せるようになることが到達目標である。						
授業の進め方 (履修条件など)	パワーポイント、DVD 等の映像資料を多用する。古典芸能の視聴 (解説付) など含まれるので、留学生の場合は、日本語能力試験 N1 (1 級) 程度の日本語力が不可欠である。						
成績評価方法	クラスで指示した課題への取り組み (50%)、期末試験 (50%)						
基準							
授業の予習・復習	予習：Eラーニングを用いて、授業内容に関連した Web サイト等に目を通す。 復習：Eラーニングを用いて、学習内容に関する意見交換を行う。						
教科書	毎回、レジユメと複数の資料を配布する。これらが教科書の代わりとなるので、必ずファイリング管理すること。						
参考文献	加藤周一『日本文学史序説 上・下』ちくま学芸文庫 青木美智男『全集 日本の歴史 別巻 日本文化の原型』小学館						
回数	授業項目	授業内容					
第 1 回	イントロダクション	日本文化について考える方法					
第 2 回	「正月 松」	黄山 VTR、松のめでたさ・霊力					
第 3 回	「二月 梅」	菅原道真、飛梅伝説					
第 4 回	「二月 梅」	天神信仰、歌舞伎『菅原伝授手習鑑』					
第 5 回	発展項目	絵を読む (紅白梅図 映像視聴)					
第 6 回	「三月 桜」	桜のイメージの両義性					
第 7 回	「三月 桜」	禁忌の恋・・・『源氏物語』					
第 8 回	「三月 桜」	禁忌の恋・・・『菅原伝授手習鑑』					
第 9 回	「四月 藤」	藤のデザインと季節感の演出					
第 10 回	「五月 あやめ」	『伊勢物語』と琳派の絵					
第 11 回	「六月 牡丹」	牡丹と中国趣味、能楽 [『石橋』の世界					
第 12 回	「六月 牡丹」	蕪村の愛した牡丹、漢詩と俳句					
第 13 回	「七月 萩」	猪はポエティックな動物					
第 14 回	「八月～十二月」十二月概観	十二月の札に季節感のズレがある理由					
第 15 回	発展項目	ことば遊び、浮世絵に見る遊び					

国際

授業番号	B100120001				
科目名 (英語表記)	日本理解 I (日本の伝統文化と社会) (A Japanese understanding I)				
担当者 (英語表記)	土田 宏 (Hiroshi Tsuchida)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日本の伝統文化の代表とされる「茶道」を主に考察することで、日本および日本人の底流にある精神を探り出すことを目的とする。よりよく日本を知ること、日本を見る新しい視点を提示したいと願っている。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義中心に進めるが、多くの人には馴染みのない「茶道用語」などが使われることになると思う。遠慮無く質問してほしい。適時、映像を利用して、理解を深めたいと願っている。				
成績評価方法	定期試験を評価基準とする。ただし、出席が 70 パーセントに満たない場合は、自動的に登録放棄と判断する。				
基準					
授業の予習・復習	毎回の授業のための予習として、初回の授業で配る予定表に従って教科書を読んでおく。毎回の授業の復習は必ずしておくこと。不明な点を残さないように。				
教科書	田中仙翁 『茶道の美学』 講談社学術文庫				
参考文献	桑田忠親 『茶道の歴史』 講談社学術文庫 土田隆宏 『利休 最後の半年』 彩流社				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	はじめに	日本文化の基礎としての茶道			
第 2 回	茶道の歴史 その 1	室町時代まで			
第 3 回	茶道の歴史 その 2	武士から町人へ 戦国時代の発展			
第 4 回	茶道の歴史 その 3	元禄時代 (家元制度の確立) と明治維新時の存続の危機 (文明開化)			
第 5 回	茶道の歴史 その 4	現代まで 現在の生活に茶道は何を意味するか			
第 6 回	千利休の茶 その 1	町人の茶の完成 道具と精神性			
第 7 回	千利休の茶 その 2	茶室の工夫 1. 暗さの追求			
第 8 回	千利休の茶 その 3	茶室の工夫 2. 狭さの追求			
第 9 回	千利休の茶 その 4	茶禅一味 無の追求と「道」の完成			
第 10 回	千利休と茶庭 (露地)	日本庭園の変貌の中で			
第 11 回	茶懐石と日本料理	もてなしの心と食事作法 (マナー) を考える			
第 12 回	茶会と茶事	文化の伝承を考える			
第 13 回	日本の宗教 1	神道と伝統行事			
第 14 回	日本の宗教 2	仏教の真理と仏像の見方			
第 15 回	まとめ 奈良と京都	奈良と京都: 二つの都から見えるもの			

国際					
授業番号	B100130001				
科目名 (英語表記)	日本理解 II (日本の現代カルチャー) (A Japanese understanding II)				
担当者 (英語表記)	土田 環 (Tamaki Tsuchida)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	主として 1950 年代以降の日本映画史を大まかに学びつつ、映画を通して日本の政治・経済・社会の動向について考察する。講義は、基礎的な知識を学ぶための【歴史】と作品の見方について考えるための【テーマ】に分け、隔週ずつ、両者を交互に論じながら進めていく。映像を通して、その表現としての特殊性について考えることを目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件は特になし。授業は講義形式を進める。様々な映像を見せる予定だが、作品を全編にわたって上映することはできないので、各自、映画を多く見ること (シネコンからミニ・シアターまで作品を問わない)。				
成績評価方法	出席および期末レポートによって評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：授業で取り扱う予定の映画作品をなるべく多く見ること。映画館に行くこと。 復習：授業で指示した映画、DVD をなるべく多く見ること。				
教科書	特になし。適宜プリントを配布する。				
参考文献	高峰秀子『わたしの渡世日記 上・下』(文春文庫、1998)、四方田犬彦『日本映画史 100 年』(集英社新書、2000)、日本映画専門チャンネル編『『踊る大捜査線』は日本映画の何を変えたのか』(幻冬舎、2010)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	イメージを見ること／読むこと			
第 2 回	【歴史 1】映画の「新しさ」	現在の日本映画の概況			
第 3 回	【テーマ 1】「日本製」映画のつくり方	「製作委員会」の役割			
第 4 回	【歴史 2】逆輸入の発想	1995 の日本映画—映画にとっての「外部」			
第 5 回	【テーマ 2】自己と他者	映画における「日本人」の表象			
第 6 回	【歴史 3】「アイドル」の時代	「低予算」映画と日本映画の 1980 年代			
第 7 回	【テーマ 3】フォーマット・セールスとは何か	日本映画史における国際文化交流			
第 8 回	【歴史 4】撮影所の崩壊①	「ニューヴェル・ヴァーグ」から ATG へ—1960-70 年代			
第 9 回	【テーマ 4】風景の変容	日本映画における「東京」および「郊外」の表象			
第 10 回	【歴史 5】撮影所の崩壊②	「真実」と「虚構」のはざまに—岩波映画製作所と「青の会」			
第 11 回	【テーマ 5】記憶の継承	映画における「記憶」の表象			
第 12 回	【歴史 6】弱りと輝きの波	「プログラム・ピクチャー」という概念—1960 年代			
第 13 回	【テーマ 6】「模倣」と「盗作」の境界	映画における「引用」とは何か			
第 14 回	【歴史 7】「戦後」の映画	「撮影所」と日本映画の第二の黄金期—1950 年代			
第 15 回	【テーマ 7】映画における「ジャンル」とは何か	日本映画における「幽霊」の表象			

国際					
授業番号	B102960001				
科目名 (英語表記)	比較文化論 (Comparative Cultures)				
担当者 (英語表記)	村川 庸子 (Yoko Murakawa)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	日米戦争中に戦略的な目的で書かれた、日米比較文化論の古典とも言うべき R. ベネディクトの『菊と刀』と、これを厳しく批判した、日本在住の政治思想家 D. ラミスらの論説を読み比べる。まずは「文化を比較する」という場合の主体の立ち位置の違いを意識すること、批判的に読み解くこと、最終的には受講者それぞれの目から見た文化論を展開することを目指したい。				
授業の進め方 (履修条件など)	事前にテキストを読み、簡単に内容と、共感する部分、疑問に思う部分をまとめておくことを前提に授業を進める。コーネル式ノート作成法を用いた成績評価を行う。				
成績評価方法	コーネル式ノート作成法を用いて成績評価を行う。(予習 30%; ノートの取りまとめ (コメント部分を中心に) 40%;				
基準	ラミス氏の論考に対する批判 30%)				
授業の予習・復習	事前にテキストを読み、簡単に内容と、共感する部分、疑問に思う部分をまとめておくことを前提に授業を進めていきたい。授業後はノートの「コメント」欄を中心にまとめておくこと。				
教科書	ルース・ベネディクト『菊と刀 日本文化の型』(講談社学術文庫)				
参考文献	ダグラス・ラミス (2007) 『ふつうの国になりましょう』				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	導入	文化とは何か? 文化を比較するとはどういうことか?			
第2回	日本論・日本人論の系譜	『菊と刀』が書かれた背景と、日本人による日本論・日本人論の系譜、 『菊と刀』についての評価を概観する			
第3回	文化人類学という学問	文化人類学という学問の特徴を『菊と刀』を通して考える。第1章 [研究課題—日本]			
第4回	戦争と日米の相互イメージ	日米戦争中と戦後の両国の相互イメージ 第2章「戦争中の日本人」			
第5回	日本の階層制度	日本の家長主義・階層制度について 第3章「各々其ノ所ヲ得」			
第6回	西欧の個人主義・日本の集団主義	第5章「過去と世間に負目を負う者」・第6章「万分之一の恩返し」……「恩」			
第7回	日本における個人と社会①	第7章「義理ほどつらいものはない」……「義理」と「義務」			
第8回	日本における個人と社会②	第8章「汚名をすすぐ」……「堪へ難キヲ堪へ忍び難キヲ忍ぶ」			
第9回	日本における個人と社会③	第9章「人情の世界」……自己犠牲			
第10回	マッカーサーの見た日本①	第12章「子供は学ぶ」……日本人は14歳?			
第11回	マッカーサーの見た日本②	第13章「降伏後の日本」……「多過ぎもせず少な過ぎもしない寛大さ」			
第12回	D. ラミスと読む『菊と刀』①	D. ラミス『菊と刀 再考』を読む			
第13回	D. ラミスと読む『菊と刀』②	私の『菊と刀 再考』			
第14回	全体討論	私の『菊と刀 再考』			
第15回	まとめ	総括			



国際

授業番号	B100950001				
科目名 (英語表記)	ビジネス英語 (Business English)				
担当者 (英語表記)	内野 泰子 (Yasuko Uchino)	対象学年	2	単位数	1

授業のねらいと到達目標	経済活動がグローバル化する中で、日本企業においても、英語が公用語化される、上司や同僚、部下が外国人になる、英語による会議が頻繁に行われる、TOEIC 受験が必須になるなど、ビジネス英語の必要性がさらに高まってきています。この授業では、こうした状況に対応できるよう、様々なビジネス場面で英語を使って簡単なコミュニケーションがはかれるよう、ビジネス英語の基礎力を築くことを目指します。TOEIC の受験準備にも対応できるようにしていきます。
授業の進め方 (履修条件など)	テキストを使い、様々なビジネス場面で求められるスピーキング、リスニング、ライティング、リーディングの基本スキルやビジネス英語の基本表現などを学習します。また、テレビ番組なども見ながら、色々な職場でどのように英語が使われているのかについても実践的に学びます。
成績評価方法	平常点 50 パーセント、期末テスト 50 パーセントで評価します。
基準	
授業の予習・復習	授業内で指示しますので、指示に必ず従って次の授業にのぞんで下さい。
教科書	First Steps to Office English (Tae Kudo 著、センゲージ・ラーニング) ならびに配布プリント
参考文献	必要に応じて授業内で指示します。

回数	授業項目	授業内容
第 1 回	導入	グローバル化の中でのビジネス英語とは？
第 2 回	Unit 1-1	ビジネスマンの自己紹介
第 3 回	Unit1-2	ビジネスマンの自己紹介、Eメールの基本
第 4 回	Unit 2-1	英語が分からない時の聞き直し方
第 5 回	Unit 2-2	英語が分からない時の聞き直し方、ビジネス・レターの基本
第 6 回	Unit 3-1	電話の会話 t
第 7 回	Unit 3-2	電話の会話 2
第 8 回	Unit 4-1	伝言・留守電 1
第 9 回	Unit 4-2	伝言・留守電 2
第 10 回	Unit 5-1	職場でのあいさつ 1
第 11 回	Unit 5-2	職場でのあいさつ 2
第 12 回	Unit 6-1	面会の約束・会議 1
第 13 回	Unit 6-2	面会の約束、会議 2
第 14 回	Unit 7-1	会社訪問者への対応
第 15 回	Unit 7-2	会社訪問者への対応、まとめ

国際

授業番号	B102370001		
科目名 (英語表記)	ファイナンス (Corporate Finance)		
担当者 (英語表記)	織井 啓介 (Keisuke Orii)	対象学年	3
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	ビジネスパーソンの必須知識となってきた「企業ファイナンス」の基礎を平易に学習します。キャッシュフロー、割引現在価値、最適資本構成といった企業ファイナンスの基礎が理解できるようになり、ビジネスパーソンとなる準備ができます。財務に関する基本英語も身につきます。		
授業の進め方 (履修条件など)	講義とプリントによる簡単な演習が中心です。ノートをしっかり取り、章ごとに整理・復習しましょう。複利計算など、基礎的な数学力が必要 (電卓必携) です。		
成績評価方法	①期末試験 (教場試験またはレポート) 50%、②平常点 50%が評価の目安です。		
基準			
授業の予習・復習	予習: 配布プリントを予習しましょう。 復習: 練習問題を自宅で演習し、次の授業時間に答え合わせをしましょう。		
教科書	とくに使用しません。		
参考文献	滝川好夫『入門ファイナンス理論』日本評論社、2007年。 Simon Benninga, Financial Modeling, The MIT Press, 2008.		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	「ファイナンス」講義の概要	講義スケジュール等を説明	
第2回	第1章: 財務諸表	貸借対照表と損益計算書	
第3回	第2章: 財務分析	安全性と収益性の指標	
第4回	第3章: キャッシュフロー①	キャッシュフローの概要	
第5回	第3章: キャッシュフロー②	フリーキャッシュフロー	
第6回	第4章: 資本コスト	加重平均資本コスト (WACC)	
第7回	第5章: 投資の決定	正味現在価値と内部収益率	
第8回	第6章: 企業価値	企業価値の算出	
第9回	第7章: 最適資本構成①	MM理論	
第10回	第7章: 最適資本構成②	法人税と倒産リスク	
第11回	第8章: 配当政策①	増配	
第12回	第8章: 配当政策②	自社株買い	
第13回	第9章: 財務戦略①	IPOとM&A	
第14回	第9章: 財務戦略②	TOBとMBO	
第15回	「ファイナンス」講義のまとめ	総括と補遺事項	

国際

授業番号	B102720001				
科目名 (英語表記)	フィールド調査 (Field Studies)				
担当者 (英語表記)	村川 庸子 (Yoko Murakawa)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は、フィールドワークやインタビューの手法を用いた質的データの収集法及びデータの分析方法を学び、身につけることを目的とする。量的調査との比較に於いて、質的調査のもつ可能性、方法を理論的に学び、基本的な概念の理解と論理的な思考力、構成力を養う。最終的に、簡単な調査を企画し、データ収集、整理、解析から報告書の作成までを実践することで、フィールド調査の可能性を体感させたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	前半は講義形式で、後半はグループでフィールドワークを企画・実践し、報告書を作成する。実習を伴う科目であるので、定員を30名以内に制限する。テーブを起こすなどの作業は必須。				
成績評価方法	コーネル式ノート作成法を活用する。前半は講義のまとめに、後半の実習ではフィールドノートとして用いる。				
基準					
授業の予習・復習	予習：テキストの指定部分を読み、概要をまとめておくこと。 復習：ノートの「コメント」欄をまとめておくこと。				
教科書	佐藤郁哉『フィールドワーク 書を持って街へ出よう』(新曜社)				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	導入	フィールドワークの実践例			
第2回	フィールドワークとは何か？	フィールドワークとは何か テキスト16-72			
第3回	理論と実証	質的調査と量的調査 理論の「生成」 テキスト74-93			
第4回	質的データの扱い方	質的研究におけるデータと「感受概念」 テキスト94-116			
第5回	社会調査の可能性	社会調査の方法：フィールドワーク、サーベイ、実験、非干渉的技法 テキスト116-146			
第6回	社会調査を企画する①	研究の企画設計—関心領域の特定と研究対象 テキスト149-157			
第7回	社会調査を企画する②	質的データの収集法(1) 参与観察の手法 テキスト158-254			
第8回	社会調査を企画する③	質的データの収集法(2) 調査倫理、アクセス			
第9回	社会調査を企画する④	質的データの収集法(3) 半構造的インタビュー			
第10回	社会調査を企画する⑤	質的データの収集法(4) ライフヒストリー			
第11回	質的データのまとめ方	質的データの整理と分析—データの文書化と分析			
第12回	面接(グループワーク)	フィールドワークの実施			
第13回	口頭報告(グループワーク)	分析結果の報告			
第14回	クラスワーク	調査結果の執筆			
第15回	まとめ	総括			

国際					
授業番号	B104260001				
科目名 (英語表記)	文学入門 (Introduction to literature)				
担当者 (英語表記)	畑中 千晶 (Chiaki Hatanaka)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	小学校の教科書に収録されることの多い、安房直子や宮沢賢治の童話を題材として、文学を読み解くコツを習得していきます。自分の力で作品の魅力を引き出せるようになること、それを言葉で表現できるようになることが到達目標です。国語科「伝統的な言語文化」の指導に備え、古典文学に親しむ態度も涵養していきます。				
授業の進め方 (履修条件など)	作者の略歴を知ることから始め、教科書掲載作品を読み解いたのち、応用編として同じ作家の別の作品を読み進めます。〈文学〉は作品を読まないところには存在しません。テキストを必ず購入し、読むことが大切です。				
成績評価方法	クラス内で課すタスクと授業参加度 (50%)、期末試験 (50%)				
基準					
授業の予習・復習	予習：次回取り扱う作品を読む。 復習：指定されたタスクに取り組む。				
教科書	宮沢賢治 (2010) 『注文の多い料理店』新潮文庫 安房直子 (2006) 『風と木の歌』偕成社文庫 古典文学に関しては、配付資料を用います。				
参考文献	『新校本 宮沢賢治全集』 『宮沢賢治イーハトーヴ学事典』 『安房直子コレクション』 このほか適宜紹介。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	イントロダクション	講義の進め方、テキストについて			
第2回	ウォーミングアップ	物語の楽しさを思い出す			
第3回	安房直子 1	略年譜、諸作品の傾向			
第4回	安房直子 2	「きつねの窓」の読解・分析			
第5回	安房直子 3	「さんしょっ子」の読解・分析			
第6回	安房直子 4	作品構造と色彩に着目し、複数の短編を比較してみる			
第7回	安房直子 5	分析結果の報告、まとめ			
第8回	宮沢賢治 1	略年譜、諸作品の傾向			
第9回	宮沢賢治 2	「どんぐりと山猫」の読解・分析			
第10回	宮沢賢治 3	「注文の多い料理店」の読解・分析			
第11回	宮沢賢治 4	「雪渡り」「ひかりの素足」の読解・分析			
第12回	宮沢賢治 5	「おきなぐさ」「なめとこ山の熊」の読解・分析			
第13回	古典文学に親しむ 1	「伝統的な言語文化」の扱いについて			
第14回	古典文学に親しむ 2	歌舞伎の面白さに触れる (動物の出てくる芝居)			
第15回	まとめ	前期の学習内容をふりかえる			

国際

授業番号	B100020001		
科目名 (英語表記)	文章表現 (Writing Expression)	留学生	
担当者 (英語表記)	本多 久美子 (Kumiko Honda)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	この授業では、さまざまなテーマについて読んだり書いたりする練習をしながら、大学生にとって必要な"レジュメ"や"レポート"を書くことができるような日本語力を身につけることを目標にしている。 また、聞きやすい、わかりやすい日本語を話すために、音読やプレゼン練習も随時行う。		
授業の進め方 (履修条件など)	(1) 関連資料を読む (2) テーマについて話し合う (3) 内容をまとめて書く (4) 書いたものをセルフチェックする (5) ことばドリル		
成績評価方法	毎回の課題作成 (30%) 発表 (40%) 作文集 (30%)		
基準			
授業の予習・復習	予習：授業内容について調査をし、授業の準備をしておく。 復習：授業内で書いた内容をワープロで清書して、提出する。		
教科書	毎回、プリントを配るので、なくさないようにファイルしておくこと。		
参考文献	授業内で指示する。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	紹介文Ⅰ 何をどのように書くか	話しことばと書きことば 段落構成を学ぶ	
第2回	紹介文Ⅱ 具体的に書く	課題Ⅰ 「私の好きなもの (こと)」	
第3回	紹介文Ⅲ ガイドブックを書く	オリジナルな情報を集める	
第4回	紹介文Ⅳ ガイドブックを書く	課題Ⅱ 「私の好きな町」	
第5回	賛成・反対の意見文Ⅰ 資料を読む	さまざまな意見の比較検討	
第6回	賛成・反対の意見文Ⅱ 自分の意見をまとめる	課題 「高校の制服」をテーマに	
第7回	賛成・反対の意見文Ⅲ 資料を読む	さまざまな意見の比較検討	
第8回	賛成・反対の意見文Ⅳ 自分の意見をまとめる	課題 「夫婦別姓」をテーマに	
第9回	before/after の文章Ⅰ 時間と変化の表現	変化のきっかけと変化の内容	
第10回	before/after の文章Ⅱ	課題 「○○になる (する) 前と後」	
第11回	before/after の文章Ⅲ 社会の変化や環境の変化	社会や環境の変化について調べる	
第12回	before/after の文章Ⅳ	課題 「○○になる (できる) 前と後」	
第13回	before/after の文章Ⅴ 自分自身の変化を考える	課題 「私の before/after」	
第14回	発表会の準備	発表用スライドとハンドアウトの作成と発表練習	
第15回	最終発表会	発表課題 「私の before/after」	

国際						
授業番号	B100020002					
科目名 (英語表記)	文章表現 (Writing Expression)				日本人 (B)	
担当者 (英語表記)	坂東 実子 (Jitsuko Bando)	対象学年	1	単位数	2	
授業のねらいと到達目標	<p>大学で学び、レポートや研究発表をする基礎となる文章表現の力を身につける。</p> <p>客観的分析と、主観的な判断も交えた考察をわけて、明快な文章が書けるようになる。</p> <p>大学二年生以降の学びに役に立つ個人文集を作成する。</p>					
授業の進め方 (履修条件など)	<p>前期「口頭表現」・後期「文章表現」であるが、厳密に分けず、文章表現したものを口頭発表する。</p> <p>毎回、当日のテーマの概要説明を受け、練習問題に取り組んだ後、作文設計図または、作文課題を授業時間内に書いて提出する。</p> <p>添削された作文を受け取ったら速やかに PC で清書、メール提出。</p>					
成績評価方法	授業で作成した 6 種の課題が収録された「個人文集」の完成度と、毎回の授業や提出する課題への取り組みによって判定する。					
基準						
授業の予習・復習	<p>予習は、授業で書く作文のテーマについて調べ、考える。</p> <p>復習は、添削・返却された自分の作文を、PC で清書し、教師にメールで送付。</p>					
教科書	銅直信子・坂東実子著「大学生のための文章表現&口頭発表練習帳」(2013.03 国書刊行会)					
参考文献	特になし。					
回数	授業項目	授業内容				
第 1 回	<p>授業概要。</p> <p>課題①「私のおすすめの本」(専門書) 紹介文作成</p> <p>課題②敬語劇の準備</p>	<p>夏休み中に、専門書(ゼミの先生の推薦図書など)を一冊必ず読んでおく。前期に書いた同じ構成で紹介文を書く。</p> <p>敬語劇のグループ分け、劇のテーマの話し合いなど。</p>				
第 2 回	<p>課題①「私のおすすめの本」(専門書) スピーチ。</p> <p>課題②敬語劇の準備</p>	<p>課題①スピーチ。スピーチの評価。</p> <p>敬語劇話し合い。</p>				
第 3 回	<p>課題①「私のおすすめの本」(専門書) スピーチ続き。</p> <p>課題②敬語劇準備。</p>	<p>課題①スピーチ、スピーチの評価。</p> <p>敬語劇の話し合い。</p>				
第 4 回	課題②「敬語劇」台本完成・劇練習	敬語劇の台本完成・劇練習。				
第 5 回	課題②「敬語劇」上演。	敬語劇をグループごとに上演。				
第 6 回	<p>課題③「before/after 自分の変化」下書き</p> <p>課題④「履歴書」の書き方</p>	<p>何かをきっかけとした自分の変化について 5 段構成で時間軸をはっきりさせて書く。</p> <p>「履歴書」志望動機欄の書き方</p>				
第 7 回	<p>課題③「before/after 自分の変化」作成。</p> <p>課題⑤「履歴書」</p>	<p>自分の変化について書く。</p> <p>「履歴書」希望条件欄の書き方</p>				
第 8 回	<p>課題④「before/after 社会の変化」下書き。</p> <p>課題⑤「履歴書」</p>	<p>社会の変化について書く。</p> <p>「履歴書」学歴・職歴・資格欄の書き方。</p>				
第 9 回	<p>課題④「before/after 社会の変化」作成。</p> <p>課題⑤「履歴書」。</p>	<p>何かをきっかけに変わった社会の変化について五段構成で書く。</p> <p>「履歴書」趣味・特技欄の書き方</p>				
第 10 回	課題⑥「対立項と時間軸のあるレポート」下書き。	「家庭での親子の接し方の国際比較 1994/2004」(文科省管轄独立行政法人国立女性教育会館)の資料を読み、日本と一カ国を比較、その国について調べる。1994 年から 2004 年までの社会の変化を調べる。				
第 11 回	課題⑥「対立項と時間軸のあるレポート」作成。	レポートを書く				
第 12 回	課題⑥「対立項と時間軸のあるレポート」作成。	レポートを書く				
第 13 回	文集作成。	PCのある教室で、個人文集を作成する。				
第 14 回	文集作成。	Word の使い方。				
第 15 回	文集を完成させ、提出。	PCのある教室で、個人文集を完成させ、提出する。				
		Word の使い方。				

国際					
授業番号	B100020003				
科目名（英語表記）	文章表現（Writing Expression）			（B）こども専用	
担当者（英語表記）	山口 政之（Masayuki Yamaguchi）	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	大学生活及び教育実習で求められる文章表現能力を高めるために、様々な書く活動を行います。また、ライセンス取得を支援するために、問題集等を適宜活用しますので、進んで挑戦してください。				
授業の進め方（履修条件など）	毎回、次のように進めます。①出席確認、②小テスト・課題発表、③本時の課題。電子辞書は必要ですが、原則として携帯・スマホの使用は認めません。				
成績評価方法	出席の状況、課題への取り組み、発言、定期試験等をふまえ総合的に評価します。自己責任による遅刻は減点し、欠席4回は履修放棄とみなします。				
授業の予習・復習	授業で出た課題は、次の時間に各自が発表するので必ず取り組んでください。				
教科書	適宜、印刷物を配布します。				
参考文献	木下是雄『理科系の作文技術』中公新書、本多勝一『日本語の作文技術』朝日文庫、斎藤美奈子『文章読本さん江』ちくま文庫				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	口頭表現との関連を理解し、発表の準備を確実にしようとする。			
第2回	発表原稿1	90秒で400字の発表ができるように内容と構成を考える。			
第3回	発表原稿2	エピソードを付け加えながら資料を説明する原稿を書く。			
第4回	発表原稿3	発表練習の反省をもとに原稿を修正し、最終原稿を仕上げる。			
第5回	要約1	物語文を要約し、検討する。			
第6回	要約2	新聞記事を要約し、検討する。			
第7回	要約3	専門書の一部を要約し、検討する。			
第8回	引用1	模範論文を読み、引用の作法を理解する。			
第9回	引用2	レポート作成を想定し、実際に引用した文章を書く。			
第10回	小論文1	小論文の構成を理解し、立論する。			
第11回	小論文2	反論、反駁を取り入れて立論する。			
第12回	小論文3	ディベートを受けて、小論文を書く。			
第13回	手紙1	手紙の形式を理解し、実際に書く。			
第14回	手紙2	葉書の形式を理解し、実際に書く。			
第15回	まとめ	読書と文章表現の関連を理解し、今後の読書生活に見通しをもつ。			

国際					
授業番号	B100020005				
科目名 (英語表記)	文章表現 (Writing Expression)			(A) こども専用	
担当者 (英語表記)	山口 政之 (Masayuki Yamaguchi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	大学生活及び教育実習で求められる文章表現能力を高めるために、様々な書く活動を行います。また、ライセンス取得を支援するために、問題集等を適宜活用しますので、進んで挑戦してください。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回、次のように進めます。①出席確認、②小テスト・課題発表、③本時の課題。電子辞書は必要ですが、原則として携帯・スマホの使用は認めません。				
成績評価方法	出席の状況、課題への取り組み、発言、定期試験等をふまえて総合的に評価します。自己責任による遅刻は減点し、欠席4回は履修放棄とみなします。				
授業の予習・復習	授業で出た課題は、次の時間に各自が発表するので必ず取り組んでください。				
教科書	適宜、印刷物を配布します。				
参考文献	木下是雄『理科系の作文技術』中公新書、本多勝一『日本語の作文技術』朝日文庫、斎藤美奈子『文章読本さん江』ちくま文庫				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	口頭表現との関連を理解し、発表の準備を確実にしようとする。			
第2回	発表原稿1	90秒で400字の発表ができるように内容と構成を考える。			
第3回	発表原稿2	エピソードを付け加えながら資料を説明する原稿を書く。			
第4回	発表原稿3	発表練習の反省をもとに原稿を修正し、最終原稿を仕上げる。			
第5回	要約1	物語文を要約し、検討する。			
第6回	要約2	新聞記事を要約し、検討する。			
第7回	要約3	専門書の一部を要約し、検討する。			
第8回	引用1	模範論文を読み、引用の作法を理解する。			
第9回	引用2	レポート作成を想定し、実際に引用した文章を書く。			
第10回	小論文1	小論文の構成を理解し、立論する。			
第11回	小論文2	反論、反駁を取り入れて立論する。			
第12回	小論文3	ディベートを受けて、小論文を書く。			
第13回	手紙1	手紙の形式を理解し、実際に書く。			
第14回	手紙2	葉書の形式を理解し、実際に書く。			
第15回	まとめ	読書と文章表現の関連を理解し、今後の読書生活に見通しをもつ。			



国際						
授業番号	B100020006					
科目名 (英語表記)	文章表現 (Writing Expression)				日本人 (A)	
担当者 (英語表記)	坂東 実子 (Jitsuko Bando)	対象学年	1	単位数	2	
授業のねらいと到達目標	<p>大学で学び、レポートや研究発表をする基礎となる文章表現の力を身につける。</p> <p>客観的分析と、主観的な判断も交えた考察をわけて、明快な文章が書けるようになる。</p> <p>大学二年生以降の学びに役に立つ個人文集を作成する。</p>					
授業の進め方 (履修条件など)	<p>前期「口頭表現」・後期「文章表現」であるが、厳密に分けず、文章表現したものを口頭発表する。</p> <p>毎回、当日のテーマの概要説明を受け、練習問題に取り組んだ後、作文設計図または、作文課題を授業時間内に書いて提出する。</p> <p>添削された作文を受け取ったら速やかに PC で清書、メール提出。</p>					
成績評価方法	授業で作成した 6 種の課題が収録された「個人文集」の完成度と、毎回の授業や提出する課題への取り組みによって判定する。					
基準						
授業の予習・復習	<p>予習は、授業で書く作文のテーマについて調べ、考える。</p> <p>復習は、添削・返却された自分の作文を、PC で清書し、教師にメールで送付。</p>					
教科書	銅直信子・坂東実子著「大学生のための文章表現&口頭発表練習帳」(2013.03 国書刊行会)					
参考文献	特になし。					
回数	授業項目	授業内容				
第 1 回	<p>授業概要。</p> <p>課題①「私のおすすめの本」(専門書) 紹介文作成</p> <p>課題②敬語劇の準備</p>	<p>夏休み中に、専門書(ゼミの先生の推薦図書など)を一冊必ず読んでおく。前期に書いた同じ構成で紹介文を書く。</p> <p>敬語劇のグループ分け、劇のテーマの話し合いなど。</p>				
第 2 回	<p>課題①「私のおすすめの本」(専門書) スピーチ。</p> <p>課題②敬語劇の準備</p>	<p>課題①スピーチ。スピーチの評価。</p> <p>敬語劇話し合い。</p>				
第 3 回	<p>課題①「私のおすすめの本」(専門書) スピーチ続き。</p> <p>課題②敬語劇準備。</p>	<p>課題①スピーチ、スピーチの評価。</p> <p>敬語劇の話し合い。</p>				
第 4 回	課題②「敬語劇」台本完成・劇練習	敬語劇の台本完成・劇練習。				
第 5 回	課題②「敬語劇」上演。	敬語劇をグループごとに上演。				
第 6 回	<p>課題③「before/after 自分の変化」下書き</p> <p>課題④「履歴書」の書き方</p>	<p>何かをきっかけとした自分の変化について 5 段構成で時間軸をはっきりさせて書く。</p> <p>「履歴書」志望動機欄の書き方</p>				
第 7 回	<p>課題③「before/after 自分の変化」作成。</p> <p>課題⑤「履歴書」</p>	<p>自分の変化について書く。</p> <p>「履歴書」希望条件欄の書き方</p>				
第 8 回	<p>課題④「before/after 社会の変化」下書き。</p> <p>課題⑤「履歴書」</p>	<p>社会の変化について書く。</p> <p>「履歴書」学歴・職歴・資格欄の書き方。</p>				
第 9 回	<p>課題④「before/after 社会の変化」作成。</p> <p>課題⑤「履歴書」。</p>	<p>何かをきっかけに変わった社会の変化について五段構成で書く。</p> <p>「履歴書」趣味・特技欄の書き方</p>				
第 10 回	課題⑥「対立項と時間軸のあるレポート」下書き。	「家庭での親子の接し方の国際比較 1994/2004」(文科省管轄独立行政法人国立女性教育会館)の資料を読み、日本と一カ国を比較、その国について調べる。1994 年から 2004 年までの社会の変化を調べる。				
第 11 回	課題⑥「対立項と時間軸のあるレポート」作成。	レポートを書く				
第 12 回	課題⑥「対立項と時間軸のあるレポート」作成。	レポートを書く				
第 13 回	文集作成。	PCのある教室で、個人文集を作成する。				
第 14 回	文集作成。	Word の使い方。				
第 15 回	文集を完成させ、提出。	PCのある教室で、個人文集を完成させ、提出する。				
		Word の使い方。				

国際		
授業番号	B100020007	
科目名 (英語表記)	文章表現 (Writing Expression) 日本人 (C)	
担当者 (英語表記)	櫻木 紀子 (Noriko Sakuragi) 対象学年 1 単位数 2	
授業のねらいと到達目標	大学の授業で課されるレポート作成などに必要な文章力を養う。客観的・論理的に分析し、読んで分かる文章を書く訓練をする。自分の文集を作成する。	
授業の進め方 (履修条件など)	あ) 毎回、その日のテーマにそった練習をする。 い) 授業時間内にその日の課題作文を書き、提出する。課題作文は7つある。 う) 返却された作文をPCで作成し、提出する。	
成績評価方法	8つの課題作文をまとめた「自分の文集」の完成度と授業・提出された課題への取り組み方により評価する。	
基準		
授業の予習・復習	予習：作文のテーマについて調べたり考えたりする。 復習：添削・返却された作文をPCで清書し、提出する。	
教科書	学期の始めに教室で販売する。「大学生のための文章表現&口頭発表練習帳」	
参考文献	ない。適当なものがあれば、授業中に紹介される。	
回数	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション。 作文(1) 説明文作成。	授業の概要説明。 客観的記述・主観的記述。三段落構成の説明文を書く。
第2回	作文(2)の1：意見文	作文(1) 講評。 作文(2) 三段落の意見文の設計図を書く。
第3回	作文(2)の2：意見文を書く。	自分と反対の意見にも理解を示しつつ自分の意見を述べる作文を書く。
第4回	作文(3)の1：課題文を考慮に入れた意見文の設計図を作成する。	新聞記事などを資料とし、自分と異なる意見に配慮を示しつつ、自分の意見を述べる作文の設計図を作成する。
第5回	作文(3)の2：意見文を書く。	返却された作文(3)の1をもとに作文を完成させる。
第6回	作文(4)：手紙文	敬語復習。手紙の書式(頭語や結語など)の復習。 適切な敬語を使って手紙を書く。
第7回	作文(5)：履歴書を書く。	市販の履歴書を書く。志望動機の書き方などを授業で確認し、書く。完成させ、提出する。
第8回	作文(6)の1：自分について前後を比較する。設計図作成。	何かをきっかけに変化した自分について書く。その前の自分とその後の自分を比較する。 例)「外国語を学ぶ前と後」など
第9回	作文(6)の2：作文完成。	作文(6)の1の設計図をもとに作文を四段落で完成する。
第10回	作文(7)社会のことについて前後を比較する。設計図作成。	基だしい社会の変化をもたらしたできごとをとりあげ、その前と後を対比し考察する作文作成。
第11回	作文(7)の2：作文完成。	作文(7)の1をもとに作文を完成させる。
第12回	作文(8)の1：時間軸と対立項のある作文。設計図作成。	作文(2)や作文(6)、(7)を参考に時間軸と対立項の両方をもつ作文の設計図を作成する。
第13回	作文(8)の2：完成させる。	作文(8)の1をもとに、作文を完成させる。
第14回	各自の文集作成。word文書の整え方を確認する。	文集を完成させる。これまでの作文の清書を、書式を整えてまとめる。(表紙、目次、あとがき)
第15回	文集を完成させ、提出する。	文集完成作業。終わったら提出する。教師が見て返却する。

国際					
授業番号	B101860001				
科目名 (英語表記)	平和・安全保障論 (Peace and National Securities)				
担当者 (英語表記)	庄司 真理子 (Mariko Shoji)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	グローバル化の今日、戦争とは全く縁もないと思われる日本の生活も、実は地球の裏側で起きている戦争に大きく関わっている。本講の目的は、最終的に今日のグローバル化における『新しい戦争』ともいえる現象に、どのように向き合っていって良いのかを検討することにある。その前提として、人類が戦争を克服し平和をもたらすために、どのような方途を編み出してきたのかを検討する必要がある。講義では、まずは古典的な形式である国家対国家の戦争の違法化の問題からはじめ、国連の平和と安全の維持制度の検討、その後の新しい平和への課題の模索へと議論をすすめる。講義の中で理解してほしいことは、旧来の戦争と異なり、今日の戦争の主体は国家ではなく地球市民、すなわち私たち一人一人となってきていることである。私たちの姿勢が、地球に戦争をもたらすか平和をもたらすかを決定づけていることを認識してほしい。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義形式で授業をすすめる。平和研究を学ぶ上で、その裏返しの戦争の体験をした学生は少ない。授業にかかわる短いビデオなどを見ながら戦争を疑似体験してもらう予定である。				
成績評価方法 基準	授業の参加態度 40%、中間のテスト 30%、中間試験 30%				
授業の予習・復習	予習については講義中に指示する。特に授業中が勝負である。真摯な授業態度で臨んでほしい。復習は、講義ノートを良く読むこと。講義中に示したビデオのいくつかは映画が出ているので、メディアセンターなどで借りて見るようにしてほしい。適宜、グループ・ディスカッションをとりいれ、リアクション・ペーパーをだしてもらう。				
教科書	一つに限定しない。参考文献を参照のこと。				
参考文献	小柏・松尾『アクター発の平和学』法律文化社。 藤原・大芝・山田編『平和構築・入門』有斐閣コンパクト。 山田・小川・野本・上杉『新しい平和構築論』明石書店。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	イントロダクション	「平和」とは何か			
第2回	戦争法の時代	正戦論 無差別戦争観			
第3回	戦争の違法化	「西部戦線異状なし」			
第4回	国連による平和と安全の維持 I	集団安全保障制度 北朝鮮			
第5回	国連による平和と安全の維持 II	紛争の平和的解決 スリランカ			
第6回	国連平和維持活動	国連平和維持活動とレバノン			
第7回	平和への課題	予防外交 (紛争予防)、「スレブレニツァの悲劇」マケドニア予防展開軍			
第8回	中間まとめ	これまで7回の講義で得た知識を確認する。			
第9回	平和構築 I	平和構築とイラン			
第10回	平和構築 II	アフガニスタンと紛争後選挙			
第11回	平和構築 III	真実和解委員会と南アフリカ			
第12回	人間の安全保障	人間の安全保障とコンゴ			
第13回	人道的介入と保護する責任	リビアと保護する責任			
第14回	企業・地球市民社会と紛争	国連グローバルコンパクト			
第15回	武器商人・子ども兵・密輸	シエラレオネ			

国際

授業番号	B102260001				
科目名 (英語表記)	簿記会計基礎 (Bookkeeping and Accounting)				
担当者 (英語表記)	佐竹 勇子 (Yuko Satake)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>本講義は、初めて簿記を学ぶ人に簿記のしくみを理解してもらい、実務で使用されている会計ソフトを利用して、コンピュータによる簿記会計の基礎知識を修得することを目的とする。</p> <p>この基礎知識をもとに、ITパスポート試験会計分野の基礎固め、および演習問題などで解く力を身につけて日商簿記検定3級を目指す。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	教科書と配布プリントをもとに簿記の一定のルールを学習しながら、会計ソフト弥生を実習する。				
成績評価方法	平常点及び課題提出 (40%)・定期試験 (60%)				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習：特に必要としない</p> <p>復習：教科書を見直して簿記用語を覚えてください。</p>				
教科書	新版日商簿記 3級テキスト 実教出版				
参考文献	平成 26 年度版 コンピュータ会計 初級 実教出版				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と評価方法			
第 2 回	簿記を学ぶにあたって	簿記の意味、種類、役割			
第 3 回	貸借対照表	資産・負債・資本			
第 4 回	損益計算書	収益・費用			
第 5 回	取引と勘定	5つの勘定と勘定科目・取引の2面性			
第 6 回	仕訳と転記	伝票の種類と仕訳帳・元帳			
第 7 回	試算表	試算表の役割と検証			
第 8 回	決算の基礎	決算の手続き、精算表作成			
第 9 回	会計ソフト (弥生 1)	起動と環境設定・保存方法			
第 10 回	会計ソフト (弥生 2)	勘定科目と補助科目の作成および修正			
第 11 回	会計ソフト (弥生 3)	開始残高の入力			
第 12 回	会計ソフト (弥生 4)	仕訳入力画面の基本操作			
第 13 回	会計ソフト (弥生 5)	帳簿や伝票からの入力方法			
第 14 回	会計ソフト (弥生 6)	集計表と会計情報の活用			
第 15 回	まとめ	復習と定期試験対策			

国際							
授業番号	B103640001						
科目名 (英語表記)	ボランティア活動 I (Volunteerism and Society I)				(国際のみ)		
担当者 (英語表記)	水口 章 (Akira Mizuguchi)			対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本授業では、「ボランティア元年」といわれた阪神・淡路大震災における「まずはやってみよう！」という精神と、東日本大震災で問われた「ボランティアが持っていたい能力・スキル」について学びます。また、国際的に活動している日本のボランティア組織について紹介します。その知識をもとに、ボランティア活動の実施計画の立案、実施を到達目標とします。						
授業の進め方 (履修条件など)	授業形式は、講義とブレインストーミングを組み合わせたものとなります。短期課題として、国際的に活動しているボランティア組織の活動の例から、課題や改善方法について学び、その上で実施計画を作成します。						
成績評価方法	小レポート 20%、活動実施・計画書作成・自己評価書作成 80%で評価します。						
基準							
授業の予習・復習	予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。 復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べ、理解を深めてください。						
教科書	特に指定しませんが、適宜プリントを配布します。						
参考文献	特に指定しません。						
回数	授業項目	授業内容					
第 1 回	はじめに	国際社会のボランティア活動への期待について学ぶ					
第 2 回	学習手法	ブレインストーミング手法と KJ 法による整理の仕方を学ぶ					
第 3 回	ボランティアの現状	ボランティア活動が現在抱えている課題について学ぶ					
第 4 回	求められるボランティア像	精神・能力・スキルについて学ぶ					
第 5 回	自由討論	「ボランティア活動疲れ」についての討論					
第 6 回	ボランティア活動の実態報告 1	海外のボランティア組織の活動を知る					
第 7 回	ボランティア活動の実態報告 2	日本の国際ボランティア組織の活動を知る					
第 8 回	ボランティア活動の実態報告 3	教育機関 (高校、大学など) の活動を知る					
第 9 回	ボランティア活動の実態報告 4	企業のボランティア活動の実態を知る。					
第 10 回	自由討論	「千葉県のボランティア活動の課題」について討論					
第 11 回	グループ作業 1	実践するボランティア活動内容の検討					
第 12 回	グループ作業 2	実施計画書作成 (目的、目標)					
第 13 回	グループ作業 3	実施計画書作成 (実施方法・計画)					
第 14 回	ボランティア活動の実施	授業で作成した計画をもとに地域でのボランティア活動を実践する					
第 15 回	まとめ	ボランティア活動の自己評価 (討論形式)					

国際

授業番号	B103650001				
科目名 (英語表記)	ボランティア活動 II (Volunteerism and Society II)			(国際のみ)	
担当者 (英語表記)	大月 隆成 (Takashige Otsuki)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	ボランティアとは、ボランティアをしようとする人間の、自由な意思に基づいた行動であり、関わり方は人それぞれである。この授業では、実際にボランティアを経験することを通して、(1) 自ら積極的に物事に関わっていく姿勢を培い、(2) ボランティアとは自分が多くのことを学び身につける場であることを、体感的に会得することを目指す。				
授業の進め方 (履修条件など)	ボランティア活動 I を履修していることが履修条件である。事前に計画書を提出した上で実際にボランティア活動を行い、報告書を提出した者に対して、単位認定の審査を行う。				
成績評価方法	ボランティア結果のレポートに基づいて評価を行う。どのようなボランティアをどの程度行ったかは、当然重要な要素となる。				
基準					
授業の予習・復習	事前に情報収集を行って、どのようなボランティアがあるかを調べる。ボランティアを通して自らが経験したことや得たものを、その都度記録しておく。				
教科書	特定の教科書は使用しない。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法等			
第 2 回	ボランティア計画の作成 (1)	ボランティア情報の収集			
第 3 回	ボランティア計画の作成 (2)	ボランティアを行うに当たっての留意点			
第 4 回	ボランティア計画の作成 (3)	ボランティア計画書の書き方			
第 5 回	ボランティア活動の実施 (1)	個別面談 (1)			
第 6 回	ボランティア活動の実施 (2)	個別面談 (2)			
第 7 回	ボランティア活動の実施 (3)	個別面談 (3)			
第 8 回	ボランティア活動の実施 (4)	個別面談 (4)			
第 9 回	ボランティア活動報告書の作成 (1)	ボランティア活動報告書の書き方			
第 10 回	ボランティア活動の実施 (5)	個別面談 2 回目 (1)			
第 11 回	ボランティア活動の実施 (6)	個別面談 2 回目 (2)			
第 12 回	ボランティア活動の実施 (7)	個別面談 2 回目 (3)			
第 13 回	ボランティア活動の実施 (8)	個別面談 2 回目 (4)			
第 14 回	ボランティア活動報告書の作成 (2)	報告書のポイントと留意事項			
第 15 回	まとめ	これからのボランティアのために			

国際

授業番号	B102290001				
科目名 (英語表記)	マーケティング (Marketing)				
担当者 (英語表記)	金 珍淑 (Kim Jinsuk)	対象学年	2 (こども は 3)	単位数	2
授業のねらいと 到達目標	本講義は、英語による経営専門書を購読しながらマーケティングのコンセプトを理解することを目標とします。実業界でどのようなマーケティング活動がおこなわれているのかを学び、マーケティング展開において活用される様々なコンセプトを英語の経営書を通じて学習します。				
授業の進め方 (履修条件など)	授業では、マーケティング・ミックスにかかわるコンセプトを中心にディスカッション形式で理論とケースを学びます。必要に応じて、ケーススタディのためのビデオ教材を用います。				
成績評価方法 基準	中間レポート第1回 (50%)、中間レポート第2回 (50%) で評価します。				
授業の予習・復習	予習：毎回配布される英文のプリントを読んでください。 復習：前回の配布資料を再読しておくことをお勧めします。				
教科書	特にありません。毎回必要な資料を配布します。				
参考文献	Kotler, Philip. (2003), Marketing Insights from A to Z: 80 Concepts Every Manager Needs to Know, Wiley.				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方についての説明			
第2回	Customer Orientation	Customers			
第3回	Customer Orientation	Customer Needs			
第4回	Customer Orientation	Customer Satisfaction			
第5回	Marketing Mix	Products			
第6回	Marketing Mix	Price			
第7回	Marketing Mix	Communication and Promotion			
第8回	Marketing Mix	Distribution and Channels			
第9回	STP	Segmentation			
第10回	STP	Target Markets			
第11回	STP	Positioning			
第12回	Brand	Brands			
第13回	Brand	Corporate Branding			
第14回	Relationship Marketing	Customer Relationship Management (CRM)			
第15回	Relationship Marketing	Database Marketing			

国際

授業番号	B102300001				
科目名 (英語表記)	マーケティングリサーチ I (Marketing research I)				
担当者 (英語表記)	中嶋 励子 (Reiko Nakajima)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	社会調査・マーケティングリサーチで収集するデータの分析方法を、社会科学統計パッケージソフト (SPSS) を用いて学びます。到達目標は、授業で扱うデータを用いて、記述統計量 (平均値、分散、標準偏差、中央値等)、単純集計、クロス集計 ( $\chi^2$ 検定を含む)、相関などの分析が行えるようになること、それぞれの統計値や分析に適切なグラフを示すことができるようになること、統計分析の結果の適切な解釈及びレポートにまとめる力をつけることです。				
授業の進め方 (履修条件など)	パソコンによる基本操作 (エクセル、ワードなど) はできるようにしておくこと。 統計用語の知識は、授業の中で適宜説明していきますので、復習すること。 尚、統計パッケージ SPSS は、大学内で使用可能ですので、積極的に自習することを求めます。				
成績評価方法 基準	平常点 (毎回の授業時間内に提出する小課題) 50% 中間課題及び最終課題 (期日厳守) 50%				
授業の予習・復習	予習: 次回授業に関連する統計用語について、積極的に予習してくること。 復習: 毎回の授業で学ぶ分析方法を確実に身につけるために、自習時間を利用して、授業内容や課題を理解するようにすること。 繰り返し行うことにより、分析や解釈を身につけるようにしてください。 特に、授業内に提出する課題については、講師のコメントや解説をよく見聞きし、十分に復習しておくこと。				
教科書	『社会調査のための統計学』 神林博史・三輪哲 評論社 (2011年)				
参考文献	『SPSS と Amos による心理・調査データ解析第 2 版』 小塩真司、東京図書 (2011年) 『統計学入門』 小島寛之、ダイヤモンド社 (2006年)				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	授業のねらいと到達目標、評価方法など			
第 2 回	データ入力・編集	エクセルでのデータ入力、統計ソフト SPSS 用 (sav.) 変換			
第 3 回	尺度の種類、変数の種類	質的・量的変数、尺度の種類、変数ラベル・値ラベル			
第 4 回	分析のための基礎統計用語	データ分析を行うための基礎的な統計用語の説明			
第 5 回	データの単純集計	データの単純集計表の作成と見方の説明			
第 6 回	単純集計のまとめ方	変数の種類などに適したグラフの作成の仕方			
第 7 回	基本統計量	度数分布に関する基本統計量			
第 8 回	クロス集計 (2 変数)	質的データ 2 変数のクロス集計表の作成とその解釈			
第 9 回	$\chi^2$ 検定	$\chi^2$ 検定とその解釈			
第 10 回	クロス集計 (3 変数)	質的データ 3 変数のクロス集計表の作成とその解釈			
第 11 回	相関 (1)	散布図、相関係数、はずれ値			
第 12 回	相関 (2)	擬似相関、偏相関、相関と因果			
第 13 回	複数回答のデータ	複数回答の集計表の作成と解釈			
第 14 回	新しい変数の作成、ケース選択	複数カテゴリのまとめ方、必要なケースの選択			
第 15 回	データ分析のまとめ	データ分析を適切にまとめる方法			



国際

授業番号	B102390001				
科目名 (英語表記)	マーケティングリサーチ II (Marketing research II)				
担当者 (英語表記)	高橋 和子 (Kazuko Takahashi)	対象学年	3	単位数	2
授業のねらいと到達目標	授業のねらいは、経済・経営分野で用いられる量的なデータの分析方法と、そこで必要になる推測統計学について解説することです。また、地域調査に必要なデータの分析方法も解説します。到達目標は、社会科学分野における量的データの分析を行い、その結果をレポートに的確にまとめる能力を身につけることです。				
授業の進め方 (履修条件など)	講義により基本的な統計用語を理解した後、社会科学統計パッケージソフト (SPSS) を用いて実際にデータ分析を行います。「マーケティングリサーチ I」を履修していることが望ましい。「社会調査士」「地域調査士」資格必須科目。				
成績評価方法	レポート：60% 授業参加態度：40%				
基準					
授業の予習・復習	予習：テキストを事前に読んでおくことが望ましい。 復習：授業で習った新しい知識を身につけるために自習時間を活用してください。				
教科書	『読む統計学 使う統計学』 広田すみれ著 慶應義塾大学出版会 2005年				
参考文献	適宜、プリントを配布します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	量的なデータと質的なデータの違い			
第2回	1変数の基本統計量	平均値、中央値、最頻値、レンジ、分散、標準偏差など			
第3回	2変数の関連 (1)	散布図、相関係数			
第4回	2変数の関連 (2)	偏相関係数、属性相関、変数のコントロールなど			
第5回	回帰分析 (1)	単回帰分析			
第6回	回帰分析 (2)	重回帰分析			
第7回	推測統計学 (1)	母集団と標本、標本抽出法			
第8回	推測統計学 (2)	確率論の基礎、正規分布、標準正規分布			
第9回	推測統計学 (3)	統計的推定・検定の考え方			
第10回	推測統計学 (4)	平均の差の検定、t分布			
第11回	推測統計学 (5)	比率の差の検定			
第12回	推測統計学 (6)	独立性の検定、カイ二乗分布			
第13回	統計地域	行政地域、国政統計区、地域メッシュなど			
第14回	地域特性分析	構成比、特化係数、BN分析			
第15回	レポート作成方法	分析結果のまとめ方			

国際

授業番号	B102200001				
科目名 (英語表記)	マクロ経済学 (Macroeconomics)				
担当者 (英語表記)	小林 啓祐 (Keisuke Kobayashi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は前・後期の講義を通して、経済学 (マクロ経済学・ミクロ経済学) の知識、およびその知識を用いて日本経済の構造を理解することを目的とする。前期は主にマクロ経済学について学ぶ。講義では、時事問題を扱うことにより、現代の日本経済がどのような構造にあるのかを理解することを目標としたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	小テストを3回行うので、すべて受けること。				
成績評価方法	毎講義中の参加態度 (10%)、および3回の小テスト (30%) をあわせて評価する				
基準					
授業の予習・復習	シラバスを事前に確認し、教科書にて予習をすること。				
教科書	辻正次・八田英二『What's 経済学』(第三版), 有斐閣, 2010年。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	本講義のガイダンスを行い、経済学が射程とする問題領域について学ぶ			
第2回	GDPと景気変動	GDPがどのような指標であるか、またなぜ景気変動がおこるのかについて学ぶ			
第3回	金融政策と経済	金融市場の特徴と金融政策が同市場に与える影響について学ぶ			
第4回	為替と経済	為替がなぜ変動するのかについて学ぶ			
第5回	小テスト1	第2回から4回までの講義内容の小テストを行う			
第6回	貿易と国際収支	貿易黒字・赤字が経済にどのような影響を与えているのかについて学ぶ			
第7回	バブル経済	バブル経済と言われる経済状況がなぜ起こるのかについて学ぶ			
第8回	貯蓄と経済	貯蓄率の変動が持つ意味について学ぶ			
第9回	国債と経済	国債が政府の財政、経済に与える影響について学ぶ			
第10回	小テスト2	第6回から9回までの範囲で小テストを行います			
第11回	インフレとデフレ	物価があがる、さがるという変化が経済に与える影響について学ぶ			
第12回	様々な経済成長のかたち	経済成長をするということとはどのようなことなのか、様々なケースを用いて考察する			
第13回	経済構造の変化	日本を事例として、なぜ経済構造に変化が必要なのかについて学ぶ			
第14回	まとめ	まとめと復習を行います			
第15回	小テスト3	まとめの小テストを行います			

国際					
授業番号	B102230001				
科目名 (英語表記)	ミクロ経済学 (Microeconomics)				
担当者 (英語表記)	小林 啓祐 (Keisuke Kobayashi)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	本講義は前・後期の講義を通して、経済学 (マクロ経済学・ミクロ経済学) の知識、およびその知識を用いて日本経済の構造を理解することを目的とする。後期は主にミクロ経済学について学ぶ。講義では、時事問題を扱うことにより、現代の日本経済がどのような構造にあるのかを理解することを目標としたい。				
授業の進め方 (履修条件など)	小テストを3回行うので、すべて受けること。				
成績評価方法	毎講義中の発言・参加態度 (10%)、および3回の小テスト (90%) をあわせて評価する				
基準					
授業の予習・復習	シラバスを事前に確認し、教科書にて予習をすること。				
教科書	辻正次・八田英二『What's 経済学』(第三版), 有斐閣, 2010年。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	価格と市場	価格決定のメカニズムについて学ぶ			
第2回	所得の変化と経済	所得の変化が価格や賃金などにどのように影響を与えるのかについて学ぶ			
第3回	企業の供給行動	企業が様々な条件のもとでどのような生産を行うのかについて学ぶ			
第4回	価格変動のメカニズム	価格が様々な条件のもと、どのようにして変化していくのかについて学ぶ			
第5回	小テスト1	第1回から4回までの内容について小テストを行う			
第6回	独占の功罪	独占企業の存在が経済にどのような影響を与えているのかについて学ぶ			
第7回	不完全競争	市場における不完全競争がどのような結果をもたらすかについて学ぶ			
第8回	公共財と経済	国などが管理する公共財が経済活動にどのような意味をもっているのかについて学ぶ			
第9回	外部性の発生	他者の経済活動からなんらかの影響をうけることが、どのような変化をもたらすかについて学ぶ			
第10回	小テスト2	第6回から9回までの内容の小テストを行います			
第11回	情報と市場	情報の不足が市場にもたらす影響について学ぶ			
第12回	日本型経営システム	世界的にみて特殊ともいえる日本型の経営システムがどのような特徴をもっているのかについて学ぶ			
第13回	様々な市場と経済	具体的な事例を用いて、いろいろな市場・価格について考察する			
第14回	まとめ	ミクロ経済学のまとめと総復習を行います			
第15回	小テスト3	まとめの小テストを行います			

# 国際

授業番号	B100090001				
科目名 (英語表記)	ユニバーサルコミュニケーション (Universal communicator)				
担当者 (英語表記)	国際教務委員会 (Kokusai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	共生社会を実現するために、障害を持つ人たちへの偏見や差別意識をなくし、共に手を携えて同じ場所に生活する深い意味や、全ての人に参加し、平等に情報を得ることの意味について考える。その上で、実際に聴覚障害者を持つ人との日常的な接し方、バリアフリー・コミュニケーションの手段として、初歩的な手話・要約筆記の実技を学ぶ。				
授業の進め方 (履修条件など)	履修条件は特になし。授業はテキスト・配布プリントを中心に、適宜映像も使用する。 手話実技では、学生一人一人の手話表現を確認、指導する。				
成績評価方法	(出席)を参考とし、学期末試験によって総合的に成績を評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：ニュースや新聞等で障害者福祉に関心を持つこと。聴覚障害の特性を理解し、聴覚障害者のバリア解消の実践を行う。 復習：手話表現を正しく習得するため、繰り返し練習をする。				
教科書	「友だちをつくる手話」(改訂版) 発行元：千葉聴覚障害者センター				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新・手話教室 (入門)」(財団法人全日本ろうあ連盟)</li> <li>・「50年のあゆみ」(財団法人全日本ろうあ連盟)</li> <li>・「聴覚・言語障害者とコミュニケーション」(全国手話通訳問題研究会編纂) 一ツ橋出版</li> <li>・「要約筆記奉仕員養成講座 基礎課程」テキスト、「要約筆記奉仕員養成講座 応用課程」テキスト</li> <li>・日本聴力障害新聞</li> </ul>				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	講義 1	手話を学ぶにあたり (手話とは・聴覚障害とは・聴覚障害者の生活)			
第2回	実技 1	あいさつをしてみましょう			
第3回	実技 2	名前を紹介しましょう			
第4回	実技 3	家族を紹介しましょう			
第5回	実技 4	趣味について話しましょう			
第6回	実技 5	スポーツについて話しましょう			
第7回	実技 6	数字を覚えましょう			
第8回	講義 2	聴覚障害者の歴史と社会福祉の変遷			
第9回	実技 7	時の表し方を学びましょう			
第10回	実技 8	仕事について話しましょう			
第11回	実技 9	住所について話しましょう			
第12回	手話のまとめ	自己紹介をしましょう			
第13回	講義 3	要約筆記とは			
第14回	実技 10	聞きながら書く			
第15回	実技 11	模擬実習			

国際					
授業番号	B101520002				
科目名 (英語表記)	ヨーロッパの政治 (European Politics)				
担当者 (英語表記)	山本 健 (Takeshi Yamamoto)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	<p>昨今、壮大な経済統合を成し遂げている EU (欧州連合) はそのメリットは強調されているが、そのデメリットはどうか? この点を、ヨーロッパ諸国のこれまでの歴史との比較を通して明らかにし、私たちの今後の地域的な統合を考える上で参考にすることが本授業の狙いであり、到達目標である。</p>				
授業の進め方 (履修条件など)	<p>前半で、壮大な経済統合の実験をしている EU の成り立ちとその現実に触れる。そして欧州の特質である民主主義 (政治思想、原理) の成り立ちを明らかにして、それらの観点から現実の EU の実態を批判してみたい。</p>				
成績評価方法	試験、レポート (点数化して) など評価する。なお、出席率が規定 (2/3) に達していない学生は評価外とする。				
基準					
授業の予習・復習	<p>予習: 変化する EU のニュースなどを点検して、問題点などを自分の言葉でまとめておくこと。  復習: 配布されたプリントを読み返し、思想、制度、政策などの特徴を整理しておくこと。</p>				
教科書	毎回、配布するプリント				
参考文献	<p>①羽場久美子『EUを知るための63章』(明石書店、エリア。スタデーズ、2013年)  ②P. ガイス他監修福井憲彦監訳『世界の教科書シリーズ 23、ドイツ・フランス共通歴史教科書・現代史』(明石書店、2008年)</p>				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の進め方についての説明			
第2回	冷戦構造とヨーロッパの戦後復興	アメリカの陣取り合戦に呼応するヨーロッパ			
第3回	ECSC (石炭鉄鋼共同体) の形成と経済統合	フランスの対ドイツ封じ込めを意識した手段としての経済統合			
第4回	EC (欧州共同体) から EU (欧州連合) の誕生	関税同盟 + 市場統合から経済統合 + 政治統合へ			
第5回	経済統合の功罪と困難な政治統合	自由なヒトの移動が劣等国民の再生産をもたらす、政治統一を危うくする			
第6回	世界同時不況と EU 経済	リーマン危機後の経済危機、財政危機、ユーロの危機			
第7回	EU の政治統合は可能か	民主主義、自由、平等の問題点			
第8回	民主主義の4大原則	基本的人権、国民主権、議会政治、権力分立			
第9回	基本的人権の成り立ち (17 ~ 18 世紀) を考える	市民革命を導いた啓蒙思想			
第10回	進化論の影響を考える	自然権に反する適者生存 / 自然淘汰の考え			
第11回	基本的人権 (18 ~ 20 世紀) を考える	人権の拡充と国家観の変容			
第12回	国民主権を考える	古代ギリシャの民主主義の実態			
第13回	EU 域内での分離・独立を考える	「国家」所属のメリットはあるのか			
第14回	EU 域内での異教徒への差別・排斥を考える	EU とはキリスト教徒を大前提とする連合体なのか			
第15回	旧宗主国として EU 域外での「支配」を考える	旧態依然の「植民地支配」の延長か			

国際					
授業番号	B101470001				
科目名 (英語表記)	ヨーロッパの歴史と社会 (European History and Society)				
担当者 (英語表記)	山本 健 (Takeshi Yamamoto)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	現在、世界は経済成長に伴ない消費ブームを迎えています。このような経済現象は、歴史的に見ると、19世紀のイギリスに現れていました。そこで、19世紀の経済的な発展過程の分析から、私たちが直面している諸問題（経済格差の問題、国家観など）を検討し、現代社会の方向性を考える素材を提供したいと思います。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎回、要点を記したプリントを配布します。また2回のビデオ（「オリバー・ツイスト」と「チャップリン」）を鑑賞し、その感想文の提出を義務とします。20分以上の遅刻は認めません。				
成績評価方法 基準	レポート（感想文と課題文）を点数化し、これらと試験の3点で評価します。なお原則として、出席率の規定（2/3）に達していない学生は評価外とする。				
授業の予習・復習	予習：政治経済・社会分野のニュースに目を通し、問題点を整理しておいて下さい。 復習：学習内容と現在の先進国と中進国の発展状況との比較を考えて、整理しておいて下さい。				
教科書	長島伸一『大英帝国』（講談社現代新書、1998年）				
参考文献	① Ch. ディケンズ（小池滋訳）『オリバー・ツイスト』（上・下）（ちくま文庫、2002年） ② J. ロンドン『どん底の人びとーロンドン1902』（岩波文庫、1995年） ③平岡敏夫編『漱石日記』（岩波文庫、1992年）				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の進め方についての説明と問題点の提示			
第2回	「19世紀の世界」の誕生	資本主義経済と国民主権を結合した新システムの登場			
第3回	競争原理を正当化する進化論	資本主義の正当化とその欠陥を埋める社会主義の登場			
第4回	19世紀前期の貧困問題	農村出身労働者の貧困状態の分析：中国の民工との比較			
第5回	ビデオ鑑賞①	オリバー・ツイストに見る都市内での社会的弱者の状態			
第6回	19世紀中期の繁栄	「世界の工場」と労働者の生活向上策（穀物法の撤廃）			
第7回	19世紀中期の大衆社会の出現	鉄道時代と消費者としての労働者の再評価			
第8回	チャーチスト運動の行方	都市労働者への選挙権の付与と社会正義の目覚め			
第9回	19世紀後期の不況問題	イギリスの経済衰退と植民地帝国への転換			
第10回	第二次産業革命と帝国主義化	世界的な過剰生産に伴う各国の海外植民地争奪戦			
第11回	豊かなイギリスの都市問題	出生率の低下と若者の身体的な水準低下			
第12回	禁酒運動と健全な娯楽の提供	労働者を飲酒から遠ざけ、兵士の育成健全化			
第13回	ミュージック・ホールの意義	大衆の大国意識（愛国主義）の高揚させる手段			
第14回	ビデオ鑑賞②	Ch. チャップリンの生涯に見る大衆心理の表現			
第15回	マトメ	世界の工場から世界の銀行へ。その背後に金融資本主義の存在			

国際

授業番号	B101490001				
科目名 (英語表記)	ラテンアメリカの歴史と社会 (Latin American History and Society)				
担当者 (英語表記)	高橋 慶介 (Keisuke Takahashi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	ラテンアメリカの歴史をとらえたうえで、現代のラテンアメリカ社会を概説します。ヨーロッパ人による植民地化以降、ラテンアメリカは、常にほかの地域と密接に結びついてきました。したがって、ラテンアメリカの歴史と社会を知ることとは、同時に、ヒト・モノ・コトバのグローバルな流通を知ることになります。				
授業の進め方 (履修条件など)	プリントを配布して進めます。映像資料もできるかぎり使用する予定です。ラテンアメリカ地域に関心があれば、予備知識は必要ありません。				
成績評価方法	定期試験 (70%) と授業中のリアクション・ペーパー (30%) で評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：参考文献に目を通して下さい。また、日頃からラテンアメリカについてのニュースを意識しておく、より具体的なラテンアメリカ像を想像する助けとなるでしょう。 復習：授業で配布するプリントや自分で書き込んだメモを再度見直して、わからない点や興味深い点を調べておきましょう。質問も歓迎します。				
教科書	テキストは指定しません。				
参考文献	参考文献：国本伊代・中川文雄編『ラテンアメリカ研究への招待』(新評論、2005)、国本伊代『概説ラテンアメリカ史』(新評論、2001)。他の参考文献についてはガイダンスや各授業で紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	「ラテン」と「アメリカ」			
第2回	現代ラテンアメリカ	今何が起きているのかを知る			
第3回	歴史1	先住民社会とヨーロッパ人による征服			
第4回	映像資料1	「ミッション」(1986年、18世紀の新大陸におけるキリスト教布教)			
第5回	歴史2	植民地期から独立まで			
第6回	歴史3	軍事政権から「失われた10年」まで			
第7回	政治	政治体制と国際関係			
第8回	各国論	キューバの歴史と社会			
第9回	暴力	暴力と治安			
第10回	文化	人種と文化の多様性			
第11回	映像資料2	「ジンガ」(2005年、ブラジルのスポーツとリズム)			
第12回	経済1	産業と貿易			
第13回	経済2	格差と貧困			
第14回	ラテンアメリカと日本	日伯関係			
第15回	まとめ	授業のまとめと今後の学習に対するポイント			

国際

授業番号	B104170002		
科目名 (英語表記)	理科 (Science)	(B)	
担当者 (英語表記)	土井 仁 (Jin Doi)	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	学習指導要領解説をもとに、理科の目標や内容等を十分に理解する。小学校理科の指導に関わる基礎的な知識や関連する知識を観察・実験やその他の資料をもとに理解を深める。 「課題 (問題)」をわかりやすく説明することができる。(説明・表現の工夫。資料等の準備)		
授業の進め方 (履修条件など)	毎時間授業資料を配布。小学校理科に関する重要な内容を選び (教科書や教員採用選考問題などから)、学生のプレゼンや応答などで理解を深める。演示実験や実習も取り入れ理解を深める。		
成績評価方法 基準	①学習意欲、②プレゼン・表現、③レポート、④定期テスト。(めやす① 20%② 20%③ 10%④ 50%)		
授業の予習・復習	〔予習〕 シラバス (学習予定)、前時の予告をもとに予習をおこなう。 〔復習〕 配布プリントをもとに復習し理解を深める。		
教科書	小学校学習指導要領解説「理科編」文部科学省。小学校理科用教科書 (大日本図書) 5, 6 年用		
参考文献	小学校理科用教科書 (各出版社) 他		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	理科の目標と内容。講義内容と授業の進め方。学力評価問題の分析。	
第 2 回	『エネルギー』 (1)	運動「振り子の運動」「てこの規則性」(振り子の等時性、モーメント)	
第 3 回	『エネルギー』 (2)	「磁石の性質」「電磁石」	
第 4 回	『エネルギー』 (3)	「電流の働き」(電流回路)	
第 5 回	『エネルギー』 (4)	「電気の利用」(発電、蓄電、電気の変換と利用)	
第 6 回	『生命』 (1)	「花のつくり」「メダカの発生」	
第 7 回	『生命』 (2)	「人の体のつくり」「昆虫の体のつくり」	
第 8 回	『生命』 (3)	「植物の養分と水の通り道」「光合成」	
第 9 回	『物質』 (1)	「水溶液」(水溶液の性質、試薬のつくり方、モル濃度)	
第 10 回	『物質』 (2)	「物の溶け方」(溶解度)	
第 11 回	『物質』 (3)	「燃焼の仕組み」(ろうそくの燃焼、アルコールランプ、ガスバーナー)	
第 12 回	『物質』 (4)	「熱分解」(化学変化、化学反応式、実験の安全)	
第 13 回	『地球』 (1)	「月と太陽」(月の見え方と時刻、月の形。金星の見え方)	
第 14 回	『地球』 (2)	「土地のつくりと変化」(地層のつき方、地層のつながり、柱状図、)	
第 15 回	『地球』 (3)	「天気の変化」(天気と気温、湿度、気圧の変化、前線の通過と天気)	



国際					
授業番号	B104170003				
科目名 (英語表記)	理科 (Science)			(C)	
担当者 (英語表記)	土井 仁 (Jin Doi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	学習指導要領解説をもとに、理科の目標や内容等を十分に理解する。小学校理科の指導に関わる基礎的な知識や関連する知識を観察・実験やその他の資料をもとに理解を深める。 「課題 (問題)」をわかりやすく説明することができる。(説明・表現の工夫。資料等の準備)				
授業の進め方 (履修条件など)	毎時間授業資料を配布。小学校理科に関する重要な内容を選び (教科書や教員採用選考問題などから)、学生のプレゼンや応答などで理解を深める。演示実験や実習も取り入れ理解を深める。				
成績評価方法 基準	①学習意欲、②プレゼン・表現、③レポート、④定期テスト。(めやす① 20%② 20%③ 10%④ 50%)				
授業の予習・復習	〔予習〕 シラバス (学習予定)、前時の予告をもとに予習をおこなう。 〔復習〕 配布プリントをもとに復習し理解を深める。				
教科書	小学校学習指導要領解説「理科編」文部科学省。小学校理科用教科書 (大日本図書) 5, 6 年用				
参考文献	小学校理科用教科書 (各出版社) 他				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	理科の目標と内容。講義内容と授業の進め方。学力評価問題の分析。			
第 2 回	『エネルギー』 (1)	運動「振り子の運動」「てこの規則性」(振り子の等時性、モーメント)			
第 3 回	『エネルギー』 (2)	「磁石の性質」「電磁石」			
第 4 回	『エネルギー』 (3)	「電流の働き」(電流回路)			
第 5 回	『エネルギー』 (4)	「電気の利用」(発電、蓄電、電気の変換と利用)			
第 6 回	『生命』 (1)	「花のつくり」「メダカの発生」			
第 7 回	『生命』 (2)	「人の体のつくり」「昆虫の体のつくり」			
第 8 回	『生命』 (3)	「植物の養分と水の通り道」「光合成」			
第 9 回	『物質』 (1)	「水溶液」(水溶液の性質、試薬のつくり方、モル濃度)			
第 10 回	『物質』 (2)	「物の溶け方」(溶解度)			
第 11 回	『物質』 (3)	「燃焼の仕組み」(ろうそくの燃焼、アルコールランプ、ガスバーナー)			
第 12 回	『物質』 (4)	「熱分解」(化学変化、化学反応式、実験の安全)			
第 13 回	『地球』 (1)	「月と太陽」(月の見え方と時刻、月の形。金星の見え方)			
第 14 回	『地球』 (2)	「土地のつくりと変化」(地層のつき方、地層のつながり、柱状図、)			
第 15 回	『地球』 (3)	「天気の変化」(天気と気温、湿度、気圧の変化、前線の通過と天気)			

国際					
授業番号	B104170004				
科目名 (英語表記)	理科 (Science)			(A)	
担当者 (英語表記)	田口 功 (Isao Taguchi)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	学習指導要領解説をもとに、理科の目標や内容等を十分に理解する。小学校理科の指導に関わる基礎的な知識や関連する知識を観察・実験やその他の資料をもとに理解を深める。 「課題 (問題)」をわかりやすく説明することができる。(説明・表現の工夫。資料等の準備)				
授業の進め方 (履修条件など)	毎時間授業資料を配布。小学校理科に関する重要な内容を選び (教科書や教員採用選考問題などから)、学生のプレゼンや応答などで理解を深める。演示実験や実習も取り入れ理解を深める。				
成績評価方法 基準	①学習意欲、②プレゼン・表現、③レポート、④定期テスト。(めやす① 20%② 20%③ 10%④ 50%)				
授業の予習・復習	〔予習〕 シラバス (学習予定)、前時の予告をもとに予習をおこなう。 〔復習〕 配布プリントをもとに復習し理解を深める。				
教科書	小学校学習指導要領解説「理科編」文部科学省。小学校理科用教科書 (大日本図書) 5, 6 年用				
参考文献	小学校理科用教科書 (各出版社) 他				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	理科の目標と内容。講義内容と授業の進め方。学力評価問題の分析。			
第 2 回	『エネルギー』 (1)	運動「振り子の運動」「てこの規則性」(振り子の等時性、モーメント)			
第 3 回	『エネルギー』 (2)	「磁石の性質」「電磁石」			
第 4 回	『エネルギー』 (3)	「電流の働き」(電流回路)			
第 5 回	『エネルギー』 (4)	「電気の利用」(発電、蓄電、電気の変換と利用)			
第 6 回	『生命』 (1)	「花のつくり」「メダカの発生」			
第 7 回	『生命』 (2)	「人の体のつくり」「昆虫の体のつくり」			
第 8 回	『生命』 (3)	「植物の養分と水の通り道」「光合成」			
第 9 回	『物質』 (1)	「水溶液」(水溶液の性質、試薬のつくり方、モル濃度)			
第 10 回	『物質』 (2)	「物の溶け方」(溶解度)			
第 11 回	『物質』 (3)	「燃焼の仕組み」(ろうそくの燃焼、アルコールランプ、ガスバーナー)			
第 12 回	『物質』 (4)	「熱分解」(化学変化、化学反応式、実験の安全)			
第 13 回	『地球』 (1)	「月と太陽」(月の見え方と時刻、月の形。金星の見え方)			
第 14 回	『地球』 (2)	「土地のつくりと変化」(地層のつき方、地層のつながり、柱状図、)			
第 15 回	『地球』 (3)	「天気の変化」(天気と気温、湿度、気圧の変化、前線の通過と天気)			

国際

授業番号	B104510001				
科目名 (英語表記)	理科の観察実験 I (The observation experiment of science I)				
担当者 (英語表記)	土井 仁 (Jin Doi)	対象学年	2	単位数	1
授業のねらいと到達目標	本科目は、小学校理科の学習領域のうち『生命』『物質』『地球』を学習対象とします。小学校の授業の中で出てくる重要な「観察・実験」や「発展実験」等に取り組み、技能を高め、「観察・実験」を総合的に理解し、実践的な指導力を養います。				
授業の進め方 (履修条件など)	単元の中から観察や実験を選び、実践的に学習します。単元のねらい、観察や実験の必要性と方法を理解し、観察・実験に取り組みます。「観察・実験レポート」を作成し、理解を深めます。				
成績評価方法	①学習への取り組み、②実験の理解・技能、③提出物 (プリント、作品)、④研究レポート				
基準					
授業の予習・復習	予習：シラバス、学習計画に沿って、必要な学習を進める。 復習：「学習プリント、観察・実験の記録等」をまとめ、理解を深める。				
教科書	小学校学習指導要領解説「理科編」文部科学省、小学校理科用教科書 (大日本図書) 5, 6 学年用				
参考文献	小学校理科用教科書 (各出版社)、理科資料集等				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	『理科における実験・観察』 授業構成 [導入・展開・まとめ]。授業成立の要因 (課題意識を高める工夫。課題解決の見通し等。)			
第 2 回	『生命』 (1)	『生命』領域の内容と系統。主な観察・実験。観察器具の種類と特徴、使い方のポイント。			
第 3 回	『生命』 (2)	「植物の成長と体のつくり」 花のつくり。花粉、花粉管等の観察。			
第 4 回	『生命』 (3)	「植物の養分と水の通り道」 維管束、気孔等の観察。			
第 5 回	『生命』 (4)	「動物の誕生」 メダカの観察 (卵、ひれ、血流等)。微生物の観察			
第 6 回	『生命』 (5)	「生命の連続性」 細胞、細胞分裂、減数分裂等の観察。DNA の抽出。			
第 7 回	『物質』 (1)	『物質』領域の内容と系統。加熱器具の安全使用・管理。「物の燃え方」物を燃やす働き。気体の性質。			
第 8 回	『物質』 (2)	「加熱による物質の変化」 状態変化、化学変化。燃焼、熱分解。			
第 9 回	『物質』 (3)	「水溶液の重さ」「物の溶け方」 溶けるものの量 (水の量、温度)。			
第 10 回	『物質』 (4)	「水溶液の性質」 酸やアルカリと金属の反応。気体が溶けている水溶液。			
第 11 回	『物質』 (5)	「身近な物質」 金属、ガラス、プラスチック。			
第 12 回	『地球』 (1)	『地球』領域の内容と系統。「天気と気温」「天気の変化」 気温、湿度、露点。水蒸気量。			
第 13 回	『地球』 (2)	「流水の働き」 上流下流の石、火山灰、地層、岩石の観察。			
第 14 回	『観察・実験自主研究』 (1)	テーマを設定し、「観察・実験」に取り組む。			
第 15 回	『観察・実験自主研究』 (2)	「観察・実験」の成果を授業指導と関連付けて、レポートにまとめる。			

国際

授業番号	B104520001		
科目名 (英語表記)	理科の観察実験 II (The observation experiment of science II)		
担当者 (英語表記)	田口 功 (Isao Taguchi)	対象学年	2
		単位数	1
授業のねらいと到達目標	本科目は、小学校理科の学習領域のうち『エネルギー』を学習対象とします。小学校の授業の中で出てくる重要な「観察・実験」や「発展実験」等に取り組み、技能を高め、「観察・実験」を総合的に理解し、実践的な指導力を養います。		
授業の進め方 (履修条件など)	小単元の中から観察や実験を選び、実践的に学習します。単元のねらい、観察や実験の必要性と方法を理解し、観察・実験に取り組みます。「観察・実験レポート」を作成し、理解を深めます。		
成績評価方法	①学習への取り組み、②観察・実験の理解・技能、③提出物 (プリント、作品)、④研究レポート		
基準			
授業の予習・復習	予習：学習計画に沿って、必要な学習を進める。 復習：「学習プリント、実験観察の記録等」をまとめ理解を深める。		
教科書	小学校学習指導要領解説「理科編」文部科学省、小学校理科用教科書 (大日本図書) 5, 6 学年用		
参考文献	小学校理科用教科書 (各出版社)、理科資料集等		
回数	授業項目	授業内容	
第 1 回	ガイダンス	『理科における観察・実験』 授業構成 [導入・展開・まとめ]。授業成立の要因 (課題意識を高める工夫。課題解決への見通し等。)	
第 2 回	『エネルギー』 (1)	『生命』領域の内容と系統。主な観察・実験。観察器具の種類と特徴。	
第 3 回	『生命』 (2)	「植物の成長と体のつくり」花のつくり。花粉・花粉管の観察。	
第 4 回	『生命』 (3)	「植物の養分と水の通り道」維管束、気孔等の観察	
第 5 回	『生命』 (4)	「植物の特徴」「光合成」光合成と条件	
第 6 回	『生命』 (5)	「動物の誕生」メダカの観察。卵、血流の観察。微生物の観察。	
第 7 回	『生命』 (6)	「生命の連続性」細胞分裂、減数分裂。DNA の抽出。	
第 8 回	『エネルギー』 (1)	「物の重さ」比重、重量と質量。「物の温まり方」物質による違い、比熱。	
第 9 回	『エネルギー』 (2)	「風やゴムの働き」動くおもちゃの製作と実験。	
第 10 回	『エネルギー』 (3)	「振り子の運動」	
第 11 回	『エネルギー』 (4)	「てこの規則性」	
第 12 回	『エネルギー』 (5)	「電気の働き」静電気、電磁石。	
第 13 回	『エネルギー』 (6)	「電気の働き」「電気の利用」	
第 14 回	『観察・実験自主研究』 (1)	テーマを設定し、「観察・実験」に取り組む。	
第 15 回	『観察・実験自主研究』 (2)	「観察・実験」の成果を授業指導と関連付けて、レポートにまとめる。	

# 国際

授業番号	B100210001		
科目名	1年基礎演習	通年	
担当者	国際学部専任教員	対象学年	1
		単位数	2
授業のねらいと到達目標	大学生生活を円滑に送るための基本項目（行動規範・知識・スキル）を体得することが第一のねらいです。演習は本学の重要な教育体系に位置づけられており、必ず参加しなければなりません。学生一人一人が、大学生活の中に具体的な目標を見出し、それに向けて行動できるようになること、これを到達目標とします。また今年度は、「文章を書くこと」を共通の課題として、取り組む予定です。		
授業の進め方（履修条件など）	クラス担任制をとっています。担当教員の指導の下、クラスの仲間と協力しながら、学習を進めてください。学習指針（6つの柱）は全クラス共通ですが、毎週の具体的な学習項目はクラスによって異なります。6指針とは、(1) スタートアップ、(2) キャンパス・スキル、(3) アカデミック・スキル、(4) コミュニケーション力、(5) 基礎知識、(6) 2年次へのブリッジです。		
成績評価方法	提出物（50%）、クラス内の諸活動の達成度（50%）を基本とし、出席状況、授業態度などを勘案して、総合的に評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：教員の提示した課題に取り組む。 復習：辞書などを用いて、理解不足を補う活動に取り込む。		
教科書	配布資料のほか、各担当教員が指定したものを用います。今年度は、共通の基礎問題集、資料等も活用します。		
参考文献	随時紹介します。		

回数	授業項目	授業内容
第1回	スタートアップ(1)	ガイダンス、フレッシュマン・セミナーを終えて学んだことを確認する。履修登録の仕方について学ぶ。自己紹介などで、仲間をつくる。
第2回	キャンパス・スキル(1)	大学生活の基本を段階的に身に付ける。単位のとり方、掲示板の見方、諸手続の時期と方法、困ったときの対処法など。
第3回	キャンパス・スキル(2)	クラス別のキャンパス・ツアーを実施する。
第4回	アカデミック・スキル(1)	敬愛大学のことを知ろう。「野の花」を開いてみよう。クラスメイトと一緒に、先生の話や先輩の話聞く。
第5回	アカデミック・スキル(2)	大学で何を学ぶか考える。カリキュラムの見方、シラバスの読み方を学ぶ。
第6回	講演を聞く(1)	若者の薬物乱用を防止する講話を、専門家を招いて聞く。
第7回	講演を聞く(2)	先週の講話をもとにクラスで話しあう。自分の感想を書いてみる。互いの意見を聞く。討論してみよう。
第8回	アカデミック・スキル(3)	メディアセンターのガイダンスに参加する。文献の探し方、図書館の利用の仕方を学ぶ。2クラスずつ行う。
第9回	コミュニケーション(1)	みんなで楽しい時間を創ろう。クラスごとに、近隣への散歩、スポーツ、ゲームなど工夫する。
第10回	コミュニケーション(2)	身近なことを書いて、仲間に伝えよう。
第11回	コミュニケーション(3)	愛読書の紹介を通して、仲間の話に耳を傾けよう。
第12回	基礎知識(1)	国際社会について書かれた新聞記事を読み、討論する。興味のあることを様々な方法で調べてみよう。
第13回	基礎知識(2)	グループで調べたことを、レポートしてみよう。うまく伝える工夫をしよう。
第14回	レクリエーション	クラス対抗スポーツ大会の企画と運営。
第15回	前期のまとめ、課題の総括	前期授業をふり振り返り、達成できたことを書いておこう。
第16回	スタートアップ(2)	前期の成績表をもとに個人面談を実施する。
第17回	アカデミック・スキル(4)	各自が後期学習の目標をそれぞれ考える。目標を書き記しておこう。
第18回	基礎知識(3)	担当教員の専門研究について、分かりやすく教えてもらおう。
第19回	基礎知識(4)	担当教員の専門研究をさらに聞く。適宜、合同ゼミの形態をとる。
第20回	基礎知識(5)	取得できる資格、各自の将来を具体的にイメージしてみよう。
第21回	コミュニケーション(4)	大学祭に参加する準備をする。クラスで他者に伝えたい共通の「メッセージ」を企画しよう。
第22回	学外研修への参加	国立歴史民俗博物館のツアーに全員参加する。事前準備も行う。
第23回	学外研修を終えて	各自が博物館の視察から学んだこと、考えたことを文章化してみる。
第24回	レクリエーション	各ゼミで企画したレクリエーションを実施。近隣施設の研修をかねた屋外での研修、ITを活用したアクティヴ・ラーニングなど。
第25回	2年次専門研究へのブリッジ(1)	各自が興味を持ったことを文章化し、リサーチを試みる。ゼミ選択につなげる。
第26回	2年次専門研究へのブリッジ(2)	2年ゼミ選択の諸注意、専門研究の目的、取組みの準備を学ぶ。
第27回	基礎知識(6)	本を読もう。担当教員が指定した文章を丁寧に読む。
第28回	基礎知識(7)	本を読もう。詩を読もう。優れた文章に触れて考える習慣を身に付けよう。
第29回	講演を聞く(3)	国際学部国際学会主催の講演会に参加する。
第30回	1年間のゼミを学んで(発表会)	目標が達成されたか確認し、レポートをまとめる。

国際					
授業番号	B103080003				
科目名	2年次専門研究		通年		
担当者	高田 洋子	対象学年	2	単位数	4
授業のねらいと到達目標	大学のゼミとは何かを初体験し、4年次までの3年間にわたる演習の最も基礎的項目を修得します。東南アジア世界に起きるさまざまな現象に対する問題意識を培うことを、1年間の学習目標とします。				
授業の進め方(履修条件など)	できるだけITを活用する授業を進めます。ゼミの中心テーマについて教員が講義しますが、各人は取り上げる問題について、自分で情報収集し、定期的にプレゼンテーションの訓練を行います。				
成績評価方法	出席の重視。授業への積極的な取り組みと年度末に提出するゼミレポートの内容により成績をつけます。				
基準					
授業の予習・復習	予習：日頃から東・東南・南アジアの現状と課題について関心を持ち、情報を蓄積しておきましょう。 復習：とくにありません。				
教科書	高田洋子「東南アジア」共著『国際学入門』。				
参考文献	David Joel Steinberg (ed), In Search of Southeast Asia, A Modern History, USA. Milton Osborne, Southeast Asia, An Introductory History, Sydney.				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ゼミとは何か	ゼミの目的を説明する。ゼミのメンバーの自己紹介、前期スケジュールを決める。			
第2回	ゼミで学ぶこと	1年間のうちにゼミで何を学ぶか、各自が自分の目標を決める。			
第3回	序：東南アジア入門	地図を広げて、どんな国があるか、各国の基本情報を集める。			
第4回	インドシナ半島部(1)	自然環境、地形、国境線などを調べる。各国の現状をリサーチする。			
第5回	インドシナ半島部(2)	社会構成、政治経済、国際関係などを調べる。			
第6回	島嶼部(1)	自然環境、地形、国境線などを調べる。各国の現状をリサーチする。			
第7回	島嶼部(2)	社会構成、政治経済、国際関係などを調べる。			
第8回	現地を知る：ベトナムの今	調査で撮影した写真をみながら解説する(ベトナムの都市と農村)。			
第9回	現地を感じる：各地の物産など	各地の織物、衣装、食物、植物、音楽、料理などを教室に持ち込もう。			
第10回	東南アジアの古代遺跡(1)	インドシナ半島：アンコール遺跡群、バガン遺跡、チャム遺跡他			
第11回	東南アジア古代遺跡(2)	島嶼部：ポロブトゥール遺跡、バリ島遺跡ほか			
第12回	東南アジアの宗教(1)	上座仏教を知る			
第13回	東南アジアの宗教(2)	大乘仏教を知る			
第14回	東南アジアの宗教(3)	イスラム教を知る			
第15回	東南アジアの宗教(4)	キリスト教を知る			
第16回	東南アジアの宗教(5)	ヒンドゥー教を知る			
第17回	東南アジアの宗教(6)	カオダイ教、ホアハオ教ほかの新興宗教			
第18回	東南アジアの言語(1)	各国の言語と言語政策			
第19回	東南アジアの言語(2)	言語の歴史とダイナミズム			
第20回	東南アジアの文学(1)	伝統文学を読んでみよう。			
第21回	東南アジアの文学(2)	近現代の作品を鑑賞する。			
第22回	ベトナムを発表する	社会・経済・政治問題他トピックなどを見つけて調べる。			
第23回	カンボジアを発表する	歴史・社会・経済・政治問題等を調べてみる			
第24回	ラオスを発表する	興味のある問題を調べてみる			
第25回	タイを発表する	日本との経済関係、社会、政治などを調べてみる			
第26回	ミャンマーを発表する	興味のある問題などを調べてみる			
第27回	シンガポール、マレーシアを発表する	歴史・社会・経済・政治などの問題を調べてみる			
第28回	インドネシアを発表する	歴史・文化など面白そうなテーマを調べてみる			
第29回	フィリピンを発表する	政治経済・宗教ほか興味のあることを調べる			
第30回	ブルネイ、東チモールを発表する	歴史・社会・経済・政治などを調べてみる			

国際					
授業番号	B103080004				
科目名	2年次専門研究		通年		
担当者	村川 庸子	対象学年	2	単位数	4
授業のねらいと到達目標	ゼミでは、アメリカ社会、日米関係、農業に関する邦語と平易な英語の文献を並行して読んでいく。社会科学文献を批判的に読み、自分の考えを見つけ、発信する、友人と意見を交換する、等により基本的なアカデミック・スキルを体系的に学ぶ。				
授業の進め方(履修条件など)	適宜、クラス、グループ、個別指導を織り交ぜて実施する。クラスでのプレゼンテーションや相互の議論により、論文の内容を深めていけるよう、積極的な参加を臨みたい。ゼミの活動を記録するA4版のノートを準備すること。				
成績評価方法基準	クラスでのプレゼンテーション 30% 議論への参加 30% ノート 40%				
授業の予習・復習	事前に資料を配布するので必ず読んで、内容をまとめてくること。				
教科書	特に指定しない				
参考文献	特に指定しない				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	導入	大学で学ぶことの意味を話し合おう!			
第2回	アカデミック・スキル①	批判的読み方、書き方とは何か?			
第3回	アカデミック・スキル②	レポートの書き方			
第4回	アカデミック・スキル③	要約、剽窃、引用			
第5回	アカデミック・スキル④	書評を書いてみよう!			
第6回	アカデミック・スキル⑤	体系的学習に向けて			
第7回	アカデミック・スキル⑥	自学のすすめ			
第8回	アメリカ社会のジレンマ①	アメリカの社会-移民の国のジレンマ			
第9回	アメリカ社会のジレンマ②	アメリカの社会 貧困			
第10回	アメリカ社会のジレンマ③	農業国アメリカ			
第11回	アメリカ社会のジレンマ④	アメリカの社会 「差別」の仕組			
第12回	個人報告①	書評(3本以上)をまとめて報告①			
第13回	個人報告②	書評(3本以上)をまとめて報告②			
第14回	個人報告③	書評(3本以上)をまとめて報告③			
第15回	前期のまとめ	前期のまとめ・夏季休暇の課題			
第16回	後期の導入	後期の予定作成			
第17回	日米関係の歴史と現状①	日米関係の歴史(ビデオ 真珠湾)			
第18回	日米関係の歴史と現状②	東アジアとアメリカ			
第19回	日米関係の歴史と現状③	沖縄を考える			
第20回	日米関係の歴史と現状④	第五福竜丸博物館見学			
第21回	英文の情報を集める①	アメリカ西海岸を歩いてみたら-シアトル			
第22回	英文の情報を集める②	アメリカ西海岸を歩いてみたら-サンフランシスコ			
第23回	英文の情報を集める③	アメリカ西海岸を歩いてみたら-サリナス			
第24回	英文の情報を集める④	アメリカ西海岸を歩いてみたら-ロサンゼルス			
第25回	英文の情報を集める⑤	アメリカ西海岸を歩いてみたら-ユタまで足を伸ばして			
第26回	英文の情報を集める⑥	アメリカを安く旅する			
第27回	個人報告①	個人研究報告-ユニークな旅を計画し、コンセプトを説明			
第28回	個人報告②	個人研究報告-ユニークな旅を計画し、コンセプトを説明			
第29回	個人報告③	個人研究報告-ユニークな旅を計画し、コンセプトを説明			
第30回	まとめ	総括			



国際					
授業番号	B103080006				
科目名	2年次専門研究			通年	
担当者	高橋 和子	対象学年	2	単位数	4
授業のねらいと到達目標	授業のねらいは、社会調査の専門家を育成するための基本的な内容を解説することです。到達目標は、3年次に実際に調査を実施できるだけの能力を身に付けることです。				
授業の進め方(履修条件など)	前期は社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項についてPCを使用しながら進めていきます。後期は社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく方法を説明します。				
成績評価方法	ゼミへの参加貢献度と提出物(課題レポートなど)				
基準					
授業の予習・復習	予習はテキストを事前に読んでおくことが望ましく、社会調査に必要な用語についてはよく復習をして理解をすること。				
教科書	『入門・社会調査法』 轟亮・杉野勇(編) 法律文化社 2010年				
参考文献	適宜、プリントを配布します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	社会調査とは(1)	社会調査法ゼミについて、社会調査士資格について			
第2回	社会調査とは(2)	社会調査史、社会調査の目的と意義			
第3回	社会調査の種類(1)	学術調査			
第4回	社会調査の種類(2)	マーケティング・リサーチ			
第5回	社会調査の種類(3)	世論調査			
第6回	社会調査の種類(4)	国勢調査と官庁統計			
第7回	社会調査の種類(5)	統計的調査と事例研究法			
第8回	社会調査の種類(6)	調査票調査とフィールドワーク			
第9回	調査倫理	調査倫理			
第10回	量的調査と質的調査(1)	量的調査			
第11回	量的調査と質的調査(2)	質的調査			
第12回	社会調査のプロセス	社会調査のプロセス			
第13回	調査プロセスの管理	調査プロセスの管理			
第14回	さまざまな調査	二次分析、パネル調査、国際比較調査など			
第15回	複数の調査の組み合わせ	複数の調査の組み合わせ			
第16回	調査目的と調査方法	調査目的と調査方法			
第17回	調査方法の決め方	面接調査、留置調査、電話調査、郵送調査、インターネット調査など			
第18回	調査企画と設計	調査企画と設計			
第19回	仮説構成	仮説構成			
第20回	調査票の構成と質問文の作り方(1)	質問文			
第21回	調査票の構成と質問文の作り方(2)	回答・全体の構成			
第22回	標本抽出(1)	全数調査と標本調査			
第23回	標本抽出(2)	無作為抽出			
第24回	標本抽出(3)	標本数と誤差			
第25回	標本抽出(4)	サンプリングの方法			
第26回	調査の実施方法(1)	実査の方法、調査票の配布・回収法など			
第27回	調査の実施方法(2)	インタビューの仕方など			
第28回	調査データの整理(1)	エディティング、コーディング、データ・クリーニング			
第29回	調査データの整理(2)	フィールドノート作成、コードブック作成など			
第30回	総括	調査設計と実施方法に関するまとめ			



国際

授業番号	B103080007				
科目名	2年次専門研究		通年		
担当者	中村 圭三	対象学年	2	単位数	4

授業のねらいと到達目標	本ゼミでは、「印旛沼流域鹿島川における自然環境調査」をテーマに、ゼミ活動を実施する。調査の準備・実施・成果の取りまとめを通して、調査研究の進め方を修得させる。
授業の進め方(履修条件など)	前期には、鹿島川に関する文献収集・土地利用調査・調査機器類の準備等を行う。夏期休暇中に現地調査を実施し、後期には成果のとりまとめを行う。
成績評価方法	授業態度、定期試験の成績で評価する。
基準	
授業の予習・復習	予習：ゼミの調査研究テーマに関する文献・資料等に目を通しておく。 復習：ゼミで取り上げた内容について、文献・図鑑等で確認する。
教科書	『フィールドの環境科学』中村圭三著 青山社 2007.
参考文献	授業の中で、適宜指示する。

回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス	ゼミの進め方についての説明
第2回	印旛沼の水と生態(1)	印旛沼とその流域
第3回	印旛沼の水と生態(2)	水源としての印旛沼
第4回	印旛沼の水と生態(3)	自然環境
第5回	鹿島川の水と生態(1)	農業と漁業
第6回	鹿島川の水と生態(2)	水質悪化とその原因
第7回	鹿島川の水と生態(3)	生態系の変化
第8回	水質調査法学習(1)	水質調査機器
第9回	水質調査法学習(2)	pH, ECなどの測定
第10回	水質調査法学習(3)	バックテストによる水質調査
第11回	生態調査法学習(1)	水生生物の採取方法
第12回	生態調査法学習(2)	印旛沼流域に生息する水生生物
第13回	生態調査法学習(3)	水生生物の撮影方法
第14回	土地利用調査学習(1)	土地利用図による調査
第15回	土地利用調査学習(2)	衛星画像による調査
第16回	調査データ整理(1)	流量の計算(1)
第17回	調査データ整理(2)	流量の計算(2)
第18回	調査データ整理(3)	水質データの整理
第19回	調査データ整理(4)	水質データの整理・水生生物データの整理
第20回	調査データ整理(5)	水生生物データの整理
第21回	統計・グラフ解析(1)	統計・グラフ解析(1)
第22回	統計・グラフ解析(2)	水質(1)
第23回	統計・グラフ解析(3)	水質(2)
第24回	統計・グラフ解析(4)	水生生物(1)
第25回	統計・グラフ解析(5)	水生生物(2)
第26回	研究成果報告会準備(1)	パワーポイント作成(1)
第27回	研究成果報告会準備(2)	パワーポイント作成(2)
第28回	研究成果報告会準備(3)	パワーポイント作成(3)
第29回	報告	研究成果報告会
第30回	まとめ	総括

国際			
授業番号	B103080008		
科目名	2年次専門研究	通年	
担当者	織井 啓介	対象学年	2
		単位数	4
授業のねらいと到達目標	「時事英語と国際経済経営」のゼミです。英語では、文法力を点検し時事英語の基礎を学びます。経済経営では、ビジネスの基礎技能（とくに秘書技能）とエアビジネスを中心に学びます。		
授業の進め方（履修条件など）	ゼミではプリントを中心に学習します。目標を立てて定期的に英検・TOEIC・秘書検などを受験しましょう（在学中の目標は英検2級以上、TOEIC600以上です）。		
成績評価方法	平常点で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：事前にアサインメントをこなしましょう。 復習：ゼミで学んだことをプリントを中心に復習・整理しましょう。		
教科書	とくに使用しません。プリントを配布します。		
参考文献	週刊 ST、Japan Times など。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	今年度ゼミナールの進め方	
第2回	コア英文法①	名詞・代名詞	
第3回	コア英文法②	動詞・助動詞	
第4回	コア英文法③	受動態	
第5回	コア英文法④	現在完了	
第6回	コア英文法⑤	不定詞・動名詞	
第7回	コア英文法⑥	形容詞・副詞	
第8回	コア英文法⑦	分詞・関係代名詞	
第9回	コア英文法⑧	前置詞・接続詞	
第10回	ビジネスの基礎①	秘書技能（職務知識）	
第11回	ビジネスの基礎②	秘書技能（一般知識）	
第12回	ビジネスの基礎③	秘書技能（マナーと接遇）	
第13回	ビジネスの基礎④	秘書技能（会議）	
第14回	ビジネスの基礎⑤	秘書技能（文書と資料管理）	
第15回	前期のまとめ	前期の総括と夏休みの計画	
第16回	後期のガイダンス	夏休みの成果と後期の目標設定	
第17回	時事英語の基礎①	Eメール	
第18回	時事英語の基礎②	ビジネスレター	
第19回	時事英語の基礎③	告知文	
第20回	時事英語の基礎④	広告	
第21回	時事英語の基礎⑤	レポート	
第22回	時事英語の基礎⑥	英字新聞の政治記事	
第23回	時事英語の基礎⑦	英字新聞の経済記事	
第24回	時事英語の基礎⑧	英字新聞の社会記事	
第25回	経済経営の基礎①	エアビジネスの概要	
第26回	経済経営の基礎②	キャビンアテンダント	
第27回	経済経営の基礎③	グランドスタッフ	
第28回	経済経営の基礎④	グランドハンドリング	
第29回	経済経営の基礎⑤	ATC（管制業務）	
第30回	今年度のまとめ	今年度の成果の総括と反省	

国際					
授業番号	B103080019				
科目名	2 年次専門研究		通年		
担当者	有馬 容子	対象学年	2	単位数	4
授業のねらいと到達目標	まずは1年次に修得した英語力をさらに伸ばし TOEIC 高得点を目指す。特に、読解力の習得に力を入れ、短い文章から少し長めの文章まで決められた時間内に内容を把握する練習を重ねる。徐々に少し内容の深いエッセイを取り入れていく予定。また、英語のスピードに慣れるために、英語のニュースから最新の情報を把握する訓練をする。				
授業の進め方(履修条件など)	定期的に最新の英語ニュースをチェックし、内容を把握したうえで、可能な限り内容を英語で再現する訓練をする。また、前期は決められた時間内で TOEIC の読解問題を解くことに集中し、後期はそれに短いエッセイを加える。				
成績評価方法基準	平常点(毎回の小テストおよび理解度)(70%) 学期末英語読解力テストの成績(30%) ゼミ修了時にゼミで扱ったエッセイについてレポートを提出し評価を受けることも可				
授業の予習・復習	復習:毎週配布される英文プリントの内容を把握し、単語・表現を覚える。エッセイの内容について自分の意見をまとめておく。				
教科書	プリントを配布				
参考文献	Jay Allison, ed. This I Believe II: More Personal Philosophies of Remarkable Men and Women. Henry Holt, 2008.				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ゼミの取り組み方について説明	参考資料の説明			
第2回	TOEIC Part 6(1) Essay (1)	Part 6 読解力問題演習 "Do What You Love"			
第3回	TOEIC Part 6(2) Essay (2)	Part 6 読解力問題演習 "All the Joy the World Contains"			
第4回	TOEIC Part 6(3) Essay (3)	Part 6 読解力問題演習 "Untold Stories of Kindness"			
第5回	TOEIC Part7(1) Essay (4)	Part7 読解力問題演習 "Inner Strength from Desperate Times"			
第6回	TOEIC Part 7(2) Essay (5)	Part7 読解力問題演習 "A Feeling of Wildness"			
第7回	TOEIC Part 7(3) Essay (6)	Part7 読解力問題演習 "I Will Take My Voice Back"			
第8回	TOEIC Part 7(4) Essay (7)	Part7 読解力問題演習 "Failure Is a Good Thing"			
第9回	TOEIC Part 7(5) Essay (8)	Part7 読解力問題演習 "A Reverence for All Life"			
第10回	TOEIC Part 7(6) Essay (9)	Part7 読解力問題演習 "Doing Things My Own Way"			
第11回	Armageddon in Retrospect (1)	"Introduction" より			
第12回	Armageddon (2)	"Wailing Shall Be in All Streets" より			
第13回	Armageddon (3)	"Wailing Shall Be in All Streets" より			
第14回	Armageddon (4)	"Great Day" より			
第15回	Armageddon (5)	"Great Day" より			
第16回	Armageddon (6)	"Guns Before Butter" より			
第17回	Armageddon (7)	"Guns Before Butter" より			
第18回	Armageddon (8)	"Happy Birthday, 1951" より			
第19回	Armageddon (9)	"Happy Birthday, 1951" より			
第20回	Armageddon (10)	"The Unicorn Trap" より			
第21回	Armageddon (11)	"The Unicorn Trap" より			
第22回	Armageddon (12)	"Unknown Soldier" より			
第23回	Armageddon (13)	"Unknown Soldier" より			
第24回	Armageddon (14)	"Just You and Me, Sammy" より			
第25回	Armageddon (15)	"Just You and Me, Sammy" より			
第26回	Armageddon (16)	"Armageddon in Retrospect" より			
第27回	Armageddon (17)	"Armageddon in Retrospect" より			
第28回	英語読解力テスト	解答解説			
第29回	後期まとめ	Armageddon 全体について意見を出し合う。			
第30回	エッセイについてのレポート提出	レポートの内容について発表			

国際					
授業番号	B103080021				
科目名	2年次専門研究		通年（B）		
担当者	佐藤 佳子	対象学年	2	単位数	4
授業のねらいと到達目標	教育現場に関連する心理学的な諸問題について、書籍や新聞、インターネットを活用して情報を収集し、他者との議論を通して理解を深める。より専門性を高めるために、教育や心理学、言語習得（第二言語習得）に関する文献を英語で読む。				
授業の進め方（履修条件など）	ゼミ形式で実施する。授業内で扱うテーマごとに担当者を決めて発表と議論を行うので、遅刻・欠席は厳禁である。				
成績評価方法	発表・授業態度・リアクションペーパーによって総合的に評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：与えられたテーマに関する資料収集 復習：授業の内容を整理し、まとめる。				
教科書	使用しない。必要に応じて資料を配布する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、授業計画、担当の決定			
第2回	講義①	資料収集の方法について			
第3回	講義②	発表の方法について (プレゼンテーションの基本、レジュメの作成方法について)			
第4回	講義①	【言語と思考】言語とコミュニケーション Language and Communication			
第5回	講義②	【言語と思考】言語発達 The Develop of Language			
第6回	講義③	【言語と思考】概念とカテゴリー化：思考の構成要素 Concepts and Categorization: The Building Blocks of Thoughts			
第7回	講義④	【言語と思考】推論 Reasoning			
第8回	講義⑤	【言語と思考】イメージ思考 Imaginal Thought			
第9回	講義⑥	【言語と思考】行為における思考：問題解決 Thought in Action			
第10回	講義⑦	【発達】環境と遺伝／新生児の能力 Heredity and Environment / Capacities of Newborn			
第11回	講義⑧	【発達】児童期の認知発達 Cognitive Development in Childhood			
第12回	講義⑨	【発達】人格と社会性の発達（1） Personality and Social Development (1)			
第13回	講義⑩	【発達】人格と社会性の発達（2） Personality and Social Development (2)			
第14回	講義⑪	【発達】青年期の発達 Adolescent Development			
第15回	まとめ	授業の総括			
第16回	オリエンテーション	授業の進め方、授業計画、担当の決定			
第17回	講義①	資料収集の方法について			
第18回	講義②	発表の方法について (プレゼンテーションの基本、レジュメの作成方法について)			
第19回	英文講義①	【第二言語】母語習得と第二言語習得 Second Language Acquisition			
第20回	英文講義②	【第二言語習得】認知的アプローチ Cognitive approaches			
第21回	英文講義③	【第二言語習得】認知プロセス（1）/Input, Intake, Output			
第22回	英文講義④	【第二言語習得】認知プロセス（2）/Noticing, Comprehension, Integration			
第23回	英文講義⑤	【第二言語習得】インプット Input Theory			
第24回	英文講義⑥	【第二言語習得】相互理解/Interaction Hypothesis			
第25回	英文講義⑦	【第二言語習得】アウトプット/Output Hypothesis			
第26回	英文講義⑧	【第二言語学習】タスク フォーカス・オン・フォーム Task- based, focus on form			
第27回	英文講義⑨	【第二言語学習】動機/Motivation			
第28回	英文講義⑩	【第二言語学習】言語と社会/Sociolinguistics			
第29回	英文講義⑪	【第二言語学習】コミュニケーション能力 Communicative competence			
第30回	まとめ	授業の総括			

# 国際

授業番号	B103080022				
科目名	2年次専門研究		通年 (A)		
担当者	畑中 千晶	対象学年	2	単位数	4

授業のねらいと到達目標	こどもと教育、社会の関係を幅広く考察する姿勢を養成する。
授業の進め方 (履修条件など)	講義と演習形式ですすめる。個人発表、グループ発表、討論を多用する。
成績評価方法 基準	発表、討論への参加、レポートによる。
授業の予習・復習	テキストの予習、復習をすること。
教科書	授業時に指示。
参考文献	授業時に指示。

回数	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション	こどもと社会の関係
第2回	社会化1	こどもと家族
第3回	社会化2	親子関係
第4回	こどもと学校1	学校の特質
第5回	こどもと学校2	こどもと教師
第6回	こどもと学校3	こども文化、生徒文化
第7回	こどもと学校4	部活動、クラブ活動
第8回	こどもの将来像	進路とキャリア教育
第9回	こどもと地域社会	地域でも遊びとボランティア活動
第10回	こどもとメディア社会	テレビ、テレビゲーム、インターネット、携帯電話
第11回	こどもとメディア社会2	マンガ、本
第12回	こどもと国家	国家意識
第13回	こどもと国際社会1	グローバル化と日本のこども
第14回	こどもと国際社会2	世界のこども
第15回	まとめ	これからの社会の中での子どもの教育を考える。
第16回	オリエンテーション	こどもと社会の関係
第17回	社会化1	家族関係
第18回	社会化2	親子関係
第19回	こどもと学校1	学校の特性
第20回	こどもと学校2	教師-生徒関係
第21回	こどもと学校3	生徒文化、反抗文化
第22回	こどもと学校4	部活動
第23回	こどもと学校5	キャリア教育
第24回	こどもと地域社会	地域の教育資源
第25回	こどもとメディア社会1	テレビ、テレビゲーム、マンガ
第26回	こどもとメディア社会2	本、読書活動
第27回	こどもとメディア社会3	インターネット、ケータイ
第28回	こどもと国家	国家意識、ふるさと意識
第29回	こどもと国際社会	多文化教育
第30回	まとめ	社会の中でのこどもの教育を考える

国際					
授業番号	B103080023				
科目名	2年次専門研究		通年 (C)		
担当者	辻山 洋介	対象学年	2	単位数	4
授業のねらいと到達目標	日本の現代社会が、どのようにヨーロッパの思想とつながっているのかを学ぶことを目的とする。具体的には、民主主義の成立過程を時代順に見て、現代日本の社会のありようを検討する。将来教員になるにせよ別の道を歩むにせよ、現代の世界、日本社会を理解することは極めて重要である。				
授業の進め方(履修条件など)	教科書として、小熊英二著『社会を変えるには』(講談社現代新書 503 ページ 2012年 1300円)を用い、報告担当者を決めて、輪読形式とする。報告者は担当ページに関するレジュメ(要約プリント)を作って受講生に配布し、プレゼンテーションをする。分厚い本なので前期・後期をとおして一冊の本を読みとおすことになる。				
成績評価方法基準	報告レジュメと報告内容、およびレポートによる。テキストを十分理解しているかどうかが基準となる。				
授業の予習・復習	受講学生は全員、授業までに該当部分を読んでくること。				
教科書	小熊英二 『社会を変えるには』 講談社現代新書 2012 1300円				
参考文献	そのつど指示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	受講上の注意			
第2回	テキストのまえがき	レジュメ・プリントのつくり方と報告のしかた			
第3回	pp.14-26.	報告と質疑応答			
第4回	pp.26-39.	報告と質疑応答			
第5回	pp.51-59.	報告と質疑応答			
第6回	pp.62-74	報告と質疑応答			
第7回	pp.74-83.	報告と質疑応答			
第8回	pp.86-103.	報告と質疑応答			
第9回	pp.104-124.	報告と質疑応答			
第10回	pp.124-146.	報告と質疑応答			
第11回	pp.146-167.	報告と質疑応答			
第12回	pp.167-186.	報告と質疑応答			
第13回	pp.188-210.	報告と質疑応答			
第14回	pp.211-235.	報告と質疑応答			
第15回	pp.236-260.	報告と質疑応答、まとめ			
第16回	オリエンテーション	受講上の注意			
第17回	pp.262-283	レジュメ・プリントのつくり方と報告のしかた			
第18回	pp.283-296.	報告と質疑応答			
第19回	pp.296-314.	報告と質疑応答			
第20回	pp.315-332.	報告と質疑応答			
第21回	pp.336-353.	報告と質疑応答			
第22回	pp.353-367.	報告と質疑応答			
第23回	pp.367-382.	報告と質疑応答			
第24回	pp.382-396.	報告と質疑応答			
第25回	pp.396-409.	報告と質疑応答			
第26回	pp.409-428.	報告と質疑応答			
第27回	pp.430-445.	報告と質疑応答			
第28回	pp.445-456.	報告と質疑応答			
第29回	pp.456-471.	報告と質疑応答			
第30回	pp.471-503.	報告と質疑応答 まとめ			

国際					
授業番号	B103080024				
科目名	2年次専門研究		通年（E）		
担当者	田村 孝	対象学年	2	単位数	4
授業のねらいと到達目標	児童文学を手がかりとして、子どもの心について考えていきます。河合隼雄『子どもの宇宙』をメインテキストとし、子どもと家族、子どもと秘密、子どもと動物などの話題について、ディスカッションを行っていきます。興味・関心を共有する仲間との議論を通じて、自分自身の考え方の幅を広げていけるようになることが到達目標です。				
授業の進め方（履修条件など）	テキスト輪読では配付資料の作成・発表を分担して行います。このほか、子ども関連の時事問題についての報告も求めます。前期・後期同一内容を、受講学生を交代して実施します。				
成績評価方法	輪読の内容（発表・配付資料）と議論への参加度を合わせて40%、他の活動（時事問題報告、絵本の読み聞かせなど）				
基準	30%、まとめのレポート30%を基準とする。				
授業の予習・復習	予習：当該章の下読みを行い、感想・疑問点を整理する。 復習：クラスでの活動内容を受け、さらに考察したことを書き留める。				
教科書	河合隼雄（2010）『子どもの宇宙』岩波新書386				
参考文献	西條勉（2009）『千と千尋の神話学』新典社新書38 このほか、話題に応じて適宜紹介します。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	イントロダクション	ゼミの進め方、ウォーミングアップ			
第2回	子ども関連の時事問題	情報共有			
第3回	子ども関連の時事問題	考察、ディスカッション			
第4回	はじめに I 子どもと家族	発表の仕方、手がかりの見つけ方			
第5回	I 子どもと家族	【個人発表】 テーマに慣れる			
第6回	II 子どもと秘密	【個人発表】 関連のある話題を探す			
第7回	III 子どもと動物	【個人発表】 グループ別ディスカッション			
第8回	IV 子どもと時空	【個人発表】 考察を深める			
第9回	V 子どもと老人	【個人発表】 複数の章を相互に関連づけてみる			
第10回	VI 子どもと死	【個人発表】 考えを記述してみる			
第11回	VII 子どもと異性	【個人発表】 全体をふりかえり、レポートの材料を集める			
第12回	絵本の読み聞かせ	実践を通じて学ぶ			
第13回	絵本の読み聞かせ	効果的な方法を考える			
第14回	まとめ	自由討議			
第15回	まとめ	レポート作成			
第16回	イントロダクション	ゼミの進め方、ウォーミングアップ			
第17回	子ども関連の時事問題	情報共有			
第18回	子ども関連の時事問題	考察、ディスカッション			
第19回	はじめに I 子どもと家族	発表の仕方、手がかりの見つけ方			
第20回	I 子どもと家族	【個人発表】 テーマに慣れる			
第21回	II 子どもと秘密	【個人発表】 関連のある話題を探す			
第22回	III 子どもと動物	【個人発表】 グループ別ディスカッション			
第23回	IV 子どもと時空	【個人発表】 考察を深める			
第24回	V 子どもと老人	【個人発表】 複数の章を相互に関連づけてみる			
第25回	VI 子どもと死	【個人発表】 考えを記述してみる			
第26回	VII 子どもと異性	【個人発表】 全体をふりかえり、レポートの材料を集める			
第27回	絵本の読み聞かせ	実践を通じて学ぶ			
第28回	絵本の読み聞かせ	効果的な方法を考える			
第29回	まとめ	自由討議			
第30回	まとめ	レポート作成			

国際					
授業番号	B103080025				
科目名	2 年次専門研究		通年 (D)		
担当者	武内 清	対象学年	2	単位数	4
授業のねらいと到達目標	こどもの教育に取り組むためには、教育に関する知識や技能だけでなく、知識や技能を活用して課題を解決する力が必要です。本授業は、教育にかかわる課題について調べ、考え、調べ考えた結果を議論し、議論に基づいて課題を明確にして、再び調べ考えという一連の活動を通して、課題解決能力を身に付けられるようにすることを目標とします。算数教育に関する課題を中心としますが、それ以外でも構いません。				
授業の進め方(履修条件など)	テーマに応じてグループに分かれ、グループごとに課題を調べ考え、その結果を発表し、議論し、評価・改善しながら進めていきます。学生相互の学び合いを広げ深めるため、「リアクション制度」を導入します。				
成績評価方法	課題への取り組みや、発表、議論、レポート等を総合的に評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：個人あるいはグループでの課題解決や発表、議論のための準備をすること。 復習：疑問や論点を自分なりにまとめ、次の課題を見つけること。				
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』（2008 年，東洋館出版）				
参考文献	文部科学省『小学校学習指導要領（新旧対照表）』（2008 年）{ <a href="http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/03/30/1304417_002.pdf">http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/03/30/1304417_002.pdf</a> } 文部科学省・国立教育政策研究所教育課程研究センター『全国学力・学習状況調査の 4 年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ 小学校編』（2008 年，教育出版）				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	ガイダンス	こども学科 2 年次前期に期待されること，前期の授業の進め方			
第 2 回	課題設定のための準備（1）	算数を中心に，これまでの学習の振り返り			
第 3 回	課題設定のための準備（2）	教育目標の動向と課題探究			
第 4 回	課題設定のための準備（3）	全国学力・学習状況調査，PISA，TIMSS にみる学力観			
第 5 回	課題の設定（1）	各自の問題意識の発表・共有とグループ分け			
第 6 回	課題の設定（2）	課題の特定と発表，情報の収集と共有			
第 7 回	課題解決の構想（1）	各グループで課題を解決するための情報収集			
第 8 回	課題解決の構想（2）	各グループで課題を解決するための作業とその計画			
第 9 回	解決の実践（1）	中間発表			
第 10 回	解決の実践（2）	中間発表に基づく討議			
第 11 回	評価・改善（1）	中間発表と討議にもとづく残された課題の明確化			
第 12 回	評価・改善（2）	残された課題の解決			
第 13 回	評価・改善（3）	最終発表と討議			
第 14 回	成果と残された課題の特定	一連の課題探究の振り返り			
第 15 回	前期のまとめ	教育に関する課題の解決に必要な能力について			
第 16 回	ガイダンス	こども学科 2 年次後期に期待されること，授業の進め方			
第 17 回	課題設定のための準備（1）	算数を中心に，これまでの学習の振り返り			
第 18 回	課題設定のための準備（2）	教育目標の動向と課題探究			
第 19 回	課題設定のための準備（3）	全国学力・学習状況調査，PISA，TIMSS にみる学力観			
第 20 回	課題の設定（1）	各自の問題意識の発表・共有とグループ分け			
第 21 回	課題の設定（2）	課題の特定と発表，情報の収集と共有			
第 22 回	課題解決の構想（1）	各グループで課題を解決するための情報収集			
第 23 回	課題解決の構想（2）	各グループで課題を解決するための作業とその計画			
第 24 回	解決の実践（1）	中間発表			
第 25 回	解決の実践（2）	中間発表に基づく討議			
第 26 回	評価・改善（1）	中間発表と討議にもとづく残された課題の明確化			
第 27 回	評価・改善（2）	残された課題の解決			
第 28 回	評価・改善（3）	最終発表と討議			
第 29 回	成果と残された課題の特定	一連の課題探究の振り返り			
第 30 回	授業のまとめ	教育に関する課題の解決に必要な能力について			



国際		
授業番号	B103090001	
科目名	3 年次専門研究 通年	
担当者	中村 圭三 対象学年 3 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	本ゼミでは、2 年生で実施した「印旛沼流域鹿島川における自然環境調査」について、さらにレベルアップした内容の調査を実施し、論文執筆に向けた準備をさせる。	
授業の進め方(履修条件など)	本ゼミでは、2 年生で実施した「印旛沼流域鹿島川における自然環境調査」について、さらにレベルアップした内容の調査を実施し、論文執筆に向けた準備をさせる。	
成績評価方法	授業態度と定期試験の成績で評価する。	
基準		
授業の予習・復習	予習：ゼミの調査研究テーマに関する文献・資料等に目を通しておく。 復習：ゼミで取り上げた内容について、文献・図鑑等で確認する。	
教科書	『フィールドの環境科学』中村圭三著 青山社 2007.	
参考文献	授業の中で、適宜指示する。	
回数	授業項目	授業内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの進め方についての説明
第 2 回	2 年次調査結果の検討	パワーポイントを見て検討
第 3 回	3 年次調査計画の策定	討論をして策定
第 4 回	印旛沼の水質研究	文献による調査・発表
第 5 回	文献による調査・発表	文献による調査・発表
第 6 回	鹿島川の水質研究	文献による調査・発表
第 7 回	鹿島川の生態研究	文献による調査・発表
第 8 回	水質調査準備 (1)	pH、EC、ORP、DO などの機器による測定準備
第 9 回	水質調査準備 (2)	分光光度計による測定準備
第 10 回	水質調査準備 (3)	イオンクロマトグラフによる測定準備
第 11 回	生態調査準備 (1)	採取器具類の準備
第 12 回	生態調査準備 (2)	同定資料文献準備
第 13 回	生態調査準備 (3)	撮影器具等の準備
第 14 回	土地利用調査実施 (1)	土地利用図による調査
第 15 回	土地利用調査実施 (2)	空中写真・衛星写真による調査
第 16 回	調査データ整理 (1)	流量の計算
第 17 回	調査データ整理 (2)	水質データの整理 (1)
第 18 回	調査データ整理 (3)	水質データの整理 (2)
第 19 回	調査データ整理 (4)	水生生物データの整理
第 20 回	調査データ整理 (5)	土地利用データの整理
第 21 回	統計・グラフ解析 (1)	流量
第 22 回	統計・グラフ解析 (2)	水質 (1)
第 23 回	統計・グラフ解析 (3)	水質 (2)
第 24 回	統計・グラフ解析 (4)	水生生物
第 25 回	統計・グラフ解析 (5)	土地利用
第 26 回	研究成果報告会準備 (1)	パワーポイント作成 (1)
第 27 回	研究成果報告会準備 (2)	パワーポイント作成 (2)
第 28 回	研究成果報告会準備 (3)	パワーポイント作成 (3)
第 29 回	発表	研究成果報告会
第 30 回	まとめ	総括

国際		
授業番号	B103090002	
科目名	3年次専門研究 通年	
担当者	池谷 美佐子 対象学年 3 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	教育の意味、子どもについての理解、学校教育の在り方とは何かについての理解を深めることをめざします。そのために、教育学の文献と一緒に読み、自分なりの教育理念を持てるようになってほしいと思います。それをもとに、後半は小学校教育の実践に結びつく内容を取り上げ（学級づくり・模擬授業等を含め）、小学校教育についての理解と、実践的な能力や態度を高めていきます。	
授業の進め方（履修条件など）	課題意識を持って授業に参加することによって、教育とは何かという問いへの関心を高め、学校教育の意義や、子どもの興味・関心を伸ばす授業の大切さを具体的な取り組みを含めて理解していきます。	
成績評価方法	授業における発言、発表、討論への意欲など平常点、模擬授業への取り組み方、レポート等を総合的に評価します。	
基準		
授業の予習・復習	予習 課題に関する資料の検索と収集 復習 資料の整理	
教科書	デューイ 「学校と社会」 岩波文庫 ランゲフェルト 「教育の人間学的考察」[増補改訂版] 未来社	
参考文献	必要に応じて紹介	
回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方について説明
第2回	教育哲学を学ぶ(1)	デューイ「学校と社会」1章と2章についての説明と討論
第3回	教育哲学を学ぶ(2)	デューイ「学校と社会」3章と4章についての説明と討論
第4回	教育哲学を学ぶ(3)	デューイ「学校と社会」5章と6章についての説明と討論
第5回	教育哲学を学ぶ(4)	デューイ「学校と社会」7章と8章についての説明と討論
第6回	教育哲学を学ぶ(5)	デューイ「学校と社会」についてのまとめと討論
第7回	教育哲学を学ぶ(6)	ランゲフェルト「教育の人間学的考察」についての説明
第8回	教育哲学を学ぶ(7)	「教育の人間学的考察」第7章 豊かな社会の学校と教育を読む
第9回	教育哲学を学ぶ(8)	「豊かな社会の学校と教育」について討論する。
第10回	デューイの教育哲学と今日の教育	「学校と社会」をもと現代日本の教育を検証する。
第11回	ランゲフェルトの教育哲学と今日の教育	ランゲフェルトの子供の人間学的考察をもとに今日の日本の教育を考察する
第12回	現代の日本の教育(1)	小学校教育における現状と課題について考える。
第13回	現代の日本の教育(2)	課題解決に向けての取り組みについて調べる。
第14回	現代の日本の教育(3)	小学校教育における課題解決に向けての様々な取り組みについて討論する。
第15回	報告会	現代の小学校教育についての調査・検討したことを報告試合い、理解を深める。
第16回	授業とは何か(1)	インターンシップ経験者の体験談をもとに討論し、考える。
第17回	授業とは何か(2)	小学生の実態と授業の在り方を考える。
第18回	授業とは何か(3)	教材の工夫と教材観について考える。
第19回	授業とは何か(4)	指導案を作る。
第20回	授業とは何か(5)	授業の進め方を考える。
第21回	授業とは何か(6)	互いの授業の見方について検討し、視点を整理する。
第22回	模擬授業	国語科低学年の内容の模擬授業と討論
第23回	模擬授業	国語科高学年の内容の模擬授業と討論
第24回	模擬授業	算数科低学年の内容の模擬授業と討論
第25回	模擬授業	算数科中学年の内容の模擬授業と討論
第26回	模擬授業	算数科高学年の内容の模擬授業と討論
第27回	模擬授業	社会科の模擬授業と討論
第28回	模擬授業	理科の模擬授業と討論
第29回	模擬授業	道徳の模擬授業と討論
第30回	全体討議	模擬授業から見えた課題や改善点の確認

国際			
授業番号	B103090003		
科目名	3年次専門研究	通年	
担当者	田中 未央	対象学年	3
		単位数	4
授業のねらいと到達目標	教育現場に関連する心理学的な諸問題について、書籍や新聞、インターネットを活用して情報を収集し、他者との議論を通して理解を深める。		
授業の進め方(履修条件など)	ゼミ形式で実施する。授業内で扱うテーマごとに担当者を決めて発表と議論を行うので、遅刻・欠席は厳禁である。また、前期・後期同一内容を受講学生を交代して実施する。		
成績評価方法	発表・授業態度・リアクションペーパーによって総合的に評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：与えられたテーマに関する資料収集 復習：授業の内容を整理し、まとめる。		
教科書	使用しない。必要に応じて資料を配布する。		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	授業の進め方, 授業計画, 担当の決定	
第2回	講義①	資料収集の方法について	
第3回	講義②	発表の方法について (プレゼンテーションの基本, レジユメの作成方法について)	
第4回	講義③	適応と不適応	
第5回	発表①	広汎性発達障害	
第6回	発表②	注意欠陥多動性障害	
第7回	発表③	学習障害	
第8回	発表④	青年期以降の発達障害	
第9回	発表⑤	アイデンティティの達成とモラトリアム	
第10回	発表⑥	無気力(スチューデントアパシー)	
第11回	発表⑦	不登校	
第12回	発表⑧	いじめ問題	
第13回	発表⑨	問題行動	
第14回	発表⑩	児童虐待とおとなのメンタルヘルス	
第15回	まとめ	授業の総括	
第16回	オリエンテーション	授業の進め方, 授業計画, 担当の決定	
第17回	講義①	資料収集の方法について	
第18回	講義②	発表の方法について (プレゼンテーションの基本, レジユメの作成方法について)	
第19回	講義③	適応と不適応	
第20回	発表①	広汎性発達障害	
第21回	発表②	注意欠陥多動性障害	
第22回	発表③	学習障害	
第23回	発表④	青年期以降の発達障害	
第24回	発表⑤	アイデンティティの達成とモラトリアム	
第25回	発表⑥	無気力(スチューデントアパシー)	
第26回	発表⑦	不登校	
第27回	発表⑧	いじめ問題	
第28回	発表⑨	問題行動	
第29回	発表⑩	児童虐待とおとなのメンタルヘルス	
第30回	まとめ	授業の総括	

国際			
授業番号	B103090004		
科目名	3年次専門研究		通年
担当者	畑中 千晶	対象学年	3 単位数 4
授業のねらいと到達目標	こどもの教育に対して文学が果たす役割について、児童文学から古典文学まで多様な題材を取り上げつつ考えていきます。教員採用試験も視野に入れ、現在の教育課題に関するディスカッションにも取り組みます。文学教育の専門性を持つと同時に、こどもの教育について幅広い観点から考察できるようになることが到達目標です。		
授業の進め方(履修条件など)	仲間と協議しながら研究を進めることを重視するので、協調性・積極性を発揮するように心がけること。「児童文学論」の受講を強く求める。このほか「文学入門」「日本の文学」「比較文学」などの受講を推奨。		
成績評価方法	クラス内活動への貢献度(50%)、レポート(50%)		
基準			
授業の予習・復習	予習：課題に取り組み、発言内容を準備する。 復習：疑問点について調査・考察を行い、次週報告。		
教科書	川端有子『児童文学の教科書』玉川大学出版部 ISBN978-4-472-40463-4		
参考文献	適宜紹介。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	イントロダクション	自己紹介、ゼミの進め方について	
第2回	教育課題について	新聞を用いた情報収集と分析、ディスカッション	
第3回	小学校における文学教育	国語教科書の分析	
第4回	小学校における文学教育	図書館を活用する	
第5回	神話・伝説・昔話	『古事記』に親しむ	
第6回	神話・伝説・昔話	絵本の読み比べ	
第7回	神話・伝説・昔話	地域の民話・伝説	
第8回	物語の世界	『かくや姫』の絵本分析	
第9回	物語の世界	『かくや姫』と『竹取物語』の違い	
第10回	物語の世界	『竹取物語』心について考える物語	
第11回	児童文学研究	教科書掲載作と関連作とを読み深める(ファンタジー)	
第12回	児童文学研究	教科書掲載作と関連作とを読み深める(リアリズム)	
第13回	児童文学研究	教科書掲載作と関連作とを読み深める(リアリズム)	
第14回	児童文学研究	教科書掲載作と関連作とを読み深める(ノンフィクション)	
第15回	前期まとめ	前期の学習内容をふりかえり、課題を整理する	
第16回	後期ガイダンス	後期の目標を設定する	
第17回	教育課題について	グループ・ディスカッション(模擬集団討論)	
第18回	わらべ歌、俳句	音にのせて遊ぶ	
第19回	文語詩に親しむ	漢詩、漢文の音読・暗唱	
第20回	古文の響き	『枕草子』を読み深める	
第21回	読解から創作へ	『枕草子』読解から創作活動へ	
第22回	実践演習	模擬授業と討議 1	
第23回	実践演習	模擬授業と討議 2	
第24回	実践演習	模擬授業と討議 3	
第25回	実践演習	模擬授業と討議 4	
第26回	実践演習	模擬授業と討議 5	
第27回	実践演習	模擬授業と討議 6	
第28回	教育課題について	グループ・ディスカッション(模擬集団討論)	
第29回	教育課題について	小論文作成	
第30回	後期まとめ	後期の学習内容をふりかえり、課題を整理する	

国際					
授業番号	B103090005				
科目名	3年次専門研究		通年		
担当者	佐藤 佳子	対象学年	3	単位数	4
授業のねらいと到達目標	このゼミでは、児童英語教育に関する文献を英語で読み、子どもに英語を教えるために必要な知識や指導技術の習得を目指す。後期は、各自で設定した研究テーマに基づいたレポートを作成する。教材研究、教材開発も行う。				
授業の進め方(履修条件など)	ゼミ形式で実施する。授業内で扱うテーマごとに担当者を決めて発表と議論を行うため、遅刻・欠席は厳禁である。				
成績評価方法	授業への積極的な参加、発表、課題の提出状況などを総合して評価する。				
基準					
授業の予習・復習	予習：与えられたテーマに関する資料収集。各回で取り上げる資料を読む。 復習：授業の内容を整理し、まとめる。テーマの設定、レポート作成に向けての資料収集				
教科書	必要に応じて資料を配布する。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	前期イントロダクション	自己紹介、授業の進め方、授業計画、担当の決定			
第2回	講義①	英文資料の読み方			
第3回	講義②	発表の方法について(プレゼンテーションの基本、レジュメの作成方法について)			
第4回	英文講読①	第二言語習得理論、認知的アプローチ learning foreign language, cognitive approaches			
第5回	英文講読②	アクティビティ、歌、チャンツ tasks and activities			
第6回	英文講読③	スピーキングの指導 spoken language			
第7回	英文講読④	語彙習得 learning words			
第8回	英文講読⑤	フォーカス・オン・フォーム teaching grammar, focus on form			
第9回	英文講読⑥	リーディングの指導、ライティングの指導 literacy skills			
第10回	英文講読⑦	物語を聞かせる、読む Reading a story			
第11回	英文講読⑧	相互理解、タスク Interaction, task-based teaching			
第12回	英文講読⑨	多重知能理論 Multiple Intelligences			
第13回	英文講読⑩	language choice			
第14回	英文講読⑪	評価について assessment			
第15回	前期まとめ	授業の総括			
第16回	後期イントロダクション	授業の進め方、授業計画			
第17回	レポート作成方法	テーマの設定、資料収集の方法、書き方			
第18回	教材研究①	教材作成、教材開発の方法①			
第19回	教材研究②	教材作成、教材開発の方法②			
第20回	文献調査①	文献リスト作成①			
第21回	文献調査②	文献リスト作成②			
第22回	中間報告①	発表①			
第23回	中間報告②	発表②			
第24回	中間報告③	発表③			
第25回	中間レポート提出	各自の中間レポート発表			
第26回	詳細報告①	個別指導①			
第27回	詳細報告②	個別指導②			
第28回	詳細報告③	個別指導③			
第29回	詳細報告④	個別指導④			
第30回	後期まとめ	最終レポートの提出			

国際					
授業番号	B103090006				
科目名	3年次専門研究		通年		
担当者	田村 孝	対象学年	3	単位数	4
授業のねらいと到達目標	現代社会をどのように理解するのか、その中でどう生きていくのか、社会人として、または教師としてどのように生きていくべきかを考えることを目的とする。				
授業の進め方(履修条件など)	現代社会についての問題点を指摘し、分析を加えた書物を読み上げる。テキストは、最近発行された、暉峻淑子『社会人の生き方』(岩波新書 2012年 800円+税)。とても良い本なので将来を背負う学生にぜひ読んでほしい。そのほか、適宜現代社会の諸問題に関する新聞記事の読み合わせを行う。				
成績評価方法	受講の態度とレポートによる。基準はどれぐらい自学自修ができていくか、積極的に授業に参加したのかによる。				
基準					
授業の予習・復習	テキストや新聞記事を事前に読んで来ることが必要である。報告者は自分の発表内容を報告後にレポートとして提出しなければならない。				
教科書	暉峻淑子『社会人の生き方』(岩波新書 2012年 800円+税)				
参考文献	そのつど指示する。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	オリエンテーション	受講上の注意			
第2回	社会人とは何だろうか?	各自の思うことを書いてもらい、討論する。			
第3回	社会人のイメージ	当番学生による内容報告と質疑			
第4回	浸透した自己責任論	同上			
第5回	若ものたちの本当の悩み	同上			
第6回	働くことへの問い	同上			
第7回	会社人と社会人	同上			
第8回	閉ざされた村社会では	同上			
第9回	社会とのつながりへの飢餓	同上			
第10回	ロスタイム(アディショナル・タイム)	時間調整(多分ここまで予定どおりに進まないのではないかとと思われるので、遅れを取り戻すために予定を空白にしておく)			
第11回	「分子」が織りなす関係へ	当番学生による内容報告と質疑			
第12回	ある先生との出会い	同上			
第13回	弱い人間たちの支え合い	同上			
第14回	新聞から始まる「社会」	同上			
第15回	個人から民主主義社会へ	同上			
第16回	老人同士が支え合う場	同上			
第17回	地域社会で起きた問題から	同上			
第18回	さまざまな人たちの中から	同上			
第19回	孤独で生きられるか	同上			
第20回	ロスタイム	第10回に同じ(時間調整)			
第21回	社会の中の労働	当番学生による内容報告と質疑			
第22回	労働を通じた和解と協力	同上			
第23回	働くことの喜びを通じて	同上			
第24回	仕事と個人生活と社会	同上			
第25回	未来に希望を持てるか	同上			
第26回	ホームレスになった若者	同上			
第27回	若者の意欲を失わせる社会	同上			
第28回	一つの希望	同上			
第29回	働く仲間であることのプラス	同上			
第30回	テキストを読み終わって	自由討論			

国際		
授業番号	B103090007	
科目名	3年次専門研究 通年	
担当者	増井 由紀美 対象学年 3 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	1. 現代アメリカ社会について知識を身につける。 2. リサーチの仕方を身につける。 3. プレゼンテーションの仕方を身につける。	
授業の進め方(履修条件など)	1. 指示された箇所を読めます。(予習) 2. 担当者が報告します。 3. 資料を読みながら議論します。	
成績評価方法	出席30%、報告30%、提出物40%	
基準		
授業の予習・復習	予習: 次の週に学ぶ箇所を必ず読むこと。 復習: 授業の終わりに指示された作業を行うこと。	
教科書	『新時代アメリカ社会を知るための60章』明石紀雄監修、明石書店、2013年。	
参考文献		
回数	授業項目	授業内容
第1回	Introduction	授業の進め方の説明。
第2回	オバマ時代のアメリカ	オバマ時代のアメリカはそれ以前とどこが違うのか考える。
第3回	21世紀の人権問題	人種問題、女性の政治参加、アフターマティブアクションについて考えます。
第4回	アメリカの外交	「核兵器のない世界」、基地問題について考えます。
第5回	国内事情	移民社会、格差社会の問題を捉え直します。
第6回	マイノリティー集団の社会参加	人種問題が見えてくる事件について考えます。
第7回	スポーツと教育	スポーツと人種、女性教育について学びます。
第8回	健康と環境	食の安全や天災及び人災について議論します。
第9回	IT時代のアメリカ	ソーシャルメディアや電子書籍は現代アメリカにどのような影響を与えて来たか議論します。
第10回	ポップカルチャー	ディズニー映画やドキュメンタリーを取り上げます。
第11回	宗教事情	多様性の時代と言えるか議論します。
第12回	歴史を記憶する	博物館、記念碑について調べます。
第13回	先人の知恵	前世紀から残された課題について考えます。
第14回	フィールドトリップ	アメリカ絵画を鑑賞します。
第15回	「現代アメリカ社会」から見えてくるもの	2年ゼミで勉強したアメリカ史の文脈に現代アメリカ社会で起きている事象を当てはめて分析します。
第16回	後期授業の進め方についての説明	アメリカについて関心のあるテーマを交換しながら、後期報告の順番を決めます。
第17回	リサーチの仕方1	図書館での資料収集、コンピュータ検索、インタビューなどの方法論について学びます。
第18回	文学及び報告1	第一担当者の報告を聞き意見交換及び批評をします。
第19回	絵画/写真及び報告2	第二担当者の報告を聞き意見交換及び批評をします。
第20回	映画及び報告3	第三担当者の報告を聞き意見交換及び批評をします。
第21回	報告4	第4担当者の報告を聞き意見交換及び批評をします。
第22回	報告5	第5担当者の報告を聞き意見交換及び批評をします。
第23回	レポートの書き方(日本語)	これまでの報告をレポートにまとめるための準備です。
第24回	レポートの書き方(英語)	英語論文の書き方を学びます。
第25回	リサーチの仕方2	都立中央図書館に行きます。
第26回	第2回目報告1	報告2件(1件につきひとりの批評担当がいます。)
第27回	第2回目報告2	報告2件(1件につきひとりの批評担当がいます。)
第28回	第2回目報告3	報告2件(1件につきひとりの批評担当がいます。)
第29回	まとめ	一年間を振り返り、学んだことを整理します。
第30回	レポート提出	レポート作成の過程で気づいた点などについて意見交換します。

国際			
授業番号	B103090008		
科目名	3年次専門研究	通年	
担当者	有馬 容子	対象学年	3 単位数 4
授業のねらいと到達目標	前期は、TOEIC テスト問題の演習を継続し高得点を目指す、同時に短い英文のエッセイを読み、将来的には小説を原文で読めるようになるための初歩的な指導をする。後期は作家 Kurt Vonnegut のエッセイを読み、原文で意外に簡単に読めることとその面白さを実感してもらいたい。		
授業の進め方(履修条件など)	英文読解力の向上を目指し、決められた時間内で TOEIC の読解問題を解くことに集中し、同時に同じ要領で短いエッセイの内容を把握する訓練をする。		
成績評価方法基準	平常点(ゼミでの発言、理解度)(70%) 学期末レポートの成績(30%)		
授業の予習・復習	復習: 英文プリントの内容を把握し、単語・表現を覚える。内容について自分の考えをまとめレポートに備える。		
教科書	プリントを配布		
参考文献	Kurt Vonnegut. Armageddon in Retrospect. Berkley, 2008. Jay Allison, ed. This I Believe II: More Personal Philosophies of Remarkable Men and Women. Henry Holt, 2008.		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ゼミの取り組み方について説明	参考文献について解説	
第2回	TOEIC Part 6(1) Essay (1)	Part 6 読解力問題演習 "Do What You Love"	
第3回	TOEIC Part 6(2) Essay (2)	Part 6 読解力問題演習 "All the Joy the World Contains"	
第4回	TOEIC Part 6(3) Essay (3)	Part 6 読解力問題演習 "Untold Stories of Kindness"	
第5回	TOEIC Part 7(1) Essay (4)	Part 7 読解力問題演習 "Inner Strength from Desperate Times"	
第6回	TOEIC Part 7(2) Essay (5)	Part 7 読解力問題演習 "A Feeling of Wildness"	
第7回	TOEIC Part 7(3) Essay (6)	Part 7 読解力問題演習 "I Will Take My Voice Back"	
第8回	TOEIC Part 7(4) Essay (7)	Part 7 読解力問題演習 "Failure Is a Good Thing"	
第9回	TOEIC Part 7(5) Essay (8)	Part 7 読解力問題演習 "A Reverence for All Life"	
第10回	TOEIC Part 7(6) Essay (9)	Part 7 読解力問題演習 "Doing Things My Own Way"	
第11回	Armageddon in Retrospect (1)	"Introduction" より	
第12回	Armageddon (2)	"Wailing Shall Be in All Streets" より	
第13回	Armageddon (3)	"Wailing Shall Be in All Streets" より	
第14回	Armageddon (4)	"Great Day" より	
第15回	Armageddon (5)	"Great Day" より	
第16回	Armageddon (6)	"Guns Before Butter" より	
第17回	Armageddon (7)	"Guns Before Butter" より	
第18回	Armageddon (8)	"Happy Birthday, 1951" より	
第19回	Armageddon (9)	"Happy Birthday, 1951" より	
第20回	Armageddon (10)	"The Unicorn Trap" より	
第21回	Armageddon (11)	"The Unicorn Trap" より	
第22回	Armageddon (12)	"Unknown Soldier" より	
第23回	Armageddon (13)	"Unknown Soldier" より	
第24回	Armageddon (14)	"Just You and Me, Sammy" より	
第25回	Armageddon (15)	"Just You and Me, Sammy" より	
第26回	Armageddon (16)	"Armageddon in Retrospect" より	
第27回	Armageddon (17)	"Armageddon in Retrospect" より	
第28回	後期まとめ	Armageddon 全体について意見を出し合う。	
第29回	前期英語読解力テスト	解答解説	
第30回	エッセイについてのレポート提出	レポートの内容について発表	



国際				
授業番号	B103090009			
科目名	3年次専門研究		通年	
担当者	家近 亮子	対象学年	3	単位数
			3	4
授業のねらいと到達目標	本年度は、前期は2年次に引き続き、日中韓3国共同編集の『新しい東アジアの近現代史』を教科書として読み、三国の歴史認識の違いについて考えます。 後期は現代中国の歴史、政治、経済、社会、外交に関して学び、中国が抱える諸問題を理解し、その問題の根源を分析していきます。			
授業の進め方(履修条件など)	ゼミ生であることが履修条件です。授業は教科書を使いながら、発表、問題提起、討論形式で進めていきます。4年次に卒業論文を書くための問題意識をもてるようにします。2年次に「中国Ⅰ」を履修していることが望ましい。			
成績評価方法	ゼミであるため、出席を重視します。また、問題意識を持ち、積極的に授業に参加することを評価します。発表、討論、レポートによって総合的に成績評価をおこないます。			
基準				
授業の予習・復習	予習：教科書を読んでくること。発表の場合は、レジュメの作成。 復習：まとめ、問題提起をおこない、討論の準備をすること。			
教科書	前期：日中韓3国共同歴史編纂委員会編『新しい東アジアの近現代史』、日本評論社、2012年。 後期：家近亮子・唐亮・松田康博編著『改訂版 5分野から読み解く現代中国』、晃洋書房、2011年。			
参考文献	各項目毎に参考文献を紹介していく。			
回数	授業項目	授業内容		
第1回	ガイダンス	授業の進め方、計画、担当の決定		
第2回	教科書第3章-第1～2節	義和団事変と日露戦争		
第3回	教科書第3章-第3～4節	日露戦争がもたらした東アジアの変動		
第4回	教科書第4章-第1～2節	第一次世界大戦と東アジアの民族運動		
第5回	教科書第4章-3節	ワシントン体制と東アジア		
第6回	教科書第5章-第1～2節	満州事変から日中戦争		
第7回	教科書第5章-第3節～4節	太平洋戦争と戦後処理		
第8回	教科書第6章-第1～2節	冷戦と東アジア、中国内戦		
第9回	教科書第6章-第3～4節	朝鮮戦争と南北分断		
第10回	教科書第7章-第1節～2節	中ソ対立と中国の文化大革命		
第11回	教科書第7章-第3節～4節	ベトナム戦争と米ソデタントの東アジアへの影響		
第12回	教科書第8章-第1章～2章	冷戦構造崩壊と東アジア		
第13回	教科書第8章-第3章～4章	東アジアの経済協力と民間交流、今後の課題		
第14回	各自による問題提起	東アジアの歴史に関する問題関心発表と討論		
第15回	全体討論	問題の発見、前期レポートのテーマ、決定		
第16回	後期授業のガイダンス	教科書の説明と授業の進め方、発表の順番決定		
第17回	教科書第2部「政治」-①	第3章「国家制度」-①		
第18回	教科書第2部「政治」-②	第3章「国家制度」-②		
第19回	教科書第2部「政治」-③	第4章「一党支配下の権力構造」-①		
第20回	教科書第2部「政治」-④	第4章「一党支配下の権力構造」-②		
第21回	教科書第2部「政治」-⑤	第5章「政治改革」-①		
第22回	教科書第2部「政治」-⑥	第5章「政治改革」-②		
第23回	教科書第2部「政治」-⑦	第6章「国家統合」-①		
第24回	教科書第2部「政治」-⑧	第6章「国家統合」-②		
第25回	教科書第3部「経済」-①	第7章「中国の経済改革」-①		
第26回	教科書第3部「経済」-②	第7章「中国の経済改革」-②		
第27回	教科書第3部「経済」-③	第8章「経済発展」-①		
第28回	教科書第3部「経済」-④	第8章「経済発展」-②		
第29回	各自による問題提起	現代中国に関する問題関心発表と討論		
第30回	全体討論	問題の発見、レポートテーマ、決定		

国際

授業番号	B103090010		
科目名	3年次専門研究	通年	
担当者	寛正 豊和	対象学年	3
		単位数	4

授業のねらいと到達目標  
このゼミの目的は、法学・刑事法学的諸問題をテーマに掲げています。例えば、わが国および諸外国の犯罪現象をとりあげ、犯罪とはなにか、どのようにすれば犯罪はなくなるのか、また、いかにして犯罪者を再社会化させるかなどについて、人道主義的立場から考察しようとするものです。  
演習は、本質的に講義とは異なり、授業、学外学習としての刑務所・少年院等の見学や裁判傍聴あるいは参考文献、判例等を通じて得たさまざまな知識を確認し昇華する場所です。したがって、演習はその参加者がつくりあげること、つねに議論に加わり結論を模索したり、問題点を指摘できるようになることが必要です。そのためには、他者の発言をよく聞き、どこまで理解できて、どこからが理解できないかを自らが整理する努力、自分の意見を他者に、より説得力をもって理解してもらえ能力などをつくりあげることがこのゼミの主眼でもあります。

授業の進め方(履修条件など)  
特にありません。

成績評価方法・基準  
初回の授業において指示します。

授業の予習・復習  
初回の授業において指示します。

教科書  
初回の授業において指示します。

参考文献  
授業において指示します。

回数	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの目的・位置づけ
第2回	オリエンテーション	ゼミと講義の相違について
第3回	オリエンテーション	刑事法学的諸問題・法学的諸問題とは(なぜ、人間社会に犯罪が生じ、法が必要か)、問題・テーマの発見方法(問題意識の明確化)、六法のつかいかた、文献のよみかた、判例のよみかた、資料のあつめ方、発表にあたっての諸原則、レポート構成の方法、論文の書き方などについて講じ、興味、関心、理解を深めていく。
第4回	オリエンテーション	刑事法学的諸問題・法学的諸問題とは(なぜ、人間社会に犯罪が生じ、法が必要か)、問題・テーマの発見方法(問題意識の明確化)、六法のつかいかた、文献のよみかた、判例のよみかた、資料のあつめ方、発表にあたっての諸原則、レポート構成の方法、論文の書き方などについて講じ、興味、関心、理解を深めていく。
第5回	オリエンテーション	刑事法学的諸問題・法学的諸問題とは(なぜ、人間社会に犯罪が生じ、法が必要か)、問題・テーマの発見方法(問題意識の明確化)、六法のつかいかた、文献のよみかた、判例のよみかた、資料のあつめ方、発表にあたっての諸原則、レポート構成の方法、論文の書き方などについて講じ、興味、関心、理解を深めていく。
第6回	オリエンテーション	刑事法学的諸問題・法学的諸問題とは(なぜ、人間社会に犯罪が生じ、法が必要か)、問題・テーマの発見方法(問題意識の明確化)、六法のつかいかた、文献のよみかた、判例のよみかた、資料のあつめ方、発表にあたっての諸原則、レポート構成の方法、論文の書き方などについて講じ、興味、関心、理解を深めていく。
第7回	オリエンテーション	刑事法学的諸問題・法学的諸問題とは(なぜ、人間社会に犯罪が生じ、法が必要か)、問題・テーマの発見方法(問題意識の明確化)、六法のつかいかた、文献のよみかた、判例のよみかた、資料のあつめ方、発表にあたっての諸原則、レポート構成の方法、論文の書き方などについて講じ、興味、関心、理解を深めていく。
第8回	演習	8回目以降は、毎回担当者を決めて、各自が興味をもっている分野のミニ報告を行い、問題解決能力およびディスカッション能力の養成をします。報告者は、レジュメ、黒板活用、関連資料などの提出により、実践的な研究発表になるように心がけて下さい。
第9回	演習	報告、ディスカッション
第10回	演習	報告、ディスカッション
第11回	演習	報告、ディスカッション
第12回	演習	報告、ディスカッション
第13回	演習	報告、ディスカッション
第14回	演習	報告、ディスカッション
第15回	演習	報告、ディスカッション
第16回	演習	報告、ディスカッション
第17回	演習	報告、ディスカッション
第18回	演習	報告、ディスカッション
第19回	演習	報告、ディスカッション
第20回	演習	報告、ディスカッション
第21回	演習	報告、ディスカッション
第22回	演習	報告、ディスカッション
第23回	演習	報告、ディスカッション
第24回	演習	報告、ディスカッション
第25回	演習	報告、ディスカッション
第26回	演習	報告、ディスカッション
第27回	演習	報告、ディスカッション
第28回	演習	報告、ディスカッション
第29回	演習	報告、ディスカッション
第30回	総括	まとめ

国際		
授業番号	B103090011	
科目名	3年次専門研究 通年	
担当者	田口 功 対象学年 3 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	前期は、パソコンを用いて MATLAB プログラムを作成する。さらに、理科実験装置の検討授業を行います。ここでは、資料の収集も行なう。後期は、理科教育に役立つ教材を開発する。さらに、MATLAB を用いシミュレーション練習を行なう。このことを通して自ら課題を持ち研究をする態度が得られることを到達目標とします。	
授業の進め方(履修条件など)	前期は、MATLAB の基本を理解する。基本事項をマスターしてからプログラムを作成する。 資料を見て実験との関連性を検討しながら、理科実験装置の検討を行なう。 後期は、理科教育に役立つ教材を開発する。さらに、MATLAB を用い、応用としてシミュレーション練習を行なう。このことを通して自ら課題を持ち研究をする態度が得られることを到達目標とします。	
成績評価方法	授業態度、提出物、小試験の3点により総合評価します。	
基準		
授業の予習・復習	予習：与えられた課題についてよく資料を見て研究をして下さい。 復習：授業中に指摘された事柄などについて良く復習して下さい。	
教科書	資料を配布します。	
参考文献		
回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方を説明
第2回	MATLAB の基礎知識 - (1)	MATLAB の基本操作、コマンドウィンドウについて
第3回	MATLAB の基礎知識 (2)	MATLAB による四則演算、ベクトルと行列の作り方
第4回	MATLAB の基礎知識 - (3)	MATLAB による四則演算、ベクトルと行列の作り方
第5回	2次元グラフィックス - (1)	関数データの作成と基本的折れ線グラフの作成
第6回	2次元グラフィックス - (2)	多量のデータの入力と種々のグラフの作成法
第7回	3次元グラフィックス - (1)	基本的な空間曲線を描く、meshgrid 命令の理解
第8回	数値解析 - (1)	方程式の数値解法 ニュートン法について
第9回	モンテカルロ法	円周率 $\pi$ の近似値
第10回	太陽光電池	太陽光電池の原理をインターネットで調査し、家庭の電源としてどのように使われているかを調査検討する。どのようにしたら教材に使用できるかを検討する。
第11回	電磁石とは	電磁石作成に対して発熱状況は、避けられない。どのようにしたら安全な実験ができるか電気部品を検討する。磁極の発生と確認、磁極の強さ、実験の難しさを体験する。
第12回	発電装置	電磁石の応用としての電磁誘導現象を式表示とともに理解する。静電気発電機と電池との関係についても考察する。
第13回	電流計と電圧計	電流計と電圧計の原理を資料をもとに検討する。
第14回	計器使用の注意点の検討	電気抵抗の大きさを電流計、電圧計を使用し検討する。さらに、計器自身についても注意点と、なぜか、ということを検討する。
第15回	レンズ	レンズ使用による光の集光とその基本原理を検討する。作図による基本原理を習得。
第16回	力	ゴムやばねを用いての力、ニュートンの法則と力
第17回	ふりこ	振りこの運動を実験の実験器具を作成し、検討する。糸の長さをいろいろ変えて実験を行ってみる。周期と糸の長さとの関係性を、資料を検討したうえで、実際の実験との注意点の検討も行う。
第18回	静電気による発電装置	静電気による発光ダイオード点灯回路作成、トランスの原理を資料をもとに検討する。直流電源がそのまま使えない理由を考えてみよう。資料を収集し、検討する。
第19回	テングスリティー	力の安定を考えたテングスリティーの説明、資料の検討および作成を行なう。
第20回	レンズによる像のでき方。	凸レンズによる光の進み方の実際の実験装置の検討、数式的理解を資料を探しながら検討する。
第21回	レンズの性質	凸レンズによる光の進み方の数式的理解
第22回	電子部品について (1)	電子部品 (LED など) を用いて、フリップフロップ回路を作成してみよう。ほんだやエナメル線、銅線を用いる。資料をさがしてとにかく作成してみる。
第23回	電子部品について (2)	電子部品 (LED など) を用いて、フリップフロップ回路を作成する。問題は多い。動かない場合が多いため、基盤の種類を変えて作成を行なってみる。どの基盤が良いか検討を行なう。
第24回	風力発電機の作成 (1)	市販されている風力発電機を組み多々てみよう。
第25回	風力発電機の作成 (2)	市販されている電子部品を自分で購入し、風力発電装置を作成してみよう。
第26回	数値解析 - (2)	定積分の数値解法について、文献を見て数種類の方法で面積を求め、誤差の検討を行なう。グラフ化し、アルゴリズムを再検討する。
第27回	物体の運動、放物運動	直線運動、放物運動曲線を描くプログラムの作成を行ない、運動の合成をプログラムを通して理解する。
第28回	3次元グラフィックス - (2)	たくさん空間曲線を描く。3次元グラフも数種類ある。地図データを見つけて3次元で書いてみよう。時間をかけてデータを探すことを課題とする。
第29回	教具の開発 (1)	理科教育において、問題となっているか、実験しにくい教具の開発および作成を行なう。資料を探す。
第30回	教具の開発 (2)	理科教育において、問題となっているか、実験しにくい教具の開発および作成を行なう。資料を探す。

国際					
授業番号	B103090014				
科目名	3 年次専門研究		通年		
担当者	高橋 和子	対象学年	3	単位数	4
授業のねらいと到達目標	授業のねらいは、「2 年次専門研究」で学習した内容を踏まえて、調査の企画から報告書の作成まで社会調査の全過程について、実習を通じて体験的に学習することです。到達目標は、調査を企画し、実査を行って得られたデータの分析結果を報告書としてまとめることができる能力を身につけることです。				
授業の進め方(履修条件など)	前期は、調査の企画から調査実施、データのクリーニングまでを行い、後期は、実査により得られたデータの入力から、社会科学統計パッケージソフト (SPSS) により分析し、その結果をレポートにまとめます。				
成績評価方法	ゼミへの参加貢献度と提出物 (課題レポートなど)				
基準					
授業の予習・復習	予習として、調査のための事前準備を十分しておくこと。実査やデータ解析では、ゼミ時間以外の活動も必要になります。				
教科書	『入門・社会調査法』 轟亮・杉野勇 (編) 法律文化社 2010 年				
参考文献	適宜、プリントを配布します。				
回数	授業項目	授業内容			
第 1 回	オリエンテーション	調査実習の目的、進め方など			
第 2 回	社会調査とは何か (1)	社会調査からわかること			
第 3 回	社会調査とは何か (2)	社会調査の方法、調査対象者の選定方法			
第 4 回	社会調査とは何か (3)	仮説構成の方法			
第 5 回	社会調査とは何か (4)	調査票作成方法			
第 6 回	先行研究のレビューと問題設定	先行研究のレビューと問題設定			
第 7 回	調査の企画 (1)	テーマの設定			
第 8 回	調査の企画 (2)	調査対象者の選定、調査時期や作業分担など手続きの決定			
第 9 回	調査の企画 (3)	調査項目の設定			
第 10 回	調査の企画 (4)	調査票作成、調査票精査			
第 11 回	調査の実習 (1)	調査準備 (インストラクション、調査票印刷、袋詰めなど)			
第 12 回	調査の実習 (2)	調査票の配布と回収			
第 13 回	調査データの整理 (1)	調査票の点検			
第 14 回	調査データの整理 (2)	データ入力に向けた準備 (非該当、無回答のコード決定など)			
第 15 回	調査実習の反省とまとめ	調査実習の反省とまとめ			
第 16 回	後期ガイダンス	データ分析の方法やまとめ方の概要			
第 17 回	調査データの入力	調査データの入力			
第 18 回	調査データの分析 (1)	単純集計、グラフ			
第 19 回	調査データの分析 (2)	属性と質問のクロス集計、グラフ			
第 20 回	調査データの分析 (3)	質問と質問のクロス集計、グラフ			
第 21 回	調査データの分析 (4)	基本統計量			
第 22 回	調査データの分析 (5)	散布図、相関係数			
第 23 回	分析結果の検討	分析結果の検討			
第 24 回	報告書の作成 (1)	全体の構成、「はじめに」			
第 25 回	報告書の作成 (2)	「データと分析方法」			
第 26 回	報告書の作成 (3)	「単純集計結果」			
第 27 回	報告書の作成 (4)	「クロス集計結果」(属性とのクロス)			
第 28 回	報告書の作成 (5)	「クロス集計結果」(関連すると思われる質問同士のクロス)			
第 29 回	報告書の作成 (6)	「考察」			
第 30 回	報告書の作成 (7)	「おわりに」			

国際			
授業番号	B103090019		
科目名	3年次専門研究	通年	
担当者	山本 健	対象学年	3 単位数 4
授業のねらいと到達目標	3年次ゼミは、経済の基礎を勉強する。前期では日本の経済発展の流れをテキストを利用して学習し、後期では今日のグローバル経済時代に必要な「経済のしくみ」の基本用語を学習する。来年のゼミ論「グローバル経済下の比較経済社会」の執筆を準備させる。		
授業の進め方(履修条件など)	前期は、テキストの輪読を中心に、日本経済の発展についてワークシートで再確認させ、また課題発表を通してお互いの意見交換を促す。また課題や感想文の宿題は、添削して返却します。、ビデオを鑑賞した際は、その感想文の提出を義務とします。このようにして各自の作文能力の向上をも促したい。		
成績評価方法	提出物(課題と感想文)、討論への参加度などによる。		
基準			
授業の予習・復習	予習：発表者は必ず、それ以外の人も毎回、発表者のつもりになって、読んでくること。 復習：ワークシートの再点検を通して、自分の弱点の再確認をすること。		
教科書	①岩波ブックレット、シリーズ昭和史 No 14 加藤哲郎 『戦後意識の変貌』(1990年)		
参考文献	①稲葉振一郎 『増補 経済学という教養』(ちくま文庫、2008年)		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス	授業の進め方とグループ化についての説明	
第2回	テキストの輪読 1	3～4人の発表者による音読と質疑応答 経済発展に対応した戦後40年の時代区分を説明	
第3回	テキストの輪読 2	第1期 アメリカ軍による占領時代の「生きること」の意義	
第4回	テキストの輪読 3	第1期 アメリカ軍の占領政策の変化—朝鮮戦争の意義	
第5回	テキストの輪読 4	第2期 「脱亜入米」による再建	
第6回	テキストの輪読 5	第2期 戦後民主主義の意味と相反する日米安保条約締結	
第7回	テキストの輪読 6	第3期 高度経済成長と利益政治の定着	
第8回	テキストの輪読 7	第3期 私生活主義の形成と企業従属	
第9回	テキストの輪読 8	第3期 アメリカの権威失墜と日本の自国中心・利益中心の国際意識	
第10回	テキストの輪読 9	第3期 石油ショック(1973年)とその意義	
第11回	テキストの輪読 10	第4期 世界不況への日本の対応—「輸出洪水」	
第12回	テキストの輪読 11	第4期 「不確実性の時代」と女性の社会進出・子どもの塾通い	
第13回	テキストの輪読 12	第4期 福祉よりも成長へ保守回帰・経済大国ナショナリズム	
第14回	テキストの輪読 13	第5期 貿易摩擦に伴う西側諸国の日本脅威論と国家意識の涵養	
第15回	テキストの輪読 14	私生活主義の揺らぎと「新人類」の登場	
第16回	夏休みの課題の講評	個別的な課題についての意見交換	
第17回	経済のテキストの輪読 1	3～4人の発表者による音読と質疑応答 円高と円レート	
第18回	テキストの輪読 2	円高不況	
第19回	テキストの輪読 3	円高差益	
第20回	テキストの輪読 4	貿易摩擦と日米中経済摩擦	
第21回	テキストの輪読 5	貿易黒字と貿易赤字	
第22回	テキストの輪読 6	国際化と海外投資、そして産業空洞化	
第23回	テキストの輪読 7	内需拡大と外需依存	
第24回	テキストの輪読 8	ブラザ合意の意味	
第25回	テキストの輪読 9	赤字国債と税制改革	
第26回	テキストの輪読 10	高齢者社会	
第27回	テキストの輪読 11	金融の自由化と低金利時代	
第28回	テキストの輪読 12	カード社会とサラ金	
第29回	テキストの輪読 13	不動産の高騰と恐慌(バブル)	
第30回	後期のまとめ	「強欲的な」経済社会の実態の解説と意見交換	

国際		
授業番号	B103090020	
科目名	3年次専門研究 通年	
担当者	庄司 真理子 対象学年 3 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	今年のみ一つのことを課題とします。ひとつは、地球社会のあり方を考えるということで、グローバルな公共政策について考えます。学生時代でなければ考えられないような、幅広い世界観を培うことを目的とします。次に、ゼミ生の関心に応じて国際協力関連の教科書を読んで議論します。最後に、自分の考えをまとめてレポートが書けるようになることを目的とします。	
授業の進め方(履修条件など)	ゼミ形式で授業をすすめます。教科書を交代で輪読していく。参加者は全員が教科書の担当部分を精読して、レジュメを作成し、報告してもらいます。ゼミは学生が主体の授業です。講義中に学生が積極的に発言することが大切です。レポーターのみならず毎回、ゼミ生全員の授業の参加態度を重視します。	
成績評価方法	ゼミの参加態度 40%、レポーターのやり方とレジュメの書き方 20%、学期末レポート 40%で成績をつけます。	
基準	ゼミは参加態度が重視されます。	
授業の予習・復習	全員が、次回の教科書の項目を読んできて参加してください。レポーターになった人は事前にレジュメを作成して、授業時に報告してください。各自ゼミで関心を持ったテーマについて、それぞれ深く掘り下げて調べてレポートを書いてもらいます。	
教科書	庄司・宮脇編『新グローバル公共政策』晃洋書房、ゼミ生の関心に応じて、もう一冊、教科書を追加する可能性があります。	
参考文献	国連開発計画 (UNDP) 著, 吉田 秀美 訳『世界とつながるビジネス』英治出版	
回数	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション I	ガイダンス
第2回	オリエンテーション II	各自の研究テーマを決め、教科書の分担を決める。
第3回	文献講読 I	国際公共政策とグローバル公共政策
第4回	文献講読 II	グローバル公共性
第5回	文献講読 III	グローバル公共政策と公共財
第6回	文献講読 IV	国際連合
第7回	文献講読 V	世界銀行・IMF・WTO
第8回	文献講読 VI	EU(欧州連合)
第9回	文献講読 VII	G8・G20 と国際レジーム
第10回	文献講読 VIII	アメリカー対外政策決定過程
第11回	文献講読 IX	アメリカー国際交渉と国内政治
第12回	文献講読 X	NGO と CSO(市民社会組織)
第13回	文献講読 XI	企業
第14回	文献講読 XII	人間の安全保障
第15回	文献講読 XIII	安全保障と軍備の規制
第16回	文献講読 XIV	民主化と人権
第17回	文献講読 XV	マイノリティ
第18回	文献講読 XVI	ジェンダー
第19回	文献講読 XVII	地球環境政策
第20回	文献講読 XV III	貧困問題と開発
第21回	文献講読 XIX	グローバル・コモンズー国家領域を超える公共圏
第22回	レポートの書き方	各自の興味のあるテーマを選択し、レポートを準備する
第23回	文献講読 XX	BOPの基本理解、なぜ今 BOP ビジネスなのか
第24回	文献講読 XXI	開発から BOP ビジネスをみる
第25回	レポート内容の中間報告	各自のレポートについて、10分ずつ報告する
第26回	文献講読 XXII	BOP ビジネスが組織を変える
第27回	文献講読 XXIII	BOP と日本の企業
第28回	文献講読 XIV	日本企業の BOP への挑戦
第29回	文献講読 XV	開発プロジェクトを BOP ビジネスにつなげる
第30回	レポート執筆相談 IV	各自の要望に応じてレポート内容をチェックする



国際			
授業番号	B103090021		
科目名	3年次専門研究	通年	
担当者	水口 章	対象学年	3 単位数 4
授業のねらいと到達目標	本授業では、社会空間を人間の生活実践の場としてとらえ、価値観の違いが大きい人々が暮らす空間において、どのように相互理解と信頼を育み、秩序をつくっていくかについて、政策形成の観点で考察します。したがって、本授業の到達目標は公共性を理解し、それを踏まえた行動ができるようになることです。		
授業の進め方(履修条件など)	テキストの輪読をする。その際に、発表者や質問者など役割分担をして授業を進めるので、責任を果たすこと。討論には積極的に参加してください。		
成績評価方法	報告内容(レジュメ作成、説明、質疑応答)60%、課題レポート40%で評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。 復習：キーワードや理論は図書館を利用し、内容を十分把握してください。		
教科書	岩崎正洋(編著)『政策過程の理論分析』三和書籍、2012年5月		
参考文献	盛山和夫、上野千鶴子、武川正吾編『公共社会学1・2』東京大学出版会、2012年7月、8月		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	年間スケジュール・問題意識の確認	学習方針、役割分担の明確化	
第2回	政策学について	なぜ「政策」に注目するのか	
第3回	政策過程について	政策の中身、政策の取り扱いについて	
第4回	政策過程の理論1	ラスウェルと政策科学の意義について	
第5回	政策過程の理論2	キングダムの「政策の窓」モデルについて	
第6回	政策過程の理論3	ローズの「政策ネットワーク論」について	
第7回	政策過程の理論4	ピーターズとポーレの「ガバナンス論」について	
第8回	政策過程の理論5	ツェベリスの「拒否権プレイヤー論」について	
第9回	小まとめ	自由と公共性の関係性を考える	
第10回	公共選択理論	ブキャナンとタロックの合理的選択論について	
第11回	制度論1	ピアソンの歴史的制度論について	
第12回	制度論2	シュミットの言説的制度論について	
第13回	制度論3	ウェーバーの官僚制論について	
第14回	制度論4	リプスキーの第一線公務員論について	
第15回	小まとめ	制度づくりと公共性の関係性を考える	
第16回	対外政策の分析理論1	スナイダー・モデルについて	
第17回	対外政策の分析理論2	アリソンの『決定の本質』のモデルについて	
第18回	対外政策の分析理論3	パットナムの「ツレーベルゲーム」モデルについて	
第19回	対外政策の分析理論4	ヘルドの「グローバリ化論」について	
第20回	対外政策の分析理論5	プロスペクトのリスク分析モデルについて	
第21回	小まとめ	国際社会における公共性を考える	
第22回	公共政策のアプローチ1	公共政策とは何か	
第23回	公共政策のアプローチ2	公共政策の基本構造	
第24回	公共政策のデザイン1	政策課題の検討のしかた	
第25回	公共政策のデザイン2	対応すべき問題のとらえ方	
第26回	公共政策のデザイン3	政策目的と実現	
第27回	公共政策と決定1	合理的な意思決定とは	
第28回	公共政策と決定2	利益調整と政策決定の関係性	
第29回	公共政策と決定3	制度と政策決定の関係性	
第30回	小まとめ	公共性と政治的意思を考える	

国際					
授業番号	B103090025				
科目名	3年次専門研究		通年		
担当者	辻山 洋介	対象学年	3	単位数	4
授業のねらいと到達目標	算数教育は、単に「算数の内容を教える」ではありません。「算数の活動を通して子どもに何を学んでもらいたいか」、「どのような人間形成を目指すのか」という教育観が必要です。教育観を洗練させるためには、教育の目標、教育を取り巻く背景や状況を把握した上で、授業や教材を分析することが不可欠です。本授業は、算数教育を考えるための基礎的・基本的な力を身に付けることを目標とします。				
授業の進め方(履修条件など)	前期は、教科書や全国学力・学習状況調査を中心に、現在の算数教育の目標や状況、背景、内容について、テーマごとに考察、発表、議論を進めていきます。後期は、教材研究を進めると同時に、模擬授業や研究テーマの設定に向けての準備を行います。また、前後期ともに、算数教育に関する教養を広げ深めるため、かつ人前で要点を説明する練習をするために、「15分発表」と「リアクター制度」を取り入れます。				
成績評価方法	課題への取り組みや、発表、議論、レポート等を総合的に評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：個人あるいはグループでの課題解決や発表、議論のための準備をすること。 復習：疑問や論点を自分なりにまとめ、残された課題や新たな課題を明確にすること。				
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』（2008年、東洋館出版）				
参考文献	新算数教育研究会編『リーディングス 新しい算数研究』（全4巻、2011～2013年、東洋館出版社）				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	前期のガイダンス	授業の趣旨、概要、進め方			
第2回	算数科の目標とその背景（1）	学習指導要領の変遷			
第3回	算数科の目標とその背景（2）	平成20年告示の学習指導要領の背景と特徴			
第4回	算数科の目標とその背景（3）	算数科の目標についての発表とまとめ			
第5回	こどもの学習状況（1）	全国学力・学習状況調査A問題			
第6回	こどもの学習状況（2）	全国学力・学習状況調査B問題			
第7回	こどもの学習状況（3）	こどもの学習状況についての発表とまとめ			
第8回	算数科のカリキュラム（1）	内容領域の構成と系列			
第9回	算数科のカリキュラム（2）	算数的活動・数学的活動の意義と位置			
第10回	算数科のカリキュラム（3）	算数科のカリキュラムについての発表とまとめ			
第11回	算数科の教材（1）	数と計算、量と測定			
第12回	算数科の教材（2）	図形、数量関係			
第13回	算数科の教材（3）	算数科の教材についての発表とまとめ			
第14回	授業のねらいと教材の扱い	授業のねらいと教材の扱いについての発表とまとめ			
第15回	前期のまとめ	後期のテーマ設定			
第16回	後期のガイダンス	模擬授業とレポート発表の進め方			
第17回	学習指導案作成に向けて	単元の指導計画と本時のねらい			
第18回	こどもの考えをいかした授業	授業のねらいと、こどもの考えのいかし方			
第19回	模擬授業準備	学習指導案の発表と検討			
第20回	模擬授業（1）	数と計算についての模擬授業と討議			
第21回	教材研究（1）	学習指導案と教材の再検討・レポート			
第22回	模擬授業（2）	量と測定についての模擬授業と討議			
第23回	教材研究（2）	学習指導案と教材の再検討・レポート			
第24回	模擬授業（3）	図形についての模擬授業と討議			
第25回	教材研究（3）	学習指導案と教材の再検討・レポート			
第26回	模擬授業（4）	数量関係についての模擬授業と討議			
第27回	教材研究（4）	学習指導案と教材の再検討・レポート			
第28回	算数の授業を考える視点（1）	学習指導案、教材、模擬授業の課題や論点の特定			
第29回	算数の授業を考える視点（2）	学習指導と教材研究を行う視点			
第30回	後期のまとめと4年次のテーマ検討	残された解決すべき課題の明確化と研究テーマ設定			



国際					
授業番号	B103090026				
科目名	3年次専門研究		通年		
担当者	大月 隆成	対象学年	3	単位数	4
授業のねらいと到達目標	3年次のゼミでは、国際関係に関する専門的知識とそれをシミュレーション・ゲームとして表現するための技法を学んだ後、全員で独自のゲームを考案し、完成させる作業を行っていく。それにより、知識や技術をただ学ぶだけでなく、新しいものを考え創り出すことのできる能動的な人格の育成を目指す。				
授業の進め方(履修条件など)	前期は、ゲームを制作するために必要な知識と技法の修得に重点を置く。後期は、全員で独自のゲームを開発する作業を通じて、プロジェクトを計画・実行する手法を学ぶことが主眼である。				
成績評価方法	授業への貢献、特に共同制作への貢献を重視して行う。				
基準					
授業の予習・復習	授業の時間だけではとても足りない。様々なゲームを体験し、新しいゲームのアイデアを考えることを、日常的に実践する必要がある。				
教科書	特になし。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ゲームタイプの分析(1)	CIA vs. KGB (対決型)			
第2回	ゲームタイプの分析(2)	パンデミック(協力型)			
第3回	ゲームタイプの分析(3)	パンデミック・バイオテロリストバージョン(協力型+対決)			
第4回	ゲームタイプの分析(4)	コンテナ(競争型)			
第5回	ゲームタイプの分析(5)	ライフポート(競争型+投票)			
第6回	ゲームタイプの分析(6)	モノポリー(競争型+交渉)			
第7回	ゲームタイプの分析(7)	ディプロマシー(競争型+交渉+裏切り)			
第8回	ゲームタイプの分析(8)	キープール(競争型+共通利益)			
第9回	ゲームシステムの分析(1)	ゲーム内の公平(対称性・非対称性)			
第10回	ゲームシステムの分析(2)	資源その他の制約条件			
第11回	ゲームシステムの分析(3)	戦略と運(確率)のバランス			
第12回	ゲームシステムの分析(4)	ターン制			
第13回	ゲームシステムの分析(5)	入札制およびワーカープレースメント			
第14回	ゲームシステムの分析(6)	同時実施のための様々なシステム			
第15回	ゲームシステムの分析(7)	ゲームにおける時間の概念			
第16回	ゲーム制作のための技術(1)	DTPの基礎			
第17回	ゲーム制作のための技術(2)	DTPの応用			
第18回	ゲーム制作のための技術(3)	電子マニュアルの基礎			
第19回	ゲーム制作のための技術(4)	電子マニュアルの応用			
第20回	ゲーム制作のための技術(5)	試作ゲームの立案			
第21回	ゲーム制作のための技術(6)	試作ゲームの作成			
第22回	ゲーム制作のための技術(7)	試作ゲームの評価			
第23回	ゲームの制作(1)	テーマの選定			
第24回	ゲームの制作(2)	ゲームの基本設計			
第25回	ゲームの制作(3)	コンポーネントの設計			
第26回	ゲームの制作(4)	コンポーネントの試作			
第27回	ゲームの制作(5)	テストプレイと評価			
第28回	ゲームの制作(6)	修正と変更			
第29回	ゲームの制作(7)	コンポーネントの作製			
第30回	ゲームの制作(8)	マニュアルの作成			

国際			
授業番号	B103090028		
科目名	3年次専門研究	通年	
担当者	榎田 久代	対象学年	3 単位数 4
授業のねらいと到達目標	この1年間を通し、4年次の卒業論文あるいは卒業レポートの準備をします。4年次に取り組むテーマは、学生各人の関心に合わせて、異なります。どのようなテーマに関心があるのか、様々な文献を読むことを通して、視野を広げ、皆さんの関心分野を探り、3年次末には、プレレポートを作成します。		
授業の進め方(履修条件など)	関心のあるテーマについてゼミで輪読を進めます。同時に、読書ノート作り、要約の仕方、レポート作成について指導します。		
成績評価方法	ゼミで課題提出により評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：授業課題については事前に準備しておくこと。 復習：わからないことがあれば、自分で調べておくこと。		
教科書	なし		
参考文献	佐藤望他編『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』（慶応義塾出版会、2006年）		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ガイダンス(1)	授業の進め方	
第2回	ガイダンス(2)	論文のテーマの選び方	
第3回	ガイダンス(3)	ゼミで扱う文献選び	
第4回	レジュメの作り方	レジュメとは何か？レジュメの作り方についての指導	
第5回	資料の輪読(1)	レポーターによる報告	
第6回	資料の輪読(2)	レポーターによる報告	
第7回	資料の輪読(3)	レポーターによる報告	
第8回	資料の輪読(4)	レポーターによる報告	
第9回	資料の輪読(5)	レポーターによる報告	
第10回	資料の輪読(6)	レポーターによる報告	
第11回	資料の輪読(7)	レポーターによる報告	
第12回	資料の輪読(8)	レポーターによる報告	
第13回	関心分野やテーマについて(1)	小レポートの作成(1)	
第14回	関心分野やテーマについて(2)	小レポートの作成(1)	
第15回	前期のまとめ	夏休みに向けて	
第16回	後期のガイダンス(1)	授業の進め方	
第17回	後期のガイダンス(2)	ゼミで扱う文献選びとレポーターの割り当て	
第18回	資料の輪読(1)	レポーターによる報告	
第19回	資料の輪読(2)	レポーターによる報告	
第20回	資料の輪読(3)	レポーターによる報告	
第21回	資料の輪読(4)	レポーターによる報告	
第22回	資料の輪読(5)	レポーターによる報告	
第23回	資料の輪読(6)	レポーターによる報告	
第24回	資料の輪読(7)	レポーターによる報告	
第25回	資料の輪読(8)	レポーターによる報告	
第26回	小レポートの作成(1)	各人の関心分野の確認	
第27回	小レポートの作成(2)	資料収集	
第28回	小レポートの作成(3)	レポート作成指導	
第29回	小レポートの作成(4)	レポート作成指導	
第30回	まとめ	3年次ゼミを終えて	

国際			
授業番号	B103100001		
科目名	4年次専門研究	通年	
担当者	庄司 真理子	対象学年	4 単位数 4
授業のねらいと到達目標	国連と平和を中心に考える。基本的に卒論の執筆を中心にゼミをすすめる。各自の中間報告をゼミの時間にしてもらい、卒論のテーマは各自、自由に選択して良いが、テーマが決まらない人は、こちらで決めたテーマに沿って、決められた文献を輪読していく。おおむね下記の日程に沿って卒論を進めてもらう。		
授業の進め方(履修条件など)	各自、卒論を授業内容およびゼミ中に指示した方法ですすめてもらう。進め方は、卒論のテーマ、各自の準備の進み具合によって異なるため、適宜、授業中に個別に指導する。		
成績評価方法	執筆した卒論の内容で評価を進める。試験はしない。		
基準			
授業の予習・復習	授業内容に沿って適宜、課題が出され、それを下記の提出予定時に提出してもらう。また、卒論について、各自の準備が重要となる。		
教科書	教科書は、各自の卒論のテーマによって異なる。卒論のテーマに沿って文献を収集し、これを読破する。		
参考文献	参考文献は、各自の卒論のテーマによって異なる。卒論のテーマに沿って文献を収集し、これを読破する。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	卒論の書き方	一年間で、どのように計画を立てて、進めていくか	
第2回	テーマの決定	テーマについて、執筆可能なものかどうか話し合う	
第3回	テーマの絞り込み	絞りきれない人は、こちらで決めたテーマとする	
第4回	資料の選定	資料収集の方法を説明する	
第5回	章立て	卒論の章立てを各自報告する	
第6回	報告	卒論に関係のある論文ひとつを発表する	
第7回	文献目録Ⅰ	文献目録を作成してもらう。	
第8回	文献目録Ⅱ	完成した文献目録について話し合う。	
第9回	文献収集Ⅰ	本学図書館	
第10回	文献収集Ⅱ	千葉大学の図書館や、東京都立中央図書館など学外	
第11回	章立ての完成	章立てを完成させる	
第12回	卒論中間報告Ⅰ	進行中の卒論の内容について、発表する	
第13回	卒論中間報告Ⅱ	進行中の卒論の内容について、発表する。	
第14回	文献収集と文献読破	文献収集を続けると共に、集めた文献を読破する	
第15回	夏季休暇前卒論報告	夏休み中の卒論進行計画を各自発表する	
第16回	夏季休暇後の経過報告	夏休み中に進めた卒論の内容について発表する	
第17回	卒論カウンセリングⅠ	各自の卒論の内容、進め方についてカウンセリングする。	
第18回	卒論カウンセリングⅡ	各自の卒論の内容、進め方についてカウンセリングする。	
第19回	卒論執筆Ⅰ	執筆した卒論の内容を検討する	
第20回	卒論執筆Ⅱ	執筆した卒論の内容を検討する	
第21回	第二次卒論中間報告Ⅰ	執筆の進んだ卒論について発表する	
第22回	第二次卒論中間報告Ⅱ	執筆の進んだ卒論について発表する	
第23回	卒論カウンセリングⅢ	執筆中の卒論の内容についてカウンセリングする	
第24回	卒論カウンセリングⅣ	執筆中の卒論の内容についてカウンセリングする	
第25回	卒論執筆Ⅲ	執筆した卒論の内容を検討する	
第26回	卒論執筆Ⅳ	執筆した卒論の内容を検討する	
第27回	卒論の第一次提出	12月末日に卒論提出	
第28回	卒論内容の吟味Ⅰ	提出された卒論の内容、構成を再検討する	
第29回	卒論内容の吟味Ⅱ	誤字脱字、文章の不適切、内容の不適切を確認する	
第30回	卒論再提出	卒論の最終締め切りである。	

国際		
授業番号	B103100002	
科目名	4年次専門研究 通年	
担当者	中村 圭三 対象学年 4 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	3年次専門研究で進めてきた研究テーマについて、さらに地域に関するデータ解析・地域調査・文献調査等を進め、卒業論文の完成まで指導する。	
授業の進め方(履修条件など)	前期には、データ解析・地域調査・文献調査、論文執筆指導を行い、最後にゼミ論文中間報告をさせる。後期には、論文執筆指導を中心に進め、卒業論文最終報告会を開催する。	
成績評価方法	授業態度とゼミ論で成績を評価する。	
基準		
授業の予習・復習	予習：日頃から「卒業論文論のテーマ」に関して問題意識を持って生活すること。 復習：執筆をすすめている地域に関連する環境問題に関心を持って生活すること。	
教科書	『フィールドの環境科学』中村圭三著 青山社 2007.	
参考文献	授業の中で、適宜指示する。	
回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス	ゼミの進め方についての説明
第2回	文献調査(1)	地域に関するデータ解析(1)
第3回	文献調査(2)	地域に関するデータ解析(2)
第4回	文献調査(3)	地域に関するデータ解析(3)
第5回	文献調査(4)	地域に関するデータ解析(4)
第6回	文献調査(5)	地域に関するデータ解析(5)
第7回	文献調査(6)	地域に関するデータ解析(6)
第8回	論文執筆指導(1)	地域に関する研究(1)
第9回	論文執筆指導(2)	地域に関する研究(2)
第10回	論文執筆指導(3)	地域に関する研究(3)
第11回	論文執筆指導(4)	地域に関する研究(4)
第12回	論文執筆指導(5)	地域に関する研究(5)
第13回	論文執筆指導(6)	地域に関する研究(6)
第14回	報告会	卒業論文中間報告会
第15回	前期まとめ	総括
第16回	論文執筆指導(7)	地域に関する研究(7)
第17回	論文執筆指導(8)	地域に関する研究(8)
第18回	論文執筆指導(9)	地域に関する研究(9)
第19回	論文執筆指導(10)	地域に関する研究(10)
第20回	論文執筆指導(11)	地域に関する研究(11)
第21回	論文執筆指導(12)	地域に関する研究(12)
第22回	論文執筆指導(13)	地域に関する研究(13)
第23回	論文執筆指導(14)	地域に関する研究(14)
第24回	論文執筆指導(15)	地域に関する研究(15)
第25回	報告会	卒業ゼミ論文最終報告会
第26回	論文執筆指導(16)	地域に関する研究(16)
第27回	論文執筆指導(17)	地域に関する研究(17)
第28回	論文執筆指導(18)	地域に関する研究(18)
第29回	論文執筆指導(19)	地域に関する研究(19)
第30回	提出	卒業論文提出

国際		
授業番号	B103100003	
科目名	4年次専門研究 通年	
担当者	水口 章 対象学年 4 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	本授業のねらいは、「暮らしやすい社会とは」という問いに自分たちで答えていくことにあります。そのために、シティズンシップや社会環境にかかわる具体的な政策について学び、議論をします。到達目標は、学生一人一人が独自の「暮らしやすい社会の実現」を目標とする政策を考え、行動できる力を身につけることです。	
授業の進め方(履修条件など)	前期は、政策の形成と展開について講義と討論の形式で進めます。後期は、比較外交政策を中心に政策立案と文化について学生による報告と討論の形式で、考察を深めていきます。	
成績評価方法	報告内容(レジュメ作成、説明、質疑応答)60%、課題レポート40%で評価します。	
基準		
授業の予習・復習	予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。 復習：キーワードや理論は図書館を利用し、内容を十分把握してください。	
教科書	特に指定しませんが、適宜プリントを配布します。	
参考文献	大山耕輔監修『公共政策の歴史と理論』ミネルヴァ書房、2013年4月	
回数	授業項目	授業内容
第1回	はじめに	公共政策の考え方
第2回	シティズンシップとは	主要概念の紹介
第3回	シティズンシップの形成	制度、役割、教育について
第4回	地域の暮らしと政策1	医療、衛生政策について
第5回	地域の暮らしと政策2	社会政策について
第6回	地域の暮らしと政策3	警察行政について
第7回	地域の暮らしと政策4	環境政策について
第8回	地域の暮らしと政策5	エネルギー政策について
第9回	地域の暮らしと政策6	消防、防災政策について
第10回	地域の暮らしと政策7	自治、分権政策について
第11回	地域の暮らしと政策8	観光政策について
第12回	地域の暮らしと政策9	移民政策について
第13回	行政改革	行政改革の理論について
第14回	政策評価	政策評価理論について
第15回	ブレインストーミング	「暮らしやすい社会」とは
第16回	外交政策の概念	国内体系と国際体系について
第17回	国益と外交	外交目的と目標について
第18回	アメリカの外交政策1	外交政策の諸要因について
第19回	アメリカの外交政策2	政策スタイルの特徴(学生による報告)
第20回	カナダの外交政策1	外交政策の諸要因について
第21回	カナダの外交政策2	政策スタイルの特徴(学生による報告)
第22回	イギリスの外交政策1	外交政策の諸要因について
第23回	イギリスの外交政策2	政策スタイルの特徴(学生による報告)
第24回	フランスの外交政策1	外交政策の諸要因について
第25回	フランスの外交政策2	政策スタイルの特徴(学生による報告)
第26回	ドイツの外交政策1	外交政策の諸要因について
第27回	ドイツの外交政策2	政策スタイルの特徴(学生による報告)
第28回	日本の外交政策1	外交政策の諸要因について
第29回	日本の外交政策2	政策スタイルの特徴(学生による報告)
第30回	ブレインストーミング	国際社会のあり方と「暮らしやすい社会」

国際			
授業番号	B103100004		
科目名	4年次専門研究	通年	
担当者	村川 庸子	対象学年	4 単位数 4
授業のねらいと到達目標	ゼミ生は卒論・ゼミ論のいずれを執筆するか決め、各自、執筆に向けての作業と指導を行う。適宜、クラス、グループ、個別指導を織り交ぜて実施する。他のゼミ生のテーマも共有し、一緒に考えていく経験を大切にしたい。できるだけ英語の文献も活用し、大量の英語を読むことに慣れて欲しい。		
授業の進め方(履修条件など)	適宜、クラス、グループ、個別指導を織り交ぜて実施する。クラスでのプレゼンテーションや相互の議論により、論文の内容を深めていけるよう、積極的な参加を臨みたい。		
成績評価方法基準	クラスでのプレゼンテーション 30% 議論への参加 20% 論文 50%		
授業の予習・復習	論文の執筆については個別に行う。		
教科書	特に指定しない		
参考文献	特に指定しない		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	導入	ゼミの進め方、論文執筆にむけての心構え	
第2回	論文の書き方①	論文の書き方、資料の集め方、まとめ方を確認する	
第3回	論文の書き方②	引用、剽窃について	
第4回	テーマの絞り方①	論文のテーマの絞り方—何を書きたいか？	
第5回	テーマの絞り方②	論文のテーマの絞り方②—書きたいものをどう組み立てるか	
第6回	アウトラインの作成法	アウトライン作成・検討	
第7回	アウトライン報告	まえがきの書き方	
第8回	「まえがき」の書き方	まえがき—問題意識—執筆・検討	
第9回	アウトライン—報告①	個人報告	
第10回	アウトライン—報告②	個人報告	
第11回	アウトライン—報告③	個人報告	
第12回	資料収集とビブリオグラフィの作り方	メディアセンター・ツアー	
第13回	ビブリオグラフィの検討①	参考図書 書評①	
第14回	ビブリオグラフィの検討②	参考図書 書評②	
第15回	夏季休暇中の個人研究の進め方	夏休みの執筆活動予定確認	
第16回	第一章提出	執筆 進行状況の確認・第一章提出	
第17回	個人指導①	第一章 検討→書き直し→提出	
第18回	個人指導②	第一章 検討→書き直し→提出	
第19回	個人指導③	第一章 検討→書き直し→提出	
第20回	第二章(本論)へのつなぎ方	第二章 提出	
第21回	個人指導①	第二章 検討	
第22回	個人指導②	第二章 検討	
第23回	中間報告会	中間報告(レジュメ作成)	
第24回	個人指導①	まとめの検討①	
第25回	個人指導②	「まとめ」検討②	
第26回	個人指導③	「まとめ」検討③	
第27回	最終報告会①	報告・討論	
第28回	最終報告会②	報告・討論	
第29回	最終報告会③	報告・討論	
第30回	まとめ	総括	

国際		
授業番号	B103100005	
科目名	4年次専門研究 通年	
担当者	柳原 由美子 対象学年 4 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	英語にできるだけ多く触れることによって、英語能力の向上を目的とします。具体的には、ひとつは、様々な分野にわたる新聞記事・英語ニュース・エッセイなどを読むことにより、速読力と語彙力をつけます。もうひとつは、ドラマ、映画の視聴学習より、聴解力の向上とサマリーの作成・発表を通して英語運用能力の向上も目指します。	
授業の進め方(履修条件など)	1) ゼミ生が、順に各自が選択した英文テキスト(新聞記事、ニュース、エッセイ等)を使用して、授業を展開していきます。 2) 映画、あるいはドラマを視聴し、Comprehension, Vocabulary, Grammar, Composition Exercise の後、吹き替え、スキットなどにも挑戦します。	
成績評価方法基準	平常点で評価します。具体的には下記のとおりです。 ①順に行うプレゼンテーション(50%) ②口頭で行うサマリー発表などの宿題の達成度(25%) ③クラスでの活動への参加度(25%)	
授業の予習・復習	予習: プレゼンテーションの準備 復習: 特に、映画視聴学習におけるサマリーの作成と発表	
教科書	プリント教材を配布	
参考文献	初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。	
回数	授業項目	授業内容
第1回	クラス・オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法、参考文献、プレゼンテーションの担当者について
第2回	新聞記事/エッセイ 読解学習(1)	Others Are a Mirror for You!
第3回	映画の視聴学習(1)	BACK TO THE FUTURE 1. Late for School
第4回	新聞記事/エッセイ 読解学習(2)	1) 担当のゼミ生が選択した教材を使用 2) The Birthplace of Jazz
第5回	映画の視聴学習(2)	BACK TO THE FUTURE 2. Doc's Experiment
第6回	新聞記事/エッセイ 読解学習(3)	1) 担当のゼミ生が選択した教材を使用 2) Lawsuit Society
第7回	映画の視聴学習(3)	BACK TO THE FUTURE 3. Hill Valley, 1955
第8回	新聞記事/エッセイ 読解学習(4)	1) 担当のゼミ生が選択した教材を使用 2) Is Gun Control Possible?
第9回	映画の視聴学習(4)	BACK TO THE FUTURE 4. Lorraine
第10回	新聞記事/エッセイ 読解学習(5)	1) 担当のゼミ生が選択した教材を使用 2) Thanksgiving Day
第11回	映画の視聴学習(5)	BACK TO THE FUTURE 5. High School
第12回	新聞記事/エッセイ 読解学習(6)	1) 担当のゼミ生が選択した教材を使用 2) The Cowboy Tradition
第13回	映画の視聴学習(6)	BACK TO THE FUTURE 6. Skateboard
第14回	新聞記事/エッセイ 読解学習(7)	1) 担当のゼミ生が選択した教材を使用 2) The Amish Way of Life
第15回	映画の視聴学習(7)	BACK TO THE FUTURE 7. The Big Dance
第16回	新聞記事/エッセイ 読解学習(8)	1) 担当のゼミ生が選択した教材を使用 2) Shopping for a Christmas Tree
第17回	映画の視聴学習(8)	BACK TO THE FUTURE 8. The First Kiss
第18回	新聞記事/エッセイ 読解学習(9)	1) 担当のゼミ生が選択した教材を使用 2) Seeking a Better Life
第19回	映画の視聴学習(9)	BACK TO THE FUTURE 9. Ten-O-Four P.M.
第20回	新聞記事/エッセイ 読解学習(10)	1) 担当のゼミ生が選択した教材を使用 2) Cocaine Babies
第21回	映画の視聴学習(10)	BACK TO THE FUTURE 10. I'm Home
第22回	新聞記事/エッセイ 読解学習(11)	1) 担当のゼミ生が選択した教材を使用 2) Your Cigarettes or Your Job
第23回	映画の視聴学習(11)	LOVE STORY (Part 1)
第24回	新聞記事/エッセイ 読解学習(12)	1) 担当のゼミ生が選択した教材を使用 2) The Era of Designer Vegetables
第25回	映画の視聴学習(12)	LOVE STORY (Part 2)
第26回	新聞記事/エッセイ 読解学習(13)	1) 担当のゼミ生が選択した教材を使用 2) Volunteer Activity
第27回	映画の視聴学習(13)	LOVE STORY (Part 3)
第28回	新聞記事/エッセイ 読解学習(14)	1) 担当のゼミ生が選択した教材を使用 2) On the Road
第29回	映画の視聴学習(14)	LOVE STORY (Part 4)
第30回	新聞記事/エッセイ 読解学習(15)	1) 担当のゼミ生が選択した教材を使用 2) Parental Abduction



国際			
授業番号	B103100006		
科目名	4年次専門研究	通年	
担当者	高田 洋子	対象学年	4 単位数 4
授業のねらいと到達目標	三年次専門研究に引き続いて、各自が興味を持ったテーマについて論文を仕上げることを1年間の目標にします。論文をまとめるための文献資料の集め方、編別構成、文章・注の付け方のほか、各自の進路に沿った個別指導を1年を通して行います。		
授業の進め方(履修条件など)	論文書きのための共通指導と個別指導の両方を行います。学生は各自の論文の中間発表を準備し、報告会では互いに批評し合う中からも十分に学び取ることができます。		
成績評価方法	中間発表および提出した論文の完成度で成績評価を付けます。		
基準			
授業の予習・復習	予習：各自の研究テーマに沿って準備してください。		
教科書	指定しません。		
参考文献	論文のテーマにより個別に指定します。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	ゼミ論文作成のスケジュールづくり	1年間の目標・各自の研究計画・ゼミ発表のスケジュールを作成する	
第2回	ITによる資料収集の実習	メディアセンターを利用した資料収集の方法を知る	
第3回	学外における資料収集の実習	JETRO アジア経済研究所の図書室で、研究論文・史料の検索を学ぶ	
第4回	論文作成の準備(1)	問題意識と収集資料の発表(1)	
第5回	論文作成の準備(2)	問題意識と資料収集の発表(2)	
第6回	論文作成の準備(3)	論文の章構成を考える	
第7回	論文作成の準備(4)	実際の専門論文を読んでみる	
第8回	論文作成の準備(5)	「注」の付け方を学ぶ	
第9回	論文作成の準備(6)	実際に「注」を書いてみる	
第10回	個別面談(1)	3名ずつ個別に初期論文指導を実施する	
第11回	個別面談(2)	3名ずつ個別に初期論文指導を実施する	
第12回	個別面談(3)	3名ずつ個別に初期論文指導を実施する	
第13回	個別面談(4)	3名ずつ個別に初期論文指導を実施する	
第14回	中間報告会(1)	各自の論文の「序」を発表する	
第15回	中間報告会(2)	各自の論文の「序」を発表する	
第16回	中間報告会(3)	各自の論文の「序」を発表する	
第17回	中間報告会(3)	各自の論文の「序」を発表する	
第18回	中間報告会(4)	各自の論文の「序」を発表する	
第19回	世界を見る眼(1)	卒業の準備として、国際社会への認識を高める。国内外のニュースについて議論する。	
第20回	世界を見る眼(2)	卒業の準備として、国際社会への認識を高める。国内外のニュースについて議論する。	
第21回	世界を見る眼(3)	卒業の準備として、国際社会への認識を高める。国内外のニュースについて議論する。	
第22回	大学院進学希望者(留学生)への指導(1)	大学院の選択と入試の準備	
第23回	大学院進学希望者(留学生)への指導(2)	大学院の選択と入試の準備	
第24回	大学院進学希望者(留学生)への指導(3)	大学院の選択と入試の準備	
第25回	論文発表会(1)	各自が本論の内容を発表する	
第26回	論文発表会(2)	各自が本論の内容を発表する	
第27回	論文発表会(3)	各自が本論の内容を発表する	
第28回	論文発表会(4)	各自が本論の内容を発表する	
第29回	まとめ：3年間を振り返って(1)	アルバム集の作成、ゼミ論文集の作成	
第30回	まとめ：3年間を振り返って(2)	大学生活の感想および卒業後の抱負を語り合う	



国際		
授業番号	B103100007	
科目名	4年次専門研究 通年	
担当者	織井 啓介 対象学年 4 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	「時事英語・国際経済経営」のゼミです。時事英語では、海外の標準的な新聞・雑誌記事が読みこなせるようになります。国際経済経営では、市場を理解し、マーケティング、アカウンティング、ファイナンスの力を伸ばします。航空・金融などのビジネスへの就職を目指すのに最適です。	
授業の進め方(履修条件など)	2年ゼミ・3年ゼミと同様、配布プリントを中心に学習します。	
成績評価方法	平常点で評価します。	
基準		
授業の予習・復習	予習：プリントでアサインメントをこなしましょう。 復習：授業の復習と関連学習に努めましょう。	
教科書	とくに使用しません。	
参考文献	Financial Times, Economist など。卒業論文の執筆希望者は小浜裕久・木村福成『経済論文執筆の作法』日本評論社、1998年。	
回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス	今年度の計画
第2回	上級時事英語①	海外紙(株式市場記事)
第3回	上級時事英語②	海外紙(金融市場記事)
第4回	上級時事英語③	海外紙(外為市場記事)
第5回	上級時事英語④	海外紙(商品市場記事)
第6回	上級時事英語⑤	海外紙(マクロ経済記事)
第7回	上級時事英語⑥	海外紙(企業記事)
第8回	上級時事英語⑦	海外紙(中銀・金融政策記事)
第9回	上級時事英語⑧	海外紙(財政記事)
第10回	上級時事英語⑨	海外誌(日本経済記事)
第11回	上級時事英語⑩	海外誌(米国の経済記事)
第12回	上級時事英語⑪	海外誌(アジア経済記事)
第13回	上級時事英語⑫	海外誌(マーケット記事)
第14回	上級時事英語⑬	海外誌(ファイナンス記事)
第15回	前期のまとめ	総括と夏休みの計画
第16回	後期ガイダンス	夏休みの成果と後期の計画
第17回	応用経済経営①	マーケット(株式市場)
第18回	応用経済経営②	マーケット(債券市場)
第19回	応用経済経営③	マーケット(外国為替市場)
第20回	応用経済経営④	マーケット(商品市場)
第21回	応用経済経営⑤	マーケティング(マーケティングの概要)
第22回	応用経済経営⑥	マーケティング(マーケティング分析:3C)
第23回	応用経済経営⑦	マーケティング(マーケティングミックス:4P)
第24回	応用経済経営⑧	マーケティング(広告戦略)
第25回	応用経済経営⑨	会計・ファイナンス(ファイナンスの概要)
第26回	応用経済経営⑩	会計・ファイナンス(損益計算書分析)
第27回	応用経済経営⑪	会計・ファイナンス(貸借対照表分析)
第28回	応用経済経営⑫	会計・ファイナンス(キャッシュフロー分析)
第29回	応用経済経営⑬	会計・ファイナンス(株主持分変動書分析)
第30回	今年度のまとめ	総括と反省

国際			
授業番号	B103100008		
科目名	4年次専門研究	通年	
担当者	山口 政之	対象学年	4
		単位数	4
授業のねらいと到達目標	このゼミでは卒業研究として子供にとって魅力ある国語の授業を探究します。教材研究から指導法研究、学習指導要領の解釈や指導案の作成、模擬授業等を行います。国語科の授業における原理や方法について、具体的な実践例を検討しながら、理論について考察を深め、具体的な実践方法を考察し、学習支援の方法を理解していくようにします。		
授業の進め方(履修条件など)	毎時間、担当者の発表を中心に進めます。事前に提示された課題に対して計画的に取り組み、発表資料を用意してください。		
成績評価方法	提出された資料、出席の状況、課題への取り組み、発言等をふまえ総合的に評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：課題に関する文献や資料を収集し、読み込んでおきます。 復習：検討内容の要点を整理して、知識として蓄えます。		
教科書	『小学校学習指導要領解説国語編』		
参考文献	授業の中で適宜紹介していきます。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	卒業研究のガイダンス	卒業研究として取り上げる教材の選定から模擬授業・協議会までの流れを理解し、準備を進める。	
第2回	教育実習のガイダンス	教育実習の事前指導として具体的な準備や、担当教員との連絡等について漏れないように確認する。	
第3回	教育実習中の自己紹介	先生方や子供、保護者と相手が変わっても適切な自己紹介ができるようにする。	
第4回	教育実習中の話題	先生方や子供との会話で取り上げる話題について、その適否を検討する。	
第5回	教育実習中の敬語	先生方や保護者の方との口頭表現・文章表現における敬語の実際を理解する。	
第6回	教育実習中の言語活動1	実習期間中の担当学級における言語活動(授業)の見通しをもち、準備する。	
第7回	教育実習中の言語活動2	実習期間中の担当学級における言語活動(授業外)の見通しをもち、準備する。	
第8回	卒業研究の教材研究1	学生1、2による教材研究を検討する。	
第9回	卒業研究の教材研究2	学生3、4による教材研究を検討する。	
第10回	卒業研究の教材研究3	学生5、6による教材研究を検討する。	
第11回	卒業研究の教材研究4	学生7、8による教材研究を検討する。	
第12回	卒業研究の指導法検討1	学生1、2の指導法を検討する。	
第13回	卒業研究の指導法検討2	学生3、4の指導法を検討する。	
第14回	卒業研究の指導法検討3	学生5、6の指導法を検討する。	
第15回	卒業研究の指導法検討4	学生7、8の指導法を検討する。	
第16回	卒業研究の指導案検討1	学生1、2の指導案を検討する。	
第17回	卒業研究の指導案検討2	学生3、4の指導案を検討する。	
第18回	卒業研究の指導案検討3	学生5、6の指導案を検討する。	
第19回	卒業研究の指導案検討4	学生7、8の指導案を検討する。	
第20回	指導案検討の総括	各自の課題を模擬授業の中でどのように解決するか発表する。	
第21回	卒業研究の発表1	学生1の模擬授業と協議会	
第22回	卒業研究の発表2	学生2の模擬授業と協議会	
第23回	卒業研究の発表3	学生3の模擬授業と協議会	
第24回	卒業研究の発表4	学生4の模擬授業と協議会	
第25回	卒業研究の発表5	学生5の模擬授業と協議会	
第26回	卒業研究の発表6	学生6の模擬授業と協議会	
第27回	卒業研究の発表7	学生7の模擬授業と協議会	
第28回	卒業研究の発表8	学生8の模擬授業と協議会	
第29回	卒業研究の総括	よりよい授業者になるための手立てとしてPDSサイクルを理解する。	
第30回	卒業後の言語生活	ゼミで学んだことを社会人生活の中でどのように生かしていくか議論する。	

国際							
授業番号	B103100009						
科目名	4年次専門研究				通年		
担当者	大月 隆成			対象学年	4	単位数	4
授業のねらいと到達目標	4年次のゼミでは、これまでに培った専門的知識およびゲームに関する知見を元に、独自のゲームを考案し、完成を目指す。全員で取り組むことにより、共同作業によるプロジェクトの流れを理解することが狙いである。また、各自が卒業論文に取り組むことになるので、そのための個別指導を随時行っていく。						
授業の進め方(履修条件など)	前期はゲームの制作および卒業論文の執筆に必要な知識と技術の修得に重点を置く。後期は共同作業でオリジナル・ゲームの制作を進めながら、各自が卒業論文に取り組み、完成させる。						
成績評価方法	共同プロジェクトへの参加および卒業論文の取組み状況に基づいて行う。						
基準							
授業の予習・復習	4年ゼミでは、自分で学習を進めるのが基本である。したがって決まった予習・復習の形はない。						
教科書	特になし。						
参考文献							
回数	授業項目	授業内容					
第1回	ゲームタイプの分析(1)	CIA vs. KGB (対決型)					
第2回	ゲームタイプの分析(2)	パンデミック (協力型)					
第3回	ゲームタイプの分析(3)	パンデミック・バイオテロリストバージョン (協力型+対決)					
第4回	ゲームタイプの分析(4)	コンテナ (競争型)					
第5回	ゲームタイプの分析(5)	ライフポート (競争型+投票)					
第6回	ゲームタイプの分析(6)	モノポリー (競争型+交渉)					
第7回	ゲームタイプの分析(7)	ディプロマシー (競争型+交渉+裏切り)					
第8回	ゲームタイプの分析(8)	キーホール (競争型+共通利益)					
第9回	ゲームシステムの分析(1)	ゲーム内の公平 (対称性・非対称性)					
第10回	ゲームシステムの分析(2)	資源その他の制約条件					
第11回	ゲームシステムの分析(3)	戦略と運 (確率) のバランス					
第12回	ゲームシステムの分析(4)	ターン制					
第13回	ゲームシステムの分析(5)	入札制およびワーカープレースメント					
第14回	ゲームシステムの分析(6)	同時実施のための様々なシステム					
第15回	ゲームシステムの分析(7)	ゲームにおける時間の概念					
第16回	ゲーム制作のための技術(1)	DTPの基礎					
第17回	ゲーム制作のための技術(2)	DTPの応用					
第18回	ゲーム制作のための技術(3)	電子マニュアルの基礎					
第19回	ゲーム制作のための技術(4)	電子マニュアルの応用					
第20回	ゲーム制作のための技術(5)	試作ゲームの立案					
第21回	ゲーム制作のための技術(6)	試作ゲームの作成					
第22回	ゲーム制作のための技術(7)	試作ゲームの評価					
第23回	ゲームの制作(1)	テーマの選定					
第24回	ゲームの制作(2)	ゲームの基本設計					
第25回	ゲームの制作(3)	コンポーネントの設計					
第26回	ゲームの制作(4)	コンポーネントの試作					
第27回	ゲームの制作(5)	テストプレイと評価					
第28回	ゲームの制作(6)	修正と変更					
第29回	ゲームの制作(7)	コンポーネントの作製					
第30回	ゲームの制作(8)	マニュアルの作成					

国際			
授業番号	B103100010		
科目名	4年次専門研究	通年	
担当者	辻山 洋介	対象学年	4 単位数 4
授業のねらいと到達目標	こども学科での4年間の学びの集大成として、算数教育を中心に、初等教育に携わる者として必要な理論と実践に関する知識・技能、知識・技能を活用して教育の諸問題に取り組むための能力、そして困難があろうとも諸問題に取り組み続ける姿勢を身に付けられるようにすることを目標とします。特に、教師として学び続けていくために必要な力を身に付けてもらいます。		
授業の進め方(履修条件など)	前期は、教育実習の事前準備と事後の振り返りを含め、算数の授業の実践力を磨いていきます。後期は、各自の研究テーマについて考察、発表、議論を進め、論文としてまとめ、今後も学びを続けていくベースをつくっていきます。		
成績評価方法	課題への取り組みや、発表、議論、レポート、論文等を総合的に評価します。		
基準			
授業の予習・復習	予習：各自の課題の解決や発表、議論のための準備をすること。 復習：疑問や論点を自分なりにまとめ、残された課題や新たな課題を明確にすること。また、教育実践にいかせるように、授業内容を消化し直すこと。		
教科書	特になし		
参考文献	日本数学教育学会誌『算数教育』（隔月発行） 新算数教育研究会『算数授業の新展開』（全7巻、2010年、東洋館出版）		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	前期のガイダンス	趣旨、内容、進め方	
第2回	授業実践に向けて（1）	教材研究とその評価・改善	
第3回	授業実践に向けて（2）	授業のねらい、学習課題の設定、児童の活動とその評価および指導	
第4回	授業実践に向けて（3）	発問、板書、コミュニケーション、教師としての振る舞い	
第5回	授業実践に向けて（4）	授業実践における自分なりの目標の明確化	
第6回	授業研究（1）	学習指導案の作成	
第7回	授業研究（2）	研究授業と研究協議（数と計算）	
第8回	授業研究（3）	研究授業と研究協議（量と測定）	
第9回	授業研究（4）	研究授業と研究協議（図形）	
第10回	授業研究（5）	研究授業と研究協議（数量関係）	
第11回	教師に求められる実践力（1）	教職に関する知識と技能	
第12回	教師に求められる実践力（2）	社会人としての知識と技能	
第13回	教師に求められる実践力（3）	専門教科に関する教材研究力と指導力	
第14回	授業研究（6）	授業実践の評価と改善すべき点の明確化	
第15回	前期のまとめ	前期の振り返りと後期の課題設定	
第16回	後期のガイダンス	各自のテーマに関する研究の進捗状況	
第17回	研究計画（1）	研究の構想	
第18回	研究計画（2）	文献の選定とスケジュールの立案	
第19回	研究の遂行（1）	発表と議論を交えた文献の精読	
第20回	研究の遂行（2）	文献解釈と研究の進め方	
第21回	研究の遂行（3）	論文の作成の仕方	
第22回	研究の遂行（4）	中間発表用の資料の作成	
第23回	中間発表（1）	各自の研究の中間報告とそれに基づく議論	
第24回	中間発表（2）	各自の研究の中間報告とそれに基づく議論	
第25回	研究計画（3）	中間発表と議論に基づく今後の課題の明確化	
第26回	研究の遂行（5）	各自の課題への取り組み	
第27回	研究の遂行（6）	最終発表の準備	
第28回	最終発表（1）	各自の研究の最終報告とそれに基づく議論	
第29回	最終発表（2）	各自の研究の最終報告とそれに基づく議論	
第30回	振り返りと総括	残された課題を明確にし、初等教育を学び続けるために	

国際		
授業番号	B103100011	
科目名	4年次専門研究 通年	
担当者	山本 健 対象学年 4 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	4年ゼミは「バブル経済下の中国と日本の比較」（比較経済論）をテーマとする。まず前期では、今日の経済状況から予想される「恐慌」、特に「21世紀型恐慌」の特徴などを学び、現在のグローバル経済における両国の経済事情を理解させ、これらを参考にして後期では、ゼミ論の執筆に向けた準備に努める。	
授業の進め方（履修条件など）	前期は浜矩子『恐慌の歴史』をテキストにして輪読し、その内容をワークシートに要約させ、次回のゼミで発表・検討し、全員の共通理解に昇華させ、ゼミ論執筆の材料を提供する。	
成績評価方法基準	ワークシートの提出、討論への参加度合、中間発表そしてゼミ論の提出などで評価する。原則として、出席率の規定（2/3）に達していない学生は評価外とする。	
授業の予習・復習	予習：日頃から経済ニュースに関心を持って、ネット、新聞、TVに目を通してください。 復習：ワークシートを見ながら、授業で学習したことを自分の言葉で短くまとめておくこと。	
教科書	①浜矩子『恐慌の歴史』（宝島社新書、2011年） ②金子勝他『世界金融危機』（岩波ブックレットNo.740、2008年）	
参考文献	『ガイアの夜明け』（日経ビジネス人文庫）	
回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス	昨年度の復習と今年度の授業の進め方について
第2回	はじめに－アベノミックスの意義について	グローバル時代のデフレからの脱却方法？
第3回	21世紀型恐慌が発生する理由①	資本主義経済に伴う周期的な現象
第4回	21世紀型恐慌が発生する理由②	時代別の恐慌の種類
第5回	金融恐慌の歴史①	アメリカでの投資ブームのメカニズム
第6回	金融恐慌の歴史②	日本での戦争特需と昭和金融恐慌
第7回	金融恐慌の歴史③	イギリスでの鉄道狂バブルと金本位制の関係
第8回	アメリカのドル支配の功罪①	ブレトン・ウッズ体制（ドル基軸通貨制）の意義
第9回	アメリカのドル支配の功罪②	終戦を境にインフレ加速でドルの陰り
第10回	アメリカのドル支配の功罪③	ニクソン・ショック－金ドル本位制の崩壊
第11回	アメリカのドル支配の功罪④	石油ショックによるインフレ加速とブラザ「合意」
第12回	日本のバブル経済とその崩壊	2度にわたる石油危機による欧米余剰資金の日本へ集中投資
第13回	IT革命とグローバル化と世界経済の変化	格差問題（富の集中と貧困の集中）の出現と貧困対策
第14回	世界同時不況の出現①	金融危機を招いたデリバティブ（金融派生商品）
第15回	世界同時不況の出現②	アメリカでの住宅ローン投資（サブプライムローン）の過熱
第16回	リーマンショック（恐慌）の意義	原因は金融緩和策の打ち切りと日本の余剰資金の投資
第17回	まとめ－各自の意見・感想	自分が興味を持った問題について発表
第18回	テーマ選び	自分の関心を探す（日本留学を決意や日本での新たな関心などを参考にして）
第19回	ゼミ論の作成の手順 1	問題提起（自分の関心）の役割
第20回	ゼミ論の作成の手順 2	第1章以下の構成（起－承－転－結）
第21回	ゼミ論の作成の手順 3	終わりに（結論と展望）
第22回	ゼミ論の中間発表 1	発表（3人）
第23回	ゼミ論の中間発表 2	発表（3人）
第24回	ゼミ論の中間発表 3	発表（3人）
第25回	ゼミ論の中間発表 4	発表（3人）
第26回	個別指導 1	ゼミ論の修正（4人）
第27回	個別指導 2	ゼミ論の修正（4人）
第28回	個別指導 3	ゼミ論の修正（4人）
第29回	個別指導 4	仕上げ指導（最終の加筆修正）
第30回	ゼミ論の提出	学生全員での意見交換

国際		
授業番号	B103100012	
科目名	4年次専門研究 通年	
担当者	長谷川 頼子 対象学年 4 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	4年間の集大成として、全員が卒業論文に取り組みます。昨年度にそれぞれ考えたテーマに関する基礎的な文献報告を相互に行い、研究課題をより明確で具体的なものにします。そして、各自の問題解決に向けて必要な作業を、教員のサポートのもと、一つずつ積み重ねていきます。すべて日本語で執筆し、一定の内容・書式を整えた論文として完成させることが目標です。	
授業の進め方(履修条件など)	研究の方法、論文の書き方の指導の他、昨年に引き続いて、毎回、担当者が交代で上級日本語教材を解き進める教師役となり、発表力や日本語の表現力、さらには教える力を磨く。希望により、各自の進路に応じた活動も適宜行っていく。	
成績評価方法	授業内活動への積極的な参加、卒業論文への真剣な取り組みを総合的に評価します。	
基準		
授業の予習・復習	自分のテーマに関する情報を、偏りなくできるだけさまざまなところからたくさん得ましょう。お互いに質問やアドバイスを交換し、励まし合って卒業論文の完成をめざしましょう。	
教科書	あらかじめ指定するものはないが、学生の興味や関心に応じて柔軟に対応する。	
参考文献	アルク(編)『平成24年度 日本語教育能力検定試験 合格するための本』 佐々木泰子(編)(2007)『ベーシック日本語教育』ひつじ書房 日本語教育学会(編)『新版日本語教育事典』	
回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス	年間スケジュールとゼミの進め方について確認
第2回	卒業論文構想発表会(1)	前半として5名がテーマや文献について報告する
第3回	卒業論文構想発表会(2)	残り5名が各15分でテーマ・文献を報告する
第4回	資料の収集と整理について(1)	資料の属性をよく知る
第5回	資料の収集と整理について(2)	各種情報・資料の収集と整理および管理について
第6回	調査の方法について(1)	アンケート調査の方法
第7回	調査の方法について(2)	調査を行う場合の注意点について
第8回	論文の構成(1)	各章の概要
第9回	論文の構成(2)	自分の卒業論文の章立てを考えてみる
第10回	論文の構成(仮)と今後の予定(1)	各回2名ずつ論文の枠組みを発表し、全員で討論する
第11回	論文の構成(仮)と今後の予定(2)	2名が論文の枠組みを報告し、全員で検討、意見交換する。
第12回	論文の構成(仮)と今後の予定(3)	2名が報告し、他の者は自分の研究との関連を考える
第13回	論文の構成(仮)と今後の予定(4)	引き続き2名が報告し、全員で検討を行う
第14回	論文の構成(仮)と今後の予定(5)	2名が論文の枠組みを報告し、全員による検討を行う
第15回	夏休みに向けて	夏休み中に各自が進めるべき作業について確認する
第16回	卒業論文中間発表会(1)	夏休みまでの進捗状況を報告(1)
第17回	卒業論文中間発表会(2)	夏休みまでの進捗状況を報告(2)
第18回	卒業論文研究(1)-1	3名が卒論研究の報告を行い、全員で質疑や意見を交換する。
第19回	卒業論文研究(1)-2	同じく3名が報告を行う。適宜教員がサポートする。
第20回	卒業論文研究(1)-3	引き続き4名が報告を行う。
第21回	卒業論文研究(2)-1	修正・加筆した卒業論文の経過を再び3名ずつ報告する。
第22回	卒業論文研究(2)-2	3名が報告を行う。相互に意見やアドバイスを交換する。
第23回	卒業論文研究(2)-3	引き続き4名が報告を行う。
第24回	卒業論文研究(3)-1	3巡目の報告となる。完成に向けた見通しを述べる。
第25回	卒業論文研究(3)-2	3名が完成前最後の報告を行う。
第26回	卒業論文研究(3)-3	4名が報告を行い、全員での検討を締めくくる。
第27回	論文完成に向けて	書式・レイアウトのチェック、誤字・脱字はないか確認
第28回	卒業論文発表会(1)	卒業論文の要旨を発表、および質疑応答(1人15分)
第29回	卒業論文発表会(2)	卒業論文の要旨を発表、および質疑応答(1人15分)
第30回	卒業に向けて	専門研究を終えて・ふりかえり

国際					
授業番号	B103100013				
科目名	4年次専門研究		通年		
担当者	武内 清	対象学年	4	単位数	4
授業のねらいと到達目標	卒業に向けて、教員としてまた社会人としての資質を高める。				
授業の進め方(履修条件など)	①教育実習に役立つ知識、技術の習得、②教員採用試験に向けた一般教養、教職教養、教科の知識の習得並びにプレゼン能力の向上、③自分の問題意識に基づく研究テーマの設定、資料の蒐集、ゼミ論文の作成				
成績評価方法	討議への参加20%、模擬授業20%、ゼミ論発表20%、ゼミ論40%。				
基準					
授業の予習・復習	毎時間、予習、復習を行うこと。特に、発表前のj準備は万全に。				
教科書	授業時に指示。				
参考文献	原田彰・望月重信『子ども社会学への招待』(ハーベスト社、2012年)他。				
回数	授業項目	授業内容			
第1回	教育実習の準備1	教育実習に必要な知識、技術の確認			
第2回	同2	教育実習の模擬授業1			
第3回	同3	同2			
第4回	同4	同3			
第5回	一般教養1	国語領域(漢字、文学、評論)			
第6回	一般教養2	社会領域(歴史、政治、経済、社会)			
第7回	一般教養3	理数領域(数学、理科)			
第8回	教職教養1	法律関係			
第9回	教職教養2	教育思想			
第10回	教職教養3	学校経営関係			
第11回	教職教養4	教師-子ども関係			
第12回	教職教養5	教育改革			
第13回	プレゼン能力1	資料の蒐集の方法			
第14回	プレゼン能力2	資料のまとめ方			
第15回	プレゼン能力3	プレゼンの方法			
第16回	プレゼン能力4	模擬1			
第17回	プレゼン能力5	模擬2			
第18回	自分の研究1	問題意識			
第19回	自分の研究2	テーマの設定			
第20回	自分の研究3	資料の蒐集			
第21回	自分の研究4	論理的展開(章構成の方法)			
第22回	自分の研究5	発表1			
第23回	自分の研究6	発表2			
第24回	自分の研究7	発表3			
第25回	自分の研究8	発表4			
第26回	自分の研究9	発表5			
第27回	自分の研究10	発表6			
第28回	自分の研究11	発表7			
第29回	自分の研究12	発表8			
第30回	まとめ	教育と教職についての議論			



国際		
授業番号	B103100018	
科目名	4年次専門研究 通年	
担当者	高橋 和子 対象学年 4 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	本ゼミでは卒業論文を書くことが要件です。ゼミでは、3年次に学内で実施した調査データに対してこれまで学んだデータ分析の方法を適用し、得られた分析結果を卒業論文としてまとめるための指導を行います。到達目標は、卒業論文を完成させることです。	
授業の進め方(履修条件など)	卒業論文作成に必要な共通の事項を解説しつつ、各自の作業を進めてもらいます。途中、パワーポイントにより成果を発表してもらいます。後期は、基本的なスケジュールはありますが、各自の進度が違いすぎる場合は個別に指導します。	
成績評価方法	ゼミへの参加貢献度：30% 卒業論文70%	
基準		
授業の予習・復習	予習：前回にゼミで指摘された事項を修正して望むこと。必ず、前回からの進捗があること。 復習：指摘された事項について修正すること。	
教科書	得jになし	
参考文献	各自のテーマに応じて適宜紹介します	
回数	授業項目	授業内容
第1回	オリエンテーション	卒業論文作成に向けてスケジュール説明 前期の目標
第2回	卒業論文とは	卒業論文の構成・形式と実例紹介
第3回	テーマ設定(1)	テーマ検討(仮説構成)
第4回	テーマ設定(2)	タイトル検討
第5回	1章 はじめに(1)	1章 解説(動機、背景、目的の検討)
第6回	1章 はじめに(2)	1章 執筆と修正
第7回	プレゼンテーション	発表・質疑応答(1人5分+3分)
第8回	2章 データと分析方法(1)	2章1節 データ 解説(注、参考文献の書き方) 検討
第9回	2章 データと分析方法(1)	2章1節 データ 解説(注、参考文献の書き方) 検討
第10回	2章 データと分析方法(3)	2章2節 分析方法 解説 検討後、執筆と修正
第11回	3章 分析結果(1)	3章1節 単純集計結果 解説
第12回	3章 分析結果(2)	3章1節 単純集計結果 検討
第13回	3章 分析結果(3)	3章1節 単純集計結果 執筆と修正
第14回	前期まとめ	1章から3章1節まで完成
第15回	プレゼンテーション	発表・質疑応答(1人7分+3分)
第16回	3章 分析結果(4)	3章2節 クロス集計結果(属性とのクロス) 解説
第17回	3章 分析結果(5)	3章2節 クロス集計結果(属性とのクロス) 検討
第18回	3章 分析結果(6)	3章2節 クロス集計結果(属性とのクロス) 執筆と修正
第19回	3章 分析結果(7)	3章3節 クロス集計結果(関連すると思われる質問同士) 解説
第20回	3章 分析結果(8)	3章3節 クロス集計結果(関連すると思われる質問同士) 検討
第21回	3章 分析結果(9)	3章3節 クロス集計結果(関連すると思われる質問同士) 執筆と修正
第22回	4章 考察(1)	4章 解説(考察と結果の違い、文献調査)
第23回	4章 考察(2)	4章 検討
第24回	4章 考察(3)	4章 執筆と修正
第25回	5章 おわりに(1)	5章 解説 検討
第26回	5章 おわりに(2)	5章 執筆と修正
第27回	注 参考文献	注 適宜修正 参考文献 執筆と修正
第28回	全体まとめ	卒業論文として完成
第29回	卒論発表会(1)	発表・質疑応答(1人10分+5分)
第30回	卒論発表会(2)	発表・質疑応答(1人10分+5分)



国際					
授業番号	B103100019				
科目名	4年次専門研究			通年	
担当者	田口 功	対象学年	4	単位数	4
授業のねらいと到達目標	前期は、理科実験装置の検討授業を行います。そこでは、資料の収集も行なう。後期は、さらに理科教育に役立つ教材を開発する。また、MATLABを用いシミュレーション練習を行なう。このことを通して自ら課題を持ち研究をする態度が得られることを到達目標とします。				
授業の進め方(履修条件など)	今使用されている教材を動かし、良い点悪い点の検討を行なう。資料を見て小学校理科実験との関連性を検討しながら、理科実験装置改善の検討を行行なう。 後期は、MATLABを用い、応用としてシミュレーション練習も行なう。研究結果を論文としてまとめる。このことを通して自ら課題を持ち研究をする態度が得られることを到達目標とします。				
成績評価方法	小論文、発表、資料提出、小試験により総合評価します。				
基準					
授業の予習・復習	予習：与えられた課題についてよく資料を見て研究をして下さい。 復習：授業中に指摘された事柄などについて良く復習して下さい。				
教科書	資料を配布します。				
参考文献					
回数	授業項目	授業内容			
第1回	ガイダンス	授業の進め方を説明			
第2回	ふりこの実験を実際に行なう。	現在ある材料で、ふりこの実験を行なえる装置の作成			
第3回	ふりこの実験に関する資料収集	図書館でふりこに関する資料を収集し、小学校で行われている実験を行っている			
第4回	ニュートンの力学に対して一般方程式を解く	近似的に微分方程式を解いてみる。解の式と現実の運動の検討を行なう。			
第5回	解の検討	微分方程式の解きかたを検討する。理解度を深める。			
第6回	装置の改善(1)	ふりこの運動の2次元化を試みる。			
第7回	装置の改善(2)	ブレのないふりこの運動を行なうための工夫			
第8回	数値解析(1)	方程式の数値解法 ニュートン法について			
第9回	数値解析(2)	ふりこの運動をシミュレーションする。MATLABを使用し確かめる。			
第10回	太陽光電池	太陽光電池の原理をインターネットで調査し、家庭の電源としてどのように使われているかを調査検討する。どのようにしたら教材に使用できるかを検討する。			
第11回	電磁石(1)	電磁石作成に対して発熱状況は、避けられない。どのようにしたら安全な実験ができるか電気部品を検討する。磁極の発生と確認、磁極の強さ、実験の難しさを体験する。			
第12回	電磁石(2)	電磁石の強さの検討を行なう。線形性が成り立たないため、どのような工夫が必要かを検討する。			
第13回	電磁石(3)	理論的に、小学生がわかりやすい電磁石をどのような巻線を選択し、実験を行なったらわかりやすい実験が行えるかを検討する。			
第14回	計器使用の注意点(1)	電気抵抗の大小を電流計、電圧計を使用し検討する。さらに、計器自身についても注意点と、なぜか、ということを検討する。			
第15回	計器使用の注意点(2)	計器の内部抵抗、負荷の抵抗、計器の構造などをすべて勘案し電流が流れていることを正確に理解する。			
第16回	力	ゴムやばねを用いての力、ニュートンの法則と力			
第17回	静電気による発光装置(1)	振りこの運動を実際の実験器具を作成し、検討する。糸の長さをいろいろ変えて実験を行っている。周期と糸の長さとの関係を、資料を検討したうえで、実際の実験との注意点の検討も行う。			
第18回	静電気による発光装置(2)	静電気による発光ダイオード点灯回路作成、トランスの原理を資料をもとに検討する。直流電源がそのまま使えない理由を考えてみよう。資料を収集し、検討する。			
第19回	テングスリティー	力の安定を考えたテングスリティーの説明、資料の検討および作成を行なう。			
第20回	レンズによる像のでき方。	凸レンズによる光の進み方の実際の実験装置の検討、数式的理解を資料を探しながら検討する。			
第21回	レンズの性質	凸レンズによる光の進み方の数式的理解			
第22回	電子部品について(1)	電子部品(LEDなど)を用いて、フリップフロップ回路を作成してみよう。はんだやエナメル線、銅線を用いる。資料をさがしてとにかく作成してみる。			
第23回	電子部品について(2)	電子部品(LEDなど)を用いて、フリップフロップ回路を作成する。問題は多い。動かない場合が多いため、基盤の種類を変えて作成を行なってみる。どの基盤が良いか検討を行なう。			
第24回	風力発電機の作成(1)	市販されている風力発電機を組み立ててみよう。			
第25回	風力発電機の作成(2)	市販されている電子部品を自分で購入し、風力発電装置を作成してみよう。			
第26回	数値解析-(2)	定積分の数値解法について、文献を見て数種類の方法で面積を求め、誤差の検討を行なう。グラフ化し、アルゴリズムを再検討する。			
第27回	物体の運動、放物運動	直線運動、放物運動曲線を描くプログラムの作成を行ない、運動の合成をプログラムを通して理解する。			
第28回	3次元グラフィックス-(2)	たくさん空間曲線を描く。3次元グラフも数種類ある。地図データを見つけて3次元で書いてみよう。時間をかけもデータを探すことを課題とする。			
第29回	教具の開発(1)	理科教育において、問題となっているか、実験しにくい教具の開発および作成を行なう。資料を探す。			
第30回	教具の開発(2)	理科教育において、問題となっているか、実験しにくい教具の開発および作成を行なう。資料を探す。			

国際			
授業番号	B103100020		
科目名	4年次専門研究	通年	
担当者	田村 孝	対象学年	4 単位数 4
授業のねらいと到達目標	受講生は全員教員志望なので、教師に関する問題点や改善点を示し、良き教師をどのように育てるかを論じた書物を読み、将来自分が教員になるとはどういうことなのか、またそのために何をなすべきか、などを見つける手がかりを得ることを目的とする。		
授業の進め方(履修条件など)	まず、各自の抱えている教師像について意見を交換し、ついでテキストを輪読する形式にしたい。		
成績評価方法基準	受講の態度とレポートによる。基準はどれぐらい自学自修ができていないか、積極的に授業に参加したのかによる。		
授業の予習・復習	課題を出した場合は、きちんとレポートを提出する必要がある。また、テキストを事前に読んで来ることが必要である。		
教科書	今津孝次郎 『教師が育つ条件』(岩波新書 2012年 720円+税)		
参考文献	そのつど指示する。		
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション	受講上の注意	
第2回	学級崩壊に直面	近年のニュースで現代の教育問題を、新聞の切り抜きなどを用いて、講義する。	
第3回	クラス再生の試み	当番学生による内容報告と質疑	
第4回	教師の声を聴く	同上	
第5回	余裕のない教師	同上	
第6回	保護者との信頼関係	同上	
第7回	政策に翻弄される教師	同上	
第8回	教師の質を解きほぐす	同上	
第9回	資質・能力の多様性	同上	
第10回	ロスタイム(アディショナル・タイム)	時間調整(多分ここまで予定どおりに進まないのではないかとと思われるので、遅れを取り戻すために予定を空白にしておく)	
第11回	指導力不足の教員	当番学生による内容報告と質疑	
第12回	生涯学習としての教師教育	同上	
第13回	教員養成を通じた育ち	同上	
第14回	現職を通じた育ち	同上	
第15回	「出会い」に恵まれる	同上	
第16回	教師を支援する人々	同上	
第17回	生徒が育ち、保護者が育ち、教師も育つ	同上	
第18回	評価の時代にどう向き合うか	同上	
第19回	すべてが評価に収斂する時代	同上	
第20回	ロスタイム	第10回と同じ(時間調整)	
第21回	評価と査定	当番学生による内容報告と質疑	
第22回	評価で育つ教師	同上	
第23回	教師を育てる制度、教師が育つ道筋	同上	
第24回	さて、教師とは	同上	
第25回	現代の教育問題(1)	同上	
第26回	現代の教育問題(2)	同上	
第27回	みなさんはどう考えますか?	同上	
第28回	よい教師って何だろう	同上	
第29回	やりがいのある教育職	同上	
第30回	テキストを読み終わって	自由討論	

国際

授業番号	B103100021		
科目名	4年次専門研究	通年	
担当者	山本 陽子	対象学年	4
		単位数	4

授業のねらいと到達目標	音楽を中心に小学校教員として、また一人の大人として欠かさない教育についての理解を深めることを目標とします。前年までに学んだことを基礎に、各自の問題意識に基づいて課題を設定し、その解決に当たります。前期は教育実習・教員採用試験を意識した内容を主にします。後期は音楽の理解を深めながら、各自の集大成として卒業制作を全員で仕上げます。
授業の進め方(履修条件など)	自ら課題を設定し、その解決に当たります。学生同士、教師との意見交換、実際の音や音楽を通して、考えや理解を深め、表現します。
成績評価方法	課題意識や課題解決へ向けての取り組み、その内容や方法、意見交換による深化、表現など 総合的に評価します。
基準	
授業の予習・復習	思いや意図をもって課題を設定し、解決へ向けて資料を収集したり実践したりします。
教科書	授業内で指示します。
参考文献	適宜紹介します。

回数	授業項目	授業内容
第1回	教育実習に向けて①	教育実習の意味
第2回	教育実習に向けて②	教育実習の目当て
第3回	教育実習に向けて③	教育実習の準備①
第4回	教育実習に向けて④	教育実習の準備②
第5回	各自の課題解決①	教員採用試験準備①
第6回	各自の課題解決②	コードによるピアノ伴奏法①
第7回	各自の課題解決③	教員採用試験準備②
第8回	各自の課題解決④	コードによるピアノ伴奏法②
第9回	各自の課題解決⑤	教員採用試験準備③
第10回	各自の課題解決⑥	コードによるピアノ伴奏法③
第11回	各自の課題解決⑦	教員採用試験準備④
第12回	各自の課題解決⑧	コードによるピアノ伴奏法④
第13回	教員採用試験準備	教員採用試験の心構え
第14回	教育実習のまとめ	教育実習の反省・まとめ
第15回	前期のまとめ	前期の成果と課題
第16回	イントロダクション	後期の計画
第17回	卒業制作準備①	企画・準備①
第18回	卒業制作準備②	企画・準備②
第19回	卒業制作準備③	テーマの検討①
第20回	卒業制作準備④	テーマの検討②
第21回	卒業制作に向けて①	研究の進め方
第22回	卒業制作に向けて②	研究の分担①
第23回	卒業制作に向けて③	研究の分担②
第24回	卒業制作①	問題の解決①
第25回	卒業制作②	問題の解決②
第26回	卒業制作③	中間報告・検討
第27回	卒業制作④	中間報告・まとめに向けて
第28回	卒業制作⑤	最終まとめに向けての調整①
第29回	卒業制作⑥	最終まとめに向けての調整②
第30回	卒業制作⑦	まとめ

国際			
授業番号	B103100023		
科目名	4年次専門研究	通年	
担当者	田中 未央	対象学年	4
		単位数	4
授業のねらいと到達目標	①教育実習に必要な心構えと準備をする。 ②教育実習の成果と反省を学生間で共有し、教員になるための心構えをする。 ③教育現場で必要とされる心理学の専門知識を身に付ける。 ④教員に必要な学生相談の知識やスキルを身に付ける。		
授業の進め方(履修条件など)	①演習形式で実施する。 ②授業では演習・実習・討論を実施するので、遅刻と欠席は厳禁である。 ③前期は教育実習の準備を中心に授業を進め、後期は教員に必要な心理学の知識やスキルを身に付けるための演習を中心に行う。 ④履修者と協議し、演習内容の一部を変更する場合がある。		
成績評価方法	発表(実習の経過報告)・授業態度によって総合的に評価する。		
基準			
授業の予習・復習	予習：授業で扱う課題に関する情報収集、レジュメの作成 復習：授業内で演習・討論した内容をまとめ、整理する。		
教科書	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。		
参考文献			
回数	授業項目	授業内容	
第1回	オリエンテーション①	前期の予定・授業の進め方	
第2回	教育実習の準備①	教育実習までに必要な知識の確認・実習の心構えについて	
第3回	教育実習の準備②	指導案の準備と作成①	
第4回	教育実習の準備③	指導案の準備と作成②	
第5回	教育実習の準備④	模擬授業の実施(国語)	
第6回	教育実習の準備⑤	模擬授業の実施(算数)	
第7回	教育実習の準備⑥	模擬授業の実施(英語)	
第8回	教育実習の準備⑦	模擬授業の実施(社会)	
第9回	教育実習の準備⑧	模擬授業の実施(理科)	
第10回	教職教養①	教育心理学について	
第11回	教職教養②	教育評価について	
第12回	教職教養③	学習指導法について	
第13回	教育実習の報告①	教育実習の成果と今後の課題を報告する。	
第14回	教育実習の報告②	13回目の授業で報告された実習での課題を踏まえ、教員になるまでにどのような準備をするべきかについて議論する。	
第15回	まとめ	前期の総括と反省	
第16回	オリエンテーション②	後期の予定・授業の進め方	
第17回	教職教養④	学生相談について	
第18回	【演習】カウンセリングの技術を学ぶ①	『傾聴』の技術について	
第19回	【演習】カウンセリングの技術を学ぶ②	傾聴の技術をマスターする。 授業内でインタビュー(聞き取り)の実習をします。	
第20回	教育現場の諸問題について①	いじめ問題について考える	
第21回	教育現場の諸問題について②	体罰の問題について考える	
第22回	教育現場の諸問題について③	保護者支援について 保護者のメンタルヘルス・気になる保護者への対応	
第23回	教育現場の諸問題について④	発達障害への理解	
第24回	【演習】気になる子どもへの支援計画を考える①	学習障害児の特徴を理解し、普通学級での生活を支援するための対応方法について考える。	
第25回	【演習】気になる子どもへの支援計画を考える②	ADHDを持つ子どもの特徴を理解し、普通学級での生活を支援するための対応方法について考える。	
第26回	【演習】SST(ソーシャルスキルトレーニング)の実践①	SSTとは何か?	
第27回	【演習】SSTの実践②	SSTを体験する。	
第28回	【演習】SSTの実践③	SSTを応用したレクリエーションを考える。	
第29回	【演習】SSTの実践④	28回目で考案したレクリエーション方法についての発表会	
第30回	まとめ	1年間の総括	

国際		
授業番号	B101320001	
科目名	総合日本語 I	
担当者	銅直 信子	
対象学年	1	
単位数	2	
授業のねらいと到達目標	アカデミックな場面で必要とされる基礎的な口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。教科書の各テーマに関して「知っていることを話す」「資料からの情報をまとめる」ことを中心に学ぶ。コンテキストの中での文法的、意味的関係の捉え方を学習することによって、読む力、書く力を養っていく。また、ビデオ・DVD を視聴し、内容や意見を発表することで聞く力、話す力を養っていく。加えて漢字力・語彙力・文法力の強化を図る。	
授業の進め方(履修条件など)	日本語能力試験 N2 レベルの日本語能力を有する学生を想定して授業を進める。各課の重要文型を学習した後、各自短文を作成し授業後に提出する。添削して返却するので、正しい表現を確認する。文法を中心とした授業では教科書に沿って各課の文法項目の理解を深め、上級文法へと繋げていく。また、口頭発表のモデルを聞き、レジュメを完成し各自発表する(練習は家庭学習)。	
成績評価方法	定期試験 60%、レポート・クラス内テスト 30%、クラス活動点 10% で評価する。	
基準		
授業の予習・復習	予習：語彙の中の漢字の読み方・意味を事前に調べておく。わからない語彙は授業中に確認する。 文法の教科書の各課のポイントを読んでおく。 復習：返却された小レポート類の正しい表現をよく復習する。本文の首読を繰り返し行う。 文法問題で正答と違った答えを出した場合は、なぜ間違えたかを必ず確認する。	
教科書	『中・上級日本語教科書 日本への招待 第2版』東京大学出版会 2,400円 + 税 『中級日本語文法要点整理ポイント20』友松悦子 スリーエーネットワーク 2,000円 + 税	
参考文献	『大学で学ぶための日本語ライティング』佐々木瑞枝 The Japan Times 『聴解・発表ワークブック』犬飼康弘 スリーエーネットワーク 『小論文への12のステップ』友松悦子 スリーエーネットワーク	
回数	授業項目	授業内容
第1回	ガイダンス・記述文作成	ガイダンス後、「記述文」を400字以内で書く。
第2回	ガイダンス・文法テスト	ガイダンス後、文法テスト(オリジナル)を行う。
第3回	イメージの日本・日本人	語彙の確認。ステレオタイプについて話し合う。
第4回	1課	助詞の問題
第5回	「女性の生き方」資料1・2	文型を使って短文作り。本文を精読し、設問に答える。
第6回	2課	話題の取立て
第7回	資料3	本文を精読し、グラフからわかることをまとめる。
第8回	3課	助詞の働きをする言葉1
第9回	資料4・5	語彙の確認。文型を使って短文づくり。
第10回	4課	助詞の働きをする言葉2
第11回	「子どもと教育」資料1・2	語彙の確認。文型を使って短文作り。DVDを見て、内容をまとめる。
第12回	5課	助詞の働きをする言葉3
第13回	資料3・4	教育問題について話す。新聞教材を読む(ピザ到達度テスト)。
第14回	メモを取る	CDを聞いてメモを取り、重要点を発表する。
第15回	資料5・6	本文を精読する。各自の考えをまとめる。漢字小テスト
第16回	6課	名詞化の方法「こと」と「の」
第17回	「若者の感性」資料1・2	語彙の確認。文型を使って短文作り。
第18回	7課	複文構造 - 複文の中の「は」と「が」・時制
第19回	資料3・4	データから分かった特徴をまとめる。
第20回	8課	名詞修飾 小論文の書き方
第21回	資料5	分析による説明に使われる表現を学ぶ。本文を精読し設問に答える。 漢字小テスト
第22回	レジュメ完成	CDを聞いて口頭発表のレジュメを完成させ発表する。
第23回	課題文を書く。	3つのテーマから一つ選び、課題文を書き提出する。
第24回	9課	複文を作る言葉 1 - 時間
第25回	ブックレポート	各グループでテーマを決め、レジュメを作成する。
第26回	10課	複文を作る言葉 2 - 仮定の言い方
第27回	ブックレポート	プレゼンテーションの技法と作法を学ぶ。
第28回	レジュメ完成	CDを聞いて口頭発表のレジュメを完成させ発表する。
第29回	ブックレポート	各グループ発表→質疑応答→ディスカッション ブックレポートの発表内容をまとめて提出する(各自宿題)。
第30回	総合問題	課題 グラフを分析して考察する。

国際		
授業番号	B101330001	
科目名	総合日本語 II	
担当者	銅直 信子	
対象学年	1	
単位数	2	
授業のねらいと到達目標	アカデミックな場面で必要とされる応用的な口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。特に話すこと、書くことにおいて、説得力をもつにはどのような技法や作法が必要であるかをグループ学習を通して学び、最後にアンケート調査の結果を口頭発表する。	
授業の進め方(履修条件など)	教科書に沿って授業を進めていく。各課の重要文型をモデルに短文を作ったり課題に答え授業終了後提出する。添削して返却するので、正しい表現を確認する。また、ビデオや DVD を視聴し内容をまとめたり、意見を述べたりする。各課の終了時に漢字小テストを実施する。アンケート調査結果をグループで口頭発表後、各自アンケート調査レポートを提出する(700字)。文法の授業ではクラス内テストを実施し既習項目の定着を図る。	
成績評価方法	定期試験 60%、レポート・クラス内テスト 30%、クラス活動点 10%で評価する。	
基準		
授業の予習・復習	予習：語彙リストの漢字の読み方・意味を事前に調べておく。わからない語彙の意味は授業中に確認する。文法の教科書の各課のポイントを読んでくる。 復習：返却された小レポート類の正しい日本語表現をよく復習する。本文を繰り返し音読する。文法問題で正答と違った答えを出した場合、なぜ間違えたかを必ず確認する。	
教科書	『中・上級日本語教科書 日本への招待 第2版』東京大学出版会 2,400円＋税 『中級日本語文法要点整理ポイント20』友松悦子 スリーエーネットワーク 2,000円＋税	
参考文献	『ストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』一橋大学留学生センター スリーエーネットワーク 『聴解・発表ワークブック』犬飼康弘 スリーエーネットワーク 『小論文への12のステップ』友松悦子 スリーエーネットワーク	
回数	授業項目	授業内容
第1回	「仕事への意識」 資料1	語彙の確認。ことわざを学ぶ。
第2回	読解・文法テスト	読解・文法テストを行う。
第3回	資料2・3	DVDを見て、内容をまとめる。
第4回	11課・12課	決まった使い方の副詞 1・2
第5回	資料4・5	正規社員と非正規社員。オランダの例を考える。
第6回	13課・14課	接続の言葉 1・2
第7回	資料6	年功序列・終身雇用制度 漢字小テスト
第8回	15課	語彙を広げる 1
第9回	「日本の外国人」 資料1	在日外国人について
第10回	レジュメを完成	CDを聞いて口頭発表のレジュメを完成し発表する。
第11回	資料2・3	定住外国人子弟の日本語教育
第12回	16課	語彙を広げる 2
第13回	資料4・5	本文を精読し設問に答える。漢字小テスト
第14回	17課	語彙を広げる 3
第15回	「多様化する日本・日本人」	キーワードをマークする。
第16回	18課	硬い文章 1
第17回	脱ステレオタイプとは	本文を精読し、設問に答える。漢字小テスト
第18回	19課	硬い文章 2
第19回	アンケート調査について	何について調査を行うかディスカッションする。
第20回	20課	丁寧な言い方 1・2
第21回	テーマを絞る	テーマに関する資料を収集する。
第22回	20課	丁寧な言い方 3
第23回	アンケート調査	設問を作成する。
第24回	レジュメを完成	CDを聞いて口頭発表のレジュメを完成させる。
第25回	アンケート調査	どのような結果になるか予想をたて、まとめて提出する。
第26回	発表練習	レジュメに沿って発表練習する。
第27回	アンケート調査実施	アンケート調査の技法(実施は授業以外の時間)。
第28回	発表練習	レジュメに沿って発表練習をする。
第29回	調査結果	アンケート調査結果レポートの作成(700字)。
第30回	口頭発表	調査結果を口頭発表する。



国際		
授業番号	B103920001	
科目名	教育原論 通年（こども専用）	
担当者	武内 清 対象学年 1 単位数 4	
授業のねらいと到達目標	《前期》 教育の思想、歴史を通して、教育の哲学、原理を学ぶ。教育を成り立たせている学校の制度、組織、集団的特質、教育改革について講義する。 《後期》 現代の教育や学校のシステムや制度、組織、集団の実態を講義する。また、実際の学校の中でどのような教育や学習がなされているのか、さらに意図しないことでもどのような影響が子どもたちに及んでいるのかを講義し、また体験に基づく討論も行う。 教育に及ぼす、国際社会、国家、政治、経済、文化、地域社会の影響も考察する。	
授業の進め方（履修条件など）	《前期》 講義、小集団討論、リアクションペーパーなどで、進める。 《後期》 講義を中心にすすめるが、討論も取り入れ、皆の意見も聞きながら進める。	
成績評価方法	授業・討論への積極的参加 20%、リアクションペーパー 20%、試験 60%。	
基準		
授業の予習・復習	《前期》 予習は教科書を読み、復習は配布プリントを中心に行うこと。 《後期》 配布されたプリントを読み返し、授業の復習を必ず行うこと。	
教科書	武内清編『子どもと学校』学文社、2010。さらに授業時にプリントを配布する。	
参考文献	授業時に指示	
回数	授業項目	授業内容
第 1 回	イントロダクション	教育とは
第 2 回	学校 1	学校の特質
第 3 回	学校 2	学校の歴史、学校の社会的背景
第 4 回	学校 3	教育法規（教育基本法、学校教育法、ほか）
第 5 回	学校 4	学校組織の特質
第 6 回	学級	学級成立の歴史
第 7 回	教育思想 1	西洋の教育思想 1
第 8 回	教育思想 2	西洋の教育思想 2
第 9 回	教育思想 3	日本の教育思想
第 10 回	教育言説 1	教育言説とは
第 11 回	教育言説 2	教育言説の特質
第 12 回	教育言説 3	子ども言説
第 13 回	教育改革 1	教育改革の思想
第 14 回	教育改革 2	教育改革の流れ
第 15 回	まとめ	教育の原理について考える。
第 16 回	教育の社会的側面 1	現代社会と教育
第 17 回	教育の社会的側面 2	政治、経済と教育
第 18 回	脱学校論	学校教育の可能性と制約
第 19 回	学習指導要領	その変遷
第 20 回	教師と子ども	その関係性を問う
第 21 回	教育現場	教育現場と子ども
第 22 回	子どもの成長	子どもの成長と学校
第 23 回	カリキュラム	その思想的背景と子ども
第 24 回	進路指導	キャリア教育の思想と実際
第 25 回	道徳教育	小学校でのキャリア教育
第 26 回	部活動	中学校でのキャリア教育
第 27 回	多文化教育	高等学校でのキャリア教育
第 28 回	ジェンダーと教育	大学でのキャリア教育と進路
第 29 回	情報教育	教育改革
第 30 回	まとめ	教育の理念と実際を考える

国際	
授業番号	B103920002
科目名	教育原論 通年（国際専用）
担当者	中山 幸夫 対象学年 1 単位数 4
授業のねらいと到達目標	《前期》 教員免許取得を希望する学生の皆さんに健全な人間観、教育観を構築してもらうことを授業のねらいとする。教育の基礎理論、教育の思想、わが国の近代化と教育改革の軌跡を辿りながら、人間教育の本質をめぐる諸問題を深く知り、課題解決に取り組む確かな視点を持つことを目標としたい。 《後期》 前期の学習を踏まえて、学校教育を構成する教育課程（カリキュラム）に関する基礎的知識を習得しながら、教育課程の理論や歴史、制度、学校における教育課程編成の方法と実践について理解することを目標とする。
授業の進め方（履修条件など）	《前期》 テキストの内容をふまえた講義要項、資料をテーマごとに配付し、それらに基づいて授業を進めていく。ビデオ・DVD等の映像資料、パワーポイント等も適宜用いる。まずは授業に出席し、「聞く」姿勢を大事にしてほしい。 《後期》 教科書とプリントを使用して、それらをもとにしながら授業を進めていく。適宜、ビデオ、パワーポイント等の視聴覚教材も用いる。ほぼ毎回、授業の終わりに出欠と授業内容の確認を兼ねた小レポートの提出を求める。
成績評価方法	《前期》 定期試験（50%）・課題レポート（30%）・授業参加態度（20%） 《後期》 平常点（30%）、レポート（30%）、試験（40%）
基準	
授業の予習・復習	予習：次回のテーマに関してテキスト、資料の指定範囲を読んでおく。 復習：授業の終わりに授業内容の確認を兼ねた課題レポートの提出を求める。
教科書	《前期》 平野智美監修、中山幸夫他編著 『教育学のグランドデザイン』 八千代出版 《後期》 上野正道『民主主義への教育－学びのシニシズムを超えて』 東京大学出版会、2013年
参考文献	文部科学省 『小学校学習指導要領解説－総則編－』 東京書籍 文部科学省 『小学校学習指導要領』 東京書籍 文部科学省 『中学校学習指導要領』 東山書房 文部科学省 『高等学校学習指導要領』 東山書房
回数	授業項目 授業内容
第1回	教育をめぐるとの現状 問題としての教育、家庭・学校・地域社会の現状
第2回	教育の意義 教育の意義、教育の概念、人間の発達と教育
第3回	教育の理念・目的 教育の理念、教育目的の普遍性と特殊性
第4回	教育の思想 西洋古代・中世の教育思想
第5回	教育の思想 西洋近世の教育思想
第6回	教育の思想 西洋近代の教育思想
第7回	教育の思想 公教育思想の発展と近代公教育制度の成立
第8回	教育の思想 新教育の思想と新教育運動の展開
第9回	日本の近代化と教育 近代公教育の導入と明治期の教育
第10回	日本の近代化と教育 大正デモクラシーと新教育
第11回	日本の近代化と教育 戦争と教育
第12回	教育改革の軌跡 戦後教育改革の始動と展開
第13回	教育改革の軌跡 高度経済成長と教育
第14回	教育改革の軌跡 教育改革の模索と臨時教育審議会
第15回	教育改革の軌跡 教育改革の動向と展望
第16回	オリエンテーション 教育課程とは何か
第17回	教育課程の歴史 明治から戦前までの教育課程の歴史と展開
第18回	教育課程の歴史 戦後の教育課程の変遷
第19回	教育課程の原理 教科中心カリキュラム、経験中心カリキュラム
第20回	教育課程の原理 学問中心カリキュラム、人間中心カリキュラム
第21回	教育課程の実践的課題 授業とカリキュラム
第22回	教育課程の実践的課題 教師とカリキュラム
第23回	教育課程の実践的課題 学力とは何か
第24回	教育課程の実践的課題 学習論とカリキュラム
第25回	外国の教育課程 アメリカのカリキュラム
第26回	外国の教育課程 ドイツのカリキュラム
第27回	外国の教育課程 中国と韓国の事例
第28回	教育課程の今日的課題 21世紀のカリキュラム構想
第29回	教育課程の今日的課題 カリキュラムの公共性へ
第30回	まとめ 全体の総括



経済・国際

授業番号	A300040001				
科目名 (英語表記)	敬愛プログラム (KEIAI Program)			集中	
担当者 (英語表記)	教務部委員会 (Kyoumubu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	自分で定めた目標をやり遂げる能力を高めるとともに、共同作業を通して目標を達成する経験を積む。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎週定期的に授業を行うわけではない。2人以上のグループで具体的なテーマを決め、その達成目標や段取りを修学支援室に提出し、承認を受けてから一定期間内に成果を上げられるよう取り組み、成果は公表する。テーマについては、下記の例を参考にすること。				
成績評価方法	公表された成果を教務部委員会が採点して評価する。				
基準					
授業の予習・復習	自分達のグループで文献や資料を調べ、調査に出かけたり、結果をまとめたりしなければならない。先輩や友人、先生方の助言も参考にしながら取り組んでほしい。				
教科書	使用しない。				
参考文献	テーマによって参考文献は異なる。メディアセンター等で適切な参考文献、資料を選定すること。				
授業内容					
<p>■敬愛プログラムのテーマ例</p> <p>①千葉を知る (歴史、地理、経済、文化、環境など)</p> <p>②大学を活性化する (教育環境、緑化、大学祭、食堂新メニュー、健康、ボランティアなど)</p> <p>③敬天愛人講座を実践する</p>					

経済

授業番号	B203050001				
科目名 (英語表記)	中 学 校 教 育 実 習 (Junior high school practice teaching)		集中		
担当者 (英語表記)	中山 幸夫 (Yukio Nakayama)	対象学年	4	単位数	4
授業のねらいと到達目標	実習校での観察・参加・実習を通して、学習指導や教育に関する理論を自ら検証する。併せて、実習体験を通して学校教育について理解を深めながら、学校現場で教師として仕事をしていくための力量を身に付ける機会とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	余裕をもって教育実習に臨むために、参加者は事前に必要な手続きを済ませ、十分な体調管理と準備の上で実習に臨むことが求められる。実習前の「教育実習直前指導」(4月下旬)、実習終了後の「教育実習報告会」(7月上旬)には必ず出席すること。なお、必要に応じて実習前に個別指導を行う。				
成績評価方法 基準	教育実習校の実習生評価(50%)、「教育実習直前指導」「教育実習報告会」への出席、教育実習録の内容(50%)を勘案した総合評価とする。				
授業の予習・復習	十分な事前準備と実習への心構えが求められる。				
教科書	敬愛大学教職課程年報 『教職への里程』(第18号) 2014年				
参考文献					
授業内容					
教室において定期的な授業を行う科目ではない。教育実習開始前の「直前指導」、「実習本体」、「実習後の総括」によって構成される科目である。					

経済

授業番号	B202000001				
科目名 (英語表記)	地方自治論実習 (Local autonomy theory training)			集中	
担当者 (英語表記)	牧瀬 稔 (Minoru Makise)	対象学年	2	単位数	2
授業のねらいと到達目標	地方自治論演習は、夏季休暇等を活用して、地方自治体でのインターンシップの実施を想定しています。地方自治の現場で政策づくりを行い、最終的には自治体職員へプレゼンテーションを実施します。具体的なインターンシップ先としては、戸田市役所等を想定しています (変更もあります)。				
授業の進め方 (履修条件など)	夏季休暇の間に、地方自治体に出社し、自治体職員の指導のもと、政策づくりに励みます。その地方自治体への出社日や出社時間等の諸条件は、個別に相談して決定します (アルバイト料、交通費等は支給しません)。				
成績評価方法 基準	インターンシップ期間の勤務状況と提案されたレポートにより成績をつけます。				
授業の予習・復習	予習：インターンシップ先及び自分の住む地方自治体に興味を持ってください。 復習：一日のインターンシップの経験を振り返ってください。				
教科書	牧瀬稔・戸田市政策研究所 (2009)『政策開発の手法と実践』東京法令出版 牧瀬稔・戸田市政策研究所 (2010)『選ばれる自治体の条件』東京法令出版				
参考文献	特に指定しません。				
授業内容					
地方自治論演習は、地方自治体への中・長期のインターンシップを意図しています。そのため、講義はありません。					

経済

授業番号	B203060001				
科目名 (英語表記)	高等学校教育実習 (High school practice teaching)	集中			
担当者 (英語表記)	中山 幸夫 (Yukio Nakayama)	対象学年	4	単位数	2
授業のねらいと到達目標	実習校での観察・参加・実習を通して、学習指導や教育に関する理論を自ら検証する。併せて、実習体験を通して学校教育について理解を深めながら、学校現場で教師として仕事をしていくための力量を身に付ける機会とする。				
授業の進め方 (履修条件など)	余裕をもって教育実習に臨むために、参加者は事前に必要な手続きを済ませ、十分な体調管理と準備の上で実習に臨むことが求められる。実習前の「教育実習直前指導」(4月下旬)、実習終了後の「教育実習報告会」(7月上旬)には必ず出席すること。なお、必要に応じて実習前に個別指導を行う。				
成績評価方法 基準	教育実習校の実習生評価(50%)、「教育実習直前指導」「教育実習報告会」への出席、教育実習録の内容(50%)を勘案した総合評価とする。				
授業の予習・復習	十分な事前準備と実習への心構えが求められる。				
教科書	敬愛大学教職課程年報 『教職への里程』(第18号) 2014年				
参考文献					
授業内容					
教室において定期的な授業を行う科目ではない。教育実習開始前の「直前指導」、「実習本体」、「実習後の総括」によって構成される科目である。					

経済

授業番号	B200540001				
科目名 (英語表記)	海外事情研修 IV (イギリス) (Foreign affairs (Britain))				集中
担当者 (英語表記)	教務部委員会 (Kyoumubu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	①英語力または中国語力の向上 ②研修先の国 (アメリカ・イギリス・オーストラリア・中国・フィリピン) の社会に関する文化理解の増進				
授業の進め方 (履修条件など)	①事前の勉強会に必ず出席すること ②敬愛大学の学生であることを自覚し、責任を持って海外生活が送れること ③語学を積極的に学ぶ姿勢を持つこと				
成績評価方法	出席 70%、レポート 30% で評価する。レポートは帰国後提出すること				
基準					
授業の予習・復習	研修中は、授業の予習・復習に時間を十分に当てること				
教科書	各研修実施大学が指定する教材を使用				
参考文献					
授業内容					
①研修実施大学での語学研修 研修実施大学：ポートランド州立大学 (アメリカ)、国立ウルバーハンプトン大学 (イギリス)、国立ジェイムズ・クック大学 (オーストラリア)、北京第二外国語学院 (中国)、フィリピン大学 (フィリピン) ②本学での事前研修 帰国後にはレポートを提出 ③ホームステイ先または寮 (研修先により異なります) での英語による生活					

経済

授業番号	B200530001		
科目名 (英語表記)	海外事情研修 III (オーストラリア) (Foreign affairs 集中 (Austraria))		
担当者 (英語表記)	教務部委員会 (Kyoumubu)	対象学年	1 単位数 2
授業のねらいと到達目標	①英語力または中国語力の向上 ②研修先の国 (アメリカ・イギリス・オーストラリア・中国・フィリピン) の社会に関する文化理解の増進		
授業の進め方 (履修条件など)	①事前の勉強会に必ず出席すること ②敬愛大学の学生であることを自覚し、責任を持って海外生活が送れること ③語学を積極的に学ぶ姿勢を持つこと		
成績評価方法 基準	出席 70%、レポート 30% で評価する。レポートは帰国後提出すること		
授業の予習・復習	研修中は、授業の予習・復習に時間を十分に当てること		
教科書	各研修実施大学が指定する教材を使用		
参考文献			
授業内容			
<p>① 研修実施大学での語学研修            研修実施大学：ポートランド州立大学 (アメリカ)、国立ウルバーハンプトン大学 (イギリス)、国立ジェイムズ・クック大学 (オーストラリア)、北京第二外国語学院 (中国)、フィリピン大学 (フィリピン)</p> <p>② 本学での事前研修            帰国後にはレポートを提出</p> <p>③ ホームステイ先または寮 (研修先により異なります) での英語による生活</p>			

経済

授業番号	B200520001				
科目名 (英語表記)	海外事情研修 II (中国) (Foreign affairs (China))			集中	
担当者 (英語表記)	教務部委員会 (Kyoumubu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	①英語力または中国語力の向上 ②研修先の国 (アメリカ・イギリス・オーストラリア・中国・フィリピン) の社会に関する文化理解の増進				
授業の進め方 (履修条件など)	①事前の勉強会に必ず出席すること ②敬愛大学の学生であることを自覚し、責任を持って海外生活が送れること ③語学を積極的に学ぶ姿勢を持つこと				
成績評価方法	出席 70%、レポート 30% で評価する。レポートは帰国後提出すること				
基準					
授業の予習・復習	研修中は、授業の予習・復習に時間を十分に当てること				
教科書	各研修実施大学が指定する教材を使用				
参考文献					
授業内容					
①研修実施大学での語学研修 研修実施大学：ポートランド州立大学 (アメリカ)、国立ウルバーハンプトン大学 (イギリス)、国立ジェームズ・クック大学 (オーストラリア)、北京第二外国語学院 (中国)、フィリピン大学 (フィリピン) ②本学での事前研修 帰国後にはレポートを提出 ③ホームステイ先または寮 (研修先により異なります) での英語による生活					

経済

授業番号	B200510001				
科目名 (英語表記)	海外事情研修 I (アメリカ他) (Foreign affairs (America))			集中	
担当者 (英語表記)	教務部委員会 (Kyoumubu)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	①英語力または中国語力の向上 ②研修先の国 (アメリカ・イギリス・オーストラリア・中国・フィリピン) の社会に関する文化理解の増進				
授業の進め方 (履修条件など)	①事前の勉強会に必ず出席すること ②敬愛大学の学生であることを自覚し、責任を持って海外生活が送れること ③語学を積極的に学ぶ姿勢を持つこと				
成績評価方法	出席 70%、レポート 30% で評価する。レポートは帰国後提出すること				
基準					
授業の予習・復習	研修中は、授業の予習・復習に時間を十分に当てること				
教科書	各研修実施大学が指定する教材を使用				
参考文献					
授業内容					
①研修実施大学での語学研修 研修実施大学：ポートランド州立大学 (アメリカ)、国立ウルバーハンプトン大学 (イギリス)、国立ジェイムズ・クック大学 (オーストラリア)、北京第二外国語学院 (中国)、フィリピン大学 (フィリピン) ②本学での事前研修 帰国後にはレポートを提出 ③ホームステイ先または寮 (研修先により異なります) での英語による生活					



国際					
授業番号	B104120001				
科目名 (英語表記)	中学校教育実習 (Practice Teaching at Junior High School)			集中	
担当者 (英語表記)	柳原 由美子 (Yumiko Yanagihara)	対象学年	4	単位数	4
授業のねらいと到達目標	実習校での授業の観察・参加・実習を通して、学習指導や教育に関する理論を自ら検証します。併せて、学校教育についての理解を深めながら、学校現場で教師として仕事をしていくための責任ある力量を身に付けることを目指します。				
授業の進め方 (履修条件など)	余裕をもって教育実習に臨むために、参加者は事前に必要な手続きを済ませ、十分な体調管理と準備をして実習に臨むことが求められます。実習前の「教育実習直前指導」(4月下旬)、実習終了後の「教育実習報告会」(7月上旬)への出席は必須です。なお、必要に応じて実習前後に個別指導を行います。				
成績評価方法 基準	教育実習校の実習生評価(50%)、「教育実習直前指導」「教育実習報告会」への出席、および教育実習録の内容(50%)を勘案しての総合評価とします。				
授業の予習・復習	十分な事前準備と心構えが求められます。実習後も「付録」としての各行事への出席、教育実習体験記の執筆などが課せられます。				
教科書	敬愛大学教職課程年報『教職への里程』				
参考文献					
授業内容					
教室において定期的な授業を行う科目ではありません。教育実習開始前の「直前指導」、「実習本体」、「実習後の総括」によって構成される科目です。					

国際	
授業番号	B100200001
科目名 (英語表記)	総合講座 I (Integrated Study I) (フード&アグリ・リテラシー)
担当者 (英語表記)	村川 庸子 (Yoko Murakawa) 対象学年 1 単位数 2
授業のねらいと到達目標	国際学科の「フード&アグリ」新教育カリキュラムの一環。国際学部のような分野の先生が、それぞれの専門から「食と農」の問題を語るリレー講義です。食料自給率、TPPなどの問題から、世界各地の「食」、文学にみる「食」、安心・安全な「食」など、身近なテーマが盛り込まれています。
授業の進め方 (履修条件など)	国際学部の12名の先生が行うリレー講義。コーネル式ノート法を導入。毎回、授業後に小レポートを提出していただきます。
成績評価方法	ノート・小レポート (70%) と最終レポート (4000字程度) (30%)
基準	「食と農」に関する新聞記事や、TV番組の内容など、コメントをつけておけば加点の対象とする。
授業の予習・復習	予習：資料がある場合は事前に配布する。 復習：ノートの整理。
教科書	指定しない
参考文献	予習：資料がある場合は事前に配布する。
授業内容	
<p>第1回：導入およびガイダンス (村川)</p> <p>第2回～第14回</p> <p>下記の教員によるリレー講義 (順不同、詳細は授業開始時に指示)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「ネパールの農業 - ヒマラヤでの日本のリンゴ栽培」(中村)</li> <li>○「アメリカの農業 - サリナス：アメリカのサラダボウル」(村川)</li> <li>○「ICTを活用した次世代の食と農：オランダのアグリ革命と中国・日本・韓国」(高橋 (和))</li> <li>○「緑の革命：そのグローバル戦略と影響」(高田)</li> <li>○「砂漠から農地へ - 中国内蒙古の植樹活動を通して」(山本 (健))</li> <li>○「農業と法 農業の多角的機能」(覚正)</li> <li>○「サハラ以南アフリカの農業と食料事情」(大月)</li> <li>○「中国の農業 - 四大中華料理のルーツと特徴」(家近)</li> <li>○「国連の食と農」(庄司)</li> <li>○「中東と食」(水口)</li> <li>○「ヨーロッパの農法と日本の農法」(田村)</li> <li>○「食行動の心理学」(田中 (未))</li> <li>○「ピーターラビットの世界」(佐藤 (佳))</li> <li>○「江戸の食事情」(畑中)</li> </ul> <p>第15回：まとめ (村川)</p>	

国際					
授業番号	B103680001				
科目名 (英語表記)	実習特殊 I (Practical Advanced I)			集中	
担当者 (英語表記)	村川 庸子 (Yoko Murakawa)	対象学年	1	単位数	2
授業のねらいと到達目標	国際学科のフード&アグリ・ビジネス教育の一貫として、講義と現場での実習を組み合わせ、体系的に結びつける複合科目である。日本の農業のビジネスとしての可能性を探ることを目的としている。「千葉学 I・II・III」「世界の食と農」「生物と環境」「経営学入門」等の科目と併せて履修することを推奨する。				
授業の進め方 (履修条件など)	導入、まとめ、プレゼンのクラスワーク3回 (固定) 年間数回行う集中講義を4コマ以上 (選択)、農業実習 (近隣の高校 (八街) で行う一回2コマ程度) に4回以上参加する。				
成績評価方法 基準	全ての活動に関し、フィールド・ノートの作成と口頭報告による。主体的な参加状況と活動報告のまとめ方を中心に評価する。				
授業の予習・復習	通年、「フード&アグリ」に関する報道 (TV、新聞、雑誌) 等の収集と分析を行う。興味をもって取り組んで欲しい。				
教科書	特に無し				
参考文献	上記「予習・復習」の項目参照。				
授業内容					
講義については、現在、TPP 問題、種苗業 (遺伝子組換え) などに関する外部講師の講義を予定している。実習は大学の近隣の高校で行う (夏休み期間中も可。場合により交通費が発生することもある)。活動内容については敬愛大学 HP 国際学部の「フード&アグリ」コーナーを参照のこと。					

国際					
授業番号	B103660001				
科目名 (英語表記)	国内スクーリング I (Study Tour in Japan I)	集中			
担当者 (英語表記)	国際教務委員会 (Kokusai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	スクーリングの国内版です。講義や演習で学習した内容を実践を通して確認していただく試みです。教員と一緒にこの実習に参加してみましょう。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎週、定期的に授業を行うわけではありません。企画毎に集中的に事前講習への参加と実習 (3泊程度)、日誌・報告書の作成を求めます。経費はできるだけ抑えたいと思いますが、交通費・宿泊費・実習費などが別途必要となります。				
成績評価方法 基準	企画毎に参加者を募集し、実習への関わりと事前の講習、事後の報告書等の提出を含めて総合的に判断します。				
授業の予習・復習	予習：事前研修には必ず参加してください。 復習：実習中は日誌をまとめ、これを元に報告書を作成していただきます。				
教科書	使用しません。適宜、資料を配布します。				
参考文献	使用しません。適宜、資料を配布します。				
授業内容					
募集期間に説明します。					

国際					
授業番号	B103670001				
科目名 (英語表記)	国内スクーリング II (Study Tour in Japan II)	集中			
担当者 (英語表記)	国際教務委員会 (Kokusai Kyoumu)	対象学年	1	単位数	1
授業のねらいと到達目標	スクーリングの国内版です。講義や演習で学習した内容を実践を通して確認していただく試みです。教員と一緒にこの実習に参加してみましょう。				
授業の進め方 (履修条件など)	毎週、定期的に授業を行うわけではありません。企画毎に集中的に事前講習への参加と実習 (3泊程度)、日誌・報告書の作成を求めます。経費はできるだけ抑えたいと思いますが、交通費・宿泊費・実習費などが別途必要となります。				
成績評価方法 基準	企画毎に参加者を募集し、実習への関わりと事前の講習、事後の報告書等の提出を含めて総合的に判断します。				
授業の予習・復習	予習：事前研修には必ず参加してください。 復習：実習中は日誌をまとめ、これを元に報告書を作成していただきます。				
教科書	使用しません。適宜、資料を配布します。				
参考文献	使用しません。適宜、資料を配布します。				
授業内容					
募集期間に説明します。					

国際					
授業番号	B104130001				
科目名 (英語表記)	高等学校教育実習 (Practice Teaching at High School)			集中	
担当者 (英語表記)	柳原 由美子 (Yumiko Yanagihara)	対象学年	4	単位数	2
授業のねらいと到達目標	実習校での授業の観察・参加・実習を通して、学習指導や教育に関する理論を自ら検証します。併せて、学校教育についての理解を深めながら、学校現場で教師として仕事をしていくための責任ある力量を身に付けることを目指します。				
授業の進め方 (履修条件など)	余裕をもって教育実習に臨むために、参加者は事前に必要な手続きを済ませ、十分な体調管理と準備をして実習に臨むことが求められます。実習前の「教育実習直前指導」(4月下旬)、実習終了後の「教育実習報告会」(7月上旬)への出席は必須です。なお、必要に応じて実習前後に個別指導を行います。				
成績評価方法 基準	教育実習校の実習生評価(50%)、「教育実習直前指導」「教育実習報告会」への出席、および教育実習録の内容(50%)を勘案しての総合評価とします。				
授業の予習・復習	十分な事前準備と心構えが求められます。実習後も「付録」としての各行事への出席、教育実習体験記の執筆などが課せられます。				
教科書	敬愛大学教職課程年報『教職への里程』				
参考文献					
授業内容					
教室において定期的な授業を行う科目ではありません。教育実習開始前の「直前指導」、「実習本体」、「実習後の総括」によって構成される科目です。					

国際					
授業番号	B104090001				
科目名 (英語表記)	教育実習 (小学校) (Practice Teaching)			集中 (こども専用)	
担当者 (英語表記)	池谷 美佐子 (Misako Ikeya)	対象学年	4	単位数	4
授業のねらいと到達目標	教育実習は大学で履修し、学んだ、教育に関する科目・教職に関する科目・専門に関する科目等、すべての集大成として行うものです。小学校での実習を通して、初等教育全般への理解を深め、教師としての資質を確かめる貴重な経験となります。年度の初めに「教職ガイダンス」、実習後に「教育実習報告会」を行うほか、4年次専門研究で事前・事後の指導を行います。				
授業の進め方 (履修条件など)	教職の意義に関する科目、教育の基礎理論に関する科目、教育課程及び指導法に関する科目、生徒指導・教育相談及び進路指導に関する科目、総合演習などの所定の単位を一定以上の成績で取得し、教職課程委員会より教育実習を認められることが条件です。				
成績評価方法	教育実習校の評価、実習記録簿、大学における報告会、事前・事後指導への参加、				
基準	レポート等を総合して評価します。				
授業の予習・復習	予習 実習中は翌日の教材研究や教育活動の準備を確実に行う。 復習 実習記録簿は毎日、その日のうちに必ず書き、実習の反省を行う。				
教科書	参考資料プリントを配布				
参考文献	必要に応じて紹介				
授業内容					
教育実習事前指導参加。教育実習説明会参加。教育実習校との連絡。実習校での4週間の教育実習。教育実習事後指導参加。教育実習簿の作成・提出。教育実習報告会参加。レポート作成。					

国際	
授業番号	B103620001
科目名 (英語表記)	海外スクーリング I (Study Abroad I) 集中
担当者 (英語表記)	国際教務委員会 (Kokusai Kyoumu) 対象学年 1 単位数 2
授業のねらいと到達目標	授業のねらいは、各授業で学んだことを実際に自分の目で見て、体験することで、知識に深みをもたせることにある。この海外研修の体験を通して、国際教養の向上及び国際交流の重要性を実感することが到達目標となる。
授業の進め方 (履修条件など)	①敬愛大学の学生としての自覚をもった団体行動ができること。 ② 研修先の諸事情を積極的に学び、現地の人々との交流をおこなう姿勢をもっていること。
成績評価方法 基準	出席 (事前授業・研修) 70% レポート (帰国後提出) 30%
授業の予習・復習	予習：事前授業への参加。研修先に関する情報の収集。研修先の言語の勉強。 復習：研修期間に得た知識や資料の整理。レポートの充実。
教科書	特にありません。
参考文献	事前授業の中で紹介します。
授業内容	
<p>①事前授業 (90分 × 4回程度)</p> <p>②研修 (8日～14日程度)</p> <p>③事後授業 (90分 × 1回程度)</p> <p>④研修先は、5月中に学内に掲示する。</p> <p>⑤研修先は、4月のガイダンスの時に提示される。また、『留学のすすめ』に4年分が記載されているので、計画的に参加すること。</p> <p>⑥最低実施人数は原則として10名とする。</p> <p>⑦引率は原則として専任教員1名。</p>	



国際	
授業番号	B103630001
科目名 (英語表記)	海外スクーリング II (Study Abroad II) 集中
担当者 (英語表記)	国際教務委員会 (Kokusai Kyoumu) 対象学年 1 単位数 2
授業のねらいと到達目標	授業のねらいは、各授業で学んだことを実際に自分の目で見て、体験することで、知識に深みをもたせることにある。この海外研修の体験を通して、国際教養の向上及び国際交流の重要性を実感することが到達目標となる。
授業の進め方 (履修条件など)	①敬愛大学の学生としての自覚をもった団体行動ができること。 ② 研修先の諸事情を積極的に学び、現地の人々との交流をおこなう姿勢をもっていること。
成績評価方法 基準	出席 (事前授業・研修) 70% レポート (帰国後提出) 30%
授業の予習・復習	予習：事前授業への参加。研修先に関する情報の収集。研修先の言語の勉強。 復習：研修期間に得た知識や資料の整理。レポートの充実。
教科書	特にありません。
参考文献	事前授業の中で紹介します。
授業内容	
<p>①事前授業 (90分 × 4回程度)</p> <p>②研修 (8日～14日程度)</p> <p>③事後授業 (90分 × 1回程度)</p> <p>④研修先は、5月中に学内に掲示する。</p> <p>⑤研修先は、4月のガイダンスの時に提示される。また、『留学のすすめ』に4年分が記載されているので、計画的に参加すること。</p> <p>⑥最低実施人数は原則として10名とする。</p> <p>⑦引率は原則として専任教員1名。</p>	

国際	
授業番号	B103600001
科目名 (英語表記)	海外語学研修 I (Language Study Abroad I) 集中
担当者 (英語表記)	国際教務委員会 (Kokusai Kyoumu) 対象学年 1 単位数 2
授業のねらいと到達目標	①英語力の向上 ②研修先の国 (アメリカ・オーストラリア・フィリピン) の社会に関する文化理解の増進
授業の進め方 (履修条件など)	①事前の勉強会に必ず出席すること ②敬愛大学の学生であることを自覚し、責任を持って海外生活が送れること ③語学を積極的に学ぶ姿勢を持つこと
成績評価方法 基準	出席 70%、レポート 30% で評価する。レポートは帰国後提出すること
授業の予習・復習	研修中は、授業の予習・復習に時間を十分に当てること
教科書	各研修実施大学が指定する教材を使用
参考文献	
授業内容	
<p>① 研修実施大学での語学研修          研修実施大学：ポートランド州立大学 (アメリカ)、国立ジェイムズ・クック大学 (オーストラリア)、フィリピン大学 (フィリピン)</p> <p>② 本学での事前研修          帰国後にはレポートを提出</p> <p>③ ホームステイ先または寮 (研修先により異なります) での英語による生活</p>	

国際	
授業番号	B103610001
科目名 (英語表記)	海外語学研修 II (Language Study Abroad II) 集中
担当者 (英語表記)	国際教務委員会 (Kokusai Kyoumu) 対象学年 1 単位数 2
授業のねらいと到達目標	①英語力の向上 ②研修先の国 (アメリカ・オーストラリア・フィリピン) の社会に関する文化理解の増進
授業の進め方 (履修条件など)	①事前の勉強会に必ず出席すること ②敬愛大学の学生であることを自覚し、責任を持って海外生活が送れること ③語学を積極的に学ぶ姿勢を持つこと
成績評価方法 基準	出席 70%、レポート 30% で評価する。レポートは帰国後提出すること
授業の予習・復習	研修中は、授業の予習・復習に時間を十分に当てること
教科書	各研修実施大学が指定する教材を使用
参考文献	
授業内容	
<p>① 研修実施大学での語学研修          研修実施大学：ポートランド州立大学 (アメリカ)、国立ジェイムズ・クック大学 (オーストラリア)、フィリピン大学 (フィリピン)</p> <p>② 本学での事前研修          帰国後にはレポートを提出</p> <p>③ ホームステイ先または寮 (研修先により異なります) での英語による生活</p>	